

平成 29 (2017) 年度

講義概要

東北大学文学部
東北大学大学院文学研究科

目 次

文学部

学部開講科目一覧	2
人文社会科学	
国文学	30
日本思想史	38
日本史	43
考古学	59
中国文学	67
中国思想	75
東洋史	81
インド学仏教史	89
英文学	97
英語学	104
ドイツ文学	110
フランス文学	120
ヨーロッパ史	128
言語学	137
国語学	147
日本語教育学	155
哲学	166
倫理学	181
東洋・日本美術史	189
美学・西洋美術史	196
社会学	205
行動科学	213
心理学	224
文化人類学	234
宗教学	242
専修以外の基礎科目一覧	252
専修以外の発展科目一覧	284
教職科目一覧	296
海外研修科目一覧	302
職業関連科目一覧	305

文学研究科

大学院開講科目一覧	308
-----------	-----

文化科学専攻

国文文学	338
日本思想史	344
中国語学中国文学	347
中国思想中国哲学	353
インド学仏教史	358
英文学	363
英語学	368
ドイツ文学	372
フランス語学フランス文学	379
哲学	386
倫理学	396

言語科学専攻

言語学	401
国語学	408
日本語教育学	415

歴史科学専攻

日本史	422
考古学	437
文化財科学	442
東洋史	444
ヨーロッパ史	450
東洋・日本美術史	458
美学・西洋美術史	461
比較文化史学	467

人間科学専攻

社会学	469
行動科学	478
心理学	486
文化人類学	494
宗教学	499

大学院専攻共通科目一覧	505
-------------	-----

歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画授業科目一覧	520
----------------------------	-----

平成29年度 文学部学年暦

授業日程等	主な行事及び書類提出期日等	備 考
第1学期 授業期間 自4月7日(金) 至7月24日(月) 第1学期 補講期間 自7月27日(木) 至8月2日(水) ※7月25日～26日 は休業日 夏季休業期間 自8月3日(木) 至9月29日(金)	2年次ガイダンス	4月4日(火)午前
	入学式	4月5日(水)午前
	文学部新入生オリエンテーション	4月6日(木)午後
	WEB履修登録期間	
	定期健康診断	5月中旬
	教育実習（前期）（2又は3週間）	5月中旬～7月上旬
	介護等体験参加申込書提出期限	6月中旬
	創立記念日	6月22日(木)
	卒業論文・卒業研究題目届提出期限	6月26日(月)
	転専修出願期間	7月3日(月)～7日(金)
	専修志望予備調査	7月下旬(人文社会総論の授業中に行う)
	オープンキャンパス	7月25日(火)、26日(水)
	卒業論文・卒業研究提出期限	7月31日(月)
	介護等体験事前指導	9月上旬
	学位記授与式	9月25日(月)
第2学期 授業期間 自10月2日(月) 至1月29日(月) 冬季休業期間 自12月25日(月) 至1月3日(水) 第2学期 補講期間 自2月5日(月) 至2月9日(金) 論文口頭 試問期間 自2月5日(月) 至2月14日(水)	卒業論文・卒業研究題目届提出期限	10月6日(金)
	教育実習参加申込書提出期限	10月上旬
	WEB履修登録期間	
	教育実習（後期）（3週間）	10月中旬～11月中旬
	教育実習事前指導	11月中旬
	学士編入学願書受付	10月23日(月)～27日(金)
	専修決定オリエンテーション	10月25日(水)～26日(木)
	大学祭	11月3日(金)～5日(日)
	平成30年度A O II期第1次選考	11月4日(土) (予定)
	学士編入学試験	11月16日(木)
	平成30年度A O II期第2次選考	11月18日(土) (予定)
	転専修出願期間	12月中旬
	教育職員免許状出願期限	12月下旬
	卒業論文・卒業研究提出期限	1月5日(金)
	専修志望本調査	1月9日(火)～12日(金)
転学部出願期間	1月9日(火)～15日(月)	
転学部面接試験等	2月7日(水)	
研究生・科目等履修生入学願書受付	2月9日(金)～16日(金)	
平成30年度個別学力試験（前期日程）	2月25日(日)～26日(月)	
卒業生決定の掲示	3月上旬	
学位記授与式	3月27日(火)	
		次年度履修希望者 日程は掲示等で連絡 協力校（中） 次年度履修希望者 日程は掲示等で連絡 日程は掲示等で連絡 日程は掲示等で連絡 3月卒業予定者

(注1) 定期試験の期間は特に設けず、授業担当教員の判断により当該セメスター（学年）内に随時実施する。

(注2) 6月22日（木）は創立記念日であるが授業を行う。

学部開講科目一覧

国文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員名		開講 セメスター	曜日	講時	頁
			氏	名				
国文学概論	日本近代文芸の諸問題	2	佐藤	伸宏	3	金	3	30
国文学概論	日本古典文芸の世界	2	佐倉	由泰	4	金	3	30
国文学基礎講読	『平家物語』を読む	2	佐倉	由泰	3	金	2	31
国文学基礎講読	明治時代の小説を読む	2	佐藤	伸宏	4	金	2	31
国文学各論	『源氏物語』の成立と展開	2	横溝	博	5	月	2	32
国文学各論	『我身にたどる姫君』を読む	2	横溝	博	6	月	2	32
国文学各論	日本古典書誌学入門	2	㊦	佐々木 孝浩	集中 (5)			33
日本文芸形成論各論	『今昔物語集』の研究	2	佐倉	由泰	5	火	2	33
日本文芸形成論各論	『今昔物語集』の研究	2	佐倉	由泰	6	火	2	34
国文学演習	源義経と曾我兄弟をめぐる物語の研究	2	佐倉	由泰	5	木	2	34
国文学演習	源義経と曾我兄弟をめぐる物語の研究	2	佐倉	由泰	6	木	2	35
国文学演習	大正文学の研究	2	佐藤	伸宏	5	水	2	35
国文学演習	大正文学の研究	2	佐藤	伸宏	6	水	2	36
国文学演習	『源氏物語』の研究	2	横溝	博	5	月	5	36
国文学演習	『源氏物語』の研究	2	横溝	博	6	月	5	37

日本思想史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員名	開講 Semester	曜日	講時	頁
			氏名				
日本思想史概論	「日本思想史」の課題と方法	2	佐藤 弘夫	3	金	1	38
日本思想史概論	聖地と霊場	2	佐藤 弘夫	4	金	1	38
日本思想史基礎講読	古代・中世資料を読む	2	佐藤 弘夫	3	金	3	39
日本思想史基礎講読	近世・近代史料を読む	2	佐藤 弘夫	4	金	3	39
日本思想史各論	日本人と神	2	佐藤 弘夫	5	火	1	40
日本思想史各論	現人神の誕生	2	佐藤 弘夫	6	火	1	40
日本思想史各論	近代日本の政治思想	2	⑩ 大久保 健晴	集中 (6)			41
日本思想史各論	老いと死をめぐる日本思想史	2	⑩ 本村 昌文	集中 (6)			41
日本思想史演習	日本思想史の諸問題 I	2	佐藤 弘夫	5	水	3	42
日本思想史演習	日本思想史の諸問題 II	2	佐藤 弘夫	6	水	3	42

日本史専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
日 本 史 概 論	日本史概説1	2	柳 原 敏 昭		3	火	1	43
日 本 史 概 論	日本史概説2	2	柳 原 敏 昭		4	火	2	43
日 本 史 基 礎 講 読	古代史料講読	2	堀 裕		4	火	4	44
日 本 史 基 礎 講 読	中世史料講読	2	柳 原 敏 昭		4	火	3	44
日 本 史 基 礎 講 読	近現代史料講読	2	安 達 宏 昭		3	水	4	45
古 文 書 学	中世古文書読解	2	柳 原 敏 昭		3	火	3	45
古 文 書 学	近世古文書読解	2	籠 橋 俊 光		4	水	4	46
日 本 史 各 論	日本古代史の研究と方法(1)	2	堀 裕		5	金	2	46
日 本 史 各 論	日本古代史の研究と方法(2)	2	堀 裕		6	金	1	47
日 本 史 各 論	近世社会の研究(1)	2	籠 橋 俊 光		5	金	3	47
日 本 史 各 論	近世社会の研究(2)	2	籠 橋 俊 光		6	金	3	48
日 本 史 各 論	日本近現代史研究の現状と課題(5)	2	安 達 宏 昭		5	水	2	48
日 本 史 各 論	歴史資料保全の実践(その1)	2	佐 藤 大 介 天 野 大 真	集 中 (5)				49
日 本 史 各 論	歴史資料保全の実践(その2)	2	佐 藤 大 介		6	水	2	49
日 本 史 各 論	中世社会論	2	⑤ 桜 井 英 治	集 中 (6)				50
日 本 史 演 習	古代史料の研究(1)	2	堀 裕		5	火	2	50
日 本 史 演 習	古代史料の研究(2)	2	堀 裕		6	火	2	51
日 本 史 演 習	古代史料研究(1)	2	堀 裕		5	金	3	51
日 本 史 演 習	古代史料研究(2)	2	堀 裕		6	金	3	52
日 本 史 演 習	鎌倉時代の法と社会(1)	2	柳 原 敏 昭		5	月	3	52
日 本 史 演 習	鎌倉時代の法と社会(2)	2	柳 原 敏 昭		6	月	3	53
日 本 史 演 習	中世史料演習(1)	2	柳 原 敏 昭		5	月	4	53
日 本 史 演 習	中世史料演習(2)	2	柳 原 敏 昭		6	月	4	54

日本史専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
日 本 史 演 習	近世史料研究(1)	2	籠	橋 俊 光	5	火	4	54
日 本 史 演 習	近世史料研究(2)	2	籠	橋 俊 光	6	火	4	55
日 本 史 演 習	近世史研究法(1)	2	籠	橋 俊 光	5	水	5	55
日 本 史 演 習	近世史研究法(2)	2	籠	橋 俊 光	6	水	5	56
日 本 史 演 習	近現代政治・社会史の研究	2	安	達 宏 昭	5	水	3	56
日 本 史 演 習	近現代史研究法	2	安	達 宏 昭	5	火	5	57
日 本 史 演 習	近現代政治・外交史の研究	2	⑧	河 西 晃 祐	6	金	2	57
日 本 史 実 習	史料整理・保存の理論と方法	2	籠	橋 俊 光	5	金	4・5	58
日 本 史 実 習	史料整理実習	2	籠	橋 俊 光	6	金	4・5	58

考古学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員名		開講 セメスター	曜日	講時	頁
			氏	名				
考古学概論	先史考古学概説	2	阿子島	香	3	月	5	59
考古学概論	日本考古学概説	2	鹿又喜隆		4	月	2	59
考古学基礎講読	考古学資料読解	2	鹿又喜隆		4	月	5	60
考古学基礎実習	考古学資料の観察と記録	2	鹿又喜隆		3	金	1・2	60
資料基礎論各論	先史考古学資料論	2	阿子島	香	6	月	3	61
考古学各論	日本考古学の諸問題	2	鹿又喜隆		5	月	2	61
考古学各論	東北大学収蔵の考古学資料	2	藤澤	敦	5	火	3	62
考古学各論	日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究	2	藤澤	敦	6	火	3	62
考古学各論	土器の機能研究	2	Ⓣ 小林正史		集中 (5)			63
考古学各論	先史文化の考古学	2	菅野智則		6	木	4	63
考古学講読	先史文化研究	2	阿子島	香	5	金	2	64
考古学演習	考古学研究史	2	阿子島 鹿又喜隆	香隆	5	金	4	64
考古学演習	考古学の方法と理論	2	鹿又喜隆 阿子島	隆香	6	金	4	65
考古学実習	考古学の調査と資料分析(1)	2	鹿又喜隆 阿子島	隆香	5	水	3・4	65
考古学実習	考古学資料分析法(2)	2	阿子島 鹿又喜隆	香隆	6	水	3・4	66

中国文学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏	名				
中 国 文 学 概 論	中国の恋愛詩（ウラ文学史）	2	佐	竹 保 子	3	木	1	67
中 国 文 学 概 論	中国の小説と戯曲	2	土	屋 育 子	4	木	1	67
中 国 文 学 基 礎 講 読	中国語実用文法研究	2	土	屋 育 子	3	水	4	68
中 国 文 学 基 礎 講 読	現代文読解による、中国語実用文法研究	2	佐	竹 保 子	4	水	4	68
中 国 語 基 礎 演 習	中級会話	2	馬	暁 地	3	月	5	69
中 国 語 基 礎 演 習	中級会話	2	馬	暁 地	4	月	5	69
中 国 文 学 各 論	唐詩と唐代社会（胡曾の《詠史詩》）	2	馬	暁 地	5	火	4	70
中 国 文 学 各 論	唐詩と唐代社会（胡曾の《詠史詩》）	2	馬	暁 地	6	火	4	70
中 国 文 学 各 論	20世紀中国文学における女学生表象	2	㊦	濱 田 麻 矢	集 中 (5)			71
中 国 文 学 演 習	中国当代文学研究	2	馬	暁 地	5	木	2	71
中 国 文 学 演 習	中国当代文学研究	2	馬	暁 地	6	木	2	72
中 国 文 学 演 習	中国の俗文学を読む	2	土	屋 育 子	5	水	5	72
中 国 文 学 演 習	中国の俗文学を読む	2	土	屋 育 子	6	水	4	73
中 国 文 学 演 習	漢魏六朝詩、及びその背後にある文献研究	2	佐	竹 保 子	5	火	5	73
中 国 文 学 演 習	漢魏六朝詩、及びその背後にある文献研究	2	佐	竹 保 子	6	火	5	74

中国思想専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員名		開講 セメスター	曜日	講時	頁
			氏	名				
中国思想概論	中国古代思想概説	2	齋藤	智寛	3	火	2	75
中国思想概論	宋代思想史概説	2	三浦	秀一	4	火	2	75
中国思想基礎講読	中国思想文献講読・初級1	2	三浦	秀一	3	火	5	76
中国思想基礎講読	中国思想文献講読・初級2	2	齋藤	智寛	4	火	5	76
中国思想各論	中国近世・近代思想研究の現状	2	三浦	秀一	5	水	5	77
中国思想各論	中国古代中世思想研究の現状	2	齋藤	智寛	6	水	5	77
中国思想各論	諸子の「辯」の論理と、『易』の術数の思考	2	⑧ 近藤	浩之	集中 (5)			78
中国思想演習	中国仏教原典読解入門	2	齋藤	智寛	5	水	2	78
中国思想演習	中国仏教原典精読	2	齋藤	智寛	6	水	2	79
中国思想演習	王学関連文献精読1	2	三浦	秀一	5	金	2	79
中国思想演習	王学関連文献精読2	2	三浦	秀一	6	金	2	80

東洋史専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏	名				
東 洋 史 概 論	中国史概説Ⅰ	2	大 野 晃 嗣		3	火	2	81
東 洋 史 概 論	中国史概説Ⅱ	2	大 野 晃 嗣		4	火	2	81
東 洋 史 基 礎 講 読	『資治通鑑』講読	2	川 合 安		3	月	5	82
東 洋 史 基 礎 講 読	『資治通鑑』講読	2	川 合 安		4	月	5	82
東 洋 史 各 論	六朝時代の諸問題	2	川 合 安		5	金	2	83
東 洋 史 各 論	隋唐時代の諸問題	2	川 合 安		6	金	2	83
東 洋 史 各 論	中国近世の諸問題Ⅰ	2	大 野 晃 嗣		5	火	5	84
東 洋 史 各 論	中国近世の諸問題Ⅱ	2	大 野 晃 嗣		6	火	5	84
東 洋 史 各 論	清朝とモンゴル	2	岡 洋 樹		5	水	4	85
東 洋 史 各 論	宋代社会の空間とネットワーク	2	⑤ 平 田 茂 樹	集 中 (5)				85
東 洋 史 各 論	近世東アジアの通商と外交	2	⑤ 岩 井 茂 樹	集 中 (6)				86
東 洋 史 演 習	『晋書』載記の研究Ⅰ	2	川 合 安		5	金	4	86
東 洋 史 演 習	『晋書』載記の研究Ⅱ	2	川 合 安		6	金	4	87
東 洋 史 演 習	明清史料研究Ⅰ	2	大 野 晃 嗣		5	水	5	87
東 洋 史 演 習	明清史料研究Ⅱ	2	大 野 晃 嗣		6	水	5	88

インド学仏教史専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
インド仏教史概論	インド仏教史概説-その1-	2	桜	井 宗 信	3	火	1	89
インド仏教史概論	インド仏教史概説-その2-	2	桜	井 宗 信	4	火	1	89
パ ー リ 語	パーリ語入門	2	㊦	西 村 直 子	3	水	5	90
パ ー リ 語	パーリ語講読	2	㊦	西 村 直 子	4	水	5	90
チ ベ ッ ト 語	古典チベット語初級文法Ⅰ	2	桜	井 宗 信	3	月	4	91
チ ベ ッ ト 語	古典チベット語初級文法Ⅱ	2	桜	井 宗 信	4	月	4	91
イ ン ド 学 各 論	ヴェーダ文献講読(1)	2	㊦	西 村 直 子	5	木	5	92
イ ン ド 学 各 論	ヴェーダ文献講読(2)	2	㊦	尾 園 絢 一	6	木	5	92
イ ン ド 学 各 論	ジャイナ教概論	2	㊦	堀 田 和 義	集 中 (6)			93
インド仏教史各論	Graggs pa rgyal mtshan 著 『タントラ現観』の原典講読	2	桜	井 宗 信	5	火	3	93
インド仏教史各論	Graggs pa rgyal mtshan 著 『タントラ現観』の原典講読	2	桜	井 宗 信	6	火	3	94
イ ン ド 学 演 習	インド哲学文献研究(1)	2	㊦	尾 園 絢 一	5	水	3	94
イ ン ド 学 演 習	インド哲学文献研究(2)	2	㊦	西 村 直 子	6	水	3	95
インド仏教史演習	梵蔵漢対照による『俱舎論』 の講読	2	桜	井 宗 信	5	月	3	95
インド仏教史演習	梵蔵漢対照による『俱舎論』 の講読	2	桜	井 宗 信	6	月	3	96

英文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員名		開講 セメスター	曜日	講時	頁
			氏	名				
英文学概論	英詩入門(1)	2	大河内	昌	3	木	1	97
英文学概論	英詩入門(2)	2	大河内	昌	4	木	1	97
英文学基礎講読Ⅰ	Lewis Carroll, <i>Through the Looking-Glass and What Alice Found There</i>	2	大河内	昌	3	金	2	98
英文学基礎講読Ⅱ	R. L. Stevenson, <i>Strange Case of Dr Jekyll and Mr Hyde</i>	2	大河内	昌	4	金	2	98
英文学・英語学基礎講読Ⅰ	Reading Ghost Stories	2	ティンク	ジェイムズ	3	木	3	99
英文学・英語学基礎講読Ⅱ	Shakespeare: <i>Hamlet</i> and Global Shakespeare	2	ティンク	ジェイムズ	4	木	3	99
英文学各論	近現代イギリス小説におけるユートピア／ディストピア	2	㊦	秦 邦 生	集 中 (5)			100
英語文化論各論	初期女性作家を読む(1)	2	㊦	川 田 潤	5	月	3	100
英語文化論各論	初期女性作家を読む(2)	2	㊦	川 田 潤	6	月	3	101
英文学演習Ⅰ	Jane Austen, <i>Mansfield Park</i> (1)	2	大河内	昌	5	水	1	101
英文学演習Ⅱ	Jane Austen, <i>Mansfield Park</i> (2)	2	大河内	昌	6	水	1	102
英文学講読	William Shakespeare, <i>Richard III</i>	2	ティンク	ジェイムズ	5	月	2	102
英文学講読	James Joyce, <i>Dubliners</i> : Modernism and the Short Story	2	ティンク	ジェイムズ	6	月	2	103

英語学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員 名		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏	名				
英 語 学 概 論	英語統語論入門 I	2	島	越 郎	3	水	4	104
英 語 学 概 論	英語統語論入門 II	2	島	越 郎	4	水	4	104
英 語 学 各 論	英語形式意味論入門 I	2	島	越 郎	5	火	2	105
英 語 学 各 論	不定名詞句の諸問題	2	Ⓣ	藏 藤 健 雄	集 中 (5)			105
英 語 解 析 学 各 論	英語形式意味論入門 II	2	島	越 郎	6	火	2	106
英 語 学 講 読	英語学の基本的思考法 I	2	金	子 義 明	5	火	4	106
英 語 学 講 読	英語学の基本的思考法 II	2	金	子 義 明	6	火	4	107
英 語 学 演 習	英語統語論：極小主義のアプローチ I	2	金	子 義 明	5	金	2	107
英 語 学 演 習	英語統語論：極小主義のアプローチ II	2	金	子 義 明	6	金	2	108
英 語 学 演 習	英語学の諸問題研究 I	2	金 島	子 義 明 越 郎	7	水	2	108
英 語 学 演 習	英語学の諸問題研究 II	2	金 島	子 義 明 越 郎	8	水	2	109

ドイツ文学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
ド イ ツ 文 学 概 論 I	ヨーロッパ的文脈から見たドイツの歴史	2	森 本 浩 一		3	水	4	110
ド イ ツ 文 学 概 論 II	物語と物語経験	2	森 本 浩 一		4	水	4	110
ド イ ツ 語 学 概 論 I	中級ドイツ文法	2	嶋 崎 啓		3	金	3	111
ド イ ツ 語 学 概 論 II	中級ドイツ文法	2	嶋 崎 啓		4	金	3	111
ドイツ文学基礎講読 I	ドイツ文学基礎講読	2	ナ ロ ッ ク ハイ コ		3	金	1	112
ドイツ文学基礎講読 II	ドイツ文学基礎講読	2	ナ ロ ッ ク ハイ コ		4	金	1	112
ド イ ツ 文 学 各 論 I	ドイツ（語）文化圏の文化と歴史(1)	2	佐 藤 雪 野		5	火	3	113
ド イ ツ 文 学 各 論 II	ドイツ（語）文化圏の文化と歴史(2)	2	佐 藤 雪 野		6	火	3	113
ド イ ツ 文 学 各 論 III	文芸批評研究「言語芸術とは何か」ードイツの小説を中心にー	2	㊦ 堺 雅 志	集 中 (6)				114
ド イ ツ 語 学 各 論	「ナラトロジー」講読(1)	2	森 本 浩 一		5	月	3	114
ド イ ツ 語 学 各 論	「ナラトロジー」講読(1)	2	森 本 浩 一		6	月	3	115
ド イ ツ 文 学 演 習 I	批評演習(1)	2	森 本 浩 一		5	金	3	115
ド イ ツ 文 学 演 習 II	批評演習(2)	2	森 本 浩 一		6	金	3	116
ド イ ツ 文 学 演 習 III	十八世紀ドイツ戯曲の誕生	2	㊦ 佐 藤 研 一		5	木	4	116
ド イ ツ 文 学 演 習 IV	十八世紀ドイツ戯曲の誕生	2	㊦ 佐 藤 研 一		6	木	4	117
ド イ ツ 語 学 演 習 I	中高ドイツ語講読	2	嶋 崎 啓		5	月	4	117
ド イ ツ 語 学 演 習 II	中高ドイツ語講読	2	嶋 崎 啓		6	月	4	118
ド イ ツ 語 学 演 習 III	ドイツ語学演習 III	2	ナ ロ ッ ク ハイ コ		5	水	4	118
ド イ ツ 語 学 演 習 IV	ドイツ語学演習 III	2	ナ ロ ッ ク ハイ コ		6	火	2	119

フランス文学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
フ ラ ン ス 文 学 概 論 I	フランス文学史（古典主義の成立前後まで）	2	黒 岩	卓	3	月	4	120
フ ラ ン ス 文 学 概 論 II	フランス文学史（近現代）	2	今 井	勉	4	水	4	120
フ ラ ン ス 語 学 概 論 I	言語学の誕生から今日まで	2	阿 部	宏	4	月	5	121
フランス文学基礎講読 I	短編小説を読む	2	今 井	勉	3	水	4	121
フランス文学基礎講読 II	フランス語文法と仏文解釈	2	黒 岩	卓	4	月	4	122
フランス語学基礎講読	フランスの雑誌を読む	2	阿 部	宏	3	月	5	122
フ ラ ン ス 文 学 各 論 I	フランス文学批評史(1)	2	今 井	勉	5	木	2	123
フ ラ ン ス 文 学 各 論 II	フランス文学批評史(2)	2	今 井	勉	6	木	2	123
フ ラ ン ス 文 学 各 論 III	フランス古典主義悲劇研究	2	㊦ 小 倉	博 孝	集 中 (5)			124
フ ラ ン ス 文 学 演 習 I	中世・ルネサンスの伝説仏文学入門(1)	2	黒 岩	卓	5	火	5	124
フ ラ ン ス 文 学 演 習 II	中世・ルネサンスの伝説仏文学入門(2)	2	黒 岩	卓	6	火	5	125
フ ラ ン ス 文 学 演 習 III	Lire, comprendre, interpréter	2	メ ヴ ェ ル	ヤ ン	5	水	2	125
フ ラ ン ス 文 学 演 習 IV	Lire, comprendre, interpréter	2	メ ヴ ェ ル	ヤ ン	6	水	2	126
フ ラ ン ス 語 学 演 習 I	フランス語意味論 I	2	阿 部	宏	5	火	3	126
フ ラ ン ス 語 学 演 習 II	フランス語意味論 II	2	阿 部	宏	6	火	3	127

ヨーロッパ史専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
ヨーロッパ史概論	ロシア革命と近代世界	2	浅 岡 善 治		3	木	2	128
ヨーロッパ史概論	ロシア革命と20世紀世界	2	浅 岡 善 治		4	木	2	128
ヨーロッパ史基礎講読	英語文献講読	2	小 野 善 彦		3	金	2	129
ヨーロッパ史基礎講読	英語文献講読	2	小 野 善 彦		4	金	2	129
ヨーロッパ史基礎講読	フランス語文献精読	2	有 光 秀 行		3	金	4	130
ヨーロッパ史基礎講読	フランス語文献精読	2	有 光 秀 行		4	金	4	130
ヨーロッパ史基礎講読	ドイツ語文献講読	2	浅 岡 善 治		3	水	2	131
ヨーロッパ史基礎講読	ドイツ語文献講読	2	浅 岡 善 治		4	水	2	131
ヨーロッパ史各論	ローマ帝国とキリスト教	2	㊦ 後 藤 篤 子		集 中 (5)			132
ヨーロッパ史各論	ビザンツ帝国の国家と社会	2	㊦ 大 月 康 弘		集 中 (5)			132
ヨーロッパ史各論	「ノルマン人の帝国」に生きる	2	有 光 秀 行		6	月	4	133
ヨーロッパ史各論	ドイツ中世の国家と社会	2	小 野 善 彦		5	月	2	133
ヨーロッパ史演習	中世ヨーロッパ史研究	2	有 光 秀 行		5	火	4	134
ヨーロッパ史演習	中世ヨーロッパ史研究	2	有 光 秀 行		6	火	4	134
ヨーロッパ史演習	ドイツ中世史の諸問題	2	小 野 善 彦		5	月	3	135
ヨーロッパ史演習	ドイツ中世史の諸問題	2	小 野 善 彦		6	月	3	135
ヨーロッパ史演習	ロシア革命の歴史的再検討	2	浅 岡 善 治		5	金	2	136
ヨーロッパ史演習	ロシア革命の歴史的再検討	2	浅 岡 善 治		6	金	2	136

言語学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
現 代 言 語 学 概 論	言語学概論 I	2	小 泉 政 利		3	金	2	137
現 代 言 語 学 概 論	言語学入門 (運用)	2	木 山 幸 子		4	金	2	137
現 代 言 語 学 基 礎 講 読	語用論研究法入門	2	木 山 幸 子		3	月	2	138
現 代 言 語 学 基 礎 演 習	入門的言語調査・実験法実践	2	木 山 幸 子		4	月	2	138
言 語 交 流 学 基 礎 講 読	社会言語学	2	後 藤 齊		3	火	2	139
音 声 学	音声学概説・調音音声学	2	後 藤 齊		3	水	4	139
音 声 学	音響音声学	2	後 藤 齊		4	水	4	140
現 代 言 語 学 各 論	日本語の音韻構造	2	㊦ 窪 蘭 晴 夫		集 中 (5)			140
現 代 言 語 学 各 論	心理言語学：文理解を中心に	2	㊦ 小 野 創		集 中 (5)			141
現 代 言 語 学 各 論	セイリッシュ語文法概説	2	㊦ 渡 辺 己		集 中 (6)			141
言 語 交 流 学 各 論	言語研究におけるコンピュー タ利用の基礎	2	後 藤 齊		5	月	4	142
言 語 交 流 学 各 論	実験語用論	2	木 山 幸 子		5	水	2	142
言 語 交 流 学 各 論	専門的言語調査・実験法実践	2	木 山 幸 子		6	水	2	143
現 代 言 語 学 演 習	言語学研究法	2	後 藤 齊 小 木 藤 泉 山 政 幸 利 子		5	金	3	143
現 代 言 語 学 演 習	言語学研究法	2	後 藤 齊		6	金	3	144
言 語 交 流 学 演 習	統語論	2	小 泉 政 利		5	水	3	144
言 語 交 流 学 演 習	コーパス言語学の実践	2	後 藤 齊		5	金	2	145
言 語 交 流 学 演 習	日本語コーパス言語学の進展	2	後 藤 齊		6	金	2	145
言 語 交 流 学 演 習	言語データ分析法基礎	2	木 山 幸 子		5	火	2	146
言 語 交 流 学 演 習	言語データ分析法発展	2	木 山 幸 子		6	火	2	146

国語学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
国 語 学 概 論	日本語の歴史	2	大 木 一 夫		3	月	5	147
国 語 学 概 論	方言研究	2	小 林 隆		4	月	5	147
現 代 日 本 語 学 概 論	日本語学概論	2	甲 田 直 美		3	火	3	148
現 代 日 本 語 学 概 論	ことばのバリエーション	2	甲 田 直 美		4	火	3	148
国 語 学 基 礎 講 読	近代（明治期）の文語文講読	2	齋 藤 倫 明		3	水	5	149
国 語 学 基 礎 講 読	古典語・方言講読	2	小 林 隆		4	水	3	149
国 語 学 各 論	日本語文法研究	2	大 木 一 夫		5	木	2	150
国 語 学 各 論	方言学的日本語史研究	2	小 林 隆		6	火	2	150
国 語 学 各 論	日本語方言語彙研究	2	㊦ 新 井 小 枝 子	集 中 (5)				151
現 代 日 本 語 学 各 論	「連語」と文法論の構成	2	齋 藤 倫 明		5	月	4	151
現 代 日 本 語 学 各 論	文章・談話の構造論	2	甲 田 直 美		5	月	3	152
国 語 学 講 読	今昔物語集を読む	2	大 木 一 夫		5	月	2	152
国 語 学 講 読	コーパスにもとづく日本語史研究	2	大 木 一 夫		6	木	2	153
国 語 学 演 習	方言調査法	2	小 林 隆		5	火	2	153
現 代 日 本 語 学 講 読	近世言語論講読	2	齋 藤 倫 明		6	月	4	154
現 代 日 本 語 学 演 習	文章・談話の構造	2	甲 田 直 美		6	月	3	154

日本語教育学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
日 本 語 教 育 学 概 論	日本語と日本語教育	2	才 田	い ず み	3	火	3	155
日 本 語 教 育 学 概 論	日本語教育の基礎	2	才 田	い ず み	4	火	3	155
現 代 日 本 論 概 論	現代日本における家族	2	田 中	重 人	3	火	2	156
現 代 日 本 論 概 論	現代日本における職業	2	田 中	重 人	4	火	2	156
日 本 語 教 育 学 基 礎 講 読	外国語学習と習得	2	才 田	い ず み	3	月	5	157
日 本 語 教 育 学 基 礎 講 読	日本語教育文法	2	小 河 原	義 朗	4	月	5	157
現 代 日 本 論 基 礎 講 読	論文作成の基礎	2	田 中	重 人	3	金	2	158
現 代 日 本 論 基 礎 講 読	研究法入門	2	田 中	重 人	4	金	2	158
日 本 語 教 育 学 各 論	日本語教育方法論	2	㊦	横 溝 紳一郎	集 中 (5)			159
日 本 語 教 育 学 各 論	海外の日本語教育	2	㊦	長 田 佳奈子	5	火	4	159
日 本 語 教 育 学 各 論	学習者と社会	2	島 崎	薫	6	金	3	160
日 本 語 教 育 学 講 読	中間言語語用論	2	才 田	い ず み	6	月	2	160
日 本 語 教 育 学 演 習	読解の授業と教材	2	才 田	い ず み	5	火	2	161
日 本 語 教 育 学 演 習	日本語コースカリキュラムの 評価	2	小 河 原	義 朗	5	金	3	161
日 本 語 教 育 学 演 習	学習者の音声と教育	2	小 河 原	義 朗	6	火	4	162
日 本 語 教 育 学 実 習	日本語コース運営の基礎	2	小 河 原	義 朗	5	水	3・4	162
日 本 語 教 育 学 実 習	日本語コースの運営と改善	2	小 河 原	義 朗	6	水	3・4	163
現 代 日 本 論 講 読	現代日本論論文講読	2	田 中	重 人	5	金	4	163
現 代 日 本 論 演 習	質問紙調査の基礎	2	田 中	重 人	5	水	2	164
現 代 日 本 論 演 習	統計分析の基礎	2	田 中	重 人	5	木	2	164
現 代 日 本 論 演 習	調査的面接の基礎	2	田 中	重 人	6	水	2	165
現 代 日 本 論 演 習	実践的統計分析法	2	田 中	重 人	6	木	2	165

哲学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員		開講 セメスター	曜日	講時	頁
			氏名					
現代哲学概論	現代哲学の諸問題	2	直江清隆		4	月	2	166
現代哲学概論	心の哲学入門	2	原 塑		3	水	4	166
現代哲学概論	言語哲学入門	2	原 塑		4	水	4	167
哲学思想概論	古代哲学史（前篇）	2	荻原理		3	木	2	167
哲学思想概論	古代哲学史（後篇）	2	荻原理		4	木	2	168
哲学思想概論	近代哲学史(1)——科学的な認識と方法論の形成をたどる	2	城戸淳		3	金	4	168
哲学思想概論	ニーチェ哲学入門——道徳批判の射程	2	城戸淳		4	火	4	169
哲学思想基礎講読	「批判理論」入門——ドイツ語原典テキストの精読を通じて	2	⑤ 齋藤直樹		3	火	4	169
哲学思想基礎講読	Horkheimerの“Montaigne und die Funktion der Skepsis”を読む	2	⑤ 小松恵一		4	木	3	170
哲学思想基礎講読	哲学研究のレッスン(1)	2	原城戸 塑淳		3	水	3	170
哲学思想基礎講読	哲学研究のレッスン(2)	2	直江清隆		4	水	3	171
哲学思想各論	アリストテレス『分析論後書』を読む	2	荻原理		6	月	3	171
哲学思想各論	カントの超越論的弁証論	2	城戸淳		5	木	2	172
哲学思想各論	フッサール『論理学研究』を読む	2	⑤ 野家伸也		5	火	3	172
哲学思想各論	カント実践哲学の諸問題	2	⑤ 加藤泰史	集中 (6)				173
生命環境倫理学各論	生殖医療の倫理学	2	⑤ 小林睦		5	水	5	173
生命環境倫理学各論	現代の分析的倫理学	2	⑤ 福間聡		6	月	2	174
生命環境倫理学演習	エンハンスメントの倫理学	2	直江清隆		6	火	3	174
哲学思想演習	アーレント『革命について』第4章を読む	2	森 一郎		5	火	4	175
哲学思想演習	自己と他者の現象学	2	直江清隆		6	金	5	175
哲学思想演習	プラトン『饗宴』を読む1	2	荻原理		5	火	5	176
哲学思想演習	プラトン『饗宴』を読む2	2	荻原理		6	火	5	176
哲学思想演習	社会認識論1	2	原 塑		5	金	2	177

哲学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名	名				
哲 学 思 想 演 習	社会認識論2	2	原	塑	6	金	2	177
哲 学 思 想 演 習	哲学のメソッド	2	原	塑	5	金	3	178
哲 学 思 想 演 習	科学理論と証拠	2	原	塑	6	金	3	178
哲 学 思 想 演 習	カントの超越論的演繹論(A)	2	城 戸	淳	5	水	5	179
哲 学 思 想 演 習	カントの超越論的演繹論(B)	2	城 戸	淳	6	水	5	179
哲 学 思 想 演 習	ホップズ=プラムホール論争 と近代の自由意志論(3)	2	城 戸	淳	6	木	2	180
哲 学 思 想 演 習	フッサール『デカルト的省察』を読む	2	佐 藤	駿	5	木	4	180

倫理学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
倫 理 思 想 概 論	現象学・倫理学通論	2	戸 島 貴 代 志		3	火	2	181
倫 理 思 想 概 論	倫理学の基礎	2	村 山 達 也		4	金	4	181
倫 理 思 想 基 礎 講 読	生の哲学と実存思想	2	戸 島 貴 代 志		3	月	4	182
倫 理 思 想 基 礎 講 読	生の哲学と実存思想	2	戸 島 貴 代 志		4	月	4	182
倫 理 思 想 基 礎 講 読	倫理学研究のレッスン(1)	2	戸 島 貴 代 志		3	水	3	183
倫 理 思 想 基 礎 講 読	倫理学研究のレッスン(2)	2	村 山 達 也		4	水	3	183
倫 理 思 想 各 論	西谷啓治の哲学	2	Ⓣ 秋 富 克 哉	集 中 (5)				184
倫 理 思 想 各 論	生の情念と死の思惟	2	戸 島 貴 代 志		6	火	2	184
倫 理 思 想 演 習	生の哲学と実存思想	2	戸 島 貴 代 志		5	月	4	185
倫 理 思 想 演 習	生の哲学と実存思想	2	戸 島 貴 代 志		6	月	4	185
倫 理 思 想 演 習	現象学と存在論	2	戸 島 貴 代 志		5	水	4	186
倫 理 思 想 演 習	現象学と存在論	2	戸 島 貴 代 志		6	水	4	186
倫 理 思 想 演 習	フランス語演習	2	Ⓣ 越 門 勝 彦		5	水	2	187
倫 理 思 想 演 習	フランス哲学演習(1)ライブ ニッツ『モナドロジー』	2	村 山 達 也		6	水	2	187
倫 理 思 想 演 習	フランス哲学演習(2)ラ・ボエシ 『自発的隷従論』	2	村 山 達 也		6	金	2	188

東洋・日本美術史専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
東洋・日本美術史概論	日本美術史基礎論——絵画の形式とモチーフの意味	2	長	岡 龍 作	3	金	4	189
東洋・日本美術史概論	日本美術史基礎論——彫刻の主題と表現	2	長	岡 龍 作	4	金	4	189
東洋・日本美術史基礎講読	東洋・日本美術史論文研究	2	長	岡 龍 作	3	金	5	190
東洋・日本美術史基礎講読	東洋・日本美術史論文研究	2	長	岡 龍 作	4	金	5	190
東洋・日本美術史基礎実習	美術作品取り扱いの理論と実践	2	長	岡 龍 作	3	火	3・4	191
東洋・日本美術史基礎実習	美術作品取り扱いの理論と実践	2	長	岡 龍 作	4	火	3・4	191
東洋・日本美術史各論	信仰と造形	2	長	岡 龍 作	5	月	4	192
東洋・日本美術史各論	信仰と造形	2	長	岡 龍 作	6	月	4	192
東洋・日本美術史各論	仏教説話画研究	2	㊦	加須屋 誠	集 中 (5)			193
東洋・日本美術史各論	日本美術史の構図と水墨文化	2	㊦	島 尾 新	集 中 (6)			193
東洋・日本美術史講読	日本美術資料研究	2	長	岡 龍 作	5	木	2	194
東洋・日本美術史講読	日本美術資料研究	2	長	岡 龍 作	6	木	2	194
東洋・日本美術史演習	美術作品研究	2	長	岡 龍 作	5	火	2	195
東洋・日本美術史演習	美術作品研究	2	長	岡 龍 作	6	火	2	195

美学・西洋美術史専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
美学・西洋美術史概論	ルネサンス以降の西洋美術史	2	尾 崎 彰 宏		4	金	3	196
美学・西洋美術史概論	西洋古代・中世の建築と建築彫刻	2	芳 賀 京 子		3	月	2	196
美学・西洋美術史概論	西洋美学概論（前期）	2	フォンガロ エンリコ		3	水	2	197
美学・西洋美術史概論	西洋美学概論（後期）	2	フォンガロ エンリコ		4	水	2	197
美学・西洋美術史基礎講読	オランダ語の基礎とヨーロッパ文化	2	尾 崎 彰 宏		3	金	1	198
美学・西洋美術史基礎講読	西洋美術史文献精読	2	芳 賀 京 子		4	水	4	198
美学・西洋美術史各論	ネーデルラント美術と感性の論理	2	尾 崎 彰 宏		5	金	3	199
美学・西洋美術史各論	古代ギリシア・ローマ美術における英雄表現	2	芳 賀 京 子		6	月	2	199
美学・西洋美術史各論	西洋近現代絵画の見方	2	⑧ 三 浦 篤		集 中 (5)			200
美学・西洋美術史演習	西洋美術史に関する方法論の諸問題	2	尾 崎 彰 宏		5	金	4	200
美学・西洋美術史演習	西洋美術に関する方法論の諸問題	2	尾 崎 彰 宏		6	金	4	201
美学・西洋美術史演習	西洋古代・中世美術作品研究の基礎	2	芳 賀 京 子		5	月	3	201
美学・西洋美術史演習	西洋古代・中世美術作品研究の基礎	2	芳 賀 京 子		6	月	3	202
美学・西洋美術史演習	西洋美学演習（前期）	2	フォンガロ エンリコ		5	木	5	202
美学・西洋美術史演習	西洋美学演習（後期）	2	フォンガロ エンリコ		6	木	5	203
美学・西洋美術史実習	西洋美術の基礎知識と調査入門	2	尾 崎 彰 宏 芳 賀 京 子		5	火	3・4	203
美学・西洋美術史実習	美術作品の調査法について	2	尾 崎 彰 宏 芳 賀 京 子		6	火	3・4	204

社会学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
社 会 学 概 論	家族の社会学	2	下 夷 美 幸	3	木	1	205
社 会 学 概 論	現代社会の秩序と動態	2	長 谷 川 公 一	4	木	1	205
社 会 学 基 礎 演 習	コミュニケーション行為の理論	2	永 井 彰	4	水	5	206
社 会 学 基 礎 演 習	福島原発事故と震災復興の社会学	2	長 谷 川 公 一	4	火	5	206
社 会 学 基 礎 演 習	メディア論の基礎視角	2	㊦ 木 村 雅 史	4	月	4	207
社 会 学 各 論	日本の家族政策	2	下 夷 美 幸	5	木	2	207
社 会 学 各 論	リスクと無知の社会学	2	小 松 丈 晃	6	火	1	208
社 会 学 各 論	質的研究概論	2	徳 川 直 人	5	水	3	208
社 会 学 各 論	気候変動政策の社会学	2	長 谷 川 公 一	6	木	2	209
社 会 学 各 論	死と死にゆくことの社会学	2	㊦ 田 代 志 門	集 中 (5)			209
社 会 学 各 論	「認められること」の社会学	2	㊦ 山 尾 貴 則	集 中 (6)			210
社 会 学 演 習	社会科学のなかの社会学	2	永 井 彰	5	水	2	210
社 会 学 演 習	作田啓一を読む	2	長 谷 川 公 一	6	火	4	211
社 会 学 演 習	不確実性の社会学	2	小 松 丈 晃	6	火	5	211
社 会 学 実 習	社会調査実習Ⅰ	2	下 夷 美 幸	5	金	3・4	212
社 会 学 実 習	社会調査実習Ⅱ	2	下 夷 美 幸	6	金	3・4	212

行動科学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
行 動 科 学 概 論	マイクロ・マクロ問題入門	2	佐 藤 嘉 倫		3	金	3	213
行 動 科 学 概 論	ゲーム理論入門	2	佐 藤 嘉 倫		4	月	4	213
行 動 科 学 概 論	社会調査の基礎	2	木 村 邦 博		3	月	5	214
行 動 科 学 概 論	社会調査の実際	2	木 村 邦 博		4	月	5	214
行 動 科 学 基 礎 演 習	行動科学の基礎	2	浜 田 宏		3	金	4	215
行 動 科 学 基 礎 演 習	行動科学の基礎：数理・計量社会学	2	浜 田 宏		4	金	4	215
行 動 科 学 基 礎 実 習	行動科学基礎実習（多変量解析）	2	永 吉 希 久 子		4	水	4・5	216
行 動 科 学 基 礎 実 習	行動科学基礎実習（社会調査演習）	2	永 吉 希 久 子		5	水	4・5	216
行 動 科 学 各 論	リスクと防災の社会学	2	佐 藤 嘉 倫		5	月	5	217
行 動 科 学 各 論	格差・不平等・リスクの社会学	2	佐 藤 嘉 倫		6	月	5	217
行 動 科 学 各 論	A Sociological Primer on the United States	2	㊦ アンジー アレハンドロ		5	木	3	218
行 動 科 学 各 論	多文化共生論	2	永 吉 希 久 子		6	木	2	218
行 動 科 学 各 論	計量家族社会学	2	㊦ 筒 井 淳 也	集 中 (5)				219
行 動 科 学 演 習	社会秩序の自己組織化とエージェント・ベースト・モデル	2	佐 藤 嘉 倫		5	水	3	219
行 動 科 学 演 習	エージェント・ベースト・モデルによる自己組織性の解明	2	佐 藤 嘉 倫		6	水	3	220
行 動 科 学 演 習	質問の科学	2	木 村 邦 博		5	火	2	220
行 動 科 学 演 習	「質問の科学」実験実習	2	木 村 邦 博		6	火	2	221
行 動 科 学 演 習	バイズアプローチによる社会学の理論と実証	2	浜 田 宏		5	水	2	221
行 動 科 学 演 習	計算・数理社会学	2	浜 田 宏		6	水	2	222
行 動 科 学 演 習	政治意識論	2	永 吉 希 久 子		5	金	2	222
行 動 科 学 演 習	実践計量社会学	2	永 吉 希 久 子		6	金	2	223

心理学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
実 験 心 理 学 概 論	実験心理学の基礎	2	阿 部 恒 之	3	水	2	224
実 験 心 理 学 概 論	応用に向けた実験心理学	2	坂 井 信 之	4	月	3	224
社 会 心 理 学 概 論	社会行動の諸研究	2	辻 本 昌 弘	3	金	2	225
実 験 心 理 学 基 礎 講 読	実験心理学の最新重要研究	2	行 場 次 朗	3	月	5	225
社 会 心 理 学 基 礎 講 読	社会心理学の展開	2	辻 本 昌 弘	4	金	3	226
心 理 学 基 礎 実 験	基礎実験Ⅰ	2	阿部恒之・行場次朗 坂井信之・辻本昌弘	3	火	3・4	226
心 理 学 基 礎 実 験	基礎実験Ⅱ	2	坂井信之・阿部恒之 行場次朗・辻本昌弘	4	火	3・4	227
心 理 学 各 論	ポジティブ心理学研究の発展	2	㊦ 堀 毛 一 也	集 中 (6)			227
心 理 学 各 論	心理調査概論	2	倉 元 直 樹	5	月	2	228
実 験 心 理 学 各 論	ストレスの社会生理心理学	2	阿 部 恒 之	5	水	1	228
社 会 心 理 学 各 論	対人行動の社会心理学	2	㊦ 福 野 光 輝	6	金	4	229
文 化 心 理 学 各 論	文化と人間行動	2	辻 本 昌 弘	6	金	2	229
応 用 心 理 学 各 論	健康と幸福の応用心理学	2	坂 井 信 之	5	水	3	230
実 験 心 理 学 演 習	心理機能とその脳内基盤	2	行 場 次 朗	6	月	5	230
社 会 心 理 学 演 習	社会心理学の重要研究	2	㊦ 福 野 光 輝	5	金	4	231
社 会 心 理 学 演 習	Fundamentals of Psychological Measurement	2	倉 元 直 樹	6	月	2	231
文 化 心 理 学 演 習	現代文化心理学の視角	2	辻 本 昌 弘	5	木	2	232
応 用 心 理 学 演 習	食と健康の心理学	2	坂 井 信 之	6	水	3	232
心 理 学 研 究 法	心理学個別テーマ研究法Ⅰ	2	坂井信之・阿部恒之 行場次朗・辻本昌弘	5	火	3・4	233
心 理 学 研 究 法	心理学個別テーマ研究法Ⅱ	2	辻本昌弘・阿部恒之 行場次朗・坂井信之	6	火	3・4	233

文化人類学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員名		開講セメスター	曜日	講時	頁
			氏	名				
文化人類学概論	文化相対主義	2	沼崎	一郎	3	火	4	234
文化人類学概論	文化進化主義の誕生——ルイス・ヘンリー・モルガンと初期アメリカ民族学	2	沼崎	一郎	4	火	4	234
文化人類学基礎講読	ジェンダー人類学入門	2	沼崎	一郎	3	火	2	235
文化人類学基礎講読	現代人類学入門	2	川口	幸大	4	火	2	235
文化人類学基礎演習	専門文献読解1	2	川口	幸大	3	月	4	236
文化人類学基礎演習	文化人類学の視野と思考	2	川口	幸大	4	月	4	236
文化人類学各論	東アジアの文化人類学	2	川口	幸大	5	金	4	237
文化人類学各論	現代ブータン研究	2	㊦	宮本万里	集中 (5)			237
文化人類学各論	宗教の人類学	2	㊦	門田岳久	集中 (6)			238
文化人類学各論	Anthropology of Globalization	2	㊦	アンジー アレハンドロ	5	木	2	238
文化人類学各論	災害人類学	2	ボレー・ベンメレン・セバスチャン		6	金	2	239
文化人類学演習	比較文化研究法	2	沼崎	一郎	5	火	3	239
文化人類学演習	文化人類学研究計画法	2	沼崎	一郎	6	火	3	240
文化人類学演習	英語古典原書講読	2	沼崎	一郎	6	木	2	240
文化人類学実習	フィールドワーク実習	2	川口	幸大	5	水	3・4	241
文化人類学実習	フィールドワーク実習	2	川口	幸大	6	水	3・4	241

宗教学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
宗 教 学 概 論	宗教の諸理論	2	山 田 仁 史		3	木	1	242
宗 教 学 概 論	宗教と現代社会	2	木 村 敏 明		4	木	1	242
宗 教 学 基 礎 講 読	英国におけるチャプレン（臨 床宗教師）研究	2	谷 山 洋 三		3	金	3	243
宗 教 学 基 礎 講 読	英国におけるチャプレン（臨 床宗教師）研究	2	谷 山 洋 三		4	金	3	243
宗 教 学 基 礎 演 習	宗教研究の技法	2	木 山 村 田 敏 仁 明 史		3	金	5	244
宗 教 学 基 礎 演 習	宗教研究の技法	2	木 山 村 田 敏 仁 明 史		4	金	5	244
宗 教 学 基 礎 実 習	宗教学調査法	2	木 山 村 田 敏 仁 明 史		3	月	4・5	245
宗 教 学 基 礎 実 習	宗教学調査法	2	木 山 村 田 敏 仁 明 史		4	月	4・5	245
宗 教 学 各 論	宗教学各論	2	川 島 秀 一		5	水	1	246
宗 教 学 各 論	ドイツ民族主義宗教運動の諸 相	2	⑤ 深 澤 英 隆		集 中 (6)			246
宗 教 学 各 論	自然災害と宗教	2	木 村 敏 明		5	金	2	247
宗 教 学 各 論	宗教と心理療法	2	高 橋 原		5	水	3	247
宗 教 人 類 学 各 論	宗教と社会福祉	2	谷 山 洋 三		6	月	2	248
宗 教 人 類 学 各 論	宗教人類学者列伝：13人の 生・愛・死	2	山 田 仁 史		6	水	1	248
宗 教 学 講 読	A Study of Religion, Food, and Eating in North America	2	⑤ アンドリューズ デール		5	火	4	249
宗 教 学 講 読	A Study of Religion, Food, and Eating in North America	2	⑤ アンドリューズ デール		6	火	4	249
宗 教 学 演 習	宗教研究の技法	2	木 山 村 田 敏 仁 明 史		5	金	5	250
宗 教 学 演 習	宗教研究の技法	2	木 山 村 田 敏 仁 明 史		6	金	5	250
宗 教 学 実 習	宗教学調査法	2	木 山 高 村 田 倉 敏 仁 浩 明 史 樹		5	月	4・5	251
宗 教 学 実 習	宗教学調査法	2	木 山 高 村 田 倉 敏 仁 浩 明 史 樹		6	月	4・5	251

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
国 文 学 概 論 Japanese Literature (General Lecture)	2	教授 佐藤伸宏	3	金	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT201J				
◆ 授業題目	日本近代文芸の諸問題 (Lecture on the topics of modern Japanese literature)				
◆ 目的・概要	本講義では、日本の近代文芸、とくに〈鉄道〉を素材に取り入れた文芸作品を取り上げて具体的な分析を行うとともに、作品内に折り込まれている〈立身出世〉〈家〉〈地図〉〈轢死〉〈学校制度〉〈女学生〉その他の多様なトピックスを取り出すことをとおして、日本近代文芸の特質、その固有の問題等について講述する。毎回の授業の終わりに、講義内容に関する質問や意見を提出してもらい、次回の授業において、その回答や補足の説明を行いながら、授業を進めていく。				
◆ 到達目標	(1)日本の近代文芸について、背景としての時代状況を視野に入れながら具体的な作品の分析を行うこととおして、その多様な特質および近代文学史に関する理解を深める。 (2)文芸作品の読解の基本的な方法を習得する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 【注意：質問への応答、補足説明等によって、下記の予定通りに進まないことがあり得る】 ガイダンス 日本近代文学と〈鉄道〉 徳富蘆花「不如帰」 泉鏡花「高野聖」 国木田独步「窮死」 田山花袋「少女病」 森鷗外「電車の窓」 夏目漱石「三四郎」 志賀直哉「網走まで」 永井荷風「深川の唄」 宮沢賢治「月夜のでんしんばしら」 芥川龍之介「蜜柑」 川端康成『雪国』 夏目漱石「草枕」「それから」 まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート・出席等（各50％）を一応の目安とするが、総合的に判断する。				
◇ 教科書・参考書	講義資料として、配布プリントを使用する。参考書等については、教室で指示する。				
◇ 授業時間外学習	授業で取り上げる作品について、事前に熟読、精読しておく。				
その他：本講義は第4セメスターも連続して履修すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
国 文 学 概 論 Japanese Literature (General Lecture)	2	教授 佐倉由泰	4	金	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT201J				
◆ 授業題目	日本古典文芸の世界 (Study on Japanese Classical Literature)				
◆ 目的・概要	日本の古典文芸について、具体的な作品、表現を考察し、それぞれの特質を明らかにするとともに、その文学史上の意味、文化史上の意味を捉えて行く。毎回の授業の終わりに、授業内容について、考えたこと、関心を持ったことを書いてもらい（これを「小レポート」と呼ぶ）、その回答も交えて、できるだけ対話的に授業を進めて行こうと思っている。				
◆ 到達目標	(1)日本の古典文芸について、具体的な作品の分析を通して、その多様な特質と史的展開に関する理解を深める。 (2)文芸作品の読解の基礎的な方法を習得する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> はじめに一表現を読むということ 本の話 「物語」をめぐって 「古典」とは— (1) 「古典」とは— (2) ジャンルを越えた表現の系譜 (1) ジャンルを越えた表現の系譜 (2) 表現の引用について パロディーについて 和歌（集）に見られる季節感、世界観 (1) 和歌（集）に見られる季節感、世界観 (2) 連歌と俳諧 「随筆」とは— (1) 「随筆」とは— (2) まとめ 				
◇ 成績評価の方法	学期末に提出してもらったレポート [50%] と、小レポート [50%] をもとに評価する。				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。参考書は、授業の中で随時紹介する。				
◇ 授業時間外学習	授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。				
その他：本講義は、第3セメスターから連続して履修すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
国 文 学 基 礎 講 読 Japanese Literature (Introductory Reading)	2	教授 佐 倉 由 泰	3	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT212J																				
◆ 授業題目	『平家物語』を読む (Study on “The Tale of Heike (平家物語 Heike Monogatari)”)																				
◆ 目的・概要	中世の軍記物語、『平家物語』の表現を考察する。文学表現 (古文) を読み解くには何に注意し、何に注目し、どのような手順で考察を進めればよいのかということ、調査、分析、報告、討議を重ねる中で理解して行く。																				
◆ 到達目標	(1)変体仮名の文を読み解けるようになる。 (2)多様な辞書、事典が活用できるようになり、必要な文献も適切に探せるようになる。 (3)写本の文化を理解し、諸本間の本文の相違に注目して、精度の高い表現の読解ができるようになる。 (4)作品を発見的に解釈するためには、表現の細部の読解がいかにたいせつかということ考察の実践を通して理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 『平家物語』 についての解説 (1)</td> <td>9. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (6)</td> </tr> <tr> <td>2. 『平家物語』 についての解説 (2)</td> <td>10. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (7)</td> </tr> <tr> <td>3. 『平家物語』 についての解説 (3)</td> <td>11. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (8)</td> </tr> <tr> <td>4. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (1)</td> <td>12. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (9)</td> </tr> <tr> <td>5. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (2)</td> <td>13. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (10)</td> </tr> <tr> <td>6. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (3)</td> <td>14. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (11)</td> </tr> <tr> <td>7. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (4)</td> <td>15. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (12)</td> </tr> <tr> <td>8. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (5)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 『平家物語』 についての解説 (1)	9. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (6)	2. 『平家物語』 についての解説 (2)	10. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (7)	3. 『平家物語』 についての解説 (3)	11. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (8)	4. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (1)	12. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (9)	5. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (2)	13. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (10)	6. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (3)	14. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (11)	7. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (4)	15. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (12)	8. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (5)	
1. 『平家物語』 についての解説 (1)	9. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (6)																				
2. 『平家物語』 についての解説 (2)	10. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (7)																				
3. 『平家物語』 についての解説 (3)	11. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (8)																				
4. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (1)	12. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (9)																				
5. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (2)	13. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (10)																				
6. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (3)	14. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (11)																				
7. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (4)	15. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (12)																				
8. 講読、考察の発表とそれにもとづく意見交換 (5)																					
◇ 成績評価の方法	授業時の発表およびレポート [60%] と、授業への参加 [40%] により評価する。																				
◇ 教科書・参考書	教科書：開講時に説明する。 参考書：授業の中で随時紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。 また、各回の講読、考察、意見交換の積み重ねの中で適切な段階を踏んで理解を深めて行く必要があり、そのためにも、必ず応分の予習をして毎回の授業に臨んでもらいたい。予習すべき内容については授業の中で説明するので、第1回の授業から出席し、その内容をよく理解すること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
国 文 学 基 礎 講 読 Japanese Literature (Introductory Reading)	2	教授 佐 藤 伸 宏	4	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT212J																				
◆ 授業題目	明治時代の小説を読む (Reading and interpretation of the Japanese literature of the Meiji era)																				
◆ 目的・概要	明治期の小説を一篇ずつ取り上げて精読する。毎回、担当者の発表と教室全体での討議を行う中で、細部の表現や表現様式、時代背景などを踏まえた作品読解の方法を確認していく。																				
◆ 到達目標	文芸作品を読む基礎的な手続きを習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス：時代背景としての明治</td> <td>9. 島崎藤村「一夜」</td> </tr> <tr> <td>2. 文学テキストの読解について</td> <td>10. 永井荷風「深川の唄」</td> </tr> <tr> <td>3. 夏目漱石「倫敦塔」</td> <td>11. 志賀直哉「剃刀」</td> </tr> <tr> <td>4. 寺田寅彦「団栗」</td> <td>12. 水上瀧太郎「山の手の子」</td> </tr> <tr> <td>5. 大塚楠緒子「上下」</td> <td>13. 谷崎潤一郎「秘密」</td> </tr> <tr> <td>6. 正宗白鳥「塵埃」</td> <td>14. 長田幹彦「滯」</td> </tr> <tr> <td>7. 田山花袋「一兵卒」</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 小栗風葉「世間師」</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス：時代背景としての明治	9. 島崎藤村「一夜」	2. 文学テキストの読解について	10. 永井荷風「深川の唄」	3. 夏目漱石「倫敦塔」	11. 志賀直哉「剃刀」	4. 寺田寅彦「団栗」	12. 水上瀧太郎「山の手の子」	5. 大塚楠緒子「上下」	13. 谷崎潤一郎「秘密」	6. 正宗白鳥「塵埃」	14. 長田幹彦「滯」	7. 田山花袋「一兵卒」	15. 授業のまとめ	8. 小栗風葉「世間師」	
1. ガイダンス：時代背景としての明治	9. 島崎藤村「一夜」																				
2. 文学テキストの読解について	10. 永井荷風「深川の唄」																				
3. 夏目漱石「倫敦塔」	11. 志賀直哉「剃刀」																				
4. 寺田寅彦「団栗」	12. 水上瀧太郎「山の手の子」																				
5. 大塚楠緒子「上下」	13. 谷崎潤一郎「秘密」																				
6. 正宗白鳥「塵埃」	14. 長田幹彦「滯」																				
7. 田山花袋「一兵卒」	15. 授業のまとめ																				
8. 小栗風葉「世間師」																					
◇ 成績評価の方法	授業での発表およびレポート (70%)、授業への積極的参加 (30%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書として、『日本近代短篇小説選 明治篇 2』(岩波文庫)を使用する。 参考書等については、教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業で取り上げる小説を事前に全員が熟読しておく。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
国 文 学 各 論 Japanese Literature (Special Lecture)	2	准教授 横 溝 博	5	月	2
◆ 科目ナンバリング LHM-LIT301J ◆ 授業題目 『源氏物語』の成立と展開 (The Establishment and Development of "The Tale of Genji") ◆ 目的・概要 『源氏物語』現五十四帖がいかにして構成されているか、成立の問題、巻序の問題をはじめ、散逸した巻卷(「桜人」「狹筵」「菓守」さらには「輝く日の宮」)についての『源氏釈』『奥入』等の記述を検証する。「輝く日の宮」の巻は存在したのか。また、定家本・河内本成立の過程と意義、別本の価値をも含めた諸本(写本群)についても考察する。『源氏物語』の初期の注釈書や梗概書、系図等にも目配りし、『山路の露』『雲隠六帖』といった補作、さらには平安～鎌倉・室町時代の物語作品における『源氏物語』受容の痕跡をも手がかりとして、平安から中世にかけて、どのような『源氏物語』テキストが流通していたのかを探る。その際、古筆切等、新発見の資料にも目配りしたい。文字テキスト以外に、院政期の『源氏物語絵巻』を、詞書とともにDVDで鑑賞する。復元プロジェクトによって、平安絵師の仕掛けた謎が現代に明らかとなるのか——。このような検証、思考を通して、広く「『源氏物語』とは何か」、を考えていくことを目的とする。					
◆ 到達目標	『源氏物語』の成立と展開、流布と継承、受容および享受の問題を広く学ぶことで、(1)『源氏物語』をめぐる文化の諸現象に対する理解を深め、(2)『源氏物語』を独力で鑑賞し、(3)テキストを批判的に読み解くための基本的な知識を身につける。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス。講義資料の事前配付。参考文献の紹介。 2. 『源氏物語』の諸本の異同について。「桐壺」巻を例に考える。 3. 「幻」巻の異文。ミセケチをめぐる『原中最秘抄』の諸説。 4. 「柏木」巻の表現と国宝『源氏物語絵巻』の詞書。柏木像の後代への影響。 5. 「桜人」について。『源氏釈』の逸文から復元する。 6. 「かかやく日の宮」と並びの巻について。「奥入」の記述から考える。 7. 藤原定家の『源氏物語』蒐書活動と書写活動。『奥入』と『明月記』紙背から考える。 8. 「菓守」について(1)。『源氏物語古系図』から復元する。 9. 「菓守」について(2)。「古筆断簡』『風葉和歌集』から復元する。 10. 『源氏物語』の構成について。『源氏物語』は五十四帖か。六十巻説、三十七帖説を考える。 11. 『山路の露』について。補作の試みもしくは『雲隠六帖』。 12. 『山路の露』を読む(1)。「序文」を読む。 13. 『山路の露』を読む(2)。薫と浮舟の再会場面を読む。 14. 『山路の露』を読む(3)。浮舟と手習歌。 15. 『山路の露』を読む(4)。物語としての独自性。				
◇ 成績評価の方法	レポートの内容[50%]、授業への出席[50%]。また、毎時間提出するコメント紙の内容も、平常点(授業への出席)の一部として加味する。				
◇ 教科書・参考書	すべてプリントを用いる。毎時間用意すること。参考文献は随時紹介する。				
◇ 授業時間外学習	復習に力を入れること。『山路の露』については、授業で読む箇所以外についても、自分で読み進め、内容把握に努めること。				
その他：二年生でも関心のある人は単位にかかわらず受講されたい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
国 文 学 各 論 Japanese Literature (Special Lecture)	2	准教授 横 溝 博	6	月	2
◆ 科目ナンバリング LHM-LIT301J ◆ 授業題目 『我身にたどる姫君』を読む(Read "Wagami-ni-Tadoru-Himegimi" in the Original) ◆ 目的・概要 「中世王朝物語」と呼ばれる平安末・鎌倉～室町時代にかけて作られた王朝物語の主要な作品の一つに、『我身にたどる姫君』がある。全八巻、帝にして7代・45年に及ぶ大作であり、後醍醐院の1271年には前半四巻は成立していたと思われる。『源氏物語』『狭衣物語』の影響が顕著であり、『我身にたどる姫君』を主人公とする大河物語であるが、様々な登場しては移り変わっていく女性群像の中でも、女帝やその妹である好色の前斎宮は出色であり、女帝の没後、兜率天に登った女帝と近習女房らが歌会を開催するなど、女性中心の色彩が強く、天上界と地上界を対比させた世界構想など、壮大なプロットが様々な詰まっており、じつに興味深い作品である。この授業では、とくに第七巻目を取り上げて精読する。おそらく平安から中世の数ある王朝物語の中でも、『我身にたどる姫君』の第七巻は、もっとも問題のあるテキストである。女帝の没後、聖代の回復を期待されて即位した少年天皇が、叔母で不婚を貫く皇太后宮(聖なる一品宮)に恋慕し、若き帝のあらぬ想像は宮の夢中へと及び、宮は淫夢を見ておののくが、密通によって強引に犯されて、病の床について出家、ついには亡くなってしまうのであり、悲嘆した帝は来世での逢瀬を願って絶命する。その間も、女帝と契って純潔を貫こうとする太皇太后宮が院の求めを拒み切ることができず懐妊し、院の中宮には右大臣が密通するなど、女帝の実現した宮廷社会の綱紀粛正はことごとく崩壊する。このような一連の複雑な出来事が、難解な文体で書かれていて、読解は困難を極めるが、悲恋帝の恋心が焦点化されている点で、他に例を見ない意欲作(異色作)である。授業では本テキストを精読することにより、難解な文章の読解を試みると同時に、『我身にたどる姫君』というテキストの目論見が何であるのか、その意義と世界観の解明を目指す。『我身にたどる姫君』を主要なテキストとして読み解いていくことで、(1)『我身にたどる姫君』に固有の物語世界を明らかにし、(2)中世王朝物語への理解を深めること、を目標とする。					
◆ 到達目標	『我身にたどる姫君』を主要なテキストとして読み解いていくことで、(1)『我身にたどる姫君』に固有の物語世界を明らかにし、(2)中世王朝物語への理解を深めること、を目標とする。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス。『我身にたどる姫君』についての概説講義。参考文献の紹介。 2. 『我身にたどる姫君』を読む(1)「冒頭部、三条院、女帝を偲び悲嘆する」 3. 『我身にたどる姫君』を読む(2)「新帝元服、右大臣女の入内、帝の不満」 4. 『我身にたどる姫君』を読む(3)「帝、皇太后宮を見初める」 5. 『我身にたどる姫君』を読む(4)「太皇太后宮と三条院の逢瀬」 6. 『我身にたどる姫君』を読む(5)「太皇太后宮、懐妊する」 7. 『我身にたどる姫君』を読む(6)「右大臣、後涼殿中宮と密通、太皇太后宮、出産する」 8. 『我身にたどる姫君』を読む(7)「帝と皇太后宮、睦み合う」 9. 『我身にたどる姫君』を読む(8)「皇太后宮の淫夢を見る」 10. 『我身にたどる姫君』を読む(9)「帝、皇太后宮と契る」 11. 『我身にたどる姫君』を読む(10)「皇太后宮の悲嘆、帝の煩悶」 12. 『我身にたどる姫君』を読む(11)「皇太后宮の出家、帝、ショックを受け失神する」 13. 『我身にたどる姫君』を読む(12)「帝、母大宮に心中を打ち明ける」 14. 『我身にたどる姫君』を読む(13)「皇太后宮の薨去し、続けて帝も崩御する」 15. 『我身にたどる姫君』を読む(14)『我身にたどる姫君』の世界構想～巻八の大団円へ				
◇ 成績評価の方法	レポートの内容[50%]、授業への出席[50%]。毎時間記入して提出するコメント用紙の内容も平常点の一部として加味する。				
◇ 教科書・参考書	基本的には教場で配布するプリントによる。その他、参考文献等は随時紹介する。以下は主要なものである。 〔翻刻〕『鎌倉時代物語集成 第七巻』(市古貞次・三角洋一編、笠間書院、1994年) 〔注釈〕『我身にたどる姫君物語全註解』(徳満澄雄、有精堂、1980年)〔全訳〕『我身にたどる姫君』七冊(今井源衛・春秋会、桜楓社、1983年) 『我が身にたどる姫君 上下』(大槻修・大槻福子・片岡利博 校訂・訳注、2009～2010年)				
◇ 授業時間外学習	既に配布された資料であっても毎時間用意すること。巻七以外の物語について、各自で内容を確認してあらかじめ補っておくことが望ましい。				
その他：二年生でも関心のある人は単位にかかわらず受講されたい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
国 文 学 各 論 Japanese Literature (Special Lecture)	2	非常勤 講師 佐々木 孝 浩	集 中 (5)																		
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT301J																				
◆ 授業題目	日本古典書誌学入門 (Introduction to Japanese Classical Bibliography)																				
◆ 目的・概要	日本古典文学研究の現状に閉塞感があるとしたら、その大きな理由の一つは、既存の翻刻や影印のみを利用して事足りりとする研究のスタイルにあると思われる。古典作品は基本的に書物に保存されて伝存してきている。古典作品は何らかの形で書物の制約を受けて存在しているのであり、作品の器たる書物を学ぶことから、本文の読解のみでは知ることができない、作品に関する様々な情報を得ることができるのである。その知見を利用して本文研究を行えば、従来の研究では到達することのできない領域に達することも可能となるはずである。本講義では、古典籍を対象とする学問である日本古典書誌学の基礎的な知識とその応用方法を、原資料に触れながらできるだけ具体的に説明する。受講生の身近に存在する附属図書館所蔵古典籍も可能な範囲で活用したい。																				
◆ 到達目標	自分が対象としたい作品が保存されたの古典籍を取り扱え、正しく評価して研究に活用することができるようになるための、書誌学の基本的な知識を身に付ける。具体的には以下の3点である。 1. 装訂の種類とその特徴が説明できるようになる。 2. 装訂と保存される内容の相関関係が説明できるようになる。 3. 書誌学を研究に活用できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 日本古典書誌学とは 日本古典文学研究と書誌学の関係について</td> <td>8. 書誌調査法 基礎 1 調査項目と項目の有する意味について</td> </tr> <tr> <td>2. 古典籍に用いられる和紙の種類 1 紙の歴史と和紙の種類について</td> <td>9. 書誌調査法 基礎 2 奥書・刊記を中心に</td> </tr> <tr> <td>3. 古典籍に用いられる和紙の種類 2 紙の加工と装飾について</td> <td>10. 書誌調査法 基礎 3 製作年代判定について</td> </tr> <tr> <td>4. 装訂の種類 1 卷子装と折本・粘葉装について</td> <td>11. 書誌調査法 応用 1 図書館蔵書の調査 写本を中心に</td> </tr> <tr> <td>5. 装訂の種類 2 綴葉装と袋綴、及びその他の装訂について</td> <td>12. 書誌調査法 応用 2 図書館蔵書の調査 版本を中心に</td> </tr> <tr> <td>6. 改装の問題 改装の在り方とその意味について</td> <td>13. 書誌調査法 応用 3 図書館蔵書の調査のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 装訂と内容の関連性 ジャンルと装訂の相関関係について</td> <td>14. 授業の総括 1 書誌学研究の可能性について</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 授業の総括 2 授業の補足と期末試験</td> </tr> </table>					1. 日本古典書誌学とは 日本古典文学研究と書誌学の関係について	8. 書誌調査法 基礎 1 調査項目と項目の有する意味について	2. 古典籍に用いられる和紙の種類 1 紙の歴史と和紙の種類について	9. 書誌調査法 基礎 2 奥書・刊記を中心に	3. 古典籍に用いられる和紙の種類 2 紙の加工と装飾について	10. 書誌調査法 基礎 3 製作年代判定について	4. 装訂の種類 1 卷子装と折本・粘葉装について	11. 書誌調査法 応用 1 図書館蔵書の調査 写本を中心に	5. 装訂の種類 2 綴葉装と袋綴、及びその他の装訂について	12. 書誌調査法 応用 2 図書館蔵書の調査 版本を中心に	6. 改装の問題 改装の在り方とその意味について	13. 書誌調査法 応用 3 図書館蔵書の調査のまとめ	7. 装訂と内容の関連性 ジャンルと装訂の相関関係について	14. 授業の総括 1 書誌学研究の可能性について		15. 授業の総括 2 授業の補足と期末試験
1. 日本古典書誌学とは 日本古典文学研究と書誌学の関係について	8. 書誌調査法 基礎 1 調査項目と項目の有する意味について																				
2. 古典籍に用いられる和紙の種類 1 紙の歴史と和紙の種類について	9. 書誌調査法 基礎 2 奥書・刊記を中心に																				
3. 古典籍に用いられる和紙の種類 2 紙の加工と装飾について	10. 書誌調査法 基礎 3 製作年代判定について																				
4. 装訂の種類 1 卷子装と折本・粘葉装について	11. 書誌調査法 応用 1 図書館蔵書の調査 写本を中心に																				
5. 装訂の種類 2 綴葉装と袋綴、及びその他の装訂について	12. 書誌調査法 応用 2 図書館蔵書の調査 版本を中心に																				
6. 改装の問題 改装の在り方とその意味について	13. 書誌調査法 応用 3 図書館蔵書の調査のまとめ																				
7. 装訂と内容の関連性 ジャンルと装訂の相関関係について	14. 授業の総括 1 書誌学研究の可能性について																				
	15. 授業の総括 2 授業の補足と期末試験																				
◇ 成績評価の方法	最終時間にテストを行うが、単なる知識の暗記ではなく、その知識をどのように活用するかの応用力を問う問題となる。その他出席と授業態度も加味して判定する。																				
◇ 教科書・参考書	テスト 70% 出席・授業態度 30% テキストはプリントを配布する。 参考書：藤井隆『日本古典書誌学総説』和泉書院 1991 櫛節節男『宮内庁書陵部 書庫渉獵一書写と装訂』おうふう 2006 堀川貴司『書誌学入門 古典籍を見る・知る・読む』勉誠出版 2010 大沼晴暉『図書大概』汲古書院 2011 佐々木孝浩『日本古典書誌学論』笠間書院 2016 その他講義中に適宜紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	集中講義で一度に多くの情報に接するので、1日毎に復習し、疑問点などを整理して、早めに質問すること。																				
できるだけ原資料に触れる授業なので、授業前に必ず石鹸で手を洗うこと。 その他：原資料を汚さないように心懸け、飲み物などにも注意を払うこと。 書誌学の個々の知識は有機的な関連性を有しており、途中で聞き逃すと理解が難しくなるので、休まず出席すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 文 芸 形 成 論 各 論 Study of Formation of Japanese Literature (Special Lecture)	2	教授 佐 倉 由 泰	5	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT302J																				
◆ 授業題目	『今昔物語集』の研究																				
◆ 目的・概要	(Study on "The Collection of Tales of Times Now Past (今昔物語集 Konjaku Monogatari-shu)") 千以上もの話を収録する説話集、『今昔物語集』の記述とその意味を考察する。 『今昔物語集』の本朝仏法部の説話を取り上げて、表現を丁寧に読み解き、文学、文化、社会にかかわる多様な問題を見出す中で、『今昔物語集』の記述の特質とともに、そこに現れる世界観、人間観、社会認識のあり方を明らかにして行く。																				
◆ 到達目標	(1)表現の細部を丁寧に捉えて、時代相、世相や筆者の世界観、人間観、社会認識を幅広く深く理解できるような読解力、洞察力を身につける。 (2)文学、文化、社会を思考する上での問題発見力と専門的知識を高める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. はじめに一説話の表現を読むということ</td> <td>9. 『今昔物語集』と極楽往生 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. 説話集の中の『今昔物語集』(1)</td> <td>10. 『今昔物語集』と観音菩薩 (1)</td> </tr> <tr> <td>3. 説話集の中の『今昔物語集』(2)</td> <td>11. 『今昔物語集』と観音菩薩 (2)</td> </tr> <tr> <td>4. 『今昔物語集』の構成</td> <td>12. 『今昔物語集』と地藏菩薩</td> </tr> <tr> <td>5. 『今昔物語集』と日本の仏法の始まり</td> <td>13. 『今昔物語集』と発心</td> </tr> <tr> <td>6. 『今昔物語集』と『法華経』(1)</td> <td>14. 『今昔物語集』と天狗</td> </tr> <tr> <td>7. 『今昔物語集』と『法華経』(2)</td> <td>15. 『今昔物語集』と仏法</td> </tr> <tr> <td>8. 『今昔物語集』と極楽往生 (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. はじめに一説話の表現を読むということ	9. 『今昔物語集』と極楽往生 (2)	2. 説話集の中の『今昔物語集』(1)	10. 『今昔物語集』と観音菩薩 (1)	3. 説話集の中の『今昔物語集』(2)	11. 『今昔物語集』と観音菩薩 (2)	4. 『今昔物語集』の構成	12. 『今昔物語集』と地藏菩薩	5. 『今昔物語集』と日本の仏法の始まり	13. 『今昔物語集』と発心	6. 『今昔物語集』と『法華経』(1)	14. 『今昔物語集』と天狗	7. 『今昔物語集』と『法華経』(2)	15. 『今昔物語集』と仏法	8. 『今昔物語集』と極楽往生 (1)	
1. はじめに一説話の表現を読むということ	9. 『今昔物語集』と極楽往生 (2)																				
2. 説話集の中の『今昔物語集』(1)	10. 『今昔物語集』と観音菩薩 (1)																				
3. 説話集の中の『今昔物語集』(2)	11. 『今昔物語集』と観音菩薩 (2)																				
4. 『今昔物語集』の構成	12. 『今昔物語集』と地藏菩薩																				
5. 『今昔物語集』と日本の仏法の始まり	13. 『今昔物語集』と発心																				
6. 『今昔物語集』と『法華経』(1)	14. 『今昔物語集』と天狗																				
7. 『今昔物語集』と『法華経』(2)	15. 『今昔物語集』と仏法																				
8. 『今昔物語集』と極楽往生 (1)																					
◇ 成績評価の方法	学期末に提出してもらおうレポート [60%] と、小レポート [40%] をもとに評価する。																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。参考書は、授業の中で随時紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。																				
その他：本講義(『今昔物語集』の研究)は、第6セメスターも連続して履修することが望ましい。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 文 芸 形 成 論 各 論 Study of Formation of Japanese Literature (Special Lecture)	2	教授 佐倉由泰	6	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT302J				
◆ 授業題目	『今昔物語集』の研究 (Study on “The Collection of Tales of Times Now Past (今昔物語集 Konjaku Monogatari-shu)”)				
◆ 目的・概要	千以上もの話を収録する説話集、『今昔物語集』の記述とその意味を考察する。 『今昔物語集』の本朝世俗部の説話を取り上げて、表現を丁寧に読み解き、文学、文化、社会にかかわる多様な問題を見出す中で、『今昔物語集』の記述の特質とともに、そこに現れる世界観、人間観、社会認識のあり方を明らかにして行く。				
◆ 到達目標	(1)表現の細部を丁寧に捉えて、時代相、世相や筆者の世界観、人間観、社会認識を幅広く深く理解できるように読解力、洞察力を身につける。 (2)文学、文化、社会を思考する上での問題発見力と専門的知識を高める。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 驚きの対象としての武士の行動 2. 『今昔物語集』の争乱の記述 (1) 3. 『今昔物語集』の争乱の記述 (2) 4. 「兵 (つはもの) の道」と「兵 (つはもの) の家」(1) 5. 「兵 (つはもの) の道」と「兵 (つはもの) の家」(2) 6. 『今昔物語集』と 武士 (1) 7. 『今昔物語集』と 武士 (2) 8. 『今昔物語集』における智 9. 『今昔物語集』と平安京 10. 『今昔物語集』と怪異 11. 『今昔物語集』における国司 12. 『今昔物語集』に現れる空間意識 13. 往来する人々をめぐる表現 14. 『今昔物語集』における笑い 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	学期末に提出してもらったレポート [60%] と、小レポート [40%] をもとに評価する。				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。参考書は、授業の中で随時紹介する。				
◇ 授業時間外学習	授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。				
その他：本講義 (『今昔物語集』の研究) は、第5セメスターから連続して履修すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
国 文 学 演 習 Japanese Literature (Seminar)	2	教授 佐倉由泰	5	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT317J				
◆ 授業題目	源義経と曾我兄弟をめぐる物語の研究 (Study on Tales about Minamoto-no-Yoshitsune and Soga Brothers)				
◆ 目的・概要	文学、文化、社会を発見的に考究するためには何に注目し、どのような段階を踏んで思考を進めればよいのかということ、『曾我物語』、『義経記』等、源義経と曾我兄弟をめぐる物語の考察の実践を通して理解して行く。				
◆ 到達目標	文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための読解力、分析力、専門的知識、表現力を高める。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 源義経と曾我兄弟をめぐる物語についての解説 (1) 2. 源義経と曾我兄弟をめぐる物語についての解説 (2) 3. 源義経と曾我兄弟をめぐる物語についての解説 (3) 4. 源義経と曾我兄弟をめぐる物語についての解説 (4) 5. 源義経と曾我兄弟をめぐる物語についての解説 (5) 6. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (1) 7. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (2) 8. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (3) 9. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (4) 10. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (5) 11. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (6) 12. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (7) 13. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (8) 14. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (9) 15. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (10) 				
◇ 成績評価の方法	授業時の発表およびレポート [60%] と、授業への参加 [40%] により評価する。				
◇ 教科書・参考書	教科書：特に指定しない。 参考書：授業の中で随時紹介する。				
◇ 授業時間外学習	授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。				
その他：本演習 (源義経と曾我兄弟をめぐる物語の研究) は、第6セメスターも連続して履修すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
国 文 学 演 習 Japanese Literature (Seminar)	2	教授 佐 倉 由 泰	6	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT317J				
◆ 授業題目	源義経と曾我兄弟をめぐる物語の研究 (Study on Tales about Minamoto-no-Yoshitsune and Soga Brothers)				
◆ 目的・概要	文学、文化、社会を発見的に考究するためには何に注目し、どのような段階を踏んで思考を進めればよいのかということ、『曾我物語』、『義経記』等、源義経と曾我兄弟をめぐる物語の考察の実践を通して理解して行く。				
◆ 到達目標	文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための読解力、分析力、専門的知識、表現力を高める。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (1) 2. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (2) 3. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (3) 4. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (4) 5. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (5) 6. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (6) 7. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (7) 8. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (8) 9. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (9) 10. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (10) 11. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (11) 12. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (12) 13. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (13) 14. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (14) 15. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (15) 				
◇ 成績評価の方法	授業時の発表およびレポート [60%] と、授業への参加 [40%] により評価する。				
◇ 教科書・参考書	教科書：特に指定しない。 参考書：授業の中で随時紹介する。				
◇ 授業時間外学習	授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。				
その他：本演習（源義経と曾我兄弟をめぐる物語の研究）は、第5セメスターから連続して履修すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
国 文 学 演 習 Japanese Literature (Seminar)	2	教授 佐 藤 伸 宏	5	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT317J				
◆ 授業題目	大正文学の研究 (Research on the Japanese literature of the Taisyo era)				
◆ 目的・概要	日本近代文学の成立期である明治時代に続く大正期は、前代を引き継ぎながら、また新たな文学の領域や可能性が追求された時期であった。その大正時代の文学を取り上げ、考察を加える。受講者は各自担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて報告する。口頭発表と質疑応答をとおして各作品の精緻な読解を試みる。本セメスターでは、主として大正前期の小説等を取り上げる。				
◆ 到達目標	(1)文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。 (2)大正期の文学の多様な展開とその特質について理解を深める。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：大正という時代 2. 大正文学史 3. 担当者による口頭発表と質疑応答 4. 担当者による口頭発表と質疑応答 5. 担当者による口頭発表と質疑応答 6. 担当者による口頭発表と質疑応答 7. 担当者による口頭発表と質疑応答 8. 担当者による口頭発表と質疑応答 9. 担当者による口頭発表と質疑応答 10. 担当者による口頭発表と質疑応答 11. 担当者による口頭発表と質疑応答 12. 担当者による口頭発表と質疑応答 13. 担当者による口頭発表と質疑応答 14. 担当者による口頭発表と質疑応答 15. 前期のまとめ 				
◇ 成績評価の方法	授業における発表とレポート (70%)、授業への積極的参加 (30%)				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。				
◇ 授業時間外学習	授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておく。				
その他：本演習は第6セメスターも連続して履修すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
国 文 学 演 習 Japanese Literature (Seminar)	2	教授 佐藤伸宏	6	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT317J																				
◆ 授業題目	大正文学の研究 (Research on the Japanese literature of the Taisyo era)																				
◆ 目的・概要	大正文学の研究日本近代文学の成立期である明治時代に続く大正期は、前代を引き継ぎながら、また新たな文学の領域や可能性が追求された時期であった。その大正時代の文学を取り上げ、考察を加える。受講者は各自担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて報告する。口頭発表と質疑応答をとおして各作品の精緻な読解を試みる。本セメスターでは、主として大正後期の小説等を取り上げる。																				
◆ 到達目標	(1)文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。 (2)大正期の文学の多様な展開とその特質について理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス：大正後期という時代</td> <td>9. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>2. 大正時代後期の文学状況</td> <td>10. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>3. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>11. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>4. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>12. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>5. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>13. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>6. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>14. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>7. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>15. 後期のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス：大正後期という時代	9. 担当者による口頭発表と質疑応答	2. 大正時代後期の文学状況	10. 担当者による口頭発表と質疑応答	3. 担当者による口頭発表と質疑応答	11. 担当者による口頭発表と質疑応答	4. 担当者による口頭発表と質疑応答	12. 担当者による口頭発表と質疑応答	5. 担当者による口頭発表と質疑応答	13. 担当者による口頭発表と質疑応答	6. 担当者による口頭発表と質疑応答	14. 担当者による口頭発表と質疑応答	7. 担当者による口頭発表と質疑応答	15. 後期のまとめ	8. 担当者による口頭発表と質疑応答	
1. ガイダンス：大正後期という時代	9. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
2. 大正時代後期の文学状況	10. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
3. 担当者による口頭発表と質疑応答	11. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
4. 担当者による口頭発表と質疑応答	12. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
5. 担当者による口頭発表と質疑応答	13. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
6. 担当者による口頭発表と質疑応答	14. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
7. 担当者による口頭発表と質疑応答	15. 後期のまとめ																				
8. 担当者による口頭発表と質疑応答																					
◇ 成績評価の方法	授業における発表とレポート (70%)、授業への積極的参加 (30%)																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておく。																				
その他：本演習は第5セメスターも連続して履修すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																												
国 文 学 演 習 Japanese Literature (Seminar)	2	准教授 横溝博	5	月	5																												
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT317J																																
◆ 授業題目	『源氏物語』の研究 (Study of "The Tale of Genji")																																
◆ 目的・概要	『源氏物語』「夕霧」巻を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【鑑賞】と【考察】をレジメとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。																																
◆ 到達目標	『源氏物語』「夕霧」巻を精読することで、(1)物語の虚構の方法や人物造形のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2)諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。																																
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス (発表者及びローテーション決定)</td> <td>9. 「夕霧」巻の輪読</td> </tr> <tr> <td>2. 講義 (柏木と夕霧について・柏木巻～夕霧巻)</td> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> </tr> <tr> <td>3. 「夕霧」巻の輪読</td> <td>10. 「夕霧」巻の輪読</td> </tr> <tr> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> </tr> <tr> <td>4. 「夕霧」巻の輪読</td> <td>11. 「夕霧」巻の輪読</td> </tr> <tr> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> </tr> <tr> <td>5. 「夕霧」巻の輪読</td> <td>12. 「夕霧」巻の輪読</td> </tr> <tr> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> </tr> <tr> <td>6. 「夕霧」巻の輪読</td> <td>13. 「夕霧」巻の輪読</td> </tr> <tr> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 「夕霧」巻の輪読</td> <td>14. 「夕霧」巻の輪読</td> </tr> <tr> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 「夕霧」巻の輪読</td> <td>15. 「夕霧」巻の輪読</td> </tr> <tr> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> </tr> </table>					1. ガイダンス (発表者及びローテーション決定)	9. 「夕霧」巻の輪読	2. 講義 (柏木と夕霧について・柏木巻～夕霧巻)	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	3. 「夕霧」巻の輪読	10. 「夕霧」巻の輪読	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	4. 「夕霧」巻の輪読	11. 「夕霧」巻の輪読	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	5. 「夕霧」巻の輪読	12. 「夕霧」巻の輪読	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	6. 「夕霧」巻の輪読	13. 「夕霧」巻の輪読	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	7. 「夕霧」巻の輪読	14. 「夕霧」巻の輪読	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	8. 「夕霧」巻の輪読	15. 「夕霧」巻の輪読	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
1. ガイダンス (発表者及びローテーション決定)	9. 「夕霧」巻の輪読																																
2. 講義 (柏木と夕霧について・柏木巻～夕霧巻)	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ																																
3. 「夕霧」巻の輪読	10. 「夕霧」巻の輪読																																
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ																																
4. 「夕霧」巻の輪読	11. 「夕霧」巻の輪読																																
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ																																
5. 「夕霧」巻の輪読	12. 「夕霧」巻の輪読																																
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ																																
6. 「夕霧」巻の輪読	13. 「夕霧」巻の輪読																																
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ																																
7. 「夕霧」巻の輪読	14. 「夕霧」巻の輪読																																
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ																																
8. 「夕霧」巻の輪読	15. 「夕霧」巻の輪読																																
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ																																
◇ 成績評価の方法	授業時の発表および期末レポート (発表のまとめ) の内容 [50%]、授業への参加 (質疑応答を含む) [50%]																																
◇ 教科書・参考書	テキストとして角川ソフィア文庫 玉上琢彌 訳注『源氏物語』第七巻 (柏木～雲隠) を用いるので、大学生協で購入のこと。また、参考書として中野幸一編『(新装版) 常用 源氏物語要覧』(武蔵野書院、2012年)がある。その他、参考文献は随時紹介する。																																
◇ 授業時間外学習	毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。																																
その他：本演習は、第6セメスターも連続して履修すること。 物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや興味を大事にしていきたいと思います。																																	

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																																													
国 文 学 演 習 Japanese Literature (Seminar)	2	准教授 横 溝 博	6	月	5																																													
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT317J																																																	
◆ 授業題目	『源氏物語』の研究 (Study of "The Tale of Genji")																																																	
◆ 目的・概要	『源氏物語』 「横笛」 巻を輪読する。担当者は該当巻の【梗概】および【鑑賞】と【考察】をレジюмеとしてまとめ、それを事前配布し、発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。																																																	
◆ 到達目標	『源氏物語』 「横笛」 巻を輪読していくことで、(1)登場人物の造型や語りの有りよう、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2)准拠の問題や有職故実、風俗と文化についての理解を深める。以上を通して物語を読む力、批評する力を高めることで、課題に対して研究的に取り組むための応用力を身につける。																																																	
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)</td> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ (以降同)</td> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> </tr> <tr> <td>2. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)</td> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> <td>9. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)</td> </tr> <tr> <td>3. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)</td> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> </tr> <tr> <td>4. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)</td> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> <td>10. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)</td> </tr> <tr> <td>5. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)</td> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> </tr> <tr> <td>6. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)</td> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> <td>11. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)</td> </tr> <tr> <td>7. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)</td> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)</td> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> <td>12. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>13. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>14. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>15. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ</td> </tr> </table>					1. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ (以降同)	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	2. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	9. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)	3. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	4. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	10. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)	5. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	6. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	11. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)	7. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	8. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	12. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)			(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ			13. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)			(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ			14. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)			(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ			15. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)			(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
1. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ (以降同)	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ																																																
2. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	9. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)																																																
3. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ																																																
4. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	10. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)																																																
5. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ																																																
6. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	11. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)																																																
7. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ																																																
8. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)	(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ	12. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)																																																
		(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ																																																
		13. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)																																																
		(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ																																																
		14. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)																																																
		(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ																																																
		15. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当)																																																
		(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ																																																
◇ 成績評価の方法	授業時の発表および期末レポート (発表のまとめ) の内容 [50%]、授業への参加度合い [50%]																																																	
◇ 教科書・参考書	テキストとして角川ソフィア文庫 玉上琢彌 訳注『源氏物語』第七巻 (柏木～雲隠) を用いるので、大学生協で購入のこと。また、参考書として中野幸一編『〈新装版〉常用 源氏物語要覧』(武蔵野書院、2012年)がある。その他、参考文献は随時紹介する。																																																	
◇ 授業時間外学習	毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。																																																	
その他：	本演習は、第5セメスターから連続して履修すること。 物語の筋を先取りするのではなく、物語の進行に従いながら、その表現世界を丁寧に探求していきたいと思ひます。																																																	

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 思 想 史 概 論 History of Japanese Philosophy (General Lecture)	2	教授 佐藤弘夫	3	金	1
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI201J				
◆ 授業題目	「日本思想史」の課題と方法 (What is history of Japanese thought?)				
◆ 目的・概要	毎回、日本思想史に関わる多様なテーマを取り上げ、資料に即した具体的な考察を行うことによって、日本思想史という学問の性格と特色について理解を深める。				
◆ 到達目標	日本思想史という学問の持つさまざまな顔とその魅力を知る。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本思想史への招待－仙台と川内の原風景を探る 2. 青葉山「蒙古の碑」を読み解く 3. 起請文の宇宙－文書に世界観を読む 4. 慈覚大師の足跡 5. 松島－その歴史と謎 6. 日本人と山－日本文化を見直す 7. 異界の思想－怪異の起こる場 8. ゆるキャラの源流－成仏する草木 9. 日本の「神」を考える 10. 死者の花嫁 11. 天皇制はなぜ続いたか 12. 美人女房落魄伝説－才女が落ちぶれる話 13. 即身仏の寺－ミイラの精神史 14. 幽霊の発生 15. 神仏習合再考 				
◇ 成績評価の方法	レポート 80% 出席 20%				
◇ 教科書・参考書	参考書は毎回紹介する。スライドとプリントを使用する。				
◇ 授業時間外学習	毎回、次週までの課題を指示する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 思 想 史 概 論 History of Japanese Philosophy (General Lecture)	2	教授 佐藤弘夫	4	金	1
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI201J				
◆ 授業題目	聖地と霊場 (Sacred places in Japan)				
◆ 目的・概要	四国八十八カ所から妖怪の出現する場所、サブカルの聖地に至るまで、日本列島には無数の霊的なスポットが存在する。それらに共通するものはいったいなんだろうか。その地にみなぎるパワーの性格を、いくつかの種類化することは可能だろうか。聖地のイメージには、時代による変遷が見られるのであろうか。そもそも、人はなぜ、聖なる地を創り出し、あるいはそこに心惹かれるのであろうか。世界の霊場を視野に入れつつ、日本列島に散在するいくつかの聖なる地を具体的に巡りながら、これらの疑問に対する解答を探ってみたい。				
◆ 到達目標	世界の他地域と比較しながら、なぜ日本列島において特定のスポットが霊的なパワーをもった地とされるのか、その原因を考察することを通じて、聖なるものの誕生の過程と霊場形成のメカニズムを理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 霊場学入門－聖地論の過去と現在 2. 三輪山－神の住む聖なる山 3. 箸墓－築造された神の居住地 4. 高野山－土地を譲る神 5. 立石寺－祖師の眠る寺 6. 黒石寺－黒い岩の霊場 7. 八葉寺－念仏踊りの寺 8. 春日神社－彼岸へ誘う神 9. 伊勢神宮と朝熊山－先祖供養と神 10. 川倉地藏堂－奉納される花嫁人形 11. 黒鳥観音－婚姻する死者たち 12. 三森山－死者と出会う山 13. 琉球の聖地－神の声を聴く人々 14. 妖怪・幽霊・ゆるキャラ 15. アニメの聖地の誕生 				
◇ 成績評価の方法	レポート [80%] 出席 [20%]				
◇ 教科書・参考書	プリントとスライドを使用する。参考書は随時紹介する。				
◇ 授業時間外学習	授業中に次回までの課題を指示する。				
その他：オフィスアワー：水 4校時					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 思 想 史 基 礎 講 読 History of Japanese Philosophy (Introductory Reading)	2	教授 佐藤弘夫	3	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI208J																				
◆ 授業題目	古代・中世資料を読む (Reading historical materials of ancient and medieval period)																				
◆ 目的・概要	『本朝文粹』や『平安遺文』、寺社縁起などから抜粋した漢文・古文テキストを毎回精読する。 初心者でも受講可。																				
◆ 到達目標	日本思想史で用いる史料になじむとともに、できるだけ正確に読めるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 日本思想史関係古代・中世史料購読 1</td> <td>9. 日本思想史関係古代・中世史料購読 9</td> </tr> <tr> <td>2. 日本思想史関係古代・中世史料購読 2</td> <td>10. 日本思想史関係古代・中世史料購読 10</td> </tr> <tr> <td>3. 日本思想史関係古代・中世史料購読 3</td> <td>11. 日本思想史関係古代・中世史料購読 11</td> </tr> <tr> <td>4. 日本思想史関係古代・中世史料購読 4</td> <td>12. 日本思想史関係古代・中世史料購読 12</td> </tr> <tr> <td>5. 日本思想史関係古代・中世史料購読 5</td> <td>13. 日本思想史関係古代・中世史料購読 13</td> </tr> <tr> <td>6. 日本思想史関係古代・中世史料購読 6</td> <td>14. 日本思想史関係古代・中世史料購読 14</td> </tr> <tr> <td>7. 日本思想史関係古代・中世史料購読 7</td> <td>15. 日本思想史関係古代・中世史料購読 15</td> </tr> <tr> <td>8. 日本思想史関係古代・中世史料購読 8</td> <td></td> </tr> </table>					1. 日本思想史関係古代・中世史料購読 1	9. 日本思想史関係古代・中世史料購読 9	2. 日本思想史関係古代・中世史料購読 2	10. 日本思想史関係古代・中世史料購読 10	3. 日本思想史関係古代・中世史料購読 3	11. 日本思想史関係古代・中世史料購読 11	4. 日本思想史関係古代・中世史料購読 4	12. 日本思想史関係古代・中世史料購読 12	5. 日本思想史関係古代・中世史料購読 5	13. 日本思想史関係古代・中世史料購読 13	6. 日本思想史関係古代・中世史料購読 6	14. 日本思想史関係古代・中世史料購読 14	7. 日本思想史関係古代・中世史料購読 7	15. 日本思想史関係古代・中世史料購読 15	8. 日本思想史関係古代・中世史料購読 8	
1. 日本思想史関係古代・中世史料購読 1	9. 日本思想史関係古代・中世史料購読 9																				
2. 日本思想史関係古代・中世史料購読 2	10. 日本思想史関係古代・中世史料購読 10																				
3. 日本思想史関係古代・中世史料購読 3	11. 日本思想史関係古代・中世史料購読 11																				
4. 日本思想史関係古代・中世史料購読 4	12. 日本思想史関係古代・中世史料購読 12																				
5. 日本思想史関係古代・中世史料購読 5	13. 日本思想史関係古代・中世史料購読 13																				
6. 日本思想史関係古代・中世史料購読 6	14. 日本思想史関係古代・中世史料購読 14																				
7. 日本思想史関係古代・中世史料購読 7	15. 日本思想史関係古代・中世史料購読 15																				
8. 日本思想史関係古代・中世史料購読 8																					
◇ 成績評価の方法	平常点 40% レポート 60%																				
◇ 教科書・参考書	プリントを使用する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回授業の際に指示する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 思 想 史 基 礎 講 読 History of Japanese Philosophy (Introductory Reading)	2	教授 佐藤弘夫	4	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI208J																				
◆ 授業題目	近世・近代史料を読む (Reading historical materials of modern period)																				
◆ 目的・概要	思想家のテキスト、文学作品、雑誌記事など、日本思想史が扱う多彩な史料を取り上げ、精読する。																				
◆ 到達目標	日本思想史で用いる史料になじむとともに、できるだけ正確に読めるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 日本思想史関連近世・近代史料購読 1</td> <td>9. 日本思想史関連近世・近代史料購読 9</td> </tr> <tr> <td>2. 日本思想史関連近世・近代史料購読 2</td> <td>10. 日本思想史関連近世・近代史料購読 10</td> </tr> <tr> <td>3. 日本思想史関連近世・近代史料購読 3</td> <td>11. 日本思想史関連近世・近代史料購読 11</td> </tr> <tr> <td>4. 日本思想史関連近世・近代史料購読 4</td> <td>12. 日本思想史関連近世・近代史料購読 12</td> </tr> <tr> <td>5. 日本思想史関連近世・近代史料購読 5</td> <td>13. 日本思想史関連近世・近代史料購読 13</td> </tr> <tr> <td>6. 日本思想史関連近世・近代史料購読 6</td> <td>14. 日本思想史関連近世・近代史料購読 14</td> </tr> <tr> <td>7. 日本思想史関連近世・近代史料購読 7</td> <td>15. 日本思想史関連近世・近代史料購読 15</td> </tr> <tr> <td>8. 日本思想史関連近世・近代史料購読 8</td> <td></td> </tr> </table>					1. 日本思想史関連近世・近代史料購読 1	9. 日本思想史関連近世・近代史料購読 9	2. 日本思想史関連近世・近代史料購読 2	10. 日本思想史関連近世・近代史料購読 10	3. 日本思想史関連近世・近代史料購読 3	11. 日本思想史関連近世・近代史料購読 11	4. 日本思想史関連近世・近代史料購読 4	12. 日本思想史関連近世・近代史料購読 12	5. 日本思想史関連近世・近代史料購読 5	13. 日本思想史関連近世・近代史料購読 13	6. 日本思想史関連近世・近代史料購読 6	14. 日本思想史関連近世・近代史料購読 14	7. 日本思想史関連近世・近代史料購読 7	15. 日本思想史関連近世・近代史料購読 15	8. 日本思想史関連近世・近代史料購読 8	
1. 日本思想史関連近世・近代史料購読 1	9. 日本思想史関連近世・近代史料購読 9																				
2. 日本思想史関連近世・近代史料購読 2	10. 日本思想史関連近世・近代史料購読 10																				
3. 日本思想史関連近世・近代史料購読 3	11. 日本思想史関連近世・近代史料購読 11																				
4. 日本思想史関連近世・近代史料購読 4	12. 日本思想史関連近世・近代史料購読 12																				
5. 日本思想史関連近世・近代史料購読 5	13. 日本思想史関連近世・近代史料購読 13																				
6. 日本思想史関連近世・近代史料購読 6	14. 日本思想史関連近世・近代史料購読 14																				
7. 日本思想史関連近世・近代史料購読 7	15. 日本思想史関連近世・近代史料購読 15																				
8. 日本思想史関連近世・近代史料購読 8																					
◇ 成績評価の方法	平常点 40% レポート 60%																				
◇ 教科書・参考書	テキストは教室で配布する。																				
◇ 授業時間外学習	授業の際に指示する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																				
日 本 思 想 史 各 論 History of Japanese Philosophy (Special Lecture)	2	教授 佐藤弘夫	5	火	1																				
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI301J																								
◆ 授業題目	日本人と神 (Kami for Japanese)																								
◆ 目的・概要	神道にまつわるさまざまな日本文化論の常識を根底から見直すとともに、日本の神を「伝統的な」「固有の」という形容詞から解放して、世界の神と比較研究できるフォーマットに転換することを試みる。																								
◆ 到達目標	日本の神に関する通説・俗説がいかに根拠のないものであるかを知るとともに、日本の神を研究するにあたって、まったく新たなアプローチと視座を設定する必要性を理解する。																								
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンスと序論</td> <td>9. (2) 日本列島における宗教の発生</td> </tr> <tr> <td>2. 1 神の常識を疑う</td> <td>10. (3) 浄土に導く神</td> </tr> <tr> <td>(1) 最初の神信仰の形は神体山か</td> <td>11. (4) 神になる人々</td> </tr> <tr> <td>3. (2) 神は目に見えない存在か</td> <td>12. (5) ヤスクニへの道</td> </tr> <tr> <td>4. (3) 神道はアニミズムか</td> <td>13. (6) 神・天皇・ナショナルリズム</td> </tr> <tr> <td>5. (4) 神は死穢を嫌うか</td> <td>14. 3 人と神の精神史</td> </tr> <tr> <td>6. (5) 神道は日本固有の宗教か</td> <td>(1) 日本人は無宗教か</td> </tr> <tr> <td>7. (6) 神は誰が拜んでもいいのか</td> <td>15. (2) 世界から見直す日本の神</td> </tr> <tr> <td>8. 2 日本列島の神の歴史</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(1) 日本人が発見した最初の神</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンスと序論	9. (2) 日本列島における宗教の発生	2. 1 神の常識を疑う	10. (3) 浄土に導く神	(1) 最初の神信仰の形は神体山か	11. (4) 神になる人々	3. (2) 神は目に見えない存在か	12. (5) ヤスクニへの道	4. (3) 神道はアニミズムか	13. (6) 神・天皇・ナショナルリズム	5. (4) 神は死穢を嫌うか	14. 3 人と神の精神史	6. (5) 神道は日本固有の宗教か	(1) 日本人は無宗教か	7. (6) 神は誰が拜んでもいいのか	15. (2) 世界から見直す日本の神	8. 2 日本列島の神の歴史		(1) 日本人が発見した最初の神	
1. ガイダンスと序論	9. (2) 日本列島における宗教の発生																								
2. 1 神の常識を疑う	10. (3) 浄土に導く神																								
(1) 最初の神信仰の形は神体山か	11. (4) 神になる人々																								
3. (2) 神は目に見えない存在か	12. (5) ヤスクニへの道																								
4. (3) 神道はアニミズムか	13. (6) 神・天皇・ナショナルリズム																								
5. (4) 神は死穢を嫌うか	14. 3 人と神の精神史																								
6. (5) 神道は日本固有の宗教か	(1) 日本人は無宗教か																								
7. (6) 神は誰が拜んでもいいのか	15. (2) 世界から見直す日本の神																								
8. 2 日本列島の神の歴史																									
(1) 日本人が発見した最初の神																									
◇ 成績評価の方法	出席 20% レポート 80%																								
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。プリントとスライドを使用する。																								
◇ 授業時間外学習	そのつど教室で指示する。																								
その他：																									

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 思 想 史 各 論 History of Japanese Philosophy (Special Lecture)	2	教授 佐藤弘夫	6	火	1																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI301J																				
◆ 授業題目	現人神の誕生 (Tennô Discourse and Ideology)																				
◆ 目的・概要	招魂社から靖国神社への展開と関連づけながら、日本における身分制社会の解体と国民国家形成のプロセスの中で、なぜ天皇が神格化されていかなければならなかったのかという問題を考える。 【キーワード】 イキガミ、記憶、通俗道徳、鯀絵																				
◆ 到達目標	日本における国民国家形成の歴史的背景とその独自性を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 序論とガイダンス</td> <td>9. 招魂社から靖国神社へ 2</td> </tr> <tr> <td>2. ヒトガミの思想の系譜 1</td> <td>10. ヒトガミを生み出す装置 1</td> </tr> <tr> <td>3. ヒトガミの思想の系譜 2</td> <td>11. ヒトガミを生み出す装置 2</td> </tr> <tr> <td>4. 記憶される死者 1</td> <td>12. 現人神の誕生 1</td> </tr> <tr> <td>5. 記憶される死者 2</td> <td>13. 現人神の誕生 2</td> </tr> <tr> <td>6. 鯀絵のコスモロジー 1</td> <td>14. 現人神の誕生 3</td> </tr> <tr> <td>7. 鯀絵のコスモロジー 2</td> <td>15. まとめと討論</td> </tr> <tr> <td>8. 招魂社から靖国神社へ 1</td> <td></td> </tr> </table>					1. 序論とガイダンス	9. 招魂社から靖国神社へ 2	2. ヒトガミの思想の系譜 1	10. ヒトガミを生み出す装置 1	3. ヒトガミの思想の系譜 2	11. ヒトガミを生み出す装置 2	4. 記憶される死者 1	12. 現人神の誕生 1	5. 記憶される死者 2	13. 現人神の誕生 2	6. 鯀絵のコスモロジー 1	14. 現人神の誕生 3	7. 鯀絵のコスモロジー 2	15. まとめと討論	8. 招魂社から靖国神社へ 1	
1. 序論とガイダンス	9. 招魂社から靖国神社へ 2																				
2. ヒトガミの思想の系譜 1	10. ヒトガミを生み出す装置 1																				
3. ヒトガミの思想の系譜 2	11. ヒトガミを生み出す装置 2																				
4. 記憶される死者 1	12. 現人神の誕生 1																				
5. 記憶される死者 2	13. 現人神の誕生 2																				
6. 鯀絵のコスモロジー 1	14. 現人神の誕生 3																				
7. 鯀絵のコスモロジー 2	15. まとめと討論																				
8. 招魂社から靖国神社へ 1																					
◇ 成績評価の方法	レポート [80%] 出席 [20%]																				
◇ 教科書・参考書	プリントとスライドを使用する。参考書は随時紹介する。 【参考文献】 佐藤弘夫「ヤスクニの思想と語られる死者の系譜」『思想』2015年7月号、岩波書店。																				
◇ 授業時間外学習	授業中に次回までの課題を指示する。																				
その他：オフィスアワー：水 4校時																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 思 想 史 各 論 History of Japanese Philosophy (Special Lecture)	2	非常勤 講師 大久保 健 晴	集 中 (6)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI301J				
◆ 授業題目	近代日本の政治思想 (Political thought in Modern Japan)				
◆ 目的・概要	近代東アジア世界の歴史的な起源に遡り、「私たちはどこから来て、どこへ向かおうとしているのか」という問いを思想的に検証する作業は、今日きわめて重要な意義を有しています。この講義ではそのような問題関心のもと、西洋世界との文化接触に光を当てるとともに、東アジアの学問・政治・外交の動向を広く視野に入れながら、19世紀から20世紀に至る近代日本の歩みについて、比較思想史の視座から検討します。				
◆ 到達目標	近代日本の成り立ちを、グローバル・ヒストリーの観点から理解する能力を身に付けていきます。その作業を通じて、現代の政治的な出来事を多角的かつ歴史的な視座から捉え、その本質的な課題について、自らの言葉で語れるようになることが目標です。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション—思想史の方法論について— 2. 19世紀東アジア国際秩序と「西洋の衝撃」—「開国」を巡る思想的考察— 3. 近代日本の黎明とオランダ法学 4. ヨーロッパ国際法と東アジア世界の変容 1 5. ヨーロッパ国際法と東アジア世界の変容 2 6. 文明化と脱亜—福澤諭吉の政治思想— 7. 近代東アジアにおける「功利」と「正義」 8. 儒学とキリスト教—政治・徳・宗教— 9. Constitution とは何か?—「憲法」制定と「この国のかたち」— 10. 翻訳の政治思想史—「権利」の概念を中心に— 11. 東アジアの政治哲学とデモクラシー 12. メディアとナショナリズム 13. 帝国主義と正義の行方 14. 「時代閉塞の現状」と超国家主義 15. 総括・試験				
◇ 成績評価の方法	テスト [50%] 平常点 [50%]				
◇ 教科書・参考書	教科書：毎回、プリントを配布する 参考書：大久保健晴『近代日本の政治構想とオランダ』（東京大学出版会、2010年）				
◇ 授業時間外学習	授業で配布したレジュメをもとに、家で復習をしてください。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 思 想 史 各 論 History of Japanese Philosophy (Special Lecture)	2	非常勤 講師 本 村 昌 文	集 中 (6)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI301J				
◆ 授業題目	老いと死をめぐる日本思想史 (Study on relationship between Gerontology and Japanese Intellectual History)				
◆ 目的・概要	本授業は、「老い」をめぐる近年の研究状況を振り返りつつ、以下の2点について検討し、「老い」と「死」をめぐる日本思想史研究について考える。 ①日本思想史研究の視座を通して「老い」から「死」に至るプロセスにおいて人々が抱く意識に光をあて、近世日本における「老い」と「死」の観念について検討する。 ②近代日本から戦後日本における「老年学」研究の形成と展開を跡づけ、「老い」に関する研究における日本思想史研究の意義を検討する。				
◆ 到達目標	1、「老い」や「死」をめぐる問題に対する日本思想史研究からのアプローチを理解する。 2、近世日本における「老い」や「死」の観念について説明できる。 3、「老い」をめぐる現在の研究状況と日本思想史研究の接点について説明できる。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 2. 「老い」に関する研究状況 (1) 3. 「老い」に関する研究状況 (2) 4. 近世日本における「老い」の認識 5. 近世日本における「老い」と死別体験 (1) 6. 近世日本における「老い」と死別体験 (2) 7. 近世日本における「老い」と「死」の観念 (1) 8. 近世日本における「老い」と「死」の観念 (2) 9. 近世日本における「老い」と「死」の観念 (3) 10. 近世日本における「老い」と「死」の観念 (4) 11. 「老年学」の形成と展開 (1) 12. 「老年学」の形成と展開 (2) 13. 「老年学」の形成と展開 (3) 14. 「老年学」の形成と展開 (4) 15. まとめ				
◇ 成績評価の方法	授業期間中に課すリアクションペーパー (4回) 40%、レポート 60%。				
◇ 教科書・参考書	プリント等を配布する。参考書については、授業中に適宜紹介する。				
◇ 授業時間外学習	老いや死について、ニュースや新聞なども活用し、広く関心を持つようにする。				
その他：授業初日に具体的な内容とスケジュールを配布します。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 思 想 史 演 習 History of Japanese Philosophy (Seminar)	2	教授 佐藤弘夫	5	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI308J																				
◆ 授業題目	日本思想史の諸問題Ⅰ (Varies issues of history of Japanese thought 1)																				
◆ 目的・概要	卒業論文作成の前段階として、受講生がそれぞれ自分の興味を持ったテーマについて、従来の代表的な研究や主要な史料を紹介する。また発表の準備を通じて、文献検索の方法や辞書等の使い方を学ぶとともに、そのテーマをめぐって研究史上どのような問題が残されているかを考える。発表後は、その内容について演習参加者が討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。参加者には積極的な発言を期待する。																				
◆ 到達目標	卒業論文のテーマの決定																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width:50%;">9. 研究発表 8</td> </tr> <tr> <td>2. 研究発表 1</td> <td>10. 研究発表 9</td> </tr> <tr> <td>3. 研究発表 2</td> <td>11. 研究発表 10</td> </tr> <tr> <td>4. 研究発表 3</td> <td>12. 研究発表 11</td> </tr> <tr> <td>5. 研究発表 4</td> <td>13. 研究発表 12</td> </tr> <tr> <td>6. 研究発表 5</td> <td>14. 研究発表 13</td> </tr> <tr> <td>7. 研究発表 6</td> <td>15. 研究発表 14</td> </tr> <tr> <td>8. 研究発表 7</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 研究発表 8	2. 研究発表 1	10. 研究発表 9	3. 研究発表 2	11. 研究発表 10	4. 研究発表 3	12. 研究発表 11	5. 研究発表 4	13. 研究発表 12	6. 研究発表 5	14. 研究発表 13	7. 研究発表 6	15. 研究発表 14	8. 研究発表 7	
1. ガイダンス	9. 研究発表 8																				
2. 研究発表 1	10. 研究発表 9																				
3. 研究発表 2	11. 研究発表 10																				
4. 研究発表 3	12. 研究発表 11																				
5. 研究発表 4	13. 研究発表 12																				
6. 研究発表 5	14. 研究発表 13																				
7. 研究発表 6	15. 研究発表 14																				
8. 研究発表 7																					
◇ 成績評価の方法	レポート [80%] 出席 [20%]																				
◇ 教科書・参考書	なし。																				
◇ 授業時間外学習	ブレジュメは1週間前、本レジュメは1日前までに完成するよう準備する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 思 想 史 演 習 History of Japanese Philosophy (Seminar)	2	教授 佐藤弘夫	6	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI308J																				
◆ 授業題目	日本思想史の諸問題Ⅱ (Varies issues of history of Japanese thought 2)																				
◆ 目的・概要	演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、学期末にはそれを全員が提出する。																				
◆ 到達目標	研究論文の作成																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width:50%;">9. 研究発表 8</td> </tr> <tr> <td>2. 研究発表 1</td> <td>10. 研究発表 9</td> </tr> <tr> <td>3. 研究発表 2</td> <td>11. 研究発表 10</td> </tr> <tr> <td>4. 研究発表 3</td> <td>12. 研究発表 11</td> </tr> <tr> <td>5. 研究発表 4</td> <td>13. 研究発表 12</td> </tr> <tr> <td>6. 研究発表 5</td> <td>14. 研究発表 13</td> </tr> <tr> <td>7. 研究発表 6</td> <td>15. 研究発表 14</td> </tr> <tr> <td>8. 研究発表 7</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 研究発表 8	2. 研究発表 1	10. 研究発表 9	3. 研究発表 2	11. 研究発表 10	4. 研究発表 3	12. 研究発表 11	5. 研究発表 4	13. 研究発表 12	6. 研究発表 5	14. 研究発表 13	7. 研究発表 6	15. 研究発表 14	8. 研究発表 7	
1. ガイダンス	9. 研究発表 8																				
2. 研究発表 1	10. 研究発表 9																				
3. 研究発表 2	11. 研究発表 10																				
4. 研究発表 3	12. 研究発表 11																				
5. 研究発表 4	13. 研究発表 12																				
6. 研究発表 5	14. 研究発表 13																				
7. 研究発表 6	15. 研究発表 14																				
8. 研究発表 7																					
◇ 成績評価の方法	論文 [80%] 出席 [20%]																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	ブレジュメは1週間前、本レジュメは1日前までに完成するよう準備する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 概 論 Japanese History (General Lecture)	2	教授 柳原敏昭	3	火	1																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS201J																				
◆ 授業題目	日本史概説1 (Lecture on Japanese History 1)																				
◆ 目的・概要	日本の政治・経済・社会・文化について、東北の中世史を軸としながら概説する。 本セメスターは11世紀後半～14世紀前半(平安時代後期～建武政権期)が中心となる。																				
◆ 到達目標	日本史の大きな流れの中で、東北史、東北中世史の展開を把握できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 序論</td> <td>9. 鎌倉時代の道と町</td> </tr> <tr> <td>2. 古代から中世へ</td> <td>10. 鎌倉時代奥羽の宗教</td> </tr> <tr> <td>3. 平泉の光芒(1)</td> <td>11. 北奥と蝦夷島(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 平泉の光芒(2)</td> <td>12. 北奥と蝦夷島(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 治承・寿永内乱と奥羽</td> <td>13. 陸奥国府と北畠顕家(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 文治五年奥州合戦</td> <td>14. 陸奥国府と北畠顕家(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 鎌倉幕府支配の開始</td> <td>15. 講義のまとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 鎌倉時代の多賀国府</td> <td></td> </tr> </table>					1. 序論	9. 鎌倉時代の道と町	2. 古代から中世へ	10. 鎌倉時代奥羽の宗教	3. 平泉の光芒(1)	11. 北奥と蝦夷島(1)	4. 平泉の光芒(2)	12. 北奥と蝦夷島(2)	5. 治承・寿永内乱と奥羽	13. 陸奥国府と北畠顕家(1)	6. 文治五年奥州合戦	14. 陸奥国府と北畠顕家(2)	7. 鎌倉幕府支配の開始	15. 講義のまとめと試験	8. 鎌倉時代の多賀国府	
1. 序論	9. 鎌倉時代の道と町																				
2. 古代から中世へ	10. 鎌倉時代奥羽の宗教																				
3. 平泉の光芒(1)	11. 北奥と蝦夷島(1)																				
4. 平泉の光芒(2)	12. 北奥と蝦夷島(2)																				
5. 治承・寿永内乱と奥羽	13. 陸奥国府と北畠顕家(1)																				
6. 文治五年奥州合戦	14. 陸奥国府と北畠顕家(2)																				
7. 鎌倉幕府支配の開始	15. 講義のまとめと試験																				
8. 鎌倉時代の多賀国府																					
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験 [80%]・() レポート [%]・() 出席 [%] (○) その他(授業への参加度) [20%]																				
◇ 教科書・参考書	随時プリントを配布する。																				
◇ 授業時間外学習	身近な歴史について講義するので、関心を持った史跡等を実際に訪れてみる。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 概 論 Japanese History (General Lecture)	2	教授 柳原敏昭	4	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS201J																				
◆ 授業題目	日本史概説2 (Lecture on Japanese History 2)																				
◆ 目的・概要	日本の政治・経済・社会・文化について、東北の中世史を軸としながら概説する。 本セメスターは14世紀後半～16世紀末(南北朝時代～戦国時代)が中心となる。																				
◆ 到達目標	日本史の大きな流れの中で、東北史、東北中世史の展開を把握できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 序論</td> <td>9. 北奥羽の情勢と蝦夷島(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 南北朝内乱と奥羽(1)</td> <td>10. 南奥羽の戦国争乱(1)</td> </tr> <tr> <td>3. 南北朝内乱と奥羽(2)</td> <td>11. 南奥羽の戦国争乱(2)</td> </tr> <tr> <td>4. 南北朝内乱と奥羽(3)</td> <td>12. 北奥羽の戦国争乱</td> </tr> <tr> <td>5. 室町時代の政治と社会</td> <td>13. 天下統一と奥羽</td> </tr> <tr> <td>6. 京・鎌倉のはざまにて(1)</td> <td>14. 近世・近代への展望</td> </tr> <tr> <td>7. 京・鎌倉のはざまにて(2)</td> <td>15. 講義のまとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 北奥羽の情勢と蝦夷島(1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 序論	9. 北奥羽の情勢と蝦夷島(2)	2. 南北朝内乱と奥羽(1)	10. 南奥羽の戦国争乱(1)	3. 南北朝内乱と奥羽(2)	11. 南奥羽の戦国争乱(2)	4. 南北朝内乱と奥羽(3)	12. 北奥羽の戦国争乱	5. 室町時代の政治と社会	13. 天下統一と奥羽	6. 京・鎌倉のはざまにて(1)	14. 近世・近代への展望	7. 京・鎌倉のはざまにて(2)	15. 講義のまとめと試験	8. 北奥羽の情勢と蝦夷島(1)	
1. 序論	9. 北奥羽の情勢と蝦夷島(2)																				
2. 南北朝内乱と奥羽(1)	10. 南奥羽の戦国争乱(1)																				
3. 南北朝内乱と奥羽(2)	11. 南奥羽の戦国争乱(2)																				
4. 南北朝内乱と奥羽(3)	12. 北奥羽の戦国争乱																				
5. 室町時代の政治と社会	13. 天下統一と奥羽																				
6. 京・鎌倉のはざまにて(1)	14. 近世・近代への展望																				
7. 京・鎌倉のはざまにて(2)	15. 講義のまとめと試験																				
8. 北奥羽の情勢と蝦夷島(1)																					
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験 [80%]・() レポート [%]・() 出席 [%] (○) その他(授業への参加度) [20%]																				
◇ 教科書・参考書	随時プリントを配布する。																				
◇ 授業時間外学習	身近な歴史について講義するので、関心を持った史跡等を実際に訪れてみる。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 史 基 礎 講 読 Japanese History (Introductory Reading)	2	准教授 堀 裕	4	火	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS205J				
◆ 授業題目	古代史料講読 (Introductory reading of ancient historical materials)				
◆ 目的・概要	日本古代史に関する基礎史料の講読を行う。日本古代の格(単行法令)を載せる『類聚三代格』をおもなテキストとしてとりあげる。受講生は史料を読解し、各自報告を行う。これにより、歴史史料読解の能力を養う。				
◆ 到達目標	日本古代の漢文史料の読解力を身につける。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 日本古代の文献史料について。史料講読のすすめかた。 2. 日本古代の文献史料を読む(1) 3. 日本古代の文献史料を読む(2) 4. 日本古代の文献史料を読む(3) 5. 『類聚三代格』報告(1) 6. 『類聚三代格』報告(2) 7. 『類聚三代格』報告(3) 8. 『類聚三代格』報告(4) 9. 『類聚三代格』報告(5) 10. 『類聚三代格』報告(6) 11. 『類聚三代格』報告(7) 12. 『類聚三代格』報告(8) 13. 『類聚三代格』報告(9) 14. 『類聚三代格』報告(10) 15. 試験と読解能力の確認 				
◇ 成績評価の方法	筆記試験(50%) 出席(50%)				
◇ 教科書・参考書	テキスト 新訂増補国史大系普及版『類聚三代格』前編・後編(吉川弘文館) (必ずしも購入の必要はない)				
◇ 授業時間外学習	オフィスアワーは金曜日の4限です。事前に予約ください。				
その他:					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 史 基 礎 講 読 Japanese History (Introductory Reading)	2	教授 柳 原 敏 昭	4	火	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS205J				
◆ 授業題目	中世史料講読 (Introduction to Japanese Medieval historical Materials)				
◆ 目的・概要	歴史学は実証の上に成り立つ学問であり、それを学ぶ者は歴史資料を的確に読みこなすことができなければならない。本講では、その第一歩として日本中世史に関する代表的な史料を講読し、基礎的な読解力を身につけることを目標とする。また、中世社会の特質についても考える。				
◆ 到達目標	基本的な中世史料を読解できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 学生による報告と討論 ① 3. 学生による報告と討論 ② 4. 学生による報告と討論 ③ 5. 学生による報告と討論 ④ 6. 学生による報告と討論 ⑤ 7. 学生による報告と討論 ⑥ 8. 学生による報告と討論 ⑦ 9. 学生による報告と討論 ⑧ 10. 学生による報告と討論 ⑨ 11. 学生による報告と討論 ⑩ 12. 学生による報告と討論 ⑪ 13. 学生による報告と討論 ⑫ 14. 学生による報告と討論 ⑬ 15. 授業の総括 				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] ・ (○) その他(授業中における発表の内容) [40%]				
◇ 教科書・参考書	講義時にプリントを配布する。				
◇ 授業時間外学習	報告者はおおよそ2週間前から準備を始めること。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。				
その他: 古文・漢文の基礎的な読解力を要する。古文書学(柳原担当)を履修していることが望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 史 基 礎 講 読 Japanese History (Introductory Reading)	2	教授 安達宏昭	3	水	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS205J				
◆ 授業題目	近現代史料講読 (Reading Japanese Modern Historical Documents)				
◆ 目的・概要	日本の近現代史に関する史料(文書)を、輪読する形式で授業を進めていく。書かれている内容を理解するだけでなく、史料の歴史的意義の分析や、近現代史の基礎的な構造についての理解を深める。				
◆ 到達目標	(1)日本近現代史の史料について、読解し理解できるようになる。 (2)史料の読解を通して、日本近現代史を理解する上で基礎的な事柄について認識を深めることができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス・大日本帝国憲法の特徴 2. 大日本帝国憲法体制の展開(1) 3. 大日本帝国憲法体制の展開(2) 4. 大日本帝国憲法体制の展開(3) 5. 大日本帝国憲法体制の展開(4) 6. 大日本帝国憲法体制の変容(1) 7. 大日本帝国憲法体制の変容(2) 8. 大日本帝国憲法体制の変容(3) 9. 大日本帝国憲法体制の変容(4) 10. 大日本帝国憲法体制の変容(5) 11. 日本国憲法体制の形成と展開(1) 12. 日本国憲法体制の形成と展開(2) 13. 日本国憲法体制の形成と展開(3) 14. 日本国憲法体制の形成と展開(4) 15. 授業のまとめ筆記試験				
◇ 成績評価の方法	(○)筆記試験[60%]・()レポート[]・(○)出席[20%]・(○)その他(レスポンスペーパーなど)[20%]				
◇ 教科書・参考書	随時、プリントを配布する。				
◇ 授業時間外学習	事前に配布された史料(プリント)を授業までに必ず読んでおく。				
その他：履修要件：受講者は「近現代史料講読」の未履修者に限る。オフィスアワー：水曜日 16:20~17:50、要予約					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
古 文 書 学 P a l e o g r a p h y	2	教授 柳原敏昭	3	火	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS206J				
◆ 授業題目	中世古文書読解 (Introduction to Medieval Japanese Primary Documents)				
◆ 目的・概要	古文書とは、差出人と受取人などが明示されている歴史的な文書をいう。身近な例で言えば、手紙、合格通知、入学許可書、授業料納入通知書、授業料領収書、学位記等が一定の年月を経れば古文書となる(日記や編纂物、文学作品等は古文書には含まれない)。古文書は、歴史研究にとって最も大切な史料である。本講では、中世の武家様文書を主な素材として、用字・用語に習熟するとともに、様式の展開ひいてはその歴史的背景についても学べるようにしたい。				
◆ 到達目標	(1)中世の原文書を読解できるようになる。 (2)中世古文書学の基礎知識を習得する。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス ① 2. ガイダンス ② 3. 鎌倉幕府文書 下文 4. 鎌倉幕府文書 政所下文 5. 鎌倉幕府文書 御教書 6. 鎌倉幕府文書 下知状 7. 室町幕府文書 御判御教書 8. 室町幕府文書 御内書 9. 室町幕府文書 奉書系文書 10. 室町幕府文書 命令の下達・施行 11. 軍事関係文書 12. 戦国大名文書 ① 13. 戦国大名文書 ② 14. 讓状、起請文など 15. 授業のまとめと試験				
◇ 成績評価の方法	(○)筆記試験[60%]・()レポート[]・(○)出席[20%] (○)その他(講義中における発表の内容)[20%]				
◇ 教科書・参考書	随時プリントを配布する。				
◇ 授業時間外学習	受講者には毎回、古文書(写真版コピー)を筆写する課題が出される。				
その他：古文・漢文の基礎的読解力を要する。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
古 文 書 学 P a l e o g r a p h y	2	准教授 籠 橋 俊 光	4	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS206J																				
◆ 授業題目	近世古文書読解 (Reading Early Modern Documents)																				
◆ 目的・概要	古文書は歴史学において最も重要な材料であり、その読解は必要不可欠な技術である。なかでも近世史研究においては、実際に膨大な原文書を読み、取り扱う能力が必要とされる。本講義は、近世古文書のなかでも代表的な文書様式について理解を深め、読解能力を培うものである。さまざまな近世の古文書が自力で読めるようになることを目標とするため、テキストとして配布する古文書(コピー)について毎回受講者の中から指名し、読みを発表させる。																				
◆ 到達目標	(1)近世古文書に関する基礎的知識を持つ。 (2)近世古文書の読解能力を養う。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス・近世古文書学について</td> <td>9. 武家文書(6) 幕府発給廻状</td> </tr> <tr> <td>2. 近世古文書の特徴と基礎的知識</td> <td>10. 町方・村方文書(1) 定</td> </tr> <tr> <td>3. 文字の読解法とその訓練</td> <td>11. 町方・村方文書(2) 人別帳・検地帳</td> </tr> <tr> <td>4. 武家文書(1) 将軍関係文書・将軍発給文書①</td> <td>12. 町方・村方文書(3) 年貢関係文書</td> </tr> <tr> <td>5. 武家文書(2) 将軍発給文書②</td> <td>13. 町方・村方文書(4) 商業関係文書・訴願関係文書</td> </tr> <tr> <td>6. 武家文書(3) 将軍発給文書③</td> <td>14. 町方・村方文書(5) 家・個人文書</td> </tr> <tr> <td>7. 武家文書(4) 老中発給文書①</td> <td>15. 講義のまとめ・試験</td> </tr> <tr> <td>8. 武家文書(5) 老中発給文書②</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス・近世古文書学について	9. 武家文書(6) 幕府発給廻状	2. 近世古文書の特徴と基礎的知識	10. 町方・村方文書(1) 定	3. 文字の読解法とその訓練	11. 町方・村方文書(2) 人別帳・検地帳	4. 武家文書(1) 将軍関係文書・将軍発給文書①	12. 町方・村方文書(3) 年貢関係文書	5. 武家文書(2) 将軍発給文書②	13. 町方・村方文書(4) 商業関係文書・訴願関係文書	6. 武家文書(3) 将軍発給文書③	14. 町方・村方文書(5) 家・個人文書	7. 武家文書(4) 老中発給文書①	15. 講義のまとめ・試験	8. 武家文書(5) 老中発給文書②	
1. ガイダンス・近世古文書学について	9. 武家文書(6) 幕府発給廻状																				
2. 近世古文書の特徴と基礎的知識	10. 町方・村方文書(1) 定																				
3. 文字の読解法とその訓練	11. 町方・村方文書(2) 人別帳・検地帳																				
4. 武家文書(1) 将軍関係文書・将軍発給文書①	12. 町方・村方文書(3) 年貢関係文書																				
5. 武家文書(2) 将軍発給文書②	13. 町方・村方文書(4) 商業関係文書・訴願関係文書																				
6. 武家文書(3) 将軍発給文書③	14. 町方・村方文書(5) 家・個人文書																				
7. 武家文書(4) 老中発給文書①	15. 講義のまとめ・試験																				
8. 武家文書(5) 老中発給文書②																					
◇ 成績評価の方法	出席 [30%]・筆記試験 [60%]・その他(報告の内容など) [10%]																				
◇ 教科書・参考書	随時プリント配布。受講に際して古文書読解用の辞典類を用意すること。																				
◇ 授業時間外学習	毎回事前の予習を必要とする。																				
その他：オフィスアワー 火曜日 16：20～17：50 (要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 各 論 Japanese History (Special Lecture)	2	准教授 堀 裕	5	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS301J																				
◆ 授業題目	日本古代史の研究と方法(1) (Research and method of Japanese ancient history)																				
◆ 目的・概要	日本古代史に関する代表的な論文(研究文献)を読む。おもに受講生による報告を通して、日本古代史の研究成果を学ぶとともに、論文とは何かを知り、論文を読み解く手法を学ぶ。																				
◆ 到達目標	日本古代史の研究成果と研究方法を学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス 進め方と目的、評価方法についての説明</td> <td>8. 論文講読 6</td> </tr> <tr> <td>2. 論文を読む方法</td> <td>9. 論文講読 7</td> </tr> <tr> <td>3. 論文講読 1</td> <td>10. 論文講読 8</td> </tr> <tr> <td>4. 論文講読 2</td> <td>11. 論文講読 9</td> </tr> <tr> <td>5. 論文講読 3</td> <td>12. 論文講読 10</td> </tr> <tr> <td>6. 論文講読 4</td> <td>13. 論文講読 11</td> </tr> <tr> <td>7. 論文講読 5</td> <td>14. 論文講読 12</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ</td> </tr> </table>					1. ガイダンス 進め方と目的、評価方法についての説明	8. 論文講読 6	2. 論文を読む方法	9. 論文講読 7	3. 論文講読 1	10. 論文講読 8	4. 論文講読 2	11. 論文講読 9	5. 論文講読 3	12. 論文講読 10	6. 論文講読 4	13. 論文講読 11	7. 論文講読 5	14. 論文講読 12		15. まとめ
1. ガイダンス 進め方と目的、評価方法についての説明	8. 論文講読 6																				
2. 論文を読む方法	9. 論文講読 7																				
3. 論文講読 1	10. 論文講読 8																				
4. 論文講読 2	11. 論文講読 9																				
5. 論文講読 3	12. 論文講読 10																				
6. 論文講読 4	13. 論文講読 11																				
7. 論文講読 5	14. 論文講読 12																				
	15. まとめ																				
◇ 成績評価の方法	出席と報告(50%)・レポート(50%)																				
◇ 教科書・参考書	プリント随時配布																				
◇ 授業時間外学習	配付された論文を読むこと。 報告者となっている場合は、レポートの作成をすること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 各 論 Japanese History (Special Lecture)	2	准教授 堀 裕	6	金	1																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS301J																				
◆ 授業題目	日本古代史の研究と方法(2) (Research and method of Japanese ancient history)																				
◆ 目的・概要	日本古代における天皇と宗教について論じる。東アジアのなかの交流史・比較史や、列島の中の地域史を視野にいれ、おおむね7-12世紀の天皇と宗教の歴史の変遷を、時に統一的に、時に別個に示すとともに、それが国家や社会とどのような関係にあったのかを明らかにする。																				
◆ 到達目標	日本古代史の研究成果と研究方法を学ぶ																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width: 50%;">9. 法会と会場 (3)</td> </tr> <tr> <td>2. 天皇の権威 (1)</td> <td>10. 天皇の権威 (3)</td> </tr> <tr> <td>3. 天皇の権威 (2)</td> <td>11. 天皇の権威 (4)</td> </tr> <tr> <td>4. 誓約 (1)</td> <td>12. 地域と宗教 (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 誓約 (2)</td> <td>13. 地域と宗教 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 誓約 (3)</td> <td>14. 地域と宗教 (3)</td> </tr> <tr> <td>7. 法会と会場 (1)</td> <td>15. おわりに</td> </tr> <tr> <td>8. 法会と会場 (2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 法会と会場 (3)	2. 天皇の権威 (1)	10. 天皇の権威 (3)	3. 天皇の権威 (2)	11. 天皇の権威 (4)	4. 誓約 (1)	12. 地域と宗教 (1)	5. 誓約 (2)	13. 地域と宗教 (2)	6. 誓約 (3)	14. 地域と宗教 (3)	7. 法会と会場 (1)	15. おわりに	8. 法会と会場 (2)	
1. ガイダンス	9. 法会と会場 (3)																				
2. 天皇の権威 (1)	10. 天皇の権威 (3)																				
3. 天皇の権威 (2)	11. 天皇の権威 (4)																				
4. 誓約 (1)	12. 地域と宗教 (1)																				
5. 誓約 (2)	13. 地域と宗教 (2)																				
6. 誓約 (3)	14. 地域と宗教 (3)																				
7. 法会と会場 (1)	15. おわりに																				
8. 法会と会場 (2)																					
◇ 成績評価の方法	レポート (100%)																				
◇ 教科書・参考書	随時プリント配布																				
◇ 授業時間外学習	オフィスアワーは金曜日 4限です。事前に予約願います。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 各 論 Japanese History (Special Lecture)	2	准教授 籠 橋 俊 光	5	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS301J																				
◆ 授業題目	近世社会の研究(1) (Research in Early Modern Society (1))																				
◆ 目的・概要	日本近世史における代表的ないしは最新の論文を読み、理解し、それをもとに討論する。受講者は指定された論文を事前に読み、順番にレポーターとして要旨等を紹介し、討論に参加する。受講に際しては議論への積極的な参加を求めることになる。必要に応じ、学外の見学なども実施する。																				
◆ 到達目標	(1)近世史の論文を読むことを通じて、日本近世史への理解を深める。 (2)報告、討論の方法を身につけ、自ら論文を執筆する基礎を養成する。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width: 50%;">9. 受講者による報告と討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 受講者による報告と討論 (1)</td> <td>10. 受講者による報告と討論 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 受講者による報告と討論 (2)</td> <td>11. 受講者による報告と討論 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 受講者による報告と討論 (3)</td> <td>12. 受講者による報告と討論 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 受講者による報告と討論 (4)</td> <td>13. 受講者による報告と討論 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 受講者による報告と討論 (5)</td> <td>14. 受講者による報告と討論 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 受講者による報告と討論 (6)</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 受講者による報告と討論 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 受講者による報告と討論 (8)	2. 受講者による報告と討論 (1)	10. 受講者による報告と討論 (9)	3. 受講者による報告と討論 (2)	11. 受講者による報告と討論 (10)	4. 受講者による報告と討論 (3)	12. 受講者による報告と討論 (11)	5. 受講者による報告と討論 (4)	13. 受講者による報告と討論 (12)	6. 受講者による報告と討論 (5)	14. 受講者による報告と討論 (13)	7. 受講者による報告と討論 (6)	15. 全体のまとめ	8. 受講者による報告と討論 (7)	
1. ガイダンス	9. 受講者による報告と討論 (8)																				
2. 受講者による報告と討論 (1)	10. 受講者による報告と討論 (9)																				
3. 受講者による報告と討論 (2)	11. 受講者による報告と討論 (10)																				
4. 受講者による報告と討論 (3)	12. 受講者による報告と討論 (11)																				
5. 受講者による報告と討論 (4)	13. 受講者による報告と討論 (12)																				
6. 受講者による報告と討論 (5)	14. 受講者による報告と討論 (13)																				
7. 受講者による報告と討論 (6)	15. 全体のまとめ																				
8. 受講者による報告と討論 (7)																					
◇ 成績評価の方法	(○) 出席 [20%] (○) レポート [40%] (○) その他 (報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	講義中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回事前の予習を必要とする。																				
その他：「近世社会の研究(2)」と連続して受講することが望ましい。オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 各 論 Japanese History (Special Lecture)	2	准教授 籠 橋 俊 光	6	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS301J																				
◆ 授業題目	近世社会の研究(2) (Research in Early Modern Society (2))																				
◆ 目的・概要	「近世社会の研究(1)」に引き続き、日本近世の社会とその研究を理解することを目的として、様々な研究論文を読み進め、理解を深める。受講に際しては議論への積極的な参加が求められる。可能であれば、必要に応じ、学外の見学なども実施する。																				
◆ 到達目標	(1)近世史の論文を読むことを通じて、日本近世史への理解を深める。 (2)報告、討論の方法を身につけ、自ら論文を執筆する基礎を養成する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 受講者による報告と討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 受講者による報告と討論 (1)</td> <td>10. 受講者による報告と討論 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 受講者による報告と討論 (2)</td> <td>11. 受講者による報告と討論 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 受講者による報告と討論 (3)</td> <td>12. 受講者による報告と討論 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 受講者による報告と討論 (4)</td> <td>13. 受講者による報告と討論 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 受講者による報告と討論 (5)</td> <td>14. 受講者による報告と討論 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 受講者による報告と討論 (6)</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 受講者による報告と討論 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 受講者による報告と討論 (8)	2. 受講者による報告と討論 (1)	10. 受講者による報告と討論 (9)	3. 受講者による報告と討論 (2)	11. 受講者による報告と討論 (10)	4. 受講者による報告と討論 (3)	12. 受講者による報告と討論 (11)	5. 受講者による報告と討論 (4)	13. 受講者による報告と討論 (12)	6. 受講者による報告と討論 (5)	14. 受講者による報告と討論 (13)	7. 受講者による報告と討論 (6)	15. 全体のまとめ	8. 受講者による報告と討論 (7)	
1. ガイダンス	9. 受講者による報告と討論 (8)																				
2. 受講者による報告と討論 (1)	10. 受講者による報告と討論 (9)																				
3. 受講者による報告と討論 (2)	11. 受講者による報告と討論 (10)																				
4. 受講者による報告と討論 (3)	12. 受講者による報告と討論 (11)																				
5. 受講者による報告と討論 (4)	13. 受講者による報告と討論 (12)																				
6. 受講者による報告と討論 (5)	14. 受講者による報告と討論 (13)																				
7. 受講者による報告と討論 (6)	15. 全体のまとめ																				
8. 受講者による報告と討論 (7)																					
◇ 成績評価の方法	(○) 出席 [20%] (○) レポート [40%] (○) その他 (報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	講義中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回事前の予習を必要とする。																				
その他：「近世社会の研究(1)」と連続して受講することが望ましい。オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 各 論 Japanese History (Special Lecture)	2	教授 安 達 宏 昭	5	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS301J																				
◆ 授業題目	日本近現代史研究の現状と課題(5) (Current status and problems about the study of Japanese Modern History (5))																				
◆ 目的・概要	日本近現代史研究における現時点での到達点を理解するために、2015年に刊行された『岩波講座 日本歴史 (第19巻、近現代5)』におさめられている各論文を読んでいく。その後、この時代に関連する論文も読み進める。進め方は、受講者が順番にレポーターとなって、担当する論文の要旨や内容の特徴を発表し、その上で受講者全員によって討論する方式で行う。それにより、相互に認識を深める。																				
◆ 到達目標	(1)日本近現代史に関する最近の研究を読解し、内容を理解できるようになる。 (2)研究の内容要旨を発表し、討論することができるようになる。(3)最近の研究成果を通して、近現代史研究の現状と課題について、理解できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス日本近現代史研究の特徴</td> <td>9. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (7)</td> </tr> <tr> <td>2. 日本近現代史研究の方法</td> <td>10. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>3. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (1)</td> <td>11. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (9)</td> </tr> <tr> <td>4. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (2)</td> <td>12. 日本近現代史に関する研究論文についての報告 (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (3)</td> <td>13. 日本近現代史に関する研究論文についての報告 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (4)</td> <td>14. 日本近現代史に関する研究論文についての報告 (3)</td> </tr> <tr> <td>7. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (5)</td> <td>15. 日本近現代史に関する研究論文についての報告 (4)</td> </tr> <tr> <td>8. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (6)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス日本近現代史研究の特徴	9. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (7)	2. 日本近現代史研究の方法	10. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (8)	3. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (1)	11. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (9)	4. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (2)	12. 日本近現代史に関する研究論文についての報告 (1)	5. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (3)	13. 日本近現代史に関する研究論文についての報告 (2)	6. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (4)	14. 日本近現代史に関する研究論文についての報告 (3)	7. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (5)	15. 日本近現代史に関する研究論文についての報告 (4)	8. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (6)	
1. ガイダンス日本近現代史研究の特徴	9. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (7)																				
2. 日本近現代史研究の方法	10. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (8)																				
3. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (1)	11. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (9)																				
4. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (2)	12. 日本近現代史に関する研究論文についての報告 (1)																				
5. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (3)	13. 日本近現代史に関する研究論文についての報告 (2)																				
6. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (4)	14. 日本近現代史に関する研究論文についての報告 (3)																				
7. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (5)	15. 日本近現代史に関する研究論文についての報告 (4)																				
8. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (6)																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) レポート [50%]・(○) 出席 [20%]・ (○) その他 (報告の内容、討論への取り組みなど) [30%]																				
◇ 教科書・参考書	『岩波講座 日本歴史 (第19巻、近現代5)』(岩波書店、2015年)を主なテキストとする。 該当する論文などについては、適宜、指示する。																				
◇ 授業時間外学習	『岩波講座 日本歴史 (第19巻、近現代5)』や指定された研究論文を、事前に読んでおく。																				
その他：オフィスアワー：水曜日 16:20~17:50																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 史 各 論 Japanese History (Special Lecture)	2	非常勤 講師 佐藤 大 介 天野 真 志	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS301J				
◆ 授業題目	歴史資料保全の実践（その1）（Passing on the Historical heritage on Tohoku area (Part 1)）				
◆ 目的・概要	いま、人文社会学研究への「社会的要請」とは何か、ということが議論されています。日本史を学ぶ者にとっては、「先祖や地元の歴史を知りたい・伝えたい」という思いに応えることが、その一つといえるかもしれません。この講義では、地域社会に今なお膨大に残されている歴史資料を守り、伝えるための課題や、そのための実践を、座学、議論、および実際の地域での活動を通じて学んでいきます。				
◆ 到達目標	・過去の歴史資料保存をめぐる経緯を踏まえながら、地域社会に残された歴史資料を継承するための課題を学びます。・講義を通じて、「社会にとっての歴史研究者の存在意義とは何か」ということを自ら考える力を付けます。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 「歴史資料保全活動」の経緯 ① —終戦直後～1960年代 「歴史資料保全活動」の経緯 ② —1970年代～1990年代 「歴史資料保全活動」の経緯 ③ —1990年代～現在 史料保全活動の課題 ① —報告 1 史料保全活動の課題 ② —報告 2 史料保全活動の課題 ③ —討論 地域の歴史資料を守る ① —文書資料の応急処置・洗浄 地域の歴史資料を守る ② —文書資料の応急処置・乾燥 地域の歴史資料を守る ③ —文書資料の応急処置・修復 地域の歴史資料を守る ④ —保管環境を整える 地域の歴史資料を守る ⑤ —所蔵者のお話をうかがう 地域の歴史資料を守る ⑥ —所蔵者との対話 地域の歴史資料を守る ⑦ —史料の整理 地域の歴史資料を守る ⑧ —デジタルカメラでの撮影・管理 地域の歴史資料を守る ⑨ —まとめ 				
◇ 成績評価の方法	・平常点（出席、討論への参加）（40パーセント）・レポート（60パーセント）				
◇ 教科書・参考書	・奥村弘『大震災と歴史資料保存』（吉川弘文館 2011年） ・平川新・佐藤大介編『歴史遺産を未来へ』（東北大学東北アジア研究センター報告 2012年） ・奥村弘編『歴史文化を大災害から守る 地域歴史資料学の構築』（東京大学出版会 2014年）ほか、講義中指示する。				
◇ 授業時間外学習	上記の参考文献、およびそれらに引用されている関連文献に、可能な範囲で目を通しておくこと。				
・10コマ目以降は、大学を離れた地域での講義となる。全日程参加出来るよう予定を調整しておくこと。					
その他：・日本近世・近代史特論Ⅲ 後期「歴史資料保全の実践（その2）」と連続履修することが望ましい。					
・実技や現地調査を行う関係で、受講者人数を制限する（最大15名程度）。多数の場合は日本史専修の学生を優先する。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 史 各 論 Japanese History (Special Lecture)	2	非常勤 講師 佐藤 大 介	6	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS301J				
◆ 授業題目	歴史資料保全の実践（その2）（Passing on the Historical heritage on Tohoku area (part 2)）				
◆ 目的・概要	活字、くすし字を問わず、日本史研究で必須の「古文書を読み解く力」は、それらに親しみのない市民が、過去の歴史を自ら学ぼうとする時、専門家に求められる能力です。地域の歴史に対する関心が高まる今、その能力を生かして市民と積極的に交流する事が求められています。この講義では、江戸時代の仙台藩に残された古文書を用いて、歴史を復元するための解説方法を学ぶとともに、知り得た内容をわかりやすく紹介するための方法を学びます。				
◆ 到達目標	・古文書の内容から、歴史を復元できるような情報を読み解く力を身につけます。 ・さらに、その内容をどのようにしてわかりやすく伝えるかについても学びます。 ・成果を実地に発表し、その反応を知る事で、歴史研究を学ぶ者が求められている課題を知ります。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> はじめに一市民と歴史像を共有する意義 古文書を読んでみる ① —証文 古文書を読んでみる ② —願書 古文書を読んでみる ③ —記録 古文書を読んでみる ④ —手紙 歴史像を復元する ① —基礎的な内容 歴史像を復元する ② —ものの流れ 歴史像を復元する ③ —人物像 歴史像を復元する ④ —地域像 歴史像を伝える ① —基礎的な情報の提示 歴史像を伝える ② —文章表現 歴史像を伝える ③ —関連資料の調査 歴史像を伝える ④ —編集 歴史像を伝える ⑤ —展示・公開の方法 まとめ 				
◇ 成績評価の方法	・分担か所の発表及び解説資料の内容（50パーセント）・レポート（50パーセント）講義中に指示します。				
◇ 教科書・参考書	歴史像を明らかにするには、多数の文献に当たる必要もあります。シラバスでそのすべてを紹介することはできませんので、講義中に指示します。				
◇ 授業時間外学習	・この講義は、受講者による発表が基本となります。各回の予習は必須となります。あらかじめ担当か所を割り当てますので、発表前日に慌てて準備を始め「徹夜」になることのないよう、一日30分～1時間程度、ないし週2時間程度の学習時間を、日課として取り入れていただくことをお勧めします。				
・日本近世・近代史特論Ⅲ 前期「歴史資料保全の実践（その1）」との連続履修が望ましいです。					
その他：・古文書解説の能力が必要です。古文書学など、日本史専修で開講される関連講義などで十分に学習しておいてください。					
・少人数講義とします。希望者多数の場合は、日本史専修の学生を優先します。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 史 各 論 Japanese History (Special Lecture)	2	非常勤 講師 桜 井 英 治	集 中 (6)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS301J				
◆ 授業題目	中世社会論 (Study of Medieval Society)				
◆ 目的・概要	現代歴史学の流れは、1970年代前半までの戦後歴史学の時代、70年代後半から80年代の社会史の時代を経て、現在はさしずめグローバル・ヒストリーの時代にあるといえようか。この間に日本中世史研究も関心や視点、方法等をさまざまに変化させてきたが、この授業ではこれまでの研究成果や論争史をふまえながら、日本の中世社会の特質を日本史全体の流れのなかで、あるいは東アジア諸地域との比較において整理・究明するとともに、今後の研究の進むべき方向性についても模索してみたい。後半には「塵芥集」を中心に中世法とその近世化の問題について考察する。				
◆ 到達目標	日本の中世社会の特質と中世史研究の現状について理解するとともに、文献史料、とくに法制史料の読解法を学ぶ。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論—現代歴史学の歩み 2. 時期区分論 3. 中世日本の時間的布置—環境史の視点 4. 中世日本の時間的布置—経済史の視点 (1) 5. 中世日本の時間的布置—経済史の視点 (2) 6. 中世日本の時間的布置—贈与論の視点 7. 中世日本の空間的布置—比較史的考察 8. 中世日本の空間的布置—中国銭と中世の市場経済 9. 中世日本の空間的布置—日本の家について 10. 中世法の世界—「塵芥集」を中心に (1) 11. 中世法の世界—「塵芥集」を中心に (2) 12. 中世法の世界—「塵芥集」を中心に (3) 13. 中世法の世界—「塵芥集」を中心に (4) 14. 中世法の世界—「塵芥集」を中心に (5) 15. 授業のまとめと試験 				
◇ 成績評価の方法	筆記試験による。				
◇ 教科書・参考書	教科書は使わない。プリントを配付して講義を行う。参考書は授業中に紹介する。				
◇ 授業時間外学習	質問などは随時受け付ける。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	准教授 堀 裕	5	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS306J				
◆ 授業題目	古代史料の研究(1) (research of ancient historical materials)				
◆ 目的・概要	平安時代の貴族の日記である『小右記』をテキストとして精読する。あわせて、関連史料も調査・読解することで、史料としての扱い方に習熟する。これにより古記録に基づいた歴史像の構築の方法について理解を深める。なお、授業では毎回担当者が報告する。				
◆ 到達目標	古代史の基本史料の基礎知識を得るとともにその読解に習熟する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 『小右記』を読む (1) 3. 『小右記』を読む (2) 4. 『小右記』を読む (3) 5. 『小右記』を読む (4) 6. 『小右記』を読む (5) 7. 『小右記』を読む (6) 8. 『小右記』を読む (7) 9. 『小右記』を読む (8) 10. 『小右記』を読む (9) 11. 『小右記』を読む (10) 12. 『小右記』を読む (11) 13. 『小右記』を読む (12) 14. 『小右記』を読む (13) 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート (50%) 出席 (50%)				
◇ 教科書・参考書	テキスト 『大日本古記録 小右記』 1～11 (岩波書店)。 購入の必要はない。				
◇ 授業時間外学習	オフィスアワーは金曜 4 限になります。来訪の際は事前に連絡下さい。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	准教授	堀 裕	6	火	2																		
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS306J																							
◆ 授業題目	古代史料の研究(2) (research of ancient historical materials)																							
◆ 目的・概要	養老令の注釈書である『令集解』をテキストとしてとりあげる。精読するとともに、関連史料も調査・読解することで、史料としての扱い方に習熟する。本年度は神祇令・僧尼令を取り上げる。史料に基づいた歴史像の構築の方法について理解を深める。なお、授業では毎回担当者が報告する。																							
◆ 到達目標	古代史の基本史料の基礎知識を得るとともにその読解に習熟する。																							
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 『令集解』を読む (8)</td> </tr> <tr> <td>『令集解』とは何か。講読のすすめかた。</td> <td>10. 『令集解』を読む (9)</td> </tr> <tr> <td>2. 『令集解』を読む (1)</td> <td>11. 『令集解』を読む (10)</td> </tr> <tr> <td>3. 『令集解』を読む (2)</td> <td>12. 『令集解』を読む (11)</td> </tr> <tr> <td>4. 『令集解』を読む (3)</td> <td>13. 『令集解』を読む (12)</td> </tr> <tr> <td>5. 『令集解』を読む (4)</td> <td>14. 『令集解』を読む (13)</td> </tr> <tr> <td>6. 『令集解』を読む (5)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 『令集解』を読む (6)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 『令集解』を読む (7)</td> <td></td> </tr> </table>						1. ガイダンス	9. 『令集解』を読む (8)	『令集解』とは何か。講読のすすめかた。	10. 『令集解』を読む (9)	2. 『令集解』を読む (1)	11. 『令集解』を読む (10)	3. 『令集解』を読む (2)	12. 『令集解』を読む (11)	4. 『令集解』を読む (3)	13. 『令集解』を読む (12)	5. 『令集解』を読む (4)	14. 『令集解』を読む (13)	6. 『令集解』を読む (5)	15. まとめ	7. 『令集解』を読む (6)		8. 『令集解』を読む (7)	
1. ガイダンス	9. 『令集解』を読む (8)																							
『令集解』とは何か。講読のすすめかた。	10. 『令集解』を読む (9)																							
2. 『令集解』を読む (1)	11. 『令集解』を読む (10)																							
3. 『令集解』を読む (2)	12. 『令集解』を読む (11)																							
4. 『令集解』を読む (3)	13. 『令集解』を読む (12)																							
5. 『令集解』を読む (4)	14. 『令集解』を読む (13)																							
6. 『令集解』を読む (5)	15. まとめ																							
7. 『令集解』を読む (6)																								
8. 『令集解』を読む (7)																								
◇ 成績評価の方法	レポート (50%) 出席 (50%)																							
◇ 教科書・参考書	テキスト 新訂増補国史大系普及版『令集解』第1巻 (吉川弘文館)。																							
◇ 授業時間外学習	オフィスアワーは金曜日4限です。来訪時は事前に連絡をください。																							
その他：																								

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	准教授	堀 裕	5	金	3																		
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS306J																							
◆ 授業題目	古代史料研究(1) (research of Japanese ancient historical materials)																							
◆ 目的・概要	8世紀を中心とした歴史書『続日本紀』と、格を集成した『類聚三代格』をテキストとして、古代史料の読解と史料としての扱い方に習熟する。授業では毎回担当者が報告する。できれば、現地見学会を実施する。																							
◆ 到達目標	古代史の基本史料の読解力の養成と史料としての扱い方の習熟。																							
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>8. 史料を読む (7)</td> </tr> <tr> <td>『続日本紀』と『類聚三代格』とは何か。</td> <td>9. 史料を読む (8)</td> </tr> <tr> <td>講読のすすめかた。</td> <td>10. 史料を読む (9)</td> </tr> <tr> <td>2. 史料を読む (1)</td> <td>11. 史料を読む (10)</td> </tr> <tr> <td>3. 史料を読む (2)</td> <td>12. 史料を読む (11)</td> </tr> <tr> <td>4. 史料を読む (3)</td> <td>13. 史料を読む (12)</td> </tr> <tr> <td>5. 史料を読む (4)</td> <td>14. 史料を読む (13)</td> </tr> <tr> <td>6. 史料を読む (5)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 史料を読む (6)</td> <td></td> </tr> </table>						1. ガイダンス	8. 史料を読む (7)	『続日本紀』と『類聚三代格』とは何か。	9. 史料を読む (8)	講読のすすめかた。	10. 史料を読む (9)	2. 史料を読む (1)	11. 史料を読む (10)	3. 史料を読む (2)	12. 史料を読む (11)	4. 史料を読む (3)	13. 史料を読む (12)	5. 史料を読む (4)	14. 史料を読む (13)	6. 史料を読む (5)	15. まとめ	7. 史料を読む (6)	
1. ガイダンス	8. 史料を読む (7)																							
『続日本紀』と『類聚三代格』とは何か。	9. 史料を読む (8)																							
講読のすすめかた。	10. 史料を読む (9)																							
2. 史料を読む (1)	11. 史料を読む (10)																							
3. 史料を読む (2)	12. 史料を読む (11)																							
4. 史料を読む (3)	13. 史料を読む (12)																							
5. 史料を読む (4)	14. 史料を読む (13)																							
6. 史料を読む (5)	15. まとめ																							
7. 史料を読む (6)																								
◇ 成績評価の方法	レポート (50%) 出席 (50%)																							
◇ 教科書・参考書	テキスト 新訂増補国史大系普及版『続日本紀』前編・後編 (吉川弘文館)・同『類聚三代格』(同)																							
◇ 授業時間外学習	8-9世紀に興味のある方にも受講を勧めます。オフィスアワーは金曜4限になります。来訪の際は事前に連絡下さい。																							
その他：古代史料研究(1)(2)は連続履修すること。																								

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	准教授 堀 裕	6	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS306J																				
◆ 授業題目	古代史料研究(2) (research of Japanese ancient historical materials 2)																				
◆ 目的・概要	8世紀を中心とした歴史書『続日本紀』と、格を集成した『類聚三代格』をテキストとして、古代史料の読解と史料としての扱い方に習熟する。授業では毎回担当者が報告する。																				
◆ 到達目標	古代史の基本史料の読解力の養成と史料としての扱い方の習熟。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>8. 史料を読む (7)</td> </tr> <tr> <td>講読のすすめかたの確認</td> <td>9. 史料を読む (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 史料を読む (1)</td> <td>10. 史料を読む (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 史料を読む (2)</td> <td>11. 史料を読む (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 史料を読む (3)</td> <td>12. 史料を読む (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 史料を読む (4)</td> <td>13. 史料を読む (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 史料を読む (5)</td> <td>14. 史料を読む (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 史料を読む (6)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> </table>					1. ガイダンス	8. 史料を読む (7)	講読のすすめかたの確認	9. 史料を読む (8)	2. 史料を読む (1)	10. 史料を読む (9)	3. 史料を読む (2)	11. 史料を読む (10)	4. 史料を読む (3)	12. 史料を読む (11)	5. 史料を読む (4)	13. 史料を読む (12)	6. 史料を読む (5)	14. 史料を読む (13)	7. 史料を読む (6)	15. まとめ
1. ガイダンス	8. 史料を読む (7)																				
講読のすすめかたの確認	9. 史料を読む (8)																				
2. 史料を読む (1)	10. 史料を読む (9)																				
3. 史料を読む (2)	11. 史料を読む (10)																				
4. 史料を読む (3)	12. 史料を読む (11)																				
5. 史料を読む (4)	13. 史料を読む (12)																				
6. 史料を読む (5)	14. 史料を読む (13)																				
7. 史料を読む (6)	15. まとめ																				
◇ 成績評価の方法	レポート (50%) 出席 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	テキスト 新訂増補国史大系普及版『続日本紀』前編・後編 (吉川弘文館)・同『類聚三代格』(同) 8-9世紀に興味のある方にも受講を勧めます。																				
◇ 授業時間外学習	オフィスアワーは金曜4限になります。来訪の際は事前に連絡下さい。																				
その他：古代史料研究(1) (2)は連続履修すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	教授 柳 原 敏 昭	5	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS306J																				
◆ 授業題目	鎌倉時代の法と社会(1) (The Law and Society of the Kamakura Period 1)																				
◆ 目的・概要	鎌倉幕府は、基本法典である御成敗式目を編纂し、そのほか多数の法令・行政命令を発した(追加法という)。それらは鎌倉時代の法・社会、政権の性格を解明する上での重要な史料である。この時間は、追加法および関連史料の精密な読解を通じて、鎌倉時代の法と社会について探究する。授業は受講生による発表と討論を中心として行なう。																				
◆ 到達目標	(1)中世史料の読解力を身につける。 (2)報告・討論の方法の基礎を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 学生による報告と討論 ⑧</td> </tr> <tr> <td>2. 学生による報告と討論 ①</td> <td>10. 学生による報告と討論 ⑨</td> </tr> <tr> <td>3. 学生による報告と討論 ②</td> <td>11. 学生による報告と討論 ⑩</td> </tr> <tr> <td>4. 学生による報告と討論 ③</td> <td>12. 学生による報告と討論 ⑪</td> </tr> <tr> <td>5. 学生による報告と討論 ④</td> <td>13. 学生による報告と討論 ⑫</td> </tr> <tr> <td>6. 学生による報告と討論 ⑤</td> <td>14. 学生による報告と討論 ⑬</td> </tr> <tr> <td>7. 学生による報告と討論 ⑥</td> <td>15. 授業の総括</td> </tr> <tr> <td>8. 学生による報告と討論 ⑦</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論 ⑧	2. 学生による報告と討論 ①	10. 学生による報告と討論 ⑨	3. 学生による報告と討論 ②	11. 学生による報告と討論 ⑩	4. 学生による報告と討論 ③	12. 学生による報告と討論 ⑪	5. 学生による報告と討論 ④	13. 学生による報告と討論 ⑫	6. 学生による報告と討論 ⑤	14. 学生による報告と討論 ⑬	7. 学生による報告と討論 ⑥	15. 授業の総括	8. 学生による報告と討論 ⑦	
1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論 ⑧																				
2. 学生による報告と討論 ①	10. 学生による報告と討論 ⑨																				
3. 学生による報告と討論 ②	11. 学生による報告と討論 ⑩																				
4. 学生による報告と討論 ③	12. 学生による報告と討論 ⑪																				
5. 学生による報告と討論 ④	13. 学生による報告と討論 ⑫																				
6. 学生による報告と討論 ⑤	14. 学生による報告と討論 ⑬																				
7. 学生による報告と討論 ⑥	15. 授業の総括																				
8. 学生による報告と討論 ⑦																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%]・ (○) その他(授業中における発表の内容) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	テキストは開講時に配付する。 参考書は佐藤進一・池内義資編『中世法制史料集』第1巻・鎌倉幕府法(岩波書店)。																				
◇ 授業時間外学習	報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。 報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。																				
その他：古文書学・日本史基礎講読(いずれも柳原担当)を履修していることが望ましい。 日本史演習「鎌倉時代の法と社会(1) (2)」(柳原担当)は連続履修すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	教授 柳原敏昭	6	月	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS306J				
◆ 授業題目	鎌倉時代の法と社会(2) (The Law and Society of the Kamakura Period 2)				
◆ 目的・概要	「鎌倉時代の法と社会(1)」の続講。単なる史料の読み方や基本的な知識を学ぶ場ではなく、問題点を発見し議論する場と位置づけているので、発表者には問題提起的な報告をすることが求められる。また、それ以外の受講生も主体的に議論に参加しなければならない。受講者が任意にテーマを選び報告する機会も設けたい。				
◆ 到達目標	(1)中世史料の読解力を身につける。 (2)鎌倉時代の法と社会について理解を深める。 (3)報告・討論の方法の基礎を身につける。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス 9. 学生による報告と討論 ⑧ 2. 学生による報告と討論 ① 10. 学生による報告と討論 ⑨ 3. 学生による報告と討論 ② 11. 学生による報告と討論 ⑩ 4. 学生による報告と討論 ③ 12. 学生による報告と討論 ⑪ 5. 学生による報告と討論 ④ 13. 学生による報告と討論 ⑫ 6. 学生による報告と討論 ⑤ 14. 学生による報告と討論 ⑬ 7. 学生による報告と討論 ⑥ 15. 授業の総括 8. 学生による報告と討論 ⑦				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] ・ (○) その他 (授業中における発表の内容) [40%]				
◇ 教科書・参考書	テキストは開講時に配付する。 参考書は佐藤進一・池内義資編『中世法制史料集』第1巻・鎌倉幕府法 (岩波書店)。				
◇ 授業時間外学習	報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。 報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。				
その他：古文書学・日本史基礎講読 (いずれも柳原担当) を履修していることが望ましい。 日本史演習「鎌倉時代の法と社会(1) (2)」(柳原担当) は連続履修すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	教授 柳原敏昭	5	月	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS306J				
◆ 授業題目	中世史料演習(1) (Seminar on Medieval Historical Materials 1)				
◆ 目的・概要	伏見宮貞成『看聞日記』は、記主が当時の政権中枢に近く、また所領である山城国伏見庄に居住していたため、朝廷や幕府の動向から、村落内部の様相までを詳細に知ることのできる希有の史料である。この日記を精読することを通じて、記録史料の読解力を錬磨するとともに、室町時代の政治や社会について検討を加える。当然のことながら、授業は受講生による発表と議論が中心となる。受講者には、日本史演習「鎌倉時代の法と社会」より、一層高度な力量が求められる (大学院生レベルを想定)。				
◆ 到達目標	(1)日本中世史に関する高度な史料読解力・研究能力を養う。 (2)報告・討論の方法を身につける。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス 9. 学生による報告と討論 ⑧ 2. 学生による報告と討論 ① 10. 学生による報告と討論 ⑨ 3. 学生による報告と討論 ② 11. 学生による報告と討論 ⑩ 4. 学生による報告と討論 ③ 12. 学生による報告と討論 ⑪ 5. 学生による報告と討論 ④ 13. 学生による報告と討論 ⑫ 研究発表 6. 学生による報告と討論 ⑤ 14. 学生による報告と討論 ⑬ 研究発表 7. 学生による報告と討論 ⑥ 15. 授業の総括 8. 学生による報告と討論 ⑦				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] ・ (○) その他 (授業中における発表の内容) [40%]				
◇ 教科書・参考書	続群書類従・補遺二『看聞御記』上・下 (続群書類従完成会)				
◇ 授業時間外学習	報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。 報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。				
その他：受講者は、原則として卒業論文を日本中世史で執筆する4年生に限る。 日本史演習「中世史料演習」(1) (2)」は連続履修すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	教授 柳原敏昭	6	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS306J																				
◆ 授業題目	中世史料演習(2) (Seminar on Medieval Historical Materials 2)																				
◆ 目的・概要	中世史料演習(1)の続講。受講者が任意にテーマを選び、研究発表を行う機会も設ける。																				
◆ 到達目標	(1)日本中世史に関する高度な史料読解力・研究能力を養う。 (2)報告・討論の方法を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 学生による報告と討論 ⑧</td> </tr> <tr> <td>2. 学生による報告と討論 ①</td> <td>10. 学生による報告と討論 ⑨</td> </tr> <tr> <td>3. 学生による報告と討論 ②</td> <td>11. 学生による報告と討論 ⑩</td> </tr> <tr> <td>4. 学生による報告と討論 ③</td> <td>12. 学生による報告と討論 ⑪ 研究発表</td> </tr> <tr> <td>5. 学生による報告と討論 ④</td> <td>13. 学生による報告と討論 ⑫ 研究発表</td> </tr> <tr> <td>6. 学生による報告と討論 ⑤</td> <td>14. 学生による報告と討論 ⑬ 研究発表</td> </tr> <tr> <td>7. 学生による報告と討論 ⑥</td> <td>15. 授業の総括</td> </tr> <tr> <td>8. 学生による報告と討論 ⑦</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論 ⑧	2. 学生による報告と討論 ①	10. 学生による報告と討論 ⑨	3. 学生による報告と討論 ②	11. 学生による報告と討論 ⑩	4. 学生による報告と討論 ③	12. 学生による報告と討論 ⑪ 研究発表	5. 学生による報告と討論 ④	13. 学生による報告と討論 ⑫ 研究発表	6. 学生による報告と討論 ⑤	14. 学生による報告と討論 ⑬ 研究発表	7. 学生による報告と討論 ⑥	15. 授業の総括	8. 学生による報告と討論 ⑦	
1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論 ⑧																				
2. 学生による報告と討論 ①	10. 学生による報告と討論 ⑨																				
3. 学生による報告と討論 ②	11. 学生による報告と討論 ⑩																				
4. 学生による報告と討論 ③	12. 学生による報告と討論 ⑪ 研究発表																				
5. 学生による報告と討論 ④	13. 学生による報告と討論 ⑫ 研究発表																				
6. 学生による報告と討論 ⑤	14. 学生による報告と討論 ⑬ 研究発表																				
7. 学生による報告と討論 ⑥	15. 授業の総括																				
8. 学生による報告と討論 ⑦																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] ・ (○) その他 (授業中における発表の内容) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	続群書類従・補遺二『看聞御記』上・下 (続群書類従完成会)																				
◇ 授業時間外学習	報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。 報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。																				
その他：受講者は、原則として卒業論文を日本中世史で執筆する4年生に限る。 日本史演習「中世史料演習」(1) (2)は連続履修すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	准教授 籠橋俊光	5	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS306J																				
◆ 授業題目	近世史料研究(1) (Early Modern Document Research (1))																				
◆ 目的・概要	本講義では、近世史料の正確な読解能力を養成する。素材には、伊達騒動に関する記録である「桃遠境論集」を用いる。御家騒動の代表例として名高い伊達騒動に関する史料を読み進めながら、事件そのものはもちろんであるが、近世前期の武家社会、藩主と重臣の関係、藩内政治の実像、武家文書の特徴、仙台藩士の存在形態、村と境界の問題などを考えていく。原文書のコピーを使用するため、相当の古文書読解能力を必要とする。																				
◆ 到達目標	(1)近世史料の基礎的な読解能力を身につける。 (2)自ら問題・関心を発見し、深めるきっかけをつかむ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 史料読解の報告と討論 (6)</td> </tr> <tr> <td>2. 伊達騒動について (1)</td> <td>10. 史料読解の報告と討論 (7)</td> </tr> <tr> <td>3. 伊達騒動について (2)</td> <td>11. 史料読解の報告と討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>4. 史料読解の報告と討論 (1)</td> <td>12. 史料読解の報告と討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>5. 史料読解の報告と討論 (2)</td> <td>13. 史料読解の報告と討論 (10)</td> </tr> <tr> <td>6. 史料読解の報告と討論 (3)</td> <td>14. 史料読解の報告と討論 (11)</td> </tr> <tr> <td>7. 史料読解の報告と討論 (4)</td> <td>15. 史料読解の報告と討論 (12)</td> </tr> <tr> <td>8. 史料読解の報告と討論 (5)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 史料読解の報告と討論 (6)	2. 伊達騒動について (1)	10. 史料読解の報告と討論 (7)	3. 伊達騒動について (2)	11. 史料読解の報告と討論 (8)	4. 史料読解の報告と討論 (1)	12. 史料読解の報告と討論 (8)	5. 史料読解の報告と討論 (2)	13. 史料読解の報告と討論 (10)	6. 史料読解の報告と討論 (3)	14. 史料読解の報告と討論 (11)	7. 史料読解の報告と討論 (4)	15. 史料読解の報告と討論 (12)	8. 史料読解の報告と討論 (5)	
1. ガイダンス	9. 史料読解の報告と討論 (6)																				
2. 伊達騒動について (1)	10. 史料読解の報告と討論 (7)																				
3. 伊達騒動について (2)	11. 史料読解の報告と討論 (8)																				
4. 史料読解の報告と討論 (1)	12. 史料読解の報告と討論 (8)																				
5. 史料読解の報告と討論 (2)	13. 史料読解の報告と討論 (10)																				
6. 史料読解の報告と討論 (3)	14. 史料読解の報告と討論 (11)																				
7. 史料読解の報告と討論 (4)	15. 史料読解の報告と討論 (12)																				
8. 史料読解の報告と討論 (5)																					
◇ 成績評価の方法	出席 [20%] ・ レポート [40%] ・ その他 (報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	「桃遠境論集」(コピー配布) 参考書：大槻文彦『伊達騒動実録』(吉川弘文館)、『仙台市史』通史編4近世2(仙台市)、小林清治『伊達騒動と原田甲斐』(吉川弘文館)。																				
◇ 授業時間外学習	毎回事前の予習を必要とする。																				
その他：必ず「近世史料研究(2)」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	准教授 籠 橋 俊 光	6	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS306J																				
◆ 授業題目	近世史料研究(2) (Early Modern Document Research (2))																				
◆ 目的・概要	「近世史料研究(1)」の続講。近世史料の正確な読解や基礎的な知識を身につけ、その上で自ら論点を探り、深めていく。受講者には、講義への主体的な参加を求める。なお、必ず「近世史料研究(1)」と連続で受講すること。																				
◆ 到達目標	(1)近世史料の基礎的な読解能力を身につける。 (2)自ら問題・関心を発見し、深めるきっかけをつかむ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 史料読解の報告と討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 史料読解の報告と討論 (1)</td> <td>10. 史料読解の報告と討論 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 史料読解の報告と討論 (2)</td> <td>11. 史料読解の報告と討論 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 史料読解の報告と討論 (3)</td> <td>12. 史料読解の報告と討論 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 史料読解の報告と討論 (4)</td> <td>13. 史料読解の報告と討論 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 史料読解の報告と討論 (5)</td> <td>14. 史料読解の報告と討論 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 史料読解の報告と討論 (6)</td> <td>15. 史料読解の報告と討論 (14)</td> </tr> <tr> <td>8. 史料読解の報告と討論 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 史料読解の報告と討論 (8)	2. 史料読解の報告と討論 (1)	10. 史料読解の報告と討論 (9)	3. 史料読解の報告と討論 (2)	11. 史料読解の報告と討論 (10)	4. 史料読解の報告と討論 (3)	12. 史料読解の報告と討論 (11)	5. 史料読解の報告と討論 (4)	13. 史料読解の報告と討論 (12)	6. 史料読解の報告と討論 (5)	14. 史料読解の報告と討論 (13)	7. 史料読解の報告と討論 (6)	15. 史料読解の報告と討論 (14)	8. 史料読解の報告と討論 (7)	
1. ガイダンス	9. 史料読解の報告と討論 (8)																				
2. 史料読解の報告と討論 (1)	10. 史料読解の報告と討論 (9)																				
3. 史料読解の報告と討論 (2)	11. 史料読解の報告と討論 (10)																				
4. 史料読解の報告と討論 (3)	12. 史料読解の報告と討論 (11)																				
5. 史料読解の報告と討論 (4)	13. 史料読解の報告と討論 (12)																				
6. 史料読解の報告と討論 (5)	14. 史料読解の報告と討論 (13)																				
7. 史料読解の報告と討論 (6)	15. 史料読解の報告と討論 (14)																				
8. 史料読解の報告と討論 (7)																					
◇ 成績評価の方法	出席 [20%]・レポート [40%]・その他(報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	「桃遠境論集」(コピー配布) 参考書: 大槻文彦『伊達騒動実録』(吉川弘文館)、『仙台市史』通史編4近世2(仙台市)、小林清治『伊達騒動と原田甲斐』(吉川弘文館)																				
◇ 授業時間外学習	毎回事前の予習を必要とする。																				
その他: 必ず「近世史料研究(1)」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	准教授 籠 橋 俊 光	5	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS306J																				
◆ 授業題目	近世史研究法(1) (Research Methods in Early Modern History (1))																				
◆ 目的・概要	受講者各自が、日本近世史に関して自らの研究テーマに基づいて研究報告をし、それを参加者全員で討議する。研究の実践の場として、受講者自身の論文執筆に資することはもちろんであるが、報告・司会の方法に習熟し、加えて他の受講者の意見や報告を通じて新たな知見を得ることもねらいとする。大学院生レベルの内容であるが、日本近世史で卒業論文の執筆を希望する3年生・4年生は必ず受講すること。加えて、必ず「近世史研究法(1)」と連続で受講すること。																				
◆ 到達目標	(1)日本近世史において、高度な資料読解能力と、自主的な研究能力を培う。 (2)報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 受講者による報告と討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 受講者による報告と討論 (1)</td> <td>10. 受講者による報告と討論 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 受講者による報告と討論 (2)</td> <td>11. 受講者による報告と討論 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 受講者による報告と討論 (3)</td> <td>12. 受講者による報告と討論 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 受講者による報告と討論 (4)</td> <td>13. 受講者による報告と討論 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 受講者による報告と討論 (5)</td> <td>14. 受講者による報告と討論 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 受講者による報告と討論 (6)</td> <td>15. 受講者による報告と討論 (14)</td> </tr> <tr> <td>8. 受講者による報告と討論 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 受講者による報告と討論 (8)	2. 受講者による報告と討論 (1)	10. 受講者による報告と討論 (9)	3. 受講者による報告と討論 (2)	11. 受講者による報告と討論 (10)	4. 受講者による報告と討論 (3)	12. 受講者による報告と討論 (11)	5. 受講者による報告と討論 (4)	13. 受講者による報告と討論 (12)	6. 受講者による報告と討論 (5)	14. 受講者による報告と討論 (13)	7. 受講者による報告と討論 (6)	15. 受講者による報告と討論 (14)	8. 受講者による報告と討論 (7)	
1. ガイダンス	9. 受講者による報告と討論 (8)																				
2. 受講者による報告と討論 (1)	10. 受講者による報告と討論 (9)																				
3. 受講者による報告と討論 (2)	11. 受講者による報告と討論 (10)																				
4. 受講者による報告と討論 (3)	12. 受講者による報告と討論 (11)																				
5. 受講者による報告と討論 (4)	13. 受講者による報告と討論 (12)																				
6. 受講者による報告と討論 (5)	14. 受講者による報告と討論 (13)																				
7. 受講者による報告と討論 (6)	15. 受講者による報告と討論 (14)																				
8. 受講者による報告と討論 (7)																					
◇ 成績評価の方法	出席 [20%]・レポート [40%]・その他(報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	特になし。																				
◇ 授業時間外学習	特になし。																				
その他: 必ず「近世史研究法(2)」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	准教授 籠 橋 俊 光	6	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS306J																				
◆ 授業題目	近世史研究法(2) (Research Methods in Early Modern History (2))																				
◆ 目的・概要	「近世史研究法(1)」の続講。受講者は、自らの報告内容に講義中での議論を踏まえ、論文の執筆を目指していく。受講者には、主体的・積極的な議論への参加を求める。大学院生レベルの内容であるが、日本近世史で卒業論文の執筆を希望する3年生・4年生は必ず受講すること。加えて、必ず「近世史研究法(1)」と連続で受講すること。																				
◆ 到達目標	(1)日本近世史において、高度な資料読解能力と、自主的な研究能力を培う。 (2)報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 受講者による報告・討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 受講者による報告・討論 (1)</td> <td>10. 受講者による報告・討論 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 受講者による報告・討論 (2)</td> <td>11. 受講者による報告・討論 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 受講者による報告・討論 (3)</td> <td>12. 受講者による報告・討論 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 受講者による報告・討論 (4)</td> <td>13. 受講者による報告・討論 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 受講者による報告・討論 (5)</td> <td>14. 受講者による報告・討論 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 受講者による報告・討論 (6)</td> <td>15. 受講者による報告・討論 (14)</td> </tr> <tr> <td>8. 受講者による報告・討論 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 受講者による報告・討論 (8)	2. 受講者による報告・討論 (1)	10. 受講者による報告・討論 (9)	3. 受講者による報告・討論 (2)	11. 受講者による報告・討論 (10)	4. 受講者による報告・討論 (3)	12. 受講者による報告・討論 (11)	5. 受講者による報告・討論 (4)	13. 受講者による報告・討論 (12)	6. 受講者による報告・討論 (5)	14. 受講者による報告・討論 (13)	7. 受講者による報告・討論 (6)	15. 受講者による報告・討論 (14)	8. 受講者による報告・討論 (7)	
1. ガイダンス	9. 受講者による報告・討論 (8)																				
2. 受講者による報告・討論 (1)	10. 受講者による報告・討論 (9)																				
3. 受講者による報告・討論 (2)	11. 受講者による報告・討論 (10)																				
4. 受講者による報告・討論 (3)	12. 受講者による報告・討論 (11)																				
5. 受講者による報告・討論 (4)	13. 受講者による報告・討論 (12)																				
6. 受講者による報告・討論 (5)	14. 受講者による報告・討論 (13)																				
7. 受講者による報告・討論 (6)	15. 受講者による報告・討論 (14)																				
8. 受講者による報告・討論 (7)																					
◇ 成績評価の方法	出席 [20%]・レポート [40%]・その他(報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	特になし。																				
◇ 授業時間外学習	特になし。																				
その他：必ず「近世史研究法(1)」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	教授 安 達 宏 昭	5	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS306J																				
◆ 授業題目	近現代政治・社会史の研究 (A study of the Modern Japanese Political and Social History)																				
◆ 目的・概要	2014年に編修が完了し、2015年3月から公刊されている『昭和天皇実録』などを読解し、関連する史料と照合して、近現代日本の政治・社会について考察する。演習形式で行い、報告者に対する質問や討論により、受講者の各自の認識を深める。																				
◆ 到達目標	(1)史料を幅広い視点から分析できるようになる。 (2)史料分析を通して、時代状況を理解できるようになる。 (3)上記2つを通して日本近現代史に対する認識を深めることができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス・『昭和天皇実録』の概要</td> <td>9. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (7)</td> </tr> <tr> <td>2. 昭和天皇に関する研究書の把握・検討</td> <td>10. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>3. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (1)</td> <td>11. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (9)</td> </tr> <tr> <td>4. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (2)</td> <td>12. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (10)</td> </tr> <tr> <td>5. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (3)</td> <td>13. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (11)</td> </tr> <tr> <td>6. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (4)</td> <td>14. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (12)</td> </tr> <tr> <td>7. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (5)</td> <td>15. これまでの報告と討論のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (6)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス・『昭和天皇実録』の概要	9. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (7)	2. 昭和天皇に関する研究書の把握・検討	10. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (8)	3. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (1)	11. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (9)	4. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (2)	12. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (10)	5. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (3)	13. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (11)	6. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (4)	14. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (12)	7. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (5)	15. これまでの報告と討論のまとめ	8. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (6)	
1. ガイダンス・『昭和天皇実録』の概要	9. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (7)																				
2. 昭和天皇に関する研究書の把握・検討	10. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (8)																				
3. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (1)	11. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (9)																				
4. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (2)	12. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (10)																				
5. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (3)	13. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (11)																				
6. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (4)	14. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (12)																				
7. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (5)	15. これまでの報告と討論のまとめ																				
8. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (6)																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%] (○) その他(発表態度、受講態度) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	『昭和天皇実録 第五』・『昭和天皇実録 第六』・『昭和天皇実録 第七』(東京書籍、2016年3月)																				
◇ 授業時間外学習	『昭和天皇実録』について、毎週、翌週の報告者が担当する箇所の記述を読んできて、その叙述に対する疑問点・問題点を、報告者に質問できるようにする。																				
その他：オフィスアワー：水曜日 16:20~17:50、要予約																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	教授 安達宏昭	5	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS306J																				
◆ 授業題目	近現代史研究法 (Method of Studies on Japanese Modern History)																				
◆ 目的・概要	近現代史における基礎的な研究テーマについて受講者相互に認識を深めるとともに、各自が研究テーマを設定して、その問題関心、視角、実証分析について発表する。それに対する討論を通して、発表者の研究方法について課題を明確にする。																				
◆ 到達目標	(1)先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。 (2)自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。 (3)上記の2つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義</td> <td>9. 受講者の研究報告と討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 受講者の研究報告と討論 (1)</td> <td>10. 受講者の研究報告と討論 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 受講者の研究報告と討論 (2)</td> <td>11. 受講者の研究報告と討論 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 受講者の研究報告と討論 (3)</td> <td>12. 受講者の研究報告と討論 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 受講者の研究報告と討論 (4)</td> <td>13. 受講者の研究報告と討論 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 受講者の研究報告と討論 (5)</td> <td>14. 受講者の研究報告と討論 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 受講者の研究報告と討論 (6)</td> <td>15. 受講者の研究報告と討論 (14)</td> </tr> <tr> <td>8. 受講者の研究報告と討論 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義	9. 受講者の研究報告と討論 (8)	2. 受講者の研究報告と討論 (1)	10. 受講者の研究報告と討論 (9)	3. 受講者の研究報告と討論 (2)	11. 受講者の研究報告と討論 (10)	4. 受講者の研究報告と討論 (3)	12. 受講者の研究報告と討論 (11)	5. 受講者の研究報告と討論 (4)	13. 受講者の研究報告と討論 (12)	6. 受講者の研究報告と討論 (5)	14. 受講者の研究報告と討論 (13)	7. 受講者の研究報告と討論 (6)	15. 受講者の研究報告と討論 (14)	8. 受講者の研究報告と討論 (7)	
1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義	9. 受講者の研究報告と討論 (8)																				
2. 受講者の研究報告と討論 (1)	10. 受講者の研究報告と討論 (9)																				
3. 受講者の研究報告と討論 (2)	11. 受講者の研究報告と討論 (10)																				
4. 受講者の研究報告と討論 (3)	12. 受講者の研究報告と討論 (11)																				
5. 受講者の研究報告と討論 (4)	13. 受講者の研究報告と討論 (12)																				
6. 受講者の研究報告と討論 (5)	14. 受講者の研究報告と討論 (13)																				
7. 受講者の研究報告と討論 (6)	15. 受講者の研究報告と討論 (14)																				
8. 受講者の研究報告と討論 (7)																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%] (○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	特になし。																				
◇ 授業時間外学習	報告者の研究テーマに関する史実などを、事前に学習しておく。																				
その他：オフィスアワー：水曜日 16：20～17：50、要予約																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	非常勤講師 河西晃祐	6	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS306J																				
◆ 授業題目	近現代政治・外交史の研究 (A study of the Modern Japanese Political and Diplomatic History)																				
◆ 目的・概要	満州事変から日中戦争に至る時期の日本近現代史にかかわる多様な一次史料を実際に読解・分析しながら、アクティブラーニングを実践しながら演習形式で議論を深めていく。																				
◆ 到達目標	(1)一次史料を多角的に分析できるようになる。 (2)一次史料が成立した時代背景への理解を深めることができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス：アジア歴史資料センターの使い方</td> <td>9. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (1)</td> <td>10. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (3)</td> </tr> <tr> <td>3. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (2)</td> <td>11. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (4)</td> </tr> <tr> <td>4. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (3)</td> <td>12. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (5)</td> </tr> <tr> <td>5. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (4)</td> <td>13. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (6)</td> </tr> <tr> <td>6. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (5)</td> <td>14. 各自の課題報告 (1)</td> </tr> <tr> <td>7. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (6)</td> <td>15. 各自の課題報告 (2)</td> </tr> <tr> <td>8. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス：アジア歴史資料センターの使い方	9. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (2)	2. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (1)	10. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (3)	3. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (2)	11. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (4)	4. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (3)	12. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (5)	5. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (4)	13. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (6)	6. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (5)	14. 各自の課題報告 (1)	7. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (6)	15. 各自の課題報告 (2)	8. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (1)	
1. ガイダンス：アジア歴史資料センターの使い方	9. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (2)																				
2. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (1)	10. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (3)																				
3. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (2)	11. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (4)																				
4. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (3)	12. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (5)																				
5. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (4)	13. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (6)																				
6. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (5)	14. 各自の課題報告 (1)																				
7. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (6)	15. 各自の課題報告 (2)																				
8. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (1)																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) リポート [50%]・(○) 出席 [20%] (○) その他 (発表態度、受講態度) [30%]																				
◇ 教科書・参考書	加藤陽子『満州事変から日中戦争へ』(岩波書店、2007年)。他は講義中に指示します。																				
◇ 授業時間外学習	『満州事変から日中戦争へ』を通読したうえで、各自で疑問などを書き起こし、併せてアジア歴史資料センターなどで関連する一次史料を探してみる。																				
その他：オフィスアワーなどについては、講義中に指示します。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 実 習 Japanese History (Field Work)	2	准教授 籠 橋 俊 光	5	金	4・5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS307J																				
◆ 授業題目	史料整理・保存の理論と方法 (Document Organization and Preservation: Purpose and Methods)																				
◆ 目的・概要	歴史学は、史料の内容を理解することに大きな比重を置く学問である。しかし、その一方で史料はモノとしての側面も持っている。文字・画像の情報だけではなく、史料そのものを永く保存し、人類共有の文化遺産として後世に伝えなければならない。そのためには史料の特質や史料群の構造を理解し、史料そのものを正しく取り扱い、適切に保存していく理論と方法を学ぶ必要がある。この講義では、史料の保存・活用のための学問であるアーカイブズ学についてその基礎を学ぶ。さらにそれをもとにして、博物館・図書館などの機能の相違や、実物史料の取り扱い方、史料の撮影や目録編成の理論などについて学んでいく。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れることがあるので、特に丁寧な取り扱いを心がけてほしい。																				
◆ 到達目標	史料保存の意義と理論・方法について理解し、史料の調査・整理・保存に関する基礎的知識を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス・史料保存の意義と意味 (1)</td> <td>8. 目録作成の技術 (1)</td> </tr> <tr> <td>2. 史料保存の意義と意味 (2)</td> <td>9. 目録作成の技術 (2)</td> </tr> <tr> <td>3. 文書館・図書館・博物館 - 史料保存機関の性格と特色 -</td> <td>10. 歴史資料の取り扱いとその実践</td> </tr> <tr> <td>4. アーカイブズの理論 (1)</td> <td>11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際</td> </tr> <tr> <td>5. アーカイブズの理論 (2)</td> <td>12. マイクロフィルム・カメラの取り扱い</td> </tr> <tr> <td>6. 史料調査・整理の実際</td> <td>13. フィールド実習</td> </tr> <tr> <td>7. 目録論</td> <td>14. 史料整理の基礎 (1)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 史料整理の基礎 (2)</td> </tr> </table>					1. ガイダンス・史料保存の意義と意味 (1)	8. 目録作成の技術 (1)	2. 史料保存の意義と意味 (2)	9. 目録作成の技術 (2)	3. 文書館・図書館・博物館 - 史料保存機関の性格と特色 -	10. 歴史資料の取り扱いとその実践	4. アーカイブズの理論 (1)	11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際	5. アーカイブズの理論 (2)	12. マイクロフィルム・カメラの取り扱い	6. 史料調査・整理の実際	13. フィールド実習	7. 目録論	14. 史料整理の基礎 (1)		15. 史料整理の基礎 (2)
1. ガイダンス・史料保存の意義と意味 (1)	8. 目録作成の技術 (1)																				
2. 史料保存の意義と意味 (2)	9. 目録作成の技術 (2)																				
3. 文書館・図書館・博物館 - 史料保存機関の性格と特色 -	10. 歴史資料の取り扱いとその実践																				
4. アーカイブズの理論 (1)	11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際																				
5. アーカイブズの理論 (2)	12. マイクロフィルム・カメラの取り扱い																				
6. 史料調査・整理の実際	13. フィールド実習																				
7. 目録論	14. 史料整理の基礎 (1)																				
	15. 史料整理の基礎 (2)																				
◇ 成績評価の方法	出席 [30%]・受講態度 [20%]・レポート [50%]																				
◇ 教科書・参考書	随時プリントを配布する。 参考書：安藤正人・大藤修『史料保存と文書館学』（吉川弘文館）。																				
◇ 授業時間外学習	特になし。																				
その他：必ず「史料整理実習」と連続して受講すること。オフィスアワー 火曜日 16：20～17：50（要予約）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 実 習 Japanese History (Field Work)	2	准教授 籠 橋 俊 光	6	金	4・5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS307J																				
◆ 授業題目	史料整理実習 (Practicum in Document Organization)																				
◆ 目的・概要	実際に史料整理を行う。大規模な文書群を対象として取り上げ、史料の取り扱い、現状の把握、基本データの採録、目録作成、保存に向けての作業など、史料整理に関する基本的な実務を実際に行う。さらに、自ら整理した史料について、その個別の内容の理解だけではなく、文書群のなかにおける位置づけや文書群そのものの構造など、幅広く文書群を把握する方法を学ぶ。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れるので、その際には特に丁寧な取り扱いを心がけてほしい。																				
◆ 到達目標	実際に実物の史料を整理し、「史料整理・保存の理論と方法」において学習した史料整理の理論と方法を体得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 史料整理実習 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 史料整理実習 (1)</td> <td>10. 史料整理実習 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 史料整理実習 (2)</td> <td>11. 史料整理実習 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 史料整理実習 (3)</td> <td>12. 史料整理実習 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 史料整理実習 (4)</td> <td>13. 史料整理実習 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 史料整理実習 (5)</td> <td>14. 史料整理実習 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 史料整理実習 (6)</td> <td>15. 史料整理実習 (14)・整理内容報告</td> </tr> <tr> <td>8. 史料整理実習 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 史料整理実習 (8)	2. 史料整理実習 (1)	10. 史料整理実習 (9)	3. 史料整理実習 (2)	11. 史料整理実習 (10)	4. 史料整理実習 (3)	12. 史料整理実習 (11)	5. 史料整理実習 (4)	13. 史料整理実習 (12)	6. 史料整理実習 (5)	14. 史料整理実習 (13)	7. 史料整理実習 (6)	15. 史料整理実習 (14)・整理内容報告	8. 史料整理実習 (7)	
1. ガイダンス	9. 史料整理実習 (8)																				
2. 史料整理実習 (1)	10. 史料整理実習 (9)																				
3. 史料整理実習 (2)	11. 史料整理実習 (10)																				
4. 史料整理実習 (3)	12. 史料整理実習 (11)																				
5. 史料整理実習 (4)	13. 史料整理実習 (12)																				
6. 史料整理実習 (5)	14. 史料整理実習 (13)																				
7. 史料整理実習 (6)	15. 史料整理実習 (14)・整理内容報告																				
8. 史料整理実習 (7)																					
◇ 成績評価の方法	出席 [50%]・受講態度 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	各自古文書読解用辞典類を持参すること。																				
◇ 授業時間外学習	特になし。																				
その他：必ず「史料整理・保存の理論と方法」と連続して受講すること。オフィスアワー 火曜日 16：20～17：50（要予約）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
考 古 学 概 論 Archaeology (General Lecture)	2	教授 阿子島 香	3	月	5
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHM-HIS202J 先史考古学概説 (General Lecture of Prehistoric Archaeology) 先史考古学の歴史と特質、その資料としての遺跡・遺構・遺物の内容について、基礎的な事項を中心に学ぶ。主として石器時代の研究を対象とし、人類の文化進化について解説する。海外を含めて実際の調査、分析の事例を取り上げ、多数のスライドで紹介し、考古学の現在の状況についての理解を深める。考古学遺跡の研究・出土遺物の観察について、各自の関心に従って、実際に自分で遺跡を訪ねるレポートを課します。その内容は授業で詳しく説明します。				
◆ 到達目標	(1)先史時代の考古学研究の方法と歴史を理解できるようになる。 (2)考古学の資料の特質を理解できるようになる。 (3)猿人から新人までの人類文化の発展を理解できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス。授業の進行と評価基準についての説明。先史考古学の特質について。考古学研究史と文献の紹介 (1)。 埋蔵文化財の保護。考古学研究史と文献の紹介 (2)。 地域における遺跡の分布と発掘調査の方法。遺跡発掘調査報告書の理解。 層位学的方法と、編年研究の歴史。 猿人と原人の人類史、石器文化と生活様式。 氷河時代の環境変動と人類。 旧人から新人へ。ネアンデルタール人の文化。 期末レポートの説明と、注意点についての解説。受講者それぞれが選択した遺跡を、実際に自分で探訪してその成果をまとめる。文献のみではレポートを作成できない。 技術論。石器の製作技術と石材。 型式学。石器における器種と型式。 機能論。石器の使用痕の分析。 生業経済と遺跡。フランス、マドレーヌ文化の狩猟民。 精神生活の復元。クロマニヨン人の洞穴壁画。 考古学方法論の展望、および試験 (1回目)。 レポートの確認事項補足解説。 埋蔵文化財の展望、および試験 (2回目)。 レポート提出。 				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	(○) 筆記試験 [30%]・(○) レポート [30%]・(○) 出席 [40%] 参考文献について、随時教室で指示。資料プリントを多数配布する。その多くは、英語である。 各回の配布資料を、よく理解するために補足学習を行なう。資料の内容を復習する。英文の場合は予習する。レポートについては、各自が日時を調整して、実際に遺跡・史跡、資料館などを自分自身の計画で探訪をすることが必要。				
その他：毎回の出席を重視するが、出席カードには質問や感想などを記入してもらうことで、次回以降の授業内容にフィードバックを行なう。欠席の場合は、埋め合わせのミニレポートを提出する。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
考 古 学 概 論 Archaeology (General Lecture)	2	准教授 鹿 又 喜 隆	4	月	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHM-HIS202J 日本考古学概説 (Jeneral Lecture of Japanese Archaeology) 考古学は、歴史学の一分野です。特に先史時代研究において考古学は大きな役割を果たしています。本講義では、考古学によって明らかにされた歴史像を通史的に概観します。さらに、研究史を引用しながら、基礎的な知識と考古学的研究方法の発展についても紹介します。近年の多角的な研究分野との連携によって復元されていく人類史は、広い学際的な研究領域での成果へと繋がっています。また、発掘調査から得られる情報は、非常に多様であり、現在の人類が抱える問題に対しても解答を与えてくれる可能性を秘めています。講義では、パワーポイントを用いて解説します。多くの写真や図表を用いて、理解を促す計画です。				
◆ 到達目標	(1)日本考古学を歴史学的通史の一部として理解する。 (2)考古学の研究方法を多角的視点から学ぶ。 (3)人類学、歴史学、自然科学分野などとの連携によって復元されていく、今日的な考古学研究の実態について理解を深める。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 本講義のガイダンスと全講義の説明。 人類の起源。他地域進化説とアフリカ起源説。 アジアの初期人類の文化。 ホモサピエンスの誕生と拡散。 日本列島の人類の出現と後期旧石器時代の開始。 日本列島の後期旧石器時代の多様性 ① 日本列島の後期旧石器時代の多様性 ② 日本列島の後期旧石器時代の多様性 ③ 旧石器時代から縄文時代へ ① 旧石器時代から縄文時代へ ② 縄文時代前半の文化 縄文時代後半の文化 弥生時代の考古学 弥生時代研究の現状 続縄文文化と古墳文化の始まり 				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	(○) 筆記試験 [70%]・(○) 出席 [30%] プリントを配布する。 講義内で課した課題・質問に関して各自調べること。				
その他：オフィスアワー：金曜日 13：30～14：30					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
考 古 学 基 礎 講 読 Archaeology (Introductory Reading)	2	准教授 鹿 又 喜 隆	4	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS207J				
◆ 授業題目	考古学資料読解 (Introductory Reading of Archaeological Articles and Reports)				
◆ 目的・概要	考古学の英文論文を読解し、グローバルな考古学研究の視点を養う。考古学の専門知識を要するだけでなく、各国の歴史と地理、環境変化に基づいて理解する必要がある。さらに、各国の考古学研究の歴史も独特であるため、それぞれの学問的背景を理解することが重要となる。また、日本では、開発等に伴う緊急発掘が多く行われており、各自治体が発掘調査報告書を刊行している。この報告書は、考古学的な専門知識だけでなく、日本独自の文化財行政の体制と構造のもとで作られている。これらの報告書の見方や読み方を具体的に解説することを通して、各自が報告書を読み込めるようになることが期待される。最終的に、報告書に基づいて遺跡内の様相を理解できるようになることが望まれる。				
◆ 到達目標	(1)考古学の学術文献を読解するために必要な、基礎的な用語や概念、研究方法を理解できるようになる。 (2)考古学の対象である各時代の文化内容について、基本的に理解できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解説と英文論文の配布。英文論文の解説。 2. 英文論文の講読 ① 3. 英文論文の講読 ② 4. 英文論文の講読 ③ 5. 英文論文の講読 ④ 6. 英文論文の講読 ⑤ 7. 英文論文の講読 ⑥ 8. 英文論文の講読 ⑦ 9. 英文論文の講読 ⑧ 10. 英文論文の講読 ⑨ 11. 英文論文の講読 ⑩ 12. 日本の発掘調査報告書の解説 ① 13. 日本の発掘調査報告書の解説 ② 14. 日本の発掘調査報告書の解説 ③ 15. 日本の発掘調査報告書の解説 ④ 				
◇ 成績評価の方法	(○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%]・(○) その他 (具体的には、毎時間の報告) [40%]				
◇ 教科書・参考書	英文プリントを教室で配布します。 また、リポートの対象とする遺跡発掘調査報告書は、附属図書館書庫で各自が選択。				
◇ 授業時間外学習	英文論文の和訳。発掘調査報告書の読み込み。講義時間内に次週の講読範囲を知らせる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
考 古 学 基 礎 実 習 Archaeology (Introductory Field Work)	2	准教授 鹿 又 喜 隆	3	金	1・2
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS208J				
◆ 授業題目	考古学資料の観察と記録 (Introductory Field Work of Archaeological Materials)				
◆ 目的・概要	考古学研究のなかで、出土した遺物を正確に資料化していく作業は、きわめて重要です。今後の研究の基礎として、そのための基本的な方法、技術、および各種遺物の観察の仕方を学びます。土器・石器などの実測図作製の実習を通して、実証的な研究態度を身につけ、資料に対する観察眼を養い、客観的な資料提示の方法を学びます。実習資料は、実際の出土品を扱います。特に出席と毎時間の受講態度を重視します。毎回かなりの課題 (実習整理室での宿題) がありますので、受講者全員に積極的な取り組みを期待します。各回の実習は次の予定です。				
◆ 到達目標	(1)考古学における出土遺物の資料化の意義を理解できるようになる。 (2)特に実測図作成の基本を学び、各種遺物の実測図を作成できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 考古学における資料化 2. 剥片の実測図作成 3. ツールの実測図作成 4. 石核の実測図作成 ① 5. 石核の実測図作成 ② 6. 石核の実測図作成 ③ 7. 磨製石器の実測図作成 ① 8. 磨製石器の実測図作成 ② 9. 縄文土器の実測図作成 ① 10. 縄文土器の実測図作成 ② 11. 縄文土器の実測図作成 ③ 12. 縄文土器の実測図作成 ④ 13. 土師器・須恵器の実測図作成 ① 14. 土師器・須恵器の実測図作成 ② 15. 拓本の作成と断面実測 				
◇ 成績評価の方法	(○) 出席 [30%]・(○) その他 (具体的には、提出課題と受講態度) [70%]				
◇ 教科書・参考書	実測図作成に必要な用具の購入について、別途指示します。				
◇ 授業時間外学習	課題が講義時間内に終わらない場合には宿題になります。				
その他：課題の完成にあたっては、随時、教員に確認をもらうこと。					

授業科目	単位	担当教員	開講 セメスター	曜日	講時
資料基礎論各論 Scientific Study of Historical Materials (Special Lecture)	2	教授 阿子島 香	6	月	3
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 科目ナンバリング LHM-HIS302J ◆ 授業題目 先史考古学資料論 (Research Method of Prehistoric Archaeology) ◆ 目的・概要 先史時代の考古学資料研究の現状と課題について、発掘調査資料の基礎的な特質に応じた実証的な研究方法の理解を深める授業である。西ヨーロッパ (特にフランス南部)、北米 (特にアメリカのグレートプレーンズ地域)、東アジア (特に韓半島、ロシアサハリン) など、世界各地の遺跡を比較文化的視点で考察する。旧石器時代を中心とする事例研究の中から、問題点を選択して詳説する。年代論、機能論、分布論の持つ意義を考察する。また理論的には、人類学の一分野であるアメリカの「プロセス考古学」学派による研究史、遺跡・遺物の分析法を学ぶ。受講者の関心をフィードバックしながら、タイポロジー (型式学)、遺物の使用痕分析、遺物の空間分布、石器製作技術、統計的方法などから取り上げ、具体的な分析方法を解説する。期末レポートにおいては、受講者は日本国内の発掘調査報告書を各自の関心に従って選択し、先史時代遺跡から発掘された資料の事実記録に基づいて、各自がデータの分析を試みる。 ◆ 到達目標 先史時代の遺跡・遺構・遺物の特質を、資料にそくして理解できるようにする。 ◆ 授業内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス。授業の構成と成績評価基準の説明。「キュレレーター養成コース」の授業としての説明。アメリカ考古学の特質 (1)。 2. アメリカ考古学の特質 (2)。「人類学としての考古学」パラダイムと、日本の埋蔵文化財の考古学との比較。 3. アメリカ考古学の歴史 (1)。1960年代のニューアーケオロジーと、その研究事例、社会的背景。ムスチエ文化論争の意義。 4. アメリカ考古学の歴史 (2)。1970年代の「プロセス考古学」と、民族考古学の「ミドルレンジセオリー」の本質をめぐって。 5. ルイス・ビンフォードの考古学とミドルレンジセオリーの実践 (1)。 6. ルイス・ビンフォードの考古学とミドルレンジセオリーの実践 (2)。 7. 各国考古学の研究伝統と学史の特質。日本考古学、アジアの考古学、ヨーロッパの考古学の研究事例から (1)。 8. 各国考古学の研究伝統と学史の特質。日本考古学、アジアの考古学、ヨーロッパの考古学の研究事例から (2)。 9. 各国考古学の研究伝統と学史の特質。日本考古学、アジアの考古学、ヨーロッパの考古学の研究事例から (3)。 10. 課題レポートの解説 (1)。対象とする遺跡の選択と調査報告書の特質。埋蔵文化財保護と考古学研究との関係をめぐって。 11. 課題レポートの解説 (2)。発掘調査報告書における事実記載と解釈、考察の判断基準の問題をめぐって。 12. 先史考古学方法論の諸問題 (1)。型式学と人間集団論および年代学。 13. 先史考古学方法論の諸問題 (2)。機能論と使用痕分析法。 14. 先史考古学方法論の諸問題 (3)。遺跡内での遺物分布。人間活動の復元。 15. 先史考古学の国際的展望。レポート提出。 ◇ 成績評価の方法 (○) レポート [60%]・(○) 出席 [40%] ◇ 教科書・参考書 参考文献について、随時教室で指示。毎回、資料としてプリントを配布する (英語および日本語)。 ◇ 授業時間外学習 各回の講義のトピックに関して、各自で参考文献を学習し、理解を深める。配布プリントの内容に関連した事項について、文献読解を行なう。レポートの対象とする「発掘調査報告書」は、各自の関心に応じて附属図書館の地下書庫で、配架されている埋蔵文化財報告書を探求し、レポート課題として選択する。 					
<p>その他：セメスター期間中を通じて、考古学や埋蔵文化財関連の行事、研究会・学会、説明会等を、そのつど紹介・解説するので、受講者は積極的に参加し、この授業と関連するテーマについての理解を深めていくことが望ましい。考古学専攻分野の活動等との関連で、授業内容に若干のスケジュール調整あり。</p>					

授業科目	単位	担当教員	開講 セメスター	曜日	講時
考古学各論 Archaeology (Special Lecture)	2	准教授 鹿又喜隆	5	月	2
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 科目ナンバリング LHM-HIS303J ◆ 授業題目 日本考古学の諸問題 (Special Lecture of Japanese Archaeology) ◆ 目的・概要 日本考古学の諸問題日本考古学は、海外とは異なる独自の発展を遂げています。その特質を研究史を通して学ぶことは重要であり、考古学研究を行なう基礎となります。この日本考古学の特徴を理解した上で、現代考古学の課題や問題点を明らかにし、その解決方法を具体的な事例研究を通して理解していきます。先史時代を主要な対象時期として、自然環境や社会環境の変化と、人類行動の変化の関係を把握し、自然・文化・社会の関わりについて理解を深めます。また、遺物や遺構からかつての人類活動に接近するには幾つかのプロセスを経る必要がありますが、その考古学的方法を理解することは重要です。この点について発掘調査による重要な発見や、研究対象に応じた調査・分析方法の事例を通じて解説します。近年は関連諸分野の方法を導入することで、新たな考古学的方法が開発されています。このような研究動向を理解することが、これから考古学を研究する者にとって重要なことです。 ◆ 到達目標 (1)考古学研究の歴史を理解する。(2)現在の考古学研究の方法を理解する。(3)考古学関連分野の理解を深め、考古学研究の方法を前進させる方法を学ぶ。(4)人類が自然・社会・文化とのかかわりの中で生きてきて、それが現代社会に繋がっていることを理解する。 ◆ 授業内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> 1. 考古学特論Ⅰの1年間の講義内容をダイジェストで紹介する。講義内容の目次の役割を果たし、講義の全体像を把握できる。 2. 考古学的解釈のための理論と方法。範囲論、技術組織、動作連鎖、ミドルレンジセオリー、アフォーダンス、フューリストリック・アプローチなど、考古学の基礎的・応用的概念を学ぶ。 3. 災害と人々の営み。考古学では、人類の長い歴史を扱うため、防災の面でも長期的な視点をもつことが可能である。発掘調査事例に基づく災害の歴史を紹介するとともに、なぜ文化財を保存する必要があるかについて考える。 4. 研究倫理。2000年に発覚した前期旧石器時代遺跡捏造問題を紹介し、研究倫理について考える。様々な側面から研究方法や成果の発信の方法について現実的に理解する。 5. 比較文化研究。比較文化研究には幾つかの方法がある。隣接地域を同時に比較する場合が多いが、遠く離れた地域間の比較であっても、意義ある研究となる。具体的な比較文化研究を紹介する。 6. 抽象的観念の研究。考古学では実証性が求められるため、抽象的観念の研究が難しい。本講義では、縄文時代の祭祀・彩色・性差などを踏まえて、抽象的観念に関わる研究を紹介する。 7. 自然環境の変化と人々の営み。人々は自然環境との関わりの中で生きてきた歴史がある。本講義では、人と自然環境の変化を通時的に概観する。 8. 更新世の環境と人類の適応的行動。更新世の長い時間の中で、人類は様々な技術を開発し、生き延びてきた。具体的な事例をあげて、その関係を紹介する。 9. 石刃技法の諸問題。ホモサピエンスの出現と合せて重視される石刃技法について、国内外の様々な研究事例をもとに紹介すると共に、研究の問題点をあげる。 10. 狩猟活動の変革。狩猟具の変化は、人類の技術革新の代表例である。その研究の現状を国内外の研究を紹介しながら、理解する。 11. 民族考古学研究の基礎と応用。民族考古学的方法の研究の歴史と問題点を取り上げ、日本の後期旧石器時代の事例をもとに、より積極的な実践事例を紹介する。 12. 更新世から完新世への移行と人類の適応的行動。以下の4回で完新世適応について学ぶ。ここでは、急激な温暖化があった時代の様相を具体的な事例を通して紹介する。 13. 完新世への移行と生業。縄文時代の前半期を中心に、完新世の環境に応じた人類活動の変化について概観する。 14. 温暖化最盛期のその後。縄文時代の中盤から終末にかけての集落、生業、祭祀の変化を概観する。 15. 農耕集落の形成と展開。日本列島の農耕の開始について、世界史的な視点から評価する。弥生文化と世界の農耕文化を比較する。 ◇ 成績評価の方法 (○) 筆記試験 [70%]・(○) 出席 [30%] ◇ 教科書・参考書 教科書は使用しない。参考文献を講義中に随時提示する。 ◇ 授業時間外学習 講義内で試験課題に対応した設問をおこなうので、時間外に文献などで調べる。 					
<p>その他：オフィスアワー：水曜日 16：20～17：00</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
考 古 学 各 論 Archaeology (Special Lecture)	2	教授 藤 澤 敦	5	火	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS303J				
◆ 授業題目	東北大学収蔵の考古学資料 (Archaeology collection of Tohoku University and history of the research)				
◆ 目的・概要	東北大学には研究の基礎となり成果となった、膨大な資料標本や研究機器類がある。その中には、文学研究科の考古学資料が約20万件あり、一部は考古学陳列館に収蔵・展示されている。これらの資料は、喜田貞吉による収集資料、伊東信雄による東北地方を中心とする各地の発掘調査資料、芹沢長介による旧石器時代遺跡の調査資料や近世陶磁器資料などからなっている。 本講義では、これらの資料について解説し、これら資料に基づいて構築された学説の意義について紹介するとともに、その研究史的意義と今日的意義について検討する。本年度は、伊東信雄の調査による資料と、それに基づく研究について取り上げる。特に、伊東が東北地方の弥生時代以降の歴史をどのように認識してきたのか、その調査研究の過程と関連づけて検討したい。そこから、伊東が考古学研究において文化と人間集団をどのように認識してきたのかを検討する。				
◆ 到達目標	(1)東北大学が収蔵する考古学資料について理解する。 (2)東北大学の考古学資料の研究史的意義、現在の意義を理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要と進め方の説明および導入 2. 東北大学での考古学研究の歩みと考古学陳列館の概要 3. 考古学陳列館の見学と収蔵資料の解説 (1) 4. 考古学陳列館の見学と収蔵資料の解説 (2) 5. 伊東信雄の経歴と主な研究 6. 伊東信雄の弥生時代研究 7. 伊東信雄の古墳時代研究 8. 伊東信雄の古代研究 (1) 9. 伊東信雄の古代研究 (2) 10. 伊東信雄と蝦夷研究 11. 伊東信雄の戦前の研究と戦後の研究を貫くもの 12. 伊東信雄と戦後歴史学 13. 伊東信雄の研究における文化と人間集団 (1) 14. 伊東信雄の研究における文化と人間集団 (2) 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート (60%)・出席 (40%)				
◇ 教科書・参考書	教室にて資料を配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。				
◇ 授業時間外学習	前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
考 古 学 各 論 Archaeology (Special Lecture)	2	教授 藤 澤 敦	6	火	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS303J				
◆ 授業題目	日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究 (Japanese Cultural Properties Protection Law system and the characteristic of the archaeological study)				
◆ 目的・概要	日本では、発掘調査の圧倒的多数が、開発に伴う調査であることが特徴である。このような調査は、文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政の一環として、行政機関によって実施されている。このことは日本における考古学研究に大きな影響を与えている。本講義では、文化財保護法や関連する諸規定と、それに基づく埋蔵文化財保護行政の実態について解説する。あわせて、開発に伴う発掘調査によってもたらされた資料の急激な増加や、社会的関心の高まりと調査成果の活用などの現状についても検討する。そのうえで、このような中で進展してきた日本の考古学研究が構造的に有している特質について考察する。				
◆ 到達目標	(1)日本の埋蔵文化財保護行政の枠組みと実務について理解する。 (2)開発に伴う発掘調査と考古学研究の関係について理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要と進め方の解説および導入 2. 日本の考古学をめぐる状況 3. 文化財保護法の基本理念と構成および教育委員会制度 4. 文化財保護法での埋蔵文化財関係条文と行政手続き 5. 開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査 6. 国指定史跡制度と関連する保護制度 7. 国史跡の保存管理と整備活用 8. 国史跡仙台城跡の保存管理と整備活用の実地見学 9. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究の特徴 (1) - 事前調査で開発された調査方法 10. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究の特徴 (2) - 大規模データの集積と利用 11. 開発に伴う事前調査の成果が変えた歴史認識(1) 12. 開発に伴う事前調査の成果が変えた歴史認識(2) 13. 開発に伴う事前調査の成果が変えた歴史認識(3) 14. 開発に伴う事前調査の成果が変えた歴史認識(4) 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート (60%)・出席 (40%)				
◇ 教科書・参考書	教室にて資料を配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。				
◇ 授業時間外学習	前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
考 古 学 各 論 Archaeology (Special Lecture)	2	非常勤 講師 小 林 正 史	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHM-HIS303J 土器の機能研究 (Functional Study of Pottery) この講義の副題は「使い勝手との関連からみた土器作り技術の研究」である。これまでの土器研究では、土器作り技術の特徴を「集団の癖」ととらえ、それらの特徴の類似と差異を時期間・地域間で詳細に観察することにより、集団間の交流密度 (人・モノ・情報の移動程度) を復元することを主目的としてきた。この研究方法の課題として、「情報の受け手側の選択」がブラックボックスとなっていることがあげられる。そこで、この講義では、「使い勝手 (機能性・耐久性) と製作の手間とのバランス」という視点にたつて、「一定の選択肢の中から特定の技術が選択された機能的理由」を検討する。				
◆ 到達目標	①日本の土器研究の特徴を理解できるようになる。 ②機能研究の必要性を理解できるようになる。 ③特定の技術の選択は、社会的 (人・モノ・情報の伝播)、生態学的 (使い勝手と製作の手間とのバランス)、心理的 (あこがれ意識とライバル意識) などの諸側面が総合的に考慮された結果であること を理解できるようになる。言い換えれば、新技術の受け手側の選択のプロセスを理解する。 ④土器研究は未開拓部分が非常に大きいことを理解できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 土器機能研究の研究史 土器の形・作りと機能の結びつき 炊飯民族誌の比較分析：南アジア 炊飯民族誌の比較分析：東南アジア島部 炊飯民族誌の比較分析：東南アジア大陸部 米作りの始まりに伴う調理方法の変化 和食の成立過程：弥生時代の炊飯方法 和食の成立過程： 古墳時代前期における炊飯の、茹で時間短縮化 和食の成立過程： 5世紀後半から古代の、米蒸し調理 和食の成立過程：和食の成立過程 素地作りと紐積み方法 叩き技法 野焼き方法の復元 土器文様の分析 土器の形・作りと製作技術の関連 				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	レポート (50%)、授業中の課題ワーク (数回) (30%)、授業中のディスカッションへの参加態度 (20%) 各授業において、指定された筆者論文のPDFをWEBから各自がコピーする。 事前に指定論文を読んでおくことが要求される。(WEBから各自が取得)。 課題ワークを翌日に提出することを要求される場合がある。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
考 古 学 各 論 Archaeology (Special Lecture)	2	特任 准教授 菅 野 智 則	6	木	4
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHM-HIS303J 先史文化の考古学 (Archeology of the prehistory culture) 本授業では、日本列島の先史時代である所謂「縄文時代」における先史文化 (縄文文化) を理解することを目的とします。この縄文文化に関する考古学研究は、これまで土器や石器等の遺物が主要な対象となり、研究が進められてきました。しかし、縄文文化を理解するためには多種多様な側面から研究する必要があります。例えば、動植物遺存体の研究からは食生活や周囲の環境、竪穴住居跡や墓などの諸施設の研究からは居住形態や社会構造などの縄文文化の一端を明らかにすることができます。そのほかには、考古学に限らず自然環境に関する研究などの他分野の様々な研究も縄文文化を理解する上では重要です。本授業では、このような縄文文化に関する多種多様な研究の歴史とその方法を学び、これまでの研究により構築されてきた縄文文化観を理解することを当初の目的とします。また、縄文文化は、これまで環太平洋の枠組みのもと、北米大陸北西海岸部における先史時代狩猟採集民文化との比較研究がなされてきました。本授業でも北米北西海岸部における先史文化に関する研究を解説し、縄文文化の相対的な位置を理解し、比較文化的視点を学ぶことを最終的な目的とします。				
◆ 到達目標	(1)縄文文化に関するこれまでの研究の歴史を理解する。 (2)縄文文化研究における多種多様な視点や研究方法を理解する。 (3)縄文文化にかぎらず広く先史文化一般を理解するための基礎を学ぶ。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 本授業の1年間の講義内容を概観することにより、授業の目的と到達目標について理解する。 第2次世界大戦前後における縄文文化研究について解説する。戦前の研究は、皇国史観などの時代的背景が強く影響していた。そのような状況下で考古学者はどのように研究を進めてきたのか、そして戦後どのように変わったのかを理解する。 戦後から近年までの縄文文化研究について解説する。1980年代から様々な考古学的新発見があり、日本列島における「縄文時代」観が変化してきた。その新発見に基づく研究の内容について紹介し、その成果や問題点等について理解する。 最新の縄文文化研究について解説する。最近は研究の視点や方法もより多様化し、新資料の発見というだけでなく、考古学における新たな展開が認められている。この点について、最近の研究事例を紹介し解説する。 「縄文時代」という枠組みについて解説する。「縄文時代」という時代設定・概念が果たして適切なものか、これまでの研究の歴史を振り返り、これまでの講義のまとめとして説明する。 縄文文化の研究手法。基本的な研究方法に関して解説する。最も基礎的なものは縄文土器の型式学的方法がある。これは「縄文時代」の時期をはかるための物差し (編年) として機能している。このような研究のほか、層位学的方法等の考古学の基礎的な研究方法について概観する。 成立期の縄文文化の年代と地域性。東北地方の縄文土器 (草創期～前期) に関する研究について解説する。この時期は、縄文文化が成立する時期の土器であり、その内容も多様である。このような時期の土器に関して、編年研究だけでなく、技術的あり方や地域性などについても説明する。 展開・転換期の縄文文化の年代と地域性。東北地方の縄文土器 (中期～晩期) に関する研究について解説する。この時期は、縄文文化の展開期とも言える時期にあたり、特徴的な土器も誕生している。この時期の土器に関して、その特徴や地域性について説明する。 成立期の縄文文化の居住形態。縄文文化 (草創期・早期) における生業と居住の形態に関する研究について解説する。この時期は、定住的な縄文集落が形成されるまでの時期である。その中で、居住・生業関連施設や、初めて出現する貝塚、それらに関連する遺物の研究に関して説明する。 展開期の縄文文化の居住形態。縄文文化 (前期・中期) における生業と居住の形態に関する研究について解説する。この時期は、典型的な縄文集落が形成され、活発に活動がなされる時期である。その中で、居住・生業関連施設や、それらに関連する遺物の研究に関して説明する。 転換期の縄文文化の居住形態。縄文文化 (後期・晩期) における生業と居住の形態に関する研究について解説する。この時期は、これまでの縄文文化が大きく変質し、弥生時代に向かって変質する時期である。その中で、居住・生業関連施設や、それらに関連する遺物の研究に関して説明する。 縄文文化と北米大陸北西海岸部先史文化との比較に関して説明する。これまでになされてきた両文化の比較研究の歴史を振り返るとともに、北米大陸北西海岸部の先史文化の研究について概説する。 縄文文化と北米北西海岸部先史文化における生業活動の差異について、北米北西海岸部における貝塚の調査事例と日本の事例と比較しながら説明する。 縄文文化と北米北西海岸部先史文化における生業活動について、北米北西海岸部における低湿地遺跡の調査事例と日本の事例と比較しながら説明する。 縄文文化と北米先史文化との比較検討。これまでの講義のまとめとして、両文化の比較を行い、今後の研究の方向性について解説する。 				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	(○) レポート [60%]・(●) 出席 [40%] 教科書は使用しない。参考書は講義中に随時提示する。 講義内でレポート内容に応じた問題を設定するので、時間外に講義内に提示した参考書などで調べること。				
その他：	オフィスアワー：水曜日 16：15～17：15 (片平キャンパス・埋蔵文化財調査室)				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
考 古 学 講 読 A r c h a e o l o g y (R e a d i n g)	2	教授 阿子島 香	5	金	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS308J				
◆ 授業題目	先史文化研究 (Studies in Prehistoric Culture)				
◆ 目的・概要	考古学では近年、それぞれの地域、各時代における地域研究が深まり、国際的な比較研究は一層重要になってきている。この授業では、そのための基礎として、先史考古学、民族考古学の研究文献を正確に読解する力を養うことをめざす。単にテキストの英文を日本語に置き換えるのではなく、論じられている内容を、考古学の脈絡で理解することを目指し、資料分析の具体的方法について理解を深める。記載されている各分野の遺跡・遺物について、各受講者は、資料にそくした題材を自ら予習して調べ、総合的に学ぶ。また、アメリカの学術雑誌の実際の論文を通じて、海外の最新の動向の一端に触れながら、先史学の研究法を学ぶ。毎回、十分な予習が必要である。課題に関係する用語について、レポートを作成して、授業時間の中で報告し、受講者相互に理解を深める。また、テキスト読解の報告担当は、その場で当てる。出席と報告を重視する。英語で書かれた先史考古学・民族考古学の学術文献を、基本的に正確に読解できるようになる。				
◆ 到達目標					
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス。成績評価基準の説明。授業のねらいの解説。最初のテキストの配布と説明。学史的な位置づけ。 専門文献の読解 (1)。英文和訳と内容理解との区別について。効果的な予習の方法。 専門文献の読解 (2)。「査読付き専門誌」と一般読者向け書籍・雑誌との本質的な区別について。 専門文献の読解 (3)。テクニカルタームということの意義について。 専門文献の読解 (4)。旧石器遺跡の発掘調査への参加者はそれにあてて (スケジュールの前後あり)。 専門文献の読解 (5)。各自の読解力の養成と専門知識の理解 (1)。 専門文献の読解 (6)。各自の読解力の養成と専門知識の理解 (2)。 				
◆ 授業で発表するレポート (用語解説と学史探求) 課題の出題と、各国の研究	<ol style="list-style-type: none"> 9. 専門文献の読解 (7)。各自の読解力の養成と専門知識の理解 (3)。 10. 専門文献の読解 (8)。各自の読解力の養成と専門知識の理解 (4)。 11. 専門文献の読解 (9)。各自の読解力の養成と専門知識の理解 (5)。 12. 先史考古学の用語と学史についてのレポートの発表 (1)。 13. 先史考古学の用語と学史についてのレポートの発表 (2)。 14. 専門文献の読解 (10)。各自の読解力の養成と専門知識の理解 (6)。 15. 専門文献の読解についての自己評価と、今後の展望、取り組んでいきたい分野 (アメリカを中心に) と時代 (旧石器時代から歴史時代まで) との認識。 				
◇ 成績評価の方法	(○) リポート [20%]・(○) 出席 [30%] (○) その他 (具体的には、毎時間の報告) [50%]				
◇ 教科書・参考書	アメリカ考古学の英文プリントを教室で配布します。理論的には、プロセス考古学学派の著作、ビンフォードなどの専門文献から一部を選択して配布する。				
◇ 授業時間外学習	各受講者の取り組みの状況をフィードバックしながら、英文テキスト解説の難易度および進行速度を調整していくので、各自、内容を理解できるように前もって、辞書はもちろん関連の専門書を調べていく時間を持つようにする。				
その他：授業での報告担当は、パラグラフ程度を単位として、その場でランダムにあてるので、あらかじめ十分な予習が毎時間、必要とされる。積極的な授業参加を期待する。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
考 古 学 演 習 A r c h a e o l o g y (S e m i n a r)	2	教授 阿子島 香 准教授 鹿 又 喜 隆	5	金	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS309J				
◆ 授業題目	考古学研究史 (Seminar on Archaeological Studies)				
◆ 目的・概要	日本考古学を中心に、明治時代以来の考古学研究の流れを整理し、今後の展望を探る。旧石器の編年と製作技術、縄文土器の型式学、縄文集落と社会、農耕社会の成立と発展、古墳文化、城柵官衙遺跡、古代窯業生産と供給、中・近世考古学その他、受講者各自が具体的な課題を選んで、順次、発表を行う。詳細な文献目録の作製、研究史の画期となった主要業績の解題、基本的な考古学資料の内容理解、調査研究報告書の詳細な検討、そして相互の討論を通して、研究の現状についての認識を深める。				
◆ 到達目標	(1)日本考古学の研究史の流れを把握し、学史上の画期を整理して理解できるようになる。 (2)各時代、各地域の考古学における研究内容の広がりを理解し、現状を把握できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンスと研究発表の説明。 学生による研究発表 ① 学生による研究発表 ② 学生による研究発表 ③ 学生による研究発表 ④ 学生による研究発表 ⑤ 学生による研究発表 ⑥ 学生による研究発表 ⑦ 学生による研究発表 ⑧ 学生による研究発表 ⑨ 学生による研究発表 ⑩ 学生による研究発表 ⑪ 学生による研究発表 ⑫ 学生による研究発表 ⑬ 学生による研究発表 ⑭ 				
◇ 成績評価の方法	(○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%] (○) その他 (具体的には、発表と討論) [40%]				
◇ 教科書・参考書	教室にて指示、プリントを配布。				
◇ 授業時間外学習	発表内容は、時間外に各自がまとめる。				
その他：考古学演習を通年で連続履修することが望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
考 古 学 演 習 A r c h a e o l o g y (S e m i n a r)	2	准教授 教授	鹿 又 喜 隆 香 阿子島 香	6	金 4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS309J																				
◆ 授業題目	考古学の方法と理論 (Method and Theory of Archaeology)																				
◆ 目的・概要	考古学研究の歴史と現状について、各自の関心領域を中心にまとめて発表し、相互の討論を通じて理解を深める。各時代の研究における、型式学と技術、材質研究、編年と地域性、生産と流通、文化変化、環境と生業活動、社会と集団、葬制、集落論など、具体的に課題を選択し、詳細な文献目録を作成し、現在の問題点を的確に把握し、今後の各自の研究指針を追究する。																				
◆ 到達目標	(1)日本考古学研究の現状について、学史の流れを踏まえて問題点を展望し、各自の研究テーマを具体的に追求できるようになる。 (2)近年その内容が非常に多岐にわたる考古学研究の、広がりや深まりを認識し、各自の研究方法を位置づけられるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 学生による研究発表 ①</td> <td>9. 学生による研究発表 ⑨</td> </tr> <tr> <td>2. 学生による研究発表 ②</td> <td>10. 学生による研究発表 ⑩</td> </tr> <tr> <td>3. 学生による研究発表 ③</td> <td>11. 学生による研究発表 ⑪</td> </tr> <tr> <td>4. 学生による研究発表 ④</td> <td>12. 学生による研究発表 ⑫</td> </tr> <tr> <td>5. 学生による研究発表 ⑤</td> <td>13. 学生による研究発表 ⑬</td> </tr> <tr> <td>6. 学生による研究発表 ⑥</td> <td>14. 学生による研究発表 ⑭</td> </tr> <tr> <td>7. 学生による研究発表 ⑦</td> <td>15. 学生による研究発表 ⑮</td> </tr> <tr> <td>8. 学生による研究発表 ⑧</td> <td></td> </tr> </table>					1. 学生による研究発表 ①	9. 学生による研究発表 ⑨	2. 学生による研究発表 ②	10. 学生による研究発表 ⑩	3. 学生による研究発表 ③	11. 学生による研究発表 ⑪	4. 学生による研究発表 ④	12. 学生による研究発表 ⑫	5. 学生による研究発表 ⑤	13. 学生による研究発表 ⑬	6. 学生による研究発表 ⑥	14. 学生による研究発表 ⑭	7. 学生による研究発表 ⑦	15. 学生による研究発表 ⑮	8. 学生による研究発表 ⑧	
1. 学生による研究発表 ①	9. 学生による研究発表 ⑨																				
2. 学生による研究発表 ②	10. 学生による研究発表 ⑩																				
3. 学生による研究発表 ③	11. 学生による研究発表 ⑪																				
4. 学生による研究発表 ④	12. 学生による研究発表 ⑫																				
5. 学生による研究発表 ⑤	13. 学生による研究発表 ⑬																				
6. 学生による研究発表 ⑥	14. 学生による研究発表 ⑭																				
7. 学生による研究発表 ⑦	15. 学生による研究発表 ⑮																				
8. 学生による研究発表 ⑧																					
◇ 成績評価の方法	(○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%] (○) その他 (具体的には、発表と討論) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	教室にて指示、プリントを配布。																				
◇ 授業時間外学習	発表内容は時間外に各自がまとめる。																				
その他：考古学演習を通年で連続履修することが望ましい。オフィスアワー：金曜日 13：30～14：30																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
考 古 学 実 習 A r c h a e o l o g y (F i e l d W o r k)	2	准教授 教授	鹿 又 喜 隆 香 阿子島 香	5	水 3・4																		
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS310J																						
◆ 授業題目	考古学の調査と資料分析(1) (Research and Analysis of Archaeological Materials)																						
◆ 目的・概要	考古学研究の基礎として、遺跡・遺物の資料化と資料操作の標準的な手順と方法を学ぶ。今年度は、土器・石器の整理、属性分析を学ぶ。通年で、出土品の処理と整理、正確な実測図の作製、コンピュータを使用した資料分析の基本などの実習を行い、基礎的な方法を学ぶ。考古学標本室の収蔵品の資料化とデータベースの実際を経験する。大学院の考古学研究実習と連動して、課題に取り組む。発掘調査報告書の作成のための方法を具体的に学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。相当量の宿題あり。																						
◆ 到達目標	(1)考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。 (2)共同研究の意義について、理解できるようになる。 (3)考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。 (4)発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作) ①</td> <td>7. 調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築 ②</td> </tr> <tr> <td>2. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作) ②</td> <td>8. 遺物の実測と製図 ①</td> </tr> <tr> <td>3. 発掘調査実習 ①</td> <td>9. 遺物の実測と製図 ②</td> </tr> <tr> <td>4. 発掘調査実習 ②</td> <td>10. 遺物の実測と製図 ③</td> </tr> <tr> <td>5. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作) ③</td> <td>11. 遺物の実測と製図 ④</td> </tr> <tr> <td>6. 調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築 ①</td> <td>12. 遺物の実測と製図 ⑤</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13. 測定の基礎と機器の操作 ①</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. 測定の基礎と機器の操作 ②</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 測定の基礎と機器の操作 ③</td> </tr> </table>					1. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作) ①	7. 調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築 ②	2. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作) ②	8. 遺物の実測と製図 ①	3. 発掘調査実習 ①	9. 遺物の実測と製図 ②	4. 発掘調査実習 ②	10. 遺物の実測と製図 ③	5. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作) ③	11. 遺物の実測と製図 ④	6. 調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築 ①	12. 遺物の実測と製図 ⑤		13. 測定の基礎と機器の操作 ①		14. 測定の基礎と機器の操作 ②		15. 測定の基礎と機器の操作 ③
1. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作) ①	7. 調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築 ②																						
2. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作) ②	8. 遺物の実測と製図 ①																						
3. 発掘調査実習 ①	9. 遺物の実測と製図 ②																						
4. 発掘調査実習 ②	10. 遺物の実測と製図 ③																						
5. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作) ③	11. 遺物の実測と製図 ④																						
6. 調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築 ①	12. 遺物の実測と製図 ⑤																						
	13. 測定の基礎と機器の操作 ①																						
	14. 測定の基礎と機器の操作 ②																						
	15. 測定の基礎と機器の操作 ③																						
◇ 成績評価の方法	(○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%] (○) その他 (具体的には、受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み) [30%]																						
◇ 教科書・参考書	教室にて指示。																						
◇ 授業時間外学習	夏季に発掘調査を実施する。講義内で課題が終わらない場合には、宿題となる。																						
その他：考古学実習を通年で履修することが望ましい。15回の講義の順番は、発掘計画に応じて前後することがある。																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
考 古 学 実 習 A r c h a e o l o g y (F i e l d W o r k)	2	教授 准教授	阿子島 香 鹿 又 喜 隆	6	水 3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS310J																				
◆ 授業題目	考古学資料分析法(2) (Methodology of Archaeological Analysis)																				
◆ 目的・概要	5セメスターに引き続き、実際の遺跡発掘調査による資料の整理と分析作業を通して、考古学における遺跡調査法、資料分析法の基礎を学ぶ。資料に対する観察眼を養い、遺跡・遺物の調査研究を進めていくために必要な実技を修得する。遺物の特徴に応じた写真撮影の方法を実習する。資料保存・修復の作業実習も行う。また通年において、発掘技術、測量作業、記録法などの実際を発掘調査現場において学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。相当量の宿題あり。																				
◆ 到達目標	(1)考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。 (2)共同研究の意義について、理解できるようになる。 (3)考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。(4)発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理 (1)。</td> <td>9. 製図・トレース・レイアウトの作成 (3)。</td> </tr> <tr> <td>2. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理 (2)。</td> <td>10. 写真撮影 (1)。</td> </tr> <tr> <td>3. 遺物の観察・記録と図化 (1)。</td> <td>11. 写真撮影 (2)。</td> </tr> <tr> <td>4. 遺物の観察・記録と図化 (2)。</td> <td>12. 写真撮影 (3)。</td> </tr> <tr> <td>5. 遺物の観察・記録と図化 (3)。</td> <td>13. 保存処理に関する研修。</td> </tr> <tr> <td>6. 遺物の観察・記録と図化 (4)。</td> <td>14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成 (1)。</td> </tr> <tr> <td>7. 製図・トレース・レイアウトの作成 (1)。</td> <td>15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成 (2)。</td> </tr> <tr> <td>8. 製図・トレース・レイアウトの作成 (2)。</td> <td></td> </tr> </table>					1. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理 (1)。	9. 製図・トレース・レイアウトの作成 (3)。	2. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理 (2)。	10. 写真撮影 (1)。	3. 遺物の観察・記録と図化 (1)。	11. 写真撮影 (2)。	4. 遺物の観察・記録と図化 (2)。	12. 写真撮影 (3)。	5. 遺物の観察・記録と図化 (3)。	13. 保存処理に関する研修。	6. 遺物の観察・記録と図化 (4)。	14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成 (1)。	7. 製図・トレース・レイアウトの作成 (1)。	15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成 (2)。	8. 製図・トレース・レイアウトの作成 (2)。	
1. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理 (1)。	9. 製図・トレース・レイアウトの作成 (3)。																				
2. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理 (2)。	10. 写真撮影 (1)。																				
3. 遺物の観察・記録と図化 (1)。	11. 写真撮影 (2)。																				
4. 遺物の観察・記録と図化 (2)。	12. 写真撮影 (3)。																				
5. 遺物の観察・記録と図化 (3)。	13. 保存処理に関する研修。																				
6. 遺物の観察・記録と図化 (4)。	14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成 (1)。																				
7. 製図・トレース・レイアウトの作成 (1)。	15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成 (2)。																				
8. 製図・トレース・レイアウトの作成 (2)。																					
◇ 成績評価の方法	(○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%] (○) その他 (具体的には、受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み) [30%]																				
◇ 教科書・参考書	教室にて指示。																				
◇ 授業時間外学習	講義内で課題が終わらない場合には宿題となる。																				
その他：考古学実習を通年で連続履修することが望ましい。発掘調査の出土量や作業の進捗に応じて、講義内容は前後します。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
中 国 文 学 概 論 Chinese Literature (General Lecture)	2	教授 佐竹保子	3	木	1
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT202J				
◆ 授業題目	中国の恋愛詩（ウラ文学史） (Love Poetry in Chinese Classical Literature: Looking for Another Side of Chinese Literary History)				
◆ 目的・概要	【目的】 1. 中国紀元前10世紀頃から紀元11世紀頃までの古典詩について、恋愛詩をてがかりにしながら、理解を深めます。 2. いわゆる「漢文」の構造、古体詩と近体詩の違い、近体詩の格律（きまり・法則）など、基本知識をおさえます。 【概要】中国古典は、ヨーロッパや日本の文学と違って、恋愛をテーマにすることが少ないとされます。確かに、恋愛より友情をうたうほうが常道です。しかしそもそも作品の絶対数が膨大なので、恋愛をうたう詩文も少なくありません。「あなたに逢いたい」というシンプルな恋いうたから、恋愛そのものの曰くいいがたさを表現する象徴詩まで、傑作に事欠きません。恋愛文学には、最適の賞味期間があります。皆さんは、そのただ中に居ます。賞味期間の過ぎないうちに、高校までの「漢文」にはまず出てこない、中国文学の非正統的にして不可欠な一面にぜひ触れてください。				
◆ 到達目標	1. 中国文学史の前半を知る。 2. いわゆる「漢文」の構造を知る。 3. できれば白文が読めるようになる。 4. いわゆる「漢詩」の法則と種類を知る。 5. できれば返り点送り仮名ナシの「漢詩」が読めるようになる。 6. 中国古典文学を、他の地域のそれと比較できるようにする。				
◆ 授業内容・方法	1. オリエンテーションと、時空の確認 2. *以下は、授業中の説明や質疑応答の成りゆきによって、計画どおりにいかないことがあります。 『詩経』の恋うた (1) —東アジア最古の恋愛詩 3. 『詩経』の恋うた (2) —三千年前のギャル？ 4. 漢代と南朝の民歌 (1) —軍楽隊が恋をうたう？ 5. 漢代と南朝の民歌 (2) —かけことばの饗宴 6. 陶淵明のうた (1) —陶淵明と、夏目漱石・魯迅 7. 陶淵明のうた (2) —陶淵明はストーカー？ 8. 盛唐の杜甫 (1) —獄中の愛の詩 9. 盛唐の杜甫 (2) —おじさんが新妻になりかわる？ 10. 中唐の李賀 (1) —李賀と、『深夜特急』 11. 中唐の李賀 (2) —死せるひとの恋 12. 晩唐の李商隠 (1) —missing you 13. 晩唐の李商隠 (2) —恋愛そのものの描出 14. 宋代の李清照 (1) —古典中国の女流詩人 15. 宋代の李清照 (2) —彼女が恋したものは？『金石録』後序から				
◇ 成績評価の方法	出席 (50%) 筆記試験 (50%)				
◇ 教科書・参考書	教科書は、プリントを配布します。参考書は、授業中に適宜紹介します。				
◇ 授業時間外学習	プリントは少し早めに配るので、所載の文の構造や、詩の対句・押韻について、見当をつけておいてください。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
中 国 文 学 概 論 Chinese Literature (General Lecture)	2	准教授 土屋育子	4	木	1
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT202J				
◆ 授業題目	中国の小説と戯曲 (Chinese Novel and Drama)				
◆ 目的・概要	古代中国において小説・戯曲は、正統な文学と見なされない状況が長く続いていました。しかしながら、古代中国の小説・戯曲は、正統的な位置にある伝統詩文との関わりを保ちつつ、豊かな発展を見せてきました。本講義ではその発展過程を、作者側からのみならず、受容者側からの視点も考えながら講じ、受講者の古代中国の小説と戯曲に対する理解を深めることを目的とします。具体的な作品を取り上げながら、作品の概略のみならず、作品を生んだ時代的・社会的背景、伝統詩文との影響関係についても、最近の研究状況を踏まえて紹介していきます。なお、以下の授業内容は多少前後する場合があります。				
◆ 到達目標	古代中国における小説と戯曲について、古代から明清時代まで、時代を追って概観することにより、中国の小説と戯曲に対する理解を深める。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス 2. 志怪小説・唐代伝奇 3. 宋元の俗文学 4. 演劇 (1) 5. 演劇 (2) 6. 明代の短篇白話小説 7. 三国志演義 (1) 8. 三国志演義 (2) 9. 水滸伝 (1) 10. 水滸伝 (2) 11. 西遊記 12. 金瓶梅 13. 演劇 (3) 14. その他の明清小説 15. 講義全体のまとめ				
◇ 成績評価の方法	出席：50% レポート：50%（レポート課題は講義の最終回に指示）				
◇ 教科書・参考書	テキスト：プリント配布 参考書：授業中に紹介				
◇ 授業時間外学習	授業中に紹介する参考書等を積極的に読み、講義内容の理解を深めるように努めてください。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 文 学 基 礎 講 読 Chinese Literature (Introductory Reading)	2	准教授 土 屋 育 子	3	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT213B																				
◆ 授業題目	中国語実用文法研究 (Chinese Grammar)																				
◆ 目的・概要	目的：中国語学習歴半年以上の学生が、より高度な中国語運用能力を身につけることを目的とします。 (中国語を未履修の方は、事前にご相談ください。) 概要：中国語の中級教科書を使用します。初級で学んだ基礎的な文法事項について再確認しながら、中国語能力の土台を固め、後期の授業へつなげます。なお、この授業は講読演習を兼ねています。																				
◆ 到達目標	(1)現代中国語の文法について基礎的な事項を理解する。 (2)基礎的な作文能力をつける。 (3)基礎的な読解力を確かなものとする。 (4)中国語の発音をブラッシュアップする。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (1)</td> <td>10. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (2)</td> <td>11. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (3)</td> <td>12. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (4)</td> <td>13. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (5)</td> <td>14. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (6)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (8)	2. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (1)	10. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (9)	3. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (2)	11. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (10)	4. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (3)	12. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (11)	5. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (4)	13. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (12)	6. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (5)	14. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (13)	7. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (6)	15. まとめ	8. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (7)	
1. ガイダンス	9. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (8)																				
2. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (1)	10. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (9)																				
3. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (2)	11. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (10)																				
4. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (3)	12. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (11)																				
5. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (4)	13. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (12)																				
6. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (5)	14. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (13)																				
7. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (6)	15. まとめ																				
8. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習 (7)																					
◇ 成績評価の方法	平常点 (出席、発音、問題演習を含む)：50% 筆記試験：50%																				
◇ 教科書・参考書	教科書については、初回に指示します。辞書は、小学館『中日辞典』『日中辞典』、または、講談社『中日辞典』『日中辞典』などを用意してください。																				
◇ 授業時間外学習	予習と復習を求めます。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 文 学 基 礎 講 読 Chinese Literature (Introductory Reading)	2	教授 佐 竹 保 子	4	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT213B																				
◆ 授業題目	現代文読解による、中国語実用文法研究 (Study of Chinese Grammar through reading Chinese Contemporary Prose)																				
◆ 目的・概要	【目的】 1. 中国現代文学の、分かりやすく短い部分を精読することを通して、現代中国語の文法について基礎的な事柄を確認し、理解する。 2. 発音のブラッシュアップをはかる。 【概要】中国語学習歴一年以上の受講生が、より高度な読解能力・運用能力を身に付けることを目標とします。そのためには、「語順の言語」と言われる中国語の、具体的な一文一文の構造を把握することが、必要です。文構造の把握は、現代文のみならず、古典文 (いわゆる「漢文」) の理解にも、大いに役立ちます。授業では、テキストを輪番で音読し、読解します。毎回2回以上は当たるので、十分な予習が必要です。なお、この授業は、中国語の講読演習を兼ねています。																				
◆ 到達目標	上記の【目的】に同じです。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 中国現代文読解 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 中国現代文読解 (1)</td> <td>10. 中国現代文読解 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 中国現代文読解 (2)</td> <td>11. 中国現代文読解 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 中国現代文読解 (3)</td> <td>12. 中国現代文読解 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 中国現代文読解 (4)</td> <td>13. 中国現代文読解 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 中国現代文読解 (5)</td> <td>14. 中国現代文読解 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 中国現代文読解 (6)</td> <td>15. 中国現代文読解 (14)</td> </tr> <tr> <td>8. 中国現代文読解 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 中国現代文読解 (8)	2. 中国現代文読解 (1)	10. 中国現代文読解 (9)	3. 中国現代文読解 (2)	11. 中国現代文読解 (10)	4. 中国現代文読解 (3)	12. 中国現代文読解 (11)	5. 中国現代文読解 (4)	13. 中国現代文読解 (12)	6. 中国現代文読解 (5)	14. 中国現代文読解 (13)	7. 中国現代文読解 (6)	15. 中国現代文読解 (14)	8. 中国現代文読解 (7)	
1. オリエンテーション	9. 中国現代文読解 (8)																				
2. 中国現代文読解 (1)	10. 中国現代文読解 (9)																				
3. 中国現代文読解 (2)	11. 中国現代文読解 (10)																				
4. 中国現代文読解 (3)	12. 中国現代文読解 (11)																				
5. 中国現代文読解 (4)	13. 中国現代文読解 (12)																				
6. 中国現代文読解 (5)	14. 中国現代文読解 (13)																				
7. 中国現代文読解 (6)	15. 中国現代文読解 (14)																				
8. 中国現代文読解 (7)																					
◇ 成績評価の方法	出席 ただし発音・翻訳・応答などを含む (50%) 筆記試験 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書は、授業で指示します。参考書は、授業でそのつど紹介します。																				
◇ 授業時間外学習	テキストの予習=発音と翻訳。テキストの復習=主要文の暗記。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 語 基 礎 演 習 Chinese Literature (Introductory Seminar)	2	准教授 馬 暁 地	3	月	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT214B																				
◆ 授業題目	中級会話 (Chinses conversation)																				
◆ 目的・概要	毎週一つ的话题を決めて、早めに予習する上にそれをめぐって自由に話す。																				
◆ 到達目標	日常会話及び学問に関する簡単な会話の能力を養成する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 自己紹介</td> <td>9. 私の大学</td> </tr> <tr> <td>2. 家族</td> <td>10. 授業</td> </tr> <tr> <td>3. 友人</td> <td>11. 読書</td> </tr> <tr> <td>4. 趣味</td> <td>12. 漢詩</td> </tr> <tr> <td>5. 映画</td> <td>13. 食文化</td> </tr> <tr> <td>6. 旅行</td> <td>14. 季節</td> </tr> <tr> <td>7. 運動</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 夏休み</td> <td></td> </tr> </table>					1. 自己紹介	9. 私の大学	2. 家族	10. 授業	3. 友人	11. 読書	4. 趣味	12. 漢詩	5. 映画	13. 食文化	6. 旅行	14. 季節	7. 運動	15. まとめと試験	8. 夏休み	
1. 自己紹介	9. 私の大学																				
2. 家族	10. 授業																				
3. 友人	11. 読書																				
4. 趣味	12. 漢詩																				
5. 映画	13. 食文化																				
6. 旅行	14. 季節																				
7. 運動	15. まとめと試験																				
8. 夏休み																					
◇ 成績評価の方法	会話試験 (50%) 出席 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布																				
◇ 授業時間外学習	予習と復習を重視する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 語 基 礎 演 習 Chinese Literature (Introductory Seminar)	2	准教授 馬 暁 地	4	月	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT214B																				
◆ 授業題目	中級会話 (Chinses conversation)																				
◆ 目的・概要	毎週一つ的话题を決めて、早めに予習する上にそれをめぐって自由に話す。																				
◆ 到達目標	日常会話及び学問に関する簡単な会話の能力を養成する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 自己紹介</td> <td>9. 私の大学</td> </tr> <tr> <td>2. 家族</td> <td>10. 授業</td> </tr> <tr> <td>3. 友人</td> <td>11. 読書</td> </tr> <tr> <td>4. 趣味</td> <td>12. 漢詩</td> </tr> <tr> <td>5. 映画</td> <td>13. 食文化</td> </tr> <tr> <td>6. 旅行</td> <td>14. 季節</td> </tr> <tr> <td>7. 運動</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 夏休み</td> <td></td> </tr> </table>					1. 自己紹介	9. 私の大学	2. 家族	10. 授業	3. 友人	11. 読書	4. 趣味	12. 漢詩	5. 映画	13. 食文化	6. 旅行	14. 季節	7. 運動	15. まとめと試験	8. 夏休み	
1. 自己紹介	9. 私の大学																				
2. 家族	10. 授業																				
3. 友人	11. 読書																				
4. 趣味	12. 漢詩																				
5. 映画	13. 食文化																				
6. 旅行	14. 季節																				
7. 運動	15. まとめと試験																				
8. 夏休み																					
◇ 成績評価の方法	会話試験 (50%) 出席 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布																				
◇ 授業時間外学習	予習と復習を重視する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 文 学 各 論 Chinese Literature (Special Lecture)	2	准教授 馬 暁 地	5	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT303B																				
◆ 授業題目	唐詩と唐代社会（胡曾の《詠史詩》）(On Tang poetry)																				
◆ 目的・概要	晩唐時代の詩人胡曾は上古から隋時代までの歴史を詠じる百五十首の詠史詩を作りました。これらの作品を一首一首精読し、詩の美しさを味わいながら、中国の歴史を勉強する。授業は輪番で報告してもらう形式で進める。授業中に中国語で大量の詩文を読むので、受講生は二年以上中国語学習歴を有することが望ましい。																				
◆ 到達目標	唐詩の読解力を高める。特に中国語で唐詩及び文章を読む能力を養成すること。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. 中国古代の詠史詩について (1)</td> <td style="width:50%;">9. 《詠史詩》精読 1 《玉門関》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>2. 同上 (2)</td> <td>10. 《詠史詩》精読 2 《関西》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>3. 唐代の詠史詩 (1)</td> <td>11. 精読 3 《江夏》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>4. 同上 (2)</td> <td>12. 精読 4 《銅雀台》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>5. 詩人胡曾と彼の《詠史詩》(1)</td> <td>13. 精読 5 《西園》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>6. 同上 (2)</td> <td>14. 精読 6 《官渡》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>7. 同上 (3)</td> <td>15. 精読 7 《赤壁》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>8. 同上 (4)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 中国古代の詠史詩について (1)	9. 《詠史詩》精読 1 《玉門関》詩の内容と芸術表現	2. 同上 (2)	10. 《詠史詩》精読 2 《関西》詩の内容と芸術表現	3. 唐代の詠史詩 (1)	11. 精読 3 《江夏》詩の内容と芸術表現	4. 同上 (2)	12. 精読 4 《銅雀台》詩の内容と芸術表現	5. 詩人胡曾と彼の《詠史詩》(1)	13. 精読 5 《西園》詩の内容と芸術表現	6. 同上 (2)	14. 精読 6 《官渡》詩の内容と芸術表現	7. 同上 (3)	15. 精読 7 《赤壁》詩の内容と芸術表現	8. 同上 (4)	
1. 中国古代の詠史詩について (1)	9. 《詠史詩》精読 1 《玉門関》詩の内容と芸術表現																				
2. 同上 (2)	10. 《詠史詩》精読 2 《関西》詩の内容と芸術表現																				
3. 唐代の詠史詩 (1)	11. 精読 3 《江夏》詩の内容と芸術表現																				
4. 同上 (2)	12. 精読 4 《銅雀台》詩の内容と芸術表現																				
5. 詩人胡曾と彼の《詠史詩》(1)	13. 精読 5 《西園》詩の内容と芸術表現																				
6. 同上 (2)	14. 精読 6 《官渡》詩の内容と芸術表現																				
7. 同上 (3)	15. 精読 7 《赤壁》詩の内容と芸術表現																				
8. 同上 (4)																					
◇ 成績評価の方法	レポート (50%) 出席 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布																				
◇ 授業時間外学習	予習と復習を重視する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 文 学 各 論 Chinese Literature (Special Lecture)	2	准教授 馬 暁 地	6	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT303B																				
◆ 授業題目	唐詩と唐代社会（胡曾の《詠史詩》）(On Tang poetry)																				
◆ 目的・概要	晩唐時代の詩人胡曾は上古から隋時代までの歴史を詠じる百五十首の詠史詩を作りました。これらの作品を一首一首精読し、詩の美しさを味わいながら、中国の歴史を勉強する。授業は輪番で報告してもらう形式で進める。授業中に中国語で大量の詩文を読むので、受講生は二年以上中国語学習歴を有することが望ましい。																				
◆ 到達目標	唐詩の読解力を高める。特に中国語で唐詩及び文章を読む能力を養成すること。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. 中国古代の詠史詩について (1)</td> <td style="width:50%;">9. 《詠史詩》精読 1 《玉門関》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>2. 同上 (2)</td> <td>10. 《詠史詩》精読 2 《関西》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>3. 唐代の詠史詩 (1)</td> <td>11. 精読 3 《江夏》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>4. 同上 (2)</td> <td>12. 精読 4 《銅雀台》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>5. 詩人胡曾と彼の《詠史詩》(1)</td> <td>13. 精読 5 《西園》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>6. 同上 (2)</td> <td>14. 精読 6 《官渡》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>7. 同上 (3)</td> <td>15. 精読 7 《赤壁》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>8. 同上 (4)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 中国古代の詠史詩について (1)	9. 《詠史詩》精読 1 《玉門関》詩の内容と芸術表現	2. 同上 (2)	10. 《詠史詩》精読 2 《関西》詩の内容と芸術表現	3. 唐代の詠史詩 (1)	11. 精読 3 《江夏》詩の内容と芸術表現	4. 同上 (2)	12. 精読 4 《銅雀台》詩の内容と芸術表現	5. 詩人胡曾と彼の《詠史詩》(1)	13. 精読 5 《西園》詩の内容と芸術表現	6. 同上 (2)	14. 精読 6 《官渡》詩の内容と芸術表現	7. 同上 (3)	15. 精読 7 《赤壁》詩の内容と芸術表現	8. 同上 (4)	
1. 中国古代の詠史詩について (1)	9. 《詠史詩》精読 1 《玉門関》詩の内容と芸術表現																				
2. 同上 (2)	10. 《詠史詩》精読 2 《関西》詩の内容と芸術表現																				
3. 唐代の詠史詩 (1)	11. 精読 3 《江夏》詩の内容と芸術表現																				
4. 同上 (2)	12. 精読 4 《銅雀台》詩の内容と芸術表現																				
5. 詩人胡曾と彼の《詠史詩》(1)	13. 精読 5 《西園》詩の内容と芸術表現																				
6. 同上 (2)	14. 精読 6 《官渡》詩の内容と芸術表現																				
7. 同上 (3)	15. 精読 7 《赤壁》詩の内容と芸術表現																				
8. 同上 (4)																					
◇ 成績評価の方法	レポート (50%) 出席 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布																				
◇ 授業時間外学習	予習と復習を重視する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
中 国 文 学 各 論 Chinese Literature (Special Lecture)	2	非常勤 講師 濱 田 麻 矢	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT303J				
◆ 授業題目	20世紀中国文学における女学生表象 (Love and Decision Making: Contested Representations of Female Students in 20th Century China)				
◆ 目的・概要	近代中国文学をジェンダーの視点から再読することを目的とする。女子教育が興って以降、文学はどのように知性あるヒロインを創出し、享受し、消費したのかを具体的に作品に即して講じ、討論する。				
◆ 到達目標	20世紀中国の文学作品を多読し、女性史の視点からその潮流を理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：知性を持つ少女の登場 2. 新天地の発見：五四期の女学校小説 (1) 陳衡哲と謝冰心 3. 楽園からの追放：五四期の女学校小説 (2) 馮沅君と凌叔華 4. 自分のなかに蠢くもの：丁玲の初期小説 5. 内助の功という自己実現：魯迅と許広平 6. 欲望され、嫌悪される他者：郁達夫と沈從文 7. 青い服の少女：張恨水と張愛玲 8. 帝国のうちそとで：梅娘と楊千鶴 9. 愛よりも強いもの：革命前後の丁玲 10. 解放軍の入城と米国の誘惑：宗璞とイーユン・リー 11. 異性愛からの逸脱：張愛玲の後期小説 12. 政治の季節がすぎた後：六四直前の王安憶 13. 大きな歴史と小さな記憶：朱天心「古都」の周辺 14. Made in Hong Kong：西西、梁秉鈞、董啓章 15. まとめの討論 				
◇ 成績評価の方法	平常授業の討論参加で 60%、レポート 40%。				
◇ 教科書・参考書	各テキストについては、事前にPDFのかたちで配布します。受講を希望する人は、濱田 (hamadama@gmail.com) に「女学生表象受講」という件名で、氏名のみ本文に記入したメールを送付してください。折り返しテキストをアップロードした電子掲示板へのパスワードを送付します。(なお、電子掲示板への登録は、履修登録及び単位取得とは全く無関係です)				
◇ 授業時間外学習	日本語訳のあるテキストは必ず (そうでないものもできるだけ) 授業前に読んできてください。				
その他：毎回発言を求めますので、予習必須です。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
中 国 文 学 演 習 Chinese Literature (Seminar)	2	准教授 馬 暁 地	5	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT318B				
◆ 授業題目	中国当代文学研究 (Chinses modern novel)				
◆ 目的・概要	中国当代の有名な女性作家の代表作品を選んで精読し、面白い内容と新鮮な言語表現を味わう。今年叶広芩氏の京味小説《全家福》を読む。授業は輪番で報告してもらう形式で進める。				
◆ 到達目標	中国当代の文学作品の読解力を高めること。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中国当代女性作家と代表作品について 2. 同上 3. 叶広芩と彼女の《全家福》 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 《全家福》第十章の精読——その内容と言語表現 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. まとめと復習 				
◇ 成績評価の方法	レポート (50%)、出席 (50%)				
◇ 教科書・参考書	プリント配布				
◇ 授業時間外学習	予習と復習を重視すること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 文 学 演 習 Chinese Literature (Seminar)	2	准教授 馬 暁 地	6	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT318B																				
◆ 授業題目	中国当代文学研究 (Chinses modern novel)																				
◆ 目的・概要	中国当代の有名な女性作家の代表作品を選んで精読し、面白い内容と新鮮な言語表現を味わう。今年叶 広苓氏の京味小説《全家福》を読む。授業は輪番で報告してもらう形式で進める。																				
◆ 到達目標	中国当代の文学作品の読解力を高めること。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 中国当代女性作家と代表作品について</td> <td>9. 同上</td> </tr> <tr> <td>2. 同上</td> <td>10. 同上</td> </tr> <tr> <td>3. 叶広苓と彼女の《全家福》</td> <td>11. 同上</td> </tr> <tr> <td>4. 同上</td> <td>12. 同上</td> </tr> <tr> <td>5. 同上</td> <td>13. 同上</td> </tr> <tr> <td>6. 同上</td> <td>14. 同上</td> </tr> <tr> <td>7. 同上</td> <td>15. まとめと復習</td> </tr> <tr> <td>8. 《全家福》第十章の精読——その内容と言語表現</td> <td></td> </tr> </table>					1. 中国当代女性作家と代表作品について	9. 同上	2. 同上	10. 同上	3. 叶広苓と彼女の《全家福》	11. 同上	4. 同上	12. 同上	5. 同上	13. 同上	6. 同上	14. 同上	7. 同上	15. まとめと復習	8. 《全家福》第十章の精読——その内容と言語表現	
1. 中国当代女性作家と代表作品について	9. 同上																				
2. 同上	10. 同上																				
3. 叶広苓と彼女の《全家福》	11. 同上																				
4. 同上	12. 同上																				
5. 同上	13. 同上																				
6. 同上	14. 同上																				
7. 同上	15. まとめと復習																				
8. 《全家福》第十章の精読——その内容と言語表現																					
◇ 成績評価の方法	レポート (50%)、出席 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布																				
◇ 授業時間外学習	予習と復習を重視すること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 文 学 演 習 Chinese Literature (Seminar)	2	准教授 土 屋 育 子	5	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT318B																				
◆ 授業題目	中国の俗文学を読む (Chinese Popular Literature)																				
◆ 目的・概要	中国近世の白話文学作品の読解を通して、中国の俗文学に関する基礎的な知識を学ぶとともに、原文の 読解力、分析し鑑賞する力を習得します。授業は、発表と質疑応答によってすすめます。前期は『三国 志演義』を取り上げます。																				
◆ 到達目標	(1)中国近世の白話文の読解ができるようになる。 (2)白話文学作品について、分析し鑑賞する力を習得する。 (3)辞書やデータベース等の活用と、原典 (影印本・標点本等) に慣れる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 発表と質疑応答 (7)</td> </tr> <tr> <td>2. 作品について</td> <td>10. 発表と質疑応答 (8)</td> </tr> <tr> <td>3. 発表と質疑応答 (1)</td> <td>11. 発表と質疑応答 (9)</td> </tr> <tr> <td>4. 発表と質疑応答 (2)</td> <td>12. 発表と質疑応答 (10)</td> </tr> <tr> <td>5. 発表と質疑応答 (3)</td> <td>13. 発表と質疑応答 (11)</td> </tr> <tr> <td>6. 発表と質疑応答 (4)</td> <td>14. 発表と質疑応答 (12)</td> </tr> <tr> <td>7. 発表と質疑応答 (5)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 発表と質疑応答 (6)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 発表と質疑応答 (7)	2. 作品について	10. 発表と質疑応答 (8)	3. 発表と質疑応答 (1)	11. 発表と質疑応答 (9)	4. 発表と質疑応答 (2)	12. 発表と質疑応答 (10)	5. 発表と質疑応答 (3)	13. 発表と質疑応答 (11)	6. 発表と質疑応答 (4)	14. 発表と質疑応答 (12)	7. 発表と質疑応答 (5)	15. まとめ	8. 発表と質疑応答 (6)	
1. ガイダンス	9. 発表と質疑応答 (7)																				
2. 作品について	10. 発表と質疑応答 (8)																				
3. 発表と質疑応答 (1)	11. 発表と質疑応答 (9)																				
4. 発表と質疑応答 (2)	12. 発表と質疑応答 (10)																				
5. 発表と質疑応答 (3)	13. 発表と質疑応答 (11)																				
6. 発表と質疑応答 (4)	14. 発表と質疑応答 (12)																				
7. 発表と質疑応答 (5)	15. まとめ																				
8. 発表と質疑応答 (6)																					
◇ 成績評価の方法	出席：30% 授業への取り組み (発表・質疑等)：70%																				
◇ 教科書・参考書	テキストはこちらでプリントを配布。参考文献は授業中に指示。																				
◇ 授業時間外学習	原文の一字一字についてそれがどのような意味か、その箇所が前後の文脈からどのような状況を言っ ているのか、などに気を配りながら、丁寧な予習をこころがけてください。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 文 学 演 習 Chinese Literature (Seminar)	2	准教授 土 屋 育 子	6	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT318B																				
◆ 授業題目	中国の俗文学を読む (Chinese Popular Literature)																				
◆ 目的・概要	中国近世の白話文学作品の読解を通して、中国の俗文学に関する基礎的な知識を学ぶとともに、原文の読解力、分析し鑑賞する力を習得します。授業は、発表と質疑応答によってすすめます。後期は『水滸伝』を取り上げます。																				
◆ 到達目標	(1)中国近世の白話文の読解ができるようになる。 (2)白話文学作品について、分析し鑑賞する力を習得する。 (3)辞書やデータベース等の活用と、原典(影印本・標点本等)に慣れる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 発表と質疑応答 (7)</td> </tr> <tr> <td>2. 作品について</td> <td>10. 発表と質疑応答 (8)</td> </tr> <tr> <td>3. 発表と質疑応答 (1)</td> <td>11. 発表と質疑応答 (9)</td> </tr> <tr> <td>4. 発表と質疑応答 (2)</td> <td>12. 発表と質疑応答 (10)</td> </tr> <tr> <td>5. 発表と質疑応答 (3)</td> <td>13. 発表と質疑応答 (11)</td> </tr> <tr> <td>6. 発表と質疑応答 (4)</td> <td>14. 発表と質疑応答 (12)</td> </tr> <tr> <td>7. 発表と質疑応答 (5)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 発表と質疑応答 (6)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 発表と質疑応答 (7)	2. 作品について	10. 発表と質疑応答 (8)	3. 発表と質疑応答 (1)	11. 発表と質疑応答 (9)	4. 発表と質疑応答 (2)	12. 発表と質疑応答 (10)	5. 発表と質疑応答 (3)	13. 発表と質疑応答 (11)	6. 発表と質疑応答 (4)	14. 発表と質疑応答 (12)	7. 発表と質疑応答 (5)	15. まとめ	8. 発表と質疑応答 (6)	
1. ガイダンス	9. 発表と質疑応答 (7)																				
2. 作品について	10. 発表と質疑応答 (8)																				
3. 発表と質疑応答 (1)	11. 発表と質疑応答 (9)																				
4. 発表と質疑応答 (2)	12. 発表と質疑応答 (10)																				
5. 発表と質疑応答 (3)	13. 発表と質疑応答 (11)																				
6. 発表と質疑応答 (4)	14. 発表と質疑応答 (12)																				
7. 発表と質疑応答 (5)	15. まとめ																				
8. 発表と質疑応答 (6)																					
◇ 成績評価の方法	出席：30% 授業への取り組み(発表・質疑等)：70%																				
◇ 教科書・参考書	テキストはこちらでプリントを配布。参考文献は授業中に指示。																				
◇ 授業時間外学習	原文の一字一字についてそれがどのような意味か、その箇所が前後の文脈からどのような状況を言っているのか、などに気を配りながら、丁寧な予習をこころがけてください。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 文 学 演 習 Chinese Literature (Seminar)	2	教授 佐 竹 保 子	5	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT318B																				
◆ 授業題目	漢魏六朝詩、及びその背後にある文献研究 (Study of Chinese Classical Verse and Prose in Han-Wei and Six dynasties Era)																				
◆ 目的・概要	【目的】(1)中国古典詩の基礎的伝統的読解方法を、体得する。(2)テキストの校勘方法を、学ぶ。(3)テキストの注に引用された多種多様な文献を認知して、目録学上に位置づける。(4)上記の文献に関わる東北大学図書館内の書籍を探索し、図書館の活用方法を知る。(5)上記の文献を、読みこなす。(6)テキストの注釈者と対話しつつ、古典詩を読解し、鑑賞する。 【概要】六家注本『文選』卷二十三(李善注本、六臣注本も同じ。五臣注本では卷十二)の張載「七哀詩二首之二」以後を解説します。担当者は、レジユメを作り発表します。担当者以外の受講者は、テキストとレジユメを熟読して質疑応答します。																				
◆ 到達目標	上記の【目的】(1)~(6)。および、(7)担当者は、受講生に分かりやすいレジユメと説明を準備する。 (8)受講生は、担当者の説明を理解したうえで、自らの疑問点を洗い出し、それを的確に言語化する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション。テキストの注に引用される文献について理解を深めると同時に、目録学の基本を知る。</td> <td>8. 『文選』 卷二十三読解 (7)</td> </tr> <tr> <td>2. 『文選』 卷二十三読解 (1)</td> <td>9. 『文選』 卷二十三読解 (8)</td> </tr> <tr> <td>3. 『文選』 卷二十三読解 (2)</td> <td>10. 『文選』 卷二十三読解 (9)</td> </tr> <tr> <td>4. 『文選』 卷二十三読解 (3)</td> <td>11. 『文選』 卷二十三読解 (10)</td> </tr> <tr> <td>5. 『文選』 卷二十三読解 (4)</td> <td>12. 『文選』 卷二十三読解 (11)</td> </tr> <tr> <td>6. 『文選』 卷二十三読解 (5)</td> <td>13. 『文選』 卷二十三読解 (12)</td> </tr> <tr> <td>7. 『文選』 卷二十三読解 (6)</td> <td>14. 『文選』 卷二十三読解 (13)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 授業のまとめ。</td> </tr> </table>					1. オリエンテーション。テキストの注に引用される文献について理解を深めると同時に、目録学の基本を知る。	8. 『文選』 卷二十三読解 (7)	2. 『文選』 卷二十三読解 (1)	9. 『文選』 卷二十三読解 (8)	3. 『文選』 卷二十三読解 (2)	10. 『文選』 卷二十三読解 (9)	4. 『文選』 卷二十三読解 (3)	11. 『文選』 卷二十三読解 (10)	5. 『文選』 卷二十三読解 (4)	12. 『文選』 卷二十三読解 (11)	6. 『文選』 卷二十三読解 (5)	13. 『文選』 卷二十三読解 (12)	7. 『文選』 卷二十三読解 (6)	14. 『文選』 卷二十三読解 (13)		15. 授業のまとめ。
1. オリエンテーション。テキストの注に引用される文献について理解を深めると同時に、目録学の基本を知る。	8. 『文選』 卷二十三読解 (7)																				
2. 『文選』 卷二十三読解 (1)	9. 『文選』 卷二十三読解 (8)																				
3. 『文選』 卷二十三読解 (2)	10. 『文選』 卷二十三読解 (9)																				
4. 『文選』 卷二十三読解 (3)	11. 『文選』 卷二十三読解 (10)																				
5. 『文選』 卷二十三読解 (4)	12. 『文選』 卷二十三読解 (11)																				
6. 『文選』 卷二十三読解 (5)	13. 『文選』 卷二十三読解 (12)																				
7. 『文選』 卷二十三読解 (6)	14. 『文選』 卷二十三読解 (13)																				
	15. 授業のまとめ。																				
◇ 成績評価の方法	授業中のプレゼンテーションに至るまでの調査とレジユメの作成の仕方 (33%)。 授業中のプレゼンテーション (34%)。それに対する質疑応答 (33%)。																				
◇ 教科書・参考書	教科書はプリントを配布。参考書は多数あるので、オリエンテーション及びそれ以後の授業で説明します。																				
◇ 授業時間外学習	担当者は、授業中のプレゼンテーションに至るまでの調査と、プレゼンテーションの予行演習。担当者以外の受講生は、テキストの予習と、提出されたレジユメの熟読。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 文 学 演 習 Chinese Literature (Seminar)	2	教授 佐竹保子	6	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT318B																				
◆ 授業題目	漢魏六朝詩、及びその背後にある文献研究 (Study of Chinese Classical Verse and Prose in Han-Wei and Six dynasties Era)																				
◆ 目的・概要	【目的】(1)中国古典詩の基礎的伝統的読解方法を、体得する。(2)テキストの校勘方法を、学ぶ。(3)テキストの注に引用された多種多様な文献を認知して、目録学上に位置づける。(4)上記の文献に関わる東北大学図書館内の書籍を探索し、図書館の活用方法を知る。(5)上記の文献を、読みこなす。(6)テキストの注釈者と対話しつつ、古典詩を読解し、鑑賞する。 【概要】六家注本『文選』卷二十三(李善注本、六臣注本も同じ。五臣注本では卷十二)の張載「七哀詩二首之二」以後を解説します。担当者は、レジユメを作り発表します。担当者以外の受講者は、テキストとレジユメを熟読して質疑応答します。																				
◆ 到達目標	上記の【目的】(1)~(6)。および、(7)担当者は、受講生に分かりやすいレジユメと説明を準備する。(8)受講生は、担当者の説明を理解したうえで、自らの疑問点を洗い出し、それを的確に言語化する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション。テキストの注に引用される文献について理解を深めると同時に、目録学の基本を知る。</td> <td>8. 『文選』 卷二十三読解 (7)</td> </tr> <tr> <td>2. 『文選』 卷二十三読解 (1)</td> <td>9. 『文選』 卷二十三読解 (8)</td> </tr> <tr> <td>3. 『文選』 卷二十三読解 (2)</td> <td>10. 『文選』 卷二十三読解 (9)</td> </tr> <tr> <td>4. 『文選』 卷二十三読解 (3)</td> <td>11. 『文選』 卷二十三読解 (10)</td> </tr> <tr> <td>5. 『文選』 卷二十三読解 (4)</td> <td>12. 『文選』 卷二十三読解 (11)</td> </tr> <tr> <td>6. 『文選』 卷二十三読解 (5)</td> <td>13. 『文選』 卷二十三読解 (12)</td> </tr> <tr> <td>7. 『文選』 卷二十三読解 (6)</td> <td>14. 『文選』 卷二十三読解 (13)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 授業のまとめ。</td> </tr> </table>					1. オリエンテーション。テキストの注に引用される文献について理解を深めると同時に、目録学の基本を知る。	8. 『文選』 卷二十三読解 (7)	2. 『文選』 卷二十三読解 (1)	9. 『文選』 卷二十三読解 (8)	3. 『文選』 卷二十三読解 (2)	10. 『文選』 卷二十三読解 (9)	4. 『文選』 卷二十三読解 (3)	11. 『文選』 卷二十三読解 (10)	5. 『文選』 卷二十三読解 (4)	12. 『文選』 卷二十三読解 (11)	6. 『文選』 卷二十三読解 (5)	13. 『文選』 卷二十三読解 (12)	7. 『文選』 卷二十三読解 (6)	14. 『文選』 卷二十三読解 (13)		15. 授業のまとめ。
1. オリエンテーション。テキストの注に引用される文献について理解を深めると同時に、目録学の基本を知る。	8. 『文選』 卷二十三読解 (7)																				
2. 『文選』 卷二十三読解 (1)	9. 『文選』 卷二十三読解 (8)																				
3. 『文選』 卷二十三読解 (2)	10. 『文選』 卷二十三読解 (9)																				
4. 『文選』 卷二十三読解 (3)	11. 『文選』 卷二十三読解 (10)																				
5. 『文選』 卷二十三読解 (4)	12. 『文選』 卷二十三読解 (11)																				
6. 『文選』 卷二十三読解 (5)	13. 『文選』 卷二十三読解 (12)																				
7. 『文選』 卷二十三読解 (6)	14. 『文選』 卷二十三読解 (13)																				
	15. 授業のまとめ。																				
◇ 成績評価の方法	授業中のプレゼンテーションに至るまでの調査とレジユメの作成の仕方 (33%)。 授業中のプレゼンテーション (34%)。それに対する質疑応答 (33%)。																				
◇ 教科書・参考書	教科書はプリントを配布。参考書は多数あるので、オリエンテーション及びそれ以後の授業で説明します。																				
◇ 授業時間外学習	担当者は、授業中のプレゼンテーションに至るまでの調査と、プレゼンテーションの予行演習。担当者以外の受講生は、テキストの予習と、提出されたレジユメの熟読。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
中 国 思 想 概 論 Chinese Thought (General Lecture)	2	准教授 齋藤智寛	3	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI202J				
◆ 授業題目	中国古代思想概説 (Introduction to Chinese antient thought)				
◆ 目的・概要	有史以来後漢末（3世紀初）までの中国思想について、日本語に翻訳された原典資料を紹介しながら概説する。諸子百家の書物と経書と呼ばれる儒家の典籍とが整理され、中世・近世を経てこんにちまで受け継がれる古典の基礎が形成された時期として当該時期を捉え、それらの典籍に記された思想を検討するのが本講義の内容である。同時に、一度は忘れ去られ近現代の発掘によって出土した資料を手がかりとした古代中国の精神世界も簡単に紹介したい。				
◆ 到達目標	古代中国の各学派、各人物における思想の特徴を理解できる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入。「中国」「思想」とは何か。 2. 中国思想のあけぼの 1：『書経』と『詩経』に見る古代中国の思想 3. 中国思想のあけぼの 2：『論語』に見る孔子の思想 4. 諸子百家の思想 1：『老子』と『莊子』の思想 5. 諸子百家の思想 2：『墨子』の思想 6. 諸子百家の思想 3：『孟子』と『荀子』の思想 7. 諸子百家の思想 4：『韓非子』と法家思想およびその他の諸子百家の思想 8. 漢の統一と漢代初期の儒家思想 9. 前漢武帝期の思想：『淮南子』と董仲舒 10. 後漢の合理思想：桓譚『新論』と王充『論衡』の思想 11. 後漢末期の学術と思想：儒教經典の整理および政治思想について 12. 漢代の歴史学と学術史：『史記』と『漢書』 13. 出土物から見た古代中国思想 1：甲骨文字と金文に見る先秦の思想 14. 出土物から見た古代中国思想 2：馬王堆帛書から見る前漢の思想 15. 出土物から見た古代中国思想 3：非文字資料による漢代の宗教と宇宙観 				
◇ 成績評価の方法	講義期間中におこなう小テストおよび小レポート（30%）、学期末レポート（70%）				
◇ 教科書・参考書	講義中に随時紹介する。				
◇ 授業時間外学習	講義期間中に最低1冊は関連する本を読むこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
中 国 思 想 概 論 Chinese Thought (General Lecture)	2	教授 三浦秀一	4	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI202J				
◆ 授業題目	宋代思想史概説 (Intellectual History during Song dynasty)				
◆ 目的・概要	西暦960年に創建され、1279年に滅亡した宋王朝（北宋・南宋）のもとで思想活動を営んでいた人びとの思想を、現代語に翻訳した原典を用いながら紹介し、思想相互の歴史的関連性について解説をおこなう。宋代の思想家は、当初、それ以前の思想界の影響を受け、いわゆる儒仏道三教のそれぞれに対し融和的な態度を採りながら思想活動を展開していたが、やがてそのなかから独自の儒学思想を生み出してゆく。欧陽修・司馬光・王安石・蘇軾・蘇徹といった知識人が華々しい活動をおこなう一方、後の朱子学へと繋がる思想を編み出した周敦頤・程頤・程顥・張載らがそれぞれに思想活動を営むのであり、そうした知的遺産を継承するなかで、朱熹がスケールの大きな思想体系を構築し、その思想に対して陸九淵が批判活動を展開する。以上のような思想の展開について、個別に説明を加えてゆきたい。				
◆ 到達目標	(1)中国近世の前期に相当する宋代に生きた知識人の思想内容と、それらの史的展開について、原典にもとづいた理解を得る。 (2)いわゆる宋学の思考方法に慣れる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・序論 2. 唐代後半の新思潮 3. 北宋初期の儒仏道三教 4. 慶暦期の知識人 ① 5. 慶暦期の知識人 ② 6. 北宋五子 ① 7. 北宋五子 ② 8. 北宋五子 ③ 9. 蘇軾と蘇徹 10. 蘇門人士と程門人士 11. 朱熹の思想 ① 12. 朱熹の思想 ② 13. 陸九淵 14. 朱陸後学 15. 元朝の思想 				
◇ 成績評価の方法	3回実施予定のレポートの成績。				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、配布プリントにより講義をおこなう。参考書は、第1回の講義において紹介する。				
◇ 授業時間外学習	参考書等を読み、レポートの作成に備える。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 思 想 基 礎 講 読 Chinese Thought (Introductory Reading)	2	教授 三 浦 秀 一	3	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI209J																				
◆ 授業題目	中国思想文献講読・初級1 (Elementary Classical Chinese: Using Philosophical Texts 1)																				
◆ 目的・概要	思想的な内容をもつとともに、訓点などが施された中国古典のテキストに対し、受講者各自が訓読や現代語訳、解説をおこなう。そうした訓練を重ねるなかで、高校段階における「漢文訓読」のレベルを超え、古典に対する自在な読解が可能になるような基礎力を身につける。																				
◆ 到達目標	思想系の中国古典文に特徴的な語彙や語法を知るとともに、古典文全般に対する基礎的読解力を培う。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width: 50%;">9. 読解</td> </tr> <tr> <td>2. 読解</td> <td>10. 読解</td> </tr> <tr> <td>3. 読解</td> <td>11. 読解</td> </tr> <tr> <td>4. 読解</td> <td>12. 読解</td> </tr> <tr> <td>5. 読解</td> <td>13. 読解</td> </tr> <tr> <td>6. 読解</td> <td>14. 読解</td> </tr> <tr> <td>7. 読解</td> <td>15. 読解</td> </tr> <tr> <td>8. 読解</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 読解	2. 読解	10. 読解	3. 読解	11. 読解	4. 読解	12. 読解	5. 読解	13. 読解	6. 読解	14. 読解	7. 読解	15. 読解	8. 読解	
1. ガイダンス	9. 読解																				
2. 読解	10. 読解																				
3. 読解	11. 読解																				
4. 読解	12. 読解																				
5. 読解	13. 読解																				
6. 読解	14. 読解																				
7. 読解	15. 読解																				
8. 読解																					
◇ 成績評価の方法	受講態度 (100%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せずプリントを配布する。参考書は講義のなかで紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	漢和辞典を活用した、徹底的な予習。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 思 想 基 礎 講 読 Chinese Thought (Introductory Reading)	2	准教授 齋 藤 智 寛	4	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI209J																				
◆ 授業題目	中国思想文献講読・初級2 (Elementary Classical Chinese: Using Philosophical Texts 2)																				
◆ 目的・概要	『荀子』の中から漢文読解力向上と荀卿思想の理解に資する部分を選読する。テキストは伝統的な注釈つきのものを(江戸時代の久保愛『荀子増注』を予定)使用し、受講者は漢文による注釈を頼りに漢文を読む訓練もすることとなる。																				
◆ 到達目標	句読点が施された古典中国文を正確に読むことができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 導入。『荀子』について。</td> <td style="width: 50%;">9. 『荀子』会読8</td> </tr> <tr> <td>2. 『荀子』会読1</td> <td>10. 『荀子』会読9</td> </tr> <tr> <td>3. 『荀子』会読2</td> <td>11. 『荀子』会読10</td> </tr> <tr> <td>4. 『荀子』会読3</td> <td>12. 『荀子』会読11</td> </tr> <tr> <td>5. 『荀子』会読4</td> <td>13. 『荀子』会読12</td> </tr> <tr> <td>6. 『荀子』会読5</td> <td>14. 『荀子』会読13</td> </tr> <tr> <td>7. 『荀子』会読6</td> <td>15. 『荀子』会読14</td> </tr> <tr> <td>8. 『荀子』会読7</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入。『荀子』について。	9. 『荀子』会読8	2. 『荀子』会読1	10. 『荀子』会読9	3. 『荀子』会読2	11. 『荀子』会読10	4. 『荀子』会読3	12. 『荀子』会読11	5. 『荀子』会読4	13. 『荀子』会読12	6. 『荀子』会読5	14. 『荀子』会読13	7. 『荀子』会読6	15. 『荀子』会読14	8. 『荀子』会読7	
1. 導入。『荀子』について。	9. 『荀子』会読8																				
2. 『荀子』会読1	10. 『荀子』会読9																				
3. 『荀子』会読2	11. 『荀子』会読10																				
4. 『荀子』会読3	12. 『荀子』会読11																				
5. 『荀子』会読4	13. 『荀子』会読12																				
6. 『荀子』会読5	14. 『荀子』会読13																				
7. 『荀子』会読6	15. 『荀子』会読14																				
8. 『荀子』会読7																					
◇ 成績評価の方法	予習と討論への参加状況 (100%)																				
◇ 教科書・参考書	プリントを配布する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回予習して出席すること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 思 想 各 論 Chinese Thought (Special Lecture)	2	教授 三 浦 秀 一	5	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI302J																				
◆ 授業題目	中国近世・近代思想研究の現状 (Recent Studies on the Thought of the Pre-modern and Modern China in Japan)																				
◆ 目的・概要	中国思想に関する日本語で書かれた研究論文・論著のなかから、いわゆる近世から近代にいたる時期を対象として執筆された最近の作品を読み、その概要をまとめる。受講生は、そうした作業を通じて、当該時代の研究状況を全体的に把握するとともに、個別の論文に対する批判的読解の作法を学ぶ。																				
◆ 到達目標	学術論文の探索、読解、批判に慣れる。中国近世、近代の思想に関する研究の動向を掌握する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 報告と討論</td> </tr> <tr> <td>2. 報告と討論</td> <td>10. 報告と討論</td> </tr> <tr> <td>3. 報告と討論</td> <td>11. 報告と討論</td> </tr> <tr> <td>4. 報告と討論</td> <td>12. 報告と討論</td> </tr> <tr> <td>5. 報告と討論</td> <td>13. 報告と討論</td> </tr> <tr> <td>6. 報告と討論</td> <td>14. 報告と討論</td> </tr> <tr> <td>7. 報告と討論</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 報告と討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 報告と討論	2. 報告と討論	10. 報告と討論	3. 報告と討論	11. 報告と討論	4. 報告と討論	12. 報告と討論	5. 報告と討論	13. 報告と討論	6. 報告と討論	14. 報告と討論	7. 報告と討論	15. まとめ	8. 報告と討論	
1. ガイダンス	9. 報告と討論																				
2. 報告と討論	10. 報告と討論																				
3. 報告と討論	11. 報告と討論																				
4. 報告と討論	12. 報告と討論																				
5. 報告と討論	13. 報告と討論																				
6. 報告と討論	14. 報告と討論																				
7. 報告と討論	15. まとめ																				
8. 報告と討論																					
◇ 成績評価の方法	授業時間内における報告内容 (50%)、討論への参加度 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、討論の対象となる研究論文をその都度、配付する。																				
◇ 授業時間外学習	自身が担当する論文について、論証方法や独自性などに注意しながら、その概要をまとめ、報告の準備をおこなう。自身が担当しない論文についても、事前に読んでおく。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 思 想 各 論 Chinese Thought (Special Lecture)	2	准教授 齋 藤 智 寛	6	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI302J																				
◆ 授業題目	中国古代中世思想研究の現状 (Introduction to the contemporary researches for Chinese ancient and medieval thought)																				
◆ 目的・概要	日本国内の学術誌に発表された学術論文を題材に、中国古代中世思想研究の現状を把握し検討する。授業は、担当教員による講義と受講生による発表と討論の両形式により進める。発表では、発表担当者は自分の選んだ論文について紹介し、教員と他の受講生も当該論文の内容について討論するほか、担当者の発表内容についても議論をおこなう。発表者は討論の結果をふまえて発表内容をより良いものに修正し、学期末に小レポートとして提出する。最新の研究状況について知識を得るのみならず、一連の発表とレポートを通じて、学術論文を理解し批評する能力を養うのが本講義の目的である。																				
◆ 到達目標	学術論文の論旨を的確に理解し、他人にも説明できる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入。講義の目的と計画の説明。</td> <td>9. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 4</td> </tr> <tr> <td>2. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 1</td> <td>10. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 5</td> </tr> <tr> <td>3. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 1</td> <td>11. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 5</td> </tr> <tr> <td>4. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 2</td> <td>12. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 6</td> </tr> <tr> <td>5. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 2</td> <td>13. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 6</td> </tr> <tr> <td>6. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 3</td> <td>14. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 7</td> </tr> <tr> <td>7. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 3</td> <td>15. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 7</td> </tr> <tr> <td>8. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 4</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入。講義の目的と計画の説明。	9. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 4	2. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 1	10. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 5	3. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 1	11. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 5	4. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 2	12. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 6	5. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 2	13. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 6	6. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 3	14. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 7	7. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 3	15. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 7	8. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 4	
1. 導入。講義の目的と計画の説明。	9. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 4																				
2. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 1	10. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 5																				
3. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 1	11. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 5																				
4. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 2	12. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 6																				
5. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 2	13. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 6																				
6. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 3	14. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 7																				
7. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 3	15. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 7																				
8. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 4																					
◇ 成績評価の方法	口頭発表 (30%)、議論への参加状況 (10%)、レポート (60%)																				
◇ 教科書・参考書	講義中に随時紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	講義で取り上げる論文は各自読んでおくこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
中 国 思 想 各 論 Chinese Thought (Special Lecture)	2	非常勤 講師 近 藤 浩 之	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI302J				
◆ 授業題目	諸子の「辯」の論理と、『易』の術数の思考 (The Logic of "Bian" (debate) and The Mathematics of I-Ching)				
◆ 目的・概要	諸子の「辯」の論理と、『易』の術数の思考 中国の戦国諸子の「辯」(言語哲学、論理学)に関わる資料の読解を通じて、諸子百家の言説の思想と論理(思考方法)に対する理解を深める。また、馬王堆漢墓帛書『周易』と関連資料の読解を通じて、戦国時代から漢代にかけての『易』と術数に関する諸言説について、その思想と論理(思考方法)に対する理解を深める。				
◆ 到達目標	両者の思想や論理に対する分析や比較を通じて、中国思想独特の思考方法を理解する。 中国戦国時代における諸子の言説とその基盤となっている「辯」の論理を、現代の思考法にとらわれることなく、原典の漢文に即して把握するとともに、それに基づいて古代思想の構造を復元していく手法を身につける。また、『易』とそれをめぐる術数の論理の展開を、出土文字資料を含む原典に即して把握するとともに、原典を根拠にして思想史を再構成していく手法を身につける。				
◆ 授業内容・方法	1. 導入：張家山漢墓竹簡『算數書』より見る算数の論理(抽象的思考法と具体的思考法) 2. 『墨子』小取篇より見る日常言語の論理 1(「是にして然り」と「是にして然らず」) 3. 『墨子』小取篇より見る日常言語の論理 2(「是ならずして然り」その他) 4. 『莊子』齊物論篇より見る是非論争の論理 1(是非の「辯」について) 5. 『莊子』齊物論篇より見る是非論争の論理 2(類と不類は同類?) 6. 諸子百家の「辯」と論理(『孟子』を読み直す) 7. 馬王堆漢墓帛書『周易』の構造と内容	8. 帛書『周易』と今本『周易』より見る易学思想史 1(二三子篇を中心に) 9. 帛書『周易』と今本『周易』より見る易学思想史 2(要篇と繆和篇を中心に) 10. 王家台秦墓竹簡『歸藏』について 11. 桃源瑞仙『百衲襖』(『易抄』)と朱熹「筮儀」1(本筮法に関する解説) 12. 桃源瑞仙『百衲襖』(『易抄』)と朱熹「筮儀」2(本筮法の実践) 13. 擲錢法に対する桃源瑞仙の講抄 1(擲錢法に関する解説) 14. 擲錢法に対する桃源瑞仙の講抄 2(擲錢法の実践) 15. まとめ			
◇ 成績評価の方法	毎回の授業における質問票、授業への参加態度、授業終了後のレポートの内容を総合して、授業内容の理解度と到達目標の達成度を評価する。				
◇ 教科書・参考書	毎回、事前に資料プリントを配布する。『易』に関する参考書は次の通り。三浦国雄『【増訂】易経』(東洋書院、2008年) ISBN: 978-4-88594-408-6(用語解説・重要論文も収録されていて有益。)朱伯崑・伊東倫厚『易学哲学史』(朋友書店、2009年) ISBN: 978-4-89281-120-3(易学の思想史を原典に拠りつつしっかりと記述した名著の翻訳。)				
◇ 授業時間外学習	事前に配布するプリントに目を通して置く。授業内容を復習しておく。				
その他：学習の理解度に応じて、授業内容や進度が変更される場合がある。 授業内容の一部を、馬王堆漢墓帛書『戦国縦横家書』の読解と解説に変更する場合もある。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
中 国 思 想 演 習 Chinese Thought (Seminar)	2	准教授 齋 藤 智 寛	5	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI310J				
◆ 授業題目	中国仏教原典読解入門 (Primary reading in the Chinese Buddhist works)				
◆ 目的・概要	清・楊文会撰、民国・万鈞注『仏教宗派詳注』を輪読会形式で読む。いわゆる仏教漢文の読解能力を身につけながら、中国仏教各宗派の歴史と教理について一定の理解を得ることを目的とする。				
◆ 到達目標	仏教的題材に特有の語彙語法で記された古典中国文を正確に読むことができる。				
◆ 授業内容・方法	1. 導入。楊文会と清末民初の仏教について。 2. 『仏教宗派詳注』会説 1 3. 『仏教宗派詳注』会説 2 4. 『仏教宗派詳注』会説 3 5. 『仏教宗派詳注』会説 4 6. 『仏教宗派詳注』会説 5 7. 『仏教宗派詳注』会説 6 8. 『仏教宗派詳注』会説 7	9. 『仏教宗派詳注』会説 8 10. 『仏教宗派詳注』会説 9 11. 『仏教宗派詳注』会説 10 12. 『仏教宗派詳注』会説 11 13. 『仏教宗派詳注』会説 12 14. 『仏教宗派詳注』会説 13 15. 『仏教宗派詳注』会説 14			
◇ 成績評価の方法	発表(80%)、討論への参加状況(20%)				
◇ 教科書・参考書	プリントを配布する。				
◇ 授業時間外学習	毎回の予習のほか、問題になった事柄は授業終了後できるだけ早く各自調べておくこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 思 想 演 習 Chinese Thought (Seminar)	2	准教授 齋藤智寛	6	水	2																
<p>◆ 科目ナンバリング LHM-PHI310J</p> <p>◆ 授業題目 中国仏教原典精読 (Reading in the Chinese Buddhist works)</p> <p>◆ 目的・概要 元・文才『肇論新疏』を輪読会形式で読む。</p> <p>◆ 到達目標 注釈の論旨に従って本論を読むことができる。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 導入。『肇論』とその注釈書について。</td> <td>9. 『肇論新疏』会読 8</td> </tr> <tr> <td>2. 『肇論新疏』会読 1</td> <td>10. 『肇論新疏』会読 9</td> </tr> <tr> <td>3. 『肇論新疏』会読 2</td> <td>11. 『肇論新疏』会読 10</td> </tr> <tr> <td>4. 『肇論新疏』会読 3</td> <td>12. 『肇論新疏』会読 11</td> </tr> <tr> <td>5. 『肇論新疏』会読 4</td> <td>13. 『肇論新疏』会読 12</td> </tr> <tr> <td>6. 『肇論新疏』会読 5</td> <td>14. 『肇論新疏』会読 13</td> </tr> <tr> <td>7. 『肇論新疏』会読 6</td> <td>15. 『肇論新疏』会読 14</td> </tr> <tr> <td>8. 『肇論新疏』会読 7</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 発表 (80%)、討論への参加状況 (20%)</p> <p>◇ 教科書・参考書 プリントを配布する。</p> <p>◇ 授業時間外学習 毎回の予習のほか、問題になった事柄は授業終了後できるだけ早く各自調べておくこと。</p> <p>その他：</p>						1. 導入。『肇論』とその注釈書について。	9. 『肇論新疏』会読 8	2. 『肇論新疏』会読 1	10. 『肇論新疏』会読 9	3. 『肇論新疏』会読 2	11. 『肇論新疏』会読 10	4. 『肇論新疏』会読 3	12. 『肇論新疏』会読 11	5. 『肇論新疏』会読 4	13. 『肇論新疏』会読 12	6. 『肇論新疏』会読 5	14. 『肇論新疏』会読 13	7. 『肇論新疏』会読 6	15. 『肇論新疏』会読 14	8. 『肇論新疏』会読 7	
1. 導入。『肇論』とその注釈書について。	9. 『肇論新疏』会読 8																				
2. 『肇論新疏』会読 1	10. 『肇論新疏』会読 9																				
3. 『肇論新疏』会読 2	11. 『肇論新疏』会読 10																				
4. 『肇論新疏』会読 3	12. 『肇論新疏』会読 11																				
5. 『肇論新疏』会読 4	13. 『肇論新疏』会読 12																				
6. 『肇論新疏』会読 5	14. 『肇論新疏』会読 13																				
7. 『肇論新疏』会読 6	15. 『肇論新疏』会読 14																				
8. 『肇論新疏』会読 7																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 思 想 演 習 Chinese Thought (Seminar)	2	教授 三浦秀一	5	金	2																
<p>◆ 科目ナンバリング LHM-PHI310J</p> <p>◆ 授業題目 王学関連文献精読1 (Reading and Research: the Thought of Wang Yang-ming school 1)</p> <p>◆ 目的・概要 明朝正徳から嘉靖期に活躍した王守仁 (号陽明) の学問の語彙や思考方法の習得を目的として、王畿 (号龍溪) と聶豹 (号双江) とのあいだに交わされた思想的書簡を精読する。体制教学としての朱子学を批判しつつ陽明が構築した学問は、その高弟たちによって洗練される一方、弟子それぞれの個性に従って多様化もした。その高弟のなかでも、龍溪と双江両者の思想は両極に位置するものと評価されるのであり、本講義では、王学の宗旨とも言える「致良知」をめぐる、この両者が各自の主張を述べ合った往復書簡 (王畿と聶豹それぞれの文集に収録される「致知議略」) を取り上げ、その丁寧な現代語訳と注釈の作成をおこなう。</p> <p>◆ 到達目標 王学関連の文献に習熟し、その現代語訳が作成できるようになる。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>2. 訳注の発表と討論</td> <td>10. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>3. 訳注の発表と討論</td> <td>11. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>4. 訳注の発表と討論</td> <td>12. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>5. 訳注の発表と討論</td> <td>13. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>6. 訳注の発表と討論</td> <td>14. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>7. 訳注の発表と討論</td> <td>15. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>8. 訳注の発表と討論</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 発表 (75%)、受講態度 (25%)</p> <p>◇ 教科書・参考書 教科書は使用せずプリントを配布する。参考書は講義のなかで紹介する。</p> <p>◇ 授業時間外学習 担当者は、発表の準備を入念におこなう。担当者以外の受講者も、担当者と同等もしくはそれ以上に、読解のための予習をおこなう。また、発表時に配布されたレジュメ等に関しては、それを改めて読み直し、次回以降の授業に活用する。</p> <p>その他：</p>						1. ガイダンス	9. 訳注の発表と討論	2. 訳注の発表と討論	10. 訳注の発表と討論	3. 訳注の発表と討論	11. 訳注の発表と討論	4. 訳注の発表と討論	12. 訳注の発表と討論	5. 訳注の発表と討論	13. 訳注の発表と討論	6. 訳注の発表と討論	14. 訳注の発表と討論	7. 訳注の発表と討論	15. 訳注の発表と討論	8. 訳注の発表と討論	
1. ガイダンス	9. 訳注の発表と討論																				
2. 訳注の発表と討論	10. 訳注の発表と討論																				
3. 訳注の発表と討論	11. 訳注の発表と討論																				
4. 訳注の発表と討論	12. 訳注の発表と討論																				
5. 訳注の発表と討論	13. 訳注の発表と討論																				
6. 訳注の発表と討論	14. 訳注の発表と討論																				
7. 訳注の発表と討論	15. 訳注の発表と討論																				
8. 訳注の発表と討論																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 思 想 演 習 C h i n e s e T h o u g h t (S e m i n a r)	2	教授 三 浦 秀 一	6	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI310J																				
◆ 授業題目	王学関連文献精読2 (Reading and Research: the Thought of Wang Yang-ming school 2)																				
◆ 目的・概要	<p>明朝正徳から嘉靖期に活躍した王守仁(号陽明)の学問の語彙や思考方法の習得を目的として、王畿(号龍溪)と聶豹(号双江)とのあいだに交わされた思想的書簡を精読する。体制教学としての朱子学を批判しつつ陽明が構築した学問は、その高弟たちによって洗練される一方、弟子それぞれの個性に従って多様化しました。その高弟のなかでも、龍溪と双江両者の思想は両極に位置するものと評価されるのであり、本講義では、王学の宗旨とも言える「致良知」をめぐり、この両者が各自の主張を述べ合った往復書簡(王畿と聶豹それぞれの文集に収録される「致知議略」)を取り上げ、その丁寧な現代語訳と注釈の作成をおこなう。</p>																				
◆ 到達目標	王学関連の文献に習熟し、その現代語訳が作成できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 前期の復習</td> <td>9. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>2. 訳注の発表と討論</td> <td>10. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>3. 訳注の発表と討論</td> <td>11. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>4. 訳注の発表と討論</td> <td>12. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>5. 訳注の発表と討論</td> <td>13. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>6. 訳注の発表と討論</td> <td>14. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>7. 訳注の発表と討論</td> <td>15. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>8. 訳注の発表と討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. 前期の復習	9. 訳注の発表と討論	2. 訳注の発表と討論	10. 訳注の発表と討論	3. 訳注の発表と討論	11. 訳注の発表と討論	4. 訳注の発表と討論	12. 訳注の発表と討論	5. 訳注の発表と討論	13. 訳注の発表と討論	6. 訳注の発表と討論	14. 訳注の発表と討論	7. 訳注の発表と討論	15. 訳注の発表と討論	8. 訳注の発表と討論	
1. 前期の復習	9. 訳注の発表と討論																				
2. 訳注の発表と討論	10. 訳注の発表と討論																				
3. 訳注の発表と討論	11. 訳注の発表と討論																				
4. 訳注の発表と討論	12. 訳注の発表と討論																				
5. 訳注の発表と討論	13. 訳注の発表と討論																				
6. 訳注の発表と討論	14. 訳注の発表と討論																				
7. 訳注の発表と討論	15. 訳注の発表と討論																				
8. 訳注の発表と討論																					
◇ 成績評価の方法	発表(75%)、受講態度(25%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せずプリントを配布する。参考書は講義のなかで紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	担当者は、発表の準備を入念におこなう。担当者以外の受講者も、担当者と同等もしくはそれ以上に、読解のための予習をおこなう。また、発表時に配布されたレジュメ等に関しては、それを改めて読み直し、次回以降の授業に活用する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 史 概 論 Oriental History (General Lecture)	2	准教授 大野晃嗣	3	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS203J																				
◆ 授業題目	中国史概説Ⅰ (Outline History of China)																				
◆ 目的・概要	中国史に関するいくつかのトピックを取り上げ、時代背景を確認しながら解説を加える。 具体的には ・科挙とは何か ・科挙がヨーロッパ社会に与えた影響 ・科挙制度の概要（童子試、郷試、会試、殿試） ・科挙と魯迅の作品について 以上の内容について、それぞれ2、3回ずつ話す予定である。なお1回目はガイダンスである。																				
◆ 到達目標	中国史における重要なトピックについて知識を深めると同時に、それらの内容について自分の意見を持つことができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 科挙制度の概要—郷試 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. 科挙とは何か (1)</td> <td>10. 科挙制度の概要—会試、殿試 (1)</td> </tr> <tr> <td>3. 科挙とは何か (2)</td> <td>11. 科挙制度の概要—会試、殿試 (2)</td> </tr> <tr> <td>4. 科挙がヨーロッパ社会に与えた影響 (1)</td> <td>12. 科挙と魯迅の作品について (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 科挙がヨーロッパ社会に与えた影響 (2)</td> <td>13. 科挙と魯迅の作品について (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 科挙制度の概要—童子試 (1)</td> <td>14. 科挙と魯迅の作品について (3)</td> </tr> <tr> <td>7. 科挙制度の概要—童子試 (2)</td> <td>15. 科挙制度の意義とまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 科挙制度の概要—郷試 (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 科挙制度の概要—郷試 (2)	2. 科挙とは何か (1)	10. 科挙制度の概要—会試、殿試 (1)	3. 科挙とは何か (2)	11. 科挙制度の概要—会試、殿試 (2)	4. 科挙がヨーロッパ社会に与えた影響 (1)	12. 科挙と魯迅の作品について (1)	5. 科挙がヨーロッパ社会に与えた影響 (2)	13. 科挙と魯迅の作品について (2)	6. 科挙制度の概要—童子試 (1)	14. 科挙と魯迅の作品について (3)	7. 科挙制度の概要—童子試 (2)	15. 科挙制度の意義とまとめ	8. 科挙制度の概要—郷試 (1)	
1. ガイダンス	9. 科挙制度の概要—郷試 (2)																				
2. 科挙とは何か (1)	10. 科挙制度の概要—会試、殿試 (1)																				
3. 科挙とは何か (2)	11. 科挙制度の概要—会試、殿試 (2)																				
4. 科挙がヨーロッパ社会に与えた影響 (1)	12. 科挙と魯迅の作品について (1)																				
5. 科挙がヨーロッパ社会に与えた影響 (2)	13. 科挙と魯迅の作品について (2)																				
6. 科挙制度の概要—童子試 (1)	14. 科挙と魯迅の作品について (3)																				
7. 科挙制度の概要—童子試 (2)	15. 科挙制度の意義とまとめ																				
8. 科挙制度の概要—郷試 (1)																					
◇ 成績評価の方法	出席点 (30%) とレポート (70%)。																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布。参考文献は授業中に紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	原典 (漢文) を使用しながら授業を進めるので、予習と復習が必要。また指示した書籍の読了を求めることがある。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 史 概 論 Oriental History (General Lecture)	2	准教授 大野晃嗣	4	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS203J																				
◆ 授業題目	中国史概説Ⅱ (Outline History of China)																				
◆ 目的・概要	中国史に関するいくつかのトピックを取り上げ、時代背景を確認しながら解説を加える。 具体的には ・中国史と歴史書 ・正史と紀伝体 ・『史記』と司馬遷 ・正史から小説へ 以上の内容について、それぞれ2、3回ずつ話す予定である。なお1回目はガイダンスである。																				
◆ 到達目標	中国史における重要なトピックについて知識を深めると同時に、それらの内容について自分の意見を持つことができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 『史記』と司馬遷 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. 中国史と歴史書 (1)</td> <td>10. 『史記』と司馬遷 (3)</td> </tr> <tr> <td>3. 中国史と歴史書 (2)</td> <td>11. 正史から小説へ (1)</td> </tr> <tr> <td>4. 中国史と歴史書 (3)</td> <td>12. 正史から小説へ (2)</td> </tr> <tr> <td>5. 正史と紀伝体 (1)</td> <td>13. 正史から小説へ (3)</td> </tr> <tr> <td>6. 正史と紀伝体 (2)</td> <td>14. 正史から小説へ (4)</td> </tr> <tr> <td>7. 正史と紀伝体 (3)</td> <td>15. 中国史における歴史書編纂の意義とまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 『史記』と司馬遷 (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 『史記』と司馬遷 (2)	2. 中国史と歴史書 (1)	10. 『史記』と司馬遷 (3)	3. 中国史と歴史書 (2)	11. 正史から小説へ (1)	4. 中国史と歴史書 (3)	12. 正史から小説へ (2)	5. 正史と紀伝体 (1)	13. 正史から小説へ (3)	6. 正史と紀伝体 (2)	14. 正史から小説へ (4)	7. 正史と紀伝体 (3)	15. 中国史における歴史書編纂の意義とまとめ	8. 『史記』と司馬遷 (1)	
1. ガイダンス	9. 『史記』と司馬遷 (2)																				
2. 中国史と歴史書 (1)	10. 『史記』と司馬遷 (3)																				
3. 中国史と歴史書 (2)	11. 正史から小説へ (1)																				
4. 中国史と歴史書 (3)	12. 正史から小説へ (2)																				
5. 正史と紀伝体 (1)	13. 正史から小説へ (3)																				
6. 正史と紀伝体 (2)	14. 正史から小説へ (4)																				
7. 正史と紀伝体 (3)	15. 中国史における歴史書編纂の意義とまとめ																				
8. 『史記』と司馬遷 (1)																					
◇ 成績評価の方法	出席点 (30%) とレポート (70%)。																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布。参考文献は授業中に紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	原典 (漢文) を使用しながら授業を進めるので、予習と復習が必要。また指示した書籍の読了を求めることがある。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
東 洋 史 基 礎 講 読 Oriental History (Introductory Reading)	2	教 授 川 合 安	3	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS209J				
◆ 授業題目	『資治通鑑』講読 (ZIZHITONGJIAN (Reading))				
◆ 目的・概要	中国史研究 (特に前近代) には、中国古典文 (漢文) で書かれた史料 (歴史資料) の読解が必須である。そのための基礎訓練の材料として『資治通鑑』隋紀 (隋の時代について書かれた部分) を取り上げる。受講者は、六回目の授業以降、全員、当該部分の書き下し文と現代日本語訳を準備し、発表する。				
◆ 到達目標	中国古典文 (漢文) で書かれた史料を、辞書を使いこなして読解できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス (漢文訓読について、辞書について等) 9. 『資治通鑑』隋紀講読: 『漢語大詞典』も使って読む (1) 2. 漢文語法概説 10. 『資治通鑑』隋紀講読: 『漢語大詞典』も使って読む (2) 3. 『資治通鑑』について 11. 『資治通鑑』隋紀講読: 『漢語大詞典』も使って読む (3) 4. 隋代史概説 12. 『資治通鑑』隋紀講読: 関連史料も参照しつつ読む (1) 5. 『資治通鑑』訓読、現代日本語訳の事例 13. 『資治通鑑』隋紀講読: 関連史料も参照しつつ読む (2) 6. 『資治通鑑』隋紀講読: 漢和辞典を使って読んでみる (1) 14. 『資治通鑑』隋紀講読: 関連史料も参照しつつ読む (3) 7. 『資治通鑑』隋紀講読: 漢和辞典を使って読んでみる (2) 8. 『資治通鑑』隋紀講読: 漢和辞典を使って読んでみる (3) 15. 授業の総括と試験				
◇ 成績評価の方法	出席 (20%)、発表内容 (30%)、試験 (50%)				
◇ 教科書・参考書	教科書: 資料を配布する。 参考書: 小川環樹・西田太一郎『漢文入門』(岩波書店「岩波全書」、1957年)。 ほかは、授業中に紹介する。				
◇ 授業時間外学習	六回目の授業以降、毎回、授業前に当該箇所の書き下し文と現代日本語訳とを準備する。				
その他:					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
東 洋 史 基 礎 講 読 Oriental History (Introductory Reading)	2	教 授 川 合 安	4	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS209J				
◆ 授業題目	『資治通鑑』講読 (ZIZHITONGJIAN (Reading))				
◆ 目的・概要	『資治通鑑』の読解を継続し、中国古典文 (漢文) で書かれた史料を読解するためには、漢和辞典のみに依存した予習では限界があることを体得する。二回目の授業以降、受講者は、全員、書き下し文と現代日本語訳を準備し発表する。あわせて、関連史料の調査結果についても報告する。				
◆ 到達目標	学部演習において最低限必要な、史料読解のための基礎学力を身につけ、手持ちの漢和辞典のみならず、東洋史研究室所蔵の大型辞書や関連の基本的史料などを自由自在に使いこなせるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス (東洋史研究室所蔵の大型辞書や基本史料などの確認) 8. 『資治通鑑』隋紀講読: 各史料間で記述が相違する場合、その理由について考えながら読む (1) 2. 『資治通鑑』隋紀講読: 関連史料 (『隋書』、『旧唐書』、『新唐書』など) との字句の異同に注意しつつ読む (1) 9. 『資治通鑑』隋紀講読: 各史料間で記述が相違する場合、その理由について考えながら読む (2) 3. 『資治通鑑』隋紀講読: 関連史料との字句の異同に注意しつつ読む (2) 10. 『資治通鑑』隋紀講読: 各史料間で記述が相違する場合、その理由について考えながら読む (3) 4. 『資治通鑑』隋紀講読: 関連史料との字句の異同に注意しつつ読む (3) 11. 『資治通鑑』隋紀講読: 関係する研究論文等も参照しつつ読む (1) 5. 『資治通鑑』隋紀講読: 当時の官制など関連事項を調べながら読む (1) 12. 『資治通鑑』隋紀講読: 関係する研究論文等も参照しつつ読む (2) 6. 『資治通鑑』隋紀講読: 当時の官制など関連事項を調べながら読む (2) 13. 『資治通鑑』隋紀講読: 関係する研究論文等も参照しつつ読む (3) 7. 『資治通鑑』隋紀講読: 当時の官制など関連事項を調べながら読む (3) 14. 『資治通鑑』隋紀講読: 関係する研究論文等も参照しつつ読む (4) 15. 総括				
◇ 成績評価の方法	出席 (20%)、発表内容 (80%)				
◇ 教科書・参考書	教科書: 資料を配布する。 参考書: 授業中に紹介する。				
◇ 授業時間外学習	二回目の授業以降、受講者は授業前に、全員、書き下し文と現代日本語訳を準備するほか、東洋史研究室所蔵の関連史料についても調査しておく。				
その他: 東洋史基礎講読 (3セメスター) と連続して履修することが望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 史 各 論 Oriental History (Special Lecture)	2	教授 川 合 安	5	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS304J																				
◆ 授業題目	六朝時代の諸問題 (Subjects of The Six Dynasties Time)																				
◆ 目的・概要	中国の六朝時代（魏晋南北朝時代、220～589）は、秦漢古代帝国の崩壊をうけて、新たな国家秩序構築の模索が行われた時代であった。講義では、この時代につくられた様々な国家の形成過程や構造について分析し、当時を生きた人々の社会的活動や思想などの具体相を浮かび上がらせることを試みる。この混沌と模索の時代を生きた人々の営みについて、自分なりに考えつつ、中国史における六朝時代の意味について理解を深めることを目的とする。																				
◆ 到達目標	六朝時代に形成された諸国家それぞれの政治・社会体制の特質を理解し、興味をもった論点について、自分なりに調査して論じることができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス、六朝時代の概略</td> <td>9. 東晋中期政治史 (1)</td> </tr> <tr> <td>2. 秦漢古代帝国の概要</td> <td>10. 東晋中期政治史 (2)</td> </tr> <tr> <td>3. 九品官人法の制定と魏晋貴族制 (1)</td> <td>11. 東晋貴族制の特質 (1)</td> </tr> <tr> <td>4. 九品官人法の制定と魏晋貴族制 (2)</td> <td>12. 東晋貴族制の特質 (2)</td> </tr> <tr> <td>5. 九品官人法の制定と魏晋貴族制 (3)</td> <td>13. 東晋王朝の崩壊と劉宋王朝の成立 (1)</td> </tr> <tr> <td>6. 東晋王朝の成立 (1)</td> <td>14. 東晋王朝の崩壊と劉宋王朝の成立 (2)</td> </tr> <tr> <td>7. 東晋王朝の成立 (2)</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. 東晋王朝の成立 (3)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス、六朝時代の概略	9. 東晋中期政治史 (1)	2. 秦漢古代帝国の概要	10. 東晋中期政治史 (2)	3. 九品官人法の制定と魏晋貴族制 (1)	11. 東晋貴族制の特質 (1)	4. 九品官人法の制定と魏晋貴族制 (2)	12. 東晋貴族制の特質 (2)	5. 九品官人法の制定と魏晋貴族制 (3)	13. 東晋王朝の崩壊と劉宋王朝の成立 (1)	6. 東晋王朝の成立 (1)	14. 東晋王朝の崩壊と劉宋王朝の成立 (2)	7. 東晋王朝の成立 (2)	15. 総括	8. 東晋王朝の成立 (3)	
1. ガイダンス、六朝時代の概略	9. 東晋中期政治史 (1)																				
2. 秦漢古代帝国の概要	10. 東晋中期政治史 (2)																				
3. 九品官人法の制定と魏晋貴族制 (1)	11. 東晋貴族制の特質 (1)																				
4. 九品官人法の制定と魏晋貴族制 (2)	12. 東晋貴族制の特質 (2)																				
5. 九品官人法の制定と魏晋貴族制 (3)	13. 東晋王朝の崩壊と劉宋王朝の成立 (1)																				
6. 東晋王朝の成立 (1)	14. 東晋王朝の崩壊と劉宋王朝の成立 (2)																				
7. 東晋王朝の成立 (2)	15. 総括																				
8. 東晋王朝の成立 (3)																					
◇ 成績評価の方法	出席 (30%)、レポート (70%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書：資料を配布 参考書：川勝義雄『魏晋南北朝』（講談社「学術文庫」2003年）。ほかは、講義中に紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	配布した資料に目を通し、理解できた点、理解できなかった点を整理しておく。理解できなかった点については、参考書等を参照して調査し、それでもわからない点については、授業時間中でも質問を受け付ける。また、授業時間外に質問してもよい。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 史 各 論 Oriental History (Special Lecture)	2	教授 川 合 安	6	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS304J																				
◆ 授業題目	隋唐時代の諸問題 (Subjects of Sui and Tang dynasties)																				
◆ 目的・概要	隋唐時代は、六朝時代の政治的分裂を克服して統一を回復した時代であったが、なお、多くの矛盾をかかえていた。このような隋唐時代の政治、制度等の諸問題について考察し、理解を深める。																				
◆ 到達目標	隋唐時代の政治、制度等の諸問題について、その概略を理解し、特に関心をもった問題について、関連の研究論文等の調査を進め、考察できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. はじめに：隋唐史の史料</td> <td>9. 天宝時代と安史の乱</td> </tr> <tr> <td>2. 隋王朝の政治</td> <td>10. 唐の財政の回復</td> </tr> <tr> <td>3. 貞観の治</td> <td>11. 徳宗時代</td> </tr> <tr> <td>4. 唐と東突厥</td> <td>12. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究 (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 唐と吐蕃</td> <td>13. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 唐の官制</td> <td>14. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究 (2)</td> </tr> <tr> <td>7. 唐の軍制</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. 唐の財政</td> <td></td> </tr> </table>					1. はじめに：隋唐史の史料	9. 天宝時代と安史の乱	2. 隋王朝の政治	10. 唐の財政の回復	3. 貞観の治	11. 徳宗時代	4. 唐と東突厥	12. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究 (1)	5. 唐と吐蕃	13. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究 (2)	6. 唐の官制	14. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究 (2)	7. 唐の軍制	15. 総括	8. 唐の財政	
1. はじめに：隋唐史の史料	9. 天宝時代と安史の乱																				
2. 隋王朝の政治	10. 唐の財政の回復																				
3. 貞観の治	11. 徳宗時代																				
4. 唐と東突厥	12. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究 (1)																				
5. 唐と吐蕃	13. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究 (2)																				
6. 唐の官制	14. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究 (2)																				
7. 唐の軍制	15. 総括																				
8. 唐の財政																					
◇ 成績評価の方法	出席 (30%)、レポート (70%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書：資料を配布する。 参考書：布目潮瀨・栗原益男『隋唐帝国』（講談社「学術文庫」、1997年）。その他、授業中に紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	授業で配布した資料に目を通し、理解できた点、理解できなかった点を整理しておく。理解できなかった点については、参考書等で独力で調査し解決することを試み、それでも不明な点は、随時質問する。授業時間中に質問してもよい。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 史 各 論 Oriental History (Special Lecture)	2	准教授 大野晃嗣	5	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS304J																				
◆ 授業題目	中国近世の諸問題Ⅰ (History of Early Modern China)																				
◆ 目的・概要	中国近世の政治と官僚制度などについての基礎的知識を身につけると同時に、英語文献の読解力を養う。																				
◆ 到達目標	中国近世史に関する英文学術著作を題材に、中国近世史の官僚機構と政治体制について基本的な知識を学ぶ。なお、英語文献を日本語訳をしながら授業を進めるため、事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス－史料の背景と工具書－</td> <td>9. 中国近世の諸問題Ⅰ－(8)及び行政区画の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>2. 中国近世の諸問題Ⅰ－(1)及び行政制度の基礎知識</td> <td>10. 中国近世の諸問題Ⅰ－(9)及び人事制度の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>3. 中国近世の諸問題Ⅰ－(2)及び行政制度の基礎知識</td> <td>11. 中国近世の諸問題Ⅰ－(10)及び人事制度の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>4. 中国近世の諸問題Ⅰ－(3)及び法律制度の基礎知識</td> <td>12. 中国近世の諸問題Ⅰ－(11)及び人事制度の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>5. 中国近世の諸問題Ⅰ－(4)及び法律制度の基礎知識</td> <td>13. 中国近世の諸問題Ⅰ－(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 中国近世の諸問題Ⅰ－(5)及び法律制度の基礎知識</td> <td>14. 中国近世の諸問題Ⅰ－(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 中国近世の諸問題Ⅰ－(6)及び行政区画の基礎知識</td> <td>15. 中国近世の諸問題Ⅰ－(14)及びまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 中国近世の諸問題Ⅰ－(7)及び行政区画の基礎知識</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス－史料の背景と工具書－	9. 中国近世の諸問題Ⅰ－(8)及び行政区画の基礎知識	2. 中国近世の諸問題Ⅰ－(1)及び行政制度の基礎知識	10. 中国近世の諸問題Ⅰ－(9)及び人事制度の基礎知識	3. 中国近世の諸問題Ⅰ－(2)及び行政制度の基礎知識	11. 中国近世の諸問題Ⅰ－(10)及び人事制度の基礎知識	4. 中国近世の諸問題Ⅰ－(3)及び法律制度の基礎知識	12. 中国近世の諸問題Ⅰ－(11)及び人事制度の基礎知識	5. 中国近世の諸問題Ⅰ－(4)及び法律制度の基礎知識	13. 中国近世の諸問題Ⅰ－(12)	6. 中国近世の諸問題Ⅰ－(5)及び法律制度の基礎知識	14. 中国近世の諸問題Ⅰ－(13)	7. 中国近世の諸問題Ⅰ－(6)及び行政区画の基礎知識	15. 中国近世の諸問題Ⅰ－(14)及びまとめ	8. 中国近世の諸問題Ⅰ－(7)及び行政区画の基礎知識	
1. ガイダンス－史料の背景と工具書－	9. 中国近世の諸問題Ⅰ－(8)及び行政区画の基礎知識																				
2. 中国近世の諸問題Ⅰ－(1)及び行政制度の基礎知識	10. 中国近世の諸問題Ⅰ－(9)及び人事制度の基礎知識																				
3. 中国近世の諸問題Ⅰ－(2)及び行政制度の基礎知識	11. 中国近世の諸問題Ⅰ－(10)及び人事制度の基礎知識																				
4. 中国近世の諸問題Ⅰ－(3)及び法律制度の基礎知識	12. 中国近世の諸問題Ⅰ－(11)及び人事制度の基礎知識																				
5. 中国近世の諸問題Ⅰ－(4)及び法律制度の基礎知識	13. 中国近世の諸問題Ⅰ－(12)																				
6. 中国近世の諸問題Ⅰ－(5)及び法律制度の基礎知識	14. 中国近世の諸問題Ⅰ－(13)																				
7. 中国近世の諸問題Ⅰ－(6)及び行政区画の基礎知識	15. 中国近世の諸問題Ⅰ－(14)及びまとめ																				
8. 中国近世の諸問題Ⅰ－(7)及び行政区画の基礎知識																					
◇ 成績評価の方法	発表用のレジュメ及び出席点。																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 史 各 論 Oriental History (Special Lecture)	2	准教授 大野晃嗣	6	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS304J																				
◆ 授業題目	中国近世の諸問題Ⅱ (History of Early Modern China)																				
◆ 目的・概要	中国近世の政治と官僚制度などについての基礎的知識を身につけると同時に、英語文献の読解力を養う。																				
◆ 到達目標	中国近世史に関する英文学術著作を題材に、中国近世史の官僚機構と政治体制について基本的な知識を学ぶ。なお、英語文献を日本語訳をしながら授業を進めるため、事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス－史料の背景と工具書－</td> <td>9. 中国近世の諸問題Ⅱ－(8)及び行政区画の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>2. 中国近世の諸問題Ⅱ－(1)及び行政制度の基礎知識</td> <td>10. 中国近世の諸問題Ⅱ－(9)及び人事制度の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>3. 中国近世の諸問題Ⅱ－(2)及び行政制度の基礎知識</td> <td>11. 中国近世の諸問題Ⅱ－(10)及び人事制度の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>4. 中国近世の諸問題Ⅱ－(3)及び法律制度の基礎知識</td> <td>12. 中国近世の諸問題Ⅱ－(11)及び人事制度の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>5. 中国近世の諸問題Ⅱ－(4)及び法律制度の基礎知識</td> <td>13. 中国近世の諸問題Ⅱ－(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 中国近世の諸問題Ⅱ－(5)及び法律制度の基礎知識</td> <td>14. 中国近世の諸問題Ⅱ－(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 中国近世の諸問題Ⅱ－(6)及び行政区画の基礎知識</td> <td>15. 中国近世の諸問題Ⅱ－(14)及びまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 中国近世の諸問題Ⅱ－(7)及び行政区画の基礎知識</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス－史料の背景と工具書－	9. 中国近世の諸問題Ⅱ－(8)及び行政区画の基礎知識	2. 中国近世の諸問題Ⅱ－(1)及び行政制度の基礎知識	10. 中国近世の諸問題Ⅱ－(9)及び人事制度の基礎知識	3. 中国近世の諸問題Ⅱ－(2)及び行政制度の基礎知識	11. 中国近世の諸問題Ⅱ－(10)及び人事制度の基礎知識	4. 中国近世の諸問題Ⅱ－(3)及び法律制度の基礎知識	12. 中国近世の諸問題Ⅱ－(11)及び人事制度の基礎知識	5. 中国近世の諸問題Ⅱ－(4)及び法律制度の基礎知識	13. 中国近世の諸問題Ⅱ－(12)	6. 中国近世の諸問題Ⅱ－(5)及び法律制度の基礎知識	14. 中国近世の諸問題Ⅱ－(13)	7. 中国近世の諸問題Ⅱ－(6)及び行政区画の基礎知識	15. 中国近世の諸問題Ⅱ－(14)及びまとめ	8. 中国近世の諸問題Ⅱ－(7)及び行政区画の基礎知識	
1. ガイダンス－史料の背景と工具書－	9. 中国近世の諸問題Ⅱ－(8)及び行政区画の基礎知識																				
2. 中国近世の諸問題Ⅱ－(1)及び行政制度の基礎知識	10. 中国近世の諸問題Ⅱ－(9)及び人事制度の基礎知識																				
3. 中国近世の諸問題Ⅱ－(2)及び行政制度の基礎知識	11. 中国近世の諸問題Ⅱ－(10)及び人事制度の基礎知識																				
4. 中国近世の諸問題Ⅱ－(3)及び法律制度の基礎知識	12. 中国近世の諸問題Ⅱ－(11)及び人事制度の基礎知識																				
5. 中国近世の諸問題Ⅱ－(4)及び法律制度の基礎知識	13. 中国近世の諸問題Ⅱ－(12)																				
6. 中国近世の諸問題Ⅱ－(5)及び法律制度の基礎知識	14. 中国近世の諸問題Ⅱ－(13)																				
7. 中国近世の諸問題Ⅱ－(6)及び行政区画の基礎知識	15. 中国近世の諸問題Ⅱ－(14)及びまとめ																				
8. 中国近世の諸問題Ⅱ－(7)及び行政区画の基礎知識																					
◇ 成績評価の方法	発表用のレジュメ及び出席点。																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
東 洋 史 各 論 Oriental History (Special Lecture)	2	非常勤 講師 岡 洋 樹	5	水	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS304J				
◆ 授業題目	清朝とモンゴル (The Qing dynasty and the Mongols)				
◆ 目的・概要	モンゴル遊牧民は、17世紀初頭から漸次マンジュ (満洲) の大清国により征服され、中国本土、モンゴル、チベット、東トルキスタンとともに1911年までその支配を受けた。清朝はモンゴルを外藩と呼ばれるカテゴリーのもとで支配したが、その支配は、中国ばかりでなく、近現代におけるモンゴル民族形成の基盤ともなった。本講義では、清代モンゴル史の研究史と課題、史料状況を整理した上で、清のモンゴル統治の特質と、北アジア遊牧民史における歴史的位を考察する。				
◆ 到達目標	北方の遊牧民と南方の定着農耕民の歴史的関係のダイナミズムの帰結として成立した大清国が、両者をいかに統合し、安定的な統治を実現したのかを、モンゴルを視座とすることによって複眼的に考察するとともに、遊牧民史研究におけるこの時代の意義を考察する。これにより近代東北アジアの文化的多様性や政治的諸事象のマトリクスとしてのその歴史的意義や、さらには歴史理解の多面的・多元的性格を理解することを目標とする。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 清代モンゴル研究史の諸課題 清代モンゴル史の史料 1：清朝編纂史料 (実録・方略・則例等) 清代モンゴル史の史料 2：満蒙文檔案・年代記史料等。1テーマごとに2回の講義を予定するが、2回目の講義ではなるべくディスカッションの時間を取り、討議を行うようにしたい (以下も同じ)。 清朝のモンゴル統治形成過程の諸問題 1：王公制度・盟旗制度の概要と問題点 清朝のモンゴル統治形成過程の諸問題 2：北元期から清代への統治構造の連続性 清朝のモンゴル統治におけるアルパ 1：モンゴルに課されたアルパ (貢租賦役) の概要 清朝のモンゴル統治におけるアルパ 2：遊牧民統治におけるアルパの意義 清代モンゴルの社会構造と遊牧民統治 1：モンゴル王公による属民支配 清代モンゴルの社会構造と遊牧民統治 2：清朝の外藩統治におけるモンゴル支配氏族の役割 「封禁政策」論再考 1：清朝の蒙漢分離統治の法制史的再検討 「封禁政策」論再考 2：清代モンゴルにおける人の移動 清代モンゴル人の歴史認識 1：清朝の歴史記述におけるモンゴル 清代モンゴル人の歴史認識 2：清代モンゴルの年代記における歴史認識 清朝のモンゴル統治 (ディスカッション) 講義の総括 				
◇ 成績評価の方法	出席 50%、レポート 50%				
◇ 教科書・参考書	参考文献は、講義の中で逐次紹介する。				
◇ 授業時間外学習	紹介した文献を読み、また講義の内容について咀嚼しつつ、疑問点を整理しながら、ディスカッションに準備してほしい。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
東 洋 史 各 論 Oriental History (Special Lecture)	2	非常勤 講師 平 田 茂 樹	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS304J				
◆ 授業題目	宋代社会の空間とネットワーク (The Networks and Spheres in Song Societies)				
◆ 目的・概要	前近代中国社会は、日本、西欧の中世、近世などに見られた村落共同体、ギルド、社団などの「法共同体」を基礎とする社会ではなく、血縁、地縁、学縁、業縁などの各種のネットワークを基礎に、それらを取捨選択して行く社会であったと考えられている。本講では、宋代社会の各種史料を読み解きながら、ネットワーク社会としての宋代の実態を論じていく。				
◆ 到達目標	①宋代社会の構造を「システム」、「空間」、「ネットワーク」の三つの要素から理解する。 ②宋代の各種史料の中からどのように社会の実態を読み取るのか、史料解析方法を修得する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス：前近代中国社会は「共同体」あるいは「ネットワーク」社会か？ 宋代の政治の仕組み：「御前会議」 宋代の政治の仕組み：「言路」 宋代の政治の仕組み：「対」と「議」 宋代の朋党とは何か？ 宋代の科挙社会：科挙をめぐる「システム」 宋代の科挙社会：科挙をめぐる「空間」 宋代の科挙社会：科挙をめぐる「ネットワーク」 絵画史料 (『清明上河図』) の世界から見る宋代社会 手紙史料から見る宋代社会のネットワーク 手紙史料から見る宋代社会のコミュニケーション 日記史料から見る宋代社会 墓誌銘から見る宋代社会 小説史料 (『夷堅志』) から見る宋代社会 まとめ：宋代史料の新たな可能性 				
◇ 成績評価の方法	レポート80%、平常点 (小レポートやコメント・シートなど) 20%				
◇ 教科書・参考書	参考書：平田茂樹『科挙と官僚制』(山川出版社) 平田茂樹『宋代政治構造研究』(汲古書院) 伊原弘・小島毅編『知識人の諸相—中国宋代を基点として』(勉誠出版)				
◇ 授業時間外学習	配布資料や紹介した文献を読みこんで、授業内容の理解に努めること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
東 洋 史 各 論 Oriental History (Special Lecture)	2	非常勤 講師 岩 井 茂 樹	集 中 (6)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS304J				
◆ 授業題目	近世東アジアの通商と外交 (Trade and International Relation of the Early Modern East Asia)				
◆ 目的・概要	東アジアには中国中心の外交―通商秩序が存在していた。それは朝貢体制とよばれることがある。天朝をもって自認する中国の王朝は国内の統一をはたすと、周辺には対等者の存在を認めず、諸外国の君主を臣従させる儀礼にもとづいて対外関係を構築しようとした。その一方で、近世になると国際貿易が拡大し、それがもたらす利益は国家経済にとって重要なものとなった。宋元時代における市舶司貿易は、君主間の関係と貿易を切り離すものであったが、明は朝貢と貿易を一元化する政策を採用した。これによって、中国の対外関係は通商をめぐる軋轢を抱えこむこととなった。清代1684年における海禁の解除と海関の設置はこうした軋轢の解決策として選択された。この講義ではこうした歴史的推移を、関係資料を解説しながら議論する。				
◆ 到達目標	近世の東アジアの国際関係について基本的な知識と問題分析の観点を習得する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宋、元時代の対外関係と市舶司貿易 2. 宋、元時代の対外関係と市舶司貿易 (続) 3. 明初の朝貢招致策と対外礼制 4. 明初の朝貢招致策と対外礼制 (続) 5. 日明関係の悪化と明の海禁と海防 6. 日本と朝鮮の冊封 7. 遣明船関係資料からみる貿易と外交 8. 16世紀前半、広州の朝貢と貿易の推移 9. 嘉靖大倭寇期における朝貢－互市論 10. 嘉靖大倭寇期における朝貢－互市論 (続) 11. 嘉靖大倭寇期における朝貢－互市論 (続々) 12. 北辺における朝貢の変質 13. 北辺における朝貢の変質 (続) 14. 辺境交易と明清交替 15. まとめと展望 				
◇ 成績評価の方法	講義の最後に筆記試験をおこない、平常点 (30%) とあわせて評価する。				
◇ 教科書・参考書	資料を配付する。				
◇ 授業時間外学習	配付資料に引用する史料の解釈ができるよう精読する。紹介した論文などに眼をとおす。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
東 洋 史 演 習 Oriental History (Seminar)	2	教授 川 合 安	5	金	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS311J				
◆ 授業題目	『晋書』載記の研究 I (A study of JINGSHU ZAIJI)				
◆ 目的・概要	五胡十六国時代の漢文史料、『晋書』載記を読む。受講者は、3回目の授業以降、該当部分の書き下し文と現代日本語訳を準備してくるほか、『晋書』載記以外の関連史料も参照して、『晋書』載記の記述と比較検討し、その結果を発表する。このような作業を通じて、漢文史料読解の手続きを体得し、漢文読解能力の向上を目指す。				
◆ 到達目標	中国古代・中世の漢文史料を読むための基本的な手続きを理解できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (授業の概略、『晋書』載記とは) 2. 五胡十六国時代の概略 3. 『晋書』載記を、辞書等を使って読む (1) 4. 『晋書』載記を、辞書等を使って読む (2) 5. 『晋書』載記を、辞書等を使って読む (3) 6. 『晋書』載記を、関連史料と比較しながら読む (1) 7. 『晋書』載記を、関連史料と比較しながら読む (2) 8. 『晋書』載記を、関連史料と比較しながら読む (3) 9. 『晋書』載記を、関連史料と比較しながら読む (4) 10. 『晋書』載記を、関連史料と比較しながら読む (5) 11. 『晋書』載記を、関連の研究論文等も調査しながら読む (1) 12. 『晋書』載記を、関連の研究論文等も調査しながら読む (2) 13. 『晋書』載記を、関連の研究論文等も調査しながら読む (3) 14. 『晋書』載記を、関連の研究論文等も調査しながら読む (4) 15. 『晋書』載記を、関連の研究論文等も調査しながら読む (5) 				
◇ 成績評価の方法	出席 (20%)、発表内容 (80%)				
◇ 教科書・参考書	教科書：資料を配布する。 参考書：三崎良章『五胡十六国【新訂版】』(東方書店「東方選書」2012年)。 その他、授業中に紹介する。				
◇ 授業時間外学習	3回目の授業以降、事前に、該当部分の書き下し文と現代日本語訳を準備してくるほか、『晋書』載記以外の関連史料も参照して、『晋書』載記の記述と比較検討する。				
その他：東洋史基礎講読4単位を既に履修していることが望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
東 洋 史 演 習 Oriental History (Seminar)	2	教授 川 合 安	6	金	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS311J				
◆ 授業題目	『晋書』載記の研究Ⅱ (A study of JINGSHU ZAIJI)				
◆ 目的・概要	『晋書』載記の研究Ⅰの作業を継続する。Ⅱでは、当該部分の内容に関連する研究論文の調査の比重を高め、先行研究の成果を、現代日本語訳に反映させることを徹底するとともに、必要に応じて先行研究批判も行う。これらの作業を通じて、漢文読解力の一層の向上と、中国古代中世史研究の具体的方法の習得を目指す。				
◆ 到達目標	漢文読解力を向上させ、中国古代中世史の研究方法を身に着ける。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (授業の概要) 2. 『晋書』載記を、関連研究論文を参照しながら読む (1) 3. 『晋書』載記を、関連研究論文を参照しながら読む (2) 4. 『晋書』載記を、関連研究論文を参照しながら読む (3) 5. 『晋書』載記を、関連研究論文間の見解の相違に着目しながら読む (1) 6. 『晋書』載記を、関連研究論文間の見解の相違に着目しながら読む (2) 7. 『晋書』載記を、関連研究論文間の見解の相違に着目しながら読む (3) 8. 『晋書』載記を、関連研究論文間の見解の相違に着目しながら読む (4) 9. 『晋書』載記を、関連研究論文間の見解の相違に着目しながら読む (5) 10. 『晋書』載記を、関連研究論文間の見解の相違に着目しながら読む (6) 11. 『晋書』載記の記述に基づいて、先行研究の見解を批判する (1) 12. 『晋書』載記の記述に基づいて、先行研究の見解を批判する (2) 13. 『晋書』載記の記述に基づいて、先行研究の見解を批判する (3) 14. 『晋書』載記の記述に基づいて、新たな見解を提起する (1) 15. 『晋書』載記の記述に基づいて、新たな見解を提起する (2) 				
◇ 成績評価の方法	出席 (20%)、発表内容 (80%)				
◇ 教科書・参考書	教科書：資料を配布する。 参考書：三崎良章『五胡十六国【新訂版】』(東方書店「東方選書」2012年)。その他、授業中に紹介する。				
◇ 授業時間外学習	2回目の授業以降、事前に、該当部分の書き下し文、現代日本語訳を作成するほか、関連史料との記述の異同の調査考察、関連研究論文等の調査考察を行う。				
その他：『晋書』載記の研究Ⅰと連続して履修することが望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
東 洋 史 演 習 Oriental History (Seminar)	2	准教授 大 野 晃 嗣	5	水	5
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS311J				
◆ 授業題目	明清史料研究Ⅰ (Studies of Ming and Qing historical sources)				
◆ 目的・概要	中国明清時代の漢文史料読解を通じて、読むための手続き (史料の探し方や辞書・索引の使い方等) を習得する。その上で様々な課題探究に対する基礎知識を得る。				
◆ 到達目標	内容読解に当たっては、同時代人の文集等から関係史料を収集して、理解を深める訓練を行う。受講者は、全員毎回書き下し文を準備し、口頭で発表を行う。日本語を母語としないものは訓読、日本語翻訳どちらで発表してもよい。なお、訓読の場合でも適宜日本語訳について問う。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス－史料の背景と工具書の使い方－ 2. 明清史料研究Ⅰ-(1) 3. 明清史料研究Ⅰ-(2) 4. 明清史料研究Ⅰ-(3) 5. 明清史料研究Ⅰ-(4) 6. 明清史料研究Ⅰ-(5) 7. 明清史料研究Ⅰ-(6) 8. 明清史料研究Ⅰ-(7) 9. 明清史料研究Ⅰ-(8) 10. 明清史料研究Ⅰ-(9) 11. 明清史料研究Ⅰ-(10) 12. 明清史料研究Ⅰ-(11) 13. 明清史料研究Ⅰ-(12) 14. 明清史料研究Ⅰ-(13) 15. 明清史料研究Ⅰ-(14) 				
◇ 成績評価の方法	発表内容 (平常点)				
◇ 教科書・参考書	プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。				
◇ 授業時間外学習	毎回、予習と復習をした上で出席することが必要。				
その他：東洋史基礎講読を履修したか、履修中であることが望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 史 演 習 Oriental History (Seminar)	2	准教授 大野晃嗣	6	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS311J																				
◆ 授業題目	明清史料研究Ⅱ (Studies of Ming and Qing historical sources)																				
◆ 目的・概要	卒業論文を作成していく上で基本となる漢文史料読解力を向上させると同時に、扱える中国近世史料の知識を増やし、明清時代史の研究方法を理解する。																				
◆ 到達目標	内容読解に当たっては同時代人の文集等から関係史料を収集して、理解を深める訓練を行う。受講者は、全員毎回書き下し文を準備し、口頭で発表を行う。日本語を母語としないものは訓読、日本語翻訳どちらで発表してもよい。なお、訓読の場合でも適宜日本語訳について問う。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. ガイダンス－史料の背景と工具書の使い方－</td> <td style="width: 50%;">9. 明清史料研究Ⅱ - (22)</td> </tr> <tr> <td>2. 明清史料研究Ⅱ - (15)</td> <td>10. 明清史料研究Ⅱ - (23)</td> </tr> <tr> <td>3. 明清史料研究Ⅱ - (16)</td> <td>11. 明清史料研究Ⅱ - (24)</td> </tr> <tr> <td>4. 明清史料研究Ⅱ - (17)</td> <td>12. 明清史料研究Ⅱ - (25)</td> </tr> <tr> <td>5. 明清史料研究Ⅱ - (18)</td> <td>13. 明清史料研究Ⅱ - (26)</td> </tr> <tr> <td>6. 明清史料研究Ⅱ - (19)</td> <td>14. 明清史料研究Ⅱ - (27)</td> </tr> <tr> <td>7. 明清史料研究Ⅱ - (20)</td> <td>15. 明清史料研究Ⅱ - (28)</td> </tr> <tr> <td>8. 明清史料研究Ⅱ - (21)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス－史料の背景と工具書の使い方－	9. 明清史料研究Ⅱ - (22)	2. 明清史料研究Ⅱ - (15)	10. 明清史料研究Ⅱ - (23)	3. 明清史料研究Ⅱ - (16)	11. 明清史料研究Ⅱ - (24)	4. 明清史料研究Ⅱ - (17)	12. 明清史料研究Ⅱ - (25)	5. 明清史料研究Ⅱ - (18)	13. 明清史料研究Ⅱ - (26)	6. 明清史料研究Ⅱ - (19)	14. 明清史料研究Ⅱ - (27)	7. 明清史料研究Ⅱ - (20)	15. 明清史料研究Ⅱ - (28)	8. 明清史料研究Ⅱ - (21)	
1. ガイダンス－史料の背景と工具書の使い方－	9. 明清史料研究Ⅱ - (22)																				
2. 明清史料研究Ⅱ - (15)	10. 明清史料研究Ⅱ - (23)																				
3. 明清史料研究Ⅱ - (16)	11. 明清史料研究Ⅱ - (24)																				
4. 明清史料研究Ⅱ - (17)	12. 明清史料研究Ⅱ - (25)																				
5. 明清史料研究Ⅱ - (18)	13. 明清史料研究Ⅱ - (26)																				
6. 明清史料研究Ⅱ - (19)	14. 明清史料研究Ⅱ - (27)																				
7. 明清史料研究Ⅱ - (20)	15. 明清史料研究Ⅱ - (28)																				
8. 明清史料研究Ⅱ - (21)																					
◇ 成績評価の方法	発表内容 (平常点)																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、予習と復習をした上で出席することが必要。																				
その他：東洋史基礎講読を履修したか、履修中であることが望ましい。なお、第5セメスター読了分からの続きとなるが、一回目にはガイダンスを行い、本セメスターからの参加者にも便宜を図る予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
イ ン ド 仏 教 史 概 論 History of Indian Buddhism (General Lecture)	2	教授 桜井宗信	3	火	1																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI204J																				
◆ 授業題目	インド仏教史概説－その1－ (Outline of Indian Buddhist History 1)																				
◆ 目的・概要	釈尊（紀元前5世紀頃）に始まるインド仏教史の大まかな流れを理解するとともに、釈尊自身の思想とその展開の一端をいわゆる「部派仏教」の段階まで把握することを目指す。																				
◆ 到達目標	釈尊の思想を中心とした初期仏教に関する基礎知識を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 仏教成立時代の社会と思想の概略</td> <td>9. 仏教教団の成立と展開－2－</td> </tr> <tr> <td>2. 釈尊の生涯と主な事蹟－1－</td> <td>10. アショーク王と「法」－1－</td> </tr> <tr> <td>3. 釈尊の生涯と主な事蹟－2－</td> <td>11. アショーク王と「法」－2－</td> </tr> <tr> <td>4. 釈尊の生涯と主な事蹟－3－</td> <td>12. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想－1－</td> </tr> <tr> <td>5. 釈尊の思想－1－</td> <td>13. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想－2－</td> </tr> <tr> <td>6. 釈尊の思想－2－</td> <td>14. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想－3－</td> </tr> <tr> <td>7. 釈尊の思想－3－</td> <td>15. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想－4－</td> </tr> <tr> <td>8. 仏教教団の成立と展開－1－</td> <td></td> </tr> </table>					1. 仏教成立時代の社会と思想の概略	9. 仏教教団の成立と展開－2－	2. 釈尊の生涯と主な事蹟－1－	10. アショーク王と「法」－1－	3. 釈尊の生涯と主な事蹟－2－	11. アショーク王と「法」－2－	4. 釈尊の生涯と主な事蹟－3－	12. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想－1－	5. 釈尊の思想－1－	13. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想－2－	6. 釈尊の思想－2－	14. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想－3－	7. 釈尊の思想－3－	15. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想－4－	8. 仏教教団の成立と展開－1－	
1. 仏教成立時代の社会と思想の概略	9. 仏教教団の成立と展開－2－																				
2. 釈尊の生涯と主な事蹟－1－	10. アショーク王と「法」－1－																				
3. 釈尊の生涯と主な事蹟－2－	11. アショーク王と「法」－2－																				
4. 釈尊の生涯と主な事蹟－3－	12. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想－1－																				
5. 釈尊の思想－1－	13. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想－2－																				
6. 釈尊の思想－2－	14. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想－3－																				
7. 釈尊の思想－3－	15. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想－4－																				
8. 仏教教団の成立と展開－1－																					
◇ 成績評価の方法	レポート [100%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、教員が作成したプリントを配布。																				
◇ 授業時間外学習	レポート作成の準備も兼ねて、講義内で関心を持った事柄に関して参考書を使ってより深く調べてみる。																				
その他：最初の授業において参考書、及びレポートの提出方法等について説明する。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
イ ン ド 仏 教 史 概 論 History of Indian Buddhism (General Lecture)	2	教授 桜井宗信	4	火	1																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI204J																				
◆ 授業題目	インド仏教史概説－その2－ (Outline of Indian Buddhist History 2)																				
◆ 目的・概要	インド大乘仏教史の概略を理解し、『般若経』等の初期大乘経典について学んだのち、中観派・瑜伽行唯識派という大乘仏教思想を代表する二大学派の内容を、基本的な専門用語の理解にも留意しながら把握することを目指す。																				
◆ 到達目標	インドにおける大乘仏教の史的展開と思想に関する基礎知識を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 大乘仏教の出現－1－</td> <td>9. 中期中観思想－2－</td> </tr> <tr> <td>2. 大乘仏教の出現－2－</td> <td>10. 中期中観思想－3－</td> </tr> <tr> <td>3. 初期大乘仏教経典概説－1－</td> <td>11. 瑜伽行唯識派の思想－1－</td> </tr> <tr> <td>4. 初期大乘仏教経典概説－2－</td> <td>12. 瑜伽行唯識派の思想－2－</td> </tr> <tr> <td>5. 初期大乘仏教経典概説－3－</td> <td>13. 瑜伽行唯識派の思想－3－</td> </tr> <tr> <td>6. ナーガールジュナと初期中観思想－1－</td> <td>14. 瑜伽行唯識派の思想－4－</td> </tr> <tr> <td>7. ナーガールジュナと初期中観思想－2－</td> <td>15. 予備時間</td> </tr> <tr> <td>8. 中期中観思想－1－</td> <td></td> </tr> </table>					1. 大乘仏教の出現－1－	9. 中期中観思想－2－	2. 大乘仏教の出現－2－	10. 中期中観思想－3－	3. 初期大乘仏教経典概説－1－	11. 瑜伽行唯識派の思想－1－	4. 初期大乘仏教経典概説－2－	12. 瑜伽行唯識派の思想－2－	5. 初期大乘仏教経典概説－3－	13. 瑜伽行唯識派の思想－3－	6. ナーガールジュナと初期中観思想－1－	14. 瑜伽行唯識派の思想－4－	7. ナーガールジュナと初期中観思想－2－	15. 予備時間	8. 中期中観思想－1－	
1. 大乘仏教の出現－1－	9. 中期中観思想－2－																				
2. 大乘仏教の出現－2－	10. 中期中観思想－3－																				
3. 初期大乘仏教経典概説－1－	11. 瑜伽行唯識派の思想－1－																				
4. 初期大乘仏教経典概説－2－	12. 瑜伽行唯識派の思想－2－																				
5. 初期大乘仏教経典概説－3－	13. 瑜伽行唯識派の思想－3－																				
6. ナーガールジュナと初期中観思想－1－	14. 瑜伽行唯識派の思想－4－																				
7. ナーガールジュナと初期中観思想－2－	15. 予備時間																				
8. 中期中観思想－1－																					
◇ 成績評価の方法	レポート [100%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、教員が作成したプリントを配布。																				
◇ 授業時間外学習	レポート作成の準備も兼ねて、講義内で関心を持った事柄に関して参考書を使ってより深く調べてみる。																				
その他：「インド仏教史概説－その1－の既習者であること」を履修の原則とする。																					

授 業 科 目				単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																	
パ P	ー a	リ l	語 i	2	非常勤 講師	西 村 直 子	3	水	5																
◆	科目ナンバリング	LHM-PHI212J																							
◆	授業題目	パーリ語入門 (Pali (Introduction))																							
◆	目的・概要	サンスクリット文法を基に、パーリ語への歴史的变化に注目しながら、基本事項を学ぶ。 Geiger, A Pāli Grammar を参考にする。その後、Anderson, A Pāli Reader を用い、具体的テキストに即して、文法事項を確認しながら原典を読む。前期はブッダの前生譚である「ジャータカ」を扱う。 必要な参考書、研究文献をその都度確認しながら、合理的な訓練に努める。																							
◆	到達目標	サンスクリット語の知識を基にパーリ語文献の研究に必要な能力を身につける。																							
◆	授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション (教科書及び参考書について、 取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め 方等について説明)</td> <td>8. 同 (3)</td> </tr> <tr> <td>2. 「スンスマラ・ジャータカ」(1)</td> <td>9. 同 (4)</td> </tr> <tr> <td>3. 同 (2)</td> <td>10. 「シーハチャンマ・ジャータカ」</td> </tr> <tr> <td>4. 同 (3)</td> <td>11. 「ササ・ジャータカ」(1)</td> </tr> <tr> <td>5. 同 (4)</td> <td>12. 同 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 「バカ・ジャータカ」(1)</td> <td>13. 同 (3)</td> </tr> <tr> <td>7. 同 (2)</td> <td>14. 同 (4)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 同 (5)</td> </tr> </table>								1. イントロダクション (教科書及び参考書について、 取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め 方等について説明)	8. 同 (3)	2. 「スンスマラ・ジャータカ」(1)	9. 同 (4)	3. 同 (2)	10. 「シーハチャンマ・ジャータカ」	4. 同 (3)	11. 「ササ・ジャータカ」(1)	5. 同 (4)	12. 同 (2)	6. 「バカ・ジャータカ」(1)	13. 同 (3)	7. 同 (2)	14. 同 (4)		15. 同 (5)
1. イントロダクション (教科書及び参考書について、 取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め 方等について説明)	8. 同 (3)																								
2. 「スンスマラ・ジャータカ」(1)	9. 同 (4)																								
3. 同 (2)	10. 「シーハチャンマ・ジャータカ」																								
4. 同 (3)	11. 「ササ・ジャータカ」(1)																								
5. 同 (4)	12. 同 (2)																								
6. 「バカ・ジャータカ」(1)	13. 同 (3)																								
7. 同 (2)	14. 同 (4)																								
	15. 同 (5)																								
◇	成績評価の方法	授業への準備状況 (40%) および授業で示される理解度 (60%)																							
◇	教科書・参考書	Geiger-Norman, A Pāli Grammar, D. Anderson, A Pāli Reader。後者は大学に必要部数が揃っているが、自分で持っていて後まで役立つ。 辞書、参考書等は授業の進行とともに紹介する。簡単な文法概要を作ってコピーを配布する。																							
◇	授業時間外学習	授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度の量を読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。																							
その他：初級サンスクリット語の既習者であることが望ましい。																									

授 業 科 目				単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																	
パ P	ー a	リ l	語 i	2	非常勤 講師	西 村 直 子	4	水	5																
◆	科目ナンバリング	LHM-PHI212J																							
◆	授業題目	パーリ語講読 (Pali (Reader))																							
◆	目的・概要	文法事項、シンタクス、仏教用語などについて、繰り返し復習確認しながら、AndersonのReaderから抜粋して読む。ジャータカ、ブッダの伝記、ダンマパダ、ミリンダパンハーなど、言語と内容の両面を大切に取組む。																							
◆	到達目標	前期に習得した能力を基に、比較的明晰な原典を選び購読する。あわせて仏教文献に馴染む訓練をする。																							
◆	授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 「マタカバッタ・ジャータカ」(1)</td> <td>9. 同 (3)</td> </tr> <tr> <td>2. 同 (2)</td> <td>10. 「ブッダの死」(1)</td> </tr> <tr> <td>3. 「ブッダの誕生」(1)</td> <td>11. 同 (2)</td> </tr> <tr> <td>4. 同 (2)</td> <td>12. 同 (3)</td> </tr> <tr> <td>5. 「四門出遊」(1)</td> <td>13. 『ダンマパダ』より</td> </tr> <tr> <td>6. 同 (2)</td> <td>14. 『ミリンダパンハー』より (1)</td> </tr> <tr> <td>7. 「ボーディサッタの出家」(1)</td> <td>15. 同 (2)</td> </tr> <tr> <td>8. 同 (2)</td> <td></td> </tr> </table>								1. 「マタカバッタ・ジャータカ」(1)	9. 同 (3)	2. 同 (2)	10. 「ブッダの死」(1)	3. 「ブッダの誕生」(1)	11. 同 (2)	4. 同 (2)	12. 同 (3)	5. 「四門出遊」(1)	13. 『ダンマパダ』より	6. 同 (2)	14. 『ミリンダパンハー』より (1)	7. 「ボーディサッタの出家」(1)	15. 同 (2)	8. 同 (2)	
1. 「マタカバッタ・ジャータカ」(1)	9. 同 (3)																								
2. 同 (2)	10. 「ブッダの死」(1)																								
3. 「ブッダの誕生」(1)	11. 同 (2)																								
4. 同 (2)	12. 同 (3)																								
5. 「四門出遊」(1)	13. 『ダンマパダ』より																								
6. 同 (2)	14. 『ミリンダパンハー』より (1)																								
7. 「ボーディサッタの出家」(1)	15. 同 (2)																								
8. 同 (2)																									
◇	成績評価の方法	授業への準備状況 (40%) および授業で示される理解度 (60%)																							
◇	教科書・参考書	Geiger-Norman, A Pāli Grammar, D. Anderson, A Pāli Reader。後者は大学に必要部数が揃っているが、自分で持っていて後まで役立つ。 辞書、参考書等は授業の進行とともに紹介する。簡単な文法概要を作ってコピーを配布する。																							
◇	授業時間外学習	授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度の量を読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。																							
その他：初級サンスクリット語の既習者であることが望ましい。																									

授 業 科 目		単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																					
チ T	ベ i	ッ b	ト e	語 t	a	n	2	教授	桜井宗信	3	月	4																
◆ 科目ナンバリング		LHM-PHI213J																										
◆ 授業題目		古典チベット語初級文法Ⅰ (Classical Tibetan Grammar)																										
◆ 目的・概要		チベット文字の読み方・書き方に始まる古典チベット語文法への入門講座。 教科書の例文に施されている適切な邦訳が、どうしてそのように訳せるのかを自ら吟味することで、読解力の養成を計る。																										
◆ 到達目標		(1)チベット文字とその正書法を理解し、正しく音読出来るようになる。 (2)古典チベット語初級文法の基礎事項を習得する。																										
◆ 授業内容・方法		<table border="0"> <tr> <td>1. チベット文字発音法・正書法－1－</td> <td>9. 古典チベット語初級文法－6－</td> </tr> <tr> <td>2. チベット文字発音法・正書法－2－</td> <td>10. 古典チベット語初級文法－7－</td> </tr> <tr> <td>3. チベット文字発音法・正書法－3－</td> <td>11. 古典チベット語初級文法－8－</td> </tr> <tr> <td>4. 古典チベット語初級文法－1－</td> <td>12. 古典チベット語初級文法－9－</td> </tr> <tr> <td>5. 古典チベット語初級文法－2－</td> <td>13. 古典チベット語初級文法－10－</td> </tr> <tr> <td>6. 古典チベット語初級文法－3－</td> <td>14. 古典チベット語初級文法－11－</td> </tr> <tr> <td>7. 古典チベット語初級文法－4－</td> <td>15. 古典チベット語初級文法－12－</td> </tr> <tr> <td>8. 古典チベット語初級文法－5－</td> <td></td> </tr> </table>											1. チベット文字発音法・正書法－1－	9. 古典チベット語初級文法－6－	2. チベット文字発音法・正書法－2－	10. 古典チベット語初級文法－7－	3. チベット文字発音法・正書法－3－	11. 古典チベット語初級文法－8－	4. 古典チベット語初級文法－1－	12. 古典チベット語初級文法－9－	5. 古典チベット語初級文法－2－	13. 古典チベット語初級文法－10－	6. 古典チベット語初級文法－3－	14. 古典チベット語初級文法－11－	7. 古典チベット語初級文法－4－	15. 古典チベット語初級文法－12－	8. 古典チベット語初級文法－5－	
1. チベット文字発音法・正書法－1－	9. 古典チベット語初級文法－6－																											
2. チベット文字発音法・正書法－2－	10. 古典チベット語初級文法－7－																											
3. チベット文字発音法・正書法－3－	11. 古典チベット語初級文法－8－																											
4. 古典チベット語初級文法－1－	12. 古典チベット語初級文法－9－																											
5. 古典チベット語初級文法－2－	13. 古典チベット語初級文法－10－																											
6. 古典チベット語初級文法－3－	14. 古典チベット語初級文法－11－																											
7. 古典チベット語初級文法－4－	15. 古典チベット語初級文法－12－																											
8. 古典チベット語初級文法－5－																												
◇ 成績評価の方法		○ 出席 [70%] ○ 授業中に示される理解度 [30%]																										
◇ 教科書・参考書		藤田光寛：『古典チベット語文法』（非売品；インド学仏教史研究室に備え付けがある）																										
◇ 授業時間外学習		予習時には教科書記載チベット文字例文の音読練習を行い、復習時には新出事項の確認－発音法・正書法学習時には各文字の発音・書取練習、文法学習時には新出チベット語単語や重要文法用語の記憶など－を行う。																										
その他：教科書は研究室備え付けのものを各自コピーし、講義に臨むこと。また、サンスクリット語初級文法の既習者であることが望ましい。																												

授 業 科 目		単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																					
チ T	ベ i	ッ b	ト e	語 t	a	n	2	教授	桜井宗信	4	月	4																
◆ 科目ナンバリング		LHM-PHI213J																										
◆ 授業題目		古典チベット語初級文法Ⅱ (Classical Tibetan Grammar & Reading)																										
◆ 目的・概要		チベット人学僧 Tāranātha の著した『インド仏教史』の訳読を行い、チベット語資料の文献研究に必要な基礎的語学力を養成することを目的とする。本期は第15章の途中より読み始める予定。 「菌応えのある」文章を相手にして、辞書の利用法の訓練も兼ねた十分な予習を行うことにより、読解力の深化を図る。																										
◆ 到達目標		古典チベット語によって著された文献の読解力を養成する。																										
◆ 授業内容・方法		<table border="0"> <tr> <td>1. 『インド仏教史』 訳読－1－</td> <td>9. 『インド仏教史』 訳読－9－</td> </tr> <tr> <td>2. 『インド仏教史』 訳読－2－</td> <td>10. 『インド仏教史』 訳読－10－</td> </tr> <tr> <td>3. 『インド仏教史』 訳読－3－</td> <td>11. 『インド仏教史』 訳読－11－</td> </tr> <tr> <td>4. 『インド仏教史』 訳読－4－</td> <td>12. 『インド仏教史』 訳読－12－</td> </tr> <tr> <td>5. 『インド仏教史』 訳読－5－</td> <td>13. 『インド仏教史』 訳読－13－</td> </tr> <tr> <td>6. 『インド仏教史』 訳読－6－</td> <td>14. 『インド仏教史』 訳読－14－</td> </tr> <tr> <td>7. 『インド仏教史』 訳読－7－</td> <td>15. 『インド仏教史』 訳読－15－</td> </tr> <tr> <td>8. 『インド仏教史』 訳読－8－</td> <td></td> </tr> </table>											1. 『インド仏教史』 訳読－1－	9. 『インド仏教史』 訳読－9－	2. 『インド仏教史』 訳読－2－	10. 『インド仏教史』 訳読－10－	3. 『インド仏教史』 訳読－3－	11. 『インド仏教史』 訳読－11－	4. 『インド仏教史』 訳読－4－	12. 『インド仏教史』 訳読－12－	5. 『インド仏教史』 訳読－5－	13. 『インド仏教史』 訳読－13－	6. 『インド仏教史』 訳読－6－	14. 『インド仏教史』 訳読－14－	7. 『インド仏教史』 訳読－7－	15. 『インド仏教史』 訳読－15－	8. 『インド仏教史』 訳読－8－	
1. 『インド仏教史』 訳読－1－	9. 『インド仏教史』 訳読－9－																											
2. 『インド仏教史』 訳読－2－	10. 『インド仏教史』 訳読－10－																											
3. 『インド仏教史』 訳読－3－	11. 『インド仏教史』 訳読－11－																											
4. 『インド仏教史』 訳読－4－	12. 『インド仏教史』 訳読－12－																											
5. 『インド仏教史』 訳読－5－	13. 『インド仏教史』 訳読－13－																											
6. 『インド仏教史』 訳読－6－	14. 『インド仏教史』 訳読－14－																											
7. 『インド仏教史』 訳読－7－	15. 『インド仏教史』 訳読－15－																											
8. 『インド仏教史』 訳読－8－																												
◇ 成績評価の方法		○ 出席 [70%] ○ 授業中に示される理解度 [30%]																										
◇ 教科書・参考書		Tāranātha：『インド仏教史』（コピーを配布する）																										
◇ 授業時間外学習		予習時に辞書を用いながら自らテキストの翻訳を行い、授業で発表出来るように準備する。																										
その他：「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。また使用すべき辞書については授業の中で紹介する。																												

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 各 論 Indological Studies (General Lecture)	2	非常勤 講師 西 村 直 子	5	木	5
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHM-PHI303J ヴェーダ文献講読(1) (Vedic Literature (1)) ヴェーダのブラーフマナ (B.C. 8世紀頃以降) は、マントラ (祝詞、祭詞) の解釈、祭式行為や道具、供物等の由来を語る神話及び神学議論などを主な内容とする。本講義ではインドラによるヴリトラ殺しの神話を取り上げ、読解演習を行う。インドの神話世界に触れ、ヴェーダの宗教及び祭式文献に関する知識を得るとともに、サンスクリット語の文法・語彙についても更なる理解の深化を目指す。Weberが校訂した Śatapatha-Brāhmaṇa をテキストとして、MacDonnell の Vedic Grammar for Student, Delbrück の Altindische Syntax 等を参照しながら、文献学の具体的な訓練を行う。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	ヴェーダ文献及び祭式に関する知識を習得し、ヴェーダの散文が読めるようになる。				
	1. イントロダクション (テキスト及び参考書について、 取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め 方等について説明)	8. 同 (2) 9. 同 (3) 10. 同 (4)			
	2. Śatapatha-Brāhmaṇa I 6, 3 (Indraによる Vrtra 殺し) (1)	11. 同 (5) 12. 同 (6)			
	3. 同 (2)	13. 同 (7)			
	4. 同 (3)	14. 同 (8)			
	5. 同 (4)	15. 同 (9)			
	6. 同 (5)				
	7. 同 Śatapatha-Brāhmaṇa I 6, 4 (Vrtra 殺しの後日譚) (1)				
◇ 成績評価の方法	授業への準備状況 (30%)、授業で示される理解度 (70%)				
◇ 教科書・参考書	Śatapatha-Brāhmaṇa (Ed. Weber, Ed. Kalyan-Bombay); MacDonnell, Vedic Grammar for Student; Delbrück, Altindische Syntax; Whitney, Sanskrit Grammar 等。				
◇ 授業時間外学習	授業は、最初はゆっくり進めるが、後半では毎回7～9詩節読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。				
その他：サンスクリット語初級の既修者が望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 各 論 Indological Studies (General Lecture)	2	非常勤 講師 尾 園 絢 一	6	木	5
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHM-PHI303J ヴェーダ文献講読(2) (Vedic Literature (2)) インド最古の文献『リグヴェーダ』を中心とするヴェーダ文献を講読し、文献学的、言語学的訓練を行う。語形を分析し、文法事項、語源、先行研究を確認しながら、原典を読む。実際に原典の読解に取り組む中で、歴史文法の原理や研究書の使い方を徐々に身につける。				
◆ 到達目標	『リグヴェーダ』の原典を講読しながら、古インドアーリア語 (サンスクリット) 歴史文法の基礎知識と原理を身につける。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション (辞書、文法書の使い方、古イ ンドアーリア語歴史文法入門)	9. ヴィシュヴァーミトラと河の対話 1 (RV III 33, 1-7)			
	2. 十王戦争 1 (RV VII 18, 1-5)	10. ヴィシュヴァーミトラと河の対話 2 (RV III 33, 8-13)			
	3. 十王戦争 2 (RV VII 18, 6-10)	11. ヴァルナ賛歌 1 (RV VII 86)			
	4. 十王戦争 3 (RV VII 18, 11-15)	12. ヴァルナ賛歌 2 (RV VII 87)			
	5. 十王戦争 4 (RV VII 18, 16-20)	13. ヴァルナ賛歌 3 (RV VII 88)			
	6. 十王戦争 5 (RV VII 18, 21-25)	14. ヴァルナ賛歌 4 (RV VII 89)			
	7. 十王戦争 6 (RV VII 33)	15. まとめ			
	8. 十王戦争 7 (JB III 245-248)				
◇ 成績評価の方法	出席 (30%)、授業で示される理解度 (70%)				
◇ 教科書・参考書	辞 書：H. Grassmann Wörterbuch des Rigveda (1872-1885), M. Mayrhofer Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen (1986-2001)。文法書：T. Gotō, Old Indo-Aryan Morphology (2013), A.A. MacDonnell, Vedic Grammar (1910) 等。底本は授業前にコピーを準備する。その他の研究書、先行研究については授業時に指示する。				
◇ 授業時間外学習	予習は必ずしも必要ではないが、必ず復習を行うこと。授業でリグヴェーダを読んだことがある者は、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。徒に知識を詰め込むのではなく、原理の理解に重点をおいて授業と学習に臨むこと。				
その他：受講者はサンスクリット語文法の初級知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 各 論 Indological Studies (General Lecture)	2	非常勤 講師 堀 田 和 義	集 中 (6)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI303J				
◆ 授業題目	ジャイナ教概論 (Introduction to Jainism)				
◆ 目的・概要	ジャイナ教は、仏教とほぼ同じ時代に同じ地域で誕生し、インドにおいて今日までその伝統が途絶えることなく生き延びてきた。信者数という点では、インド全人口の0.4%と少ないが、現在のインドの所得税全体の約20%をジャイナ教徒が納めているとも言われる。また、インド建国の父ガンジーに大きな影響を与えたこともよく知られており、インドにおけるジャイナ教の文化的・社会的な影響力は非常に大きいと言える。しかしながら、インド哲学史などにおけるジャイナ教の扱いは非常に小さく、ジャイナ教徒があらゆる分野にまたがって残してきた膨大な量の文献については、まだまだ未知の部分が多い。本講義では、ジャイナ教の歴史とその教えを初歩の初歩から解説し、さらには、中級以上の知識を身につけるうえで必要な資料についても詳しく紹介する。				
◆ 到達目標	インドの思想や文化におけるジャイナ教の位置付けを正しく理解する。また、適切な資料を用いて、ジャイナ教について自分自身で調べることができる。				
◆ 授業内容・方法	1. ジャイナ教誕生前夜のインド①—ヴェーダの宗教とバラモン教：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 2. ジャイナ教誕生前夜のインド②—バラモンと沙門：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 3. ジャイナ教の歴史①—開祖マハーヴィーラの生涯：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 4. ジャイナ教の歴史②—マハーヴィーラの入滅と正典の成立：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 5. ジャイナ教の歴史③—中世～現代の展開：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 6. マハーヴィーラと23人の祖師：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 7. マハーヴィーラの悟りと一切知：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 8. ジャイナ教の教え①—輪廻と解脱：パワーポイントを使用し、	講義形式で進める。 9. ジャイナ教の教え②—霊魂と自我：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 10. ジャイナ教の教え③—業と苦行：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 11. ジャイナ教の教え④—誓戒と行動規範：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 12. ジャイナ教の教え⑤—不殺生の重視：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 13. ジャイナ教の教え⑥—認識論と非極端説：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 14. ジャイナ教各宗派の特徴：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 15. まとめ：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。			
◇ 成績評価の方法	出席 (70%)、および課題 (30%) により総合的に評価する。				
◇ 教科書・参考書	教科書は特に指定せず、パワーポイントを使用し、プリント資料を配布する。参考書に関しては、必要に応じて、授業内で紹介する。				
◇ 授業時間外学習	予習は特に必要としないが、前日までのプリントを読み返して、復習しておくことが望ましい。				
その他：授業は基本的に講義形式で進めるが、学生の興味・関心に応じて、原典講読などに一部変更することもある。また、質問等に関しては、授業後に教室内で受け付ける。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 各 論 History of Indian Buddhism (Special Lecture)	2	教授 桜 井 宗 信	5	火	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI304J				
◆ 授業題目	Grags pa rgyal mtshan 著『タントラ現観』の原典講読 (rGyud kyi mñon par rtogs pa of Grags pa rgyal mtshan: reading)				
◆ 目的・概要	チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の第4代管長を務めた Grags pa rgyal mtshan の代表作の1つ『タントラ現観』(rGyud kyi mñon par rtogs pa) の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。				
◆ 授業内容・方法	1. 『タントラ現観』 講読 - 1 - 2. 『タントラ現観』 講読 - 2 - 3. 『タントラ現観』 講読 - 3 - 4. 『タントラ現観』 講読 - 4 - 5. 『タントラ現観』 講読 - 5 - 6. 『タントラ現観』 講読 - 6 - 7. 『タントラ現観』 講読 - 7 - 8. 『タントラ現観』 講読 - 8 -	9. 『タントラ現観』 講読 - 9 - 10. 『タントラ現観』 講読 - 10 - 11. 『タントラ現観』 講読 - 11 - 12. 『タントラ現観』 講読 - 12 - 13. 『タントラ現観』 講読 - 13 - 14. 『タントラ現観』 講読 - 14 - 15. 『タントラ現観』 講読 - 15 -			
◇ 成績評価の方法	○ 出席 [70%] ○ 授業中に示される理解度 [30%]				
◇ 教科書・参考書	rGyud kyi mñon par rtogs pa Rin po chehi ljon śin, 『Sa skya 派全書』 Vol. 3 (東洋文庫刊), pp. 1-70.				
◇ 授業時間外学習	予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。				
その他：「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
イ ン ド 仏 教 史 各 論 History of Indian Buddhism (Special Lecture)	2	教授 桜井宗信	6	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI304J																				
◆ 授業題目	Grags pa rgyal mtshan 著『タントラ現観』の原典講読 (rGyud kyi mñon par rtogs pa of Grags pa rgyal mtshan: reading)																				
◆ 目的・概要	チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の第4代管長を務めた Grags pa rgyal mtshan の代表作の1つ『タントラ現観』(rGyud kyi mñon par rtogs pa) の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。																				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 『タントラ現観』講読-1-</td> <td>9. 『タントラ現観』講読-9-</td> </tr> <tr> <td>2. 『タントラ現観』講読-2-</td> <td>10. 『タントラ概論』講読-10-</td> </tr> <tr> <td>3. 『タントラ現観』講読-3-</td> <td>11. 『タントラ現観』講読-11-</td> </tr> <tr> <td>4. 『タントラ現観』講読-4-</td> <td>12. 『タントラ現観』講読-12-</td> </tr> <tr> <td>5. 『タントラ現観』講読-5-</td> <td>13. 『タントラ現観』講読-13-</td> </tr> <tr> <td>6. 『タントラ現観』講読-6-</td> <td>14. 『タントラ現観』講読-14-</td> </tr> <tr> <td>7. 『タントラ現観』講読-7-</td> <td>15. 『タントラ現観』講読-15-</td> </tr> <tr> <td>8. 『タントラ現観』講読-8-</td> <td></td> </tr> </table>					1. 『タントラ現観』講読-1-	9. 『タントラ現観』講読-9-	2. 『タントラ現観』講読-2-	10. 『タントラ概論』講読-10-	3. 『タントラ現観』講読-3-	11. 『タントラ現観』講読-11-	4. 『タントラ現観』講読-4-	12. 『タントラ現観』講読-12-	5. 『タントラ現観』講読-5-	13. 『タントラ現観』講読-13-	6. 『タントラ現観』講読-6-	14. 『タントラ現観』講読-14-	7. 『タントラ現観』講読-7-	15. 『タントラ現観』講読-15-	8. 『タントラ現観』講読-8-	
1. 『タントラ現観』講読-1-	9. 『タントラ現観』講読-9-																				
2. 『タントラ現観』講読-2-	10. 『タントラ概論』講読-10-																				
3. 『タントラ現観』講読-3-	11. 『タントラ現観』講読-11-																				
4. 『タントラ現観』講読-4-	12. 『タントラ現観』講読-12-																				
5. 『タントラ現観』講読-5-	13. 『タントラ現観』講読-13-																				
6. 『タントラ現観』講読-6-	14. 『タントラ現観』講読-14-																				
7. 『タントラ現観』講読-7-	15. 『タントラ現観』講読-15-																				
8. 『タントラ現観』講読-8-																					
◇ 成績評価の方法	○ 出席 [70%] ○ 授業中に示される理解度 [30%]																				
◇ 教科書・参考書	rGyud kyi mñon par rtogs pa Rin po chehi ljon śin, 『Sa skya 派全書』 Vol. 3 (東洋文庫刊), pp. 1-70.																				
◇ 授業時間外学習	予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。																				
その他：「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
イ ン ド 学 演 習 Indological Studies (Seminar)	2	非常勤講師 尾園 絢一	5	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI311J																				
◆ 授業題目	インド哲学文献研究(1) (Indian Philosophical Literature (1))																				
◆ 目的・概要	インド最古の文法書を残したパーニニ (紀元前4世紀) に始まる文法学の伝統は今日まで生きている。インドの知識人は文法学の知識を用いてサンスクリットを分析、理解できることが求められる。特に「行為関与要素 (kāraka)」理論は哲学文献を読む上で重要である。バトージ・ディークシタ (17世紀) によって著わされた、パーニニ文法学の教科書『シッターンタ・カウムディー』の「行為関与要素の章 (Kāraka-prakarana)」を講読する。																				
◆ 到達目標	パーニニ文法学と Kāraka 理論の基礎知識を身につけ、論書、哲学文献研究に必要な能力を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション (パーニニ文法学概説、工具書、研究書の使い方)</td> <td>9. No. 596-605</td> </tr> <tr> <td>2. No. 532-539</td> <td>10. No. 606-615</td> </tr> <tr> <td>3. No. 540-549</td> <td>11. No. 616-625</td> </tr> <tr> <td>4. No. 550-558</td> <td>12. No. 626-635</td> </tr> <tr> <td>5. No. 559-568</td> <td>13. No. 636-640</td> </tr> <tr> <td>6. No. 569-578</td> <td>14. No. 641-646</td> </tr> <tr> <td>7. No. 579-585</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. No. 586-595</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション (パーニニ文法学概説、工具書、研究書の使い方)	9. No. 596-605	2. No. 532-539	10. No. 606-615	3. No. 540-549	11. No. 616-625	4. No. 550-558	12. No. 626-635	5. No. 559-568	13. No. 636-640	6. No. 569-578	14. No. 641-646	7. No. 579-585	15. まとめ	8. No. 586-595	
1. イントロダクション (パーニニ文法学概説、工具書、研究書の使い方)	9. No. 596-605																				
2. No. 532-539	10. No. 606-615																				
3. No. 540-549	11. No. 616-625																				
4. No. 550-558	12. No. 626-635																				
5. No. 559-568	13. No. 636-640																				
6. No. 569-578	14. No. 641-646																				
7. No. 579-585	15. まとめ																				
8. No. 586-595																					
◇ 成績評価の方法	出席 (30%)、授業で示される理解度 (70%)																				
◇ 教科書・参考書	テキストはコピーを準備する。工具書や研究書については授業時に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	予習は必ずしも必要ではないが、復習を行い、訳を作って残しておくこと。																				
その他：受講者はサンスクリット語文法の初級知識を有すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 演 習 Indological Studies (Seminar)	2	非常勤 講師 西 村 直 子	6	水	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI311J				
◆ 授業題目	インド哲学文献研究(2) (Indian Philosophical Literature (2))				
◆ 目的・概要	本講義では、リグヴェーダX 72の天地創造讃歌 (B.C. 1200年頃) と、関連するマールターンダの散文神話 (マイトラーヤニーサンヒター及びカタ・サンヒター、B.C. 800年頃) を取り上げ、読解演習を行う。この神話は女神アディティが息子 (アディティヤ神達) を単性生殖で産むモチーフと、最後に生まれる息子マールターンダの勢力を恐れてアディティヤ達が母を流産させるモチーフとから成る。アディティヤ神は社会制度を神格化したものであり、インド・アーリア諸部族がインド亜大陸入植以前に異部族と接触し、彼らと取り交わした契約関係を背景とすると考えられる。リグヴェーダ及びブラーフマナの講義を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。リグヴェーダは Aufrecht の校訂本及び Geldner のドイツ語訳、Grassmann のリグヴェーダ辞書を用い、マイトラーヤニー サンヒター及びカタ・サンヒターについては、Schröder のテキストを用いる。何れも MacDonnell の Vedic Grammar for Student、Delbrück の Altindische Syntax 等を参照しながら、文献学の具体的な訓練を行う。				
◆ 到達目標	リグヴェーダ及びブラーフマナの講義を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明) 2. Rgveda X 72 (天地創造讃歌) (1) 3. 同 (2) 4. 同 (3) 5. 同 (4) 6. Maitrāyaṇī Samhitā I 6, 12 (Aditiによる Āditya 達の出産と Mārtānda の流産) (1) 7. 同 (2) 8. 同 (3) 9. 同 (4) 10. 同 (5) 11. Katha-Samhitā XI 6 (1) 12. 同 (2) 13. 同 (3) 14. 同 (4) 15. 同 (5) 				
◇ 成績評価の方法	授業への準備状況 (30%)、授業で示される理解度 (70%)				
◇ 教科書・参考書	Rgveda (Ed. Aufrecht, Tr. Geldner); Maitrāyaṇī Samhitā 及び Katha-Samhitā (Ed. Schröder); Grassmann, Wörterbuch zum Rigveda; MacDonnell, Vedic Grammar for Student; Delbrück, Altindische Syntax; Whitney, Sanskrit Grammar 等。				
◇ 授業時間外学習	授業は、最初はゆっくり進めるが、後半では毎回7～9詩節読み進めることを目標とする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。				
その他：サンスクリット語初級の既修者が望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 演 習 History of Indian Buddhism (Seminar)	2	教授 桜 井 宗 信	5	月	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI312J				
◆ 授業題目	梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読 (Abhidharmakośa of Vasubandhu : reading)				
◆ 目的・概要	Vasubandhu (世親) の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要欠くべからざる基本典籍である。 この授業では前年に引き続き、同書第2章 (「根品」) の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める” というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。				
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『俱舎論』講読 - 1 - 2. 『俱舎論』講読 - 2 - 3. 『俱舎論』講読 - 3 - 4. 『俱舎論』講読 - 4 - 5. 『俱舎論』講読 - 5 - 6. 『俱舎論』講読 - 6 - 7. 『俱舎論』講読 - 7 - 8. 『俱舎論』講読 - 8 - 9. 『俱舎論』講読 - 9 - 10. 『俱舎論』講読 - 10 - 11. 『俱舎論』講読 - 11 - 12. 『俱舎論』講読 - 12 - 13. 『俱舎論』講読 - 13 - 14. 『俱舎論』講読 - 14 - 15. 『俱舎論』講読 - 15 - 				
◇ 成績評価の方法	○ 出席 [70%] ○ 授業中に示される理解度 [30%]				
◇ 教科書・参考書	用いる基本資料は次の通り： ・ 梵文原典：Abhidharmakośa-bhāṣya of Vasubandhu, Ed. by P.Pradhan, Patna, 1967. ・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舎論』(玄奘訳)；『阿毘達磨俱舎釈論』(真谛訳)。 ※ 『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。				
◇ 授業時間外学習	予習時に前記基本資料を訳読すると共に、重要術語の内容確認等を行う。				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
イ ン ド 仏 教 史 演 習 History of Indian Buddhism (Seminar)	2	教授 桜井宗信	6	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI312J																				
◆ 授業題目	梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読 (Abhidharmakośa of Vasubandhu : reading)																				
◆ 目的・概要	Vasubandhu (世親)の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要欠くべからざる基本典籍である。この授業では前期に引き続き、同書第2章(「根品」)の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読しVasubandhuの考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。																				
◆ 到達目標	基礎的仏典の説解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 『俱舎論』講読 - 1 -</td> <td>9. 『俱舎論』講読 - 9 -</td> </tr> <tr> <td>2. 『俱舎論』講読 - 2 -</td> <td>10. 『俱舎論』講読 - 10 -</td> </tr> <tr> <td>3. 『俱舎論』講読 - 3 -</td> <td>11. 『俱舎論』講読 - 11 -</td> </tr> <tr> <td>4. 『俱舎論』講読 - 4 -</td> <td>12. 『俱舎論』講読 - 12 -</td> </tr> <tr> <td>5. 『俱舎論』講読 - 5 -</td> <td>13. 『俱舎論』講読 - 13 -</td> </tr> <tr> <td>6. 『俱舎論』講読 - 6 -</td> <td>14. 『俱舎論』講読 - 14 -</td> </tr> <tr> <td>7. 『俱舎論』講読 - 7 -</td> <td>15. 『俱舎論』講読 - 15 -</td> </tr> <tr> <td>8. 『俱舎論』講読 - 8 -</td> <td></td> </tr> </table>					1. 『俱舎論』講読 - 1 -	9. 『俱舎論』講読 - 9 -	2. 『俱舎論』講読 - 2 -	10. 『俱舎論』講読 - 10 -	3. 『俱舎論』講読 - 3 -	11. 『俱舎論』講読 - 11 -	4. 『俱舎論』講読 - 4 -	12. 『俱舎論』講読 - 12 -	5. 『俱舎論』講読 - 5 -	13. 『俱舎論』講読 - 13 -	6. 『俱舎論』講読 - 6 -	14. 『俱舎論』講読 - 14 -	7. 『俱舎論』講読 - 7 -	15. 『俱舎論』講読 - 15 -	8. 『俱舎論』講読 - 8 -	
1. 『俱舎論』講読 - 1 -	9. 『俱舎論』講読 - 9 -																				
2. 『俱舎論』講読 - 2 -	10. 『俱舎論』講読 - 10 -																				
3. 『俱舎論』講読 - 3 -	11. 『俱舎論』講読 - 11 -																				
4. 『俱舎論』講読 - 4 -	12. 『俱舎論』講読 - 12 -																				
5. 『俱舎論』講読 - 5 -	13. 『俱舎論』講読 - 13 -																				
6. 『俱舎論』講読 - 6 -	14. 『俱舎論』講読 - 14 -																				
7. 『俱舎論』講読 - 7 -	15. 『俱舎論』講読 - 15 -																				
8. 『俱舎論』講読 - 8 -																					
◇ 成績評価の方法	○ 出席 [70%] ○ 授業中に示される理解度 [30%]																				
◇ 教科書・参考書	<p>用いる基本資料は次の通り：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 梵文原典: Abhidharmakośa-bhāṣya of Vasubandhu, Ed. by P.Pradhan, Patna, 1967. ・ チベット語訳: テルゲ版及び北京版を使用。 ・ 漢訳: 『阿毘達磨俱舎論』(玄奘訳); 『阿毘達磨俱舎釈論』(真谛訳). <p>※ 『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。</p>																				
◇ 授業時間外学習	予習時に前記基本資料を訳読すると共に、重要術語の内容確認等を行う。																				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
英 文 学 概 論 English Literature (General Lecture)	2	教授 大河内 昌	3	木	1		
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT203J						
◆ 授業題目	英詩入門(1) (Introduction to English Poetry (1))						
◆ 目的・概要	<p>英文学のジャンルの中でも詩は馴染みがうすいかもかもしれません。しかし、詩を読解することによって言葉そのものがもつ不思議さと大きな力を知り、英語という言葉の奥深さに触れることができます。この授業では、ロマン主義からヴィクトリア朝時代に書かれたイギリスの詩の中から、とても有名で比較的短いものを選んで読解してゆきます。この時代の詩は分かりやすいものが多いので、英詩入門としてはこの時代から入るのがいいでしょう。詩は読み手の方から近づいて行かないと何も答えてくれませんが、直接詩の原文に触れて積極的に問いかけてゆけば詩はいろいろなことを答えてくれるはずです。アメリカ詩についても少し触れる予定です。</p>						
◆ 到達目標	<p>(1)英文学史の知識を身につける (2)英語読解力を身につける (3)分析的思考力を身につける</p>						
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align:top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. William Blake (1) 3. William Blake (2) 4. William Wordsworth (1) 5. William Wordsworth (2) 6. Samuel Taylor Coleridge 7. John Keats 8. 授業のまとめと中間試験 </td> <td style="width:50%; vertical-align:top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. Percy Busshe Shelley 10. Alfred Lord Tennyson (1) 11. Alfred Lord Tennyson (2) 12. Robert Browning 13. Mathew Arnold 14. Emily Dickinson 15. 授業のまとめと期末試験 </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. William Blake (1) 3. William Blake (2) 4. William Wordsworth (1) 5. William Wordsworth (2) 6. Samuel Taylor Coleridge 7. John Keats 8. 授業のまとめと中間試験 	<ol style="list-style-type: none"> 9. Percy Busshe Shelley 10. Alfred Lord Tennyson (1) 11. Alfred Lord Tennyson (2) 12. Robert Browning 13. Mathew Arnold 14. Emily Dickinson 15. 授業のまとめと期末試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. William Blake (1) 3. William Blake (2) 4. William Wordsworth (1) 5. William Wordsworth (2) 6. Samuel Taylor Coleridge 7. John Keats 8. 授業のまとめと中間試験 	<ol style="list-style-type: none"> 9. Percy Busshe Shelley 10. Alfred Lord Tennyson (1) 11. Alfred Lord Tennyson (2) 12. Robert Browning 13. Mathew Arnold 14. Emily Dickinson 15. 授業のまとめと期末試験 						
◇ 成績評価の方法	中間テスト 50%、期末テスト 50%						
◇ 教科書・参考書	プリントを配布します。						
◇ 授業時間外学習	予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。						
その他：オフィスアワー：火曜日 午後4時～5時30分、その他アポイントメントで随時							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
英 文 学 概 論 English Literature (General Lecture)	2	教授 大河内 昌	4	木	1		
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT203J						
◆ 授業題目	英詩入門(2) (Introduction to English Poetry (2))						
◆ 目的・概要	<p>英文学のジャンルの中でも詩は馴染みがうすいかもかもしれません。しかし、詩を読解することによって言葉そのものがもつ不思議さと大きな力を知り、英語という言葉の奥深さに触れることができます。この授業では、20世紀に書かれたイギリスとアメリカの詩の中から、とても有名で比較的短いものを選んで読解してゆきます。じっさいに、20世紀の詩は難しいものが多いのですが、なるべくわかりやすく説明してゆきます。詩は読み手の方から近づいて行かないと何も答えてくれませんが、直接詩の原文に触れて積極的に問いかけてゆけば詩はいろいろなことを答えてくれるはずです。</p>						
◆ 到達目標	<p>(1)英文学史の知識を身につける (2)英語読解力を身につける (3)分析的思考力を身につける</p>						
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align:top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. Thomas Hardy 3. W. B. Yeats (1) 4. W. B. Yeats (2) 5. Robert Frost 6. Wallace Stevens 7. W. C. Williams 8. 授業のまとめと中間試験 </td> <td style="width:50%; vertical-align:top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. D. H. Lawrence 10. T. S. Eliot (1) 11. T. S. Eliot (2) 12. Wilfred Owen 13. W. H. Auden 14. Dylan Thomas 15. 授業のまとめと期末試験 </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. Thomas Hardy 3. W. B. Yeats (1) 4. W. B. Yeats (2) 5. Robert Frost 6. Wallace Stevens 7. W. C. Williams 8. 授業のまとめと中間試験 	<ol style="list-style-type: none"> 9. D. H. Lawrence 10. T. S. Eliot (1) 11. T. S. Eliot (2) 12. Wilfred Owen 13. W. H. Auden 14. Dylan Thomas 15. 授業のまとめと期末試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. Thomas Hardy 3. W. B. Yeats (1) 4. W. B. Yeats (2) 5. Robert Frost 6. Wallace Stevens 7. W. C. Williams 8. 授業のまとめと中間試験 	<ol style="list-style-type: none"> 9. D. H. Lawrence 10. T. S. Eliot (1) 11. T. S. Eliot (2) 12. Wilfred Owen 13. W. H. Auden 14. Dylan Thomas 15. 授業のまとめと期末試験 						
◇ 成績評価の方法	中間テスト 50%、期末テスト 50%						
◇ 教科書・参考書	プリントを配布します。						
◇ 授業時間外学習	予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。						
その他：オフィスアワー：火曜日 午後4時～5時30分、その他アポイントメントで随時							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 文 学 基 礎 講 読 I English Literature (Introductory Reading) I	2	教授 大河内 昌	3	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT215J																				
◆ 授業題目	Lewis Carroll, <i>Through the Looking-Glass and What Alice Found There</i> (Lewis Carroll, <i>Through the Looking-Glass and What Alice Found There</i>)																				
◆ 目的・概要	日本でも人気の高いイギリスの作家 Lewis Carroll の <i>Through the Looking Glass and What Alice Found There</i> (『鏡の国のアリス』) を英語の原文で精読します。アリスは子供向けのお話ですが、大人が読んでこそ面白いさまざまな言語的、論理的な謎が多く含まれています。作品読解をとおして言葉の謎、論理の謎を考察してゆきます。授業では毎回担当者を決めて日本語訳と解説を発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションをします。																				
◆ 到達目標	(1)英語の原書を読解する力を身につける (2)作品分析の技法を身につける (3)発表力を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イン트로ダクション</td> <td>9. Trough Lookig-Glass, Chapter VIII (1)</td> </tr> <tr> <td>2. Trough Lookig-Glass, Chapter I</td> <td>10. Trough Lookig-Glass, Chapter VIII (2)</td> </tr> <tr> <td>3. Trough Lookig-Glass, Chapter II</td> <td>11. Trough Lookig-Glass, Chapter IX</td> </tr> <tr> <td>4. Trough Lookig-Glass, Chapter III</td> <td>12. Trough Lookig-Glass, Chapter X</td> </tr> <tr> <td>5. Trough Lookig-Glass, Chapter IV</td> <td>13. Trough Lookig-Glass, Chapter XI</td> </tr> <tr> <td>6. Trough Lookig-Glass, Chapter V</td> <td>14. Trough Lookig-Glass, Chapter XII</td> </tr> <tr> <td>7. Trough Lookig-Glass, Chapter VI</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. Trough Lookig-Glass, Chapter VII</td> <td></td> </tr> </table>					1. イン트로ダクション	9. Trough Lookig-Glass, Chapter VIII (1)	2. Trough Lookig-Glass, Chapter I	10. Trough Lookig-Glass, Chapter VIII (2)	3. Trough Lookig-Glass, Chapter II	11. Trough Lookig-Glass, Chapter IX	4. Trough Lookig-Glass, Chapter III	12. Trough Lookig-Glass, Chapter X	5. Trough Lookig-Glass, Chapter IV	13. Trough Lookig-Glass, Chapter XI	6. Trough Lookig-Glass, Chapter V	14. Trough Lookig-Glass, Chapter XII	7. Trough Lookig-Glass, Chapter VI	15. まとめと試験	8. Trough Lookig-Glass, Chapter VII	
1. イン트로ダクション	9. Trough Lookig-Glass, Chapter VIII (1)																				
2. Trough Lookig-Glass, Chapter I	10. Trough Lookig-Glass, Chapter VIII (2)																				
3. Trough Lookig-Glass, Chapter II	11. Trough Lookig-Glass, Chapter IX																				
4. Trough Lookig-Glass, Chapter III	12. Trough Lookig-Glass, Chapter X																				
5. Trough Lookig-Glass, Chapter IV	13. Trough Lookig-Glass, Chapter XI																				
6. Trough Lookig-Glass, Chapter V	14. Trough Lookig-Glass, Chapter XII																				
7. Trough Lookig-Glass, Chapter VI	15. まとめと試験																				
8. Trough Lookig-Glass, Chapter VII																					
◇ 成績評価の方法	発表と授業参加 50%・試験 50%																				
◇ 教科書・参考書	Lewis Carroll, <i>Alice's Adventures in Wonderland and Through the Looing-Glass</i> (Oxford World's Classics, 2009)																				
◇ 授業時間外学習	予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。																				
その他：オフィスアワー：火曜日 午後4時～5時30分、その他アポイントメントで随時																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 文 学 基 礎 講 読 II English Literature (Introductory Reading) II	2	教授 大河内 昌	4	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT216J																				
◆ 授業題目	R. L. Stevenson, <i>Strange Case of Dr Jekyll and Mr Hyde</i> (R. L. Stevenson, <i>Strange Case of Dr Jekyll and Mr Hyde</i>)																				
◆ 目的・概要	R. L. Stevenson の <i>The Strange Case of Dr Jekyll and Mr Hyde</i> を読みます。ジキルとハイドは二重人格を表す慣用語になっていますが、原作を読んだことのある人は意外に少ないのではないのでしょうか。ゴシック小説の流れに属するこの小説は、二重人格あるいはドッベルゲンガーの恐怖をテーマにしています。英語の小説を読み慣れていない学生にはかなりの難物かもしれません。しかし、この作品に関しては参考書や翻訳がたくさんあります。それらを参考にしながら、英文学を代表する名作の英語を「精読」する醍醐味を味わって欲しいと考えています。授業では、毎回3人程度の担当者を決めて発表してもらいます。担当者は担当箇所を和訳・解説し、批評的なコメントを加えてください。																				
◆ 到達目標	(1)イギリス小説を読解する英語に基礎力を養う (2)小説を分析的に精読する方法を身につける (3)論理的に議論を組み立てる方法を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イン트로ダクション</td> <td>9. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 41-45</td> </tr> <tr> <td>2. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 5-10</td> <td>10. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 46-50</td> </tr> <tr> <td>3. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 11-15</td> <td>11. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 51-55</td> </tr> <tr> <td>4. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 16-20</td> <td>12. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 56-60</td> </tr> <tr> <td>5. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 21-25</td> <td>13. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 61-65</td> </tr> <tr> <td>6. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 26-30</td> <td>14. Discussion</td> </tr> <tr> <td>7. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 31-35</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 36-40</td> <td></td> </tr> </table>					1. イン트로ダクション	9. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 41-45	2. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 5-10	10. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 46-50	3. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 11-15	11. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 51-55	4. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 16-20	12. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 56-60	5. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 21-25	13. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 61-65	6. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 26-30	14. Discussion	7. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 31-35	15. まとめと試験	8. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 36-40	
1. イン트로ダクション	9. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 41-45																				
2. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 5-10	10. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 46-50																				
3. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 11-15	11. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 51-55																				
4. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 16-20	12. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 56-60																				
5. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 21-25	13. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 61-65																				
6. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 26-30	14. Discussion																				
7. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 31-35	15. まとめと試験																				
8. Dr Jekyll and Mr Hyde, pp. 36-40																					
◇ 成績評価の方法	発表と授業参加 50%・試験 50%																				
◇ 教科書・参考書	R. L. Stevenson, <i>Strange Case of Dr Jekyll and Mr Hyde and Other Tales</i> (Oxford World's Classics)																				
◇ 授業時間外学習	予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。																				
その他：オフィスアワー：火曜日 午後4時～5時30分、その他アポイントメントで随時																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
英 文 学 ・ 英 語 学 基 礎 講 読 I English Literature and Linguistics (Introductory Reading) I	2	准教授 ティンク ジェイムズ	3	木	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT217E				
◆ 授業題目	Reading Ghost Stories (Reading Ghost Stories: Haunted Modernity)				
◆ 目的・概要	This course will read a selection of British,Irish and American ghost stories from the nineteenth and twentieth centuries. During this period of increasing industrial modernity and urbanization, the short ghost story became a growing genre of popular fiction that also attracted the attention of many leading novelists of the time. The course will examine what these supernatural fictions can tell us about ideas of nature,fantasy, science and psychology in the modern period, and consider more generally the significance of ghosts and the idea of haunting for understanding modern literature. Each week, the class will focus on one short story taken from the course book, be introduced to some critical approaches to the text, and discuss the relevant themes.				
◆ 到達目標	1 : To read a short story in English each week and discuss it in the class. 2 : To introduce approaches to analyzing and understanding fiction in English. 3 : To consider the historical, literary and intellectual context of the ghost stories in the modern period. 4 : To write opinions about literary texts in short written assignments. 5 : To discuss ideas in small groups				
◆ 授業内容・方法	1. Introduction to Ghosts in English Literature 2. Elizabeth Gaskell, "The Old Nurse's Story" 3. Fitz James O'Brien, "What Was It ?" 4. Mary Elizabeth Braddon, "The Cold Embrace." 5. Charles Dickens, "No 1 Branch Line: The Signalman" 6. Sheridan Le Fanu, "Green Tea" 7. Rudyard Kipling, "At the End of the Passage" 8. WW.WW. Jacobs "The Monkey's Paw" 9. M.R James, "Oh Whistle, and I: ll Come to You, My Lad" 10. Ambrose Bierce, "The Moonlit Road" 11. Henry James, "The Jolly Corner" (1) 12. Henry James, "The Jolly Corner" (2) 13. Edith Wharton, "Afterward" 14. Elizabeth Bowen, "The Demon Lover" 15. Final Exam				
◇ 成績評価の方法	Two papers worth 50%; mid-term and final test worth 50%				
◇ 教科書・参考書	The Penguin Book of Ghost Stories: From Elizabeth Gaskell to Ambrose Bierce. Edited by Michael Newton. (Penguin, 2010)				
◇ 授業時間外学習	Many of these stories are widely available in different editions than the text book (including online versions).				
その他 :					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
英 文 学 ・ 英 語 学 基 礎 講 読 II English Literature and Linguistics (Introductory Reading) II	2	准教授 ティンク ジェイムズ	4	木	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT218E				
◆ 授業題目	Shakespeare: <i>Hamlet</i> and Global Shakespeare (Shakespeare: <i>Hamlet</i> and Global Shakespeare)				
◆ 目的・概要	Hamlet is arguably the most famous drama ever written in English, and has become an iconic sign of Shakespearean drama. This course will introduce the play and explain its importance in English renaissance drama and British literary history. The class will read, and watch recordings of, the drama in weekly installments over the semester. Moreover, the course will also consider the modern reputation of the play and of Shakespeare as an influence across different world cultures by examining some adaptations and approaches to the play in international theatre and cinema, including Hollywood and Asian cinema. The aim will be to think about the play as not only an example of early-modern English literature, but also of how it circulates in contemporary Asia and elsewhere as a global literary text.				
◆ 到達目標	1 : To read Hamlet in English over the course of the semester, aiming to finish the play in at least ten weeks 2 : To introduce literary and historical approaches throughout the course for understanding Shakespeare and the play 3 : To look at modern and contemporary examples of Hamlet in international performances and film adaptations. 4 : To develop skills for expressing opinions in English through discussion and writing.				
◆ 授業内容・方法	1. Introduction 2. Reading Hamlet in weekly stages,part 1 3. Reading Hamlet part 2 4. Reading Hamlet part 3 5. Reading Hamlet part 4 6. Reading Hamlet, part 5 7. Reading Hamlet, part 6 8. Reading Hamlet Part 7 9. Reading Hamlet Part 8 10. Reading Hamlet Part 9 11. Reading Hamlet Part 10 12. Hollywood Hamlet 13. Dissident Hamlet 14. Hamlet in Asia 15. Final Exam				
◇ 成績評価の方法	Two short written assignments 50%; mid-teem test and final exam 50%				
◇ 教科書・参考書	William Shakespeare, Hamlet. Cambridge Schools Shakespeare 3rd ed. (Cambridge University Press, 2014)				
◇ 授業時間外学習	Hamlet will be widely available in translation, and you may want to read that first to understand the plot The website MIT Global Shakespeares (www.globalshakespeares.mit.edu) is recommended as a video archive of international Shakespeare productions.				
その他 :					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
英 文 学 各 論 English Literature (Special Lecture)	2	非常勤 講師 秦 邦 生	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT304J				
◆ 授業題目	近現代イギリス小説におけるユートピア／ディストピア (Utopia and Dystopia in Modern British Novel)				
◆ 目的・概要	ジョージ・オーウェルの『1984年』を中心に、19世紀末～20世紀中葉のイギリス小説におけるユートピア／ディストピアについて論じます。「ユートピア」はそもそも諷刺と表裏一体の文学ジャンルですが、現代においては(理想社会を描く)「ユートピア」と(悪夢の世界を描く)「ディストピア」とを二項対立的にとらえる見方が支配的です。本講義では、「ディストピア」の代表的作品として読まれることの多い『1984年』を20世紀の文化的・政治的状况に置きなおしつつ、このような二項対立を越えるテキストの読み方を探ります。授業の序盤ではユートピアに関するオーウェルのエッセイを抜粋で読みながらユートピアの「伝統」について知識をつけ、その後『1984年』を原文の引用を読みながら考察します。作品への理解を深めるために、適宜映像版なども参照します。				
◆ 到達目標	(1)ユートピア／ディストピア文学について理解を深める (2)批評的思考力を身につける (3)英語の原書を読解する英語力を身につける				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション——George Orwellとその時代 2. 「ジャンル」としてのユートピア 3. Orwell, _The Road to Wigan Pier_(1937) 4. 映画_Things to Come_(1936) 5. Orwell, "Wells, Hitler, and the World State" (1941) 6. Orwell, "Review of _The Soul of Man under Socialism_ by Oscar Wilde" ほか 7. Orwell, _Nineteen Eighty-Four_(1949), Part 1, Chapter 1-5 8. Orwell, _Nineteen Eighty-Four_(1949), Part 1, Chapter 6-8 9. Orwell, _Nineteen Eighty-Four_(1949), Part 2, Chapter 1-5 10. Orwell, _Nineteen Eighty-Four_(1949), Part 2, Chapter 6-10 11. Orwell, _Nineteen Eighty-Four_(1949), Part 3, Chapter 1-5 12. Orwell, _Nineteen Eighty-Four_(1949), Part 3, Chapter 6 & Appendix 13. 映画版_Nineteen Eighty-Four_について 14. ユートピア文学批評史の再検討 15. 全体のまとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート70%、授業内課題および授業での発言30%				
◇ 教科書・参考書	George Orwell, _Nineteen Eighty-Four_(Penguin)				
◇ 授業時間外学習	受講する学生には、授業の進行とあわせて『1984年』を原文で読み進め、自分が関心を持った作品の部分を用いて分析する課題を課しますので、Penguin 版のテキストはかならず入手しておいてください。また、(原語でも翻訳版でも)『1984年』を授業開始前に一度は通読しておくことさらに理解が深まるでしょう。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
英 語 文 化 論 各 論 English Culture (Special Lecture)	2	非常勤 講師 川 田 潤	5	月	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT305J				
◆ 授業題目	初期女性作家を読む(1) (Reading Early Women Writers (1))				
◆ 目的・概要	この授業では、16世紀から18世紀までの女性作家の作品を扱います。近年の女性作家の再発見によって、さまざまな女性作家の作品が読まれ、さまざまな文学ジャンルの形成において重要な役割を果たしていたことが明らかになってきています。本講義では、通時的に女性作家によって書かれたテキストを、そのジャンル(形式)を意識しながら、辿ることで、女性が文学史的に果たした役割を確認しつつ、そのテキスト内外で、ジェンダーを巡る問題がどのように認識、形成されていったかを考察します。作品の重要な場面は英語の原文で読むことで、より理解を深めます。				
◆ 到達目標	(1)英文学史、英国文化の知識を身につける (2)批評的思考力を身につける(主にフェミニズム／ジェンダー批評の観点から) (3)英語の原書を読解する英語力を身につける				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要の説明および現在のフェミニズム／ジェンダー批評について(1) 2. 文学的・文化的背景の確認、現在のフェミニズム／ジェンダー批評について(2) 3. 牧歌ロマンス(The Pastoral Romance)(1): Lady Mary Wroath 4. 牧歌ロマンス(The Pastoral Romance)(2): Anne Wamys 5. 伝記文学(Biography)(1): Countess of Pembroke 6. 伝記文学(Biography)(2): Lucy Hutchinson 7. 異世界旅行(Journey to Imaginary Country): 8. 英国の生活(English Life): Duchess of Newcastle(2) 9. リアリズム(Realism): Aphra Behn(1) 10. 諷刺(Satire): Aphra Behn(2) 11. 鍵小説(Key Novel): Delarivier Manley(1) 12. 書簡体(Epistolary Form)(1): Delarivier Manley(2) 13. 書簡体(Epistolary Form)(2): Elizabeth Rowe 14. 感傷的短編小説(Sentimentalized Novella): Eliza Heywood 15. 授業のまとめと試験 				
◇ 成績評価の方法	授業への参加状況(グループ活動、質疑、Minutes Paper等、30%)、レポート(授業内容の理解、興味をもったジャンル、作家について、70%)に基づいて、総合的に判断します。				
◇ 教科書・参考書	プリントを配布します。				
◇ 授業時間外学習	予習段階で配布教材に目を通し、授業後には自分なりに興味をもった点や疑問点についてまとめ、リサーチを行ってもらいます。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 語 文 化 論 各 論 English Culture (Special Lecture)	2	非常勤 講師 川 田 潤	6	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT305J																				
◆ 授業題目	初期女性作家を読む(2) (Reading Early Women Writers (2))																				
◆ 目的・概要	この授業では、散文作品を読解することによって、英語を読む力を養うとともに、イギリス文化の理解を深めること目指します。具体的には、17世紀の女性作家であるアフラ・ベーン (Aprha Behn, 1640-1689) の『美しい浮気女』と、マーガレット・キャヴェンディッシュ (Margaret Cavendish, 1623-1673) の『契約』を読みます。二つの作品を読むことで、フェミニズム/ジェンダー的な観点など、より広い文化的な理解を目指すとともに、文化を「解釈」する能力およびそれを「論理的にまとめる」能力を学びます。授業時には、予習してきたものをもとに、話し合い、発表、質疑応答などの活動を主体的に行ってもらいます。また、関連する資料などの調査・紹介を行うことによって、資料の探し方および紹介の仕方についても力を付けてもらうことも目的としています。																				
◆ 到達目標	(1)英文学を文化的観点から理解する (2)批評的思考に基づき、作品の分析を行うとともに、リサーチの手法を身につける (3)英語の原書をより深く読解する英語力を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業概要の説明および作者アフラ・ベーンについて</td> <td>9. 作者マーガレット・キャヴェンディッシュについて</td> </tr> <tr> <td>2. 概説的な論文の読解</td> <td>10. pp. 3-10.</td> </tr> <tr> <td>3. pp. 75-82.</td> <td>11. pp. 10-17.</td> </tr> <tr> <td>4. pp. 82-91.</td> <td>12. pp. 17-25.</td> </tr> <tr> <td>5. pp. 91-100.</td> <td>13. pp. 26-33.</td> </tr> <tr> <td>6. pp. 100-110.</td> <td>14. pp. 34-43.</td> </tr> <tr> <td>7. pp. 110-119.</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 中間まとめ</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業概要の説明および作者アフラ・ベーンについて	9. 作者マーガレット・キャヴェンディッシュについて	2. 概説的な論文の読解	10. pp. 3-10.	3. pp. 75-82.	11. pp. 10-17.	4. pp. 82-91.	12. pp. 17-25.	5. pp. 91-100.	13. pp. 26-33.	6. pp. 100-110.	14. pp. 34-43.	7. pp. 110-119.	15. 授業のまとめ	8. 中間まとめ	
1. 授業概要の説明および作者アフラ・ベーンについて	9. 作者マーガレット・キャヴェンディッシュについて																				
2. 概説的な論文の読解	10. pp. 3-10.																				
3. pp. 75-82.	11. pp. 10-17.																				
4. pp. 82-91.	12. pp. 17-25.																				
5. pp. 91-100.	13. pp. 26-33.																				
6. pp. 100-110.	14. pp. 34-43.																				
7. pp. 110-119.	15. 授業のまとめ																				
8. 中間まとめ																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加状況 (グループ活動、質疑、Minutes Paper等、20%)、発表 (担当範囲の理解、資料作成、プレゼンテーション、40%)、レポート (作品を自分なりの視点から分析する、40%) に基づいて、総合的に判断します。																				
◇ 教科書・参考書	プリントを配布します。																				
◇ 授業時間外学習	発表者以外も、予習段階で当日の範囲の教材にあらかじめ目を通し、重要な点、疑問点などについて、自分なりの意見を持って授業に臨みましょう。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 文 学 演 習 English Literature (Seminar)	I I	2 教授 大 河 内 昌	5	水	1																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT320J																				
◆ 授業題目	Jane Austen, <i>Mansfield Park</i> (1) (Jane Austen, <i>Mansfield Park</i> (1))																				
◆ 目的・概要	イギリスの20世紀の小説家 Jane Austen の小説 <i>Mansfield Park</i> の前半部分を講読してゆきます。18世紀末から19世紀初頭に生きた小説家 Austen はイングランドの田舎の紳士階級の女性たちの恋愛と結婚を主題とした小説を書きました。彼女の小説は現在でも多くの読者をもっています。一見、平坦な彼女の小説には非常に深い問題が隠されています。緻密に書かれた英語を分析的に精読してゆく醍醐味を味わいましょう。授業では毎回担当者を決めて、発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションをします。																				
◆ 到達目標	(1)小説の英語を読解する力を身につける (2)小説分析の技法を身につける (3)発表力を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. <i>Mansfield Park</i>, pp. 118-135.</td> </tr> <tr> <td>2. <i>Mansfield Park</i>, pp. 1-18.</td> <td>10. <i>Mansfield Park</i>, pp. 137-153.</td> </tr> <tr> <td>3. <i>Mansfield Park</i>, pp. 19-34.</td> <td>11. <i>Mansfield Park</i>, pp. 153-169.</td> </tr> <tr> <td>4. <i>Mansfield Park</i>, pp. 35-50.</td> <td>12. <i>Mansfield Park</i>, pp. 169-186.</td> </tr> <tr> <td>5. <i>Mansfield Park</i>, pp. 50-66.</td> <td>13. <i>Mansfield Park</i>, pp. 186-197.</td> </tr> <tr> <td>6. <i>Mansfield Park</i>, pp. 66-84.</td> <td>14. Discussion.</td> </tr> <tr> <td>7. <i>Mansfield Park</i>, pp. 84-102.</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. <i>Mansfield Park</i>, pp. 103-118.</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. <i>Mansfield Park</i> , pp. 118-135.	2. <i>Mansfield Park</i> , pp. 1-18.	10. <i>Mansfield Park</i> , pp. 137-153.	3. <i>Mansfield Park</i> , pp. 19-34.	11. <i>Mansfield Park</i> , pp. 153-169.	4. <i>Mansfield Park</i> , pp. 35-50.	12. <i>Mansfield Park</i> , pp. 169-186.	5. <i>Mansfield Park</i> , pp. 50-66.	13. <i>Mansfield Park</i> , pp. 186-197.	6. <i>Mansfield Park</i> , pp. 66-84.	14. Discussion.	7. <i>Mansfield Park</i> , pp. 84-102.	15. まとめと試験	8. <i>Mansfield Park</i> , pp. 103-118.	
1. イントロダクション	9. <i>Mansfield Park</i> , pp. 118-135.																				
2. <i>Mansfield Park</i> , pp. 1-18.	10. <i>Mansfield Park</i> , pp. 137-153.																				
3. <i>Mansfield Park</i> , pp. 19-34.	11. <i>Mansfield Park</i> , pp. 153-169.																				
4. <i>Mansfield Park</i> , pp. 35-50.	12. <i>Mansfield Park</i> , pp. 169-186.																				
5. <i>Mansfield Park</i> , pp. 50-66.	13. <i>Mansfield Park</i> , pp. 186-197.																				
6. <i>Mansfield Park</i> , pp. 66-84.	14. Discussion.																				
7. <i>Mansfield Park</i> , pp. 84-102.	15. まとめと試験																				
8. <i>Mansfield Park</i> , pp. 103-118.																					
◇ 成績評価の方法	発表と授業参加 50%・試験 50%																				
◇ 教科書・参考書	Jane Austen, <i>Mansfield Park</i> (Oxford World's Classics)																				
◇ 授業時間外学習	予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。																				
その他：オフィスアワー：火曜日 午後4時～5時30分、その他アポイントメントで随時																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
英 文 学 演 習 English Literature (Seminar) II	2	教授 大河内 昌	6	水	1
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT321J				
◆ 授業題目	Jane Austen, <i>Mansfield Park</i> (2) (Jane Austen, <i>Mansfield Park</i> (2))				
◆ 目的・概要	イギリスの20世紀の小説家 Jane Austen の小説 <i>Mansfield Park</i> の後半部分を講読してゆきます。18世紀末から19世紀初頭に生きた小説家 Austen はイングランドの田舎の紳士階級の女性たちの恋愛と結婚を主題とした小説を書きました。彼女の小説は現在でも多くの読者をもっています。一見、平坦な彼女の小説には非常に深い問題が隠されています。緻密に書かれた英語を分析的に精読してゆく醍醐味を味わいましょう。授業では毎回担当者を決めて、発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションをします。				
◆ 到達目標	(1)小説の英語を読解する力を身につける (2)小説分析の技法を身につける (3)発表力を身につける				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. <i>Mansfield Park</i>, pp. 197-213. 3. <i>Mansfield Park</i>, pp. 213-227. 4. <i>Mansfield Park</i>, pp. 227-241. 5. <i>Mansfield Park</i>, pp. 243-261. 6. <i>Mansfield Park</i>, pp. 261-279. 7. <i>Mansfield Park</i>, pp. 279-294. 8. <i>Mansfield Park</i>, pp. 294-313. 9. <i>Mansfield Park</i>, pp. 313-329. 10. <i>Mansfield Park</i>, pp. 329-343. 11. <i>Mansfield Park</i>, pp. 343-361. 12. <i>Mansfield Park</i>, pp. 362-372. 13. 概説的な論文の読解 14. Discussion. 15. まとめと試験 				
◇ 成績評価の方法	発表と授業参加 50%・試験 50%				
◇ 教科書・参考書	Jane Austen, <i>Mansfield Park</i> (Oxford World's Classics)				
◇ 授業時間外学習	予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。				
その他：オフィスアワー：火曜日 午後4時～5時30分、その他アポイントメントで随時					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
英 文 学 講 読 English Literature (Reading)	2	准教授 ティンク ジェイムズ	5	月	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT319E				
◆ 授業題目	William Shakespeare, <i>Richard III</i> (William Shakespeare, <i>Richard III</i>)				
◆ 目的・概要	This course will study one of the Shakespeare's most famous literary characters: King Richard III. This early play by Shakespeare combined the subject matter of the so-called Tudor history plays, which dramatised the recent national past, with aspects of popular Elizabethan stage tragedy, especially in the villainous but compelling character of Richard. This course will therefore introduce and examine these different aspects of the play, and consider also the ideas of power and kingship, gender and the role of women, and theatricality in the drama. We will also explore in what ways this play about political tyranny has been used to understand the more recent modern world. We will read the play in weekly installments, supported by viewing adaptations of the play.				
◆ 到達目標	1: To read the entire play in the original English, over the course of the semester. 2: To understand the historical and literary context of the renaissance drama 3: To consider some approaches to better understand early-modern English literature, 4: To express opinions in English through small discussion groups and written assignments.				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to Tudor Drama. 2. Reading <i>Richard III</i> part one 3. Reading <i>Richard III</i> 4. Reading <i>Richard III</i> 5. Reading <i>Richard III</i> 6. Reading <i>Richard III</i> 7. Reading <i>Richard III</i> 8. Reading <i>Richard III</i> 9. Reading <i>Richard III</i> 10. Reading <i>Richard III</i> 11. Reading <i>Richard III</i> 12. <i>Richard III</i> and Elizabethan nationalism. 13. <i>Richard III</i> and gender studies. 14. <i>Richard III</i> and modern politics. 15. Conclusion 				
◇ 成績評価の方法	Final essay 50%: Mid-term assessment 25%: Final Test 25%				
◇ 教科書・参考書	William Shakespeare, <i>King Richard III</i> , edited by James Siemon, Arden Third Series (Bloomsbury, 2009)				
◇ 授業時間外学習	<i>Richard III</i> has been widely translated, so you might want to read a translation in addition to the English text we will read in class. There have been a number of film versions of the story that you might enjoy watching.				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 文 学 講 読 English Literature (Reading)	2	准教授 ティンク ジェイムズ	6	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT319E																				
◆ 授業題目	James Joyce, <i>Dubliners</i> : Modernism and the Short Story (James Joyce, <i>Dubliners</i> : Modernism and the Short Story)																				
◆ 目的・概要	James Joyce's first book <i>Dubliners</i> (1914) is possibly the most famous single volume of short stories in twentieth-century English literature. It is also significant as a work of modern Irish fiction in the years just before national independence from Britain, and as an early example of literary Modernism. In this semester, we will read the majority of stories in the volume and consider the literary influences and historical contexts of Joyce's fiction. Topics will include : examining formal literary techniques of the fiction, the influence of modern literary modes that constitute Modernism (e.g. Naturalism and Symbolism), forms of national, colonial and postcolonial identity, the representation of gender and sexuality, and theories of affect, sensation and psychology in modern literary studies. Students should also be able to better understand and discuss literary fiction in general by the end of the course.																				
◆ 到達目標	1 : To read <i>Dubliners</i> in weekly installments over the semester. 2 : To understand the literary and historical contexts of Joyce's work. 3 : To improve and develop analytic skills for reading and discussing literary texts and criticism in English 4 : To improve skills in English essay writing.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Introduction to Joyce and Joyce's Dublin.</td> <td>9. "Clay"</td> </tr> <tr> <td>2. Reading stories from <i>Dubliners</i>: "The Sisters"</td> <td>10. "A Painful Case"</td> </tr> <tr> <td>3. "An Encounter"</td> <td>11. "Ivy Day in the Committee Room"</td> </tr> <tr> <td>4. "Araby"</td> <td>12. "Grace"</td> </tr> <tr> <td>5. "Eveline"</td> <td>13. "The Dead" (part 1)</td> </tr> <tr> <td>6. "After the Race"</td> <td>14. "The Dead" (part 2)</td> </tr> <tr> <td>7. "Two Gallants"</td> <td>15. Conclusion</td> </tr> <tr> <td>8. "The Boarding House"</td> <td></td> </tr> </table>					1. Introduction to Joyce and Joyce's Dublin.	9. "Clay"	2. Reading stories from <i>Dubliners</i> : "The Sisters"	10. "A Painful Case"	3. "An Encounter"	11. "Ivy Day in the Committee Room"	4. "Araby"	12. "Grace"	5. "Eveline"	13. "The Dead" (part 1)	6. "After the Race"	14. "The Dead" (part 2)	7. "Two Gallants"	15. Conclusion	8. "The Boarding House"	
1. Introduction to Joyce and Joyce's Dublin.	9. "Clay"																				
2. Reading stories from <i>Dubliners</i> : "The Sisters"	10. "A Painful Case"																				
3. "An Encounter"	11. "Ivy Day in the Committee Room"																				
4. "Araby"	12. "Grace"																				
5. "Eveline"	13. "The Dead" (part 1)																				
6. "After the Race"	14. "The Dead" (part 2)																				
7. "Two Gallants"	15. Conclusion																				
8. "The Boarding House"																					
◇ 成績評価の方法	Two in-class tests 40% Mid-tem paper 20%: Final essay 40%																				
◇ 教科書・参考書	James Joyce, <i>Dubliners</i> , (Penguin, 2000)																				
◇ 授業時間外学習	The main library contains a lot of material on James Joyce and Modernist Literature that you may want to read. Reading in translation is recommended, although the class will be based on reading the original text.																				
その他 :																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
英 語 学 概 論 English Linguistics (General Lecture)	2	教授 島 越 郎	3	水	4		
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN201J						
◆ 授業題目	英語統語論入門Ⅰ (Introduction to English Syntax I)						
◆ 目的・概要	英語の基本的文法現象を具体的に概観し、現代言語学の観点からどのように分析されるのを解説する。さらに、英語学における分析で用いられる基本概念や論証の仕方を考察し、現代英語学の思考法を理解してもらう。						
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の基本的文法現象を理解する ・ 英語統語論の基本概念を理解する ・ 英語統語論の基本的分析法を身につける 						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. What is Syntax About ? 3. Introducing Phrase Structure Rules (1) 4. Introducing Phrase Structure Rules (1) 5. Grammars (1) 6. Grammars (2) 7. Working with Grammars (1) 8. Working with Grammars (2) </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. Comparing Rules and Theories (1) 10. Comparing Rules and Theories (2) 11. Constituency and Constituency Tests (1) 12. Constituency and Constituency Tests (2) 13. Trees and Tree Relations 14. Revising, Refining, and Reconsidering 15. 期末テスト </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. What is Syntax About ? 3. Introducing Phrase Structure Rules (1) 4. Introducing Phrase Structure Rules (1) 5. Grammars (1) 6. Grammars (2) 7. Working with Grammars (1) 8. Working with Grammars (2) 	<ol style="list-style-type: none"> 9. Comparing Rules and Theories (1) 10. Comparing Rules and Theories (2) 11. Constituency and Constituency Tests (1) 12. Constituency and Constituency Tests (2) 13. Trees and Tree Relations 14. Revising, Refining, and Reconsidering 15. 期末テスト
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. What is Syntax About ? 3. Introducing Phrase Structure Rules (1) 4. Introducing Phrase Structure Rules (1) 5. Grammars (1) 6. Grammars (2) 7. Working with Grammars (1) 8. Working with Grammars (2) 	<ol style="list-style-type: none"> 9. Comparing Rules and Theories (1) 10. Comparing Rules and Theories (2) 11. Constituency and Constituency Tests (1) 12. Constituency and Constituency Tests (2) 13. Trees and Tree Relations 14. Revising, Refining, and Reconsidering 15. 期末テスト 						
◇ 成績評価の方法	副読本の内容確認テストと期末テストの合計点						
◇ 教科書・参考書	毎回、講義内容に関するプリントを配布する。副読本については、開校時に指定する。						
◇ 授業時間外学習	講義内容の十分な復習に心がけること。副読本の内容を計画的に自己学習すること。						
その他：							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
英 語 学 概 論 English Linguistics (General Lecture)	2	教授 島 越 郎	4	水	4		
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN201J						
◆ 授業題目	英語統語論入門Ⅱ (Introduction to English Syntax II)						
◆ 目的・概要	英語の基本的文法現象を具体的に概観し、現代言語学の観点からどのように分析されるのを解説する。さらに、英語学における分析で用いられる基本概念や論証の仕方を考察し、現代英語学の思考法を理解してもらう。						
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の基本的文法現象を理解する ・ 英語統語論の基本概念を理解する ・ 英語統語論の基本的分析法を身につける 						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Introducing the Lexicon 3. Features, Heads, and Phrases 4. Verbal Complements and Adjuncts 5. Distinguishing Complements and Adjuncts 6. Attaching Complements 7. Attaching Adjuncts 8. Complement Sentences (1) </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. Complement Sentences (2) 10. Invisible Lexical Items 11. NP Structure 12. X-Bar Theory 13. Interrogatives and Movement 14. More on Wh-Movement 15. 期末テスト </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Introducing the Lexicon 3. Features, Heads, and Phrases 4. Verbal Complements and Adjuncts 5. Distinguishing Complements and Adjuncts 6. Attaching Complements 7. Attaching Adjuncts 8. Complement Sentences (1) 	<ol style="list-style-type: none"> 9. Complement Sentences (2) 10. Invisible Lexical Items 11. NP Structure 12. X-Bar Theory 13. Interrogatives and Movement 14. More on Wh-Movement 15. 期末テスト
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Introducing the Lexicon 3. Features, Heads, and Phrases 4. Verbal Complements and Adjuncts 5. Distinguishing Complements and Adjuncts 6. Attaching Complements 7. Attaching Adjuncts 8. Complement Sentences (1) 	<ol style="list-style-type: none"> 9. Complement Sentences (2) 10. Invisible Lexical Items 11. NP Structure 12. X-Bar Theory 13. Interrogatives and Movement 14. More on Wh-Movement 15. 期末テスト 						
◇ 成績評価の方法	副読本の内容確認テストと期末テストの合計点						
◇ 教科書・参考書	毎回、講義内容に関するプリントを配布する。副読本については、開校時に指定する。						
◇ 授業時間外学習	講義内容の十分な復習に心がけること。副読本の内容を計画的に自己学習すること。						
その他：前期の英語学概論を履修済みであることを前提とする。							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
英 語 学 各 論 English Linguistics (Special Lecture)	2	教授 島 越 郎	5	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN301J				
◆ 授業題目	英語形式意味論入門 I (Introduction to English Semantics I)				
◆ 目的・概要	英語における意味現象を具体的に概観し、形式意味論の観点からどのように分析されるのを解説する。				
◆ 到達目標	1) 基本的な意味現象を理解する 2) 形式意味論の基本概念を理解する 3) 形式意味論の基本的分析法が身につく				
◆ 授業内容・方法	1. オリエンテーション 2. Truth Condition (1) 3. Truth Condition (2) 4. Truth Condition (3) 5. Phrase Structure Rules (1) 6. Phrase Structure Rules (2) 7. Functional Application (1) 8. Functional Application (2) 9. Functional Application (3) 10. Functional Application (4) 11. Type-Driven Interpretation (1) 12. Type-Driven Interpretation (2) 13. Type-Driven Interpretation (3) 14. Type-Driven Interpretation (4) 15. まとめ				
◇ 成績評価の方法	毎回の授業で行う口頭英作文と学期末レポートの合計点				
◇ 教科書・参考書	毎回プリントを配布する。(佐々木高政『和文英訳の修業』文建書房)				
◇ 授業時間外学習	毎回の英作文をしっかり覚えること。講義内容の復習に努めること。				
その他：前期の英語学各論を履修済みであることを前提とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
英 語 学 各 論 English Linguistics (Special Lecture)	2	非常勤講師 藏 藤 健 雄	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN301J				
◆ 授業題目	不定名詞句の諸問題 (Topics in Indefinite NPs)				
◆ 目的・概要	不定名詞句に関して、照応の問題と作用域の問題をとりあげ、ここ30年の間に提案された主要なアプローチを概観し、問題点を議論する。				
◆ 到達目標	動的意味論の考え方を理解し、理論的道具立てをある程度使えるようする。また、量化詞の作用域を派生させる代表的な方策を理解し、ある程度使えるようにする。				
◆ 授業内容・方法	1. 不定名詞句をめぐる問題のアウトライン 2. 定名詞句と不定名詞句 3. 動的意味論 (1): 割り当て関数から動的意味論への展開 4. 動的意味論 (2): ファイル変化意味論と談話表示理論 5. 動的意味論 (3): 動的述語論理 6. 動的意味論 (4): 非対称量化の問題 7. 動的意味論 (5): 後置条件節と照応 8. E/D型代名詞分析 9. 従属する代名詞等残った問題とまとめ 10. 不定名詞句 (1): 中間解釈の可能性 11. 不定名詞句 (2): 選択関数分析 12. 不定名詞句 (3): 選択/スコールム関数の応用 13. 空項の不定表現分析 (1) 14. 空項の不定表現分析 (2) 15. まとめ				
◇ 成績評価の方法	レポート 100%				
◇ 教科書・参考書	プリントにより配布。 主な参考文献は Chierchia, Gennaro (1995) Dynamics of Meaning と Szabolcsi, Ann (2010) Quantification.				
◇ 授業時間外学習	適宜、形式意味論の基礎を確認し、わからない点は授業内で確認すること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 語 解 析 学 各 論 Analytical Study of English (Special Lecture)	2	教授 島 越 郎	6	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN302J																				
◆ 授業題目	英語形式意味論入門Ⅱ (Introduction to English Semantics Ⅱ)																				
◆ 目的・概要	英語における意味現象を具体的に概観し、形式意味論の観点からどのように分析されるのを解説する。																				
◆ 到達目標	1) 基本的な意味現象を理解する 2) 形式意味論の基本概念を理解する 3) 形式意味論の基本的分析法が身につく																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. Quantification in English (3)</td> </tr> <tr> <td>2. The Syntax of the Predicate Calculus (1)</td> <td>10. Quantification in English (4)</td> </tr> <tr> <td>3. The Syntax of the Predicate Calculus (2)</td> <td>11. Quantification in English (5)</td> </tr> <tr> <td>4. The Semantics for Predicate Calculus (1)</td> <td>12. Logical Form (1)</td> </tr> <tr> <td>5. The Semantics for Predicate Calculus (2)</td> <td>13. Logical Form (2)</td> </tr> <tr> <td>6. The Semantics for Predicate Calculus (3)</td> <td>14. Logical Form (3)</td> </tr> <tr> <td>7. Quantification in English (1)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. Quantification in English (2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. Quantification in English (3)	2. The Syntax of the Predicate Calculus (1)	10. Quantification in English (4)	3. The Syntax of the Predicate Calculus (2)	11. Quantification in English (5)	4. The Semantics for Predicate Calculus (1)	12. Logical Form (1)	5. The Semantics for Predicate Calculus (2)	13. Logical Form (2)	6. The Semantics for Predicate Calculus (3)	14. Logical Form (3)	7. Quantification in English (1)	15. まとめ	8. Quantification in English (2)	
1. オリエンテーション	9. Quantification in English (3)																				
2. The Syntax of the Predicate Calculus (1)	10. Quantification in English (4)																				
3. The Syntax of the Predicate Calculus (2)	11. Quantification in English (5)																				
4. The Semantics for Predicate Calculus (1)	12. Logical Form (1)																				
5. The Semantics for Predicate Calculus (2)	13. Logical Form (2)																				
6. The Semantics for Predicate Calculus (3)	14. Logical Form (3)																				
7. Quantification in English (1)	15. まとめ																				
8. Quantification in English (2)																					
◇ 成績評価の方法	毎回の授業で行う口頭英作文と学期末レポートの合計点																				
◇ 教科書・参考書	毎回プリントを配布する。(佐々木高政『和文英訳の修業』文建書房)																				
◇ 授業時間外学習	毎回の英作文をしっかりと覚えること。講義内容の復習に努めること。																				
その他：昨年度の英語学（基礎）講読を履修済みであることを前提とする。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 語 学 講 読 English Linguistics (Reading)	2	教授 金 子 義 明	5	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN309J																				
◆ 授業題目	英語学の基本的思考法Ⅰ (Fundamental Perspectives in English Linguistics I)																				
◆ 目的・概要	英語学関連の英語文献の講読を通して、英語文献の正確な読解法を学ぶとともに、英語学の基本的な方法論の理解をめざす。																				
◆ 到達目標	①英語学の基盤を成す思考法や研究方法論が身につく ②批判的英文読解法が身に付く																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 英語学文献講読とディスカッション (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 英語学文献講読とディスカッション (1)</td> <td>10. 英語学文献講読とディスカッション (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 英語学文献講読とディスカッション (2)</td> <td>11. 英語学文献講読とディスカッション (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 英語学文献講読とディスカッション (3)</td> <td>12. 英語学文献講読とディスカッション (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 英語学文献講読とディスカッション (4)</td> <td>13. 英語学文献講読とディスカッション (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 英語学文献講読とディスカッション (5)</td> <td>14. 英語学文献講読とディスカッション (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 英語学文献講読とディスカッション (6)</td> <td>15. まとめと期末試験</td> </tr> <tr> <td>8. 英語学文献講読とディスカッション (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 英語学文献講読とディスカッション (8)	2. 英語学文献講読とディスカッション (1)	10. 英語学文献講読とディスカッション (9)	3. 英語学文献講読とディスカッション (2)	11. 英語学文献講読とディスカッション (10)	4. 英語学文献講読とディスカッション (3)	12. 英語学文献講読とディスカッション (11)	5. 英語学文献講読とディスカッション (4)	13. 英語学文献講読とディスカッション (12)	6. 英語学文献講読とディスカッション (5)	14. 英語学文献講読とディスカッション (13)	7. 英語学文献講読とディスカッション (6)	15. まとめと期末試験	8. 英語学文献講読とディスカッション (7)	
1. ガイダンス	9. 英語学文献講読とディスカッション (8)																				
2. 英語学文献講読とディスカッション (1)	10. 英語学文献講読とディスカッション (9)																				
3. 英語学文献講読とディスカッション (2)	11. 英語学文献講読とディスカッション (10)																				
4. 英語学文献講読とディスカッション (3)	12. 英語学文献講読とディスカッション (11)																				
5. 英語学文献講読とディスカッション (4)	13. 英語学文献講読とディスカッション (12)																				
6. 英語学文献講読とディスカッション (5)	14. 英語学文献講読とディスカッション (13)																				
7. 英語学文献講読とディスカッション (6)	15. まとめと期末試験																				
8. 英語学文献講読とディスカッション (7)																					
◇ 成績評価の方法	授業における発表 [20%] と期末試験 [80%]																				
◇ 教科書・参考書	テキスト：プリントを用いる。授業開始時に指示する。 参考書：原口庄輔・中村敏・金子義明(編)『〈増補版〉チョムスキー理論辞典』研究社																				
◇ 授業時間外学習	十分に予習して問題意識を明確にして授業に臨むこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 語 学 講 読 English Linguistics (Reading)	2	教授 金子 義 明	6	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN309J																				
◆ 授業題目	英語学の基本的思考法Ⅱ (Fundamental Perspectives in English Linguistics Ⅱ)																				
◆ 目的・概要	英語学関連の英語文献の講読を通して、英語文献の正確な読解法を学ぶとともに、英語学の基本的な方法論の理解をめざす。																				
◆ 到達目標	①英語学の基盤を成す思考法や研究方法論が身につく ②批判的英文読解法が身につく																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 英語学文献講読とディスカッション (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 英語学文献講読とディスカッション (1)</td> <td>10. 英語学文献講読とディスカッション (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 英語学文献講読とディスカッション (2)</td> <td>11. 英語学文献講読とディスカッション (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 英語学文献講読とディスカッション (3)</td> <td>12. 英語学文献講読とディスカッション (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 英語学文献講読とディスカッション (4)</td> <td>13. 英語学文献講読とディスカッション (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 英語学文献講読とディスカッション (5)</td> <td>14. 英語学文献講読とディスカッション (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 英語学文献講読とディスカッション (6)</td> <td>15. まとめと期末試験</td> </tr> <tr> <td>8. 英語学文献講読とディスカッション (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 英語学文献講読とディスカッション (8)	2. 英語学文献講読とディスカッション (1)	10. 英語学文献講読とディスカッション (9)	3. 英語学文献講読とディスカッション (2)	11. 英語学文献講読とディスカッション (10)	4. 英語学文献講読とディスカッション (3)	12. 英語学文献講読とディスカッション (11)	5. 英語学文献講読とディスカッション (4)	13. 英語学文献講読とディスカッション (12)	6. 英語学文献講読とディスカッション (5)	14. 英語学文献講読とディスカッション (13)	7. 英語学文献講読とディスカッション (6)	15. まとめと期末試験	8. 英語学文献講読とディスカッション (7)	
1. ガイダンス	9. 英語学文献講読とディスカッション (8)																				
2. 英語学文献講読とディスカッション (1)	10. 英語学文献講読とディスカッション (9)																				
3. 英語学文献講読とディスカッション (2)	11. 英語学文献講読とディスカッション (10)																				
4. 英語学文献講読とディスカッション (3)	12. 英語学文献講読とディスカッション (11)																				
5. 英語学文献講読とディスカッション (4)	13. 英語学文献講読とディスカッション (12)																				
6. 英語学文献講読とディスカッション (5)	14. 英語学文献講読とディスカッション (13)																				
7. 英語学文献講読とディスカッション (6)	15. まとめと期末試験																				
8. 英語学文献講読とディスカッション (7)																					
◇ 成績評価の方法	授業における発表 [20%] と期末試験 [80%]																				
◇ 教科書・参考書	テキスト：プリントを用いる。授業開始時に指示する。 参考書：原口庄輔・中村敏・金子義明 (編) 『(増補版) チョムスキー理論辞典』 研究社																				
◇ 授業時間外学習	十分に予習して問題意識を明確にして授業に臨むこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																				
英 語 学 演 習 English Linguistics (Seminar)	2	教授 金子 義 明	5	金	2																				
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN310J																								
◆ 授業題目	英語統語論：極小主義のアプローチⅠ (English Syntax: A Minimalist Approach I)																								
◆ 目的・概要	生成文法の最新の枠組みである極小主義プログラムによる英語分析のテキストを用い、英語の種々の構文がどのような概念により分析されるのかを学ぶ。授業は担当者によるオーラル・レポートと、ディスカッションによってすすめる。																								
◆ 到達目標	①生成文法理論による英語分析の概要を把握する。 ②比較的多量の英文を正確に読みこなせるようになる。 ③プレゼンテーションの実践的手順を把握する。																								
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>11. Null constituents (1) オーラル・レポートとディスカッション</td> </tr> <tr> <td>2. Grammar (1) オーラル・レポートとディスカッション</td> <td>12. Null constituents (2) オーラル・レポートとディスカッション</td> </tr> <tr> <td>3. Grammar (2) オーラル・レポートとディスカッション</td> <td>13. Null constituents (3) オーラル・レポートとディスカッション</td> </tr> <tr> <td>4. Grammar (3) オーラル・レポートとディスカッション</td> <td>14. Null constituents (4) オーラル・レポートとディスカッション</td> </tr> <tr> <td>5. Words (1) オーラル・レポートとディスカッション</td> <td>15. 授業のまとめとディスカッション</td> </tr> <tr> <td>6. Words (2) オーラル・レポートとディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. Words (3) オーラル・レポートとディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. Structure (1) オーラル・レポートとディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. Structure (2) オーラル・レポートとディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10. Structure (3) オーラル・レポートとディスカッション</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	11. Null constituents (1) オーラル・レポートとディスカッション	2. Grammar (1) オーラル・レポートとディスカッション	12. Null constituents (2) オーラル・レポートとディスカッション	3. Grammar (2) オーラル・レポートとディスカッション	13. Null constituents (3) オーラル・レポートとディスカッション	4. Grammar (3) オーラル・レポートとディスカッション	14. Null constituents (4) オーラル・レポートとディスカッション	5. Words (1) オーラル・レポートとディスカッション	15. 授業のまとめとディスカッション	6. Words (2) オーラル・レポートとディスカッション		7. Words (3) オーラル・レポートとディスカッション		8. Structure (1) オーラル・レポートとディスカッション		9. Structure (2) オーラル・レポートとディスカッション		10. Structure (3) オーラル・レポートとディスカッション	
1. ガイダンス	11. Null constituents (1) オーラル・レポートとディスカッション																								
2. Grammar (1) オーラル・レポートとディスカッション	12. Null constituents (2) オーラル・レポートとディスカッション																								
3. Grammar (2) オーラル・レポートとディスカッション	13. Null constituents (3) オーラル・レポートとディスカッション																								
4. Grammar (3) オーラル・レポートとディスカッション	14. Null constituents (4) オーラル・レポートとディスカッション																								
5. Words (1) オーラル・レポートとディスカッション	15. 授業のまとめとディスカッション																								
6. Words (2) オーラル・レポートとディスカッション																									
7. Words (3) オーラル・レポートとディスカッション																									
8. Structure (1) オーラル・レポートとディスカッション																									
9. Structure (2) オーラル・レポートとディスカッション																									
10. Structure (3) オーラル・レポートとディスカッション																									
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]、その他 (課題提出、演習発表) [50%]																								
◇ 教科書・参考書	教科書：Andrew Radford (2016) Analysing English Sentences, 2nd ed., Cambridge University Press. 参考書：原口庄輔・中村捷・金子義明 (編) 『(増補版) チョムスキー理論辞典』 (研究社)																								
◇ 授業時間外学習	十分に予習して授業に臨み、口頭発表後のディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくこと。																								
その他：前年度までに英語学概論を履修済みであることを前提とする。																									

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 語 学 演 習 English Linguistics (Seminar)	2	教授 金子 義 明	6	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN310J																				
◆ 授業題目	英語統語論：極小主義のアプローチⅡ (English Syntax: A Minimalist Approach Ⅱ)																				
◆ 目的・概要	生成文法の最新の枠組みである極小主義プログラムによる英語分析のテキストを用い、英語の種々の構文がどのような概念により分析されるのかを学ぶ。授業は担当者によるオーラル・レポートと、ディスカッションによってすすめる。																				
◆ 到達目標	①生成文法理論による英語分析の概要を把握する。 ②比較的多量の英文を正確に読みこなせるようになる。 ③プレゼンテーションの実践的手順を把握する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Head Movement (1) オーラル・レポートとディスカッション</td> <td>8. Wh-Movement (4) オーラル・レポートとディスカッション</td> </tr> <tr> <td>2. Head Movement (2) オーラル・レポートとディスカッション</td> <td>9. A-bar Movement (1) オーラル・レポートとディスカッション</td> </tr> <tr> <td>3. Head Movement (3) オーラル・レポートとディスカッション</td> <td>10. A-bar Movement (2) オーラル・レポートとディスカッション</td> </tr> <tr> <td>4. Head Movement (4) オーラル・レポートとディスカッション</td> <td>11. A-bar Movement (3) オーラル・レポートとディスカッション</td> </tr> <tr> <td>5. Wh-Movement (1) オーラル・レポートとディスカッション</td> <td>12. A-bar Movement (4) オーラル・レポートとディスカッション</td> </tr> <tr> <td>6. Wh-Movement (2) オーラル・レポートとディスカッション</td> <td>13. 総括 (1) 口頭発表とディスカッション</td> </tr> <tr> <td>7. Wh-Movement (3) オーラル・レポートとディスカッション</td> <td>14. 総括 (2) 口頭発表とディスカッション</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 総括 (3) 口頭発表とディスカッション</td> </tr> </table>					1. Head Movement (1) オーラル・レポートとディスカッション	8. Wh-Movement (4) オーラル・レポートとディスカッション	2. Head Movement (2) オーラル・レポートとディスカッション	9. A-bar Movement (1) オーラル・レポートとディスカッション	3. Head Movement (3) オーラル・レポートとディスカッション	10. A-bar Movement (2) オーラル・レポートとディスカッション	4. Head Movement (4) オーラル・レポートとディスカッション	11. A-bar Movement (3) オーラル・レポートとディスカッション	5. Wh-Movement (1) オーラル・レポートとディスカッション	12. A-bar Movement (4) オーラル・レポートとディスカッション	6. Wh-Movement (2) オーラル・レポートとディスカッション	13. 総括 (1) 口頭発表とディスカッション	7. Wh-Movement (3) オーラル・レポートとディスカッション	14. 総括 (2) 口頭発表とディスカッション		15. 総括 (3) 口頭発表とディスカッション
1. Head Movement (1) オーラル・レポートとディスカッション	8. Wh-Movement (4) オーラル・レポートとディスカッション																				
2. Head Movement (2) オーラル・レポートとディスカッション	9. A-bar Movement (1) オーラル・レポートとディスカッション																				
3. Head Movement (3) オーラル・レポートとディスカッション	10. A-bar Movement (2) オーラル・レポートとディスカッション																				
4. Head Movement (4) オーラル・レポートとディスカッション	11. A-bar Movement (3) オーラル・レポートとディスカッション																				
5. Wh-Movement (1) オーラル・レポートとディスカッション	12. A-bar Movement (4) オーラル・レポートとディスカッション																				
6. Wh-Movement (2) オーラル・レポートとディスカッション	13. 総括 (1) 口頭発表とディスカッション																				
7. Wh-Movement (3) オーラル・レポートとディスカッション	14. 総括 (2) 口頭発表とディスカッション																				
	15. 総括 (3) 口頭発表とディスカッション																				
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]、その他 (課題提出、演習発表) [50%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書：Andrew Radford (2016) <i>Analysing English Sentences</i> , 2nd ed., Cambridge University Press.																				
◇ 授業時間外学習	参考書：原口庄輔・中村捷・金子義明 (編) 『(増補版) チョムスキー理論辞典』 (研究社) 十分に予習して授業に臨み、口頭発表後のディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくこと。																				
その他：前年度までに英語学概論を履修済みであることを前提とする。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 語 学 演 習 English Linguistics (Seminar)	2	教授 金子 義 明 島 越 郎	7	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN310J																				
◆ 授業題目	英語学の諸問題研究Ⅰ (Current Topics in English Linguistics (Seminar) Ⅰ)																				
◆ 目的・概要	英語学研究の最新の動向を把握し、各自の学習・研究の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。 ①研究論文を担当者がオーラル・レポートする。 ②討論者がコメントを加える。 ③授業の参加者全員でディスカッションを行う。 授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。																				
◆ 到達目標	①英語学研究の最新動向を把握する ②研究論文の批判的考察法が身に付く																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 英語学研究論文(1)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション</td> <td>9. 英語学研究論文(9)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション</td> </tr> <tr> <td>2. 英語学研究論文(2)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション</td> <td>10. 英語学研究論文(10)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション</td> </tr> <tr> <td>3. 英語学研究論文(3)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション</td> <td>11. 英語学研究論文(11)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション</td> </tr> <tr> <td>4. 英語学研究論文(4)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション</td> <td>12. 英語学研究論文(12)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション</td> </tr> <tr> <td>5. 英語学研究論文(5)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション</td> <td>13. 英語学研究論文(13)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション</td> </tr> <tr> <td>6. 英語学研究論文(6)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション</td> <td>14. 英語学研究論文(14)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション</td> </tr> <tr> <td>7. 英語学研究論文(7)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション</td> <td>15. 英語学研究論文(15)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション</td> </tr> <tr> <td>8. 英語学研究論文(8)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション</td> <td></td> </tr> </table>					1. 英語学研究論文(1)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション	9. 英語学研究論文(9)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション	2. 英語学研究論文(2)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション	10. 英語学研究論文(10)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション	3. 英語学研究論文(3)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション	11. 英語学研究論文(11)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション	4. 英語学研究論文(4)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション	12. 英語学研究論文(12)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション	5. 英語学研究論文(5)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション	13. 英語学研究論文(13)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション	6. 英語学研究論文(6)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション	14. 英語学研究論文(14)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション	7. 英語学研究論文(7)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション	15. 英語学研究論文(15)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション	8. 英語学研究論文(8)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション	
1. 英語学研究論文(1)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション	9. 英語学研究論文(9)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション																				
2. 英語学研究論文(2)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション	10. 英語学研究論文(10)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション																				
3. 英語学研究論文(3)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション	11. 英語学研究論文(11)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション																				
4. 英語学研究論文(4)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション	12. 英語学研究論文(12)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション																				
5. 英語学研究論文(5)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション	13. 英語学研究論文(13)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション																				
6. 英語学研究論文(6)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション	14. 英語学研究論文(14)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション																				
7. 英語学研究論文(7)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション	15. 英語学研究論文(15)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション																				
8. 英語学研究論文(8)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション																					
◇ 成績評価の方法	期末レポート																				
◇ 教科書・参考書	取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	オーラルレポート対象となる英語学研究論文は英語学研究室ホームページに掲載するのであらかじめ読んで参加すること。																				
その他：前年度までに英語学概論および英語学演習を履修していることが必要である。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
英 語 学 演 習 English Linguistics (Seminar)	2	教授 金子 義明 島 越 郎	8	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN310J				
◆ 授業題目	英語学の諸問題研究Ⅱ (Current Topics in English Linguistics (Seminar) Ⅱ)				
◆ 目的・概要	英語学研究の最新の動向を把握し、各自の学習・研究の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。 ①研究論文を担当者がオーラル・レポートする。 ②討論者がコメントを加える。 ③授業の参加者全員でディスカッションを行う。 授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。				
◆ 到達目標	①英語学研究の最新動向を把握する ②研究論文の批判的考察法が身に付く				
◆ 授業内容・方法	1. 英語学研究論文(1)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション 2. 英語学研究論文(2)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション 3. 英語学研究論文(3)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション 4. 英語学研究論文(4)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション 5. 英語学研究論文(5)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション 6. 英語学研究論文(6)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション 7. 英語学研究論文(7)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション 8. 英語学研究論文(8)のオーラル・レポート討論者によるコ	メントディスカッション 9. 英語学研究論文(9)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション 10. 英語学研究論文(10)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション 11. 英語学研究論文(11)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション 12. 英語学研究論文(12)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション 13. 英語学研究論文(13)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション 14. 英語学研究論文(14)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション 15. 英語学研究論文(15)のオーラル・レポート討論者によるコメントディスカッション			
◇ 成績評価の方法	期末レポート				
◇ 教科書・参考書	取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。				
◇ 授業時間外学習	オーラルレポート対象となる英語学研究論文は英語学研究室ホームページに掲載するのであらかじめ読んで参加すること。				
その他：前年度までに英語学概論および英語学演習を履修していることが必要である。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
ド イ ツ 文 学 概 論 I German Literature (General Lecture) I	2	教授 森 本 浩 一	3	水	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT204J				
◆ 授業題目	ヨーロッパの文脈から見たドイツの歴史 (An outline of German history from the European perspective)				
◆ 目的・概要	「ドイツ語圏」の歴史と文化に関する基礎的知識の習得を目的として、歴史上の重要なトピックを取り上げて概説する。「ヨーロッパ」という文脈を常に意識し、そこにおけるドイツの特殊性とは何かを考えてゆきたい。幅広い概観を通じて常識的視野を広げることを目的とする授業である。世界史についての関心を有していることが望ましい。				
◆ 到達目標	ドイツ語圏を中心としたヨーロッパの歴史と文化に関する常識が身につく、現代の世界がなぜこうなっているのかについて理解し考察する能力が向上する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 古典古代とゲルマン人 2. キリスト教とは何か 3. 「異」民族とヨーロッパ 4. 神聖ローマ帝国の成立 5. 神聖ローマ帝国の発展 6. 中世の秋 7. 宗教改革 8. 英・仏・独の16世紀 9. 30年戦争前後 10. プロイセンとオーストリア 11. ドイツ国家の形成 12. 第一次大戦とヴァイマル共和国 13. ヒトラーと第二次大戦 14. ホロコースト 15. 戦後ドイツ 				
◇ 成績評価の方法	おおむね、出席（30%）と期末レポート（70%）。				
◇ 教科書・参考書	参考書としては、坂井栄八郎『ドイツ10講』、岩波新書、2003年。その他は、授業中に指示する。				
◇ 授業時間外学習	特別に予習や復習を求めるものではないが、読書やメディアからの情報収集を通じて、ヨーロッパの現状と来歴について関心を向け、自ら思索する習慣を身につけてほしい。				
その他：個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ることに。 xkc-m2rt@m.tohoku.ac.jp（森本浩一）					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
ド イ ツ 文 学 概 論 II German Literature (General Lecture) II	2	教授 森 本 浩 一	4	水	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT205J				
◆ 授業題目	物語と物語経験 (Narrative and its Experience)				
◆ 目的・概要	小説・映画・ドラマ・マンガ・ゲームなど「フィクションの物語」は、ますますそのジャンルを多様化させ、文化産業としての規模も拡大して、われわれの日常生活に浸透している。消費者としてのわれわれは、それを楽しめばいいだけの話ではある。しかし、なぜ「現実」と関わらない「物語」が面白いのか、そもそも物語を享受するときわれわれは何をしているのか、という問いを立てたとき、それに答えるのは容易ではない。この授業は、こうした問いを抱き、自らの「物語経験」を反省してみたいと考える学生とともに、なにごしか思索を深めようとする試みである。				
◆ 到達目標	物語および物語経験についての一般的理解が深まり、個別の作品享受がより自由で豊かなものになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 現実とフィクション 3. 物語とは何か 4. 物語の基本性質 5. メディアと物語 (1) 6. メディアと物語 (2) 7. ナラトロジー (1) 8. ナラトロジー (2) 9. 小説の物語経験 (1) 10. 小説の物語経験 (2) 11. マンガの物語経験 (1) 12. マンガの物語経験 (2) 13. 映画・アニメの物語経験 14. 物語経験の時間性 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	おおむね、出席（30%）およびレポート（70%）。レポートは、単なる「調べ物」ではなく自ら思索した跡が感じられるかどうかで評価する。				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する。				
◇ 授業時間外学習	これを機会に、自分がこれまで知らなかった、あるいは敬遠していた作品やジャンルにも接して「物語経験」の幅を広げ、そこで自分が何を「感じるか」を常に反省する習慣を身につけてほしい。できるだけ多様な小説を読み、映画を見、マンガを読むことがこの授業における「時間外学習」である。				
その他：個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ることに。 xkc-m2rt@m.tohoku.ac.jp（森本浩一）					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																								
ド イ ツ 語 学 演 習 I German Linguistics (Seminar) I	2	教授 嶋 崎 啓	5	月	4																								
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT327J																												
◆ 授業題目	中高ドイツ語講読 (Reading "Nibelungenlied" in middle high German)																												
◆ 目的・概要	ドイツ中世叙事詩「ニーベルンゲンの歌」を原文で講読する。1200年頃の中高ドイツ語 (Mittelhochdeutsch) をよりよく理解することを目指しながら、物語展開上の文脈の解釈にも重点を置きたい。その際、中世ヨーロッパの文化や社会についての理解を深めることにも留意する。また北欧の伝承との関連についてもあわせて考察したい。																												
◆ 到達目標	中高ドイツ語の文学作品を読み、表現が理解できるようになる。ヨーロッパ中世の文化や世界観についての知識を深める。																												
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 「ニーベルンゲンの歌」講読</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>2. 中高ドイツ語の基礎知識 1</td> <td>10. 「ニーベルンゲンの歌」講読</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>3. 中高ドイツ語の基礎知識 2</td> <td>11. 「ニーベルンゲンの歌」講読</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>4. 中高ドイツ語の基礎知識 3</td> <td>12. 「ニーベルンゲンの歌」講読</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>5. 「ニーベルンゲンの歌」講読 1</td> <td>13. 「ニーベルンゲンの歌」講読</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>6. 「ニーベルンゲンの歌」講読 2</td> <td>14. 「ニーベルンゲンの歌」講読</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>7. 「ニーベルンゲンの歌」講読 3</td> <td>15. まとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 「ニーベルンゲンの歌」講読 4</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 「ニーベルンゲンの歌」講読	5	2. 中高ドイツ語の基礎知識 1	10. 「ニーベルンゲンの歌」講読	6	3. 中高ドイツ語の基礎知識 2	11. 「ニーベルンゲンの歌」講読	7	4. 中高ドイツ語の基礎知識 3	12. 「ニーベルンゲンの歌」講読	8	5. 「ニーベルンゲンの歌」講読 1	13. 「ニーベルンゲンの歌」講読	9	6. 「ニーベルンゲンの歌」講読 2	14. 「ニーベルンゲンの歌」講読	10	7. 「ニーベルンゲンの歌」講読 3	15. まとめ		8. 「ニーベルンゲンの歌」講読 4		
1. ガイダンス	9. 「ニーベルンゲンの歌」講読	5																											
2. 中高ドイツ語の基礎知識 1	10. 「ニーベルンゲンの歌」講読	6																											
3. 中高ドイツ語の基礎知識 2	11. 「ニーベルンゲンの歌」講読	7																											
4. 中高ドイツ語の基礎知識 3	12. 「ニーベルンゲンの歌」講読	8																											
5. 「ニーベルンゲンの歌」講読 1	13. 「ニーベルンゲンの歌」講読	9																											
6. 「ニーベルンゲンの歌」講読 2	14. 「ニーベルンゲンの歌」講読	10																											
7. 「ニーベルンゲンの歌」講読 3	15. まとめ																												
8. 「ニーベルンゲンの歌」講読 4																													
◇ 成績評価の方法	平常点 (出席、授業での発言、質疑) [100%]																												
◇ 教科書・参考書	テキスト: Das Nibelungenlied. Mittelhochdeutsch/Neuhochdeutsch. Stuttgart: Reclam 1997. 参考書: 『中高ドイツ語小辞典』同学社、浜崎長寿『中高ドイツ語の分類語彙と変化表』大学書林、M. Lexers Mittelhochdeutsches Taschenwörterbuch. Stuttgart: Hirzel.																												
◇ 授業時間外学習	前もって単語の文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づきつつ、辞書を使って予習をしてもらいたい。																												
その他: 講読する箇所は先学期からの続きである。																													

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																								
ド イ ツ 語 学 演 習 II German Linguistics (Seminar) II	2	教授 嶋 崎 啓	6	月	4																								
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT328J																												
◆ 授業題目	中高ドイツ語講読 (Reading "Nibelungenlied" in middle high German)																												
◆ 目的・概要	ドイツ中世叙事詩「ニーベルンゲンの歌」を原文で講読する。1200年頃の中高ドイツ語 (Mittelhochdeutsch) をよりよく理解することを目指しながら、物語展開上の文脈の解釈にも重点を置きたい。その際、中世ヨーロッパの文化や社会についての理解を深めることにも留意する。また北欧の伝承との関連についてもあわせて考察したい。																												
◆ 到達目標	中高ドイツ語の文学作品を読み、表現が理解できるようになる。ヨーロッパ中世の文化や世界観についての知識を深める。																												
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 「ニーベルンゲンの歌」講読</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>2. 中高ドイツ語の基礎知識 1</td> <td>10. 「ニーベルンゲンの歌」講読</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>3. 中高ドイツ語の基礎知識 2</td> <td>11. 「ニーベルンゲンの歌」講読</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>4. 中高ドイツ語の基礎知識 3</td> <td>12. 「ニーベルンゲンの歌」講読</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>5. 「ニーベルンゲンの歌」講読 1</td> <td>13. 「ニーベルンゲンの歌」講読</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>6. 「ニーベルンゲンの歌」講読 2</td> <td>14. 「ニーベルンゲンの歌」講読</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>7. 「ニーベルンゲンの歌」講読 3</td> <td>15. まとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 「ニーベルンゲンの歌」講読 4</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 「ニーベルンゲンの歌」講読	5	2. 中高ドイツ語の基礎知識 1	10. 「ニーベルンゲンの歌」講読	6	3. 中高ドイツ語の基礎知識 2	11. 「ニーベルンゲンの歌」講読	7	4. 中高ドイツ語の基礎知識 3	12. 「ニーベルンゲンの歌」講読	8	5. 「ニーベルンゲンの歌」講読 1	13. 「ニーベルンゲンの歌」講読	9	6. 「ニーベルンゲンの歌」講読 2	14. 「ニーベルンゲンの歌」講読	10	7. 「ニーベルンゲンの歌」講読 3	15. まとめ		8. 「ニーベルンゲンの歌」講読 4		
1. ガイダンス	9. 「ニーベルンゲンの歌」講読	5																											
2. 中高ドイツ語の基礎知識 1	10. 「ニーベルンゲンの歌」講読	6																											
3. 中高ドイツ語の基礎知識 2	11. 「ニーベルンゲンの歌」講読	7																											
4. 中高ドイツ語の基礎知識 3	12. 「ニーベルンゲンの歌」講読	8																											
5. 「ニーベルンゲンの歌」講読 1	13. 「ニーベルンゲンの歌」講読	9																											
6. 「ニーベルンゲンの歌」講読 2	14. 「ニーベルンゲンの歌」講読	10																											
7. 「ニーベルンゲンの歌」講読 3	15. まとめ																												
8. 「ニーベルンゲンの歌」講読 4																													
◇ 成績評価の方法	平常点 (出席、授業での発言、質疑) [100%]																												
◇ 教科書・参考書	テキスト: Das Nibelungenlied. Mittelhochdeutsch/Neuhochdeutsch. Stuttgart: Reclam 1997. 参考書: 『中高ドイツ語小辞典』同学社、浜崎長寿『中高ドイツ語の分類語彙と変化表』大学書林、M. Lexers Mittelhochdeutsches Taschenwörterbuch. Stuttgart: Hirzel.																												
◇ 授業時間外学習	前もって単語の文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づきつつ、辞書を使って予習をしてもらいたい。																												
その他: 講読する箇所は先学期からの続きである。																													

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 学 基 礎 講 読 I German Literature (Introductory Reading) I	2	教授 ナロック ハイコ	3	金	1																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT219F																				
◆ 授業題目	ドイツ文学基礎講読 (German Literature (Introductory Reading) I)																				
◆ 目的・概要	全学教育で身についたドイツ語能力を安定させて発展させる。 学習者用に編集された文学作品に触れながら、聴解力や表現力も高める。																				
◆ 到達目標	A 2レベルのドイツ語力を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業説明 受講者のドイツ語能力確認</td> <td>9. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第8話</td> </tr> <tr> <td>2. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第1話</td> <td>10. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第9話</td> </tr> <tr> <td>3. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第2話</td> <td>11. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第10話</td> </tr> <tr> <td>4. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第3話</td> <td>12. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第11話</td> </tr> <tr> <td>5. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第4話</td> <td>13. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第12話</td> </tr> <tr> <td>6. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第5話</td> <td>14. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第13話</td> </tr> <tr> <td>7. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第6話</td> <td>15. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第14話</td> </tr> <tr> <td>8. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第7話</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業説明 受講者のドイツ語能力確認	9. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第8話	2. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第1話	10. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第9話	3. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第2話	11. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第10話	4. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第3話	12. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第11話	5. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第4話	13. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第12話	6. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第5話	14. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第13話	7. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第6話	15. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第14話	8. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第7話	
1. 授業説明 受講者のドイツ語能力確認	9. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第8話																				
2. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第1話	10. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第9話																				
3. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第2話	11. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第10話																				
4. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第3話	12. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第11話																				
5. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第4話	13. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第12話																				
6. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第5話	14. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第13話																				
7. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第6話	15. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第14話																				
8. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第7話																					
◇ 成績評価の方法	毎回の参加、課題、宿題																				
◇ 教科書・参考書	Enzensberger, H.M./V. Eismann. 2004. Der Auftrag. Langenscheidt. Rinvolucrí&Davis. 2016. 66 Grammatikspiele. Klett. Kaminski, Diethelm. 1990. Lernideen mit Bildern.																				
◇ 授業時間外学習	定期的に宿題を出す																				
その他:																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 学 基 礎 講 読 II German Literature (Introductory Reading) II	2	教授 ナロック ハイコ	4	金	1																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT220F																				
◆ 授業題目	ドイツ文学基礎講読 (German Literature (Introductory Reading) I)																				
◆ 目的・概要	全学教育で身についたドイツ語能力を安定させて発展させる。 学習者用に編集された文学作品に触れながら、聴解力や表現力も高める。																				
◆ 到達目標	A 2レベルのドイツ語力を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業説明 受講者のドイツ語能力確認</td> <td>9. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第22話</td> </tr> <tr> <td>2. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第15話</td> <td>10. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第23話</td> </tr> <tr> <td>3. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第16話</td> <td>11. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第24話</td> </tr> <tr> <td>4. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第17話</td> <td>12. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第25話</td> </tr> <tr> <td>5. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第18話</td> <td>13. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第26話</td> </tr> <tr> <td>6. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第19話</td> <td>14. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第27話</td> </tr> <tr> <td>7. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第20話</td> <td>15. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第28話</td> </tr> <tr> <td>8. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第21話</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業説明 受講者のドイツ語能力確認	9. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第22話	2. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第15話	10. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第23話	3. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第16話	11. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第24話	4. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第17話	12. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第25話	5. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第18話	13. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第26話	6. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第19話	14. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第27話	7. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第20話	15. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第28話	8. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第21話	
1. 授業説明 受講者のドイツ語能力確認	9. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第22話																				
2. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第15話	10. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第23話																				
3. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第16話	11. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第24話																				
4. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第17話	12. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第25話																				
5. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第18話	13. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第26話																				
6. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第19話	14. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第27話																				
7. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第20話	15. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第28話																				
8. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク 第21話																					
◇ 成績評価の方法	毎回の参加、課題、宿題																				
◇ 教科書・参考書	Enzensberger, H. M./V. Eismann. 2004. Der Auftrag. Langenscheidt. Rinvolucrí & Davis. 2016. 66 Grammatikspiele. Klett. Kaminski, Diethelm. 1990. Lernideen mit Bildern."																				
◇ 授業時間外学習	定期的に宿題を出す																				
その他:																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																				
ド イ ツ 文 学 各 論 I German Literature (Special Lecture) I	2	非常勤 講師 佐藤雪野	5	火	3																				
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT306J																								
◆ 授業題目	ドイツ (語) 文化圏の文化と歴史(1) (Culture and History of German Cultural Sphere (1))																								
◆ 目的・概要	広い意味でのドイツ (語) 文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。その際、余り知られていないドイツ以外のドイツ (語) 文化圏に着目する。今学期はヨーロッパ東部に居住している (いた) ドイツ人が、なぜそこに移り住んだのか、周辺異民族とどのように交流しつつ、自らの文化を維持し、発展させ、アイデンティティを形成したかを検討する。そのために、ドイツ語で書かれたテキストを精読し、ドイツ語の読解力も高める。																								
◆ 到達目標	1. ドイツ (語) 文化圏の歴史と文化を理解する。 2. ドイツ語の読解力を向上させる。 3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。																								
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>Nachfahren zur europäischen Kultur (3)</td> </tr> <tr> <td>2. Die Siedlung Deutscher in Osteuropa</td> <td>9. Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer</td> </tr> <tr> <td>3. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter (1)</td> <td>Nachfahren zur europäischen Kultur (4)</td> </tr> <tr> <td>4. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter (2)</td> <td>10. Vom Miteinander zum Gegeneinander (1)</td> </tr> <tr> <td>5. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter (3)</td> <td>11. Vom Miteinander zum Gegeneinander (2)</td> </tr> <tr> <td>6. Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer</td> <td>12. Vom Miteinander zum Gegeneinander (3)</td> </tr> <tr> <td>Nachfahren zur europäischen Kultur (1)</td> <td>13. Vom Miteinander zum Gegeneinander (4)</td> </tr> <tr> <td>7. Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer</td> <td>14. Vom Miteinander zum Gegeneinander (5)</td> </tr> <tr> <td>Nachfahren zur europäischen Kultur (2)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	Nachfahren zur europäischen Kultur (3)	2. Die Siedlung Deutscher in Osteuropa	9. Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer	3. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter (1)	Nachfahren zur europäischen Kultur (4)	4. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter (2)	10. Vom Miteinander zum Gegeneinander (1)	5. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter (3)	11. Vom Miteinander zum Gegeneinander (2)	6. Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer	12. Vom Miteinander zum Gegeneinander (3)	Nachfahren zur europäischen Kultur (1)	13. Vom Miteinander zum Gegeneinander (4)	7. Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer	14. Vom Miteinander zum Gegeneinander (5)	Nachfahren zur europäischen Kultur (2)	15. まとめ	8. Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer	
1. オリエンテーション	Nachfahren zur europäischen Kultur (3)																								
2. Die Siedlung Deutscher in Osteuropa	9. Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer																								
3. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter (1)	Nachfahren zur europäischen Kultur (4)																								
4. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter (2)	10. Vom Miteinander zum Gegeneinander (1)																								
5. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter (3)	11. Vom Miteinander zum Gegeneinander (2)																								
6. Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer	12. Vom Miteinander zum Gegeneinander (3)																								
Nachfahren zur europäischen Kultur (1)	13. Vom Miteinander zum Gegeneinander (4)																								
7. Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer	14. Vom Miteinander zum Gegeneinander (5)																								
Nachfahren zur europäischen Kultur (2)	15. まとめ																								
8. Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer																									
◇ 成績評価の方法	平常点 (出席、アサインメント、発言状況) : 70% 期末課題 : 30%																								
◇ 教科書・参考書	テキスト : Dralle, Lothar, Die Deutschen in Ostmittel- und Osteuropa: Ein Jahrtausend europäischer Geschichte, Darmstadt: Wissenschaftliche Buchgesellschaft, 1991. その他参考書等については、随時指示する。																								
◇ 授業時間外学習	予習中心 : テキストを読み、関連事項を調べておくこと。復習時にも、調査が必要。																								
その他 : 進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。 テキストの入手方法や、その他の補足説明 (オフィス・アワー、講師への連絡方法など) は開講時に行う。																									

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 学 各 論 II German Literature (Special Lecture) II	2	非常勤 講師 佐藤雪野	6	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT307J																				
◆ 授業題目	ドイツ (語) 文化圏の文化と歴史(2) (Culture and History of German Cultural Sphere (2))																				
◆ 目的・概要	広い意味でのドイツ (語) 文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。その際、余り知られていないドイツ以外のドイツ (語) 文化圏に着目する。今学期はかつてプラハに存在したドイツ文化空間の特性を、ユダヤ人との関係に注目しつつ検討する。そのために、初版が1916年に出版されたグスタフ・マイリンクの『ゴーレム』をテキストとして精読し、作品とその背景を考察する。																				
◆ 到達目標	1. ドイツ (語) 文化圏の歴史と文化を理解する。 2. ドイツ語の読解力を向上させる。 3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. Golem: Punsch (2)</td> </tr> <tr> <td>2. グスタフ・マイリンクについて</td> <td>10. Golem: Nacht</td> </tr> <tr> <td>3. Golem: Schlaf</td> <td>11. Golem: Wach</td> </tr> <tr> <td>4. Golem: Tag</td> <td>12. Golem: Schnee</td> </tr> <tr> <td>5. Golem: I</td> <td>13. Golem: Spuk</td> </tr> <tr> <td>6. Golem: Prag (1)</td> <td>14. Golem: Licht</td> </tr> <tr> <td>7. Golem: Prag (2)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. Golem: Punsch (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. Golem: Punsch (2)	2. グスタフ・マイリンクについて	10. Golem: Nacht	3. Golem: Schlaf	11. Golem: Wach	4. Golem: Tag	12. Golem: Schnee	5. Golem: I	13. Golem: Spuk	6. Golem: Prag (1)	14. Golem: Licht	7. Golem: Prag (2)	15. まとめ	8. Golem: Punsch (1)	
1. オリエンテーション	9. Golem: Punsch (2)																				
2. グスタフ・マイリンクについて	10. Golem: Nacht																				
3. Golem: Schlaf	11. Golem: Wach																				
4. Golem: Tag	12. Golem: Schnee																				
5. Golem: I	13. Golem: Spuk																				
6. Golem: Prag (1)	14. Golem: Licht																				
7. Golem: Prag (2)	15. まとめ																				
8. Golem: Punsch (1)																					
◇ 成績評価の方法	平常点 (出席、アサインメント、発言状況) : 70% 期末課題 : 30%																				
◇ 教科書・参考書	テキスト : Meyrink, Gustav, Golem, Augsburg: Weltbild, 1994. 他の版でも可。その他参考書等については随時指示する。																				
◇ 授業時間外学習	予習中心 : テキストをよく読んでおくこと。																				
その他 : 進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。 テキストの入手方法や、その他の補足説明 (オフィス・アワー、講師への連絡方法など) は開講時に行う。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
ド イ ツ 文 学 各 論 III German Literature (Special Lecture) III	2	非常勤 講師 堺 雅 志	集 中 (6)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要 ◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法 ◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	LHM-LIT308J 文芸批評研究「言語芸術とは何か」－ドイツの小説を中心に－ (Literary criticism or what literature is – on german novel –) 韻文、戯曲の芸術性は、古来保証されてきた事実である一方で、散文の言語芸術としての価値は、常に疑問視されてきた。とりわけ近世以降成立する小説は、その娯楽性が強調され、その芸術性には疑問符が付されるものの、今日、散文形式の芸術の代表格とされている小説は、芸術であることを誰もが疑わないだろうし、現代の小説家も、自らが芸術家であるという自負を持っていることだろう。けれども小説は近現代において、叙事詩の発展形式と位置づけられたり、詩や戯曲なども包括しうる芸術的受け皿と考えられたりと、いわば新しい「芸術形式」としての理論武装が施されてきたわけである。そこで、18世紀以降の芸術論（レッシング、シュレーゲル、ショーペンハウアー、ニーチェ、カール・クラウス等）における言語芸術についての記述を中心に読み直し、言語芸術のはらむ諸問題を炙り出す。その上で、20世紀にみられる小説と小説論を参照しながら「文学とは何か」という問いに迫る。 「言語芸術とは何か」について、さまざまな言説を引用しつつ説明することができる。個々の言語芸術作品を取り上げ、その特徴をほかの作品と比較して説明することができる。	9. 閑話休題－日本の文壇－ 10. 批評の誕生 11. 批評の実践 12. 世紀転換期の言語芸術－ウィーンを中心に－ 13. 小説は芸術か－小説の冒頭を考える－ 14. 批評の展開－現代文学を読むために－ 15. 議論と総論			
その他：ことばと文学について大いに考え、議論しよう。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
ド イ ツ 語 学 各 論 German Linguistics (Special Lecture)	2	教授 森 本 浩 一	5	月	3
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要 ◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法 ◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	LHM-LIT311J 「ナラトロジー」講読(1) (Narratology: A reading seminar) ポストクラシカル・ナラトロジーを代表する研究者のひとりである Monika Fludernik の『物語理論入門』を講読する。通常の訳読演習に加えて、物語論的な諸問題についての概説や議論も行う。 ドイツ語原著第4版（2013年）と、著者自身による英訳（2009年）を併用するので、ドイツ語未履修者も参加可能。 現代の物語論（narratology）についての理解が深まる。	9. テキストの講読 (8) 10. テキストの講読 (9) 11. テキストの講読 (10) 12. テキストの講読 (11) 13. テキストの講読 (12) 14. テキストの講読 (13) 15. テキストの講読 (14)			
その他：個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ることに。 xkc-m2rt@m.tohoku.ac.jp (森本浩一)					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 語 学 各 論 German Linguistics (Special Lecture)	2	教授 森 本 浩 一	6	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT311J																				
◆ 授業題目	「ナラトロジー」講読(1) (Narratology: A reading seminar)																				
◆ 目的・概要	ポストクラシカル・ナラトロジーを代表する研究者のひとりである Monika Fludernik の『物語理論入門』を講読する。通常の訳読演習に加えて、物語論的な諸問題についての概説や議論も行う。 ドイツ語原著第4版(2013年)と、著者自身による英訳(2009年)を併用するので、ドイツ語未履修者も参加可能。																				
◆ 到達目標	現代の物語論(narratology)についての理解が深まる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>9. テキストの講読(8)</td> </tr> <tr> <td>2. テキストの講読(1)</td> <td>10. テキストの講読(9)</td> </tr> <tr> <td>3. テキストの講読(2)</td> <td>11. テキストの講読(10)</td> </tr> <tr> <td>4. テキストの講読(3)</td> <td>12. テキストの講読(11)</td> </tr> <tr> <td>5. テキストの講読(4)</td> <td>13. テキストの講読(12)</td> </tr> <tr> <td>6. テキストの講読(5)</td> <td>14. テキストの講読(13)</td> </tr> <tr> <td>7. テキストの講読(6)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. テキストの講読(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入	9. テキストの講読(8)	2. テキストの講読(1)	10. テキストの講読(9)	3. テキストの講読(2)	11. テキストの講読(10)	4. テキストの講読(3)	12. テキストの講読(11)	5. テキストの講読(4)	13. テキストの講読(12)	6. テキストの講読(5)	14. テキストの講読(13)	7. テキストの講読(6)	15. まとめ	8. テキストの講読(7)	
1. 導入	9. テキストの講読(8)																				
2. テキストの講読(1)	10. テキストの講読(9)																				
3. テキストの講読(2)	11. テキストの講読(10)																				
4. テキストの講読(3)	12. テキストの講読(11)																				
5. テキストの講読(4)	13. テキストの講読(12)																				
6. テキストの講読(5)	14. テキストの講読(13)																				
7. テキストの講読(6)	15. まとめ																				
8. テキストの講読(7)																					
◇ 成績評価の方法	おおむね、予習と授業への参加(70%)とレポート(30%)。																				
◇ 教科書・参考書	Monika Fludernik, Erzähltheorie: Eine Einführung, 4. Aufl, WBG (Wissenschaftliche Buchgesellschaft), 2013. Monika Fludernik, An Introduction to Narratology, Routledge, 2009. テキストは教師が準備する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、訳読の準備をして出席すること。																				
その他：個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ること。 xkc-m2rt@m.tohoku.ac.jp (森本浩一)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 学 演 習 I German Literature (Seminar) I	2	教授 森 本 浩 一	5	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT323J																				
◆ 授業題目	批評演習(1) (Critical Practice: A Seminar)																				
◆ 目的・概要	主観的な作品経験から出発して批評的テキストを生み出す、つまり「読む(見る)こと」を「書くこと」につなげるための訓練である。論文執筆の準備を兼ねる。「文学」分野での主たる仕事は、文化的な対象、特に文学などのアート作品について「何かを書く」ことである。それは通常の学問=科学的な「説明」とは違い、自らが作品から受容したものをあらためて言語で「表現」という、それ自体創造的な行為である。この「批評」と呼ばれる作業では、作品のいわゆる「客観的」な分析も必要ではあるが、それも実際には論者の「解釈」を効果的・説得的に他者に伝達するための手段に過ぎない。しかも難しいのは、どのように書けば説得的でありうるのか、一義的な指針がないことである。この授業は、物語的性格を持つ様々なジャンルの作品について、実際に各人が批評文を書き、それを素材に参加者全員が討議する形で進めてゆく。「批評」とはどのような営為なのかを各人が実感し、自分にとって満足のゆくテキストを生産できるようになることが授業の目標である。																				
◆ 到達目標	作品を批評的に受容・解釈するための観点や方法について理解が深まるとともに、物語に向き合う自分自身の嗜好や傾向性を自覚できるようになり、それによって日本語による批評的作文技能が向上する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>9. 小説を批評する(1)</td> </tr> <tr> <td>2. メディア比較(1)</td> <td>10. 小説を批評する(2)</td> </tr> <tr> <td>3. メディア比較(2)</td> <td>11. マンガを批評する(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 自由課題批評(1)</td> <td>12. マンガを批評する(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 自由課題批評(2)</td> <td>13. 映画を批評する(3)</td> </tr> <tr> <td>6. 自由課題批評(3)</td> <td>14. 映画を批評する(4)</td> </tr> <tr> <td>7. 映画を批評する(1)</td> <td>15. 長篇小説を批評する</td> </tr> <tr> <td>8. 映画を批評する(2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入	9. 小説を批評する(1)	2. メディア比較(1)	10. 小説を批評する(2)	3. メディア比較(2)	11. マンガを批評する(1)	4. 自由課題批評(1)	12. マンガを批評する(2)	5. 自由課題批評(2)	13. 映画を批評する(3)	6. 自由課題批評(3)	14. 映画を批評する(4)	7. 映画を批評する(1)	15. 長篇小説を批評する	8. 映画を批評する(2)	
1. 導入	9. 小説を批評する(1)																				
2. メディア比較(1)	10. 小説を批評する(2)																				
3. メディア比較(2)	11. マンガを批評する(1)																				
4. 自由課題批評(1)	12. マンガを批評する(2)																				
5. 自由課題批評(2)	13. 映画を批評する(3)																				
6. 自由課題批評(3)	14. 映画を批評する(4)																				
7. 映画を批評する(1)	15. 長篇小説を批評する																				
8. 映画を批評する(2)																					
◇ 成績評価の方法	おおむね、各回の批評文の提出と討議への参加(80%)およびレポート(20%)。																				
◇ 教科書・参考書	必要に応じて授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	各人の批評文を素材として授業を行うので、指定された提出物は必ず指示された時間までにメール添付で送信すること。																				
その他：個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ること。 xkc-m2rt@m.tohoku.ac.jp (森本浩一)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 学 演 習 II German Literature (Seminar) II	2	教授 森 本 浩 一	6	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT324J																				
◆ 授業題目	批評演習(2) (Critical Practice: A Seminar)																				
◆ 目的・概要	主観的な作品経験から出発して批評的テキストを生み出す、つまり「読む(見る)こと」を「書くこと」につなげるための訓練である。論文執筆の準備を兼ねる。「文学」分野での主たる仕事は、文化的な対象、特に文学などのアート作品について「何かを書く」ことである。それは通常の学問＝科学的な「説明」とは違い、自らが作品から受容したものをあらためて言語で「表現」という、それ自体創造的な行為である。この「批評」と呼ばれる作業では、作品のいわゆる「客観的」な分析も必要ではあるが、それら実際には論者の「解釈」を効果的・説得的に他者に伝達するための手段に過ぎない。しかも難しいのは、どのように書けば説得的でありうるのか、一義的な指針がないことである。後期は、各自が選定した作品について発表を行い、他の参加者がその作品を読んで(見て)発表者と討議・応答する形式で進めてゆく。「批評」とはどのような営為なのかを各人が実感し、自分にとって満足のゆくより効果的なテキストを生産できるようになることが授業の目標である。																				
◆ 到達目標	作品を批評的に受容・解釈するための観点や方法について理解が深まるとともに、物語に向き合う自分自身の嗜好や傾向性を自覚できるようになり、それによって日本語による批評的作文技能が向上する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入講義 (1)</td> <td>9. 発表と討議 (7)</td> </tr> <tr> <td>2. 導入講義 (2)</td> <td>10. 発表と討議 (8)</td> </tr> <tr> <td>3. 発表と討議 (1)</td> <td>11. 発表と討議 (9)</td> </tr> <tr> <td>4. 発表と討議 (2)</td> <td>12. 発表と討議 (10)</td> </tr> <tr> <td>5. 発表と討議 (3)</td> <td>13. 発表と討議 (11)</td> </tr> <tr> <td>6. 発表と討議 (4)</td> <td>14. 発表と討議 (12)</td> </tr> <tr> <td>7. 発表と討議 (5)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 発表と討議 (6)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入講義 (1)	9. 発表と討議 (7)	2. 導入講義 (2)	10. 発表と討議 (8)	3. 発表と討議 (1)	11. 発表と討議 (9)	4. 発表と討議 (2)	12. 発表と討議 (10)	5. 発表と討議 (3)	13. 発表と討議 (11)	6. 発表と討議 (4)	14. 発表と討議 (12)	7. 発表と討議 (5)	15. まとめ	8. 発表と討議 (6)	
1. 導入講義 (1)	9. 発表と討議 (7)																				
2. 導入講義 (2)	10. 発表と討議 (8)																				
3. 発表と討議 (1)	11. 発表と討議 (9)																				
4. 発表と討議 (2)	12. 発表と討議 (10)																				
5. 発表と討議 (3)	13. 発表と討議 (11)																				
6. 発表と討議 (4)	14. 発表と討議 (12)																				
7. 発表と討議 (5)	15. まとめ																				
8. 発表と討議 (6)																					
◇ 成績評価の方法	個人発表・各回の討議への参加・応答レポートの提出 (80%) および最終レポート (20%)。																				
◇ 教科書・参考書	必要に応じて授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	発表のレジュメと各回の応答レポートは、必ず指示された時間までにメール添付で提出すること。																				
その他：個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ることに。 xkc-m2rt@m.tohoku.ac.jp (森本浩一)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 学 演 習 III German Literature (Seminar) III	2	非常勤講師 佐 藤 研 一	5	木	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT325J																				
◆ 授業題目	十八世紀ドイツ戯曲の誕生 (German drama in the 18th century)																				
◆ 目的・概要	「啓蒙の世紀」とは、たえず近代と近世が衝突しつづけ、漸次的に地殻変動を起こす過程にほかならない。近代社会が、突如、フランス革命後に誕生したわけではないのである。この点を見定めながら、十八世紀ドイツを代表するレッシング (1729-81) の喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(1767)を精読して、いかに近代の文学が創出されてゆくのか考える。十八世紀ドイツ戯曲は、『エミーリア・ガロッチィ』(1772)を以て、擬古典主義の数が大きく払われ、新文学への道が切り開かれた。ついで、ゲーテの『ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン』(1773)、J.M.R. レンツの喜劇『家庭教師』(1774)や喜劇『軍人たち』(1776)等が、旧文学に抗して噴流のごとく奔騰する絵巻を繰り広げてゆく。ドイツの市井風俗百態を、その体内に果食う矛盾とともに活写する戯曲の誕生である。この点を念頭に置いて、『ミンナ・フォン・バルンヘルム』を台詞の一言一句を味わいながら、語学上および文学上の問題点について議論を交わし、演習形式で読み進めてゆく。かような演習の授業は、講義とは異なり、学生諸君との不断のやりとりを通して、内実を見え、展開してゆくので、その進度は機械的に決められない。初回は、オリエンテーションに当てるが、2回目から15回目までは、学生諸君の読解力や議論の方向をみずえながら、読み進めてゆく。																				
◆ 到達目標	文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されているが、作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれてくる。原典を読みつつ、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 原典講読 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 原典講読 (1)</td> <td>10. 原典講読 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 原典講読 (2)</td> <td>11. 原典講読 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 原典講読 (3)</td> <td>12. 原典講読 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 原典講読 (4)</td> <td>13. 原典講読 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 原典講読 (5)</td> <td>14. 原典講読 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 原典講読 (6)</td> <td>15. 原典講読 (14)</td> </tr> <tr> <td>8. 原典講読 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 原典講読 (8)	2. 原典講読 (1)	10. 原典講読 (9)	3. 原典講読 (2)	11. 原典講読 (10)	4. 原典講読 (3)	12. 原典講読 (11)	5. 原典講読 (4)	13. 原典講読 (12)	6. 原典講読 (5)	14. 原典講読 (13)	7. 原典講読 (6)	15. 原典講読 (14)	8. 原典講読 (7)	
1. オリエンテーション	9. 原典講読 (8)																				
2. 原典講読 (1)	10. 原典講読 (9)																				
3. 原典講読 (2)	11. 原典講読 (10)																				
4. 原典講読 (3)	12. 原典講読 (11)																				
5. 原典講読 (4)	13. 原典講読 (12)																				
6. 原典講読 (5)	14. 原典講読 (13)																				
7. 原典講読 (6)	15. 原典講読 (14)																				
8. 原典講読 (7)																					
◇ 成績評価の方法	レポート [30%]・出席 [70%]																				
◇ 教科書・参考書	・テキスト (Lessing, Gotthold Ephraim: Minna von Barnhelm. Stuttgart: Reclam, 2014.) は、プリントで配布する。 参考文献はつぎのとおり。 ・Goethe, Johann Wolfgang: Götz von Berlichingen mit der eisernen Hand. Stuttgart: Reclam, 2004. ・Lenz, Jakob Michael Reinhold: Der Hofmeister oder Vorteile der Privaterziehung. Stuttgart: Reclam, 2001. Lenz, Jakob Michael Reinhold: Die Soldaten. Stuttgart: Reclam, 2004. ・筑田翔『内面世界に映る歴史 ゲーテ時代ドイツ文学史論』筑摩書房、1986年。 ・坂井栄八郎『ゲーテとその時代』朝日選書、1996年。																				
◇ 授業時間外学習	授業の準備。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 学 演 習 IV German Literature (Seminar) IV	2	非常勤 講師 佐藤 研 一	6	木	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT326J																				
◆ 授業題目	十八世紀ドイツ戯曲の誕生 (German drama in the 18th century)																				
◆ 目的・概要	<p>「啓蒙の世紀」とは、たえず近代と近世が衝突しつづけ、漸次的に地殻変動を起こす過程にほかならない。近代社会が、突如、フランス革命後に誕生したわけではないのである。この点を見定めながら、十八世紀ドイツを代表するレッシング (1729-81) の喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(1767) を精読して、いかに近代の文学が創出されてゆくのか考える。</p> <p>十八世紀ドイツ戯曲は、『エミーリア・ガロッチィ』(1772) を以て、擬古典主義の数が大きく払われ、新文学への道が切り開かれた。ついで、ゲーテの『ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン』(1773)、J.M.R. レンツの喜劇『家庭教師』(1774) や喜劇『軍人たち』(1776) 等が、旧文学に抗して噴流のごとく奔騰する絵巻を繰り広げてゆく。ドイツの市井風俗百態を、その体内に果食う矛盾とともに活写する戯曲の誕生である。この点を念頭に置いて、『ミンナ・フォン・バルンヘルム』を台詞の一言一句を味わいながら、語学上および文学上の問題点について議論を交わし、演習形式で読み進めてゆく。</p> <p>かような演習の授業は、講義とは異なり、学生諸君との不断のやりとりを通して、内実を具え、展開してゆくので、その進度は機械的に決められない。初回は、オリエンテーションに当てるが、2回目から15回目までは、学生諸君の読解力や議論の方向をみすえながら、読み進めてゆく。</p> <p>文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されているが、作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれてくる。原典を読みつつ、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。</p>																				
◆ 到達目標	文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されているが、作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれてくる。原典を読みつつ、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 原典講読 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 原典講読 (1)</td> <td>10. 原典講読 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 原典講読 (2)</td> <td>11. 原典講読 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 原典講読 (3)</td> <td>12. 原典講読 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 原典講読 (4)</td> <td>13. 原典講読 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 原典講読 (5)</td> <td>14. 原典講読 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 原典講読 (6)</td> <td>15. 原典講読 (14)</td> </tr> <tr> <td>8. 原典講読 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 原典講読 (8)	2. 原典講読 (1)	10. 原典講読 (9)	3. 原典講読 (2)	11. 原典講読 (10)	4. 原典講読 (3)	12. 原典講読 (11)	5. 原典講読 (4)	13. 原典講読 (12)	6. 原典講読 (5)	14. 原典講読 (13)	7. 原典講読 (6)	15. 原典講読 (14)	8. 原典講読 (7)	
1. オリエンテーション	9. 原典講読 (8)																				
2. 原典講読 (1)	10. 原典講読 (9)																				
3. 原典講読 (2)	11. 原典講読 (10)																				
4. 原典講読 (3)	12. 原典講読 (11)																				
5. 原典講読 (4)	13. 原典講読 (12)																				
6. 原典講読 (5)	14. 原典講読 (13)																				
7. 原典講読 (6)	15. 原典講読 (14)																				
8. 原典講読 (7)																					
◇ 成績評価の方法	レポート [30%]・出席 [70%]																				
◇ 教科書・参考書	<p>・テキスト (Lessing, Gotthold Ephraim: Minna von Barnhelm. Stuttgart: Reclam, 2014.) は、プリントで配布する。参考文献はつぎのとおり。</p> <p>・Goethe, Johann Wolfgang: Götz von Berlichingen mit der eisernen Hand. Stuttgart: Reclam, 2004.</p> <p>・Lenz, Jakob Michael Reinhold: Der Hofmeister oder Vorteile der Privaterziehung. Stuttgart: Reclam, 2001. Lenz, Jakob Michael Reinhold: Die Soldaten. Stuttgart: Reclam, 2004.</p> <p>・柴田翔『内面世界に映る歴史 ゲーテ時代ドイツ文学史論』筑摩書房、1986年。</p> <p>・坂井栄八郎『ゲーテとその時代』朝日選書、1996年。</p>																				
◇ 授業時間外学習	授業の準備。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 語 学 演 習 I German Linguistics (Seminar) I	2	教授 嶋 崎 啓	5	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT327J																				
◆ 授業題目	中高ドイツ語講読 (Reading "Nibelungenlied" in middle high German)																				
◆ 目的・概要	<p>ドイツ中世叙事詩「ニーベルンゲンの歌」を原文で講読する。1200年頃の中高ドイツ語 (Mittelhochdeutsch) をよりよく理解することを目指しながら、物語展開上の文脈の解釈にも重点を置きたい。その際、中世ヨーロッパの文化や社会についての理解を深めることにも留意する。また北欧の伝承との関連についてもあわせて考察したい。</p>																				
◆ 到達目標	中高ドイツ語の文学作品を読み、表現が理解できるようになる。ヨーロッパ中世の文化や世界観についての知識を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 「ニーベルンゲンの歌」講読 5</td> </tr> <tr> <td>2. 中高ドイツ語の基礎知識 1</td> <td>10. 「ニーベルンゲンの歌」講読 6</td> </tr> <tr> <td>3. 中高ドイツ語の基礎知識 2</td> <td>11. 「ニーベルンゲンの歌」講読 7</td> </tr> <tr> <td>4. 中高ドイツ語の基礎知識 3</td> <td>12. 「ニーベルンゲンの歌」講読 8</td> </tr> <tr> <td>5. 「ニーベルンゲンの歌」講読 1</td> <td>13. 「ニーベルンゲンの歌」講読 9</td> </tr> <tr> <td>6. 「ニーベルンゲンの歌」講読 2</td> <td>14. 「ニーベルンゲンの歌」講読 10</td> </tr> <tr> <td>7. 「ニーベルンゲンの歌」講読 3</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 「ニーベルンゲンの歌」講読 4</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 「ニーベルンゲンの歌」講読 5	2. 中高ドイツ語の基礎知識 1	10. 「ニーベルンゲンの歌」講読 6	3. 中高ドイツ語の基礎知識 2	11. 「ニーベルンゲンの歌」講読 7	4. 中高ドイツ語の基礎知識 3	12. 「ニーベルンゲンの歌」講読 8	5. 「ニーベルンゲンの歌」講読 1	13. 「ニーベルンゲンの歌」講読 9	6. 「ニーベルンゲンの歌」講読 2	14. 「ニーベルンゲンの歌」講読 10	7. 「ニーベルンゲンの歌」講読 3	15. まとめ	8. 「ニーベルンゲンの歌」講読 4	
1. ガイダンス	9. 「ニーベルンゲンの歌」講読 5																				
2. 中高ドイツ語の基礎知識 1	10. 「ニーベルンゲンの歌」講読 6																				
3. 中高ドイツ語の基礎知識 2	11. 「ニーベルンゲンの歌」講読 7																				
4. 中高ドイツ語の基礎知識 3	12. 「ニーベルンゲンの歌」講読 8																				
5. 「ニーベルンゲンの歌」講読 1	13. 「ニーベルンゲンの歌」講読 9																				
6. 「ニーベルンゲンの歌」講読 2	14. 「ニーベルンゲンの歌」講読 10																				
7. 「ニーベルンゲンの歌」講読 3	15. まとめ																				
8. 「ニーベルンゲンの歌」講読 4																					
◇ 成績評価の方法	平常点 (出席、授業での発言、質疑) [100%]																				
◇ 教科書・参考書	<p>テキスト：Das Nibelungenlied. Mittelhochdeutsch/Neuhochdeutsch. Stuttgart: Reclam 1997.</p> <p>参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社、浜崎長寿『中高ドイツ語の分類語彙と変化表』大学書林、M. Lexers Mittelhochdeutsches Taschenwörterbuch. Stuttgart: Hirzel.</p>																				
◇ 授業時間外学習	前もって単語の文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づきつつ、辞書を使って予習をしてもらいたい。																				
その他：講読する箇所は先学期からの続きである。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 語 学 演 習 II German Linguistics (Seminar) II	2	教授	嶋 崎 啓	6	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT328J																					
◆ 授業題目	中高ドイツ語講読 (Reading "Nibelungenlied" in middle high German)																					
◆ 目的・概要	ドイツ中世叙事詩「ニーベルンゲンの歌」を原文で講読する。1200年頃の中高ドイツ語 (Mittelhochdeutsch) をよりよく理解することを目指しながら、物語展開上の文脈の解釈にも重点を置きたい。その際、中世ヨーロッパの文化や社会についての理解を深めることにも留意する。また北欧の伝承との関連についてもあわせて考察したい。																					
◆ 到達目標	中高ドイツ語の文学作品を読み、表現が理解できるようになる。ヨーロッパ中世の文化や世界観についての知識を深める。																					
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width:50%;">9. 「ニーベルンゲンの歌」講読 5</td> </tr> <tr> <td>2. 中高ドイツ語の基礎知識 1</td> <td>10. 「ニーベルンゲンの歌」講読 6</td> </tr> <tr> <td>3. 中高ドイツ語の基礎知識 2</td> <td>11. 「ニーベルンゲンの歌」講読 7</td> </tr> <tr> <td>4. 中高ドイツ語の基礎知識 3</td> <td>12. 「ニーベルンゲンの歌」講読 8</td> </tr> <tr> <td>5. 「ニーベルンゲンの歌」講読 1</td> <td>13. 「ニーベルンゲンの歌」講読 9</td> </tr> <tr> <td>6. 「ニーベルンゲンの歌」講読 2</td> <td>14. 「ニーベルンゲンの歌」講読 10</td> </tr> <tr> <td>7. 「ニーベルンゲンの歌」講読 3</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 「ニーベルンゲンの歌」講読 4</td> <td></td> </tr> </table>						1. ガイダンス	9. 「ニーベルンゲンの歌」講読 5	2. 中高ドイツ語の基礎知識 1	10. 「ニーベルンゲンの歌」講読 6	3. 中高ドイツ語の基礎知識 2	11. 「ニーベルンゲンの歌」講読 7	4. 中高ドイツ語の基礎知識 3	12. 「ニーベルンゲンの歌」講読 8	5. 「ニーベルンゲンの歌」講読 1	13. 「ニーベルンゲンの歌」講読 9	6. 「ニーベルンゲンの歌」講読 2	14. 「ニーベルンゲンの歌」講読 10	7. 「ニーベルンゲンの歌」講読 3	15. まとめ	8. 「ニーベルンゲンの歌」講読 4	
1. ガイダンス	9. 「ニーベルンゲンの歌」講読 5																					
2. 中高ドイツ語の基礎知識 1	10. 「ニーベルンゲンの歌」講読 6																					
3. 中高ドイツ語の基礎知識 2	11. 「ニーベルンゲンの歌」講読 7																					
4. 中高ドイツ語の基礎知識 3	12. 「ニーベルンゲンの歌」講読 8																					
5. 「ニーベルンゲンの歌」講読 1	13. 「ニーベルンゲンの歌」講読 9																					
6. 「ニーベルンゲンの歌」講読 2	14. 「ニーベルンゲンの歌」講読 10																					
7. 「ニーベルンゲンの歌」講読 3	15. まとめ																					
8. 「ニーベルンゲンの歌」講読 4																						
◇ 成績評価の方法	平常点 (出席、授業での発言、質疑) [100%]																					
◇ 教科書・参考書	テキスト：Das Nibelungenlied. Mittelhochdeutsch/Neuhochdeutsch. Stuttgart: Reclam 1997. 参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社、浜崎長寿『中高ドイツ語の分類語彙と変化表』大学書林、M. Lexers Mittelhochdeutsches Taschenwörterbuch. Stuttgart: Hirzel.																					
◇ 授業時間外学習	前もって単語の文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づきつつ、辞書を使って予習をしてもらいたい。																					
その他：講読する箇所は先学期からの続きである。																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 語 学 演 習 III German Linguistics (Seminar) III	2	教授	ナロック ハイコ	5	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT329F																					
◆ 授業題目	ドイツ語学演習Ⅲ (German Linguistics (Seminar) Ⅲ)																					
◆ 目的・概要	2年間養ったドイツ語能力をヨーロッパ基準の中級教材を用いて更に安定させて高める。読む・書く・聞く・話すの基礎的能力を体系的に向上させる。																					
◆ 到達目標	B1レベルのドイツ語を身につける																					
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. 授業説明 受講者のドイツ語能力確認</td> <td style="width:50%;">9. Schule II</td> </tr> <tr> <td>2. Arbeit und Freizeit I</td> <td>10. Essen und Trinken I</td> </tr> <tr> <td>3. Arbeit und Freizeit II</td> <td>11. Essen und Trinken II</td> </tr> <tr> <td>4. Familie I</td> <td>12. Film I</td> </tr> <tr> <td>5. Familie II</td> <td>13. Film II</td> </tr> <tr> <td>6. Feste I</td> <td>14. Reisen I</td> </tr> <tr> <td>7. Feste II</td> <td>15. Reisen II</td> </tr> <tr> <td>8. Schule I</td> <td></td> </tr> </table>						1. 授業説明 受講者のドイツ語能力確認	9. Schule II	2. Arbeit und Freizeit I	10. Essen und Trinken I	3. Arbeit und Freizeit II	11. Essen und Trinken II	4. Familie I	12. Film I	5. Familie II	13. Film II	6. Feste I	14. Reisen I	7. Feste II	15. Reisen II	8. Schule I	
1. 授業説明 受講者のドイツ語能力確認	9. Schule II																					
2. Arbeit und Freizeit I	10. Essen und Trinken I																					
3. Arbeit und Freizeit II	11. Essen und Trinken II																					
4. Familie I	12. Film I																					
5. Familie II	13. Film II																					
6. Feste I	14. Reisen I																					
7. Feste II	15. Reisen II																					
8. Schule I																						
◇ 成績評価の方法	授業参加、毎回の課題、宿題に基づいて評価する																					
◇ 教科書・参考書	em neu. Brueckenkurs.																					
◇ 授業時間外学習	定期的に宿題を出す																					
その他：教材の事前購入を勧める																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
ド イ ツ 語 学 演 習 Ⅳ German Linguistics (Seminar) Ⅳ	2	教授 ナロック ハイコ	6	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT330F				
◆ 授業題目	ドイツ語学演習Ⅲ (German Linguistics (Seminar) Ⅲ)				
◆ 目的・概要	2年間養ったドイツ語能力をヨーロッパ基準の中級教材を用いて更に安定させて高める。 読む・書く・聞く・話すの基礎的能力を体系的に向上させる。"				
◆ 到達目標	B1レベルのドイツ語を身につける				
◆ 授業内容・方法					
1. 授業説明	受講者のドイツ語能力確認	9. Menschen II			
2. Musik I		10. Sprache I			
3. Musik II		11. Sprache II			
4. Sport I		12. Orte I			
5. Sport II		13. Orte II			
6. Mode I		14. Konsum I			
7. Mode II		15. Konsum II			
8. Menschen I					
◇ 成績評価の方法	授業参加、毎回の課題、宿題に基づいて評価する				
◇ 教科書・参考書	em neu. Brueckenkurs. Hueber. em neu. Hauptkurs. Kursbuch + Arbeitsbuch. Lektion 1-5. Hueber				
◇ 授業時間外学習	定期的に宿題を出す				
その他：教材の事前購入を勧める					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 文 学 概 論 I French Literature (General Lecture) I	2	准教授 黒 岩 卓	3	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT208J																				
◆ 授業題目	フランス文学史（古典主義の成立前後まで） (History of French Literature (before the end of the 17th Century))																				
◆ 目的・概要	中世から17世紀にいたるまでのフランス語による文学作品を、フランス語史の観点を含めつつ概観します。いわゆるフランス語の誕生から、16世紀になって本格化した古典古代のテキストの研究の復興や宗教改革を経て、近代フランス語の基礎が確立されるまでのありさまを、時代ごとの代表的作品を例にとりながら解説していきます。時代ごとのフランス語で書かれた諸作品を扱いますが、原則として日本語訳を用います。音楽や演劇などの諸芸術と文学の関係も紹介していきたいと考えています。																				
◆ 到達目標	十七世紀までのフランス文学史の概要を知る。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. フランス語の誕生</td> <td>9. フランス十七世紀概観、近代フランス語の成立</td> </tr> <tr> <td>2. 中世フランス文明概観、聖人伝と武勲詩</td> <td>10. コルネイユ</td> </tr> <tr> <td>3. 物語の誕生</td> <td>11. デカルト、パスカル</td> </tr> <tr> <td>4. 中世・ルネサンスの抒情詩</td> <td>12. ラシーヌ</td> </tr> <tr> <td>5. フランス・ルネサンス文明概観</td> <td>13. モリエール</td> </tr> <tr> <td>6. ラブレール</td> <td>14. まとめ 1</td> </tr> <tr> <td>7. カルヴァン</td> <td>15. まとめ 2</td> </tr> <tr> <td>8. モンテーニュ</td> <td></td> </tr> </table>					1. フランス語の誕生	9. フランス十七世紀概観、近代フランス語の成立	2. 中世フランス文明概観、聖人伝と武勲詩	10. コルネイユ	3. 物語の誕生	11. デカルト、パスカル	4. 中世・ルネサンスの抒情詩	12. ラシーヌ	5. フランス・ルネサンス文明概観	13. モリエール	6. ラブレール	14. まとめ 1	7. カルヴァン	15. まとめ 2	8. モンテーニュ	
1. フランス語の誕生	9. フランス十七世紀概観、近代フランス語の成立																				
2. 中世フランス文明概観、聖人伝と武勲詩	10. コルネイユ																				
3. 物語の誕生	11. デカルト、パスカル																				
4. 中世・ルネサンスの抒情詩	12. ラシーヌ																				
5. フランス・ルネサンス文明概観	13. モリエール																				
6. ラブレール	14. まとめ 1																				
7. カルヴァン	15. まとめ 2																				
8. モンテーニュ																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験 100%																				
◇ 教科書・参考書	プリントを配布します。																				
◇ 授業時間外学習	興味のある作品を実際に読むことが重要です。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 文 学 概 論 II French Literature (General Lecture) II	2	教授 今 井 勉	4	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT209J																				
◆ 授業題目	フランス文学史（近現代）(History of french modern literature)																				
◆ 目的・概要	この授業では、20世紀の戦間期以降のフランス文学の動きを概観しながら、具体的な作品を紹介していきます。																				
◆ 到達目標	フランス文学史を通覧しながら、作品に親しむ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入（20世紀文学概観）</td> <td>9. モディアノ (1) 『暗いブティック通り』『八月の日曜日』</td> </tr> <tr> <td>2. セリヌ 『夜の果てへの旅』</td> <td>10. モディアノ (2) 『ドラ・ブリュデール (1941年、パリの尋ね人)』</td> </tr> <tr> <td>3. カミュ 『異邦人』『転落』</td> <td>11. レダ 『パリの廃墟』</td> </tr> <tr> <td>4. サン＝テグジュペリ 『人間の大地』『星の王子様』</td> <td>12. クンデラ 『冗談』『不滅』</td> </tr> <tr> <td>5. デュラス 『モデラート・カンタービレ』『愛人』</td> <td>13. フランス語圏クレオール文学</td> </tr> <tr> <td>6. クノー 『文体練習』</td> <td>14. ラフェリエール 『甘い漂流』</td> </tr> <tr> <td>7. ル・クレジオ (1) 『調書』『発熱』</td> <td>15. まとめ&筆記試験</td> </tr> <tr> <td>8. ル・クレジオ (2) 『黄金探索者』『隔離の島』</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入（20世紀文学概観）	9. モディアノ (1) 『暗いブティック通り』『八月の日曜日』	2. セリヌ 『夜の果てへの旅』	10. モディアノ (2) 『ドラ・ブリュデール (1941年、パリの尋ね人)』	3. カミュ 『異邦人』『転落』	11. レダ 『パリの廃墟』	4. サン＝テグジュペリ 『人間の大地』『星の王子様』	12. クンデラ 『冗談』『不滅』	5. デュラス 『モデラート・カンタービレ』『愛人』	13. フランス語圏クレオール文学	6. クノー 『文体練習』	14. ラフェリエール 『甘い漂流』	7. ル・クレジオ (1) 『調書』『発熱』	15. まとめ&筆記試験	8. ル・クレジオ (2) 『黄金探索者』『隔離の島』	
1. 導入（20世紀文学概観）	9. モディアノ (1) 『暗いブティック通り』『八月の日曜日』																				
2. セリヌ 『夜の果てへの旅』	10. モディアノ (2) 『ドラ・ブリュデール (1941年、パリの尋ね人)』																				
3. カミュ 『異邦人』『転落』	11. レダ 『パリの廃墟』																				
4. サン＝テグジュペリ 『人間の大地』『星の王子様』	12. クンデラ 『冗談』『不滅』																				
5. デュラス 『モデラート・カンタービレ』『愛人』	13. フランス語圏クレオール文学																				
6. クノー 『文体練習』	14. ラフェリエール 『甘い漂流』																				
7. ル・クレジオ (1) 『調書』『発熱』	15. まとめ&筆記試験																				
8. ル・クレジオ (2) 『黄金探索者』『隔離の島』																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加状況 20% + 筆記試験 80%																				
◇ 教科書・参考書	コピーを配付します。 参考書として『はじめて学ぶフランス文学史』（ミネルヴァ書房、2002年）を勧めます。																				
◇ 授業時間外学習	あらかじめ配付される資料をよく読んでから授業に臨んでください。																				
その他：連絡先：tsutomu@m.tohoku.ac.jp																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
フ ラ ン ス 語 学 概 論 I French Linguistics (General Lecture) I	2	教授 阿 部 宏	4	月	5		
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT210J						
◆ 授業題目	言語学の誕生から今日まで (From the birth of linguistics to today)						
◆ 目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> ・言語研究の歴史についてフランス語のテキストにもとづいて解説する ・言語研究の最近の成果を概説する ・フランス語の論文の読解に慣れる 						
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語学の基礎知識が身につく ・フランス語の論説文が読めるようになる ・フランス語の中級文法をマスターできる 						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 比較文法 (1) 3. 比較文法 (2) 4. ソシュール (1) 5. ソシュール (2) 6. 音韻論 (1) 7. 構造主義 (2) 8. アメリカ構造主義 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. 生成変形文法 10. 認知意味論 11. 文法化 (1) 12. 文法化 (2) 13. 主観性 (1) 14. 主観性 (2) 15. まとめと筆記試験 </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 比較文法 (1) 3. 比較文法 (2) 4. ソシュール (1) 5. ソシュール (2) 6. 音韻論 (1) 7. 構造主義 (2) 8. アメリカ構造主義 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 生成変形文法 10. 認知意味論 11. 文法化 (1) 12. 文法化 (2) 13. 主観性 (1) 14. 主観性 (2) 15. まとめと筆記試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 比較文法 (1) 3. 比較文法 (2) 4. ソシュール (1) 5. ソシュール (2) 6. 音韻論 (1) 7. 構造主義 (2) 8. アメリカ構造主義 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 生成変形文法 10. 認知意味論 11. 文法化 (1) 12. 文法化 (2) 13. 主観性 (1) 14. 主観性 (2) 15. まとめと筆記試験 						
◇ 成績評価の方法	平常点 50%、筆記試験 50%						
◇ 教科書・参考書	プリント使用。 参考書：阿部宏 (2015) 『言葉に心の声を聞く』東北大学出版会。他にも、関連図書を適宜推薦します。						
◇ 授業時間外学習	教室で適宜テーマを与えますので、関連資料を調査し、各自考えていただきます。						
その他：							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
フ ラ ン ス 文 学 基 礎 講 読 I French Literature (Introductory Reading) I	2	教授 今 井 勉	3	水	4		
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT223J						
◆ 授業題目	短編小説を読む (Reading of french short stories)						
◆ 目的・概要	基礎文法を確認しながら、フランス文学の原典に親しみます。 この授業では、19世紀末に活躍した作家マルセル・シュオブ (1867-1905) の代表的な短篇小说『少年十字軍』を読みます。						
◆ 到達目標	フランス文学の原典を読む基礎的な作法を身につける。						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 読解 (1) 3. 読解 (2) 4. 読解 (3) 5. 読解 (4) 6. 読解 (5) 7. 読解 (6) 8. 読解 (7) </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. 読解 (8) 10. 読解 (9) 11. 読解 (10) 12. 読解 (11) 13. 読解 (12) 14. 読解 (13) 15. まとめと筆記試験 </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 読解 (1) 3. 読解 (2) 4. 読解 (3) 5. 読解 (4) 6. 読解 (5) 7. 読解 (6) 8. 読解 (7) 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 読解 (8) 10. 読解 (9) 11. 読解 (10) 12. 読解 (11) 13. 読解 (12) 14. 読解 (13) 15. まとめと筆記試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 読解 (1) 3. 読解 (2) 4. 読解 (3) 5. 読解 (4) 6. 読解 (5) 7. 読解 (6) 8. 読解 (7) 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 読解 (8) 10. 読解 (9) 11. 読解 (10) 12. 読解 (11) 13. 読解 (12) 14. 読解 (13) 15. まとめと筆記試験 						
◇ 成績評価の方法	毎回の予習に基づく授業参加状況 50% + 筆記試験 50%						
◇ 教科書・参考書	コピーを配付します						
◇ 授業時間外学習	毎回予習をして授業に臨むこと						
その他：連絡先：tsutomu@m.tohoku.ac.jp							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
フ ラ ン ス 文 学 基 礎 講 読 II French Literature (Introductory Reading) II	2	准教授 黒 岩 卓	4	月	4		
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT224J						
◆ 授業題目	フランス語文法と仏文解釈 (French Grammar)						
◆ 目的・概要	主要な参考書として『改訂版フランス語ハンドブック』を用いて初級文法の復習と中級文法への導入を行いながら、さまざまな種類のフランス語のテキストを読みます。 講読テキストは参加者と相談の上で決定します。						
◆ 到達目標	近現代までのフランス語の読解に必要な文法的知識を深め、近・現代フランス語のテキストに親しむ。						
◆ 授業内容・方法	1. (以下、教科書の進度を記します。進度によって変動することがあり得ます。) <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> 1. I 文の要素 1 概観 (pp. 3-5) 2. I 文の要素 2 名詞グループ (pp. 6-23) 3. I 文の要素 3 動詞グループ (pp. 23-47) 4. I 文の要素 4 形容詞グループ (pp. 47-64) 5. I 文の要素 5 前置詞グループ (pp. 65-70) 6. II 文の変形・展開 1 概観 (pp. 71-73) 7. II 文の変形・展開 2 代名詞 (pp. 74-93) 8. II 文の変形・展開 3 複文 (pp. 93-111) </td> <td style="width: 50%;"> 9. II 文の変形・展開 3 複文続き及び 4 複文に準ずるもの (pp. 111-128) 10. III 文の種類 1 概観 (pp. 129-130) 11. III 文の種類 2 文のタイプ (pp. 131-138) 12. III 文の種類 3 文の様態 (pp. 139-150) 13. III 文の種類 4 特殊な文 (pp. 150-160) 14. まとめ 1 15. まとめ 2 </td> </tr> </table>					1. I 文の要素 1 概観 (pp. 3-5) 2. I 文の要素 2 名詞グループ (pp. 6-23) 3. I 文の要素 3 動詞グループ (pp. 23-47) 4. I 文の要素 4 形容詞グループ (pp. 47-64) 5. I 文の要素 5 前置詞グループ (pp. 65-70) 6. II 文の変形・展開 1 概観 (pp. 71-73) 7. II 文の変形・展開 2 代名詞 (pp. 74-93) 8. II 文の変形・展開 3 複文 (pp. 93-111)	9. II 文の変形・展開 3 複文続き及び 4 複文に準ずるもの (pp. 111-128) 10. III 文の種類 1 概観 (pp. 129-130) 11. III 文の種類 2 文のタイプ (pp. 131-138) 12. III 文の種類 3 文の様態 (pp. 139-150) 13. III 文の種類 4 特殊な文 (pp. 150-160) 14. まとめ 1 15. まとめ 2
1. I 文の要素 1 概観 (pp. 3-5) 2. I 文の要素 2 名詞グループ (pp. 6-23) 3. I 文の要素 3 動詞グループ (pp. 23-47) 4. I 文の要素 4 形容詞グループ (pp. 47-64) 5. I 文の要素 5 前置詞グループ (pp. 65-70) 6. II 文の変形・展開 1 概観 (pp. 71-73) 7. II 文の変形・展開 2 代名詞 (pp. 74-93) 8. II 文の変形・展開 3 複文 (pp. 93-111)	9. II 文の変形・展開 3 複文続き及び 4 複文に準ずるもの (pp. 111-128) 10. III 文の種類 1 概観 (pp. 129-130) 11. III 文の種類 2 文のタイプ (pp. 131-138) 12. III 文の種類 3 文の様態 (pp. 139-150) 13. III 文の種類 4 特殊な文 (pp. 150-160) 14. まとめ 1 15. まとめ 2						
◇ 成績評価の方法	出席 (100% : 毎回小テストを実施します)。						
◇ 教科書・参考書	新倉俊一他『改訂版フランス語ハンドブック』、白水社、1996。その他は初回の授業で指示します。						
◇ 授業時間外学習	初回を除いて原則として毎回小テストを実施しますので、十分な予習・復習が必要になります。						
その他 :							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
フ ラ ン ス 語 学 基 礎 講 読 French Linguistics (Introductory Reading)	2	教授 阿 部 宏	3	月	5		
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT225J						
◆ 授業題目	フランスの雑誌を読む (French magazine reading comprehension)						
◆ 目的・概要	フランス語で書かれた平易な雑誌記事やガイドブックを題材に、初級文法・基礎的語彙の復習、中級文法の学習、文章読解の練習を行います。また、発音のわかりづらい点 (発音記号の理解、語末音の発音の有無、複母音字、鼻母音、リエゾンなど)、文法のわかりづらい点 (部分冠詞、名詞の性、中性代名詞、複合過去と半過去との違い、単純過去、条件法、接続法など)、フランスと英語や日本語との違い、フランス語の語源とフランス語史などについて解説します。仏々辞典、仏英辞典、文法事典、類義語辞典などの有効な活用法についても紹介します。						
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語の雑誌やガイドブックが読めるようになる ・フランス語の中級文法がわかるようになる ・仏々辞典、仏英辞典、文法事典の使い方をマスターする 						
◆ 授業内容・方法	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> 1. ガイダンス 2. 辞典、文法事典、参考書の紹介 3. 雑誌記事・日本紹介 (1) 4. 雑誌記事・日本紹介 (2) 5. 雑誌記事・日本紹介 (3) 6. 雑誌記事・時事問題 (1) 7. 雑誌記事・時事問題 (2) 8. 雑誌記事・時事問題 (3) </td> <td style="width: 50%;"> 9. ガイドブック・大学案内 (1) 10. ガイドブック・大学案内 (2) 11. ガイドブック・大学案内 (3) 12. ガイドブック・旅行案内 (1) 13. ガイドブック・旅行案内 (2) 14. ガイドブック・旅行案内 (3) 15. まとめと筆記試験 </td> </tr> </table>					1. ガイダンス 2. 辞典、文法事典、参考書の紹介 3. 雑誌記事・日本紹介 (1) 4. 雑誌記事・日本紹介 (2) 5. 雑誌記事・日本紹介 (3) 6. 雑誌記事・時事問題 (1) 7. 雑誌記事・時事問題 (2) 8. 雑誌記事・時事問題 (3)	9. ガイドブック・大学案内 (1) 10. ガイドブック・大学案内 (2) 11. ガイドブック・大学案内 (3) 12. ガイドブック・旅行案内 (1) 13. ガイドブック・旅行案内 (2) 14. ガイドブック・旅行案内 (3) 15. まとめと筆記試験
1. ガイダンス 2. 辞典、文法事典、参考書の紹介 3. 雑誌記事・日本紹介 (1) 4. 雑誌記事・日本紹介 (2) 5. 雑誌記事・日本紹介 (3) 6. 雑誌記事・時事問題 (1) 7. 雑誌記事・時事問題 (2) 8. 雑誌記事・時事問題 (3)	9. ガイドブック・大学案内 (1) 10. ガイドブック・大学案内 (2) 11. ガイドブック・大学案内 (3) 12. ガイドブック・旅行案内 (1) 13. ガイドブック・旅行案内 (2) 14. ガイドブック・旅行案内 (3) 15. まとめと筆記試験						
◇ 成績評価の方法	平常点 50%。筆記試験 50%						
◇ 教科書・参考書	プリント使用。 参考書については、教室で現物をお見せして、適宜推薦します。						
◇ 授業時間外学習	教室で適宜テーマを与えますので、関連資料を調査し、各自考えていただきます。						
その他 :							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																											
フ ラ ン ス 文 学 各 論 I French Literature (Special Lecture) I	2	教授 今 井 勉	5	木	2																											
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT312J																															
◆ 授業題目	フランス文学批評史(1) (History of french criticism)																															
◆ 目的・概要	19世紀以降のフランスの文学批評の歴史を振り返ります。文学批評史は時代の政治・経済・文化の動きと密接な関係を保っています。この授業では、アントワヌ・コンパニョンの『文学の第三共和国』(1983)を主要参考文献として、19世紀後半から20世紀前半のフランス第三共和政期の文学批評の流れをたどってみます。																															
◆ 到達目標	フランス第三共和政期の文学批評の勢力図の変遷を知り、文学と歴史の関わりについて考察を深める。																															
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>10. ギュスターヴ・ランソン (9)</td> <td>シャルル・ペギー</td> </tr> <tr> <td>2. ギュスターヴ・ランソン (1) 文学か歴史か</td> <td>11. ギュスターヴ・ランソン (10)</td> <td>ランソン主義</td> </tr> <tr> <td>3. ギュスターヴ・ランソン (2) 大学と歴史家</td> <td>12. ギュスターヴ・ランソン (11)</td> <td>人格礼賛</td> </tr> <tr> <td>4. ギュスターヴ・ランソン (3) 文学史</td> <td>13. ギュスターヴ・ランソン (12)</td> <td>サント＝ブーヴ、テース、ブリュヌチエール</td> </tr> <tr> <td>5. ギュスターヴ・ランソン (4) 講壇批評</td> <td>14. ギュスターヴ・ランソン (13)</td> <td>テースの独裁</td> </tr> <tr> <td>6. ギュスターヴ・ランソン (5) ドレフェス事件</td> <td>15. まとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. ギュスターヴ・ランソン (6) 修辞学教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. ギュスターヴ・ランソン (7) 大作家</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. ギュスターヴ・ランソン (8) アクション・フランセーズ vs ソルボンヌ</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入	10. ギュスターヴ・ランソン (9)	シャルル・ペギー	2. ギュスターヴ・ランソン (1) 文学か歴史か	11. ギュスターヴ・ランソン (10)	ランソン主義	3. ギュスターヴ・ランソン (2) 大学と歴史家	12. ギュスターヴ・ランソン (11)	人格礼賛	4. ギュスターヴ・ランソン (3) 文学史	13. ギュスターヴ・ランソン (12)	サント＝ブーヴ、テース、ブリュヌチエール	5. ギュスターヴ・ランソン (4) 講壇批評	14. ギュスターヴ・ランソン (13)	テースの独裁	6. ギュスターヴ・ランソン (5) ドレフェス事件	15. まとめ		7. ギュスターヴ・ランソン (6) 修辞学教育			8. ギュスターヴ・ランソン (7) 大作家			9. ギュスターヴ・ランソン (8) アクション・フランセーズ vs ソルボンヌ		
1. 導入	10. ギュスターヴ・ランソン (9)	シャルル・ペギー																														
2. ギュスターヴ・ランソン (1) 文学か歴史か	11. ギュスターヴ・ランソン (10)	ランソン主義																														
3. ギュスターヴ・ランソン (2) 大学と歴史家	12. ギュスターヴ・ランソン (11)	人格礼賛																														
4. ギュスターヴ・ランソン (3) 文学史	13. ギュスターヴ・ランソン (12)	サント＝ブーヴ、テース、ブリュヌチエール																														
5. ギュスターヴ・ランソン (4) 講壇批評	14. ギュスターヴ・ランソン (13)	テースの独裁																														
6. ギュスターヴ・ランソン (5) ドレフェス事件	15. まとめ																															
7. ギュスターヴ・ランソン (6) 修辞学教育																																
8. ギュスターヴ・ランソン (7) 大作家																																
9. ギュスターヴ・ランソン (8) アクション・フランセーズ vs ソルボンヌ																																
◇ 成績評価の方法	授業への参加状況 100%																															
◇ 教科書・参考書	アントワヌ・コンパニョン『文学の第三共和国』(1983)〔邦訳なし〕、『理論の魔』(1998)〔邦訳『文学をめぐる理論と常識』(2007)〕、ミシェル・ジャルティ『フランスにおける文学批評 歴史と方法(1800-2000)』(2016)〔邦訳なし〕																															
◇ 授業時間外学習	配付資料の予習をして授業に臨むこと。																															
その他：連絡先：tsutomu@m.tohoku.ac.jp																																

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																								
フ ラ ン ス 文 学 各 論 II French Literature (Special Lecture) II	2	教授 今 井 勉	6	木	2																								
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT313J																												
◆ 授業題目	フランス文学批評史(2) (History of french criticism (2))																												
◆ 目的・概要	前期に引き続き、19世紀以降のフランスの文学批評の歴史を振り返ります。文学批評史は時代の政治・経済・文化の動きと密接な関係を保っています。この授業では、アントワヌ・コンパニョンの『文学の第三共和国』(1983)を主要参考文献として、19世紀後半から20世紀前半のフランス第三共和政期の文学批評の流れをたどってみます。																												
◆ 到達目標	フランス第三共和政期の文学批評の勢力図の変遷を知り、文学と歴史の関わりについて考察を深める。																												
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>9. 文学とは何か (8)</td> <td>ブルースト『失われた時を求めて』</td> </tr> <tr> <td>2. 文学とは何か (1) 読書</td> <td>10. 文学とは何か (9)</td> <td>フローベール『現代のフランス』</td> </tr> <tr> <td>3. 文学とは何か (2) 図書館</td> <td>11. 文学とは何か (10)</td> <td>文学史を少々</td> </tr> <tr> <td>4. 文学とは何か (3) 愛書家</td> <td>12. 文学とは何か (11)</td> <td>テース</td> </tr> <tr> <td>5. 文学とは何か (4) 偶像崇拜</td> <td>13. 文学とは何か (12)</td> <td>反動</td> </tr> <tr> <td>6. 文学とは何か (5) 読書あるいは人生</td> <td>14. 文学とは何か (13)</td> <td>フローベール、テース、ブルースト</td> </tr> <tr> <td>7. 文学とは何か (6) インスピレーション</td> <td>15. まとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 文学とは何か (7) ヴィジョン</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入	9. 文学とは何か (8)	ブルースト『失われた時を求めて』	2. 文学とは何か (1) 読書	10. 文学とは何か (9)	フローベール『現代のフランス』	3. 文学とは何か (2) 図書館	11. 文学とは何か (10)	文学史を少々	4. 文学とは何か (3) 愛書家	12. 文学とは何か (11)	テース	5. 文学とは何か (4) 偶像崇拜	13. 文学とは何か (12)	反動	6. 文学とは何か (5) 読書あるいは人生	14. 文学とは何か (13)	フローベール、テース、ブルースト	7. 文学とは何か (6) インスピレーション	15. まとめ		8. 文学とは何か (7) ヴィジョン		
1. 導入	9. 文学とは何か (8)	ブルースト『失われた時を求めて』																											
2. 文学とは何か (1) 読書	10. 文学とは何か (9)	フローベール『現代のフランス』																											
3. 文学とは何か (2) 図書館	11. 文学とは何か (10)	文学史を少々																											
4. 文学とは何か (3) 愛書家	12. 文学とは何か (11)	テース																											
5. 文学とは何か (4) 偶像崇拜	13. 文学とは何か (12)	反動																											
6. 文学とは何か (5) 読書あるいは人生	14. 文学とは何か (13)	フローベール、テース、ブルースト																											
7. 文学とは何か (6) インスピレーション	15. まとめ																												
8. 文学とは何か (7) ヴィジョン																													
◇ 成績評価の方法	授業への参加状況 100%																												
◇ 教科書・参考書	アントワヌ・コンパニョン『文学の第三共和国』(1983)〔邦訳なし〕、『理論の魔』(1998)〔邦訳『文学をめぐる理論と常識』(2007)〕、ミシェル・ジャルティ『フランスにおける文学批評 歴史と方法(1800-2000)』(2016)〔邦訳なし〕																												
◇ 授業時間外学習	配付資料の予習をして授業に臨むこと。																												
その他：連絡先：tsutomu@m.tohoku.ac.jp																													

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
フ ラ ン ス 文 学 各 論 III French Literature (Special Lecture) III	2	非常勤 講師 小 倉 博 孝	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHM-LIT314J フランス古典主義悲劇研究 (French Classical Tragedy) 十六世紀半ばに誕生したフランス悲劇は、十七世紀にどのような変化を遂げ、コルネイユ、ラシーヌの悲劇へと向かっていくのか。コルネイユとラシーヌの劇作法の違いはどこにあるのか。まず、演劇規則に関する議論を追いながらフランス悲劇の変化について考察していきます。そして、抽象的な議論になることを避けるため、取り扱う作品についてはテキストの分析を中心におきながら考察を進めていきます。最後に講義のまとめとして、ラシーヌ処女悲劇成立に関する研究をともに見ていくことによって、文学研究における考証とその意味、外国人研究者が果たす役割について考えてみたいと思います。				
◆ 到達目標	十七世紀フランス悲劇の特徴がわかるようになり、また作品のテキスト分析をとおして、自分自身で問題点を見出すことができるようになること。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 悲劇性という概念について (以下の学習内容・進度については、受講生の関心等により、若干変更する場合があります) 2. 悲劇と悲喜劇 3. 悲劇と規則 4. コルネイユの劇作法について (1) - "Le Cid" (1637) - 5. コルネイユの劇作法について (2) - Horace" (1640) から "Cinna" (1642) へ - 6. コルネイユの劇作法について (3) - "Horace" (1640) から "Cinna" (1642) へ - 7. コルネイユの劇作法について (4) - "Rodogune" (1644-45) - 8. コルネイユの劇作法について (5) - "Rodogune" (1644-45) - 9. ラシーヌの劇作法について (1) - "Andromaque" (1667) - 10. ラシーヌの劇作法について (2) - "Andromaque" (1667) - 11. ラシーヌの劇作法について (3) - "Britannicus" (1669) - 12. ラシーヌの劇作法について (4) - "Britannicus" (1669) - 13. ラシーヌの劇作法について (5) - "Bérénice" (1670) - 14. まとめ、考証と文学研究 (1) - Racine, "La Thébaïde" (1664) 成立をめぐる - 15. まとめ、考証と文学研究 (2) - Racine, "La Thébaïde" (1664) 成立をめぐる - 				
◇ 成績評価の方法	出席 (30%)、授業への積極的参加 (70%)				
◇ 教科書・参考書	プリント配布。 主な参考書は Georges Forestier, "La tragédie française: Passions tragiques et règles classiques", Armand Colin, 2010.				
◇ 授業時間外学習	授業の予習・復習ならびに毎回の講義後、疑問点を整理し、質問を用意しておくことが求められます。				
その他 :					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
フ ラ ン ス 文 学 演 習 I French Literature (Seminar) I	2	准教授 黒 岩 卓	5	火	5
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHM-LIT331J 中世・ルネサンスの伝説文学入門(1) (Introduction to Medieval and Renaissance French Literature (1)) 中世最大の物語作家であるクレチアン・ド・トロワによる『ペルスヴァルまたは聖杯の物語』を読みながら、古フランス語の基礎を学びます。同時にフランス語、日本語、英語、ドイツ語などによる現代訳を参照しつつ、中世テキストの翻訳にまつわる諸問題について考えます。「フランス文学演習Ⅱ」と組み合わせることでより効果的にフランス語・フランス文学の通史的な理解が可能になります (こちらの講義のみの受講も可能です)。未経験者を対象とし、現代フランス語訳を用いますので、現代フランス語の知識があればフランス文学専修以外の学生でも受講が出来ます。				
◆ 到達目標	古フランス語 (13世紀までのフランス語) の基礎を理解する。現代フランス語の力を伸ばす。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. (以下はテキスト講読と並行して解説するトピックです。順番には変更があります。) 古フランス語入門 (1) 2. 古フランス語入門 (2) 3. 古フランス語入門 (3) 4. 古フランス語の辞書・参考書 5. 近代校訂版 6. 雑誌 7. 写本 8. ラテン語・ラテン文学 9. 歴史音声学 10. 聖書 11. 神学 12. 封建社会 13. 書誌の作り方 14. 中世における物語 15. 後世への影響 				
◇ 成績評価の方法	出席 50% + テスト 50%				
◇ 教科書・参考書	初回の授業で指示します。				
◇ 授業時間外学習	講読対象となるテキストの予習が必要になります。				
その他 :					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
フ ラ ン ス 文 学 演 習 Ⅱ French Literature (Seminar) Ⅱ	2	准教授 黒 岩 卓	6	火	5
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT332J				
◆ 授業題目	中世・ルネサンスの伝語仏文学入門(2)				
◆ 目的・概要	(Introduction to Medieval and Renaissance French Literature (2)) フランス十六世紀を代表する作家・思想家であるモンテーニュの『エセー』を読みながら、後期中世およびルネサンスのフランス語の基礎を学びます。同時にフランス語、日本語、英語、ドイツ語などによる現代語訳も参照することで、ルネサンス期のテキストの翻訳にまつわる諸問題について考えます。「フランス文学演習Ⅰ」と組み合わせることでより効果的にフランス語・フランス文学の通史的な理解が可能になります(こちらの講義のみの受講も可能です)。未経験者を対象とし、さらに現代フランス語による注釈が施されたテキストも用いますので、現代フランス語の知識があればフランス文学専修以外の学生でも受講が出来ます。				
◆ 到達目標	中期(14・15世紀)及び16世紀のフランス語の基礎を理解する。現代フランス語の力を伸ばす。				
◆ 授業内容・方法	1. (以下は授業で扱うトピックで、その順番には変更があり得ます) 中期フランス語入門 2. 中期フランス語の辞書・参考書 3. 近代校訂版 4. 雑誌 5. 書誌の作り方 6. 人文主義 7. 宗教改革 8. ラテン語・ラテン文学 9. 散文と韻文 10. 句読点 11. 聖書 12. 引用 13. 政治 14. 影響を受けた作家・思想家たち 15. 現代への影響				
◇ 成績評価の方法	出席(50%) + テスト(50%)				
◇ 教科書・参考書	初回に指示します。				
◇ 授業時間外学習	講読対象となるテキストの予習が必要になります。				
その他:					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
フ ラ ン ス 文 学 演 習 Ⅲ French Literature (Seminar) Ⅲ	2	准教授 メヴェル ヤン	5	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT333F				
◆ 授業題目	Lire, comprendre, interpréter (Reading, understanding, interpreting)				
◆ 目的・概要	Parmi les activités: - pratique de la lecture orale - analyses méthodiques de textes littéraires - exercices d'expression orale et écrite				
◆ 到達目標	Les buts du cours sont les suivants: - initier à l'analyse des textes littéraires - développer les compétences de lecture et de compréhension à l'oral - développer les capacités d'expression à l'oral et à l'écrit				
◆ 授業内容・方法	1. Introduction 2. Lecture méthodique 3. Lecture méthodique 4. Lecture méthodique 5. Lecture méthodique 6. Lecture méthodique 7. Lecture méthodique 8. Lecture méthodique 9. Lecture méthodique 10. Lecture méthodique 11. Lecture méthodique 12. Lecture méthodique 13. Lecture méthodique 14. Lecture méthodique 15. Projection d'un film en rapport avec la littérature. Analyse et discussion.				
◇ 成績評価の方法	L'évaluation prendra d'abord la forme d'un contrôle continu, à l'oral (participation aux cours) et à l'écrit (rédaction de textes brefs). Il comptera pour 60% dans l'évaluation globale. A la fin du semestre, l'évaluation prendra la forme d'un questionnaire sur un texte littéraire (40%).				
◇ 教科書・参考書	Des photocopies des textes étudiés seront fournies.				
◇ 授業時間外学習	Il faudra faire des lectures préparatoires et rédiger des textes brefs en relation avec l'objet du cours.				
その他:					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 文 学 演 習 IV French Literature (Seminar) IV	2	准教授 メヴェル ヤン	6	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT334F																				
◆ 授業題目	Lire, comprendre, interpréter (Reading, understanding, interpreting)																				
◆ 目的・概要	Parmi les activités: - pratique de la lecture orale - analyses méthodiques de textes littéraires - exercices d'expression orale et écrite																				
◆ 到達目標	Les buts du cours sont les suivants: - initier à l'analyse des textes littéraires - développer les compétences de lecture et de compréhension à l'oral - développer les capacités d'expression à l'oral et à l'écrit																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Introduction</td> <td>9. Lecture méthodique</td> </tr> <tr> <td>2. Lecture méthodique</td> <td>10. Lecture méthodique</td> </tr> <tr> <td>3. Lecture méthodique</td> <td>11. Lecture méthodique</td> </tr> <tr> <td>4. Lecture méthodique</td> <td>12. Lecture méthodique</td> </tr> <tr> <td>5. Lecture méthodique</td> <td>13. Lecture méthodique</td> </tr> <tr> <td>6. Lecture méthodique</td> <td>14. Lecture méthodique</td> </tr> <tr> <td>7. Lecture méthodique</td> <td>15. Projection d' un film en rapport avec la littérature.</td> </tr> <tr> <td>8. Lecture méthodique</td> <td>Analyse et discussion.</td> </tr> </table>					1. Introduction	9. Lecture méthodique	2. Lecture méthodique	10. Lecture méthodique	3. Lecture méthodique	11. Lecture méthodique	4. Lecture méthodique	12. Lecture méthodique	5. Lecture méthodique	13. Lecture méthodique	6. Lecture méthodique	14. Lecture méthodique	7. Lecture méthodique	15. Projection d' un film en rapport avec la littérature.	8. Lecture méthodique	Analyse et discussion.
1. Introduction	9. Lecture méthodique																				
2. Lecture méthodique	10. Lecture méthodique																				
3. Lecture méthodique	11. Lecture méthodique																				
4. Lecture méthodique	12. Lecture méthodique																				
5. Lecture méthodique	13. Lecture méthodique																				
6. Lecture méthodique	14. Lecture méthodique																				
7. Lecture méthodique	15. Projection d' un film en rapport avec la littérature.																				
8. Lecture méthodique	Analyse et discussion.																				
◇ 成績評価の方法	L'évaluation prendra d'abord la forme d'un contrôle continu, à l'oral (participation aux cours) et à l'écrit (rédaction de textes brefs). Il comptera pour 60% dans l'évaluation globale. A la fin du semestre, l'évaluation prendra la forme d'un questionnaire sur un texte littéraire (40%).																				
◇ 教科書・参考書	Des photocopies des textes étudiés seront fournies.																				
◇ 授業時間外学習	Il faudra faire des lectures préparatoires et rédiger des textes brefs en relation avec l'objet du cours.																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 語 学 演 習 I French Linguistics (Seminar) I	2	教授 阿 部 宏	5	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT335J																				
◆ 授業題目	フランス語意味論 I (French Semantics I)																				
◆ 目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 19世紀のフランス文学作品のテキストを題材に、フランス語の言語的現象を分析し、同時に文化論・文学論・歴史学的な考察を行います。 ・ フランス語の諸現象について、文法化、認知意味論、主観性などの観点から解説します。 ・ 実例に基づいた言語研究、およびフランス語・英語・日本語間の対照研究の方法論について考察します。 ・ 仏々辞典、仏英辞典、文法事典、類義語辞典などの有効な活用法についても、具体的に説明します。 																				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ フランス語の読解力が高まる。 ・ フランス語の語彙と文法の仕組みがわかるようになる。 ・ 語学研究の自分なりのテーマを見つげられる。 																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. テキスト読解 (3)</td> </tr> <tr> <td>2. 仏々辞典等の使用法</td> <td>10. テキスト読解 (4)</td> </tr> <tr> <td>3. 文法事典等の使用法</td> <td>11. テキスト読解 (4)</td> </tr> <tr> <td>4. 意味論概説 (1)</td> <td>12. テキスト読解 (5)</td> </tr> <tr> <td>5. 意味論概説 (2)</td> <td>13. テキスト読解 (6)</td> </tr> <tr> <td>6. 意味論概説 (3)</td> <td>14. テキスト読解 (7)</td> </tr> <tr> <td>7. テキスト読解 (1)</td> <td>15. まとめと筆記試験</td> </tr> <tr> <td>8. テキスト読解 (2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. テキスト読解 (3)	2. 仏々辞典等の使用法	10. テキスト読解 (4)	3. 文法事典等の使用法	11. テキスト読解 (4)	4. 意味論概説 (1)	12. テキスト読解 (5)	5. 意味論概説 (2)	13. テキスト読解 (6)	6. 意味論概説 (3)	14. テキスト読解 (7)	7. テキスト読解 (1)	15. まとめと筆記試験	8. テキスト読解 (2)	
1. ガイダンス	9. テキスト読解 (3)																				
2. 仏々辞典等の使用法	10. テキスト読解 (4)																				
3. 文法事典等の使用法	11. テキスト読解 (4)																				
4. 意味論概説 (1)	12. テキスト読解 (5)																				
5. 意味論概説 (2)	13. テキスト読解 (6)																				
6. 意味論概説 (3)	14. テキスト読解 (7)																				
7. テキスト読解 (1)	15. まとめと筆記試験																				
8. テキスト読解 (2)																					
◇ 成績評価の方法	平常点 50%、筆記試験 50%																				
◇ 教科書・参考書	参考書：阿部宏 (2015)『言葉に心の声を聞く』東北大学出版会。																				
◇ 授業時間外学習	教室で適宜テーマを与えますので、関連資料を調査し、各自考えていただきます。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 語 学 演 習 II French Linguistics (Seminar) II	2	教授 阿 部 宏	6	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT336J																				
◆ 授業題目	フランス語意味論Ⅱ (French semantics Ⅱ)																				
◆ 目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語の語彙、文法、歴史を扱った論文を読みながら、文法構造、歴史、語彙など、フランス語の特徴について総合的に解説し、考察します。また、適宜、英語、日本語などとの対照的考察を行います。 ・語学研究の方法論を解説するとともに、フランス語と日本語の類似点と相違点について考察します。 ・LEXISなどの仏々辞典、『朝倉・新フランス文法事典』、Le Bon Usage, Dupreなどの文法事典、Robert-Collinsなどの仏英辞典、Benacなどの類義語辞典、Le Robert historiqueなどの語源辞典の利用法について、具体例にもとづいて解説します。 																				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語の読解力が高まる。 ・フランス語、英語、日本語などの言葉の違いを超えた共通性に気づく。 ・語学研究の自分なりのテーマを見つけられる。 																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 主観性関連文献読解 (3)</td> </tr> <tr> <td>2. 意味論関連文献読解 (1)</td> <td>10. 主観性関連文献読解 (4)</td> </tr> <tr> <td>3. 意味論関連文献読解 (2)</td> <td>11. 語用論関連文献読解 (1)</td> </tr> <tr> <td>4. 意味論関連文献読解 (3)</td> <td>12. 語用論関連文献読解 (2)</td> </tr> <tr> <td>5. 意味論関連文献読解 (4)</td> <td>13. 語用論関連文献読解 (3)</td> </tr> <tr> <td>6. 意味論関連文献読解 (5)</td> <td>14. 語用論関連文献読解 (4)</td> </tr> <tr> <td>7. 主観性関連文献読解 (1)</td> <td>15. まとめと筆記試験</td> </tr> <tr> <td>8. 主観性関連文献読解 (2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 主観性関連文献読解 (3)	2. 意味論関連文献読解 (1)	10. 主観性関連文献読解 (4)	3. 意味論関連文献読解 (2)	11. 語用論関連文献読解 (1)	4. 意味論関連文献読解 (3)	12. 語用論関連文献読解 (2)	5. 意味論関連文献読解 (4)	13. 語用論関連文献読解 (3)	6. 意味論関連文献読解 (5)	14. 語用論関連文献読解 (4)	7. 主観性関連文献読解 (1)	15. まとめと筆記試験	8. 主観性関連文献読解 (2)	
1. ガイダンス	9. 主観性関連文献読解 (3)																				
2. 意味論関連文献読解 (1)	10. 主観性関連文献読解 (4)																				
3. 意味論関連文献読解 (2)	11. 語用論関連文献読解 (1)																				
4. 意味論関連文献読解 (3)	12. 語用論関連文献読解 (2)																				
5. 意味論関連文献読解 (4)	13. 語用論関連文献読解 (3)																				
6. 意味論関連文献読解 (5)	14. 語用論関連文献読解 (4)																				
7. 主観性関連文献読解 (1)	15. まとめと筆記試験																				
8. 主観性関連文献読解 (2)																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験 50% + 出席 50%																				
◇ 教科書・参考書	プリント使用。参考書については、教室で現物を見せて、適宜推薦します。																				
◇ 授業時間外学習	教室で適宜テーマを与えますので、関連資料を調査し、各自考えていただきます。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ヨーロッパ史概論 European and American History (General Lecture)	2	准教授 浅岡善治	3	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS204J																				
◆ 授業題目	ロシア革命と近代世界 (Russian Revolutions and the Modern World)																				
◆ 目的・概要	2017年は「ロシア革命100年」にあたっている。このこと自体は「十進法の偶然」にすぎないが、この毀誉褒貶の激しい歴史事象について、現代的観点から一定の総括を行ってみる好機ではある。前期の講義では、「革命」へと至るロシアの歴史を基軸として、近代ヨーロッパ史を概観する。																				
◆ 到達目標	20世紀初頭のロシアでの革命に至るヨーロッパ近代史の基本的な流れを、いくつかの代表的なトピックを中心として理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. はじめに：講義の趣旨と進め方について</td> <td>9. 「大改革」(1)</td> </tr> <tr> <td>2. ルーシとロシア</td> <td>10. 「大改革」(2)</td> </tr> <tr> <td>3. ピョートルの帝国</td> <td>11. 専制と近代化</td> </tr> <tr> <td>4. 女帝の時代</td> <td>12. 日露戦争と1905年革命</td> </tr> <tr> <td>5. 革命と「祖国」</td> <td>13. ストルイピン改革</td> </tr> <tr> <td>6. デカブリストと「憲兵」</td> <td>14. 世界戦争とツァーリズム</td> </tr> <tr> <td>7. 革命・国民主義・社会主義(1)</td> <td>15. 総括と展望</td> </tr> <tr> <td>8. 革命・国民主義・社会主義(2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. はじめに：講義の趣旨と進め方について	9. 「大改革」(1)	2. ルーシとロシア	10. 「大改革」(2)	3. ピョートルの帝国	11. 専制と近代化	4. 女帝の時代	12. 日露戦争と1905年革命	5. 革命と「祖国」	13. ストルイピン改革	6. デカブリストと「憲兵」	14. 世界戦争とツァーリズム	7. 革命・国民主義・社会主義(1)	15. 総括と展望	8. 革命・国民主義・社会主義(2)	
1. はじめに：講義の趣旨と進め方について	9. 「大改革」(1)																				
2. ルーシとロシア	10. 「大改革」(2)																				
3. ピョートルの帝国	11. 専制と近代化																				
4. 女帝の時代	12. 日露戦争と1905年革命																				
5. 革命と「祖国」	13. ストルイピン改革																				
6. デカブリストと「憲兵」	14. 世界戦争とツァーリズム																				
7. 革命・国民主義・社会主義(1)	15. 総括と展望																				
8. 革命・国民主義・社会主義(2)																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験を行い、その成績に基づいて評価する。																				
◇ 教科書・参考書	和田春樹編『新版世界各国史22 ロシア史』山川出版社、2002年；下斗米伸夫編『ロシアの歴史を知るための50章』明石書店、2016年。 その他、講義の進行に合わせて適宜指示する。																				
◇ 授業時間外学習	「概論」として内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの事由により本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主體的な努力が求められる。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ヨーロッパ史概論 European and American History (General Lecture)	2	准教授 浅岡善治	4	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS204J																				
◆ 授業題目	ロシア革命と20世紀世界 (Russian Revolutions and the 20th Century World)																				
◆ 目的・概要	2017年は「ロシア革命100年」にあたっている。このこと自体は「十進法の偶然」にすぎないが、この毀誉褒貶の激しい歴史事象について、現代的観点から一定の総括を行ってみる好機ではある。後期の講義では、「革命」の具体的過程から、その帰結点である30年代初頭のスターリン体制の成立までを追う。																				
◆ 到達目標	ロシア革命からスターリン体制の成立に至る過程を、同時期のヨーロッパの動向にも注目しつつ理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダース：講義の趣旨と進め方について</td> <td>9. 新経済政策(1)</td> </tr> <tr> <td>2. 総力戦と帝政の崩壊(1)</td> <td>10. 新経済政策(2)</td> </tr> <tr> <td>3. 総力戦と帝政の崩壊(2)</td> <td>11. 新経済政策(3)</td> </tr> <tr> <td>4. 二月革命と臨時政府</td> <td>12. 「上からの革命」(1)</td> </tr> <tr> <td>5. 十月革命(1)</td> <td>13. 「上からの革命」(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 十月革命(2)</td> <td>14. スターリン体制の成立</td> </tr> <tr> <td>7. 内戦と「戦時共産主義」(1)</td> <td>15. 歴史のなかのロシア革命</td> </tr> <tr> <td>8. 内戦と「戦時共産主義」(2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダース：講義の趣旨と進め方について	9. 新経済政策(1)	2. 総力戦と帝政の崩壊(1)	10. 新経済政策(2)	3. 総力戦と帝政の崩壊(2)	11. 新経済政策(3)	4. 二月革命と臨時政府	12. 「上からの革命」(1)	5. 十月革命(1)	13. 「上からの革命」(2)	6. 十月革命(2)	14. スターリン体制の成立	7. 内戦と「戦時共産主義」(1)	15. 歴史のなかのロシア革命	8. 内戦と「戦時共産主義」(2)	
1. ガイダース：講義の趣旨と進め方について	9. 新経済政策(1)																				
2. 総力戦と帝政の崩壊(1)	10. 新経済政策(2)																				
3. 総力戦と帝政の崩壊(2)	11. 新経済政策(3)																				
4. 二月革命と臨時政府	12. 「上からの革命」(1)																				
5. 十月革命(1)	13. 「上からの革命」(2)																				
6. 十月革命(2)	14. スターリン体制の成立																				
7. 内戦と「戦時共産主義」(1)	15. 歴史のなかのロシア革命																				
8. 内戦と「戦時共産主義」(2)																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験を行い、その成績に基づいて評価する。																				
◇ 教科書・参考書	和田春樹編『新版世界各国史22 ロシア史』山川出版社、2002年；下斗米伸夫編『ロシアの歴史を知るための50章』明石書店、2016年；池田嘉郎『ロシア革命—破局の8か月』岩波新書、2017年；松戸清裕ほか編『ロシア革命とソ連の世紀』全5巻、岩波書店、2017年（近刊予定）。 その他、講義の進行に合わせて適宜指示する。																				
◇ 授業時間外学習	「概論」として内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの事由により本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主體的な努力が求められる。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ヨ ー ロ ッ パ 史 基 礎 講 読 European and American History (Introductory Reading)	2	教授 小 野 善 彦	3	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS210J																				
◆ 授業題目	英語文献講読 (Reading intensively the English Text on European History)																				
◆ 目的・概要	近世ヨーロッパの都市と市民に関わる諸問題を多角的に論じた下記の文献を精読し、近世の都市と市民についての理解を深めるとともに、英語文献の読解力の涵養に努める。 テキスト：C.R. Friedrichs, The EarlyModern City, 1995																				
◆ 到達目標	近世都市の社会構造と周縁集団形成を促すメカニズムについての理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. 授業紹介</td> <td style="width:50%;">9. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>2. 報告・討論</td> <td>10. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>3. 報告・討論</td> <td>11. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>4. 報告・討論</td> <td>12. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>5. 報告・討論</td> <td>13. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>6. 報告・討論</td> <td>14. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>7. 報告・討論</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 報告・討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業紹介	9. 報告・討論	2. 報告・討論	10. 報告・討論	3. 報告・討論	11. 報告・討論	4. 報告・討論	12. 報告・討論	5. 報告・討論	13. 報告・討論	6. 報告・討論	14. 報告・討論	7. 報告・討論	15. 授業のまとめ	8. 報告・討論	
1. 授業紹介	9. 報告・討論																				
2. 報告・討論	10. 報告・討論																				
3. 報告・討論	11. 報告・討論																				
4. 報告・討論	12. 報告・討論																				
5. 報告・討論	13. 報告・討論																				
6. 報告・討論	14. 報告・討論																				
7. 報告・討論	15. 授業のまとめ																				
8. 報告・討論																					
◇ 成績評価の方法	出席・授業参加状況 40%、レポート 60%																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	十分に予習して授業に臨むこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ヨ ー ロ ッ パ 史 基 礎 講 読 European and American History (Introductory Reading)	2	教授 小 野 善 彦	4	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS210J																				
◆ 授業題目	英語文献講読 (Reading intensively the English Text on European History)																				
◆ 目的・概要	近世ヨーロッパの都市と市民に関わる諸問題を多角的に論じた下記の文献を精読し、近世の都市と市民についての理解を深めるとともに、英語文献の読解力の涵養に努める。 テキスト：C.R. Friedrichs, The EarlyModern City, 1995																				
◆ 到達目標	近世都市の社会構造と周縁集団形成を促すメカニズムについての理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. 授業紹介</td> <td style="width:50%;">9. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>2. 報告・討論</td> <td>10. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>3. 報告・討論</td> <td>11. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>4. 報告・討論</td> <td>12. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>5. 報告・討論</td> <td>13. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>6. 報告・討論</td> <td>14. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>7. 報告・討論</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 報告・討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業紹介	9. 報告・討論	2. 報告・討論	10. 報告・討論	3. 報告・討論	11. 報告・討論	4. 報告・討論	12. 報告・討論	5. 報告・討論	13. 報告・討論	6. 報告・討論	14. 報告・討論	7. 報告・討論	15. 授業のまとめ	8. 報告・討論	
1. 授業紹介	9. 報告・討論																				
2. 報告・討論	10. 報告・討論																				
3. 報告・討論	11. 報告・討論																				
4. 報告・討論	12. 報告・討論																				
5. 報告・討論	13. 報告・討論																				
6. 報告・討論	14. 報告・討論																				
7. 報告・討論	15. 授業のまとめ																				
8. 報告・討論																					
◇ 成績評価の方法	出席・授業参加状況 40%、レポート 60%																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	十分に予習して授業に臨むこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ヨーロッパ史基礎講読 European and American History (Introductory Reading)	2	教授 有光秀行	3	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS210J																				
◆ 授業題目	フランス語文献精読 (Reading French Texts on Medieval European History Texts on Modern European History)																				
◆ 目的・概要	フランス語で書かれた中世フランス史の概説書を読む予定です。毎回、所定の箇所の訳稿を授業前日までに提出してもらい、それに基づいて授業を進めていきます。 第一回目は打ち合わせ。以後は毎回訳読（だいたい日本語で1000字くらい）と解説。所定の授業期間に読み残したテキストを学期末にレポートとして提出してもらい、獲得された読解力について確認します。																				
◆ 到達目標	フランス語で書かれた論考の読解力を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業・テキスト・レポートについての説明</td> <td>9. フランス語文献読解 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. フランス語文献読解 (1)</td> <td>10. フランス語文献読解 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. フランス語文献読解 (2)</td> <td>11. フランス語文献読解 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. フランス語文献読解 (3)</td> <td>12. フランス語文献読解 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. フランス語文献読解 (4)</td> <td>13. フランス語文献読解 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. フランス語文献読解 (5)</td> <td>14. フランス語文献読解 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. フランス語文献読解 (6)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. フランス語文献読解 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業・テキスト・レポートについての説明	9. フランス語文献読解 (8)	2. フランス語文献読解 (1)	10. フランス語文献読解 (9)	3. フランス語文献読解 (2)	11. フランス語文献読解 (10)	4. フランス語文献読解 (3)	12. フランス語文献読解 (11)	5. フランス語文献読解 (4)	13. フランス語文献読解 (12)	6. フランス語文献読解 (5)	14. フランス語文献読解 (13)	7. フランス語文献読解 (6)	15. 授業のまとめ	8. フランス語文献読解 (7)	
1. 授業・テキスト・レポートについての説明	9. フランス語文献読解 (8)																				
2. フランス語文献読解 (1)	10. フランス語文献読解 (9)																				
3. フランス語文献読解 (2)	11. フランス語文献読解 (10)																				
4. フランス語文献読解 (3)	12. フランス語文献読解 (11)																				
5. フランス語文献読解 (4)	13. フランス語文献読解 (12)																				
6. フランス語文献読解 (5)	14. フランス語文献読解 (13)																				
7. フランス語文献読解 (6)	15. 授業のまとめ																				
8. フランス語文献読解 (7)																					
◇ 成績評価の方法	授業参加状況 (70%) と学期末翻訳レポート (30%)																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示します。																				
◇ 授業時間外学習	所定の箇所の訳を授業前に必ず作成・提出すること。 予習でわからなかった箇所、読み間違えた箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ヨーロッパ史基礎講読 European and American History (Introductory Reading)	2	教授 有光秀行	4	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS210J																				
◆ 授業題目	フランス語文献精読 (Reading French Texts on Medieval European History)																				
◆ 目的・概要	前セメスターにひきつづき、フランス語で書かれた中世フランス史の概説書を読む予定です。毎回、所定の箇所の訳稿を授業前日までに提出してもらい、それに基づいて授業を進めていきます。 第一回目は打ち合わせ。以後は毎回訳読（だいたい日本語で1000字くらい）と解説。所定の授業期間に読み残したテキストを学期末にレポートとして提出してもらい、獲得された読解力について確認します。																				
◆ 到達目標	フランス語で書かれた論考の読解力を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業・テキスト・レポートについての説明</td> <td>9. フランス語文献読解 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. フランス語文献読解 (1)</td> <td>10. フランス語文献読解 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. フランス語文献読解 (2)</td> <td>11. フランス語文献読解 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. フランス語文献読解 (3)</td> <td>12. フランス語文献読解 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. フランス語文献読解 (4)</td> <td>13. フランス語文献読解 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. フランス語文献読解 (5)</td> <td>14. フランス語文献読解 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. フランス語文献読解 (6)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. フランス語文献読解 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業・テキスト・レポートについての説明	9. フランス語文献読解 (8)	2. フランス語文献読解 (1)	10. フランス語文献読解 (9)	3. フランス語文献読解 (2)	11. フランス語文献読解 (10)	4. フランス語文献読解 (3)	12. フランス語文献読解 (11)	5. フランス語文献読解 (4)	13. フランス語文献読解 (12)	6. フランス語文献読解 (5)	14. フランス語文献読解 (13)	7. フランス語文献読解 (6)	15. 授業のまとめ	8. フランス語文献読解 (7)	
1. 授業・テキスト・レポートについての説明	9. フランス語文献読解 (8)																				
2. フランス語文献読解 (1)	10. フランス語文献読解 (9)																				
3. フランス語文献読解 (2)	11. フランス語文献読解 (10)																				
4. フランス語文献読解 (3)	12. フランス語文献読解 (11)																				
5. フランス語文献読解 (4)	13. フランス語文献読解 (12)																				
6. フランス語文献読解 (5)	14. フランス語文献読解 (13)																				
7. フランス語文献読解 (6)	15. 授業のまとめ																				
8. フランス語文献読解 (7)																					
◇ 成績評価の方法	授業参加状況 (70%) と学期末翻訳レポート (30%)																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示します。																				
◇ 授業時間外学習	所定の箇所の訳を授業前に必ず作成・提出すること。 予習でわからなかった箇所、読み間違えた箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
ヨ ー ロ ッ パ 史 基 礎 講 読 European and American History (Introductory Reading)	2	准教授 浅 岡 善 治	3	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS210J				
◆ 授業題目	ドイツ語文献講読 (Introductory Reading in German Texts on Modern European History)				
◆ 目的・概要	演習形式によるドイツ語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する入門的指導を行う。				
◆ 到達目標	専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および一定のドイツ語読解能力の涵養。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について 2. 試読の検討と討論 (1) a 3. 試読の検討と討論 (1) b 4. 試読の検討と討論 (1) c 5. 試読の検討と討論 (1) d 6. 試読の検討と討論 (1) e 7. 小括 (1) 8. 試読の検討と討論 (2) a 9. 試読の検討と討論 (2) b 10. 試読の検討と討論 (2) c 11. 試読の検討と討論 (2) d 12. 試読の検討と討論 (2) e 13. 小括 (2) 14. 課題発表 (1) 15. 中間的総括 (1)				
◇ 成績評価の方法	出席 30% の他 (受講態度、課題の達成度など) 70%				
◇ 教科書・参考書	Wolfgang J. Mommsen, Die Urkatastrophe Deutschlands. Der Erste Weltkrieg 1914-1918, Klett-Cotta: Stuttgart, 2002. その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。 また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主體的な努力が求められる。				
その他：面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。 研究室：文学研究科 5F・539 E-mail：asaoka@m.tohoku.ac.jp					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
ヨ ー ロ ッ パ 史 基 礎 講 読 European and American History (Introductory Reading)	2	准教授 浅 岡 善 治	4	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS210J				
◆ 授業題目	ドイツ語文献講読 (Introductory Reading in German Texts on Modern European History)				
◆ 目的・概要	演習形式によるドイツ語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する入門的指導を行う。				
◆ 到達目標	専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および一定のドイツ語読解能力の涵養。				
◆ 授業内容・方法	1. 課題発表 (2) 2. 試読の検討と討論 (3) a 3. 試読の検討と討論 (3) b 4. 試読の検討と討論 (3) c 5. 試読の検討と討論 (3) d 6. 試読の検討と討論 (3) e 7. 小括 (3) 8. 試読の検討と討論 (4) a 9. 試読の検討と討論 (4) b 10. 試読の検討と討論 (4) c 11. 試読の検討と討論 (4) d 12. 試読の検討と討論 (4) e 13. 小括 (4) 14. 中間的総括 (2) 15. 総括				
◇ 成績評価の方法	出席 30% その他 (受講態度、課題の達成度など) 70%				
◇ 教科書・参考書	Wolfgang J. Mommsen, Die Urkatastrophe Deutschlands. Der Erste Weltkrieg 1914-1918, Klett-Cotta: Stuttgart, 2002. その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主體的な努力が求められる。				
その他：面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。 研究室：文学研究科 5F・539 E-mail：asaoka@m.tohoku.ac.jp					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
ヨーロッパ史各論 European and American History (Special Lecture)	2	非常勤 講師 後藤篤子	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS305J				
◆ 授業題目	ローマ帝国とキリスト教 (The Roman Empire and Christianity)				
◆ 目的・概要	ローマ帝政前期の「異教」世界・初期キリスト教世界の多様性を明らかにし、コンスタンティヌス帝の「改宗」の性格と、皇帝の「改宗」が帝政後期の宗教世界に与えた影響について考察する。				
◆ 到達目標	(1)ローマ帝政前期の「異教」世界の多様性、キリスト教の成立と初期キリスト教世界の多様性に関する基本的知識を習得する。 (2)コンスタンティヌス帝の「改宗」に関する史料状況を知り、その「改宗」の性格について考察する力を身につける。 (3)帝政後期の宗教世界に関する基本的知識を習得し、皇帝の「改宗」の影響について考察する力を身につける。				
◆ 授業内容・方法	1. ローマの伝統的宗教観と多神教世界の多様性 2. 古代ユダヤ略史とイエスの時代のユダヤ教 3. 原始キリスト教の成立 4. 初期キリスト教世界の多様性 (1) —パウロをめぐる 5. 初期キリスト教世界の多様性 (2) —「異端」の出現と初期カトリシズムの形成 6. 1～3世紀初頭のローマ帝国とキリスト教 7. 3世紀の「危機」と宗教世界の変化 8. 最後のキリスト教徒大迫害とガレリウス帝の寛容勅令 9. コンスタンティヌスの「改宗」(1) —「幻による改宗伝説」と学説史	10. コンスタンティヌスの「改宗」(2) — 312年前後の史料状況と「ミラノ勅令」 11. コンスタンティヌスの「改宗」(3) — 宗教立法からの考察と討議 12. 皇帝の「改宗」の影響 (1) — 「異教」の終焉？ 13. 皇帝の「改宗」の影響 (2) — 「正統」と「異端」の対立の尖鋭化 14. 皇帝の「改宗」の影響 (3) — 古代キリスト教から中世キリスト教へ 15. 講義のまとめと筆記試験			
◇ 成績評価の方法	筆記試験90%、平常点 (出席や質問、討議への参加等、授業への積極的参加度) 10%で評価する。				
◇ 教科書・参考書	参考書：弓削達『ローマ帝国とキリスト教』、河出文庫 (世界の歴史5)、1989年。 松本宣郎『ガリラヤからローマへ—地中海世界をかえたキリスト教徒』、山川出版社、1994年。 後藤篤子「ローマ帝国における『異教』とキリスト教」、歴史学研究会編『地中海世界史1・古代地中海世界の統一と変容』(青木書店、2000年)所収。 その他の参考文献は授業時に適宜紹介する。				
◇ 授業時間外学習	上記参考書の少なくとも1点は受講前に読んでおく。 最初の授業時に配布するプリントを読んだの予習と、1日の講義内容の復習。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
ヨーロッパ史各論 European and American History (Special Lecture)	2	非常勤 講師 大月康弘	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS305J				
◆ 授業題目	ビザンツ帝国の国家と社会 (Constitutional and societal analysis of the Byzantine Empire)				
◆ 目的・概要	ビザンツ帝国は、キリスト教化したローマ帝国でした。理念的にも制度的にもローマ帝国の連続体ですが、キリスト教会が国家・社会制度に組み込まれたことで、一つの新しい社会に変貌します。 この「キリスト教ローマ帝国」は、その後の地中海＝ヨーロッパ世界を規定する大きな存在でした。講義ではまず、「中世ローマ帝国」とも称されるビザンツの国制および社会について考察します。また併せて、この帝国を文明の中心として国家形成を果たしたゲルマン人諸部族国家、特にフランク王国について論じます。				
◆ 到達目標	ビザンツ帝国は「ヨーロッパ」の母胎です。「後期ローマ」時代に形成された国家制度と社会機構、またキリスト教会と社会の関係性は、その後、キリスト教世界に規定的に作用しました。講義では、ビザンツ国家の特殊性と普遍性について論じながら、「ヨーロッパ世界」における国家と宗教、また社会と経済のあり方について見通すことを目標とします。 講義では、歴史学の成果にもとづき、ビザンツ帝国およびその影響下に国家形成を果たしたフランク王国について考察します。他方で、社会を類型化して理解する方法態度 (歴史社会学) についても講じます。「ビザンツ」を素材にしながら、「現代社会」をはじめとする各時代・地域の社会について洞察する目を涵養しましょう。各時代の社会を機動させた仕組み (メカニズム) は何か。講義を通じて、国家と社会、社会と経済について、類型論的、生成論的に考察する方法について考えます。				
◆ 授業内容・方法	1. 授業内容の紹介—「ビザンツ帝国」に関する基本事項 2. ローマ帝国とヘレニズム世界 3. 後期ローマ帝国の国制改革 (1) 4. 後期ローマ帝国の国制改革 (2) 5. キリスト教の歴史 (1)—基本事項とヘレニズム都市 6. キリスト教の歴史 (2)—都市の変容とローマ帝国財政の変容 7. 4～5世紀の地中海世界 (1)—ビザンツ帝国とゲルマン人諸部族国家 8. 4～5世紀の地中海世界 (2)—東ゴート王国とコンスタンティノープル	9. ユスティニアヌス帝の時代 10. フランク王国とビザンツ帝国 11. ビレンヌ・テーゼと中世地中海世界 12. アラブ・イスラム勢力とヨーロッパ世界 13. 9～10世紀のビザンツ＝西欧関係 14. オットー大帝とビザンツ帝国—終末論が与えた影響 15. まとめ			
◇ 成績評価の方法	平常点とレポートによって評価します。レポートは、以下の二題について作成して下さい。 (1)ビザンツ帝国の経済社会構造の特質と、世界史上の役割について。 (2)各受講者の専攻する領域・テーマの世界史上での意義について。講義の終了時に受け取ることで、質問等は講義中に受け付けます。				
◇ 教科書・参考書	ビザンツプロパーの参考書として： 大月康弘『ヨーロッパ 時空の交差点』創文社 大月康弘『帝国と慈善 ビザンツ』創文社 井上浩一・栗生沢猛夫『ビザンツとスラヴ』中央公論社 ゲオルグ・オストロコルスキー (和田廣訳)『ビザンツ帝国史』恒文社 授業各回に終了後に、その内容を十分に復習し、指定された図書を読誦すること。 ビュエル・マラヴァル (大月康弘訳)『皇帝ユスティニアヌス』白水社 ベルナルド・フリューザン (大月康弘訳)『ビザンツ文明』白水社				
◇ 授業時間外学習	授業各回に終了後に、その内容を十分に復習し、指定された図書を読誦すること。				
その他：	史料用語としてギリシャ語、ラテン語が登場しますが、読解能力がなくても受講可能です。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ヨーロッパ史各論 European and American History (Special Lecture)	2	教授 有光秀行	6	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS305J																				
◆ 授業題目	「ノルマン人の帝国」に生きる (Living in the Empire of the Normans)																				
◆ 目的・概要	11～13世紀にノルマン人が進出した地域・社会を、近年D・ベイツは「ノルマン人の帝国」として理解することを提案している。ベイツの議論のポイントをおさえるとともに、彼が提唱するように、当時の人々の具体的な足跡をたどる中で「帝国」のあり方を考察する。特に、大陸・ブリテン島・アイルランドと各地に所領を持った大貴顕、ウィリアム・マーシャルに焦点をあてて論じる予定である。																				
◆ 到達目標	中世西北ヨーロッパ社会について、また「帝国」について、具体的な人物を通して理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 講義の背景について</td> <td>9. ウィリアム・マーシャル論 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. D・ベイツの「帝国」論 (1)</td> <td>10. ウィリアム・マーシャル論 (3)</td> </tr> <tr> <td>3. D・ベイツの「帝国」論 (2)</td> <td>11. ウィリアム・マーシャル論 (4)</td> </tr> <tr> <td>4. D・ベイツの「帝国」論 (3)</td> <td>12. ウィリアム・マーシャル論 (5)</td> </tr> <tr> <td>5. D・ベイツの「帝国」論 (4)</td> <td>13. ウィリアム・マーシャル論 (6)</td> </tr> <tr> <td>6. D・ベイツの「帝国」論 (5)</td> <td>14. ウィリアム・マーシャル論 (7)</td> </tr> <tr> <td>7. D・ベイツの「帝国」論 (6)</td> <td>15. 講義のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. ウィリアム・マーシャル論 (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 講義の背景について	9. ウィリアム・マーシャル論 (2)	2. D・ベイツの「帝国」論 (1)	10. ウィリアム・マーシャル論 (3)	3. D・ベイツの「帝国」論 (2)	11. ウィリアム・マーシャル論 (4)	4. D・ベイツの「帝国」論 (3)	12. ウィリアム・マーシャル論 (5)	5. D・ベイツの「帝国」論 (4)	13. ウィリアム・マーシャル論 (6)	6. D・ベイツの「帝国」論 (5)	14. ウィリアム・マーシャル論 (7)	7. D・ベイツの「帝国」論 (6)	15. 講義のまとめ	8. ウィリアム・マーシャル論 (1)	
1. 講義の背景について	9. ウィリアム・マーシャル論 (2)																				
2. D・ベイツの「帝国」論 (1)	10. ウィリアム・マーシャル論 (3)																				
3. D・ベイツの「帝国」論 (2)	11. ウィリアム・マーシャル論 (4)																				
4. D・ベイツの「帝国」論 (3)	12. ウィリアム・マーシャル論 (5)																				
5. D・ベイツの「帝国」論 (4)	13. ウィリアム・マーシャル論 (6)																				
6. D・ベイツの「帝国」論 (5)	14. ウィリアム・マーシャル論 (7)																				
7. D・ベイツの「帝国」論 (6)	15. 講義のまとめ																				
8. ウィリアム・マーシャル論 (1)																					
◇ 成績評価の方法	授業参加状況 (50パーセント) とレポート (50パーセント)																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する																				
◇ 授業時間外学習	教室で指示する参考文献を読みながら、予習・復習をかならずおこなうこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ヨーロッパ史各論 European and American History (Special Lecture)	2	教授 小野善彦	5	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS305J																				
◆ 授業題目	ドイツ中世の国家と社会 (State and Society in medieval Germany)																				
◆ 目的・概要	11・12世紀にドイツ (ヨーロッパ) の国家と社会は、「古相のヨーロッパ」とは性格を著しく異にする旧ヨーロッパ的な構造へと大きく転換した。 この講義においては、中世中期におけるこの国家・社会の構造転換の過程をたどり、ドイツ・西欧に固有の身分制的社会構造の形成と展開、その構造的性質を考察する。																				
◆ 到達目標	11・12世紀に形成される特殊ヨーロッパ的な身分制社会の性質についての理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業内容の紹介：問題の背景</td> <td>8. 10・11世紀のドイツ〈2〉帝国教会制</td> </tr> <tr> <td>2. カロリング帝国：経済と社会</td> <td>9. グレゴリウス改革の展開：教会と国家</td> </tr> <tr> <td>3. カロリング帝国：国制構造</td> <td>10. 改革の帰結〈1〉王権・国家、帝国諸侯</td> </tr> <tr> <td>4. カロリング体制の解体と再編〈1〉 クリュニー修道院改革運動</td> <td>11. 改革の帰結〈2〉ローマ教会組織の確立</td> </tr> <tr> <td>5. カロリング体制の解体と再編〈2〉 領域的諸権力の台頭</td> <td>12. 身分制社会の形成</td> </tr> <tr> <td>6. カロリング体制の解体と再編〈3〉社会構造の再編成</td> <td>13. 身分制社会の構造〈1〉</td> </tr> <tr> <td>7. 10・11世紀のドイツ〈1〉部族連合国家と王権</td> <td>14. 身分制社会の構造〈2〉</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> </table>					1. 授業内容の紹介：問題の背景	8. 10・11世紀のドイツ〈2〉帝国教会制	2. カロリング帝国：経済と社会	9. グレゴリウス改革の展開：教会と国家	3. カロリング帝国：国制構造	10. 改革の帰結〈1〉王権・国家、帝国諸侯	4. カロリング体制の解体と再編〈1〉 クリュニー修道院改革運動	11. 改革の帰結〈2〉ローマ教会組織の確立	5. カロリング体制の解体と再編〈2〉 領域的諸権力の台頭	12. 身分制社会の形成	6. カロリング体制の解体と再編〈3〉社会構造の再編成	13. 身分制社会の構造〈1〉	7. 10・11世紀のドイツ〈1〉部族連合国家と王権	14. 身分制社会の構造〈2〉		15. 授業のまとめ
1. 授業内容の紹介：問題の背景	8. 10・11世紀のドイツ〈2〉帝国教会制																				
2. カロリング帝国：経済と社会	9. グレゴリウス改革の展開：教会と国家																				
3. カロリング帝国：国制構造	10. 改革の帰結〈1〉王権・国家、帝国諸侯																				
4. カロリング体制の解体と再編〈1〉 クリュニー修道院改革運動	11. 改革の帰結〈2〉ローマ教会組織の確立																				
5. カロリング体制の解体と再編〈2〉 領域的諸権力の台頭	12. 身分制社会の形成																				
6. カロリング体制の解体と再編〈3〉社会構造の再編成	13. 身分制社会の構造〈1〉																				
7. 10・11世紀のドイツ〈1〉部族連合国家と王権	14. 身分制社会の構造〈2〉																				
	15. 授業のまとめ																				
◇ 成績評価の方法	出席・受講態度 40%、レポート 60%																				
◇ 教科書・参考書	O・ブルナー『ヨーロッパ―その歴史と精神』、岩波書店 山田欣吾『教会から国家へ』、創文社 関口武彦『クリュニー修道制の研究』、南窓社																				
◇ 授業時間外学習	あらかじめ配布する資料に目を通し、問題意識を持って講義に臨むこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ヨ ー ロ ッ パ 史 演 習 European and American History (Seminar)	2	教授 有 光 秀 行	5	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS312J																				
◆ 授業題目	中世ヨーロッパ史研究 (Study in the Medieval European History)																				
◆ 目的・概要	通常の授業時間は、フランス語のテキスト（中世におけるイングランドとノルマンディの関係をあつかった論文集の予定）を、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者は自分が作成した訳文を印刷し、参加者全員その訳に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。外国語の専門的文献の読解力を養うとともに、中世ヨーロッパ研究の最前線に関する知見を深めたいと思います。第一回目は打ち合わせ。以後は訳読（基本的に一人一段落）と質疑応答。また学期末には、中世ヨーロッパに関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する邦語論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。																				
◆ 到達目標	さまざまな史料の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、卒業論文・卒業研究作成にそなえる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業・テキスト・レポート作成についての説明</td> <td>9. フランス語論文読解 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. フランス語論文読解 (1)</td> <td>10. フランス語論文読解 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. フランス語論文読解 (2)</td> <td>11. フランス語論文読解 (10)、レポート作成進行状況確認</td> </tr> <tr> <td>4. フランス語論文読解 (3)</td> <td>12. フランス語論文読解 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. フランス語論文読解 (4)</td> <td>13. フランス語論文読解 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. フランス語論文読解 (5)</td> <td>14. フランス語論文読解 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. フランス語論文読解 (6)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. フランス語論文読解 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業・テキスト・レポート作成についての説明	9. フランス語論文読解 (8)	2. フランス語論文読解 (1)	10. フランス語論文読解 (9)	3. フランス語論文読解 (2)	11. フランス語論文読解 (10)、レポート作成進行状況確認	4. フランス語論文読解 (3)	12. フランス語論文読解 (11)	5. フランス語論文読解 (4)	13. フランス語論文読解 (12)	6. フランス語論文読解 (5)	14. フランス語論文読解 (13)	7. フランス語論文読解 (6)	15. 授業のまとめ	8. フランス語論文読解 (7)	
1. 授業・テキスト・レポート作成についての説明	9. フランス語論文読解 (8)																				
2. フランス語論文読解 (1)	10. フランス語論文読解 (9)																				
3. フランス語論文読解 (2)	11. フランス語論文読解 (10)、レポート作成進行状況確認																				
4. フランス語論文読解 (3)	12. フランス語論文読解 (11)																				
5. フランス語論文読解 (4)	13. フランス語論文読解 (12)																				
6. フランス語論文読解 (5)	14. フランス語論文読解 (13)																				
7. フランス語論文読解 (6)	15. 授業のまとめ																				
8. フランス語論文読解 (7)																					
◇ 成績評価の方法	授業参加状況 (50%) とレポート (50%)。																				
◇ 教科書・参考書	授業開始時に指示します。																				
◇ 授業時間外学習	毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ヨ ー ロ ッ パ 史 演 習 European and American History (Seminar)	2	教授 有 光 秀 行	6	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS312J																				
◆ 授業題目	中世ヨーロッパ史研究 (Study in the Medieval European History)																				
◆ 目的・概要	通常の授業時間は、前セメスターにつづいて、フランス語のテキスト（中世におけるイングランドとノルマンディの関係をあつかった論文集の予定）を、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者は自分が作成した訳文を印刷し、参加者全員その訳に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。外国語の専門的文献の読解力を養うとともに、中世ヨーロッパ研究の最前線に関する知見を深めたいと思います。第一回目は打ち合わせ。つづいて、前期に作成されたレポートの内容を要約・発表する機会を設けます。以後は訳読（基本的に一人一段落）と質疑応答。また学期末には、中世ヨーロッパに関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する邦語論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。																				
◆ 到達目標	さまざまな史料の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、卒業論文・卒業研究作成にそなえる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業・テキスト・レポート作成についての説明</td> <td>9. フランス語論文読解 (7)</td> </tr> <tr> <td>2. レポート内容発表会</td> <td>10. フランス語論文読解 (8)</td> </tr> <tr> <td>3. フランス語論文読解 (1)</td> <td>11. フランス語論文読解 (9)、レポート作成進行状況確認</td> </tr> <tr> <td>4. フランス語論文読解 (2)</td> <td>12. フランス語論文読解 (10)</td> </tr> <tr> <td>5. フランス語論文読解 (3)</td> <td>13. フランス語論文読解 (11)</td> </tr> <tr> <td>6. フランス語論文読解 (4)</td> <td>14. フランス語論文読解 (12)</td> </tr> <tr> <td>7. フランス語論文読解 (5)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. フランス語論文読解 (6)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業・テキスト・レポート作成についての説明	9. フランス語論文読解 (7)	2. レポート内容発表会	10. フランス語論文読解 (8)	3. フランス語論文読解 (1)	11. フランス語論文読解 (9)、レポート作成進行状況確認	4. フランス語論文読解 (2)	12. フランス語論文読解 (10)	5. フランス語論文読解 (3)	13. フランス語論文読解 (11)	6. フランス語論文読解 (4)	14. フランス語論文読解 (12)	7. フランス語論文読解 (5)	15. 授業のまとめ	8. フランス語論文読解 (6)	
1. 授業・テキスト・レポート作成についての説明	9. フランス語論文読解 (7)																				
2. レポート内容発表会	10. フランス語論文読解 (8)																				
3. フランス語論文読解 (1)	11. フランス語論文読解 (9)、レポート作成進行状況確認																				
4. フランス語論文読解 (2)	12. フランス語論文読解 (10)																				
5. フランス語論文読解 (3)	13. フランス語論文読解 (11)																				
6. フランス語論文読解 (4)	14. フランス語論文読解 (12)																				
7. フランス語論文読解 (5)	15. 授業のまとめ																				
8. フランス語論文読解 (6)																					
◇ 成績評価の方法	授業参加状況 (50%) とレポート (50%)。																				
◇ 教科書・参考書	授業開始時に指示します。																				
◇ 授業時間外学習	毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ヨーロッパ史演習 European and American History (Seminar)	2	教授 小野善彦	5	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS312J																				
◆ 授業題目	ドイツ中世史の諸問題 (The problems of the European medieval Historiography)																				
◆ 目的・概要	西洋中世都市の社会構造の特質を論じた、研究史上重要な論文(ドイツ語)を精読し、中世都市の存在構造と中世後期におけるその変容の背景、性格、意義を考察する。テキストとして、中世後期の都市におけるツンフト体制による都市指導層の社会史的断絶を論証した次の論文を精読する。 テキスト: E. Maschke, Verfassung und soziale Kräfte in der deutschen Stadt des späten Mittelalters, vornehmlich in Oberdeutschland, in: Vierteljahrschrift für Sozial- und Wirtschaftsgeschichte Bd. 49, 1959.																				
◆ 到達目標	ドイツ中世後期の都市におけるツンフト闘争の歴史的な性格を再検討する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業紹介</td> <td>9. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>2. 報告・討論</td> <td>10. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>3. 報告・討論</td> <td>11. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>4. 報告・討論</td> <td>12. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>5. 報告・討論</td> <td>13. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>6. 報告・討論</td> <td>14. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>7. 報告・討論</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 報告・討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業紹介	9. 報告・討論	2. 報告・討論	10. 報告・討論	3. 報告・討論	11. 報告・討論	4. 報告・討論	12. 報告・討論	5. 報告・討論	13. 報告・討論	6. 報告・討論	14. 報告・討論	7. 報告・討論	15. まとめ	8. 報告・討論	
1. 授業紹介	9. 報告・討論																				
2. 報告・討論	10. 報告・討論																				
3. 報告・討論	11. 報告・討論																				
4. 報告・討論	12. 報告・討論																				
5. 報告・討論	13. 報告・討論																				
6. 報告・討論	14. 報告・討論																				
7. 報告・討論	15. まとめ																				
8. 報告・討論																					
◇ 成績評価の方法	出席・受講態度 40%、レポート 60%																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	十分に予習した上で授業に臨むこと																				
その他:																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ヨーロッパ史演習 European and American History (Seminar)	2	教授 小野善彦	6	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS312J																				
◆ 授業題目	ドイツ中世史の諸問題 (The problems of the European medieval Historiography)																				
◆ 目的・概要	西洋中世都市の社会構造の特質を論じた、研究史上重要な論文(ドイツ語)を精読し、中世都市の存在構造と中世後期におけるその変容の背景、性格、意義を考察する。テキストとして、中世後期の都市におけるツンフト体制による都市指導層の社会史的断絶を論証した次の論文を精読する。 テキスト: E. Maschke, Verfassung und soziale Kräfte in der deutschen Stadt des späten Mittelalters, vornehmlich in Oberdeutschland, in: Vierteljahrschrift für Sozial- und Wirtschaftsgeschichte Bd. 49, 1959.																				
◆ 到達目標	ドイツ中世後期の都市におけるツンフト闘争の歴史的な性格を再検討する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業紹介</td> <td>9. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>2. 報告・討論</td> <td>10. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>3. 報告・討論</td> <td>11. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>4. 報告・討論</td> <td>12. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>5. 報告・討論</td> <td>13. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>6. 報告・討論</td> <td>14. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>7. 報告・討論</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 報告・討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業紹介	9. 報告・討論	2. 報告・討論	10. 報告・討論	3. 報告・討論	11. 報告・討論	4. 報告・討論	12. 報告・討論	5. 報告・討論	13. 報告・討論	6. 報告・討論	14. 報告・討論	7. 報告・討論	15. まとめ	8. 報告・討論	
1. 授業紹介	9. 報告・討論																				
2. 報告・討論	10. 報告・討論																				
3. 報告・討論	11. 報告・討論																				
4. 報告・討論	12. 報告・討論																				
5. 報告・討論	13. 報告・討論																				
6. 報告・討論	14. 報告・討論																				
7. 報告・討論	15. まとめ																				
8. 報告・討論																					
◇ 成績評価の方法	出席・受講態度 40%、レポート 60%																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	十分に予習した上で授業に臨むこと																				
その他:																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ヨ ー ロ ッ パ 史 演 習 European and American History (Seminar)	2	准教授 浅岡善治	5	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS312J																				
◆ 授業題目	ロシア革命の歴史的再検討 (Advanced Seminar in English: The Reconsideration of the Russian Revolution)																				
◆ 目的・概要	ロシア革命の歴史的再検討 演習形式による英語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する基本的指導を行う。																				
◆ 到達目標	専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および英語文献の正確な読解。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について</td> <td>9. 試読の検討と討論 (2) b</td> </tr> <tr> <td>2. 試読の検討と討論 (1) a</td> <td>10. 試読の検討と討論 (2) c</td> </tr> <tr> <td>3. 試読の検討と討論 (1) b</td> <td>11. 試読の検討と討論 (2) d</td> </tr> <tr> <td>4. 試読の検討と討論 (1) c</td> <td>12. 試読の検討と討論 (2) e</td> </tr> <tr> <td>5. 試読の検討と討論 (1) d</td> <td>13. 小括 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 試読の検討と討論 (1) e</td> <td>14. 課題発表 (1)</td> </tr> <tr> <td>7. 小括 (1)</td> <td>15. 中間的総括 (1)</td> </tr> <tr> <td>8. 試読の検討と討論 (2) a</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について	9. 試読の検討と討論 (2) b	2. 試読の検討と討論 (1) a	10. 試読の検討と討論 (2) c	3. 試読の検討と討論 (1) b	11. 試読の検討と討論 (2) d	4. 試読の検討と討論 (1) c	12. 試読の検討と討論 (2) e	5. 試読の検討と討論 (1) d	13. 小括 (2)	6. 試読の検討と討論 (1) e	14. 課題発表 (1)	7. 小括 (1)	15. 中間的総括 (1)	8. 試読の検討と討論 (2) a	
1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について	9. 試読の検討と討論 (2) b																				
2. 試読の検討と討論 (1) a	10. 試読の検討と討論 (2) c																				
3. 試読の検討と討論 (1) b	11. 試読の検討と討論 (2) d																				
4. 試読の検討と討論 (1) c	12. 試読の検討と討論 (2) e																				
5. 試読の検討と討論 (1) d	13. 小括 (2)																				
6. 試読の検討と討論 (1) e	14. 課題発表 (1)																				
7. 小括 (1)	15. 中間的総括 (1)																				
8. 試読の検討と討論 (2) a																					
◇ 成績評価の方法	出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など) 70%																				
◇ 教科書・参考書	望田幸男・芝井敬司・末川清『新版 新しい史学概論』昭和堂、2004年；Sheila Fitzpatrick The Russian Revolution. New Edition, Oxford University Press, 2008.																				
◇ 授業時間外学習	その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。 ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。																				
その他：面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。 研究室：文学研究科 5F・539 E-mail：asaoka@m.tohoku.ac.jp																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ヨ ー ロ ッ パ 史 演 習 European and American History (Seminar)	2	准教授 浅岡善治	6	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-HIS312J																				
◆ 授業題目	ロシア革命の歴史的再検討 (Advanced Seminar in English: The Reconsideration of the Russian Revolution)																				
◆ 目的・概要	ロシア革命の歴史的再検討 演習形式による英語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する基本的指導を行う。																				
◆ 到達目標	専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および英語文献の正確な読解。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 課題発表 (2)</td> <td>9. 試読の検討と討論 (4) b</td> </tr> <tr> <td>2. 試読の検討と討論 (3) a</td> <td>10. 試読の検討と討論 (4) c</td> </tr> <tr> <td>3. 試読の検討と討論 (3) b</td> <td>11. 試読の検討と討論 (4) d</td> </tr> <tr> <td>4. 試読の検討と討論 (3) c</td> <td>12. 試読の検討と討論 (4) e</td> </tr> <tr> <td>5. 試読の検討と討論 (3) d</td> <td>13. 小括 (4)</td> </tr> <tr> <td>6. 試読の検討と討論 (3) e</td> <td>14. 中間的総括 (2)</td> </tr> <tr> <td>7. 小括 (3)</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. 試読の検討と討論 (4) a</td> <td></td> </tr> </table>					1. 課題発表 (2)	9. 試読の検討と討論 (4) b	2. 試読の検討と討論 (3) a	10. 試読の検討と討論 (4) c	3. 試読の検討と討論 (3) b	11. 試読の検討と討論 (4) d	4. 試読の検討と討論 (3) c	12. 試読の検討と討論 (4) e	5. 試読の検討と討論 (3) d	13. 小括 (4)	6. 試読の検討と討論 (3) e	14. 中間的総括 (2)	7. 小括 (3)	15. 総括	8. 試読の検討と討論 (4) a	
1. 課題発表 (2)	9. 試読の検討と討論 (4) b																				
2. 試読の検討と討論 (3) a	10. 試読の検討と討論 (4) c																				
3. 試読の検討と討論 (3) b	11. 試読の検討と討論 (4) d																				
4. 試読の検討と討論 (3) c	12. 試読の検討と討論 (4) e																				
5. 試読の検討と討論 (3) d	13. 小括 (4)																				
6. 試読の検討と討論 (3) e	14. 中間的総括 (2)																				
7. 小括 (3)	15. 総括																				
8. 試読の検討と討論 (4) a																					
◇ 成績評価の方法	出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など) 70%																				
◇ 教科書・参考書	浜林正夫・佐々木隆爾編『歴史学入門』有斐閣、1992年；Sheila Fitzpatrick, The Russian Revolution. New Edition, Oxford University Press, 2008.																				
◇ 授業時間外学習	その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。 ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。																				
その他：面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。 研究室：文学研究科 5F・539 E-mail：asaoka@m.tohoku.ac.jp																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 言 語 学 概 論 Modern Linguistics (General Lecture)	2	教授 小 泉 政 利	3	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN202J																				
◆ 授業題目	言語学概論 I (Introduction to Linguistics I)																				
◆ 目的・概要	言語学の文献を読んだり卒業論文に向けて専門的に研究を進めていくうえでぜひとも知っておかなければならない基礎的な概念や言語現象、分析方法などについて学びます。今学期は特に、音韻論と形態論の分野に焦点を当てます。																				
◆ 到達目標	音韻論と形態論の基礎的な概念を理解し、それを使って身近な言語現象を自分なりに分析できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 音韻論 3: 韻律</td> </tr> <tr> <td>2. 世界の諸言語</td> <td>10. 音韻論 4: 音韻現象</td> </tr> <tr> <td>3. 音声学 1: 音声</td> <td>11. 形態論 1: 形態素</td> </tr> <tr> <td>4. 音声学 2: 調音音声学</td> <td>12. 形態論 2: 接辞</td> </tr> <tr> <td>5. 音声学 3: 音響音声学</td> <td>13. 形態論 3: 語形成</td> </tr> <tr> <td>6. 音声学 4: 聴覚音声学</td> <td>14. 形態論 4: 辞書</td> </tr> <tr> <td>7. 音韻論 1: 音素</td> <td>15. まとめと筆記試験</td> </tr> <tr> <td>8. 音韻論 2: 音節</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 音韻論 3: 韻律	2. 世界の諸言語	10. 音韻論 4: 音韻現象	3. 音声学 1: 音声	11. 形態論 1: 形態素	4. 音声学 2: 調音音声学	12. 形態論 2: 接辞	5. 音声学 3: 音響音声学	13. 形態論 3: 語形成	6. 音声学 4: 聴覚音声学	14. 形態論 4: 辞書	7. 音韻論 1: 音素	15. まとめと筆記試験	8. 音韻論 2: 音節	
1. ガイダンス	9. 音韻論 3: 韻律																				
2. 世界の諸言語	10. 音韻論 4: 音韻現象																				
3. 音声学 1: 音声	11. 形態論 1: 形態素																				
4. 音声学 2: 調音音声学	12. 形態論 2: 接辞																				
5. 音声学 3: 音響音声学	13. 形態論 3: 語形成																				
6. 音声学 4: 聴覚音声学	14. 形態論 4: 辞書																				
7. 音韻論 1: 音素	15. まとめと筆記試験																				
8. 音韻論 2: 音節																					
◇ 成績評価の方法	概ね次のような基準で総合的に評価を決定します。 筆記試験 60%、ミニット・ペーパー 20%、レポート 20%																				
◇ 教科書・参考書	教科書小泉政利(編著)『ここから始める言語学プラス統計分析』共立出版																				
◇ 授業時間外学習	毎回、授業の予習と復習をこまめに行うこと。 成績評価方法欄の「ミニット・ペーパー」には授業時間外に行う課題も含まれます。																				
その他:																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
現 代 言 語 学 概 論 Modern Linguistics (General Lecture)	2	准教授 木 山 幸 子	4	金	2																		
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN22J																						
◆ 授業題目	言語学入門(運用)(Introduction to Pragmatics)																						
◆ 目的・概要	ことばは、様々な状況で、様々な話し手と聞き手の間のやりとりに用いられます。「語用論(Pragmatics)」は、ことばの意味が状況や対人関係に応じてどのように変わるかを分析する学問です。本科目では、語用論的に見て動きのある身近な言語現象を取り上げながら、これまでに発展してきた語用論理論の概要を理解し、それらの理論を検証した主要な先行研究の要点を把握します。																						
◆ 到達目標	身近な言語現象を語用論の視点から独自に分析的に考えられるようになる。また、言語処理の過程は使用者の特性(個人間の差および個人内の変化)に大きく左右されるものであることへの理解と受容の態度を持つ。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>10. 子どものことば: 発達における協同注意の役割</td> </tr> <tr> <td>2. 呼称: 人をどう呼ぶか? 呼ばないか?</td> <td>11. ことばの性差: 遺伝的影響? 環境的影響?</td> </tr> <tr> <td>3. あいさつ: 対人関係構築の端緒を開く</td> <td>12. 母語と外国語: その習得過程の違い</td> </tr> <tr> <td>4. あいづち: さえぎりなのか? 促しなのか?</td> <td>13. ことばと加齢: 保たれる機能、衰える機能</td> </tr> <tr> <td>5. 敬語の東西: 共時的変化をたどる</td> <td>14. 語用論の神経基盤: ことばと裏腹の意図を理解する仕組み</td> </tr> <tr> <td>6. 敬語の古今: 通時的変化をたどる</td> <td>15. まとめと筆記試験: ことばを使う人間の多様性に思いをはせる</td> </tr> <tr> <td>7. 間接的発話行為: なぜ直接言わないの?</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 中間まとめ: ことばの持つ多様性に思いをはせる</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 語用論と認知機能: 意図理解、メンタライジング、注意</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	10. 子どものことば: 発達における協同注意の役割	2. 呼称: 人をどう呼ぶか? 呼ばないか?	11. ことばの性差: 遺伝的影響? 環境的影響?	3. あいさつ: 対人関係構築の端緒を開く	12. 母語と外国語: その習得過程の違い	4. あいづち: さえぎりなのか? 促しなのか?	13. ことばと加齢: 保たれる機能、衰える機能	5. 敬語の東西: 共時的変化をたどる	14. 語用論の神経基盤: ことばと裏腹の意図を理解する仕組み	6. 敬語の古今: 通時的変化をたどる	15. まとめと筆記試験: ことばを使う人間の多様性に思いをはせる	7. 間接的発話行為: なぜ直接言わないの?		8. 中間まとめ: ことばの持つ多様性に思いをはせる		9. 語用論と認知機能: 意図理解、メンタライジング、注意	
1. ガイダンス	10. 子どものことば: 発達における協同注意の役割																						
2. 呼称: 人をどう呼ぶか? 呼ばないか?	11. ことばの性差: 遺伝的影響? 環境的影響?																						
3. あいさつ: 対人関係構築の端緒を開く	12. 母語と外国語: その習得過程の違い																						
4. あいづち: さえぎりなのか? 促しなのか?	13. ことばと加齢: 保たれる機能、衰える機能																						
5. 敬語の東西: 共時的変化をたどる	14. 語用論の神経基盤: ことばと裏腹の意図を理解する仕組み																						
6. 敬語の古今: 通時的変化をたどる	15. まとめと筆記試験: ことばを使う人間の多様性に思いをはせる																						
7. 間接的発話行為: なぜ直接言わないの?																							
8. 中間まとめ: ことばの持つ多様性に思いをはせる																							
9. 語用論と認知機能: 意図理解、メンタライジング、注意																							
◇ 成績評価の方法	筆記試験(50%)、毎回授業の最後に課すワークシート(50%)、授業時間外の語用論調査・実験の体験(若干)																						
◇ 教科書・参考書	指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。																						
◇ 授業時間外学習	毎回とりあげるテーマに関連の深い文献をあらかじめ紹介するので、それを読んでおくこと。また語用論をテーマとした調査や実験に参加してもらう機会を設けます(参加は任意)。																						
その他: 人間の言語処理過程の実証的研究のおもしろさを垣間見てもらいたいと思います。																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
現 代 言 語 学 基 礎 講 読 Modern Linguistics (Introductory Reading)	2	准教授 木 山 幸 子	3	月	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN28J				
◆ 授業題目	語用論研究法入門 (Research Methodologies in Pragmatics: An Introduction)				
◆ 目的・概要	語用論 (Pragmatics) は、ことばの実際の運用に目を向けた言語学の中でも比較的新しい学問分野です。本科目では、語用論で扱われる主要なトピックや理論について、受講生自身に文献を調べてまとめ、他の受講生と共有してもらいます。このグループワークを通して、専門的な文献の要旨を把握する基本的読解力と研究のプレゼンテーションの基礎を身につけることを意図しています。さらに、語用論研究における興味深い独創的テーマを自ら見出す訓練として、期末レポートで仮想語用論研究計画書をまとめてもらいます。				
◆ 到達目標	語用論の関心事と主要理論の概要を理解し、そこから独自の研究テーマを設定できるようになる。また、自身が調査した文献の要点を過不足なくまとめて専門外の他者にもわかりやすく伝えられるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (教員) 2. 語用論研究の奥ゆきと広がり (教員) 3. 終助詞 (受講生) 4. 直示 (受講生) 5. 敬語 (受講生) 6. 文法化 (受講生) 7. 異文化間語用論 (受講生) 8. 中間まとめ：身近な言語現象の語用論的機能 (教員) 9. 語用論、対人配慮行動の理論の発展 (教員) 10. Griceの協調の原理 (受講生) 11. Searleの発話行為理論 (受講生) 12. Brown & Levinsonのボライトネス理論 (受講生) 13. Sperber & Wilsonの関連性理論 (受講生) 14. Baron-Cohenの心の理論 (受講生) 15. まとめ：語用論研究の未来 (教員) 				
◇ 成績評価の方法	期末レポート (50%)、発表分担 (30%)、毎回授業の最後に課すワークシート (20%)、授業時間外の語用論調査・実験の体験 (若干)				
◇ 教科書・参考書	加藤重広・滝浦真人編 (2016)『語用論研究法ガイドブック』東京：ひつじ書房 (授業中に2割引購入の便宜を図ります)				
◇ 授業時間外学習	受講者全員にグループ発表を担当してもらうので、その準備を他のメンバーとよく協力して進め、自分の分担作業は責任をもって行うこと (その自信がない場合は受講しないこと)。また語用論をテーマとした調査や実験に参加してもらう機会を設けます (参加は任意)。				
その他	期末レポートとして、語用論をテーマに何か研究するとした場合の仮想研究計画書をまとめてもらいます。初回授業時にその詳細を提示しますので、授業期間中もそれを見越して各自文献調査を進め構想を練っておくようにしてください。計画書を仮想で終わらせるのはもったいないと思ったら、ぜひ後期の同教員による基礎演習「入門的言語調査・実験法実践」を受講して実際に言語データを取得し分析するおもしろさを体験してください。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
現 代 言 語 学 基 礎 演 習 Modern Linguistics (Introductory Seminar)	2	准教授 木 山 幸 子	4	月	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN29J				
◆ 授業題目	入門的言語調査・実験法実践 (Introductory Experiments in Language Processing)				
◆ 目的・概要	本科目では、心理言語学的な言語研究を実際に体験するために、グループを組んで調査・実験の小プロジェクトを行います。研究テーマ・デザイン立案、調査・実験素材の準備、データ収集、分析、まとめと発表までの一連の作業を授業期間内に行います。期間内に実現できるよう教員が適宜助言をしますが、基本的にはグループのメンバー同士の主体的な協同により、一つの (小さな) 研究成果をあげてもらいます。この作業を通して、実証的な言語研究の醍醐味に触れてもらえればと思います。				
◆ 到達目標	実証的言語研究の一連の過程を体験することで、科学的思考方法および共同作業に必要な調整能力の基礎を身につける。また、実際の言語処理過程が自分一人の頭の中で想像していることとは決して同じではない (大いに異なる) ことを目の当たりにし、「データを取って確かめる」ことの意義を理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 研究テーマ策定 (グループワーク) 3. 研究デザイン立案 (グループワーク) 4. 中間発表 ①：各々の計画の実現可能性についてグループ間で議論 5. 調査・実験素材の準備 (グループワーク) 6. 質問紙紙・実験プログラム等作成 (グループワーク) 7. データ整理・分析法の基礎 (教員) 8. データ整理 (グループワーク) 9. データ分析 (グループワーク) 10. 中間発表 ②：各グループの分析結果を共有し、全員で解釈の方向性を検討する 11. プレゼンテーションの基礎 (教員) 12. 分析結果の図表作成 (グループワーク) 13. 分析結果のまとめ (グループワーク) 14. プレゼンテーションの準備 (グループワーク) 15. 成果発表：グループごとのフラッシュトークと質疑応答 				
◇ 成績評価の方法	グループワークへの貢献 (50%)、毎回授業の最後に課すワークシート (50%)				
◇ 教科書・参考書	指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。				
◇ 授業時間外学習	グループに分かれて小プロジェクトを行うので、相当の時間外学習が必要になります。とくに、データを収集する作業は完全に授業時間外に行ってもらうことになります。プロジェクトを成功させ他のメンバーに迷惑をかけないために、自分が分担する作業を責任をもって行う意思のある学生のみ受講登録してください (初回でその意思の確認をします)。				
その他	多様な背景を持つ意欲ある受講生を歓迎したいと思いますが、授業の性質上、受講者数を制限する可能性があります。その場合は、前期の同教員による基礎講読「語用論研究法入門」を受講済みの学生、言語学及び関連領域の学生を優先します。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
言 語 交 流 学 基 礎 講 読 Interlinguistics (Introductory Reading)	2	教授 後 藤 齊	3	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN210J																				
◆ 授業題目	社会言語学 (Sociolinguistics)																				
◆ 目的・概要	英語の使用が急速に世界的に広がりつつある一方において、多くの言語が存続の危機に瀕しており、さまざまな立場からそれに対処しようとする動きが見られる。この授業では、専門の文献を読むことにより、現代におけるこのような社会言語学的事実とその把握のしかたについて触れる。あわせて、学術的な文献における論の進め方や言語学の他の分野との関連などにも注意を払うようにし、専門的な英語の文章からの確に論旨を読みとるための主体的な読解力を高めることもこの授業の大きな目的である。																				
◆ 到達目標	英語で書かれた専門文献の読解に慣れるとともに、言語の社会的側面的一端について理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 講読 8</td> </tr> <tr> <td>2. 講読 1</td> <td>10. 講読 9</td> </tr> <tr> <td>3. 講読 2</td> <td>11. 講読 10</td> </tr> <tr> <td>4. 講読 3</td> <td>12. 講読 11</td> </tr> <tr> <td>5. 講読 4</td> <td>13. 講読 12</td> </tr> <tr> <td>6. 講読 5</td> <td>14. 講読 13</td> </tr> <tr> <td>7. 講読 6</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 講読 7</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 講読 8	2. 講読 1	10. 講読 9	3. 講読 2	11. 講読 10	4. 講読 3	12. 講読 11	5. 講読 4	13. 講読 12	6. 講読 5	14. 講読 13	7. 講読 6	15. 全体のまとめ	8. 講読 7	
1. ガイダンス	9. 講読 8																				
2. 講読 1	10. 講読 9																				
3. 講読 2	11. 講読 10																				
4. 講読 3	12. 講読 11																				
5. 講読 4	13. 講読 12																				
6. 講読 5	14. 講読 13																				
7. 講読 6	15. 全体のまとめ																				
8. 講読 7																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加 60%、レポート 40%																				
◇ 教科書・参考書	資料を配布する。																				
◇ 授業時間外学習	積極的に授業に参加できるように、下調べをして来ること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
音 声 学 P h o n e t i c s	2	教授 後 藤 齊	3	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN211J																				
◆ 授業題目	音声学概説・調音音声学 (Introduction to phonetics and articulatory phonetics)																				
◆ 目的・概要	音声は言語の基本的な側面である。この授業では、言語音の生成の原理と個別の音声の調音のしくみについて講義形式で扱う。あわせて国際音声記号のうちの主要な単音の発音の訓練も大きな比重を占めており、できるだけ時間をかけて発音の練習を行う。この際に、担当教員の肉声以外に多様な音声サンプルに触れるようにする。																				
◆ 到達目標	調音音声学の原理についての理論的な理解および国際音声記号の実践的な技能と知識を得ることによって、音声言語（特に日本語）の客観的な観察と記述に習熟する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス、言語における音声の位置づけ</td> <td>9. 子音体系、破裂音、鼻音</td> </tr> <tr> <td>2. 音声器官の構造と働き</td> <td>10. 摩擦音</td> </tr> <tr> <td>3. 国際音声記号と音声記述の原理</td> <td>11. その他の肺臓気流子音</td> </tr> <tr> <td>4. 母音体系、第一次基本母音</td> <td>12. 非肺臓気流子音</td> </tr> <tr> <td>5. 第二次基本母音</td> <td>13. 子音のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6. 基本母音の調音</td> <td>14. 超分節音</td> </tr> <tr> <td>7. 基本母音のまとめ</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. その他の母音と補助符号</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス、言語における音声の位置づけ	9. 子音体系、破裂音、鼻音	2. 音声器官の構造と働き	10. 摩擦音	3. 国際音声記号と音声記述の原理	11. その他の肺臓気流子音	4. 母音体系、第一次基本母音	12. 非肺臓気流子音	5. 第二次基本母音	13. 子音のまとめ	6. 基本母音の調音	14. 超分節音	7. 基本母音のまとめ	15. 全体のまとめ	8. その他の母音と補助符号	
1. ガイダンス、言語における音声の位置づけ	9. 子音体系、破裂音、鼻音																				
2. 音声器官の構造と働き	10. 摩擦音																				
3. 国際音声記号と音声記述の原理	11. その他の肺臓気流子音																				
4. 母音体系、第一次基本母音	12. 非肺臓気流子音																				
5. 第二次基本母音	13. 子音のまとめ																				
6. 基本母音の調音	14. 超分節音																				
7. 基本母音のまとめ	15. 全体のまとめ																				
8. その他の母音と補助符号																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加 40%、小テスト 60%																				
◇ 教科書・参考書	教科書：斎藤純男 『日本語音声学入門』（三省堂、2006） 参考書は http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/phonetics.html に記載してある。																				
◇ 授業時間外学習	授業中の発音練習に倣って、自分でも練習すること。主要な音声記号が間違わずに書けるように練習すること。																				
その他：発音練習の時間をできるだけ確保するために、受講者数を30名程度に制限する。言語学および隣接分野の専修の学生を優先する。発音練習の際は手鏡を持参すること。 http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/phonetics.html も参照すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
音 声 学 P h o n e t i c s	2	教授 後 藤 齊	4	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN211J																				
◆ 授業題目	音響音声学 (Acoustic phonetics)																				
◆ 目的・概要	音声は物理現象でもあるから、言語音を客観的に観察し、理解するためには音声の音響的分析はきわめて有効な手法である。この授業では、音声の物理的性質についての講義ののち、音声分析装置 (パソコン) を用いた音声の取得と分析の実習を行う。基本母音と日本語の音声を用いて、波形およびスペクトログラム、フォルマント等の分析結果の読み取りを行う。その結果を、すでに知っている調音音声学の事実および聴き取りと比較してみる。内容として理科系的な要素が強いが、この授業では複雑な数式は使わない。																				
◆ 到達目標	言語音の物理的側面の基礎を理解し、音声分析の手法に慣れることにより、言語音を客観的に観察する技術を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス、音の物理</td> <td>9. 広帯域と狭帯域のスペクトログラム</td> </tr> <tr> <td>2. 純音の周波数と高さ</td> <td>10. 子音の波形とスペクトログラム</td> </tr> <tr> <td>3. アナログとデジタル、サンプリング周波数と量子化ビット数</td> <td>11. 子音の波形とスペクトログラム (続き)</td> </tr> <tr> <td>4. パソコンにおける音声の取り扱いと音声分析装置</td> <td>12. フォルマント遷移</td> </tr> <tr> <td>5. 複合音とスペクトル</td> <td>13. 連続音声の波形とスペクトログラム、フォルマント</td> </tr> <tr> <td>6. 音源フィルター理論</td> <td>14. 連続音声の波形とスペクトログラム、フォルマント (続き)</td> </tr> <tr> <td>7. 母音のスペクトログラムとフォルマント</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 母音のスペクトログラムとフォルマント (調音音声学的事実との比較)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス、音の物理	9. 広帯域と狭帯域のスペクトログラム	2. 純音の周波数と高さ	10. 子音の波形とスペクトログラム	3. アナログとデジタル、サンプリング周波数と量子化ビット数	11. 子音の波形とスペクトログラム (続き)	4. パソコンにおける音声の取り扱いと音声分析装置	12. フォルマント遷移	5. 複合音とスペクトル	13. 連続音声の波形とスペクトログラム、フォルマント	6. 音源フィルター理論	14. 連続音声の波形とスペクトログラム、フォルマント (続き)	7. 母音のスペクトログラムとフォルマント	15. 全体のまとめ	8. 母音のスペクトログラムとフォルマント (調音音声学的事実との比較)	
1. ガイダンス、音の物理	9. 広帯域と狭帯域のスペクトログラム																				
2. 純音の周波数と高さ	10. 子音の波形とスペクトログラム																				
3. アナログとデジタル、サンプリング周波数と量子化ビット数	11. 子音の波形とスペクトログラム (続き)																				
4. パソコンにおける音声の取り扱いと音声分析装置	12. フォルマント遷移																				
5. 複合音とスペクトル	13. 連続音声の波形とスペクトログラム、フォルマント																				
6. 音源フィルター理論	14. 連続音声の波形とスペクトログラム、フォルマント (続き)																				
7. 母音のスペクトログラムとフォルマント	15. 全体のまとめ																				
8. 母音のスペクトログラムとフォルマント (調音音声学的事実との比較)																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加 40%、実習レポート 60%																				
◇ 教科書・参考書	授業期間中に3回の実習レポートを提出してもらう。レポートの書き方は指示に従うこと。 教科書：吉田友敬 『言語聴覚士の音響学入門』(海文堂、2006) 参考書は http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/acoustics.html に記載。																				
◇ 授業時間外学習	音響学分野の用語や概念が頻出するので、理解を確かなものにするため十分な復習をすること。レポートには十分な時間をかけること。																				
その他：調音音声学の基礎を習得済みであることが望ましい。 http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/acoustics.html も参照すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
現 代 言 語 学 各 論 Modern Linguistics (Special Lecture)	2	非常勤講師 窪 蘭 晴 夫	集 中 (5)																				
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN303J																						
◆ 授業題目	日本語の音韻構造 (Japanese Phonology)																						
◆ 目的・概要	英語をはじめとする他の言語と対照しながら、類型論的観点から日本語の音韻構造を考察する。音韻構造の中でも特に音節構造、音節量、アクセントの3項目を中心に考察を行う。音節構造については、母音連続や尾子音を避けようとして起こる諸現象を、音節量については超重音節を避けようとして起こる諸現象を中心に分析する。アクセントはおもに単純名詞アクセント、複合語アクセント、頭文字語アクセントの3つの規則を分析する。いづれについても、標準語 (東京方言) から他の方言にも分析対象を広げ、(i)日本語が他の言語とどのような異同を示すか、(ii)日本語は類型論的にみてどのような言語であるか、(iii)日本語の研究が一般言語学にどのように貢献できるかを考察する。																						
◆ 到達目標	(1)日常生活の身近なところに存在する言語の規則性について関心を持つようになる、(2)音韻論の基本概念を理解する、(3)基本的な文献を正しく読むことができる、(4)自らデータを集め分析することができる、以上の4点を到達目標とする。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 序説 (言語研究における音韻研究、言語学の基本的な考え方、音韻構造の類型論)</td> <td>10. アクセント (3) 標準語のアクセント (複合語のアクセント規則)</td> </tr> <tr> <td>2. 音節構造 (1) 音節構造の普遍性、モーラと音節</td> <td>11. アクセント (4) 標準語のアクセント (頭文字語のアクセント規則)</td> </tr> <tr> <td>3. 音節構造 (2) 頭子音制約と尾子音制約</td> <td>12. アクセント (5) 語形成とアクセント</td> </tr> <tr> <td>4. 音節構造 (3) 二重母音と母音融合</td> <td>13. アクセント (6) 鹿児島方言のアクセント</td> </tr> <tr> <td>5. 音節量 (1) 英語の音節量</td> <td>14. イントネーションとリズムの類型</td> </tr> <tr> <td>6. 音節量 (2) 標準語の音節量</td> <td>15. 総括 (音韻構造の類型と日本語の特徴)</td> </tr> <tr> <td>7. 音節量 (3) 諸方言の音節量</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. アクセント (1) アクセントの類型</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. アクセント (2) 標準語のアクセント (単純語のアクセント規則)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 序説 (言語研究における音韻研究、言語学の基本的な考え方、音韻構造の類型論)	10. アクセント (3) 標準語のアクセント (複合語のアクセント規則)	2. 音節構造 (1) 音節構造の普遍性、モーラと音節	11. アクセント (4) 標準語のアクセント (頭文字語のアクセント規則)	3. 音節構造 (2) 頭子音制約と尾子音制約	12. アクセント (5) 語形成とアクセント	4. 音節構造 (3) 二重母音と母音融合	13. アクセント (6) 鹿児島方言のアクセント	5. 音節量 (1) 英語の音節量	14. イントネーションとリズムの類型	6. 音節量 (2) 標準語の音節量	15. 総括 (音韻構造の類型と日本語の特徴)	7. 音節量 (3) 諸方言の音節量		8. アクセント (1) アクセントの類型		9. アクセント (2) 標準語のアクセント (単純語のアクセント規則)	
1. 序説 (言語研究における音韻研究、言語学の基本的な考え方、音韻構造の類型論)	10. アクセント (3) 標準語のアクセント (複合語のアクセント規則)																						
2. 音節構造 (1) 音節構造の普遍性、モーラと音節	11. アクセント (4) 標準語のアクセント (頭文字語のアクセント規則)																						
3. 音節構造 (2) 頭子音制約と尾子音制約	12. アクセント (5) 語形成とアクセント																						
4. 音節構造 (3) 二重母音と母音融合	13. アクセント (6) 鹿児島方言のアクセント																						
5. 音節量 (1) 英語の音節量	14. イントネーションとリズムの類型																						
6. 音節量 (2) 標準語の音節量	15. 総括 (音韻構造の類型と日本語の特徴)																						
7. 音節量 (3) 諸方言の音節量																							
8. アクセント (1) アクセントの類型																							
9. アクセント (2) 標準語のアクセント (単純語のアクセント規則)																							
◇ 成績評価の方法	平常点 (出席、小テスト) 30%、レポートまたは筆記試験 70%																						
◇ 教科書・参考書	教材 (プリント配布)：窪蘭晴夫 (2013) 『音韻論』(三原健一・高見健一 (編) 『日英対照 英語学の基礎』くろしお出版、第1章)。 参考書：窪蘭晴夫・太田聡 (1998) 『音韻構造とアクセント』研究社。 窪蘭晴夫 (1999) 『日本語の音声』岩波書店。																						
◇ 授業時間外学習	事前に配布する教材 (プリント) を読んでおくこと。また、その日に習ったことを復習しておくこと。																						
その他：集中講義のため、質問は授業中もしくは休憩時間に受ける。																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 言 語 学 各 論 Modern Linguistics (Special Lecture)	2	非常勤 講師 小 野 創	集 中 (5)																		
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN303J																				
◆ 授業題目	心理言語学：文理解を中心に (Psycholinguistics: Topics in Sentence Processing)																				
◆ 目的・概要	言語の発話と言語理解にみられることばの使用のメカニズムを探る。具体的には、以下の3種類の活動を行う。 (1)英語で書かれた文献を読み、この分野の先行研究に関する知識を得る。 (2)文献で論じられている情報を丁寧に整理し、きちんとした文章にまとめる。 (3)心理言語学実験の基礎を学び、実験構築の準備をする。																				
◆ 到達目標	言語学、心理言語学の基礎知識を習得し、それをもとに日常生活におけることばの分析を通して、人間の心のメカニズムを捉えることを目的とする。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. Reanalysis as a Last Resort #2</td> </tr> <tr> <td>2. Minimal Attachment #1</td> <td>10. Japanese Relative Clause Attachment #1</td> </tr> <tr> <td>3. Minimal Attachment #2</td> <td>11. Japanese Relative Clause Attachment #2</td> </tr> <tr> <td>4. Minimal Attachment #3</td> <td>12. Japanese Wh-processing #1</td> </tr> <tr> <td>5. Arguments and Modifiers with MA #1</td> <td>13. Japanese Wh-processing #2</td> </tr> <tr> <td>6. Arguments and Modifiers with MA #2</td> <td>14. Japanese Wh-processing #3</td> </tr> <tr> <td>7. Arguments and Modifiers with MA #3</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. Reanalysis as a Last Resort #1</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. Reanalysis as a Last Resort #2	2. Minimal Attachment #1	10. Japanese Relative Clause Attachment #1	3. Minimal Attachment #2	11. Japanese Relative Clause Attachment #2	4. Minimal Attachment #3	12. Japanese Wh-processing #1	5. Arguments and Modifiers with MA #1	13. Japanese Wh-processing #2	6. Arguments and Modifiers with MA #2	14. Japanese Wh-processing #3	7. Arguments and Modifiers with MA #3	15. まとめ	8. Reanalysis as a Last Resort #1	
1. イントロダクション	9. Reanalysis as a Last Resort #2																				
2. Minimal Attachment #1	10. Japanese Relative Clause Attachment #1																				
3. Minimal Attachment #2	11. Japanese Relative Clause Attachment #2																				
4. Minimal Attachment #3	12. Japanese Wh-processing #1																				
5. Arguments and Modifiers with MA #1	13. Japanese Wh-processing #2																				
6. Arguments and Modifiers with MA #2	14. Japanese Wh-processing #3																				
7. Arguments and Modifiers with MA #3	15. まとめ																				
8. Reanalysis as a Last Resort #1																					
◇ 成績評価の方法	レポート																				
◇ 教科書・参考書	資料を適宜配布																				
◇ 授業時間外学習	課された論文を読み、コメントを考える																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
現 代 言 語 学 各 論 Modern Linguistics (Special Lecture)	2	非常勤 講師 渡 辺 己	集 中 (6)																				
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN303J																						
◆ 授業題目	セイリッシュ語文法概説 (Salishan grammar)																						
◆ 目的・概要	北アメリカ先住民諸語のうち、北西海岸地域で話されるセイリッシュ語族について、特にそのなかでもスライアモン語の音声・音韻、ならびに形態統語法について学び、フィールド調査を通して得たデータを分析し、文法を記述することについて学習する。																						
◆ 到達目標	スライアモン語の文法、およびその類型的特点を理解すること。いわゆる無文字言語の現地調査を通して、その言語の仕組みを分析し、記述することを理解すること。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. セイリッシュ語族の概観、話者数に関する現況、フィールド言語について</td> <td>7. スライアモン語形態統語論 (続き)</td> </tr> <tr> <td>2. セイリッシュ語族およびスライアモン語の音声・音韻</td> <td>8. スライアモン語形態統語論 (続き)</td> </tr> <tr> <td>3. 音声・音韻 (続き)</td> <td>9. スライアモン語形態統語論 (続き)</td> </tr> <tr> <td>4. スライアモン語形態統語論 (以下順に、概観、語形成、動詞結合価とその増減、「語彙的接尾辞」、重複法、アスペクト、統語的構造について)</td> <td>10. スライアモン語形態統語論 (続き)</td> </tr> <tr> <td>5. スライアモン語形態統語論</td> <td>11. スライアモン語形態統語論 (続き)</td> </tr> <tr> <td>6. スライアモン語形態統語論 (続き)</td> <td>12. スライアモン語形態統語論 (続き)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13. スライアモン語形態統語論 (続き)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. スライアモン語形態統語論 (続き)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. スライアモン語形態統語論 (続き)</td> </tr> </table>					1. セイリッシュ語族の概観、話者数に関する現況、フィールド言語について	7. スライアモン語形態統語論 (続き)	2. セイリッシュ語族およびスライアモン語の音声・音韻	8. スライアモン語形態統語論 (続き)	3. 音声・音韻 (続き)	9. スライアモン語形態統語論 (続き)	4. スライアモン語形態統語論 (以下順に、概観、語形成、動詞結合価とその増減、「語彙的接尾辞」、重複法、アスペクト、統語的構造について)	10. スライアモン語形態統語論 (続き)	5. スライアモン語形態統語論	11. スライアモン語形態統語論 (続き)	6. スライアモン語形態統語論 (続き)	12. スライアモン語形態統語論 (続き)		13. スライアモン語形態統語論 (続き)		14. スライアモン語形態統語論 (続き)		15. スライアモン語形態統語論 (続き)
1. セイリッシュ語族の概観、話者数に関する現況、フィールド言語について	7. スライアモン語形態統語論 (続き)																						
2. セイリッシュ語族およびスライアモン語の音声・音韻	8. スライアモン語形態統語論 (続き)																						
3. 音声・音韻 (続き)	9. スライアモン語形態統語論 (続き)																						
4. スライアモン語形態統語論 (以下順に、概観、語形成、動詞結合価とその増減、「語彙的接尾辞」、重複法、アスペクト、統語的構造について)	10. スライアモン語形態統語論 (続き)																						
5. スライアモン語形態統語論	11. スライアモン語形態統語論 (続き)																						
6. スライアモン語形態統語論 (続き)	12. スライアモン語形態統語論 (続き)																						
	13. スライアモン語形態統語論 (続き)																						
	14. スライアモン語形態統語論 (続き)																						
	15. スライアモン語形態統語論 (続き)																						
◇ 成績評価の方法	レポートによって評価する。ただし、本講義に一度も出席していない者には、レポート提出を認めない。レポートでは本講義で学習するセイリッシュ語の特徴と、自分の専門とする言語 (あるいは履修したことのある言語、興味のある言語、日本語やその他自分の母語でも良い) を対照して考察したレポートを提出してもらう。(A4用紙3枚程度) 特に関心があった部分、比較対照がおもしろいと思われる特徴に絞って考察すること。																						
◇ 教科書・参考書	特に指定しない。適宜ハンドアウトを配布しながら、講義を進める。講義の中で関連する論文・本などを紹介していく。																						
◇ 授業時間外学習	その日に提示した例文を復習すること。																						
その他：	言語学と音声学の基本的知識があることが望ましい。できれば声門化音 (放出音)、側面摩擦音、側面破擦音が調音できるとなお良い。																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
言 語 交 流 学 各 論 Interlinguistics (Special Lecture)	2	教授 後 藤 齊	5	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN304J																				
◆ 授業題目	言語研究におけるコンピュータ利用の基礎 (Computing in linguistic research)																				
◆ 目的・概要	以下の事項について講義を行い、さらに実習によりその知識を深め、関連した技術を習得する。 ・文字コード ・文献検索 (OPAC、文献データベース) ・言語研究用ソフトウェア																				
◆ 到達目標	コンピュータおよびインターネットを言語研究により効果的に利用する方法について、基本的な知識と技術を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 海外の図書館のOPAC</td> </tr> <tr> <td>2. Windowsの基礎</td> <td>10. 国立情報学研究所のデータベース</td> </tr> <tr> <td>3. ファイル</td> <td>11. 言語学関係の論文データベース</td> </tr> <tr> <td>4. 文字コード</td> <td>12. 海外の論文データベース</td> </tr> <tr> <td>5. 文字コード (続き)</td> <td>13. 言語研究用ソフトウェア</td> </tr> <tr> <td>6. 東北大学附属図書館および大学図書館等のOPAC</td> <td>14. 言語研究用ソフトウェア (続き)</td> </tr> <tr> <td>7. 国立国会図書館と公共図書館のOPAC</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 出版社系の書籍データベース</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 海外の図書館のOPAC	2. Windowsの基礎	10. 国立情報学研究所のデータベース	3. ファイル	11. 言語学関係の論文データベース	4. 文字コード	12. 海外の論文データベース	5. 文字コード (続き)	13. 言語研究用ソフトウェア	6. 東北大学附属図書館および大学図書館等のOPAC	14. 言語研究用ソフトウェア (続き)	7. 国立国会図書館と公共図書館のOPAC	15. 全体のまとめ	8. 出版社系の書籍データベース	
1. ガイダンス	9. 海外の図書館のOPAC																				
2. Windowsの基礎	10. 国立情報学研究所のデータベース																				
3. ファイル	11. 言語学関係の論文データベース																				
4. 文字コード	12. 海外の論文データベース																				
5. 文字コード (続き)	13. 言語研究用ソフトウェア																				
6. 東北大学附属図書館および大学図書館等のOPAC	14. 言語研究用ソフトウェア (続き)																				
7. 国立国会図書館と公共図書館のOPAC	15. 全体のまとめ																				
8. 出版社系の書籍データベース																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加 40%、レポート 60%																				
◇ 教科書・参考書	資料を配布する。																				
◇ 授業時間外学習	授業中に紹介したサイトは実際にアクセスして、その詳細を体得すること。ソフトウェアも実際に使ってみることが望ましい。																				
その他： http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/bunkenkensaku.html も参照すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
言 語 交 流 学 各 論 Interlinguistics (Special Lecture)	2	准教授 木 山 幸 子	5	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN34J																				
◆ 授業題目	実験語用論 (Experimental Pragmatics)																				
◆ 目的・概要	実験語用論 (Experimental Pragmatics) は、ことばの実際の運用を調査・実験によって実証的に確かめようという科学的研究分野です。本科目では、実験語用論でとられる主要な方法論の要点を理解するために、受講生自身に文献を理解してまとめ、他の受講生と共有してもらいます。一つの研究目的に対してなぜこのような方法論がとられているのかを考えながら、実験語用論の方法論の趣旨を理解することを目指します。また、グループワークを通して、専門的な文献の要旨を把握する基本的読解力と研究のプレゼンテーションの基礎を身につけることを意図しています。さらに、語用論研究における独創的なテーマを自ら見出し適切な方法論を提案する訓練として、期末レポートで仮想語用論研究計画書をまとめてもらいます。																				
◆ 到達目標	語用論の関心事と主要理論の要点、またそれに応じた方法論の概要を理解する。それらを踏まえて独自の研究計画を立案できるようになる。また、自身が調査した文献の要点を過不足なくまとめて専門外の他者にもわかりやすく伝えられるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. プライミング (受講生)</td> </tr> <tr> <td>2. 実証研究の論文の構成 (教員)</td> <td>10. 視線計測 (受講生)</td> </tr> <tr> <td>3. 質問紙法 (受講生)</td> <td>11. 言語の脳機能研究について (教員)</td> </tr> <tr> <td>4. 談話完成タスク (受講生)</td> <td>12. 脳波、事象関連電位 (受講生)</td> </tr> <tr> <td>5. 会話分析 (受講生)</td> <td>13. 脳機能イメージング (受講生)</td> </tr> <tr> <td>6. 発達 (縦断的) 研究 (受講生)</td> <td>14. フィールドでの実験研究 (受講生)</td> </tr> <tr> <td>7. 言語処理の実験法の概要 (教員)</td> <td>15. まとめ：実験語用論の未来 (教員)</td> </tr> <tr> <td>8. 反応時間パラダイム (受講生)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. プライミング (受講生)	2. 実証研究の論文の構成 (教員)	10. 視線計測 (受講生)	3. 質問紙法 (受講生)	11. 言語の脳機能研究について (教員)	4. 談話完成タスク (受講生)	12. 脳波、事象関連電位 (受講生)	5. 会話分析 (受講生)	13. 脳機能イメージング (受講生)	6. 発達 (縦断的) 研究 (受講生)	14. フィールドでの実験研究 (受講生)	7. 言語処理の実験法の概要 (教員)	15. まとめ：実験語用論の未来 (教員)	8. 反応時間パラダイム (受講生)	
1. ガイダンス	9. プライミング (受講生)																				
2. 実証研究の論文の構成 (教員)	10. 視線計測 (受講生)																				
3. 質問紙法 (受講生)	11. 言語の脳機能研究について (教員)																				
4. 談話完成タスク (受講生)	12. 脳波、事象関連電位 (受講生)																				
5. 会話分析 (受講生)	13. 脳機能イメージング (受講生)																				
6. 発達 (縦断的) 研究 (受講生)	14. フィールドでの実験研究 (受講生)																				
7. 言語処理の実験法の概要 (教員)	15. まとめ：実験語用論の未来 (教員)																				
8. 反応時間パラダイム (受講生)																					
◇ 成績評価の方法	期末レポート (50%)、発表分担 (30%)、毎回授業の最後に課すワークシート (20%)、授業時間外の語用論調査・実験の体験 (若干)																				
◇ 教科書・参考書	指定しない。各回で講読する文献のパッケージを配布する。																				
◇ 授業時間外学習	受講者全員にグループ発表を担当してもらうので、その準備を他のメンバーとよく協力して進め、自分の分担作業は責任をもって行うこと (その自信がない場合は受講しないこと)。また、語用論をテーマとした調査や実験に参加してもらう機会を設けます (参加は任意)。																				
期末レポートとして、何か実験語用論の研究を行うとした場合の仮想研究計画書をまとめてもらいます。初回授業時にその詳細を提示し その他： ますので、授業期間中もそれを見越して各自文献調査を進め構想を練っておくようにしてください。計画だけでなく実際の言語調査・実験の実際を体験してみたいと思ったら、ぜひ後期の同教員による言語交流学各論「専門的言語調査・実験法実践」を受講してください。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
言 語 交 流 学 各 論 Interlinguistics (Special Lecture)	2	准教授 木 山 幸 子	6	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN34J																				
◆ 授業題目	専門的言語調査・実験法実践 (Advanced Experiments in Language Processing)																				
◆ 目的・概要	本科目では、人間の言語処理過程を捉えるために用いられる調査・実験手法のグループ実習を行います。課題として設定された素材について、調査・実験の準備、実施、分析までの手続きを一通り行ってもらいます。他のグループの調査、実験に参加したり分析過程や結果を共有する活動を通して、多様なタイプの研究手法の意義を相対化し、研究目的に応じて最適の研究手法を選択するための訓練としてもらいたいと思います。																				
◆ 到達目標	心理言語学で用いられる基本的な調査・実験手法の意義を理解し、自立的に実施できるようになる。また、実際の言語処理過程が自分の頭の中で想像していることとは決して同じではない(大いに異なる)ことを目の当たりにし、「データを取って確かめる」ことの意義を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 反応時間 (視覚提示) ③: 分析</td> </tr> <tr> <td>2. 質問紙調査の手続き (講義)</td> <td>10. 反応時間 (聴覚呈示) ①: 準備</td> </tr> <tr> <td>3. 質問紙調査 ①: 準備</td> <td>11. 反応時間 (聴覚呈示) ②: 実施</td> </tr> <tr> <td>4. 質問紙調査 ②: 実施</td> <td>12. 反応時間 (聴覚呈示) ③: 分析</td> </tr> <tr> <td>5. 質問紙調査 ③: 分析</td> <td>13. 反応時間 (命名課題) ①: 準備</td> </tr> <tr> <td>6. 実験の手続き (講義)</td> <td>14. 反応時間 (命名課題) ②: 実施</td> </tr> <tr> <td>7. 反応時間 (視覚提示) ①: 準備</td> <td>15. 反応時間 (命名課題) ③: 分析</td> </tr> <tr> <td>8. 反応時間 (視覚提示) ②: 実施</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 反応時間 (視覚提示) ③: 分析	2. 質問紙調査の手続き (講義)	10. 反応時間 (聴覚呈示) ①: 準備	3. 質問紙調査 ①: 準備	11. 反応時間 (聴覚呈示) ②: 実施	4. 質問紙調査 ②: 実施	12. 反応時間 (聴覚呈示) ③: 分析	5. 質問紙調査 ③: 分析	13. 反応時間 (命名課題) ①: 準備	6. 実験の手続き (講義)	14. 反応時間 (命名課題) ②: 実施	7. 反応時間 (視覚提示) ①: 準備	15. 反応時間 (命名課題) ③: 分析	8. 反応時間 (視覚提示) ②: 実施	
1. ガイダンス	9. 反応時間 (視覚提示) ③: 分析																				
2. 質問紙調査の手続き (講義)	10. 反応時間 (聴覚呈示) ①: 準備																				
3. 質問紙調査 ①: 準備	11. 反応時間 (聴覚呈示) ②: 実施																				
4. 質問紙調査 ②: 実施	12. 反応時間 (聴覚呈示) ③: 分析																				
5. 質問紙調査 ③: 分析	13. 反応時間 (命名課題) ①: 準備																				
6. 実験の手続き (講義)	14. 反応時間 (命名課題) ②: 実施																				
7. 反応時間 (視覚提示) ①: 準備	15. 反応時間 (命名課題) ③: 分析																				
8. 反応時間 (視覚提示) ②: 実施																					
◇ 成績評価の方法	グループワークへの貢献 (50%)、実習レポート (50%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書は指定しない。 参考文献: Spapé, M., Verdonschot, R.G., van Dantzig, S., & van Steenbergen, H. (2014). The E-Primer: An Introduction to Creating Psychological Experiments in E-Prime. Leiden University Press.																				
◇ 授業時間外学習	グループごとに進める調査、実験の準備や分析について、相当の授業外での作業が必要になります。他のメンバーに迷惑をかけないために、自分が分担する作業を責任をもって行う意思のある学生のみ受講登録してください (初回でその意思の確認をします)。																				
その他: 多様な背景を持つ意欲ある受講生を歓迎したいと思いますが、授業の性質上、受講者数を制限する可能性があります。その場合は、前期の同教員による言語交流学各論「実験語用論」を受講済みの学生、言語学及び関連領域の学生を優先します。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 言 語 学 演 習 Modern Linguistics (Seminar)	2	教授 後藤 齊・小泉 政利 准教授 木山 幸子	5	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN311J																				
◆ 授業題目	言語学研究法 (Methods of linguistic research)																				
◆ 目的・概要	授業は、参加者の分担による論文紹介の発表および質疑応答の形式で行う。これにより、卒業論文作成のための基礎知識ならびに方法を身につけることを目的とする。 1. 発表者は自分の関心により論文を選択し、発表のためのハンドアウトを事前に作成する。口頭発表および質疑をもとに、テーマの発見、調査や実験の実施、論の展開と提示、統計処理、参考文献の利用と提示など、論文を書くために必要な事項を学びとる。 2. 参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、言語学の多様なアプローチへの理解を深めるとともに、論文を書くための方法を学びとる。																				
◆ 到達目標	卒業論文のテーマを決定する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 発表 8</td> </tr> <tr> <td>2. 発表 1</td> <td>10. 発表 9</td> </tr> <tr> <td>3. 発表 2</td> <td>11. 発表 10</td> </tr> <tr> <td>4. 発表 3</td> <td>12. 発表 11</td> </tr> <tr> <td>5. 発表 4</td> <td>13. 発表 12</td> </tr> <tr> <td>6. 発表 5</td> <td>14. 発表 13</td> </tr> <tr> <td>7. 発表 6</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 発表 7</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 発表 8	2. 発表 1	10. 発表 9	3. 発表 2	11. 発表 10	4. 発表 3	12. 発表 11	5. 発表 4	13. 発表 12	6. 発表 5	14. 発表 13	7. 発表 6	15. 全体のまとめ	8. 発表 7	
1. ガイダンス	9. 発表 8																				
2. 発表 1	10. 発表 9																				
3. 発表 2	11. 発表 10																				
4. 発表 3	12. 発表 11																				
5. 発表 4	13. 発表 12																				
6. 発表 5	14. 発表 13																				
7. 発表 6	15. 全体のまとめ																				
8. 発表 7																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加 60%、発表 40%																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。																				
◇ 授業時間外学習	発表のためのハンドアウトを事前に準備すること。																				
その他:																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 言 語 学 演 習 Modern Linguistics (Seminar)	2	教授 後藤 齊	6	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN311J																				
◆ 授業題目	言語学研究法 (Methods of linguistic research)																				
◆ 目的・概要	3年生は前期に引き続き論文紹介の発表を行い、4年生は卒業論文の構想を発表する。これにより、卒業論文作成のための知識ならびに方法をさらに深く身につけることを目的とする。																				
	1. 卒業論文の構想発表においては、テーマの選択や先行研究の動向についてまとめ、データ収集・調査・実験等の実施方法、分析手法、予想される結果などについて、できるだけ具体的な見通しを発表する。																				
	2. 参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、言語学の多様なアプローチへの理解を深めるとともに、論文を書くための方法を学びとる。																				
◆ 到達目標	よりよい卒業論文を作成するための方法を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 発表 8</td> </tr> <tr> <td>2. 発表 1</td> <td>10. 発表 9</td> </tr> <tr> <td>3. 発表 2</td> <td>11. 発表 10</td> </tr> <tr> <td>4. 発表 3</td> <td>12. 発表 11</td> </tr> <tr> <td>5. 発表 4</td> <td>13. 発表 12</td> </tr> <tr> <td>6. 発表 5</td> <td>14. 発表 13</td> </tr> <tr> <td>7. 発表 6</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 発表 7</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 発表 8	2. 発表 1	10. 発表 9	3. 発表 2	11. 発表 10	4. 発表 3	12. 発表 11	5. 発表 4	13. 発表 12	6. 発表 5	14. 発表 13	7. 発表 6	15. 全体のまとめ	8. 発表 7	
1. ガイダンス	9. 発表 8																				
2. 発表 1	10. 発表 9																				
3. 発表 2	11. 発表 10																				
4. 発表 3	12. 発表 11																				
5. 発表 4	13. 発表 12																				
6. 発表 5	14. 発表 13																				
7. 発表 6	15. 全体のまとめ																				
8. 発表 7																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加 60%、発表 40%																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。																				
◇ 授業時間外学習	発表のためのハンドアウトを事前に準備し、配布する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
言 語 交 流 学 演 習 Interlinguistics (Seminar)	2	教授 小泉 政利	5	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN312J																				
◆ 授業題目	統語論 (syntax)																				
◆ 目的・概要	統語論の基礎を学びます。																				
◆ 到達目標	身近な言語現象を統語論の観点から分析できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 言語間変異</td> </tr> <tr> <td>2. 構造とは？</td> <td>10. 非対格仮説</td> </tr> <tr> <td>3. 構造の必要性</td> <td>11. 動詞句内主語仮説</td> </tr> <tr> <td>4. 統語範疇と構成素構造</td> <td>12. VPシェル</td> </tr> <tr> <td>5. 句の構造</td> <td>13. 疑問文</td> </tr> <tr> <td>6. 移動</td> <td>14. 命令文</td> </tr> <tr> <td>7. 文の基本構造</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 補文の構造</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 言語間変異	2. 構造とは？	10. 非対格仮説	3. 構造の必要性	11. 動詞句内主語仮説	4. 統語範疇と構成素構造	12. VPシェル	5. 句の構造	13. 疑問文	6. 移動	14. 命令文	7. 文の基本構造	15. まとめ	8. 補文の構造	
1. ガイダンス	9. 言語間変異																				
2. 構造とは？	10. 非対格仮説																				
3. 構造の必要性	11. 動詞句内主語仮説																				
4. 統語範疇と構成素構造	12. VPシェル																				
5. 句の構造	13. 疑問文																				
6. 移動	14. 命令文																				
7. 文の基本構造	15. まとめ																				
8. 補文の構造																					
◇ 成績評価の方法	概ね次の基準で総合的に評価します。																				
	発表 40%、レポート 40%、平常点 20%																				
◇ 教科書・参考書	立石浩一・小泉政利 (著) 『文の構造』 研究社																				
◇ 授業時間外学習	毎回、授業の前に教科書の該当範囲を予習し、概要と疑問点などを短いレポートにまとめること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
言 語 交 流 学 演 習 Interlinguistics (Seminar)	2	教授 後藤 齊	5	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN312J																				
◆ 授業題目	コーパス言語学の実践 (Practices in corpus linguistics)																				
◆ 目的・概要	日本語を含めて多くの言語で大規模な言語資料がコーパスとして整備されるようになってきており、そこからデータを検索することが容易になりつつある。しかし、言語構造あるいは言語運用のより深い理解につなげるためにどのような検索を行い、どのように検索結果を解釈すればよいかは、必ずしも自明ではない。この授業で取り上げるのは、豊富な実例によりその手法を身につけさせようというものである。英語からの例であるが、手法自体は他の言語にも適用できる部分が多い。授業では、その中からいくつかを具体的に検討したい。																				
◆ 到達目標	コーパスを適切に利用し、検索結果を適切に解釈するための手法を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 実例の検討 8</td> </tr> <tr> <td>2. 実例の検討 1</td> <td>10. 実例の検討 9</td> </tr> <tr> <td>3. 実例の検討 2</td> <td>11. 実例の検討 10</td> </tr> <tr> <td>4. 実例の検討 3</td> <td>12. 実例の検討 11</td> </tr> <tr> <td>5. 実例の検討 4</td> <td>13. 実例の検討 12</td> </tr> <tr> <td>6. 実例の検討 5</td> <td>14. 実例の検討 13</td> </tr> <tr> <td>7. 実例の検討 6</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 実例の検討 7</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 実例の検討 8	2. 実例の検討 1	10. 実例の検討 9	3. 実例の検討 2	11. 実例の検討 10	4. 実例の検討 3	12. 実例の検討 11	5. 実例の検討 4	13. 実例の検討 12	6. 実例の検討 5	14. 実例の検討 13	7. 実例の検討 6	15. 全体のまとめ	8. 実例の検討 7	
1. ガイダンス	9. 実例の検討 8																				
2. 実例の検討 1	10. 実例の検討 9																				
3. 実例の検討 2	11. 実例の検討 10																				
4. 実例の検討 3	12. 実例の検討 11																				
5. 実例の検討 4	13. 実例の検討 12																				
6. 実例の検討 5	14. 実例の検討 13																				
7. 実例の検討 6	15. 全体のまとめ																				
8. 実例の検討 7																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加 (60%)、レポート (40%)																				
◇ 教科書・参考書	リンドクヴィスト 『英語コーパスを活用した言語研究』(大修館書店、2016)																				
◇ 授業時間外学習	実例については条件を少し変えるとどうなるか、等を考えてみる。別途提供されている練習問題に挑戦することが望ましい。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
言 語 交 流 学 演 習 Interlinguistics (Seminar)	2	教授 後藤 齊	6	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN312J																				
◆ 授業題目	日本語コーパス言語学の進展 (Advances in Japanese corpus linguistics)																				
◆ 目的・概要	2011年に国立国語研究所により開発された「現代日本語書き言葉均衡コーパス」により、日本語研究に新しいインフラがもたらされた。これ以外にも各種の日本語コーパスが開発され、公開されつつある。関係の文献・論文を読むことによって、コーパスの意義およびコーパスを利用した日本語研究の動向および将来に向けた可能性への理解を深める。担当者が論文を紹介し、コーパスを使う意義に特に注目しながら、内容を検討していく形式で授業を行う。コーパスを利用した日本語研究の現状と可能性について理解を深める。																				
◆ 到達目標	コーパスを利用した日本語研究の現状と可能性について理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 論文紹介 8</td> </tr> <tr> <td>2. 論文紹介 1</td> <td>10. 論文紹介 9</td> </tr> <tr> <td>3. 論文紹介 2</td> <td>11. 論文紹介 10</td> </tr> <tr> <td>4. 論文紹介 3</td> <td>12. 論文紹介 11</td> </tr> <tr> <td>5. 論文紹介 4</td> <td>13. 論文紹介 12</td> </tr> <tr> <td>6. 論文紹介 5</td> <td>14. 論文紹介 13</td> </tr> <tr> <td>7. 論文紹介 6</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 論文紹介 7</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 論文紹介 8	2. 論文紹介 1	10. 論文紹介 9	3. 論文紹介 2	11. 論文紹介 10	4. 論文紹介 3	12. 論文紹介 11	5. 論文紹介 4	13. 論文紹介 12	6. 論文紹介 5	14. 論文紹介 13	7. 論文紹介 6	15. まとめ	8. 論文紹介 7	
1. ガイダンス	9. 論文紹介 8																				
2. 論文紹介 1	10. 論文紹介 9																				
3. 論文紹介 2	11. 論文紹介 10																				
4. 論文紹介 3	12. 論文紹介 11																				
5. 論文紹介 4	13. 論文紹介 12																				
6. 論文紹介 5	14. 論文紹介 13																				
7. 論文紹介 6	15. まとめ																				
8. 論文紹介 7																					
◇ 成績評価の方法	出席・発表 60%、レポート 40%																				
◇ 教科書・参考書	教科書は用いない。資料を配布する。																				
◇ 授業時間外学習	適切な論文を選択できるよう、あらかじめ十分に検討すること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
言 語 交 流 学 演 習 Interlinguistics (Seminar)	2	准教授 木 山 幸 子	5	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN312J				
◆ 授業題目	言語データ分析法基礎 (Basic Methods of Language Data Analysis)				
◆ 目的・概要	本科目では、言語研究に必要なデータ分析の実習を行います。用意された課題データについて、ペアを組んで統計ソフトウェアを使いながら分析を体験してもらいます。何か新規のソフトウェアを学ぼうとするときには、ちょっとした思わぬところでつまづいてしまうことがありますので、ペアを組んでお互いの知恵を出し合いながら課題データと格闘してもらいます (もちろん教員も適宜助言します)。統計学の専門家ではなくとも、言語データを定量的に分析することの楽しさを味わってみたいと思います。				
◆ 到達目標	定量的言語研究に必要な基本的な統計分析手法の要点を把握する。また、自身が扱う言語データについて、統計ソフトウェアを使って適切に分析できる素地を身につける。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス 2. 変数の色々 3. 統計的検定の論理 4. カイ二乗検定① 5. カイ二乗検定② 6. 残差分析 7. 評定者間信頼性分析 8. データの分布・標準化 9. t検定① 10. t検定② 11. t検定③ 12. 分散分析 (Analysis of variance: ANOVA) ① 13. 分散分析 (Analysis of variance: ANOVA) ② 14. 分散分析 (Analysis of variance: ANOVA) ③ 15. まとめと最終テスト				
◇ 成績評価の方法	ペアワークへの貢献 (50%)、毎回授業の最後に課すワークシート (30%)、期末テスト (20%)、授業時間外の語用論調査・実験の体験 (若干)				
◇ 教科書・参考書	指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。				
◇ 授業時間外学習	授業時間外にもペア単位で課題を行ってもらいます。ペアの相手に迷惑をかけないために、自分が分担する作業を責任をもって行う意思のある学生のみ受講登録してください (初回でその意思の確認をします)。また語用論をテーマとした調査や実験に参加してもらおう機会を設けます (参加は任意)。				
その他	文学部の学生にとって、統計分析は必ずしもなじみやすいものではないかもしれませんが、実際、数多くある分析手法を駆使できるようになるには相応の訓練と経験が必要になると思います。わからないことは当たり前なので、分析の考え方もソフトの扱い方でも、つまづいたら遠慮なく尋ねてください。授業外の質問も歓迎します。意欲ある受講生の皆さんが自主的に言語データ分析ができるようになるためのサポートをしたいと思っています。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
言 語 交 流 学 演 習 Interlinguistics (Seminar)	2	准教授 木 山 幸 子	6	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN312J				
◆ 授業題目	言語データ分析法発展 (Advanced Methods of Language Data Analysis)				
◆ 目的・概要	本科目では、言語研究に必要なデータ分析の実習を行います。後期はとくに、種々の多変量解析の手法を扱います。用意された課題データについて、ペアを組んで統計ソフトウェアを使いながら分析を体験してもらいます。何か新規のソフトウェアを学ぼうとするときには、ちょっとした思わぬところでつまづいてしまうことがありますので、ペアを組んでお互いの知恵を出し合いながら課題データと格闘してもらいます (もちろん教員も適宜助言します)。統計学の専門家ではなくとも、言語データの多変量解析から示される結果のおもしろさを味わってみたいと思います。				
◆ 到達目標	定量的言語研究に必要な多変量解析手法の要点を把握する。また、多要因で構成される言語データについて、統計ソフトウェアを使って適切に分析できる素地を身につける。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス 2. 統計的検定の概要 3. 相関分析 ① 4. 相関分析 ② 5. 尺度の信頼性分析 6. 回帰分析 ① 7. 回帰分析 ② 8. 回帰分析 ③ 9. 共分散分析 (Analysis of covariance: ANCOVA) ① 10. 共分散分析 (Analysis of covariance: ANCOVA) ② 11. 共分散分析 (Analysis of covariance: ANCOVA) ③ 12. マルチレベルモデリング (線形混合効果モデル) ① 13. マルチレベルモデリング (線形混合効果モデル) ② 14. マルチレベルモデリング (線形混合効果モデル) ③ 15. まとめと最終テスト				
◇ 成績評価の方法	ペアワークへの貢献 (50%)、毎回授業の最後に課すワークシート (30%)、期末テスト (20%)、授業時間外の語用論調査・実験の体験 (若干)				
◇ 教科書・参考書	指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。				
◇ 授業時間外学習	授業時間外にもペア単位で課題を行ってもらいます。ペアの相手に迷惑をかけないために、自分が分担する作業を責任をもって行う意思のある学生のみ受講登録してください (初回でその意思の確認をします)。また語用論をテーマとした調査や実験に参加してもらおう機会を設けます (参加は任意)。				
その他	本科目は、前期の同教員による言語交流学演習「言語データ分析法基礎」の続きですので、同科目の単位を修得済みであるか、その内容を十分に習得している学生のみ受講を認めます。前期に引き続き、自由に質問できる環境をつくり、意欲ある受講生の皆さんが自主的に言語データ分析ができるようになるためのサポートをしたいと思っています。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
国 語 学 概 論 Japanese Linguistics (General Lecture)	2	教授 大 木 一 夫	3	月	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN203J																				
◆ 授業題目	日本語の歴史 (History of the Japanese language)																				
◆ 目的・概要	言語は変化する。これは言語がもつ本質的な性質である。そして、その変化の結果、古代の日本語が現在の日本語になったのである。それでは、日本語はどのようにうつりかわってきたのか。古代語から現代語まで変化してきた日本語の歴史の概要について把握する。また、同時に言語の歴史をとらえる方法の概要を把握する。																				
◆ 到達目標	(1)日本語の歴史について、その流れを略述し、重要事項が説明できるようになる。 (2)言語の歴史をとらえる方法について、説明できるようになる。 (3)日本語の歴史および日本語史の方法に関する問題点を見出し、それを説明することができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 言語は変化する</td> <td>9. 日本語文法史 (2) 古代語文法の変容</td> </tr> <tr> <td>2. 日本語史の資料</td> <td>10. 日本語文法史 (3) 近代語の文法体系へ</td> </tr> <tr> <td>3. 日本語音韻史 (1) 音韻史の方法</td> <td>11. 日本語文法史補遺</td> </tr> <tr> <td>4. 日本語音韻史 (2) 古代語音韻体系</td> <td>12. 日本語語彙史 (1) 近代以前の語彙</td> </tr> <tr> <td>5. 日本語音韻史 (3) 古代語音韻の変容</td> <td>13. 日本語語彙史 (2) 近代語の語彙</td> </tr> <tr> <td>6. 日本語音韻史 (4) 近代語の音韻体系へ</td> <td>14. 試験</td> </tr> <tr> <td>7. 日本語音韻史補遺</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 日本語文法史 (1) 古代語文法体系</td> <td></td> </tr> </table>					1. 言語は変化する	9. 日本語文法史 (2) 古代語文法の変容	2. 日本語史の資料	10. 日本語文法史 (3) 近代語の文法体系へ	3. 日本語音韻史 (1) 音韻史の方法	11. 日本語文法史補遺	4. 日本語音韻史 (2) 古代語音韻体系	12. 日本語語彙史 (1) 近代以前の語彙	5. 日本語音韻史 (3) 古代語音韻の変容	13. 日本語語彙史 (2) 近代語の語彙	6. 日本語音韻史 (4) 近代語の音韻体系へ	14. 試験	7. 日本語音韻史補遺	15. まとめ	8. 日本語文法史 (1) 古代語文法体系	
1. 言語は変化する	9. 日本語文法史 (2) 古代語文法の変容																				
2. 日本語史の資料	10. 日本語文法史 (3) 近代語の文法体系へ																				
3. 日本語音韻史 (1) 音韻史の方法	11. 日本語文法史補遺																				
4. 日本語音韻史 (2) 古代語音韻体系	12. 日本語語彙史 (1) 近代以前の語彙																				
5. 日本語音韻史 (3) 古代語音韻の変容	13. 日本語語彙史 (2) 近代語の語彙																				
6. 日本語音韻史 (4) 近代語の音韻体系へ	14. 試験																				
7. 日本語音韻史補遺	15. まとめ																				
8. 日本語文法史 (1) 古代語文法体系																					
◇ 成績評価の方法	上記の「到達目標」に即して、筆記試験およびいくつかの講義内の小課題で総合的に評価する。詳細は開講時に示す。																				
◇ 教科書・参考書	テキスト：大木一夫『ガイドブック日本語史』（ひつじ書房）、他に必要に応じてコピーを配布する。参考文献は講義内で随時示す。																				
◇ 授業時間外学習	テキストの指定範囲を読み、十分理解して参加する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
国 語 学 概 論 Japanese Linguistics (General Lecture)	2	教授 小 林 隆	4	月	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN203J																				
◆ 授業題目	方言研究 (dialectology)																				
◆ 目的・概要	方言は身近な存在だけに、研究の対象にはならないと思っている人が多い。しかし、方言は国語学の研究分野のひとつとして位置づけられている。そもそも方言とは何なのか、それを研究するにはいかなる方法があるのか、あるいは、実際に日本語の方言はどのようになっているのか、そういった問題をこの授業では取り上げる。「方言と方言学」「方言の音韻・アクセント・語彙・文法」「方言の分類」「現代の方言」などの基本的な内容のほか、方言の運用的側面や歴史的側面をテーマとすることもある。																				
◆ 到達目標	(1)方言に対する関心を高め研究対象として理解できるようにする。 (2)方言研究について概括的な知識を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 方言研究への導き</td> <td>9. 方言の文法 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. 方言の音韻 (1)</td> <td>10. 方言の表現法 (1)</td> </tr> <tr> <td>3. 方言の音韻 (2)</td> <td>11. 方言の表現法 (2)</td> </tr> <tr> <td>4. 方言のアクセント (1)</td> <td>12. 方言の歴史と現在 (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 方言のアクセント (2)</td> <td>13. 方言の歴史と現在 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 方言の語彙 (1)</td> <td>14. 方言の歴史と現在 (3)</td> </tr> <tr> <td>7. 方言の語彙 (2)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 方言の文法 (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 方言研究への導き	9. 方言の文法 (2)	2. 方言の音韻 (1)	10. 方言の表現法 (1)	3. 方言の音韻 (2)	11. 方言の表現法 (2)	4. 方言のアクセント (1)	12. 方言の歴史と現在 (1)	5. 方言のアクセント (2)	13. 方言の歴史と現在 (2)	6. 方言の語彙 (1)	14. 方言の歴史と現在 (3)	7. 方言の語彙 (2)	15. 授業のまとめ	8. 方言の文法 (1)	
1. 方言研究への導き	9. 方言の文法 (2)																				
2. 方言の音韻 (1)	10. 方言の表現法 (1)																				
3. 方言の音韻 (2)	11. 方言の表現法 (2)																				
4. 方言のアクセント (1)	12. 方言の歴史と現在 (1)																				
5. 方言のアクセント (2)	13. 方言の歴史と現在 (2)																				
6. 方言の語彙 (1)	14. 方言の歴史と現在 (3)																				
7. 方言の語彙 (2)	15. 授業のまとめ																				
8. 方言の文法 (1)																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験 (80%)・出席 (20%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書は適宜教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	日ごろ、自分および自分の周囲の人々の方言について観察することで、授業の内容について体験的・具体的に理解するように努める。																				
その他：オフィスアワー：随時																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 語 学 概 論 Modern Japanese (General Lecture)	2	准教授 甲 田 直 美	3	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN204J																				
◆ 授業題目	日本語学概論 (Modern Japanese)																				
◆ 目的・概要	日本語学の諸領域と言語の分析を構成する概念について解説する。講義は以下の順序で進める。 Ⅰ. 人間の言語の特徴 Ⅱ. ことばと理解 Ⅲ. 構造主義と音声・音韻、音声と言語 Ⅳ. 言語単位 Ⅴ. レトリックと言語																				
◆ 到達目標	(1)国語学・日本語学における諸研究とその背景を理解する。 (2)文構造の研究が言語使用者の知識や認識と対応している様相を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 言語研究の基礎概念</td> <td>9. 日本語の音声</td> </tr> <tr> <td>2. 日本語の特色</td> <td>10. 語と文、そして文章</td> </tr> <tr> <td>3. 記号と言語</td> <td>11. 文法論 1</td> </tr> <tr> <td>4. ことばと認識</td> <td>12. 文法論 2</td> </tr> <tr> <td>5. カテゴリー認識と言語</td> <td>13. 文章論 1</td> </tr> <tr> <td>6. 構造言語学と意味論</td> <td>14. 文章論 2</td> </tr> <tr> <td>7. 意味論の進展</td> <td>15. 研究テーマの設定の仕方と研究方法</td> </tr> <tr> <td>8. 「体系」をめぐる概念</td> <td></td> </tr> </table>					1. 言語研究の基礎概念	9. 日本語の音声	2. 日本語の特色	10. 語と文、そして文章	3. 記号と言語	11. 文法論 1	4. ことばと認識	12. 文法論 2	5. カテゴリー認識と言語	13. 文章論 1	6. 構造言語学と意味論	14. 文章論 2	7. 意味論の進展	15. 研究テーマの設定の仕方と研究方法	8. 「体系」をめぐる概念	
1. 言語研究の基礎概念	9. 日本語の音声																				
2. 日本語の特色	10. 語と文、そして文章																				
3. 記号と言語	11. 文法論 1																				
4. ことばと認識	12. 文法論 2																				
5. カテゴリー認識と言語	13. 文章論 1																				
6. 構造言語学と意味論	14. 文章論 2																				
7. 意味論の進展	15. 研究テーマの設定の仕方と研究方法																				
8. 「体系」をめぐる概念																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験 [60%]・出席 [10%]・提出物 [30%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。 参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	各テーマごとに小レポートを課し、各課の理解を確認する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 語 学 概 論 Modern Japanese (General Lecture)	2	准教授 甲 田 直 美	4	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN204J																				
◆ 授業題目	ことばのバリエーション (Variation in Japanese Language)																				
◆ 目的・概要	言語の持つ、地域、時代、使用者、媒体等によるバリエーションについて、研究の実例と分析方法について講義する。抽象的所有物ではなく、実際の場面で使用された、具体的使用文脈における言語を扱う。																				
◆ 到達目標	(1)我々が日常使用している言語を観察・記述できるようになる。 (2)会話分析の基本的技能を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 言語資料の収集と作成</td> <td>9. 映像資料と音声資料、そして文字資料</td> </tr> <tr> <td>2. 言語資料の特性 1</td> <td>10. 文法論と談話論の接点 1</td> </tr> <tr> <td>3. 言語資料の特性 2</td> <td>11. 文法論と談話論の接点 2</td> </tr> <tr> <td>4. 言語資料の特性 3</td> <td>12. 話者交替と参与構造</td> </tr> <tr> <td>5. 思考と言語</td> <td>13. 会話の構造 1</td> </tr> <tr> <td>6. 書き言葉と話し言葉 1</td> <td>14. 会話の構造 2</td> </tr> <tr> <td>7. 書き言葉と話し言葉 2</td> <td>15. 研究の方法</td> </tr> <tr> <td>8. 物語と文化比較</td> <td></td> </tr> </table>					1. 言語資料の収集と作成	9. 映像資料と音声資料、そして文字資料	2. 言語資料の特性 1	10. 文法論と談話論の接点 1	3. 言語資料の特性 2	11. 文法論と談話論の接点 2	4. 言語資料の特性 3	12. 話者交替と参与構造	5. 思考と言語	13. 会話の構造 1	6. 書き言葉と話し言葉 1	14. 会話の構造 2	7. 書き言葉と話し言葉 2	15. 研究の方法	8. 物語と文化比較	
1. 言語資料の収集と作成	9. 映像資料と音声資料、そして文字資料																				
2. 言語資料の特性 1	10. 文法論と談話論の接点 1																				
3. 言語資料の特性 2	11. 文法論と談話論の接点 2																				
4. 言語資料の特性 3	12. 話者交替と参与構造																				
5. 思考と言語	13. 会話の構造 1																				
6. 書き言葉と話し言葉 1	14. 会話の構造 2																				
7. 書き言葉と話し言葉 2	15. 研究の方法																				
8. 物語と文化比較																					
◇ 成績評価の方法	提出物 50%、筆記試験 50%																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。授業内で資料プリントを配布する。																				
◇ 授業時間外学習	実際にデータ収集をし、観察・分析を行い、レポートを作成する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
国 語 学 基 礎 講 読 Japanese Linguistics (Introductory Reading)	2	教授 齋 藤 倫 明	3	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN212J																				
◆ 授業題目	近代（明治期）の文語文講読（Reading of the Literary Language in the Meiji Period）																				
◆ 目的・概要	近代（明治期）の文語文を講読する。具体的には、「明六社」（1873年結成）の機関誌『明六雑誌』（1874～1875年刊・全43号）を読む。同誌には、西村茂樹、津田真道、西周、中村正直、加藤弘之、福沢諭吉ら当時の第一級の知識人が、文明開化論、言語政策、婦人問題、哲学、思想、経済、法律、教育等をめぐって様々な論説を発表した。明治初期の啓蒙期を象徴する学術雑誌である。本講読では、同誌の中から適宜文章を選択し、一字一句丁寧に読むことを通して、近代文語文に慣れるとともに、明治初期の日本語の具体的な様相を把握することを目指す。																				
◆ 到達目標	1. 近代文語文を正確に読めるようになる。 2. 明治初期の日本語の様相を把握する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス。「明六社」と「明六雑誌」についての概説と講読の具体的な進め方に関する説明。</td> <td>9. 第八回目の講読。</td> </tr> <tr> <td>2. 第一回目の講読。</td> <td>10. 第九回目の講読。</td> </tr> <tr> <td>3. 第二回目の講読。</td> <td>11. 第十回目の講読。</td> </tr> <tr> <td>4. 第三回目の講読。</td> <td>12. 第十一回目の講読。</td> </tr> <tr> <td>5. 第四回目の講読。</td> <td>13. 第十二回目の講読。</td> </tr> <tr> <td>6. 第五回目の講読。</td> <td>14. 第十三回目の講読。</td> </tr> <tr> <td>7. 第六回目の講読。</td> <td>15. まとめ。</td> </tr> <tr> <td>8. 第七回目の講読。</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス。「明六社」と「明六雑誌」についての概説と講読の具体的な進め方に関する説明。	9. 第八回目の講読。	2. 第一回目の講読。	10. 第九回目の講読。	3. 第二回目の講読。	11. 第十回目の講読。	4. 第三回目の講読。	12. 第十一回目の講読。	5. 第四回目の講読。	13. 第十二回目の講読。	6. 第五回目の講読。	14. 第十三回目の講読。	7. 第六回目の講読。	15. まとめ。	8. 第七回目の講読。	
1. ガイダンス。「明六社」と「明六雑誌」についての概説と講読の具体的な進め方に関する説明。	9. 第八回目の講読。																				
2. 第一回目の講読。	10. 第九回目の講読。																				
3. 第二回目の講読。	11. 第十回目の講読。																				
4. 第三回目の講読。	12. 第十一回目の講読。																				
5. 第四回目の講読。	13. 第十二回目の講読。																				
6. 第五回目の講読。	14. 第十三回目の講読。																				
7. 第六回目の講読。	15. まとめ。																				
8. 第七回目の講読。																					
◇ 成績評価の方法	レポート（60%）、授業への取り組み方（20%）、出席（20%）																				
◇ 教科書・参考書	特に使用しない。必要があれば適宜指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業に臨むに当たっては、前回分を復習の上、次回分を読んで下調べしておくこと。																				
その他：国語学専修に所属する学生は必ず履修すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
国 語 学 基 礎 講 読 Japanese Linguistics (Introductory Reading)	2	教授 小 林 隆	4	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN212J																				
◆ 授業題目	古典語・方言講読（classical Japanese and dialects）																				
◆ 目的・概要	江戸時代に成立した全国方言集、越谷吾山の『物類称呼』を国語学的に読み解く。近世の言葉に親しむとともに、方言的な背景を明らかにしていく。テキストは版本を使用する。授業は発表形式とする。参加者はテキストの割り当てられた範囲について、読解や調査を行ったうえでプリントを作成し、発表に臨むこととする。																				
◆ 到達目標	(1)古典語を国語学的に読み解くために必要な方法論を修得すること。 (2)方言辞典や方言地図の利用方法を身に着けること。 (3)近世から現代にかけての方言の動態に興味を持つこと。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. はじめに－授業への導入</td> <td>9. 発表 6</td> </tr> <tr> <td>2. 授業の内容と方法</td> <td>10. 発表 7</td> </tr> <tr> <td>3. 越谷吾山『物類称呼』について</td> <td>11. 発表 8</td> </tr> <tr> <td>4. 発表 1</td> <td>12. 発表 9</td> </tr> <tr> <td>5. 発表 2</td> <td>13. 発表 10</td> </tr> <tr> <td>6. 発表 3</td> <td>14. 発表 11</td> </tr> <tr> <td>7. 発表 4</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 発表 5</td> <td></td> </tr> </table>					1. はじめに－授業への導入	9. 発表 6	2. 授業の内容と方法	10. 発表 7	3. 越谷吾山『物類称呼』について	11. 発表 8	4. 発表 1	12. 発表 9	5. 発表 2	13. 発表 10	6. 発表 3	14. 発表 11	7. 発表 4	15. まとめ	8. 発表 5	
1. はじめに－授業への導入	9. 発表 6																				
2. 授業の内容と方法	10. 発表 7																				
3. 越谷吾山『物類称呼』について	11. 発表 8																				
4. 発表 1	12. 発表 9																				
5. 発表 2	13. 発表 10																				
6. 発表 3	14. 発表 11																				
7. 発表 4	15. まとめ																				
8. 発表 5																					
◇ 成績評価の方法	平常点（出席状況等）、試験（変体仮名の解読等）、レポートの3つによって評価する。																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	参加者はテキストの割り当てられた範囲について、読解や調査を行ったうえでプリントを作成し、発表に臨むことが必要である。																				
その他：特になし。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
国 語 学 各 論 Japanese Linguistics (Special Lecture)	2	教授 大 木 一 夫	5	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN305J				
◆ 授業題目	日本語文法研究 (Study of Japanese grammar)				
◆ 目的・概要	現代日本語の文法現象をとりあげ、それについて文法的な分析を試みる。また、その内容について、具体的な例文にもとづきながら文法的に考え、議論する。加えて、現代日本語の分析の前提となる言語データの収集技法・分析視点についても検討を加える。なお、より具体的な講義内容・日程等の詳細は、開講時に提示する。				
◆ 到達目標	(1)日本語文法論における分析視点や論理展開の問題点を見いだすことができるようになる。 (2)文法論的に考え、その結果について報告や議論ができるようになる。 (3)日本語研究のための言語データ収集の技法を身につけ、それを実践できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 文法論の立場と方法 3. 文法論的分析 (1) 4. 文法論的分析 (2) 5. 文法論的分析 (3) 6. 文法論的分析 (4) 7. 文法論的分析 (5) 8. 文法論的分析 (6) 9. 文法論的分析 (7) 10. 文法論的分析 (8) 11. 文法論的分析 (9) 12. 文法論的分析 (10) 13. 文法論的分析 (11) 14. 文法論的分析 (12) 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	参加態度・講義内の小課題・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。				
◇ 教科書・参考書	必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。				
◇ 授業時間外学習	(1)テキストを読み、その内容の要点を把握して参加する。 (2)講義内の分析・議論についての疑問点を整理する。 (3)言語データの収集技法・分析視点についての課題をおこなう。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
国 語 学 各 論 Japanese Linguistics (Special Lecture)	2	教授 小 林 隆	6	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN305J				
◆ 授業題目	方言学的日本語史研究 (study of the dialectological Japanese history)				
◆ 目的・概要	これまでの国語史研究には、文献資料のみに頼り、しかも、中央語史に偏るという問題点があった。方言学的日本語史は、方言を視野に入れることによって、ことばの位相や地理的広がりの面で、従来の国語史の限界を超えることをめざす。 この授業では、そのような研究の目的と方法論を解説し、具体的な歴史の記述を通してさまざまな課題について検討していく。今回は特に、これまで研究が進んでいなかった言葉の運用面を取り上げることにし、その地域差を明らかにするとともに、社会的な視点も交えて歴史的考察へと進んでいきたい。方言を視野に入れた日本語史研究について理解する。				
◆ 到達目標					
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への導入 2. 目的・方法・資料 3. オノマトペ (1) 4. オノマトペ (2) 5. 感動詞 (1) 6. 感動詞 (2) 7. 挨拶表現 (1) 8. 挨拶表現 (2) 9. 言語行動 (1) 10. 言語行動 (2) 11. 談話展開 (1) 12. 談話展開 (2) 13. 言語的発想法 (1) 14. 言語的発想法 (2) 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート (80%)・出席 (20%)				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、補助資料を配布する。 参考文献は、小林隆・澤村美幸『ものの言いかた西東』(岩波新書)のほか、授業時に指示する。				
◇ 授業時間外学習	言葉の運用面の地域差について、自分および周囲の人たちの言葉遣いを観察し、授業の内容理解に役立てるようにする。				
その他：オフィスアワー：随時					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
国 語 学 各 論 Japanese Linguistics (Special Lecture)	2	非常勤 講師 新 井 小 枝 子	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN305J				
◆ 授業題目	日本語方言語彙研究 (study of the Japanese dialect lexicology)				
◆ 目的・概要	日本語における方言語彙研究の方法と課題を整理し、生活場面に即した意味分野を設定して分析を試みる。具体的には「絹文化に関する語彙」「食文化に関する語彙」を取り上げる。語彙資料の収集の仕方 や扱い方を模索しながら、具体的な分析をすすめることを重視する。 なお、より詳細な講義内容・日程等は、開講時に提示する。				
◆ 到達目標	(1)日本語方言語彙研究の考え方や立場を理解し、かつ、分析の観点を学び、自身の課題が具体的に設定 できるようになる。 (2)語彙論的に考え、その結果について報告や議論ができるようになる。 (3)日本語方言語彙の研究をとらえて、地域の生活、歴史、文化について考えられるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・授業の目標 2. 方言語彙研究の方法と課題 (1) 3. 方言語彙研究の方法と課題 (2) 4. 絹文化に関する語彙 (1) 5. 絹文化に関する語彙 (2) 6. 絹文化に関する語彙 (3) 7. 絹文化に関する語彙 (4) 8. 絹文化に関する語彙 (5) 9. 絹文化に関する語彙 (6) 10. 食文化に関する語彙 (1) 11. 食文化に関する語彙 (2) 12. 食文化に関する語彙 (3) 13. 食文化に関する語彙 (4) 14. 食文化に関する語彙 (5) 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。				
◇ 教科書・参考書	教科書として、玉村豊男 (2010)『料理の四面体』中公文庫 (\648 ISBN978-4-12-205283-3) を使用 する。 その他に必要な資料は印刷して配布する。参考書は講義内で提示する。				
◇ 授業時間外学習	教科書を読む。自身の使用語彙を内省したり、辞典類にあたって、方言語彙を収集する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
現 代 日 本 語 学 各 論 Modern Japanese (Special Lecture)	2	教授 齋 藤 倫 明	5	月	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN306J				
◆ 授業題目	「連語」と文法論の構成 (A Structure of the Grammar Viewed from "Word Combination")				
◆ 目的・概要	「語」と「文」とは、基本的な言語単位として一般に認められているが、両者の間にも立場によって様々な言語 単位が設定されている。そこで、本講義では、(1)従来、そういった言語単位としてどのようなものが設定されて いるのか、(2)なぜ様々な言語単位が設定されるのか、(3)本来、どういった言語単位を設定するのが望ましいのか、 といった点について考察することを通し、最終的には、そもそも言語単位とは何か、といった点を明らかにする ことを目指す。今年度は、そのための一環として教科研の「連語」という単位を取り上げ、文法論を構成する際 に「連語」という単位が有している意味合いについて考える。 具体的には、教科研文法、山田文法、松下文法の文法論の構成を比較・対照するという作業を通して論を進める。				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「言語単位」についての理解を深める。 2. 種々の具体的な文法論の言語単位とその考え方について理解する。 3. 「語」と「文」の間にある言語単位の考え方について理解する。 4. 「連語」という単位とその問題点について理解する。 5. 山田文法、松下文法の特徴について理解する。 9. 松下文法と教科研の「連語」。 10. 松下文法における「連語」の位置づけ (その一)。 11. 松下文法における「連語」の位置づけ (その二)。 12. 「連語」と文法論の在り方について (その一)。 13. 「連語」と文法論の在り方について (その二)。 14. 「連語」と文法論の構成に関する総括。 15. 今後の発展と残された問題。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (講義の進め方、今年度の講義の位置づけ等)。 2. 「連語」とは何か。 3. 「連語」の問題点について。 4. 教科研文法における「連語」の位置づけ (その一)。 5. 教科研文法における「連語」の位置づけ (その二)。 6. 山田文法と教科研の「連語」。 7. 山田文法における「連語」の位置づけ (その一)。 8. 山田文法における「連語」の位置づけ (その二)。 				
◇ 成績評価の方法	レポート [80%]・出席 [10%]・その他 [10%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書は講義中に適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	毎回コメントペーパーを配布するので、前回自分が提出したコメントペーパーの内容について自分なりにある程 度下調べをして講義に臨むようにする。				
その他：特になし。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 語 学 各 論 Modern Japanese (Special Lecture)	2	准教授 甲 田 直 美	5	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN306J																				
◆ 授業題目	文章・談話の構造論 (Discourse and Conversation Structure)																				
◆ 目的・概要	文章・談話の構造は、どのようにして捉えることができるであろうか。研究手法としては、(1)文法論との接点から、談話・文章における結束性保持の手段を考える研究、(2)会話分析を中心とする実際に生じた会話の参与構造を扱う研究に大別できる。これらの研究について整理し、解説する。																				
◆ 到達目標	(1)近年の研究で重要とされる理論を理解する。 (2)授業で扱う研究の意義と限界・問題点について批判能力を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 文章・談話研究とは～テーマ設定から分析まで～</td> <td>9. 会話に頻繁に見られる現象 2</td> </tr> <tr> <td>2. 音声、イントネーション</td> <td>10. 会話に頻繁に見られる現象 3</td> </tr> <tr> <td>3. ターン交替、TCU</td> <td>11. 会話に頻繁に見られる現象 4</td> </tr> <tr> <td>4. 分析データの記述法</td> <td>12. 研究テーマの着眼点、レポートの書き方</td> </tr> <tr> <td>5. 音声転記の方法</td> <td>13. 研究の進め方 1</td> </tr> <tr> <td>6. コーパス、言語のバリエーション</td> <td>14. 研究の進め方 2</td> </tr> <tr> <td>7. コンピューター実習 KWIC Finder, Praat, Audacity</td> <td>15. レポートの書き方</td> </tr> <tr> <td>8. 会話に頻繁に見られる現象 1</td> <td></td> </tr> </table>					1. 文章・談話研究とは～テーマ設定から分析まで～	9. 会話に頻繁に見られる現象 2	2. 音声、イントネーション	10. 会話に頻繁に見られる現象 3	3. ターン交替、TCU	11. 会話に頻繁に見られる現象 4	4. 分析データの記述法	12. 研究テーマの着眼点、レポートの書き方	5. 音声転記の方法	13. 研究の進め方 1	6. コーパス、言語のバリエーション	14. 研究の進め方 2	7. コンピューター実習 KWIC Finder, Praat, Audacity	15. レポートの書き方	8. 会話に頻繁に見られる現象 1	
1. 文章・談話研究とは～テーマ設定から分析まで～	9. 会話に頻繁に見られる現象 2																				
2. 音声、イントネーション	10. 会話に頻繁に見られる現象 3																				
3. ターン交替、TCU	11. 会話に頻繁に見られる現象 4																				
4. 分析データの記述法	12. 研究テーマの着眼点、レポートの書き方																				
5. 音声転記の方法	13. 研究の進め方 1																				
6. コーパス、言語のバリエーション	14. 研究の進め方 2																				
7. コンピューター実習 KWIC Finder, Praat, Audacity	15. レポートの書き方																				
8. 会話に頻繁に見られる現象 1																					
◇ 成績評価の方法	レポート [60%]・出席 [10%]・授業中の提出物 [30%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。 参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	会話・対話・談話研究のための分析単位の実際をデータを元に観察する。音声言語コミュニケーションのための分析単位 IU の実際をデータと対照する。会話データを作成し、会話分析の手法を体験する。論文を読んで論点を提出する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
国 語 学 講 読 Japanese Linguistics (Reading)	2	教授 大 木 一 夫	5	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN313J																				
◆ 授業題目	今昔物語集を読む (Linguistic study of "Konjaku monogatari-shū" (Tales of times now past))																				
◆ 目的・概要	平安時代末期成立の説話集「今昔物語集」を丁寧に読みながら、日本語史の資料としての「今昔物語集」がいかなる性格をもつものであるのか、そこに見られる言語はいかなるものなのかを、さまざまな視点から検討する。また、そのような検討をふまえ、「今昔物語集」を資料の一端として、日本語の歴史・変遷の諸相を分析する。																				
◆ 到達目標	(1)日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。 (2)日本語史上の問題点を見出すことができるようになる。 (3)文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論をおこなうことができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 担当範囲についての発表 (5)</td> </tr> <tr> <td>2. 「今昔物語集」概説・古辞書概説 (1)</td> <td>10. 担当範囲についての発表 (6)</td> </tr> <tr> <td>3. 古辞書概説 (2)</td> <td>11. 担当範囲についての発表 (7)</td> </tr> <tr> <td>4. 発表の方法</td> <td>12. 担当範囲についての発表 (8)</td> </tr> <tr> <td>5. 担当範囲についての発表 (1)</td> <td>13. 担当範囲についての発表 (9)</td> </tr> <tr> <td>6. 担当範囲についての発表 (2)</td> <td>14. 担当範囲についての発表 (10)</td> </tr> <tr> <td>7. 担当範囲についての発表 (3)</td> <td>15. 担当範囲についての発表 (11)・まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 担当範囲についての発表 (4)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 担当範囲についての発表 (5)	2. 「今昔物語集」概説・古辞書概説 (1)	10. 担当範囲についての発表 (6)	3. 古辞書概説 (2)	11. 担当範囲についての発表 (7)	4. 発表の方法	12. 担当範囲についての発表 (8)	5. 担当範囲についての発表 (1)	13. 担当範囲についての発表 (9)	6. 担当範囲についての発表 (2)	14. 担当範囲についての発表 (10)	7. 担当範囲についての発表 (3)	15. 担当範囲についての発表 (11)・まとめ	8. 担当範囲についての発表 (4)	
1. ガイダンス	9. 担当範囲についての発表 (5)																				
2. 「今昔物語集」概説・古辞書概説 (1)	10. 担当範囲についての発表 (6)																				
3. 古辞書概説 (2)	11. 担当範囲についての発表 (7)																				
4. 発表の方法	12. 担当範囲についての発表 (8)																				
5. 担当範囲についての発表 (1)	13. 担当範囲についての発表 (9)																				
6. 担当範囲についての発表 (2)	14. 担当範囲についての発表 (10)																				
7. 担当範囲についての発表 (3)	15. 担当範囲についての発表 (11)・まとめ																				
8. 担当範囲についての発表 (4)																					
◇ 成績評価の方法	参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。																				
◇ 教科書・参考書	必要なテキストはコピーして配付する。参考文献は講義内で随時示す。																				
◇ 授業時間外学習	(1)日本語史研究にかかわる文献資料を読んで参加する。 (2)文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこなう。																				
その他：第6セメスターの「国語学講読」(コーパスにもとづく日本語史研究)も連続して履修すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
国 語 学 講 読 Japanese Linguistics (Reading)	2	教授 大 木 一 夫	6	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN313J				
◆ 授業題目	コーパスにもとづく日本語史研究 (Corpus based study of Japanese language history)				
◆ 目的・概要	言語の歴史を明らかにする方法として古い文献を利用する方法があり、日本語の歴史の場合、これを文献日本語史研究とすることができる。近年、この古い文献が電子化され、コンピュータを利用して検索することが比較的容易になってきている。このような電子化された言語資料体をコーパスというが、このコーパスは文献日本語史研究の進展におおいに有用なものと考えられる。そこで、日本語史研究に有用なコーパスを利用して、参加者が日本語の歴史についての調査・考察をおこなって、その成果を発表し、議論することを試みる。				
◆ 到達目標	(1)日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。 (2)日本語文法史上の問題点を見いだすことができるようになる。 (3)文献(コーパスを含む)によって日本語史をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論ができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. コーパスにもとづく言語研究への視点(1) 3. コーパスにもとづく言語研究への視点(2) 4. コーパスにもとづく日本語研究の方法(1) 5. コーパスにもとづく日本語研究の方法(2) 6. コーパス日本語史研究、研究発表(1) 7. コーパス日本語史研究、研究発表(2) 8. コーパス日本語史研究、研究発表(3) 9. コーパス日本語史研究、研究発表(4) 10. コーパス日本語史研究、研究発表(5) 11. コーパス日本語史研究、研究発表(6) 12. コーパス日本語史研究、研究発表(7) 13. コーパス日本語史研究、研究発表(8) 14. コーパス日本語史研究、研究発表(9) 15. コーパス日本語史研究、研究発表(10)、まとめ 				
◇ 成績評価の方法	参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。				
◇ 教科書・参考書	必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。				
◇ 授業時間外学習	(1)日本語史研究にかかわる文献資料を読んで参加する。 (2)コーパスにもとづく言語研究・日本語文法史研究の方法について検討する。 (3)日本語史研究にかかわる文献資料・コーパスを用いて日本語史についての調査をおこなう。				
その他：第5セメスターの「国語学講読」(今昔物語集を読む)から連続して履修すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
国 語 学 演 習 Japanese Linguistics (Seminar)	2	教授 小 林 隆	5	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN314J				
◆ 授業題目	方言調査法 (method of the dialect investigation)				
◆ 目的・概要	方言のしくみや地理的広がりを把握するための調査方法について具体的に検討する。記述的研究のほか、方言地理学や社会方言学、あるいは地方語文献による方言研究を取り上げる。また、方言会話の記録を一つのテーマとすることもある。学期の後半、ないし、夏休みに実際に方言調査を行うので、受講者は準備段階からそれに参加する必要がある。				
◆ 到達目標	方言調査の方法を検討し、実際に調査を企画・実施する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明 2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業 3. 方言的特徴の調べ方についての解説(1) 4. 方言的特徴の調べ方についての解説(2) 5. テーマ等設定に向けての作業(1) 6. テーマ等設定に向けての作業(2) 7. 中間報告(1) 8. 中間報告(2) 9. 調査票の作り方についての解説 10. 調査票の検討、方言会話の収録調査の方法 11. 調査票の検討、模擬調査と録音機の使い方 12. 現地調査と結果の分析(1) 13. 現地調査と結果の分析(2) 14. 最終報告(1) 15. 最終報告(2)、授業のまとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート(50%)・出席(50%)				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書は適宜教室で指示する。				
◇ 授業時間外学習	①テーマの設定、中間報告、最終報告のための準備を行う。 ②現地調査に参加し、結果の分析を行う。				
その他：オフィスアワー：随時					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
現 代 日 本 語 学 講 読 Modern Japanese (Reading)	2	教授 齋藤倫明	6	月	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN315J				
◆ 授業題目	近世言語論講読 (Reading of the Modern Japanese Linguistic Works)				
◆ 目的・概要	近世言語論の大きな流れを形成した本居宣長とその学統を継ぐ一派(「八衢派」)の言語論を講読する。今年度は、そのうちの鈴木胤(1764~1837)の『言語四種論(げんぎょししゅろん)』(1824年刊)を読む。本書は、師の宣長の『詞の玉緒』の考えを継承し、日本語の品詞分類についてより詳しく述べたものである。本講義では、活字本と東北大学図書館蔵本の版本とを対比させつつ、一字一句正確に読み解くとともに、鈴木胤の所説を理解することを目指す。				
◆ 到達目標	1. テキストに書かれていることを正確に理解する。 2. 日本語学史上における近世言語論の特質を把握する。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス(講義の進め方、鈴木胤と「言語四種論」についての概説等)。 2. 「言語四種論」の講読(その一)。 3. 「言語論種論」の講読(その二)。 4. 「言語四種論」の講読(その三)。 5. 「言語四種論」の講読(その四)。 6. 「言語四種論」の講読(その五)。 7. 「言語四種論」の講読(その六)。 8. 「言語四種論」の講読(その七)。 9. 「言語四種論」の講読(その八)。 10. 「言語四種論」の講読(その九)。 11. 「言語四種論」の講読(その十)。 12. 「言語四種論」の講読(その十一)。 13. 「言語四種論」の講読(その十二)。 14. 「言語四種論」の講読(その十三)。 15. 「言語四種論」講読の総括。				
◇ 成績評価の方法	レポート(60%)、授業への取り組み方(20%)、出席(20%)。				
◇ 教科書・参考書	特に使用しない。必要があれば適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	講義に臨むに当たっては、前回分を復習の上、次回分を読んで下調べしておくこと。				
その他：特になし。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
現 代 日 本 語 学 演 習 Modern Japanese (Seminar)	2	准教授 甲田直美	6	月	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN316J				
◆ 授業題目	文章・談話の構造(Discourse and Conversation Analysis)				
◆ 目的・概要	これまでに共有・公開されている文章・談話のデータをもとに、文章・談話研究でのデータの採取の仕方とその分析方法について整理・検討する。以下の項目を、具体例の検証とともに押さえる。I. データの種類とその扱い：分析の観点、ジャンル、レジスター、談話標識の研究、照応と省略、接続表現などの文法項目と適切性に関する項目の研究、II. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法、III. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方				
◆ 到達目標	(1)文章・談話研究のために必要な方法論を身につける。 (2)データの採取方法と採取したデータの分析方法を身につける。				
◆ 授業内容・方法	1. データの種類とその扱い：分析の観点 2. ジャンル、レジスター、スタイルと言語差 3. テキストにおけるジャンル差 4. コーパス研究 1 5. コーパス研究 2 6. 文章における諸現象 1 7. 文章における諸現象 2 8. 会話における諸現象 1 9. 会話における諸現象 1 10. ドラマの構造分析 11. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法 12. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法 13. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法 14. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方 15. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方				
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]・出席 [10%]・発表内容 [40%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。				
◇ 授業時間外学習	電子化データを検索し、鍵となる言語項目について分析する。論文を読んで、論点を把握し、批判的検討を行う。				
その他：受講希望者は日本語構造論特論Ⅱ「文章・談話の構造論」を履修しているのが望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 語 教 育 学 概 論 Teaching of Japanese Language (General Lecture)	2	教授 才 田 いずみ	3	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN205J																				
◆ 授業題目	日本語と日本語教育 (Introduction to the Teaching of Japanese as a Foreign Language)																				
◆ 目的・概要	1) 日本語の音声・文法・文字等の言語要素について、その構造や体系を知る。 2) 日本語を学ぶ人々に対して、上記の情報をどう提示するかを考える。 3) 日本語教育の置かれた社会的状況についても学ぶ。																				
◆ 到達目標	日本語のしくみや特徴を再認識すると同時に日本語教育への理解を深める。 自らの日本語使用や日本語能力を振り返る。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業の進め方について 現代社会と日本語教育</td> <td>8. 用言の活用と学習者の習得 (1)</td> </tr> <tr> <td>2. 日本語の音声 (1)</td> <td>9. 用言の活用と学習者の習得 (2)</td> </tr> <tr> <td>3. 日本語の音声 (2)</td> <td>10. 用言の活用と学習者の習得 (3)</td> </tr> <tr> <td>4. 学習者の音声 (1)</td> <td>11. 初級の文型 (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 学習者の音声 (2)</td> <td>12. 初級の文型 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 日本語の文字と表記 (1)</td> <td>13. 学ばれにくい日本語の構文 (1)</td> </tr> <tr> <td>7. 日本語の文字と表記 (2)</td> <td>14. 学ばれにくい日本語の構文 (2)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ</td> </tr> </table>					1. 授業の進め方について 現代社会と日本語教育	8. 用言の活用と学習者の習得 (1)	2. 日本語の音声 (1)	9. 用言の活用と学習者の習得 (2)	3. 日本語の音声 (2)	10. 用言の活用と学習者の習得 (3)	4. 学習者の音声 (1)	11. 初級の文型 (1)	5. 学習者の音声 (2)	12. 初級の文型 (2)	6. 日本語の文字と表記 (1)	13. 学ばれにくい日本語の構文 (1)	7. 日本語の文字と表記 (2)	14. 学ばれにくい日本語の構文 (2)		15. まとめ
1. 授業の進め方について 現代社会と日本語教育	8. 用言の活用と学習者の習得 (1)																				
2. 日本語の音声 (1)	9. 用言の活用と学習者の習得 (2)																				
3. 日本語の音声 (2)	10. 用言の活用と学習者の習得 (3)																				
4. 学習者の音声 (1)	11. 初級の文型 (1)																				
5. 学習者の音声 (2)	12. 初級の文型 (2)																				
6. 日本語の文字と表記 (1)	13. 学ばれにくい日本語の構文 (1)																				
7. 日本語の文字と表記 (2)	14. 学ばれにくい日本語の構文 (2)																				
	15. まとめ																				
◇ 成績評価の方法	筆記試験 [70%]・平常点 (発言・クラス参加度・授業中の課題) [30%]																				
◇ 教科書・参考書	参考書：小林ミナ (2010)『日本語教育能力検定試験に合格するための教授法37』アルク。 佐藤武義編著 (1996)『展望 現代の日本語』白帝社、ほか。																				
◇ 授業時間外学習	配布したプリントを見直すなどの復習をする。 授業で扱った問題に関して、周囲の日本人の日本語使用を観察する。参考書を読む。																				
その他：3回以上欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 語 教 育 学 概 論 Teaching of Japanese Language (General Lecture)	2	教授 才 田 いずみ	4	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN205J																				
◆ 授業題目	日本語教育の基礎 (Basics in Teaching of Japanese as a Foreign Language)																				
◆ 目的・概要	1) 機能 (function) や概念 (notion) をはじめ、シラバスデザインに関わる基本要素について学ぶ。 2) 主要な外国語教授法について知る。 3) 学習者の日本語や授業のあり方など、日本語コースをめぐる諸要素の評価について知る。 4) 設定された課題について、グループで授業活動を組み立て、短い模擬授業を行う。																				
◆ 到達目標	日本語教育における学習と教育に関して、基礎的な知識を得る。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業の進め方 文法項目と機能</td> <td>8. 特色ある教授法</td> </tr> <tr> <td>2. カリキュラムとシラバス</td> <td>9. 模擬授業の組み立て</td> </tr> <tr> <td>3. シラバスデザイン</td> <td>10. 模擬授業の実践 1</td> </tr> <tr> <td>4. コースデザインの基本</td> <td>11. 模擬授業の実践 2</td> </tr> <tr> <td>5. 教授法の変遷とその背景</td> <td>12. 模擬授業の実践 3</td> </tr> <tr> <td>6. 教授法と関連する理論</td> <td>13. 学習者へのフィードバック</td> </tr> <tr> <td>7. 教授法と教室活動</td> <td>14. 教師の役割とコース評価</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> </table>					1. 授業の進め方 文法項目と機能	8. 特色ある教授法	2. カリキュラムとシラバス	9. 模擬授業の組み立て	3. シラバスデザイン	10. 模擬授業の実践 1	4. コースデザインの基本	11. 模擬授業の実践 2	5. 教授法の変遷とその背景	12. 模擬授業の実践 3	6. 教授法と関連する理論	13. 学習者へのフィードバック	7. 教授法と教室活動	14. 教師の役割とコース評価		15. 全体のまとめ
1. 授業の進め方 文法項目と機能	8. 特色ある教授法																				
2. カリキュラムとシラバス	9. 模擬授業の組み立て																				
3. シラバスデザイン	10. 模擬授業の実践 1																				
4. コースデザインの基本	11. 模擬授業の実践 2																				
5. 教授法の変遷とその背景	12. 模擬授業の実践 3																				
6. 教授法と関連する理論	13. 学習者へのフィードバック																				
7. 教授法と教室活動	14. 教師の役割とコース評価																				
	15. 全体のまとめ																				
◇ 成績評価の方法	筆記試験 [40%]・レポート [30%]・平常点 (発言およびクラス参加度、授業課題) [30%]																				
◇ 教科書・参考書	参考書：小林ミナ (2010)『日本語教育能力検定試験に合格するための教授法37』アルク。 D.A. ウィルキンズ (1984)『ノーショナルシラバス』桐原書店/オックスフォード。 川口義一・横溝紳一郎 (2005)『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』ひつじ書房。																				
◇ 授業時間外学習	授業時に配布したプリントを復習する。参考書を読む。 模擬授業の実施については、グループメンバーと相談して案を練り、授業に必要なものを用意する。																				
その他：原則として3セメスターの日本語教育学概論「日本語と日本語教育」を受講済みであること。 3回以上欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 論 概 論 Study of Contemporary Japan (General Lecture)	2	准教授 田 中 重 人	3	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN206J																				
◆ 授業題目	現代日本における家族 (Family in Japan)																				
◆ 目的・概要	「家族」をめぐる問題は、さまざまな学問領域で研究対象となっています。この授業では、社会学を中心に、法学・経済学・人口学などにおける家族研究の成果を概観したうえで、現代日本社会における家族問題について考えます。トピックとしては、親族関係の分析、家族の形態と制度、結婚と離婚、出生と育児、ライフコースからみた家族、人口変動と家族などをとりあげます。授業においては、およそ2回に1回の割合で、これらのトピックに関連したテーマを設定して、授業時間内に作文を完成させる課題を課します。また法律や統計などの資料を探索・解釈する宿題を課したり、各自の役割分担にしたがって調べたことを互いに教えあう活動をすることもあります。																				
◆ 到達目標	(1)家族研究の基礎的な概念と理論を理解する； (2)実証的データに基づいて現代日本における家族の現状を把握する																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 進捗確認課題</td> </tr> <tr> <td>2. 親族と家族</td> <td>10. ライフサイクルの変化</td> </tr> <tr> <td>3. 家族の法：報告と討論 (1)</td> <td>11. 家族変動</td> </tr> <tr> <td>4. 家族の法：報告と討論 (2)</td> <td>12. 家族の経済学 (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 家族の法：まとめ</td> <td>13. 家族の経済学 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 法律情報の調べかた</td> <td>14. 復習と進捗確認課題</td> </tr> <tr> <td>7. 人口学の考えかた</td> <td>15. 全体のまとめと講評</td> </tr> <tr> <td>8. 結婚と出生</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 進捗確認課題	2. 親族と家族	10. ライフサイクルの変化	3. 家族の法：報告と討論 (1)	11. 家族変動	4. 家族の法：報告と討論 (2)	12. 家族の経済学 (1)	5. 家族の法：まとめ	13. 家族の経済学 (2)	6. 法律情報の調べかた	14. 復習と進捗確認課題	7. 人口学の考えかた	15. 全体のまとめと講評	8. 結婚と出生	
1. イントロダクション	9. 進捗確認課題																				
2. 親族と家族	10. ライフサイクルの変化																				
3. 家族の法：報告と討論 (1)	11. 家族変動																				
4. 家族の法：報告と討論 (2)	12. 家族の経済学 (1)																				
5. 家族の法：まとめ	13. 家族の経済学 (2)																				
6. 法律情報の調べかた	14. 復習と進捗確認課題																				
7. 人口学の考えかた	15. 全体のまとめと講評																				
8. 結婚と出生																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題によって評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】神原文子 (ほか編) (2016)『よくわかる現代家族』(第2版) ミネルヴァ書房。 【参考書】利谷信義 (2010)『家族の法』(第3版) 有斐閣。 藤見純子・西野理子 (2009)『現代日本人の家族』有斐閣。 京極高宣・高橋重郷 (2008)『日本の人口減少社会を読み解く』中央法規出版。 湯沢雍彦・宮本みち子 (2008)『データで読む家族問題』(新版) 日本放送出版協会。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の課題・宿題																				
その他：授業中の課題遂行のため、携帯用通信機器や電子辞書の持ち込みを推奨する。 授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 論 概 論 Study of Contemporary Japan (General Lecture)	2	准教授 田 中 重 人	4	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN206J																				
◆ 授業題目	現代日本における職業 (Work in Japan)																				
◆ 目的・概要	職業・労働について、社会学を中心に、経済学・経営学・法学などにおけるとらえかたを概観したうえで、現代日本社会における問題について考えていきます。トピックとしては、労働統計の読みかた、雇用をめぐる法と政策、外部労働市場と内部労働市場、社会階層と社会移動、ジェンダーと労働などをとりあげます。授業においては、およそ2回に1回の割合で、これらのトピックに関連したテーマを設定して、授業時間内に作文を完成させる課題を課します。また、法律や統計などの資料を探索・解釈する宿題を課すこともあります。																				
◆ 到達目標	現代日本社会における職業と労働に関する諸問題を理解する																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 社会階層と職業</td> </tr> <tr> <td>2. 労働統計 (1) さまざまな働きかた</td> <td>10. 社会移動と職業・教育</td> </tr> <tr> <td>3. 労働統計 (2) 賃金と労働時間</td> <td>11. ジェンダーと労働</td> </tr> <tr> <td>4. 雇用をめぐる法と政策 (1)</td> <td>12. 社会的不平等と職業</td> </tr> <tr> <td>5. 雇用をめぐる法と政策 (2)</td> <td>13. 課題再提出と進捗確認課題</td> </tr> <tr> <td>6. 外部労働市場と内部労働市場</td> <td>14. 課題返却と講評</td> </tr> <tr> <td>7. 企業の人事管理と労働者のキャリア</td> <td>15. 授業全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 前回までの復習と進捗確認課題</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 社会階層と職業	2. 労働統計 (1) さまざまな働きかた	10. 社会移動と職業・教育	3. 労働統計 (2) 賃金と労働時間	11. ジェンダーと労働	4. 雇用をめぐる法と政策 (1)	12. 社会的不平等と職業	5. 雇用をめぐる法と政策 (2)	13. 課題再提出と進捗確認課題	6. 外部労働市場と内部労働市場	14. 課題返却と講評	7. 企業の人事管理と労働者のキャリア	15. 授業全体のまとめ	8. 前回までの復習と進捗確認課題	
1. イントロダクション	9. 社会階層と職業																				
2. 労働統計 (1) さまざまな働きかた	10. 社会移動と職業・教育																				
3. 労働統計 (2) 賃金と労働時間	11. ジェンダーと労働																				
4. 雇用をめぐる法と政策 (1)	12. 社会的不平等と職業																				
5. 雇用をめぐる法と政策 (2)	13. 課題再提出と進捗確認課題																				
6. 外部労働市場と内部労働市場	14. 課題返却と講評																				
7. 企業の人事管理と労働者のキャリア	15. 授業全体のまとめ																				
8. 前回までの復習と進捗確認課題																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題によって評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【参考書】厚生労働省 (2015)『知って役立つ労働法』。 労働政策研究・研修機構 (2010)「特集：初学者に語る労働問題」『日本労働研究雑誌』597。 宮本太郎 (2009)『生活保障』岩波書店。 犬塚先 (編) (2003)『新しい産業社会学』(改訂版) 有斐閣。 嵩さやか・田中重人 (編) (2007)『雇用・社会保障とジェンダー』東北大学出版会。																				
◇ 授業時間外学習	各回の課題・宿題																				
その他：受講者は、3セメスタ開講の現代日本論概論「現代日本における家族」を履修しているか、それと同等の知識を習得済みであることが望ましい。授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 学 基 礎 講 読 Teaching of Japanese Language (Introductory Reading)	2	教授 才 田 いずみ	3	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN213J				
◆ 授業題目	外国語学習と習得 (Foreign Language Learning and its Acquisition)				
◆ 目的・概要	<p>1) 応用言語学の分野の基本的な英文文献を読み、言語習得・外国語習得についての基本的な考え方や重要な研究成果を知る。</p> <p>2) 外国語を学ぶことのメカニズムやそれに関係する諸要素についての知識を得るとともに、よりよい外国語学習のあり方についても考える力をつける。授業を進める方法については、初回授業で受講者と相談して決定するが、担当教員の提案は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書として提示した英文文献を1週または2週に1章のペースで読み進める。 ・毎回各章の内容を問うタスクシートを与えるので、受講者はそれに従って各自予習をする。 ・授業では小グループで予習結果を確認しつつ、教科書に掲載されている問題について考えたり、自分たちの抱いた疑問点について考えたりする。さらに、自らの外国語学習経験などと記載内容を照らし合わせながら、内容についてディスカッションを行い、理解を深める。 ・グループで話し合っても解決できない点があれば、教員に尋ねたりクラス全体で考えたりする。 				
◆ 到達目標	<p>1) 言語習得や言語教育の分野の研究に必要な概念や用語に親しむ。</p> <p>2) 第一言語習得と第二言語習得の共通点、相違点を知る。</p> <p>3) 学習者にとって外国語を学ぶという行為がどのようなものであるのかを知る。</p> <p>4) 外国語学習の授業のあり方について自分の考えを明確化する。</p>				
◆ 授業内容・方法	<p>1. 授業のガイダンス授業の進め方の決定、次週以降の担当の決定。</p> <p>2. Chapter 1 の内容について話し合う。予習でよく理解できなかった点については相互に質問し合って確認する (以下、方法は同じ)。</p> <p>3. Chapter 2</p> <p>4. Chapter 3 の前半</p> <p>5. Chapter 3 の後半</p> <p>6. Chapter 4 の前半</p> <p>7. Chapter 4 の後半</p> <p>8. Chapter 5 の1回め</p> <p>9. Chapter 5 の2回め</p> <p>10. Chapter 5 の3回め</p> <p>11. Chapter 6</p> <p>12. Chapter 7 の前半</p> <p>13. Chapter 7 の後半</p> <p>14. Chapter 8</p> <p>15. Conclusion とまとめ</p> <p>全体を読んだ段階で、第二言語習得について理解したこと、疑問に思ったことなどについても話し合う。</p>				
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]・出席 [10%]・「授業課題およびクラス貢献度」 [40%]				
◇ 教科書・参考書	教科書：Brown, Steven and Larson-Hall, Jenifer (2012) <i>Second Language Acquisition Myths: Applying second language research to classroom teaching</i> . Ann Arbor: The University of Michigan Press.				
◇ 授業時間外学習	毎回配布するタスクシートを用いながら、定められた範囲を予習する。授業進行の担当者となったときには、テキストの内容で皆がつかまざりそうな箇所について、関連文献を調べて説明できるようにしておく。				
その他：3回以上欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 学 基 礎 講 読 Teaching of Japanese Language (Introductory Reading)	2	准教授 小 河 原 義 朗	4	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN213J				
◆ 授業題目	日本語教育文法 (Pedagogical Grammar in Japanese)				
◆ 目的・概要	日本語を教えるために必要な日本語文法の基礎を理解し、具体的な授業実践と結び付けて考えることを目指す。授業は、毎回提示されるトピックに関する課題に答えるために、資料等を使って次のような活動を通して進める。(1)課題に対する考えをまとめる。(2)個別、または協働して担当資料を理解し、課題を解く。(3)担当資料、課題に対する解を共有、発表し合い、全体で議論する。(4)課題に対する解について改めてまとめる。				
◆ 到達目標	<p>(1)日本語教育ための文法の基礎を理解し、説明できる。</p> <p>(2)基礎的な文法知識を使って日本語を分析することができる。</p> <p>(3)文法を日本語教育の実践と結び付けて考えることができる。</p>				
◆ 授業内容・方法	<p>1. イントロダクション</p> <p>2. 文法を教える</p> <p>3. 品詞 (1)</p> <p>4. 品詞 (2)</p> <p>5. 文の構造</p> <p>6. 格助詞</p> <p>7. 主題化</p> <p>8. 自動詞と他動詞</p> <p>9. ヴォイス</p> <p>10. テンス</p> <p>11. アスペクト</p> <p>12. ムード</p> <p>13. 複文</p> <p>14. 文章と談話</p> <p>15. まとめと期末テスト</p>				
◇ 成績評価の方法	期末テスト 30%・課題 40%・授業参加度 30%				
◇ 教科書・参考書	授業内で指定、または配布する。				
◇ 授業時間外学習	毎回提示される課題に取り組むために個別、または協働して次回授業のための準備を行う。				
その他：3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 論 基 礎 講 読 Study of Contemporary Japan (Introductory Reading)	2	准教授 田 中 重 人	3	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN214J																				
◆ 授業題目	論文作成の基礎 (Basics of Academic Writing)																				
◆ 目的・概要	大学での研究 (たとえば授業での課題、レポート、卒業論文など) で要求される文章は、高等学校までの「作文」とは本質的にちがいます。研究の文章には、(1)データに基づいた論理的な推論を中心とする、(2)論理構造に沿った章立てや段落分けが重要である、(3)誤解をまねかないよう正確に書かなければならない、(4)先人の業績と自分の意見とを区別しなければならない、(5)そのために文献参照の規則がこまかく定められている、といった特徴があります。この授業では、これらのルールを学ぶと同時に、実際に論文を執筆し、受講者相互の批評をとおして執筆のプロセスを習得します。																				
◆ 到達目標	大学での研究に必要な文章の書きかたを習得する																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. データを簡潔に表現する; 中間レポート提出</td> </tr> <tr> <td>2. 論文の基本形</td> <td>10. 科学的文体</td> </tr> <tr> <td>3. パラグラフ</td> <td>11. 書誌情報の利用</td> </tr> <tr> <td>4. 文と文をつなぐ</td> <td>12. 中間レポートの返却と講評; 期末レポートについて面談</td> </tr> <tr> <td>5. 構文解析</td> <td>13. 文献参照の種類と方法</td> </tr> <tr> <td>6. 構想・立案・材料の準備</td> <td>14. 公表文書の倫理</td> </tr> <tr> <td>7. 草稿を読む</td> <td>15. 全体のまとめ; 期末レポート執筆に向けて討論</td> </tr> <tr> <td>8. 記号などの用法</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. データを簡潔に表現する; 中間レポート提出	2. 論文の基本形	10. 科学的文体	3. パラグラフ	11. 書誌情報の利用	4. 文と文をつなぐ	12. 中間レポートの返却と講評; 期末レポートについて面談	5. 構文解析	13. 文献参照の種類と方法	6. 構想・立案・材料の準備	14. 公表文書の倫理	7. 草稿を読む	15. 全体のまとめ; 期末レポート執筆に向けて討論	8. 記号などの用法	
1. イントロダクション	9. データを簡潔に表現する; 中間レポート提出																				
2. 論文の基本形	10. 科学的文体																				
3. パラグラフ	11. 書誌情報の利用																				
4. 文と文をつなぐ	12. 中間レポートの返却と講評; 期末レポートについて面談																				
5. 構文解析	13. 文献参照の種類と方法																				
6. 構想・立案・材料の準備	14. 公表文書の倫理																				
7. 草稿を読む	15. 全体のまとめ; 期末レポート執筆に向けて討論																				
8. 記号などの用法																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題 (40%)、中間レポート (20%)、期末レポート (40%) を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 木下是雄 (1981) 『理科系の作文技術』 中央公論社。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の課題とレポート作成																				
その他: 日本語教育学研究室で卒業論文を執筆するためには、論文の書きかたを習得していることが必要条件になるので、同研究室所属の学部生は必ず受講すること。授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 論 基 礎 講 読 Study of Contemporary Japan (Introductory Reading)	2	准教授 田 中 重 人	4	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN214J																				
◆ 授業題目	研究法入門 (Academic Study Skills)																				
◆ 目的・概要	「研究」とは、答えるに値する問いを見つけ、その問いに対して根拠のはっきりとした答えを導くプロセスです。この授業では、各自の問題関心にしたがって、問いを設定し、それについて調べて答えを出すプロセスを実際に体験することにより、研究の方法を身につけることをめざします。書籍・雑誌・マスメディアなどからの資料収集と読解、情報整理とアイデア創出、発表と討論の技術のほか、書店や図書館などの施設の利用方法も学びます。																				
◆ 到達目標	知的生産に必要な資料収集、読解、アイデア創出、論理的思考、批判、討論の技術を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 「研究」とは何か</td> <td>9. アイディアの創出</td> </tr> <tr> <td>2. 卒業論文・修士論文について発表</td> <td>10. アイディアの交換</td> </tr> <tr> <td>3. 図書館見学実習</td> <td>11. プロジェクトとしての研究</td> </tr> <tr> <td>4. 研究テーマについて面談</td> <td>12. 議論を組み立てる</td> </tr> <tr> <td>5. 本を読む (1): 速読</td> <td>13. 期末レポートについて面談</td> </tr> <tr> <td>6. 書店実習</td> <td>14. 発表会</td> </tr> <tr> <td>7. 本を読む (2): 批判と議論</td> <td>15. 口頭試問</td> </tr> <tr> <td>8. 本を読む (3): 精読</td> <td></td> </tr> </table>					1. 「研究」とは何か	9. アイディアの創出	2. 卒業論文・修士論文について発表	10. アイディアの交換	3. 図書館見学実習	11. プロジェクトとしての研究	4. 研究テーマについて面談	12. 議論を組み立てる	5. 本を読む (1): 速読	13. 期末レポートについて面談	6. 書店実習	14. 発表会	7. 本を読む (2): 批判と議論	15. 口頭試問	8. 本を読む (3): 精読	
1. 「研究」とは何か	9. アイディアの創出																				
2. 卒業論文・修士論文について発表	10. アイディアの交換																				
3. 図書館見学実習	11. プロジェクトとしての研究																				
4. 研究テーマについて面談	12. 議論を組み立てる																				
5. 本を読む (1): 速読	13. 期末レポートについて面談																				
6. 書店実習	14. 発表会																				
7. 本を読む (2): 批判と議論	15. 口頭試問																				
8. 本を読む (3): 精読																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題 (50%)、学期末に提出するレポートと口頭試問 (50%: 主要な評価項目は、意味のある問いをたてて根拠のある答えを導いているかと、その答えに対する批判的な姿勢を持っているか)																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 佐藤望ほか (2012) 『アカデミック・スキルズ: 大学生のための知的技法入門』 (第2版) 慶應義塾大学出版会。																				
◇ 授業時間外学習	各回の課題のほか、各自のレポート作成のための研究活動をおこなう																				
その他: 受講人数や各種施設の利用期日などによって授業計画を変更する可能性があります。また、授業時間外に、個別面談やグループ活動をおこなうことがあります。授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 学 各 論 Teaching of Japanese Language (Special Lecture)	2	非常勤 講師 横 溝 紳一郎	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN307J				
◆ 授業題目	日本語教育方法論 (Japanese Language Pedagogy)				
◆ 目的・概要	日本語教育の現場で生じる様々な出来事に適切に対処するために必要不可欠な技術・知識について、包括的に講義を行う。				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語教師の役割が理解できる。 2. テストと評価の大切さが理解できる。 3. 教材と学習環境の大切さが理解できる。 4. 多様な学習者を受け止め、その多様性への対応の大切さが理解できる。 5. 学習者との信頼関係づくりの大切さが理解できる。 6. 教師としての自分の言動を振り返るポイントが理解できる。 7. 自律的学習者の育成方法が理解できる。 8. 学習支援者としての心構えが理解できる。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、教師の成長 2. 教師の役割 3. テストと評価 (1) 4. テストと評価 (2) 5. 教材と学習環境 (1) 6. 教材と学習環境 (2) 7. 多様な学習者の理解 8. 多様な学習者への対応 9. 学習者との信頼関係づくり (1) 10. 学習者との信頼関係づくり (2) 11. 教師の言動の振り返り (1) 12. 教師の言動の振り返り (2) 13. 教師の言動の振り返り (3) 14. 自律的学習者の育成 15. 学習支援者としての心構え、まとめ 				
◇ 成績評価の方法	出席を含む授業態度 (50%) と、期末レポート (50%) により評価する。欠席3回で、自動的に不可となる。遅刻・早退は、2回で欠席1回とみなす。				
◇ 教科書・参考書	教科書：横溝紳一郎 (2011) 『クラスルーム運営』 くらしお出版 参考書：川口義一・横溝紳一郎 (2005) 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上・下』 ひつじ書房				
◇ 授業時間外学習	毎回の授業で学んだ内容について、教科書に書かれている内容をしっかり復習し、理解を深め続けること。				
その他：	1. 出席と積極的な参加を重視します。(授業中の私語・スマホ使用は厳禁!) 2. これまでの学習者/教師としての体験を振り返りながら、授業に参加してください。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 学 各 論 Teaching of Japanese Language (Special Lecture)	2	非常勤 講師 長 田 佳奈子	5	火	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN307J				
◆ 授業題目	海外の日本語教育 (Japanese-Language Education Abroad)				
◆ 目的・概要	海外における日本語教育が広がる中、母語話者教師、非母語話者教師を問わず、日本語教師が果たすべき役割も多様化している。教師として日本語を教えるだけでなく、現地の教師育成支援、ネットワーク形成、アドボカシー等に貢献できるよう、海外の日本語教育を、さまざまな視点からとらえる。				
◆ 到達目標	海外における日本語教育の現状、課題を捉え、その対策が考えられる。海外で、現地の日本語教育関係者とともに、カリキュラムを考えたり、研修やイベントを実施したりするために必要な視点を得る。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 海外で教える日本語教師に求められる要素 3. 海外の日本語教育の現状 (アジア) 4. 海外の日本語教育の現状 (アジア以外) 5. 海外の初・中等教育における日本語科目 6. 海外の高等教育における日本語教育 7. 海外の日本語予備教育 8. 海外で求められるビジネス日本語 9. 海外における日本語教師養成、教師育成 10. 海外における母語話者教師と非母語話者教師のチーム・ティーチング 11. 海外で現地日本語母語話者をゲストに呼んだ日本語授業を実施する 12. 海外で日本語学習者対象の日本語、日本文化イベントを企画、運営する 13. 非母語話者教師対象のワークショップを企画、運営する 14. 海外における日本語教師ネットワーク形成 15. まとめ <p>海外における日本語教育の現状と課題</p>				
◇ 成績評価の方法	レポート 50%・授業課題 30%・発言ならびにクラス参加度とクラス貢献度 20%				
◇ 教科書・参考書	参考書：椎名和男編 (2006) 『海外で日本語を教える - ネイティブ日本語教師への期待 -』 凡人社				
◇ 授業時間外学習	参考書、配布資料を読む。与えられた課題を行う。				
その他：	特別な理由なく3回以上欠席した場合には単位を与えないので注意すること。授業内で多くの発表活動を行うが、発表に対しては他の受講者からの率直な評価や改善案の提示などのフィードバックが期待されている。 各受講者には積極的に課題に取り組み、クラス全体の学習に貢献すること。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 学 各 論 Teaching of Japanese Language (Special Lecture)	2	非常勤 講師 島 崎 薫	6	金	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN307J				
◆ 授業題目	学習者と社会 (Japanese language learners and society)				
◆ 目的・概要	日本語学習者が日本語使用者としてどのように社会の中で活動しているのかを知り、実践研究や報告を参照しながら、日本語教師はどのように日本語学習者の日本語使用者としての社会での活動や学びを支援できるのかを考えます。				
◆ 到達目標	(1)日本語学習者が日本語使用者としてどのように教室の外で活動しているのかを知る (2)日本語学習者と社会に関する論文や実践報告などをクリティカルに読むことができる (3)学習者の日本語使用者としての社会での学びや活動を支援するプログラムデザインができるようになる (4)グループで協力しながらプログラムデザインを行うことができる				
◆ 授業内容・方法	1. オリエンテーション、自己紹介 2. 理論的背景を学ぶ (社会文化アプローチ、状況論、リソースなど) 3. 教室の中に社会を持ち込む ① 4. 教室の中に社会を持ち込む ② 5. 教室と社会を繋げる ① 6. 教室と社会を繋げる ② 7. 社会を教室にする ① 8. 社会を教室にする ② 9. 社会を教室にする ③ 10. 日本語学習者の教室外での日本語使用を知る 11. 東北大学のサマープログラムの紹介/プログラムデザイン 12. グループでプログラムデザイン 13. デザインしたプログラムをグループごとに中間発表 14. 中間発表でのフィードバックを踏まえて最終発表に向けての準備 15. 受講生のデザインしたプログラム最終発表、まとめ				
◇ 成績評価の方法	参加態度 40%、プログラムデザイン (グループプロジェクト) 30%、最終レポート 30%				
◇ 教科書・参考書	授業内で適宜配布予定				
◇ 授業時間外学習	授業時間外でグループ活動をする必要があります。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 学 講 読 Teaching of Japanese Language (Reading)	2	教授 才 田 いずみ	6	月	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN317J				
◆ 授業題目	中間言語語用論 (Interlanguage Pragmatics)				
◆ 目的・概要	中間言語語用論に関する文献の講読を通じて、語用論の基礎を学ぶ。日本語の文献を講読するが、必要に応じて英文文献も参照する。授業の進め方については、初回に受講者と相談して決定するが、教員の提案は以下のとおり。 ・ 3人程度の小グループを編成し、グループごとにローテーションで発表者 (レポーター) 役と指定討論者 (ディスカッサント) 役を務める。 ・ 指定討論者グループは、発表者グループとは独立に予習を行い、重要なポイントやわかりにくい点などについて、発表者に対して確認・質問をする。 ・ 発表者グループは、協力し合ってわかりやすいレジюмеを作成し、それを言いながら、授業を進める。質問等に答えるだけでなく、受講者に対して質問を発し、考えさせるなど、全員を授業に参加させる工夫ある授業進行が要求される。				
◆ 到達目標	語用論の基礎を学び、用語を理解する。学習者の目標言語の発達過程や母語との関係などについての知識を得る。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 2. 第1章 3. 第2章 4. 第3章 (1) 5. 第3章 (2) 6. 第4章 (1) 7. 第4章 (2) 8. 第5章 (1) 9. 第5章 (2) 10. 第5章 (3) 11. 第6章 12. 第7章 (1) 13. 第7章 (2) 14. 第8章 15. まとめ				
◇ 成績評価の方法	期末レポート 40%、発表者役と授業進行とレジюме作成 20%、指定討論者役 20%、その他の授業貢献 10%、出席 10%				
◇ 教科書・参考書	教科書：清水崇文 (2009) 『中間言語語用論概論：第二言語学習者の語用論的能力の使用・習得・教育』スリーエーネットワーク。				
◇ 授業時間外学習	教科書を予習すること。読んでわからない点を整理し、わからないことについては、関連文献を調べたりすること。あるいは、授業で発表者グループに質問できるようにしておくこと。				
3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。 その他：発表者役や指定討論者役を務めるときには、グループ内でよく協力して準備すること。準備を欠席したり、当日の授業をメンバーに無断で欠席するなどの迷惑行為は慎むこと。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 学 演 習 Teaching of Japanese Language (Seminar)	2	教授 才 田 いずみ	5	月	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN318J				
◆ 授業題目	読解の授業と教材 (Activities and Materials for Reading Comprehension)				
◆ 目的・概要	読解という活動は、取り組んでいる学習者がどのように理解に達しているかが見えない活動である。通常、内容確認質問を行うことで理解の程度を知ろうとするわけだが、内容確認質問への答えからは何がわかるだろうか。教師は、授業の中で学習者に行わせる活動を通して何が把握でき、何が把握できないのかを意識して活動を展開する必要がある。この授業では、読みをめぐる教材とタスクデザインによって、学習者がどのようなことを考えたのか、あるいは考えているのかを、可視化するにはどうしたらよいか、受講者全員で考える。また、自分のアイデアを盛り込んだ読解教材あるいはタスクデザインの提案を行い、それぞれの提案について議論することによって、よりよい教材や授業デザインを志向する。				
◆ 到達目標	学習者が読むことに取り組みやすい教材デザインとはどのようなものかを考えることができるようになる。学習者の読みのプロセスが把握しやすくなる教材デザインや授業活動の展開方法について、さまざまなアイデアを出すことができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 市販教材の検討 (1) 3. 改善策の検討と提案 (1) 4. 改善策の検討と提案 (2) 5. 市販教材の検討 (2) 6. タスクの検討：その意味と期待される効果 7. リソースの選定について 8. 予習の与え方について 9. フィードバックが組み込まれるタスクとは 10. 発表と質疑 (1) 11. 発表と質疑 (2) 12. 発表と質疑 (3) 13. 改善の提案 (1) 14. 改善の提案 (2) 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	期末レポート30%、教材・タスクの提案20%、発表とその態度20%、質疑・コメント等による授業への貢献20%、出席10%				
◇ 教科書・参考書	教科書は用いない。参考文献は適宜紹介する。 参考書：奥田純子監修、竹田悦子他編著 (2011)『読む力 中級』くろしお出版 縫部義憲編著 (2002)『多文化共生時代の日本語教育－日本語の効果的な教え方・学び方』歴々社ほか				
◇ 授業時間外学習	授業課題を行い、わかりやすい発表の準備をする。紹介された文献を読む。自分の読みの活動を観察し内省する。				
その他：授業では、積極的に発言し、他の受講者の思考に刺激を与える存在になること。3回以上授業を欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 学 演 習 Teaching of Japanese Language (Seminar)	2	准教授 小 河 原 義 朗	5	金	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN318J				
◆ 授業題目	日本語コースカリキュラムの評価 (Japanese Language Course evaluation)				
◆ 目的・概要	日本語コースカリキュラムの評価は、誰が何のために行うのか (目的)、コースカリキュラムの中でどのような位置づけにあるのか (役割)、何を評価の対象にするのか (能力)、どのような種類があるのか (方法) について、学習活動の体験、テスト・ルーブリックの作成、スタンダードの分析等を通じて基本的なことを確認する。そして、コースカリキュラムにおいて、学習目標が評価を規定し、評価が学習活動を規定すること、多面的な評価の重要性を認識することを目指す。				
◆ 到達目標	(1)言語教育における評価の現況について、基本的な考え方を理解し、説明できる。 (2)日本語コースカリキュラムのバックワード・デザインができる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. プロジェクト型学習 (1) 3. プロジェクト型学習 (2) 4. テストによる評価 (1) 5. テストによる評価 (2) 6. テストによる評価 (3) 7. 伝統的評価と代替的評価 8. 教育アプローチの変化 9. 学習目標の変化 10. 評価の変化 11. スタンダードの分析 (1) 12. スタンダードの分析 (2) 13. ルーブリック 14. ポートフォリオ 15. バックワード・デザインとまとめ 				
◇ 成績評価の方法	最終レポート 30%・課題 40%・授業参加度 30%				
◇ 教科書・参考書	授業内で指定、または配布する。				
◇ 授業時間外学習	毎回提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。				
その他：3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 語 教 育 学 演 習 Teaching of Japanese Language (Seminar)	2	准教授 小河原 義 朗	6	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN318J																				
◆ 授業題目	学習者の音声と教育 (Learners' Pronunciation and its Education)																				
◆ 目的・概要	日本語学習者はよりよい音声の実現に対して、高いニーズを持っている。この演習では、さまざまな母語を持つ学習者のいる教室を念頭に、有効な音声教育の方法について考えていく。 授業においては、具体的な指導法を考えて実践してみる活動や、市販の教材の利用法の検討、オリジナル教材の作成など、グループや個人単位での活動とその発表が盛り込まれる。 各受講者は積極的に課題に取り組み、クラス全体の学習に貢献すること。 日本語学習者に対する音声教育について、その考え方や方法を学び、基礎的な運用ができるようになる。																				
◆ 到達目標	日本語学習者に対する音声教育について、その考え方や方法を学び、基礎的な運用ができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 韻律 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. 音声とコミュニケーション</td> <td>10. 教科書分析と模擬授業 (1)</td> </tr> <tr> <td>3. 音声言語と文字言語</td> <td>11. 教科書分析と模擬授業 (2)</td> </tr> <tr> <td>4. 学習者の音声</td> <td>12. 模擬授業の振り返り</td> </tr> <tr> <td>5. 子音・母音 (1)</td> <td>13. 音声教育と研究 (1)</td> </tr> <tr> <td>6. 子音・母音 (2)</td> <td>14. 音声教育と研究 (2)</td> </tr> <tr> <td>7. 特殊拍と音素</td> <td>15. 音声教育の方法と教師の役割・まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 韻律 (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 韻律 (2)	2. 音声とコミュニケーション	10. 教科書分析と模擬授業 (1)	3. 音声言語と文字言語	11. 教科書分析と模擬授業 (2)	4. 学習者の音声	12. 模擬授業の振り返り	5. 子音・母音 (1)	13. 音声教育と研究 (1)	6. 子音・母音 (2)	14. 音声教育と研究 (2)	7. 特殊拍と音素	15. 音声教育の方法と教師の役割・まとめ	8. 韻律 (1)	
1. イントロダクション	9. 韻律 (2)																				
2. 音声とコミュニケーション	10. 教科書分析と模擬授業 (1)																				
3. 音声言語と文字言語	11. 教科書分析と模擬授業 (2)																				
4. 学習者の音声	12. 模擬授業の振り返り																				
5. 子音・母音 (1)	13. 音声教育と研究 (1)																				
6. 子音・母音 (2)	14. 音声教育と研究 (2)																				
7. 特殊拍と音素	15. 音声教育の方法と教師の役割・まとめ																				
8. 韻律 (1)																					
◇ 成績評価の方法	期末レポート 30%・授業課題 40%・発言ならびにクラス参加度とクラス貢献度 30%																				
◇ 教科書・参考書	参考書：松崎寛・河野俊之 (1998) 『よくわかる音声』 アルク。 小河原義朗・河野俊之 (2009) 『日本語教師のための音声教育を考える本』 アルク、ほか																				
◇ 授業時間外学習	参考書を読む。与えられた課題を行う。																				
特別な理由なく3回以上欠席した場合には単位を与えないので注意すること。 その他：授業内で多くの発表活動を行うが、発表に際しては、他の受講者からの率直な評価や改善案の提示などのフィードバックが得られるよう、わかりやすい提示を心がけること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																								
日 本 語 教 育 学 実 習 Teaching of Japanese Language (Practice)	2	准教授 小河原 義 朗	5	水	3・4																								
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN319J																												
◆ 授業題目	日本語コース運営の基礎 (Designing a Japanese Language Course)																												
◆ 目的・概要	10月から運営する日本語コースを念頭におきながら、教科書分析および模擬授業とその検討を中心に、以下の内容を扱う。 1 語学学習環境としての「教室」のあり方 2 学習支援者としての教師のあり方 3 シラバス、到達目標設定、学習項目設定 4 授業見学の視点 5 授業活動デザイン 6 学習者の日本語																												
◆ 到達目標	日本語コースを運営するための基礎的な知識と技能を養う。																												
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>10. 中級の模擬授業実施と振り返り 1</td> </tr> <tr> <td>2. 日本語初級用教科書の検討 1</td> <td>11. 中級の模擬授業実施と振り返り 2</td> </tr> <tr> <td>3. マイクロティーチング 1</td> <td>12. 授業見学の視点</td> </tr> <tr> <td>日本語初級用教科書の検討 2</td> <td>シラバスデザイン案の作成</td> </tr> <tr> <td>4. マイクロティーチング 2</td> <td>13. 教師と学習者のあり方について</td> </tr> <tr> <td>授業活動デザインについて</td> <td>コース概要と学習者の募集役割分担</td> </tr> <tr> <td>5. 日本語初級用教科書の検討 3</td> <td>14. オリエンテーションの実施プラン作成</td> </tr> <tr> <td>6. 模擬授業の実施</td> <td>ニーズ調査・プレイメントテストの検討</td> </tr> <tr> <td>7. 模擬授業の振り返り</td> <td>15. まとめと6セメスターの日本語コース開講準備</td> </tr> <tr> <td>8. 日本語中級用教科書の検討 1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 日本語中級用教科書の検討 2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業活動のデザインの検討</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	10. 中級の模擬授業実施と振り返り 1	2. 日本語初級用教科書の検討 1	11. 中級の模擬授業実施と振り返り 2	3. マイクロティーチング 1	12. 授業見学の視点	日本語初級用教科書の検討 2	シラバスデザイン案の作成	4. マイクロティーチング 2	13. 教師と学習者のあり方について	授業活動デザインについて	コース概要と学習者の募集役割分担	5. 日本語初級用教科書の検討 3	14. オリエンテーションの実施プラン作成	6. 模擬授業の実施	ニーズ調査・プレイメントテストの検討	7. 模擬授業の振り返り	15. まとめと6セメスターの日本語コース開講準備	8. 日本語中級用教科書の検討 1		9. 日本語中級用教科書の検討 2		授業活動のデザインの検討	
1. イントロダクション	10. 中級の模擬授業実施と振り返り 1																												
2. 日本語初級用教科書の検討 1	11. 中級の模擬授業実施と振り返り 2																												
3. マイクロティーチング 1	12. 授業見学の視点																												
日本語初級用教科書の検討 2	シラバスデザイン案の作成																												
4. マイクロティーチング 2	13. 教師と学習者のあり方について																												
授業活動デザインについて	コース概要と学習者の募集役割分担																												
5. 日本語初級用教科書の検討 3	14. オリエンテーションの実施プラン作成																												
6. 模擬授業の実施	ニーズ調査・プレイメントテストの検討																												
7. 模擬授業の振り返り	15. まとめと6セメスターの日本語コース開講準備																												
8. 日本語中級用教科書の検討 1																													
9. 日本語中級用教科書の検討 2																													
授業活動のデザインの検討																													
◇ 成績評価の方法	レポート [40%]・出席 [10%]・その他 (「発表態度」「クラス貢献度」「ジャーナル」) [50%]																												
◇ 教科書・参考書	参考書：文化外国語専門学校編 (2000) 『新文化初級日本語 I』 凡人社。 筑波ランゲージグループ (1991) 『Situational Functional Japanese』 Notes vol.1-3, Drill vol.1-3 凡人社。 川口義一・横溝紳一郎 (2005) 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上・下』 ひつじ書房、ほか。																												
◇ 授業時間外学習	日本語の教科書を種々閲読し、内容や使用方法について考える。マイクロティーチングや模擬授業の教案を立てて準備する。実施したマイクロティーチングや模擬授業について、問題点を洗い出し、改善策を考える。																												
日本語教育学概論、3セメスター開講の日本語教育学基礎講義を含む関係科目を10単位以上履修済みまたは履修中のこと。 その他：6セメスター開講の日本語教育学実習も引き続き履修すること。全回授業に出席し、積極的に参加すること。 時間外に、日本語授業見学と見学レポートを課す可能性があるので注意すること。																													

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 学 実 習 Teaching of Japanese Language (Practice)	2	准教授 小 河 原 義 朗	6	水	3・4
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN319J				
◆ 授業題目	日本語コースの運営と改善 (Japanese Language Course: its Operation and Improvement)				
◆ 目的・概要	実際に運営する日本語コースについて、以下の課題に取り組み、授業活動のデザイン力と実践力を養う。教室研究と学習者研究の方法の基礎も身につける。 1 学習者の学習の状態を的確に把握する。 2 異文化接触の場としての日本語授業を意識する。 3 自分の教授スタイルに気づく。 4 授業を適切に評価し、改善策を講じる。 5 授業分析の方法を知り、実践する。 6 コース全体を振り返りつつ、報告書を作成する。 日本語コースを運営しながら、シラバスの改変、授業の向上を考え、コース全体の改善を図る力をつける。				
◆ 到達目標					
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション オリエンテーションの結果について 2. 日本語コース運営の方針について 授業担当について 授業報告と授業の予定1 3. 授業報告と授業の予定2 教室活動のデザインとバリエーション 4. 授業報告と授業の予定3 教室活動の評価：その視点 5. 授業報告と授業の予定4 教室活動の評価と改善1 6. 授業報告と授業の予定5 授業分析の方法1 7. 授業報告と授業の予定6 学習者の観察 8. 授業報告と授業の予定7 授業分析の結果教室活動の評価と改善2 9. 授業報告と授業の予定8 教師行動の分析：ティーチャートーク 10. 授業報告とまとめ コースの振り返りと評価 11. 教室活動のバリエーション シラバスの問題点 12. 授業分析の方法2：学習者の達成度の評価 13. 授業分析の方法3：教師行動の分析 14. 報告書の作成について 日本語教育学実習全体についての振り返り 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート [40%]・出席 [10%]・その他 (「コース運営」「授業報告」「クラス貢献度」「ジャーナル」「報告書作成」) [50%]				
◇ 教科書・参考書	参考書：筑波ランゲージグループ (1991) 『Situational Functional Japanese』 凡人社。 川口義一・横溝紳一郎 (2005) 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上・下』 ひつじ書房、ほか。				
◇ 授業時間外学習	授業の実施・見学などは時間外に行う。運営するコースは、夜間に片平キャンパスで行う予定。授業分析についても、具体的な活動は時間外学習である。				
その他：5セメスターの日本語教育学実習を履修済みのこと。全回授業に出席し、積極的に参加すること。教壇実習は夜間に実施する予定。コースの運営・改善に関わるミーティングなども授業時間外に行われることがあるので、注意すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
現 代 日 本 論 講 読 Study of Contemporary Japan (Reading)	2	准教授 田 中 重 人	5	金	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN320J				
◆ 授業題目	現代日本論論文講読 (Reading Seminar in Contemporary Japanese Studies)				
◆ 目的・概要	研究は、学術雑誌の原著論文を探して読むことから始まります。この授業では、文献データベースを使って論文を探し、その内容を読み、プレゼンテーションと質疑応答を通して理解していくことを目指します。とりあげる論文は、現代日本文化に関するもので、日本語または英語のもの、という条件のなかで、受講者の興味にしたがって選定します。1 論文を、(a)鍵概念の抽出 (scanning)、(b)構造の抽出 (skimming)、(c)図表の解説、(d)ロジックの抽出、の4人で分担して、それぞれの担当者がコンピュータを使用したプレゼンテーションをおこないます。				
◆ 到達目標	(1)論文の探しかたと読みかたを理解する； (2)プレゼンテーションと質疑応答の技術を身につける				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 論文をさがす (1)：日本語文献 3. 論文をさがす (2)：英語文献 4. 論文の読みかた (1)：鍵概念と構造 5. 論文の読みかた (2)：図表とロジック 6. プレゼンテーション資料の作成 7. プレゼンテーションの準備 8. 発表と質疑 9. プレゼンテーション (1) 10. プレゼンテーション (2) 11. 録画視聴と振り返り (1) 12. プレゼンテーション (3) 13. プレゼンテーション (4) 14. 録画視聴と振り返り (2) 15. 全体のまとめと講評 				
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題 (30%)、担当部分のプレゼンテーション (40%)、プレゼンテーションに対する質疑応答 (30%) を合計して評価する。				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 東北大学附属図書館『情報探索の基礎知識』基本編／人文社会科学編。 【参考書】 諏訪邦夫 (1995) 『発表の技法』 講談社。				
◇ 授業時間外学習	毎回の授業での課題のほか、取り上げる論文の読解、プレゼンテーションの資料作成と準備、プレゼンテーション録画を見ての反省をおこなうこと。				
その他：授業計画は、受講者の人数によって変更する可能性がある。授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 論 演 習 Study of Contemporary Japan (Seminar)	2	准教授 田 中 重 人	5	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN321J																				
◆ 授業題目	質問紙調査の基礎 (Basics of Questionnaire Survey)																				
◆ 目的・概要	質問紙を使った調査の方法についての講義と実習をおこないます。講義では、質問紙調査の基本的な概念と方法、仮説設定からレポート作成までの一連のプロセスについて解説します。実習では、受講者が各自の選んだ研究テーマに沿って文献収集をおこない、テーマへの理論的アプローチを検討し、質問紙を作成し、調査を実施し、その結果をレポートとして提出します。																				
◆ 到達目標	(1)質問紙調査の長所と短所を把握する； (2)質問紙調査の実際のプロセスについて、体験を通して習得する																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 調査票の検討</td> </tr> <tr> <td>2. 調査課題の設定</td> <td>10. エディティングとコーディング</td> </tr> <tr> <td>3. 既存調査と先行研究の探索</td> <td>11. データの入力と点検</td> </tr> <tr> <td>4. 調査対象者と調査方法</td> <td>12. 報告書の執筆</td> </tr> <tr> <td>5. 調査の企画</td> <td>13. 調査結果発表会 (1)</td> </tr> <tr> <td>6. 質問文と回答欄</td> <td>14. 調査結果発表会 (2)</td> </tr> <tr> <td>7. 調査実施について面談</td> <td>15. 全体のまとめとレポート執筆についての相談</td> </tr> <tr> <td>8. 調査票の構成</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 調査票の検討	2. 調査課題の設定	10. エディティングとコーディング	3. 既存調査と先行研究の探索	11. データの入力と点検	4. 調査対象者と調査方法	12. 報告書の執筆	5. 調査の企画	13. 調査結果発表会 (1)	6. 質問文と回答欄	14. 調査結果発表会 (2)	7. 調査実施について面談	15. 全体のまとめとレポート執筆についての相談	8. 調査票の構成	
1. イントロダクション	9. 調査票の検討																				
2. 調査課題の設定	10. エディティングとコーディング																				
3. 既存調査と先行研究の探索	11. データの入力と点検																				
4. 調査対象者と調査方法	12. 報告書の執筆																				
5. 調査の企画	13. 調査結果発表会 (1)																				
6. 質問文と回答欄	14. 調査結果発表会 (2)																				
7. 調査実施について面談	15. 全体のまとめとレポート執筆についての相談																				
8. 調査票の構成																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題 (40%)、学期末に提出する質問紙 (30%)、調査結果に基づくレポート (30%) を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 轟亮・杉野勇 (編) (2013) 『入門・社会調査法 [第2版]』法律文化社。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の課題と調査の企画・実施およびレポート作成																				
その他：5セメスタ開講の現代日本論演習「統計分析の基礎」をあわせて履修することが望ましい。 授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 論 演 習 Study of Contemporary Japan (Seminar)	2	准教授 田 中 重 人	5	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN321J																				
◆ 授業題目	統計分析の基礎 (Basics of Statistical Analysis)																				
◆ 目的・概要	意識調査・テスト・実験などのデータはどのように分析すればいいでしょうか。この授業では、小規模の標本調査を念頭において、統計分析の基礎的な手法を学びます。これまで統計的な分析をおこなったことのない人を対象に、初歩から講義します。同時に、コンピュータを実際に使って、データ分析の実習をおこないます。																				
◆ 到達目標	(1)統計分析の基礎を理解する； (2)データ分析ができるようになる																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 平均と分散</td> </tr> <tr> <td>2. SPSS入門</td> <td>10. 平均値の比較</td> </tr> <tr> <td>3. 統計分析の基礎</td> <td>11. 分散分析</td> </tr> <tr> <td>4. 度数分布表とグラフの利用</td> <td>12. 推測統計の基礎と区間推定</td> </tr> <tr> <td>5. クロス表分析の基礎</td> <td>13. 統計的検定</td> </tr> <tr> <td>6. 連関係数</td> <td>14. さまざまな検定手法</td> </tr> <tr> <td>7. クロス表の解釈</td> <td>15. 全体のまとめとレポート内容についての相談</td> </tr> <tr> <td>8. 前回までの復習と進度確認課題</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 平均と分散	2. SPSS入門	10. 平均値の比較	3. 統計分析の基礎	11. 分散分析	4. 度数分布表とグラフの利用	12. 推測統計の基礎と区間推定	5. クロス表分析の基礎	13. 統計的検定	6. 連関係数	14. さまざまな検定手法	7. クロス表の解釈	15. 全体のまとめとレポート内容についての相談	8. 前回までの復習と進度確認課題	
1. イントロダクション	9. 平均と分散																				
2. SPSS入門	10. 平均値の比較																				
3. 統計分析の基礎	11. 分散分析																				
4. 度数分布表とグラフの利用	12. 推測統計の基礎と区間推定																				
5. クロス表分析の基礎	13. 統計的検定																				
6. 連関係数	14. さまざまな検定手法																				
7. クロス表の解釈	15. 全体のまとめとレポート内容についての相談																				
8. 前回までの復習と進度確認課題																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題 (70%)、期末レポート (30%) を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 吉田寿夫 (1998) 『本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の課題とレポート作成の準備																				
その他：実習室で使用できるコンピュータ台数が限られているため、受講人数を制限することがある。 授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 論 演 習 Study of Contemporary Japan (Seminar)	2	准教授 田 中 重 人	6	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN321J																				
◆ 授業題目	調査的面接の基礎 (Basics of In-depth Interview)																				
◆ 目的・概要	面接法による質的調査の方法についての講義と実習をおこないます。講義では、面接調査の基本的な方法とプロセスについて解説します。実習では、受講者が各自の選んだ研究テーマに沿って文献収集をおこない、面接調査を実施し、その結果をレポートとして提出します。																				
◆ 到達目標	(1)面接調査の長所と短所を把握する； (2)面接調査の実際のプロセスについて、体験を通して習得する																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. インタビュー実施から書き起こしまで</td> </tr> <tr> <td>2. 研究のイメージをつかむ</td> <td>10. 分析</td> </tr> <tr> <td>3. 調査的面接の方法</td> <td>11. 報告書</td> </tr> <tr> <td>4. シナリオの作成</td> <td>12. 発表会 (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 面接実習</td> <td>13. 発表会 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 面接実習結果について検討</td> <td>14. 調査的面接の倫理</td> </tr> <tr> <td>7. 対象者の選びかた</td> <td>15. 全体のまとめ；レポート執筆に向けて討論</td> </tr> <tr> <td>8. 調査計画について討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. インタビュー実施から書き起こしまで	2. 研究のイメージをつかむ	10. 分析	3. 調査的面接の方法	11. 報告書	4. シナリオの作成	12. 発表会 (1)	5. 面接実習	13. 発表会 (2)	6. 面接実習結果について検討	14. 調査的面接の倫理	7. 対象者の選びかた	15. 全体のまとめ；レポート執筆に向けて討論	8. 調査計画について討論	
1. イントロダクション	9. インタビュー実施から書き起こしまで																				
2. 研究のイメージをつかむ	10. 分析																				
3. 調査的面接の方法	11. 報告書																				
4. シナリオの作成	12. 発表会 (1)																				
5. 面接実習	13. 発表会 (2)																				
6. 面接実習結果について検討	14. 調査的面接の倫理																				
7. 対象者の選びかた	15. 全体のまとめ；レポート執筆に向けて討論																				
8. 調査計画について討論																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題 (50%)、調査結果に基づく口頭発表とレポート (50%) を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 松浦均・西口利文 (2008) 『観察法・調査的面接法の進め方』 ナカニシヤ出版。																				
◇ 授業時間外学習	各回の課題と各自の調査企画、実施およびレポート作成																				
その他：5セメスタ開講の現代日本論演習「質問紙調査の基礎」も履修することが望ましい。 授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 論 演 習 Study of Contemporary Japan (Seminar)	2	准教授 田 中 重 人	6	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN321J																				
◆ 授業題目	実践的統計分析法 (Statistical Analysis in Practice)																				
◆ 目的・概要	研究の現場で必要となる統計分析手法は、分析の目的とデータの特徴によってさまざまです。この授業の前半では、推測統計学の基本的な概念について解説し、統計的推定および検定の方法について学びます。後半では、さまざまな分析手法をとりあげて、それらの特徴と使い方を習得していきます。どのような分析手法をとりあげるかについては、受講者の関心と必要性を考慮します。統計解析パッケージを使ってデータ分析の実習をおこないます。																				
◆ 到達目標	さまざまな統計分析手法を理解し、使いこなせるようになる																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 推測統計の基礎</td> <td>9. 対応のある平均値の比較</td> </tr> <tr> <td>2. 正規分布の利用</td> <td>10. 多変量解析 (1)</td> </tr> <tr> <td>3. 統計的検定と検定力</td> <td>11. 多変量解析 (2)</td> </tr> <tr> <td>4. 順位相関係数</td> <td>12. 多変量解析 (3)</td> </tr> <tr> <td>5. 積率相関係数</td> <td>13. 多変量解析 (4)</td> </tr> <tr> <td>6. 相関係数行列</td> <td>14. 多変量解析 (5)</td> </tr> <tr> <td>7. 前回までの復習と進捗確認課題</td> <td>15. 全体のまとめとレポート内容について相談</td> </tr> <tr> <td>8. 符号検定</td> <td></td> </tr> </table>					1. 推測統計の基礎	9. 対応のある平均値の比較	2. 正規分布の利用	10. 多変量解析 (1)	3. 統計的検定と検定力	11. 多変量解析 (2)	4. 順位相関係数	12. 多変量解析 (3)	5. 積率相関係数	13. 多変量解析 (4)	6. 相関係数行列	14. 多変量解析 (5)	7. 前回までの復習と進捗確認課題	15. 全体のまとめとレポート内容について相談	8. 符号検定	
1. 推測統計の基礎	9. 対応のある平均値の比較																				
2. 正規分布の利用	10. 多変量解析 (1)																				
3. 統計的検定と検定力	11. 多変量解析 (2)																				
4. 順位相関係数	12. 多変量解析 (3)																				
5. 積率相関係数	13. 多変量解析 (4)																				
6. 相関係数行列	14. 多変量解析 (5)																				
7. 前回までの復習と進捗確認課題	15. 全体のまとめとレポート内容について相談																				
8. 符号検定																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題 (70%)、期末レポート (30%) を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 吉田寿夫 (1998) 『本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』 北大路書房。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の課題とレポート作成の準備																				
その他：5セメスタ開講の現代日本論演習「統計分析の基礎」を履修済みか、それと同等の知識を習得済みの者を対象とする。 授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
現 代 哲 学 概 論 Contemporary Philosophy (General Lecture)	2	教授 直 江 清 隆	4	月	2																		
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI206J																						
◆ 授業題目	現代哲学の諸問題 (Issues in Contemporary Philosophy)																						
◆ 目的・概要	20世紀哲学では理性とは何かがきびしく問われてきました。それはまた、近代の学問観、人間観、自然観への問い返しを含んでいます。この講義では、現象学をはじめとする大陸哲学を題材に、身体、他者、環境などに関する問いの所在と解決の方途を検討します。授業のうち何回かについてはワークシートを用意し、短いテキスト、そのテキストが書かれた背景、とのテキストで問われていること、テキストの主張、その主張に対する批判、現代の問題との繋がりでどう考えるか（例えば、ロボットの身体をどう考えるかなど）について説明し、自ら考えるようにします。また何回かについてはコメントメーパなどで、議論の要点と自分の考えを簡単にまとめるようにします。最終的には、レポートが書けるだけの能力を身につけることを目標とします。																						
◆ 到達目標	20世紀の哲学における人間観、自然観などへの問いを理解し、それについて哲学的に考える力を養う																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 《以下変更の可能性もあります》 はじめに 哲学はなにではないのか 1 (レーヴィットなど)</td> <td>7. 身体という謎 I (メルロ＝ポンティ)</td> </tr> <tr> <td>2. はじめに 哲学はなにではないのか 2 (ヴェーバーなど)</td> <td>8. 身体という謎 2 (メルロ＝ポンティ)</td> </tr> <tr> <td>3. 生活世界と学問 1 (フッサール)</td> <td>9. 身体という謎 3 (メルロ＝ポンティ)</td> </tr> <tr> <td>4. 生活世界と学問 2 (フッサール)</td> <td>10. 他者は理解できるか 1</td> </tr> <tr> <td>5. 他なる文化の理解は可能か (ガダマーなど)</td> <td>11. 他者は理解できるか 2</td> </tr> <tr> <td>6. 他なる文化の理解は可能か 2 (ガダマーなど)</td> <td>12. 他者は理解できるか 3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13. 環境世界と生命 1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. 環境世界と生命 2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ</td> </tr> </table>					1. 《以下変更の可能性もあります》 はじめに 哲学はなにではないのか 1 (レーヴィットなど)	7. 身体という謎 I (メルロ＝ポンティ)	2. はじめに 哲学はなにではないのか 2 (ヴェーバーなど)	8. 身体という謎 2 (メルロ＝ポンティ)	3. 生活世界と学問 1 (フッサール)	9. 身体という謎 3 (メルロ＝ポンティ)	4. 生活世界と学問 2 (フッサール)	10. 他者は理解できるか 1	5. 他なる文化の理解は可能か (ガダマーなど)	11. 他者は理解できるか 2	6. 他なる文化の理解は可能か 2 (ガダマーなど)	12. 他者は理解できるか 3		13. 環境世界と生命 1		14. 環境世界と生命 2		15. まとめ
1. 《以下変更の可能性もあります》 はじめに 哲学はなにではないのか 1 (レーヴィットなど)	7. 身体という謎 I (メルロ＝ポンティ)																						
2. はじめに 哲学はなにではないのか 2 (ヴェーバーなど)	8. 身体という謎 2 (メルロ＝ポンティ)																						
3. 生活世界と学問 1 (フッサール)	9. 身体という謎 3 (メルロ＝ポンティ)																						
4. 生活世界と学問 2 (フッサール)	10. 他者は理解できるか 1																						
5. 他なる文化の理解は可能か (ガダマーなど)	11. 他者は理解できるか 2																						
6. 他なる文化の理解は可能か 2 (ガダマーなど)	12. 他者は理解できるか 3																						
	13. 環境世界と生命 1																						
	14. 環境世界と生命 2																						
	15. まとめ																						
◇ 成績評価の方法	平常点 30% レポート 70%																						
◇ 教科書・参考書	授業開始時に指示します。また随時授業中に紹介します。																						
◇ 授業時間外学習	授業時に参考資料を配付し、参考文献を紹介するので、それらを再読し、自分なりに考えて次回に臨むという作業を繰り返して下さい。																						
その他：																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 哲 学 概 論 Contemporary Philosophy (General Lecture)	2	准教授 原 壘	3	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI206J																				
◆ 授業題目	心の哲学入門 (Philosophy of Mind)																				
◆ 目的・概要	心の哲学は20世紀半ば以降、英米圏を中心に大きく研究が進展してきた分野である。この授業では、心の哲学で展開された議論を紹介しながら、心の様々な性質—心の因果性、現象的意識、心の志向性、心の合理性—を順に分析していく。講義形式で授業を行うが、学期中数回、演習問題ととりくんでもらう。																				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 概念や論証を分析する技術を習得する。 2. 心や意識についての現代的議論を理解する。 																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. はじめに</td> <td>9. 心の志向性 2</td> </tr> <tr> <td>2. 心の因果性 1</td> <td>10. 心の志向性 3</td> </tr> <tr> <td>3. 心の因果性 2</td> <td>11. 心の合理性 1</td> </tr> <tr> <td>4. 心の因果性 3</td> <td>12. 心の合理性 2</td> </tr> <tr> <td>5. 心と意識 1</td> <td>13. 心の合理性 3</td> </tr> <tr> <td>6. 心と意識 2</td> <td>14. 心に関する諸問題</td> </tr> <tr> <td>7. 心と意識 3</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 心の志向性 1</td> <td></td> </tr> </table>					1. はじめに	9. 心の志向性 2	2. 心の因果性 1	10. 心の志向性 3	3. 心の因果性 2	11. 心の合理性 1	4. 心の因果性 3	12. 心の合理性 2	5. 心と意識 1	13. 心の合理性 3	6. 心と意識 2	14. 心に関する諸問題	7. 心と意識 3	15. まとめ	8. 心の志向性 1	
1. はじめに	9. 心の志向性 2																				
2. 心の因果性 1	10. 心の志向性 3																				
3. 心の因果性 2	11. 心の合理性 1																				
4. 心の因果性 3	12. 心の合理性 2																				
5. 心と意識 1	13. 心の合理性 3																				
6. 心と意識 2	14. 心に関する諸問題																				
7. 心と意識 3	15. まとめ																				
8. 心の志向性 1																					
◇ 成績評価の方法	課題の提出 (60%)、テスト (40%)																				
◇ 教科書・参考書	金杉武司『心の哲学入門』勁草書房、2007年																				
◇ 授業時間外学習	授業用スライドを、あらかじめISTUにアップロードしておくので、授業前に内容を確認しておくこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 哲 学 概 論 Contemporary Philosophy (General Lecture)	2	准教授 原 壘	4	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI206J																				
◆ 授業題目	言語哲学入門 (Philosophy of Language)																				
◆ 目的・概要	20世紀以降、英米圏を中心に展開している分析哲学は、哲学的問題への取り組みが言語を用いてなされていることに着目し、言語の働きを分析することで哲学的問題に答えようとする。このため、分析哲学では、言語の基礎的現象、例えば、言語表現が何かを指示したり、意味したりすることができるのはなぜかを明らかにすることが重要な課題となった。この講義では、言語の指示や意味、あるいは発話の理解といったテーマに関して、分析哲学で行なわれてきた議論を概観する。																				
◆ 到達目標	1. 概念や論証を分析する技術を習得する。 2. 指示や意味についての哲学的議論を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. はじめに</td> <td>9. 可能世界 1</td> </tr> <tr> <td>2. 指示と意味</td> <td>10. 可能世界 2</td> </tr> <tr> <td>3. 記述の理論 1</td> <td>11. 名指しと必然性 1</td> </tr> <tr> <td>4. 記述の理論 2</td> <td>12. 名指しと必然性 2</td> </tr> <tr> <td>5. 固有名 1</td> <td>13. 検証主義</td> </tr> <tr> <td>6. 固有名 2</td> <td>14. 真理条件説</td> </tr> <tr> <td>7. 様々な真理概念 1</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 様々な真理概念 2</td> <td></td> </tr> </table>					1. はじめに	9. 可能世界 1	2. 指示と意味	10. 可能世界 2	3. 記述の理論 1	11. 名指しと必然性 1	4. 記述の理論 2	12. 名指しと必然性 2	5. 固有名 1	13. 検証主義	6. 固有名 2	14. 真理条件説	7. 様々な真理概念 1	15. まとめ	8. 様々な真理概念 2	
1. はじめに	9. 可能世界 1																				
2. 指示と意味	10. 可能世界 2																				
3. 記述の理論 1	11. 名指しと必然性 1																				
4. 記述の理論 2	12. 名指しと必然性 2																				
5. 固有名 1	13. 検証主義																				
6. 固有名 2	14. 真理条件説																				
7. 様々な真理概念 1	15. まとめ																				
8. 様々な真理概念 2																					
◇ 成績評価の方法	課題の提出 (60%)、テスト (40%)																				
◇ 教科書・参考書	服部裕幸『言語哲学入門』2003年、勁草書房 Papineau, D. 2012. Philosophical Devices: Proofs, Probabilities, Possibilities, and Sets. Oxford University Press.																				
◇ 授業時間外学習	授業用スライドを、あらかじめISTUにアップロードしておくので、授業前に内容を確認しておくこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
哲 学 思 想 概 論 Western Philosophical Thought (General Lecture)	2	准教授 荻 原 理	3	木	2																		
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI205J																						
◆ 授業題目	古代哲学史 (前篇) (History of Ancient Philosophy (Part 1))																						
◆ 目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> 古代ギリシア哲学のうち、ミレトス学派からプラトンまでの主な哲学者 (ピュタゴラス、ヘラクレイトス、パルメニデス、ソクラテスも含む) の主要な論点を学び、そのいくつかについては自分なりに考えてみることで理解を深める。 大講義室での講義だが、質問・意見を積極的に出してもらう (質疑応答は哲学の問題や主張を理解していくための重要なプロセスなので)。わかりにくい点はできればその場で質問してほしいが、次回 (以降) でもよい。 希望者があれば、授業中にプレゼンテーションをしてもらう (数名まで)。希望者は事前に教員と相談してトピックを決め、発表内容のメモを作り教員のチェックを受け、授業中、黒板を使いながら8分ほどそのトピックについて説明し、皆からの質問を受け付ける。答えられなければ「わかりません」と言ってくれればよい。 ミレトス学派からプラトンまでの西洋古代哲学史の主要な論点について正確に説明できるようになる。 いくつかの論点については、自分なりに論じることができるようになる。 																						
◆ 到達目標																							
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 【注意：質疑応答等の成り行きによっては、下記の計画通りに行かないことがあり得る。】 授業全体へのイントロ ミレトス学派 (1): 万物のアルケの探究——タレス、アナクシマンドロス、アナクシメネス</td> <td>7. エレア派の挑戦に応える多元論者たち (2): アナクサゴラス、デモクリトス</td> </tr> <tr> <td>2. ミレトス学派 (2): アナクシマンドロスの断片 クセノファネス: 神を擬人的に思い描くことへの批判</td> <td>8. ソクラテスとプラトンへのイントロ: ソクラテスは書かなかった、プラトン対話篇で著者はどこにいるのか</td> </tr> <tr> <td>3. ピュタゴラス: 万物は数から成る、魂は輪廻する ヘラクレイトス: 反対者は一致する</td> <td>9. ソクラテス (2): プラトン『ソクラテスの弁明』・『クリトン』を中心に (続き)</td> </tr> <tr> <td>4. エレア派 (1): パルメニデス ゼノンのパラドクス「アキレスは亀に追いつけない」(導入)</td> <td>10. 【以降の回で、プレゼンテーションが入ることがあり得る。】 プラトン (1): 『メノン』(探究のアポリア、想起説) など</td> </tr> <tr> <td>5. エレア派 (2): ゼノンのパラドクス「アキレスは亀に追いつけない」(教室で議論)</td> <td>11. プラトン (2): 『パイドン』(魂不死、イデア論) など</td> </tr> <tr> <td>6. エレア派 (3): 「アキレスは亀に追いつけない」(議論の続き、ゼノンの意図) ゼノンの弁証論 エレア派の挑戦に応える多元論者たち (1): エンペドクレス</td> <td>12. プラトン (3): 『国家』(ギュゲスの指輪、幸福と正義の関係) など</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13. プラトン (4): 『国家』(善のイデア) など</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. プラトン (5): 論じ残したこと</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 授業のまとめ学期末試験</td> </tr> </table>					1. 【注意：質疑応答等の成り行きによっては、下記の計画通りに行かないことがあり得る。】 授業全体へのイントロ ミレトス学派 (1): 万物のアルケの探究——タレス、アナクシマンドロス、アナクシメネス	7. エレア派の挑戦に応える多元論者たち (2): アナクサゴラス、デモクリトス	2. ミレトス学派 (2): アナクシマンドロスの断片 クセノファネス: 神を擬人的に思い描くことへの批判	8. ソクラテスとプラトンへのイントロ: ソクラテスは書かなかった、プラトン対話篇で著者はどこにいるのか	3. ピュタゴラス: 万物は数から成る、魂は輪廻する ヘラクレイトス: 反対者は一致する	9. ソクラテス (2): プラトン『ソクラテスの弁明』・『クリトン』を中心に (続き)	4. エレア派 (1): パルメニデス ゼノンのパラドクス「アキレスは亀に追いつけない」(導入)	10. 【以降の回で、プレゼンテーションが入ることがあり得る。】 プラトン (1): 『メノン』(探究のアポリア、想起説) など	5. エレア派 (2): ゼノンのパラドクス「アキレスは亀に追いつけない」(教室で議論)	11. プラトン (2): 『パイドン』(魂不死、イデア論) など	6. エレア派 (3): 「アキレスは亀に追いつけない」(議論の続き、ゼノンの意図) ゼノンの弁証論 エレア派の挑戦に応える多元論者たち (1): エンペドクレス	12. プラトン (3): 『国家』(ギュゲスの指輪、幸福と正義の関係) など		13. プラトン (4): 『国家』(善のイデア) など		14. プラトン (5): 論じ残したこと		15. 授業のまとめ学期末試験
1. 【注意：質疑応答等の成り行きによっては、下記の計画通りに行かないことがあり得る。】 授業全体へのイントロ ミレトス学派 (1): 万物のアルケの探究——タレス、アナクシマンドロス、アナクシメネス	7. エレア派の挑戦に応える多元論者たち (2): アナクサゴラス、デモクリトス																						
2. ミレトス学派 (2): アナクシマンドロスの断片 クセノファネス: 神を擬人的に思い描くことへの批判	8. ソクラテスとプラトンへのイントロ: ソクラテスは書かなかった、プラトン対話篇で著者はどこにいるのか																						
3. ピュタゴラス: 万物は数から成る、魂は輪廻する ヘラクレイトス: 反対者は一致する	9. ソクラテス (2): プラトン『ソクラテスの弁明』・『クリトン』を中心に (続き)																						
4. エレア派 (1): パルメニデス ゼノンのパラドクス「アキレスは亀に追いつけない」(導入)	10. 【以降の回で、プレゼンテーションが入ることがあり得る。】 プラトン (1): 『メノン』(探究のアポリア、想起説) など																						
5. エレア派 (2): ゼノンのパラドクス「アキレスは亀に追いつけない」(教室で議論)	11. プラトン (2): 『パイドン』(魂不死、イデア論) など																						
6. エレア派 (3): 「アキレスは亀に追いつけない」(議論の続き、ゼノンの意図) ゼノンの弁証論 エレア派の挑戦に応える多元論者たち (1): エンペドクレス	12. プラトン (3): 『国家』(ギュゲスの指輪、幸福と正義の関係) など																						
	13. プラトン (4): 『国家』(善のイデア) など																						
	14. プラトン (5): 論じ残したこと																						
	15. 授業のまとめ学期末試験																						
◇ 成績評価の方法	学期末試験 (持ち込み不可) のみによる。 ただし、授業中プレゼンテーションしてくれた人はプレゼンにより成績を評価する (試験を受けなくてもよい)。																						
◇ 教科書・参考書	参考書: 加藤信朗『ギリシア哲学史』(東京大学出版会、1996年) 内山勝利 (責任編集)『哲学の歴史 1』(中央公論新社、2008年) それ以外の参考図書は随時授業中に紹介する。																						
◇ 授業時間外学習	前回の授業の内容について、わかりにくかった点を質問の形に整理しておく。(他にも、授業中折に触れて学習課題を指定することがある。)																						
その他：予備知識は特に必要ない。 授業中は私語のみならず、スマホいじり、内職等もしないで下さい (した場合、厳しく対応します)。																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 概 論 Western Philosophical Thought (General Lecture)	2	准教授 荻原理	4	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI205J				
◆ 授業題目	古代哲学史(後篇)(History of Ancient Philosophy (Part 2))				
◆ 目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> ・古代ギリシャ哲学のうち、アリストテレス、ヘレニズム哲学、新プラトン主義の主要な論点を学び、そのいくつかについては自分なりに考えてみることで理解を深める。 ・大講義室での講義だが、質問・意見を積極的に出してもらおう(質疑応答は哲学の問題や主張を理解していくための重要なプロセスなので)。わかりにくい点はできればその場で質問してほしいが、次回(以降)でもよい。 ・希望者があれば、授業中にプレゼンテーションをしてもらう(数名まで)。希望者は事前に教員と相談してトピックを決め、発表内容のメモを作り教員のチェックを受け、授業中、黒板を使いながら8分ほどそのトピックについて説明し、皆からの質問を受け付ける。答えられなければ「わかりません」と言ってくればよい。 ・アリストテレス以降での西洋古代哲学史の主要な論点について正確に説明できるようになる。 ・いくつかの論点については、自分なりに論じることができるようになる。 				
◆ 到達目標					
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 【注意：質疑応答等の成り行きによっては、下記の計画通りに行かないことがあり得る。】 授業全体へのイントロアリストテレス(1): 形相と質料 2. アリストテレス(2): 形相と質料 3. アリストテレス(3): 始動因 4. アリストテレス(4): 行為の目的論 5. アリストテレス(5): 自然の目的論 6. アリストテレス(6): オルガノン 7. アリストテレス(7): 芸術論など 8. ヘレニズム哲学(1): ヘレニズム哲学へのイントロ 9. ヘレニズム哲学(2): 主にエピクロス派 10. ヘレニズム哲学(3): 主にエピクロス派 11. ヘレニズム哲学(4): エピクロス派とストア派 12. ヘレニズム哲学(5): 主にストア派 13. ヘレニズム哲学(6): 主にストア派 14. ヘレニズム哲学(7): 懐疑主義 15. 新プラトン主義 16. 授業のまとめ学期末試験 				
◇ 成績評価の方法	学期末試験(持ち込み不可)のみによる。ただし、授業中プレゼンテーションをしてくれた人はプレゼンにより成績を評価する(試験を受けなくてよい)。				
◇ 教科書・参考書	参考書: 内山勝利(責任編集)『哲学の歴史 1』(中央公論新社、2008年) 内山勝利(責任編集)『哲学の歴史 2』(中央公論新社、2007年) A・A・ロング『ヘレニズム哲学』(京都大学学術出版会、2003年) それ以外の参考図書は随時授業中に紹介する。				
◇ 授業時間外学習	前回の授業の内容について、わかりにくかった点を質問の形に整理しておく。(他にも、授業中折に触れて学習課題を指定することがある。)				
その他:	予備知識は特に必要ない。 授業中は私語のみならず、スマホいじり、内職等もしないで下さい(した場合、厳しく対応します)。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 概 論 Western Philosophical Thought (General Lecture)	2	准教授 城戸淳	3	金	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI205J				
◆ 授業題目	近代哲学史(1)——科学的な認識と方法論の形成をたどる (History of Modern Philosophy 1: Epistemology and Methodology of Science)				
◆ 目的・概要	17・18世紀の近代哲学の課題の一つは、科学を認識論的に基礎づけるところにあった。科学革命とそれ以降の展開に対峙しつつ、哲学者たちは認識論を鍛えなおし、科学的方法論を概念的に構築することを試みた。この講義では、そのような観点から近代哲学の主要な学説の展開を跡づけることにしたい。なお、次年度に開講予定の近代哲学史(2)では、「人間の行為と自由をめぐる」と題して、近代哲学における自由意志論の展開を講ずる予定である。				
◆ 到達目標	近代哲学における科学的な認識論と方法論の展開の概要を把握したうえで、その特定の問題について哲学的に論述することができる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 近代哲学史への導入——認識問題と科学的方法論 2. ベーコン——真の帰納法による学問の刷新 3. デカルト(1)——明晰判明の規則 4. デカルト(2)——物体即延長 5. 補論 認識問題としての心身問題——スピノザ・マルブランシュ・ライブニッツ 6. ホブズ——世界消滅後の唯物論 7. ロック(1)——観念モデルの経験論 8. ロック(2)——自然主義的な探究の方法論として 9. ヒューム——人間本性と懐疑 10. 補論 イギリス経験論の帰趨——ロック・パークリー・ヒューム・リード 11. カント(1)——アプリオリな総合判断はいかにして可能か 12. カント(2)——超越論的観念論の帰趨 13. ヘーゲル——全体論の自然哲学 14. 補論 真理とは何か——近代の真理論を整理する 15. 総括と展望 				
◇ 成績評価の方法	数回のコメントおよび期末のレポートで評価する。				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する。				
◇ 授業時間外学習	数回のコメント提出は必須課題です。 レポートでは、講義内容の理解の他に、独自の学習や思索を高く評価します。				
その他:					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 概 論 Western Philosophical Thought (General Lecture)	2	准教授 城 戸 淳	4	火	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI205J				
◆ 授業題目	ニーチェ哲学入門——道徳批判の射程 (Nietzsche's Critique of Morality)				
◆ 目的・概要	ニーチェの哲学について入門的に講義する。19世紀末にニーチェが提起した過激な問題設定は、20世紀の哲学・思想を駆動してきた。とりわけ、道徳性に対するニーチェの批判は、いまだ答えられぬまま、21世紀のわれわれに突きつけられてた不発弾であるようにおもわれる。この講義では、ニーチェの道徳批判の射程を測るべく、学問批判、遠近法主義、ルサンチマン、ニヒリズム、永遠回帰などの諸論点を検討しつつ、『道徳の系譜』の洞察を読み解くことを試みる。				
◆ 到達目標	ニーチェの道徳批判を学び、みずから批判的に考えることができる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ニーチェという問題圏 2. 初期ニーチェの学問批判 3. 生にとつての歴史の利害 4. パースペクティヴィズム (遠近法主義) の哲学 5. 超越論的批判とニーチェ 6. ルサンチマンの分析 7. 系譜学の方法 8. 「善と悪」、「よいとわるい」 9. 疾しい良心と禁欲主義 10. ニーチェは自然主義者か 11. 力への意志をめぐる 12. ニヒリズムの論理とその克服 13. 永遠回帰と運命愛 14. ニーチェと「生の意味」 15. ニーチェの道徳批判の射程 				
◇ 成績評価の方法	数回のコメントと期末のレポートで評価する。				
◇ 教科書・参考書	プリントを配布する。 参考書は授業中に指示する。すくなくとも『道徳の系譜』を読むことは必須である。				
◇ 授業時間外学習	ニーチェのテキストに触れ、その繊細で過激な思考を体験してほしい。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 基 礎 講 読 Western Philosophical Thought (Introductory Reading)	2	非常勤講師 齋 藤 直 樹	3	火	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI214J				
◆ 授業題目	「批判理論」入門—ドイツ語原典テキストの精読を通じて (Introduction to Critical Theory: Through a careful reading of the German original text)				
◆ 目的・概要	1920年代に設立されたフランクフルト大学社会研究所のメンバーを中心として形成され、現在に至るまで活発な哲学的議論を展開している、いわゆる「批判理論」の伝統の綱領的論文として名高いマックス・ホルクハイマーの「伝統的理論と批判的理論」(Max Horkheimer, Traditionelle und kritische Theorie, in: Gesammelte Schriften Bd.4, S.Fischer, 1988, S. 162-216)、ならびに当論文の「補遺」(ibid., S. 217-225)の主要な部分を精読する。ドイツ語の原典テキストを使用し、その逐語的な訳読を積み重ねていくことを通じて、「批判理論」特有の「批判」概念の内実とその妥当性に関して考察を深めていく。				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 哲学の基本文献 (ドイツ語) を正確に読み解けるようになる。 2. 「批判理論」の方法論的な特徴を理解することができるようになる。 3. 理論と実践ないしは哲学と社会の関係のあり方に対して自分なりの観点を持つことができるようになる。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. ドイツ語文献の読解と内容に関する討論 1 3. ドイツ語文献の読解と内容に関する討論 2 4. ドイツ語文献の読解と内容に関する討論 3 5. ドイツ語文献の読解と内容に関する討論 4 6. ドイツ語文献の読解と内容に関する討論 5 7. ドイツ語文献の読解と内容に関する討論 6 8. ドイツ語文献の読解と内容に関する討論 7 9. ドイツ語文献の読解と内容に関する討論 8 10. ドイツ語文献の読解と内容に関する討論 9 11. ドイツ語文献の読解と内容に関する討論 10 12. ドイツ語文献の読解と内容に関する討論 11 13. ドイツ語文献の読解と内容に関する討論 12 14. ドイツ語文献の読解と内容に関する討論 13 15. ドイツ語文献の読解と内容に関する討論 14、ならびに全体のまとめ 				
◇ 成績評価の方法	学期末レポート (50%)、出席ならびに発表状況 (50%)				
◇ 教科書・参考書	精読テキストは上掲。参考文献等は授業中に随時紹介ないしはプリントして配布するが、本論文の議論の前提となっている次の著作の概要は事前に把握しておくことが望ましい。 デカルト『方法序説』、カント『純粹理性批判』(「純粹悟性概念の演繹について」、アンリ・ポアンカレ『科学と仮説』、エミール・デュルケム『社会学的方法の基準』等。(ただし、これらについても決定的に重要な箇所については、授業内でプリントして配布します。)				
◇ 授業時間外学習	テキストの指定された箇所を訳読することができるよう予習するとともに、各回の議論の概要とポイントをノート等にその都度まとめておくこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
哲 学 思 想 基 礎 講 読 Western Philosophical Thought (Introductory Reading)	2	非常勤 講師 小 松 恵 一	4	木	3																		
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI214J																						
◆ 授業題目	Horkheimerの“Montaigne und die Funktion der Skepsis”を読む (Reading of Horkheimer's “Montaigne und die Funktion der Skepsis”)																						
◆ 目的・概要	目的は、以下の通りです。 1. 初期ホルクハイマーのもっとも美しい論文のひとつ (Odo Maquard の評) である “Montaigne und die Funktion der Skepsis” をドイツ語で精読することによって、ドイツ語で哲学論文を読むことへの導入とする。 2. 「懐疑」の近代哲学上の意味について考察する。 3. 近代市民社会の構造を「懐疑」をめぐる近代哲学と関係させて論ずる。 4. 宗教改革 (今年はちょうど500年目にあたる) における現生否定と市民社会の勃興の関係を考察する。 概要は、以下の通りです。 1. ドイツ語本文を一文一文の内容を、文法的事項を含めて、矯めつ眇めつ読解してゆく。 2. はじめに、学生の皆さんにドイツ語を読み、日本語訳してもらう。 3. 担当を決めることはしないので、少なくとも2ページほど予習してくることを求める。																						
◆ 到達目標	1. ドイツ語の単語は、最低限3000語理解できるようになること。 2. 西洋近代の重要な哲学者の基本的立場を表現できるようになること。 3. 哲学と社会の関係について、ホルクハイマーの洞察に態度がとれるようになること。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 「懐疑」の社会的背景について</td> <td>8. ヒュームの懐疑</td> </tr> <tr> <td>2. ピロンとモンテーニュ</td> <td>9. カントにおける懐疑</td> </tr> <tr> <td>3. デカルトの懐疑とモンテーニュの懐疑</td> <td>10. 懐疑とヘーゲル (1)</td> </tr> <tr> <td>4. ゲーテとモンテーニュ</td> <td>11. 懐疑とヘーゲル (2)</td> </tr> <tr> <td>5. 懐疑と感覚主義</td> <td>12. 懐疑と全体主義 (1)</td> </tr> <tr> <td>6. 懐疑と宗教改革 (プロテスタンティズム)</td> <td>13. 懐疑と全体主義 (2)</td> </tr> <tr> <td>(1) ルターとの関係</td> <td>14. 懐疑と批判哲学 (1)</td> </tr> <tr> <td>7. 懐疑と宗教改革</td> <td>15. 懐疑と批判哲学 (2)</td> </tr> <tr> <td>(2) カルヴァンとの関係</td> <td></td> </tr> </table>					1. 「懐疑」の社会的背景について	8. ヒュームの懐疑	2. ピロンとモンテーニュ	9. カントにおける懐疑	3. デカルトの懐疑とモンテーニュの懐疑	10. 懐疑とヘーゲル (1)	4. ゲーテとモンテーニュ	11. 懐疑とヘーゲル (2)	5. 懐疑と感覚主義	12. 懐疑と全体主義 (1)	6. 懐疑と宗教改革 (プロテスタンティズム)	13. 懐疑と全体主義 (2)	(1) ルターとの関係	14. 懐疑と批判哲学 (1)	7. 懐疑と宗教改革	15. 懐疑と批判哲学 (2)	(2) カルヴァンとの関係	
1. 「懐疑」の社会的背景について	8. ヒュームの懐疑																						
2. ピロンとモンテーニュ	9. カントにおける懐疑																						
3. デカルトの懐疑とモンテーニュの懐疑	10. 懐疑とヘーゲル (1)																						
4. ゲーテとモンテーニュ	11. 懐疑とヘーゲル (2)																						
5. 懐疑と感覚主義	12. 懐疑と全体主義 (1)																						
6. 懐疑と宗教改革 (プロテスタンティズム)	13. 懐疑と全体主義 (2)																						
(1) ルターとの関係	14. 懐疑と批判哲学 (1)																						
7. 懐疑と宗教改革	15. 懐疑と批判哲学 (2)																						
(2) カルヴァンとの関係																							
◇ 成績評価の方法	毎回の課題ならびにレポートによる。																						
◇ 教科書・参考書	テキストは、Fischerの全集による (Max Horkheimer Gesammelte Schriften, Bd. 4, S236ff)																						
◇ 授業時間外学習	予習は必須です。																						
その他 :																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
哲 学 思 想 基 礎 講 読 Western Philosophical Thought (Introductory Reading)	2	准教授 原 城 戸 壘 淳	3	水	3																		
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI214J																						
◆ 授業題目	哲学研究のレッスン(1) (Philosophy for Beginners 1)																						
◆ 目的・概要	この演習は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それにもとづいて討論したり発表したりする力を身につけるためのものです。 最初の10回程度は、教員が選んだテキスト (前期は日本語) をもとに、適宜講義を挟みつつ、レジュメを作成したり、テキストをもとに議論したりする訓練を行います。また、最後の5回程度は、みなさんに自分の問題関心にもとづいた発表を行っていただき、それをもとに議論します (前後期を通して全員が一回は発表することが望ましい)。																						
◆ 到達目標	(1)哲学・倫理学の文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。 (2)哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようにする。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>7. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (1)</td> </tr> <tr> <td>2. デレク・パーフィット『理由と人格－非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (1)</td> <td>8. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (2)</td> </tr> <tr> <td>3. デレク・パーフィット『理由と人格－非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (2)</td> <td>9. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (3)</td> </tr> <tr> <td>4. デレク・パーフィット『理由と人格－非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (3)</td> <td>10. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (4)</td> </tr> <tr> <td>5. デレク・パーフィット『理由と人格－非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (4)</td> <td>11. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (5)</td> </tr> <tr> <td>6. デレク・パーフィット『理由と人格－非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (5)</td> <td>12. 発表と討論 (1)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13. 発表と討論 (2)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. 発表と討論 (3)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 発表と討論 (4)</td> </tr> </table>					1. ガイダンス	7. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (1)	2. デレク・パーフィット『理由と人格－非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (1)	8. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (2)	3. デレク・パーフィット『理由と人格－非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (2)	9. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (3)	4. デレク・パーフィット『理由と人格－非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (3)	10. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (4)	5. デレク・パーフィット『理由と人格－非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (4)	11. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (5)	6. デレク・パーフィット『理由と人格－非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (5)	12. 発表と討論 (1)		13. 発表と討論 (2)		14. 発表と討論 (3)		15. 発表と討論 (4)
1. ガイダンス	7. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (1)																						
2. デレク・パーフィット『理由と人格－非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (1)	8. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (2)																						
3. デレク・パーフィット『理由と人格－非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (2)	9. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (3)																						
4. デレク・パーフィット『理由と人格－非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (3)	10. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (4)																						
5. デレク・パーフィット『理由と人格－非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (4)	11. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (5)																						
6. デレク・パーフィット『理由と人格－非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (5)	12. 発表と討論 (1)																						
	13. 発表と討論 (2)																						
	14. 発表と討論 (3)																						
	15. 発表と討論 (4)																						
◇ 成績評価の方法	報告、討論、数回のコメントペーパーによる平常点 (60%) と、最後の発表ないしレポート (40%) で評価します。必要なものはすべてプリントで配布します。参考書は演習内で指示します。																						
◇ 教科書・参考書	必要なものはすべてプリントで配布します。参考書は演習内で指示します。																						
◇ 授業時間外学習	事前にテキストを読み理解に努めてください。報告担当になったときには、事前に教員およびTAに相談し、レジュメについてアドバイスを受ける用にしてください。																						
その他 :	具体的な進め方は初回の授業のときに説明します。(倫理学基礎講読と合併で授業します) 哲学専修の2年生は必ず履修するようにしてください。他の専修の方は初回時に教員とご相談ください。																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 基 礎 講 読 Western Philosophical Thought (Introductory Reading)	2	教授 直 江 清 隆	4	水	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI214J				
◆ 授業題目	哲学研究のレッスン(2) (Philosophy for Beginners 2)				
◆ 目的・概要	この演習は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それにもとづいて討論したり発表したりする力を身につけるためのものです。最初の10回程度は、教員が選んだテキスト（前期は日本語）をもとに、適宜講義を挟みつつ、レジュメを作成したり、テキストをもとに議論したりする訓練を行います。また、最後の5回程度は、みなさんに自分の問題関心にもとづいた発表を行っていただき、それをもとに議論します（前後期を通して全員が一回は発表することが望ましい）。				
◆ 到達目標	(1)哲学・倫理学の文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。 (2)哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようにする。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 海外の倫理学教科書からの抜粋を読む (1) 3. 海外の倫理学教科書からの抜粋を読む (2) 4. 海外の倫理学教科書からの抜粋を読む (3) 5. 海外の倫理学教科書からの抜粋を読む (4) 6. 海外の倫理学教科書からの抜粋を読む (5) 7. Art as Ideal (Kenneth Clark, Jennifer Jeffers) (1) (同レベルのテキストに変更の可能性があります) 8. Art as Ideal (Kenneth Clark, Jennifer Jeffers) (2) 9. Art as Ideal (Kenneth Clark, Jennifer Jeffers) (3) 10. Art as Ideal (Kenneth Clark, Jennifer Jeffers) (4) 11. Art as Ideal (Kenneth Clark, Jennifer Jeffers) (5) 12. 発表と討論 (1) 13. 発表と討論 (2) 14. 発表と討論 (3) 15. 発表と討論 (4) 				
◇ 成績評価の方法	報告、討論、数回のコメントペーパーによる平常点 (60%) と、最後の発表ないしレポート (40%) で評価します。必要なものはすべてプリントで配布します。参考書は演習内で指示します。				
◇ 教科書・参考書	必要なものはすべてプリントで配布します。参考書は演習内で指示します。				
◇ 授業時間外学習	事前にテキストを読み理解に努めてください。報告担当になったときには、事前に教員およびTAに相談し、レジュメについてアドバイスを受ける用にしてください。				
その他：具体的な進め方は初回の授業のときに説明します。(倫理学基礎講読と合併で授業します) 哲学専修の2年生は必ず履修するようにしてください。他の専修の方は初回時に教員とご相談ください。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 各 論 Western Philosophical Thought (Special Lecture)	2	准教授 荻 原 理	6	月	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI305J				
◆ 授業題目	アリストテレス『分析論後書』を読む (Seminar on Aristotle's POSTERIOR ANALYTICS)				
◆ 目的・概要	アリストテレス『分析論後書』第2巻を原語 (古代ギリシャ語) で読んでいく。W. D. Ross の校訂・注を中心的に用いる。あらかじめ当てておいた担当の方に、担当箇所を日本語に訳してもらおう (わからなかった点はいくらでも質問してくれれば結構)。テキストの語学上の諸点や、内容を正確に理解するために、教員も含め、皆で議論する (そのさい、解釈上の問題も話題に上るであろう)。翻訳や注釈書も参照する。また、David Charles, MEANING AND ESSENCE (Clarendon Press, 2000) の検討にも時間を割く。				
◆ 到達目標	アリストテレス『分析論後書』第2巻の内容を正確に理解し、解釈上の主な問題にどのようなものがあるかを知る。Charles の解釈の大筋を理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. (以下の予定は変更がありうる。)オリエンテーション 2. 『分析論後書』第2巻 第1章 3. 『分析論後書』第2巻 第2章 4. 『分析論後書』第2巻 第3章 5. 『分析論後書』第2巻 第4章 6. 『分析論後書』第2巻 第5章 7. 『分析論後書』第2巻 第6章 8. 『分析論後書』第2巻 第7章 9. 『分析論後書』第2巻 第8章 10. 『分析論後書』第2巻 第9章 11. 『分析論後書』第2巻 第10章 12. 『分析論後書』第2巻 第11章 13. 『分析論後書』第2巻 第12章 14. 『分析論後書』第2巻 第13章 15. 『分析論後書』第2巻 第14章 				
◇ 成績評価の方法	担当時のパフォーマンス：80% 担当以外の、授業時のパフォーマンス：20%				
◇ 教科書・参考書	使用テキストはプリントを配布する。参考文献等は授業時に随時知らせる。				
◇ 授業時間外学習	次回に読む箇所の下調べ。				
その他：古代ギリシャ語の初等文法を学んでいることが参加の条件です。ただし、文法事項の覚え残しが多々あっても構いません。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 各 論 Western Philosophical Thought (Special Lecture)	2	准教授 城 戸 淳	5	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI305J				
◆ 授業題目	カントの超越論的弁証論 (Kant's Transcendental Dialectic)				
◆ 目的・概要	カントの『純粋理性批判』における超越論的弁証論について講義する。超越論的弁証論の生成と問題構成をふまえて、超越論的弁証論で争われる個々の哲学的諸主題を検討したい。とりわけ、誤謬推理論における自己認識の問題と、第三アンチノミーで問われる人間的自由については立ち入った分析を試み、哲学的な問題考察へと踏みこむ。その他、関連する諸問題についても補論として触れる予定である。				
◆ 到達目標	カントの超越論的弁証論の基本骨格を理解するとともに、自己認識と自由の問題について、カント的な問題設定のうえで、みずから哲学的に思考できる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 超越論的弁証論とは何か——理性の深淵 2. 「取り違い」概念の展開——発展史の一断面 3. 超越論的弁証論と理性——沈黙の十年間 4. 理性批判と自己意識 (1)——第一版の誤謬推理論 5. 理性批判と自己意識 (2)——演繹論の問題圏 6. 理性批判と自己意識 (3)——第二版の誤謬推理論 7. 補論 1 人格と時間——第三誤謬推理論 8. 補論 2 カントの Cogito ergo sum 解釈 9. 人間的自由の宇宙論の本質 (1)——第三アンチノミーの論証と解決 10. 人間的自由の宇宙論の本質 (2)——性格の選択 11. 人間的自由の宇宙論の本質 (3)——宇宙論的自由と実践的パースペクティヴ 12. 補論 3 時間と自我——超越論的感性論 第7節 13. 補論 4 観念論論駁への途上で——第四誤謬推理論をめぐって 14. 総括的考察 (1)——超越論的弁証論の位置と意義 15. 総括的考察 (2)——超越論的観念論へ 				
◇ 成績評価の方法	数回のコメントと期末のレポートによる。				
◇ 教科書・参考書	最低限はプリントを配布するが、各自で『純粋理性批判』に挑戦してほしい。ひとまず弁証論のところを購入するなら、カント『純粋理性批判 (中)』(原佑訳、平凡社ライブラリー)をお勧めします。				
◇ 授業時間外学習	『純粋理性批判』を読むことは、哲学的な語彙力や思考力を鍛える最善の道の一つです。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 各 論 Western Philosophical Thought (Special Lecture)	2	非常勤講師 野 家 伸 也	5	火	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI305J				
◆ 授業題目	フッサール『論理学研究』を読む (Reading Husserl's Logical Investigations)				
◆ 目的・概要	『論理学研究』において現象学的思考が誕生していく過程についての正確な知識を得ることを目的とする。『論理学研究』においてフッサールが自らに与えた課題は、「心理的なもの」と「論理的なもの」の相互関係を記述することであった。その際フッサールは、「心理的なもの」を切り捨てたり(論理主義)、「論理的なもの」を「心理的なもの」に還元したり(心理主義)という「力技」ではなく、「心理的なもの」と「論理的なもの」という二つのシステムの相互の独立性を認めながらも、それらの間に共通の〈構造〉を通じた対応関係を見出すことで両者を統一的全体の中に位置づけるという方法を選んだ。これは「内的なもの」と「外的なもの」、「主観的なもの」と「客観的なもの」の二項対立を〈構造〉概念によって〈中和化〉ないし〈調停〉していくことによって、近代の実証主義的方法がもたらした「知の分裂」を克服するという構造主義の方法を先取りするものである。この授業では、特に『論理学研究』第二巻の第六研究におけるカテゴリー的直観の理論と、第三研究における全体／部分関係の理論がヤーコブソンの構造言語学において〈構造〉概念の成立を促したこと、さらにヤーコブソンを介してレヴィ＝ストロースの構造人類学の成立にも機縁を与えていることに着目し、フッサールに始まる現象学的思考と東欧に始まりパリに受け継がれた構造主義的思考の本質的な関連性を探っていく。				
◆ 到達目標	現象学的思考が誕生していく過程についての正確な知識を得ることで、現象学についての理解を確かなものとする。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序：『算術の哲学』から『論理学研究』へ 2. 『論理学研究』全体の意図と時代背景 3. 『論理学研究』第二巻の意図と現象学的思考の誕生 4. ロシアにおける『論理学研究』の受容と構造言語学 5. フッサールとヤーコブソン 6. ヤーコブソンとレヴィ＝ストロース 7. 表現とその意味 8. 純粋文法の理念 9. 意味志向と意味充実 10. カテゴリー的直観 11. 基づけの関係 12. 独立性と非独立性 13. 全体／部分関係 14. 意味の独立性と非独立性 15. まとめ：現象学的思考と構造主義的思考 				
◇ 成績評価の方法	期末のレポートによる。				
◇ 教科書・参考書	関連するテキストは前もってプリントで配布する。参考書は授業中に随時指示する。				
◇ 授業時間外学習	関連するテキストを前もって熟読しておくことが望まれる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 各 論 Western Philosophical Thought (Special Lecture)	2	非常勤 講師 加 藤 泰 史	集 中 (6)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI305J				
◆ 授業題目	カント実践哲学の諸問題 (Kant's Practical Philosophy as modern and contemporary philosophy)				
◆ 目的・概要	カント哲学を理解することは近代哲学ばかりでなく現代哲学も理解するのに不可欠である。本講義では、特にカントの実践哲学のいくつかのテーマに焦点を当てながら、「公共性」・「価値（あるいは、尊厳）」・「責任」といった現代哲学でも重要な問題を取り上げて論じてみたい。最後に『オプス・ポストウムム』に関する最新の研究状況を紹介しながら、「移行」の問題などを分析するとともに、「超越論的観念論がスピノザ主義である」とは何を意味するのかという問いを通して『オプス・ポストウムム』がカント哲学の体型のどこに位置するのかを論じる。				
◆ 到達目標	上記で示した考察を通して、カント哲学が現代哲学に深く浸透している状況を把握すると同時に、他方でカント哲学そのものの課題および限界がどのような仕方でも乗り越えられようとしているのかを理解することを本講義の目指す到達目標とした。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前批判期カントの自然倫理学 1 2. 前批判期カントの自然倫理学 2 3. 前批判期カントの社会哲学（カントのホップズ需要） 4. カントとホップズ 1（カントの根源的契約） 5. カントとホップズ 2（カントの制度化論） 6. 理性の公共的使用とは何か？ 7. 国際連盟か国際国家か（『永遠平和のために』と公共的使用） 8. クレプスの価値論 9. コースガードの価値論 10. カントの価値論 11. カントの尊厳概念（絶対的価値としての尊厳？） 12. 嘘論文の政治哲学 13. 道徳と政治のアンチノミー 14. 『オプス・ポストウムム』と「移行（Übergang）」の問題 15. 『オプス・ポストウムム』のスピノザ主義？（超越論的観念論はスピノザ主義か？） 				
◇ 成績評価の方法	レポート（100%）				
◇ 教科書・参考書	教科書：特に使用しない。参考書：岩波版カント全集（岩波書店）、シェーンリッヒ『カントと討議倫理学の問題』（晃洋書房）、コースガード『義務とアイデンティティの倫理学』（岩波書店）、渡辺二郎監修『西洋哲学史再構築試論』（昭和堂）など。				
◇ 授業時間外学習	カントの実践哲学関係の著作や、参考文献をあらかじめ読んでおくことと理解が深まる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
生 命 環 境 倫 理 学 各 論 Bio-Environmental Ethics (Special Lecture)	2	非常勤 講師 小 林 陸	5	水	5
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI306J				
◆ 授業題目	生殖医療の倫理学 (Bioethics : Ethics of Reproductive Technologies and Genetics)				
◆ 目的・概要	近年の生殖医療技術の発展には目覚ましいものがある。たとえば、体細胞クローン技術、iPS細胞株の樹立、胎児診断の普及、ゲノム編集の進展など、生命の始まりに関わる様々な技術がこれまでにない人間の生活を可能にしつつある。講義では、こうした生命科学・医療技術の発達に伴って新たに生じてきた道徳的ジレンマについて考え、生命の始まりに関わる倫理学のあり方を再検討することを試みることにしたい。				
◆ 到達目標	生命倫理上の諸問題について (a)関連する科学／技術の基本的なあり方が理解できるようになる。 (b)概念上の混乱を整理し、倫理的な観点から問いを立てられるようになる。 (c)その解決策を自分なりに検討できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入—生殖医療技術の倫理— 2. 父親を知らせるべきか—AI（人工授精）の憂鬱— 3. 母親は誰なのか—IVFにおける卵子提供— 4. 何のために産むのか—代理母の立場— 5. 代理出産を認めてよいか—産む側と頼む側— 6. 子供は誰のものか—身体所有と労働所有— 7. 中絶はなぜ必要か—優生保護法から母体保護法へ— 8. 中絶は禁止すべきか—pro-life vs. pro-choice— 9. 子供を選んでもよいのか—胎児診断と受精卵診断— 10. 選択的中絶は優生的でないか—優生学と予防医学— 11. 受精卵をどう扱うか—胚の身分とその扱い— 12. 遺伝情報は誰のものか—遺伝子診断とプライバシー— 13. ヒトの遺伝子操作はしてよいのか—アシロマ会議からカルタヘナ議定書へ— 14. ゲノム編集の衝撃—その意義と問題点— 15. 講義まとめ—生命の起源— 				
◇ 成績評価の方法	レポートまたはテスト				
◇ 教科書・参考書	●教科書 教科書は使用しない。講義時にプリントを配布する。 ●参考文献 加藤尚武『脳死・クローン・遺伝子治療—バイオエシックスの練習問題』（PHP新書）、市川容孝『生命倫理とは何か』（平凡社）、H.T. エンゲルハート、H. ヨナスほか著『バイオエシックスの基礎』（東海大学出版会）など。 その他、講義時に随時指示する。				
◇ 授業時間外学習	生命医療に関する新聞記事を注意して読むこと。次回講義に備えて、前回の講義ノートと配布プリントの復習をしておくこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
生 命 環 境 倫 理 学 各 論 Bio-Environmental Ethics (Special Lecture)	2	非常勤 講師 福 間 聡	6	月	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI306J				
◆ 授業題目	現代の分析的倫理学 (Contemporary Analytic Ethics)				
◆ 目的・概要	本講義では英語圏の倫理学である「分析的倫理学」について考察します。G.E. ムアの『倫理学原理』からはじまる分析的倫理学の系譜ですが、現在では多様な立場が存在しています。その中から主要な立場をピックアップし、それらは道徳的判断や道徳的推論、そして道徳的理由や道徳的事実についてどのような見解を示しているのかを吟味します。とりわけ構成主義という立場を中心に検討を行います。授業は、関連するテキストを読み解きながら、担当教員の講義・解説と受講者からの質問やコメントを中心に進めます。				
◆ 到達目標	現代の分析的倫理学の論争状況について理解した上で、倫理的な諸概念について批判的な考察ができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のテーマと授業計画の説明 2. 未決問題論法の検討 3. 情動主義の検討 4. 錯誤理論の検討 5. 自然主義的道徳実在論の検討 (1) 6. 自然主義的道徳実在論の検討 (2) 7. 非自然主義的道徳実在論の検討 (1) 8. 非自然主義的道徳実在論の検討 (2) 9. 準実在論と表出主義の検討 (1) 10. 準実在論と表出主義の検討 (2) 11. 構成主義 (1) 12. 構成主義 (2) 13. 構成主義 (3) 14. 構成主義 (4) 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	課題の提出と期末レポートによって評価します。				
◇ 教科書・参考書	授業内で指定します。				
◇ 授業時間外学習	配布あるいは指定された資料を熟読すること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
生 命 環 境 倫 理 学 演 習 Bio-Environmental Ethics (Seminar)	2	教授 直 江 清 隆	6	火	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI314J				
◆ 授業題目	エンハンスメントの倫理学 (Ethics of Enhancement)				
◆ 目的・概要	現在、人間のいくつかの心的、身体的能力を通常の限界を超えて増強することができるようになった。これはエンハンスメントと呼ばれるが、特定の薬物療法や医学的処置がそこで用いられる。近い将来には、より多くの能力をより多様な仕方で増強できるようになることが見込まれている。エンハンスメント技術がより広範に用いられることを歓迎する議論もあれば、警戒を持ち、あるいは道徳的に異議を唱えるべしと考える議論もある。エンハンスメントの倫理学では、こうした反応が明確な哲学的論拠によって支持しうるかどうかの検討がなされる。この授業では、Steve Clarke et al (ed.), The Ethics of Human Enhancement: Understanding the Debate, 2016 に取められたいくつかの論文を取り上げ、この問題について考えていくことにする。障害者にとこの技術が堂であるかが論点になるので、場合によってはErik Parens, Adrienne Asch (ed.), Prenatal testing and disability rights, 2000から短い論文を紹介したり、関連する日本語文献の紹介を交えることも検討する。生命倫理学の基本的な事項と問題を理解し、批判的に検討できるようになることを目標とする。				
◆ 到達目標					
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (授業の進め方、予習上の注意、テキストの配布、要約担当の割り当て) 2. 担当者による報告と内容についての議論 (1) 3. 担当者による報告と内容についての議論 (2) 4. 担当者による報告と内容についての議論 (3) 5. 担当者による報告と内容についての議論 (4) 6. 担当者による報告と内容についての議論 (5) 7. 担当者による報告と内容についての議論 (6) 8. 担当者による報告と内容についての議論 (7) 9. 担当者による報告と内容についての議論 (8) 10. 担当者による報告と内容についての議論 (9) 11. 担当者による報告と内容についての議論 (10) 12. 担当者による報告と内容についての議論 (11) 13. 担当者による報告と内容についての議論 (12) 14. 担当者による報告と内容についての議論 (13) 15. まとめ エンハンスメントをどう捉えればよいのか 				
◇ 成績評価の方法	レポート (訳読の担当など) 60% 授業全体への貢献度 40%				
◇ 教科書・参考書	教科書: Steve Clarke et al (ed.), The Ethics of Human Enhancement: Understanding the Debate, 2016 (開講時にプリントを配布) 参考書: 赤林朗編『入門・医療倫理 (1)』、マイケル・J・サンデル『完全な人間を目指さなくてもよい理由 - 遺伝子操作とエンハンスメントの倫理』、生命環境倫理ドイツ情報センター『エンハンスメント - バイオテクノロジーによる人間改造と倫理』 そのほかの参考文献については適宜授業内で指示する。				
◇ 授業時間外学習	担当の回でなくとも予習すること、出席して討議に参加するように努めること。生命倫理についての基本的な考え方が問われることも多いので、基本書にも進んで取り組んで欲しい。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	非常勤 講師 森 一 郎	5	火	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI313J				
◆ 授業題目	アーレント『革命について』第4章を読む (Reading Hannah Arendt's On Revolution, Chapter 4)				
◆ 目的・概要	ハンナ・アーレントの『革命について』は、『人間の条件』(『活動的生』)に次ぐ、第二の哲学的名著であり、21世紀の今日、まさに読まれるべき根本書である。 この授業では、英語版(1963年)とドイツ語版(1965年)との違いに留意し、とりわけドイツ語版の精読に努める(ドイツ語版からの日本語訳を配布予定)。第4章「創設——自由の構成」を読んでゆく。				
◆ 到達目標	・20世紀の古典的テクストを読み味わい、哲学的思考を鍛える。 ・哲学書の原典読解に堪える語学力を身につける。・テクストの内容や疑問点を整理して発表し、質疑応答を交わす力を養う。 ・哲学の根本問題と現代日本の問題状況が直結していることを学ぶ。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとイントロダクション:アーレントと『革命について』 2. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その1:第1節(その1)——解放のための反乱と、自由のための革命 3. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その2:第1節(その2)——権力のポジティブな意味 4. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その3:第1節(その3)——モンテスキュー論 5. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その4:第1節(その4)——押しつけられた憲法と、人民自身が構成する体制 6. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その5:第1節(その5)——権力の分立と均衡 7. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その6:第2節(その1)——権力と権威 8. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その7:第2節(その2)——絶対者の問題 9. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その8:第2節(その3)——近代における世俗化の政治的意味 10. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その9:第2節(その4)——法と権力の無根拠性の問題 11. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その10:第3節(その1)——新しいアメリカ的権力概念 12. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その11:第3節(その2)——連邦制の原理 13. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その12:第3節(その3)——メイフラワー誓約のアーレント的解釈 14. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その13:第3節(その4)——約束と契約 15. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その14:第3節(その5)——ロックの社会契約論の背景としてのアメリカ植民地の経験 				
◇ 成績評価の方法	平常点(出席、発表担当、議論への参加など)を70%、学期末レポートを30%として総合評価する。				
◇ 教科書・参考書	教科書(購入を勧めるが、プリントを配布することもある): Hannah Arendt, On Revolution, Penguin Books Hannah Arendt, Über die Revolution, Piper 参考書(購入を勧める):ハンナ・アーレント『革命について』志水速雄訳、ちくま学芸文庫				
◇ 授業時間外学習	毎回の講読範囲をあらかじめ熟読し、疑問点などはメモして、授業に臨むこと。また、授業後には何度も読み直して、理解を深めること。				
その他:					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	教授 直 江 清 隆	6	金	5
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI313J				
◆ 授業題目	自己と他者の現象学 (Phenomenology of Self and Other)				
◆ 目的・概要	自己や相互主観性は最近ふたたび注目を集めているテーマです。この演習では Dan Zahav, Self and Other: Exploring Subjectivity, Empathy, and Shame, 2015を読みすすめるでこの問題に対するアプローチの仕方を身につけていくこととなります。この本は、現象学の伝統にある著作ですが、分析哲学や認知科学にも目を配っていて、たんに学説の解釈だけにとどまらない議論を展開しています。参加者の興味に応じて若干の変更はありますが、Empath and social cognition ないし subjectivity or Selfhoodの章を読みすすめる予定でいます。 前期の「哲学思想演習Ⅰ」(佐藤駿助教、木 4)と関係が深いテーマですが、そちらを履修していなくても支障はありません。				
◆ 到達目標	自己と他者に関する現象学や認知科学的アプローチの基本的な問題構成を理解し、自ら考察できる素養を養う。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 報告と議論 自己と他者の現象学 (1) 3. 報告と議論 自己と他者の現象学 (2) 4. 報告と議論 自己と他者の現象学 (3) 5. 報告と議論 自己と他者の現象学 (4) 6. 間章 他者論の問題構成 7. 報告と議論 自己と他者の現象学 (5) 8. 報告と議論 自己と他者の現象学 (6) 9. 報告と議論 自己と他者の現象学 (7) 10. 報告と議論 自己と他者の現象学 (8) 11. 間章 現在の集合志向性論 12. 報告と議論 自己と他者の現象学 (9) 13. 報告と議論 自己と他者の現象学 (10) 14. 報告と議論 自己と他者の現象学 (11) 15. まとめ 自己と他者とは 				
◇ 成績評価の方法	レポート(訳読の担当など)70% 授業全体への貢献度 30%				
◇ 教科書・参考書	教科書: Zahav, Self and Other: Exploring Subjectivity, Empathy, and Shame, 2015(開講時に配布する) 参考書: ギャラガー、ザハヴィ『現象学的な心』石原孝二 他訳、勁草書房、2011。 そのほかの参考文献については適宜授業内で指示する。				
◇ 授業時間外学習	担当の回でなくとも予習すること、出席して討議に参加するように努めること。現象学や認知科学の紹介文献はたくさんあるので、進んで取り組んで欲しい。				
その他:					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	准教授 荻原理	5	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI313J																				
◆ 授業題目	プラトン『饗宴』を読む1 (Seminar on Plato's SYMPOSIUM (Part 1))																				
◆ 目的・概要	プラトン『饗宴』中、アガトン演説が終わってからの箇所を原語（古代ギリシャ語）で丹念に読み進めます。テキストを音読します。それから、あらかじめ決めておいた担当者が担当箇所を日本語に訳します（わからなかった点はいくらでもそう言って、質問して下さい結構です）。教員も含め皆で、文法事項や内容について議論します。翻訳・注釈も参照します。																				
◆ 到達目標	今学期読んだ箇所について、文法的に説明できるようになる。今学期読んだ箇所の内容について、明確に説明できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション（『饗宴』全体についての簡単な説明を含む）</td> <td>8. 『饗宴』第23章前半</td> </tr> <tr> <td>2. 以下はおおまかな予定にすぎません。『饗宴』伝統的章分けの第20章（198a1-）前半</td> <td>9. 『饗宴』第23章後半</td> </tr> <tr> <td>3. 『饗宴』第20章後半</td> <td>10. 『饗宴』第24章前半</td> </tr> <tr> <td>4. 『饗宴』第21章前半</td> <td>11. 『饗宴』第24章後半</td> </tr> <tr> <td>5. 『饗宴』第21章後半</td> <td>12. 『饗宴』第25章前半</td> </tr> <tr> <td>6. 『饗宴』第22章前半</td> <td>13. 『饗宴』第25章後半</td> </tr> <tr> <td>7. 『饗宴』第22章後半</td> <td>14. 『饗宴』第26章前半</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 『饗宴』第26章後半</td> </tr> </table>					1. オリエンテーション（『饗宴』全体についての簡単な説明を含む）	8. 『饗宴』第23章前半	2. 以下はおおまかな予定にすぎません。『饗宴』伝統的章分けの第20章（198a1-）前半	9. 『饗宴』第23章後半	3. 『饗宴』第20章後半	10. 『饗宴』第24章前半	4. 『饗宴』第21章前半	11. 『饗宴』第24章後半	5. 『饗宴』第21章後半	12. 『饗宴』第25章前半	6. 『饗宴』第22章前半	13. 『饗宴』第25章後半	7. 『饗宴』第22章後半	14. 『饗宴』第26章前半		15. 『饗宴』第26章後半
1. オリエンテーション（『饗宴』全体についての簡単な説明を含む）	8. 『饗宴』第23章前半																				
2. 以下はおおまかな予定にすぎません。『饗宴』伝統的章分けの第20章（198a1-）前半	9. 『饗宴』第23章後半																				
3. 『饗宴』第20章後半	10. 『饗宴』第24章前半																				
4. 『饗宴』第21章前半	11. 『饗宴』第24章後半																				
5. 『饗宴』第21章後半	12. 『饗宴』第25章前半																				
6. 『饗宴』第22章前半	13. 『饗宴』第25章後半																				
7. 『饗宴』第22章後半	14. 『饗宴』第26章前半																				
	15. 『饗宴』第26章後半																				
◇ 成績評価の方法	担当時のパフォーマンス：80% 担当時以外の、授業中のパフォーマンス：20%																				
◇ 教科書・参考書	テキスト・注釈はプリントを配布します。それ以外の文献については授業中、随時紹介します。																				
◇ 授業時間外学習	次回に読む箇所の予習																				
その他：古代ギリシャ語の初等文法を学んでいることが参加の条件です。ただし、文法事項の覚え残しが多々あっても構いません。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	准教授 荻原理	6	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI313J																				
◆ 授業題目	プラトン『饗宴』を読む2 (Seminar on Plato's SYMPOSIUM (Part 2))																				
◆ 目的・概要	プラトン『饗宴』中、前学期の続きを原語（古代ギリシャ語）で丹念に読み進めます。まずテキストを音読します。それから、あらかじめ決めておいた担当者が担当箇所を日本語に訳します（わからなかった点はそう言って、いくらでも質問して下さい結構です）。教員も含め、皆で、文法事項や内容について議論します。翻訳・注釈も参照します。																				
◆ 到達目標	今学期読んだ箇所について、文法的に説明できるようになる。今学期読んだ箇所の内容について、明確に説明できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 『饗宴』の、前学期の続き (1)</td> <td>9. 『饗宴』の、前学期の続き (9)</td> </tr> <tr> <td>2. 『饗宴』の、前学期の続き (2)</td> <td>10. 『饗宴』の、前学期の続き (10)</td> </tr> <tr> <td>3. 『饗宴』の、前学期の続き (3)</td> <td>11. 『饗宴』の、前学期の続き (11)</td> </tr> <tr> <td>4. 『饗宴』の、前学期の続き (4)</td> <td>12. 『饗宴』の、前学期の続き (12)</td> </tr> <tr> <td>5. 『饗宴』の、前学期の続き (5)</td> <td>13. 『饗宴』の、前学期の続き (13)</td> </tr> <tr> <td>6. 『饗宴』の、前学期の続き (6)</td> <td>14. 『饗宴』の、前学期の続き (14)</td> </tr> <tr> <td>7. 『饗宴』の、前学期の続き (7)</td> <td>15. 『饗宴』の、前学期の続き (15)</td> </tr> <tr> <td>8. 『饗宴』の、前学期の続き (8)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 『饗宴』の、前学期の続き (1)	9. 『饗宴』の、前学期の続き (9)	2. 『饗宴』の、前学期の続き (2)	10. 『饗宴』の、前学期の続き (10)	3. 『饗宴』の、前学期の続き (3)	11. 『饗宴』の、前学期の続き (11)	4. 『饗宴』の、前学期の続き (4)	12. 『饗宴』の、前学期の続き (12)	5. 『饗宴』の、前学期の続き (5)	13. 『饗宴』の、前学期の続き (13)	6. 『饗宴』の、前学期の続き (6)	14. 『饗宴』の、前学期の続き (14)	7. 『饗宴』の、前学期の続き (7)	15. 『饗宴』の、前学期の続き (15)	8. 『饗宴』の、前学期の続き (8)	
1. 『饗宴』の、前学期の続き (1)	9. 『饗宴』の、前学期の続き (9)																				
2. 『饗宴』の、前学期の続き (2)	10. 『饗宴』の、前学期の続き (10)																				
3. 『饗宴』の、前学期の続き (3)	11. 『饗宴』の、前学期の続き (11)																				
4. 『饗宴』の、前学期の続き (4)	12. 『饗宴』の、前学期の続き (12)																				
5. 『饗宴』の、前学期の続き (5)	13. 『饗宴』の、前学期の続き (13)																				
6. 『饗宴』の、前学期の続き (6)	14. 『饗宴』の、前学期の続き (14)																				
7. 『饗宴』の、前学期の続き (7)	15. 『饗宴』の、前学期の続き (15)																				
8. 『饗宴』の、前学期の続き (8)																					
◇ 成績評価の方法	担当時のパフォーマンス：80% 担当時以外の、授業中のパフォーマンス：20%																				
◇ 教科書・参考書	テキスト・注釈はプリントを配布します。それ以外の文献については授業中、随時紹介します。																				
◇ 授業時間外学習	次回に読む箇所の予習																				
その他：古代ギリシャ語の初等文法を学んでいることが参加の条件です。ただし、文法事項の覚え残しが多々あっても構いません。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	准教授	原 壘	5	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI313J																					
◆ 授業題目	社会認識論 1 (Social Epistemology 1)																					
◆ 目的・概要	従来の認識論は社会から切り離された個人の信念を分析対象としていたが、知識とは何かについて十分な理解をうるためには、社会関係や組織についても考察することが不可欠である。社会における知識生産のあり方に焦点をあて、分析する認識論の新規分野が社会認識論である。この演習では、社会認識論の古典である、A. I. Goldman, 2003. Knowledge in a Social World. Oxford University Pressを精読する。前期は、第1章 (1. Epistemology and Postmodern Resistance) を扱う。																					
◆ 到達目標	1. 社会認識論について理解する。 2. 英文の哲学文献を読み、理解し、内容を議論するスキルを身につける。																					
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. はじめに</td> <td style="width:50%;">9. Knowledge in a Social World 読解 8</td> </tr> <tr> <td>2. Knowledge in a Social World 読解 1</td> <td>10. Knowledge in a Social World 読解 9</td> </tr> <tr> <td>3. Knowledge in a Social World 読解 2</td> <td>11. Knowledge in a Social World 読解 10</td> </tr> <tr> <td>4. Knowledge in a Social World 読解 3</td> <td>12. Knowledge in a Social World 読解 11</td> </tr> <tr> <td>5. Knowledge in a Social World 読解 4</td> <td>13. Knowledge in a Social World 読解 12</td> </tr> <tr> <td>6. Knowledge in a Social World 読解 5</td> <td>14. Knowledge in a Social World 読解 13</td> </tr> <tr> <td>7. Knowledge in a Social World 読解 6</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. Knowledge in a Social World 読解 7</td> <td></td> </tr> </table>						1. はじめに	9. Knowledge in a Social World 読解 8	2. Knowledge in a Social World 読解 1	10. Knowledge in a Social World 読解 9	3. Knowledge in a Social World 読解 2	11. Knowledge in a Social World 読解 10	4. Knowledge in a Social World 読解 3	12. Knowledge in a Social World 読解 11	5. Knowledge in a Social World 読解 4	13. Knowledge in a Social World 読解 12	6. Knowledge in a Social World 読解 5	14. Knowledge in a Social World 読解 13	7. Knowledge in a Social World 読解 6	15. まとめ	8. Knowledge in a Social World 読解 7	
1. はじめに	9. Knowledge in a Social World 読解 8																					
2. Knowledge in a Social World 読解 1	10. Knowledge in a Social World 読解 9																					
3. Knowledge in a Social World 読解 2	11. Knowledge in a Social World 読解 10																					
4. Knowledge in a Social World 読解 3	12. Knowledge in a Social World 読解 11																					
5. Knowledge in a Social World 読解 4	13. Knowledge in a Social World 読解 12																					
6. Knowledge in a Social World 読解 5	14. Knowledge in a Social World 読解 13																					
7. Knowledge in a Social World 読解 6	15. まとめ																					
8. Knowledge in a Social World 読解 7																						
◇ 成績評価の方法	課題との取り組み (60%)、レポート (40%)																					
◇ 教科書・参考書	A. I. Goldman, 2003. Knowledge in a Social World. Oxford University Press																					
◇ 授業時間外学習	授業前にテキストを自宅で読解しておくこと。																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	准教授	原 壘	6	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI313J																					
◆ 授業題目	社会認識論 2 (Social Epistemology 2)																					
◆ 目的・概要	従来の認識論は社会から切り離された個人の信念を分析対象としていたが、知識とは何かについて十分な理解をうるためには、社会関係や組織についても考察することが不可欠である。社会における知識生産のあり方に焦点をあて、分析する認識論の新規分野が社会認識論である。この演習では、社会認識論の古典である、A. I. Goldman, 2003. Knowledge in a Social World. Oxford University Pressを精読する。後期は、第2章 (2. Truth) を扱う。																					
◆ 到達目標	1. 社会認識論について理解する。 2. 英文の哲学文献を読み、理解し、内容を議論するスキルを身につける。																					
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. はじめに</td> <td style="width:50%;">9. Knowledge in a Social World 読解 8</td> </tr> <tr> <td>2. Knowledge in a Social World 読解 1</td> <td>10. Knowledge in a Social World 読解 9</td> </tr> <tr> <td>3. Knowledge in a Social World 読解 2</td> <td>11. Knowledge in a Social World 読解 10</td> </tr> <tr> <td>4. Knowledge in a Social World 読解 3</td> <td>12. Knowledge in a Social World 読解 11</td> </tr> <tr> <td>5. Knowledge in a Social World 読解 4</td> <td>13. Knowledge in a Social World 読解 12</td> </tr> <tr> <td>6. Knowledge in a Social World 読解 5</td> <td>14. Knowledge in a Social World 読解 13</td> </tr> <tr> <td>7. Knowledge in a Social World 読解 6</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. Knowledge in a Social World 読解 7</td> <td></td> </tr> </table>						1. はじめに	9. Knowledge in a Social World 読解 8	2. Knowledge in a Social World 読解 1	10. Knowledge in a Social World 読解 9	3. Knowledge in a Social World 読解 2	11. Knowledge in a Social World 読解 10	4. Knowledge in a Social World 読解 3	12. Knowledge in a Social World 読解 11	5. Knowledge in a Social World 読解 4	13. Knowledge in a Social World 読解 12	6. Knowledge in a Social World 読解 5	14. Knowledge in a Social World 読解 13	7. Knowledge in a Social World 読解 6	15. まとめ	8. Knowledge in a Social World 読解 7	
1. はじめに	9. Knowledge in a Social World 読解 8																					
2. Knowledge in a Social World 読解 1	10. Knowledge in a Social World 読解 9																					
3. Knowledge in a Social World 読解 2	11. Knowledge in a Social World 読解 10																					
4. Knowledge in a Social World 読解 3	12. Knowledge in a Social World 読解 11																					
5. Knowledge in a Social World 読解 4	13. Knowledge in a Social World 読解 12																					
6. Knowledge in a Social World 読解 5	14. Knowledge in a Social World 読解 13																					
7. Knowledge in a Social World 読解 6	15. まとめ																					
8. Knowledge in a Social World 読解 7																						
◇ 成績評価の方法	課題との取り組み (60%)、レポート (40%)																					
◇ 教科書・参考書	A. I. Goldman, 2003. Knowledge in a Social World. Oxford University Press																					
◇ 授業時間外学習	授業前にテキストを自宅で読解しておくこと。																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	准教授	原 壘	5	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI313J																					
◆ 授業題目	哲学のメソッド (How to Write a Philosophy Paper)																					
◆ 目的・概要	哲学で論文を執筆するのは難しい。論文を執筆するためには、テーマを決め、そのテーマに関連する文献を集め、それらを読解し、議論状況を確認した後で、いままでの議論には見られない著者独自の視点をもつ議論を組み立てなければならない。だが、特にどのようなテーマで、またどのような仕方議論を組み立てれば、著者独自で、〈哲学〉らしい論文になるのだろうか。この授業では、いくつかの研究論文を選んで、その特徴や成立過程を分析し、哲学論文の書き方を示した後で、受講者に実際に短い研究論文を執筆、発表してもらう。																					
◆ 到達目標	1. 哲学論文の分析方法に習熟する。 2. 研究テーマを見つけ、テーマに関連する文献を調査し、著者独自の議論を組み立て、論文を執筆し、発表することができるようになる。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. はじめに</td> <td>9. 研究論文の分析 2</td> </tr> <tr> <td>2. 哲学論文を書くとはどのようなことか</td> <td>10. 研究論文の分析 3</td> </tr> <tr> <td>3. 研究論文の読み方</td> <td>11. 研究論文の分析 4</td> </tr> <tr> <td>4. 論文の主題を見つける</td> <td>12. 研究発表 1</td> </tr> <tr> <td>5. 議論の組み立て方</td> <td>13. 研究発表 2</td> </tr> <tr> <td>6. 引用の倫理</td> <td>14. 研究発表 3</td> </tr> <tr> <td>7. 研究発表の仕方</td> <td>15. 研究発表 4</td> </tr> <tr> <td>8. 研究論文の分析 1</td> <td></td> </tr> </table>						1. はじめに	9. 研究論文の分析 2	2. 哲学論文を書くとはどのようなことか	10. 研究論文の分析 3	3. 研究論文の読み方	11. 研究論文の分析 4	4. 論文の主題を見つける	12. 研究発表 1	5. 議論の組み立て方	13. 研究発表 2	6. 引用の倫理	14. 研究発表 3	7. 研究発表の仕方	15. 研究発表 4	8. 研究論文の分析 1	
1. はじめに	9. 研究論文の分析 2																					
2. 哲学論文を書くとはどのようなことか	10. 研究論文の分析 3																					
3. 研究論文の読み方	11. 研究論文の分析 4																					
4. 論文の主題を見つける	12. 研究発表 1																					
5. 議論の組み立て方	13. 研究発表 2																					
6. 引用の倫理	14. 研究発表 3																					
7. 研究発表の仕方	15. 研究発表 4																					
8. 研究論文の分析 1																						
◇ 成績評価の方法	授業中の課題に取り組む (60%)、論文執筆と研究発表 (40%)																					
◇ 教科書・参考書	佐々木健一『論文ゼミナール』2014年、東京大学出版会戸田山和久『新版 論文教室——レポートから卒論まで』2012年、NHK出版本多勝一『〈新版〉日本語の作文技術』2015年、朝日出版																					
◇ 授業時間外学習	論文執筆を目的として授業時に課される課題と取り組む。																					
その他：授業の具体的な進め方については初回授業時に説明する。この授業は哲学専修・倫理学専修3年次の学生向けである。他専修や他学年で受講を希望する者は授業担当教員と相談すること。																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	准教授	原 壘	6	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI313J																					
◆ 授業題目	科学理論と証拠 (Scientific Evidence)																					
◆ 目的・概要	観察や実験によって証拠がえられた時、その証拠によって科学理論や仮説が検証されたり、反証されたりすると言われる。しかし、たった一つの証拠によって、科学理論が真であることが確かめられたり、偽であることが示されたりするわけではない。とすれば、証拠と理論はどのような関係に立つのか。このことを検討するために、エリオット・ソーバー『科学と証拠——統計の哲学入門』松王政浩訳、名古屋大学出版会、2012年を読解する。																					
◆ 到達目標	1. 科学理論や仮説と証拠の関係について理解する。 2. 統計の哲学について理解する。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. はじめに</td> <td>9. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 8</td> </tr> <tr> <td>2. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 1</td> <td>10. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 9</td> </tr> <tr> <td>3. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 2</td> <td>11. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 10</td> </tr> <tr> <td>4. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 3</td> <td>12. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 11</td> </tr> <tr> <td>5. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 4</td> <td>13. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 12</td> </tr> <tr> <td>6. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 5</td> <td>14. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 13</td> </tr> <tr> <td>7. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 6</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 7</td> <td></td> </tr> </table>						1. はじめに	9. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 8	2. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 1	10. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 9	3. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 2	11. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 10	4. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 3	12. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 11	5. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 4	13. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 12	6. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 5	14. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 13	7. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 6	15. まとめ	8. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 7	
1. はじめに	9. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 8																					
2. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 1	10. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 9																					
3. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 2	11. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 10																					
4. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 3	12. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 11																					
5. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 4	13. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 12																					
6. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 5	14. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 13																					
7. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 6	15. まとめ																					
8. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 7																						
◇ 成績評価の方法	課題への取り組み (60%)、レポート (40%)																					
◇ 教科書・参考書	エリオット・ソーバー『科学と証拠——統計の哲学入門』松王政浩訳、名古屋大学出版会、2012年																					
◇ 授業時間外学習	授業前にテキストを読解しておくこと。																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	准教授 城 戸 淳	5	水	5
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI313J				
◆ 授業題目	カントの超越論的演繹論(A) (Kant's Transcendental Deduction (A))				
◆ 目的・概要	カント『純粋理性批判』(1781/87年)における超越論的演繹論は、いかにしてカテゴリー(純粋悟性概念)が対象へと関わるかを説明することを試みるもので、アプリオリな総合判断の客観的实在性を論証するという批判哲学のプロジェクトの肝になる箇所である。とはいえこの箇所は、難解な諸論証が脈絡なく結晶化したかのようなテキストであり、古くからカント解釈の論争の中心地の一つであった。しかもそれが第二版ではほぼ全面的に書き改められたので、二つの版での異同も検討の必要がある。演習では、前期は第一版の、後期は第二版の超越論的演繹論をドイツ語原文で読みすすめる(範囲は進捗状況に応じて変わる場合がある)。また、英語・ドイツ語・日本語等の各種コメントリーや研究書・研究論文などを、輪番でレジュメにして紹介してもらう。				
◆ 到達目標	哲学テキストを読む忍耐力と咀嚼力を身につける。カントの超越論的演繹論の骨子を理解したうえで、みずから思考し、表現する力を養う。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入と問題設定 2. 第一節 (§13) 超越論的演繹一般の原理について (1) 3. (§13) 超越論的演繹一般の原理について (2) 4. (§14) カテゴリーの超越論的演繹への移行 5. 第二節 経験の可能性のためのアプリオリな諸根拠について 6. 予備的注意 7. 1 直観における把握の総合について 8. 2 想像における再生の総合について 9. 3 概念における再認の総合について (1) 10. 3 概念における再認の総合について (2) 11. 4 アプリオリな認識としてのカテゴリーの可能性についての予備的説明 12. 第三節 対象一般への悟性の関係について、対象一般をアプリオリに説明する可能性について (1) 13. 対象一般への悟性の関係について、対象一般をアプリオリに説明する可能性について (2) 14. 純粋悟性概念のこの演繹が正当で、唯一可能であることの要約提示 15. 第一版超越論的演繹論の総括と考察 				
◇ 成績評価の方法	出席、邦訳や担当発表の達成度、討議の貢献度などを総合的に判定する。				
◇ 教科書・参考書	Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.				
◇ 授業時間外学習	予習を欠かさず、各種の訳書、コメントリーや研究書などに目を通して演習に臨むこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	准教授 城 戸 淳	6	水	5
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI313J				
◆ 授業題目	カントの超越論的演繹論(B) (Kant's Transcendental Deduction (B))				
◆ 目的・概要	カント『純粋理性批判』(1781/87年)における超越論的演繹論は、いかにしてカテゴリー(純粋悟性概念)が対象へと関わるかを説明することを試みるもので、アプリオリな総合判断の客観的实在性を論証するという批判哲学のプロジェクトの肝になる箇所である。とはいえこの箇所は、難解な諸論証が脈絡なく結晶化したかのようなテキストであり、古くからカント解釈の論争の中心地の一つであった。しかもそれが第二版ではほぼ全面的に書き改められたので、二つの版での異同も検討の必要がある。演習では、前期は第一版の、後期は第二版の超越論的演繹論をドイツ語原文で読みすすめる(範囲は進捗状況に応じて変わる場合がある)。また、英語・ドイツ語・日本語等の各種コメントリーや研究書・研究論文などを、輪番でレジュメにして紹介してもらう。				
◆ 到達目標	哲学テキストを読む忍耐力と咀嚼力を身につける。カントの超越論的演繹論の骨子を理解したうえで、みずから思考し、表現する力を養う。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第二節 §15 総合一般の可能性について 2. §16 統覚の根源的=総合的統一について 3. §17 統覚の総合的統一の原則があらゆる悟性概念の最上の原理である 4. §18 自己意識の客観的統一とは何か 5. §19 あらゆる判断の論理的形式は、判断に含まれる諸概念が統覚によって客観的に統一されることに存する 6. §20 すべての感性的直観はカテゴリーの下に立ち、カテゴリーとはその下でのみ感性的直観の多様が意識において総括される条件である 7. §21 註記 8. §22 カテゴリーには、経験の対象へと適用される以外には、物の認識のために使用されない 9. §23 10. §24 感官の対象一般へのカテゴリーの適用について 11. §25 12. §26 純粋悟性概念の一般に可能な経験使用についての超越論的演繹 13. §27 悟性概念のこの演繹の成果 14. この演繹の短い総括 15. 第二版超越論的演繹論の総括と考察 				
◇ 成績評価の方法	出席、邦訳や担当発表の達成度、討議の貢献度などを総合的に判定する。				
◇ 教科書・参考書	Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.				
◇ 授業時間外学習	予習を欠かさず、各種の訳書、コメントリーや研究書などに目を通して演習に臨むこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	准教授 城 戸 淳	6	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI313J				
◆ 授業題目	ホッブズ＝プラムホール論争と近代の自由意志論③(Hobbes and Bramhall on Liberty and Necessity (3))				
◆ 目的・概要	ホッブズ＝プラムホール論争とは、17世紀中頃に、いわば中世から近代への時代の断絶面に露呈するように展開された、自由意志をめぐる名高い論争である。デリーにて主教を務め、中世スコラ哲学以来の伝統的な自由意志論を擁護するジョン・プラムホールと、唯物論的な決定論を背景にして、たんに妨げられない意志の実現にのみ自由を認めるトマス・ホッブズとの論争は、今日にいたるまで自由意志の問題を考えるための最良の題材である。さらには、この論争を起点にして、近代のさまざまな哲学者の自由意志論へと考察の幅を広げてゆくこともできよう。 演習では、この論争の英語原文をレジュメ形式で要約してもらいつつ読みすすめる（昨年度に続く箇所から読み始めるが、はじめて参加する受講者にも配慮する）。またそれと並行して、近代における自由意志の代表的な哲学説を報告してもらい、自由意志論の切り口から近代哲学史への知見を深めたい。 ホッブズ＝プラムホール論争の骨子を把握し、近代のさまざまな自由意志論を学ぶ。その成果をふまえて、みずから問題を思考し、表現する力を養う。				
◆ 到達目標					
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス——導入と問題設定（昨年度までの概要） 2. プラムホール『真の自由の擁護』(1) 3. プラムホール『真の自由の擁護』(2) 4. プラムホール『真の自由の擁護』(3) 5. プラムホール『真の自由の擁護』(4) 6. ホッブズ『自由、必然性、偶然についての諸問題』(1) 7. ホッブズ『自由、必然性、偶然についての諸問題』(2) 8. ホッブズ『自由、必然性、偶然についての諸問題』(3) 9. ホッブズ『自由、必然性、偶然についての諸問題』(4) 10. ホッブズ『自由、必然性、偶然についての諸問題』(5) 11. デカルト——自発性の自由と無差別の自由 12. ライプニッツ——可能世界論と人間的自由 13. ロックとヒューム——イギリス経験論の自由論 14. カント——第三アンチノミーと自律 15. 総括と考察 				
◇ 成績評価の方法	出席、担当と発表、討議（以上70%）と期末のレポート（30%）による。				
◇ 教科書・参考書	Vere Chappell (ed.), Hobbes and Bramhall on Liberty and Necessity, Cambridge: Cambridge University Press, 1999. (必要な部分はコピーで配布する。)				
◇ 授業時間外学習	発表のときに思い切って全力を投入することはもちろん、担当の回でなくとも予習を欠かさずに出席し、討議に参加するように努めることで、徐々に哲学的な体力が鍛えられるだろう。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	助教 佐 藤 駿	5	木	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI313J				
◆ 授業題目	フッサール『デカルト的省察』を読む (Reading Husserl's Cartesianische Meditationen)				
◆ 目的・概要	【目的】ドイツ語で書かれた哲学のテキストを原文で読み、その内容を理解する能力を涵養するとともに、フッサール現象学の考え方を学びつつ、自ら哲学するための手がかりを見つける。 【概要】前年度に引き続き、Edmund Husserl 著 Cartesianische Meditationen の“V. Meditation: Enthüllung der transzendentalen Seinssphäre als monadologische Intersubjektivität”をドイツ語の原文で読む。適当な部分ごとに担当者をあらかじめ決め、担当者が授業内でテキストを訳読するかたちで進める。もちろん、不明点・問題点があれば、それを取り上げて議論する時間を適宜はさむ。ドイツ語に慣れない学生は邦訳（英訳・仏訳）を参照してもよいが、わからないところはわからないというのでいいので、まずはドイツ語のテキストと格闘してみしてほしい。				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツ語のテキストを読むことに慣れる。 2. フッサールの現象学について簡単な説明を与えることができる。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション。授業の概要を説明するとともに、主に初めて参加する受講者のために、昨年度までに読み進めた部分のまとめを行なう。 2. 第51節を読む (1)。 3. 第51節を読む (2)。 4. 第52節を読む (1)。 5. 第52節を読む (2)。 6. 第53節を読む。 7. 第54節を読む (1)。 8. 第54節を読む (2)。 9. 第55節を読む (1)。 10. 第55節を読む (2)。 11. 第55節を読む (3)。 12. 第55節を読む (4)。 13. 第55節を読む (5)。 14. 第56節を読む (1)。 15. 第56節を読む (2)。 				
◇ 成績評価の方法	訳読の担当 (50%) + 授業全体への貢献度 (50%)。				
◇ 教科書・参考書	Edmund Husserl. Cartesianische Meditationen und Pariser Vorträge. Husserliana I, hrsg. von S. Strasser, 2. Auflage. Kluwer Academic Publishers, 1991. 〔邦訳：『デカルト的省察』浜島辰二訳、岩波書店（岩波文庫）、2001年〕*初回授業時にコピーを配布する。				
◇ 授業時間外学習	担当でない場合でも予習をし、インターネットや関連図書などを駆使して、自分なりに現象学について勉強すること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
倫 理 思 想 概 論 Western Ethical Thought (General Lecture)	2	教授 戸 島 貴代志	3	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI207J				
◆ 授業題目	現象学・倫理学通論 (General argument of Phenomenology and Ethics)				
◆ 目的・概要	ものは、〈外側から〉眺められ、〈内側から〉生きられる。前者すなわち〈表象する思考〉は対象から距離をとる客観的思考を目指し、後者すなわち〈遂行する思考〉は対象そのものと一つになる主体的思考を目指す。講義では、両者の中庸に本来の現象学的思考が位置することを説明し、倫理学の原点には常にかかる中庸が控えていることを、「外側から捉えることと内側から捉えること」という内容を中心にして解明する。				
◆ 到達目標	広い意味での哲学的思考における最も基本的な二つのものの見方の理解を得ること				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外側からとらえることと内側からとらえること 2. 思考の枠組み 3. 個と全体、全体と場所 4. 生きた言葉と死んだ言葉 5. 部分と全体 6. 語られるもの・示されるもの 7. みずから・おのずから 8. 目立たぬもの 9. 出来上がったもの・出来つつあるもの 10. 存在と所有 11. 問題と神秘 12. 強者と弱者 13. 時間のサイズと空間のサイズ 14. 出会い 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	出席 3割、レポート 7割				
◇ 教科書・参考書	ベルクソン『思想と動くもの』ハイデガー『存在と時間』戸島貴代志『創造と想起』 (以上は参考図書)				
◇ 授業時間外学習	講義内容の復習を中心に学習する。				
その他：オフィスアワーは昼休み					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
倫 理 思 想 概 論 Western Ethical Thought (General Lecture)	2	准教授 村 山 達 也	4	金	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI207J				
◆ 授業題目	倫理学の基礎 (Introduction to Ethics)				
◆ 目的・概要	どんなにぼんやり生きていても、私たちはどこかで、道徳や幸福、人生の意味をめぐる問題にぶつかります (あるいは、すでに巻き込まれています)。とても複雑なそうした問題を解きほぐし、少しでも見通しよく生きる、ないし考えるためには、これまで蓄積されてきた考え方を、そしてそれを批判的に検討する議論を知ることがとても役立ちます (知ったからといって必ずしもよく生きられるようにはなりません、おそらく、それは何を学ぶにせよ言えることです)。というわけで、この講義ではそれを学びます。 理解度を確認し、その深化を図るため、毎回アンケートを取り (成績とはほぼ無関係)、質問に答える回を設けます。				
◆ 到達目標	(1)倫理学の基礎知識 (基本的な問題と主要な回答、ならびに重要な反論) を身につける。 (2)以上のことを通じて、倫理的な問題設定や考え方が自分でもできるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 1：哲学・倫理学とは何か 2. 導入 2：倫理学が抱かれがちな疑問——価値についての相対主義 3. 質問への回答、ならびに、宗教と道徳の関係について 4. 道徳の哲学 1：規範倫理学 (1) 義務論 5. 道徳の哲学 1：規範倫理学 (2) 功利主義 6. 道徳の哲学 1：規範倫理学 (3) 徳倫理学 7. 質問への回答 8. 道徳の哲学 1：規範倫理学・番外編 現代政治哲学 9. 道徳の哲学 2：メタ倫理学 10. 質問への回答 11. 幸福の哲学 1：道徳と幸福の関係——規範倫理学の諸学説における幸福論 12. 幸福の哲学 2：現代における幸福 (福利) 論の展開 13. 質問への回答 14. 人生の意味の哲学：人生の意味について倫理的に考える、とは 15. 質問への回答、ならびに、試験についての説明 				
◇ 成績評価の方法	学期末に試験を行い、ほぼそれのみで評価します。				
◇ 教科書・参考書	教科書は不要です (必要なものはプリントを配布します)。 参考文献は講義内で適宜紹介します。				
◇ 授業時間外学習	講義についてのノート作成、参考文献の読解など。				
その他：特別な予備知識は不要です。なお、理論的な問題に特化しますので、いわゆる「応用倫理学」の問題は扱いません。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
倫 理 思 想 基 礎 講 読 Western Ethical Thought (Introductory Reading)	2	教授 戸 島 貴代志	3	月	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI215J				
◆ 授業題目	生の哲学と実存思想 (Philosophy of life and Existentialism)				
◆ 目的・概要	<p>1) ベルクソンの『思想と動くもの』を精読する。このテキストは、ベルクソンがみずからの主要著作の全体を極めてわかりやすくまとめた講演・論文集であるが、ベルクソン自身によるベルクソン研究の羅針盤ともなっている。初学者にも配慮された文体はフランス語の教科書としても多用されるほど語彙や文法のバランスがよい。参加者には、比喩を多用するベルクソンの文章に取り残されない想像力と、彼の柔軟な概念規定を理解する等しく柔軟な論理的思考力が要求されるが、基本的には、フランス語の修養も兼ねた、息の長い骨太の思考の訓練の場として臨んでもらいたい。</p> <p>2) ニーチェ、マルセル、ジンメル、メルロ＝ポンティ等を含めて、「生の哲学」と「実存思想」の異同を確認する。</p> <p>3) 第二外国語がフランス語以外の学生にも配慮する。</p>				
◆ 到達目標	「生の哲学」と「実存思想」との射程と異同を理解する。				
◆ 授業内容・方法	<p>1. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 1</p> <p>2. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 2</p> <p>3. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 3</p> <p>4. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 4</p> <p>5. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 5</p> <p>6. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 6</p> <p>7. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 7</p> <p>8. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 8</p> <p>9. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 9</p> <p>10. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 10</p> <p>11. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 11</p> <p>12. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 12</p> <p>13. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 13</p> <p>14. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 14</p> <p>15. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 15</p>				
◇ 成績評価の方法	発表 5割、出席 5割				
◇ 教科書・参考書	ベルクソン、マルセル、メルロ＝ポンティ等のテキストを授業時に指示する。				
◇ 授業時間外学習	テキストを読み、授業に備える。				
その他：オフィスアワーは昼休み					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
倫 理 思 想 基 礎 講 読 Western Ethical Thought (Introductory Reading)	2	教授 戸 島 貴代志	4	月	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI215J				
◆ 授業題目	生の哲学と実存思想 (Philosophy of life and Existentialism)				
◆ 目的・概要	<p>1) ベルクソンの『思想と動くもの』を精読する。このテキストは、ベルクソンがみずからの主要著作の全体を極めてわかりやすくまとめた講演・論文集であるが、ベルクソン自身によるベルクソン研究の羅針盤ともなっている。初学者にも配慮された文体はフランス語の教科書としても多用されるほど語彙や文法のバランスがよい。参加者には、比喩を多用するベルクソンの文章に取り残されない想像力と、彼の柔軟な概念規定を理解する等しく柔軟な論理的思考力が要求されるが、基本的には、フランス語の修養も兼ねた、息の長い骨太の思考の訓練の場として臨んでもらいたい。</p> <p>2) ニーチェ、マルセル、ジンメル、メルロ＝ポンティ等を含めて、「生の哲学」と「実存思想」の異同を確認する。</p> <p>3) 第二外国語がフランス語以外の学生にも配慮する。</p>				
◆ 到達目標	「生の哲学」と「実存思想」との射程と異同を理解する。				
◆ 授業内容・方法	<p>1. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 1</p> <p>2. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 2</p> <p>3. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 3</p> <p>4. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 4</p> <p>5. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 5</p> <p>6. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 6</p> <p>7. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 7</p> <p>8. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 8</p> <p>9. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 9</p> <p>10. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 10</p> <p>11. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 11</p> <p>12. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 12</p> <p>13. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 13</p> <p>14. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 14</p> <p>15. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 15</p>				
◇ 成績評価の方法	発表 5割、出席 5割				
◇ 教科書・参考書	ベルクソン、マルセル、メルロ＝ポンティ等のテキストを授業時に指示する。				
◇ 授業時間外学習	テキストを読み、授業に備える。				
その他：オフィスアワーは昼休み					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
倫 理 思 想 基 礎 講 読 Western Ethical Thought (Introductory Reading)	2	教 授 戸 島 貴 代 志	3	水	3																		
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI215J																						
◆ 授業題目	倫理学研究のレッスン(1) (Ethics for Beginners 1)																						
◆ 目的・概要	この演習は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それにもとづいて討論したり発表したりする力を身につけるためのものです。最初の10回程度は、教員が選んだテキスト（前期は日本語）をもとに、適宜講義を挟みつつ、レジュメを作成したり、テキストをもとに議論したりする訓練を行います。また、最後の5回程度は、みなさんに自分の問題関心にもとづいた発表を行っていただき、それをもとに議論します（前後期を通して全員が一回は発表することが望ましい）。																						
◆ 到達目標	(1)哲学・倫理学の文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。 (2)哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようにする。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>7. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (1)</td> </tr> <tr> <td>2. デレク・パーフィット『理由と人格 — 非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (1)</td> <td>8. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (2)</td> </tr> <tr> <td>3. デレク・パーフィット『理由と人格 — 非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (2)</td> <td>9. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (3)</td> </tr> <tr> <td>4. デレク・パーフィット『理由と人格 — 非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (3)</td> <td>10. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (4)</td> </tr> <tr> <td>5. デレク・パーフィット『理由と人格 — 非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (4)</td> <td>11. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (5)</td> </tr> <tr> <td>6. デレク・パーフィット『理由と人格 — 非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性(5)</td> <td>12. 発表と討論 (1)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13. 発表と討論 (2)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. 発表と討論 (3)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 発表と討論 (4)</td> </tr> </table>					1. ガイダンス	7. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (1)	2. デレク・パーフィット『理由と人格 — 非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (1)	8. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (2)	3. デレク・パーフィット『理由と人格 — 非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (2)	9. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (3)	4. デレク・パーフィット『理由と人格 — 非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (3)	10. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (4)	5. デレク・パーフィット『理由と人格 — 非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (4)	11. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (5)	6. デレク・パーフィット『理由と人格 — 非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性(5)	12. 発表と討論 (1)		13. 発表と討論 (2)		14. 発表と討論 (3)		15. 発表と討論 (4)
1. ガイダンス	7. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (1)																						
2. デレク・パーフィット『理由と人格 — 非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (1)	8. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (2)																						
3. デレク・パーフィット『理由と人格 — 非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (2)	9. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (3)																						
4. デレク・パーフィット『理由と人格 — 非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (3)	10. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (4)																						
5. デレク・パーフィット『理由と人格 — 非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性 (4)	11. ロック『人間知性論』の人格同一性論 (5)																						
6. デレク・パーフィット『理由と人格 — 非人格性の倫理へ』第3部 人格の同一性(5)	12. 発表と討論 (1)																						
	13. 発表と討論 (2)																						
	14. 発表と討論 (3)																						
	15. 発表と討論 (4)																						
◇ 成績評価の方法	報告、討論、数回のコメントペーパーによる平常点（60％）と、最後の発表ないしレポート（40％）で評価します。必要なものはすべてプリントで配布します。参考書は演習内で指示します。																						
◇ 教科書・参考書	必要なものはすべてプリントで配布します。参考書は演習内で指示します。																						
◇ 授業時間外学習	事前にテキストを読み理解に努めてください。報告担当になったときには、事前に教員およびTAに相談し、レジュメについてアドバイスを受けるようにしてください。																						
その他：具体的な進め方は初回の授業の時に説明します。（哲学基礎講読と併せて授業します。）倫理学専修の2年生は必ず履修するようにしてください。他の専修のかたは初回時に教員とご相談ください。																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
倫 理 思 想 基 礎 講 読 Western Ethical Thought (Introductory Reading)	2	准教授 村 山 達 也	4	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI215J																				
◆ 授業題目	倫理学研究のレッスン(2) (Ethics for Beginners 2)																				
◆ 目的・概要	この演習は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それにもとづいて討論したり発表したりする力を身につけるためのものです。最初の10回程度は、教員が選んだテキスト（前期は日本語）をもとに、適宜講義を挟みつつ、レジュメを作成したり、テキストをもとに議論したりする訓練を行います。また、最後の5回程度は、みなさんに自分の問題関心にもとづいた発表を行っていただき、それをもとに議論します（前後期を通して全員が一回は発表することが望ましい）。																				
◆ 到達目標	(1)哲学・倫理学の文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。 (2)哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようにする。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>8. Art as Ideal (Kenneth Clark, Jennifer Jeffers) (2)</td> </tr> <tr> <td>2. 海外の倫理学教科書からの抜粋を読む (1)</td> <td>9. Art as Ideal (Kenneth Clark, Jennifer Jeffers) (3)</td> </tr> <tr> <td>3. 海外の倫理学教科書からの抜粋を読む (2)</td> <td>10. Art as Ideal (Kenneth Clark, Jennifer Jeffers) (4)</td> </tr> <tr> <td>4. 海外の倫理学教科書からの抜粋を読む (3)</td> <td>11. Art as Ideal (Kenneth Clark, Jennifer Jeffers) (5)</td> </tr> <tr> <td>5. 海外の倫理学教科書からの抜粋を読む (4)</td> <td>12. 発表と討論 (1)</td> </tr> <tr> <td>6. 海外の倫理学教科書からの抜粋を読む (5)</td> <td>13. 発表と討論 (2)</td> </tr> <tr> <td>7. Art as Ideal (Kenneth Clark, Jennifer Jeffers) (1) (同レベルのテキストに変更の可能性があります)</td> <td>14. 発表と討論 (3)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 発表と討論 (4)</td> </tr> </table>					1. ガイダンス	8. Art as Ideal (Kenneth Clark, Jennifer Jeffers) (2)	2. 海外の倫理学教科書からの抜粋を読む (1)	9. Art as Ideal (Kenneth Clark, Jennifer Jeffers) (3)	3. 海外の倫理学教科書からの抜粋を読む (2)	10. Art as Ideal (Kenneth Clark, Jennifer Jeffers) (4)	4. 海外の倫理学教科書からの抜粋を読む (3)	11. Art as Ideal (Kenneth Clark, Jennifer Jeffers) (5)	5. 海外の倫理学教科書からの抜粋を読む (4)	12. 発表と討論 (1)	6. 海外の倫理学教科書からの抜粋を読む (5)	13. 発表と討論 (2)	7. Art as Ideal (Kenneth Clark, Jennifer Jeffers) (1) (同レベルのテキストに変更の可能性があります)	14. 発表と討論 (3)		15. 発表と討論 (4)
1. ガイダンス	8. Art as Ideal (Kenneth Clark, Jennifer Jeffers) (2)																				
2. 海外の倫理学教科書からの抜粋を読む (1)	9. Art as Ideal (Kenneth Clark, Jennifer Jeffers) (3)																				
3. 海外の倫理学教科書からの抜粋を読む (2)	10. Art as Ideal (Kenneth Clark, Jennifer Jeffers) (4)																				
4. 海外の倫理学教科書からの抜粋を読む (3)	11. Art as Ideal (Kenneth Clark, Jennifer Jeffers) (5)																				
5. 海外の倫理学教科書からの抜粋を読む (4)	12. 発表と討論 (1)																				
6. 海外の倫理学教科書からの抜粋を読む (5)	13. 発表と討論 (2)																				
7. Art as Ideal (Kenneth Clark, Jennifer Jeffers) (1) (同レベルのテキストに変更の可能性があります)	14. 発表と討論 (3)																				
	15. 発表と討論 (4)																				
◇ 成績評価の方法	報告、討論、数回のコメントペーパーによる平常点（60％）と、最後の発表ないしレポート（40％）で評価します。必要なものはすべてプリントで配布します。参考書は演習内で指示します。																				
◇ 教科書・参考書	必要なものはすべてプリントで配布します。参考書は演習内で指示します。																				
◇ 授業時間外学習	事前にテキストを読み理解に努めてください。報告担当になったときには、事前に教員およびTAに相談し、レジュメについてアドバイスを受ける用にしてください。																				
その他：具体的な進め方は初回の授業のときに説明します。（哲学基礎講読と併せて授業します。）倫理学専修の2年生は必ず履修するようにしてください。他の専修の方は初回時に教員とご相談ください。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
倫 理 思 想 各 論 Western Ethical Thought (Special Lecture)	2	非常勤 講師 秋 富 克 哉	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI307J				
◆ 授業題目	西谷啓治の哲学 (Philosophy of Keiji NISHITANI)				
◆ 目的・概要	西谷啓治は、西田幾多郎の最も正統的な後継者として、国内外で少しずつ研究の幅が広がっているが、いまだ十分に注目されているとは言えない。本講義では、西谷の代表的な著作を順次取り上げ、西洋の諸思想との対話・対決を確認しながら、西谷が自らの思想的立場を形成していった過程を明らかにしたい。構想力、ニヒリズム、空などの主要テーマをめぐって、西谷の立場の独自性を理解することを目的とする。毎時間、最初にまとまった内容について講義し、講義の最後に質問および議論の時間を設けたい。				
◆ 到達目標	日本を代表する宗教哲学者・西谷啓治 (1900-1990) について、(1)その基本的立場と思想的展開を跡づけるとともに、(2)とりわけ「空」の立場の独自性を理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 「哲学以前、哲学以後」 2. 根源的主体性について (1) 生の根源性 3. 根源的主体性について (2) 「中」 4. 根源的主体性について (3) 宗教哲学と神秘主義 5. 形/像/構想力について (1) 「形」の問題系 6. 形/像/構想力について (2) アリストテレス解釈 7. 形/像/構想力について (3) エックハルト解釈 8. ニヒリズムについて (1) 歴史としてのニヒリズム 9. ニヒリズムについて (2) ニイチェ解釈 10. ニヒリズムについて (3) ハイデッガー解釈 11. ニヒリズムについて (4) 日本におけるニヒリズム 12. 空について (1) 宗教とは何か 13. 空について (2) 虚無と空 14. 空について (3) 空の立場 15. まとめ 総括と展望 				
◇ 成績評価の方法	レポート [70%]・出席 [30%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は特に用いない。主要資料は、『西谷啓治著作集』全26巻 (創文社、1986-1995) をもとに、講義時に配布する。参考書については、適宜紹介する。				
◇ 授業時間外学習	授業の予習と復習をすること。				
その他：各自実際に著作集に当たること、および自らの専門思想家や研究テーマと付き合いながら積極的に取り組むことを求めたい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
倫 理 思 想 各 論 Western Ethical Thought (Special Lecture)	2	教授 戸 島 貴 代 志	6	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI307J				
◆ 授業題目	生の情念と死の思惟 (Pathos of Life and Speculation of Death)				
◆ 目的・概要	自らの「自然」に抗い己を虐げること何よりの「徳」とし、果ては究極の「不動心」impassibilitéの獲得に至ることをこの「徳」の極致と見るストア思想は、これに倣おうとする者にも自ずと「厳しく」「痛ましく」「悲壮な」顔つきを要求する。こうしたストア思想を思惟の鑑とするだけでなく、永きに亘ってこれを自らの生活信条とし自ら実践さえてきたモンテーニュ自身が、しかしながら晩年に至って「徳は楽しい陽気なもの」だと語ることになる。この「陽気さ」を誰よりも体現している「顔つき」、それを彼はソクラテスのそれに見ていた。「静かで楽々と」、「軽やかに楽しそう」、これが最期に毒盃を仰いだ賢者の「顔つき」であったと、モンテーニュはみずからの生涯を振り返って述懐している。人間を論ずるとき『エッセー』が常にそこへと立ち戻りそこから出発する問題、それが死の問題である。同書が「死を忘れるな」memento moriの書であるといわれる所以である。それにもかかわらずその書の到達点は、「死を忘れるな」ではなく、むしろ「死を忘れよ」であったといえる。本講義では、こうした一連の過程を「生の哲学」の視点から問い直すことを試みる。				
◆ 到達目標	「死を忘れるな」でもなく「死を忘れよ」でもない、死に面しての思惟の第三のあり方と、そのあり方を支える生の情念とを、モンテーニュ、ソクラテス、ベルクソンの思想に沿って理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. モンテーニュの「死の思惟」(1) 2. モンテーニュの「死の思惟」(2) 3. モンテーニュの「死の思惟」(3) 4. モンテーニュの「死の思惟」(4) 5. ストアとソクラテス「死の準備」(1) 6. ストアとソクラテス「死の準備」(2) 7. ストアとソクラテス「死の準備」(3) 8. ストアとソクラテス「死の準備」(4) 9. ベルクソンとソクラテス「生の情念」(1) 10. ベルクソンとソクラテス「生の情念」(2) 11. ベルクソンとソクラテス「生の情念」(3) 12. 二つの情緒「知性以下」と「知性以上」 13. 抑圧と憧憬 14. まとめ (1) 15. まとめ (2) 				
◇ 成績評価の方法	レポート 5割、出席 5割				
◇ 教科書・参考書	授業時に指示します。				
◇ 授業時間外学習	復習に重点を置いて下さい。				
その他：オフィスアワーは昼休み					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
倫 理 思 想 演 習 Western Ethical Thought (Seminar)	2	教授 戸 島 貴代志	5	月	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI315J				
◆ 授業題目	生の哲学と実存思想 (Philosophy of life and Existentialism)				
◆ 目的・概要	<p>1) ベルクソンの『思想と動くもの』を精読する。このテキストは、ベルクソンがみずからの主要著作の全体を極めてわかりやすくまとめた講演・論文集であるが、ベルクソン自身によるベルクソン研究の羅針盤ともなっている。初学者にも配慮された文体はフランス語の教科書としても多用されるほど語彙や文法のバランスがよい。参加者には、比喩を多用するベルクソンの文章に取り残されない想像力と、彼の柔軟な概念規定を理解する等しく柔軟な論理的思考力が要求されるが、基本的には、フランス語の修養も兼ねた、息の長い骨太の思考の訓練の場として臨んでもらいたい。</p> <p>2) ニーチェ、マルセル、ジンメル、メルロ＝ポンティ等を含めて、「生の哲学」と「実存思想」の異同を確認する。</p> <p>3) 第二外国語がフランス語以外の学生にも配慮する。</p>				
◆ 到達目標	「生の哲学」と「実存思想」との射程と異同を理解する。				
◆ 授業内容・方法	<p>1. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 1</p> <p>2. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 2</p> <p>3. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 3</p> <p>4. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 4</p> <p>5. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 5</p> <p>6. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 6</p> <p>7. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 7</p> <p>8. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 8</p> <p>9. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 9</p> <p>10. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 10</p> <p>11. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 11</p> <p>12. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 12</p> <p>13. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 13</p> <p>14. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 14</p> <p>15. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 15</p>				
◇ 成績評価の方法	発表 5割、出席 5割				
◇ 教科書・参考書	ベルクソン、マルセル、メルロ＝ポンティ等のテキストを授業時に指示する。				
◇ 授業時間外学習	テキストを読み、授業に備える。				
その他：オフィスアワーは昼休み					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
倫 理 思 想 演 習 Western Ethical Thought (Seminar)	2	教授 戸 島 貴代志	6	月	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI315J				
◆ 授業題目	生の哲学と実存思想 (Philosophy of life and Existentialism)				
◆ 目的・概要	<p>1) ベルクソンの『思想と動くもの』を精読する。このテキストは、ベルクソンがみずからの主要著作の全体を極めてわかりやすくまとめた講演・論文集であるが、ベルクソン自身によるベルクソン研究の羅針盤ともなっている。初学者にも配慮された文体はフランス語の教科書としても多用されるほど語彙や文法のバランスがよい。参加者には、比喩を多用するベルクソンの文章に取り残されない想像力と、彼の柔軟な概念規定を理解する等しく柔軟な論理的思考力が要求されるが、基本的には、フランス語の修養も兼ねた、息の長い骨太の思考の訓練の場として臨んでもらいたい。</p> <p>2) ニーチェ、マルセル、ジンメル、メルロ＝ポンティ等を含めて、「生の哲学」と「実存思想」の異同を確認する。</p> <p>3) 第二外国語がフランス語以外の学生にも配慮する。</p>				
◆ 到達目標	「生の哲学」と「実存思想」との射程と異同を理解する。				
◆ 授業内容・方法	<p>1. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 1</p> <p>2. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 2</p> <p>3. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 3</p> <p>4. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 4</p> <p>5. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 5</p> <p>6. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 6</p> <p>7. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 7</p> <p>8. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 8</p> <p>9. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 9</p> <p>10. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 10</p> <p>11. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 11</p> <p>12. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 12</p> <p>13. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 13</p> <p>14. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 14</p> <p>15. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 15</p>				
◇ 成績評価の方法	発表 5割、出席 5割				
◇ 教科書・参考書	ベルクソン、マルセル、メルロ＝ポンティ等のテキストを授業時に指示する。				
◇ 授業時間外学習	テキストを読み、授業に備える。				
その他：オフィスアワーは昼休み					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
倫 理 思 想 演 習 Western Ethical Thought (Seminar)	2	教授 戸 島 貴代志	5	水	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI315J				
◆ 授業題目	現象学と存在論 (Phenomenology and Ontology)				
◆ 目的・概要	1) ハイデガールの『存在と時間』を精読する。本年度は、テキストでは「世界内存在」「被投」「企投」「言葉」「死」「不安」といった概念が中心となる。前年度に引き続き、そのつどハイデガールの「存在の問い」の核心に立ち戻りつつ、前期・中期・後期を貫く「存在」概念の柔軟な理解を目指す。 2) 現象学と存在論のかかわりをハイデガールの存在概念とその探求方法とを通して解明する。 3) ドイツ語を第二外国語としていない学生にも配慮する。				
◆ 到達目標	ハイデガールの「存在の問い」における人間・存在・世界のかかわりを理解することを通して、「現象学」と「存在論」の関係を把握する。				
◆ 授業内容・方法	1. 総合演習：「現象学」と「存在論」1 2. 総合演習：「現象学」と「存在論」2 3. 総合演習：「現象学」と「存在論」3 4. 総合演習：「現象学」と「存在論」4 5. 総合演習：「現象学」と「存在論」5 6. 総合演習：「現象学」と「存在論」6 7. 総合演習：「現象学」と「存在論」7 8. 総合演習：「現象学」と「存在論」8 9. 総合演習：「現象学」と「存在論」9 10. 総合演習：「現象学」と「存在論」10 11. 総合演習：「現象学」と「存在論」11 12. 総合演習：「現象学」と「存在論」12 13. 総合演習：「現象学」と「存在論」13 14. 総合演習：「現象学」と「存在論」14 15. 総合演習：「現象学」と「存在論」15				
◇ 成績評価の方法	発表 7割、出席 3割。				
◇ 教科書・参考書	授業時に指示する。				
◇ 授業時間外学習	テキストを読み、授業に備える。				
その他：オフィスアワーは昼休み。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
倫 理 思 想 演 習 Western Ethical Thought (Seminar)	2	教授 戸 島 貴代志	6	水	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI315J				
◆ 授業題目	現象学と存在論 (Phenomenology and Ontology)				
◆ 目的・概要	1) ハイデガールの『存在と時間』を精読する。本年度は、テキストでは「世界内存在」「被投」「企投」「言葉」「死」「不安」といった概念が中心となる。前年度に引き続き、そのつどハイデガールの「存在の問い」の核心に立ち戻りつつ、前期・中期・後期を貫く「存在」概念の柔軟な理解を目指す。 2) 現象学と存在論のかかわりをハイデガールの存在概念とその探求方法とを通して解明する。 3) ドイツ語を第二外国語としていない学生にも配慮する。				
◆ 到達目標	ハイデガールの「存在の問い」における人間・存在・世界のかかわりを理解することを通して、「現象学」と「存在論」の関係を把握する。				
◆ 授業内容・方法	1. 総合演習：「現象学」と「存在論」1 2. 総合演習：「現象学」と「存在論」2 3. 総合演習：「現象学」と「存在論」3 4. 総合演習：「現象学」と「存在論」4 5. 総合演習：「現象学」と「存在論」5 6. 総合演習：「現象学」と「存在論」6 7. 総合演習：「現象学」と「存在論」7 8. 総合演習：「現象学」と「存在論」8 9. 総合演習：「現象学」と「存在論」9 10. 総合演習：「現象学」と「存在論」10 11. 総合演習：「現象学」と「存在論」11 12. 総合演習：「現象学」と「存在論」12 13. 総合演習：「現象学」と「存在論」13 14. 総合演習：「現象学」と「存在論」14 15. 総合演習：「現象学」と「存在論」15				
◇ 成績評価の方法	発表 7割、出席 3割。				
◇ 教科書・参考書	授業時に指示する。				
◇ 授業時間外学習	テキストを読み、授業に備える。				
その他：オフィスアワーは昼休み。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
倫 理 思 想 演 習 Western Ethical Thought (Seminar)	2	非常勤 講師 越 門 勝 彦	5	水	2																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHM-PHI315J フランス語演習 (French Philosophy (Seminar)) 20世紀フランスを代表する哲学者の一人であるポール・リクール(邦訳タイトルは『他者のような自己自身』)を読む。リクールの数多くの著作の中でも、『他としての自己自身』は、〈自己の解釈学〉を全面展開した書であること、また、分析哲学に対する彼のスタンスがそこで明らかにされていることから、リクール哲学を理解するうえで際立って重要な論考である。授業で読む箇所は、「第五研究 人格的自己同一性と物語的自己同一性」である。初回のガイダンスでは、著作全体の内容を概観し、「第五研究」の位置づけについて解説する。同時に、参加者のフランス語習熟度を確認し、役割分担等の詳細を決定する。その後は、毎回、担当者が作成した訳を検討し、次いで、担当者や参加者が提示する問題点について議論する、という仕方で行われる。テキストは、ポケット版を用いる。																				
◆ 到達目標	フランス語で書かれた哲学の文章を厳密に読み、その内容を正確に理解する力を養う。異なる意見を批判する議論の要点を的確に把握し、その批判の妥当性を判断する能力を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション リクールの紹介・『他としての自己自身』全体の概要・「第五研究」の位置づけ</td> <td>9. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解</td> </tr> <tr> <td>2. リクール『他としての自己自身』第五研究導入部読解</td> <td>10. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解</td> </tr> <tr> <td>3. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解</td> <td>11. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解</td> </tr> <tr> <td>4. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解</td> <td>12. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解</td> </tr> <tr> <td>5. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解</td> <td>13. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解</td> </tr> <tr> <td>6. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解</td> <td>14. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解</td> </tr> <tr> <td>7. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解</td> <td>15. まとめと展望</td> </tr> <tr> <td>8. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション リクールの紹介・『他としての自己自身』全体の概要・「第五研究」の位置づけ	9. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解	2. リクール『他としての自己自身』第五研究導入部読解	10. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解	3. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解	11. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解	4. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解	12. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解	5. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解	13. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解	6. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解	14. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解	7. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解	15. まとめと展望	8. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解	
1. イントロダクション リクールの紹介・『他としての自己自身』全体の概要・「第五研究」の位置づけ	9. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解																				
2. リクール『他としての自己自身』第五研究導入部読解	10. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解																				
3. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解	11. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解																				
4. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解	12. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解																				
5. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解	13. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解																				
6. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解	14. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解																				
7. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解	15. まとめと展望																				
8. リクール『他としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解																					
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	発表担当(日本語訳の作成)50%、議論への参加(問題点の提示など)50%で評価する。 Paul Ricoeur, Soi-même comme un autre, Éditions du Seuil 演習で扱う箇所の予習(疑問点のメモや事典での下調べなど)、担当箇所の日本語訳作成。																				
その他:																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
倫 理 思 想 演 習 Western Ethical Thought (Seminar)	2	准教授 村 山 達 也	6	水	2																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHM-PHI315J フランス哲学演習(1) ライブニッツ『モナドロジー』(Leibniz: Monadology) ライブニッツ(1646-1716年)が晩年の1714年に自らの形而上学をまとめた論考『モナドロジー』を読みます。担当者が作成した訳と要約を検討し、次いで、担当者や参加者が挙げる問題点について議論する、というかたちで進めます。主に用いるのはフランス語テキストですが、フランス語が(あまり)読めない方には英語の注釈の要約を担当していただきます。初めにガイダンスを行い、詳細を決めますので、参加希望者は必ず出席してください。2016年度からの継続で、今年度は第六一節から読み進めます。ただし、既に読んだ分についてははじめに概観しますので、今年度からの参加ももちろん歓迎です。テキストはMichel Fichantが校訂した版(Folio, Gallimard)を用います。注釈として主に参照するのは、この版に付されたものと、Rescher, G. W. Leibniz's Monadology: An Edition for Student (University of Pittsburgh Press)です。																				
◆ 到達目標	(1)外国語で書かれた哲学書を、注釈も活用しつつ、正確に読解できるようになる。 (2)そこで展開されている議論を再構成し、洞察を引き出したり問題を取り出したりできるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>9. 『モナドロジー』読解(つづき)</td> </tr> <tr> <td>2. 『モナドロジー』読解</td> <td>10. 『モナドロジー』読解(つづき)</td> </tr> <tr> <td>3. 『モナドロジー』読解(つづき)</td> <td>11. 『モナドロジー』読解(つづき)</td> </tr> <tr> <td>4. 『モナドロジー』読解(つづき)</td> <td>12. 『モナドロジー』読解(つづき)</td> </tr> <tr> <td>5. 『モナドロジー』読解(つづき)</td> <td>13. 『モナドロジー』読解(つづき)</td> </tr> <tr> <td>6. 『モナドロジー』読解(つづき)</td> <td>14. 『モナドロジー』読解(つづき)</td> </tr> <tr> <td>7. 『モナドロジー』読解(つづき)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 『モナドロジー』読解(つづき)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入	9. 『モナドロジー』読解(つづき)	2. 『モナドロジー』読解	10. 『モナドロジー』読解(つづき)	3. 『モナドロジー』読解(つづき)	11. 『モナドロジー』読解(つづき)	4. 『モナドロジー』読解(つづき)	12. 『モナドロジー』読解(つづき)	5. 『モナドロジー』読解(つづき)	13. 『モナドロジー』読解(つづき)	6. 『モナドロジー』読解(つづき)	14. 『モナドロジー』読解(つづき)	7. 『モナドロジー』読解(つづき)	15. まとめ	8. 『モナドロジー』読解(つづき)	
1. 導入	9. 『モナドロジー』読解(つづき)																				
2. 『モナドロジー』読解	10. 『モナドロジー』読解(つづき)																				
3. 『モナドロジー』読解(つづき)	11. 『モナドロジー』読解(つづき)																				
4. 『モナドロジー』読解(つづき)	12. 『モナドロジー』読解(つづき)																				
5. 『モナドロジー』読解(つづき)	13. 『モナドロジー』読解(つづき)																				
6. 『モナドロジー』読解(つづき)	14. 『モナドロジー』読解(つづき)																				
7. 『モナドロジー』読解(つづき)	15. まとめ																				
8. 『モナドロジー』読解(つづき)																					
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	担当(40%)と議論への参加度(60%)で評価します。 必要なものはプリントで配布します。参考書は適宜紹介します。 演習で扱う箇所の予習、要約の作成。「その他」の項目も参照。																				
その他:	予備知識なしに参加しても問題がないようにします。ただし、ライブニッツ『モナドロジー』のうち演習では読まない箇所、ライブニッツの他の著作・論文、ライプニッツについての本(主に入門書)などについて、ある程度は自主的に読書をしなさいといいたいし、楽しくないだろうと思います(なお、そうした読書は、すべて日本語で構いませんが、学期を通じて最低でも新書二冊程度の分量を想定しています)。読むと有益なものについては適宜紹介します。																				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
倫 理 思 想 演 習 Western Ethical Thought (Seminar)	2	准教授 村 山 達 也	6	金	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-PHI315J				
◆ 授業題目	フランス哲学演習(2) ラ・ボエシ『自発的隷従論』(La Boetie: The Discourse on Voluntary Servitude)				
◆ 目的・概要	<p>ラ・ボエシ(1530-1563年)は、モンテーニュが『エッセー』「友情について」で哀惜を込めて語った友人として、そして『自発的隷従論』(別題『反一者論』)の著者として知られています。彼が16才か18才のときに書いたとされるこの論考は、議論こそ荒削りなもの、鋭い問題提起によって、いまなおその重要性を失っていません。</p> <p>本演習では、この『自発的隷従論』をメインテキストに、「人はなぜ人に従うのか」「政治権力はどのように正当化されるか」「いかなる統治形態が最も望ましいのか」といった問題について考えていきます。具体的には、(1)この論考を読み、(2)上記の問題に関係する論文を数本読んでから、(3)みなさんに4000字程度のレポートを書いてもらい、それを全員で検討していく、というかたちで進めます。なお、テキストや論文はすべて日本語のものを用います。</p> <p>初回にガイダンスを行い、詳細を決めたく思いますので、参加希望者は必ず出席してください。</p>				
◆ 到達目標	(1)政治哲学(の一部)の基本的な考え方を理解する。				
◆ 授業内容・方法	(2)哲学のテキストから自分なりに問題を取り出し、考察できるようになる。				
	1. 導入	9. 発表ならびに議論(2)			
	2. ラ・ボエシ『自発的隷従論』読解	10. 発表ならびに議論(3)			
	3. ラ・ボエシ『自発的隷従論』読解(つづき)	11. 発表ならびに議論(4)			
	4. ラ・ボエシ『自発的隷従論』読解(つづき)	12. 発表ならびに議論(5)			
	5. 政治哲学論文の読解	13. 発表ならびに議論(6)			
	6. 政治哲学論文の読解(つづき)	14. 発表ならびに議論(7)			
	7. 政治哲学論文の読解(つづき)	15. まとめ			
	8. 発表ならびに議論(1)				
◇ 成績評価の方法	担当(要約と発表、あわせて50%)と議論への参加度(50%)で評価します。				
◇ 教科書・参考書	エティエンヌ・ド・ラ・ボエシ『自発的隷従論』(ちくま学芸文庫)は各自で用意してください。それ以外のものはすべてプリントを配布します。参考文献は適宜紹介します。				
◇ 授業時間外学習	演習で扱う箇所の予習、要約の作成、発表用原稿の作成。				
その他:					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 概 論 History of Oriental and Japanese Fine Arts (General Lecture)	2	教授 長 岡 龍 作	3	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART201J																				
◆ 授業題目	日本美術史基礎論—絵画の形式とモチーフの意味 (Basic study of Japanese art history —Forms of painting and meanings of motif)																				
◆ 目的・概要	美術作品は、大きく彫刻、絵画、工芸というように、ジャンルで分けられる。しかし、この分類は実は美術の形式の違いであるということもできる。そしてその各ジャンルはまた、さらに分類が可能である。例えば絵画には、壁画、掛幅、屏風、卷子、扇面、冊子、版画など、多様な表現形式がある。では、このような形式の差は、なぜ生まれたのだろうか？容易に想像がつくように、これはそれぞれの美術作品の機能に対応して生じたものだ。いいかえると、そのような美術作品には用途があるということである。この講義では、特に絵画作品の形式とあらわされたモチーフに注視しながら、美術の役割について考えてみたい。																				
◆ 到達目標	(1)日本美術史における基礎的な知識を身につける。 (2)美術史研究の基礎的な方法論を身につける。 (3)美術の形式と意味の関係を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション—日本美術の形式</td> <td>9. 建築に付属する絵画 3</td> </tr> <tr> <td>2. 器物の上の絵画</td> <td>10. 掛幅—儀礼の中の絵画 1</td> </tr> <tr> <td>3. 墳墓と絵画 1</td> <td>11. 掛幅—儀礼の中の絵画 2</td> </tr> <tr> <td>4. 墳墓と絵画 2</td> <td>12. 卷子—絵巻物の世界 1</td> </tr> <tr> <td>5. 屏風・障子</td> <td>13. 卷子—絵巻物の世界 2</td> </tr> <tr> <td>6. 画中画</td> <td>14. 絵画の展示空間</td> </tr> <tr> <td>7. 建築に付属する絵画 1</td> <td>15. 試験</td> </tr> <tr> <td>8. 建築に付属する絵画 2</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション—日本美術の形式	9. 建築に付属する絵画 3	2. 器物の上の絵画	10. 掛幅—儀礼の中の絵画 1	3. 墳墓と絵画 1	11. 掛幅—儀礼の中の絵画 2	4. 墳墓と絵画 2	12. 卷子—絵巻物の世界 1	5. 屏風・障子	13. 卷子—絵巻物の世界 2	6. 画中画	14. 絵画の展示空間	7. 建築に付属する絵画 1	15. 試験	8. 建築に付属する絵画 2	
1. イントロダクション—日本美術の形式	9. 建築に付属する絵画 3																				
2. 器物の上の絵画	10. 掛幅—儀礼の中の絵画 1																				
3. 墳墓と絵画 1	11. 掛幅—儀礼の中の絵画 2																				
4. 墳墓と絵画 2	12. 卷子—絵巻物の世界 1																				
5. 屏風・障子	13. 卷子—絵巻物の世界 2																				
6. 画中画	14. 絵画の展示空間																				
7. 建築に付属する絵画 1	15. 試験																				
8. 建築に付属する絵画 2																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験 [80%]、出席 [20%]																				
◇ 教科書・参考書	参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014年																				
◇ 授業時間外学習	授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる																				
その他：オフィスアワー：月・火・金の13：00～17：00（但し、授業時間外）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 概 論 History of Oriental and Japanese Fine Arts (General Lecture)	2	教授 長 岡 龍 作	4	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART201J																				
◆ 授業題目	日本美術史基礎論—彫刻の主題と表現 (Basic study of Japanese art history —Subjects of sculpture and Representation)																				
◆ 目的・概要	古代からの日本の美術を概観すれば、多くは信仰との関わりの中から生まれてきたことがわかる。不可視の世界を構想する宗教にとってそれを視覚化する美術はなくてはならないものだからだ。この講義では、日本において豊かに生み出された宗教美術のうち、特に彫刻を中心に論じる。人間の精神が生み出した豊かな造形を紹介することを通して、宗教と美術の本質的な関係を説明する。																				
◆ 到達目標	(1)日本美術史における基礎的な知識を身につける。 (2)美術史研究の基礎的な方法論を身につける。 (3)特に彫刻研究についての知識と方法を学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション—日本美術の形式</td> <td>9. 霊験と仏像</td> </tr> <tr> <td>2. 仏教における仏の「表象」(representation)</td> <td>10. 天の役割と表現</td> </tr> <tr> <td>3. 釈迦如来への信仰と表現</td> <td>11. 彫刻の外部と内部</td> </tr> <tr> <td>4. 阿弥陀如来への信仰と表現</td> <td>12. 神像の出現</td> </tr> <tr> <td>5. 薬師如来への信仰と表現</td> <td>13. 見える世界と見えない世界をつなぐ彫像</td> </tr> <tr> <td>6. 美術と祈り</td> <td>14. 肖像の表現と役割</td> </tr> <tr> <td>7. 弥勒菩薩への信仰と表現</td> <td>15. 試験</td> </tr> <tr> <td>8. 観音菩薩への信仰と表現</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション—日本美術の形式	9. 霊験と仏像	2. 仏教における仏の「表象」(representation)	10. 天の役割と表現	3. 釈迦如来への信仰と表現	11. 彫刻の外部と内部	4. 阿弥陀如来への信仰と表現	12. 神像の出現	5. 薬師如来への信仰と表現	13. 見える世界と見えない世界をつなぐ彫像	6. 美術と祈り	14. 肖像の表現と役割	7. 弥勒菩薩への信仰と表現	15. 試験	8. 観音菩薩への信仰と表現	
1. オリエンテーション—日本美術の形式	9. 霊験と仏像																				
2. 仏教における仏の「表象」(representation)	10. 天の役割と表現																				
3. 釈迦如来への信仰と表現	11. 彫刻の外部と内部																				
4. 阿弥陀如来への信仰と表現	12. 神像の出現																				
5. 薬師如来への信仰と表現	13. 見える世界と見えない世界をつなぐ彫像																				
6. 美術と祈り	14. 肖像の表現と役割																				
7. 弥勒菩薩への信仰と表現	15. 試験																				
8. 観音菩薩への信仰と表現																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験 [80%]、出席 [20%]																				
◇ 教科書・参考書	参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014年																				
◇ 授業時間外学習	授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる																				
その他：オフィスアワー：月・火・金の13：00～17：00（但し、授業時間外）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 基 礎 講 読 History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Reading)	2	教授 長 岡 龍 作	3	金	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART204J																				
◆ 授業題目	東洋・日本美術史論文研究 (Study on the papers of Oriental and Japanese art history)																				
◆ 目的・概要	東洋・日本美術史研究における基盤的な研究論文をとりあげて精読する。毎回一論文を読み、担当者はそのなかで扱われた作品を画像で提示し、資料をレジюмеとして示しながら、その内容を紹介する。また参加者は事前に論文を十分に読み込み、発表後に内容についてディスカッションを行う。																				
◆ 到達目標	東洋・日本美術史に関する基盤的な論文を読むことを通じて、研究方法を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクションー東洋・日本美術史研究の方法論</td> <td>9. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> </tr> <tr> <td>2. パイロット発表</td> <td>10. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> </tr> <tr> <td>3. パイロット発表</td> <td>11. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> </tr> <tr> <td>4. 発表準備</td> <td>12. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> </tr> <tr> <td>5. 発表準備</td> <td>13. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> </tr> <tr> <td>6. 発表準備</td> <td>14. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> </tr> <tr> <td>7. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> <td>15. 総括と評価</td> </tr> <tr> <td>8. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクションー東洋・日本美術史研究の方法論	9. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	2. パイロット発表	10. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	3. パイロット発表	11. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	4. 発表準備	12. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	5. 発表準備	13. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	6. 発表準備	14. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	7. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	15. 総括と評価	8. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	
1. イントロダクションー東洋・日本美術史研究の方法論	9. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																				
2. パイロット発表	10. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																				
3. パイロット発表	11. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																				
4. 発表準備	12. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																				
5. 発表準備	13. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																				
6. 発表準備	14. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																				
7. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	15. 総括と評価																				
8. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																					
◇ 成績評価の方法	出席 [50%]・発表表内容 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	対象論文は事前に提示するので各自コピーを用意すること。																				
◇ 授業時間外学習	参加者は該当論文を事前に精読しておくこと。																				
その他：3・4セメの東洋日本美術史基礎講読（長岡）は連続履修すること。 オフィスアワー：月・火・金の13：00～17：00（但し、授業時間外）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 基 礎 講 読 History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Reading)	2	教授 長 岡 龍 作	4	金	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART204J																				
◆ 授業題目	東洋・日本美術史論文研究 (Study on the papers of Oriental and Japanese art history)																				
◆ 目的・概要	東洋・日本美術史研究における基盤的な研究論文をとりあげて精読する。毎回一論文を読み、担当者はそのなかで扱われた作品を画像で提示し、資料をレジюмеとして示しながら、その内容を紹介する。また参加者は事前に論文を十分に読み込み、発表後に内容についてディスカッションを行う。																				
◆ 到達目標	東洋・日本美術史に関する基盤的な論文を読むことを通じて、研究方法を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクションー東洋・日本美術史研究の方法論</td> <td>9. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> </tr> <tr> <td>2. パイロット発表</td> <td>10. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> </tr> <tr> <td>3. パイロット発表</td> <td>11. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> </tr> <tr> <td>4. 発表準備</td> <td>12. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> </tr> <tr> <td>5. 発表準備</td> <td>13. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> </tr> <tr> <td>6. 発表準備</td> <td>14. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> </tr> <tr> <td>7. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> <td>15. 総括と評価</td> </tr> <tr> <td>8. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクションー東洋・日本美術史研究の方法論	9. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	2. パイロット発表	10. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	3. パイロット発表	11. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	4. 発表準備	12. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	5. 発表準備	13. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	6. 発表準備	14. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	7. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	15. 総括と評価	8. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	
1. イントロダクションー東洋・日本美術史研究の方法論	9. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																				
2. パイロット発表	10. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																				
3. パイロット発表	11. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																				
4. 発表準備	12. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																				
5. 発表準備	13. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																				
6. 発表準備	14. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																				
7. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	15. 総括と評価																				
8. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																					
◇ 成績評価の方法	出席 [50%]・発表表内容 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	対象論文は事前に提示するので各自コピーを用意すること。																				
◇ 授業時間外学習	参加者は該当論文を事前に精読しておくこと。																				
その他：3・4セメの東洋日本美術史基礎講読（長岡）は連続履修すること。 オフィスアワー：月・火・金の13：00～17：00（但し、授業時間外）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 基 礎 実 習 History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Laboratory Work)	2	教授 長 岡 龍 作	3	火	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART205J																				
◆ 授業題目	美術作品取り扱いの理論と実践 (Theory and practice of handling art works)																				
◆ 目的・概要	美術をめぐる活動のうち、作品調査の基礎的な技術と展示についての考え方を理解するため、授業は以下の内容で進める。 1. 美術作品についての口頭発表と写真資料の複写 2. 美術作品の調査と取り扱い 3. 美術作品展示の方法と実践																				
◆ 到達目標	美術をめぐる基礎的な技術を習得する																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 美術作品の調査と取り扱い 2</td> </tr> <tr> <td>2. 美術作品についての口頭発表の方法と実践</td> <td>10. 美術作品の調査と取り扱い 3</td> </tr> <tr> <td>3. 写真資料の複写の方法と実践</td> <td>11. 美術作品の調査と取り扱い 4</td> </tr> <tr> <td>4. 美術作品についての口頭発表準備と写真資料の複写</td> <td>12. 博物館展示の方法と実践</td> </tr> <tr> <td>5. 美術作品についての口頭発表準備と写真資料の複写</td> <td>13. 博物館展示の方法と実践</td> </tr> <tr> <td>6. 美術作品についての口頭発表準備と写真資料の複写</td> <td>14. 博物館展示の方法と実践</td> </tr> <tr> <td>7. 美術作品についての口頭発表</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 美術作品の調査と取り扱い 1</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 美術作品の調査と取り扱い 2	2. 美術作品についての口頭発表の方法と実践	10. 美術作品の調査と取り扱い 3	3. 写真資料の複写の方法と実践	11. 美術作品の調査と取り扱い 4	4. 美術作品についての口頭発表準備と写真資料の複写	12. 博物館展示の方法と実践	5. 美術作品についての口頭発表準備と写真資料の複写	13. 博物館展示の方法と実践	6. 美術作品についての口頭発表準備と写真資料の複写	14. 博物館展示の方法と実践	7. 美術作品についての口頭発表	15. まとめ	8. 美術作品の調査と取り扱い 1	
1. イントロダクション	9. 美術作品の調査と取り扱い 2																				
2. 美術作品についての口頭発表の方法と実践	10. 美術作品の調査と取り扱い 3																				
3. 写真資料の複写の方法と実践	11. 美術作品の調査と取り扱い 4																				
4. 美術作品についての口頭発表準備と写真資料の複写	12. 博物館展示の方法と実践																				
5. 美術作品についての口頭発表準備と写真資料の複写	13. 博物館展示の方法と実践																				
6. 美術作品についての口頭発表準備と写真資料の複写	14. 博物館展示の方法と実践																				
7. 美術作品についての口頭発表	15. まとめ																				
8. 美術作品の調査と取り扱い 1																					
◇ 成績評価の方法	出席 [80%]・授業態度 [20%]																				
◇ 教科書・参考書	資料はその都度配布する。																				
◇ 授業時間外学習	展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。																				
その他：3・4セメの東洋日本美術史基礎実習（長岡）は連続履修すること。 オフィスアワー：月・火・金の13：00～17：00（但し、授業時間外）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 基 礎 実 習 History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Laboratory Work)	2	教授 長 岡 龍 作	4	火	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART205J																				
◆ 授業題目	美術作品取り扱いの理論と実践 (Theory and practice of handling art works)																				
◆ 目的・概要	美術をめぐる活動のうち、作品調査の基礎的な技術と展示についての考え方を理解するため、授業は以下の内容で進める。 1. 美術作品を理解するための文字資料の解読 2. 美術作品の光学的調査の理論と実践 3. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践 4. 博物館実習																				
◆ 到達目標	美術をめぐる基礎的な技術を習得する																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践</td> </tr> <tr> <td>2. 美術作品を理解するための文字資料の解読 1</td> <td>10. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践</td> </tr> <tr> <td>3. 美術作品を理解するための文字資料の解読 2</td> <td>11. 美術作品の調査と取り扱い 5</td> </tr> <tr> <td>4. 美術作品の光学的調査の理論と実践</td> <td>12. 美術作品の調査と取り扱い 6</td> </tr> <tr> <td>5. 美術作品の光学的調査の理論と実践</td> <td>13. 展示資料の見学</td> </tr> <tr> <td>6. 美術作品の光学的調査の理論と実践</td> <td>14. 博物館実習</td> </tr> <tr> <td>7. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践	2. 美術作品を理解するための文字資料の解読 1	10. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践	3. 美術作品を理解するための文字資料の解読 2	11. 美術作品の調査と取り扱い 5	4. 美術作品の光学的調査の理論と実践	12. 美術作品の調査と取り扱い 6	5. 美術作品の光学的調査の理論と実践	13. 展示資料の見学	6. 美術作品の光学的調査の理論と実践	14. 博物館実習	7. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践	15. まとめ	8. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践	
1. イントロダクション	9. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践																				
2. 美術作品を理解するための文字資料の解読 1	10. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践																				
3. 美術作品を理解するための文字資料の解読 2	11. 美術作品の調査と取り扱い 5																				
4. 美術作品の光学的調査の理論と実践	12. 美術作品の調査と取り扱い 6																				
5. 美術作品の光学的調査の理論と実践	13. 展示資料の見学																				
6. 美術作品の光学的調査の理論と実践	14. 博物館実習																				
7. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践	15. まとめ																				
8. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践																					
◇ 成績評価の方法	出席 [80%]・授業態度 [20%]																				
◇ 教科書・参考書	資料はその都度配布する。																				
◇ 授業時間外学習	展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。																				
その他：3・4セメの東洋日本美術史基礎実習（長岡）は連続履修すること。 オフィスアワー：月・火・金の13：00～17：00（但し、授業時間外）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 各 論 History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)	2	教授 長 岡 龍 作	5	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART301J																				
◆ 授業題目	信仰と造形 (Brief and Criation of Image)																				
◆ 目的・概要	この講義では、古代日本の造形、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。前期は、「日本美術史」研究の成立史を概観した後、平安時代後期の造形及び各尊種（別尊）の造形を取り上げ、特に「祈願」との関わりからその意味と表現を探っていく。																				
◆ 到達目標	(1)宗教思想と造形の関係を理解する。 (2)造形に投影された世界観を理解する。 (3)造形表現を理解する方法を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題</td> <td>8. 平安時代後期の信仰と造形 4</td> </tr> <tr> <td>2. 「日本美術史」のはじまり 「日本美術史」前史</td> <td>9. 別尊信仰と造像 1</td> </tr> <tr> <td>3. 「日本美術史」のはじまり 「日本美術史」の成立</td> <td>10. 別尊信仰と造像 2</td> </tr> <tr> <td>4. 「日本美術史」のはじまり 「日本美術史」の展開と相対化</td> <td>11. 別尊信仰と造像 3</td> </tr> <tr> <td>5. 平安時代後期の信仰と造形 1</td> <td>12. 別尊信仰と造像 4</td> </tr> <tr> <td>6. 平安時代後期の信仰と造形 2</td> <td>13. 別尊信仰と造像 5</td> </tr> <tr> <td>7. 平安時代後期の信仰と造形 3</td> <td>14. 別尊信仰と造像 6</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ</td> </tr> </table>					1. イントロダクションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題	8. 平安時代後期の信仰と造形 4	2. 「日本美術史」のはじまり 「日本美術史」前史	9. 別尊信仰と造像 1	3. 「日本美術史」のはじまり 「日本美術史」の成立	10. 別尊信仰と造像 2	4. 「日本美術史」のはじまり 「日本美術史」の展開と相対化	11. 別尊信仰と造像 3	5. 平安時代後期の信仰と造形 1	12. 別尊信仰と造像 4	6. 平安時代後期の信仰と造形 2	13. 別尊信仰と造像 5	7. 平安時代後期の信仰と造形 3	14. 別尊信仰と造像 6		15. まとめ
1. イントロダクションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題	8. 平安時代後期の信仰と造形 4																				
2. 「日本美術史」のはじまり 「日本美術史」前史	9. 別尊信仰と造像 1																				
3. 「日本美術史」のはじまり 「日本美術史」の成立	10. 別尊信仰と造像 2																				
4. 「日本美術史」のはじまり 「日本美術史」の展開と相対化	11. 別尊信仰と造像 3																				
5. 平安時代後期の信仰と造形 1	12. 別尊信仰と造像 4																				
6. 平安時代後期の信仰と造形 2	13. 別尊信仰と造像 5																				
7. 平安時代後期の信仰と造形 3	14. 別尊信仰と造像 6																				
	15. まとめ																				
◇ 成績評価の方法	レポート [80%]、出席 [20%]																				
◇ 教科書・参考書	参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像―祈りと風景』（敬文舎）2014年																				
◇ 授業時間外学習	授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる																				
その他：オフィスアワー：月・火・金の13：00～17：00（但し、授業時間外）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 各 論 History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)	2	教授 長 岡 龍 作	6	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART301J																				
◆ 授業題目	信仰と造形 (Brief and Criation of Image)																				
◆ 目的・概要	この講義では、古代日本の造形、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。後期は、中国唐時代から北宋時代の造形、日本中世の造形を取り上げ、特に「祈願」との関わりからその意味と表現を探っていくとともに、空間と造形の関わりについても論じる。																				
◆ 到達目標	(1)宗教思想と造形の関係を理解する。 (2)造形に投影された世界観を理解する。 (3)造形表現を理解する方法を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題</td> <td>9. 日本中世の信仰と造形 4</td> </tr> <tr> <td>2. 中国唐時代の世界観と造形 1</td> <td>10. 空間と造形 1</td> </tr> <tr> <td>3. 中国唐時代の世界観と造形 2</td> <td>11. 空間と造形 2</td> </tr> <tr> <td>4. 中国五代北宋の世界観と造形 1</td> <td>12. 空間と造形 3</td> </tr> <tr> <td>5. 中国五代北宋の世界観と造形 2</td> <td>13. 空間と造形 4</td> </tr> <tr> <td>6. 日本中世の信仰と造形 1</td> <td>14. 空間と造形 5</td> </tr> <tr> <td>7. 日本中世の信仰と造形 2</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 日本中世の信仰と造形 3</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題	9. 日本中世の信仰と造形 4	2. 中国唐時代の世界観と造形 1	10. 空間と造形 1	3. 中国唐時代の世界観と造形 2	11. 空間と造形 2	4. 中国五代北宋の世界観と造形 1	12. 空間と造形 3	5. 中国五代北宋の世界観と造形 2	13. 空間と造形 4	6. 日本中世の信仰と造形 1	14. 空間と造形 5	7. 日本中世の信仰と造形 2	15. まとめ	8. 日本中世の信仰と造形 3	
1. イントロダクションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題	9. 日本中世の信仰と造形 4																				
2. 中国唐時代の世界観と造形 1	10. 空間と造形 1																				
3. 中国唐時代の世界観と造形 2	11. 空間と造形 2																				
4. 中国五代北宋の世界観と造形 1	12. 空間と造形 3																				
5. 中国五代北宋の世界観と造形 2	13. 空間と造形 4																				
6. 日本中世の信仰と造形 1	14. 空間と造形 5																				
7. 日本中世の信仰と造形 2	15. まとめ																				
8. 日本中世の信仰と造形 3																					
◇ 成績評価の方法	レポート [80%]、出席 [20%]																				
◇ 教科書・参考書	参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像―祈りと風景』（敬文舎）2014年																				
◇ 授業時間外学習	授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる																				
その他：オフィスアワー：月・火・金の13：00～17：00（但し、授業時間外）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 各 論 History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)	2	非常勤 講師	加 須 屋 誠	集 中 (5)	
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART301J				
◆ 授業題目	仏教説話画研究 (Study of Buddhist narrative paintings)				
◆ 目的・概要	たとえば地獄絵——かつて人々は何を想い、また何を恐れて、こうした絵画を制作したのか。それは一見すると残酷な描写で目を覆いたくなるが、しかしよく見ると、滑稽さやエロティックな要素さえ込められている。そこには人間心理の内面的な奥行きが暗示されているようだ。その深みを理解したいなら、地獄について語る経論の言説、その思想に依拠して創作された説話の流布、その内容を視覚的に提示した絵画の技法や伝統を知らねばならない。仏教史、文学史そして美術史、多岐にわたる考察が求められる。こうした知識を重ねることで、地獄絵の深層を見極めるまなざしが開かれる。本講義は地獄絵を含む種々の仏教説話画について考える。				
◆ 到達目標	(1)日本絵画史の基礎知識を得る。 (2)美術史研究の方法論(様式論・図像学・図像解釈学など)を身につける。 (3)視覚イメージの解釈を通じて、我が国古代中世の人々が思い描いた死生観や宇宙観など、目に見えない心の問題を探る。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 二河白道図-仏教説話画とはなにか- 3. 六道を絵解く(1) - 仏教説話画の歴史と機能 - 4. 六道を絵解く(2) - 仏教説話画の歴史と機能 - 5. 生老病死の図像学(1) - 仏教説話画を読む - 6. 生老病死の図像学(2) - 仏教説話画を読む - 7. 来迎図(1) - 死者との死につつまある者のための美術 - 8. 来迎図(2) - 死者と死につつまある者のための美術 - 9. 地獄草紙-平安時代の説話絵巻(1)- 10. 餓鬼草紙-平安時代の説話絵巻(2)- 11. 病草草紙-平安時代の説話絵巻(3)- 12. 聖衆来迎寺本六道絵 - 鎌倉時代の掛幅説話画(1) 総論 - 13. 聖衆来迎寺本六道絵 - 鎌倉時代の掛幅説話画(2) 技法と表現 - 14. 聖衆来迎寺本六道絵 - 鎌倉時代の掛幅説話画(3) 図像 - 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート				
◇ 教科書・参考書	講義註に適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	積極的に展覧会等にてかけ、美術全般に関する知識を増やし、作品を観る眼を養って欲しいと思います。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 各 論 History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)	2	非常勤 講師	島 尾 新	集 中 (6)	
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART301J				
◆ 授業題目	日本美術史の構図と水墨文化 (Structure of Japanese Art History and Culture of Suiboku (Shuimo))				
◆ 目的・概要	本講義では、1) 日本美術史の特質について、いくつかの切り口から分析した上で、2) 東アジアで共有された水墨の文化・詩書画の文化の特質を紹介して、日本美術史研究における多角的な視点と方法とを提示してみたい。				
◆ 到達目標	受講者が美術史研究を行ってゆく上で、新たな発想を得る一助になればと思う。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション-日本美術の多様性/ジャンルの錯綜/分類の思想/作者の美術史と観者の美術史 2. 美術史学の特質-現代美術としての雪舟/歴史か今か?/美術史語りのパラドックス/美的システムと経済的システム/雑学としての美術史 3. 日本美術史の構図 1・和漢の構図-オリジナルなき美術/変換装置としての日本美術/大和絵と唐絵/日本美術としての唐物/和漢から和洋へ 4. 日本美術史の構図 2・総合の美学-金閣と碧雲荘/会所の飾と茶室の飾/「つつみこみ」と「そぎおとし」/世阿弥と心敬 5. 日本美術史の構図 3・積層の美術史-写しの文化/引用の自由/古に倣いて新意を出す/「差異型」のオリジナリティと「積み重ね型」のオリジナリティ 6. 日本美術史の構図 4・ジャパニーズデザイン-変り兜と印籠根付/自在置物と生人形/金の働き 7. 書について-水墨画研究の前提としての書/線の芸術/書と白描画/墨線の楽しみ 8. 水墨画について 1 - 水墨画とはなにか? / 筆の発見・墨の発見/水墨の表現可能性 9. 水墨画について 2 - 水墨の材料学 = 墨・紙・筆・硯 / 水墨の基本技 10. 余白のはなし-絵画の存在様式/「油画」「日本画」「水墨画」/余白は存在しない/「関係」による表現詩書画三絶 2・テキストの構造-ドキュメントとしての詩書画/詩書画の贈与論/テキストの構造 11. 詩書画三絶-絵は詩のごとく/画賛の思考/ドキュメントとしての絵画/詩書画の贈与論/テキストの構造 12. 雪舟のはなし-雪舟簡介/雪舟を通して見えてくるもの 13. 東アジア絵画史の展望-「唐絵」によるケーススタディ 14. 東アジア絵画史の展望-雪舟と夏珪によるケーススタディ 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	集中講義の後に課すレポートによって評価する。				
◇ 教科書・参考書	参考書は講義のなかで紹介する。				
◇ 授業時間外学習	特になし				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 講 読 History of Oriental and Japanese Fine Arts (Reading)	2	教授 長 岡 龍 作	5	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART304J				
◆ 授業題目	日本美術資料研究 (Study on art materials)				
◆ 目的・概要	古代中世の仏教思想と美術の関係を考える上で重要な絵巻物を取り上げ、詞書きと絵画表現から、そこに込められた意味を読み取ることに努める。対象は主に寺社縁起・祖師絵伝とし、候補作品には、「信貴山縁起」上・中・下巻、「粉河寺縁起」一卷、「石山寺縁起」七巻、「頼焼阿弥陀縁起」上・下巻、「法然上人絵伝」四十八巻、「一遍上人絵伝」十二巻、「春日権現験記絵」二十巻、「彦火々出見尊絵巻」六巻、「華嚴宗祖師絵伝(華嚴縁起)」(元暁絵三巻・義湘絵四巻)、「慕婦絵詞」十巻、「桑実寺縁起」上・下巻、「伴大納言絵詞」上(詞書欠)・中・下巻、「吉備大臣入唐絵巻」巻一～巻四(巻一詞書欠)、「玄奘三蔵絵」全十二巻、「釈迦堂縁起絵巻」全六巻、「酒伝童子絵巻」上・中・下巻がある。				
◆ 到達目標	仏教美術を考える上で基礎的な作品を取り上げ、表現の読解法、文字資料の読み方、関連資料の調べ方を身につける。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクションー授業の目的と方法論 2. パイロット発表 3. 発表準備 4. 発表準備 5. 発表準備 6. 発表準備 7. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論 8. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論 9. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論 10. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論 11. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論 12. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論 13. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論 14. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論 15. 総括と評価 				
◇ 成績評価の方法	出席 [50%]、発表内容 [50%]				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する				
◇ 授業時間外学習	参加者は各授業の該当の箇所を事前に読んで授業に臨むこと。				
その他：5・6セメの東洋日本美術史講読(長岡)は連続履修すること。 オフィスアワー：月・火・金の13:00~17:00(但し、授業時間外)					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 講 読 History of Oriental and Japanese Fine Arts (Reading)	2	教授 長 岡 龍 作	6	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART304J				
◆ 授業題目	日本美術資料研究 (Study on art materials)				
◆ 目的・概要	古代中世の仏教思想と美術の関係を考える上で重要な絵巻物を取り上げ、詞書きと絵画表現から、そこに込められた意味を読み取ることに努める。対象は主に寺社縁起・祖師絵伝とし、候補作品には、「信貴山縁起」上・中・下巻、「粉河寺縁起」一卷、「石山寺縁起」七巻、「頼焼阿弥陀縁起」上・下巻、「法然上人絵伝」四十八巻、「一遍上人絵伝」十二巻、「春日権現験記絵」二十巻、「彦火々出見尊絵巻」六巻、「華嚴宗祖師絵伝(華嚴縁起)」(元暁絵三巻・義湘絵四巻)、「慕婦絵詞」十巻、「桑実寺縁起」上・下巻、「伴大納言絵詞」上(詞書欠)・中・下巻、「吉備大臣入唐絵巻」巻一～巻四(巻一詞書欠)、「玄奘三蔵絵」全十二巻、「釈迦堂縁起絵巻」全六巻、「酒伝童子絵巻」上・中・下巻がある。				
◆ 到達目標	仏教美術を考える上で基礎的な作品を取り上げ、表現の読解法、文字資料の読み方、関連資料の調べ方を身につける。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクションー授業の目的と方法論 2. パイロット発表 3. 発表準備 4. 発表準備 5. 発表準備 6. 発表準備 7. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論 8. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論 9. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論 10. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論 11. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論 12. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論 13. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論 14. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論 15. 総括と評価 				
◇ 成績評価の方法	出席 [50%]、発表内容 [50%]				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する				
◇ 授業時間外学習	参加者は各授業の該当の箇所を事前に読んで授業に臨むこと。				
その他：5・6セメの東洋日本美術史講読(長岡)は連続履修すること。 オフィスアワー：月・火・金の13:00~17:00(但し、授業時間外)					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 演 習 History of Oriental and Japanese Fine Arts (Seminar)	2	教授 長 岡 龍 作	5	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART305J																				
◆ 授業題目	美術作品研究 (Study on art works)																				
◆ 目的・概要	東洋または日本美術の中から、特に興味を覚えた作品をとりあげ、各回一名が口頭発表をおこなう。作品そのものの十分な観察をおこなった上で、自身が設定する問題について考察する。その作品について先行研究がある場合は研究史を十分に回顧し、先行研究が乏しい場合は、自ら作品に関する基礎資料・関連資料を博捜・精読・整理する。発表及びその後の討論を通し、参加者に対し自らの考えを的確に伝えるよう努める。																				
◆ 到達目標	美術史の基礎である作品分析の方法を身につけ、それを自身の考えとしての的確に伝える方法を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション—美術史研究の方法論</td> <td>9. 作品研究発表ならびに討論</td> </tr> <tr> <td>2. パイロット発表</td> <td>10. 作品研究発表ならびに討論</td> </tr> <tr> <td>3. パイロット発表</td> <td>11. 作品研究発表ならびに討論</td> </tr> <tr> <td>4. 発表準備</td> <td>12. 作品研究発表ならびに討論</td> </tr> <tr> <td>5. 発表準備</td> <td>13. 作品研究発表ならびに討論</td> </tr> <tr> <td>6. 発表準備</td> <td>14. 作品研究発表ならびに討論</td> </tr> <tr> <td>7. 発表準備</td> <td>15. 総括と評価</td> </tr> <tr> <td>8. 発表準備</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション—美術史研究の方法論	9. 作品研究発表ならびに討論	2. パイロット発表	10. 作品研究発表ならびに討論	3. パイロット発表	11. 作品研究発表ならびに討論	4. 発表準備	12. 作品研究発表ならびに討論	5. 発表準備	13. 作品研究発表ならびに討論	6. 発表準備	14. 作品研究発表ならびに討論	7. 発表準備	15. 総括と評価	8. 発表準備	
1. イントロダクション—美術史研究の方法論	9. 作品研究発表ならびに討論																				
2. パイロット発表	10. 作品研究発表ならびに討論																				
3. パイロット発表	11. 作品研究発表ならびに討論																				
4. 発表準備	12. 作品研究発表ならびに討論																				
5. 発表準備	13. 作品研究発表ならびに討論																				
6. 発表準備	14. 作品研究発表ならびに討論																				
7. 発表準備	15. 総括と評価																				
8. 発表準備																					
◇ 成績評価の方法	出席 [50%]・発表態度 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	参考書：辻惟雄・泉武夫編『日本美術史ハンドブック』新書館、2009年																				
◇ 授業時間外学習	展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。																				
その他：5・6セメの東洋日本美術史演習（長岡）は連続履修すること。 オフィスアワー：月・火・金の13：00～17：00（但し、授業時間外）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 演 習 History of Oriental and Japanese Fine Arts (Seminar)	2	教授 長 岡 龍 作	6	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART305J																				
◆ 授業題目	美術作品研究 (Study on art works)																				
◆ 目的・概要	東洋または日本美術の中から、特に興味を覚えた作品をとりあげ、各回一名が口頭発表をおこなう。作品そのものの十分な観察をおこなった上で、自身が設定する問題について考察する。その作品について先行研究がある場合は研究史を十分に回顧し、先行研究が乏しい場合は、自ら作品に関する基礎資料・関連資料を博捜・精読・整理する。発表及びその後の討論を通し、参加者に対し自らの考えを的確に伝えるよう努める。																				
◆ 到達目標	美術史の基礎である作品分析の方法を身につけ、それを自身の考えとしての的確に伝える方法を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション—美術史研究の方法論</td> <td>9. 作品研究発表ならびに討論</td> </tr> <tr> <td>2. パイロット発表</td> <td>10. 作品研究発表ならびに討論</td> </tr> <tr> <td>3. パイロット発表</td> <td>11. 作品研究発表ならびに討論</td> </tr> <tr> <td>4. 発表準備</td> <td>12. 作品研究発表ならびに討論</td> </tr> <tr> <td>5. 発表準備</td> <td>13. 作品研究発表ならびに討論</td> </tr> <tr> <td>6. 発表準備</td> <td>14. 作品研究発表ならびに討論</td> </tr> <tr> <td>7. 発表準備</td> <td>15. 総括と評価</td> </tr> <tr> <td>8. 発表準備</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション—美術史研究の方法論	9. 作品研究発表ならびに討論	2. パイロット発表	10. 作品研究発表ならびに討論	3. パイロット発表	11. 作品研究発表ならびに討論	4. 発表準備	12. 作品研究発表ならびに討論	5. 発表準備	13. 作品研究発表ならびに討論	6. 発表準備	14. 作品研究発表ならびに討論	7. 発表準備	15. 総括と評価	8. 発表準備	
1. イントロダクション—美術史研究の方法論	9. 作品研究発表ならびに討論																				
2. パイロット発表	10. 作品研究発表ならびに討論																				
3. パイロット発表	11. 作品研究発表ならびに討論																				
4. 発表準備	12. 作品研究発表ならびに討論																				
5. 発表準備	13. 作品研究発表ならびに討論																				
6. 発表準備	14. 作品研究発表ならびに討論																				
7. 発表準備	15. 総括と評価																				
8. 発表準備																					
◇ 成績評価の方法	出席 [50%]・発表態度 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	参考書：辻惟雄・泉武夫編『日本美術史ハンドブック』新書館、2009年																				
◇ 授業時間外学習	展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。																				
その他：5・6セメの東洋日本美術史演習（長岡）は連続履修すること。 オフィスアワー：月・火・金の13：00～17：00（但し、授業時間外）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 概 論 Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lecture)	2	教授 尾 崎 彰 宏	4	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART202J																				
◆ 授業題目	ルネサンス以降の西洋美術史 (Western art history after the Renaissance)																				
◆ 目的・概要	絵画には自然をありのままに描く手法、リアリズムと人間の内面に鏡をかざすリアリズムとがある。この両面に着目してルネサンス以降の西洋美術の流れを学ぶ。																				
◆ 到達目標	(1)ルネサンス以降の美術作品の見方を学ぶことができる。 (2)美術の歴史を芸術家と地域が織りなす、「個性」のぶつかり合いという視点から学ぶことができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 初期ネーデルラント美術</td> </tr> <tr> <td>2. ジョット以前</td> <td>10. 16世紀北方美術 (1)</td> </tr> <tr> <td>3. ジョットと13世紀美術</td> <td>11. 16世紀北方美術 (2)</td> </tr> <tr> <td>4. ジョットのアレナ礼拝堂</td> <td>12. 17世紀南北美術 (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 15世紀イタリア美術 (1)</td> <td>13. 17世紀南北美術 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 15世紀イタリア美術 (2)</td> <td>14. 近代美術への道</td> </tr> <tr> <td>7. 16世紀イタリア美術 (1)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 16世紀イタリア美術 (2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 初期ネーデルラント美術	2. ジョット以前	10. 16世紀北方美術 (1)	3. ジョットと13世紀美術	11. 16世紀北方美術 (2)	4. ジョットのアレナ礼拝堂	12. 17世紀南北美術 (1)	5. 15世紀イタリア美術 (1)	13. 17世紀南北美術 (2)	6. 15世紀イタリア美術 (2)	14. 近代美術への道	7. 16世紀イタリア美術 (1)	15. まとめ	8. 16世紀イタリア美術 (2)	
1. イントロダクション	9. 初期ネーデルラント美術																				
2. ジョット以前	10. 16世紀北方美術 (1)																				
3. ジョットと13世紀美術	11. 16世紀北方美術 (2)																				
4. ジョットのアレナ礼拝堂	12. 17世紀南北美術 (1)																				
5. 15世紀イタリア美術 (1)	13. 17世紀南北美術 (2)																				
6. 15世紀イタリア美術 (2)	14. 近代美術への道																				
7. 16世紀イタリア美術 (1)	15. まとめ																				
8. 16世紀イタリア美術 (2)																					
◇ 成績評価の方法	平常点／試験／レポート																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業のテーマとの関連から読むべき本を指定するので、そうした書物を読んだり、実際に美術館等に足を運んで作品をじかに見たりすることが必要。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 概 論 Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lecture)	2	教授 芳 賀 京 子	3	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART202J																				
◆ 授業題目	西洋古代・中世の建築と建築彫刻 (Ancient and Medieval Architecture and Architectural Sculpture of the Western World)																				
◆ 目的・概要	古代ギリシア・ローマ時代を中心に、中世に至るまでの西洋美術について、今年は建築とそれに付属する美術 (主に彫刻) について、時代を追って概観する。西洋の古代や中世において、美術は決して単体で鑑賞すべきものではなく、建築と分かち難く結びついていた。授業では、当時の人々がどのような空間の中で芸術を目にしていたのか、彼らの視覚体験を考えてみることにしたい。																				
◆ 到達目標	西洋古代・中世建築の基礎知識を身につけ、そこに彫刻やその他の美術がどのように結びついていたかを理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 序</td> <td>9. ローマ皇帝と広場</td> </tr> <tr> <td>2. ギリシア神殿のはじまり</td> <td>10. 競技場・劇場・闘技場</td> </tr> <tr> <td>3. アルカイック時代の建築</td> <td>11. 公共浴場と別荘</td> </tr> <tr> <td>4. オリュンピアのゼウス神殿</td> <td>12. 古代末期の属州別荘と聖堂</td> </tr> <tr> <td>5. アテネのパルテノン</td> <td>13. ロマネスク建築</td> </tr> <tr> <td>6. ギリシアの住居とヘレニズムの宮殿</td> <td>14. ゴシック建築</td> </tr> <tr> <td>7. ヘレニズム時代の神殿と神域</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. ヘレニズム後期からローマ帝政初期の住居</td> <td></td> </tr> </table>					1. 序	9. ローマ皇帝と広場	2. ギリシア神殿のはじまり	10. 競技場・劇場・闘技場	3. アルカイック時代の建築	11. 公共浴場と別荘	4. オリュンピアのゼウス神殿	12. 古代末期の属州別荘と聖堂	5. アテネのパルテノン	13. ロマネスク建築	6. ギリシアの住居とヘレニズムの宮殿	14. ゴシック建築	7. ヘレニズム時代の神殿と神域	15. まとめと試験	8. ヘレニズム後期からローマ帝政初期の住居	
1. 序	9. ローマ皇帝と広場																				
2. ギリシア神殿のはじまり	10. 競技場・劇場・闘技場																				
3. アルカイック時代の建築	11. 公共浴場と別荘																				
4. オリュンピアのゼウス神殿	12. 古代末期の属州別荘と聖堂																				
5. アテネのパルテノン	13. ロマネスク建築																				
6. ギリシアの住居とヘレニズムの宮殿	14. ゴシック建築																				
7. ヘレニズム時代の神殿と神域	15. まとめと試験																				
8. ヘレニズム後期からローマ帝政初期の住居																					
◇ 成績評価の方法	試験による (持ち込みなし)。																				
◇ 教科書・参考書	参考書 芳賀京子・芳賀満『西洋美術の歴史1 古代』、中央公論新社、2017年 (ISBN978-4-12-403591-9) 加藤磨珠枝・益田朋幸『西洋美術の歴史2 中世I』、中央公論新社、2016年 (ISBN978-4-12-403592-6)																				
◇ 授業時間外学習	授業後に配布のパワーポイント資料を使って復習すること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 概 論 Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lecture)	2	准教授 フォンガロ エンリコ	3	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART202J				
◆ 授業題目	西洋美学概論（前期）（Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lecture)）				
◆ 目的・概要	美学とは何かという問題からはじめ、西洋美学の「大理論」時代を紹介することが目的である。美・美術・芸術などの根本的な概念について、古代ギリシャから順番に、それぞれを代表する哲学者、芸術家等を取りあげ、スライドを使いながら、背景となる哲学的思想について解説していく。				
◆ 到達目標	西洋美学における根本的な概念を紹介し、ギリシャ・ローマ時代からの美学の変遷について理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の紹介：「美学」とは何か。 2. 翻訳の問題：「美」とは何か。 3. 調和・儀礼・アート・リズム。 4. 言外の美学：コレヤとテクネ。 5. 悲劇の誕生。 6. 西洋美学の「大理論」：ピタゴラス学派の美学。 7. ソフィスト達とゴルギアスの美学。 8. プラトンの美学：美のアイデア。 9. プラトンの美学：プラトンの芸術論。 10. アリストテレスの美学：『詩学』その一。 11. アリストテレスの美学：『詩学』その二。 12. ヘレニズム時代の美学：ストア学派の美学。 13. ローマ時代の美学：キケロの美学。 14. ローマ時代の美学：ヴィトルヴィウスの美学と『崇高について』。 15. 復習と試験。 				
◇ 成績評価の方法	積極的な授業態度、授業のプロトコール（記録）、学期末試験による評価を予定している。				
◇ 教科書・参考書	講義中に詳しく指示する。				
◇ 授業時間外学習	授業の復習を行なう。プロトコールを書く。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 概 論 Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lecture)	2	准教授 フォンガロ エンリコ	4	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART202J				
◆ 授業題目	西洋美学概論（後期）（Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lecture)）				
◆ 目的・概要	西洋美学における根本的な概念について、前期に学習した内容を踏まえたうえで、その変遷についてそれぞれを代表する哲学者、芸術家等を取りあげ、スライドを使いながら、背景となる哲学的思想について解説していく。				
◆ 到達目標	西洋美学における根本的な概念を紹介し、近代・現代に向かう美学の変遷について理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. プロティノスの美学その一。 2. プロティノスの美学その二。 3. キリスト教と中世時代の美学。 4. 中世東欧の美学：ビザンチンの美学。 5. 中世西欧の美学：アウグスティヌスと中世のプラトン主義。 6. 人文主義とルネッサンスの美学：アルベルティ、フィチーノ、ブルーノの美学。 7. 近代への転換：バロックの美学。 8. 十八世紀の美学：カントその一。 9. 十八世紀の美学：カントその二。 10. 十九世紀の美学：シェリングとショーペンハウアー。 11. 十九世紀の美学：ヘーゲルとキルケゴール。 12. 十九世紀の美学：ニーチェの美学。 13. 二十世紀の美学の諸流その一。 14. 二十世紀の美学の諸流その二。 15. 復習と試験。 				
◇ 成績評価の方法	積極的な授業態度、授業のプロトコール（記録）、学期末試験による評価を予定している。				
◇ 教科書・参考書	講義中に詳しく指示する。				
◇ 授業時間外学習	授業の復習を行なう。プロトコールを書く。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 基 礎 講 読 Aesthetics and History of European Fine Arts (Introductory Reading)	2	教授 尾 崎 彰 宏	3	金	1																
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART206J																				
◆ 授業題目	オランダ語の基礎とヨーロッパ文化 (How to learn Dutch.)																				
◆ 目的・概要	日本の美術展ではゴッホはもちろん、レンブラントやフェルメールをはじめとするオランダ絵画が展示されることが少なくない。江戸時代以来、西洋への窓であった出島を通して交際のあったオランダは、近代ヨーロッパの基本となる、貨幣に代表される交換原理やレンブラントやフェルメールに見られる近代絵画への出発点を形成した。そればかりではない、オランダはアジアとの関係から17世紀の繁栄を築くことができた。そうであれば、オランダを通してヨーロッパ近代、アジア、日本を再検討してみる必要がある。そのためにはオランダ語は必須であり、そのための基礎を学ぶことを目的とする。																				
◆ 到達目標	オランダ語の入門を学び、あわせて美術史研究、文化研究、オランダ美術に対する学芸員の基礎知識を修得することができる。あわせてオランダ文化の基本を学ぶことができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 過去形・過去分詞</td> </tr> <tr> <td>2. オランダ語の発音と表記</td> <td>10. 現在完了形</td> </tr> <tr> <td>3. 人称代名詞・動詞など</td> <td>11. 未来・現在分詞・現在進行形</td> </tr> <tr> <td>4. 動詞 hebben、不定冠詞等</td> <td>12. 分離動詞</td> </tr> <tr> <td>5. 動詞の活用 (現在形)</td> <td>13. 受動態</td> </tr> <tr> <td>6. 動詞の活用、助動詞</td> <td>14. er の用法</td> </tr> <tr> <td>7. 指示形容詞・指示代名詞</td> <td>15. 関係代名詞、まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 比較級</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 過去形・過去分詞	2. オランダ語の発音と表記	10. 現在完了形	3. 人称代名詞・動詞など	11. 未来・現在分詞・現在進行形	4. 動詞 hebben、不定冠詞等	12. 分離動詞	5. 動詞の活用 (現在形)	13. 受動態	6. 動詞の活用、助動詞	14. er の用法	7. 指示形容詞・指示代名詞	15. 関係代名詞、まとめ	8. 比較級	
1. イントロダクション	9. 過去形・過去分詞																				
2. オランダ語の発音と表記	10. 現在完了形																				
3. 人称代名詞・動詞など	11. 未来・現在分詞・現在進行形																				
4. 動詞 hebben、不定冠詞等	12. 分離動詞																				
5. 動詞の活用 (現在形)	13. 受動態																				
6. 動詞の活用、助動詞	14. er の用法																				
7. 指示形容詞・指示代名詞	15. 関係代名詞、まとめ																				
8. 比較級																					
◇ 成績評価の方法	出席点 (70%)、小試験 (30%)																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する																				
◇ 授業時間外学習	毎回、2時間以上の十分な復習時間を要する。関連図書については、授業中に指示する。																				
その他：ドイツ語もあわせて学ぶと理解が進む。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 基 礎 講 読 Aesthetics and History of European Fine Arts (Introductory Reading)	2	教授 芳 賀 京 子	4	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART206J																				
◆ 授業題目	西洋美術史文献精読 (Intensive Reading of Western Art History)																				
◆ 目的・概要	西洋美術史研究の基礎のひとつである欧文献の精読を行い、美術作品研究の基礎を身に着ける。英語論文が基本だが、古代ギリシア語、ラテン語、フランス語、ドイツ語、イタリア語などにも目配りできるようになることが望ましい。																				
◆ 到達目標	西洋美術史に関する英語文献を正確に読めるようになるとともに、英語以外の言語についても調べられるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 講読 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 講読 (1)</td> <td>10. 講読 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 講読 (2)</td> <td>11. 講読 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 講読 (3)</td> <td>12. 講読 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 講読 (4)</td> <td>13. 講読 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 講読 (5)</td> <td>14. 講読 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 講読 (6)</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 講読 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 講読 (8)	2. 講読 (1)	10. 講読 (9)	3. 講読 (2)	11. 講読 (10)	4. 講読 (3)	12. 講読 (11)	5. 講読 (4)	13. 講読 (12)	6. 講読 (5)	14. 講読 (13)	7. 講読 (6)	15. まとめと試験	8. 講読 (7)	
1. イントロダクション	9. 講読 (8)																				
2. 講読 (1)	10. 講読 (9)																				
3. 講読 (2)	11. 講読 (10)																				
4. 講読 (3)	12. 講読 (11)																				
5. 講読 (4)	13. 講読 (12)																				
6. 講読 (5)	14. 講読 (13)																				
7. 講読 (6)	15. まとめと試験																				
8. 講読 (7)																					
◇ 成績評価の方法	授業への出席・発表 (50%)、試験 (50%)。																				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業前に自分の分担部分を精読した上で、それ以外の部分にも目を通しておくこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 各 論 Aesthetics and History of European Fine Arts (Special Lecture)	2	教授 尾崎彰宏	5	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART302J																				
◆ 授業題目	ネーデルラント美術と感性の論理 (Netherlandisih Paintings and the theory of Emotions)																				
◆ 目的・概要	現在、研究を進行させている「西洋近世・近代美術における市場・流通・画商の地政経済史的研究」の研究成果を盛りこみながら、ネーデルラント美術の創造性がどのように生まれたのかを探っていききたい。その問題と並行して、感性論としての美術史としてアルプス以北の美術作品に見られる「視覚」の新しい試み、つまりいかに触覚的な要素が美術作品に反映しているのか、アルチンボルドやボッスなどさまざまなネーデルラントの画家を例に取りながら、アプローチしていきたい。現在研究中の課題であり、1回目の授業において、特論のおおよその見取り図を示すようにしたい。																				
◆ 到達目標	美術作品の解説には、時代によってさまざまなアプローチがなされてきたが、鑑賞者の感性が作品解釈に大きなウェイトを占めること理解し、美術作品にアプローチする新たな方法論を学べる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 17世紀ネーデルラント絵画 II</td> </tr> <tr> <td>2. 初期ネーデルラント絵画 I</td> <td>10. 17世紀ネーデルラント絵画 III</td> </tr> <tr> <td>3. 初期ネーデルラント絵画 II</td> <td>11. レンブラント I</td> </tr> <tr> <td>4. 初期ネーデルラント絵画 III</td> <td>12. レンブラント II</td> </tr> <tr> <td>5. 16世紀ネーデルラント絵画 I</td> <td>13. レンブラント III</td> </tr> <tr> <td>6. 16世紀ネーデルラント絵画 II</td> <td>14. 18世紀ネーデルラント美術</td> </tr> <tr> <td>7. 16世紀ネーデルラント絵画 III</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 17世紀ネーデルラント絵画 I</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 17世紀ネーデルラント絵画 II	2. 初期ネーデルラント絵画 I	10. 17世紀ネーデルラント絵画 III	3. 初期ネーデルラント絵画 II	11. レンブラント I	4. 初期ネーデルラント絵画 III	12. レンブラント II	5. 16世紀ネーデルラント絵画 I	13. レンブラント III	6. 16世紀ネーデルラント絵画 II	14. 18世紀ネーデルラント美術	7. 16世紀ネーデルラント絵画 III	15. まとめ	8. 17世紀ネーデルラント絵画 I	
1. イントロダクション	9. 17世紀ネーデルラント絵画 II																				
2. 初期ネーデルラント絵画 I	10. 17世紀ネーデルラント絵画 III																				
3. 初期ネーデルラント絵画 II	11. レンブラント I																				
4. 初期ネーデルラント絵画 III	12. レンブラント II																				
5. 16世紀ネーデルラント絵画 I	13. レンブラント III																				
6. 16世紀ネーデルラント絵画 II	14. 18世紀ネーデルラント美術																				
7. 16世紀ネーデルラント絵画 III	15. まとめ																				
8. 17世紀ネーデルラント絵画 I																					
◇ 成績評価の方法	レポート／試験																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する																				
◇ 授業時間外学習	講義で紹介した文献を自分で参照したり、美術館で作品を実際に見たりする作業が必要。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 各 論 Aesthetics and History of European Fine Arts (Special Lecture)	2	教授 芳賀京子	6	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART302J																				
◆ 授業題目	古代ギリシア・ローマ美術における英雄表現 (Hero Representations in Greek and Roman Art)																				
◆ 目的・概要	古代ギリシアには、神々と人間の間には英雄と呼ばれる者たちが存在していた。彼らは死すべき存在だが、死してもなおこの世に影響力を及ぼし続けるため、信仰対象となった。彼らは時に彫像として祀られたが、その造像形式や造像理由は時や場合によってさまざまに変化する。授業では英雄崇拝と彫像の関係を、多面的に考えることにしたい。																				
◆ 到達目標	古代ギリシア・ローマにおいて、英雄という存在がどのように捉えられ、どのように表現されていたかを理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. アレクサンドロスの英雄化</td> </tr> <tr> <td>2. ミュケナイ時代の先祖崇拝</td> <td>10. ヘレニズム君主と英雄表現</td> </tr> <tr> <td>3. ホメロスと神話のなかの英雄</td> <td>11. ローマ共和政期の先祖の表現</td> </tr> <tr> <td>4. クーロス像の発達と英雄崇拝</td> <td>12. ローマ皇帝アウグストゥスの肖像と皇帝崇拝</td> </tr> <tr> <td>5. 民主政と英雄表現</td> <td>13. 皇帝一族の肖像</td> </tr> <tr> <td>6. アスリートという英雄</td> <td>14. 古代末期</td> </tr> <tr> <td>7. 戦死者の英雄化</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 英雄廟 (ヘロオン) と君主の墓廟</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. アレクサンドロスの英雄化	2. ミュケナイ時代の先祖崇拝	10. ヘレニズム君主と英雄表現	3. ホメロスと神話のなかの英雄	11. ローマ共和政期の先祖の表現	4. クーロス像の発達と英雄崇拝	12. ローマ皇帝アウグストゥスの肖像と皇帝崇拝	5. 民主政と英雄表現	13. 皇帝一族の肖像	6. アスリートという英雄	14. 古代末期	7. 戦死者の英雄化	15. まとめ	8. 英雄廟 (ヘロオン) と君主の墓廟	
1. イントロダクション	9. アレクサンドロスの英雄化																				
2. ミュケナイ時代の先祖崇拝	10. ヘレニズム君主と英雄表現																				
3. ホメロスと神話のなかの英雄	11. ローマ共和政期の先祖の表現																				
4. クーロス像の発達と英雄崇拝	12. ローマ皇帝アウグストゥスの肖像と皇帝崇拝																				
5. 民主政と英雄表現	13. 皇帝一族の肖像																				
6. アスリートという英雄	14. 古代末期																				
7. 戦死者の英雄化	15. まとめ																				
8. 英雄廟 (ヘロオン) と君主の墓廟																					
◇ 成績評価の方法	レポートによる																				
◇ 教科書・参考書	参考書 芳賀京子・芳賀満『西洋美術の歴史1 古代』、中央公論新社、2017年 (ISBN978-4-12-403591-9)																				
◇ 授業時間外学習	各自、自分の興味に従って問題を掘り下げ、調査・考察すること																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 各 論 Aesthetics and History of European Fine Arts (Special Lecture)	2	非常勤 講師 三 浦 篤	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART302J				
◆ 授業題目	西洋近現代絵画の見方 (Looking at Western Modern Painting)				
◆ 目的・概要	19世紀、20世紀の西洋絵画の見方、考え方を学ぶ。近代以前の西洋伝統絵画の表象体系が崩壊して、新しい近代絵画のパラダイムに移行する時代を対象とする。19世紀のロマン主義にはじまり、印象派、ポスト印象派、20世紀の抽象絵画、ポップ・アートなど、現在にまでいたる歴史をたどっていくが、単純に時代順に語るのではなく、主題や造形様式や受容に関わるいくつかの重要な問題を設定して論じる。広い意味における視覚芸術の機能、芸術と社会の関係、芸術家の在り方等々、価値観が揺らぐ時代の美術を考えるためのテーマは多い。講義はスライドを使って、作品を具体的に分析しつつ行う。				
◆ 到達目標	西洋の近現代絵画を美術館や展覧会で見たときに、作家の意図、作品の特質、社会や文化との関わりなど、多様な視点で読み解けるようにする。さらに進んで、自分の問題意識を持って作品を分析し、解釈できるようにする。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 主題、テーマの視点から 3. 主題、テーマの視点から 4. 主題、テーマの視点から 5. 主題、テーマの視点から 6. 主題、テーマの視点から 7. 造形と技法の視点から 8. 造形と技法の視点から 9. 造形と技法の視点から 10. 造形と技法の視点から 11. 受容と枠組みの視点から 12. 受容と枠組みの視点から 13. 受容と枠組みの視点から 14. 印象派の絵画とは何か 15. 日本における印象派の受容 				
◇ 成績評価の方法	レポート				
◇ 教科書・参考書	三浦篤「まなごしのレッスン ②西洋近現代絵画」東京大学出版会、2015年				
◇ 授業時間外学習	美術館、展覧会に行くこと、画集を見ること				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 演 習 Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)	2	教授 尾 崎 彰 宏	5	金	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART306J				
◆ 授業題目	西洋美術史に関する方法論の諸問題 (Problems of Methodology on Western Art History)				
◆ 目的・概要	西洋美術史の雑誌論文や話題になった研究書を取りあげ、それを熟読し、その問題点や研究上活用できる研究方法について学び、議論を重ねていく。The Art Bulletin, Simiolus, Netherlands Kunsthistorisch Jaarboekに掲載された論文を中心に取りあげる。				
◆ 到達目標	西洋美術史の最新研究にふれながら、ルネサンス以降の美術作品の研究動向を熟知できる。作品を分析する方法を身につけることができる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. イタリア・ルネサンス美術関係文献 I 3. イタリア・ルネサンス美術関係文献 II 4. イタリア・ルネサンス美術関係文献 III 5. ネーデルラント美術関係文献 I 6. ネーデルラント美術関係文献 II 7. ネーデルラント美術関係文献 III 8. 近世・近代美術関係文献 I 9. 近世・近代美術関係文献 II 10. 近世近代美術関係文献 III 11. 現代美術関係文献 I 12. 現代美術関係文献 II 13. 現代美術関係文献 III 14. 美術史の方法 II かんする文献 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	出席／平常点／レポート				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。				
◇ 授業時間外学習	欧文の論文を前もって予習してくる必要がある。最新の論文であるから予習には相当の時間をかけて勉強することが求められる。また、そこで論じられていること、あるいは派生することを考えていくために、関連文献にあたることを求められる。発表者は学期に一度、担当論文を全訳する必要があり、計画的に自主的な勉強を続ける必要がある。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 演 習 Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)	2	教授 尾 崎 彰 宏	6	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART306J																				
◆ 授業題目	西洋美術に関する方法論の諸問題 (Problems of Methodology on Western Art History)																				
◆ 目的・概要	西洋美術史の雑誌論文や話題になった研究書を取りあげ、それを熟読し、その問題点や研究上活用できる研究方法について学び、議論を重ねていく。The Art Bulletin, Simiolus, Netherlands Kunsthistorisch Jaarboekに掲載された論文を中心に取りあげる。																				
◆ 到達目標	西洋美術史の最新研究にふれながら、ルネサンス以降の美術作品の研究動向を熟知できる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション I</td> <td>9. ネーデルラント美術関係の文献 II</td> </tr> <tr> <td>2. ルネサンス期の美術文献 I</td> <td>10. ネーデルラント美術画家の文献 III</td> </tr> <tr> <td>3. ルネサンス期の美術文献 II</td> <td>11. 美術史の方法にかんする文献 I</td> </tr> <tr> <td>4. ルネサンス期の美術文献 III</td> <td>12. 美術史の方法にかんする文献 II</td> </tr> <tr> <td>5. 北方美術関係の文献 I</td> <td>13. 美術史の方法にかんする文献 III</td> </tr> <tr> <td>6. 北方美術関係の文献 II</td> <td>14. 美術史の方法にかんする文献 IV</td> </tr> <tr> <td>7. 北方美術関係の文献 III</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. ネーデルラント美術関係の文献 I</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション I	9. ネーデルラント美術関係の文献 II	2. ルネサンス期の美術文献 I	10. ネーデルラント美術画家の文献 III	3. ルネサンス期の美術文献 II	11. 美術史の方法にかんする文献 I	4. ルネサンス期の美術文献 III	12. 美術史の方法にかんする文献 II	5. 北方美術関係の文献 I	13. 美術史の方法にかんする文献 III	6. 北方美術関係の文献 II	14. 美術史の方法にかんする文献 IV	7. 北方美術関係の文献 III	15. まとめ	8. ネーデルラント美術関係の文献 I	
1. イントロダクション I	9. ネーデルラント美術関係の文献 II																				
2. ルネサンス期の美術文献 I	10. ネーデルラント美術画家の文献 III																				
3. ルネサンス期の美術文献 II	11. 美術史の方法にかんする文献 I																				
4. ルネサンス期の美術文献 III	12. 美術史の方法にかんする文献 II																				
5. 北方美術関係の文献 I	13. 美術史の方法にかんする文献 III																				
6. 北方美術関係の文献 II	14. 美術史の方法にかんする文献 IV																				
7. 北方美術関係の文献 III	15. まとめ																				
8. ネーデルラント美術関係の文献 I																					
◇ 成績評価の方法	出席／平常点／レポート																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	欧文の論文を前もって予習してくる必要がある。最新の論文であるから予習には相当の時間をかけて勉強することが求められる。また、そこで論じられていること、あるいは派生することを考えていくために、関連文献にあたることが求められる。発表者は学期に一度、担当論文を全訳する必要があり、計画的に自主的な勉強を続ける必要がある。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 演 習 Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)	2	教授 芳 賀 京 子	5	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART306J																				
◆ 授業題目	西洋古代・中世美術作品研究の基礎 (Introduction to the Research of Ancient and Medieval Art in the Western World)																				
◆ 目的・概要	西洋美術作品を研究する上で必要となる作業を、ひととおり自分でおこなうことになることを目的とする。各自1点の西洋古代あるいは中世の美術作品を選び、鑑賞し、データを調べ、作品叙述をおこない、参考文献表をつかった上で、少なくとも1本の欧文の研究論文を読み、わかりやすく発表する。各自が自主的に動くことが期待される。																				
◆ 到達目標	西洋古代・中世美術の作品研究に関する基礎知識を身に着ける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 発表 (4)</td> </tr> <tr> <td>2. 文献購読 (1)</td> <td>10. 発表 (5)</td> </tr> <tr> <td>3. 文献購読 (2)</td> <td>11. 発表 (6)</td> </tr> <tr> <td>4. 文献購読 (3)</td> <td>12. 発表 (7)</td> </tr> <tr> <td>5. 文献購読 (4)</td> <td>13. 発表 (8)</td> </tr> <tr> <td>6. 発表 (1)</td> <td>14. 発表 (9)</td> </tr> <tr> <td>7. 発表 (2)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 発表 (3)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 発表 (4)	2. 文献購読 (1)	10. 発表 (5)	3. 文献購読 (2)	11. 発表 (6)	4. 文献購読 (3)	12. 発表 (7)	5. 文献購読 (4)	13. 発表 (8)	6. 発表 (1)	14. 発表 (9)	7. 発表 (2)	15. まとめ	8. 発表 (3)	
1. イントロダクション	9. 発表 (4)																				
2. 文献購読 (1)	10. 発表 (5)																				
3. 文献購読 (2)	11. 発表 (6)																				
4. 文献購読 (3)	12. 発表 (7)																				
5. 文献購読 (4)	13. 発表 (8)																				
6. 発表 (1)	14. 発表 (9)																				
7. 発表 (2)	15. まとめ																				
8. 発表 (3)																					
◇ 成績評価の方法	授業での発表 40%、レポート 40%、議論への参加 20%																				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	課題を決めた後、各自、発表準備およびレポート作成を進めること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 演 習 Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)	2	教授 芳 賀 京 子	6	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART306J																				
◆ 授業題目	西洋古代・中世美術作品研究の基礎 (Introduction to the Research of Ancient and Medieval Art in the Western World)																				
◆ 目的・概要	西洋美術作品を研究する上で必要となる作業を、ひととおり自分でおこなうことになることを目的とする。各自1点の西洋古代あるいは中世の美術作品を選び、鑑賞し、データを調べ、作品叙述をおこない、参考文献表をつかった上で、少なくとも1本の欧文の研究論文を読み、わかりやすく発表する。各自が自主的に動くことが期待される。																				
◆ 到達目標	西洋古代・中世美術の作品研究に関する基礎知識を身に着ける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 発表 (4)</td> </tr> <tr> <td>2. 文献購読 (1)</td> <td>10. 発表 (5)</td> </tr> <tr> <td>3. 文献購読 (2)</td> <td>11. 発表 (6)</td> </tr> <tr> <td>4. 文献購読 (3)</td> <td>12. 発表 (7)</td> </tr> <tr> <td>5. 文献購読 (4)</td> <td>13. 発表 (8)</td> </tr> <tr> <td>6. 発表 (1)</td> <td>14. 発表 (9)</td> </tr> <tr> <td>7. 発表 (2)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 発表 (3)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 発表 (4)	2. 文献購読 (1)	10. 発表 (5)	3. 文献購読 (2)	11. 発表 (6)	4. 文献購読 (3)	12. 発表 (7)	5. 文献購読 (4)	13. 発表 (8)	6. 発表 (1)	14. 発表 (9)	7. 発表 (2)	15. まとめ	8. 発表 (3)	
1. イントロダクション	9. 発表 (4)																				
2. 文献購読 (1)	10. 発表 (5)																				
3. 文献購読 (2)	11. 発表 (6)																				
4. 文献購読 (3)	12. 発表 (7)																				
5. 文献購読 (4)	13. 発表 (8)																				
6. 発表 (1)	14. 発表 (9)																				
7. 発表 (2)	15. まとめ																				
8. 発表 (3)																					
◇ 成績評価の方法	授業での発表 40%、レポート 40%、議論への参加 20%																				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	課題を決めた後、各自、発表準備およびレポート作成を進めること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 演 習 Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)	2	准教授 フォンガロ エンリコ	5	木	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART306J																				
◆ 授業題目	西洋美学演習（前期）（Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)）																				
◆ 目的・概要	西洋美学に関する文献を原文で、場合によっては日本語訳を参照しながら精読し、そこに書かれた概念について説明を行なっていく。また、取り上げられたトピックにもとづき、美学の諸問題に関して議論を行なう。参加者は、自分の興味分野と問題意識にもとづき、積極的に議論に参加することが求められる。																				
◆ 到達目標	西洋美学に関する文献を精読し、西洋美学における基礎的な概念について理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業の紹介。</td> <td>9. 文献講読。</td> </tr> <tr> <td>2. 文献講読。</td> <td>10. 文献講読。</td> </tr> <tr> <td>3. 文献講読。</td> <td>11. 文献講読。</td> </tr> <tr> <td>4. 文献講読。</td> <td>12. 発表とディスカッションその一。</td> </tr> <tr> <td>5. 文献講読。</td> <td>13. 発表とディスカッションその二。</td> </tr> <tr> <td>6. 文献講読。</td> <td>14. 発表とディスカッションその三。</td> </tr> <tr> <td>7. 文献講読。</td> <td>15. 復習とまとめ。</td> </tr> <tr> <td>8. 文献講読。</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業の紹介。	9. 文献講読。	2. 文献講読。	10. 文献講読。	3. 文献講読。	11. 文献講読。	4. 文献講読。	12. 発表とディスカッションその一。	5. 文献講読。	13. 発表とディスカッションその二。	6. 文献講読。	14. 発表とディスカッションその三。	7. 文献講読。	15. 復習とまとめ。	8. 文献講読。	
1. 授業の紹介。	9. 文献講読。																				
2. 文献講読。	10. 文献講読。																				
3. 文献講読。	11. 文献講読。																				
4. 文献講読。	12. 発表とディスカッションその一。																				
5. 文献講読。	13. 発表とディスカッションその二。																				
6. 文献講読。	14. 発表とディスカッションその三。																				
7. 文献講読。	15. 復習とまとめ。																				
8. 文献講読。																					
◇ 成績評価の方法	発表、翻訳、授業における議論への参加などを総合して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	講義中にプリントを配布する。																				
◇ 授業時間外学習	授業中に与えられた課題について自分の考えをまとめる。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 演 習 Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)	2	准教授 フォンガロ エンリコ	6	木	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART306J																				
◆ 授業題目	西洋美学演習（後期）（Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)）																				
◆ 目的・概要	西洋美学に関する文献を原文で、場合によっては日本語訳を参照しながら精読し、そこに書かれた概念について説明を行なっていく。また、取り上げられたトピックにもとづき、美学の諸問題に関して議論を行なう。参加者は、自分の興味分野と問題意識にもとづき、積極的に議論に参加することが求められる。																				
◆ 到達目標	西洋美学に関する文献を精読し、西洋美学における基礎的な概念について理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業の紹介。</td> <td>9. 文献講読。</td> </tr> <tr> <td>2. 文献講読。</td> <td>10. 文献講読。</td> </tr> <tr> <td>3. 文献講読。</td> <td>11. 文献講読。</td> </tr> <tr> <td>4. 文献講読。</td> <td>12. 発表とディスカッションその一。</td> </tr> <tr> <td>5. 文献講読。</td> <td>13. 発表とディスカッションその二。</td> </tr> <tr> <td>6. 文献講読。</td> <td>14. 発表とディスカッションその三。</td> </tr> <tr> <td>7. 文献講読。</td> <td>15. 復習とまとめ。</td> </tr> <tr> <td>8. 文献講読。</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業の紹介。	9. 文献講読。	2. 文献講読。	10. 文献講読。	3. 文献講読。	11. 文献講読。	4. 文献講読。	12. 発表とディスカッションその一。	5. 文献講読。	13. 発表とディスカッションその二。	6. 文献講読。	14. 発表とディスカッションその三。	7. 文献講読。	15. 復習とまとめ。	8. 文献講読。	
1. 授業の紹介。	9. 文献講読。																				
2. 文献講読。	10. 文献講読。																				
3. 文献講読。	11. 文献講読。																				
4. 文献講読。	12. 発表とディスカッションその一。																				
5. 文献講読。	13. 発表とディスカッションその二。																				
6. 文献講読。	14. 発表とディスカッションその三。																				
7. 文献講読。	15. 復習とまとめ。																				
8. 文献講読。																					
◇ 成績評価の方法	発表、翻訳、授業における議論への参加などを総合して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	講義中にプリントを配布する。																				
◇ 授業時間外学習	授業中に出された課題について自分の考えをまとめる。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 実 習 Aesthetics and History of European Fine Arts (Laboratory Work)	2	教授 尾崎彰宏 芳賀京子	5	火	3・4																		
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART307J																						
◆ 授業題目	西洋美術の基礎知識と調査入門 (Basic Understanding of Western Art History and Introduction to its Research Methodology)																						
◆ 目的・概要	西洋美術分野の基礎知識を身につけるとともに、美術作品の調査法を身につける。同時に博物館・美術館をいくつか見学し、展示法などについて考える。																						
◆ 到達目標	西洋美術史（古代～中世）について、最低限の知識を身につける。美術作品の作品記述、写真撮影、カタログ化などをひととおり自分で行えるようになる。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス、ディスクリプション説明</td> <td>7. 小テスト、西洋美術史発表 ③（エトルリア美術）</td> </tr> <tr> <td>2. レポート（ディスクリプション）提出宮城県美術館 見学（ルノワール展）</td> <td>8. 小テスト、西洋美術史発表 ④（ローマ美術）</td> </tr> <tr> <td>3. 展覧会評の発表、レポート提出パワーポイントの使い方</td> <td>9. 小テスト、西洋美術史発表 ⑤（古代末期／初期中世美術）カメラ説明</td> </tr> <tr> <td>4. パワーポイント発表、レポート提出東北歴史博物館 見学（ラスコー展）</td> <td>10. 小テスト、西洋美術史発表 ⑥（ビザンチン美術）撮 影練習（石膏像、油彩画）</td> </tr> <tr> <td>5. 展覧会評の発表、レポート提出西洋美術史発表 ① （エーゲ文明）</td> <td>11. 小テスト、西洋美術史発表 ⑦（ロマネスク美術）撮 影練習（ブロンズ像）</td> </tr> <tr> <td>6. *以下は、平成29年度の特別展開催予定が公表され てから決めるため、未定。詳細は最初の授業で伝え ます。 小テスト、西洋美術史発表 ②（ギリシア美術）</td> <td>12. 小テスト、西洋美術史発表 ⑧（ロマネスク美術）写 真撮影講評</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13. 美術館見学（日程は未定）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. 美術館見学（日程は未定）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 美術館見学（日程は未定）</td> </tr> </table>					1. ガイダンス、ディスクリプション説明	7. 小テスト、西洋美術史発表 ③（エトルリア美術）	2. レポート（ディスクリプション）提出宮城県美術館 見学（ルノワール展）	8. 小テスト、西洋美術史発表 ④（ローマ美術）	3. 展覧会評の発表、レポート提出パワーポイントの使い方	9. 小テスト、西洋美術史発表 ⑤（古代末期／初期中世美術）カメラ説明	4. パワーポイント発表、レポート提出東北歴史博物館 見学（ラスコー展）	10. 小テスト、西洋美術史発表 ⑥（ビザンチン美術）撮 影練習（石膏像、油彩画）	5. 展覧会評の発表、レポート提出西洋美術史発表 ① （エーゲ文明）	11. 小テスト、西洋美術史発表 ⑦（ロマネスク美術）撮 影練習（ブロンズ像）	6. *以下は、平成29年度の特別展開催予定が公表され てから決めるため、未定。詳細は最初の授業で伝え ます。 小テスト、西洋美術史発表 ②（ギリシア美術）	12. 小テスト、西洋美術史発表 ⑧（ロマネスク美術）写 真撮影講評		13. 美術館見学（日程は未定）		14. 美術館見学（日程は未定）		15. 美術館見学（日程は未定）
1. ガイダンス、ディスクリプション説明	7. 小テスト、西洋美術史発表 ③（エトルリア美術）																						
2. レポート（ディスクリプション）提出宮城県美術館 見学（ルノワール展）	8. 小テスト、西洋美術史発表 ④（ローマ美術）																						
3. 展覧会評の発表、レポート提出パワーポイントの使い方	9. 小テスト、西洋美術史発表 ⑤（古代末期／初期中世美術）カメラ説明																						
4. パワーポイント発表、レポート提出東北歴史博物館 見学（ラスコー展）	10. 小テスト、西洋美術史発表 ⑥（ビザンチン美術）撮 影練習（石膏像、油彩画）																						
5. 展覧会評の発表、レポート提出西洋美術史発表 ① （エーゲ文明）	11. 小テスト、西洋美術史発表 ⑦（ロマネスク美術）撮 影練習（ブロンズ像）																						
6. *以下は、平成29年度の特別展開催予定が公表され てから決めるため、未定。詳細は最初の授業で伝え ます。 小テスト、西洋美術史発表 ②（ギリシア美術）	12. 小テスト、西洋美術史発表 ⑧（ロマネスク美術）写 真撮影講評																						
	13. 美術館見学（日程は未定）																						
	14. 美術館見学（日程は未定）																						
	15. 美術館見学（日程は未定）																						
◇ 成績評価の方法	授業への参加・貢献（30%）、小テスト（20%）、小レポート（20%）、発表（30%）																						
◇ 教科書・参考書	授業中に指示します。																						
◇ 授業時間外学習	発表はしっかり準備すること。美術館・博物館見学の前に、あらかじめ自分で下調べしてください。見学の次の授業でレポートを提出してもらいます。 西洋美術分野の基礎知識については、発表の次の授業で小テストを行います。																						
その他：美術館・博物館の特別展入場料のほか、一度は他県美術館の見学もおこなう予定ですので、その旅費が必要となります。																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 実 習 Aesthetics and History of European Fine Arts (Laboratory Work)	2	教授 尾崎彰宏 芳賀京子	6	火	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-ART307J																				
◆ 授業題目	美術作品の調査法について (How to look at art works and to discuss them deeply.)																				
◆ 目的・概要	◆授業内容：美術史は何よりも作品観察から出発する。この作品をどのように観察し、それを言葉で表現するか、そのためにはどのようなアプローチが必要かを学ぶ。																				
◆ 到達目標	美術作品にかんするより高度な観察力と記述力を養うことができる																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 美術館へ作品見学 II</td> </tr> <tr> <td>2. 美術史のモダニズムと方法 I</td> <td>10. 脱構築と精神分析的な美術史</td> </tr> <tr> <td>3. 美術史のモダニズムと方法 II</td> <td>11. 美術館へ作品見学 III</td> </tr> <tr> <td>4. 視覚論 I</td> <td>12. 文化と美術史の関係</td> </tr> <tr> <td>5. 視覚論 II</td> <td>13. 美術におけるオリジナリティとは何か</td> </tr> <tr> <td>6. 社会学とマルクス主義的な美術論</td> <td>14. 美術館へ作品見学 IV</td> </tr> <tr> <td>7. 美術館へ作品見学 I</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. フェミニズムの美術論</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 美術館へ作品見学 II	2. 美術史のモダニズムと方法 I	10. 脱構築と精神分析的な美術史	3. 美術史のモダニズムと方法 II	11. 美術館へ作品見学 III	4. 視覚論 I	12. 文化と美術史の関係	5. 視覚論 II	13. 美術におけるオリジナリティとは何か	6. 社会学とマルクス主義的な美術論	14. 美術館へ作品見学 IV	7. 美術館へ作品見学 I	15. まとめ	8. フェミニズムの美術論	
1. イントロダクション	9. 美術館へ作品見学 II																				
2. 美術史のモダニズムと方法 I	10. 脱構築と精神分析的な美術史																				
3. 美術史のモダニズムと方法 II	11. 美術館へ作品見学 III																				
4. 視覚論 I	12. 文化と美術史の関係																				
5. 視覚論 II	13. 美術におけるオリジナリティとは何か																				
6. 社会学とマルクス主義的な美術論	14. 美術館へ作品見学 IV																				
7. 美術館へ作品見学 I	15. まとめ																				
8. フェミニズムの美術論																					
◇ 成績評価の方法	出席／平常点／レポート																				
◇ 教科書・参考書	ジャンソン『美術の歴史』、その他は授業時間に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	できるだけ美術館、博物館に足を運びじかに作品に接するようにする。できれば、ヨーロッパの美術館へ出かけることができれば、大きく視野が広がる。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 学 概 論 Sociology (General Lecture)	2	教授 下 夷 美 幸	3	木	1																
◆ 科目ナンバリング	LHM-SOC201J																				
◆ 授業題目	家族の社会学 (Sociology of the Family)																				
◆ 目的・概要	家族社会学の基礎力を養うことを目的とする。授業では、夫婦・カップルや親子に関する現象や具体的な問題を取り上げて、現代家族の実相と変化の方向について講義する。																				
◆ 到達目標	(1)家族の社会学的研究に必要な概念や知識を習得する。 (2)家族社会学の理論と分析視角を習得する。 (3)個人および社会にとっての家族の意味について考察する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 家族をとらえる視角</td> <td>9. 高齢者と家族 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. 「近代家族」という概念</td> <td>10. 離婚 (1)</td> </tr> <tr> <td>3. 日本の家制度と戸籍</td> <td>11. 離婚 (2)</td> </tr> <tr> <td>4. 結婚・夫婦 (1)</td> <td>12. ステップファミリー</td> </tr> <tr> <td>5. 結婚・夫婦 (2)</td> <td>13. カップル関係の多様化</td> </tr> <tr> <td>6. 子どもと家族 (1)</td> <td>14. 親子関係の多様化</td> </tr> <tr> <td>7. 子どもと家族 (2)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 高齢者と家族 (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 家族をとらえる視角	9. 高齢者と家族 (2)	2. 「近代家族」という概念	10. 離婚 (1)	3. 日本の家制度と戸籍	11. 離婚 (2)	4. 結婚・夫婦 (1)	12. ステップファミリー	5. 結婚・夫婦 (2)	13. カップル関係の多様化	6. 子どもと家族 (1)	14. 親子関係の多様化	7. 子どもと家族 (2)	15. まとめ	8. 高齢者と家族 (1)	
1. 家族をとらえる視角	9. 高齢者と家族 (2)																				
2. 「近代家族」という概念	10. 離婚 (1)																				
3. 日本の家制度と戸籍	11. 離婚 (2)																				
4. 結婚・夫婦 (1)	12. ステップファミリー																				
5. 結婚・夫婦 (2)	13. カップル関係の多様化																				
6. 子どもと家族 (1)	14. 親子関係の多様化																				
7. 子どもと家族 (2)	15. まとめ																				
8. 高齢者と家族 (1)																					
◇ 成績評価の方法	学期末試験 100%																				
◇ 教科書・参考書	教科書・参考書は教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の授業後、取り上げたテーマについて、授業の内容を復習するとともに、関連する文献や資料などにもあたり、考察を深める。事前配布の資料がある場合は、資料を読み込んで授業にのぞむ。																				
その他：オフィスアワー：金曜 12時-13時 (メールにて要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 学 概 論 Sociology (General Lecture)	2	教授 長 谷 川 公 一	4	木	1																
◆ 科目ナンバリング	LHM-SOC201J																				
◆ 授業題目	現代社会の秩序と動態 (The Dynamics and Social Order of the Modern Society)																				
◆ 目的・概要	日常的な世界から出発して、社会学の基礎概念・基礎視角をもとに理論的に考察し、社会的なまなざしの特徴を理解する。																				
◆ 到達目標	(1)行為論・組織論・権力論などをとおして、社会学の基礎概念や基礎視角について理解を深める。 (2)相互行為や社会秩序、組織とネットワーク、メディアとコミュニケーション、政治参加などについて考察する。 (3)現代社会について、洞察を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション：平成の時代とは</td> <td>9. NPOの組織論</td> </tr> <tr> <td>2. 他者と儀礼的無関心</td> <td>10. インターネットとつながり</td> </tr> <tr> <td>3. 自己と相互行為</td> <td>11. メディアとコミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>4. 社会秩序と秩序維持のメカニズム</td> <td>12. 集合的記憶とアイデンティティ</td> </tr> <tr> <td>5. 権力論</td> <td>13. 若者と政治参加</td> </tr> <tr> <td>6. 紛争と法</td> <td>14. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. マクドナルド化する社会</td> <td>15. 試験と解説</td> </tr> <tr> <td>8. 組織・人間・環境</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション：平成の時代とは	9. NPOの組織論	2. 他者と儀礼的無関心	10. インターネットとつながり	3. 自己と相互行為	11. メディアとコミュニケーション	4. 社会秩序と秩序維持のメカニズム	12. 集合的記憶とアイデンティティ	5. 権力論	13. 若者と政治参加	6. 紛争と法	14. まとめ	7. マクドナルド化する社会	15. 試験と解説	8. 組織・人間・環境	
1. イントロダクション：平成の時代とは	9. NPOの組織論																				
2. 他者と儀礼的無関心	10. インターネットとつながり																				
3. 自己と相互行為	11. メディアとコミュニケーション																				
4. 社会秩序と秩序維持のメカニズム	12. 集合的記憶とアイデンティティ																				
5. 権力論	13. 若者と政治参加																				
6. 紛争と法	14. まとめ																				
7. マクドナルド化する社会	15. 試験と解説																				
8. 組織・人間・環境																					
◇ 成績評価の方法	出席とふだんの受講姿勢を重視する。期末に試験を行う。																				
◇ 教科書・参考書	長谷川公一ほか『社会学』有斐閣、2007年。 好井裕明『「今、ここ」から考える社会学』筑摩書房、2017年。																				
◇ 授業時間外学習	予習・復習に努める。																				
その他：オフィスアワー：月 5																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
社 会 学 基 礎 演 習 Sociology (Introductory Seminar)	2	教授 永 井 彰	4	水	5
◆ 科目ナンバリング	LHM-SOC202J				
◆ 授業題目	コミュニケーション行為の理論 (The theory of Communicative Action)				
◆ 目的・概要	ドイツの社会学者・哲学者ユルゲン・ハーバーマスの『コミュニケーション行為の理論』をドイツ語原文で講読する。専門文献をドイツ語で精読する方法を学ぶ。				
◆ 到達目標	1) ドイツ語で専門文献を読解できる能力を獲得する。 2) 専門文献を精読するとはどのようなことなのかを理解できるようになる。 3) コミュニケーション行為理論の基本的な考え方を理解できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. 授業のガイダンス 2. Theorie des kommunikativen Handelns 原文の検討 (1) 3. Theorie des kommunikativen Handelns 原文の検討 (2) 4. Theorie des kommunikativen Handelns 原文の検討 (3) 5. Theorie des kommunikativen Handelns 原文の検討 (4) 6. Theorie des kommunikativen Handelns 原文の検討 (5) 7. Theorie des kommunikativen Handelns 原文の検討 (6) 8. Theorie des kommunikativen Handelns 原文の検討 (7) 9. Theorie des kommunikativen Handelns 原文の検討 (8) 10. Theorie des kommunikativen Handelns 原文の検討 (9) 11. Theorie des kommunikativen Handelns 原文の検討 (10) 12. Theorie des kommunikativen Handelns 原文の検討 (11) 13. Theorie des kommunikativen Handelns 原文の検討 (12) 14. Theorie des kommunikativen Handelns 原文の検討 (13) 15. Theorie des kommunikativen Handelns 原文の検討 (14)				
◇ 成績評価の方法	平常点 (毎回の訳文作成) 50%、レポート50%。				
◇ 教科書・参考書	Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns, Band 1: Handlungsrationalität und gesellschaftliche Rationalisierung; Band 2: Zur Kritik der funktionalistischen Vernunft, Suhrkamp, Frankfurt am Main, 1981.				
◇ 授業時間外学習	授業前に、各自、訳文を作成する。授業後、授業での検討をふまえて、各自、訳文を再点検する。				
その他：ドイツ語学習のために、社会学専修以外の学生の履修を歓迎する。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
社 会 学 基 礎 演 習 Sociology (Introductory Seminar)	2	教授 長谷川 公 一	4	火	5
◆ 科目ナンバリング	LHM-SOC202J				
◆ 授業題目	福島原発事故と震災復興の社会学 (Sociological Thinking on the Fukushima Nuclear Disaster and Recovery Process from Tsunami Disaster)				
◆ 目的・概要	福島原発事故と震災復興をめぐる社会学的研究の現状と課題を理解する。				
◆ 到達目標	原発事故と震災復興に関する問題の所在と、それらに関する研究の成果と課題を考察する。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 2. 原発事故と震災復興を研究する方法 I 3. 原発事故と震災復興を研究する方法 II 4. 福島原発事故の構造的背景 I 5. 福島原発事故の構造的背景 II 6. 福島原発事故対応の問題点 7. 福島原発事故以降のエネルギー政策 8. 福島原発事故と被害住民・広域避難 9. 福島原発事故と地域再生 10. 岐路に立つ震災復興 I 11. 岐路に立つ震災復興 II 12. 防潮堤をめぐる問題 13. 高台移転をめぐる問題 14. 震災遺構をめぐる問題 15. まとめ				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) レポート [70%]・(○) 出席 [30%]				
◇ 教科書・参考書	教室にて指示する。				
◇ 授業時間外学習	演習参加者全員があらかじめ課題文献を十二分に読み込んだうえで、質問をもって授業にのぞむ。前回の授業を咀嚼したうえで、前回分についても質問をもって授業にのぞむ。				
その他：オフィスアワー：月 5					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
社 会 学 基 礎 演 習 Sociology (Introductory Seminar)	2	非常勤 講師 木 村 雅 史	4	月	4																		
◆ 科目ナンバリング	LHM-SOC202J																						
◆ 授業題目	メディア論の基礎視角 (basic viewpoint of media studies)																						
◆ 目的・概要	日常生活の隅々にまでメディアが浸透した現代社会では、どこまでが「メディアの影響・効果」なのか、その判断が難しくなっている。現代社会におけるメディアの役割を理解するためには、メディアと社会の関係性について多角的な視点から考察することで、問題を対象化・限定することが必要になってくる。このような課題意識のもと、この授業では、メディアに関する代表的な議論、その諸理論について学びながら、自分の研究テーマを設定し、メディア論的な視点から自分なりに分析・考察できるようになることを目的とする。授業は、各回のテーマに沿った課題論文を皆で読み、議論するかたちで進める。授業後半では、各自による授業で扱った諸理論に関する研究 (各理論に関する先行研究の調査、各理論を使った具体的な分析等)、発表、受講生全員での討論を行い、各理論の長所や限界、応用可能性等について理解を深める。受講生は、研究や討論の成果もふまえて、自分の研究テーマについて分析・考察を進め、最終的にレポートにまとめる。																						
◆ 到達目標	①メディア論の基本的な考え方やその諸理論に関する知識を習得する。 ②メディアに関する自らの関心や問題意識を高め、自分の研究テーマとして問題化できるようになる。 ③メディア論的な視点から自分の研究テーマについて分析・考察を行い、説得的な議論を展開できるようになる。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>10. パーソナルメディア (2): アーキテクチャ (環境管理型権力)</td> </tr> <tr> <td>2. メディアと社会: マクルーハンのメディア論</td> <td>11. パーソナルメディア (3): モバイルコミュニケーションと公私の再編</td> </tr> <tr> <td>3. メディア史の枠組: 音声文化・活字文化・電子文化</td> <td>12. パーソナルメディア (4): メディア・テキストとオーディエンス・エンゲージメント</td> </tr> <tr> <td>4. マスメディア (1): アジェンダ・セッティング (議題設定)</td> <td>13. 研究発表と討論 (1)</td> </tr> <tr> <td>5. マスメディア (2): 沈黙の螺旋理論</td> <td>14. 研究発表と討論 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. マスメディア (3): メディア・イベント</td> <td>15. 研究発表と討論 (3)</td> </tr> <tr> <td>7. マスメディア (4): コミュニケーションの2段階の流れ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 研究に関するレクチャーとテーマ設定</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. パーソナルメディア (1): 選択的關係論</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	10. パーソナルメディア (2): アーキテクチャ (環境管理型権力)	2. メディアと社会: マクルーハンのメディア論	11. パーソナルメディア (3): モバイルコミュニケーションと公私の再編	3. メディア史の枠組: 音声文化・活字文化・電子文化	12. パーソナルメディア (4): メディア・テキストとオーディエンス・エンゲージメント	4. マスメディア (1): アジェンダ・セッティング (議題設定)	13. 研究発表と討論 (1)	5. マスメディア (2): 沈黙の螺旋理論	14. 研究発表と討論 (2)	6. マスメディア (3): メディア・イベント	15. 研究発表と討論 (3)	7. マスメディア (4): コミュニケーションの2段階の流れ		8. 研究に関するレクチャーとテーマ設定		9. パーソナルメディア (1): 選択的關係論	
1. イントロダクション	10. パーソナルメディア (2): アーキテクチャ (環境管理型権力)																						
2. メディアと社会: マクルーハンのメディア論	11. パーソナルメディア (3): モバイルコミュニケーションと公私の再編																						
3. メディア史の枠組: 音声文化・活字文化・電子文化	12. パーソナルメディア (4): メディア・テキストとオーディエンス・エンゲージメント																						
4. マスメディア (1): アジェンダ・セッティング (議題設定)	13. 研究発表と討論 (1)																						
5. マスメディア (2): 沈黙の螺旋理論	14. 研究発表と討論 (2)																						
6. マスメディア (3): メディア・イベント	15. 研究発表と討論 (3)																						
7. マスメディア (4): コミュニケーションの2段階の流れ																							
8. 研究に関するレクチャーとテーマ設定																							
9. パーソナルメディア (1): 選択的關係論																							
◇ 成績評価の方法	出席 [30%]、研究発表と討論 (報告内容や発言の積極性など) [20%]、レポート [50%]																						
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。各回の授業で講読する課題論文はこちらで指定する。参考文献は随時、紹介する。																						
◇ 授業時間外学習	毎回、課題論文を事前に読み、自分なりの論点や疑問点をもって授業に臨むこと。																						
その他: 授業に関する問い合わせは、tadafumi_kjp@yahoo.co.jp まで。																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 学 各 論 Sociology (Special Lecture)	2	教授 下 夷 美 幸	5	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-SOC301J																				
◆ 授業題目	日本の家族政策 (Family Policy in Japan)																				
◆ 目的・概要	家族社会学の応用力を養うことを目的とする。授業では、家族をめぐるケア (育児と介護) やひとり親家族の生活支援といった具体的な問題をとりあげ、主要先進諸国との比較も交えながら、日本の家族政策の現状および今後の課題について、講義する (受講者の意見も聴取しながらすすめていく)。																				
◆ 到達目標	(1)家族の変容や家族問題の実情について理解する。 (2)家族政策の現状と日本の特質について考察する。 (3)今後の家族政策の課題について探求する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 家族政策の概念整理</td> <td>9. 高齢者介護政策 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. 福祉国家と家族 (1)</td> <td>10. 高齢者介護政策 (3)</td> </tr> <tr> <td>3. 福祉国家と家族 (2)</td> <td>11. 高齢者介護政策 (4)</td> </tr> <tr> <td>4. 育児支援政策 (1)</td> <td>12. ひとり親家族支援政策 (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 育児支援政策 (2)</td> <td>13. ひとり親家族支援政策 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 育児支援政策 (3)</td> <td>14. ひとり親家族政策 (3)</td> </tr> <tr> <td>7. 育児支援政策 (4)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 高齢者介護政策 (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 家族政策の概念整理	9. 高齢者介護政策 (2)	2. 福祉国家と家族 (1)	10. 高齢者介護政策 (3)	3. 福祉国家と家族 (2)	11. 高齢者介護政策 (4)	4. 育児支援政策 (1)	12. ひとり親家族支援政策 (1)	5. 育児支援政策 (2)	13. ひとり親家族支援政策 (2)	6. 育児支援政策 (3)	14. ひとり親家族政策 (3)	7. 育児支援政策 (4)	15. 授業のまとめ	8. 高齢者介護政策 (1)	
1. 家族政策の概念整理	9. 高齢者介護政策 (2)																				
2. 福祉国家と家族 (1)	10. 高齢者介護政策 (3)																				
3. 福祉国家と家族 (2)	11. 高齢者介護政策 (4)																				
4. 育児支援政策 (1)	12. ひとり親家族支援政策 (1)																				
5. 育児支援政策 (2)	13. ひとり親家族支援政策 (2)																				
6. 育児支援政策 (3)	14. ひとり親家族政策 (3)																				
7. 育児支援政策 (4)	15. 授業のまとめ																				
8. 高齢者介護政策 (1)																					
◇ 成績評価の方法	コメントペーパー (復習) 50%、課題レポート 50%																				
◇ 教科書・参考書	教科書・参考書は教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	(1)毎回の授業後、取り上げたテーマについて、授業内容を復習し、コメントペーパーに自分の考察を記述する。その際、関連する文献や資料などにもあたり、学習を深める。なお、コメントペーパーは翌週の授業で提出する。 (2)事前配布資料がある場合は、資料を読み込んで、自分の考えをまとめて授業にのぞむ。																				
その他:																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
社 会 学 各 論 Sociology (Special Lecture)	2	准教授 小松丈晃	6	火	1
◆ 科目ナンバリング	LHM-SOC301J				
◆ 授業題目	リスクと無知の社会学 (Sociology of Risk and Ignorance)				
◆ 目的・概要	自然災害のリスクなどへの対処には、自然科学のみならず人文・社会(科)学的な視点が必要である。学際的な広がりをもつリスク研究だが、この授業では、社会的なリスク研究を概観しながら、複雑化する現代社会におけるリスクとの「つきあい方」について考えていきたい。また、リスク論に対する社会学の貢献はどこにあるのか、逆にリスクについての考察は社会学に何をもたらすのか、そしてリスクについての社会学研究はなぜ必要か、等についても検討する。授業は全体として大きく三つのパートからなる。まず(1)社会学におけるリスク研究について概説し(第1回～第7回)、その後(2)科学社会学の展開状況をも踏まえつつ、科学に対する信頼や専門知の責任について考察する(第8回～第11回)。最後に(3)東日本大震災をはじめとした超広域複合災害を念頭におきながら、リスク・信頼・無知(「想定外」)の間の捻れた関係とそれがもたらす問題について、考察する。補論として監視社会学にも触れる。				
◆ 到達目標	各アプローチの特徴と課題について理解できるようになる。現代社会が直面するリスクとのつきあい方について自分なりの考察できる手がかりを得る。				
◆ 授業内容・方法	1. リスクの概念について 2. 人文社会科学における研究動向・概観 3. 「リスク社会」という社会記述—U.ベックの問題提起(1) 4. 「リスク社会」という社会記述—U.ベックの問題提起(2) 5. M.ダグラスの文化論とデュルケムの視点 6. 社会システム理論によるリスク研究(1) 7. 社会システム理論によるリスク研究(2) 8. リスク社会における信頼(1)—リスクコミュニケーション論とその課題	9. リスク社会における信頼(2) 10. 地域社会と科学—サイエンスショップ/CBPRの動向と課題— 11. リスクの社会的増幅/減衰論(SARF)について 12. リスクと信頼の捻れた関係—複合災害への一視点 13. 安全・安心をめぐる動向—監視社会学について 14. 「想定外」の社会学のために—「無知の社会学」の可能性 15. まとめと総合討論			
◇ 成績評価の方法	講義終了後のコミュニケーションペーパーへの記入内容と出席状況 30%+学期末のレポート 70%で評価				
◇ 教科書・参考書	教科書はありません。トピックに応じて参考文献を授業の中で呈示します。				
◇ 授業時間外学習	適宜、授業において学習課題を出す予定です。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
社 会 学 各 論 Sociology (Special Lecture)	2	非常勤講師 徳川直人	5	水	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-SOC301J				
◆ 授業題目	質的研究概論 (Introduction to Sociological Qualitative Inquiry)				
◆ 目的・概要	資料蒐集、日誌、ノートといった社会的知の生産技術の基本を実践してもらいつつ、オリジナル教材を使った講義と演習を通じて種々の質的方法について理解を深める。				
◆ 到達目標	質的研究法の基礎的技法、考え方、意義と限界、調査倫理の基本について理解できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. 質的分析法入門 2. 方法としてのフィールドノート 3. 感受概念 4. 非構造的・半構造的インタビューと調査票の設計 5. 聞き書き 6. インタビュー 7. 自然主義的観察 8. 参与観察	9. グラウンデッドな接近法 10. エスノメソドロジー 11. エスノグラフィー 12. 事例分析とモノグラフ 13. ヒューマン・ドキュメント 14. アクション・リサーチ 15. 調査倫理			
◇ 成績評価の方法	平常点・提出物(宿題)、学期末レポート				
◇ 教科書・参考書	『方法としてのフィールドノート』『質的研究用語事典』など複数を教室にて指示する。また、教材的読み物としてオリジナル資料を作成する。				
◇ 授業時間外学習	毎回の読み物について目を通すこと。また授業内容についての復習(用語の意味確認)などを提出すること。学期末レポートに向けて日常的にフィールドワーク実践に少しずつ取り組むこと。				
その他：公式サイト http://www.sp.is.tohoku.ac.jp/toku/ およびISTUにて資料等を閲覧する。 また、所載のメールを随時利用してよい。社会調査士資格認定標準科目Fに対応。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 学 各 論 Sociology (Special Lecture)	2	教授 長谷川 公 一	6	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-SOC301J																				
◆ 授業題目	気候変動政策の社会学 (Sociology of Climate Change Policy)																				
◆ 目的・概要	気候変動問題とはどのような問題なのか。気候変動対策はどのように進展してきたのか。アメリカはなぜ気候変動対策に消極的なのか。日本の気候変動対策の課題と特質は何か。何が気候変動対策を難しくしているのか。原子力発電と気候変動の問題をどう考えるべきか、これらを社会的に検討する。																				
◆ 到達目標	気候変動問題と政策の社会的特質、国際比較研究の意義などを理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 気候変動のしくみ。何が問題なのか</td> <td>9. 日本の気候変動対策・NGO</td> </tr> <tr> <td>2. 気候変動対策の歴史</td> <td>10. 環境税をめぐる言説ネットワーク</td> </tr> <tr> <td>3. 気候変動懐疑論の検討 I</td> <td>11. 気候変動問題とメディア</td> </tr> <tr> <td>4. 気候変動懐疑論の検討 II</td> <td>12. 気候変動対策と原子力発電</td> </tr> <tr> <td>5. パリ協定の意義</td> <td>13. 気候変動と石炭火力発電</td> </tr> <tr> <td>6. 日本の気候変動対策の特質</td> <td>14. 脱炭素社会は可能か</td> </tr> <tr> <td>7. 日本の気候変動対策・政府と地方</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 日本の気候変動対策・産業界</td> <td></td> </tr> </table>					1. 気候変動のしくみ。何が問題なのか	9. 日本の気候変動対策・NGO	2. 気候変動対策の歴史	10. 環境税をめぐる言説ネットワーク	3. 気候変動懐疑論の検討 I	11. 気候変動問題とメディア	4. 気候変動懐疑論の検討 II	12. 気候変動対策と原子力発電	5. パリ協定の意義	13. 気候変動と石炭火力発電	6. 日本の気候変動対策の特質	14. 脱炭素社会は可能か	7. 日本の気候変動対策・政府と地方	15. まとめ	8. 日本の気候変動対策・産業界	
1. 気候変動のしくみ。何が問題なのか	9. 日本の気候変動対策・NGO																				
2. 気候変動対策の歴史	10. 環境税をめぐる言説ネットワーク																				
3. 気候変動懐疑論の検討 I	11. 気候変動問題とメディア																				
4. 気候変動懐疑論の検討 II	12. 気候変動対策と原子力発電																				
5. パリ協定の意義	13. 気候変動と石炭火力発電																				
6. 日本の気候変動対策の特質	14. 脱炭素社会は可能か																				
7. 日本の気候変動対策・政府と地方	15. まとめ																				
8. 日本の気候変動対策・産業界																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) リポート [70 %]・(○) 出席 [30%]																				
◇ 教科書・参考書	長谷川公一・品田知美編『気候変動政策の社会学』(昭和堂、2016年)																				
◇ 授業時間外学習	新聞をよく読む。																				
その他：オフィスアワー：月5																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 学 各 論 Sociology (Special Lecture)	2	非常勤講師 田代志門	集 中 (5)																		
◆ 科目ナンバリング	LHM-SOC301J																				
◆ 授業題目	死と死にゆくこと社会学 (Sociology of death and dying)																				
◆ 目的・概要	終末期医療に関する具体的なトピックをとりあげながら、現代社会における「死と死にゆくこと」に関係する諸問題を「人と人との関係性」という視点から考察する。																				
◆ 到達目標	終末期医療の現場で生じている倫理的・法的・社会的問題について基礎的な知識を得るとともに、それらの問題を文化や社会構造と関連づけて理解することができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション (1) 現代社会においてなぜ死が問題になるのか</td> <td>8. 終末期ケアの社会学 (3) <共同行為>としてのインフォームド・コンセント</td> </tr> <tr> <td>2. イントロダクション (2) 「死の社会学」の系譜</td> <td>9. 死生観の社会学 (1) 治療を「あきらめる」経験の語り</td> </tr> <tr> <td>3. 死の自己決定権の社会学 (1) 安楽死・尊厳死とは</td> <td>10. 死生観の社会学 (2) 受け継がれていく生</td> </tr> <tr> <td>4. 死の自己決定権の社会学 (2) 誰のための<尊厳死>?</td> <td>11. 死生観の社会学 (3) 死者との邂逅</td> </tr> <tr> <td>5. 死の自己決定権の社会学 (3) 安楽死の実際</td> <td>12. 看取りの現場との対話 (1)</td> </tr> <tr> <td>6. 終末期ケアの社会学 (1) ホスピス・緩和ケアの可能性と困難</td> <td>13. 看取りの現場との対話 (2)</td> </tr> <tr> <td>7. 終末期ケアの社会学 (2) 未決の問いとしてのがん告知</td> <td>14. 看取りの現場との対話 (3)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ 死にゆく過程をどう生きるか</td> </tr> </table>					1. イントロダクション (1) 現代社会においてなぜ死が問題になるのか	8. 終末期ケアの社会学 (3) <共同行為>としてのインフォームド・コンセント	2. イントロダクション (2) 「死の社会学」の系譜	9. 死生観の社会学 (1) 治療を「あきらめる」経験の語り	3. 死の自己決定権の社会学 (1) 安楽死・尊厳死とは	10. 死生観の社会学 (2) 受け継がれていく生	4. 死の自己決定権の社会学 (2) 誰のための<尊厳死>?	11. 死生観の社会学 (3) 死者との邂逅	5. 死の自己決定権の社会学 (3) 安楽死の実際	12. 看取りの現場との対話 (1)	6. 終末期ケアの社会学 (1) ホスピス・緩和ケアの可能性と困難	13. 看取りの現場との対話 (2)	7. 終末期ケアの社会学 (2) 未決の問いとしてのがん告知	14. 看取りの現場との対話 (3)		15. まとめ 死にゆく過程をどう生きるか
1. イントロダクション (1) 現代社会においてなぜ死が問題になるのか	8. 終末期ケアの社会学 (3) <共同行為>としてのインフォームド・コンセント																				
2. イントロダクション (2) 「死の社会学」の系譜	9. 死生観の社会学 (1) 治療を「あきらめる」経験の語り																				
3. 死の自己決定権の社会学 (1) 安楽死・尊厳死とは	10. 死生観の社会学 (2) 受け継がれていく生																				
4. 死の自己決定権の社会学 (2) 誰のための<尊厳死>?	11. 死生観の社会学 (3) 死者との邂逅																				
5. 死の自己決定権の社会学 (3) 安楽死の実際	12. 看取りの現場との対話 (1)																				
6. 終末期ケアの社会学 (1) ホスピス・緩和ケアの可能性と困難	13. 看取りの現場との対話 (2)																				
7. 終末期ケアの社会学 (2) 未決の問いとしてのがん告知	14. 看取りの現場との対話 (3)																				
	15. まとめ 死にゆく過程をどう生きるか																				
◇ 成績評価の方法	レポート 50%、授業時の平常点 50%																				
◇ 教科書・参考書	田代志門『死にゆく過程を生きる：終末期がん患者の経験の社会学』(世界思想社、2016年) 清水哲郎監修 岡部健・竹之内裕文編『どう生き どう死ぬか：現場から考える死生学』(弓箭書院、2009年)																				
◇ 授業時間外学習	上記の参考図書に目を通すこと																				
その他：本授業では、講義内容の理解を深めるために、具体的な事例について議論する機会を設ける予定です。ぜひ積極的に授業に参加してください。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
社 会 学 各 論 Sociology (Special Lecture)	2	非常勤 講師 山 尾 貴 則	集 中 (6)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-SOC301J				
◆ 授業題目	「認められること」の社会学 (Sociology of Recognition)				
◆ 目的・概要	現代日本における自己形成に関する諸問題とその背景としての社会変化について学び、その上で自己形成や社会的自立に困難を抱えた若者たちの特質を「承認」というキーワードから考える。さらにそうした若者たちの社会的自立をいかに支援しうるのかについて、本講義の担当者が実践している活動を紹介しながら検討する。				
◆ 到達目標	まず、現代日本社会の特質を「排除型社会」というキーワードを通して理解できるようになる。ついで我々ほどのように自己を形成し、それを他者に承認されるようになるのかを理解する。さらに、若者の社会的自立を阻む要因を理解し、社会的自立を支援する実践活動のあり方を理解できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 包摂型社会から排除型社会へ 3. 自己形成と承認 (1) 一役割の遂行 4. 自己形成と承認 (2) 一役割遂行の困難 5. 自己形成と承認 (3) 一役割の遍在性 6. 自己形成と承認 (4) 一役割遂行の困難への対処 7. 役割遂行の妥当性を認めるのは誰か 8. 認められる自己とは 一再帰的自己 9. 「認められる」とはどのようなことか 一承認論 10. 承認の危機と承認をめぐる闘争 11. 闘争できない承認? 12. 社会的自立とはどのようなことか 13. 承認を回復するための支援とは 一検討と実践 14. 承認のゆくえ 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	講義内でのコメントシートの記入内容および出席状況 (40%)、講義終了後のレポート内容 (60%)				
◇ 教科書・参考書	教科書 村澤和多里・山尾貴則・村澤真保呂著 2012, 『ポストモダリズム時代の若者たち 社会的排除を超えて』, 世界思想社. 参考文献 ジョック・ヤング著 2007, 『排除型社会—後期近代における犯罪・雇用・差異』, 洛北出版. アンソニー・ギデンズ著 2005, 『モダニティと自己アイデンティティ—後期近代における自己と社会』, ハーベスト社. アクセル・ホネット著 2014, 『承認をめぐる闘争: 社会的コンフリクトの道徳的文法』, 法政大学出版局. 山竹伸二著 2011, 『「認められたい」の正体—承認不安の時代』, 講談社. 斎藤環著 2013, 『承認をめぐる病』, 日本評論社.				
◇ 授業時間外学習	教科書および参考書を読み、受講生各自が自分にとっての「自己の問題」や「承認をめぐる困難」について考えてみることをすすめます。				
その他:					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
社 会 学 演 習 Sociology (Seminar)	2	教授 永 井 彰	5	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-SOC302J				
◆ 授業題目	社会科学のなかの社会学 (Sociology in Social Science)				
◆ 目的・概要	通常のばあい、社会学の歴史は、オーギュスト・コントから語られる。そして、他の社会科学から切り離された独自の専門科学として、取り扱われる。しかし、いうまでもなく、社会学は、社会科学が展開するなかで、その一領域として分化した。社会学にも、社会科学の発展史という共通の根がある。この授業では、内田義彦や大塚久雄の著作を手がかりにしながら、社会科学のなかで社会学はどのような位置を占めるのかを考えるとともに、社会科学の思考法について考察を深めることにしたい。				
◆ 到達目標	社会科学の展開史のなかに社会学を位置づけることができるようになる。社会科学に共通する思考法を理解できるとともに、社会学独自の発想法とは何かを理解できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のガイダンス 2. 『社会認識の歩み』 問題と方法／生活現実と社会科学 3. 『社会認識の歩み』 「方法論とメソドロジー」／社会科学の言葉 4. 『社会認識の歩み』 運命へのチャレンジ 5. 『社会認識の歩み』 国家の制作 (1) 6. 『社会認識の歩み』 国家の制作 (2) 7. 『社会認識の歩み』 歴史の発掘 (1) 8. 『社会認識の歩み』 歴史の発掘 (2) 9. 『社会科学の方法』 社会科学の方法 (1) 10. 『社会科学の方法』 社会科学の方法 (2) 11. 『社会科学の方法』 社会科学の方法 (3) 12. 『社会科学の方法』 社会科学の方法 (4) 13. 『社会科学の方法』 経済人口ビンソン・クルーソウ (1) 14. 『社会科学の方法』 経済人口ビンソン・クルーソウ (2) 15. 全体のまとめ 				
◇ 成績評価の方法	(レポート (50%) 授業時の受講票提出 (50%))				
◇ 教科書・参考書	内田義彦『社会認識の歩み』 岩波書店、1971年。 大塚久雄『社会科学の方法—ヴェーバーとマルクス』 岩波書店、1966年。				
◇ 授業時間外学習	授業時間前に、各自テキストを読む。講義での討議や解説をふまえて、各自テキストを読み直す。				
その他:					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
社 会 学 演 習 S o c i o l o g y (S e m i n a r)	2	教授 長谷川 公 一	6	火	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-SOC302J				
◆ 授業題目	作田啓一を読む (The Revisited Works of Late Prof. Keiichi Sakuta)				
◆ 目的・概要	日本を代表する理論社会学者の1人作田啓一 (1922-2016年) の主要な著書・論文の読解をとおして、社会学を学ぶ(よるこび)を再発見したい。『恥の文化再考』『価値の社会学』『生成の社会学をめざして』などの著作を読解する。				
◆ 到達目標	作田啓一は、吉田民人・塩原勉・井上俊・上野千鶴子らによって敬愛された社会学者である。社会学の営みは、時代状況との相互作用の産物でもあることを理解し、価値・文学・自我などの問題への社会的アプローチの有効性と課題を検討する。価値や自我をめぐる、文学へのまなざしをめぐる、作田と見田宗介との論理的接点についても考えたい。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作田啓一・人と作品 2. 奥村隆編『作田啓一vs.見田宗介』(2016年、弘文堂)を読む I 3. 奥村隆編『作田啓一vs.見田宗介』(2016年、弘文堂)を読む II 4. ベネディクト『菊と刀』を読む 5. 『恥の文化再考』(1967年、筑摩書房)を読む I 6. 『恥の文化再考』(1967年、筑摩書房)を読む II 7. 『恥の文化再考』(1967年、筑摩書房)を読む III 8. 『価値の社会学』(1972年、岩波書店)を読む I 9. 『価値の社会学』(1972年、岩波書店)を読む II 10. 『価値の社会学』(1972年、岩波書店)を読む III 11. 作田啓一と見田宗介の<価値の社会学>を比較する 12. 『生成の社会学をめざして』(1993年、有斐閣)を読む I 13. 『生成の社会学をめざして』(1993年、有斐閣)を読む II 14. 作田啓一と見田宗介の<自我の社会学>を比較する 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) リポート [70 %]・(○) 出席 [30%]				
◇ 教科書・参考書	教室にて指示する。				
◇ 授業時間外学習	演習参加者全員があらかじめ課題文献を十二分に読み込んだうえで、質問をもって授業にのぞむ。前回の授業を咀嚼したうえで、前回分についても質問をもって授業にのぞむ。				
その他：オフィスアワー：月5					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
社 会 学 演 習 S o c i o l o g y (S e m i n a r)	2	准教授 小松 丈 晃	6	火	5
◆ 科目ナンバリング	LHM-SOC302J				
◆ 授業題目	不確実性の社会学 (Sociology of uncertainty)				
◆ 目的・概要	不確実性やリスクは、災害・環境・健康・科学技術・犯罪等といった多様な問題領域と関わり合いながら、昨今の社会学でも重要な概念の一つと目されるようになってきているが、この授業ではこうした動向についての、目配りのきいた定評ある英語圏の入門書を読み解きながら(他のテキストも適宜参照する)、不確実やリスクに対してどのようにアプローチすればよいのか、またそのために援用できる枠組みとしてどのようなものがあるのか、について学ぶ。				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・不確実性に対するアプローチの、社会学固有の視角について習得する。 ・議論の掘りを知るとともにこのテーマに対する領域ごとのアプローチの相違について理解できる。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新たなリスクに対する管理とその課題 (1) 2. 新たなリスクに対する管理とその課題 (2) 3. 新たなリスクに対する管理とその課題 (3) 4. 環境と科学技術 (1) 5. 環境と科学技術 (2) 6. 環境と科学技術 (3) 7. 日常生活と余暇の中のリスク (1) 8. 日常生活と余暇の中のリスク (2) 9. 日常生活と余暇の中のリスク (3) 10. リスク化するライフコース (1) 11. リスク化するライフコース (2) 12. リスク化するライフコース (3) 13. 地域における犯罪リスクへの対処と問題点 (1) 14. 地域における犯罪リスクへの対処と問題点 (2) 15. 総括討論 				
◇ 成績評価の方法	出席 50%と毎回の報告内容 50%による。				
◇ 教科書・参考書	Taylor-Gooby, P. & J. Zinn, 2006, Risk in Social Science, Oxford UP. [参考書] J.O. Zinn, 2008, Social Theories of Risk and Uncertainty, Blackwell. B. Hutter & M. Power, ed., 2005, Organizational Encounters with Risk, Cambridge UP.				
◇ 授業時間外学習	受講者は全員、授業時間外に、毎回対象となるテキスト(の一部、英語)を読み、授業時間までに、報告レジュメを作成し論点や疑問点を提示しなくてはなりません。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 学 実 習 S o c i o l o g y (F i e l d W o r k) I	2	教授 下 夷 美 幸	5	金	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-SOC303J																				
◆ 授業題目	社会調査実習 I (Social Research (Field Work) I)																				
◆ 目的・概要	社会調査の基礎力を養うことを目的とする。授業では、社会調査の概要（意義・種類・方法・歴史・課題・技法等）を学ぶとともに、後期の社会学実習）で予定されている調査実施に向けた準備作業を行う。																				
◆ 到達目標	(1)社会調査の方法と論点を理解する。 (2)社会調査のための問題設定、仮説構築を行う。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 社会科学と社会調査</td> <td>9. 問題の設定 (1)</td> </tr> <tr> <td>2. 社会理論と社会調査</td> <td>10. 問題の設定 (2)</td> </tr> <tr> <td>3. 価値観・倫理と社会調査</td> <td>11. 既存の調査の検討 (1)</td> </tr> <tr> <td>4. 社会調査の方法 (1)</td> <td>12. 既存の調査の検討 (2)</td> </tr> <tr> <td>5. 社会調査の方法 (2)</td> <td>13. 仮説の構成 (1)</td> </tr> <tr> <td>6. 社会調査の方法 (3)</td> <td>14. 仮説の構成 (2)</td> </tr> <tr> <td>7. 社会調査の方法 (4)</td> <td>15. 調査対象の選定</td> </tr> <tr> <td>8. 社会調査の方法 (5)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 社会科学と社会調査	9. 問題の設定 (1)	2. 社会理論と社会調査	10. 問題の設定 (2)	3. 価値観・倫理と社会調査	11. 既存の調査の検討 (1)	4. 社会調査の方法 (1)	12. 既存の調査の検討 (2)	5. 社会調査の方法 (2)	13. 仮説の構成 (1)	6. 社会調査の方法 (3)	14. 仮説の構成 (2)	7. 社会調査の方法 (4)	15. 調査対象の選定	8. 社会調査の方法 (5)	
1. 社会科学と社会調査	9. 問題の設定 (1)																				
2. 社会理論と社会調査	10. 問題の設定 (2)																				
3. 価値観・倫理と社会調査	11. 既存の調査の検討 (1)																				
4. 社会調査の方法 (1)	12. 既存の調査の検討 (2)																				
5. 社会調査の方法 (2)	13. 仮説の構成 (1)																				
6. 社会調査の方法 (3)	14. 仮説の構成 (2)																				
7. 社会調査の方法 (4)	15. 調査対象の選定																				
8. 社会調査の方法 (5)																					
◇ 成績評価の方法	課題レポート 50%、授業での報告・発言 50%																				
◇ 教科書・参考書	教科書・参考書は教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	グループ単位で調査の全過程の作業を行うことを踏まえ、グループ内で各段階での課題を検討し、必要な準備を行う。																				
その他：受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。 オフィスアワー：金曜 12時から13時（メールにて要予約）社会調査士資格認定標準科目Gに対応																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 学 実 習 S o c i o l o g y (F i e l d W o r k) I	2	教授 下 夷 美 幸	6	金	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-SOC303J																				
◆ 授業題目	社会調査実習 II (Social Research (Field Work) II)																				
◆ 目的・概要	社会調査の実践力を養うことを目的とする。授業では、社会調査の技法について理解を深めるとともに、前期の社会学実習で行った準備作業を踏まえて調査を実施する。その過程をつうじて調査と分析の技法を習得する。																				
◆ 到達目標	(1)インタビューによる調査の技法を習得する。 (2)設定したテーマに関して社会調査を実施し、その分析を行う力を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 調査の企画</td> <td>9. 調査結果の処理 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. 調査項目の設定 (1)</td> <td>10. 調査結果の分析 (1)</td> </tr> <tr> <td>3. 調査項目の設定 (2)</td> <td>11. 調査結果の分析 (2)</td> </tr> <tr> <td>4. インタビューの技法 (1)</td> <td>12. 調査結果の分析 (3)</td> </tr> <tr> <td>5. インタビューの技法 (2)</td> <td>13. 調査報告書の企画</td> </tr> <tr> <td>6. インタビューの実施 (1)</td> <td>14. 調査報告書の作成</td> </tr> <tr> <td>7. インタビューの実施 (2)</td> <td>15. 調査報告〈口頭発表〉</td> </tr> <tr> <td>8. 調査結果の処理 (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 調査の企画	9. 調査結果の処理 (2)	2. 調査項目の設定 (1)	10. 調査結果の分析 (1)	3. 調査項目の設定 (2)	11. 調査結果の分析 (2)	4. インタビューの技法 (1)	12. 調査結果の分析 (3)	5. インタビューの技法 (2)	13. 調査報告書の企画	6. インタビューの実施 (1)	14. 調査報告書の作成	7. インタビューの実施 (2)	15. 調査報告〈口頭発表〉	8. 調査結果の処理 (1)	
1. 調査の企画	9. 調査結果の処理 (2)																				
2. 調査項目の設定 (1)	10. 調査結果の分析 (1)																				
3. 調査項目の設定 (2)	11. 調査結果の分析 (2)																				
4. インタビューの技法 (1)	12. 調査結果の分析 (3)																				
5. インタビューの技法 (2)	13. 調査報告書の企画																				
6. インタビューの実施 (1)	14. 調査報告書の作成																				
7. インタビューの実施 (2)	15. 調査報告〈口頭発表〉																				
8. 調査結果の処理 (1)																					
◇ 成績評価の方法	課題レポート 50%、授業での報告・発言 50%																				
◇ 教科書・参考書	教科書・参考書は教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	グループ単位で調査の全過程の作業を行うことを踏まえ、グループ内で各段階での課題を検討し、必要な準備を行う。																				
その他：受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。 オフィスアワー：金曜 12時から13時（メールにて要予約）社会調査士資格認定標準科目Gに対応																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
行 動 科 学 概 論 Behavioral Science (General Lecture)	2	教授 佐藤嘉倫	3	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OSO201J																				
◆ 授業題目	マイクロ・マクロ問題入門 (Introduction to Micro-macro Problems)																				
◆ 目的・概要	次に上げるモデルを用いて、個人の行動から社会的結果が生じる過程の分析を進める。 (1)個人的意思決定モデル (2)交換モデル (3)拡散モデル (4)学習モデル																				
◆ 到達目標	個人と社会の相互連関について理解を深め、社会現象を分析する方法を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション (1) (教科書 第1章、第2章)</td> <td>9. 交換モデル (2) (教科書 第5章)</td> </tr> <tr> <td>2. イントロダクション (2) (教科書 第1章、第2章)</td> <td>10. 交換モデル (3) (教科書 第5章)</td> </tr> <tr> <td>3. 推論の評価 (1) (教科書 第3章)</td> <td>11. 適応モデル (1) (教科書 第6章)</td> </tr> <tr> <td>4. 推論の評価 (2) (教科書 第3章)</td> <td>12. 適応モデル (2) (教科書 第6章)</td> </tr> <tr> <td>5. 選択モデル (1) (教科書 第4章)</td> <td>13. 拡散モデル (1) (教科書 第7章)</td> </tr> <tr> <td>6. 選択モデル (2) (教科書 第4章)</td> <td>14. 拡散モデル (2) (教科書 第7章)</td> </tr> <tr> <td>7. 選択モデル (3) (教科書 第4章)</td> <td>15. ここまで講義で取り上げたモデルを再検討し、モデル構築の方法論を考察する。</td> </tr> <tr> <td>8. 交換モデル (1) (教科書 第5章)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション (1) (教科書 第1章、第2章)	9. 交換モデル (2) (教科書 第5章)	2. イントロダクション (2) (教科書 第1章、第2章)	10. 交換モデル (3) (教科書 第5章)	3. 推論の評価 (1) (教科書 第3章)	11. 適応モデル (1) (教科書 第6章)	4. 推論の評価 (2) (教科書 第3章)	12. 適応モデル (2) (教科書 第6章)	5. 選択モデル (1) (教科書 第4章)	13. 拡散モデル (1) (教科書 第7章)	6. 選択モデル (2) (教科書 第4章)	14. 拡散モデル (2) (教科書 第7章)	7. 選択モデル (3) (教科書 第4章)	15. ここまで講義で取り上げたモデルを再検討し、モデル構築の方法論を考察する。	8. 交換モデル (1) (教科書 第5章)	
1. イントロダクション (1) (教科書 第1章、第2章)	9. 交換モデル (2) (教科書 第5章)																				
2. イントロダクション (2) (教科書 第1章、第2章)	10. 交換モデル (3) (教科書 第5章)																				
3. 推論の評価 (1) (教科書 第3章)	11. 適応モデル (1) (教科書 第6章)																				
4. 推論の評価 (2) (教科書 第3章)	12. 適応モデル (2) (教科書 第6章)																				
5. 選択モデル (1) (教科書 第4章)	13. 拡散モデル (1) (教科書 第7章)																				
6. 選択モデル (2) (教科書 第4章)	14. 拡散モデル (2) (教科書 第7章)																				
7. 選択モデル (3) (教科書 第4章)	15. ここまで講義で取り上げたモデルを再検討し、モデル構築の方法論を考察する。																				
8. 交換モデル (1) (教科書 第5章)																					
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験 [60%]・() レポート [%]・(○) 出席 [40%]																				
◇ 教科書・参考書	レイブ・マーチ『社会科学のためのモデル入門』ハーベスト社																				
◇ 授業時間外学習	教科書の該当箇所を講義の前に読んでおくこと。																				
その他：オフィスアワー：水曜 第5講時 (事前予約をすること)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
行 動 科 学 概 論 Behavioral Science (General Lecture)	2	教授 佐藤嘉倫	4	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OSO201J																				
◆ 授業題目	ゲーム理論入門 (Introduction to Game Theory)																				
◆ 目的・概要	ゲーム理論の基礎的な論理を理解することをめざす。講義でカバーする内容は次のようなものである。 ・ゲーム理論による説明形式 ・戦略型ゲームとナッシュ均衡 ・展開型ゲームと部分ゲーム完全ナッシュ均衡 ・繰り返しゲームとフォーク定理 ・不完備情報ゲームと完全ベイジアン均衡 ・進化ゲーム理論																				
◆ 到達目標	(1)ゲーム理論の基本的論理を理解できるようになる。 (2)ゲーム理論を用いた学術論文の内容を理解できるようになる。 (3)自分で簡単なゲーム理論的モデルを構築できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション (1) (教科書 1、2、3)</td> <td>9. 不完備情報ゲーム (教科書 16、17)</td> </tr> <tr> <td>2. イントロダクション (2) (教科書 1、2、3)</td> <td>10. 不完備情報ゲームの応用 (1) (教科書 20)</td> </tr> <tr> <td>3. 離散型戦略・連続型戦略・囚人のジレンマ (1) (教科書 4、5、6)</td> <td>11. 不完備情報ゲームの応用 (2) (教科書 20)</td> </tr> <tr> <td>4. 離散型戦略・連続型戦略・囚人のジレンマ (2) (教科書 4、5、6)</td> <td>12. 進化ゲーム理論—進化的安定戦略とリプリケーター・ダイナミクス (1) (教科書 22、23、24)</td> </tr> <tr> <td>5. 展開形ゲーム (教科書 9、10、11)</td> <td>13. 進化ゲーム理論—進化的安定戦略とリプリケーター・ダイナミクス (2) (教科書 22、23、24)</td> </tr> <tr> <td>6. 展開形ゲームの応用 (教科書 12、13)</td> <td>14. 確率進化ゲーム理論 (教科書 25)</td> </tr> <tr> <td>7. 繰り返しゲーム (1) (教科書 14、15)</td> <td>15. ここまで講義で取り上げたトピックを再検討し、モデルを構築する方法論を考察する。</td> </tr> <tr> <td>8. 繰り返しゲーム (2) (教科書 14、15)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション (1) (教科書 1、2、3)	9. 不完備情報ゲーム (教科書 16、17)	2. イントロダクション (2) (教科書 1、2、3)	10. 不完備情報ゲームの応用 (1) (教科書 20)	3. 離散型戦略・連続型戦略・囚人のジレンマ (1) (教科書 4、5、6)	11. 不完備情報ゲームの応用 (2) (教科書 20)	4. 離散型戦略・連続型戦略・囚人のジレンマ (2) (教科書 4、5、6)	12. 進化ゲーム理論—進化的安定戦略とリプリケーター・ダイナミクス (1) (教科書 22、23、24)	5. 展開形ゲーム (教科書 9、10、11)	13. 進化ゲーム理論—進化的安定戦略とリプリケーター・ダイナミクス (2) (教科書 22、23、24)	6. 展開形ゲームの応用 (教科書 12、13)	14. 確率進化ゲーム理論 (教科書 25)	7. 繰り返しゲーム (1) (教科書 14、15)	15. ここまで講義で取り上げたトピックを再検討し、モデルを構築する方法論を考察する。	8. 繰り返しゲーム (2) (教科書 14、15)	
1. イントロダクション (1) (教科書 1、2、3)	9. 不完備情報ゲーム (教科書 16、17)																				
2. イントロダクション (2) (教科書 1、2、3)	10. 不完備情報ゲームの応用 (1) (教科書 20)																				
3. 離散型戦略・連続型戦略・囚人のジレンマ (1) (教科書 4、5、6)	11. 不完備情報ゲームの応用 (2) (教科書 20)																				
4. 離散型戦略・連続型戦略・囚人のジレンマ (2) (教科書 4、5、6)	12. 進化ゲーム理論—進化的安定戦略とリプリケーター・ダイナミクス (1) (教科書 22、23、24)																				
5. 展開形ゲーム (教科書 9、10、11)	13. 進化ゲーム理論—進化的安定戦略とリプリケーター・ダイナミクス (2) (教科書 22、23、24)																				
6. 展開形ゲームの応用 (教科書 12、13)	14. 確率進化ゲーム理論 (教科書 25)																				
7. 繰り返しゲーム (1) (教科書 14、15)	15. ここまで講義で取り上げたトピックを再検討し、モデルを構築する方法論を考察する。																				
8. 繰り返しゲーム (2) (教科書 14、15)																					
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験 [60%]・() レポート [%]・(○) 出席 [40%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書：佐藤嘉倫『ワードマップ ゲーム理論—人間と社会の複雑な関係を解く』新曜社、2008年																				
◇ 授業時間外学習	教科書の該当箇所を講義の前に読んでおくこと。																				
その他：オフィスアワー：水曜 第5講時 (事前に予約すること) グローバル安全学トップリーダー育成プログラムの基幹科目「リスクと社会」を兼ねる。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
行 動 科 学 概 論 Behavioral Science (General Lecture)	2	教授 木 村 邦 博	3	月	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OSO201J																				
◆ 授業題目	社会調査の基礎 (Introduction to Social Surveys)																				
◆ 目的・概要	現代社会を特徴づける人間活動の1つである社会調査について、その目的と進め方 (調査内容の決定、調査対象の決定、調査の実施方法、調査結果の分析方法とまとめ方) を知るとともに、その歴史と成果について学習する。個人が身の回りから様々な情報を得る場合と社会調査との違いに着目しながら、細かい技法よりも、基本的な考え方を修得することを目指す。																				
◆ 到達目標	社会調査に関する基本的な知識を修得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 現代社会と社会調査：社会調査の目的と意義</td> <td>9. 結果の集計と分析 (1)</td> </tr> <tr> <td>2. 社会調査の用途と歴史：社会調査の歴史</td> <td>10. 結果の集計と分析 (2)</td> </tr> <tr> <td>3. 調査内容の決定 (1)</td> <td>11. 聴取調査の方法：質的調査、社会調査の実例 (1)</td> </tr> <tr> <td>4. 調査内容の決定 (2)</td> <td>12. 調査報告をまとめる</td> </tr> <tr> <td>5. 調査対象の決定 (1)</td> <td>13. さまざまな社会調査 (1)：社会調査の実例 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 調査対象の決定 (2)</td> <td>14. さまざまな社会調査 (2)：社会調査の実例 (3)</td> </tr> <tr> <td>7. 調査の実施と処理 (1)</td> <td>15. 調査者と被調査者：社会調査の倫理</td> </tr> <tr> <td>8. 調査の実施と処理 (2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 現代社会と社会調査：社会調査の目的と意義	9. 結果の集計と分析 (1)	2. 社会調査の用途と歴史：社会調査の歴史	10. 結果の集計と分析 (2)	3. 調査内容の決定 (1)	11. 聴取調査の方法：質的調査、社会調査の実例 (1)	4. 調査内容の決定 (2)	12. 調査報告をまとめる	5. 調査対象の決定 (1)	13. さまざまな社会調査 (1)：社会調査の実例 (2)	6. 調査対象の決定 (2)	14. さまざまな社会調査 (2)：社会調査の実例 (3)	7. 調査の実施と処理 (1)	15. 調査者と被調査者：社会調査の倫理	8. 調査の実施と処理 (2)	
1. 現代社会と社会調査：社会調査の目的と意義	9. 結果の集計と分析 (1)																				
2. 社会調査の用途と歴史：社会調査の歴史	10. 結果の集計と分析 (2)																				
3. 調査内容の決定 (1)	11. 聴取調査の方法：質的調査、社会調査の実例 (1)																				
4. 調査内容の決定 (2)	12. 調査報告をまとめる																				
5. 調査対象の決定 (1)	13. さまざまな社会調査 (1)：社会調査の実例 (2)																				
6. 調査対象の決定 (2)	14. さまざまな社会調査 (2)：社会調査の実例 (3)																				
7. 調査の実施と処理 (1)	15. 調査者と被調査者：社会調査の倫理																				
8. 調査の実施と処理 (2)																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験による。																				
◇ 教科書・参考書	教科書：原純輔・浅川達人『社会調査』(改訂版)放送大学教育振興会、2009。																				
◇ 授業時間外学習	教科書と補足資料 (ISTUで配付) で予習・復習をする。																				
その他：(1)行動科学概論 (社会調査の実例) とあわせて受講することが望ましい。 (2)社会調査士資格認定標準科目 A に対応。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
行 動 科 学 概 論 Behavioral Science (General Lecture)	2	教授 木 村 邦 博	4	月	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OSO201J																				
◆ 授業題目	社会調査の実際 (Social Survey Methodology)																				
◆ 目的・概要	社会調査を遂行しておく上で理解しておくべき、調査目的に合った調査企画・設計の方法と、データ蒐集やデータ分析の主要な技法について理解する。基本的な考え方と同時に、現実に遭遇する具体的な問題にどう実際的に対処していくかについても把握する。																				
◆ 到達目標	社会調査を遂行するために基本的な技法に関する知識を得る。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 調査票の設計とワーディング 1 (説明・仮説・作業仮説、様々な調査実施方法)</td> <td>9. 測定と尺度構成 2 (多次元尺度の考え方)</td> </tr> <tr> <td>2. 調査票の設計とワーディング 2 (調査票の構成、ワーディングと回答の歪み)</td> <td>10. 測定と尺度構成 3 (社会的地位の測定法)</td> </tr> <tr> <td>3. 標本抽出と統計的推測 1 (標本抽出法)</td> <td>11. 多変量解析の基礎 1 (重回帰分析の考え方)</td> </tr> <tr> <td>4. 標本抽出と統計的推測 2 (統計的推測)</td> <td>12. 多変量解析の基礎 2 (質的変数と重回帰分析)</td> </tr> <tr> <td>5. 標本抽出と統計的推測 3 (統計的検定)</td> <td>13. 多変量解析の基礎 3 (パス解析と因子分析)</td> </tr> <tr> <td>6. 因果推論の方法 1 (因果関係と相関関係)</td> <td>14. データの整理と作成 1 (調査票の配布・回収からエディティング、コウディング、データ入力とクリーニングまで)</td> </tr> <tr> <td>7. 因果推論の方法 2 (因果的規定力の推定)</td> <td>15. データの整理と作成 2 (非定形データの処理・分析法)</td> </tr> <tr> <td>8. 測定と尺度構成 1 (測定と尺度構成の考え方)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 調査票の設計とワーディング 1 (説明・仮説・作業仮説、様々な調査実施方法)	9. 測定と尺度構成 2 (多次元尺度の考え方)	2. 調査票の設計とワーディング 2 (調査票の構成、ワーディングと回答の歪み)	10. 測定と尺度構成 3 (社会的地位の測定法)	3. 標本抽出と統計的推測 1 (標本抽出法)	11. 多変量解析の基礎 1 (重回帰分析の考え方)	4. 標本抽出と統計的推測 2 (統計的推測)	12. 多変量解析の基礎 2 (質的変数と重回帰分析)	5. 標本抽出と統計的推測 3 (統計的検定)	13. 多変量解析の基礎 3 (パス解析と因子分析)	6. 因果推論の方法 1 (因果関係と相関関係)	14. データの整理と作成 1 (調査票の配布・回収からエディティング、コウディング、データ入力とクリーニングまで)	7. 因果推論の方法 2 (因果的規定力の推定)	15. データの整理と作成 2 (非定形データの処理・分析法)	8. 測定と尺度構成 1 (測定と尺度構成の考え方)	
1. 調査票の設計とワーディング 1 (説明・仮説・作業仮説、様々な調査実施方法)	9. 測定と尺度構成 2 (多次元尺度の考え方)																				
2. 調査票の設計とワーディング 2 (調査票の構成、ワーディングと回答の歪み)	10. 測定と尺度構成 3 (社会的地位の測定法)																				
3. 標本抽出と統計的推測 1 (標本抽出法)	11. 多変量解析の基礎 1 (重回帰分析の考え方)																				
4. 標本抽出と統計的推測 2 (統計的推測)	12. 多変量解析の基礎 2 (質的変数と重回帰分析)																				
5. 標本抽出と統計的推測 3 (統計的検定)	13. 多変量解析の基礎 3 (パス解析と因子分析)																				
6. 因果推論の方法 1 (因果関係と相関関係)	14. データの整理と作成 1 (調査票の配布・回収からエディティング、コウディング、データ入力とクリーニングまで)																				
7. 因果推論の方法 2 (因果的規定力の推定)	15. データの整理と作成 2 (非定形データの処理・分析法)																				
8. 測定と尺度構成 1 (測定と尺度構成の考え方)																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験による。																				
◇ 教科書・参考書	参考書：原 純輔・海野道郎『社会調査演習 [第2版]』東京大学出版会、2004																				
◇ 授業時間外学習	教科書と補足資料 (ISTUで配付) で予習・復習をする。																				
その他：(1)行動科学概論 (社会調査の基礎) とあわせて受講することが望ましい。 (2)社会調査士資格認定標準科目 B に対応。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 基 礎 演 習 Behavioral Science (Introductory Seminar)	2	教 授 浜 田 宏	3	金	4
<p>◆ 科目ナンバリング LHM-OSO202J</p> <p>◆ 授業題目 行動科学の基礎 (Basics of Behavioral Science)</p> <p>◆ 目的・概要 行動科学の基本的な考え方を修得するために、経済学・心理学・社会学の代表的理論を紹介する。</p> <p>◆ 到達目標 (1)行動経済学の代表的理論を理解する。 (2)基礎的なプログラミングのリテラシーを修得する。</p> <p>◆ 授業内容・方法 1. 1～9回 教科書『ファスト&スロー』 輪読10～15回 教科書『RStudioではじめるRプログラミング』に準拠した実習</p> <p>◇ 成績評価の方法 出席 [30%] 授業時間内での報告 [30%] コメントペーパー [30%] 期末課題 [10%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 ダニエル・カーネマン『ファスト&スロー』早川書房 Garrett Grolmund『RStudioではじめるRプログラミング』オライリー・ジャパン</p> <p>◇ 授業時間外学習 輪読く回では授業で扱うテキストの範囲を事前により、コメントペーパーを準備する。</p> <p>その他：</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
行 動 科 学 基 礎 演 習 Behavioral Science (Introductory Seminar)	2	教 授 浜 田 宏	4	金	4		
<p>◆ 科目ナンバリング LHM-OSO202J</p> <p>◆ 授業題目 行動科学の基礎：数理・計量社会学 (Basics of Behavioral Science)</p> <p>◆ 目的・概要 行動科学の基本的な考え方を修得するために代表的なモデルを紹介する。</p> <p>◆ 到達目標 (1)初歩的な計量分析と数理モデル分析手法を理解する。 (2)自分で問題を考える能力を身につける。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>1. イントロダクション</p> <p>2. 権力のパラドクス 1</p> <p>3. 権力のパラドクス 2</p> <p>4. 社会的ジレンマ</p> <p>5. 相対的剥奪</p> <p>6. 互酬性のメカニズム 1</p> <p>7. 互酬性のメカニズム 2</p> <p>8. 教育機会の不平等 1</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>9. 教育機会の不平等 2</p> <p>10. 差別の構造</p> <p>11. 社会的選択理論 1</p> <p>12. 社会的選択理論 2</p> <p>13. 平等主義とパレート効率性 1</p> <p>14. 平等主義とパレート効率性 2</p> <p>15. 総括</p> </td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 出席 [50%] その他 (授業時間内での報告や質問) [40%] 期末課題 [10%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 盛山和夫 (編)、2015、『社会を数理で読み解く』有斐閣。</p> <p>◇ 授業時間外学習 毎週、授業で扱うテキストの範囲を事前により、コメントペーパーを準備する。</p> <p>その他：</p>						<p>1. イントロダクション</p> <p>2. 権力のパラドクス 1</p> <p>3. 権力のパラドクス 2</p> <p>4. 社会的ジレンマ</p> <p>5. 相対的剥奪</p> <p>6. 互酬性のメカニズム 1</p> <p>7. 互酬性のメカニズム 2</p> <p>8. 教育機会の不平等 1</p>	<p>9. 教育機会の不平等 2</p> <p>10. 差別の構造</p> <p>11. 社会的選択理論 1</p> <p>12. 社会的選択理論 2</p> <p>13. 平等主義とパレート効率性 1</p> <p>14. 平等主義とパレート効率性 2</p> <p>15. 総括</p>
<p>1. イントロダクション</p> <p>2. 権力のパラドクス 1</p> <p>3. 権力のパラドクス 2</p> <p>4. 社会的ジレンマ</p> <p>5. 相対的剥奪</p> <p>6. 互酬性のメカニズム 1</p> <p>7. 互酬性のメカニズム 2</p> <p>8. 教育機会の不平等 1</p>	<p>9. 教育機会の不平等 2</p> <p>10. 差別の構造</p> <p>11. 社会的選択理論 1</p> <p>12. 社会的選択理論 2</p> <p>13. 平等主義とパレート効率性 1</p> <p>14. 平等主義とパレート効率性 2</p> <p>15. 総括</p>						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 基 礎 実 習 Behavioral Science (Introductory Laboratory Work)	2	准教授 永 吉 希久子	4	水	4・5
◆ 科目ナンバリング	LHM-OSO203J				
◆ 授業題目	行動科学基礎実習（多変量解析）				
◆ 目的・概要	統計ソフトウェアRを用いた演習を通じて、多変量解析の諸技法の理論とデータの分析の実際についての理解を深める。				
◆ 到達目標	1) 記述統計量から多変量解析までの統計分析についての知識を身に付け、適切に使用できるようになる。 2) 統計ソフトウェアRを用いて、多変量解析を行うことができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. 社会調査と分析の流れ 2. Rの基礎と記述統計：度数分布表 3. Rの基礎と記述統計：平均、分散、グラフの利用 4. 推測統計：平均の差の検定、分散分析 5. 推測統計：相関と偏相関 6. 推測統計：クロス集計表とエラボレーション 7. 多変量解析：回帰分析 8. 多変量解析：ダミー変数の利用と交互作用効果 9. 多変量解析：二項ロジスティック回帰 10. 多変量解析：順序ロジスティック回帰・多項ロジスティック回帰 11. 多変量解析：主成分分析と因子分析 12. 多変量解析：媒介分析 13. 多変量解析：マルチレベル分析 14. 多変量解析：分析モデルの構築と手法の選定 15. 多変量解析：総合演習				
◇ 成績評価の方法	毎回の課題（40%）、最終レポート（60%）				
◇ 教科書・参考書	永吉希久子、2016。『行動科学の統計学』共立出版。				
◇ 授業時間外学習	ほぼ毎回課題を出すので、翌週までに課題を準備しておくことが求められる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 基 礎 実 習 Behavioral Science (Introductory Laboratory Work)	2	准教授 永 吉 希久子	5	水	4・5
◆ 科目ナンバリング	LHM-OSO203J				
◆ 授業題目	行動科学基礎実習（社会調査演習）				
◆ 目的・概要	社会調査を行う上で必要となるさまざまな技法を習得することを目的とし、授業を通して社会調査の企画から実査、分析、報告書の作成までの一連の過程を経験する。この授業では特に量的調査を中心に扱う。具体的には、東北大学生を対象にした質問紙調査を行う。調査のテーマ設定、調査票の作成や留置き調査の実施、データの入力、分析、報告を行う。「東北大学生の生活と意識」を共通のテーマとして設けたうえで、受講生の関心に応じてグループに分け、質問項目を考えてもらう予定である。				
◆ 到達目標	①社会調査を行うための技法を身に付け、実際の調査を適切な方法で実施できるようになる。 ②仮説の設定およびその検証方法を理解し、分析結果を仮説と関連させながら適切に表現できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. 社会調査とは、社会調査の進め方 2. 社会調査のデザイン・調査テーマの決定 3. 先行研究・既存調査の整理 4. 仮説の設定、実査方法、調査対象者の検討 5. 質問項目の検討 6. 調査票の作成 7. 実査 8. エディティング・コーディング 9. 調査結果の入力 10. データのクリーニング 11. データ分析による仮説の検証 (1) 12. データ分析による仮説の検証 (2) 13. 結果の報告・報告書原稿の執筆 14. 報告書原稿の輪読・修正 15. 報告書の作成				
◇ 成績評価の方法	授業への積極的な参加（60%）、最終報告書（40%）				
◇ 教科書・参考書	轟亮・杉野勇『入門・社会調査法』法律文化社、2010。				
◇ 授業時間外学習	調査票作成段階：関連する先行研究を読み、仮説を検討する。 実査段階：対象者へのアポイントや実査への参加。 分析段階：報告書原稿の作成。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 各 論 Behavioral Science (Special Lecture)	2	教授 佐藤嘉倫	5	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHM-OSO301J				
◆ 授業題目	リスクと防災の社会学 (Sociology of Risk and Disaster Prevention)				
◆ 目的・概要	教科書に収められている論文や関連論文を踏まえて次のようなテーマなどを扱う予定である。 ・社会関係資本と防災 ・消防団のあり方 ・防災とコミュニティ ・災害ボランティア				
◆ 到達目標	自然災害のリスクを低減するためには、自然科学や工学だけでなく人間社会を対象とした社会科学の視点も必要となる。本講義では、社会科学とりわけ社会学の理論や方法論を用いて自然災害のリスクを低減し防災を実現する方策を検討する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション本講義の概略を解説する。 2. 教科書 (1) 第2章を題材に防災をめぐるローカル・ノレッジのあり方を検討する。 3. 教科書 (1) 第3章を題材に防災コミュニティと町内会の検討をする。 4. 教科書 (1) 第4章を題材に都市部町内会における東日本大震災への対応に対する理解を深める。 5. 教科書 (1) 第5章を題材に災害ボランティアと支えあいのしくみづくりを分析する。 6. 教科書 (1) 第6章を題材に被災者の生活再建の社会過程に関する理解を深める。 7. 教科書 (1) 第7章を題材に災害弱者の支援と自立の問題を検討する。 8. 教科書 (1) 第9章を題材に防災ガバナンスの可能性と課題を議論する。 9. ここまで講義で取り上げてきたテーマを全体的に考察し、防災のための地域社会づくりについて議論する。 10. 教科書 (2) 第1章を題材に社会関係資本概念の初歩的な理解をする。 11. 教科書 (2) 第2章を題材に社会科学における社会関係資本概念の検討をする。 12. 前回に続いて、教科書(2)第2章を題材に社会科学における社会関係資本概念をさらに深く検討する。 13. 教科書 (2) 第3章を題材に関東大震災における社会関係資本と復興との関係を検討する。 14. 教科書 (2) 第4章を題材に阪神淡路大震災における社会関係資本と復興との関係を検討する。 15. 今まで講義で取り上げてきたテーマを振り返って、防災のための社会関係資本構築に向けた方策を検討する。 				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [60%] ・ (○) 出席 [40%]				
◇ 教科書・参考書	(1)吉原直樹 (編)、2012、『防災の社会学——防災コミュニティの社会設計に向けて』(第2版)、東信堂。 (2)ダニエル・アルドリッチ、2015、『災害復興におけるソーシャル・キャピタルの役割とは何か：地域再建とレジリエンスの構築』、ミネルヴァ書房。 その他の関連論文については適宜講義中に紹介する。				
◇ 授業時間外学習	教科書の該当箇所や関連文献を授業前に読んでおくこと。				
その他：オフィスアワー：水曜日 第5講時 (事前に予約すること)					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 各 論 Behavioral Science (Special Lecture)	2	教授 佐藤嘉倫	6	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHM-OSO301J				
◆ 授業題目	格差・不平等・リスクの社会学 (Sociology of Disparity, Inequality, and Risk)				
◆ 目的・概要	教科書に収録されている論文の中から講義テーマに合うものを取り上げて、参加者同士の議論によって理解を深めていく。				
◆ 到達目標	現代社会の格差と不平等の問題を社会階層論の視点から理解することを目指す。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. ひとり親家庭と教育達成 (教科書 16章) 3. 教育達成過程の階層差 (教科書 17章) 4. 学校から職業への移行 (1) (教科書 5章) 5. 学校から職業への移行 (2) (教科書 5章) 6. 若年労働市場 (1) (教科書 4章、6章) 7. 若年労働市場 (2) (教科書 4章、6章) 8. 転職 (1) (教科書 1章、2章、3章) 9. 転職 (2) (教科書 1章、2章、3章) 10. 女性の就労 (1) (教科書 8章、11章) 11. 女性の就労 (2) (教科書 8章、11章) 12. ライフイベント (教科書 9章、10章) 13. 高齢者の格差 (教科書 13章) 14. ライフスタイル (教科書 14章、15章) 15. 今までの講義で取り上げたテーマを振り返り、現代日本における格差、不平等、リスクの問題を総合的に検討する。 				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [60%] ・ (○) 出席 [40%]				
◇ 教科書・参考書	教科書：佐藤嘉倫・尾嶋史章 (編)『格差と多様性』(現代の階層社会 第1巻)、東京大学出版会。 参考書：石田浩・近藤博之・中尾啓子 (編)『趨勢と比較』(現代の階層社会 第2巻)、東京大学出版会。 斎藤友里子・三隅一人 (編)『流動化の中の社会意識』(現代の階層社会 第3巻)、東京大学出版会。				
◇ 授業時間外学習	教科書の該当箇所を講義の前に読んでおくこと。				
その他：オフィスアワー：水曜日 第5講時 (事前に予約すること)					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
行 動 科 学 各 論 Behavioral Science (Special Lecture)	2	非常勤 講師 アンジー アレハンドロ	5	木	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OSO301E																				
◆ 授業題目	A Sociological Primer on the United States (A Sociological Primer on the United States)																				
◆ 目的・概要	This course offers an analysis of contemporary U.S. society and culture through a sociological lens. The course will use a variety of sociological theories as a way of understanding complex social, political, and economic phenomena. Throughout the semester, we will concentrate on topics such as culture, "race," gender, economic inequality, religion, social deviance, and political sociology within the context of U.S. society.																				
◆ 到達目標	Sociologist Peter L. Berger saw sociology as a debunking perspective – that is, looking at things differently from the ways in which people typically see the world. This is one of the major objectives for this class, where combining and developing critical thinking skills are applied to the understanding of major themes in American society. The class will also seek that students reflect upon their country's social issues, society and culture using a comparative approach. Student participation is an important component of the class, and students are expected to demonstrate mastery of the core issues through class discussions, essays and group presentations.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Introduction to the Class: Class expectations, syllabus discussion, and personal introductions</td> <td>8. Sex and Gender (Part II)</td> </tr> <tr> <td>2. Introduction: The US in Numbers</td> <td>9. The Changing Family</td> </tr> <tr> <td>3. Class Structure and Social Inequality in the US (part I)</td> <td>10. Religion in America (Part I)</td> </tr> <tr> <td>4. Class Structure and Social Inequality in the US (Part II)</td> <td>11. Religion in America (Part II)</td> </tr> <tr> <td>5. Race and Ethnicity in The US (Part I)</td> <td>12. The US Criminal System and Incarceration (Part I)</td> </tr> <tr> <td>6. Race and Ethnicity in The US (Part II)</td> <td>13. The US Criminal System and Incarceration (Part II)</td> </tr> <tr> <td>7. Sex and Gender as Social Constructions</td> <td>14. Class Presentations</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. Class Presentations</td> </tr> </table>					1. Introduction to the Class: Class expectations, syllabus discussion, and personal introductions	8. Sex and Gender (Part II)	2. Introduction: The US in Numbers	9. The Changing Family	3. Class Structure and Social Inequality in the US (part I)	10. Religion in America (Part I)	4. Class Structure and Social Inequality in the US (Part II)	11. Religion in America (Part II)	5. Race and Ethnicity in The US (Part I)	12. The US Criminal System and Incarceration (Part I)	6. Race and Ethnicity in The US (Part II)	13. The US Criminal System and Incarceration (Part II)	7. Sex and Gender as Social Constructions	14. Class Presentations		15. Class Presentations
1. Introduction to the Class: Class expectations, syllabus discussion, and personal introductions	8. Sex and Gender (Part II)																				
2. Introduction: The US in Numbers	9. The Changing Family																				
3. Class Structure and Social Inequality in the US (part I)	10. Religion in America (Part I)																				
4. Class Structure and Social Inequality in the US (Part II)	11. Religion in America (Part II)																				
5. Race and Ethnicity in The US (Part I)	12. The US Criminal System and Incarceration (Part I)																				
6. Race and Ethnicity in The US (Part II)	13. The US Criminal System and Incarceration (Part II)																				
7. Sex and Gender as Social Constructions	14. Class Presentations																				
	15. Class Presentations																				
◇ 成績評価の方法	Presentation (40%) Papers (50%) Attendance (10%)																				
◇ 教科書・参考書	Readings will be provided in PDF format by the professor																				
◇ 授業時間外学習	Weekly class readings must be completed before each class There will be five one-page essays due throughout the semester (due dates to be announced) A 10-minute group presentation should focus on a topic of choice related to the course material																				
その他： All lectures, presentations, readings, discussions and essays are to be done in English																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
行 動 科 学 各 論 Behavioral Science (Special Lecture)	2	准教授 永吉 希久子	6	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OSO301J																				
◆ 授業題目	多文化共生論 (Multicultural Society and Its Problems)																				
◆ 目的・概要	国境を越えた人の移動は、そうした人々を受け入れた社会に影響を与える。その一方で、社会のあり方によって、国境を越えて移動してきた人の生活状況は異なる。この講義では、多文化社会における問題を把握し、解決策を考えるために、日本における移民の生活状況（仕事や学校、地域生活、家庭生活など）と、それに対する社会制度の影響について理解することを目的としている。授業は講義形式で行うが、映像資料の利用や、受講者間でのディスカッションを通して、授業内容を自分にひきつけつつ考える時間を設ける。各回の具体的な内容は、「授業予定」に記載の通り。																				
◆ 到達目標	1) 日本における移民の生活状況について、データにもとづいて具体的に述べられるようになる。 2) 移民の生活状況に対する社会制度の影響について説明できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 移民の子どもの教育 ①</td> </tr> <tr> <td>2. 人はなぜ移動するのか</td> <td>10. 移民の子どもの教育 ②</td> </tr> <tr> <td>3. 移民受け入れ制度の変遷</td> <td>11. 移民にとっての医療／福祉問題</td> </tr> <tr> <td>4. 労働者としての移民と労働市場 ①</td> <td>12. 移民の統合をめぐる理論と政策</td> </tr> <tr> <td>5. 労働者としての移民と労働市場 ②</td> <td>13. 反移民感情の高まりと政策への影響</td> </tr> <tr> <td>6. ライフスタイル移民</td> <td>14. 移民と地域社会</td> </tr> <tr> <td>7. 移民の女性化 ①</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 移民の女性化 ②</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 移民の子どもの教育 ①	2. 人はなぜ移動するのか	10. 移民の子どもの教育 ②	3. 移民受け入れ制度の変遷	11. 移民にとっての医療／福祉問題	4. 労働者としての移民と労働市場 ①	12. 移民の統合をめぐる理論と政策	5. 労働者としての移民と労働市場 ②	13. 反移民感情の高まりと政策への影響	6. ライフスタイル移民	14. 移民と地域社会	7. 移民の女性化 ①	15. まとめ	8. 移民の女性化 ②	
1. イントロダクション	9. 移民の子どもの教育 ①																				
2. 人はなぜ移動するのか	10. 移民の子どもの教育 ②																				
3. 移民受け入れ制度の変遷	11. 移民にとっての医療／福祉問題																				
4. 労働者としての移民と労働市場 ①	12. 移民の統合をめぐる理論と政策																				
5. 労働者としての移民と労働市場 ②	13. 反移民感情の高まりと政策への影響																				
6. ライフスタイル移民	14. 移民と地域社会																				
7. 移民の女性化 ①	15. まとめ																				
8. 移民の女性化 ②																					
◇ 成績評価の方法	毎回の授業でのコメントシート (30%)、最終レポート (70%)																				
◇ 教科書・参考書	特に指定しない。参考書については授業内で適宜指示する。																				
◇ 授業時間外学習	国内外における移民に関するニュースに触れ、知識を増やしておく。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 各 論 Behavioral Science (Special Lecture)	2	非常勤 講師 筒 井 淳 也	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-OSO301J				
◆ 授業題目	計量家族社会学 (Quantitative Research on Family Sociology)				
◆ 目的・概要	資本主義経済先進国が経済成長を経験するなかで、かつての家父長制的家族は近代家族に変貌しました。しかし、経済成長の鈍化や脱工業化という社会変動の中で、家族のかたちは再び変化しつつあります。本講義では、社会変動の中の家族に対して主に計量的アプローチを通じて理解しようとする計量家族社会学の考え方を紹介し、現代家族の現状とこれからについて、より深く洞察を及ぼすことを目的としています。同時に、家族生活を取り巻く仕事や公的部門のあり方も視野に入れ、社会の姿をトータルに捉える視点についても掘り下げたいと思います。				
◆ 到達目標	家族について計量的に記述・分析しようとする際に知っておくべき理論や実証方法についての基本的知識が身につきます。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族の計量研究の特性と位置づけ 2. 計量研究とは何か：記述と分析の関係について 3. 人口問題 (1)：人口転換、出生・死亡統計 4. 人口問題 (2)：世帯と家族の関係 5. 家族の変化と社会構造 (1)：家父長制、性別分業、共働き 6. 家族の変化と社会構造 (2)：配偶者選択理論、同類婚研究 7. 家族の変化と社会構造 (3)：結婚タイミングの理論 8. 家族の変化と社会構造 (4)：家族規範 9. 家族とネットワーク (1)：ボット仮説とそのインプリケーション 10. 家族とネットワーク (2)：同棲、シェアなどの多様な絆。 11. 無償労働 (1)：家事分担研究。 12. 無償労働 (2)：家事労働者の研究。 13. ケア労働：ケアの倫理とジェンダー家族 14. 生活保障と家族：日本型福祉社会 15. 家族のこれから 				
◇ 成績評価の方法	期末レポートにて行います。課題は、授業で取り扱ったトピックのひとつを取り上げ、それについて計量研究上の課題を明らかにする、というものです。 詳細は授業中にお知らせします。				
◇ 教科書・参考書	筒井淳也、2016、『家族と結婚のこれから』光文社新書				
◇ 授業時間外学習	授業で紹介した論文を実際に読んで、理解を深めることが重要です。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 演 習 Behavioral Science (Seminar)	2	教授 佐 藤 嘉 倫	5	水	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-OSO302J				
◆ 授業題目	社会秩序の自己組織化とエージェント・ベースト・モデル (Self-organization of Social Order and Agent-based Models)				
◆ 目的・概要	社会秩序の自己組織化とエージェント・ベースト・モデル人々が自発的に秩序（協力行動など）を生み出している社会現象がある。本演習では、教科書を輪読して、これらの現象を分析する方法を理解する。				
◆ 到達目標	進化ゲーム理論やエージェント・ベースト・モデルが社会学にいかなる貢献をするのか理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション (1) 2. イントロダクション (2) 3. 社会秩序概念の検討 (1) 4. 社会秩序概念の検討 (2) 5. 自己組織性の理論的検討 (1) 6. 自己組織性の理論的検討 (2) 7. 自己組織性の経験的分析 (1) 8. 自己組織性の経験的分析 (2) 9. 進化ゲーム理論 (1) 10. 進化ゲーム理論 (2) 11. 計算社会学入門 (1) 12. 計算社会学入門 (2) 13. エージェント・ベースト・モデル (1) 14. エージェント・ベースト・モデル (2) 15. ここまで演習で取り上げたトピックを再検討し、エージェント・ベースト・モデルによる社会秩序の自己組織メカニズムの分析について探究する。 				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) リポート [50%]・(○) 出席 [50%]				
◇ 教科書・参考書	開講時に指示する。				
◇ 授業時間外学習	演習中の議論に積極的に参加できるように、事前に関連文献に目を通すなど予習をしておくこと。				
その他： オフィスアワー：水曜日 第5講時（事前に予約すること） 第6セメスターの行動科学演習と併せて参加すること					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
行 動 科 学 演 習 Behavioral Science (Seminar)	2	教授 佐藤嘉倫	6	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OSO302J																				
◆ 授業題目	エージェント・ベースト・モデルによる自己組織性の解明 (Analysis of Self-organization and Agent-based Models)																				
◆ 目的・概要	エージェント・ベースト・モデルの手法を修得し、自分で自己組織性を解明する。																				
◆ 到達目標	前期の議論を踏まえて、実際にエージェント・ベースト・モデルを構築して、社会の自己組織性を自分で解明できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. グループ別の進行状況報告と検討 (4)</td> </tr> <tr> <td>2. プログラミング入門 (1)</td> <td>10. グループ別の進行状況報告と検討 (5)</td> </tr> <tr> <td>3. プログラミング入門 (2)</td> <td>11. グループ別の進行状況報告と検討 (6)</td> </tr> <tr> <td>4. プログラミング入門 (3)</td> <td>12. グループ別の進行状況報告と検討 (7)</td> </tr> <tr> <td>5. 研究テーマの決定とグループ分け</td> <td>13. グループ別の進行状況報告と検討 (8)</td> </tr> <tr> <td>6. グループ別の進行状況報告と検討 (1)</td> <td>14. グループ別の進行状況報告と検討 (9)</td> </tr> <tr> <td>7. グループ別の進行状況報告と検討 (2)</td> <td>15. 各グループによる最終的な研究報告</td> </tr> <tr> <td>8. グループ別の進行状況報告と検討 (3)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. グループ別の進行状況報告と検討 (4)	2. プログラミング入門 (1)	10. グループ別の進行状況報告と検討 (5)	3. プログラミング入門 (2)	11. グループ別の進行状況報告と検討 (6)	4. プログラミング入門 (3)	12. グループ別の進行状況報告と検討 (7)	5. 研究テーマの決定とグループ分け	13. グループ別の進行状況報告と検討 (8)	6. グループ別の進行状況報告と検討 (1)	14. グループ別の進行状況報告と検討 (9)	7. グループ別の進行状況報告と検討 (2)	15. 各グループによる最終的な研究報告	8. グループ別の進行状況報告と検討 (3)	
1. イントロダクション	9. グループ別の進行状況報告と検討 (4)																				
2. プログラミング入門 (1)	10. グループ別の進行状況報告と検討 (5)																				
3. プログラミング入門 (2)	11. グループ別の進行状況報告と検討 (6)																				
4. プログラミング入門 (3)	12. グループ別の進行状況報告と検討 (7)																				
5. 研究テーマの決定とグループ分け	13. グループ別の進行状況報告と検討 (8)																				
6. グループ別の進行状況報告と検討 (1)	14. グループ別の進行状況報告と検討 (9)																				
7. グループ別の進行状況報告と検討 (2)	15. 各グループによる最終的な研究報告																				
8. グループ別の進行状況報告と検討 (3)																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [50%] ・ (○) 出席 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	開講時に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	グループに分かれてプログラミングを行うので、積極的にグループワークに参加すること。																				
その他：	オフィスアワー：水曜日 第5講時 (事前に予約すること) 第5セメスターの行動科学演習と併せて参加すること																				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
行 動 科 学 演 習 Behavioral Science (Seminar)	2	教授 木村邦博	5	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OSO302J																				
◆ 授業題目	質問の科学 (Science of Asking Questions)																				
◆ 目的・概要	行動科学的研究においては調査や実験が行われることが多く、そこでは質問紙 (調査票) が用いられることも多い。質問紙 (調査票) の作成は長い間「アート」に属するものと見なされて来たけれども、近年になって「質問の科学」と呼ばれる、認知科学的視点にもとづく研究も盛んになってきた。この演習では、「質問の科学」の研究成果を報告した日本語論文を読むことで、行動科学的研究におけるデータ収集法・測定法の諸問題とそれへの対処方法を理解する。その際、「総調査誤差アプローチ」や「センシティブなトピック」などの関連分野の動向にも目配りをする。																				
◆ 到達目標	認知科学的な見方を身につけることで、データ収集・測定の問題について理解を深めるとともに、それらの問題に対処するためにはどのようにしたらよいかを考えることができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業計画の概要</td> <td>9. 中間選択肢の影響 (4)：個人特性との関係</td> </tr> <tr> <td>2. 「質問の科学」のレビュー</td> <td>10. 複数回答形式と個別強制選択形式</td> </tr> <tr> <td>3. 誤答効果と非回答バイアス</td> <td>11. 最小限化 (満足化) (1)：分析結果への影響</td> </tr> <tr> <td>4. 回答選択肢のレイアウト</td> <td>12. 最小限化 (満足化) (2)：そのメカニズムとHouse Effect</td> </tr> <tr> <td>5. 項目の方向性とグループ化</td> <td>13. 回答指示の非遵守と反応バイアス</td> </tr> <tr> <td>6. 中間選択肢の影響 (1)：その現れ方</td> <td>14. センシティブなトピックとランダムイズド・レスポンス法</td> </tr> <tr> <td>7. 中間選択肢の影響 (2)：その要因</td> <td>15. 総合的討論</td> </tr> <tr> <td>8. 中間選択肢の影響 (3)：回答メカニズム</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業計画の概要	9. 中間選択肢の影響 (4)：個人特性との関係	2. 「質問の科学」のレビュー	10. 複数回答形式と個別強制選択形式	3. 誤答効果と非回答バイアス	11. 最小限化 (満足化) (1)：分析結果への影響	4. 回答選択肢のレイアウト	12. 最小限化 (満足化) (2)：そのメカニズムとHouse Effect	5. 項目の方向性とグループ化	13. 回答指示の非遵守と反応バイアス	6. 中間選択肢の影響 (1)：その現れ方	14. センシティブなトピックとランダムイズド・レスポンス法	7. 中間選択肢の影響 (2)：その要因	15. 総合的討論	8. 中間選択肢の影響 (3)：回答メカニズム	
1. 授業計画の概要	9. 中間選択肢の影響 (4)：個人特性との関係																				
2. 「質問の科学」のレビュー	10. 複数回答形式と個別強制選択形式																				
3. 誤答効果と非回答バイアス	11. 最小限化 (満足化) (1)：分析結果への影響																				
4. 回答選択肢のレイアウト	12. 最小限化 (満足化) (2)：そのメカニズムとHouse Effect																				
5. 項目の方向性とグループ化	13. 回答指示の非遵守と反応バイアス																				
6. 中間選択肢の影響 (1)：その現れ方	14. センシティブなトピックとランダムイズド・レスポンス法																				
7. 中間選択肢の影響 (2)：その要因	15. 総合的討論																				
8. 中間選択肢の影響 (3)：回答メカニズム																					
◇ 成績評価の方法	期末レポート [50%]、平常点 (授業時間内での報告・質問の内容や報告・レポートに至るまでの過程) [50%]																				
◇ 教科書・参考書	演習の場で検討する文献は、参加者各自が「電子ジャーナル」(附属図書館、CiNii, J-STAGE等を経由)や「機関レポジトリ」などからダウンロードする。 参考文献：グローヴズ他 (大隅昇監訳)『調査法ハンドブック』朝倉書店																				
◇ 授業時間外学習	(1)演習の時間に取り上げる文献を事前に読んで検討しておく。 (2)担当の文献に関する報告の準備をする。 (3)関連文献を検索して読み、あわせて検討する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
行 動 科 学 演 習 Behavioral Science (Seminar)	2	教授 木村 邦博	6	火	2																		
◆ 科目ナンバリング	LHM-OSO302J																						
◆ 授業題目	「質問の科学」実験実習 (Exercises in Science of Asking Questions)																						
◆ 目的・概要	認知科学的視点に基づいた「質問の科学」に関する理解を、実験実習を通して深める。その理解にもとづいて、行動科学的研究におけるデータ収集法・測定法の諸問題とそれへの対処方法を習得する。その際、「総調査誤差アプローチ」や「センシティブなトピック」、「テキストマイニング」などの関連分野の動向にも目配りをする。																						
◆ 到達目標	(1)測定と尺度構成の基本的な考え方を、実習を通して理解する。 (2)人々が質問紙に回答する際の認知的メカニズムに関する理解を深める。 (3)準実験的フィールド調査と実験室実験を通して、質問紙の設計と調査実施の技法を習得する。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業計画の説明</td> <td>10. ランダムイズドレスポンス法 (1): 実験の企画</td> </tr> <tr> <td>2. 分類とコーディング</td> <td>11. ランダムイズドレスポンス法 (2): 質問紙等の設計と実験の実施</td> </tr> <tr> <td>3. 尺度構成法</td> <td>12. ランダムイズドレスポンス法 (3): データの整理と分析</td> </tr> <tr> <td>4. 評定法・序列表法・一対比較法</td> <td>13. ランダムイズドレスポンス法 (4): 考察の報告</td> </tr> <tr> <td>5. 準実験的調査の企画と実施 (1): 調査テーマと調査対象の検討</td> <td>14. 自由回答データのテキストマイニング (1): 既存データの2次分析</td> </tr> <tr> <td>6. 準実験的調査の企画と実施 (2): 質問項目と質問文の検討</td> <td>15. 自由回答データのテキストマイニング (2): 分析・考察の報告</td> </tr> <tr> <td>7. 準実験的調査の企画と実施 (3): 実査の準備と実施</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 準実験的調査の企画と実施 (4): データの整理と分析</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 準実験的調査の企画と実施 (5): 考察の報告</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業計画の説明	10. ランダムイズドレスポンス法 (1): 実験の企画	2. 分類とコーディング	11. ランダムイズドレスポンス法 (2): 質問紙等の設計と実験の実施	3. 尺度構成法	12. ランダムイズドレスポンス法 (3): データの整理と分析	4. 評定法・序列表法・一対比較法	13. ランダムイズドレスポンス法 (4): 考察の報告	5. 準実験的調査の企画と実施 (1): 調査テーマと調査対象の検討	14. 自由回答データのテキストマイニング (1): 既存データの2次分析	6. 準実験的調査の企画と実施 (2): 質問項目と質問文の検討	15. 自由回答データのテキストマイニング (2): 分析・考察の報告	7. 準実験的調査の企画と実施 (3): 実査の準備と実施		8. 準実験的調査の企画と実施 (4): データの整理と分析		9. 準実験的調査の企画と実施 (5): 考察の報告	
1. 授業計画の説明	10. ランダムイズドレスポンス法 (1): 実験の企画																						
2. 分類とコーディング	11. ランダムイズドレスポンス法 (2): 質問紙等の設計と実験の実施																						
3. 尺度構成法	12. ランダムイズドレスポンス法 (3): データの整理と分析																						
4. 評定法・序列表法・一対比較法	13. ランダムイズドレスポンス法 (4): 考察の報告																						
5. 準実験的調査の企画と実施 (1): 調査テーマと調査対象の検討	14. 自由回答データのテキストマイニング (1): 既存データの2次分析																						
6. 準実験的調査の企画と実施 (2): 質問項目と質問文の検討	15. 自由回答データのテキストマイニング (2): 分析・考察の報告																						
7. 準実験的調査の企画と実施 (3): 実査の準備と実施																							
8. 準実験的調査の企画と実施 (4): データの整理と分析																							
9. 準実験的調査の企画と実施 (5): 考察の報告																							
◇ 成績評価の方法	レポート (6回) [50%]、平常点 (課題への取り組み) [50%]																						
◇ 教科書・参考書	原 純輔・海野道郎『社会調査演習 [第2版]』東京大学出版会、2004。 そのほかの文献については、授業で指示する。																						
◇ 授業時間外学習	(1)教科書や参考文献を事前に読み、予習をしておく。 (2)教科書等で指定された作業 (調査・実験・データ分析等を含む) を行い、その結果をレポートにまとめる。 (3)教科書等にある「問題」について考え、その結果をレポートにまとめる。																						
その他:																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
行 動 科 学 演 習 Behavioral Science (Seminar)	2	教授 浜田 宏	5	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OSO302J																				
◆ 授業題目	ベイズアプローチによる社会学の理論と実証 (Sociological Theory and Bayesian Statistics)																				
◆ 目的・概要	1) 社会現象を数理モデルとデータを使って説明する方法の基礎を学ぶ。 2) 興味深い問題をどうやって定式化するかを演習を通して学ぶ。見本となる研究を参考にして「問題を構成する力」の基礎を涵養する。																				
◆ 到達目標	Stanを使ったベイズ統計の分析手法を習得する現象の数学的表現を習得する日常生活の中に潜む数学的構造を見抜く観察力を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション 分布生成モデル</td> <td>9. Stanによる分析 3 階層モデル</td> </tr> <tr> <td>2. ベイズ統計モデルリング 1 ベイズ推定とMCMC</td> <td>10. Stanによる分析 4 階層モデル</td> </tr> <tr> <td>3. ベイズ統計モデルリング 2 確率統計のおさらい</td> <td>11. Stanによる分析 5 分布生成モデルとの接合</td> </tr> <tr> <td>4. ベイズ統計モデルリング 3 RとStanの導入</td> <td>12. Stanによる分析 6 分布生成モデルとの接合</td> </tr> <tr> <td>5. ベイズ統計モデルリング 4 RとStanの導入</td> <td>13. Stanによる分析 7</td> </tr> <tr> <td>6. ベイズ統計モデルリング 5</td> <td>14. Stanによる分析 8</td> </tr> <tr> <td>7. Stanによる分析 1 モデル式の書き方</td> <td>15. まとめと総括</td> </tr> <tr> <td>8. Stanによる分析 2 帰帰</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション 分布生成モデル	9. Stanによる分析 3 階層モデル	2. ベイズ統計モデルリング 1 ベイズ推定とMCMC	10. Stanによる分析 4 階層モデル	3. ベイズ統計モデルリング 2 確率統計のおさらい	11. Stanによる分析 5 分布生成モデルとの接合	4. ベイズ統計モデルリング 3 RとStanの導入	12. Stanによる分析 6 分布生成モデルとの接合	5. ベイズ統計モデルリング 4 RとStanの導入	13. Stanによる分析 7	6. ベイズ統計モデルリング 5	14. Stanによる分析 8	7. Stanによる分析 1 モデル式の書き方	15. まとめと総括	8. Stanによる分析 2 帰帰	
1. イントロダクション 分布生成モデル	9. Stanによる分析 3 階層モデル																				
2. ベイズ統計モデルリング 1 ベイズ推定とMCMC	10. Stanによる分析 4 階層モデル																				
3. ベイズ統計モデルリング 2 確率統計のおさらい	11. Stanによる分析 5 分布生成モデルとの接合																				
4. ベイズ統計モデルリング 3 RとStanの導入	12. Stanによる分析 6 分布生成モデルとの接合																				
5. ベイズ統計モデルリング 4 RとStanの導入	13. Stanによる分析 7																				
6. ベイズ統計モデルリング 5	14. Stanによる分析 8																				
7. Stanによる分析 1 モデル式の書き方	15. まとめと総括																				
8. Stanによる分析 2 帰帰																					
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]、出席 [30%]、 その他 (授業時間内での報告や質問と、報告・レポートに至るまでの過程) [20%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書: 松浦健太郎、2016、『StanとRで統計モデリング』共立出版 参考書: 久保拓哉、2012、『データ解析のための統計モデリング入門』岩波書店 Gelman et al. 2013, Bayesian Data Analysis, Third Edition, CRC Press.																				
◇ 授業時間外学習	毎週、テキストの該当範囲を事前に読んでくること。																				
その他: 本演習ではRとStanを使用するので、実行環境を整えたノートPCを毎回持参する事が推奨される。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 演 習 Behavioral Science (Seminar)	2	教授 浜 田 宏	6	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-OSO302J				
◆ 授業題目	計算・数理社会学 (Computational and Mathematical Sociology)				
◆ 目的・概要	コンピュータによる数値計算や数理モデルの解析をつうじて、人間行動や社会現象をモデル化する手法を習得する。				
◆ 到達目標	1. プログラムの基礎を修得する。 2. 行動科学理論をプログラム・コードで表現する能力を習得する。				
◆ 授業内容・方法	1. 下記の内容を15回に分けて学習する。 プログラムの基礎 パーセプトロン ニューラルネットワーク ニューラルネットワークの学習 誤差逆伝播法 学習 たたみ込みニューラルネットワーク ディープラーニング 時系列分析 因果分析				
◇ 成績評価の方法	授業内課題 [40%]、出席 [30%]、期末課題 [30%]				
◇ 教科書・参考書	教科書：斎藤康毅、2016『ゼロから作るDeep Learning』オライリー・ジャパン。 参考文献：奥村晴彦、1991『C言語による最新アルゴリズム事典』技術評論社。 星野・田中『Rによる実証分析』オーム社				
◇ 授業時間外学習	教科書記載のサンプルコードを使って、アルゴリズムが正しく表現されているかを確認する事				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 演 習 Behavioral Science (Seminar)	2	准教授 永 吉 希久子	5	金	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-OSO302J				
◆ 授業題目	政治意識論 (Political Psychology)				
◆ 目的・概要	社会意識研究における一つの大きな研究分野として、政治に関する意識研究が挙げられる。民主主義にとって人々の世論は重要であるため、世論がどのように形成されるのかということについて長年研究が進められてきた。この授業では、政治参加や政治意識に関する諸理論を、文献講読を通じて学習する。それにより、右派政党の躍進など、近年生じている政治的現象がどのように生じたのかを考えていくことを目的としている。 授業では前半でテキストの内容について確認したうえで、受講生同士のディスカッションを通じて理解を深める。				
◆ 到達目標	①政治心理学の分野の諸理論を理解し、説明できるようになる。 ②近年国内外で生じている政治的現象について、政治心理学の観点から説明できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 2. 政治的社会化 3. 政治意識と価値 4. 政治意識と合理的選択 5. 政治意識と社会階層 6. 政治意識とメディア ① 7. 政治意識とメディア ② 8. 政治意識とインターネット 9. 政治意識と選挙制度 ① 10. 政治意識と選挙制度 ② 11. 政治的信頼と政治への無関心 ① 12. 政治的信頼と政治への無関心 ② 13. ポピュリズムと政治意識 ① 14. ポピュリズムと政治意識 ② 15. まとめ				
◇ 成績評価の方法	授業の課題 (40%)、最終レポート (60%)				
◇ 教科書・参考書	初回の授業で指示する。				
◇ 授業時間外学習	テキストを事前に読み、課題を行ってることが求められる。 国内外のニュースに触れ、政治的現象についての知識を身に付ける。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 演 習 Behavioral Science (Seminar)	2	准教授 永 吉 希久子	6	金	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHM-OSO302J 実践計量社会学 (Quantitative Sociology) 計量的な社会学研究を行うためには、理論についての理解に加え、理論を計量分析可能な形で検証するための操作化の手続きや分析方法についての理解が非常に重要になる。この授業では、計量的な手法で行われた研究論文を講読することにより、そこでどのような操作化が行われているのかを学ぶ。また、そこで行われている分析をレプリケートすることで、実際にデータを分析するためのデータのハンドリングや、分析手法の習得を行う。これによって、自分自身で計量的な手法を用いた論文を書くための実践的な知識を身に付けることが、この授業の目的である。				
◆ 到達目標	授業は分析方法の説明の回、文献内容の理解の回、レプリケートの回に分けられる。レプリケートは無料の統計ソフトRを用いて行う。Rの使い方については第二回の授業で説明するため、事前の知識は必要としない。 ①社会学理論を計量的に分析する際の、適切な操作化ができるようになる。 ②計量社会学で用いられる基本的・発展的な分析手法を習得し、自分で分析ができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. Rの使い方の基礎 3. 家族と規範：岩井紀子・保田時男、2008。「世代間援助における夫側と妻側のバランスについての分析」『家族社会学研究』20 (2)：34-47. 4. 重回帰分析を用いたレプリケート 5. 階層帰属意識：数土直紀、2012。「未婚者の階層意識」『理論と方法』27 (2)：225-242. 6. 多項ロジスティック回帰分析を用いたレプリケート 7. マルチレベル分析【方法】 8. トラッキング：多喜弘文、2011。「日本の高校トラックと社会階層の関連構造」『ソシオロジ』55 (3)：37-52. 9. マルチレベル分析を用いたレプリケート 10. 固定効果モデル【方法】 11. 市民活動参加：三谷はるよ、2014。「『市民活動参加者の脱階層化』命題の検証」『社会学評論』65 (1)：32-46. 12. 固定効果モデルを用いたレプリケート 13. イベントヒストリー分析【方法】 14. 職業移動：石田賢示、2014。「学校から職業への移行における『制度的連結』効果の再検討」『教育社会学研究』94：325-44. 15. イベントヒストリー分析を用いたレプリケート 				
◇ 成績評価の方法	授業での課題 (40%)、最終レポート (60%)				
◇ 教科書・参考書	授業予定参照。参考文献は授業中に適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	テキストを事前に読み、課題を行うことが求められる。 また、用いた分析方法についての復習を行うことが、最終レポート作成に必要なになる。				
その他：重回帰分析や多項ロジスティック回帰の結果が読めることを前提としているので、これらの手法について未習の場合は自分で学ぶなどしてから参加してほしい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
実 験 心 理 学 概 論 Experimental Psychology (General Lecture)	2	教授 阿 部 恒 之	3	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PSY201J																				
◆ 授業題目	実験心理学の基礎 (General Lecuture on Experimental Psychology)																				
◆ 目的・概要	感情心理学・生理心理学を中心に実験心理学の基礎を概観する。適宜、実験や調査への協力を呼びかけるので、それに参加して実際の心理学研究に触れてもらう。主な内容は以下の通り。 ・ストレス研究の歴史・ストレスの生理と心理 ・感情における心と身体・感情の役割																				
◆ 到達目標	実験心理学の広範な研究に触れて心理学の基礎を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 全体ガイダンス 日常生活の中の心理学</td> <td>9. 感情における心と身体 2</td> </tr> <tr> <td>2. ストレス研究の歴史 1</td> <td>10. 感情における心と身体 3</td> </tr> <tr> <td>3. ストレス研究の歴史 2</td> <td>11. 感情の役割 1</td> </tr> <tr> <td>4. ストレス研究の歴史 3</td> <td>12. 感情の役割 2</td> </tr> <tr> <td>5. ストレスの生理と心理 1</td> <td>13. 感情の役割 3</td> </tr> <tr> <td>6. ストレスの生理と心理 2</td> <td>14. 実験心理学に関する最新トピックス</td> </tr> <tr> <td>7. ストレスの生理と心理 3</td> <td>15. 試験と総まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 感情における心と身体 1</td> <td></td> </tr> </table>					1. 全体ガイダンス 日常生活の中の心理学	9. 感情における心と身体 2	2. ストレス研究の歴史 1	10. 感情における心と身体 3	3. ストレス研究の歴史 2	11. 感情の役割 1	4. ストレス研究の歴史 3	12. 感情の役割 2	5. ストレスの生理と心理 1	13. 感情の役割 3	6. ストレスの生理と心理 2	14. 実験心理学に関する最新トピックス	7. ストレスの生理と心理 3	15. 試験と総まとめ	8. 感情における心と身体 1	
1. 全体ガイダンス 日常生活の中の心理学	9. 感情における心と身体 2																				
2. ストレス研究の歴史 1	10. 感情における心と身体 3																				
3. ストレス研究の歴史 2	11. 感情の役割 1																				
4. ストレス研究の歴史 3	12. 感情の役割 2																				
5. ストレスの生理と心理 1	13. 感情の役割 3																				
6. ストレスの生理と心理 2	14. 実験心理学に関する最新トピックス																				
7. ストレスの生理と心理 3	15. 試験と総まとめ																				
8. 感情における心と身体 1																					
◇ 成績評価の方法	試験 70%、その他 30% (実験・調査への参加)																				
◇ 教科書・参考書	教科書として、以下の書籍を必携のこと。 阿部恒之ほか著 『心理学の視点 24』 国際文献社 ISBN978-4-902590-23-4																				
◇ 授業時間外学習	早い段階で、教科書を通読しておくことを推奨する。また、日常生活で生じる出来事を、授業で得た知識を用いて心理学的な観点から理解しようとする習慣を身につけて欲しい。																				
その他：心理学の実際に触れるため、授業中になるべく多くの実験・調査を体験してもらう予定である。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
実 験 心 理 学 概 論 Experimental Psychology (General Lecture)	2	教授 坂 井 信 之	4	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PSY201J																				
◆ 授業題目	応用に向けた実験心理学 (Basic Topics of Experimental Psychology (Applied))																				
◆ 目的・概要	毎回実生活で生じる様々な事象を取り上げ、それらを実験心理学ではどのように解釈できるかということを実験例を挙げながら説明する。また、実験とはどのようなものかということを実感してもらうため、実験や調査への協力を求める。																				
◆ 到達目標	実生活に見られる心理学的現象について、実験心理学ではどのようにアプローチしていくかについて理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 心理テストと性格検査 (導入)</td> <td>9. 私の判断は本当に正しいか? (情報と行動)</td> </tr> <tr> <td>2. 生まれか育ちか? (双生児研究)</td> <td>10. なぜ太ってしまうのか? (食行動の心理学)</td> </tr> <tr> <td>3. ヒトは生まれつき人なのか? (生物学と心理学)</td> <td>11. このまま大人になってよいのか? (アイデンティティ)</td> </tr> <tr> <td>4. 味わっているのは口・舌か? 脳か? (感覚と知覚)</td> <td>12. 人は人生になにを求めるのか? (動機づけ)</td> </tr> <tr> <td>5. 私の記憶は本当に正しいのか? (学習と記憶)</td> <td>13. 使いやすいモノ、おいしいモノは存在するか? (人間工学・感性工学)</td> </tr> <tr> <td>6. 「悲しいから泣く」それとも「泣くから悲しい」? (感情と情動)</td> <td>14. 幸せになるための心理学 (健康心理学)</td> </tr> <tr> <td>7. 「人は見た目が9割」というのは本当か? (社会心理学・対人印象)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. なぜあくびはうつるのか? (社会心理学・コミュニケーション)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 心理テストと性格検査 (導入)	9. 私の判断は本当に正しいか? (情報と行動)	2. 生まれか育ちか? (双生児研究)	10. なぜ太ってしまうのか? (食行動の心理学)	3. ヒトは生まれつき人なのか? (生物学と心理学)	11. このまま大人になってよいのか? (アイデンティティ)	4. 味わっているのは口・舌か? 脳か? (感覚と知覚)	12. 人は人生になにを求めるのか? (動機づけ)	5. 私の記憶は本当に正しいのか? (学習と記憶)	13. 使いやすいモノ、おいしいモノは存在するか? (人間工学・感性工学)	6. 「悲しいから泣く」それとも「泣くから悲しい」? (感情と情動)	14. 幸せになるための心理学 (健康心理学)	7. 「人は見た目が9割」というのは本当か? (社会心理学・対人印象)	15. まとめ	8. なぜあくびはうつるのか? (社会心理学・コミュニケーション)	
1. 心理テストと性格検査 (導入)	9. 私の判断は本当に正しいか? (情報と行動)																				
2. 生まれか育ちか? (双生児研究)	10. なぜ太ってしまうのか? (食行動の心理学)																				
3. ヒトは生まれつき人なのか? (生物学と心理学)	11. このまま大人になってよいのか? (アイデンティティ)																				
4. 味わっているのは口・舌か? 脳か? (感覚と知覚)	12. 人は人生になにを求めるのか? (動機づけ)																				
5. 私の記憶は本当に正しいのか? (学習と記憶)	13. 使いやすいモノ、おいしいモノは存在するか? (人間工学・感性工学)																				
6. 「悲しいから泣く」それとも「泣くから悲しい」? (感情と情動)	14. 幸せになるための心理学 (健康心理学)																				
7. 「人は見た目が9割」というのは本当か? (社会心理学・対人印象)	15. まとめ																				
8. なぜあくびはうつるのか? (社会心理学・コミュニケーション)																					
◇ 成績評価の方法	レポート (設問形式) (70%)、実験や調査への参加・受講態度などの参加意欲 (30%)																				
◇ 教科書・参考書	心理学の視点 24 阿部恒之ほか5名 国際文献社 2012																				
◇ 授業時間外学習	授業中には授業に集中するため、できるだけノートを取らないようにしてください。その代わりに、教科書を使った予習および復習が重要です。特に復習は、その日に履修した内容を、他人 (家族や友人) と共有することによって、確実に記憶できるようにしてください。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 心 理 学 概 論 Social Psychology (General Lecture)	2	准教授 辻 本 昌 弘	3	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PSY202J																				
◆ 授業題目	社会行動の諸研究 (Psychology of Social Behavior)																				
◆ 目的・概要	2者関係から社会全体までさまざまなレベルの集団や集合体を視野に入れて、複数の人間が関係する状況でいかなる社会行動が発生するのか、社会心理学の代表的な理論と研究例を解説していく。																				
◆ 到達目標	対人関係、集団行動、社会現象に関する社会心理学の代表的な理論と研究例を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 社会心理学のアプローチ</td> <td>9. 社会規範</td> </tr> <tr> <td>2. 社会的影響</td> <td>10. 信頼のはたらき</td> </tr> <tr> <td>3. 社会的現実の構成</td> <td>11. 集団間関係 1</td> </tr> <tr> <td>4. 多数派と少数派</td> <td>12. 集団間関係 2</td> </tr> <tr> <td>5. 集合行動</td> <td>13. 集団意思決定 1</td> </tr> <tr> <td>6. 社会的ジレンマ 1</td> <td>14. 集団意思決定 2</td> </tr> <tr> <td>7. 社会的ジレンマ 2</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 援助行動</td> <td></td> </tr> </table>					1. 社会心理学のアプローチ	9. 社会規範	2. 社会的影響	10. 信頼のはたらき	3. 社会的現実の構成	11. 集団間関係 1	4. 多数派と少数派	12. 集団間関係 2	5. 集合行動	13. 集団意思決定 1	6. 社会的ジレンマ 1	14. 集団意思決定 2	7. 社会的ジレンマ 2	15. まとめと試験	8. 援助行動	
1. 社会心理学のアプローチ	9. 社会規範																				
2. 社会的影響	10. 信頼のはたらき																				
3. 社会的現実の構成	11. 集団間関係 1																				
4. 多数派と少数派	12. 集団間関係 2																				
5. 集合行動	13. 集団意思決定 1																				
6. 社会的ジレンマ 1	14. 集団意思決定 2																				
7. 社会的ジレンマ 2	15. まとめと試験																				
8. 援助行動																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書を講義中に適宜紹介していく。																				
◇ 授業時間外学習	各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進めます。 毎回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要です。																				
その他：過去に辻本担当の社会心理学概論の単位を取得している者は履修しないこと。学習の一環として心理学の実験・調査への参加を要望することがある。履修希望者が多すぎる場合には他学部生の受講を制限することがある。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
実 験 心 理 学 基 礎 講 読 Experimental Psychology (Introductory Reading)	2	教授 行 場 次 朗	3	月	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PSY203J																				
◆ 授業題目	実験心理学の最新重要研究 (Introductory Reading in Recent Experimental Psychology)																				
◆ 目的・概要	心理学における重要でアップデートな実験研究を、英文専門誌からピックアップし講読する。専門用語の訳出と解説に重点をおく。予習を行い、英文和訳を積極的に発表する形式で行う。																				
◆ 到達目標	(1)心理学の重要でアップデートな実験・研究の内容を理解する。 (2)英語書籍に親しみ、専門書の読解力を獲得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 実験心理学の最新重要研究文献の講読</td> </tr> <tr> <td>2. 実験心理学の最新重要研究文献の講読</td> <td>10. 実験心理学の最新重要研究文献の講読</td> </tr> <tr> <td>3. 実験心理学の最新重要研究文献の講読</td> <td>11. 実験心理学の最新重要研究文献の講読</td> </tr> <tr> <td>4. 実験心理学の最新重要研究文献の講読</td> <td>12. 実験心理学の最新重要研究文献の講読</td> </tr> <tr> <td>5. 実験心理学の最新重要研究文献の講読</td> <td>13. 実験心理学の最新重要研究文献の講読</td> </tr> <tr> <td>6. 実験心理学の最新重要研究文献の講読</td> <td>14. 実験心理学の最新重要研究文献の講読</td> </tr> <tr> <td>7. 実験心理学の最新重要研究文献の講読</td> <td>15. まとめと総括的討論</td> </tr> <tr> <td>8. 実験心理学の最新重要研究文献の講読</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 実験心理学の最新重要研究文献の講読	2. 実験心理学の最新重要研究文献の講読	10. 実験心理学の最新重要研究文献の講読	3. 実験心理学の最新重要研究文献の講読	11. 実験心理学の最新重要研究文献の講読	4. 実験心理学の最新重要研究文献の講読	12. 実験心理学の最新重要研究文献の講読	5. 実験心理学の最新重要研究文献の講読	13. 実験心理学の最新重要研究文献の講読	6. 実験心理学の最新重要研究文献の講読	14. 実験心理学の最新重要研究文献の講読	7. 実験心理学の最新重要研究文献の講読	15. まとめと総括的討論	8. 実験心理学の最新重要研究文献の講読	
1. ガイダンス	9. 実験心理学の最新重要研究文献の講読																				
2. 実験心理学の最新重要研究文献の講読	10. 実験心理学の最新重要研究文献の講読																				
3. 実験心理学の最新重要研究文献の講読	11. 実験心理学の最新重要研究文献の講読																				
4. 実験心理学の最新重要研究文献の講読	12. 実験心理学の最新重要研究文献の講読																				
5. 実験心理学の最新重要研究文献の講読	13. 実験心理学の最新重要研究文献の講読																				
6. 実験心理学の最新重要研究文献の講読	14. 実験心理学の最新重要研究文献の講読																				
7. 実験心理学の最新重要研究文献の講読	15. まとめと総括的討論																				
8. 実験心理学の最新重要研究文献の講読																					
◇ 成績評価の方法	レポート (30%)・出席と発表 (70%)																				
◇ 教科書・参考書	講読で使用するプリントを授業中に適宜配布する。																				
◇ 授業時間外学習	レポートを決めずに講読を行うため、全員が当該範囲の予習が必要であり、挙手形式で和訳を発表してもらう。																				
その他：連絡は gyoba@m.tohoku.ac.jp へ																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
社 会 心 理 学 基 礎 講 読 Social Psychology (Introductory Reading)	2	准教授 辻 本 昌 弘	4	金	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-PSY204J				
◆ 授業題目	社会心理学の展開 (History of Social Psychology)				
◆ 目的・概要	この授業では、社会心理学の英文文献を講読する。過去の重要研究により社会心理学とはどのような学問なのか知る。社会心理学の歴史をたどりながら、さまざまな立場や考え方を多面的に学ぶ。さらに社会心理学の主要な研究方法にもふれる。これらをつうじて社会的影響、社会的認知、集団間関係、態度など社会心理学の諸領域の基礎知識を身につける。受講生は、事前に英文文献を読み、関連図書を調べて資料を準備し、授業では発表と討論を行う。				
◆ 到達目標	1. 社会心理学の理論や概念を理解する。 2. 社会心理学の英文文献を読む力を涵養する。 3. 資料を調べ発表する技術を習得する。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス：授業の準備、発表、討論について 2. 重要研究 ① 3. 重要研究 ② 4. 重要研究 ③ 5. 社会心理学の歴史 ①：黎明期 6. 社会心理学の歴史 ②：20世紀前半 7. 社会心理学の歴史 ③：戦争の影響 8. 社会心理学の歴史 ④：20世紀中頃の発展 9. 社会心理学の歴史 ⑤：さまざまな論争 10. 社会心理学の歴史 ⑥：近年の動向 11. 社会心理学の歴史 ⑦：学際化の進展 12. 社会心理学の研究 ① 13. 社会心理学の研究 ② 14. 社会心理学の研究 ③ 15. まとめ				
◇ 成績評価の方法	出席 (50%)、発表と討論参加 (50%)				
◇ 教科書・参考書	講読する文献は授業中に指示する。				
◇ 授業時間外学習	講読する文献を授業までに読み、関連図書を調べ、十分に予習しておくことが必要である。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
心 理 学 基 礎 実 験 Psychology (Introductory Experimentation)	2	教授 阿部 恒之・行場 次朗・坂井 信之 准教授 辻 本 昌 弘	3	火	3・4
◆ 科目ナンバリング	LHM-PSY205J				
◆ 授業題目	基礎実験 I (Psychological Experiment (Practice) I)				
◆ 目的・概要	心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得する。実習メニューは毎回異なる。基礎実験 I では主として実験的方法を用いたメニューを、基礎実験 II では、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。				
◆ 到達目標	心理学実験の基本を実習を通じて学び、基本的スキルを習得する。				
◆ 授業内容・方法	1. オリエンテーション 2. 社会的態度の測定 3. 統計解析法 4. SPSS 5. 動物の行動観察 6. 記憶検索 7. 鏡映描写 8. 囚人のジレンマ 9. ステレオタイプ 10. 感覚の尺度化 11. 反応時間 12. 幾何学的錯視 13. カウンセリング 14. 臨床心理学 15. 通期課題のまとめ				
◇ 成績評価の方法	レポート60 %、出席 40%				
◇ 教科書・参考書	心理学実験室で指示する。				
◇ 授業時間外学習	毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。				
その他：	履修は原則として心理学専修の2年次学生に限る。基礎実験 I と II を連続履修すること。 ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。 授業計画に記されたメニューは変更の可能性があるが、変更の場合は事前に通知する。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
心 理 学 基 礎 実 験 Psychology (Introductory Experimentation)	2	教授 阿部 恒之・行場 次朗・坂井 信之 准教授 辻本 昌弘	4	火	3・4
◆ 科目ナンバリング	LHM-PSY205J				
◆ 授業題目	基礎実験Ⅱ (Psychological Experiment (Practice)Ⅱ)				
◆ 目的・概要	心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得する。実習メニューは毎回異なる。基礎実験Ⅰでは主として実験の方法を用いたメニューを、基礎実験Ⅱでは、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。以下の授業計画は担当者の都合などによる変更の可能性がある。信号検出 フィールドワーク・WAIS-R知能検査・ロールシャッハ・テストポリグラフィ・光トポグラフィ・心理測定法				
◆ 到達目標	心理学実験の基本を実習を通じて学び、基本的スキルを習得する。				
◆ 授業内容・方法	1. オリエンテーション 2. 情報検索実習 (図書館文献検索を含む) 3. 生理機能計測 (ポリグラフィ) 4. 脳機能計測 (光トポグラフィ) 5. フィールドワークⅠ 6. フィールドワークⅡ 7. 心理測定法 8. ロールシャッハテストⅠ 9. ロールシャッハテストⅡ 10. WAIS-Ⅲ 知能検査 11. 感情評価 (覚醒水準の測定) 12. 信号検出理論 (注意の測定) 13. 応用心理学分野実験 (心理学の産業応用) 14. 質問紙データ・ビッグデータの処理法 15. 心理の資格				
◇ 成績評価の方法	レポート [60%]、出席 [40%]				
◇ 教科書・参考書	心理学実験室で指示する。				
◇ 授業時間外学習	毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。				
履修は原則として心理学専修の2年次学生に限る。					
その他：前期の基礎実験と連続履修すること。 ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
心 理 学 各 論 Psychology (Special Lecture)	2	非常勤 堀 毛 一 也 講師	集 中 (6)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-PSY301J				
◆ 授業題目	ポジティブ心理学研究の発展 (Perspectives on the studies of positive psychology)				
◆ 目的・概要	ポジティブ心理学は、Seligman, M. E. Pが、アメリカ心理学会の会長であった1998年に提唱した心理学研究の新たな方向性を意味しており、本邦でも関心をもつ研究者が増えてきています。この講義では、ポジティブ心理学の多様な研究領域をとりあげ、どのような研究が行われてきたか解説します。特に前半では、パーソナリティ心理学、社会心理学、感情心理学などとの関連に焦点をあて、後半では応用的な研究の方向性について説明したいと思います。				
◆ 到達目標	1) ポジティブ心理学研究とは何か、どう発展してきたかについて説明できる 2) ポジティブ心理学研究の多様な研究領域と特色について理解する 3) ポジティブ心理学と、パーソナリティ心理学、社会心理学、感情心理学との関連について説明できる 4) ポジティブ心理学の応用的側面について理解する				
◆ 授業内容・方法	1. ポジティブ心理学とは何か 2. ウェル・ビーイング研究の展開 3. ウェル・ビーイングの特性的基盤 (パーソナリティ心理学との関連 1) 4. ウェル・ビーイングの進化・生物学的基盤 (パーソナリティ心理学との関連 2) 5. ウェル・ビーイングへの認知的アプローチ (パーソナリティ心理学との関連 3) 6. ポジティブ感情の機能 (感情心理学との関連 1) 7. ポジティブな活動体験 (感情心理学との関連 2) 8. ポジティブな対人関係 (社会心理学との関連 1) 9. マインドニングの機能 (社会心理学との関連 2) 10. 社会的知性と知恵 (社会心理学との関連 3) 11. ポジティブ心理学と健康・リズリエンス 12. ポジティブ心理学と教育 13. ポジティブな社会・組織・環境 14. ポジティブ心理学的介入 15. ポジティブ心理学と文化心理学				
◇ 成績評価の方法	平常点 30% (コメントカードによる)、筆記試験 70%				
◇ 教科書・参考書	教科書 (堀毛一也「ポジティブな心の科学」サイエンス社 (2017冬出版予定) を利用する予定) 参考書：講義内で紹介します				
◇ 授業時間外学習	予習よりも復習を重視します。毎回パワーポイントの資料を毎回配布しますので、それをもとに学習を進め、前回の講義の内容をよく理解したうえで出席してください。				
その他：連絡先：kekehori@toyo.jp					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
心 理 学 各 論 Psychology (Special Lecture)	2	非常勤 講師 倉 元 直 樹	5	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PSY301J																				
◆ 授業題目	心理調査概論 (An Introduction to Psychological Research)																				
◆ 目的・概要	主として計量的な心理学の方法論として幅広く使われている質問紙法に基づく尺度を開発・自作する際に重要な理論について基礎から学ぶ。信頼性、妥当性といった概念の基礎となる古典的テスト理論と探索的因子分析を中心に測定法の基礎をんだ後、尺度構成の具体的な方法について習得する。																				
◆ 到達目標	調査法の背景にある測定理論の基礎的な理解と論文によく用いられる指標に関するリテラシー。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション (テーマ、および、教科書の紹介)</td> <td>内容的妥当性と測定モデル、信頼性と妥当性のジレンマ)</td> </tr> <tr> <td>2. はじめに (測定の定義、信頼性と妥当性、測定誤差、妥当性の諸概念 [補足資料: 参考書 (2)])</td> <td>9. 尺度構成法 (1) (因子分析の基礎概念: 単純構造と尺度の分類、因子軸の回転)</td> </tr> <tr> <td>3. 古典的テスト理論の基礎 (1) (妥当性と信頼性、信頼性のモデル、共分散、標準化、相関係数)</td> <td>10. 尺度構成法 (2) (因子分析モデルと古典的テスト理論、因子負荷量、因子得点、相関係数の構造)</td> </tr> <tr> <td>4. 古典的テスト理論の基礎 (2) (信頼性係数の定義、平行測定、信頼性係数の意味)</td> <td>11. 尺度構成法 (3) (共通性と信頼性係数、主成分分析と因子分析、固有値と因子、探索的因子分析の手順)</td> </tr> <tr> <td>5. 古典的テスト理論の基礎 (3) (並行測定と信頼性係数の推定、妥当性係数、信頼性と妥当性の関係、スピアマン=ブラウンの公式)</td> <td>12. 心理尺度作成の実際 (1) (心理学的構成概念の構築、インタビュー調査の基礎、発話プロトコルの分析、自由記述の分類)</td> </tr> <tr> <td>6. 信頼性の評価 (1) (再テスト法、平行テスト法、折半法、評定法による信頼性向上の原理)</td> <td>13. 心理尺度作成の実際 (2) (下位概念の整理、項目の作成、ワーディング、データ収集)</td> </tr> <tr> <td>7. 信頼性の評価 (2) (スピアマン=ブラウンの公式の一般化、α 信頼性係数とその意味)</td> <td>14. 心理尺度作成の実際 (3) (テスト法と調査法、項目分析の方法、通過率とIT相関、トレースライン)</td> </tr> <tr> <td>8. 信頼性の評価 (3) (内的整合性と測定誤差の仮定、KR20、</td> <td>15. 期末試験</td> </tr> </table>					1. イントロダクション (テーマ、および、教科書の紹介)	内容的妥当性と測定モデル、信頼性と妥当性のジレンマ)	2. はじめに (測定の定義、信頼性と妥当性、測定誤差、妥当性の諸概念 [補足資料: 参考書 (2)])	9. 尺度構成法 (1) (因子分析の基礎概念: 単純構造と尺度の分類、因子軸の回転)	3. 古典的テスト理論の基礎 (1) (妥当性と信頼性、信頼性のモデル、共分散、標準化、相関係数)	10. 尺度構成法 (2) (因子分析モデルと古典的テスト理論、因子負荷量、因子得点、相関係数の構造)	4. 古典的テスト理論の基礎 (2) (信頼性係数の定義、平行測定、信頼性係数の意味)	11. 尺度構成法 (3) (共通性と信頼性係数、主成分分析と因子分析、固有値と因子、探索的因子分析の手順)	5. 古典的テスト理論の基礎 (3) (並行測定と信頼性係数の推定、妥当性係数、信頼性と妥当性の関係、スピアマン=ブラウンの公式)	12. 心理尺度作成の実際 (1) (心理学的構成概念の構築、インタビュー調査の基礎、発話プロトコルの分析、自由記述の分類)	6. 信頼性の評価 (1) (再テスト法、平行テスト法、折半法、評定法による信頼性向上の原理)	13. 心理尺度作成の実際 (2) (下位概念の整理、項目の作成、ワーディング、データ収集)	7. 信頼性の評価 (2) (スピアマン=ブラウンの公式の一般化、 α 信頼性係数とその意味)	14. 心理尺度作成の実際 (3) (テスト法と調査法、項目分析の方法、通過率とIT相関、トレースライン)	8. 信頼性の評価 (3) (内的整合性と測定誤差の仮定、KR20、	15. 期末試験
1. イントロダクション (テーマ、および、教科書の紹介)	内容的妥当性と測定モデル、信頼性と妥当性のジレンマ)																				
2. はじめに (測定の定義、信頼性と妥当性、測定誤差、妥当性の諸概念 [補足資料: 参考書 (2)])	9. 尺度構成法 (1) (因子分析の基礎概念: 単純構造と尺度の分類、因子軸の回転)																				
3. 古典的テスト理論の基礎 (1) (妥当性と信頼性、信頼性のモデル、共分散、標準化、相関係数)	10. 尺度構成法 (2) (因子分析モデルと古典的テスト理論、因子負荷量、因子得点、相関係数の構造)																				
4. 古典的テスト理論の基礎 (2) (信頼性係数の定義、平行測定、信頼性係数の意味)	11. 尺度構成法 (3) (共通性と信頼性係数、主成分分析と因子分析、固有値と因子、探索的因子分析の手順)																				
5. 古典的テスト理論の基礎 (3) (並行測定と信頼性係数の推定、妥当性係数、信頼性と妥当性の関係、スピアマン=ブラウンの公式)	12. 心理尺度作成の実際 (1) (心理学的構成概念の構築、インタビュー調査の基礎、発話プロトコルの分析、自由記述の分類)																				
6. 信頼性の評価 (1) (再テスト法、平行テスト法、折半法、評定法による信頼性向上の原理)	13. 心理尺度作成の実際 (2) (下位概念の整理、項目の作成、ワーディング、データ収集)																				
7. 信頼性の評価 (2) (スピアマン=ブラウンの公式の一般化、 α 信頼性係数とその意味)	14. 心理尺度作成の実際 (3) (テスト法と調査法、項目分析の方法、通過率とIT相関、トレースライン)																				
8. 信頼性の評価 (3) (内的整合性と測定誤差の仮定、KR20、	15. 期末試験																				
◇ 成績評価の方法	出席 [40%程度]・討論参加 [20%程度]・期末試験 [40%程度]																				
◇ 教科書・参考書	(1)E. G. カーマイン・R. A. ツェラー著 (1983)『テストの信頼性と妥当性』、朝倉書店 (2)吉田寿夫編 (2006)『心理学研究法の新しいかたち』、誠信書房 (3)松尾太加志・中村知靖著 (2002)『誰も教えてくれなかった因子分析』、北大路書房 他																				
◇ 授業時間外学習	授業時間外に予習、復習を奨励する。小テストを行う場合がある。 受講者の理解度に応じて参考書を照会する場合がある。																				
その他 :																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
実 験 心 理 学 各 論 Experimental Psychology (Special Lecture)	2	教授 阿 部 恒 之	5	水	1																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PSY302J																				
◆ 授業題目	ストレスの社会生理心理学 (The Social Psychophysiology on Stress)																				
◆ 目的・概要	感情の変化を客観的に測定するためには厳密な条件統制が必要となる。しかし厳密な統制がなされた実験室内で、生き活きとした感情の生起を期待することはできない。社会的文脈の中で客観的な測定を行うことを目指した、社会生理心理学の研究事例を学ぶ。紹介する研究事例は、ストレスと化粧行為を題材としている。つながりが希薄に思えるこの2つの題材が、どのように結びつくのか。その筋道を追いながら、課題立案の重要性を理解して欲しい。授業は教科書に沿って、投影資料を多用して進める。																				
◆ 到達目標	社会生理心理学・生理心理学・感情心理学について理解を深める。また、謎から課題を立て、それを解決する研究の流れをつかみ、自ら研究を実施する力をつける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス 謎と課題</td> <td>9. 課題立案に関する討議 1</td> </tr> <tr> <td>2. 課題の立案</td> <td>10. 課題立案に関する討議 2</td> </tr> <tr> <td>3. ストレス研究史</td> <td>11. ストレスホルモンの分泌を促進する要因 1</td> </tr> <tr> <td>4. ストレスの生理</td> <td>12. ストレスホルモンの分泌を促進する要因 2</td> </tr> <tr> <td>5. 感情研究史ストレッサー</td> <td>13. 化粧の心理的効果 1</td> </tr> <tr> <td>6. 研究のパラダイムシフト</td> <td>14. 化粧の心理的効果 2</td> </tr> <tr> <td>7. 化粧の文化史 1</td> <td>15. 総まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 化粧の文化史 2</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス 謎と課題	9. 課題立案に関する討議 1	2. 課題の立案	10. 課題立案に関する討議 2	3. ストレス研究史	11. ストレスホルモンの分泌を促進する要因 1	4. ストレスの生理	12. ストレスホルモンの分泌を促進する要因 2	5. 感情研究史ストレッサー	13. 化粧の心理的効果 1	6. 研究のパラダイムシフト	14. 化粧の心理的効果 2	7. 化粧の文化史 1	15. 総まとめ	8. 化粧の文化史 2	
1. ガイダンス 謎と課題	9. 課題立案に関する討議 1																				
2. 課題の立案	10. 課題立案に関する討議 2																				
3. ストレス研究史	11. ストレスホルモンの分泌を促進する要因 1																				
4. ストレスの生理	12. ストレスホルモンの分泌を促進する要因 2																				
5. 感情研究史ストレッサー	13. 化粧の心理的効果 1																				
6. 研究のパラダイムシフト	14. 化粧の心理的効果 2																				
7. 化粧の文化史 1	15. 総まとめ																				
8. 化粧の文化史 2																					
◇ 成績評価の方法	期末レポート 60%、その他 40% (授業の進行に沿って課す小レポート)																				
◇ 教科書・参考書	授業において、以下の教科書を用いる。 阿部恒之 『ストレスと化粧の社会生理心理学』 フレグランスジャーナル社 ISBN978-4-89479-058-2																				
◇ 授業時間外学習	教科書の第1部 (課題の立案) は通読すること、第2部 (課題の解決) は授業後に当該箇所を復習することを推奨する。																				
その他 :																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 心 理 学 各 論 Social Psychology (Special Lecture)	2	非常勤 講師 福 野 光 輝	6	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PSY303J																				
◆ 授業題目	対人行動の社会心理学 (Social Psychology of Interpersonal Behavior)																				
◆ 目的・概要	本授業の目的は、対人場面における個人の心理と行動に関する諸問題を取りあげ、その代表的な理論と研究を批判的に検討することです。																				
◆ 到達目標	(1)対人行動を理解するための心理学的な知識と理論的枠組みを身につけること。 (2)既存の知見を批判的に検討できるようになること。 (3)現実社会の問題を、社会心理学的な観点から解釈できるようになること。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 意識と無意識</td> </tr> <tr> <td>2. 対人魅力</td> <td>10. 文化的自己観</td> </tr> <tr> <td>3. 援助と利他主義</td> <td>11. 主観的幸福観</td> </tr> <tr> <td>4. 攻撃と暴力</td> <td>12. 自己意識と自己概念</td> </tr> <tr> <td>5. 社会的交換 1</td> <td>13. 自己評価と自尊心</td> </tr> <tr> <td>6. 社会的交換 2</td> <td>14. 自己と動機づけ</td> </tr> <tr> <td>7. 公正</td> <td>15. 授業のまとめ 学期末試験</td> </tr> <tr> <td>8. ステレオタイプ</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 意識と無意識	2. 対人魅力	10. 文化的自己観	3. 援助と利他主義	11. 主観的幸福観	4. 攻撃と暴力	12. 自己意識と自己概念	5. 社会的交換 1	13. 自己評価と自尊心	6. 社会的交換 2	14. 自己と動機づけ	7. 公正	15. 授業のまとめ 学期末試験	8. ステレオタイプ	
1. オリエンテーション	9. 意識と無意識																				
2. 対人魅力	10. 文化的自己観																				
3. 援助と利他主義	11. 主観的幸福観																				
4. 攻撃と暴力	12. 自己意識と自己概念																				
5. 社会的交換 1	13. 自己評価と自尊心																				
6. 社会的交換 2	14. 自己と動機づけ																				
7. 公正	15. 授業のまとめ 学期末試験																				
8. ステレオタイプ																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験 (90%) とミニットペーパー (10%) で評価します。 また、授業でお願いする実験や調査に参加いただいた場合、試験得点に加点します。																				
◇ 教科書・参考書	使用しません。参考書は初回の授業で紹介します。																				
◇ 授業時間外学習	授業内容の理解を定着させるために、初回の授業で紹介する参考書をいくつか読むことをおすすめします。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
文 化 心 理 学 各 論 Cultural Psychology (Special Lecture)	2	准教授 辻 本 昌 弘	6	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PSY304J																				
◆ 授業題目	文化と人間行動 (Culture and Human Behavior)																				
◆ 目的・概要	文化により人間の行動や心理にどのような違いがみられるのだろうか。文化による違いはなぜ生じるのだろうか。異なる文化に接触したとき人間に何が生じるのだろうか。これらの問いを念頭に、この授業では、文化を研究主題にして成果をあげている心理学の理論と研究例を解説する。																				
◆ 到達目標	人間行動を文化と関連づけて分析する心理学の代表的な理論と研究例を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 文化について学ぶ意義</td> <td>9. 異文化接触の事例</td> </tr> <tr> <td>2. 基礎理論 ①：文化・進化・学習</td> <td>10. 文化変容の理論 ①</td> </tr> <tr> <td>3. 基礎理論 ②：心と文化の関係</td> <td>11. 文化変容の理論 ②</td> </tr> <tr> <td>4. 日本文化論</td> <td>12. 国民国家、エスニシティ、アイデンティティ</td> </tr> <tr> <td>5. 東洋と西洋の比較 ①</td> <td>13. 多文化主義</td> </tr> <tr> <td>6. 東洋と西洋の比較 ②</td> <td>14. 異文化の理解</td> </tr> <tr> <td>7. 適応論 ①：人類の進化</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 適応論 ②：心理学の研究例</td> <td></td> </tr> </table>					1. 文化について学ぶ意義	9. 異文化接触の事例	2. 基礎理論 ①：文化・進化・学習	10. 文化変容の理論 ①	3. 基礎理論 ②：心と文化の関係	11. 文化変容の理論 ②	4. 日本文化論	12. 国民国家、エスニシティ、アイデンティティ	5. 東洋と西洋の比較 ①	13. 多文化主義	6. 東洋と西洋の比較 ②	14. 異文化の理解	7. 適応論 ①：人類の進化	15. まとめ	8. 適応論 ②：心理学の研究例	
1. 文化について学ぶ意義	9. 異文化接触の事例																				
2. 基礎理論 ①：文化・進化・学習	10. 文化変容の理論 ①																				
3. 基礎理論 ②：心と文化の関係	11. 文化変容の理論 ②																				
4. 日本文化論	12. 国民国家、エスニシティ、アイデンティティ																				
5. 東洋と西洋の比較 ①	13. 多文化主義																				
6. 東洋と西洋の比較 ②	14. 異文化の理解																				
7. 適応論 ①：人類の進化	15. まとめ																				
8. 適応論 ②：心理学の研究例																					
◇ 成績評価の方法	レポート																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書を講義中に適宜紹介していく。																				
◇ 授業時間外学習	各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進めます。 毎回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておく必要があります。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
応 用 心 理 学 各 論 Applied Psychology (Special Lecture)	2	教授 坂 井 信 之	5	水	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-PSY305J				
◆ 授業題目	健康と幸福の応用心理学 (Special Topics on Health Psychology and well-being)				
◆ 目的・概要	健康と幸福の応用心理学この授業では、人間の幸福について、心理学・生物学的な観点から理解することを目的とする。始めに、心理学的に幸福をどのように測定するかという方法論について述べ、その後幸福感を支える生物学的基盤（遺伝や脳機能）について紹介する。次に幸福に関連する心理学・社会心理学的理論をいくつか紹介し、最後に幸福とは何かについて総合的に議論する。				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幸福感は、感覚に基づくボトムアップ的な知覚ではなく、認知・感情であることが理解できる 2. 人の幸福感を正確に測定するためには様々な方法があり、それらは一長一短であることが理解できる 3. 人の幸福感は人生のイベントや富などのみに依存するのではなく、人と外部刺激との相互作用によって決定することが理解できる 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 人の幸福感の測定法 3. それぞれの測定法の抱える問題 4. 感情の生物学的基盤 1 5. 感情の生物学的基盤 2 6. 学習と動機づけの生物学的基盤 1 7. 学習と動機づけの生物学的基盤 2 8. 気分と感情 9. 感情と快楽 10. 人の性格と主観的幸福感の関係 11. 幸福感の個人差 12. 社会的絆と幸福感 13. 幸福感を引き起こすもの 14. 幸福感の文化比較 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	最終試験・レポート [60%]、毎回の小レポート [40%]				
◇ 教科書・参考書	授業中に指定する				
◇ 授業時間外学習	毎回授業の内容に基づき、事後あるいは事前の小レポートの作成が必要となる。また、授業で扱うような知見がどのような心理学的研究から解明されてきたかという方法論を実体験してもらう場面を設定するので、授業の空き時間等にそれらの実験・調査へ参加することを求められることがある。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
実 験 心 理 学 演 習 Experimental Psychology (Seminar)	2	教授 行 場 次 朗	6	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHM-PSY307J				
◆ 授業題目	心理機能とその脳内基盤 (Psychological functions and brain science)				
◆ 目的・概要	この授業では、実験心理学的手法や神経科学的手法により明らかにされてきた感覚や認知、注意や感性に関する知見について、比較的基础的な文献を題材として、発表形式による演習を行うことにより、知識を深める。				
◆ 到達目標	精神機能の基盤となる感覚や認知、注意や感性に関する心理学的・神経科学的知見について理解を深める。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 感覚や認知、注意や感性に関する心理学的・神経科学的文献を題材として発表と討論 3. 感覚や認知、注意や感性に関する心理学的・神経科学的文献を題材として発表と討論 4. 感覚や認知、注意や感性に関する心理学的・神経科学的文献を題材として発表と討論 5. 感覚や認知、注意や感性に関する心理学的・神経科学的文献を題材として発表と討論 6. 感覚や認知、注意や感性に関する心理学的・神経科学的文献を題材として発表と討論 7. 感覚や認知、注意や感性に関する心理学的・神経科学的文献を題材として発表と討論 8. 感覚や認知、注意や感性に関する心理学的・神経科学的文献を題材として発表と討論 9. 感覚や認知、注意や感性に関する心理学的・神経科学的文献を題材として発表と討論 10. 感覚や認知、注意や感性に関する心理学的・神経科学的文献を題材として発表と討論 11. 感覚や認知、注意や感性に関する心理学的・神経科学的文献を題材として発表と討論 12. 感覚や認知、注意や感性に関する心理学的・神経科学的文献を題材として発表と討論 13. 感覚や認知、注意や感性に関する心理学的・神経科学的文献を題材として発表と討論 14. 感覚や認知、注意や感性に関する心理学的・神経科学的文献を題材として発表と討論 15. まとめと総合的討論 				
◇ 成績評価の方法	レポート (30%)・出席、発表、討論への参加 (70%)				
◇ 教科書・参考書	演習に使用するテキストは授業中に適宜、配布する。参考書は、関連するテーマごとに演習の中で紹介する。				
◇ 授業時間外学習	レポーターにあたった演習では、発表の概要を記したレジメを作成し、全員に配布することが必須となる。レポーターにあたっていなくとも質問や討論に積極的に参加するために、当該範囲の予習が必要である。				
その他：連絡先：gyoba@m.tohoku.ac.jp					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																								
社 会 心 理 学 演 習 Social Psychology (Seminar)	2	非常勤 講師 福 野 光 輝	5	金	4																								
◆ 科目ナンバリング	LHM-PSY308J																												
◆ 授業題目	社会心理学の重要研究 (Critical Issues in Social Psychology)																												
◆ 目的・概要	本演習の目的は、社会心理学の代表的な研究を多読し、社会行動を理解する視点を獲得することです。学術雑誌に掲載された研究にふれるなかで、社会心理学がどのような問題意識をもち、それにどう接近し、なにをあきらかにしてきたのかを考えます。																												
◆ 到達目標	(1)社会心理学の代表的な研究を検討し、社会行動を理解する理論的枠組みを獲得する。 (2)研究内容を批判的に吟味し、評価する技能を身につける。																												
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション：授業の進め方の確認と担当章の決定</td> <td>8. 発表と議論</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>2. 発表と議論</td> <td>9. 発表と議論</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>3. 発表と議論</td> <td>10. 発表と議論</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>4. 発表と議論</td> <td>11. 発表と議論</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>5. 発表と議論</td> <td>12. 発表と議論</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>6. 発表と議論</td> <td>13. 発表と議論</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>7. 発表と議論</td> <td>14. 発表と議論</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 発表と議論</td> <td>14</td> </tr> </table>					1. オリエンテーション：授業の進め方の確認と担当章の決定	8. 発表と議論	7	2. 発表と議論	9. 発表と議論	8	3. 発表と議論	10. 発表と議論	9	4. 発表と議論	11. 発表と議論	10	5. 発表と議論	12. 発表と議論	11	6. 発表と議論	13. 発表と議論	12	7. 発表と議論	14. 発表と議論	13		15. 発表と議論	14
1. オリエンテーション：授業の進め方の確認と担当章の決定	8. 発表と議論	7																											
2. 発表と議論	9. 発表と議論	8																											
3. 発表と議論	10. 発表と議論	9																											
4. 発表と議論	11. 発表と議論	10																											
5. 発表と議論	12. 発表と議論	11																											
6. 発表と議論	13. 発表と議論	12																											
7. 発表と議論	14. 発表と議論	13																											
	15. 発表と議論	14																											
◇ 成績評価の方法	予習課題の提出 (30%)、担当章の報告内容 (40%)、議論への参加 (30%) で評価します。																												
◇ 教科書・参考書	Frey, K. P., & Gregg, A. P. (in press) . Experiments with people: Revelations from social psychology (2nd ed.) . New York, NY : Psychology Press. 教科書の購入は必須ではありません。また第2版の内容が第1版とほぼ同じ場合には教科書を変更する可能性があります。																												
◇ 授業時間外学習	本演習では、予習に関する授業時間外学習が多くなります。各章の担当者は、内容を資料にまとめ報告します。その後、全員で質疑応答と議論を行います。 またこの演習では、発表者以外の参加者にも、毎回、予習課題を行っていただきます。発表者以外の参加者はその回で取りあげる2本の論文の要約をそれぞれ全訳するとともに、要約を読んで疑問に思ったことを書いて提出します。1回の演習で2章ずつ検討していきます。																												
その他：履修状況によって運営形態や発表回数が変更になることがあります。 初回の授業で運営形態および担当章について検討しますので、履修を希望する人は必ず出席してください。																													

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 心 理 学 演 習 Social Psychology (Seminar)	2	非常勤 講師 倉 元 直 樹	6	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PSY308J																				
◆ 授業題目	Fundamentals of Psychological Measurement (Fundamentals of Psychological Measurement)																				
◆ 目的・概要	量的方法論による心理学研究の方法論的基礎となる測定法の理論について基礎から学ぶ。古典的テスト理論 (Classical Test Theory) と項目反応理論 (Item Response Theory) を対比しながら、理念的な理解を深める。オーソドックスな輪講形式の演習スタイルを基本とするが、受講者の人数や希望によっては発展的な内容を加えたり、受講者が現在取り組んでいる研究を題材として取り交ぜる可能性も考慮する。時折、教科書の例題を基にレポートを課すことがある。英語論文の理解と執筆のために標準的な英語のテキストを選定しているが、受講者の希望によっては変更も可とする。																				
◆ 到達目標	心理学的測定論に基づく手法を使って実際に研究を行うためのデータ収集デザインを自力で構想することができるようになること。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション (テーマ、および、教科書の紹介)</td> <td>8. Item Response Theory (1) (Chapter 1-2: Basic Concepts and Models)</td> </tr> <tr> <td>2. Classical Test Theory (1) (Chapter 1-3: True Scores and Error Variances)</td> <td>9. Item Response Theory (2) (Chapter 3: Ability and Item Parameter Estimation)</td> </tr> <tr> <td>3. Classical Test Theory (2) (Chapter 4-5: Reliability Coefficient and Estimation)</td> <td>10. Item Response Theory (3) (Chapter 4: Assessments of Model-Data Fit)</td> </tr> <tr> <td>4. Classical Test Theory (3) (Chapter 6: Formulas for Estimating a Reliability Coefficient)</td> <td>11. Item Response Theory (4) (Chapter 5-6: The Ability Scale and Information Functions)</td> </tr> <tr> <td>5. Classical Test Theory (4) (Chapter 7: Factors Affecting the Reliability Coefficient)</td> <td>12. Item Response Theory (5) (Chapter 7-8: Item Construction and Bias)</td> </tr> <tr> <td>6. Classical Test Theory (5) (Chapter 8: Estimating the Standard Error of Measurement)</td> <td>13. Item Response Theory (6) (Chapter 9: Equating)</td> </tr> <tr> <td>7. Classical Test Theory (6) (Chapter 9: Reliability of Difference Scores)</td> <td>14. Item Response Theory (7) (Chapter 10: CAT)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ (心理学的測定論の展開)</td> </tr> </table>					1. イントロダクション (テーマ、および、教科書の紹介)	8. Item Response Theory (1) (Chapter 1-2: Basic Concepts and Models)	2. Classical Test Theory (1) (Chapter 1-3: True Scores and Error Variances)	9. Item Response Theory (2) (Chapter 3: Ability and Item Parameter Estimation)	3. Classical Test Theory (2) (Chapter 4-5: Reliability Coefficient and Estimation)	10. Item Response Theory (3) (Chapter 4: Assessments of Model-Data Fit)	4. Classical Test Theory (3) (Chapter 6: Formulas for Estimating a Reliability Coefficient)	11. Item Response Theory (4) (Chapter 5-6: The Ability Scale and Information Functions)	5. Classical Test Theory (4) (Chapter 7: Factors Affecting the Reliability Coefficient)	12. Item Response Theory (5) (Chapter 7-8: Item Construction and Bias)	6. Classical Test Theory (5) (Chapter 8: Estimating the Standard Error of Measurement)	13. Item Response Theory (6) (Chapter 9: Equating)	7. Classical Test Theory (6) (Chapter 9: Reliability of Difference Scores)	14. Item Response Theory (7) (Chapter 10: CAT)		15. まとめ (心理学的測定論の展開)
1. イントロダクション (テーマ、および、教科書の紹介)	8. Item Response Theory (1) (Chapter 1-2: Basic Concepts and Models)																				
2. Classical Test Theory (1) (Chapter 1-3: True Scores and Error Variances)	9. Item Response Theory (2) (Chapter 3: Ability and Item Parameter Estimation)																				
3. Classical Test Theory (2) (Chapter 4-5: Reliability Coefficient and Estimation)	10. Item Response Theory (3) (Chapter 4: Assessments of Model-Data Fit)																				
4. Classical Test Theory (3) (Chapter 6: Formulas for Estimating a Reliability Coefficient)	11. Item Response Theory (4) (Chapter 5-6: The Ability Scale and Information Functions)																				
5. Classical Test Theory (4) (Chapter 7: Factors Affecting the Reliability Coefficient)	12. Item Response Theory (5) (Chapter 7-8: Item Construction and Bias)																				
6. Classical Test Theory (5) (Chapter 8: Estimating the Standard Error of Measurement)	13. Item Response Theory (6) (Chapter 9: Equating)																				
7. Classical Test Theory (6) (Chapter 9: Reliability of Difference Scores)	14. Item Response Theory (7) (Chapter 10: CAT)																				
	15. まとめ (心理学的測定論の展開)																				
◇ 成績評価の方法	出席 [40%程度]・小テスト [20%程度]・発表及び討論参加 [60%程度]																				
◇ 教科書・参考書	(1)Traub, R. E. (1994). Reliability for the Social Sciences: Theory and Applications, Sage, Thousand Oaks, CA. (2)Hambleton, R. K., Swaminathan, H. and Rogers, H. J. (1991). Fundamentals of Item Response Theory. Sage, Newbury Park, CA.																				
◇ 授業時間外学習	担当者は教科書の該当部分を中心に発表準備を行い、レジュメとプレゼンテーションを作成する。 担当者以外の参加者は事前に教科書の該当部分を予習することが求められる。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
文 化 心 理 学 演 習 Cultural Psychology (Seminar)	2	准教授 辻 本 昌 弘	5	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PSY309J																				
◆ 授業題目	現代文化心理学の視角 (Perspectives of Cultural Psychology)																				
◆ 目的・概要	この授業では、文化心理学の英文文献を読解する。近年の文化心理学ではさまざまなテーマが研究されている。この授業の前半では、認知、自己、対人関係、集団過程などに関する文化心理学の近年の知見を学ぶ。後半では文化変容に関連する諸研究を詳しく検討する。受講生は、事前に英文文献を読み、関連図書調べて資料を準備し、授業では発表と討論を行う。																				
◆ 到達目標	1. 文化心理学の代表的な理論や知見を理解する。 2. 心理学の英文文献を読解する力を涵養する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス：授業の準備、発表、討論について</td> <td>9. 文化変容のプロセス</td> </tr> <tr> <td>2. 文化心理学の概観</td> <td>10. 文化変容の方略</td> </tr> <tr> <td>3. 文化と認知</td> <td>11. 文化変容と集団間関係</td> </tr> <tr> <td>4. 文化と自己</td> <td>12. 複数文化のアイデンティティ</td> </tr> <tr> <td>5. 文化と対人関係</td> <td>13. 多文化状況の心理的影響 ①</td> </tr> <tr> <td>6. 文化と集団過程</td> <td>14. 多文化状況の心理的影響 ②</td> </tr> <tr> <td>7. グローバル化の諸相</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 文化変容の概観</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス：授業の準備、発表、討論について	9. 文化変容のプロセス	2. 文化心理学の概観	10. 文化変容の方略	3. 文化と認知	11. 文化変容と集団間関係	4. 文化と自己	12. 複数文化のアイデンティティ	5. 文化と対人関係	13. 多文化状況の心理的影響 ①	6. 文化と集団過程	14. 多文化状況の心理的影響 ②	7. グローバル化の諸相	15. まとめ	8. 文化変容の概観	
1. ガイダンス：授業の準備、発表、討論について	9. 文化変容のプロセス																				
2. 文化心理学の概観	10. 文化変容の方略																				
3. 文化と認知	11. 文化変容と集団間関係																				
4. 文化と自己	12. 複数文化のアイデンティティ																				
5. 文化と対人関係	13. 多文化状況の心理的影響 ①																				
6. 文化と集団過程	14. 多文化状況の心理的影響 ②																				
7. グローバル化の諸相	15. まとめ																				
8. 文化変容の概観																					
◇ 成績評価の方法	出席 (50%)、発表と討論参加 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	とりあげる論文は授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	とりあげる論文を授業までに読み、十分に予習しておくことが必要である。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
応 用 心 理 学 演 習 Applied Psychology (Seminar)	2	教授 坂 井 信 之	6	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PSY310J																				
◆ 授業題目	食と健康の心理学 (Seminar on Applied Psychology (Eating and Health))																				
◆ 目的・概要	最初に与えられた文献 (健康や食行動に関する心理学・神経科学領域の専門書) を講読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。																				
◆ 到達目標	①心理学の知識をどのように応用すれば、人間の日常行動を理解し、諸問題を解決できるかについて、自分で考えることができる能力を身につけることができるようになる。 ②自分でまとめたことや自分の考えを他人にわかりやすく伝えることができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>8. 食行動への社会的影響</td> </tr> <tr> <td>2. 食べることの心理学：栄養-脳-行動</td> <td>9. 気分と食物、渴望、嗜癖</td> </tr> <tr> <td>3. 我々が食べる食物と三大栄養素</td> <td>10. 空腹感-満腹感と脳</td> </tr> <tr> <td>4. 化学感覚</td> <td>11. 食障害とその治療</td> </tr> <tr> <td>5. あなたはあなたが食べたものでできている： 進化-エネルギー-採餌行動</td> <td>12. 遺伝子、エピジェネティクス、肥満</td> </tr> <tr> <td>6. 食行動と学習プロセス</td> <td>13. 肥満の治療</td> </tr> <tr> <td>7. 食行動の発達</td> <td>14. これからの食</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ</td> </tr> </table>					1. 導入	8. 食行動への社会的影響	2. 食べることの心理学：栄養-脳-行動	9. 気分と食物、渴望、嗜癖	3. 我々が食べる食物と三大栄養素	10. 空腹感-満腹感と脳	4. 化学感覚	11. 食障害とその治療	5. あなたはあなたが食べたものでできている： 進化-エネルギー-採餌行動	12. 遺伝子、エピジェネティクス、肥満	6. 食行動と学習プロセス	13. 肥満の治療	7. 食行動の発達	14. これからの食		15. まとめ
1. 導入	8. 食行動への社会的影響																				
2. 食べることの心理学：栄養-脳-行動	9. 気分と食物、渴望、嗜癖																				
3. 我々が食べる食物と三大栄養素	10. 空腹感-満腹感と脳																				
4. 化学感覚	11. 食障害とその治療																				
5. あなたはあなたが食べたものでできている： 進化-エネルギー-採餌行動	12. 遺伝子、エピジェネティクス、肥満																				
6. 食行動と学習プロセス	13. 肥満の治療																				
7. 食行動の発達	14. これからの食																				
	15. まとめ																				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験・(○) リポート [40%]・() 出席 (○) その他 (発表態度) [60%]																				
◇ 教科書・参考書	授業時に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	事前：指定された文献の担当部分をパワーポイントなどを使って他の履修者に説明できるように理解しておく。発表の担当者でない授業の前には予め指示された項目について簡単な予習しておく。 事後：発表中の質疑に応じて、パワーポイントなどの資料を改訂する。																				
その他：何か質問があれば、電子メール (nob_sakai@m.tohoku.ac.jp) で問い合わせるか、電子メールで予約をした上で、研究室に質問にくること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
心 理 学 研 究 法 Psychology (Research Method)	2	教授 阿部 恒之・行場 次朗・坂井 信之 准教授 辻本 昌弘	5	火	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PSY311J																				
◆ 授業題目	心理学個別テーマ研究法Ⅰ (Individual Thematic Study on Psychology Ⅰ)																				
◆ 目的・概要	心理学基礎実験、その他の心理学関連の講義・演習などで習得した実験・調査の技法に関する知識をもとに、受講生自身が教員の指導のもとに研究テーマと計画を立案し、実験や調査を行い、データの収集と分析を試みる。卒業研究に進むために是非とも履修することが望ましい。																				
◆ 到達目標	心理学の研究法を実践的に学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width:50%;">9. 実験・調査の実施 2</td> </tr> <tr> <td>2. 研究テーマの選定 1</td> <td>10. 実験・調査の実施 3</td> </tr> <tr> <td>3. 研究テーマの選定 2</td> <td>11. 実験・調査の実施 4</td> </tr> <tr> <td>4. 理論と方法の学習 1</td> <td>12. データの分析 1</td> </tr> <tr> <td>5. 理論と方法の学習 2</td> <td>13. データの分析 2</td> </tr> <tr> <td>6. 研究計画の立案 1</td> <td>14. レポート作成 1</td> </tr> <tr> <td>7. 研究計画の立案 2</td> <td>15. レポート作成 2</td> </tr> <tr> <td>8. 実験・調査の実施 1</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 実験・調査の実施 2	2. 研究テーマの選定 1	10. 実験・調査の実施 3	3. 研究テーマの選定 2	11. 実験・調査の実施 4	4. 理論と方法の学習 1	12. データの分析 1	5. 理論と方法の学習 2	13. データの分析 2	6. 研究計画の立案 1	14. レポート作成 1	7. 研究計画の立案 2	15. レポート作成 2	8. 実験・調査の実施 1	
1. ガイダンス	9. 実験・調査の実施 2																				
2. 研究テーマの選定 1	10. 実験・調査の実施 3																				
3. 研究テーマの選定 2	11. 実験・調査の実施 4																				
4. 理論と方法の学習 1	12. データの分析 1																				
5. 理論と方法の学習 2	13. データの分析 2																				
6. 研究計画の立案 1	14. レポート作成 1																				
7. 研究計画の立案 2	15. レポート作成 2																				
8. 実験・調査の実施 1																					
◇ 成績評価の方法	出席 (30%)、レポート (70%)																				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業時に文献検討や実験・調査について指示を出すので、指定の期日までに行うこと。																				
履修は、原則として心理学基礎実験を履修済みの心理学専修の学生に限る。 その他：前セメスターの心理学研究法 (心理学個別テーマ研究法Ⅱ) と連続履修すること。 なお上記の授業計画はおおよその目安であり、教員の指示のもとに研究を進めること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
心 理 学 研 究 法 Psychology (Research Method)	2	教授 阿部 恒之・行場 次朗・坂井 信之 准教授 辻本 昌弘	6	火	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PSY311J																				
◆ 授業題目	心理学個別テーマ研究法Ⅱ (Individual Thematic Study on Psychology Ⅱ)																				
◆ 目的・概要	心理学基礎実験、その他の心理学関連の講義・演習などで習得した実験・調査の技法に関する知識をもとに、受講生自身が教員の指導のもとに研究テーマと計画を立案し、実験や調査を行い、データの収集と分析を試みる。卒業研究に進むために是非とも履修することが望ましい。																				
◆ 到達目標	心理学の研究法を実践的に学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width:50%;">9. 実験・調査の実施 2</td> </tr> <tr> <td>2. 研究テーマの選定 1</td> <td>10. 実験・調査の実施 3</td> </tr> <tr> <td>3. 研究テーマの選定 2</td> <td>11. 実験・調査の実施 4</td> </tr> <tr> <td>4. 理論と方法の学習 1</td> <td>12. データの分析 1</td> </tr> <tr> <td>5. 理論と方法の学習 2</td> <td>13. データの分析 2</td> </tr> <tr> <td>6. 研究計画の立案 1</td> <td>14. レポート作成 1</td> </tr> <tr> <td>7. 研究計画の立案 2</td> <td>15. レポート作成 2</td> </tr> <tr> <td>8. 実験・調査の実施 1</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 実験・調査の実施 2	2. 研究テーマの選定 1	10. 実験・調査の実施 3	3. 研究テーマの選定 2	11. 実験・調査の実施 4	4. 理論と方法の学習 1	12. データの分析 1	5. 理論と方法の学習 2	13. データの分析 2	6. 研究計画の立案 1	14. レポート作成 1	7. 研究計画の立案 2	15. レポート作成 2	8. 実験・調査の実施 1	
1. ガイダンス	9. 実験・調査の実施 2																				
2. 研究テーマの選定 1	10. 実験・調査の実施 3																				
3. 研究テーマの選定 2	11. 実験・調査の実施 4																				
4. 理論と方法の学習 1	12. データの分析 1																				
5. 理論と方法の学習 2	13. データの分析 2																				
6. 研究計画の立案 1	14. レポート作成 1																				
7. 研究計画の立案 2	15. レポート作成 2																				
8. 実験・調査の実施 1																					
◇ 成績評価の方法	出席 (30%)、レポート (70%)																				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業時に文献検討や実験・調査について指示を出すので、指定の期日までに行うこと。																				
履修は、原則として心理学基礎実験を履修済みの心理学専修の学生に限る。 その他：前セメスターの心理学研究法 (心理学個別テーマ研究法Ⅰ) と連続履修すること。 なお上記の授業計画はおおよその目安であり、教員の指示のもとに研究を進めること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 概 論 Cultural Anthropology (General Lecture)	2	教 授 沼 崎 一 郎	3	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-CUA201J																				
◆ 授業題目	文化相対主義 (Cultural Relataivism)																				
◆ 目的・概要	アメリカ人類学の中心的な思想のひとつである文化相対主義について、その歴史的な変遷を丁寧にたどることで、文化人類学の歴史に触れ、学問と社会の関わりについて考えることを目的とする。重要な人類学者の代表的な著作を取り上げ、そのテキストを精密に解釈するという作業を通して、重要な概念の成立と変容を学説史的にたどり、その概念を深く理解するという、人文社会科学を学ぶ上でもっとも大切な学問的態度とはどういうものかを味わってほしい。																				
◆ 到達目標	また、メモを取りながら講義を聞き、個人で復習しながら、あるいは友人たちと議論しながら、精密な講義ノートを作成するという体験を通して、講義を通した学びの方法というものを身に付けてほしい。 (1)学説的に概念を学ぶという、人文社会科学の基本的な学問的態度を身に付ける (2)講義メモの取り方と講義ノートの作り方を習得する (3)論述試験に慣れる																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. はじめに 講義内容と方法の説明</td> <td>9. メルヴィル・ハースコヴィッツ (1): 判断の相対性</td> </tr> <tr> <td>2. 背景 1 Culture、Kultur、文化という言葉</td> <td>10. メルヴィル・ハースコヴィッツ (2): 批判と応答</td> </tr> <tr> <td>3. 背景 2 相対と絶対、特殊と普遍</td> <td>11. クライド・クラックホーン: 価値と倫理の相対性</td> </tr> <tr> <td>4. 背景 3 アメリカ史とアメリカ人類学</td> <td>12. デイヴィッド・シュナイダー: 意味体系の相対性</td> </tr> <tr> <td>5. フランツ・ポアズ: 文明の相対性</td> <td>13. クリフォード・ギアツ: 意味解釈の相対性</td> </tr> <tr> <td>6. アラン・ロック: 文化の相対性</td> <td>14. ポスト文化相対主義?</td> </tr> <tr> <td>7. ルース・ベネディクト (1): 逸脱と異常の相対性</td> <td>15. 学期末試験</td> </tr> <tr> <td>8. ルース・ベネディクト (2): 文化の前提の相対性</td> <td></td> </tr> </table>					1. はじめに 講義内容と方法の説明	9. メルヴィル・ハースコヴィッツ (1): 判断の相対性	2. 背景 1 Culture、Kultur、文化という言葉	10. メルヴィル・ハースコヴィッツ (2): 批判と応答	3. 背景 2 相対と絶対、特殊と普遍	11. クライド・クラックホーン: 価値と倫理の相対性	4. 背景 3 アメリカ史とアメリカ人類学	12. デイヴィッド・シュナイダー: 意味体系の相対性	5. フランツ・ポアズ: 文明の相対性	13. クリフォード・ギアツ: 意味解釈の相対性	6. アラン・ロック: 文化の相対性	14. ポスト文化相対主義?	7. ルース・ベネディクト (1): 逸脱と異常の相対性	15. 学期末試験	8. ルース・ベネディクト (2): 文化の前提の相対性	
1. はじめに 講義内容と方法の説明	9. メルヴィル・ハースコヴィッツ (1): 判断の相対性																				
2. 背景 1 Culture、Kultur、文化という言葉	10. メルヴィル・ハースコヴィッツ (2): 批判と応答																				
3. 背景 2 相対と絶対、特殊と普遍	11. クライド・クラックホーン: 価値と倫理の相対性																				
4. 背景 3 アメリカ史とアメリカ人類学	12. デイヴィッド・シュナイダー: 意味体系の相対性																				
5. フランツ・ポアズ: 文明の相対性	13. クリフォード・ギアツ: 意味解釈の相対性																				
6. アラン・ロック: 文化の相対性	14. ポスト文化相対主義?																				
7. ルース・ベネディクト (1): 逸脱と異常の相対性	15. 学期末試験																				
8. ルース・ベネディクト (2): 文化の前提の相対性																					
◇ 成績評価の方法	講義ノート提出 (50%) 論述試験 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書 有賀夏紀『アメリカの20世紀』(上)(下)中公新書 参考書 教室で適宜指示する																				
◇ 授業時間外学習	(1)教科書を通読し、本講義の背景となるアメリカ史についての概略的な知識を得る (2)個人で、または友人と協力して、精密な講義ノートを作成する																				
その他: 授業中に、電子辞書、ノートPC (タブレット) 等を利用することを推奨する。 講義予定は、諸般の事情により変更することもありうる。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 概 論 Cultural Anthropology (General Lecture)	2	教 授 沼 崎 一 郎	4	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-CUA201J																				
◆ 授業題目	文化進化主義の誕生—ルイス・ヘンリー・モルガンと初期アメリカ民族学																				
◆ 目的・概要	(The Birth of Cultural Evolutionism: Louis Henry Morgan and Early American Ethnology) アメリカ人類学の中心的な思想のひとつである文化進化主義について、その歴史的な変遷を丁寧にたどることで、文化人類学の歴史に触れ、学問と社会の関わりについて考えることを目的とする。今セメスターは、19世紀の流れを概観する。重要な人類学者の代表的な著作を取り上げ、そのテキストを精密に解釈するという作業を通して、重要な概念の成立と変容を学説史的にたどり、その概念を深く理解するという、人文社会科学を学ぶ上でもっとも大切な学問的態度とはどういうものかを味わってほしい。																				
◆ 到達目標	また、メモを取りながら講義を聞き、個人で復習しながら、あるいは友人たちと議論しながら、精密な講義ノートを作成するという体験を通して、講義を通した学びの方法というものを身に付けてほしい。 (1)学説的に概念を学ぶという、人文社会科学の基本的な学問的態度を身に付ける (2)講義メモの取り方と講義ノートの作り方を習得する (3)論述試験に慣れる																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入 授業方法の説明</td> <td>9. 親族名称と親族体系の比較研究 (1)</td> </tr> <tr> <td>2. 背景 1 19世紀の進化思想 (1) コントとスペンサー</td> <td>10. 親族名称と親族体系の比較研究 (2)</td> </tr> <tr> <td>3. 背景 2 19世紀の進化思想 (2) ダーウィン</td> <td>11. 『古代社会』における進化思想 (1)</td> </tr> <tr> <td>4. 背景 3 19世紀アメリカの歴史</td> <td>12. 『古代社会』における進化思想 (2)</td> </tr> <tr> <td>5. 背景 4 19世紀アメリカの先住民社会と民族学</td> <td>13. 『古代社会』における進化思想 (3)</td> </tr> <tr> <td>6. ルイス・ヘンリー・モルガン: 人と業績</td> <td>14. モルガンとアメリカ民族学</td> </tr> <tr> <td>7. イロコイ同盟の民族誌 (1)</td> <td>15. 学期末試験</td> </tr> <tr> <td>8. イロコイ同盟の民族誌 (2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入 授業方法の説明	9. 親族名称と親族体系の比較研究 (1)	2. 背景 1 19世紀の進化思想 (1) コントとスペンサー	10. 親族名称と親族体系の比較研究 (2)	3. 背景 2 19世紀の進化思想 (2) ダーウィン	11. 『古代社会』における進化思想 (1)	4. 背景 3 19世紀アメリカの歴史	12. 『古代社会』における進化思想 (2)	5. 背景 4 19世紀アメリカの先住民社会と民族学	13. 『古代社会』における進化思想 (3)	6. ルイス・ヘンリー・モルガン: 人と業績	14. モルガンとアメリカ民族学	7. イロコイ同盟の民族誌 (1)	15. 学期末試験	8. イロコイ同盟の民族誌 (2)	
1. 導入 授業方法の説明	9. 親族名称と親族体系の比較研究 (1)																				
2. 背景 1 19世紀の進化思想 (1) コントとスペンサー	10. 親族名称と親族体系の比較研究 (2)																				
3. 背景 2 19世紀の進化思想 (2) ダーウィン	11. 『古代社会』における進化思想 (1)																				
4. 背景 3 19世紀アメリカの歴史	12. 『古代社会』における進化思想 (2)																				
5. 背景 4 19世紀アメリカの先住民社会と民族学	13. 『古代社会』における進化思想 (3)																				
6. ルイス・ヘンリー・モルガン: 人と業績	14. モルガンとアメリカ民族学																				
7. イロコイ同盟の民族誌 (1)	15. 学期末試験																				
8. イロコイ同盟の民族誌 (2)																					
◇ 成績評価の方法	講義ノート提出 (50%) 論述試験 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	野村達朗『大陸国家アメリカの展開』山川出版社 (世界史リブレット) 内井惣七『ダーウィンの思想』岩波新書																				
◇ 授業時間外学習	(1)教科書を通読し、本講義の背景となるアメリカ史についての概略的な知識を得る (2)個人で、または友人と協力して、精密な講義ノートを作成する																				
その他: 授業中に、電子辞書、ノートPC (タブレット) 等を利用することを推奨する。 講義予定は、諸般の事情により変更することもありうる。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 基 礎 講 読 Cultural Anthropology (Introductory Reading)	2	教授 沼 崎 一 郎	3	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-CUA202J																				
◆ 授業題目	ジェンダー人類学入門 (Introduction to the Anthropology of Gender)																				
◆ 目的・概要	ジェンダー人類学の民族誌的事例を初學者向けに紹介した英文テキストを読み、英文読解力の向上と、ジェンダー人類学の理論の初歩的理解を目指す。 受講生は、毎回3ページ程度予習して授業に臨み、順番に訳文を発表する。そのうえで、内容について討議する。																				
◆ 到達目標	(1)英文読解力を養う。 (2)ジェンダー人類学の理論の基礎と民族誌的事例を学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入 授業方法の説明</td> <td>9. Chapter Two: Hijra and Sadin, 39-42.</td> </tr> <tr> <td>2. Introduction, 1-3.</td> <td>10. Chapter Three: Men and Not-Men, 43-45.</td> </tr> <tr> <td>3. Introduction, 4-6.</td> <td>11. Chapter Three: Men and Not-Men, 43-45.</td> </tr> <tr> <td>4. Introduction, 7-10.</td> <td>12. Chapter Three: Men and Not-Men, 46-48.</td> </tr> <tr> <td>5. Chapter Two: Hijra and Sadin, 27-29.</td> <td>13. Chapter Three: Men and Not-Men, 49-51.</td> </tr> <tr> <td>6. Chapter Two: Hijra and Sadin, 30-32.</td> <td>14. Chapter Three: Men and Not-Men, 51-53.</td> </tr> <tr> <td>7. Chapter Two: Hijra and Sadin, 33-35.</td> <td>15. Chapter Three: Men and Not-Men, 54-56.</td> </tr> <tr> <td>8. Chapter Two: Hijra and Sadin, 36-38.</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入 授業方法の説明	9. Chapter Two: Hijra and Sadin, 39-42.	2. Introduction, 1-3.	10. Chapter Three: Men and Not-Men, 43-45.	3. Introduction, 4-6.	11. Chapter Three: Men and Not-Men, 43-45.	4. Introduction, 7-10.	12. Chapter Three: Men and Not-Men, 46-48.	5. Chapter Two: Hijra and Sadin, 27-29.	13. Chapter Three: Men and Not-Men, 49-51.	6. Chapter Two: Hijra and Sadin, 30-32.	14. Chapter Three: Men and Not-Men, 51-53.	7. Chapter Two: Hijra and Sadin, 33-35.	15. Chapter Three: Men and Not-Men, 54-56.	8. Chapter Two: Hijra and Sadin, 36-38.	
1. 導入 授業方法の説明	9. Chapter Two: Hijra and Sadin, 39-42.																				
2. Introduction, 1-3.	10. Chapter Three: Men and Not-Men, 43-45.																				
3. Introduction, 4-6.	11. Chapter Three: Men and Not-Men, 43-45.																				
4. Introduction, 7-10.	12. Chapter Three: Men and Not-Men, 46-48.																				
5. Chapter Two: Hijra and Sadin, 27-29.	13. Chapter Three: Men and Not-Men, 49-51.																				
6. Chapter Two: Hijra and Sadin, 30-32.	14. Chapter Three: Men and Not-Men, 51-53.																				
7. Chapter Two: Hijra and Sadin, 33-35.	15. Chapter Three: Men and Not-Men, 54-56.																				
8. Chapter Two: Hijra and Sadin, 36-38.																					
◇ 成績評価の方法	毎回の授業での訳文の口頭発表と修正 (50%) 筆記試験 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	Serena Nanda, Gender Diversity: Cross-Cultural Variations, 2nd edition, Waveland, 2014.																				
◇ 授業時間外学習	毎回、3ページ分の訳文を準備し、OneDriveの所定のフォルダにアップロードしておく。 授業での討議を踏まえて、自分の訳文を修正する。																				
その他：人名や専門用語、民族名などについては、英語辞書だけでなく、各種事典を使って、最適の訳語を見つける癖をつけて欲しい。 英語を「使って」専門を学ぶという態度を身につけよう！																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 基 礎 講 読 Cultural Anthropology (Introductory Reading)	2	准教授 川 口 幸 大	4	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-CUA202J																				
◆ 授業題目	現代人類学入門 (Cultural Anthropology (Introductory Reading))																				
◆ 目的・概要	前期に引き続き、現代人類学の理論と方法とを初學者向けに紹介した英文テキストを読み、英文読解力の向上と、人類学の理論と方法の初歩的理解を目指す。 受講生は、毎回6～7ページ程度予習して授業に臨み、順番に各段落の要約を発表する。そのうえで、内容について討議する。																				
◆ 到達目標	(1)英文読解力を養う。 (2)人類学の理論と方法の基礎を学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入 授業方法の説明</td> <td>9. 経済</td> </tr> <tr> <td>2. 人類学の歴史</td> <td>10. エスニシティ</td> </tr> <tr> <td>3. 文化とは</td> <td>11. 移動とグローバリゼーション</td> </tr> <tr> <td>4. 家族親族</td> <td>12. 観光</td> </tr> <tr> <td>5. 結婚</td> <td>13. フィールドワークと民族誌</td> </tr> <tr> <td>6. 性</td> <td>14. 人類学と社会</td> </tr> <tr> <td>7. 宗教</td> <td>15. 総合討論</td> </tr> <tr> <td>8. 儀礼</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入 授業方法の説明	9. 経済	2. 人類学の歴史	10. エスニシティ	3. 文化とは	11. 移動とグローバリゼーション	4. 家族親族	12. 観光	5. 結婚	13. フィールドワークと民族誌	6. 性	14. 人類学と社会	7. 宗教	15. 総合討論	8. 儀礼	
1. 導入 授業方法の説明	9. 経済																				
2. 人類学の歴史	10. エスニシティ																				
3. 文化とは	11. 移動とグローバリゼーション																				
4. 家族親族	12. 観光																				
5. 結婚	13. フィールドワークと民族誌																				
6. 性	14. 人類学と社会																				
7. 宗教	15. 総合討論																				
8. 儀礼																					
◇ 成績評価の方法	英文要約の口頭発表と授業での討議 (50%) 学期末の要約ノート提出 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する																				
◇ 授業時間外学習	毎週、6～7頁ほどの英文を読んで、要約ノートを準備する。授業後は、授業での討議を踏まえて、要約ノートを修正する。 毎回、授業前に指定されたグループで集まり、学生同士で疑問点を整理しておく。																				
その他：人名や専門用語、民族名などについては、英語辞書だけでなく、各種事典を使って、最適の訳語を見つける癖をつけて欲しい。 英語を「使って」専門を学ぶという態度を身につけよう！																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 基 礎 演 習 Cultural Anthropology (Introductory Seminar)	2	准教授 川口幸大	3	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-CUA203J																				
◆ 授業題目	専門文献読解1 (Cultural Anthropology (Introductory Seminar))																				
◆ 目的・概要	文化人類学には、いくつかの代表的な理論や方法論がある（機能主義、構造主義、ジェンダー論、開発人類学など）。 この授業では、①まず基本文献の精読を通してそれらについての概括的な知識を得、②各理論をもとに書かれた代表的な民族誌を読み解くことで、③文化人類学の理論と民族誌研究とはどのようなものかを学んでゆく。																				
◆ 到達目標	専門文献の講読を通して、文化人類学の理論と知見について学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. イントロダクション</td> <td style="width:50%;">9. 環境人類学</td> </tr> <tr> <td>2. 文化人類学の練習問題</td> <td>10. 医療・身体論</td> </tr> <tr> <td>3. 文化進化論+文化伝播主義</td> <td>11. ジェンダー論</td> </tr> <tr> <td>4. 文化相対主義</td> <td>12. 開発論</td> </tr> <tr> <td>5. 機能主義</td> <td>13. 観光人類学</td> </tr> <tr> <td>6. 構造主義</td> <td>14. 多文化主義論</td> </tr> <tr> <td>7. 象徴人類学+解釈人類学</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. エスニシティ論</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 環境人類学	2. 文化人類学の練習問題	10. 医療・身体論	3. 文化進化論+文化伝播主義	11. ジェンダー論	4. 文化相対主義	12. 開発論	5. 機能主義	13. 観光人類学	6. 構造主義	14. 多文化主義論	7. 象徴人類学+解釈人類学	15. まとめ	8. エスニシティ論	
1. イントロダクション	9. 環境人類学																				
2. 文化人類学の練習問題	10. 医療・身体論																				
3. 文化進化論+文化伝播主義	11. ジェンダー論																				
4. 文化相対主義	12. 開発論																				
5. 機能主義	13. 観光人類学																				
6. 構造主義	14. 多文化主義論																				
7. 象徴人類学+解釈人類学	15. まとめ																				
8. エスニシティ論																					
◇ 成績評価の方法	レポート [40%]、出席 [20%]、その他（授業時の口頭発表と議論参加） [40%]																				
◇ 教科書・参考書	綾部恒雄編『文化人類学20の理論』弘文堂。 他の文献については授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の授業についての予習ノートの作成																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 基 礎 演 習 Cultural Anthropology (Introductory Seminar)	2	准教授 川口幸大	4	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-CUA203J																				
◆ 授業題目	文化人類学の視野と思考 (Cultural Anthropology (Introductory Seminar))																				
◆ 目的・概要	後期の授業では、自分の関心のあるテーマを選択し、前期で扱った理論をもとにしてそれについて考え、最終的にレポートを作成する。 具体的には、自分のテーマ探求の進捗状況を報告し、出席者がそれについて質問し、意見を述べ、皆で議論する。テーマの構想発表→中間報告→最終報告→レポート執筆という流れになる。 これと平行して、ある主題・対象を特定の理論で分析した著作・論文を講読し、研究の進め方・まとめ方について学ぶ（研究を読む／考える※1）。また、映画やドキュメンタリーなどを鑑賞し、人類学的な視点からの分析的なレポートを記述する企画も随時行う																				
◆ 到達目標	文化人類学の諸研究領域についての主要な概念や関心の動向を学びながら、自身の問題関心にそった主題についてのレポートを作成する。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. イントロダクション</td> <td style="width:50%;">9. 中間発表 ①</td> </tr> <tr> <td>2. 研究構想の発表</td> <td>10. 中間発表 ②</td> </tr> <tr> <td>3. 研究を読む／考える ①</td> <td>11. 研究を読む／考える ⑤</td> </tr> <tr> <td>4. 研究を読む／考える ②</td> <td>12. 研究を読む／考える ⑥</td> </tr> <tr> <td>5. 進捗状況の一次発表 ①</td> <td>13. 最終発表①</td> </tr> <tr> <td>6. 進捗状況の一次発表 ②</td> <td>14. 最終発表②</td> </tr> <tr> <td>7. 研究を読む／考える ③</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 研究を読む／考える ④</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 中間発表 ①	2. 研究構想の発表	10. 中間発表 ②	3. 研究を読む／考える ①	11. 研究を読む／考える ⑤	4. 研究を読む／考える ②	12. 研究を読む／考える ⑥	5. 進捗状況の一次発表 ①	13. 最終発表①	6. 進捗状況の一次発表 ②	14. 最終発表②	7. 研究を読む／考える ③	15. まとめ	8. 研究を読む／考える ④	
1. イントロダクション	9. 中間発表 ①																				
2. 研究構想の発表	10. 中間発表 ②																				
3. 研究を読む／考える ①	11. 研究を読む／考える ⑤																				
4. 研究を読む／考える ②	12. 研究を読む／考える ⑥																				
5. 進捗状況の一次発表 ①	13. 最終発表①																				
6. 進捗状況の一次発表 ②	14. 最終発表②																				
7. 研究を読む／考える ③	15. まとめ																				
8. 研究を読む／考える ④																					
◇ 成績評価の方法	発表・議論参加 [40%]、出席 [20%]、最終レポート [40%]																				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	文献の探索と講読。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 各 論 Cultural Anthropology (Special Lecture)	2	准教授 川口幸大	5	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-CUA301J																				
◆ 授業題目	東アジアの文化人類学 (Cultural Anthropology of East Asia)																				
◆ 目的・概要	東アジア諸地域の具体的な事例から文化人類学についての考え方を学ぶ。																				
◆ 到達目標	文化人類学の相対的な視野と思考、および代表的な主題についての知識を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. エスニシティ</td> </tr> <tr> <td>2. 文化人類学とは</td> <td>10. 移民</td> </tr> <tr> <td>3. フィールドワーク</td> <td>11. トランスナショナリズム</td> </tr> <tr> <td>4. 家族と親族</td> <td>12. 多文化共生</td> </tr> <tr> <td>5. 宗教</td> <td>13. 観光</td> </tr> <tr> <td>6. ジェンダーとセクシュアリティ</td> <td>14. 経済</td> </tr> <tr> <td>7. 社会関係</td> <td>15. 人類学の応用</td> </tr> <tr> <td>8. 植民地主義</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. エスニシティ	2. 文化人類学とは	10. 移民	3. フィールドワーク	11. トランスナショナリズム	4. 家族と親族	12. 多文化共生	5. 宗教	13. 観光	6. ジェンダーとセクシュアリティ	14. 経済	7. 社会関係	15. 人類学の応用	8. 植民地主義	
1. イントロダクション	9. エスニシティ																				
2. 文化人類学とは	10. 移民																				
3. フィールドワーク	11. トランスナショナリズム																				
4. 家族と親族	12. 多文化共生																				
5. 宗教	13. 観光																				
6. ジェンダーとセクシュアリティ	14. 経済																				
7. 社会関係	15. 人類学の応用																				
8. 植民地主義																					
◇ 成績評価の方法	出席・授業参加 [30%]、発表 [20%]、レポート [50%]																				
◇ 教科書・参考書	『東アジアで学ぶ文化人類学』上水流久彦・川口幸大・太田心平・尾崎孝宏(編)、2017年、昭和堂																				
◇ 授業時間外学習	テキストを読んでノートにまとめ、発表者への質問・コメントの準備をする。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 各 論 Cultural Anthropology (Special Lecture)	2	非常勤講師 宮本万里	集 中 (5)																		
◆ 科目ナンバリング	LHM-CUA301J																				
◆ 授業題目	現代ブータン研究 (Contemporary Bhutan Studies)																				
◆ 目的・概要	近代化政策導入以降のブータンの政治と社会、宗教文化の変容を、国民の境界、開発、環境主義、民主化等をキーワードにしながら描き出していく。講義では南アジア地域研究全体の動向に目を配るとともに、ネーションとナショナリズム論、開発人類学、環境人類学など関連諸学の学説史を踏まえつつ、従来しばしば「特殊解」として個別に捉えられてきたヒマラヤの仏教王国ブータンの事例をより広い文脈の中に位置づけなおしてみたい。																				
◆ 到達目標	1) 現代ブータンの政治と社会の変遷を理解し、より広い文脈から説明できる。 2) 国民国家における文化的境界とはどのようなものか、事例を挙げて説明できる。 3) 言説としての低開発や環境破壊とは何を指すのか、説明できる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 南アジア地域研究におけるブータンの位置付け</td> <td>9. 南アジアのコミュナリズム (宗教対立)</td> </tr> <tr> <td>2. 僧侶の統べる国から王の統べる国へ</td> <td>10. 屠畜と肉食をめぐる文化政治 (1): ヒンドゥー教と牛</td> </tr> <tr> <td>3. 国民の境界とその自画像: 市民権・婚姻法・五カ年開発計画</td> <td>11. 屠畜と肉食をめぐる文化政治 (2): 仏教と放生実践</td> </tr> <tr> <td>4. 王制と労働徴発: 殺す権力から生かす権力へ?</td> <td>12. ブータンの民主化プロジェクトと宗教の位置づけ</td> </tr> <tr> <td>5. 開発と国民形成</td> <td>13. 拡大する儀礼空間と一元化する宗教世界</td> </tr> <tr> <td>6. 非開発と環境主義: ブータンの森林政策と国立公園</td> <td>14. 王権とデモクラシー</td> </tr> <tr> <td>7. グローバルな環境言説と人々の生きる世界 (1): 牧畜と仏教</td> <td>15. 「幸福大国」はどこへ向かうのか</td> </tr> <tr> <td>8. グローバルな環境言説と人々の生きる世界 (2): 焼畑耕作と酒作り</td> <td></td> </tr> </table>					1. 南アジア地域研究におけるブータンの位置付け	9. 南アジアのコミュナリズム (宗教対立)	2. 僧侶の統べる国から王の統べる国へ	10. 屠畜と肉食をめぐる文化政治 (1): ヒンドゥー教と牛	3. 国民の境界とその自画像: 市民権・婚姻法・五カ年開発計画	11. 屠畜と肉食をめぐる文化政治 (2): 仏教と放生実践	4. 王制と労働徴発: 殺す権力から生かす権力へ?	12. ブータンの民主化プロジェクトと宗教の位置づけ	5. 開発と国民形成	13. 拡大する儀礼空間と一元化する宗教世界	6. 非開発と環境主義: ブータンの森林政策と国立公園	14. 王権とデモクラシー	7. グローバルな環境言説と人々の生きる世界 (1): 牧畜と仏教	15. 「幸福大国」はどこへ向かうのか	8. グローバルな環境言説と人々の生きる世界 (2): 焼畑耕作と酒作り	
1. 南アジア地域研究におけるブータンの位置付け	9. 南アジアのコミュナリズム (宗教対立)																				
2. 僧侶の統べる国から王の統べる国へ	10. 屠畜と肉食をめぐる文化政治 (1): ヒンドゥー教と牛																				
3. 国民の境界とその自画像: 市民権・婚姻法・五カ年開発計画	11. 屠畜と肉食をめぐる文化政治 (2): 仏教と放生実践																				
4. 王制と労働徴発: 殺す権力から生かす権力へ?	12. ブータンの民主化プロジェクトと宗教の位置づけ																				
5. 開発と国民形成	13. 拡大する儀礼空間と一元化する宗教世界																				
6. 非開発と環境主義: ブータンの森林政策と国立公園	14. 王権とデモクラシー																				
7. グローバルな環境言説と人々の生きる世界 (1): 牧畜と仏教	15. 「幸福大国」はどこへ向かうのか																				
8. グローバルな環境言説と人々の生きる世界 (2): 焼畑耕作と酒作り																					
◇ 成績評価の方法	レポート (80%) および議論への貢献度 (20%)																				
◇ 教科書・参考書	参考書: Escobar, A. 1984. Discourse and Power in Development: Michel Foucault and the Relevance of His Work to the Third World, Alternatives 10 (3): 377-400. 宮本万里、2009年『自然保護をめぐる文化の政治—ブータン牧畜民の生活・信仰・環境政策』風響社。 レオ・E. ローズ (著)、山本真弓 (監訳)、2001年『ブータンの政治: 近代化のなかのチベット仏教王国』明石書店。 鈴木正崇 (編)、2011年『南アジアの文化と社会を読み解く』慶應義塾大学東アジア研究所。 田中雅一、田辺明生 (編)、2010年『南アジア社会を学ぶ人のために』世界思想社。																				
◇ 授業時間外学習	集中講義形式で一日の分量が多いため、授業後の復習を推奨する。 参考書として挙げた書籍・論文は講義内容の理解の助けとなるので授業の前後を問わずできるだけ参照してほしい。																				
その他： 質問は授業中および授業後に随時受け付ける。 1日の最終授業の際にコメント用紙を配布し、受講者の理解度を確認する。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
文 化 人 類 学 各 論 Cultural Anthropology (Special Lecture)	2	非常勤 講師 門 田 岳 久	集 中 (6)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-CUA301J				
◆ 授業題目	宗教の人類学 (Anthropology of Religion)				
◆ 目的・概要	本科目は現代宗教を文化人類学の視点で捉えるための基礎的な枠組みを身につけることに目的がある。人類学に特有な宗教への視点をあげるとすれば、教義や教団といった構成要素から宗教をみるのではなく、日常性や社会とのつながりからみるという点にあるだろう。それを日本や西洋など、これまで宗教人類学ではあまり研究されてこなかった社会において考えるというのが本科目での大きな問いである。いわゆる後期近代社会の特性を踏まえて宗教を考えるために、宗教社会学や民俗学の理論も踏まえながら日頃私たちが「宗教」という言葉の響きで狭く捉えがちなイメージを相対化していきたい。具体的には、ポスト世俗化論と呼ばれる一群の考え方を学び、ツーリズム・医療・政治といった社会制度と絡み合う「宗教的なもの」の様相をつかむ。例えば宗教とツーリズムとの結びつきは近年注目されている現象であるが、単に宗教的な場所(聖地)やモノ(御朱印、護符など)が観光資源になっている、という表層的な状況を見るのではなく、そのような現象がどの程度の歴史的深度を持ち、いかなる社会相・時代相の変化とともに現象化しているのか理解する必要がある。				
◆ 到達目標	1. 人類学的宗教研究の基本を身につけ、文化人類学の全体的理解につなげていく。 2. 宗教を考えることを契機に、人類学と隣接諸分野への興味関心を高める。 3. 身の回りの日常生活を、宗教研究の枠組みへと接合する想像力を養う。				
◆ 授業内容・方法	1. ビリーフとプラクティス：宗教の人類学入門 2. 宗教と社会変動：世俗化論とポスト世俗化論 3. 高度消費社会化と拡散する宗教性 4. 場所の宗教性 ① 聖地の構築と文化遺産 5. 場所の宗教性 ② 心霊スポットからパワースポットへ 6. 巡礼 ① 移動する身体と巡礼 7. 巡礼 ② ツーリズム化する現代巡礼 8. セラピー文化 ① 代替医療における宗教性 9. セラピー文化 ② 片づけ術と人生の断捨離 10. 言葉と身体 ①：ナラティブとしての信心 11. 言葉と身体 ②：儀礼とパフォーマンス 12. 差異の政治：改宗、ケガレ、マイノリティー 13. 集合的熱狂：フェス、デモ、全体主義 14. Youtube時代の宗教情報 15. 他者に寛容なツーリズム：ハラール、礼拝堂、ベジタリアン				
◇ 成績評価の方法	レポート60%、参加状況40%。 なお演習方式を部分的に取り入れて口頭報告を求められることがあり、これを「参加状況」の一部として成績評価の対象とする。				
◇ 教科書・参考書	教材は講義中に配布するが、参考書として以下のものを挙げる。 吉田匡典ほか編(2010)『宗教の人類学』、春風社岡本亮輔(2015)『聖地巡礼』、中央公論新社 高橋典史ほか編(2012)『宗教と社会のフロンティア—宗教社会学からみる現代日本』、勁草書房				
◇ 授業時間外学習	これまでに履修した文化人類学等の概論における、宗教や信仰、儀礼等に関する解説を振り返りつつ、自分自身が日常において「宗教的なもの」とどのような関わりがあるのか(あるいはないのか)、参考書を適宜参照しながら考えてほしい。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
文 化 人 類 学 各 論 Cultural Anthropology (Special Lecture)	2	非常勤 講師 アンジー アレハンドロ	5	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-CUA301E				
◆ 授業題目	Anthropology of Globalization (Anthropology of Globalization)				
◆ 目的・概要	This course offers a look at contemporary aspects of globalization through a multidisciplinary lens, focusing on the relationship between the flow of capital, commodities, people and changing cultural patterns throughout the globe. During the semester we will cover capital and commodity flows, transnational migration, economic and environmental trends and conflicts, production and consumption practices, gender dynamics, human rights, and the formation of new identities within the context of a globalizing world.				
◆ 到達目標	The class will ask students to reflect upon recent trends in processes of globalization as these relate to the disruption of traditional and the emergence of new social issues in society and culture using a comparative approach. Student participation is an essential component of the class, and students are expected to demonstrate mastery of the core issues through class discussions, essays and group presentations.				
◆ 授業内容・方法	1. Introduction to the Class: Class expectations, syllabus discussion, and personal introductions 2. Introduction: Thinking Global 3. The Economics of Globalization and the State 4. Global Institutions 5. Governance, Structural Adjustments and the Politics of Globalization 6. Transnational Migration: Flows of Capital and Mobile Subjects 7. Transnational Migration (part II): The Construction of Illegality 8. Foregrounding Gender and Location 9. Gendered Labor Flows 10. Commodities in the World Economy 11. Unlikely Commodities, Human Trafficking and Drugs 12. Environmental Politics 13. Class Presentations 14. Class Presentations 15. Class Presentations				
◇ 成績評価の方法	Presentation (40%) Papers (50%) Attendance (10%)				
◇ 教科書・参考書	Readings will be provided in PDF format by the professor				
◇ 授業時間外学習	・ Weekly class readings must be completed before each class ・ There will be five one-page essays due throughout the semester (due dates to be announced) ・ A 10-minute group presentation should focus on a topic of choice related to the course material				
その他： All lectures, presentations, readings, discussions and essays are to be done in English					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
文 化 人 類 学 各 論 Cultural Anthropology (Special Lecture)	2	非常勤 講師 ポレー・ベンメレン・セバスチャン	6	金	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-CUA301J				
◆ 授業題目	災害人類学 (Anthropology of Disaster)				
◆ 目的・概要	文化人類学における21世紀の幕開けは、ますます増え広がる「災害」と呼ばれる現象によって特徴付けられる。Disasterという言葉は、自然災害(地震、ハリケーン、津波、洪水、火山噴火)、人為的事故(戦争、テロ、飛行機の墜落、列車の脱線事故、原子力災害、自動車事故)、環境と健康危機(飢饉、疾病、汚染、熱波)など様々な現象を含んでいる。災害という概念と発展とを踏まえ、本講義では、災害の種類、リスク、脆弱性、レジリエンス、連帯、トラウマ、メモリといった災害の人類学に関する共通の問題とテーマのいくつかを紹介する。これらの概念を用いて、本講義では災害を理解し対処する方法について災害人類学者が貢献する方法の一部を提示することを試みる。そうすることで、災害にかんする自分自身の理解を深めるとともに、人類学的知識を応用することに関心を持つことを、本講義を通じて提供することを願う。				
◆ 到達目標	1. 災害問題について理解を深める。 2. 災害にかかわるさまざまな実践を知り、それを文化人類学の視点から批判的に捉える。 3. 受講生一人ひとりが災害問題に関してできることを具体的に考える。				
◆ 授業内容・方法	1. 現代社会における災害 2. 人類学の視点から見た災害 3. 災害カテゴリーの問題 4. ケーススタディー A: スマトラ島沖地震 5. ケーススタディー B: 東日本大地震 6. ケーススタディー C: パリ同時多発テロ 7. ワークショップ 1: 自然災害とはなにか? 8. 災害の背景にあるリスクと脆弱性 9. レジリエンス、対策と減災の言説 10. グローバライゼーションと災害コミュニティ 11. 発展、経済と災害ツーリズム 12. 災害における損失、犠牲者と悲嘆 13. 災害の記録、記憶と教育 14. ワークショップ 2: 災害科学・減災のために文化人類学できることは? 15. 将来の災害文化人類学				
◇ 成績評価の方法	出席、コメントとワークショップのレポートを総合して評価する。				
◇ 教科書・参考書	教科書は用いない。読書リストは、教室で適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	読書(論文とチャプター)を通読した上でメモを書き、講義ノートを作成する。 次の講義に参加する前に、個人で、または他の学生と一緒に協力して復習する。				
その他:					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
文 化 人 類 学 演 習 Cultural Anthropology (Seminar)	2	教授 沼 崎 一 郎	5	火	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-CUA302J				
◆ 授業題目	比較文化研究法 (Cross-Cultural Analysis)				
◆ 目的・概要	特定の慣習をひとつ選び、その慣習について比較文化的に考察するレポートを作成する。 毎回の授業においては、各人がレジюмеを準備し、それぞれの研究の進捗状況を報告して、クラス・ディスカッションを行う。				
◆ 到達目標	(1)民族誌資料検索の方法を身につける。 (2)文献資料から「民族誌的事実」を抽出する方法を習得する。 (3)「民族誌的事実」を文化横断的に比較し、人類学的に概念化するスキルを習得する。				
◆ 授業内容・方法	1. 導入 授業方法の説明 2. 研究テーマの探索 1 プレーンストーミング 3. 研究テーマの探索 2 研究室所蔵の文献を調べる 4. 研究テーマの決定 5. 比較対象とする文化の探索 1 研究室所蔵の事典類を調べる 6. 比較対象とする文化の探索 2 広く民族誌を探す 7. 比較対象とする文化の決定 8. 文献収集 1 書籍を集める 9. 文献収集 2 論文を集める 10. 比較文化データベースの作成 民族誌的「事実」の収集 11. 比較文化的分析 1 民族誌的「事実」の比較検討 12. 比較文化的分析 2 民族誌的「事実」と人類学的「理論」の対照 13. 研究レポート執筆 1 序論執筆とクラス討論 14. 研究レポート執筆 2 本論執筆とクラス討論 15. 研究レポート執筆 3 結論執筆とクラス討論				
◇ 成績評価の方法	レジюмеと口頭発表 [50%] レポート [50%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書は、教室で適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	自身の研究に必要な分権の収集と読解、比較文化データベースの作成、研究レポート下書の執筆。 OneDriveを利用し、データベースおよびレポート下書の添削を行う。				
その他:	3回以上の無断欠席は履修放棄と見なす。 授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																													
文 化 人 類 学 演 習 Cultural Anthropology (Seminar)	2	教 授 沼 崎 一 郎	6	火	3																													
◆ 科目ナンバリング	LHM-CUA302J																																	
◆ 授業題目	文化人類学研究計画法 (Research Design in Cultural Anthropology)																																	
◆ 目的・概要	主に卒業論文を念頭に置きながら、文化人類学的な研究を行う計画の立て方を学び、実際に研究トピックと研究テーマを選択して、それを実施するための具体的な研究計画を立案し、研究計画書を執筆する。																																	
◆ 到達目標	(1)文化人類学的な研究調査の方法論を学ぶ。 (2)研究計画の立て方を体得する。																																	
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入 授業方法の説明</td> <td>9. 研究計画書の作成 1</td> <td>問題設定の執筆とクラス討論</td> </tr> <tr> <td>2. 研究トピックの探索</td> <td>10. 研究計画書の作成 2</td> <td>理論的背景の執筆とクラス討論</td> </tr> <tr> <td>3. 研究トピックの決定</td> <td>11. 研究計画書の作成 3</td> <td>民族誌的背景の執筆とクラス討論</td> </tr> <tr> <td>4. 研究テーマの探索 1</td> <td>ブレインストーミング</td> <td>12. 研究計画書の作成 4</td> <td>研究方法の執筆とクラス討論</td> </tr> <tr> <td>5. 研究テーマの探索 2</td> <td>研究室の過去の卒業論文の探索</td> <td>13. 口頭発表 1</td> <td>パワーポイントの作成</td> </tr> <tr> <td>6. 研究テーマの探索 3</td> <td>学術誌に掲載された論文の探索</td> <td>14. 口頭発表 2</td> <td>パワーポイントを用いた発表練習 (前半)</td> </tr> <tr> <td>7. 研究テーマの探索 4</td> <td>人類学理論書の探索</td> <td>15. 口頭発表 3</td> <td>パワーポイントを用いた発表練習 (後半)</td> </tr> <tr> <td>8. 研究テーマの決定</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入 授業方法の説明	9. 研究計画書の作成 1	問題設定の執筆とクラス討論	2. 研究トピックの探索	10. 研究計画書の作成 2	理論的背景の執筆とクラス討論	3. 研究トピックの決定	11. 研究計画書の作成 3	民族誌的背景の執筆とクラス討論	4. 研究テーマの探索 1	ブレインストーミング	12. 研究計画書の作成 4	研究方法の執筆とクラス討論	5. 研究テーマの探索 2	研究室の過去の卒業論文の探索	13. 口頭発表 1	パワーポイントの作成	6. 研究テーマの探索 3	学術誌に掲載された論文の探索	14. 口頭発表 2	パワーポイントを用いた発表練習 (前半)	7. 研究テーマの探索 4	人類学理論書の探索	15. 口頭発表 3	パワーポイントを用いた発表練習 (後半)	8. 研究テーマの決定			
1. 導入 授業方法の説明	9. 研究計画書の作成 1	問題設定の執筆とクラス討論																																
2. 研究トピックの探索	10. 研究計画書の作成 2	理論的背景の執筆とクラス討論																																
3. 研究トピックの決定	11. 研究計画書の作成 3	民族誌的背景の執筆とクラス討論																																
4. 研究テーマの探索 1	ブレインストーミング	12. 研究計画書の作成 4	研究方法の執筆とクラス討論																															
5. 研究テーマの探索 2	研究室の過去の卒業論文の探索	13. 口頭発表 1	パワーポイントの作成																															
6. 研究テーマの探索 3	学術誌に掲載された論文の探索	14. 口頭発表 2	パワーポイントを用いた発表練習 (前半)																															
7. 研究テーマの探索 4	人類学理論書の探索	15. 口頭発表 3	パワーポイントを用いた発表練習 (後半)																															
8. 研究テーマの決定																																		
◇ 成績評価の方法	出席と授業参加 [25%] レジュメと口頭発表 [25%] 研究計画書 [50%]																																	
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書は、授業中に適宜指示する。																																	
◇ 授業時間外学習	文献の収集と文献目録の作成、研究計画書の執筆、口頭発表用パワーポイントの作成。OneDriveを利用し、文献目録、研究計画書の下書、パワーポイントの添削を行う。																																	
その他：3回以上の無断欠席は履修放棄と見なす。 授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。																																		

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 演 習 Cultural Anthropology (Seminar)	2	教 授 沼 崎 一 郎	6	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-CUA302J																				
◆ 授業題目	英語古典原書講読 (Classics in Cultural Anthropology)																				
◆ 目的・概要	文化人類学の古典であるフランツ・ボアズ『未開人の心性』改訂版 (1938) の原書を精読し、学術的に正確な訳文を作成するという作業を通して、文化人類学における英語古典の精密な訳読の技法を習得する。 今セメスターは、序文から第2章まで訳出する。底本には、メルヴィル・ハースコヴィッツの序文のある Free Press 版 (1965) を用いる。																				
◆ 到達目標	(1)学術的な英文の正確な訳読力を身に付ける。 (2)文化人類学の古典の息吹に触れる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入 授業方法の説明</td> <td>9. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 47-48.</td> </tr> <tr> <td>2. Chapter 2 Historical Review p. 32-33.</td> <td>10. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 49-50.</td> </tr> <tr> <td>3. Chapter 2 Historical Review p. 34-35.</td> <td>11. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 51-52.</td> </tr> <tr> <td>4. Chapter 2 Historical Review p. 36-37.</td> <td>12. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 53-54.</td> </tr> <tr> <td>5. Chapter 2 Historical Review p. 38-39.</td> <td>13. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 55-56.</td> </tr> <tr> <td>6. Chapter 2 Historical Review p. 40-41.</td> <td>14. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 57-59.</td> </tr> <tr> <td>7. Chapter 2 Historical Review p. 42-44.</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 45-46.</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入 授業方法の説明	9. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 47-48.	2. Chapter 2 Historical Review p. 32-33.	10. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 49-50.	3. Chapter 2 Historical Review p. 34-35.	11. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 51-52.	4. Chapter 2 Historical Review p. 36-37.	12. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 53-54.	5. Chapter 2 Historical Review p. 38-39.	13. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 55-56.	6. Chapter 2 Historical Review p. 40-41.	14. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 57-59.	7. Chapter 2 Historical Review p. 42-44.	15. まとめ	8. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 45-46.	
1. 導入 授業方法の説明	9. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 47-48.																				
2. Chapter 2 Historical Review p. 32-33.	10. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 49-50.																				
3. Chapter 2 Historical Review p. 34-35.	11. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 51-52.																				
4. Chapter 2 Historical Review p. 36-37.	12. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 53-54.																				
5. Chapter 2 Historical Review p. 38-39.	13. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 55-56.																				
6. Chapter 2 Historical Review p. 40-41.	14. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 57-59.																				
7. Chapter 2 Historical Review p. 42-44.	15. まとめ																				
8. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 45-46.																					
◇ 成績評価の方法	下訳の作成と授業時の訳文の修正作業への参加 (50%)、訳注の作成 (50%) による。																				
◇ 教科書・参考書	Franz Boas, The Mind of Primitive Man, Revised Edition, with a new foreword by Melville J. Herskovits. New York: Free Press, 1965.																				
◇ 授業時間外学習	毎週、2頁ほどの英文の下訳を作成する。授業での議論に基づいて、下訳を修正する。訳注作成のための資料収集と分析を行う。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 実 習 Cultural Anthropology (Field Work Methodology)	2	准教授 川口幸大	5	水	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-CUA303J																				
◆ 授業題目	フィールドワーク実習 (Fieldwork)																				
◆ 目的・概要	<p>現地調査とそれに基づく民族誌の記述は、文化人類学の最も基本的な研究方法である。この授業では、調査の目的の設定や組み立て方を含めた様々な技術・方法を学習し、さらに実地に試行することを通して体験的に習得することを目標とする。</p> <p>前期は主として調査方法と資料の種類や性質を検討し、各自の関心に即した調査計画の立案をはかる。文化人類学的なフィールドワークの方法を学ぶ。</p>																				
◆ 到達目標																					
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. イントロダクション</td> <td style="width:50%;">9. フィールドワークの報告と討論 ④</td> </tr> <tr> <td>2. 問題領域の確認</td> <td>10. フィールドワークの報告と討論 ⑤</td> </tr> <tr> <td>3. 過去の実習テーマの検討</td> <td>11. フィールドワークの報告と討論 ⑥</td> </tr> <tr> <td>4. 調査対象の検討</td> <td>12. フィールドワークの報告と討論 ⑦</td> </tr> <tr> <td>5. 調査対象の決定</td> <td>13. フィールドワークの成果発表 ①</td> </tr> <tr> <td>6. フィールドワークの報告と討論 ①</td> <td>14. フィールドワークの成果発表 ②</td> </tr> <tr> <td>7. フィールドワークの報告と討論 ②</td> <td>15. フィールドワークの成果発表 ③</td> </tr> <tr> <td>8. フィールドワークの報告と討論 ③</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. フィールドワークの報告と討論 ④	2. 問題領域の確認	10. フィールドワークの報告と討論 ⑤	3. 過去の実習テーマの検討	11. フィールドワークの報告と討論 ⑥	4. 調査対象の検討	12. フィールドワークの報告と討論 ⑦	5. 調査対象の決定	13. フィールドワークの成果発表 ①	6. フィールドワークの報告と討論 ①	14. フィールドワークの成果発表 ②	7. フィールドワークの報告と討論 ②	15. フィールドワークの成果発表 ③	8. フィールドワークの報告と討論 ③	
1. イントロダクション	9. フィールドワークの報告と討論 ④																				
2. 問題領域の確認	10. フィールドワークの報告と討論 ⑤																				
3. 過去の実習テーマの検討	11. フィールドワークの報告と討論 ⑥																				
4. 調査対象の検討	12. フィールドワークの報告と討論 ⑦																				
5. 調査対象の決定	13. フィールドワークの成果発表 ①																				
6. フィールドワークの報告と討論 ①	14. フィールドワークの成果発表 ②																				
7. フィールドワークの報告と討論 ②	15. フィールドワークの成果発表 ③																				
8. フィールドワークの報告と討論 ③																					
◇ 成績評価の方法	出席 [30%]、平常点 [40%]、レポート [30%]																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する																				
◇ 授業時間外学習	フィールドワークの遂行とフィールドノートの作成																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 実 習 Cultural Anthropology (Field Work Methodology)	2	准教授 川口幸大	6	水	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-CUA303J																				
◆ 授業題目	フィールドワーク実習 (Fieldwork)																				
◆ 目的・概要	<p>現地調査とそれに基づく民族誌の記述は、文化人類学の最も基本的な研究方法である。この授業では、調査の目的の設定や組み立て方を含めた様々な技術・方法を学習し、さらに実地に試行することを通して体験的に習得することを目標とする。</p> <p>後期は各自の立案した調査計画に基づいて調査を行い、その途中経過を授業で討議しながら、それぞれの調査を完結させ、その結果をまとめる。</p> <p>文化人類学によるフィールドワークを行い、報告書を作成する。</p>																				
◆ 到達目標																					
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. テーマと実施計画の再確認</td> <td style="width:50%;">9. 理論の検討 ②</td> </tr> <tr> <td>2. フィールドワークの報告と討論 ①</td> <td>10. 理論の検討 ③</td> </tr> <tr> <td>3. フィールドワークの報告と討論 ②</td> <td>11. 報告書の作成に関する説明 ①</td> </tr> <tr> <td>4. フィールドワークの報告と討論 ③</td> <td>12. 報告書の作成に関する説明 ①</td> </tr> <tr> <td>5. フィールドワークの報告と討論 ④</td> <td>13. 受講者の報告書の検討 ①</td> </tr> <tr> <td>6. フィールドワークの報告と討論 ⑤</td> <td>14. 受講者の報告書の検討 ②</td> </tr> <tr> <td>7. フィールドワークの報告と討論 ⑥</td> <td>15. 受講者の報告書の検討 ③</td> </tr> <tr> <td>8. 理論の検討 ①</td> <td></td> </tr> </table>					1. テーマと実施計画の再確認	9. 理論の検討 ②	2. フィールドワークの報告と討論 ①	10. 理論の検討 ③	3. フィールドワークの報告と討論 ②	11. 報告書の作成に関する説明 ①	4. フィールドワークの報告と討論 ③	12. 報告書の作成に関する説明 ①	5. フィールドワークの報告と討論 ④	13. 受講者の報告書の検討 ①	6. フィールドワークの報告と討論 ⑤	14. 受講者の報告書の検討 ②	7. フィールドワークの報告と討論 ⑥	15. 受講者の報告書の検討 ③	8. 理論の検討 ①	
1. テーマと実施計画の再確認	9. 理論の検討 ②																				
2. フィールドワークの報告と討論 ①	10. 理論の検討 ③																				
3. フィールドワークの報告と討論 ②	11. 報告書の作成に関する説明 ①																				
4. フィールドワークの報告と討論 ③	12. 報告書の作成に関する説明 ①																				
5. フィールドワークの報告と討論 ④	13. 受講者の報告書の検討 ①																				
6. フィールドワークの報告と討論 ⑤	14. 受講者の報告書の検討 ②																				
7. フィールドワークの報告と討論 ⑥	15. 受講者の報告書の検討 ③																				
8. 理論の検討 ①																					
◇ 成績評価の方法	出席と平常点 [50%] 報告書 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する																				
◇ 授業時間外学習	フィールドワークの遂行とフィールドノートの作成																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 概 論 Science of Religions (General Lecture)	2	准教授 山田仁史	3	木	1																
◆ 科目ナンバリング	LHM-RES201J																				
◆ 授業題目	宗教の諸理論 (Theories of religion)																				
◆ 目的・概要	ヨーロッパ以外の諸宗教が視野に入ってくることにより、宗教学は成立した。その過程で生まれたさまざまな理論を、本講義ではヨーロッパ精神史のわくぐみで論じてゆく。																				
◆ 到達目標	宗教に関する諸理論が生まれた背景について理解し、現代社会とのかかわりについて考察を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. はじめに</td> <td>9. 哲学</td> </tr> <tr> <td>2. 神話</td> <td>10. フェティシズム</td> </tr> <tr> <td>3. 儀礼</td> <td>11. 歴史</td> </tr> <tr> <td>4. シャマニズム</td> <td>12. タブーとマナ</td> </tr> <tr> <td>5. 社会</td> <td>13. 言語</td> </tr> <tr> <td>6. トーテミズム</td> <td>14. 人類</td> </tr> <tr> <td>7. 心理</td> <td>15. おわりに</td> </tr> <tr> <td>8. アニミズム</td> <td></td> </tr> </table>					1. はじめに	9. 哲学	2. 神話	10. フェティシズム	3. 儀礼	11. 歴史	4. シャマニズム	12. タブーとマナ	5. 社会	13. 言語	6. トーテミズム	14. 人類	7. 心理	15. おわりに	8. アニミズム	
1. はじめに	9. 哲学																				
2. 神話	10. フェティシズム																				
3. 儀礼	11. 歴史																				
4. シャマニズム	12. タブーとマナ																				
5. 社会	13. 言語																				
6. トーテミズム	14. 人類																				
7. 心理	15. おわりに																				
8. アニミズム																					
◇ 成績評価の方法	毎回のフィードバック（出席確認を兼ねる。20%）と学期末レポート（授業に関連のあるテーマを自由に設定し論じる。80%）により評価する。																				
◇ 教科書・参考書	教科書は、山田仁史著『新・神話学入門』朝倉書店、2017年。受講者は要購入。																				
◇ 授業時間外学習	授業で紹介する参考文献を読む、フィールドワークを行うなどして、学期末レポートに結実させてください。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 概 論 Science of Religions (General Lecture)	2	教授 木村敏明	4	木	1																
◆ 科目ナンバリング	LHM-RES201J																				
◆ 授業題目	宗教と現代社会 (Religion and Modern Society)																				
◆ 目的・概要	この授業では、現代社会における宗教の諸相を具体的事例をとりあげつつ宗教学的視点から論じ、その意義や課題を明らかにしていく。																				
◆ 到達目標	現代社会において宗教が持つ意義や課題について理解できる。 宗教学的視点から現代社会の諸問題について考えることができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 宗教と経営</td> </tr> <tr> <td>2. 世俗化とグローバル化</td> <td>10. 宗教と災害</td> </tr> <tr> <td>3. 宗教市場と政教関係</td> <td>11. 小括</td> </tr> <tr> <td>4. 宗教とソーシャルキャピタル</td> <td>12. スピリチュアリティ</td> </tr> <tr> <td>5. 小括</td> <td>13. 宗教と観光</td> </tr> <tr> <td>6. 宗教と政治</td> <td>14. 宗教とポップカルチャー</td> </tr> <tr> <td>7. 宗教と教育</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 宗教と移民</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 宗教と経営	2. 世俗化とグローバル化	10. 宗教と災害	3. 宗教市場と政教関係	11. 小括	4. 宗教とソーシャルキャピタル	12. スピリチュアリティ	5. 小括	13. 宗教と観光	6. 宗教と政治	14. 宗教とポップカルチャー	7. 宗教と教育	15. まとめ	8. 宗教と移民	
1. イントロダクション	9. 宗教と経営																				
2. 世俗化とグローバル化	10. 宗教と災害																				
3. 宗教市場と政教関係	11. 小括																				
4. 宗教とソーシャルキャピタル	12. スピリチュアリティ																				
5. 小括	13. 宗教と観光																				
6. 宗教と政治	14. 宗教とポップカルチャー																				
7. 宗教と教育	15. まとめ																				
8. 宗教と移民																					
◇ 成績評価の方法	毎回の授業後に提出する小レポート [40%]、期末のテスト [60%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。 参考書は授業中に指示するが全体的なものとしては『よくわかる宗教学』（櫻井義秀・平藤喜久子編、ミネルヴァ書房、2015年）をあげておく。																				
◇ 授業時間外学習	日ごろから新聞等で宗教関連の情報を収集し、小レポートに反映させる。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 基 礎 講 読 Science of Religions (Introductory Reading)	2	准教授 谷 山 洋 三	3	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-RES202J																				
◆ 授業題目	英国におけるチャプレン（臨床宗教師）研究（Chaplaincy Studies in UK）																				
◆ 目的・概要	伝統的な宗教団体は社会の変化、特に世俗化への対応に苦慮している。チャプレン（臨床宗教師）の存在もそのような対応の一つとしてみなすことができる。 授業では、英国でのチャプレンの実態とその研究動向を概観した研究書を輪読し、そこから読み取ることが出来る宗教と社会との関係性、社会における宗教の意義、宗教団体におけるチャプレンの意義について討論する。																				
◆ 到達目標	(1)チャプレンのあり方を通して、宗教と社会との関係性について考察する力を養う (2)英文の読解と発表の技法を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. Chaplaincy and Ethics: What does it mean to be a good chaplain ?</td> </tr> <tr> <td>2. Introduction to Chaplaincy Studies</td> <td>10. Multifaith Working</td> </tr> <tr> <td>3. Situating Chaplaincy in UK: The Acceptable Face of 'Religion' ?</td> <td>11. Managing Multifaith Spaces</td> </tr> <tr> <td>4. The Place of Chaplaincy in Public Life</td> <td>12. The Interface of Psychology and Spirituality in Care</td> </tr> <tr> <td>5. The Study of Chaplaincy: Methods and Materials</td> <td>13. Supervision, Support and Safe Practice</td> </tr> <tr> <td>6. Developing Practice-Based Evidence</td> <td>14. セント・クリストファーズ・ホスピスのチャプレン</td> </tr> <tr> <td>7. まとめと討論「チャプレンとは何か？」</td> <td>15. まとめと討論「チャプレン研究の視点」</td> </tr> <tr> <td>8. Chaplaincy and the Law</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. Chaplaincy and Ethics: What does it mean to be a good chaplain ?	2. Introduction to Chaplaincy Studies	10. Multifaith Working	3. Situating Chaplaincy in UK: The Acceptable Face of 'Religion' ?	11. Managing Multifaith Spaces	4. The Place of Chaplaincy in Public Life	12. The Interface of Psychology and Spirituality in Care	5. The Study of Chaplaincy: Methods and Materials	13. Supervision, Support and Safe Practice	6. Developing Practice-Based Evidence	14. セント・クリストファーズ・ホスピスのチャプレン	7. まとめと討論「チャプレンとは何か？」	15. まとめと討論「チャプレン研究の視点」	8. Chaplaincy and the Law	
1. オリエンテーション	9. Chaplaincy and Ethics: What does it mean to be a good chaplain ?																				
2. Introduction to Chaplaincy Studies	10. Multifaith Working																				
3. Situating Chaplaincy in UK: The Acceptable Face of 'Religion' ?	11. Managing Multifaith Spaces																				
4. The Place of Chaplaincy in Public Life	12. The Interface of Psychology and Spirituality in Care																				
5. The Study of Chaplaincy: Methods and Materials	13. Supervision, Support and Safe Practice																				
6. Developing Practice-Based Evidence	14. セント・クリストファーズ・ホスピスのチャプレン																				
7. まとめと討論「チャプレンとは何か？」	15. まとめと討論「チャプレン研究の視点」																				
8. Chaplaincy and the Law																					
◇ 成績評価の方法	出席 [50%]、発表 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	Christopher Swift, Mark Cobb and Andrew Todd eds. (2015) A Handbook of Chaplaincy Studies: Understanding Spiritual Care in Public Places, Surrey: Ashgate.																				
◇ 授業時間外学習	担当する章の発表準備をする他、担当がない時も毎回予習として当該箇所を精読すること。																				
その他：資料の準備については最初の授業時に指示する。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 基 礎 講 読 Science of Religions (Introductory Reading)	2	准教授 谷 山 洋 三	4	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-RES202J																				
◆ 授業題目	英国におけるチャプレン（臨床宗教師）研究（Chaplaincy Studies in UK）																				
◆ 目的・概要	伝統的な宗教団体は社会の変化、特に世俗化への対応に苦慮している。チャプレン（臨床宗教師）の存在もそのような対応の一つとしてみなすことができる。 授業では、英国でのチャプレンの実態とその研究動向を概観した研究書を輪読し、そこから読み取ることが出来る宗教と社会との関係性、社会における宗教の意義、宗教団体におけるチャプレンの意義について討論する。																				
◆ 到達目標	(1)チャプレンのあり方を通して、宗教と社会との関係性について考察する力を養う (2)英文の読解と発表の技法を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. Prison Chaplaincy</td> </tr> <tr> <td>2. Health Care Chaplaincy</td> <td>10. Contextual Issues: Justice and Redemption</td> </tr> <tr> <td>3. Contextual Issues: Health and Healing</td> <td>11. Case Study in Prison</td> </tr> <tr> <td>4. Case Study in Health Care Settings</td> <td>12. Education Chaplaincy</td> </tr> <tr> <td>5. まとめと討論「ヘルスケア分野におけるチャプレンの意義」</td> <td>13. Contextual Issues: Learning and Human Flourishing</td> </tr> <tr> <td>6. Military Chaplaincy</td> <td>14. Case Study at School</td> </tr> <tr> <td>7. Contextual Issues: War and Peace</td> <td>15. まとめと討論「チャプレンを通して見る宗教と社会との関係」</td> </tr> <tr> <td>8. Case Study in Military Settings</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. Prison Chaplaincy	2. Health Care Chaplaincy	10. Contextual Issues: Justice and Redemption	3. Contextual Issues: Health and Healing	11. Case Study in Prison	4. Case Study in Health Care Settings	12. Education Chaplaincy	5. まとめと討論「ヘルスケア分野におけるチャプレンの意義」	13. Contextual Issues: Learning and Human Flourishing	6. Military Chaplaincy	14. Case Study at School	7. Contextual Issues: War and Peace	15. まとめと討論「チャプレンを通して見る宗教と社会との関係」	8. Case Study in Military Settings	
1. オリエンテーション	9. Prison Chaplaincy																				
2. Health Care Chaplaincy	10. Contextual Issues: Justice and Redemption																				
3. Contextual Issues: Health and Healing	11. Case Study in Prison																				
4. Case Study in Health Care Settings	12. Education Chaplaincy																				
5. まとめと討論「ヘルスケア分野におけるチャプレンの意義」	13. Contextual Issues: Learning and Human Flourishing																				
6. Military Chaplaincy	14. Case Study at School																				
7. Contextual Issues: War and Peace	15. まとめと討論「チャプレンを通して見る宗教と社会との関係」																				
8. Case Study in Military Settings																					
◇ 成績評価の方法	出席 [50%]、発表 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	Christopher Swift, Mark Cobb and Andrew Todd eds. (2015) A Handbook of Chaplaincy Studies: Understanding Spiritual Care in Public Places, Surrey: Ashgate.																				
◇ 授業時間外学習	担当する章の発表準備をする他、担当がない時も毎回予習として当該箇所を精読すること。																				
その他：資料の準備については最初の授業時に指示する。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 基 礎 演 習 Science of Religions (Introductory Seminar)	2	教授 木 村 敏 明 准教授 山 田 仁 史	3	金	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-RES203J																				
◆ 授業題目	宗教研究の技法 (How to study religions: presentation and discussion class)																				
◆ 目的・概要	毎回複数の受講生あるいは大学院生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。																				
◆ 到達目標	各自の問題関心を「研究」として展開するための技法を習得することができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け</td> <td>8. 学部3年発表 5班</td> </tr> <tr> <td>2. 大学院生発表 ① 理論的研究</td> <td>9. 予備日：学部3年欠席者のため</td> </tr> <tr> <td>3. 大学院生発表 ② 実証的研究</td> <td>10. 学部4年発表 1班</td> </tr> <tr> <td>4. 学部3年発表 1班</td> <td>11. 学部4年発表 2班</td> </tr> <tr> <td>5. 学部3年発表 2班</td> <td>12. 学部4年発表 3班</td> </tr> <tr> <td>6. 学部3年発表 3班</td> <td>13. 学部4年発表 4班</td> </tr> <tr> <td>7. 学部3年発表 4班</td> <td>14. 学部4年発表 5班</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 予備日：学部4年欠席者のため</td> </tr> </table>					1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け	8. 学部3年発表 5班	2. 大学院生発表 ① 理論的研究	9. 予備日：学部3年欠席者のため	3. 大学院生発表 ② 実証的研究	10. 学部4年発表 1班	4. 学部3年発表 1班	11. 学部4年発表 2班	5. 学部3年発表 2班	12. 学部4年発表 3班	6. 学部3年発表 3班	13. 学部4年発表 4班	7. 学部3年発表 4班	14. 学部4年発表 5班		15. 予備日：学部4年欠席者のため
1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け	8. 学部3年発表 5班																				
2. 大学院生発表 ① 理論的研究	9. 予備日：学部3年欠席者のため																				
3. 大学院生発表 ② 実証的研究	10. 学部4年発表 1班																				
4. 学部3年発表 1班	11. 学部4年発表 2班																				
5. 学部3年発表 2班	12. 学部4年発表 3班																				
6. 学部3年発表 3班	13. 学部4年発表 4班																				
7. 学部3年発表 4班	14. 学部4年発表 5班																				
	15. 予備日：学部4年欠席者のため																				
◇ 成績評価の方法	発表および討論への参加																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書については授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	発表準備。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 基 礎 演 習 Science of Religions (Introductory Seminar)	2	教授 木 村 敏 明 准教授 山 田 仁 史	4	金	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-RES203J																				
◆ 授業題目	宗教研究の技法 (How to study religions: presentation and discussion class)																				
◆ 目的・概要	毎回複数の受講生あるいは大学院生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。																				
◆ 到達目標	各自の問題関心を「研究」として展開するための技法を習得することができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け</td> <td>8. 学部4年発表 1班</td> </tr> <tr> <td>2. 学部3年発表 1班</td> <td>9. 学部4年発表 2班</td> </tr> <tr> <td>3. 学部3年発表 2班</td> <td>10. 学部4年発表 3班</td> </tr> <tr> <td>4. 学部3年発表 3班</td> <td>11. 学部4年発表 4班</td> </tr> <tr> <td>5. 学部3年発表 4班</td> <td>12. 学部4年発表 5班</td> </tr> <tr> <td>6. 学部3年発表 5班</td> <td>13. 予備日：学部4年欠席者のため</td> </tr> <tr> <td>7. 予備日：学部3年欠席者のため</td> <td>14. 学部2年発表 1班</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 学部2年発表 2班</td> </tr> </table>					1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け	8. 学部4年発表 1班	2. 学部3年発表 1班	9. 学部4年発表 2班	3. 学部3年発表 2班	10. 学部4年発表 3班	4. 学部3年発表 3班	11. 学部4年発表 4班	5. 学部3年発表 4班	12. 学部4年発表 5班	6. 学部3年発表 5班	13. 予備日：学部4年欠席者のため	7. 予備日：学部3年欠席者のため	14. 学部2年発表 1班		15. 学部2年発表 2班
1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け	8. 学部4年発表 1班																				
2. 学部3年発表 1班	9. 学部4年発表 2班																				
3. 学部3年発表 2班	10. 学部4年発表 3班																				
4. 学部3年発表 3班	11. 学部4年発表 4班																				
5. 学部3年発表 4班	12. 学部4年発表 5班																				
6. 学部3年発表 5班	13. 予備日：学部4年欠席者のため																				
7. 予備日：学部3年欠席者のため	14. 学部2年発表 1班																				
	15. 学部2年発表 2班																				
◇ 成績評価の方法	発表および討論への参加。																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。 参考書については授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	発表準備。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 基 礎 実 習 Science of Religions (Introductory Seminar)	2	教 授 准 教 授 木 村 敏 明 山 田 仁 史	3	月	4・5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-RES204J																				
◆ 授業題目	宗教学調査法 (How to research religions: from planning to fieldwork)																				
◆ 目的・概要	他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必須である。本授業では、宗教調査の方法とスキルについて講義を通して学習し、夏季におこなう共同調査に向けて調査計画の立案を行う。																				
◆ 到達目標	(1)宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。 (2)調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 第八回：映像記録法 ③ 写真撮影実習</td> </tr> <tr> <td>2. 第一回：宗教学におけるデータとは</td> <td>10. 第九回：調査と研究の倫理</td> </tr> <tr> <td>3. 第二回：参与観察法</td> <td>11. 第十回：現地調査計画の立案</td> </tr> <tr> <td>4. 第三回：インタビュー調査法</td> <td>12. 第十一回：現地調査準備 ① 地域について知る</td> </tr> <tr> <td>5. 第四回：質問紙調査法</td> <td>13. 第十二回：現地調査準備 ② 先行研究をまとめる</td> </tr> <tr> <td>6. 第五回：文献調査法・情報検索法</td> <td>14. 第十三回：現地調査準備 ③ 質問項目を考える</td> </tr> <tr> <td>7. 第六回：映像記録法 ① 写真撮影の基本</td> <td>15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック</td> </tr> <tr> <td>8. 第七回：映像記録法 ② ビデオ撮影の基本</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 第八回：映像記録法 ③ 写真撮影実習	2. 第一回：宗教学におけるデータとは	10. 第九回：調査と研究の倫理	3. 第二回：参与観察法	11. 第十回：現地調査計画の立案	4. 第三回：インタビュー調査法	12. 第十一回：現地調査準備 ① 地域について知る	5. 第四回：質問紙調査法	13. 第十二回：現地調査準備 ② 先行研究をまとめる	6. 第五回：文献調査法・情報検索法	14. 第十三回：現地調査準備 ③ 質問項目を考える	7. 第六回：映像記録法 ① 写真撮影の基本	15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック	8. 第七回：映像記録法 ② ビデオ撮影の基本	
1. イントロダクション	9. 第八回：映像記録法 ③ 写真撮影実習																				
2. 第一回：宗教学におけるデータとは	10. 第九回：調査と研究の倫理																				
3. 第二回：参与観察法	11. 第十回：現地調査計画の立案																				
4. 第三回：インタビュー調査法	12. 第十一回：現地調査準備 ① 地域について知る																				
5. 第四回：質問紙調査法	13. 第十二回：現地調査準備 ② 先行研究をまとめる																				
6. 第五回：文献調査法・情報検索法	14. 第十三回：現地調査準備 ③ 質問項目を考える																				
7. 第六回：映像記録法 ① 写真撮影の基本	15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック																				
8. 第七回：映像記録法 ② ビデオ撮影の基本																					
◇ 成績評価の方法	授業時・実習時の発表、発言、貢献																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。 参考書については、授業中に紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	授業中に指示された課題、準備。夏季に実施される合宿調査への参加。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
宗 教 学 基 礎 実 習 Science of Religions (Introductory Seminar)	2	教 授 准 教 授 木 村 敏 明 山 田 仁 史	4	月	4・5																		
◆ 科目ナンバリング	LHM-RES204J																						
◆ 授業題目	宗教学調査法 (How to research religions: from planning to fieldwork)																						
◆ 目的・概要	他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必要である。本授業では、夏季に行われた宗教調査をもとにしてそのまとめ作業をおこなうとともに、冬期に予定された共同調査に向けて調査計画の立案をおこなう。																						
◆ 到達目標	(1)宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。 (2)調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション 後期授業の概要</td> <td>7. 第六回、前期調査成果発表準備 ② データの集約</td> </tr> <tr> <td>2. 第一回、前期調査のまとめ ① フェイスシート整理作業</td> <td>8. 第七回、前期調査成果発表準備 ③ スライド作成</td> </tr> <tr> <td>3. 第二回、前期調査のまとめ ② 聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業</td> <td>9. 第八回、前期調査成果発表準備 ④ 発表予行演習</td> </tr> <tr> <td>4. 第三回、前期調査のまとめ ③ 聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設</td> <td>10. 第九回、前期調査成果発表</td> </tr> <tr> <td>5. 第四回、前期調査のまとめ ④ 聞き取りデータ整理作業 民間信仰</td> <td>11. 第十回、現地調査計画の立案</td> </tr> <tr> <td>6. 第五回、前期調査成果発表準備 ① アウトライン作成</td> <td>12. 第十一回、現地調査準備 ① 地域について知る</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13. 第十二回、現地調査準備 ② 先行研究をまとめる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. 第十三回、現地調査準備 ③ 質問項目を考える</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 第十四回、まとめ、現地調査の最終チェック</td> </tr> </table>					1. イントロダクション 後期授業の概要	7. 第六回、前期調査成果発表準備 ② データの集約	2. 第一回、前期調査のまとめ ① フェイスシート整理作業	8. 第七回、前期調査成果発表準備 ③ スライド作成	3. 第二回、前期調査のまとめ ② 聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業	9. 第八回、前期調査成果発表準備 ④ 発表予行演習	4. 第三回、前期調査のまとめ ③ 聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設	10. 第九回、前期調査成果発表	5. 第四回、前期調査のまとめ ④ 聞き取りデータ整理作業 民間信仰	11. 第十回、現地調査計画の立案	6. 第五回、前期調査成果発表準備 ① アウトライン作成	12. 第十一回、現地調査準備 ① 地域について知る		13. 第十二回、現地調査準備 ② 先行研究をまとめる		14. 第十三回、現地調査準備 ③ 質問項目を考える		15. 第十四回、まとめ、現地調査の最終チェック
1. イントロダクション 後期授業の概要	7. 第六回、前期調査成果発表準備 ② データの集約																						
2. 第一回、前期調査のまとめ ① フェイスシート整理作業	8. 第七回、前期調査成果発表準備 ③ スライド作成																						
3. 第二回、前期調査のまとめ ② 聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業	9. 第八回、前期調査成果発表準備 ④ 発表予行演習																						
4. 第三回、前期調査のまとめ ③ 聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設	10. 第九回、前期調査成果発表																						
5. 第四回、前期調査のまとめ ④ 聞き取りデータ整理作業 民間信仰	11. 第十回、現地調査計画の立案																						
6. 第五回、前期調査成果発表準備 ① アウトライン作成	12. 第十一回、現地調査準備 ① 地域について知る																						
	13. 第十二回、現地調査準備 ② 先行研究をまとめる																						
	14. 第十三回、現地調査準備 ③ 質問項目を考える																						
	15. 第十四回、まとめ、現地調査の最終チェック																						
◇ 成績評価の方法	授業時・実習時の発表、発言、貢献																						
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。 参考書については、授業中に紹介する。																						
◇ 授業時間外学習	授業中に指示された課題、準備。冬季に実施される現地調査への参加。																						
その他：																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
宗 教 学 各 論 Science of Religions (Special Lecture)	2	非常勤 講師 川 島 秀 一	5	水	1
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHM-RES301J 宗教学各論 (Science of Religions (Special Lecture)) 本講義では、海に生業をもとめ、海と向き合いながら生きてきた人たちの生活世界を「漁民世界」と捉え、海から繰り返しやってくる吉凶入り交じった多様なヨリモノ (寄り物) を、人びとがどのように受容してきたのか、ということについて注目する。漁民たちは、海の傍らで漁を営み、魚類や海草などの恩恵にあずかっている一方で、繰り返し、津波や高潮のような自然災害や、漂着ゴミや海洋汚染などの負の授かり物も引き受けてきた。しかし、吉凶入り交じる多様なものを受け入れながら、海際に暮らすことを放棄しない漁民たちが、どのように「負の経験」を引き受け、それらをヨリモノとして転換してきたのか。本講義では、とくに「海に備わる意のままにならないリスクといかに共存しうるのか」と問いかけることで、太平洋沿岸の津波常習地に生きてきた漁民たちの、海との向き合い方を通して、現代の海との関わり方に活かしていく方法を追求することにある。そして、それらを後世の住民たちにどう伝承してきたのか、または、どう伝承していくべきなのかを明らかにする。なお、本期の講義においても、できるかぎり、受講者それぞれがテーマを選び、発表をするかたちを基本とした。				
◆ 到達目標	寄り物のなかに、「津波」や「海洋汚染」といった海から湾岸にやってくる「負の経験」をも加えて、両義的に捉えることで、新しい視点を導き出すことが、一つのねらいである。漁民たちは、湾を訪れる吉とも凶とも判断のつかない多様な訪問者を受け入れざるをえない。それらは、ときには「招かれざるヨリモノ」である漂流遺体であったり、厄介な漂着物であったり、破壊的な威力をもった津波でもあった。日本列島における、ヨリモノという海に関わる信仰を、受講者が悪戦苦闘をしながらも、自分なりに理解できることが、到達目標となる。				
◆ 授業内容・方法	1. 序論と、テーマ (ヨリモノ) の担当の振り分け 2. 寄り物の民俗 3. 寄りもの信仰とエビス石 4. エビスと呼ばれた海洋生物 5. エビスと龍神 6. 熊野信仰と漂着神 7. 海難事故と漂着遺体 8. 海難者の供養 9. 魚のとむらい 10. 海の災害と信仰 11. 海洋汚染—水俣病をめぐって 12. 「流しもの」の民俗 13. 海から来て、海に流す—疫病の捉えかた 14. シオに関わる民俗 15. までに				
◇ 成績評価の方法	本期講義終了後のレポート提出				
◇ 教科書・参考書	参考書として、川島秀一『漁撈伝承』(法政大学出版局、2003)、川島秀一『津波のまちに生きて』(富山房インターナショナル、2012) など。				
◇ 授業時間外学習	次回の授業のテーマが分かっている場合、各自、総体的に学習してくること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
宗 教 学 各 論 Science of Religions (Special Lecture)	2	非常勤 講師 深 澤 英 隆	集 中 (6)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHM-RES301J ドイツ民族主義宗教運動の諸相 (Problems of German "völkisch" Religious Movements) 19世紀終盤のドイツおよびオーストリアで、ゲルマン主義宗教運動、民族的 (フェルキッシュ) 宗教運動などともよばれる一群の宗教運動が成立した。この宗教運動は、ドイツ国民主義・ドイツ民族主義に属する現象群においてもっとも特異な性格をもったものであった。ナチズムの源泉のひとつでもあったこの宗教系譜は、キリスト教を拒絶し、ドイツ固有の宗教を確立しようとのラディカルかつ奇想に満ちた思想運動群から成り立っており、その末裔は現代でも、ニューエイジや新異教主義運動などとの結びつきのもとに存続している。本講義は、海外でも近年になってようやく研究が進みつつあるこのドイツ民族主義宗教運動の歴史と思想をあとづけるとともに、今日の宗教状況との関係においてその意味するところを探る。ドイツ民族主義宗教運動という具体的な事象の歴史と現在を伝えるとともに、宗教的運動や宗教的想像力がどのように政治や社会と結びつきをもつのかを考察する手がかりを与えることが、本講義の目的である。				
◆ 到達目標	本講義では、これまであまり知られてこなかったこのドイツ民族主義宗教運動・宗教思想に、宗教社会学や宗教思想史の諸方法で接近し、歴史 (宗教史) 的知識を獲得すると同時に、宗教と民族主義といった今日の問題に関わる知識を深めることを到達目標とする。				
◆ 授業内容・方法	1. I 宗教と宗教運動の基本的性格：本講義の主題との関連で 2. II ドイツ新異教主義宗教運動の背景 1 ドイツ近代史概観—ドイツの近代化の特殊性 3. 2 ナショナリズム・民族主義・フェルキッシュ的なもの—概念の整理 4. 3 ドイツ新異教主義=民族主義宗教運動の諸相 1 5. ドイツ新異教主義=民族主義宗教運動の諸相 2 6. 4 民族主義宗教運動の背景—世紀末ドイツの宗教状況と「流浪する宗教性」 7. III ドイツ新異教主義=民族主義宗教運動の諸相 1 ドイツ新異教主義宗教運動の知的・実践的背景 8. 2 フィドゥスとその世界 9. 3 L・ファーレンクロークと「ゲルマン的信仰共同体」(GGG) 1 10. L・ファーレンクロークと「ゲルマン的信仰共同体」(GGG) 2 11. 4 ナチ政権成立と新異教主義宗教運動の命運 12. 5 1945年以降のドイツ新異教主義宗教運動 13. 6 現代の宗教状況における新異教主義宗教運動 1 14. 現代の宗教状況における新異教主義宗教運動 2 15. IV まとめ				
◇ 成績評価の方法	期末レポートによる。人数によっては、出席を加味する。				
◇ 教科書・参考書	テキストは用いない。参考文献としては、 G・L・モッセ『フェルキッシュ革命』(柏書房 1998) S・V・シュヌーアバイン『現代社会のカルト運動—ネオゲルマン異教』(恒星社厚生閣 2001) 深澤英隆『啓蒙と霊性—近代宗教言説の生成と変容』(岩波書店 2006) その他は授業にて紹介する。				
◇ 授業時間外学習	授業で紹介される参考図書を参照するとともに、各自の関心に基づき、宗教と社会や政治との関係を学ぶことが必要とされる。				
その他：	ドイツ民族主義宗教運動というある意味で特殊な事例を扱う講義ですが、それ自身多様な側面をもち (宗教的、政治的、思想的、美学的等々)、また歴史的影響力も決して小さくありません。想像力をはたらかせて聞いて頂ければと思います。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 各 論 Science of Religions (Special Lecture)	2	教授 木 村 敏 明	5	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-RES301J																				
◆ 授業題目	自然災害と宗教 (Natural Disaster and Religion)																				
◆ 目的・概要	突然にやってきて人々の日常生活の基盤を突き崩してしまう自然災害。被災者たちや周囲の人々が災害を受け止め、生活を立て直す中で、宗教はいかなる役割を果たしてきたのか。英国の宗教学学術雑誌 Religion が2010年10月号で“Religions, Natural Hazards and Disasters”の特集を組んだことからわかる通り、宗教学における自然災害研究は急速に進められつつある。 この授業では自然災害をめぐる宗教的観念、儀礼の実践を概観しつつ、現代社会における宗教の意義や課題について論じる。																				
◆ 到達目標	宗教学的なものの見方をみにつけることができる。 現代社会における宗教の意義や課題について具体的な事例を通して理解できる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 自然災害をめぐる儀礼：災禍の儀礼</td> </tr> <tr> <td>2. 自然災害をめぐる観念：神話における災害</td> <td>10. 自然災害をめぐる儀礼：慰霊・追悼・記念の儀礼</td> </tr> <tr> <td>3. 自然災害をめぐる観念：「怪物」の表象</td> <td>11. 自然災害をめぐる儀礼：儀礼の復活とその意義</td> </tr> <tr> <td>4. 自然災害をめぐる観念：諸宗教伝統の災害観</td> <td>12. 小括</td> </tr> <tr> <td>5. 自然災害をめぐる観念：災因論</td> <td>13. 復興と宗教：ソーシャル・キャピタルとしての宗教 ①</td> </tr> <tr> <td>6. 自然災害をめぐる観念：神義論の諸相</td> <td>14. 復興と宗教：ソーシャル・キャピタルとしての宗教 ②</td> </tr> <tr> <td>7. 小括</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 自然災害をめぐる儀礼：予防儀礼と減災儀礼</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 自然災害をめぐる儀礼：災禍の儀礼	2. 自然災害をめぐる観念：神話における災害	10. 自然災害をめぐる儀礼：慰霊・追悼・記念の儀礼	3. 自然災害をめぐる観念：「怪物」の表象	11. 自然災害をめぐる儀礼：儀礼の復活とその意義	4. 自然災害をめぐる観念：諸宗教伝統の災害観	12. 小括	5. 自然災害をめぐる観念：災因論	13. 復興と宗教：ソーシャル・キャピタルとしての宗教 ①	6. 自然災害をめぐる観念：神義論の諸相	14. 復興と宗教：ソーシャル・キャピタルとしての宗教 ②	7. 小括	15. まとめ	8. 自然災害をめぐる儀礼：予防儀礼と減災儀礼	
1. イントロダクション	9. 自然災害をめぐる儀礼：災禍の儀礼																				
2. 自然災害をめぐる観念：神話における災害	10. 自然災害をめぐる儀礼：慰霊・追悼・記念の儀礼																				
3. 自然災害をめぐる観念：「怪物」の表象	11. 自然災害をめぐる儀礼：儀礼の復活とその意義																				
4. 自然災害をめぐる観念：諸宗教伝統の災害観	12. 小括																				
5. 自然災害をめぐる観念：災因論	13. 復興と宗教：ソーシャル・キャピタルとしての宗教 ①																				
6. 自然災害をめぐる観念：神義論の諸相	14. 復興と宗教：ソーシャル・キャピタルとしての宗教 ②																				
7. 小括	15. まとめ																				
8. 自然災害をめぐる儀礼：予防儀礼と減災儀礼																					
◇ 成績評価の方法	毎回の授業後提出の小レポート [40%]、期末レポート [60%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書は用いない。 参考書は授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	新聞や読書などで普段からトピックに関連した情報を収集するようにつとめ、授業後の小レポートに反映させる。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 各 論 Science of Religions (Special Lecture)	2	教授 高 橋 原	5	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-RES301J																				
◆ 授業題目	宗教と心理療法 (Religion and Psychotherapy)																				
◆ 目的・概要	人間心理の健康と成長について宗教との関わりから理解する。																				
◆ 到達目標	いくつかの基本概念を理解し、宗教とは何かという大きな問題を、人間の心に及ぼす影響という点から理解し、説明できるようにする。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション 心理療法とは何か</td> <td>9. ユングの分析心理学</td> </tr> <tr> <td>2. 治療体系としての宗教</td> <td>10. ユングの分析心理学</td> </tr> <tr> <td>3. 原始的な心理療法</td> <td>11. 宗教儀礼と心理療法</td> </tr> <tr> <td>4. メスメリズムと催眠術</td> <td>12. 幻覚と心理療法</td> </tr> <tr> <td>5. フロイトと精神分析</td> <td>13. 補論 (1)</td> </tr> <tr> <td>6. フロイトと精神分析</td> <td>14. 補論 (2)</td> </tr> <tr> <td>7. ユングの分析心理学</td> <td>15. 補論 (3)</td> </tr> <tr> <td>8. ユングの分析心理学</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション 心理療法とは何か	9. ユングの分析心理学	2. 治療体系としての宗教	10. ユングの分析心理学	3. 原始的な心理療法	11. 宗教儀礼と心理療法	4. メスメリズムと催眠術	12. 幻覚と心理療法	5. フロイトと精神分析	13. 補論 (1)	6. フロイトと精神分析	14. 補論 (2)	7. ユングの分析心理学	15. 補論 (3)	8. ユングの分析心理学	
1. イントロダクション 心理療法とは何か	9. ユングの分析心理学																				
2. 治療体系としての宗教	10. ユングの分析心理学																				
3. 原始的な心理療法	11. 宗教儀礼と心理療法																				
4. メスメリズムと催眠術	12. 幻覚と心理療法																				
5. フロイトと精神分析	13. 補論 (1)																				
6. フロイトと精神分析	14. 補論 (2)																				
7. ユングの分析心理学	15. 補論 (3)																				
8. ユングの分析心理学																					
◇ 成績評価の方法	期末レポートによる。授業内で小レポートを課す場合もある。																				
◇ 教科書・参考書	適宜授業内で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業内で指示する参考文献により理解を深める。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 人 類 学 各 論 Religious Anthropology (Special Lecture)	2	准教授 谷 山 洋 三	6	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-RES302J																				
◆ 授業題目	宗教と社会福祉 (Religion and Social Welfare)																				
◆ 目的・概要	社会福祉活動の源泉には宗教の愛他の思想・実践を認めることができる。歴史的にも、宗教の慈善活動が発展して政府による社会福祉政策に繋がったこともあり、また、政府の肩代わりのように宗教的慈善活動が行われることもある。 この授業では、そのような宗教と社会福祉の関係を概観するとともに、特に日本において仏教が果たしてきた役割について考察する。																				
◆ 到達目標	宗教と社会との相互関係について理解を深める																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 宗教的慈善と社会福祉</td> <td>9. 長岡西病院ビハラー病棟の事例 1</td> </tr> <tr> <td>2. キリスト教と社会福祉思想</td> <td>10. 長岡西病院ビハラー病棟の事例 2</td> </tr> <tr> <td>3. キリスト教と社会福祉実践</td> <td>11. 東日本大震災後の宗教者の活動 1</td> </tr> <tr> <td>4. 儒教、神道と社会福祉思想</td> <td>12. 東日本大震災後の宗教者の活動 2</td> </tr> <tr> <td>5. 仏教と社会福祉思想</td> <td>13. 超宗派超宗教の活動</td> </tr> <tr> <td>6. 日本での仏教社会福祉の歴史 1</td> <td>14. 熊本地震後の宗教者の活動</td> </tr> <tr> <td>7. 日本での仏教社会福祉の歴史 2</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 日本での仏教社会福祉の歴史 3</td> <td></td> </tr> </table>					1. 宗教的慈善と社会福祉	9. 長岡西病院ビハラー病棟の事例 1	2. キリスト教と社会福祉思想	10. 長岡西病院ビハラー病棟の事例 2	3. キリスト教と社会福祉実践	11. 東日本大震災後の宗教者の活動 1	4. 儒教、神道と社会福祉思想	12. 東日本大震災後の宗教者の活動 2	5. 仏教と社会福祉思想	13. 超宗派超宗教の活動	6. 日本での仏教社会福祉の歴史 1	14. 熊本地震後の宗教者の活動	7. 日本での仏教社会福祉の歴史 2	15. まとめ	8. 日本での仏教社会福祉の歴史 3	
1. 宗教的慈善と社会福祉	9. 長岡西病院ビハラー病棟の事例 1																				
2. キリスト教と社会福祉思想	10. 長岡西病院ビハラー病棟の事例 2																				
3. キリスト教と社会福祉実践	11. 東日本大震災後の宗教者の活動 1																				
4. 儒教、神道と社会福祉思想	12. 東日本大震災後の宗教者の活動 2																				
5. 仏教と社会福祉思想	13. 超宗派超宗教の活動																				
6. 日本での仏教社会福祉の歴史 1	14. 熊本地震後の宗教者の活動																				
7. 日本での仏教社会福祉の歴史 2	15. まとめ																				
8. 日本での仏教社会福祉の歴史 3																					
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]、出席・討論への参加等 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	参考書：日本仏教社会福祉学会（編）『仏教社会福祉入門』法蔵館、2014年。 長谷川匡俊『宗教福祉論』医歯薬出版、2002年。																				
◇ 授業時間外学習	宗教学、宗教史、社会福祉学など、授業を通じて関心をもった事柄について、学び深めることを期待します。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 人 類 学 各 論 Religious Anthropology (Special Lecture)	2	准教授 山 田 仁 史	6	水	1																
◆ 科目ナンバリング	LHM-RES302J																				
◆ 授業題目	宗教人類学者列伝：13人の生・愛・死 (13 anthropologists of religion: their life, love and death)																				
◆ 目的・概要	人間の宗教はどのように始まったのか？ 世界にはどのような形態があるのか？ それらに見られる多様性と共通性の意味はなにか？ ヒトはなぜ信仰するのか？ こういった問題に答えようとしてきたのが、宗教人類学の歴史です。 この講義では、主要な研究者13人をとりあげ、彼らの生涯・思想・理論、そして特に彼らが用いた資料とその性質について、語っていきます。																				
◆ 到達目標	宗教人類学史の把握をとおして、現代におけるその意義と、われわれ自身にとって意味するところを考えてみましょう。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. はじめに 宗教人類学と宗教民族学</td> <td>9. レオ・フロベニウス (1873-1938)</td> </tr> <tr> <td>2. マックス・ミュラー (1823-1900)</td> <td>10. アードルフ・イェンゼン (1899-1965)</td> </tr> <tr> <td>3. エドワード・タイラー (1832-1917)</td> <td>11. ヴィルヘルム・シュミット (1868-1954)</td> </tr> <tr> <td>4. ウィリアム・ロバートソン・スミス (1846-1894)</td> <td>12. ラッフアエーレ・ペッタツォーニ (1883-1959)</td> </tr> <tr> <td>5. ジェイムズ・フレイザー (1854-1941)</td> <td>13. ミルチャ・エリアーデ (1907-1986)</td> </tr> <tr> <td>6. エミール・デュルケーム (1858-1917)</td> <td>14. クロード・レヴィ=ストロース (1908-2009)</td> </tr> <tr> <td>7. マルセル・モース (1872-1950)</td> <td>15. おわりに 宗教人類学が教えてくれること</td> </tr> <tr> <td>8. アルノルト・ファン・ヘネップ (1873-1957)</td> <td></td> </tr> </table>					1. はじめに 宗教人類学と宗教民族学	9. レオ・フロベニウス (1873-1938)	2. マックス・ミュラー (1823-1900)	10. アードルフ・イェンゼン (1899-1965)	3. エドワード・タイラー (1832-1917)	11. ヴィルヘルム・シュミット (1868-1954)	4. ウィリアム・ロバートソン・スミス (1846-1894)	12. ラッフアエーレ・ペッタツォーニ (1883-1959)	5. ジェイムズ・フレイザー (1854-1941)	13. ミルチャ・エリアーデ (1907-1986)	6. エミール・デュルケーム (1858-1917)	14. クロード・レヴィ=ストロース (1908-2009)	7. マルセル・モース (1872-1950)	15. おわりに 宗教人類学が教えてくれること	8. アルノルト・ファン・ヘネップ (1873-1957)	
1. はじめに 宗教人類学と宗教民族学	9. レオ・フロベニウス (1873-1938)																				
2. マックス・ミュラー (1823-1900)	10. アードルフ・イェンゼン (1899-1965)																				
3. エドワード・タイラー (1832-1917)	11. ヴィルヘルム・シュミット (1868-1954)																				
4. ウィリアム・ロバートソン・スミス (1846-1894)	12. ラッフアエーレ・ペッタツォーニ (1883-1959)																				
5. ジェイムズ・フレイザー (1854-1941)	13. ミルチャ・エリアーデ (1907-1986)																				
6. エミール・デュルケーム (1858-1917)	14. クロード・レヴィ=ストロース (1908-2009)																				
7. マルセル・モース (1872-1950)	15. おわりに 宗教人類学が教えてくれること																				
8. アルノルト・ファン・ヘネップ (1873-1957)																					
◇ 成績評価の方法	学期末レポート(講義内容に関連のあるテーマを自由に設定し論じる。80%)および毎回のフィードバック(出欠確認を兼ねる。20%)により評価する。																				
◇ 教科書・参考書	Tworuschka, Udo, Religionswissenschaft, Wien: Böhlau, 2011; Michaels, Axel (Hrsg.), Klassiker der Religionswissenschaft, 3. Aufl., München: C. H. Beck, 2010; Auffarth, Christoph u.a. (Hrsg.), Wörterbuch der Religionen, Stuttgart: Kröner, 2006. 以上いずれも参考書です。																				
◇ 授業時間外学習	学期末レポート作成に際し、文献調査ないしフィールドワークをしっかりと行ってください。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 講 読 Science of Religions (Reading)	2	非常勤 講師	アンドリュース デール	5	火 4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-RES303E																				
◆ 授業題目	A Study of Religion, Food, and Eating in North America (A Study of Religion, Food, and Eating in North America)																				
◆ 目的・概要	In this class we will examine various examples of foodways from North America in connection with religious beliefs. We will explore what people eat, how they prepare their food, how they consume it, as well as the context of where and when they do so, in order to more fully comprehend the role of food in religious practice and everyday life. Although we focus on one particular region, in this case North America, we will be introduced to a variety of religious perspectives. This class will be conducted primarily in English.																				
◆ 到達目標	After completing this course, students should have acquired the following skills: (1) Be able to summarize English text. (2) Be able to make basic translations of English text. (3) Be able to express an opinion in English. (4) Be able to explain the features of religious foodways in North American. (5) Be able to explain the difference and similarities between North American foodways and that of their own culture.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Class Introduction</td> <td>9. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>2. Reading/discussion</td> <td>10. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>3. Reading/discussion</td> <td>11. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>4. Reading/discussion</td> <td>12. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>5. Reading/discussion</td> <td>13. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>6. Reading/discussion</td> <td>14. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>7. Reading/discussion</td> <td>15. Review</td> </tr> <tr> <td>8. Reading/discussion</td> <td></td> </tr> </table>					1. Class Introduction	9. Reading/discussion	2. Reading/discussion	10. Reading/discussion	3. Reading/discussion	11. Reading/discussion	4. Reading/discussion	12. Reading/discussion	5. Reading/discussion	13. Reading/discussion	6. Reading/discussion	14. Reading/discussion	7. Reading/discussion	15. Review	8. Reading/discussion	
1. Class Introduction	9. Reading/discussion																				
2. Reading/discussion	10. Reading/discussion																				
3. Reading/discussion	11. Reading/discussion																				
4. Reading/discussion	12. Reading/discussion																				
5. Reading/discussion	13. Reading/discussion																				
6. Reading/discussion	14. Reading/discussion																				
7. Reading/discussion	15. Review																				
8. Reading/discussion																					
◇ 成績評価の方法	Class exercises: 80%. Notebooks: 20%																				
◇ 教科書・参考書	"Religion, Food, & Eating in North America" Benjamin E. Zeller, Marie W. Dallam, Reid L. Neilson, Nora L. Rubel Eds., Columbia University Press, 2014.																				
◇ 授業時間外学習	3 to 5 hours per week of out of class study is required.																				
その他: Office hours: The instructor will be available before and after the scheduled class.																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 講 読 Science of Religions (Reading)	2	非常勤 講師	アンドリュース デール	6	火 4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-RES303E																				
◆ 授業題目	A Study of Religion, Food, and Eating in North America (A Study of Religion, Food, and Eating in North America)																				
◆ 目的・概要	In this class we will examine various examples of foodways from North America in connection with religious beliefs. We will explore what people eat, how they prepare their food, how they consume it, as well as the context of where and when they do so, in order to more fully comprehend the role of food in religious practice and everyday life. Although we focus on one particular region, in this case North America, we will be introduced to a variety of religious perspectives. This class will be conducted primarily in English. (The readings are a continuation from the first semester)																				
◆ 到達目標	After completing this course, students should have acquired the following skills: (1) Be able to summarize English text. (2) Be able to make basic translations of English text. (3) Be able to express an opinion in English. (4) Be able to explain the features of religious foodways in North American. (5) Be able to explain the difference and similarities between North American foodways and that of their own culture.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Class Introduction</td> <td>9. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>2. Reading/discussion</td> <td>10. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>3. Reading/discussion</td> <td>11. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>4. Reading/discussion</td> <td>12. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>5. Reading/discussion</td> <td>13. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>6. Reading/discussion</td> <td>14. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>7. Reading/discussion</td> <td>15. Review</td> </tr> <tr> <td>8. Reading/discussion</td> <td></td> </tr> </table>					1. Class Introduction	9. Reading/discussion	2. Reading/discussion	10. Reading/discussion	3. Reading/discussion	11. Reading/discussion	4. Reading/discussion	12. Reading/discussion	5. Reading/discussion	13. Reading/discussion	6. Reading/discussion	14. Reading/discussion	7. Reading/discussion	15. Review	8. Reading/discussion	
1. Class Introduction	9. Reading/discussion																				
2. Reading/discussion	10. Reading/discussion																				
3. Reading/discussion	11. Reading/discussion																				
4. Reading/discussion	12. Reading/discussion																				
5. Reading/discussion	13. Reading/discussion																				
6. Reading/discussion	14. Reading/discussion																				
7. Reading/discussion	15. Review																				
8. Reading/discussion																					
◇ 成績評価の方法	Class exercises: 80%. Notebooks: 20%																				
◇ 教科書・参考書	"Religion, Food, & Eating in North America" Benjamin E. Zeller, Marie W. Dallam, Reid L. Neilson, Nora L. Rubel Eds., Columbia University Press, 2014.																				
◇ 授業時間外学習	3 to 5 hours per week of out of class study is required.																				
その他: Office hours: The instructor will be available before and after the scheduled class.																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 演 習 Science of Religions (Seminar)	2	教授 准教授 木 村 敏 明 山 田 仁 史	5	金	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-RES304J																				
◆ 授業題目	宗教研究の技法 (How to study religions: presentation and discussion class)																				
◆ 目的・概要	毎回複数の受講生あるいは大学院生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。																				
◆ 到達目標	各自の問題関心を「研究」として展開するための技法を習得することができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け</td> <td>8. 学部3年発表 5班</td> </tr> <tr> <td>2. 大学院生発表 ① 理論的研究</td> <td>9. 予備日：学部3年欠席者のため</td> </tr> <tr> <td>3. 大学院生発表 ② 実証的研究</td> <td>10. 学部4年発表 1班</td> </tr> <tr> <td>4. 学部3年発表 1班</td> <td>11. 学部4年発表 2班</td> </tr> <tr> <td>5. 学部3年発表 2班</td> <td>12. 学部4年発表 3班</td> </tr> <tr> <td>6. 学部3年発表 3班</td> <td>13. 学部4年発表 4班</td> </tr> <tr> <td>7. 学部3年発表 4班</td> <td>14. 学部4年発表 5班</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 予備日：学部4年欠席者のため</td> </tr> </table>					1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け	8. 学部3年発表 5班	2. 大学院生発表 ① 理論的研究	9. 予備日：学部3年欠席者のため	3. 大学院生発表 ② 実証的研究	10. 学部4年発表 1班	4. 学部3年発表 1班	11. 学部4年発表 2班	5. 学部3年発表 2班	12. 学部4年発表 3班	6. 学部3年発表 3班	13. 学部4年発表 4班	7. 学部3年発表 4班	14. 学部4年発表 5班		15. 予備日：学部4年欠席者のため
1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け	8. 学部3年発表 5班																				
2. 大学院生発表 ① 理論的研究	9. 予備日：学部3年欠席者のため																				
3. 大学院生発表 ② 実証的研究	10. 学部4年発表 1班																				
4. 学部3年発表 1班	11. 学部4年発表 2班																				
5. 学部3年発表 2班	12. 学部4年発表 3班																				
6. 学部3年発表 3班	13. 学部4年発表 4班																				
7. 学部3年発表 4班	14. 学部4年発表 5班																				
	15. 予備日：学部4年欠席者のため																				
◇ 成績評価の方法	発表および討論への参加																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。 参考書については授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	発表準備。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 演 習 Science of Religions (Seminar)	2	教授 准教授 木 村 敏 明 山 田 仁 史	6	金	5																
◆ 科目ナンバリング	LHM-RES304J																				
◆ 授業題目	宗教研究の技法 (How to study religions: presentation and discussion class)																				
◆ 目的・概要	毎回複数の受講生あるいは大学院生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。																				
◆ 到達目標	各自の問題関心を「研究」として展開するための技法を習得することができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け</td> <td>8. 学部4年発表 1班</td> </tr> <tr> <td>2. 学部3年発表 1班</td> <td>9. 学部4年発表 2班</td> </tr> <tr> <td>3. 学部3年発表 2班</td> <td>10. 学部4年発表 3班</td> </tr> <tr> <td>4. 学部3年発表 3班</td> <td>11. 学部4年発表 4班</td> </tr> <tr> <td>5. 学部3年発表 4班</td> <td>12. 学部4年発表 5班</td> </tr> <tr> <td>6. 学部3年発表 5班</td> <td>13. 予備日：学部4年欠席者のため</td> </tr> <tr> <td>7. 予備日：学部3年欠席者のため</td> <td>14. 学部2年発表 1班</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 学部2年発表 2班</td> </tr> </table>					1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け	8. 学部4年発表 1班	2. 学部3年発表 1班	9. 学部4年発表 2班	3. 学部3年発表 2班	10. 学部4年発表 3班	4. 学部3年発表 3班	11. 学部4年発表 4班	5. 学部3年発表 4班	12. 学部4年発表 5班	6. 学部3年発表 5班	13. 予備日：学部4年欠席者のため	7. 予備日：学部3年欠席者のため	14. 学部2年発表 1班		15. 学部2年発表 2班
1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け	8. 学部4年発表 1班																				
2. 学部3年発表 1班	9. 学部4年発表 2班																				
3. 学部3年発表 2班	10. 学部4年発表 3班																				
4. 学部3年発表 3班	11. 学部4年発表 4班																				
5. 学部3年発表 4班	12. 学部4年発表 5班																				
6. 学部3年発表 5班	13. 予備日：学部4年欠席者のため																				
7. 予備日：学部3年欠席者のため	14. 学部2年発表 1班																				
	15. 学部2年発表 2班																				
◇ 成績評価の方法	発表および討論への参加。																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。 参考書については授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	発表準備。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
宗 教 学 実 習 Science of Religions (Field Work)	2	教授 准教授 非常勤講師 木 村 敏 明 山 田 仁 史 高 倉 浩 樹	5	月	4・5
◆ 科目ナンバリング	LHM-RES306J				
◆ 授業題目	宗教学調査法 (How to research religions: from planning to fieldwork)				
◆ 目的・概要	他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必須である。本授業では、宗教調査の方法とスキルについて講義を通して学習し、夏季におこなう共同調査に向けて調査計画の立案を行う。				
◆ 到達目標	(1)宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。 (2)調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 2. 第一回：宗教学におけるデータとは 3. 第二回：参与観察法 4. 第三回：インタビュー調査法 5. 第四回：質問紙調査法 6. 第五回：文献調査法・情報検索法 7. 第六回：映像記録法 ① 写真撮影の基本 8. 第七回：映像記録法 ② ビデオ撮影の基本 9. 第八回：映像記録法 ③ 写真撮影実習 10. 第九回：調査と研究の倫理 11. 第十回：現地調査計画の立案 12. 第十一回：現地調査準備 ① 地域について知る 13. 第十二回：現地調査準備 ② 先行研究をまとめる 14. 第十三回：現地調査準備 ③ 質問項目を考える 15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック				
◇ 成績評価の方法	授業時・実習時の発表、発言、貢献				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。 参考書については、授業中に紹介する。				
◇ 授業時間外学習	授業中に指示された課題、準備。夏季に実施される合宿調査への参加。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
宗 教 学 実 習 Science of Religions (Field Work)	2	教授 准教授 非常勤講師 木 村 敏 明 山 田 仁 史 高 倉 浩 樹	6	月	4・5
◆ 科目ナンバリング	LHM-RES306J				
◆ 授業題目	宗教学調査法 (How to research religions: from planning to fieldwork)				
◆ 目的・概要	他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必要である。本授業では、夏季に行われた宗教調査をもとにしてそのまとめ作業をおこなう。				
◆ 到達目標	(1)宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。 (2)調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 後期授業の概要 2. 第一回、前期調査のまとめ ① フェイスシート整理作業 3. 第二回、前期調査のまとめ ② 聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業 4. 第三回、前期調査のまとめ ③ 聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設 5. 第四回、前期調査のまとめ ④ 聞き取りデータ整理作業 民間信仰 6. 第五回、前期調査成果発表準備 ① アウトライン作成 7. 第六回、前期調査成果発表準備 ② データの集約 8. 第七回、前期調査成果発表準備 ③ スライド作成 9. 第八回、前期調査成果発表準備 ④ 発表予行演習 10. 第九回、前期調査成果発表 11. 第十回、現地調査計画の立案 (アドバイザーとして) 12. 第十一回、現地調査準備 ① 地域について知る (アドバイザーとして) 13. 第十二回、現地調査準備 ② 先行研究をまとめる (アドバイザーとして) 14. 第十三回、現地調査準備 ③ 質問項目を考える (アドバイザーとして) 15. 第十四回、まとめ、現地調査の最終チェック (アドバイザーとして)				
◇ 成績評価の方法	授業時・実習時の発表、発言、貢献				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。 参考書については、授業中に紹介する。				
◇ 授業時間外学習	授業中に指示された課題、準備。				
その他：					

専修以外の基礎科目一覧

授業科目	講義題目	単位	担当教員名		開講 セメスター	曜日	講時	頁
			氏	名				
人文統計学	統計学の基礎	2	木	村 邦 博	3	水	2	255
人文統計学	推測統計と多変量解析の基礎	2	木	村 邦 博	4	水	2	255
人文情報処理	コンピュータを活用したデータ処理と情報発信	2	Ⓢ	湊 信 吾	3	金	1	256
人文情報処理	コンピュータを活用したデータ処理と情報発信	2	Ⓢ	湊 信 吾	3	金	2	256
英語演習	時事英語演習	2	Ⓢ	中 西 弘	3	木	2	257
英語演習	学術英語演習	2	Ⓢ	中 西 弘	4	木	2	257
高等英文解釈法	英文解釈の技法 I	2	Ⓢ	鈴 木 亨	3	金	2	258
高等英文解釈法	英文解釈の技法 II	2	Ⓢ	鈴 木 亨	4	金	2	258
英語論文作成法	Academic Writing I	2	Ⓢ	マックス フィリップス	3	水	2	259
英語論文作成法	Academic Writing II	2	Ⓢ	マックス フィリップス	集 中 (3)			259
ギリシヤ語	古典ギリシヤ語文法初級	2	Ⓢ	尾 園 絢 一	3	金	3	260
ギリシヤ語	古典ギリシア語文法初級	2	Ⓢ	尾 園 絢 一	4	金	3	260
ギリシヤ語	ホメロス『イリアス』演習	2	Ⓢ	尾 園 絢 一	3	月	4	261
ギリシヤ語	ホメロス『イリアス』演習	2	Ⓢ	尾 園 絢 一	4	月	4	261
ラテン語	ラテン語初級文法	2	Ⓢ	宮 崎 正 美	3	金	3	262
ラテン語	ラテン語初級講読	2	Ⓢ	宮 崎 正 美	4	金	3	262
ラテン語	ラテン語原典講読	2		荻 原 理	3	火	3	263
ラテン語	ラテン語原典講読	2		荻 原 理	4	火	3	263
サンスクリット語	サンスクリット語基礎演習(1)	2	Ⓢ	西 村 直 子	3	木	3	264
サンスクリット語	サンスクリット語基礎演習(2)	2	Ⓢ	尾 園 絢 一	4	木	3	264
中国語	初級中国語	2		馬 曉 地	3	月	3	265
中国語	初級中国語	2		馬 曉 地	4	月	3	265

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
朝 鮮 語	朝鮮語初級Ⅰ	2	㊦ 権 来 順	3	火	2	266
朝 鮮 語	朝鮮語初級Ⅱ	2	㊦ 権 来 順	3	水	2	266
イ タ リ ア 語	イタリア語初級（前期）	2	フォンガロ エンリコ	3	水	3	267
イ タ リ ア 語	イタリア語初級（後期）	2	フォンガロ エンリコ	4	水	3	267
イ タ リ ア 語	イタリア語初級（前期）	2	フォンガロ エンリコ	3	木	3	268
イ タ リ ア 語	イタリア語初級（後期）	2	フォンガロ エンリコ	4	木	3	268
イ タ リ ア 語	イタリア語中級（前期）	2	フォンガロ エンリコ	3	水	4	269
イ タ リ ア 語	イタリア語中級（後期）	2	フォンガロ エンリコ	4	水	4	269
イ タ リ ア 語	イタリア語中級（前期）	2	フォンガロ エンリコ	3	木	4	270
イ タ リ ア 語	イタリア語中級（後期）	2	フォンガロ エンリコ	4	木	4	270
イ タ リ ア 語	イタリア語上級（前期）	2	フォンガロ エンリコ	3	水	5	271
イ タ リ ア 語	イタリア語上級（後期）	2	フォンガロ エンリコ	4	水	5	271
専 門 中 国 語	中国語作文	2	馬 暁 地	3	金	4	272
専 門 中 国 語	中国語作文	2	馬 暁 地	4	金	4	272
専 門 ド イ ツ 語	ドイツ語テキスト読解	2	野 内 清 香	3	水	2	273
専 門 ド イ ツ 語	ドイツ語テキスト読解	2	野 内 清 香	4	水	2	273
専 門 フ ラ ン ス 語	フランス語の文章を読む	2	㊦ 翠 川 博 之	3	火	2	274
専 門 フ ラ ン ス 語	フランス語の文章を読む	2	㊦ 翠 川 博 之	4	火	2	274
漢 文 講 読	伝奇小説を読む	2	田 島 花 野	3	金	4	275
漢 文 講 読	伝奇小説を読む	2	田 島 花 野	4	金	4	275
人 文 社 会 科 学 総 合	よりよい研究のための倫理	2	原 塑	3	月	4	276
人 文 社 会 科 学 総 合	研究と実践の倫理	2	行場 次朗・戸島貴代志・阿部 恒之 木村 邦博・坂井 信之・辻本 昌弘 小林 隆・小泉 政利	4	水	5	276
人 文 社 会 科 学 総 合	グリーンケア	2	谷 山 洋 三	3	月	2	277
人 文 社 会 科 学 総 合	臨床死生学	2	谷 山 洋 三	3	月	3	277

授業科目	講義題目	単位	担当教員	開講 セメスター	曜日	講時	頁
			氏名				
人文社会科学総合	スピリチュアルケア	2	谷山洋三	4	月	3	278
人文社会科学総合	宗教とスピリチュアリティ	2	高橋原	4	水	3	278
人文社会科学総合	喪失体験とそのケア	2	高谷橋山洋三	3	木	5	279
人文社会科学総合	実践宗教学試論～宗教者によるケア実践	2	高木谷橋村山敏洋原明三	4	木	5	279
人文社会科学総合	パズルで学ぶ論理学	2	村上祐子	5	水	3	280
人文社会科学総合	囲碁を通して知る日本文化	2	村上祐子	6	水	3	280
人文社会科学総合	日本社会の問題	2	村上祐子	5	水	4	281
人文社会科学総合	日本の生活文化	2	村上祐子	6	水	4	281
人文社会科学総合	前近代日本の歴史	2	クレイグ クリストファー	3	火	2	282
人文社会科学総合	日本史基礎文献講読	2	クレイグ クリストファー	3	火	3	282
人文社会科学総合	日本文化と社会	2	クレイグ クリストファー	4	火	2	283

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
人 文 統 計 学 S t a t i s t i c s	2	教授 木村邦博	3	水	2																		
◆ 科目ナンバリング	LHM-PRI201J																						
◆ 授業題目	統計学の基礎 (Elementary Statistics)																						
◆ 目的・概要	統計学の基礎を学ぶ。 特に、データ収集・測定の考え方の基本を理解し、代表値や変動の測度の算出、探索的データ解析、クロス集計表など、記述統計学の手法を身につける。																						
◆ 到達目標	官庁統計や簡単な調査報告・論文を読めるようになるための基礎的な統計学について学ぶ。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. データと測定 (1)</td> <td>10. クロス集計表 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. データと測定 (2)</td> <td>11. 関連の測度 (1)</td> </tr> <tr> <td>3. 度数分布と比率 (1)</td> <td>12. 関連の測度 (2)</td> </tr> <tr> <td>4. 度数分布と比率 (2)</td> <td>13. 3変数間の関係を考える (因果関係、相関関係、疑似相関) (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 代表値と変動 (1)</td> <td>14. 3変数間の関係を考える (因果関係、相関関係、疑似相関) (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 代表値と変動 (2)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. グラフによるデータの表現 (1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. グラフによるデータの表現 (2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. クロス集計表 (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. データと測定 (1)	10. クロス集計表 (2)	2. データと測定 (2)	11. 関連の測度 (1)	3. 度数分布と比率 (1)	12. 関連の測度 (2)	4. 度数分布と比率 (2)	13. 3変数間の関係を考える (因果関係、相関関係、疑似相関) (1)	5. 代表値と変動 (1)	14. 3変数間の関係を考える (因果関係、相関関係、疑似相関) (2)	6. 代表値と変動 (2)	15. まとめ	7. グラフによるデータの表現 (1)		8. グラフによるデータの表現 (2)		9. クロス集計表 (1)	
1. データと測定 (1)	10. クロス集計表 (2)																						
2. データと測定 (2)	11. 関連の測度 (1)																						
3. 度数分布と比率 (1)	12. 関連の測度 (2)																						
4. 度数分布と比率 (2)	13. 3変数間の関係を考える (因果関係、相関関係、疑似相関) (1)																						
5. 代表値と変動 (1)	14. 3変数間の関係を考える (因果関係、相関関係、疑似相関) (2)																						
6. 代表値と変動 (2)	15. まとめ																						
7. グラフによるデータの表現 (1)																							
8. グラフによるデータの表現 (2)																							
9. クロス集計表 (1)																							
◇ 成績評価の方法	レポート (10回) による。																						
◇ 教科書・参考書	教科書：ボンシュテット&ノーキ (海野他訳)『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社																						
◇ 授業時間外学習	教科書と補足資料 (ISTUで配付) で予習・復習をする。 教科書の各章末にある「一般的問題」のうち指定されたものについて、レポートを作成する。																						
その他：(1)人文統計学 (推測統計と多変量解析の基礎) とあわせて受講することが望ましい。 (2)社会調査士資格認定標準科目Cに対応。																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
人 文 統 計 学 S t a t i s t i c s	2	教授 木村邦博	4	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-PRI201J																				
◆ 授業題目	推測統計と多変量解析の基礎 (Statistical Inference and Multivariate Analysis)																				
◆ 目的・概要	より高度な統計学の基礎を学ぶ。 特に、確率分布と統計的推測の考え方や、平均・比率の差の検定・推定、分散分析、相関分析、回帰分析、パス解析などの手法について理解する。																				
◆ 到達目標	「統計学の基礎」をふまえて、より高度な統計的方法を理解するための基本事項について学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 統計的推測と仮説検定 (1)：確率論の基礎</td> <td>9. 2変数の関連の分析：相関係数</td> </tr> <tr> <td>2. 統計的推測と仮説検定 (2)：統計的推定</td> <td>10. 2変数の関連の分析：偏相関、因果推論、生態学的誤謬</td> </tr> <tr> <td>3. 統計的推測と仮説検定 (3)：統計的検定の理論</td> <td>11. 回帰分析の基礎 (1)</td> </tr> <tr> <td>4. 2平均値の差の検定 (1)</td> <td>12. 回帰分析の基礎 (2)</td> </tr> <tr> <td>5. 2平均値の差の検定 (2)</td> <td>13. 重回帰分析 (1)</td> </tr> <tr> <td>6. 複数平均値の差の検定 (1)</td> <td>14. 重回帰分析 (2)</td> </tr> <tr> <td>7. 複数平均値の差の検定 (2)</td> <td>15. 因果モデルとパス分析の基礎</td> </tr> <tr> <td>8. 2変数の関連の分析：クロス集計表における関連の測度</td> <td></td> </tr> </table>					1. 統計的推測と仮説検定 (1)：確率論の基礎	9. 2変数の関連の分析：相関係数	2. 統計的推測と仮説検定 (2)：統計的推定	10. 2変数の関連の分析：偏相関、因果推論、生態学的誤謬	3. 統計的推測と仮説検定 (3)：統計的検定の理論	11. 回帰分析の基礎 (1)	4. 2平均値の差の検定 (1)	12. 回帰分析の基礎 (2)	5. 2平均値の差の検定 (2)	13. 重回帰分析 (1)	6. 複数平均値の差の検定 (1)	14. 重回帰分析 (2)	7. 複数平均値の差の検定 (2)	15. 因果モデルとパス分析の基礎	8. 2変数の関連の分析：クロス集計表における関連の測度	
1. 統計的推測と仮説検定 (1)：確率論の基礎	9. 2変数の関連の分析：相関係数																				
2. 統計的推測と仮説検定 (2)：統計的推定	10. 2変数の関連の分析：偏相関、因果推論、生態学的誤謬																				
3. 統計的推測と仮説検定 (3)：統計的検定の理論	11. 回帰分析の基礎 (1)																				
4. 2平均値の差の検定 (1)	12. 回帰分析の基礎 (2)																				
5. 2平均値の差の検定 (2)	13. 重回帰分析 (1)																				
6. 複数平均値の差の検定 (1)	14. 重回帰分析 (2)																				
7. 複数平均値の差の検定 (2)	15. 因果モデルとパス分析の基礎																				
8. 2変数の関連の分析：クロス集計表における関連の測度																					
◇ 成績評価の方法	レポート (10回) による。																				
◇ 教科書・参考書	教科書：ボンシュテット&ノーキ (海野他訳)『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社																				
◇ 授業時間外学習	教科書と補足資料 (ISTUで配付) で予習・復習をする。 教科書の各章末にある「一般的問題」のうち指定されたものについて、レポートを作成する。																				
その他：(1)人文統計学 (統計学の基礎) とあわせて受講することが望ましい。 (2)社会調査士資格認定標準科目Dに対応。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 情 報 処 理 Information Processing for the Humanities	2	非 常 勤 講 師 湊 信 吾	3	金	1
◆ 科目ナンバリング	LHM-HUI201J				
◆ 授業題目	コンピュータを活用したデータ処理と情報発信 (Data processing and information providing with a computer)				
◆ 目的・概要	以下の予定で講義および実習を行う予定である。内容を変更する場合には授業中に連絡する。 ・授業では前半、実習を交えながら解説を行う。後半、課題に取り組んでもらう。 ・Excelでは表を使用したデータ処理について練習する。 ・Rを使用したデータ解析の方法、グラフの表現について練習する。 ・インターネットで文書を公開するにはWebページを作成する必要がある。Webページを作るためのプログラミング言語としてHTML、CSSおよびJavaScriptを使い、Webページ作成の基本について学ぶ。 ・SQLを使用したデータベースのプログラミングについて練習する。 ・プログラミング言語Ruby、Pythonを用い簡単なプログラミングの練習を行う。				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・Excelを使用した実習により手軽にデータ分析を行うことができるようになる。 ・Rを使用して基本的なデータ解析やグラフの作成ができるようになる。 ・PowerPointのスライド作成を通して発表用の資料を簡単に作成することができるようになる。 ・Webページを作ることで情報を外部に公開する方法について理解を深める。 ・SQLのプログラミングを使用し汎用的にデータベースを操作できるようになる。 ・Ruby、Pythonを使いプログラミングの楽しさを体験してもらう。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとして授業の概要、評価の方法、テキストの閲覧方法、欠席時の対応について説明 2. Excel (表計算の基本) 3. Excel (グラフの作成) 4. Excel (テキストファイルの扱い方) 5. Excel (組み込み関数の応用) 6. Excel (VBAプログラミング) 7. Rを利用したデータ解析とグラフの作成 8. PowerPointを使用したスライドの作成 9. AccessでSQLを使用したデータベースの操作 10. HTMLによるWebページの作成 (タグおよび表について) 11. CSSを使用したWebページのデザイン 12. JavaScript (Webページとの関わり) 13. JavaScript (グラフの作成) 14. Rubyプログラミング (テキストデータからWebページを作成) 15. Pythonプログラミング (ライブラリの利用) 				
◇ 成績評価の方法	毎回、授業時間内にレポートを印刷して提出してもらう。レポートの内容および提出日時により評価を決定する。				
◇ 教科書・参考書	毎週、週末にインターネット経由でテキストを公開する。参考書についてはテキストおよび授業で紹介する。				
◇ 授業時間外学習	テキストはインターネット上で公開するので予習に役立ててもらいたい。				
その他：オリエンテーションの時に連絡先やテキスト公開サイトのURLを教える。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 情 報 処 理 Information Processing for the Humanities	2	非 常 勤 講 師 湊 信 吾	3	金	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-HUI201J				
◆ 授業題目	コンピュータを活用したデータ処理と情報発信 (Data processing and information providing with a computer)				
◆ 目的・概要	以下の予定で講義および実習を行う予定である。内容を変更する場合には授業中に連絡する。 ・授業では前半、実習を交えながら解説を行う。後半、課題に取り組んでもらう。 ・Excelでは表を使用したデータ処理について練習する。 ・Rを使用したデータ解析の方法、グラフの表現について練習する。 ・インターネットで文書を公開するにはWebページを作成する必要がある。Webページを作るためのプログラミング言語としてHTML、CSSおよびJavaScriptを使い、Webページ作成の基本について学ぶ。 ・SQLを使用したデータベースのプログラミングについて練習する。 ・プログラミング言語Ruby、Pythonを用い簡単なプログラミングの練習を行う。				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・Excelを使用した実習により手軽にデータ分析を行うことができるようになる。 ・Rを使用して基本的なデータ解析やグラフの作成ができるようになる。 ・PowerPointのスライド作成を通して発表用の資料を簡単に作成することができるようになる。 ・Webページを作ることで情報を外部に公開する方法について理解を深める。 ・SQLのプログラミングを使用し汎用的にデータベースを操作できるようになる。 ・Ruby、Pythonを使いプログラミングの楽しさを体験してもらう。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとして授業の概要、評価の方法、テキストの閲覧方法、欠席時の対応について説明 2. Excel (表計算の基本) 3. Excel (グラフの作成) 4. Excel (テキストファイルの扱い方) 5. Excel (組み込み関数の応用) 6. Excel (VBAプログラミング) 7. Rを利用したデータ解析とグラフの作成 8. PowerPointを使用したスライドの作成 9. AccessでSQLを使用したデータベースの操作 10. HTMLによるWebページの作成 (タグおよび表について) 11. CSSを使用したWebページのデザイン 12. JavaScript (Webページとの関わり) 13. JavaScript (グラフの作成) 14. Rubyプログラミング (テキストデータからWebページを作成) 15. Pythonプログラミング (ライブラリの利用) 				
◇ 成績評価の方法	毎回、授業時間内にレポートを印刷して提出してもらう。レポートの内容および提出日時により評価を決定する。				
◇ 教科書・参考書	毎週、週末にインターネット経由でテキストを公開する。参考書についてはテキストおよび授業で紹介する。				
◇ 授業時間外学習	テキストはインターネット上で公開するので予習に役立ててもらいたい。				
その他：オリエンテーションの時に連絡先やテキスト公開サイトのURLを教える。 同内容の講義を1講時にも開講するが、いずれかを履修すればよい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 語 演 習 Seminar in Practical English	2	非常勤 講師 中 西 弘	3	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-ENG201J																				
◆ 授業題目	時事英語演習 (English for Current Topics)																				
◆ 目的・概要	主に時事英語 (Wall Street Journal, New York Times 等) の精読を行い、内容を正確につかむ訓練をする。また、論理的・批判的に文章を読む習慣を身につける。さらに、その内容に関して、意見を述べ (Paragraph Writing)、言い換え (Paraphrasing)、要約する (Summarizing) ライティング活動を行う。																				
◆ 到達目標	(1)時事英語を正確に読む力を身につける。 (2)時事英語を読んで、意見を述べたり、内容をまとめたりする力を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 時事英語読解 + Paragraph Writing (1)</td> <td>9. 時事英語読解 + Paraphrasing (2)</td> </tr> <tr> <td>2. 時事英語読解 + Paragraph Writing (2)</td> <td>10. 時事英語読解 + Paraphrasing (3)</td> </tr> <tr> <td>3. 時事英語読解 + Paragraph Writing (3)</td> <td>11. 時事英語読解 + Summarizing (1)</td> </tr> <tr> <td>4. 時事英語読解 + Paragraph Writing (4)</td> <td>12. 時事英語読解 + Summarizing (2)</td> </tr> <tr> <td>5. 時事英語読解 + Paragraph Writing (5)</td> <td>13. 時事英語読解 + Summarizing (3)</td> </tr> <tr> <td>6. 時事英語読解 + Paragraph Writing (6)</td> <td>14. 時事英語読解 + Summarizing (4)</td> </tr> <tr> <td>7. 授業のまとめと中間テスト</td> <td>15. 授業のまとめと期末テスト</td> </tr> <tr> <td>8. 時事英語読解 + Paraphrasing (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 時事英語読解 + Paragraph Writing (1)	9. 時事英語読解 + Paraphrasing (2)	2. 時事英語読解 + Paragraph Writing (2)	10. 時事英語読解 + Paraphrasing (3)	3. 時事英語読解 + Paragraph Writing (3)	11. 時事英語読解 + Summarizing (1)	4. 時事英語読解 + Paragraph Writing (4)	12. 時事英語読解 + Summarizing (2)	5. 時事英語読解 + Paragraph Writing (5)	13. 時事英語読解 + Summarizing (3)	6. 時事英語読解 + Paragraph Writing (6)	14. 時事英語読解 + Summarizing (4)	7. 授業のまとめと中間テスト	15. 授業のまとめと期末テスト	8. 時事英語読解 + Paraphrasing (1)	
1. 時事英語読解 + Paragraph Writing (1)	9. 時事英語読解 + Paraphrasing (2)																				
2. 時事英語読解 + Paragraph Writing (2)	10. 時事英語読解 + Paraphrasing (3)																				
3. 時事英語読解 + Paragraph Writing (3)	11. 時事英語読解 + Summarizing (1)																				
4. 時事英語読解 + Paragraph Writing (4)	12. 時事英語読解 + Summarizing (2)																				
5. 時事英語読解 + Paragraph Writing (5)	13. 時事英語読解 + Summarizing (3)																				
6. 時事英語読解 + Paragraph Writing (6)	14. 時事英語読解 + Summarizing (4)																				
7. 授業のまとめと中間テスト	15. 授業のまとめと期末テスト																				
8. 時事英語読解 + Paraphrasing (1)																					
◇ 成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (40%)、中間テスト (30%)、期末テスト (30%)																				
◇ 教科書・参考書	初回の授業で指示します。																				
◇ 授業時間外学習	予習段階で教材に目をとっておくこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 語 演 習 Seminar in Practical English	2	非常勤 講師 中 西 弘	4	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-ENG201J																				
◆ 授業題目	学術英語演習 (English for Academic Topics)																				
◆ 目的・概要	主に心理言語学 (言語獲得・言語理解の心理メカニズム) を扱った英文雑誌・論文を中心に、学術文章の精読を行い、内容を正確につかむ訓練をする。さらに、その内容に関して、意見を述べ (Paragraph Writing)、言い換え (Paraphrasing)、要約する (Summarizing) ライティング活動を行う。																				
◆ 到達目標	(1)学術的な英語の文章を正確に読む力を身につける。 (2)学術的な英語の文章を読んで、意見を述べたり、内容をまとめたりする力を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. こどもの言語獲得にまつわる文献 (プロソディの知覚) + Paragraph Writing (1)</td> <td>9. 記憶にまつわる文献 (復唱技術と言語習得) + Paraphrasing (3)</td> </tr> <tr> <td>2. こどもの言語獲得にまつわる文献 (分節音の知覚) + Paragraph Writing (2)</td> <td>10. リーディングの認知メカニズムにまつわる文献 (統語処理プロセス) + Paraphrasing(4)</td> </tr> <tr> <td>3. こどもの言語獲得にまつわる文献 (模倣が言語習得に果たす役割) + Paragraph Writing (3)</td> <td>11. リーディングの認知メカニズムにまつわる文献 (チャンキングプロセス) + Summarizing (1)</td> </tr> <tr> <td>4. こどもの言語獲得にまつわる文献 (母親語が言語習得に果たす役割) + Paragraph Writing (4)</td> <td>12. リーディングの認知メカニズムにまつわる文献 (プロソディの役割) + Summarizing (2)</td> </tr> <tr> <td>5. こどもの言語獲得にまつわる文献 (名詞・動詞の獲得プロセス) + Paragraph Writing (5)</td> <td>13. リーディングの認知メカニズムにまつわる文献 (推論のメカニズム) + Summarizing (3)</td> </tr> <tr> <td>6. 授業のまとめと中間試験</td> <td>14. 英語学習にまつわる文献 (シャドーイングの認知メカニズム) + Summarizing (4)</td> </tr> <tr> <td>7. 記憶にまつわる文献 (短期記憶・長期記憶の仕組み) + Paraphrasing (1)</td> <td>15. 授業のまとめと期末テスト</td> </tr> <tr> <td>8. 記憶にまつわる文献 (メンタルレキシコンの仕組み) + Paraphrasing (2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. こどもの言語獲得にまつわる文献 (プロソディの知覚) + Paragraph Writing (1)	9. 記憶にまつわる文献 (復唱技術と言語習得) + Paraphrasing (3)	2. こどもの言語獲得にまつわる文献 (分節音の知覚) + Paragraph Writing (2)	10. リーディングの認知メカニズムにまつわる文献 (統語処理プロセス) + Paraphrasing(4)	3. こどもの言語獲得にまつわる文献 (模倣が言語習得に果たす役割) + Paragraph Writing (3)	11. リーディングの認知メカニズムにまつわる文献 (チャンキングプロセス) + Summarizing (1)	4. こどもの言語獲得にまつわる文献 (母親語が言語習得に果たす役割) + Paragraph Writing (4)	12. リーディングの認知メカニズムにまつわる文献 (プロソディの役割) + Summarizing (2)	5. こどもの言語獲得にまつわる文献 (名詞・動詞の獲得プロセス) + Paragraph Writing (5)	13. リーディングの認知メカニズムにまつわる文献 (推論のメカニズム) + Summarizing (3)	6. 授業のまとめと中間試験	14. 英語学習にまつわる文献 (シャドーイングの認知メカニズム) + Summarizing (4)	7. 記憶にまつわる文献 (短期記憶・長期記憶の仕組み) + Paraphrasing (1)	15. 授業のまとめと期末テスト	8. 記憶にまつわる文献 (メンタルレキシコンの仕組み) + Paraphrasing (2)	
1. こどもの言語獲得にまつわる文献 (プロソディの知覚) + Paragraph Writing (1)	9. 記憶にまつわる文献 (復唱技術と言語習得) + Paraphrasing (3)																				
2. こどもの言語獲得にまつわる文献 (分節音の知覚) + Paragraph Writing (2)	10. リーディングの認知メカニズムにまつわる文献 (統語処理プロセス) + Paraphrasing(4)																				
3. こどもの言語獲得にまつわる文献 (模倣が言語習得に果たす役割) + Paragraph Writing (3)	11. リーディングの認知メカニズムにまつわる文献 (チャンキングプロセス) + Summarizing (1)																				
4. こどもの言語獲得にまつわる文献 (母親語が言語習得に果たす役割) + Paragraph Writing (4)	12. リーディングの認知メカニズムにまつわる文献 (プロソディの役割) + Summarizing (2)																				
5. こどもの言語獲得にまつわる文献 (名詞・動詞の獲得プロセス) + Paragraph Writing (5)	13. リーディングの認知メカニズムにまつわる文献 (推論のメカニズム) + Summarizing (3)																				
6. 授業のまとめと中間試験	14. 英語学習にまつわる文献 (シャドーイングの認知メカニズム) + Summarizing (4)																				
7. 記憶にまつわる文献 (短期記憶・長期記憶の仕組み) + Paraphrasing (1)	15. 授業のまとめと期末テスト																				
8. 記憶にまつわる文献 (メンタルレキシコンの仕組み) + Paraphrasing (2)																					
◇ 成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (40%)、中間テスト (30%)、期末テスト (30%)																				
◇ 教科書・参考書	初回の授業で指示します。																				
◇ 授業時間外学習	予習段階で教材に目をとっておくこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
高 等 英 文 解 釈 法 Advanced English for Intensive Reading	2	非常勤 講師 鈴木 亨	3	金	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-ENG202J				
◆ 授業題目	英文解釈の技法 I (English Reading Skills I)				
◆ 目的・概要	様々なスタイルの英文テキスト (小説、エッセイ、映画脚本、歌詞、雑誌・新聞記事、評論など) を素材にして、実践的な英語の読解力を養成する。取り上げるテキストに応じて、全訳、部分訳、要約など授業での読み方は随時指示する。仮想敵は、断片的な日本語訳語との対応関係 (のようなもの) とフィーリングに基づく自分勝手な訳読であり、この授業を通じて文法や文章構成の理屈をきちんと理解すれば、正しい解釈は自ずと明らかになるということを体得してもらいたい。				
◆ 到達目標	英文の基本的なロジック (正しい文法解析と文脈を含めた文章構成の論理的な把握) を読解のストラテジーとして身につけ、様々な英文スタイルの特性に応じて、正確な読解ができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. オリエンテーション (授業の目的や進め方等について) 8. How Pleasure Works (3) 【注意：授業の進行状況に応じて下記の計画を変更することがある。】 9. Before Sunrise (1) 2. Reading Literary Fiction (1) 10. Before Sunrise (2) 3. Reading Literary Fiction (2) 11. The Fall of Language in the Age of English (1) 4. A Small Good Thing (1) 12. The Fall of Language in the Age of English (2) 5. A Small Good Thing (2) 13. The Fall of Language in the Age of English (3) 6. How Pleasure Works (1) 14. 授業のまとめ 7. How Pleasure Works (2) 15. 学期末試験と解説				
◇ 成績評価の方法	学期末試験および学期中に提出してもらった課題 (学期中に3回、内容は適宜指示する) に基づいて、授業内容の理解度を総合的に評価する。				
◇ 教科書・参考書	使用するテキストはプリントで配布する。参考書は必要に応じて適宜紹介する。				
◇ 授業時間外学習	時間をかけてテキストを読む。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
高 等 英 文 解 釈 法 Advanced English for Intensive Reading	2	非常勤 講師 鈴木 亨	4	金	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-ENG202J				
◆ 授業題目	英文解釈の技法 II (English Reading Skills II)				
◆ 目的・概要	様々なスタイルの英文テキスト (小説、エッセイ、映画脚本、歌詞、雑誌・新聞記事、評論など) を素材にして、実践的な英語の読解力を養成する。取り上げるテキストに応じて、全訳、部分訳、要約など授業での読み方は随時指示する。仮想敵は、断片的な日本語訳語との対応関係 (のようなもの) とフィーリングに基づく自分勝手な訳読であり、この授業を通じて文法や文章構成の理屈をきちんと理解すれば、正しい解釈は自ずと明らかになるということを体得してもらいたい。				
◆ 到達目標	英文の基本的なロジック (正しい文法解析と文脈を含めた文章構成の論理的な把握) を読解のストラテジーとして身につけ、様々な英文スタイルの特性に応じて、正確な読解ができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. オリエンテーション (授業の目的や進め方等について) 8. Looking For Rachel Wallace (1) 【注意：授業の進行状況に応じて下記の計画を変更することがある。】 9. Looking For Rachel Wallace (2) 2. Judy Moody Gets Famous 10. The Art of Procrastination 3. Akeelah and the Bee 11. Song Lyrics 4. What Money Can't Buy (1) 12. Reclaiming Conversation (1) 5. What Money Can't Buy (2) 13. Reclaiming Conversation (2) 6. 11/22/63 (1) 14. 授業のまとめ 7. 11/22/63 (2) 15. 学期末試験と解説				
◇ 成績評価の方法	学期末試験および学期中に提出してもらった課題 (学期中に3回、内容は適宜指示する) に基づいて、授業内容の理解度を総合的に評価する。				
◇ 教科書・参考書	使用するテキストはプリントで配布する。参考書は必要に応じて適宜紹介する。				
◇ 授業時間外学習	時間をかけてテキストを読む。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 語 論 文 作 成 法 C r e a t i v e W r i t i n g	2	非常勤 講師	マックス フィリップス	3	水 2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-ENG203E																				
◆ 授業題目	Academic Writing I (Academic Writing I)																				
◆ 目的・概要	This course is designed as an introduction to the academic writing process. Students will learn: a) correct format for writing essays, b) organization for different essay types, c) strategies for pre-writing, revising and proofreading, and improving the readability of their writing and d) correct sentence and paragraph structures that meets the expectations of their target audience.																				
◆ 到達目標	Students will learn that because English writing is a process, not a product, organizational expectations must be met. The course is designed to help students meet those expectations by teaching how to logically organize writing.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Course Introduction; Writing Format; Plagiarism; Capitalization Rules</td> <td>8. Introduction and Conclusion Writing; Essay 3 Assignment</td> </tr> <tr> <td>2. Essay 1 Assignment; Introduction to English Writing; Pre-writing Strategies</td> <td>9. Understanding Logic, Audience, Tone; Organization 1-Compare/Contrast</td> </tr> <tr> <td>3. Basic Sentence Structure; Parallelism Rules</td> <td>10. Organization 2-Chronological Order</td> </tr> <tr> <td>4. Writing an Outline; Basic Paragraph Structure</td> <td>11. Organization 3-Cause/Effect</td> </tr> <tr> <td>5. Basic Essay Structure</td> <td>12. Workshop 2 (E2 one-on-one)</td> </tr> <tr> <td>6. Introduction to Peer Review, Revision, and Proofreading</td> <td>13. Effective Thesis Statement Writing; Gender Neutral Language</td> </tr> <tr> <td>7. Workshop 1 (Rough Draft of Essay 1); Essay 2 Assignment</td> <td>14. Workshop 3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. Semester Exam</td> </tr> </table>					1. Course Introduction; Writing Format; Plagiarism; Capitalization Rules	8. Introduction and Conclusion Writing; Essay 3 Assignment	2. Essay 1 Assignment; Introduction to English Writing; Pre-writing Strategies	9. Understanding Logic, Audience, Tone; Organization 1-Compare/Contrast	3. Basic Sentence Structure; Parallelism Rules	10. Organization 2-Chronological Order	4. Writing an Outline; Basic Paragraph Structure	11. Organization 3-Cause/Effect	5. Basic Essay Structure	12. Workshop 2 (E2 one-on-one)	6. Introduction to Peer Review, Revision, and Proofreading	13. Effective Thesis Statement Writing; Gender Neutral Language	7. Workshop 1 (Rough Draft of Essay 1); Essay 2 Assignment	14. Workshop 3		15. Semester Exam
1. Course Introduction; Writing Format; Plagiarism; Capitalization Rules	8. Introduction and Conclusion Writing; Essay 3 Assignment																				
2. Essay 1 Assignment; Introduction to English Writing; Pre-writing Strategies	9. Understanding Logic, Audience, Tone; Organization 1-Compare/Contrast																				
3. Basic Sentence Structure; Parallelism Rules	10. Organization 2-Chronological Order																				
4. Writing an Outline; Basic Paragraph Structure	11. Organization 3-Cause/Effect																				
5. Basic Essay Structure	12. Workshop 2 (E2 one-on-one)																				
6. Introduction to Peer Review, Revision, and Proofreading	13. Effective Thesis Statement Writing; Gender Neutral Language																				
7. Workshop 1 (Rough Draft of Essay 1); Essay 2 Assignment	14. Workshop 3																				
	15. Semester Exam																				
◇ 成績評価の方法	Final grade to be determined by: homework, score earned on submitted essays, and workshop participation.																				
◇ 教科書・参考書	Course syllabus based on "Discoveries in Academic Writing," by Barbara Harris Leonhard and "Teaching Academic Writing" by Eli Hinkel.																				
◇ 授業時間外学習	Attendance is mandatory for all classes. You will be automatically expelled if you have more than 2 unexcused absences. No auditors permitted.																				
その他 :																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
英 語 論 文 作 成 法 C r e a t i v e W r i t i n g	2	非常勤 講師	マックス フィリップス	集 中 (3)																			
◆ 科目ナンバリング	LHM-ENG203E																						
◆ 授業題目	Academic Writing II (Academic Writing II)																						
◆ 目的・概要	This course is a continuation of AWI. Therefore, the prerequisite for entering AWII is satisfactory completion of AWI. (Requests for a waiver must be made to the professor prior to admission to the course.) Student will study the research process and how to organize their research into a cohesive, logically organized paper, with a special focus on proper format and documentation.																						
◆ 到達目標	Students will do original research and write a fully documented research paper.																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Course Introduction; The Research Process</td> <td>10. Understanding Citations; Documenting Sources In-text</td> </tr> <tr> <td>2. Choosing a Topic; Identifying Potential Resources</td> <td>11. Paper Format; Documenting Sources Post-text</td> </tr> <tr> <td>3. Gathering Source Material-Evaluating Sources</td> <td>12. Workshop 2 (rough draft of main body)</td> </tr> <tr> <td>4. Note-Taking</td> <td>13. Abstract Writing; Writing Introduction and Conclusion for Research Papers</td> </tr> <tr> <td>5. Using the Internet for Research</td> <td>14. Writing Workshop 3 (rough draft of paper)</td> </tr> <tr> <td>6. Considering Organization</td> <td>15. Oral Presentations of Research Paper</td> </tr> <tr> <td>7. How to Organize Notes/Write Outline</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. Workshop 1 (Outline-rough draft)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. Integrating Source Material; First Draft Writing</td> <td></td> </tr> </table>					1. Course Introduction; The Research Process	10. Understanding Citations; Documenting Sources In-text	2. Choosing a Topic; Identifying Potential Resources	11. Paper Format; Documenting Sources Post-text	3. Gathering Source Material-Evaluating Sources	12. Workshop 2 (rough draft of main body)	4. Note-Taking	13. Abstract Writing; Writing Introduction and Conclusion for Research Papers	5. Using the Internet for Research	14. Writing Workshop 3 (rough draft of paper)	6. Considering Organization	15. Oral Presentations of Research Paper	7. How to Organize Notes/Write Outline		8. Workshop 1 (Outline-rough draft)		9. Integrating Source Material; First Draft Writing	
1. Course Introduction; The Research Process	10. Understanding Citations; Documenting Sources In-text																						
2. Choosing a Topic; Identifying Potential Resources	11. Paper Format; Documenting Sources Post-text																						
3. Gathering Source Material-Evaluating Sources	12. Workshop 2 (rough draft of main body)																						
4. Note-Taking	13. Abstract Writing; Writing Introduction and Conclusion for Research Papers																						
5. Using the Internet for Research	14. Writing Workshop 3 (rough draft of paper)																						
6. Considering Organization	15. Oral Presentations of Research Paper																						
7. How to Organize Notes/Write Outline																							
8. Workshop 1 (Outline-rough draft)																							
9. Integrating Source Material; First Draft Writing																							
◇ 成績評価の方法	Final grade to be determined by: research paper, and workshop participation.																						
◇ 教科書・参考書	Course syllabus based on: MLA Style Manual and Guide to Scholarly Publishing 3rd Edition.																						
◇ 授業時間外学習	Attendance is mandatory for all classes. You will be automatically expelled from the course if you have more than 2 unexcused absences. No auditors.																						
その他 :																							

授 業 科 目					単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
ギリシヤ語	2	非常勤講師	尾園 絢一	3	金	3			
◆ 科目ナンバリング	LHM-OFL201J								
◆ 授業題目	古典ギリシヤ語文法初級 (Elementary Grammar of classical Greek)								
◆ 目的・概要	古典ギリシヤ語を初めて学ぶ人を対象に文字の読み方から始め、練習問題を解きながら文法を習得する。基本的には教科書に沿って進めていくが、順序を変えることもある。重要な文法事項については資料を追加して解説する。歴史文法の視点に立った解説も交えながら、音韻法則や活用の種類などの原理の理解に重点を置いた授業を目指す。								
◆ 到達目標	古典ギリシヤ語初級文法を習得し、ギリシヤ語の簡単な文が読めるようになる。								
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. インド・ヨーロッパ語族とギリシヤ語派。アルファベット、発音、アクセント、音韻論 2. 動詞組織、現在直説法能動態の動詞変化、第1変化名詞 (PIE *-eh2-) 3. 未来直説法能動態の動詞変化、第1変化名詞 (PIE *-ih2-)、第1変化男性名詞 4. 未完了能動態の動詞変化、第2変化名詞・形容詞、前置詞 5. アオリスト直説法能動態の動詞変化、完了、過去完了直説法能動態の動詞変化、指示代名詞、強意代名詞 6. 繫辞 (copula) と後倚辞、疑問代名詞、不定代名詞 7. 現在直説法、未完了、未来の中動態の動詞変化、人称代名詞 8. アオリスト、完了、過去完了、未完了の中動態の動詞変化、再帰代名詞、相互代名詞、所有代名詞 9. 第2アオリスト、受動アオリスト (ē-アオリスト、thē-アオリスト)、第3変化名詞 (1) 10. 第3変化名詞 (2)、約音動詞 (verba contracta) 11. 黙音語幹動詞 (verba muta)、第3変化 (子音語幹) 形容詞の変化 (1) 12. 流音語幹動詞 (verba liquida)、第3変化 (子音語幹) 名詞の変化 (3) 13. 接続法能動態の動詞変化 14. 接続法中動態の動詞変化 15. 母音交替 (アブラウト)、形容詞 mégas polús の変化 								
◇ 成績評価の方法	成績評価方法 出席 (40%)、毎回の授業における課題達成度 (60%)								
◇ 教科書・参考書	教科書は田中美知太郎、松平千秋『ギリシヤ語入門』改訂版 (岩波全書 1996年、新装版 2012年) を使用するので、2回目の授業までに入手しておくこと。配付資料と併用して授業を進める。体系的な文法書としては以下のものがあるので、より詳しく学びたい人は参考にする。英語: W. Goodwin: Greek Grammar (Blaisdell 1965), Herbert W. Smyth: Greek Grammar (Harvard University Press 1956) 等。ドイツ語: Bornemann-Risch: Griechische Grammatik (Diesterweg 2008), Zinsmeister: Grieschische Grammatik, Teil I (Winter 2006) 等。								
◇ 授業時間外学習	復習を行い、指示された練習問題を解くこと。徒に文法事項を暗記するのではなく、ギリシヤ語の仕組みを理解することに重点を置いて授業と学習に臨むこと。								
その他: 後期も連続して受講することが望ましい。									

授 業 科 目					単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
ギリシヤ語	2	非常勤講師	尾園 絢一	4	金	3			
◆ 科目ナンバリング	LHM-OFL201J								
◆ 授業題目	古典ギリシヤ語文法初級 (Elementary Grammar of classical Greek)								
◆ 目的・概要	前期に引き続き、練習問題を解きながら文法を習得する。後期は動詞の法 (modi)、格の用法、構文などの統語論も学び、高度な文も読解できるようになることを目指す。基本的には教科書に沿って進めていくが、順序を変えることもある。重要な文法事項については資料を追加して解説する。歴史文法の視点に立った解説も交えながら、音韻法則や活用の種類などの原理の理解に重点を置いた授業を目指す。								
◆ 到達目標	古典ギリシヤ語初級文法を習得し、平易なギリシヤ語が読めるようになる。								
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 条件文、約音名詞 (contracta) の変化、アッティカ第2名詞変化、約音動詞 (verba contracta) の接続法 2. 予想的未来 (prospective) を表わす条件文、不定詞の作り方と用法、補語的不定詞 (accusativus cum infinitivo) 3. 第3変化名詞 (4)、関係代名詞 4. 希求法能動態と中受動態、第3変化形容詞 (1) 5. 可能的未来 (potential) を表わす条件文、第3変化名詞 (5) 6. 分詞の作り方と用法、第3変化名詞 (6) 7. 補語的分詞 (accusativus cum participio)、分詞の独立用法 8. 形容詞の比較、可能性 (potentialis) を表わす希求法、数詞、 9. 形容詞の比較の不規則変化 10. 普遍的又は反復的事態 (iterative) を表わす条件文、副詞および副詞の比較 11. 命令法能動態と中受動態、約音動詞 (verba contracta) の命令法、述語的分詞をとる動詞 12. 間接話法 (1)-(2) 13. 動詞の形容詞、間接話法 (3)、否定詞 14. 無幹母音型動詞 (mi動詞) の変化 (語根型、重複型) 15. 無幹母音型動詞 (mi動詞) の変化 (鼻音挿入型) 15. 統語論 (格の用法、文の種類) 								
◇ 成績評価の方法	成績評価方法 出席 (40%)、毎回の授業における課題達成度 (60%)								
◇ 教科書・参考書	教科書は田中美知太郎、松平千秋『ギリシヤ語入門』改訂版 (岩波全書 1996年、新装版 2012年) を使用する。配付資料と併用して授業を進める。体系的な文法書としては以下のものがあるので、より詳しく学びたい人は参考にする。英語: W. Goodwin, Greek Grammar (Blaisdell 1965); Herbert W. Smyth, Greek Grammar (Harvard University Press 1956) 等。ドイツ語: Bornemann-Risch, Griechische Grammatik (Diesterweg 2008); Zinsmeister, Grieschische Grammatik, Teil I (Winter 2006) 等。								
◇ 授業時間外学習	復習を行い、指示された練習問題を解くこと。徒に文法事項を暗記するのではなく、ギリシヤ語の仕組みを理解することに重点を置いて授業と学習に臨むこと。								
その他: 前期のギリシヤ語を受講しておくことが望ましい。									

授 業 科 目					単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ギリシア語	2	非常勤講師	尾園 絢一	3	月	4																			
◆ 科目ナンバリング	LHM-OFL201J																								
◆ 授業題目	ホメロス『イリアス』演習 (Seminar on Homer's Iliad)																								
◆ 目的・概要	ギリシア最古の文学作品であり、インド・ヨーロッパ語比較言語学における第1級の資料でもあるホメロスの叙事詩を講読する。トロイア戦争10年目を舞台にした『イリアス』第16巻684行（アカイア勢の勇将パトロクロスが討たれる場面）から読み始める。前期は Untermann, Einführung in die Sprache Homers の解説に沿って、語形一つ一つについて歴史的展開、アイオリス、イオニア、アッティカ諸方言の特徴を確認しながら読み進める。Rix, Historische Grammatik des Griechischen; Risch, Wortbildung der homerischen Sprache; Frisk, Griechisches Etymologisches Wörterbuch 等の2次文献を用いて音韻、活用、造語法、語源を考察し、文献学的・言語学的訓練を行う。																								
◆ 到達目標	辞書、文法書、専門書を用いてホメロス叙事詩の原典を読解できるようになる。語形分析を通じてギリシア語歴史文法の基礎を習得する。																								
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ギリシア語歴史文法（音韻論、アブラウト等）、ホメロスの言語的特徴、韻律と音読</td> <td>8. 『イリアス』 XVI 755-771</td> </tr> <tr> <td>2. 『イリアス』 XVI 684-693</td> <td>9. 『イリアス』 XVI 772-785</td> </tr> <tr> <td>3. 『イリアス』 XVI 694-704</td> <td>10. 『イリアス』 XVI 786-800</td> </tr> <tr> <td>4. 『イリアス』 XVI 705-714</td> <td>11. 『イリアス』 XVI 801-815</td> </tr> <tr> <td>5. 『イリアス』 XVI 715-725</td> <td>12. 『イリアス』 XVI 816-829</td> </tr> <tr> <td>6. 『イリアス』 XVI 726-739</td> <td>13. 『イリアス』 XVI 830-841</td> </tr> <tr> <td>7. 『イリアス』 XVI 743-754</td> <td>14. 『イリアス』 XVI 841-854</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 『イリアス』 XVI 855-867</td> </tr> </table>									1. ギリシア語歴史文法（音韻論、アブラウト等）、ホメロスの言語的特徴、韻律と音読	8. 『イリアス』 XVI 755-771	2. 『イリアス』 XVI 684-693	9. 『イリアス』 XVI 772-785	3. 『イリアス』 XVI 694-704	10. 『イリアス』 XVI 786-800	4. 『イリアス』 XVI 705-714	11. 『イリアス』 XVI 801-815	5. 『イリアス』 XVI 715-725	12. 『イリアス』 XVI 816-829	6. 『イリアス』 XVI 726-739	13. 『イリアス』 XVI 830-841	7. 『イリアス』 XVI 743-754	14. 『イリアス』 XVI 841-854		15. 『イリアス』 XVI 855-867
1. ギリシア語歴史文法（音韻論、アブラウト等）、ホメロスの言語的特徴、韻律と音読	8. 『イリアス』 XVI 755-771																								
2. 『イリアス』 XVI 684-693	9. 『イリアス』 XVI 772-785																								
3. 『イリアス』 XVI 694-704	10. 『イリアス』 XVI 786-800																								
4. 『イリアス』 XVI 705-714	11. 『イリアス』 XVI 801-815																								
5. 『イリアス』 XVI 715-725	12. 『イリアス』 XVI 816-829																								
6. 『イリアス』 XVI 726-739	13. 『イリアス』 XVI 830-841																								
7. 『イリアス』 XVI 743-754	14. 『イリアス』 XVI 841-854																								
	15. 『イリアス』 XVI 855-867																								
◇ 成績評価の方法	成績評価方法 出席（40%）、授業で示される理解度（60%）																								
◇ 教科書・参考書	テキストはオックスフォード大学古典テキストのコピーを配布する。辞書は Liddel & Scott, Greek English Lexicon (Abridged Edition) を使用すること。文法書はさしあたり、初級の授業で使用したものでも構わない。ホメロス叙事詩の基本文法書は Chantraine, Grammaire homérique である。簡便なものとしては Pharr-Wright, Homeric Greek があるが、原理の理解には不向きなので、使用する場合は授業で得た知識を追加しながら使用すること。																								
◇ 授業時間外学習	一語ずつ詳しく分析するので、毎回の授業で読む分量は多くない。毎回10~15行の予習が必要となる。授業で得た知識を使える形にして残しておくこと。																								
その他：参加者は古典ギリシア語文法初級の知識を有すること。																									

授 業 科 目					単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ギリシア語	2	非常勤講師	尾園 絢一	4	月	4																			
◆ 科目ナンバリング	LHM-OFL201J																								
◆ 授業題目	ホメロス『イリアス』演習 (Seminar on Homer's Iliad)																								
◆ 目的・概要	前期に引き続き、ホメロス『イリアス』を講読する。後期は第17巻（ヘクトルによって討たれたパトロクロスの亡骸をめぐってメネラオスが奮戦する場面）から読み始める。前期と同様に語形一つ一つについて歴史的展開、アイオリス、イオニア、アッティカ諸方言の特徴を確認しながら読み進める。Rix, Historische Grammatik des Griechischen; Risch, Wortbildung der homerischen Sprache; Frisk, Griechisches Etymologisches Wörterbuch 等の2次文献を用いて音韻、活用、造語法、語源を考察し、文献学的・言語学的訓練を行う。																								
◆ 到達目標	辞書、文法書、専門書を用いてホメロス叙事詩の原典を読解できるようになる。語形分析を通じてギリシア語歴史文法の基礎を習得する。																								
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 『イリアス』 XVII 1-17</td> <td>9. 『イリアス』 XVII 140-168</td> </tr> <tr> <td>2. 『イリアス』 XVII 18-32</td> <td>10. 『イリアス』 XVII 169-182</td> </tr> <tr> <td>3. 『イリアス』 XVII 33-42</td> <td>11. 『イリアス』 XVII 183-208</td> </tr> <tr> <td>4. 『イリアス』 XVII 43-60</td> <td>12. 『イリアス』 XVII 209-232</td> </tr> <tr> <td>5. 『イリアス』 XVII 61-81</td> <td>13. 『イリアス』 XVII 233-255</td> </tr> <tr> <td>6. 『イリアス』 XVII 82-105</td> <td>14. 『イリアス』 XVII 256-273</td> </tr> <tr> <td>7. 『イリアス』 XVII 106-122</td> <td>15. 『イリアス』 XVII 256-273</td> </tr> <tr> <td>8. 『イリアス』 XVII 123-139</td> <td></td> </tr> </table>									1. 『イリアス』 XVII 1-17	9. 『イリアス』 XVII 140-168	2. 『イリアス』 XVII 18-32	10. 『イリアス』 XVII 169-182	3. 『イリアス』 XVII 33-42	11. 『イリアス』 XVII 183-208	4. 『イリアス』 XVII 43-60	12. 『イリアス』 XVII 209-232	5. 『イリアス』 XVII 61-81	13. 『イリアス』 XVII 233-255	6. 『イリアス』 XVII 82-105	14. 『イリアス』 XVII 256-273	7. 『イリアス』 XVII 106-122	15. 『イリアス』 XVII 256-273	8. 『イリアス』 XVII 123-139	
1. 『イリアス』 XVII 1-17	9. 『イリアス』 XVII 140-168																								
2. 『イリアス』 XVII 18-32	10. 『イリアス』 XVII 169-182																								
3. 『イリアス』 XVII 33-42	11. 『イリアス』 XVII 183-208																								
4. 『イリアス』 XVII 43-60	12. 『イリアス』 XVII 209-232																								
5. 『イリアス』 XVII 61-81	13. 『イリアス』 XVII 233-255																								
6. 『イリアス』 XVII 82-105	14. 『イリアス』 XVII 256-273																								
7. 『イリアス』 XVII 106-122	15. 『イリアス』 XVII 256-273																								
8. 『イリアス』 XVII 123-139																									
◇ 成績評価の方法	成績評価方法 出席（40%）、授業で示される理解度（60%）																								
◇ 教科書・参考書	テキストはオックスフォード大学古典テキストのコピーを配布する。辞書は Liddel & Scott: Greek English Lexicon (Abridged Edition) を使用すること。文法書はさしあたり、初級の授業で使用したものでも構わない。ホメロス叙事詩の基本文法書は Chantraine, Grammaire homérique である。簡便なものは Pharr-Wright, Homeric Greek があるが、原理の理解には不向きなので、使用する場合は授業で得た知識を追加しながら使用すること。																								
◇ 授業時間外学習	前期に比べて読むスピードが少しだけ上がるので毎回20行程度の予習が必要となる。授業で得た知識を使える形にして残しておくこと。																								
その他：参加者は古典ギリシア語文法初級の知識を有すること。																									

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
ラ L テ a ン t 語 i ン n	2	非常勤 講師 宮 崎 正 美	3	金	3
<p>◆ 科目ナンバリング LHM-OFL202]</p> <p>◆ 授業題目 ラテン語初級文法 (ELEMENTARY LATIN GRAMMAR)</p> <p>◆ 目的・概要 ラテン語の初級文法の修得。</p> <p>◆ 到達目標 ラテン語辞書の引き方が修得できるようになること。格言など比較的短いラテン語文章の読解ができるようになること。および英語をはじめとする現代諸言語の文法・語彙に対するラテン語の影響を理解すること。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・文字・発音 ・音節 ・アクセント ・動詞の特徴 ・動詞の活用 (4タイプ)、 ・現在幹 (および不定法現在、命令法現在)、 ・不規則動詞 ・名詞の変化 (第1変化形・第2変化形および第3変化形+第4-5変化形) ・小テスト (1) ・形容詞の変化 (第1変化形・第2変化形および第3変化形) ・前置詞、格の用法 ・小テスト (2) ・代名詞 (1) 人称代名詞・所有代名詞形容詞 ・代名詞 (2) 指示代名詞形容詞・関係代名詞形容詞 ・「未完了」と「完了」 ・直説法現在、直説法未完了過去、直説法未来 (能動態) ・小テスト (3) ・直説法完了、直説法過去完了、直説法未来完了 (能動態) および完了幹 ・完了幹の作り方 (および不定法完了) ・不定法 (現在、完了、未来) 能動態 ・命令法 ・小テスト (4) ・受動態 (直説法完了、完了系時制) ・分詞 (現在分詞、完了分詞、未来分詞) ・形式受動態 (デボネンティア) 動詞 ・非人称動詞 ・小テスト (5) ・動名詞 ・動形容詞 ・奪格別句 ・小テスト (6) ・接続法 (1) 単文 ・接続法 (2) 間節疑問文 ・接続法 (3) 仮定文 ・接続法 (4) 危惧を表す文 ・接続法 (5) 目的文 ・試験 <p>◇ 成績評価の方法 出席点 (10%)、小テスト (20%)、課題 (20%)、テスト (筆記試験) (50%)、</p> <p>◇ 教科書・参考書 宮崎正美『ラテン語文法の基礎ノート』(私家版) —— 授業で配布。 山下太郎『しっかり身につくラテン語トレーニングブック』(ベレ出版、2015年) 参考書については最初の授業で提示する。</p> <p>◇ 授業時間外学習 授業で指定された予習・復習および課題</p>					
<p>その他：E-mail paul-m@tohoku.ac.jp ここに記載したシラバスの内容の一部を、授業内で書面または口頭で変更することがあります。</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
ラ L テ a ン t 語 i ン n	2	非常勤 講師 宮 崎 正 美	4	金	3
<p>◆ 科目ナンバリング LHM-OFL202]</p> <p>◆ 授業題目 ラテン語初級講読 (READING COMPREHENSION OF LATIN TEXT)</p> <p>◆ 目的・概要 ラテン語テキストの基本読解</p> <p>◆ 到達目標 さまざまなラテン語テキストを、読み理解できるようになること。併せて、古代のテキストの本文批判 (Textkritik) とその過程でラテン語がどのように用いられたか、実例を通して理解できるようになること。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・TRADITIO APOSTOLICA について (概説) ・古文書と本文批判について (概説) ・TRADITIO APOSTOLICA について (1) ・古文書と本文批判について (1) ・読解 (1) ・TRADITIO APOSTOLICA について (2) ・古文書と本文批判について (2) ・読解 (2) ・TRADITIO APOSTOLICA について (3) ・古文書と本文批判について (3) ・読解 (3) ・TRADITIO APOSTOLICA について (4) ・古文書と本文批判について (4) ・読解 (4) ・TRADITIO APOSTOLICA について (5) ・古文書と本文批判について (5) ・読解 (5) ・TRADITIO APOSTOLICA について (6) ・古文書と本文批判について (6) ・読解 (6) 前半のまとめ ・聖ヒッポリュトス『使徒伝承』とキリスト教典礼について ・〈翻訳〉という問題について ・TRADITIO APOSTOLICA について (7) ・古文書と本文批判について (7) ・読解 (7) ・TRADITIO APOSTOLICA について (8) ・古文書と本文批判について (8) ・読解 (8) ・TRADITIO APOSTOLICA について (9) ・古文書と本文批判について (9) ・読解 (9) ・TRADITIO APOSTOLICA について (10) ・古文書と本文批判について (10) ・読解 (10) ・TRADITIO APOSTOLICA について (11) ・古文書と本文批判について (11) ・読解 (11) ・TRADITIO APOSTOLICA について (12) ・古文書と本文批判について (12) ・読解 (12) 全体のまとめ <p>◇ 成績評価の方法 出席点 (30%)、レポート (50%)、課題 (20%)。</p> <p>◇ 教科書・参考書 授業で使用する資料は、適宜、印刷して配布する。 参考書：B.ポット著、土屋吉正訳『聖ヒッポリュトスの使徒伝承—B.ポットの批判版による初訳』(オリエンス宗教研究所、1999年) B.M.メッツガー著、土岐健治監訳『図説 ギリシア語聖書の写本——ギリシア語古文書学入門』(教文館1985年) F.G.ケニオン著、高津春繁訳『古代の書物』(岩波新書1953年) 授業で指定された予習・復習および課題</p>					
<p>E-mail paul-m@tohoku.ac.jp その他：ここに記載の本シラバスの内容の一部を、授業内で書面または口頭で変更することがあります。 Caveat: This syllabus is subject to revision by the instructor, provided that written or verbal notice is given in class.</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
ラテン語 L a t i n	2	准教授 荻原理	3	火	3																		
◆ 科目ナンバリング	LHM-OFL202J																						
◆ 授業題目	ラテン語原典講読 (Advanced Latin)																						
◆ 目的・概要	語学上比較的やさしいラテン語の文章を、文法上の解説を受けながら、ゆっくり丁寧に読んでいきます (テキストの音読、語形変化の練習にも時間を取ります)。それを通じて、文法事項の確認をし、また、ラテン語に馴れていきます。(わからない点について積極的に質問してください) 読むテキストは、参加者の希望・関心を訊きながら、教員が選定します。ジャンルの異なる複数のテキストを並行して読むことになるかもしれません。(参考までに、前年度にはスピノザ『エチカ』、フォーテスキュー『イングランド法の礼賛について』のそれぞれごく一部を、前々年度にはデカルト『省察』、『カルミナ・ブラーナ』、オウイディウス『変身物語』、トマス・アキナス『神学大全』のそれぞれごく一部を読みました。)																						
◆ 到達目標	授業中読んだ文章については、ラテン語を読みながら文章の意味を捉えられるようになり、また、各語についても構文についても、文法的に説明できるようになる。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>7. テキスト読み・解説 (6)</td> </tr> <tr> <td> テキスト選定 (1)</td> <td>8. テキスト読み・解説 (7)</td> </tr> <tr> <td>2. テキスト選定 (2)</td> <td>9. テキスト読み・解説 (8)</td> </tr> <tr> <td> テキスト読み・解説 (1) (授業の様子を見ながら説明の仕方や進度を決めていきます)</td> <td>10. テキスト読み・解説 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. テキスト読み・解説 (2)</td> <td>11. テキスト読み・解説 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. テキスト読み・解説 (3)</td> <td>12. テキスト読み・解説 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. テキスト読み・解説 (4)</td> <td>13. テキスト読み・解説 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. テキスト読み・解説 (5)</td> <td>14. テキスト読み・解説 (13)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. テキスト読み・解説 (14)</td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	7. テキスト読み・解説 (6)	テキスト選定 (1)	8. テキスト読み・解説 (7)	2. テキスト選定 (2)	9. テキスト読み・解説 (8)	テキスト読み・解説 (1) (授業の様子を見ながら説明の仕方や進度を決めていきます)	10. テキスト読み・解説 (9)	3. テキスト読み・解説 (2)	11. テキスト読み・解説 (10)	4. テキスト読み・解説 (3)	12. テキスト読み・解説 (11)	5. テキスト読み・解説 (4)	13. テキスト読み・解説 (12)	6. テキスト読み・解説 (5)	14. テキスト読み・解説 (13)		15. テキスト読み・解説 (14)
1. オリエンテーション	7. テキスト読み・解説 (6)																						
テキスト選定 (1)	8. テキスト読み・解説 (7)																						
2. テキスト選定 (2)	9. テキスト読み・解説 (8)																						
テキスト読み・解説 (1) (授業の様子を見ながら説明の仕方や進度を決めていきます)	10. テキスト読み・解説 (9)																						
3. テキスト読み・解説 (2)	11. テキスト読み・解説 (10)																						
4. テキスト読み・解説 (3)	12. テキスト読み・解説 (11)																						
5. テキスト読み・解説 (4)	13. テキスト読み・解説 (12)																						
6. テキスト読み・解説 (5)	14. テキスト読み・解説 (13)																						
	15. テキスト読み・解説 (14)																						
◇ 成績評価の方法	出席：60% 授業時のパフォーマンス：40% (試験は行わず、レポート提出もありません。)																						
◇ 教科書・参考書	松平千秋・国原吉之助『新ラテン文法』(南江堂、1968年初版、改訂1979年)を各自入手し、授業に持参して下さい。読むテキストはプリントを配布します。																						
◇ 授業時間外学習	復習 (とくに、意味を捉えながらの音読)。次回読む予定の箇所の下調べ (できる範囲で)。																						
その他：ラテン語初等文法を一通り学んでいることが参加の条件です (覚え残しが多少あっても構いません)。																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
ラテン語 L a t i n	2	准教授 荻原理	4	火	3																		
◆ 科目ナンバリング	LHM-OFL202J																						
◆ 授業題目	ラテン語原典講読 (Advanced Latin)																						
◆ 目的・概要	同名の前期の授業の続きです。 語学上比較的やさしいラテン語の文章を、文法上の解説を受けながら、ゆっくり丁寧に読んでいきます (テキストの音読、語形変化の練習にも時間を取ります)。それを通じて、文法事項の確認をし、また、ラテン語に馴れていきます。(わからない点について積極的に質問してください) 読むテキストは、参加者の希望・関心を訊きながら、教員が選定します。ジャンルの異なる複数のテキストを並行して読むことになるかもしれません。(参考までに、前年度にはスピノザ『エチカ』、フォーテスキュー『イングランド法の礼賛について』のそれぞれごく一部を、前々年度にはデカルト『省察』、『カルミナ・ブラーナ』、オウイディウス『変身物語』、トマス・アキナス『神学大全』のそれぞれごく一部を読みました。)																						
◆ 到達目標	授業中読んだ文章については、ラテン語を読みながら文章の意味を捉えられるようになり、また、各語についても構文についても、文法的に説明できるようになる。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>7. テキスト読み・解説 (7)</td> </tr> <tr> <td> テキスト選定 (1)</td> <td>8. テキスト読み・解説 (8)</td> </tr> <tr> <td> テキスト読み・解説 (1) (授業の様子を見ながら説明の仕方や進度を決めていきます)</td> <td>9. テキスト読み・解説 (9)</td> </tr> <tr> <td>2. テキスト選定 (2)</td> <td>10. テキスト読み・解説 (10)</td> </tr> <tr> <td> テキスト読み・解説 (2)</td> <td>11. テキスト読み・解説 (11)</td> </tr> <tr> <td>3. テキスト読み・解説 (3)</td> <td>12. テキスト読み・解説 (12)</td> </tr> <tr> <td>4. テキスト読み・解説 (4)</td> <td>13. テキスト読み・解説 (13)</td> </tr> <tr> <td>5. テキスト読み・解説 (5)</td> <td>14. テキスト読み・解説 (14)</td> </tr> <tr> <td>6. テキスト読み・解説 (6)</td> <td>15. テキスト読み・解説 (15)</td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	7. テキスト読み・解説 (7)	テキスト選定 (1)	8. テキスト読み・解説 (8)	テキスト読み・解説 (1) (授業の様子を見ながら説明の仕方や進度を決めていきます)	9. テキスト読み・解説 (9)	2. テキスト選定 (2)	10. テキスト読み・解説 (10)	テキスト読み・解説 (2)	11. テキスト読み・解説 (11)	3. テキスト読み・解説 (3)	12. テキスト読み・解説 (12)	4. テキスト読み・解説 (4)	13. テキスト読み・解説 (13)	5. テキスト読み・解説 (5)	14. テキスト読み・解説 (14)	6. テキスト読み・解説 (6)	15. テキスト読み・解説 (15)
1. オリエンテーション	7. テキスト読み・解説 (7)																						
テキスト選定 (1)	8. テキスト読み・解説 (8)																						
テキスト読み・解説 (1) (授業の様子を見ながら説明の仕方や進度を決めていきます)	9. テキスト読み・解説 (9)																						
2. テキスト選定 (2)	10. テキスト読み・解説 (10)																						
テキスト読み・解説 (2)	11. テキスト読み・解説 (11)																						
3. テキスト読み・解説 (3)	12. テキスト読み・解説 (12)																						
4. テキスト読み・解説 (4)	13. テキスト読み・解説 (13)																						
5. テキスト読み・解説 (5)	14. テキスト読み・解説 (14)																						
6. テキスト読み・解説 (6)	15. テキスト読み・解説 (15)																						
◇ 成績評価の方法	出席：60% 授業時のパフォーマンス：40% (試験は行わず、レポート提出もありません。)																						
◇ 教科書・参考書	松平千秋・国原吉之助『新ラテン文法』(南江堂、1968年初版、改訂1979年)を各自入手し、授業に持参して下さい。読むテキストはプリントを配布します。																						
◇ 授業時間外学習	復習 (とくに、意味を捉えながらの音読)。次回読む予定の箇所の下調べ (できる範囲で)。																						
その他：ラテン語初等文法を一通り学んでいることが参加の条件です (覚え残しが多少あっても構いません)。																							

授 業 科 目		単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時					
サ S	ン a	ク n	リ s	ツ k	ト r	語 i t	2	非常勤 講師	西 村 直 子	3	木	3
◆	科目ナンバリング	LHM-OFL203J										
◆	授業題目	サンスクリット語基礎演習(1) (Sanskrit (Introductory Seminar 1))										
◆	目的・概要	ランマンのサンスクリット読本をテキストとして読解演習を行い、サンスクリット語の文法・語彙についての理解を深める。テキストの充実した語彙集・注記を活かして、できるだけ多く読みすすめていきたい。ホイットニーの文法書を適宜参照する。										
◆	到達目標	平易なサンスクリット語の韻文が読めるようになる。										
◆	授業内容・方法	1. イントロダクション (教科書及び参考書について、 取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め 方等について説明)	8. 同	3-7	9. 同	8-14	10. 同	15-21	11. 同	22-28	12. 同	29-30、第3章 (ナラと ダマヤンティーの出会い) 1-5
		2. 『ナラ王物語』第1章 (ナラとダマヤンティーの生い 立ち) 1-3	13. 同	6-12	14. 同	13-19	15. 同	20-25				
		3. 同	4-6									
		4. 同	7-10									
		5. 同	11-14									
		6. 同	15-19									
		7. 同	20-22、第2章 (ダマヤンティーの婚選びへ) 1-2									
◇	成績評価の方法	授業への準備状況 (40%)、授業で示される理解度 (60%)										
◇	教科書・参考書	Charles Rockwell Lanman, A Sanskrit Reader; W. D. Whitney, Sanskrit Grammar										
◇	授業時間外学習	授業は、最初はゆっくり進めるが、後半では毎回7~9詩節読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。										
履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とするが、テキストは懇切丁寧にできているので、やる気があって相応の時間をかけるこ その他：とのできる人は、サンスクリット語初級と同時に始めることも可能。 また、3、4セメのサンスクリット語は連続履修することがのぞましい。												

授 業 科 目		単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時					
サ S	ン a	ク n	リ s	ツ k	ト r	語 i t	2	非常勤 講師	尾 園 絢 一	4	木	3
◆	科目ナンバリング	LHM-OFL203J										
◆	授業題目	サンスクリット語基礎演習(2) (Sanskrit (Introductory Seminar 2))										
◆	目的・概要	前期に引き続き、ランマンのサンスクリット読本をテキストとして読解演習を行い、サンスクリット語の文法・語彙についての理解を深める。テキストの充実した語彙集・注記を活かして、できるだけ多く読みすすめていきたい。ホイットニーの文法書を適宜参照する。										
◆	到達目標	平易なサンスクリット語が読めるようになる。										
◆	授業内容・方法	1. イントロダクション (教科書・参考書の使い方、韻律の数え方)	9. 第5章	28-36	10. 第5章	37-46	11. 『ヒトパーデーシャ (有益な教え)』の概説、『ヒト パーデーシャ』発端 (前半)	12. 『ヒトパーデーシャ』発端 (後半)	13. 『ヒトパーデーシャ』「虎と旅人の話」	14. 『ヒトパーデーシャ』「鹿と鴉と山犬の話」(前半)	15. 『ヒトパーデーシャ』「鹿と鴉と山犬の話」(後半)	
		2. 第4章 (ナラ王とダマヤンティーの会話) 1-7										
		3. 第4章	8-15									
		4. 第4章	16-23									
		5. 第4章	24-31									
		6. 第5章 (婚選びの儀式) 1-9										
		7. 第5章	10-18									
		8. 第5章	19-27									
◇	成績評価の方法	出席 (30%)、授業で示される理解度 (70%)										
◇	教科書・参考書	Charles Rockwell Lanman, A Sanskrit Reader; W. D. Whitney, Sanskrit Grammar										
◇	授業時間外学習	授業では毎回7~9詩節読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。										
履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とするが、テキストは懇切丁寧にできているので、やる気のある人はサンスクリット語初 その他：級と同時に始めることも可能。 また、3、4セメのサンスクリット語は連続履修することがのぞましい。												

授 業 科 目		単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 C	国 h i n e s e 語	2	准教授	馬 暁 地	3	月	3																
◆ 科目ナンバリング		LHM-CHN201B																					
◆ 授業題目		初級中国語 (Primary Chinese)																					
◆ 目的・概要		発音練習を中心として授業を進める。繰り返し発音練習をすると同時に基本的な文法をも勉強する。一年の授業を通して中国語の学習の基礎を身につける。																					
◆ 到達目標		汉语拼音 (中国語の音標としてのローマ字) を見て、すぐに自分の口から正しく発音することが出来るのはこの授業の最大の目標である。																					
◆ 授業内容・方法		<table border="0"> <tr> <td>1. 四声の練習</td> <td>9. 量詞について</td> </tr> <tr> <td>2. 子音の練習</td> <td>10. 助詞について</td> </tr> <tr> <td>3. 母音の練習</td> <td>11. 副詞について</td> </tr> <tr> <td>4. 名前の尋ね方</td> <td>12. 方向補語と結果補語</td> </tr> <tr> <td>5. 形容詞述語文 (1)</td> <td>13. 使役文</td> </tr> <tr> <td>6. 形容詞述語文 (2)</td> <td>14. 受身の表現</td> </tr> <tr> <td>7. 動詞述語文 (1)</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 動詞述語文 (2)</td> <td></td> </tr> </table>						1. 四声の練習	9. 量詞について	2. 子音の練習	10. 助詞について	3. 母音の練習	11. 副詞について	4. 名前の尋ね方	12. 方向補語と結果補語	5. 形容詞述語文 (1)	13. 使役文	6. 形容詞述語文 (2)	14. 受身の表現	7. 動詞述語文 (1)	15. まとめと試験	8. 動詞述語文 (2)	
1. 四声の練習	9. 量詞について																						
2. 子音の練習	10. 助詞について																						
3. 母音の練習	11. 副詞について																						
4. 名前の尋ね方	12. 方向補語と結果補語																						
5. 形容詞述語文 (1)	13. 使役文																						
6. 形容詞述語文 (2)	14. 受身の表現																						
7. 動詞述語文 (1)	15. まとめと試験																						
8. 動詞述語文 (2)																							
◇ 成績評価の方法		出席 (50%) 朗読試験 (50%)																					
◇ 教科書・参考書		プリント配布																					
◇ 授業時間外学習		予習と復習を重視する。																					
その他：																							

授 業 科 目		単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 C	国 h i n e s e 語	2	准教授	馬 暁 地	4	月	3																
◆ 科目ナンバリング		LHM-CHN201B																					
◆ 授業題目		初級中国語 (Primary Chinese)																					
◆ 目的・概要		発音練習を中心として授業を進める。繰り返し発音練習をすると同時に基本的な文法をも勉強する。一年の授業を通して中国語の学習の基礎を身につける。																					
◆ 到達目標		汉语拼音 (中国語の音標としてのローマ字) を見て、すぐに自分の口から正しく発音することが出来るのはこの授業の最大の目標である。																					
◆ 授業内容・方法		<table border="0"> <tr> <td>1. 四声の練習</td> <td>9. 量詞について</td> </tr> <tr> <td>2. 子音の練習</td> <td>10. 助詞について</td> </tr> <tr> <td>3. 母音の練習</td> <td>11. 副詞について</td> </tr> <tr> <td>4. 名前の尋ね方</td> <td>12. 方向補語と結果補語</td> </tr> <tr> <td>5. 形容詞述語文 (1)</td> <td>13. 使役文</td> </tr> <tr> <td>6. 形容詞述語文 (2)</td> <td>14. 受身の表現</td> </tr> <tr> <td>7. 動詞述語文 (1)</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 動詞述語文 (2)</td> <td></td> </tr> </table>						1. 四声の練習	9. 量詞について	2. 子音の練習	10. 助詞について	3. 母音の練習	11. 副詞について	4. 名前の尋ね方	12. 方向補語と結果補語	5. 形容詞述語文 (1)	13. 使役文	6. 形容詞述語文 (2)	14. 受身の表現	7. 動詞述語文 (1)	15. まとめと試験	8. 動詞述語文 (2)	
1. 四声の練習	9. 量詞について																						
2. 子音の練習	10. 助詞について																						
3. 母音の練習	11. 副詞について																						
4. 名前の尋ね方	12. 方向補語と結果補語																						
5. 形容詞述語文 (1)	13. 使役文																						
6. 形容詞述語文 (2)	14. 受身の表現																						
7. 動詞述語文 (1)	15. まとめと試験																						
8. 動詞述語文 (2)																							
◇ 成績評価の方法		出席 (50%) 朗読試験 (50%)																					
◇ 教科書・参考書		プリント配布																					
◇ 授業時間外学習		予習と復習を重視する。																					
その他：																							

授 業 科 目		単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
朝 K	鮮 o r e a 語 n	2	非常勤 講師	権 来 順	3	火	2																
<p>◆ 科目ナンバリング LHM-KOR201J</p> <p>◆ 授業題目 朝鮮語初級 I (Elementary Korean I)</p> <p>◆ 目的・概要 韓国語（ハングル）に関する全体像を身につけ、韓国語の読み書きができることをめざす。</p> <p>◆ 到達目標 学習の入り口としてハングル文字の仕組みを理解し、韓国語への興味を持たせることを目的とする。特に日本語にない発音に重点を置き、正確な韓国語の発音を練習する。韓国の文化、風習などの視聴覚資料を使い、基本文法と会話を学ぶ。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション：朝鮮半島の言語について</td> <td>9. 名詞文の肯定形と疑問形</td> </tr> <tr> <td>2. 基本母音（単母音）と基本子音の学習</td> <td>10. 名詞文の否定形</td> </tr> <tr> <td>3. 子音の激音・濃音、合成母音11文字の練習</td> <td>11. 位置関係の表現</td> </tr> <tr> <td>4. 一つ文字の終音、連音化、有声音化、流音化の学習</td> <td>12. 漢字語数詞、日付、曜日などの表現</td> </tr> <tr> <td>5. 二つ文字の終音、激音化、濃音化、鼻音化の学習</td> <td>13. 買い物、値段などの練習</td> </tr> <tr> <td>6. 日本語のハングル文字表記の練習</td> <td>14. 形容詞の表現</td> </tr> <tr> <td>7. 自己紹介の練習</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 指示代名詞と所有の表現</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 記試験、出席率、授業時の読み、書きなどの平常点</p> <p>◇ 教科書・参考書 『バルン韓国語』 著者 権来順 外5人（朝日出版社）</p> <p>◇ 授業時間外学習 毎回の内容を復習すること</p> <p>その他：</p>								1. イントロダクション：朝鮮半島の言語について	9. 名詞文の肯定形と疑問形	2. 基本母音（単母音）と基本子音の学習	10. 名詞文の否定形	3. 子音の激音・濃音、合成母音11文字の練習	11. 位置関係の表現	4. 一つ文字の終音、連音化、有声音化、流音化の学習	12. 漢字語数詞、日付、曜日などの表現	5. 二つ文字の終音、激音化、濃音化、鼻音化の学習	13. 買い物、値段などの練習	6. 日本語のハングル文字表記の練習	14. 形容詞の表現	7. 自己紹介の練習	15. まとめと試験	8. 指示代名詞と所有の表現	
1. イントロダクション：朝鮮半島の言語について	9. 名詞文の肯定形と疑問形																						
2. 基本母音（単母音）と基本子音の学習	10. 名詞文の否定形																						
3. 子音の激音・濃音、合成母音11文字の練習	11. 位置関係の表現																						
4. 一つ文字の終音、連音化、有声音化、流音化の学習	12. 漢字語数詞、日付、曜日などの表現																						
5. 二つ文字の終音、激音化、濃音化、鼻音化の学習	13. 買い物、値段などの練習																						
6. 日本語のハングル文字表記の練習	14. 形容詞の表現																						
7. 自己紹介の練習	15. まとめと試験																						
8. 指示代名詞と所有の表現																							

授 業 科 目		単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
朝 K	鮮 o r e a 語 n	2	非常勤 講師	権 来 順	3	水	2																
<p>◆ 科目ナンバリング LHM-KOR201J</p> <p>◆ 授業題目 朝鮮語初級 II (Elementary Korean II)</p> <p>◆ 目的・概要 韓国語の読解力と簡単な生活会話をめざす。</p> <p>◆ 到達目標 日常生活に必要な語彙や表現力を高め、コミュニケーション能力を養う。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 買い物、食堂での注文などの会話練習</td> </tr> <tr> <td>2. 国籍、職業など自己紹介の会話練習</td> <td>10. 感情表現を表す</td> </tr> <tr> <td>3. 願望を表す表現練習</td> <td>11. 趣味活動、余暇活動などを話し合う会話練習</td> </tr> <tr> <td>4. 日常用品の名前、品物の購入、買い物などの会話練習</td> <td>12. 好きな天気、季節などを話し合う会話練習</td> </tr> <tr> <td>5. 計画を表す表現練習</td> <td>13. 過去を表す表現</td> </tr> <tr> <td>6. 日程、場所、時間などの約束の決め方の会話練習</td> <td>14. 過去の出来事を話し合う会話練習</td> </tr> <tr> <td>7. 提案を表す表現練習</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 目的地、位置などを尋ねる会話練習</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 筆記試験、出席率、授業時の読み、書きなどの平常点</p> <p>◇ 教科書・参考書 授業時参考資料のプリント配布</p> <p>◇ 授業時間外学習 毎回の内容を復習すること</p> <p>その他：</p>								1. イントロダクション	9. 買い物、食堂での注文などの会話練習	2. 国籍、職業など自己紹介の会話練習	10. 感情表現を表す	3. 願望を表す表現練習	11. 趣味活動、余暇活動などを話し合う会話練習	4. 日常用品の名前、品物の購入、買い物などの会話練習	12. 好きな天気、季節などを話し合う会話練習	5. 計画を表す表現練習	13. 過去を表す表現	6. 日程、場所、時間などの約束の決め方の会話練習	14. 過去の出来事を話し合う会話練習	7. 提案を表す表現練習	15. まとめと試験	8. 目的地、位置などを尋ねる会話練習	
1. イントロダクション	9. 買い物、食堂での注文などの会話練習																						
2. 国籍、職業など自己紹介の会話練習	10. 感情表現を表す																						
3. 願望を表す表現練習	11. 趣味活動、余暇活動などを話し合う会話練習																						
4. 日常用品の名前、品物の購入、買い物などの会話練習	12. 好きな天気、季節などを話し合う会話練習																						
5. 計画を表す表現練習	13. 過去を表す表現																						
6. 日程、場所、時間などの約束の決め方の会話練習	14. 過去の出来事を話し合う会話練習																						
7. 提案を表す表現練習	15. まとめと試験																						
8. 目的地、位置などを尋ねる会話練習																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ タ リ ア 語 I t a l i a n	2	准教授 フォンガロ エンリコ	3	水	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-OFL204B				
◆ 授業題目	イタリア語初級（前期）(Italian Language (Beginner))				
◆ 目的・概要	日常生活で使用される対話表現を題材に、イタリア語特有の発音・リズムや言い回しを身につけ、名詞の性と数、形容詞の変化、定冠詞と不定冠詞、所有形容詞、指示詞、直接法現在の規則動詞といった基礎文法の規則を習得する。同時に習得した文法知識を用いて初歩的な疑問文や否定文をつくり、会話表現の練習を行なう。				
◆ 到達目標	実用イタリア語のための初歩的な文法を習得する。主語・述語・補語にもとづく平易な文章を理解し、簡単な日常会話や挨拶の表現ができる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. コースの紹介。 2. 発音とアルファベット。 3. 定冠詞・不定冠詞・名詞。 4. 形容詞と挨拶。 5. Essere 不規則動詞の直接法現在形。 6. Avere 不規則動詞の直接法現在形。 7. -are 規則動詞の直接法現在形。 8. 丁寧な表現。 9. 数字と聞き取り練習。 10. 小テストと -ere の規則動詞の直接法現在形。 11. Fare 不規則動詞の直接法現在形と命令形。 12. 復習と聞き取り練習。 13. 疑問詞。 14. 小テストと復習。 15. 期末テストとまとめ。 				
◇ 成績評価の方法	積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。				
◇ 教科書・参考書	朝日出版「Opera Prima Vol. 1」。				
◇ 授業時間外学習	授業の復習と宿題を行なう。				
その他：辞書を必ず用意すること。詳細については授業初回に指示する。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ タ リ ア 語 I t a l i a n	2	准教授 フォンガロ エンリコ	4	水	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-OFL204B				
◆ 授業題目	イタリア語初級（後期）(Italian Language (Elementary Level))				
◆ 目的・概要	前期セメスターに引き続き、日常生活で使用される会話表現を題材に、不規則動詞、助動詞、再帰動詞、過去形といった基礎的文法の規則を習得する。同時に習得した文法知識を用いて、会話表現、作文の練習を行なう。				
◆ 到達目標	実用イタリア語のための初歩的な文法を習得する。主語・述語・補語にもとづく平易な文章を理解し、簡単な日常会話の表現ができる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 復習。 2. -ere 規則動詞の直接法現在形。 3. Bere 不規則動詞の直接法現在形と読解の練習。 4. Andare 不規則動詞の直接法現在形。 5. C'è と ci sono。 6. 聞き取り練習と復習。 7. 小テストと時刻。 8. -ire 規則動詞の直接法現在形 その一。 9. 会話の練習と -ire 規則動詞の直接法現在形 その二。 10. Mi piace の使い方。 11. Uscire 不規則動詞の直接法現在形と人称代名詞。 12. 再帰動詞。 13. Dovere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。 14. 小テストと復習。 15. 期末テストとまとめ。 				
◇ 成績評価の方法	積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。				
◇ 教科書・参考書	朝日出版「Opera Prima Vol. 1」。				
◇ 授業時間外学習	授業の復習と宿題を行なう。				
その他：辞書を必ず用意すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ タ リ ア 語 I t a l i a n	2	准教授 フォンガロ エンリコ	3	木	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-OFL204B				
◆ 授業題目	イタリア語初級（前期）(Italian Language (Elementary Level))				
◆ 目的・概要	日常生活で使用される対話表現を題材に、イタリア語特有の発音・リズムや言い回しを身につけ、名詞の性と数、形容詞の変化、定冠詞と不定冠詞、所有形容詞、指示詞、直接法現在の規則動詞といった基礎文法の規則を習得する。同時に習得した文法知識を用いて初歩的な疑問文や否定文をつくり、会話表現の練習を行なう。				
◆ 到達目標	実用イタリア語のための初歩的な文法を習得する。主語・述語・補語にもとづく平易な文章を理解し、簡単な日常会話や挨拶の表現ができる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. コースの紹介。 2. 発音とアルファベット。 3. 定冠詞・不定冠詞・名詞。 4. 形容詞と挨拶。 5. Essere 不規則動詞の直接法現在形。 6. Avere 不規則動詞の直接法現在形。 7. -are 規則動詞の直接法現在形。 8. 丁寧な表現。 9. 数字と聞き取り練習。 10. 小テストと -ere の規則動詞の直接法現在形。 11. Fare 不規則動詞の直接法現在形と命令形。 12. 復習と聞き取り練習。 13. 疑問詞。 14. 小テストと復習。 15. 期末テストとまとめ。 				
◇ 成績評価の方法	積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。				
◇ 教科書・参考書	朝日出版「Opera Prima Vol. 1」。				
◇ 授業時間外学習	授業の復習と宿題を行なう。				
その他：辞書を必ず用意すること。詳細については授業初回に指示する。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ タ リ ア 語 I t a l i a n	2	准教授 フォンガロ エンリコ	4	木	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-OFL204B				
◆ 授業題目	イタリア語初級（後期）(Italian Language (Elementary Level))				
◆ 目的・概要	前期セメスターに引き続き、日常生活で使用される会話表現を題材に、不規則動詞、助動詞、再帰動詞、過去形といった基礎的文法の規則を習得する。同時に習得した文法知識を用いて、会話表現、作文の練習を行なう。				
◆ 到達目標	実用イタリア語のための初歩的な文法を習得する。主語・述語・補語にもとづく平易な文章を理解し、簡単な日常会話の表現ができる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 復習。 2. -ere 規則動詞の直接法現在形。 3. Bere 不規則動詞の直接法現在形と読解の練習。 4. Andare 不規則動詞の直接法現在形。 5. C'è と ci sono。 6. 聞き取り練習と復習。 7. 小テストと時刻。 8. -ire 規則動詞の直接法現在形 その一。 9. 会話の練習と -ire 規則動詞の直接法現在形 その二。 10. Mi piace の使い方。 11. Uscire 不規則動詞の直接法現在形と人称代名詞。 12. 再帰動詞。 13. Dovere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。 14. 小テストと復習。 15. 期末テストとまとめ。 				
◇ 成績評価の方法	積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。				
◇ 教科書・参考書	朝日出版「Opera Prima Vol.1」。				
◇ 授業時間外学習	授業の復習と宿題を行なう。				
その他：辞書を必ず用意すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
イ タ リ ア 語 I t a l i a n	2	准教授 フォンガロ エンリコ	3	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OFL204B																				
◆ 授業題目	イタリア語中級（前期）(Italian Language (Intermediate Level))																				
◆ 目的・概要	これまでに学習した初級文法を復習しながら、引き続き実用イタリア語のための基礎文法を身につける。日常生活の様々な場面に対応する会話表現や文章例を題材に、命令法、半過去形、未来形、比較級と最上級などの中級文法の規則を習得する。同時に、文法知識を用いた実践的な会話練習を行ないながら、イタリア語文章の読解力・翻訳能力・作文能力を養う。																				
◆ 到達目標	実用イタリア語のための基礎文法を習得し、異なる語法や動詞の時制をはじめとする、より複雑なイタリア語の文章を理解し、明確かつ発展的に表現することができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 復習。</td> <td>9. Volere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。</td> </tr> <tr> <td>2. Dov'è ? C'è ? の使い方。</td> <td>10. 直接法近過去 その一。</td> </tr> <tr> <td>3. Quanto costa ? と会話の練習。</td> <td>11. 直接法近過去 その二。</td> </tr> <tr> <td>4. Potere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。</td> <td>12. 小テストと会話の練習。</td> </tr> <tr> <td>5. Venire 不規則動詞の直接法現在形。</td> <td>13. 直接法近過去 その三。</td> </tr> <tr> <td>6. 読解の練習と復習。</td> <td>14. 代名詞と会話の練習。</td> </tr> <tr> <td>7. 小テストと Stare 不規則動詞の直接法現在形。</td> <td>15. 期末テストとまとめ。</td> </tr> <tr> <td>8. 聞き取り練習と非人称動詞。</td> <td></td> </tr> </table>					1. 復習。	9. Volere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。	2. Dov'è ? C'è ? の使い方。	10. 直接法近過去 その一。	3. Quanto costa ? と会話の練習。	11. 直接法近過去 その二。	4. Potere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。	12. 小テストと会話の練習。	5. Venire 不規則動詞の直接法現在形。	13. 直接法近過去 その三。	6. 読解の練習と復習。	14. 代名詞と会話の練習。	7. 小テストと Stare 不規則動詞の直接法現在形。	15. 期末テストとまとめ。	8. 聞き取り練習と非人称動詞。	
1. 復習。	9. Volere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。																				
2. Dov'è ? C'è ? の使い方。	10. 直接法近過去 その一。																				
3. Quanto costa ? と会話の練習。	11. 直接法近過去 その二。																				
4. Potere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。	12. 小テストと会話の練習。																				
5. Venire 不規則動詞の直接法現在形。	13. 直接法近過去 その三。																				
6. 読解の練習と復習。	14. 代名詞と会話の練習。																				
7. 小テストと Stare 不規則動詞の直接法現在形。	15. 期末テストとまとめ。																				
8. 聞き取り練習と非人称動詞。																					
◇ 成績評価の方法	積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。																				
◇ 教科書・参考書	朝日出版「Opera Prima Vol. 2」。																				
◇ 授業時間外学習	授業の復習と宿題を行なう。																				
その他：辞書を必ず用意すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
イ タ リ ア 語 I t a l i a n	2	准教授 フォンガロ エンリコ	4	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OFL204B																				
◆ 授業題目	イタリア語中級（後期）(Italian Language (Intermediate Level))																				
◆ 目的・概要	前期セメスターに引き続き、日常生活の様々な場面に対応する会話表現や文章例を題材に、関係代名詞、受動態、条件法、接続法などの中級文法の規則を一通り習得する。同時に、文法知識を用いた実践的な会話練習を行ないながら、イタリア語文章の読解力・翻訳能力・作文能力をさらに発展させる。																				
◆ 到達目標	実用イタリア語のための基礎文法を習得し、異なる語法や動詞の時制をはじめとする、より複雑なイタリア語の文章を理解し、明確かつ発展的に表現することができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 復習。</td> <td>9. 聞き取りと会話の練習。</td> </tr> <tr> <td>2. 不規則動詞の直接法近過去。</td> <td>10. 読解の練習と小テスト。</td> </tr> <tr> <td>3. 聞き取りと会話の練習。</td> <td>11. 人称代名詞。</td> </tr> <tr> <td>4. 読解の練習と相対最上級。</td> <td>12. 会話の練習。</td> </tr> <tr> <td>5. 小テストと代名詞。</td> <td>13. 絶対最上級。</td> </tr> <tr> <td>6. 疑問詞。</td> <td>14. 会話の練習。</td> </tr> <tr> <td>7. 会話の練習と序数詞。</td> <td>15. 期末テストとまとめ。</td> </tr> <tr> <td>8. 部分補語。</td> <td></td> </tr> </table>					1. 復習。	9. 聞き取りと会話の練習。	2. 不規則動詞の直接法近過去。	10. 読解の練習と小テスト。	3. 聞き取りと会話の練習。	11. 人称代名詞。	4. 読解の練習と相対最上級。	12. 会話の練習。	5. 小テストと代名詞。	13. 絶対最上級。	6. 疑問詞。	14. 会話の練習。	7. 会話の練習と序数詞。	15. 期末テストとまとめ。	8. 部分補語。	
1. 復習。	9. 聞き取りと会話の練習。																				
2. 不規則動詞の直接法近過去。	10. 読解の練習と小テスト。																				
3. 聞き取りと会話の練習。	11. 人称代名詞。																				
4. 読解の練習と相対最上級。	12. 会話の練習。																				
5. 小テストと代名詞。	13. 絶対最上級。																				
6. 疑問詞。	14. 会話の練習。																				
7. 会話の練習と序数詞。	15. 期末テストとまとめ。																				
8. 部分補語。																					
◇ 成績評価の方法	積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。																				
◇ 教科書・参考書	朝日出版「Opera Prima Vol. 2」。																				
◇ 授業時間外学習	授業の復習と宿題を行なう。																				
その他：辞書を必ず用意すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
イ タ リ ア 語 I t a l i a n	2	准教授 フォンガロ エンリコ	3	木	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OFL204B																				
◆ 授業題目	イタリア語中級（前期）(Italian Language (Intermediate Level))																				
◆ 目的・概要	これまでに学習した初級文法を復習しながら、引き続き実用イタリア語のための基礎文法を身につける。日常生活の様々な場面に対応する会話表現や文章例を題材に、命令法、半過去形、未来形、比較級と最上級などの中級文法の規則を習得する。同時に、文法知識を用いた実践的な会話練習を行ないながら、イタリア語文章の読解力・翻訳能力・作文能力を養う。																				
◆ 到達目標	実用イタリア語のための基礎文法を習得し、異なる語法や動詞の時制をはじめとする、より複雑なイタリア語の文章を理解し、明確かつ発展的に表現することができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 復習。</td> <td>9. Volere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。</td> </tr> <tr> <td>2. Dov'è ? C'è ? の使い方。</td> <td>10. 直接法近過去 その一。</td> </tr> <tr> <td>3. Quanto costa ? と会話の練習。</td> <td>11. 直接法近過去 その二。</td> </tr> <tr> <td>4. Potere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。</td> <td>12. 小テストと会話の練習。</td> </tr> <tr> <td>5. Venire 不規則動詞の直接法現在形。</td> <td>13. 直接法近過去 その三。</td> </tr> <tr> <td>6. 読解の練習と復習。</td> <td>14. 代名詞と会話の練習。</td> </tr> <tr> <td>7. 小テストと Stare 不規則動詞の直接法現在形。</td> <td>15. 期末テストとまとめ。</td> </tr> <tr> <td>8. 聞き取り練習と非人称動詞。</td> <td></td> </tr> </table>					1. 復習。	9. Volere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。	2. Dov'è ? C'è ? の使い方。	10. 直接法近過去 その一。	3. Quanto costa ? と会話の練習。	11. 直接法近過去 その二。	4. Potere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。	12. 小テストと会話の練習。	5. Venire 不規則動詞の直接法現在形。	13. 直接法近過去 その三。	6. 読解の練習と復習。	14. 代名詞と会話の練習。	7. 小テストと Stare 不規則動詞の直接法現在形。	15. 期末テストとまとめ。	8. 聞き取り練習と非人称動詞。	
1. 復習。	9. Volere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。																				
2. Dov'è ? C'è ? の使い方。	10. 直接法近過去 その一。																				
3. Quanto costa ? と会話の練習。	11. 直接法近過去 その二。																				
4. Potere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。	12. 小テストと会話の練習。																				
5. Venire 不規則動詞の直接法現在形。	13. 直接法近過去 その三。																				
6. 読解の練習と復習。	14. 代名詞と会話の練習。																				
7. 小テストと Stare 不規則動詞の直接法現在形。	15. 期末テストとまとめ。																				
8. 聞き取り練習と非人称動詞。																					
◇ 成績評価の方法	積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。																				
◇ 教科書・参考書	朝日出版「Opera Prima Vol. 2」。																				
◇ 授業時間外学習	授業の復習と宿題を行なう。																				
その他：辞書を必ず用意すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
イ タ リ ア 語 I t a l i a n	2	准教授 フォンガロ エンリコ	4	木	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OFL204B																				
◆ 授業題目	イタリア語中級（後期）(Italian Language (Intermediate Level))																				
◆ 目的・概要	前期セメスターに引き続き、日常生活の様々な場面に対応する会話表現や文章例を題材に、関係代名詞、受動態、条件法、接続法などの中級文法の規則を一通り習得する。同時に、文法知識を用いた実践的な会話練習を行ないながら、イタリア語文章の読解力・翻訳能力・作文能力をさらに発展させる。																				
◆ 到達目標	実用イタリア語のための基礎文法を習得し、異なる語法や動詞の時制をはじめとする、より複雑なイタリア語の文章を理解し、明確かつ発展的に表現することができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 復習。</td> <td>9. 聞き取りと会話の練習。</td> </tr> <tr> <td>2. 不規則動詞の直接法近過去。</td> <td>10. 読解の練習と小テスト。</td> </tr> <tr> <td>3. 聞き取りと会話の練習。</td> <td>11. 人称代名詞。</td> </tr> <tr> <td>4. 読解の練習と相対最上級。</td> <td>12. 会話の練習。</td> </tr> <tr> <td>5. 小テストと代名詞。</td> <td>13. 絶対最上級。</td> </tr> <tr> <td>6. 疑問詞。</td> <td>14. 会話の練習。</td> </tr> <tr> <td>7. 会話の練習と序数詞。</td> <td>15. 期末テストとまとめ。</td> </tr> <tr> <td>8. 部分補語。</td> <td></td> </tr> </table>					1. 復習。	9. 聞き取りと会話の練習。	2. 不規則動詞の直接法近過去。	10. 読解の練習と小テスト。	3. 聞き取りと会話の練習。	11. 人称代名詞。	4. 読解の練習と相対最上級。	12. 会話の練習。	5. 小テストと代名詞。	13. 絶対最上級。	6. 疑問詞。	14. 会話の練習。	7. 会話の練習と序数詞。	15. 期末テストとまとめ。	8. 部分補語。	
1. 復習。	9. 聞き取りと会話の練習。																				
2. 不規則動詞の直接法近過去。	10. 読解の練習と小テスト。																				
3. 聞き取りと会話の練習。	11. 人称代名詞。																				
4. 読解の練習と相対最上級。	12. 会話の練習。																				
5. 小テストと代名詞。	13. 絶対最上級。																				
6. 疑問詞。	14. 会話の練習。																				
7. 会話の練習と序数詞。	15. 期末テストとまとめ。																				
8. 部分補語。																					
◇ 成績評価の方法	積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。																				
◇ 教科書・参考書	朝日出版「Opera Prima Vol. 2」。																				
◇ 授業時間外学習	授業の復習と宿題を行なう。																				
その他：辞書を必ず用意すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ タ リ ア 語 I t a l i a n	2	准教授 フォンガロ エンリコ	3	水	5
◆ 科目ナンバリング	LHM-OFL204B				
◆ 授業題目	イタリア語上級（前期）(Italian Language (Advanced Level))				
◆ 目的・概要	この講義では、文法は学生の学習が不完全な部分を補う程度にとどめる。読解や場合によっては翻訳も行なえるように、日常的なことばや本で 사용되는ような複雑な筋からなる文章の理解に向けた、イタリア語の高度な運用を目指す。				
◆ 到達目標	これまで学んできたイタリア語文法を用いて、さらに高度な読解、翻訳、会話、聞き取りの能力を伸ばし、イタリア文化に関しても学んでいく。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 復習。 2. 会話と読解の練習。 3. 小テストと直接法未来形。 4. Gerundioと進行動詞。 5. 会話と読解の練習。 6. 会話と聞き取りの練習。 7. 読解の練習と小テスト。 8. 直接法近過去と反過去 その一。 9. 会話と読解の練習。 10. 直接法近過去と反過去 その二。 11. 会話と読解の練習。 12. 人称代名詞。 13. 会話と読解の練習。 14. 聞き取り練習とテストの準備。 15. 期末テストとまとめ。 				
◇ 成績評価の方法	会話・作文・翻訳・要約・聞き取りなどを通じて主に講義中に行なう。学期末に学習事項の確認テストを行なう。				
◇ 教科書・参考書	講義中にプリントを配布する。				
◇ 授業時間外学習	授業の復習と宿題を行なう。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ タ リ ア 語 I t a l i a n	2	准教授 フォンガロ エンリコ	4	水	5
◆ 科目ナンバリング	LHM-OFL204B				
◆ 授業題目	イタリア語上級（後期）(Italian Language (Advanced Level))				
◆ 目的・概要	前期に引き続き、様々なテキストの読解、翻訳を行ない、日常的な会話表現、聞き取りに関してもさらに練習を行なっていく。イタリア文化についてのトピックをとりあげ、それに関する語彙、知識を深め、イタリア語の高度な運用を目指す。				
◆ 到達目標	これまで学んできたイタリア語文法を用いて、さらに高度な読解、翻訳、会話、聞き取りの能力を伸ばし、イタリア文化に関しても学んでいく。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 復習。 2. 会話と読解の練習。 3. 接続法現在形。 4. 会話と読解の練習。 5. 聞き取り練習と復習。 6. 会話と読解の練習。 7. 条件法と接続法。 8. 会話と読解の練習。 9. 聞き取り練習と復習。 10. 直接法の遠過去と大過去。 11. 会話と読解の練習。 12. 聞き取り練習と復習。 13. 復習。 14. テストの準備。 15. 期末テストとまとめ。 				
◇ 成績評価の方法	会話・作文・翻訳・要約・聞き取りなどを通じて主に講義中に行なう。学期末に学習事項の確認テストを行なう。				
◇ 教科書・参考書	講義中にプリントを配布する。				
◇ 授業時間外学習	授業の復習と宿題を行なう。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
専 門 中 国 語 A d v a n c e d C h i n e s e	2	准教授 馬 暁 地	3	金	4																
<p>◆ 科目ナンバリング LHM-CHN202B</p> <p>◆ 授業題目 中国語作文 (Chinese writing)</p> <p>◆ 目的・概要 基本文型の翻訳練習と自由テーマによる作文練習を通じて、中国語の作文の能力を高める。翻訳練習は授業の時に、自由作文は宿題として毎週一篇提出してほしいこと。</p> <p>◆ 到達目標 一つの出来事のあらすじを簡単な言葉ではっきりと述べ、また、自分の考え、気持ちをただしく表すことを目標とする。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 是動詞の翻訳練習</td> <td>9. 疑問文の翻訳練習 (1)</td> </tr> <tr> <td>2. 有動詞の翻訳練習</td> <td>10. 同上 (2)</td> </tr> <tr> <td>3. 在動詞の翻訳練習</td> <td>11. 同上 (3)</td> </tr> <tr> <td>4. 自由作文の講評</td> <td>12. 自由作文の講評</td> </tr> <tr> <td>5. 形容詞述語文の翻訳練習</td> <td>13. 助詞了の翻訳練習</td> </tr> <tr> <td>6. 動詞述語文の翻訳練習</td> <td>14. 助詞着の翻訳練習</td> </tr> <tr> <td>7. 名詞述語文の翻訳練習</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 自由作文の講評</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 出席 (50%) 作文試験 (50%)</p> <p>◇ 教科書・参考書 プリント配布</p> <p>◇ 授業時間外学習 予習と復習を重視する。</p> <p>その他：</p>						1. 是動詞の翻訳練習	9. 疑問文の翻訳練習 (1)	2. 有動詞の翻訳練習	10. 同上 (2)	3. 在動詞の翻訳練習	11. 同上 (3)	4. 自由作文の講評	12. 自由作文の講評	5. 形容詞述語文の翻訳練習	13. 助詞了の翻訳練習	6. 動詞述語文の翻訳練習	14. 助詞着の翻訳練習	7. 名詞述語文の翻訳練習	15. まとめと試験	8. 自由作文の講評	
1. 是動詞の翻訳練習	9. 疑問文の翻訳練習 (1)																				
2. 有動詞の翻訳練習	10. 同上 (2)																				
3. 在動詞の翻訳練習	11. 同上 (3)																				
4. 自由作文の講評	12. 自由作文の講評																				
5. 形容詞述語文の翻訳練習	13. 助詞了の翻訳練習																				
6. 動詞述語文の翻訳練習	14. 助詞着の翻訳練習																				
7. 名詞述語文の翻訳練習	15. まとめと試験																				
8. 自由作文の講評																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
専 門 中 国 語 A d v a n c e d C h i n e s e	2	准教授 馬 暁 地	4	金	4																
<p>◆ 科目ナンバリング LHM-CHN202B</p> <p>◆ 授業題目 中国語作文 (Chinese writing)</p> <p>◆ 目的・概要 基本文型の翻訳練習と自由テーマによる作文練習を通じて、中国語の作文の能力を高める。翻訳練習は授業の時に、自由作文は宿題として毎週一篇提出してほしいこと。</p> <p>◆ 到達目標 一つの出来事のあらすじを簡単な言葉ではっきりと述べ、また、自分の考え、気持ちをただしく表すことを目標とする。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 是動詞の翻訳練習</td> <td>9. 疑問文の翻訳練習 (1)</td> </tr> <tr> <td>2. 有動詞の翻訳練習</td> <td>10. 同上 (2)</td> </tr> <tr> <td>3. 在動詞の翻訳練習</td> <td>11. 同上 (3)</td> </tr> <tr> <td>4. 自由作文の講評</td> <td>12. 自由作文の講評</td> </tr> <tr> <td>5. 形容詞述語文の翻訳練習</td> <td>13. 助詞了の翻訳練習</td> </tr> <tr> <td>6. 動詞述語文の翻訳練習</td> <td>14. 助詞着の翻訳練習</td> </tr> <tr> <td>7. 名詞述語文の翻訳練習</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 自由作文の講評</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 出席 (50%) 作文試験 (50%)</p> <p>◇ 教科書・参考書 プリント配布</p> <p>◇ 授業時間外学習 予習と復習を重視する。</p> <p>その他：</p>						1. 是動詞の翻訳練習	9. 疑問文の翻訳練習 (1)	2. 有動詞の翻訳練習	10. 同上 (2)	3. 在動詞の翻訳練習	11. 同上 (3)	4. 自由作文の講評	12. 自由作文の講評	5. 形容詞述語文の翻訳練習	13. 助詞了の翻訳練習	6. 動詞述語文の翻訳練習	14. 助詞着の翻訳練習	7. 名詞述語文の翻訳練習	15. まとめと試験	8. 自由作文の講評	
1. 是動詞の翻訳練習	9. 疑問文の翻訳練習 (1)																				
2. 有動詞の翻訳練習	10. 同上 (2)																				
3. 在動詞の翻訳練習	11. 同上 (3)																				
4. 自由作文の講評	12. 自由作文の講評																				
5. 形容詞述語文の翻訳練習	13. 助詞了の翻訳練習																				
6. 動詞述語文の翻訳練習	14. 助詞着の翻訳練習																				
7. 名詞述語文の翻訳練習	15. まとめと試験																				
8. 自由作文の講評																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
専 門 ド イ ツ 語 A d v a n c e d G e r m a n	2	助教 野 内 清 香	3	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-GER201J																				
◆ 授業題目	ドイツ語テキスト読解 (German reading)																				
◆ 目的・概要	Willi Fährmn "Siegfried von Xanten" (『ジークフリート』) を読む。原本は、中世の叙事詩『ニーベルンゲンの歌』の前半をもとに、その素材となったゲルマン伝承を取り入れて、ドイツの子ども向けに再話したテキストである。一年次に学んだ基本的な文法と、専門分野の難解なテキストとの間を埋めるよう、比較的易しいテキストを使用し、長文読解の力を徐々に付けていくことを狙いとする。無理なく理解が進むよう、文法事項も適宜復習しながら進める。 授業では便宜上このテキストを4部に分ける。 1. 若きジークフリートの冒険 (S. 2-11) 2. ジークフリートとクリームヒルトの出会い (S. 11-18) 3. 二組の結婚 (S. 18-24) 4. ジークフリートの死 (S. 24-33) 前期は1部と2部を講読する。 ドイツ語のテキストを読む力を向上させる。																				
◆ 到達目標																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 2. ジークフリートとクリームヒルトの出会い-1</td> </tr> <tr> <td>2. 1. 若きジークフリートの冒険-1</td> <td>10. 2. ジークフリートとクリームヒルトの出会い-2</td> </tr> <tr> <td>3. 1. 若きジークフリートの冒険-2</td> <td>11. 2. ジークフリートとクリームヒルトの出会い-3</td> </tr> <tr> <td>4. 1. 若きジークフリートの冒険-3</td> <td>12. 2. ジークフリートとクリームヒルトの出会い-4</td> </tr> <tr> <td>5. 1. 若きジークフリートの冒険-4</td> <td>13. 2. ジークフリートとクリームヒルトの出会い-5</td> </tr> <tr> <td>6. 1. 若きジークフリートの冒険-5</td> <td>14. 2. ジークフリートとクリームヒルトの出会い-6</td> </tr> <tr> <td>7. 1. 若きジークフリートの冒険-6</td> <td>15. 2. ジークフリートとクリームヒルトの出会い</td> </tr> <tr> <td>8. 1. 若きジークフリートの冒険</td> <td>内容まとめと確認</td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 2. ジークフリートとクリームヒルトの出会い-1	2. 1. 若きジークフリートの冒険-1	10. 2. ジークフリートとクリームヒルトの出会い-2	3. 1. 若きジークフリートの冒険-2	11. 2. ジークフリートとクリームヒルトの出会い-3	4. 1. 若きジークフリートの冒険-3	12. 2. ジークフリートとクリームヒルトの出会い-4	5. 1. 若きジークフリートの冒険-4	13. 2. ジークフリートとクリームヒルトの出会い-5	6. 1. 若きジークフリートの冒険-5	14. 2. ジークフリートとクリームヒルトの出会い-6	7. 1. 若きジークフリートの冒険-6	15. 2. ジークフリートとクリームヒルトの出会い	8. 1. 若きジークフリートの冒険	内容まとめと確認
1. ガイダンス	9. 2. ジークフリートとクリームヒルトの出会い-1																				
2. 1. 若きジークフリートの冒険-1	10. 2. ジークフリートとクリームヒルトの出会い-2																				
3. 1. 若きジークフリートの冒険-2	11. 2. ジークフリートとクリームヒルトの出会い-3																				
4. 1. 若きジークフリートの冒険-3	12. 2. ジークフリートとクリームヒルトの出会い-4																				
5. 1. 若きジークフリートの冒険-4	13. 2. ジークフリートとクリームヒルトの出会い-5																				
6. 1. 若きジークフリートの冒険-5	14. 2. ジークフリートとクリームヒルトの出会い-6																				
7. 1. 若きジークフリートの冒険-6	15. 2. ジークフリートとクリームヒルトの出会い																				
8. 1. 若きジークフリートの冒険	内容まとめと確認																				
◇ 成績評価の方法	試験50%、平常点(出席、授業での発言、質疑)50%																				
◇ 教科書・参考書	教科書:小栗友一編『ジークフリート』(同学社)																				
◇ 授業時間外学習	予習(単語の意味を調べる、文全体の意味を考える)が必要である。																				
その他:実際の進捗は、出席者の状況により変更される可能性があります。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
専 門 ド イ ツ 語 A d v a n c e d G e r m a n	2	助教 野 内 清 香	4	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-GER201J																				
◆ 授業題目	ドイツ語テキスト読解 (German reading)																				
◆ 目的・概要	Willi Fährmn "Siegfried von Xanten" (『ジークフリート』) を読む。原本は、中世の叙事詩『ニーベルンゲンの歌』の前半をもとに、その素材となったゲルマン伝承を取り入れて、ドイツの子ども向けに再話したテキストである。一年次に学んだ基本的な文法と、専門分野の難解なテキストとの間を埋めるよう、比較的易しいテキストを使用し、長文読解の力を徐々に付けていくことを狙いとする。無理なく理解が進むよう、文法事項も適宜復習しながら進める。 授業では便宜上このテキストを4部に分ける。 1. 若きジークフリートの冒険 (S. 2-11) 2. ジークフリートとクリームヒルトの出会い (S. 11-18) 3. 二組の結婚 (S. 18-24) 4. ジークフリートの死 (S. 24-33) 後期は3部と4部を講読する。 ドイツ語のテキストを読む力を向上させる。																				
◆ 到達目標																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 4. ジークフリートの死-1</td> </tr> <tr> <td>2. 3. 二組の結婚-1</td> <td>10. 4. ジークフリートの死-2</td> </tr> <tr> <td>3. 3. 二組の結婚-2</td> <td>11. 4. ジークフリートの死-3</td> </tr> <tr> <td>4. 3. 二組の結婚-3</td> <td>12. 4. ジークフリートの死-4</td> </tr> <tr> <td>5. 3. 二組の結婚-4</td> <td>13. 4. ジークフリートの死-5</td> </tr> <tr> <td>6. 3. 二組の結婚-5</td> <td>14. 4. ジークフリートの死-6</td> </tr> <tr> <td>7. 3. 二組の結婚-6</td> <td>15. 4. ジークフリートの死</td> </tr> <tr> <td>8. 3. 二組の結婚</td> <td>内容まとめと確認</td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 4. ジークフリートの死-1	2. 3. 二組の結婚-1	10. 4. ジークフリートの死-2	3. 3. 二組の結婚-2	11. 4. ジークフリートの死-3	4. 3. 二組の結婚-3	12. 4. ジークフリートの死-4	5. 3. 二組の結婚-4	13. 4. ジークフリートの死-5	6. 3. 二組の結婚-5	14. 4. ジークフリートの死-6	7. 3. 二組の結婚-6	15. 4. ジークフリートの死	8. 3. 二組の結婚	内容まとめと確認
1. ガイダンス	9. 4. ジークフリートの死-1																				
2. 3. 二組の結婚-1	10. 4. ジークフリートの死-2																				
3. 3. 二組の結婚-2	11. 4. ジークフリートの死-3																				
4. 3. 二組の結婚-3	12. 4. ジークフリートの死-4																				
5. 3. 二組の結婚-4	13. 4. ジークフリートの死-5																				
6. 3. 二組の結婚-5	14. 4. ジークフリートの死-6																				
7. 3. 二組の結婚-6	15. 4. ジークフリートの死																				
8. 3. 二組の結婚	内容まとめと確認																				
◇ 成績評価の方法	試験50%、平常点(出席、授業での発言、質疑)50%																				
◇ 教科書・参考書	小栗友一編『ジークフリート』(同学社)																				
◇ 授業時間外学習	予習(単語の意味を調べる、文全体の意味を考える)が必要である。																				
その他:実際の進捗は、出席者の状況により変更される可能性があります。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
専 門 フ ラ ン ス 語 A d v a n c e d F r e n c h	2	非常勤 講師	翠 川 博 之	3	火 2
◆ 科目ナンバリング	LHM-FRE201J				
◆ 授業題目	フランス語の文章を読む (Read a French text)				
◆ 目的・概要	サルトルの小説 La Nausée (1938) を抜粋で読みます。 物や人に接触するたびに「吐き気」をおぼえる孤独な主人公ロカンタン。原因はなにか。日記仕立てのミステリー小説のように、「存在」のヴェールが剥がれ「吐き気」を催す裸形の「実存」が見いだされるまでの日々の印象が綴られた、読み応えのある小説です。サルトルの初期代表作でありながら、深遠な主題を平易な文体で表現したフランス語学習にも好個の作品です。 授業で文学作品を読む目的は二つあります。第一に、文法知識の習得。これまでに蓄えた文法知識を実践的に活用する術を学びつつ、より高度な文法知識を身につけます。第二に、文章を精確に読むスキルの習得。文学的表現の微妙なニュアンスまで読み取る練習をしながら、文章が何を表現しているのか正しく理解できれば、読解力が飛躍的に高まります。訳読の訓練をしながら、文学テキストを味読するための技術を身につけましょう。				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高度な文法知識を身につけて、文章を精確に読めるようになる。 ・ 一定分量の文章を一定の速度で読めるようになる。 ・ 文学作品を鑑賞、批評するための読解力を養う。 				
◆ 授業内容・方法	1. テキストの背景説明 2. 訳読：テキスト p. 1～ p. 3 3. 訳読：テキスト p. 4～ p. 6 4. 訳読：テキスト p. 7～ p. 9 5. 訳読：テキスト p. 10～ p. 12 6. 訳読：テキスト p. 13～ p. 15 7. 訳読：テキスト p. 16～ p. 18 8. 訳読：テキスト p. 19～ p. 21 9. 訳読：テキスト p. 22～ p. 24 10. 訳読：テキスト p. 25～ p. 27 11. 訳読：テキスト p. 28～ p. 30 12. 訳読：テキスト p. 31～ p. 33 13. 訳読：テキスト p. 34～ p. 36 14. 訳読：テキスト p. 37～ p. 39 15. 訳読：テキスト p. 40～ p. 42				
◇ 成績評価の方法	平常点 (訳読) 80%、ノート20%				
◇ 教科書・参考書	サルトル『嘔吐』(作品全文から4分の1を抜粋したテキストでB6版 85頁)、片岡美智 編注、第三書房、本体1500円				
◇ 授業時間外学習	1回の授業でテキスト3頁を受講者全員で訳読していきます。あらかじめ担当者は決まませんので、各自がきちんと予習をして授業にのぞむ必要があります。毎回、ノートに和訳を準備してきてください。和訳ノートも成績評価に含めます。 授業中に添削したノートを見直し、復習も十分に行ってください。				
その他：	連絡先：hrykmdrkw@gmail.com オフィスアワーについては、開講時にお知らせします。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
専 門 フ ラ ン ス 語 A d v a n c e d F r e n c h	2	非常勤 講師	翠 川 博 之	4	火 2
◆ 科目ナンバリング	LHM-FRE201J				
◆ 授業題目	フランス語の文章を読む (Read a French text)				
◆ 目的・概要	サルトルの小説 La Nausée (1938) を抜粋で読みます。 物や人に接触するたびに「吐き気」をおぼえる孤独な主人公ロカンタン。原因はなにか。日記仕立てのミステリー小説のように、「存在」のヴェールが剥がれ「吐き気」を催す裸形の「実存」が見いだされるまでの日々の印象が綴られた、読み応えのある小説です。サルトルの初期代表作でありながら、深遠な主題を平易な文体で表現したフランス語学習にも好個の作品です。 授業で文学作品を読む目的は二つあります。第一に、文法知識の習得。これまでに蓄えた文法知識を実践的に活用する術を学びつつ、より高度な文法知識を身につけます。第二に、文章を精確に読むスキルの習得。文学的表現の微妙なニュアンスまで読み取る練習をしながら、文章が何を表現しているのか正しく理解できれば、読解力が飛躍的に高まります。訳読の訓練をしながら、文学テキストを味読するための技術を身につけましょう。				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高度な文法知識を身につけて、文章を精確に読めるようになる。 ・ 一定分量の文章を一定の速度で読めるようになる。 ・ 文学作品を鑑賞、批評するための読解力を養う。 				
◆ 授業内容・方法	1. テキストの背景説明とテキスト前半のあらすじ紹介 訳読：テキスト p. 43 2. 訳読：テキスト p. 44～ p. 46 3. 訳読：テキスト p. 47～ p. 49 4. 訳読：テキスト p. 50～ p. 52 5. 訳読：テキスト p. 53～ p. 55 6. 訳読：テキスト p. 56～ p. 58 7. 訳読：テキスト p. 59～ p. 61 8. 訳読：テキスト p. 62～ p. 64 9. 訳読：テキスト p. 65～ p. 67 10. 訳読：テキスト p. 68～ p. 70 11. 訳読：テキスト p. 71～ p. 73 12. 訳読：テキスト p. 74～ p. 76 13. 訳読：テキスト p. 77～ p. 79 14. 訳読：テキスト p. 80～ p. 82 15. 訳読：テキスト p. 83～ p. 85				
◇ 成績評価の方法	平常点 (訳読) 80%、ノート20%				
◇ 教科書・参考書	サルトル『嘔吐』(作品全文から4分の1を抜粋したテキストでB6版85頁)、片岡美智 編注、第三書房、本体1500円				
◇ 授業時間外学習	1回の授業でテキスト3頁を受講者全員で訳読していきます。あらかじめ担当者は決まませんので、各自がきちんと予習をして授業にのぞむ必要があります。毎回、ノートに和訳を準備してきてください。和訳ノートも成績評価に含めます。 授業中に添削したノートを見直し、復習も十分に行ってください。				
その他：	連絡先：hrykmdrkw@gmail.com オフィスアワーについては、開講時にお知らせします。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
漢 文 講 読 Chinese Classics (Reading)	2	助教 田 島 花 野	3	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT226J																				
◆ 授業題目	伝奇小説を読む (Appreciation of romances)																				
◆ 目的・概要	中国の唐代には、「伝奇」(奇を伝える)と呼ばれる短編小説が、知識人の中で流行しました。内容は男女の恋愛、侠客の武勇、神仙や怪異など様々であり、唐代の社会状況や人々の精神生活を窺わせるものです。また、日本の近代文学にも、芥川龍之介「杜子春」のように、伝奇小説を元にした作品があります。																				
◆ 到達目標	授業では、この伝奇小説を読んでゆきます。輪読形式で進めてゆきますので、受講者は指示する話の訓読と日本語訳を作成して、授業に臨んでください。教材は、返り点の施されたものを用います。 ①漢文文法の基礎的知識を習得する。 ②漢文読解に必要な辞書の引き方を学ぶ。 ③漢文を訓読し、日本語として理解できるようにする。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 第8回の質問に対する答え：輪読</td> </tr> <tr> <td>2. 第1回の質問に対する答え：輪読</td> <td>10. 第9回の質問に対する答え：輪読</td> </tr> <tr> <td>3. 第2回の質問に対する答え：輪読</td> <td>11. 第10回の質問に対する答え：輪読</td> </tr> <tr> <td>4. 第3回の質問に対する答え：輪読</td> <td>12. 第11回の質問に対する答え：輪読</td> </tr> <tr> <td>5. 第4回の質問に対する答え：輪読</td> <td>13. 第12回の質問に対する答え：輪読</td> </tr> <tr> <td>6. 第5回の質問に対する答え：輪読</td> <td>14. 第13回の質問に対する答え：輪読</td> </tr> <tr> <td>7. 第6回の質問に対する答え：輪読</td> <td>15. 第14回の質問に対する答え：期末試験</td> </tr> <tr> <td>8. 第7回の質問に対する答え：輪読</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 第8回の質問に対する答え：輪読	2. 第1回の質問に対する答え：輪読	10. 第9回の質問に対する答え：輪読	3. 第2回の質問に対する答え：輪読	11. 第10回の質問に対する答え：輪読	4. 第3回の質問に対する答え：輪読	12. 第11回の質問に対する答え：輪読	5. 第4回の質問に対する答え：輪読	13. 第12回の質問に対する答え：輪読	6. 第5回の質問に対する答え：輪読	14. 第13回の質問に対する答え：輪読	7. 第6回の質問に対する答え：輪読	15. 第14回の質問に対する答え：期末試験	8. 第7回の質問に対する答え：輪読	
1. ガイダンス	9. 第8回の質問に対する答え：輪読																				
2. 第1回の質問に対する答え：輪読	10. 第9回の質問に対する答え：輪読																				
3. 第2回の質問に対する答え：輪読	11. 第10回の質問に対する答え：輪読																				
4. 第3回の質問に対する答え：輪読	12. 第11回の質問に対する答え：輪読																				
5. 第4回の質問に対する答え：輪読	13. 第12回の質問に対する答え：輪読																				
6. 第5回の質問に対する答え：輪読	14. 第13回の質問に対する答え：輪読																				
7. 第6回の質問に対する答え：輪読	15. 第14回の質問に対する答え：期末試験																				
8. 第7回の質問に対する答え：輪読																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験30%、出席20%、その他(授業への取り組み)50%																				
◇ 教科書・参考書	漢文資料編集会議編「伝奇小説」(大修館書店) 各自、漢和辞典を用意してください。電子辞書可。																				
◇ 授業時間外学習	予習：本文を書き下し、現代語訳する。分からない語は漢和辞典で調べる。 復習：毎回の既習部分を確認し、書き下し文を音読する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
漢 文 講 読 Chinese Classics (Reading)	2	助教 田 島 花 野	4	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIT226J																				
◆ 授業題目	伝奇小説を読む (Appreciation of romances)																				
◆ 目的・概要	中国の唐代には、「伝奇」(奇を伝える)と呼ばれる短編小説が、知識人の中で流行しました。内容は男女の恋愛、侠客の武勇、神仙や怪異など様々であり、唐代の社会状況や人々の精神生活を窺わせるものです。また、日本の近代文学にも、芥川龍之介「杜子春」のように、伝奇小説を元にした作品があります。																				
◆ 到達目標	授業では、この伝奇小説を読んでゆきます。輪読形式で進めてゆきますので、受講者は指示する話の訓読と日本語訳を作成して、授業に臨んでください。教材は、返り点の施されたものを用います。 ①漢文文法の基礎的知識を習得する。 ②漢文読解に必要な辞書の引き方を学ぶ。 ③漢文を訓読し、日本語として理解できるようにする。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 第8回の質問に対する答え：輪読</td> </tr> <tr> <td>2. 第1回の質問に対する答え：輪読</td> <td>10. 第9回の質問に対する答え：輪読</td> </tr> <tr> <td>3. 第2回の質問に対する答え：輪読</td> <td>11. 第10回の質問に対する答え：輪読</td> </tr> <tr> <td>4. 第3回の質問に対する答え：輪読</td> <td>12. 第11回の質問に対する答え：輪読</td> </tr> <tr> <td>5. 第4回の質問に対する答え：輪読</td> <td>13. 第12回の質問に対する答え：輪読</td> </tr> <tr> <td>6. 第5回の質問に対する答え：輪読</td> <td>14. 第13回の質問に対する答え：輪読</td> </tr> <tr> <td>7. 第6回の質問に対する答え：輪読</td> <td>15. 第14回の質問に対する答え：期末試験</td> </tr> <tr> <td>8. 第7回の質問に対する答え：輪読</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 第8回の質問に対する答え：輪読	2. 第1回の質問に対する答え：輪読	10. 第9回の質問に対する答え：輪読	3. 第2回の質問に対する答え：輪読	11. 第10回の質問に対する答え：輪読	4. 第3回の質問に対する答え：輪読	12. 第11回の質問に対する答え：輪読	5. 第4回の質問に対する答え：輪読	13. 第12回の質問に対する答え：輪読	6. 第5回の質問に対する答え：輪読	14. 第13回の質問に対する答え：輪読	7. 第6回の質問に対する答え：輪読	15. 第14回の質問に対する答え：期末試験	8. 第7回の質問に対する答え：輪読	
1. ガイダンス	9. 第8回の質問に対する答え：輪読																				
2. 第1回の質問に対する答え：輪読	10. 第9回の質問に対する答え：輪読																				
3. 第2回の質問に対する答え：輪読	11. 第10回の質問に対する答え：輪読																				
4. 第3回の質問に対する答え：輪読	12. 第11回の質問に対する答え：輪読																				
5. 第4回の質問に対する答え：輪読	13. 第12回の質問に対する答え：輪読																				
6. 第5回の質問に対する答え：輪読	14. 第13回の質問に対する答え：輪読																				
7. 第6回の質問に対する答え：輪読	15. 第14回の質問に対する答え：期末試験																				
8. 第7回の質問に対する答え：輪読																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験30%、出席20%、その他(授業への取り組み)50%																				
◇ 教科書・参考書	漢文資料編集会議編「伝奇小説」(大修館書店) 各自、漢和辞典を用意してください。電子辞書可。																				
◇ 授業時間外学習	予習：本文を書き下し、現代語訳する。分からない語は漢和辞典で調べる。 復習：毎回の既習部分を確認し、書き下し文を音読する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 原 壘	3	月	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHS204J				
◆ 授業題目	よりよい研究のための倫理 (Research Ethics and Research Integrity)				
◆ 目的・概要	人文社会科学・自然科学の研究成果は、人々の幸福や社会の発展に大きく貢献していますが、その一方で、研究やその成果が、人々を傷つけるものであったり、あるいは、人々を誤った仕方でもたらしていることもあります。そのため、研究に従事する人々（大学生や大学院生を含みます）は、倫理的・手続き的に正しい仕方で行う責任を負っています。この授業では、大学生や大学院生が、よい研究者になるために、どのような仕方であるまうのが望ましいのか、また望ましくないのかを学ぶことを目的とします。				
◆ 到達目標	この授業は講義とワークショップという二つのパートからなります。講義では、まず研究倫理を概観した後で、その中の幾つかのトピック（査読、利益相反、軍事研究など）を深く議論します。ワークショップでは、受講者は「よい研究者」になるための方策や条件を、グループワークを行うことで考察していきます。この授業は、総合研究大学院大学「科学と社会」教育プログラム、本学理学研究科本堂研究室、成城大学標葉研究室、サイエンスライター内田麻理香氏との共同で実施します。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. よい研究者像を自分なりにイメージできるようになり、研究者の責任に対する自覚を深めること。 2. 責任ある仕方で行う研究を実施するために研究者が遵守すべき様々な規範について学び、そのような規範を遵守すべき理由を理解すること。 3. 研究不正行為のさまざまな種類を理解し、なぜそのような不正行為が望ましくないのかを説明できるようになること。 4. 不正行為が発生する状況を理解し、責任ある研究者にふさわしい判断を下せるようになること。 				
◆ 1. イントロダクション	9. 軍事研究				
◆ 2. 実験研究の倫理	10. 研究に関するワークショップ 1				
◆ 3. フィールド研究の倫理	11. 研究に関するワークショップ 2				
◆ 4. 文献研究の倫理	12. 研究に関するワークショップ 3				
◆ 5. 科学者の責任	13. 研究に関するワークショップ 4				
◆ 6. ビアレビュー	14. 研究に関するワークショップ 5				
◆ 7. 研究の再現性	15. 研究に関するワークショップ 6				
◆ 8. 利益相反					
◇ 成績評価の方法	授業中の討論やワークショップへの参加（60%）、レポートの提出（40%）				
◇ 教科書・参考書	日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会編『科学の健全な発展のために誠実な科学者の心得』丸善出版、2015年				
◇ 授業時間外学習	CITI Japanや学術振興会などが提供する研究倫理 e-learning を受講することを強くお勧めします。				
ワークショップは学期中2日間を使って、集中して行います。ワークショップの開催日程を決めるため、初回の授業（4月10日に実施）その他：に必ず出席してください。初回の授業に出席することができない場合には、講義担当者の原壘（電子メール：plastikfeld@gmail.com）に電子メール等で連絡してください。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	教授 行場 次朗・戸島貴代志・阿部 恒之 准教授 木村 邦博・小林 隆・小泉 政利・坂井 信之 辻本 昌弘	4	水	5
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHS204J				
◆ 授業題目	研究と実践の倫理 (Ethical problems in research and practical activities)				
◆ 目的・概要	人文社会科学の分野で行われている複数の研究手法である調査、実験、フィールドワーク、聞き取り調査、歴史資料の収集や、研究不正などに関わる倫理的諸問題を複数教員が担当して解説する。				
◆ 到達目標	人文社会科学の諸分野における研究と、その知識に基づく社会的実践の場における倫理の基礎を理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 人間と技術 3. 科学と倫理 4. 人を対象とした実験研究における倫理 5. 動物を対象とした実験研究における倫理 6. 社会心理学実験における倫理 7. 社会調査研究に必要な実践的問題と倫理 8. 調査研究における倫理問題の国内外の動向 9. 企業における研究・特許等の問題について 10. フィールドワークにおける倫理の問題 11. 海外でのフィールドワークの注意点 12. 聞き取り調査の実践と倫理の諸問題 13. 研究倫理の国内外の動向 14. 研究不正の防止と対応 15. 全体のまとめとレビュー 				
◇ 成績評価の方法	出席 40%、レポート 60%				
◇ 教科書・参考書	授業時に指示する。				
◇ 授業時間外学習	それぞれの担当教員の授業によっては、小レポート課題を出すことがある。成績評価の対象となる学期末のレポートについては、準備に時間がかかるので、ノートの整理や、指示された、あるいは関連する参考資料をあらかじめ収集しておくこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 谷 山 洋 三	3	月	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHS204J				
◆ 授業題目	グリーフケア (Grief and Bereavement Care)				
◆ 目的・概要	死別による悲嘆は誰もが経験することであり、特に東日本大震災など様々な災害を経験した私たちにとっては、避けられない重要なテーマである。悲嘆を抱えた人には多様な側面からの支援が必要であるが、その中で特にグリーフケアについて考察する。授業では、毎回終了前に小レポートを提出してもらい、次の授業で討論を行いたい。				
◆ 到達目標	悲嘆とその対応の一つとしてのグリーフケアについて基礎知識を得る				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 死別は誰もが経験すること 3. 死を受け止めることがむずかしい時代 4. 悲嘆は病気なのか？ 5. 悲しみは身体をも損なう 6. 亡き人の死の意味を決めるのは？ 7. 死別に向き合うプロセス 8. それでも生活をしなくてはいけない 9. 「あの世」を身近なものにする？ 10. 悲しむためにも健やかに 11. 一歩を踏み出すとき 12. 身近な人が苦しんでいたら 13. 悲しみと折り合いながら生きる 14. 悲しみと折り合いながら生きる 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]、出席・討論への参加等 [50%]				
◇ 教科書・参考書	教科書 (必ず購入してください)：坂口幸弘『死別の悲しみに向き合う グリーフケアとは何か』講談社現代新書、2012年 (760円+税)。 参考書：坂口幸弘『悲嘆学入門 死別の悲しみを学ぶ』昭和堂、2010年。高木慶子・山本佳世子『悲嘆の中にある人に心を寄せて -人は悲しみとどう向かい合っていくのか-』上智大学出版、2014年。				
◇ 授業時間外学習	予習：事前に指示した教科書の範囲を精読する 復習：身近な人のグリーフケアの場面を想定して授業で学んだことについて考察する				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 谷 山 洋 三	3	月	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHS204J				
◆ 授業題目	臨床死生学 (Clinical Thanatology)				
◆ 目的・概要	人生において死は避けられないものであり、私たちは他者 (二人称：身近な人、三人称：無関係な人) の死を経験しながら、自己 (一人称) の死の準備をしている。特に、医療・福祉の臨床においては倫理的課題を含む諸問題があり、哲学、倫理学、宗教学、そして宗教者の立場からも意見が求められている。授業では、代表的な宗教的死生観だけでなく、世俗的な現代人の死生観を参考にしつつ、ロールプレイで当事者や援助者の立場を疑似体験するなど、具体的な諸問題について考察したい。授業では、毎回終了前に小レポートを提出してもらい、次の授業で討論を行いたい。				
◆ 到達目標	(1)医療・福祉の臨床における死に関する諸問題について学ぶ (2)様々な死生観を通して、自分自身の死生観を涵養する				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 教理仏教と生活仏教の死生観 3. 神道・儒教・キリスト教の死生観 4. ディスカッション ① 死生観 5. 死生学とホスピス運動 6. 死を巡るわが国の現状 7. 尊厳死・安楽死 8. 高齢社会における「平穏死」 9. 生と死の医学 10. 愛する人を見送るために 11. 地域包括ケアシステム 12. DVD Living Will 13. ロールプレイ 平穏死 14. ロールプレイ振り返り 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]、出席・討論への参加等 [50%]				
◇ 教科書・参考書	参考書：清水哲郎／島藺進 (編)『ケア従事者のための死生学』ヌーヴェルヒロカワ、2010年。清水哲郎 (監修)、岡部健／竹之内裕文 (編)『どう生き どう死ぬか 現場から考える死生学』弓箭書院、2009年				
◇ 授業時間外学習	授業で学んだことを、自分自身が関係する課題として想定し、深く思索することが復習になる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 谷 山 洋 三	4	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHS204J																				
◆ 授業題目	スピリチュアルケア (Spiritual Care)																				
◆ 目的・概要	スピリチュアルケアは、ホスピス運動に伴って日本に紹介され、緩和ケアの領域においては一定の理解を得られているものの、定着しているとは言いがたい。宗教的ケアは、欧米では「パストラルケア」としてキリスト者によって提供されてきたが、視点を替えば、日本でも仏教、神道などでも概念化されないまま伝統的に実践されて来たと言うこともできる。複数の代表的な専門家の見解を紹介しこの2つのケアの内容、相違点、共通点などについて考察する。また、体験的なワークを通して擬似的にスピリチュアルケア、宗教的ケアを体験することで、理解を深めたい。																				
◆ 到達目標	スピリチュアルケア、宗教的ケアについて基礎知識を得る																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 宗教的資源の活用</td> </tr> <tr> <td>2. チャプレンとビハーラ僧</td> <td>10. 宗教的ケア</td> </tr> <tr> <td>3. 「臨床宗教師」の誕生</td> <td>11. 臨床宗教師の可能性</td> </tr> <tr> <td>4. 生活の中にある心のケア</td> <td>12. 臨床宗教師の資質</td> </tr> <tr> <td>5. スピリチュアルペイン</td> <td>13. ワークショップ「死の体験」</td> </tr> <tr> <td>6. スピリチュアルな探求</td> <td>14. ワークショップ振り返り</td> </tr> <tr> <td>7. 「支える」「気付けてもらう」スピリチュアルケア</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 「新しい枠組みを作る」「無力による」スピリチュアルケア</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 宗教的資源の活用	2. チャプレンとビハーラ僧	10. 宗教的ケア	3. 「臨床宗教師」の誕生	11. 臨床宗教師の可能性	4. 生活の中にある心のケア	12. 臨床宗教師の資質	5. スピリチュアルペイン	13. ワークショップ「死の体験」	6. スピリチュアルな探求	14. ワークショップ振り返り	7. 「支える」「気付けてもらう」スピリチュアルケア	15. まとめ	8. 「新しい枠組みを作る」「無力による」スピリチュアルケア	
1. オリエンテーション	9. 宗教的資源の活用																				
2. チャプレンとビハーラ僧	10. 宗教的ケア																				
3. 「臨床宗教師」の誕生	11. 臨床宗教師の可能性																				
4. 生活の中にある心のケア	12. 臨床宗教師の資質																				
5. スピリチュアルペイン	13. ワークショップ「死の体験」																				
6. スピリチュアルな探求	14. ワークショップ振り返り																				
7. 「支える」「気付けてもらう」スピリチュアルケア	15. まとめ																				
8. 「新しい枠組みを作る」「無力による」スピリチュアルケア																					
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]、出席・討論への参加等 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書 (必ず購入してください) : 谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア：臨床宗教師の視点から』中外医学社、2016年 (2600円+税) 参考書：鎌田東二 (編)『講座スピリチュアル学第1巻 スピリチュアルケア』ビイング・ネット・プレス、2014年																				
◇ 授業時間外学習	予習：事前に指示した教科書の範囲を精読する 復習：授業で学んだことについて、実際の場面を想像しながら考察する																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	教授 高 橋 原	4	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHS204J																				
◆ 授業題目	宗教とスピリチュアリティ (Religion and Spirituality)																				
◆ 目的・概要	スピリチュアリティと宗教について対人的ケアとの関係から考察し、また、日本的スピリチュアリティの現れ方について考えを深める。																				
◆ 到達目標	スピリチュアリティとは何か、宗教やケアとの関係から自分なりに説明できるようにする。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション スピリチュアリティとは何か</td> <td>9. ケアにおけるスピリチュアリティ</td> </tr> <tr> <td>2. スピリチュアリティと宗教</td> <td>10. 支援者としての宗教者とスピリチュアリティ</td> </tr> <tr> <td>3. William Jamesとスピリチュアリティ</td> <td>11. 日本的スピリチュアリティ (1) 嘲風・梁川</td> </tr> <tr> <td>4. James Hillmanの思想とスピリチュアリティ</td> <td>12. 日本的スピリチュアリティ (2) 煩悶青年の宗教体験</td> </tr> <tr> <td>5. 死を取り巻く諸現象とスピリチュアリティ</td> <td>13. 日本的スピリチュアリティ (3) 遠藤周作の作品とスピリチュアリティ</td> </tr> <tr> <td>6. キューブラ=ロスと臨死体験</td> <td>14. 補論 (1)</td> </tr> <tr> <td>7. お迎え現象</td> <td>15. 補論 (2)</td> </tr> <tr> <td>8. 心霊現象</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション スピリチュアリティとは何か	9. ケアにおけるスピリチュアリティ	2. スピリチュアリティと宗教	10. 支援者としての宗教者とスピリチュアリティ	3. William Jamesとスピリチュアリティ	11. 日本的スピリチュアリティ (1) 嘲風・梁川	4. James Hillmanの思想とスピリチュアリティ	12. 日本的スピリチュアリティ (2) 煩悶青年の宗教体験	5. 死を取り巻く諸現象とスピリチュアリティ	13. 日本的スピリチュアリティ (3) 遠藤周作の作品とスピリチュアリティ	6. キューブラ=ロスと臨死体験	14. 補論 (1)	7. お迎え現象	15. 補論 (2)	8. 心霊現象	
1. イントロダクション スピリチュアリティとは何か	9. ケアにおけるスピリチュアリティ																				
2. スピリチュアリティと宗教	10. 支援者としての宗教者とスピリチュアリティ																				
3. William Jamesとスピリチュアリティ	11. 日本的スピリチュアリティ (1) 嘲風・梁川																				
4. James Hillmanの思想とスピリチュアリティ	12. 日本的スピリチュアリティ (2) 煩悶青年の宗教体験																				
5. 死を取り巻く諸現象とスピリチュアリティ	13. 日本的スピリチュアリティ (3) 遠藤周作の作品とスピリチュアリティ																				
6. キューブラ=ロスと臨死体験	14. 補論 (1)																				
7. お迎え現象	15. 補論 (2)																				
8. 心霊現象																					
◇ 成績評価の方法	期末レポートによる。授業内で小レポートを課す場合もある。																				
◇ 教科書・参考書	適宜、授業内で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業内で指示する参考文献により理解を深める。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	教授 高 橋 原 准教授 准 谷 山 洋 三	3	木	5
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHS204J				
◆ 授業題目	喪失体験とそのケア (Experience of Loss and its care)				
◆ 目的・概要	文献講読により、さまざまな喪失体験とそのケアについて学び、宗教者による支援の可能性も合わせて検討する。				
◆ 到達目標	誰もが人生のいずれかの場面において遭遇する喪失体験、死と別れについて理解し、文化の中でどのような対処が可能なのかを理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対話する死生学 喪失とともに生きるために 2. グリーフカウンセリングの現場から 3. 日本におけるグリーフケアカウンセラー 4. グリーフサポートと民俗 5. こどものいのちを看取ること 小児救急の現場から 6. 寄り添いの変容 一世紀を経た二つの手記より 7. こどもを看取る家族への看護 8. 生を享けること、失うこと 周産期医療の現場から 9. 死産を経験した家族に対するサポート 10. 幼い子を失った親の経験について 11. 老病死に向き合う人から学ぶ 終末期ケアの現場から 12. 「自分を失うこと」とどう向き合うか 「ホスピタル」はいかに「病院」となったか 13. ホームを失って生きる 路上生活者の語りから 14. がんが教えてくれたこと 患者・看護師としての体験から 15. 自他の喪失を支えるつながり グリーフから希望を 				
◇ 成績評価の方法	出席回数と授業の発言などから総合的に評価する。				
◇ 教科書・参考書	『喪失とともに生きる—対話する死生学』 (竹之内裕文/浅原聡子編) ポラーノ出版 他、適宜授業内で指示する。				
◇ 授業時間外学習	授業内で指示する参考文献により理解を深める。				
その他：この授業は文献講読である。毎回担当者を決めて、テキストの要約とコメントをし、続いて全員で議論を行う。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	教授 高 橋 原・木村 敏明 准教授 准 谷 山 洋 三	4	木	5
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHS204J				
◆ 授業題目	実践宗教学試論～宗教者によるケア実践 (Practice of care by religious specialists)				
◆ 目的・概要	宗教者が公共空間でケア従事者の役割を果たすために何が 필요한のか。生老病死をめぐる現代日本社会の諸状況を踏まえて課題と可能性を学ぶ。				
◆ 到達目標	さまざまな実践例から、ケアの諸相を理解し、現代日本社会が直面している問題について理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 【各回の内容、担当講師の詳細は未定です。決定し次第掲示等で告知します。】 臨床宗教師の理念 2. グリーフケアと宗教 3. カフェ・デ・モンク (宗教者による被災地支援の実情) 4. スピリチュアルケアと宗教的ケア 5. 終末期医療と宗教者 6. 原発事故被害と宗教者の役割 7. 民間信仰論 8. 宗教間対話 9. 臨床宗教師の実践報告 (1) 10. 臨床宗教師の実践報告 (2) 11. 臨床宗教師の実践報告 (3) 12. 臨床宗教師の実践報告 (4) 13. 臨床宗教師の実践報告 (5) 14. 臨床宗教師の実践報告 (6) 15. 臨床宗教師の実践報告 (7) 				
◇ 成績評価の方法	出席回数、毎回提出のコメントによる。				
◇ 教科書・参考書	特に指定しないが授業内で適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	授業内で指示する参考文献等で学習を深める。				
その他：この講義はオムニバス形式である。 本学教員による講義のほか、ケア従事者として働く宗教者などをゲストに招いて、さまざまな実践報告をしていただく。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 村上 祐 子	5	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHS204E																				
◆ 授業題目	パズルで学ぶ論理学 (Logic via puzzle)																				
◆ 目的・概要	The course aims to provide introduction to mathematical logic: propositional logic and some first-order logic. The final goal is completeness theorem which will be taught in the winter semester. Successful students will understand logic in a unified way which the author gave brilliantly via logical puzzles. It is not an easy class, however. Students must give solutions by themselves with pier supports.																				
◆ 到達目標	The official language in this class is English. The course aims to introduce mathematical logic via puzzles up to understanding of tableaux method. No prerequisite knowledge is needed, but familiarity with critical thinking, college-level mathematics, or programming will help.																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. Introduction. Puzzles.</td> <td style="width: 50%;">9. Chapter 11-12</td> </tr> <tr> <td>2. Chapters 1-2 Puzzles</td> <td>10. Chapter 13</td> </tr> <tr> <td>3. Chapters 3-5 Puzzles</td> <td>11. Chapter 14</td> </tr> <tr> <td>4. Chapters 6. Review of chapters 1-5.</td> <td>12. Chapter 15</td> </tr> <tr> <td>5. Chapter 7</td> <td>13. Chapter 16</td> </tr> <tr> <td>6. Chapter 7</td> <td>14. Chapter 17</td> </tr> <tr> <td>7. Chapter 8-9</td> <td>15. Wrap-up</td> </tr> <tr> <td>8. Chapter 10</td> <td></td> </tr> </table>					1. Introduction. Puzzles.	9. Chapter 11-12	2. Chapters 1-2 Puzzles	10. Chapter 13	3. Chapters 3-5 Puzzles	11. Chapter 14	4. Chapters 6. Review of chapters 1-5.	12. Chapter 15	5. Chapter 7	13. Chapter 16	6. Chapter 7	14. Chapter 17	7. Chapter 8-9	15. Wrap-up	8. Chapter 10	
1. Introduction. Puzzles.	9. Chapter 11-12																				
2. Chapters 1-2 Puzzles	10. Chapter 13																				
3. Chapters 3-5 Puzzles	11. Chapter 14																				
4. Chapters 6. Review of chapters 1-5.	12. Chapter 15																				
5. Chapter 7	13. Chapter 16																				
6. Chapter 7	14. Chapter 17																				
7. Chapter 8-9	15. Wrap-up																				
8. Chapter 10																					
◇ 成績評価の方法	100%																				
◇ 教科書・参考書	Raymond Smullyan, Logical Labyrinth, Taylor and Francis. ISBN 97815688144																				
◇ 授業時間外学習	日本語訳: スマリヤン「記号論理学」「数理論理学」丸善出版 It is essential to read the textbook and solve exercises before attending classes. Students will need review of concepts and theoretical treatments. This course is also offered as an IPLA course.																				
その他:																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 村上 祐 子	6	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHS204J																				
◆ 授業題目	囲碁を通して知る日本文化 (Japanese culture through go)																				
◆ 目的・概要	There are three sorts of class activities. First of all, students are to learn to play Go. They need to know the rules. Quizzes will examine whether they can write down the rules in an everyday language (either in English or in Japanese). Second, they are to learn strategies and techniques to play Go. Due to class time restriction, the game board in class is limited to the smallest 4 by 4 board, although the strategies are different from those for the full 19 by 19 board. Moreover, there is an iPhone/iPad app, Cho U's 4 by 4 Go Puzzle to help students to practice out of the classroom. They are also expected to play the game in and out of the classroom. Finally, some lecture and discussion on cultural aspects of the game. Proverbs, myths, and historical episodes will be explained. Students are to offer a presentation about cultural influences of a game in their home country.																				
◆ 到達目標	To understand cultural influences of games especially in Japanese culture.																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. Introduction. Some game rules (territory, the winning condition, how to capture stones). Practice games.</td> <td style="width: 50%;">8. Student presentations (3)</td> </tr> <tr> <td>2. Practice games and Introduction to strategy. (1)</td> <td>9. Student presentations (4)</td> </tr> <tr> <td>3. Practice games and Introduction to strategy. (2)</td> <td>10. Games in Japanese society (1)</td> </tr> <tr> <td>4. Practice games and Introduction to strategy. (3)</td> <td>11. Games in Japanese society (2)</td> </tr> <tr> <td>5. Cultural influences of Go in Japan. Strategy (4)</td> <td>12. Games in Japanese society (3)</td> </tr> <tr> <td>6. Student presentations (1)</td> <td>13. Games in Japanese society (4)</td> </tr> <tr> <td>7. Student presentations (2)</td> <td>14. Study visit to Gokaisho.</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. Wrap-up.</td> </tr> </table>					1. Introduction. Some game rules (territory, the winning condition, how to capture stones). Practice games.	8. Student presentations (3)	2. Practice games and Introduction to strategy. (1)	9. Student presentations (4)	3. Practice games and Introduction to strategy. (2)	10. Games in Japanese society (1)	4. Practice games and Introduction to strategy. (3)	11. Games in Japanese society (2)	5. Cultural influences of Go in Japan. Strategy (4)	12. Games in Japanese society (3)	6. Student presentations (1)	13. Games in Japanese society (4)	7. Student presentations (2)	14. Study visit to Gokaisho.		15. Wrap-up.
1. Introduction. Some game rules (territory, the winning condition, how to capture stones). Practice games.	8. Student presentations (3)																				
2. Practice games and Introduction to strategy. (1)	9. Student presentations (4)																				
3. Practice games and Introduction to strategy. (2)	10. Games in Japanese society (1)																				
4. Practice games and Introduction to strategy. (3)	11. Games in Japanese society (2)																				
5. Cultural influences of Go in Japan. Strategy (4)	12. Games in Japanese society (3)																				
6. Student presentations (1)	13. Games in Japanese society (4)																				
7. Student presentations (2)	14. Study visit to Gokaisho.																				
	15. Wrap-up.																				
◇ 成績評価の方法	100%																				
◇ 教科書・参考書	class participation (including student presentations and quizzes). Cho U (Chang Hsu) (2011) Yonro no Go (in Japanese) Gento Sha Educational. ISBN: 978-4-344-97587-3 http://www.gentosha-edu.co.jp/products/post-95.html																				
◇ 授業時間外学習	Optional app: Nihon Kiin. Cho U's 4 by 4 Go Puzzle. (iPhone/iPad app. Available in Japanese, English, Chinese, and Korean) https://itunes.apple.com/app/ri-ben-qi-yuan-zhang-xuno/id517153034?mt=8 To research cultural material about games according to instructions in class.																				
その他: The course is conducted in English as it is also offered as an IPLA course.																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 村上 祐子	5	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHS204B																				
◆ 授業題目	日本社会の問題 (Social issues of Japan)																				
◆ 目的・概要	The course will focus on social and cultural issues in Japan with comparative perspectives. Japanese students are expected to describe cultural characteristics of their home region in English, while international students are to share their own experiences in home country. Instructors will facilitate discussion which follows introductory explanations. The official language is English as Yuko Murakami and Alejandro Angee jointly teach the course.																				
◆ 到達目標	To grasp points of cultural comparison. To realize implicit assumptions in students' ideas of their own culture and society. To get prepared for intercultural communication.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Introduction</td> <td>9. Career-choices and mobility (2)</td> </tr> <tr> <td>2. Gender issues (1)</td> <td>10. Career-choices and mobility (3)</td> </tr> <tr> <td>3. Gender issues (2)</td> <td>11. Family (1)</td> </tr> <tr> <td>4. Gender issues (3)</td> <td>12. Family (2)</td> </tr> <tr> <td>5. Education and social backgrounds (1)</td> <td>13. Family (3)</td> </tr> <tr> <td>6. Education and social backgrounds (2)</td> <td>14. Wrap-up (1)</td> </tr> <tr> <td>7. Education and social backgrounds (3)</td> <td>15. Wrap-up (2)</td> </tr> <tr> <td>8. Career-choices and mobility (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. Introduction	9. Career-choices and mobility (2)	2. Gender issues (1)	10. Career-choices and mobility (3)	3. Gender issues (2)	11. Family (1)	4. Gender issues (3)	12. Family (2)	5. Education and social backgrounds (1)	13. Family (3)	6. Education and social backgrounds (2)	14. Wrap-up (1)	7. Education and social backgrounds (3)	15. Wrap-up (2)	8. Career-choices and mobility (1)	
1. Introduction	9. Career-choices and mobility (2)																				
2. Gender issues (1)	10. Career-choices and mobility (3)																				
3. Gender issues (2)	11. Family (1)																				
4. Gender issues (3)	12. Family (2)																				
5. Education and social backgrounds (1)	13. Family (3)																				
6. Education and social backgrounds (2)	14. Wrap-up (1)																				
7. Education and social backgrounds (3)	15. Wrap-up (2)																				
8. Career-choices and mobility (1)																					
◇ 成績評価の方法	In-class participation 50%, homework 50%																				
◇ 教科書・参考書	Instructed in class.																				
◇ 授業時間外学習	Students are expected to discuss the issues out of the classroom.																				
その他：The course is also offered as an IPLA course.																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 村上 祐子	6	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHS204J																				
◆ 授業題目	日本の生活文化 (Japanese everyday life)																				
◆ 目的・概要	日本人・留学生どちらも歓迎です。自分が海外に留学して生活するとしたら、事前に、また滞在中にどのような情報が欲しいでしょうか？いまそこにある情報で十分でしょうか？逆に海外の方に来てほしいとしたら、何をアピールしたいでしょうか？もう各種メディアで紹介されているいろいろな魅力のほかに、地元にいるからわかっていて教えてあげたい魅力はありませんか？この授業では日常的な情報を外国語で海外に発信するプロジェクトに取り組みます。学内外の魅力について、パンフレットを作成し、プレゼンテーションする演習を行います。留学生の方は日本について自分が欲しかった情報を教えてください。自分の後輩に日本や仙台を紹介するとしたら、どのポイントを選びますか？ また授業時間外に海外からのゲストと話す機会もお知らせしますので、ぜひ参加してください。 使用言語は参加者に応じて日本語と英語のどちらかまたは両方となります。前期との連続履修は可としますが、前期に取り組みなかったトピックを選んでください。 日本語・外国語でのコミュニケーションスキル・プレゼンテーションスキルを磨く。																				
◆ 到達目標																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション。課題1説明。ディスカッション。</td> <td>9. 課題2 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. 課題1 (1)</td> <td>10. 課題2 (3)</td> </tr> <tr> <td>3. 課題1 (2)</td> <td>11. 課題2 発表 (1)</td> </tr> <tr> <td>4. 課題1 (3)</td> <td>12. 課題2 発表 (2)</td> </tr> <tr> <td>5. 課題1 (4)</td> <td>13. 実習1</td> </tr> <tr> <td>6. 課題1 発表 (1)</td> <td>14. 実習2</td> </tr> <tr> <td>7. 課題1 発表 (2)、課題2 説明</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 課題2 (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション。課題1説明。ディスカッション。	9. 課題2 (2)	2. 課題1 (1)	10. 課題2 (3)	3. 課題1 (2)	11. 課題2 発表 (1)	4. 課題1 (3)	12. 課題2 発表 (2)	5. 課題1 (4)	13. 実習1	6. 課題1 発表 (1)	14. 実習2	7. 課題1 発表 (2)、課題2 説明	15. まとめ	8. 課題2 (1)	
1. イントロダクション。課題1説明。ディスカッション。	9. 課題2 (2)																				
2. 課題1 (1)	10. 課題2 (3)																				
3. 課題1 (2)	11. 課題2 発表 (1)																				
4. 課題1 (3)	12. 課題2 発表 (2)																				
5. 課題1 (4)	13. 実習1																				
6. 課題1 発表 (1)	14. 実習2																				
7. 課題1 発表 (2)、課題2 説明	15. まとめ																				
8. 課題2 (1)																					
◇ 成績評価の方法	100%：class participation (including in-class quizzes) 100%：授業参加 (小テストあり)																				
◇ 教科書・参考書	授業内で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	Problems in the textbook will be assigned for homework to prepare for in-class discussion.																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 クレイグ クリストファー	3	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHS204E				
◆ 授業題目	前近代日本の歴史 (Premodern Japanese History)				
◆ 目的・概要	授業は、古代から江戸時代までという期間を中心として、日本の前近代の歴史を紹介する。日本史に関する最近の英語で書かれた文献を紹介して、それを資料として質疑応答などし歴史学の考え方を学ぶ。日本史の英語文献を読み、英語で論文を作成することにより、英語圏のアカデミックな日本史を学ぶだけではなく、英論文作成を学ぶことができる。 This course covers Japanese history from its earliest origins to the founding of the Edo bakufu, with a focus on the country's history as one aspect of world history. Students will read widely from recent English-language historical scholarship and develop their skills as historians and writers through written responses.				
◆ 到達目標	前近代日本史に関する歴史学的な問題や主要な文献を意識する。 英語での歴史学のあり方を理解する。 The primary goal of the class is for students to gain familiarity with the major historical issues connected to premodern Japan and the important works of English-language scholarship on these issues.				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. (Note: Lecture topics may change over the course of the semester) Introduction: Imperial Origins and the Early State 2. Continental Connections 3. The Heian Court and the Fujiwara Regents 4. Property, Peripheries, and Population 5. Heian High Culture 6. Teeth and Claws: The Birth of the Samurai 7. Minamoto and Taira: War Stories 8. The Kamakura Bakufu 9. Medieval Culture 10. Challenges and Decay 11. Smashing the Order: The Muromachi Bakufu 12. Warring States 13. Foreign Encounters 14. The Unifiers 15. The Edo Order 				
◇ 成績評価の方法	2回のリアクション・ペーパー [40%]・最終日のテスト [40%]・出席 [20%] 2 reading response papers [40%], Final exam [40%], Attendance [20%]				
◇ 教科書・参考書	各時間に適宜資料を配布する。 Readings will be distributed for each class.				
◇ 授業時間外学習	各時間の前に適宜資料を読む。 2回資料のリアクション・ペーパーを書く。 Class readings are to be completed before class meetings. 2 reading responses are to be submitted during the semester.				
その他： This class is taught in English. All readings are in English and all assignments and tests are to be submitted in English.					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 クレイグ クリストファー	3	火	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHS204E				
◆ 授業題目	日本史基礎文献講読 (Reading and Translation Fundamentals for Japanese History)				
◆ 目的・概要	Using student reading and translation presentations, this class aims at providing basic skills and practice in reading and translating Japanese academic history writing. Class will consist of reading/translation assignments and in-class presentations and discussion of issues concerning comprehension and translation.				
◆ 到達目標	The purpose of this class is to provide a basis in reading and translation for future work involving academic, particularly historical, works in Japanese.				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. Class introduction 2. Reading and translation presentation 3. Reading and translation presentation 4. Reading and translation presentation 5. Reading and translation presentation 6. Reading and translation presentation 7. Reading and translation presentation 8. Reading and translation presentation 9. Reading and translation presentation 10. Reading and translation presentation 11. Reading and translation presentation 12. Reading and translation presentation 13. Reading and translation presentation 14. Reading and translation presentation 15. Reading and translation presentation 				
◇ 成績評価の方法	Translations and presentations (70%) Written translation assignment (30%)				
◇ 教科書・参考書	安孫子 麟 『宮城県の百年』 山川出版社 1999年 ISBN 9784634270404				
◇ 授業時間外学習	Students are expected to read and translate assigned sections for each class. All students will present their reading and translation in each class meeting. One polished translation is to be submitted for grading.				
その他： Class instruction will be largely in English, but the source material will be in Japanese, making proficiency in both languages necessary.					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 クレイグ クリストファー	4	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHS204E																				
◆ 授業題目	日本文化と社会 (Japanese Culture and Society)																				
◆ 目的・概要	This course is an introduction to the culture and society of modern Japan and to the academic study of culture and society in Japan and elsewhere. By examining a number of topics related to contemporary culture and society, students will be introduced to recent English-language academic literature and the issues that concern social scientists and researchers. Student participation is an important element, and the class will be structured to incorporate the experiences of students in their daily lives in Japan, with student presentations designed to encourage students to apply an academic perspective to their current circumstances.																				
◆ 到達目標	A major goal of this course is to develop a rigorous framework of critical thinking regarding society and culture. We will attempt to demystify the idea of Japan and its culture and problematize many of the essentialist ideas that surround Japanese culture, both inside and outside Japan.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. (Note: Lecture topics may change over the course of the semester)</td> <td>7. Youth, Crime, and Punishment</td> </tr> <tr> <td>Introduction: The Myth of National Culture</td> <td>8. Family Life: Women</td> </tr> <tr> <td>2. Background: Japan since World War 2</td> <td>9. Family Life: Men</td> </tr> <tr> <td>3. Middleness and Disparity: Class in Contemporary Japan</td> <td>10. Self and Other in Japan</td> </tr> <tr> <td>4. Gender and Work</td> <td>11. Invisibility and Minority</td> </tr> <tr> <td>5. The Changing Nature of Employment</td> <td>12. Presentations</td> </tr> <tr> <td>6. Education and Class</td> <td>13. Presentations</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. The Foreign in the Everyday</td> </tr> </table>					1. (Note: Lecture topics may change over the course of the semester)	7. Youth, Crime, and Punishment	Introduction: The Myth of National Culture	8. Family Life: Women	2. Background: Japan since World War 2	9. Family Life: Men	3. Middleness and Disparity: Class in Contemporary Japan	10. Self and Other in Japan	4. Gender and Work	11. Invisibility and Minority	5. The Changing Nature of Employment	12. Presentations	6. Education and Class	13. Presentations		14. The Foreign in the Everyday
1. (Note: Lecture topics may change over the course of the semester)	7. Youth, Crime, and Punishment																				
Introduction: The Myth of National Culture	8. Family Life: Women																				
2. Background: Japan since World War 2	9. Family Life: Men																				
3. Middleness and Disparity: Class in Contemporary Japan	10. Self and Other in Japan																				
4. Gender and Work	11. Invisibility and Minority																				
5. The Changing Nature of Employment	12. Presentations																				
6. Education and Class	13. Presentations																				
	14. The Foreign in the Everyday																				
◇ 成績評価の方法	Presentation [40%], Reading Responses [40%], Attendance [20%]																				
◇ 教科書・参考書	Readings will be distributed for each class.																				
◇ 授業時間外学習	Class readings are to be completed before class meetings.																				
その他: This class is taught in English. All readings are in English and all assignments are to be submitted in English.																					

専修以外の発展科目一覧

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
博 物 館 概 論	博物館概論	2	㊦	岡 部 幹 彦	集 中 (5)			285
博 物 館 経 営 論	体験的学芸員論	2	㊦	井 上 研 一 郎	集 中 (5)			285
博 物 館 資 料 論	博物館資料・標本の特性	2		藤 澤 敦	6	金	1	286
博 物 館 資 料 保 存 論	博物館資料保存の方法と実務	2	㊦	水 澤 教 子	集 中 (5)			286
博 物 館 展 示 論	博物館展示の理論と実践	2	㊦	水 澤 教 子	集 中 (6)			287
博 物 館 情 報 ・ メ デ ィ ア 論	博物館とメディア	2	㊦	清 水 健	集 中 (5)			287
博 物 館 実 習 II	史料整理・保存の理論と方法	2		籠 橋 俊 光	5	金	4・5	288
博 物 館 実 習 III	博物館学資料分析法	2		阿 子 島 喜 香 隆 鹿 又 喜 隆	6	水	3・4	288
博 物 館 実 習 IV	美術作品取り扱いの理論と実践	2		長 岡 龍 作	5	火	3・4	289
博 物 館 実 習 V	西洋美術の基礎知識と調査入門	2		尾 崎 彰 宏 子 芳 賀 京 子	5	火	3・4	289
博 物 館 実 習 VI	館園実習	1		藤 澤 敦	集 中 (5)			290
地 理 学 B	都市地理学からみた仙台	2	㊦	村 山 良 之	5	木	3	290
地 誌 学	都市社会の諸相・諸課題	2	㊦	小 田 隆 史	5	水	1	291
書 道	書表現の基礎(一) (漢字)	2	㊦	下 田 真 奈 美	5	木	4	291
書 道	書表現の基礎(二) (かな)	2	㊦	下 田 真 奈 美	6	木	4	292
日 本 語 ・ 日 本 文 化 論 講 読	古典講読 I	2		高 橋 章 則	5	月	2	292
日 本 語 ・ 日 本 文 化 論 講 読	古典講読 II	2		高 橋 章 則	6	月	2	293
日 本 語 ・ 日 本 文 化 論 講 読	現代評論講読 I	2		高 橋 章 則	5	水	2	293
日 本 語 ・ 日 本 文 化 論 講 読	現代評論講読 II	2		高 橋 章 則	6	水	2	294
日 本 語 ・ 日 本 文 化 論 講 読	日本史基礎文献講読	2		クレイグ クリストファー	6	火	4	294
日 本 語 表 現 論	日本語表現論 I	2		高 橋 章 則	5	木	2	295
日 本 語 表 現 論	日本語表現論 II	2		高 橋 章 則	6	木	2	295

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
博 物 館 概 論 M u s e o l o g y (G e n e r a l L e c t u r e)	2	非常勤 講師 岡 部 幹 彦	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-CUM301J				
◆ 授業題目	博物館概論 (Museology (General Lecture))				
◆ 目的・概要	博物館の目的と機能、歴史と法制度等について学習し、併せて日本の博物館の現状と課題について分析し、学芸員の果たすべき役割を理解する。スライドを用いて講義形式で進行するが、テーマを設け意見を求めるなど、適宜対話形式をとる。実物資料を用いるほか、内外の事例に関する映像等を数多く紹介する。				
◆ 到達目標	博物館の社会的存在意義と本質的な機能を理解し、これからの博物館活動の方向性を考えるうえで必要な基礎的な知識を修得する。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス 博物館の歴史 (1) 2. 博物館の歴史 (2) 日本の博物館史—内国勸業博覧会とその後— 3. 統計資料にみる博物館像—日本の博物館の典型的な姿と課題— 4. 博物館の定義—博物館法とICOMの定義にみるモノ・コト・ヒトと環境— 5. 観覧と情報提供—モノを観る行為の本質と情報の提供— 6. 博物館の機能とモノ・コト・ヒト—展示と教育を中心に— 7. 博物館の機能と資料保存—博物館資料と地域資料—	8. 博物館の機能と教育・学習 (1) —博物館における自由な学び— 9. 博物館の機能と教育・学習 (2) —学びの契機と学びのサポート— 10. 地域博物館—運動体の核としての博物館— 11. 地域博物館—実践事例に学ぶ— 12. 博物館資料とメディア —ICT とデジタルアーカイブズ— 13. 博物館と法令 (1) —博物館法・文化財保護法と関係法令— 14. 博物館と法令 (2) —著作権・情報公開・個人情報— 15. まとめ—学芸員の役割—			
◇ 成績評価の方法	授業への取り組み姿勢とレポートにより総合的に評価する。				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。プリントを配布または参考図書に適宜示す。				
◇ 授業時間外学習	多くの博物館・美術館のウェブサイトを見、身近な博物館・美術館を訪れて館案内リーフレットや展示リスト、事業案内 (参加募集チラシ) 等を入手し、少なくとも利用者として博物館・美術館を理解しておくこと。また、特別展 (企画展) や常設展を観覧して、展示テーマや展示構成、展示方法、展示設備等と、観覧者の反応などを観察すること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
博 物 館 経 営 論 M u s e u m a d m i n i s t r a t i o n	2	非常勤 講師 井 上 研 一 郎	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-CUM302J				
◆ 授業題目	体験的学芸員論 (An experiential curator's theory)				
◆ 目的・概要	「経営」とは、組織を管理・運営することである。「経営」は社長や館長だけの仕事ではない。組織の構成員全体が、分担している業務に自覚を持って臨まなければ組織の存続・発展は危うい。 博物館の学芸員にも、当然ながら専門的な知識だけでなく、博物館を管理・運営する能力が求められる。この講義では、博物館経営に関して学芸員として基本的に身に付けておくことが望ましい能力とはなにか、さまざまな事例を通して具体的に紹介する。				
◆ 到達目標	*毎回、画像や録画映像により全国各地の主要ミュージアム、ユニークな施設等の紹介を行う。 博物館という組織がさまざまな職種の職員によって構成され、有機的なつながりの中で活動していること、また地域社会の中で学校教育とともに重要な教育的機能を果たしているだけでなく共同体意識の醸成に欠かせない機能をもっていることを理解し、そのなかで学芸員が果たすべき役割について具体的に理解することをめざす。				
◆ 授業内容・方法	1. オリエンテーション—こんな博物館、あんな博物館 2. 博物館という怪物 (1) —博物館にはどんな人が働いているか 3. 博物館という怪物 (2) —博物館はどんな機能が必要とするか 4. 博物館という怪物 (3) —博物館はどれくらいカネを必要とするか 5. 展覧会という虚構 (1) —展覧会はどのように企画されるか 6. 展覧会という虚構 (2) —展覧会はどのように準備されるか 7. 展覧会という虚構 (3) —展覧会にはどれだけカネと労力が必要か 8. 博物館の使命と評価 —博物館は何をめざすのか、何を評価するのか	9. 博物館の危機管理 —博物館が守るべきは、モノか、ヒトか、組織か 10. ミュージアムショップとレストラン—もはやついたりではない 11. 地域社会と博物館 —博物館はコミュニティの中核になれるか 12. 市民との連携 —友の会/ボランティアは肩代わり組織か 13. 博物館の運営形態 —博物館の方針は誰が決めるのか 14. 博物館のネットワーク —もはや孤立はありえない 15. まとめ —博物館はどこへ行くのか			
◇ 成績評価の方法	毎回ワークシートに記入された感想、質問により学習内容に対する関心、意欲の深化を判定する。(50%) 最終レポート (50%) を含めて総合的に評価する。				
◇ 教科書・参考書	(参考書として) 木下史青『博物館へ行こう』岩波ジュニア新書 840円+税 草薙奈津子『美術館へ行こう』岩波ジュニア新書 820円+税				
◇ 授業時間外学習	必修展覧会の観覧： 講義期間中およびその前後に仙台市内および近辺で開催される展覧会のいくつかを指定するので、各自観覧すること。 観覧した展覧会について簡単なレポートを提出すれば、総合評価に適宜加算する。詳細は教室で指示する。				
その他：少なくとも「博物館概論」「博物館教育論」を先に履修しておくことが望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
博 物 館 資 料 論 M u s e u m a r t i f a c t s	2	教授 藤 澤 敦	6	金	1
◆ 科目ナンバリング	LHM-CUM303J				
◆ 授業題目	博物館資料・標本の特性 (The characteristic of the various museum collections)				
◆ 目的・概要	博物館の資料・標本には、多様な分野のものがあり、それぞれで特性が異なっている。その特性の違いに応じて、資料の収集と整理保管等の取り扱いの考え方や方法、調査研究の方法も異なっている。本講義では、古生物・考古・美術史等の各分野の資料標本について、3人の教員が各専門分野から、博物館資料としての特性を講義する。				
◆ 到達目標	博物館資料の多様性について理解する。博物館の資料としての、古生物・考古・美術史等の各分野の資料標本の特性について理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要と進め方の説明および導入 2. 博物館法における博物館資料 3. 考古資料の種類と特質 4. 考古学陳列館見学 5. 考古資料の収集と管理 6. 地学系の博物館資料 (1) 7. 地学系の博物館資料 (2) 8. 地学系の博物館資料 (3) 9. 地学系の博物館資料 (4) 10. 美術資料研究の歴史 一江戸時代以前 11. 美術資料研究の歴史 一明治時代 12. 美術資料研究 一仏像について 13. 東日本大震災と博物館資料 14. 広がる博物館資料 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	筆記試験と出席				
◇ 教科書・参考書	プリント資料を随時配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。				
◇ 授業時間外学習	前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
博 物 館 資 料 保 存 論 M u s e u m p r e s e r v a t i o n	2	非常勤講師 水 澤 教 子	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-CUM304J				
◆ 授業題目	博物館資料保存の方法と実務 (Method and Technique of Museum Preservation)				
◆ 目的・概要	博物館における資料保存の学史を通してその意義を理解する。また、博物館資料について素材別に適切な保存を行うための知識を身につけ、その方法と技術を学ぶ。さらに守り伝えられた資料によって広がる世界を実感し、調査研究や普及公開への道筋を把握する。特に歴史資料に関し、事前の科学分析、脆弱遺物を対象にした手仕事での保存処理、優先順位をつけての修復、保管方法と保管環境への配慮、展示という学芸員の一連の取り組みの例示や、作業におけるエピソードを通じて、資料保存に対する博物館学芸員としての基本的な知識や技術と特に留意すべき点を、具体的かつ実践的に修得する。				
◆ 到達目標	博物館における資料ならびにその展示環境、収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための基礎的知識の修得をめざし、あわせて資料保存のための能力を養う。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「資料保存の哲学」：博物館学における資料保存論の位置づけと博物館で資料を保存する意義を理解する。 2. 「博物館資料としての文化財」：博物館資料と文化財の定義と内容をジャンル別に把握する。文化財の体系と文化財保護法、エコミュージアムや自然環境の保護への取り組みの状況を理解する。 3. 「資料保存の学史と災害対策」：資料保存の学史を、博物館の設立、各種法律の制定、学問としての保存科学の発展の3側面から学ぶ。また、各種災害への対策を実例を通して理解する。 4. 「資料保存の諸条件」：資料劣化の原因となる温湿度、光、室内汚染について、その現状と対策の具体的な方法を、博物館における事例から学ぶ。 5. 「くん蒸とIPM」：博物館における生物被害の実態を整理し、ガスくん蒸とその方法並びに環境上の影響からここ10年の中で導入されたIPMの具体的な方法と今後の可能性について学ぶ。 6. 「資料の梱包と安全な輸送」：資料を安全に運搬するための形態別・素材別梱包方法を会得する。輸送のための留意点や、立ち会いの方法等について学習する。 7. 「金属製品の状態調査」：金属製品の構造や劣化状態の調査方法として主にX線透過撮影、分析SEMによる元素分析を取り上げる。分析機器の原理、構造調査等の方法、またその結果確認できる歴史的事実、そしてそれを公開する方法と意義について整理する。 8. 「展示室の環境と資料保存」：博物館を訪問して展示室と収蔵庫の環境保全の工夫について具体的に見学し、理解を深める。 9. 「保存科学と修理」：博物館の機器を用いての、保存処理と修理の実践的な方法について具体的に見学し、より深く学習する。 10. 「地域資源の保護と活用」：有形文化財のうち建造物、並びに史跡、名勝、天然記念物の保護の歴史を学び、その必要や活用の方向性を考察する。 11. 「無機質遺物の保存科学」：土器・石器・金属器・ガラス等の出土時の応急処置方法及び恒久的な保存処理方法、博物館で劣化が発生した場合の処置方法についての詳細、さらに保存処理が完了した資料を取り扱う場合の注意点を整理する。 12. 「木製品の科学的調査」：資料の保存処理の事前分析として科学的調査が必要である。特に木質遺物や漆文書等の赤外線調査は歴史的な情報の抽出方法としても重要であり、その原理と技術、具体的な事例を取り上げ、実例をもとに解説する。 13. 「木製品の保存科学」：木製品・種実類・漆製品など有機質遺物の保存処理方法を具体的に紹介し、保存処理が完了した博物館資料に劣化が起こった場合の処置方法や、劣化を引き起こさないための資料の取り扱い上の注意点、保管方法を整理する。 14. 「土器・土製品の理化学分析」：土器の胎土分析は、素材調査と考古資料としての産地推定の両方の目的をもっている。本講では砂の光学顕微鏡分析と粘土の化学組成分析を組み合わせて実践される方法を詳細に解説し、博物館での具体的な分析・展示事例として紹介する。 15. 「文化財を未来へ伝える意義の確認と試験」：博物館における資料保存の意義を理解する。 				
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験 [40%]・(○) 出席 [60%]				
◇ 教科書・参考書	プリント資料を随時配布する。また参考文献について講義中に指示する。				
◇ 授業時間外学習	予習として事前に可能な範囲で博物館や美術館を訪問し、自分なりの博物館のイメージを作る。復習として木製品、金属製品などを展示している博物館を訪問し、資料の状態や展示の方法等授業で学んだ点に留意して確認してみる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
博 物 館 展 示 論 Museum exhibit planning and design	2	非常勤 講師 水 澤 教 子	集 中 (6)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHM-CUM305J 博物館展示の理論と実践 (Theory and Practice of Museum Exhibit) 展示は、博物館が収集・整理・保存して蓄積した資料を学際的な領域から調査研究して情報を引き出し、学術的かつ教育的な配慮のもとに、一般に広く公開することであり、博物館活動の要である。そして展示に込めた学芸員や博物館のメッセージは学術的にも社会的にも恩恵を与えるものでなければならない。本科目では、様々な展示の形態や歴史を知るとともに、展示の理論や方法論を把握し、さらに資料から展示を組み立てるにあたっての具体的な技術を修得することを目的とする。また、展示そのもの以外にも展示を構成する博物館での様々な取り組みを、実践例をもとに具体的に整理しながら紹介し、自主的に考え、実践できるような能力を養成する。				
◆ 到達目標	展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を修得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養う。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「博物館と展示」：博物館の分類・種類を確認し、それぞれの意義や役割どのような展示が行われてきたかを実例をもとに概観する。特に総合博物館、自然史博物館、歴史博物館、美術館の代表例を取り上げる。 2. 「展示と展示論の歴史」：ディスプレイとしての展示と展示論の学史を具体例を参考にしながら学ぶ。また日本の博物館の歴史を展示の視点から整理するとともに、明治時代以来展示の目的と理念がどのように考えられ説明されてきたかを概観する。 3. 「展示の諸形態」：展示の形態に関して、展示意図の有無、提示型と説示型、見学者の参加の有無、学術的な視座など12種類の分類について学ぶ。さらに第一、第二、第三世代の展示の進化形態を実例に即して整理する。 4. 「展示の政治性と社会性」：博物館の展示が社会教育、生涯教育と深く関係する事例として、第一に戦争と展示、第二に民族と展示を具体的に取り上げて解説する。 5. 「展示の製作」：展示の構想、基本設計、実施設計から完成までの流れを把握する。タイトル、期間設定、資料選定、動線・視線といった展示の基本的な事項と、実際の作業・工程管理の重要性について認識を深める。 6. 「展示の実務」：展示ケース、各種演具など展示のための設備や造形物(模型、複製、ジオラマ)についてその分類や特徴を捉える。また、情報の伝達装置として解説パネル、キャプションの製作方法や、より効果的に見せるための調光方法について整理する。 7. 「展示解説Ⅰ－パネルとグラフィック」：文字パネルによる文章解説や音声解説、画像を重視したグラフィックパネルや機器による解説について整理する。また、来館者に対するよりよい解説方法について学習する。 8. 「展示解説Ⅱ－展示図録」：展示図録の意義をおさえ、その作成プロセスと印刷方法、メディアの使用法、校正の流れ等を具体的に講義するとともに、最近の展示図録のうち代表的な事例を紹介する。また、指定文化財の掲載公開に関する注意点についても触れる。 9. 「展示解説Ⅲ－人による解説」：学芸員による口頭での解説の種類を知り、より効果的な解説を行うための注意点を抑え、具体的な解説事例から学ぶ。また、ミュージアムワークシートの活用方法やその意義を捉える。 10. 「展示の評価と改善更新」：博物館評価について、博物館が主体的に実施する自己評価、外部評価、第三者評価、そして博物館の設置者が行う評価について、具体例を交えて解説する。 11. 「展示環境と動線計画」：具体的に展示を見ながら来館者の動きと動線の関係、照明の使用法を確認する。展示物により興味を持たせるためのワークシートやアンケートを作成し、学芸員の活動を体験する。 12. 「資料整理と展示」：アーカイブスの整理方法と展示方法に関する具体例を見学し、より分かり易く知的欲求を満たす展示について考察を深める。 13. 「調査研究の成果としての展示」：資料を調査・研究し、そこから引き出された事実を蓄積して展示を構築していく説示型展示の具体的実践例を紹介。展示の役割と重要性、市民への還元の様相を把握する。 14. 「コミュニケーションとしての展示」：展示への理解をより深めてもらうための具体的な取り組みの工夫、来館者とのコミュニケーションの実践例について学習する。 15. 「展示の意義および試験」：博物館における展示の意義を理解する。 				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	(○) 筆記試験 [40%]・(○) 出席 [60%] プリント資料を随時配布する。また参考文献については講義中に指示する。 予習として事前に可能な範囲で博物館や美術館を訪問し、自分なりの博物館のイメージを作る。 復習として授業で学んだ点を博物館を訪問して確認してみる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
博 物 館 情 報 ・ メ デ ィ ア 論 Museum informatics and media practices	2	非常勤 講師 清 水 健	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHM-CUM306J 博物館とメディア (The relation between museum and media) 高度に情報化が進む現代社会において、博物館の意義やその置かれた位置も変化を迎えている。博物館における情報化、メディアとの関係、情報の作成・発信・管理の実際、展覧会とメディアとの関係について、奈良国立博物館における事例をもとに講義する。また博物館における情報発信の方法について学び、実習を通じて基礎技術を習得する。実際の博物館を訪れ、博物館をめぐる情報環境、博物館における情報発信の取り組みについて学ぶ。				
◆ 到達目標	博物館をとりまく情報環境、今日における博物館とメディアとの関係について理解し、知識を身につける。高度情報化社会における博物館の位置づけと博物館をとりまく課題について考察する手掛りを身につける。博物館における情報発信の方法と基礎技術を習得する。博物館とメディアの関係について課題を発見する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. [総論] 博物館とメディア 3. 奈良国立博物館におけるメディアと情報化 4. 博物館における情報の作成 5. 博物館における情報の作成技術と方法 6. [実習] 作品調査の実践と題箋の作成 (1) 7. [実習] 作品調査の実践と題箋の作成 (2) 8. 博物館における情報の発信 9. 博物館における情報管理 10. 展覧会とメディア 11. 正倉院展のメディア活用 (1) 12. 正倉院展のメディア活用 (2) 13. [臨地講義] 近隣の博物館の現状 14. [臨地講義] 近隣の博物館の現状 15. 総括と展望 				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	出席点 10% 講義中に与える課題 20% レポート 70% 講義中に適宜紹介する。 講義中に与える課題及びレポート作成に関して、参考文献を参照するなどして各自主体的に取り組むこと。博物館等の施設を複数訪問し、各自現状の把握と理解に取り組むこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
博 物 館 実 習 Museology (FieldWorkMethodology) II	2	准教授 籠 橋 俊 光	5	金	4・5
◆ 科目ナンバリング	LHM-CUM307J				
◆ 授業題目	史料整理・保存の理論と方法 (Document Organization and Preservation: Purpose and Methods)				
◆ 目的・概要	歴史学は、史料の内容を理解することに大きな比重を置く学問である。しかし、その一方で史料はモノとしての側面も持っている。文字・画像の情報だけではなく、史料そのものを永く保存し、人類共有の文化遺産として後世に伝えなければならない。そのためには史料の特質や史料群の構造を理解し、史料そのものを正しく取り扱い、適切に保存していく理論と方法を学ぶ必要がある。この講義では、史料の保存・活用のための学問であるアーカイブズ学についてその基礎を学ぶ。さらにそれをもとにして、博物館・図書館などとの機能の相違や、実物史料の取り扱い方、史料の撮影や目録編成の理論などについて学んでいく。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れることがあるので、特に丁寧な取り扱いを心がけてほしい。				
◆ 到達目標	史料保存の意義と理論・方法について理解し、史料の調査・整理・保存に関する基礎的知識を習得する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・史料保存の意義と意味 (1) 2. 史料保存の意義と意味 (2) 3. 文書館・図書館・博物館-史料保存機関の性格と特色- 4. アーカイブズの理論 (1) 5. アーカイブズの理論 (2) 6. 史料調査・整理の実際 7. 目録論 8. 目録作成の技術 (1) 9. 目録作成の技術 (2) 10. 歴史資料の取り扱いとその実践 11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際 12. マイクロフィルム・カメラの取り扱い 13. フィールド実習 14. 史料整理の基礎 (1) 15. 史料整理の基礎 (2) 				
◇ 成績評価の方法	出席 [30%]・受講態度 [20%]・レポート [50%]				
◇ 教科書・参考書	随時プリントを配布する。参考書：安藤正人・大藤修『史料保存と文書館学』（吉川弘文館）。				
◇ 授業時間外学習	特になし。				
<p>本講義の理論・技術をもとにした実践的な訓練を積むために、可能な限り日本史実習・史料管理学Ⅱ「史料整理実習」（後期開講）と その他：連続して受講すること。 オフィスアワー 火曜日 16：20～17：50（要予約）</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
博 物 館 実 習 Museology (FieldWorkMethodology) III	2	教授 阿子島 香 准教授 鹿 又 喜 隆	6	水	3・4
◆ 科目ナンバリング	LHM-CUM308J				
◆ 授業題目	博物館学資料分析法 (Field Work and Methodology on Museology)				
◆ 目的・概要	実際の遺跡発掘調査による資料の整理と分析作業を通して、考古学における遺跡調査法、資料分析法の基礎を学ぶ。資料に対する観察眼を養い、遺跡・遺物の調査研究を進めていくために必要な実技を修得する。遺物の特徴に応じた写真撮影の方法を実習する。資料保存・修復の作業実習も行う。また、発掘技術、測量作業、記録法などの実際を学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。相当量の宿題あり。				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1)考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。 (2)共同研究の意義について、理解できるようになる。 (3)考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。 (4)発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発掘調査で出土した資料と図面類の整理 (1)。 2. 発掘調査で出土した資料と図面類の整理 (2)。 3. 遺物の観察・記録と図化 (1)。 4. 遺物の観察・記録と図化 (2)。 5. 遺物の観察・記録と図化 (3)。 6. 遺物の観察・記録と図化 (4)。 7. 製図・トレース・レイアウトの作成 (1)。 8. 製図・トレース・レイアウトの作成 (2)。 9. 製図・トレース・レイアウトの作成 (3)。 10. 写真撮影 (1)。 11. 写真撮影 (2)。 12. 写真撮影 (3)。 13. 保存処理に関する研修。 14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集作業 (1)。 15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集作業 (2)。 				
◇ 成績評価の方法	(○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%] (○) その他 (具体的には、受講態度、発掘調査等への積極的な取り組み) [30%]				
◇ 教科書・参考書	教室にて指示。				
◇ 授業時間外学習	実測図の作成などの宿題が相当量ある。				
<p>その他：前期に考古学実習を履修していることが望ましい。</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
博 物 館 実 習 Museology (FieldWorkMethodology) IV	2	教授 長岡龍作	5	火	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-CUM309J																				
◆ 授業題目	美術作品取り扱いの理論と実践 (Theory and practice of handling art works)																				
◆ 目的・概要	美術をめぐる活動のうち、作品調査の基礎的な技術と展示についての考え方を理解するため、授業は以下の内容で進める。 1. 美術作品についての口頭発表と写真資料の複写 2. 美術作品の調査と取り扱い 3. 美術作品展示の方法と実践																				
◆ 到達目標	美術をめぐる基礎的な技術を習得する																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 美術作品の調査と取り扱い 2</td> </tr> <tr> <td>2. 美術作品についての口頭発表の方法と実践</td> <td>10. 美術作品の調査と取り扱い 3</td> </tr> <tr> <td>3. 写真資料の複写の方法と実践</td> <td>11. 美術作品の調査と取り扱い 4</td> </tr> <tr> <td>4. 美術作品についての口頭発表準備と写真資料の複写</td> <td>12. 博物館展示の方法と実践</td> </tr> <tr> <td>5. 美術作品についての口頭発表準備と写真資料の複写</td> <td>13. 博物館展示の方法と実践</td> </tr> <tr> <td>6. 美術作品についての口頭発表準備と写真資料の複写</td> <td>14. 博物館展示の方法と実践</td> </tr> <tr> <td>7. 美術作品についての口頭発表</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 美術作品の調査と取り扱い 1</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 美術作品の調査と取り扱い 2	2. 美術作品についての口頭発表の方法と実践	10. 美術作品の調査と取り扱い 3	3. 写真資料の複写の方法と実践	11. 美術作品の調査と取り扱い 4	4. 美術作品についての口頭発表準備と写真資料の複写	12. 博物館展示の方法と実践	5. 美術作品についての口頭発表準備と写真資料の複写	13. 博物館展示の方法と実践	6. 美術作品についての口頭発表準備と写真資料の複写	14. 博物館展示の方法と実践	7. 美術作品についての口頭発表	15. まとめ	8. 美術作品の調査と取り扱い 1	
1. イントロダクション	9. 美術作品の調査と取り扱い 2																				
2. 美術作品についての口頭発表の方法と実践	10. 美術作品の調査と取り扱い 3																				
3. 写真資料の複写の方法と実践	11. 美術作品の調査と取り扱い 4																				
4. 美術作品についての口頭発表準備と写真資料の複写	12. 博物館展示の方法と実践																				
5. 美術作品についての口頭発表準備と写真資料の複写	13. 博物館展示の方法と実践																				
6. 美術作品についての口頭発表準備と写真資料の複写	14. 博物館展示の方法と実践																				
7. 美術作品についての口頭発表	15. まとめ																				
8. 美術作品の調査と取り扱い 1																					
◇ 成績評価の方法	出席 [80%]・授業態度 [20%]																				
◇ 教科書・参考書	資料はその都度配布する。																				
◇ 授業時間外学習	展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。																				
その他：オフィスアワー：月・火・金の13：00～17：00 (但し、授業時間外)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
博 物 館 実 習 Museology (FieldWorkMethodology) V	2	教授 尾崎彰宏 准教授 芳賀京子	5	火	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-CUM310J																				
◆ 授業題目	西洋美術の基礎知識と調査入門 (Basic Understanding of Western Art History and Introduction to its Research Methodology)																				
◆ 目的・概要	西洋美術分野の基礎知識を身につけるとともに、美術作品の調査法を身につける。同時に博物館・美術館をいくつか見学し、展示法などについて考える。																				
◆ 到達目標	西洋美術史 (古代～中世) について、最低限の知識を身につける。美術作品の作品記述、写真撮影、カタログ化などをひととおり自分で行えるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス、ディスクリプション説明</td> <td>8. 小テスト、西洋美術史発表 ④ (ローマ美術)</td> </tr> <tr> <td>2. レポート (ディスクリプション) 提出 宮城県美術館見学 (ルノワール展)</td> <td>9. 小テスト、西洋美術史発表 ⑤ (古代末期/初期中世美術) カメラ説明</td> </tr> <tr> <td>3. 展覧会評の発表、レポート提出 パワーポイントの使い方</td> <td>10. 小テスト、西洋美術史発表 ⑥ (ビザンチン美術) 撮影練習 (石膏像、油彩画)</td> </tr> <tr> <td>4. パワーポイント発表、レポート提出 東北歴史博物館見学 (ラスコー展)</td> <td>11. 小テスト、西洋美術史発表 ⑦ (ロマネスク美術) 撮影練習 (ブロンズ像)</td> </tr> <tr> <td>5. 展覧会評の発表、レポート提出 西洋美術史発表 ① (エーゲ文明)</td> <td>12. 小テスト、西洋美術史発表 ⑧ (ロマネスク美術) 写真撮影講評</td> </tr> <tr> <td>6. *以下は、平成29年度の特別展開催予定が公表されてから決めるため、未定。詳細は最初の授業で伝えます。 小テスト、西洋美術史発表 ② (ギリシア美術)</td> <td>13. 美術館見学 (日程は未定)</td> </tr> <tr> <td>7. 小テスト、西洋美術史発表 ③ (エトルリア美術)</td> <td>14. 美術館見学 (日程は未定)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 美術館見学 (日程は未定)</td> </tr> </table>					1. ガイダンス、ディスクリプション説明	8. 小テスト、西洋美術史発表 ④ (ローマ美術)	2. レポート (ディスクリプション) 提出 宮城県美術館見学 (ルノワール展)	9. 小テスト、西洋美術史発表 ⑤ (古代末期/初期中世美術) カメラ説明	3. 展覧会評の発表、レポート提出 パワーポイントの使い方	10. 小テスト、西洋美術史発表 ⑥ (ビザンチン美術) 撮影練習 (石膏像、油彩画)	4. パワーポイント発表、レポート提出 東北歴史博物館見学 (ラスコー展)	11. 小テスト、西洋美術史発表 ⑦ (ロマネスク美術) 撮影練習 (ブロンズ像)	5. 展覧会評の発表、レポート提出 西洋美術史発表 ① (エーゲ文明)	12. 小テスト、西洋美術史発表 ⑧ (ロマネスク美術) 写真撮影講評	6. *以下は、平成29年度の特別展開催予定が公表されてから決めるため、未定。詳細は最初の授業で伝えます。 小テスト、西洋美術史発表 ② (ギリシア美術)	13. 美術館見学 (日程は未定)	7. 小テスト、西洋美術史発表 ③ (エトルリア美術)	14. 美術館見学 (日程は未定)		15. 美術館見学 (日程は未定)
1. ガイダンス、ディスクリプション説明	8. 小テスト、西洋美術史発表 ④ (ローマ美術)																				
2. レポート (ディスクリプション) 提出 宮城県美術館見学 (ルノワール展)	9. 小テスト、西洋美術史発表 ⑤ (古代末期/初期中世美術) カメラ説明																				
3. 展覧会評の発表、レポート提出 パワーポイントの使い方	10. 小テスト、西洋美術史発表 ⑥ (ビザンチン美術) 撮影練習 (石膏像、油彩画)																				
4. パワーポイント発表、レポート提出 東北歴史博物館見学 (ラスコー展)	11. 小テスト、西洋美術史発表 ⑦ (ロマネスク美術) 撮影練習 (ブロンズ像)																				
5. 展覧会評の発表、レポート提出 西洋美術史発表 ① (エーゲ文明)	12. 小テスト、西洋美術史発表 ⑧ (ロマネスク美術) 写真撮影講評																				
6. *以下は、平成29年度の特別展開催予定が公表されてから決めるため、未定。詳細は最初の授業で伝えます。 小テスト、西洋美術史発表 ② (ギリシア美術)	13. 美術館見学 (日程は未定)																				
7. 小テスト、西洋美術史発表 ③ (エトルリア美術)	14. 美術館見学 (日程は未定)																				
	15. 美術館見学 (日程は未定)																				
◇ 成績評価の方法	授業への参加・貢献 (30%)、小テスト (20%)、小レポート (20%)、発表 (30%)																				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示します。																				
◇ 授業時間外学習	発表はしっかり準備すること。美術館・博物館見学の前に、あらかじめ自分で下調べしてください。見学の次の授業でレポートを提出してもらいます。西洋美術分野の基礎知識については、発表の次の授業で小テストを行います。																				
その他：美術館・博物館の特別展入場料のほか、一度は他県美術館の見学もおこなう予定ですので、その旅費が必要となります。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
博 物 館 実 習 Museology (FieldWorkMethodology) VI	1	教授 藤 澤 敦	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-CUM311J				
◆ 授業題目	館園実習 (Museum training at Tohoku university museum, archives and botanical garden)				
◆ 目的・概要	博物館の資料・標本類について調査・収集から展示までの作業方法を、本学に付設する植物園、史料館、自然史標本館において実習する。本学が収蔵する古生物学、鉱物学、植物学、歴史学、考古学の資料・標本類の特性を理解し、各館園での作業を行う。履修希望者の専攻分野に応じて、実習を行う館園を割り振り、より実践的な実習となるようにする。				
◆ 到達目標	博物館における資料・標本類の収集から展示までの実務作業を体験し習得する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体での進め方の説明と担当館園の割り振り 2. 展示見学 3. 収蔵庫見学と収蔵方法・収蔵状況の学習 4. 各種データの管理方法とWEBでのデータベース等の公開状況の学習 5. 収蔵資料の管理についての作業体験 6. 小グループごとでの展示案作成と展示作成作業についての説明と小グループごとのテーマ設定 7. 小グループでの展示案作成 (1) 8. 小グループでの展示案作成 (2) 9. 小グループでの展示案作成 (3) 10. 展示案の発表と検討会 (1) 11. 展示案の発表と検討会 (2) 12. 展示作成作業 (1) 13. 展示作成作業 (2) 14. 展示作成作業 (3) 15. 作成した展示の発表と講評 				
◇ 成績評価の方法	出席 [80%]、受講態度 [20%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。必要な資料は適宜配布する。				
◇ 授業時間外学習	実習のため、前回授業の内容を踏まえて、次の授業での作業が進行する。前回の授業で行った作業を確認し、次の授業に備えること。				
その他：学術資源研究公開センター（総合学術博物館、植物園、史料館）の教員スタッフがこの館園実習を担当する。授業実施期間以前に、事前のガイダンスを行う場合があるため、掲示に注意すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
地 理 学 G e o g r a p h y	B B 2	非常勤講師 村 山 良 之	5	木	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-GEO302J				
◆ 授業題目	都市地理学からみた仙台 (Sendai: as a field of urban geography)				
◆ 目的・概要	都市の成立、立地と機能、都市の内部構造などをめぐる都市地理学とその周辺諸科学の成果や基礎的な理論を理解する。あわせて、主たる素材となる仙台についての基本的な情報を獲得する。				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・都市地理学に関する基礎的な知識を獲得し、これを説明できるようになる。 ・仙台に関する都市地理学的知識を獲得し、仙台を案内できるようになる。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：高校までの「地理」と地理行列 2. 城下町とその変容 (1)：近世城下町の成立とその地理的特徴 (地形利用と空間構成) 3. 城下町とその変容 (2)：城下町仙臺の地理的特徴 4. 城下町とその変容 (3)：明治以降の城下町の変化 5. 城下町とその変容 (4)：戦災復興 6. 都市と交通 (1)：交通の発達と都市域の拡大および都市内部構造の変容 7. 都市と交通 (2)：都市交通問題と世界のLRT 8. 市街地の拡大とDID：町村合併と国勢調査 9. 都市周辺の宅地開発 (1)：仙台都市圏 10. 都市周辺の宅地開発 (2)：宅地開発と自然災害 11. 都市の内部構造：因子生態研究 12. 都市の順位・規模法則：明治以降の日本の最上位都市群の変化 13. 中心地理論：クリスタラーによる都市分布の説明 14. 中枢管理機能と都市システム：日本の都市システム 15. 中枢管理機能と都市システム：世界都市仮説と東京 				
◇ 成績評価の方法	複数回のレポート、100%				
◇ 教科書・参考書	藤井正・神谷浩夫編『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房、2014年。 他にも授業中に紹介する。				
◇ 授業時間外学習	オフィスアワーは、授業終了後に予約。				
その他：受講生は「都市地理学からみた仙台」の未履修者のこと。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
地 誌 学 T o p o g r a p h y	2	非常勤 講師 小 田 隆 史	5	水	1																
◆ 科目ナンバリング	LHM-GEO303J																				
◆ 授業題目	都市社会の諸相・諸課題 (Multiple Aspects and Challenges in Urban Societies)																				
◆ 目的・概要	地誌学の役割は人間の居住様式の多様性を地域性として説明するところにある。この授業では、日本、先進国、発展途上国の都市社会を事例に、グローバリゼーションの影響を受けながら諸都市が直面するローカル／グローバルな課題と、その解決に向けた取り組みやその効果について理解を深めることを目的とする。																				
◆ 到達目標	都市社会の諸相・諸課題に関する学習を通して地誌学的思考を身につけ、国内外の事例から、都市が直面する課題や解決に向けた取組などについての知識を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 地誌学とは－地誌と地域研究</td> <td>9. アメリカ地誌概説～その2</td> </tr> <tr> <td>2. 地理学と空間概念</td> <td>10. インナーシティと都市における多重剥奪</td> </tr> <tr> <td>3. 世界都市論</td> <td>11. 移民・難民・エスニック集団と空間</td> </tr> <tr> <td>4. 先進国の都市化</td> <td>12. 越境する人々の地誌～その1 難民の発生と再定住</td> </tr> <tr> <td>5. 発展途上国の都市化</td> <td>12. 越境する人々の地誌～その1 難民の発生と再定住</td> </tr> <tr> <td>6. ローカルとグローバル～「時間・空間の圧縮」の諸相</td> <td>13. 越境する人々の地誌～その2 日系アメリカ人コミュニティ</td> </tr> <tr> <td>7. 発展途上国のコミュニティ開発～災害復興と防災</td> <td>14. 場所の記憶と地誌?震災体験のアーカイブ</td> </tr> <tr> <td>8. アメリカ地誌概説～その1</td> <td>15. 総括・振り返り・授業内テスト</td> </tr> </table>					1. 地誌学とは－地誌と地域研究	9. アメリカ地誌概説～その2	2. 地理学と空間概念	10. インナーシティと都市における多重剥奪	3. 世界都市論	11. 移民・難民・エスニック集団と空間	4. 先進国の都市化	12. 越境する人々の地誌～その1 難民の発生と再定住	5. 発展途上国の都市化	12. 越境する人々の地誌～その1 難民の発生と再定住	6. ローカルとグローバル～「時間・空間の圧縮」の諸相	13. 越境する人々の地誌～その2 日系アメリカ人コミュニティ	7. 発展途上国のコミュニティ開発～災害復興と防災	14. 場所の記憶と地誌?震災体験のアーカイブ	8. アメリカ地誌概説～その1	15. 総括・振り返り・授業内テスト
1. 地誌学とは－地誌と地域研究	9. アメリカ地誌概説～その2																				
2. 地理学と空間概念	10. インナーシティと都市における多重剥奪																				
3. 世界都市論	11. 移民・難民・エスニック集団と空間																				
4. 先進国の都市化	12. 越境する人々の地誌～その1 難民の発生と再定住																				
5. 発展途上国の都市化	12. 越境する人々の地誌～その1 難民の発生と再定住																				
6. ローカルとグローバル～「時間・空間の圧縮」の諸相	13. 越境する人々の地誌～その2 日系アメリカ人コミュニティ																				
7. 発展途上国のコミュニティ開発～災害復興と防災	14. 場所の記憶と地誌?震災体験のアーカイブ																				
8. アメリカ地誌概説～その1	15. 総括・振り返り・授業内テスト																				
◇ 成績評価の方法	筆記試験 [40%]、出席 [50%]、レポート [10%] で評価する。																				
◇ 教科書・参考書	教科書は指定しない。 授業で必要な資料は適宜コピーして配布する。																				
◇ 授業時間外学習	オフィスアワーは設けていないが、教員は東北大(青葉山)に隣接する宮城教育大キャンパスに研究室があるため、希望があれば授業の内容等に関する質問・研究に関する相談を受け付ける。 事前に要アポイントメント(連絡先メール等は授業内で周知)。																				
その他：受講生は「都市社会の諸相・諸課題」の未履修者のこと																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
書 道 C a l l i g r a p h y	2	非常勤 講師 下 田 真 奈 美	5	木	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHU301J																				
◆ 授業題目	書表現の基礎(一) (漢字) (The Elements of Calligraphy Expression (1) (Chinese Character))																				
◆ 目的・概要	王羲之の用筆法による、楷書基本十点画を学ぶ。さらに、篆書、隸書、行書体を通じて、中国書道史の用筆法の変遷を学び、かつ書けるようにする。いずれも羊毛・長鋒を使用。																				
◆ 到達目標	中国伝統の用筆法に従って、五つの書体が書けるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 楷書の基本十点画 ⑧ (右はらい)</td> </tr> <tr> <td>2. 楷書の基本十点画 ① (左はらい)</td> <td>10. 楷書の基本十点画 ⑨ (点2・点3)</td> </tr> <tr> <td>3. 楷書の基本十点画 ② (点1)</td> <td>11. 基本十点画のまとめ</td> </tr> <tr> <td>4. 楷書の基本十点画 ③ (よこ画)</td> <td>12. 篆書</td> </tr> <tr> <td>5. 楷書の基本十点画 ④ (たて画)</td> <td>13. 隸書</td> </tr> <tr> <td>6. 楷書の基本十点画 ⑤ (折れ)</td> <td>14. 草書</td> </tr> <tr> <td>7. 楷書の基本十点画 ⑥ (折れとはね)</td> <td>15. 創作</td> </tr> <tr> <td>8. 楷書の基本十点画 ⑦ (曲がりとはね)</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 楷書の基本十点画 ⑧ (右はらい)	2. 楷書の基本十点画 ① (左はらい)	10. 楷書の基本十点画 ⑨ (点2・点3)	3. 楷書の基本十点画 ② (点1)	11. 基本十点画のまとめ	4. 楷書の基本十点画 ③ (よこ画)	12. 篆書	5. 楷書の基本十点画 ④ (たて画)	13. 隸書	6. 楷書の基本十点画 ⑤ (折れ)	14. 草書	7. 楷書の基本十点画 ⑥ (折れとはね)	15. 創作	8. 楷書の基本十点画 ⑦ (曲がりとはね)	
1. オリエンテーション	9. 楷書の基本十点画 ⑧ (右はらい)																				
2. 楷書の基本十点画 ① (左はらい)	10. 楷書の基本十点画 ⑨ (点2・点3)																				
3. 楷書の基本十点画 ② (点1)	11. 基本十点画のまとめ																				
4. 楷書の基本十点画 ③ (よこ画)	12. 篆書																				
5. 楷書の基本十点画 ④ (たて画)	13. 隸書																				
6. 楷書の基本十点画 ⑤ (折れ)	14. 草書																				
7. 楷書の基本十点画 ⑥ (折れとはね)	15. 創作																				
8. 楷書の基本十点画 ⑦ (曲がりとはね)																					
◇ 成績評価の方法	出席(毎時、清書提出) [100%]																				
◇ 教科書・参考書	肉筆手本・五體字類等。																				
◇ 授業時間外学習	11. 「基本十点画のまとめ」を授業時間内に提出できない時は、学習課題として提出してもらう。																				
適正に授業を行うために、受講生の上限を50名とする。																					
その他：希望者がこの人数を超える場合は制限を設け、国語科教員免許取得希望者を優先する。 第一回の授業には必ず出席すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
書 道 C a l l i g r a p h y	2	非常勤 講師 下 田 真奈美	6	木	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHU301J																				
◆ 授業題目	書表現の基礎(二) (かな) (The Elements of Calligraphy Expression (2) (Hiragana Character))																				
◆ 目的・概要	○いろは単体から高野切第三種の臨書、倣書ができるようにする。 ○かな用小筆の執筆法・運筆法を、基礎から徹底して学習する。																				
◆ 到達目標	独力でかなの古典臨書ができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 高野切第三種の臨書 1</td> </tr> <tr> <td>2. かな用小筆の執筆法・運筆法</td> <td>10. 高野切第三種の臨書 2</td> </tr> <tr> <td>3. 基本練習といろは単体 1</td> <td>11. 高野切第三種の臨書 3</td> </tr> <tr> <td>4. いろは単体 2</td> <td>12. 高野切第三種の臨書 4</td> </tr> <tr> <td>5. いろは単体 3</td> <td>13. 高野切第三種の臨書 5</td> </tr> <tr> <td>6. いろは単体のまとめ</td> <td>14. 高野切第三種の倣書 (下書き)</td> </tr> <tr> <td>7. 変体仮名</td> <td>15. 高野切第三種の倣書 (清書)</td> </tr> <tr> <td>8. 連綿</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 高野切第三種の臨書 1	2. かな用小筆の執筆法・運筆法	10. 高野切第三種の臨書 2	3. 基本練習といろは単体 1	11. 高野切第三種の臨書 3	4. いろは単体 2	12. 高野切第三種の臨書 4	5. いろは単体 3	13. 高野切第三種の臨書 5	6. いろは単体のまとめ	14. 高野切第三種の倣書 (下書き)	7. 変体仮名	15. 高野切第三種の倣書 (清書)	8. 連綿	
1. オリエンテーション	9. 高野切第三種の臨書 1																				
2. かな用小筆の執筆法・運筆法	10. 高野切第三種の臨書 2																				
3. 基本練習といろは単体 1	11. 高野切第三種の臨書 3																				
4. いろは単体 2	12. 高野切第三種の臨書 4																				
5. いろは単体 3	13. 高野切第三種の臨書 5																				
6. いろは単体のまとめ	14. 高野切第三種の倣書 (下書き)																				
7. 変体仮名	15. 高野切第三種の倣書 (清書)																				
8. 連綿																					
◇ 成績評価の方法	出席 (毎時、清書提出) [100%]																				
◇ 教科書・参考書	肉筆手本・プリント・高野切三種 (影印本) 等。																				
◇ 授業時間外学習	14.「高野切第三種の倣書 (下書き)」、15.「高野切第三種の倣書 (清書)」を授業時間内に提出できない時は、学習課題として提出してもらう。																				
適正に授業を行うために、受講生の上限を50名とする。 その他：希望者がこの人数を超える場合は制限を設け、国語科教員免許取得希望者を優先する。 第一回の授業には必ず出席すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 語 ・ 日 本 文 化 論 講 読 Studies of Japanese Culture	2	教授 高 橋 章 則	5	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHU302J																				
◆ 授業題目	古典講読 I (Classic reading I)																				
◆ 目的・概要	<p>専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読 (意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること)。古典 (漢文を含む) を対象とし、日本古典とその背景をなす日本文化・日本歴史の系統的な理解を目指す。</p> <p>古典を読み、漢文を訓読する際に必要な文法をはじめとした基礎知識と日本文化に関する調査技術とを身につけることを目的とする。毎時間の講読担当者の発表が前提となる。</p> <p>本年度は、日本文化の多面的な研究の一環として、文献資料 (文学作品) と絵画資料 (浮世絵) の融合した独自のジャンルである「狂歌摺物 (すりもの)」を取り上げる。素材は歌川広重「狂歌入り東海道」である。</p>																				
◆ 到達目標	日本研究の基礎確立																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入 1 日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か</td> <td>8. 講読 4 土山・坂之下</td> </tr> <tr> <td>2. 導入 2 「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌</td> <td>9. 講読 5 関・亀山</td> </tr> <tr> <td>3. 導入 3 広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版</td> <td>10. 鑑賞 1 浮世絵鑑賞、広重美術館 (天童) での研修</td> </tr> <tr> <td>4. 導入 4 「狂歌入り東海道」について、「講読」のルール</td> <td>11. 講読 6 庄野・石薬師</td> </tr> <tr> <td>5. 講読 1 内裏・京</td> <td>12. 講読 7 四日市・桑名</td> </tr> <tr> <td>6. 講読 2 大津・草津</td> <td>13. 講読 8 宮・鳴海</td> </tr> <tr> <td>7. 講読 3 石部・水口</td> <td>14. 講読 9 藤川・赤坂</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめと評価 「狂歌」関連出版物の研究意義</td> </tr> </table>					1. 導入 1 日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か	8. 講読 4 土山・坂之下	2. 導入 2 「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌	9. 講読 5 関・亀山	3. 導入 3 広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版	10. 鑑賞 1 浮世絵鑑賞、広重美術館 (天童) での研修	4. 導入 4 「狂歌入り東海道」について、「講読」のルール	11. 講読 6 庄野・石薬師	5. 講読 1 内裏・京	12. 講読 7 四日市・桑名	6. 講読 2 大津・草津	13. 講読 8 宮・鳴海	7. 講読 3 石部・水口	14. 講読 9 藤川・赤坂		15. まとめと評価 「狂歌」関連出版物の研究意義
1. 導入 1 日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か	8. 講読 4 土山・坂之下																				
2. 導入 2 「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌	9. 講読 5 関・亀山																				
3. 導入 3 広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版	10. 鑑賞 1 浮世絵鑑賞、広重美術館 (天童) での研修																				
4. 導入 4 「狂歌入り東海道」について、「講読」のルール	11. 講読 6 庄野・石薬師																				
5. 講読 1 内裏・京	12. 講読 7 四日市・桑名																				
6. 講読 2 大津・草津	13. 講読 8 宮・鳴海																				
7. 講読 3 石部・水口	14. 講読 9 藤川・赤坂																				
	15. まとめと評価 「狂歌」関連出版物の研究意義																				
◇ 成績評価の方法	発表の成果と出席																				
◇ 教科書・参考書	『慶應義塾大学 高橋誠一郎浮世絵コレクション 広重 東海道五十三次 八種四百十八景』 (小学館)																				
◇ 授業時間外学習	発表資料の作成																				
その他：国際共修ゼミ (外国人留学生・日本人学生)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																																
日 本 語 ・ 日 本 文 化 論 講 読 Studies of Japanese Culture	2	教授 高橋章則	6	月	2																																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHU302J																																				
◆ 授業題目	古典講読Ⅱ (Classic reading Ⅱ)																																				
◆ 目的・概要	<p>専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読（意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること）。古典（漢文を含む）を対象とし、日本古典とその背景をなす日本文化・日本歴史の系統的な理解を目指す。</p> <p>古典を読み、漢文を訓読する際に必要な文法をはじめとした基礎知識と日本文化に関する調査技術とを身につけることを目的とする。毎時間の講読担当者の発表が前提となる。</p> <p>本年度は、日本文化の多面的な研究の一環として、文献資料（文学作品）と絵画資料（浮世絵）の融合した独自のジャンルである「狂歌摺物（すりもの）」を取り上げる。素材は歌川広重「狂歌入り東海道」である。</p>																																				
◆ 到達目標	日本研究の基礎確立																																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入 1</td> <td>日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か</td> <td>8. 講読 4</td> <td>藤沢・平塚</td> </tr> <tr> <td>2. 導入 2</td> <td>「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌</td> <td>9. 講読 5</td> <td>大磯・小田原</td> </tr> <tr> <td>3. 導入 3</td> <td>広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版</td> <td>10. 鑑賞 1</td> <td>浮世絵鑑賞、広重美術館（天童）での研修</td> </tr> <tr> <td>4. 導入 4</td> <td>「狂歌入り東海道」について、「講読」のルール</td> <td>11. 講読 6</td> <td>箱根・三島</td> </tr> <tr> <td>5. 講読 1</td> <td>日本橋・品川</td> <td>12. 講読 7</td> <td>沼津・原</td> </tr> <tr> <td>6. 講読 2</td> <td>川崎・神奈川</td> <td>13. 講読 8</td> <td>吉原・蒲原</td> </tr> <tr> <td>7. 講読 3</td> <td>保土ヶ谷・戸塚</td> <td>14. 講読 9</td> <td>由井・奥津</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>15. まとめと評価</td> <td>「狂歌摺物」調査から浮世絵研究へ</td> </tr> </table>					1. 導入 1	日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か	8. 講読 4	藤沢・平塚	2. 導入 2	「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌	9. 講読 5	大磯・小田原	3. 導入 3	広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版	10. 鑑賞 1	浮世絵鑑賞、広重美術館（天童）での研修	4. 導入 4	「狂歌入り東海道」について、「講読」のルール	11. 講読 6	箱根・三島	5. 講読 1	日本橋・品川	12. 講読 7	沼津・原	6. 講読 2	川崎・神奈川	13. 講読 8	吉原・蒲原	7. 講読 3	保土ヶ谷・戸塚	14. 講読 9	由井・奥津			15. まとめと評価	「狂歌摺物」調査から浮世絵研究へ
1. 導入 1	日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か	8. 講読 4	藤沢・平塚																																		
2. 導入 2	「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌	9. 講読 5	大磯・小田原																																		
3. 導入 3	広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版	10. 鑑賞 1	浮世絵鑑賞、広重美術館（天童）での研修																																		
4. 導入 4	「狂歌入り東海道」について、「講読」のルール	11. 講読 6	箱根・三島																																		
5. 講読 1	日本橋・品川	12. 講読 7	沼津・原																																		
6. 講読 2	川崎・神奈川	13. 講読 8	吉原・蒲原																																		
7. 講読 3	保土ヶ谷・戸塚	14. 講読 9	由井・奥津																																		
		15. まとめと評価	「狂歌摺物」調査から浮世絵研究へ																																		
◇ 成績評価の方法	発表の成果と出席																																				
◇ 教科書・参考書	『慶應義塾大学 高橋誠一郎浮世絵コレクション 広重 東海道五十三次 八種四百十八景』（小学館）																																				
◇ 授業時間外学習	発表資料の作成																																				
その他：国際共修ゼミ（外国人留学生・日本人学生）																																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																																				
日 本 語 ・ 日 本 文 化 論 講 読 Studies of Japanese Culture	2	教授 高橋章則	5	水	2																																				
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHU302J																																								
◆ 授業題目	現代評論講読Ⅰ (Modern sentence reading Ⅰ)																																								
◆ 目的・概要	<p>専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読（意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること）。現代文を対象とする。</p> <p>日本語と日本文化を系統的に理解する際に不可欠な基礎知識と日本文化に関する調査技術とを講読を通じて身につけることを目的とする。</p> <p>毎時間の講読担当者の発表が前提となる。</p>																																								
◆ 到達目標	日本研究の基礎確立																																								
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入 1</td> <td>日本文化を考える (1)</td> <td>9. 講読 4</td> <td>『菊と刀』④</td> </tr> <tr> <td>2. 導入 2</td> <td>日本文化を考える (2)</td> <td>10. 講読 5</td> <td>『菊と刀』⑤</td> </tr> <tr> <td>3. 導入 3</td> <td>家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む (1)</td> <td>11. 講読 6</td> <td>『菊と刀』⑥</td> </tr> <tr> <td>4. 導入 4</td> <td>『日本文化史』「はじめに」を読む (2)</td> <td>12. 講読 7</td> <td>『菊と刀』⑦</td> </tr> <tr> <td>5. 導入 5</td> <td>『日本文化論』の変容をめぐって</td> <td>13. 講読 8</td> <td>『菊と刀』⑧</td> </tr> <tr> <td>6. 講読 1</td> <td>ベネディクト『菊と刀』① 講読のルール</td> <td>14. 講読 9</td> <td>『菊と刀』⑨</td> </tr> <tr> <td>7. 講読 2</td> <td>『菊と刀』②</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 講読 3</td> <td>『菊と刀』③</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>15. まとめと評価</td> <td>『菊と刀』から新たな日本文化論へ</td> </tr> </table>					1. 導入 1	日本文化を考える (1)	9. 講読 4	『菊と刀』④	2. 導入 2	日本文化を考える (2)	10. 講読 5	『菊と刀』⑤	3. 導入 3	家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む (1)	11. 講読 6	『菊と刀』⑥	4. 導入 4	『日本文化史』「はじめに」を読む (2)	12. 講読 7	『菊と刀』⑦	5. 導入 5	『日本文化論』の変容をめぐって	13. 講読 8	『菊と刀』⑧	6. 講読 1	ベネディクト『菊と刀』① 講読のルール	14. 講読 9	『菊と刀』⑨	7. 講読 2	『菊と刀』②			8. 講読 3	『菊と刀』③					15. まとめと評価	『菊と刀』から新たな日本文化論へ
1. 導入 1	日本文化を考える (1)	9. 講読 4	『菊と刀』④																																						
2. 導入 2	日本文化を考える (2)	10. 講読 5	『菊と刀』⑤																																						
3. 導入 3	家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む (1)	11. 講読 6	『菊と刀』⑥																																						
4. 導入 4	『日本文化史』「はじめに」を読む (2)	12. 講読 7	『菊と刀』⑦																																						
5. 導入 5	『日本文化論』の変容をめぐって	13. 講読 8	『菊と刀』⑧																																						
6. 講読 1	ベネディクト『菊と刀』① 講読のルール	14. 講読 9	『菊と刀』⑨																																						
7. 講読 2	『菊と刀』②																																								
8. 講読 3	『菊と刀』③																																								
		15. まとめと評価	『菊と刀』から新たな日本文化論へ																																						
◇ 成績評価の方法	発表の成果と出席																																								
◇ 教科書・参考書	R. ベネディクト『菊と刀』（講談社学術文庫）																																								
◇ 授業時間外学習	発表資料の作成																																								
その他：国際共修ゼミ（外国人留学生・日本人学生）																																									

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 語 ・ 日 本 文 化 論 講 読 Studies of Japanese Culture	2	教授 高橋章則	6	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHU302J																				
◆ 授業題目	現代評論講読Ⅱ (Modern sentence reading Ⅱ)																				
◆ 目的・概要	<p>専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読 (意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること)。現代文を対象とする。</p> <p>日本語と日本文化を系統的に理解する際に不可欠な基礎知識と日本文化に関する調査技術とを講読を通じて身につけることを目的とする。</p> <p>毎時間の講読担当者の発表が前提となる。</p> <p>日本研究の基礎確立</p>																				
◆ 到達目標	日本研究の基礎確立																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. 導入 1 日本文化を考える (1)</td> <td style="width:50%;">9. 講読 4 『菊と刀』④</td> </tr> <tr> <td>2. 導入 2 日本文化を考える (2)</td> <td>10. 講読 5 『菊と刀』⑤</td> </tr> <tr> <td>3. 導入 3 家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む (1)</td> <td>11. 講読 6 『菊と刀』⑥</td> </tr> <tr> <td>4. 導入 4 『日本文化史』「はじめに」を読む (2)</td> <td>12. 講読 7 『菊と刀』⑦</td> </tr> <tr> <td>5. 導入 5 「日本文化論」の変容をめぐって</td> <td>13. 講読 8 『菊と刀』⑧</td> </tr> <tr> <td>6. 講読 1 ベネディクト『菊と刀』① 講読のルール</td> <td>14. 講読 9 『菊と刀』⑨</td> </tr> <tr> <td>7. 講読 2 『菊と刀』②</td> <td>15. まとめと評価 日本文化と「わたし」</td> </tr> <tr> <td>8. 講読 3 『菊と刀』③</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入 1 日本文化を考える (1)	9. 講読 4 『菊と刀』④	2. 導入 2 日本文化を考える (2)	10. 講読 5 『菊と刀』⑤	3. 導入 3 家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む (1)	11. 講読 6 『菊と刀』⑥	4. 導入 4 『日本文化史』「はじめに」を読む (2)	12. 講読 7 『菊と刀』⑦	5. 導入 5 「日本文化論」の変容をめぐって	13. 講読 8 『菊と刀』⑧	6. 講読 1 ベネディクト『菊と刀』① 講読のルール	14. 講読 9 『菊と刀』⑨	7. 講読 2 『菊と刀』②	15. まとめと評価 日本文化と「わたし」	8. 講読 3 『菊と刀』③	
1. 導入 1 日本文化を考える (1)	9. 講読 4 『菊と刀』④																				
2. 導入 2 日本文化を考える (2)	10. 講読 5 『菊と刀』⑤																				
3. 導入 3 家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む (1)	11. 講読 6 『菊と刀』⑥																				
4. 導入 4 『日本文化史』「はじめに」を読む (2)	12. 講読 7 『菊と刀』⑦																				
5. 導入 5 「日本文化論」の変容をめぐって	13. 講読 8 『菊と刀』⑧																				
6. 講読 1 ベネディクト『菊と刀』① 講読のルール	14. 講読 9 『菊と刀』⑨																				
7. 講読 2 『菊と刀』②	15. まとめと評価 日本文化と「わたし」																				
8. 講読 3 『菊と刀』③																					
◇ 成績評価の方法	発表の成果と出席																				
◇ 教科書・参考書	R.ベネディクト『菊と刀』(講談社学術文庫)																				
◇ 授業時間外学習	発表資料の作成																				
その他：国際共修ゼミ (外国人留学生・日本人学生)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 語 ・ 日 本 文 化 論 講 読 Studies of Japanese Culture	2	准教授 クレイグ クリストファー	6	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHU302B																				
◆ 授業題目	日本史基礎文献講読 (Reading and Translation Fundamentals for Japanese History)																				
◆ 目的・概要	Using student reading and translation presentations, this class aims at providing basic skills and practice in reading and translating Japanese academic history writing. Class will consist of reading/translation assignments and in-class presentations and discussion of issues concerning comprehension and translation.																				
◆ 到達目標	The purpose of this class is to provide a basis in reading and translation for future work involving academic, particularly historical, works in Japanese.																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. Class introduction</td> <td style="width:50%;">8. Reading and translation presentation</td> </tr> <tr> <td>Introduction to source material</td> <td>9. Reading and translation presentation</td> </tr> <tr> <td>2. Reading and translation presentation</td> <td>10. Reading and translation presentation</td> </tr> <tr> <td>3. Reading and translation presentation</td> <td>11. Reading and translation presentation</td> </tr> <tr> <td>4. Reading and translation presentation</td> <td>12. Reading and translation presentation</td> </tr> <tr> <td>5. Reading and translation presentation</td> <td>13. Reading and translation presentation</td> </tr> <tr> <td>6. Reading and translation presentation</td> <td>14. Reading and translation presentation</td> </tr> <tr> <td>7. Reading and translation presentation</td> <td>15. Reading and translation presentation</td> </tr> </table>					1. Class introduction	8. Reading and translation presentation	Introduction to source material	9. Reading and translation presentation	2. Reading and translation presentation	10. Reading and translation presentation	3. Reading and translation presentation	11. Reading and translation presentation	4. Reading and translation presentation	12. Reading and translation presentation	5. Reading and translation presentation	13. Reading and translation presentation	6. Reading and translation presentation	14. Reading and translation presentation	7. Reading and translation presentation	15. Reading and translation presentation
1. Class introduction	8. Reading and translation presentation																				
Introduction to source material	9. Reading and translation presentation																				
2. Reading and translation presentation	10. Reading and translation presentation																				
3. Reading and translation presentation	11. Reading and translation presentation																				
4. Reading and translation presentation	12. Reading and translation presentation																				
5. Reading and translation presentation	13. Reading and translation presentation																				
6. Reading and translation presentation	14. Reading and translation presentation																				
7. Reading and translation presentation	15. Reading and translation presentation																				
◇ 成績評価の方法	Translations and presentations (70%) Written translation assignment (30%)																				
◇ 教科書・参考書	安孫子 麟 『宮城県の百年』 山川出版社 1999年 ISBN 9784634270404																				
◇ 授業時間外学習	Students are expected to read and translate assigned sections for each class. All students will present their reading and translation in each class meeting. One polished translation is to be submitted for grading. Class instruction will be largely in English, but the source material will be in Japanese, making proficiency in both languages necessary.																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																																
日 本 語 表 現 論 J a p a n e s e C o m p o s i t i o n	2	教授 高橋章則	5	木	2																																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHU303J																																				
◆ 授業題目	日本語表現論Ⅰ (Japanese expression theory Ⅰ)																																				
◆ 目的・概要	<p>専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語についての知識と表現技術（作文・会話の両面）とを実践的・系統的に学ぶ。あわせて日本語理解に不可欠な歴史的・文化的背景についても学ぶ。</p> <p>日本語の能力は、「理解力」と「表現力」の両面から成り立ち、表裏一体をなすものである。この学期での学習の目的は、母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高めるための基礎を確立することにある。主に、文章の表記・表現の基礎的な理解と技術を学ぶ。レポートの提出とそれへの添削によって、能力に応じた文章指導が行われる。</p> <p>「日本語表現論」(6セメスター)の連続履修が望ましい。</p>																																				
◆ 到達目標	日本語論文作成の基礎確立																																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入 1</td> <td>論文とは 日本における論文作成のルール</td> <td>9. 実践 1</td> <td>論文題名の決定と先行研究</td> </tr> <tr> <td>2. 導入 2</td> <td>論文作成の実際 先行研究の重要性</td> <td>10. 実践 2</td> <td>序論の作成 ① 背景説明</td> </tr> <tr> <td>3. 導入 3</td> <td>論文の構成 1 構成の作り方</td> <td>11. 実践 3</td> <td>序論の作成 ② 問題点の明示</td> </tr> <tr> <td>4. 導入 4</td> <td>論文の構成 2 序論の構成要素</td> <td>12. 実践 4</td> <td>序論の作成 ③ 研究目的の明示</td> </tr> <tr> <td>5. 導入 5</td> <td>論文の構成 3 研究の視点</td> <td>13. 実践 5</td> <td>資料・データの利用</td> </tr> <tr> <td>6. 導入 6</td> <td>論文の作成 1 先行論文の発見</td> <td>14. 実践 6</td> <td>序論に対応した結論</td> </tr> <tr> <td>7. 導入 7</td> <td>論文の作成 2 先行論文の引用作法</td> <td>15. まとめと評価</td> <td>レポートの作成</td> </tr> <tr> <td>8. 導入 8</td> <td>論文の作成 3 序論の意義</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入 1	論文とは 日本における論文作成のルール	9. 実践 1	論文題名の決定と先行研究	2. 導入 2	論文作成の実際 先行研究の重要性	10. 実践 2	序論の作成 ① 背景説明	3. 導入 3	論文の構成 1 構成の作り方	11. 実践 3	序論の作成 ② 問題点の明示	4. 導入 4	論文の構成 2 序論の構成要素	12. 実践 4	序論の作成 ③ 研究目的の明示	5. 導入 5	論文の構成 3 研究の視点	13. 実践 5	資料・データの利用	6. 導入 6	論文の作成 1 先行論文の発見	14. 実践 6	序論に対応した結論	7. 導入 7	論文の作成 2 先行論文の引用作法	15. まとめと評価	レポートの作成	8. 導入 8	論文の作成 3 序論の意義		
1. 導入 1	論文とは 日本における論文作成のルール	9. 実践 1	論文題名の決定と先行研究																																		
2. 導入 2	論文作成の実際 先行研究の重要性	10. 実践 2	序論の作成 ① 背景説明																																		
3. 導入 3	論文の構成 1 構成の作り方	11. 実践 3	序論の作成 ② 問題点の明示																																		
4. 導入 4	論文の構成 2 序論の構成要素	12. 実践 4	序論の作成 ③ 研究目的の明示																																		
5. 導入 5	論文の構成 3 研究の視点	13. 実践 5	資料・データの利用																																		
6. 導入 6	論文の作成 1 先行論文の発見	14. 実践 6	序論に対応した結論																																		
7. 導入 7	論文の作成 2 先行論文の引用作法	15. まとめと評価	レポートの作成																																		
8. 導入 8	論文の作成 3 序論の意義																																				
◇ 成績評価の方法	レポート提出																																				
◇ 教科書・参考書	『論文ワークブック』(くろしお出版)																																				
◇ 授業時間外学習	レポート作成																																				
その他：外国人留学生を対象とする。																																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																																
日 本 語 表 現 論 J a p a n e s e C o m p o s i t i o n	2	教授 高橋章則	6	木	2																																
◆ 科目ナンバリング	LHM-OHU303J																																				
◆ 授業題目	日本語表現論Ⅱ (Japanese expression theory Ⅱ)																																				
◆ 目的・概要	<p>専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語についての知識と表現技術（作文・会話の両面）とを実践的・系統的に学ぶ。あわせて日本語理解に不可欠な歴史的・文化的背景についても学ぶ。</p> <p>日本語の能力は、「理解力」と「表現力」の両面から成り立ち、表裏一体をなすものである。この学期での学習の目的は、母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高めるための基礎を確立することにある。主に、文章の表記・表現の基礎的な理解と技術を学ぶ。レポートの提出とそれへの添削によって、能力に応じた文章指導が行われる。</p> <p>「日本語表現論」(5セメスター)との連続履修が望ましい。</p>																																				
◆ 到達目標	日本語研究論文作成の基礎確立																																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入 1</td> <td>論文とは 日本における論文作成のルール</td> <td>9. 実践 1</td> <td>論文題名の決定と先行研究</td> </tr> <tr> <td>2. 導入 2</td> <td>論文作成の実際 先行研究の重要性</td> <td>10. 実践 2</td> <td>序論の作成 ① 背景説明</td> </tr> <tr> <td>3. 導入 3</td> <td>論文の構成 1 構成の作り方</td> <td>11. 実践 3</td> <td>序論の作成 ② 問題点の明示</td> </tr> <tr> <td>4. 導入 4</td> <td>論文の構成 2 序論の構成要素</td> <td>12. 実践 4</td> <td>序論の作成 ③ 研究目的の明示</td> </tr> <tr> <td>5. 導入 5</td> <td>論文の構成 3 研究の視点</td> <td>13. 実践 5</td> <td>資料・データの利用</td> </tr> <tr> <td>6. 導入 6</td> <td>論文の作成 1 先行論文の発見</td> <td>14. 実践 6</td> <td>序論に対応した結論の書き方</td> </tr> <tr> <td>7. 導入 7</td> <td>論文の作成 2 先行論文の引用作法</td> <td>15. まとめと評価</td> <td>レポートの作成</td> </tr> <tr> <td>8. 導入 8</td> <td>論文の作成 3 序論の意義</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入 1	論文とは 日本における論文作成のルール	9. 実践 1	論文題名の決定と先行研究	2. 導入 2	論文作成の実際 先行研究の重要性	10. 実践 2	序論の作成 ① 背景説明	3. 導入 3	論文の構成 1 構成の作り方	11. 実践 3	序論の作成 ② 問題点の明示	4. 導入 4	論文の構成 2 序論の構成要素	12. 実践 4	序論の作成 ③ 研究目的の明示	5. 導入 5	論文の構成 3 研究の視点	13. 実践 5	資料・データの利用	6. 導入 6	論文の作成 1 先行論文の発見	14. 実践 6	序論に対応した結論の書き方	7. 導入 7	論文の作成 2 先行論文の引用作法	15. まとめと評価	レポートの作成	8. 導入 8	論文の作成 3 序論の意義		
1. 導入 1	論文とは 日本における論文作成のルール	9. 実践 1	論文題名の決定と先行研究																																		
2. 導入 2	論文作成の実際 先行研究の重要性	10. 実践 2	序論の作成 ① 背景説明																																		
3. 導入 3	論文の構成 1 構成の作り方	11. 実践 3	序論の作成 ② 問題点の明示																																		
4. 導入 4	論文の構成 2 序論の構成要素	12. 実践 4	序論の作成 ③ 研究目的の明示																																		
5. 導入 5	論文の構成 3 研究の視点	13. 実践 5	資料・データの利用																																		
6. 導入 6	論文の作成 1 先行論文の発見	14. 実践 6	序論に対応した結論の書き方																																		
7. 導入 7	論文の作成 2 先行論文の引用作法	15. まとめと評価	レポートの作成																																		
8. 導入 8	論文の作成 3 序論の意義																																				
◇ 成績評価の方法	レポート提出																																				
◇ 教科書・参考書	『論文ワークブック』(くろしお出版)																																				
◇ 授業時間外学習	レポート作成																																				
その他：外国人留学生を対象とする。																																					

教職科目一覧

授業科目	講義題目	単位	担当教員名		開講 セメスター	曜日	講時	頁
			氏	名				
国語科教育論Ⅱ	国語科教育論Ⅱ	4	㊦	相澤秀夫	通年	水	1	297
英語科教育論Ⅱ	英語科授業の基礎・基本	4	㊦	リース エイドリアン	通年	月	3	297
ドイツ語科教育法Ⅲ	多読によるドイツ語の習得	2	㊦	菊池克己	5	火	4	298
ドイツ語科教育法Ⅳ	ドイツ語文献講読を通してドイツ語教授法を考える	2	㊦	松崎裕人	6	木	3	298
フランス語科教育法Ⅰ	Langue et culture de la France contemporaine	2		メヴェルヤン	5	月	2	299
フランス語科教育法Ⅱ	Langue et culture de la France contemporaine	2		メヴェルヤン	6	月	2	299
地理歴史科教育法Ⅰ	高等学校の地理授業の設計と実践	2	㊦	初澤敏生	6	木	1	300
地理歴史科教育法Ⅱ	高等学校の歴史授業の設計と実践	2	㊦	菊地茂樹	5	木	1	300
宗教科教育法Ⅰ	岡正雄の日本宗教論(1)	2		山田仁史	5	金	1	301
宗教科教育法Ⅱ	岡正雄の日本宗教論(2)	2		山田仁史	6	金	1	301

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																								
国 語 科 教 育 論 II Teaching Theory of the Japanese Language II	4	非常勤 講師 相 澤 秀 夫	通 年	水	1																								
<p>◆ 科目ナンバリング LHM-EDU902J</p> <p>◆ 授業題目 国語科教育論Ⅱ (Teaching Theory of the Japanese Language Ⅱ)</p> <p>◆ 目的・概要 学習指導要領の理解並びに教材研究法、国語の授業づくりにかかる基本的な技能を身につける。</p> <p>◆ 到達目標 教育実習において指導案の作成および教壇実習ができるための実践的な力量を形成する。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 国語科教育の意義と目的</td> <td>7. 国語科の教材研究論</td> </tr> <tr> <td>(1) 国語科教育の今日的な課題</td> <td>(2) 文章内容と言葉の扱い</td> </tr> <tr> <td>(2) 言葉を学ぶことの意義</td> <td>8. 国語の授業づくりと学習指導案の作成 (演習)</td> </tr> <tr> <td>(3) 教科としての「国語科の目的」</td> <td>9. 教材研究と発問づくり (その1) 『少年の日の思い出』</td> </tr> <tr> <td>2. 国語科教育論の問題点・課題</td> <td>10. 教材研究と発問づくり (その2) 『走れメロス』</td> </tr> <tr> <td>3. 現行の国語教室の問題点・課題</td> <td>11. 教材研究と発問づくり (その3) 『故郷』</td> </tr> <tr> <td>4. 学習指導要領と国語の授業作り</td> <td>12. 学習指導案の作成と検討 (演習)</td> </tr> <tr> <td>(1) 中学校国語科の構造と内容</td> <td>13. 模擬授業 (演習) ~全員行っ~</td> </tr> <tr> <td>5. 学習指導要領と国語の授業作り</td> <td>14. 国語科の評価</td> </tr> <tr> <td>(2) 高等学校国語科の構造と内容</td> <td>15. 国語科の歴史と今後の課題</td> </tr> <tr> <td>6. 国語科の教材研究論</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(1) 教材論としての教科書教材の取り扱いおよび学 習材の開発</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 レポート・演習への参加等</p> <p>◇ 教科書・参考書 教科書：文部科学省刊行『中学校・高等学校 指導要領解説 (国語編)』『若手中学校国語教師のための指導テキスト』(明治図書)</p> <p>◇ 授業時間外学習 具体的な説明・評論文や小説等の教材研究、学習指導案づくり、授業づくりの準備等を各自事前におこなう。</p> <p>その他：</p>						1. 国語科教育の意義と目的	7. 国語科の教材研究論	(1) 国語科教育の今日的な課題	(2) 文章内容と言葉の扱い	(2) 言葉を学ぶことの意義	8. 国語の授業づくりと学習指導案の作成 (演習)	(3) 教科としての「国語科の目的」	9. 教材研究と発問づくり (その1) 『少年の日の思い出』	2. 国語科教育論の問題点・課題	10. 教材研究と発問づくり (その2) 『走れメロス』	3. 現行の国語教室の問題点・課題	11. 教材研究と発問づくり (その3) 『故郷』	4. 学習指導要領と国語の授業作り	12. 学習指導案の作成と検討 (演習)	(1) 中学校国語科の構造と内容	13. 模擬授業 (演習) ~全員行っ~	5. 学習指導要領と国語の授業作り	14. 国語科の評価	(2) 高等学校国語科の構造と内容	15. 国語科の歴史と今後の課題	6. 国語科の教材研究論		(1) 教材論としての教科書教材の取り扱いおよび学 習材の開発	
1. 国語科教育の意義と目的	7. 国語科の教材研究論																												
(1) 国語科教育の今日的な課題	(2) 文章内容と言葉の扱い																												
(2) 言葉を学ぶことの意義	8. 国語の授業づくりと学習指導案の作成 (演習)																												
(3) 教科としての「国語科の目的」	9. 教材研究と発問づくり (その1) 『少年の日の思い出』																												
2. 国語科教育論の問題点・課題	10. 教材研究と発問づくり (その2) 『走れメロス』																												
3. 現行の国語教室の問題点・課題	11. 教材研究と発問づくり (その3) 『故郷』																												
4. 学習指導要領と国語の授業作り	12. 学習指導案の作成と検討 (演習)																												
(1) 中学校国語科の構造と内容	13. 模擬授業 (演習) ~全員行っ~																												
5. 学習指導要領と国語の授業作り	14. 国語科の評価																												
(2) 高等学校国語科の構造と内容	15. 国語科の歴史と今後の課題																												
6. 国語科の教材研究論																													
(1) 教材論としての教科書教材の取り扱いおよび学 習材の開発																													

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																																
英 語 科 教 育 論 II Teaching Theory of English II	4	非常勤 講師 リ ー ス エ イ ド リ ア ン	通 年	月	3																																
<p>◆ 科目ナンバリング LHM-EDU904B</p> <p>◆ 授業題目 英語科授業の基礎・基本 (Teaching Theory of English Ⅱ)</p> <p>◆ 目的・概要 ・英語科教育の基本理念、目標、学習内容、指導方法、評価等に関する理解を深める。 ・英語科授業の模擬授業を行う。</p> <p>◆ 到達目標 ・英語科教育の基本理念、目標、学習内容、指導方法、評価等を理解し、説明できる。 ・模擬授業を通して、基本的な指導技術を身につける。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. (1) 学習指導要領</td> <td>9. (17) 模擬授業 (導入編)</td> </tr> <tr> <td>(2) Text: Chapter 1</td> <td>(18) 模擬授業 (導入編)</td> </tr> <tr> <td>2. (3) Text: Chapter 2 (pp. 25-48)</td> <td>10. (19) 模擬授業 (導入編)</td> </tr> <tr> <td>(4) Text: Chapter 2 (pp. 48-59)</td> <td>(20) 模擬授業 (導入編)</td> </tr> <tr> <td>3. (5) Text: Chapter 3</td> <td>11. (21) 模擬授業 (展開編)</td> </tr> <tr> <td>(6) Text: Chapter 4</td> <td>(22) 模擬授業 (展開編)</td> </tr> <tr> <td>4. (7) Text: Chapter 5</td> <td>12. (23) 模擬授業 (展開編)</td> </tr> <tr> <td>(8) Text: Chapter 6</td> <td>(24) 模擬授業 (展開編)</td> </tr> <tr> <td>5. (9) 復習と評価</td> <td>13. (25) 模擬授業 (通し授業編)</td> </tr> <tr> <td>(10) Text: Chapter 7</td> <td>(26) 模擬授業 (通し授業編)</td> </tr> <tr> <td>6. (11) Text: Chapter 8</td> <td>14. (27) 模擬授業 (通し授業編)</td> </tr> <tr> <td>(12) Text: Chapter 9</td> <td>(28) 模擬授業 (通し授業編)</td> </tr> <tr> <td>7. (13) Text: Chapter 10</td> <td>15. (29) 模擬授業 (通し授業編)</td> </tr> <tr> <td>(14) Text: Chapter 11</td> <td>(30) 模擬授業 (通し授業編)</td> </tr> <tr> <td>8. (15) 復習と評価</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(16) 授業の構成と指導案</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 ①小テスト (40%)、②指導案 (20%)、③模擬授業 (40%)</p> <p>◇ 教科書・参考書 教科書：Becoming a Language Teacher: A practical guide to second language learning and teaching (ISBN: 978-0132489980)</p> <p>◇ 授業時間外学習 テキストを読んで、テキストを説明するビデオを見て、ディスカッションの準備や理解できるところとそうでないところを明確にした上で、授業に臨むこと。</p> <p>その他： オフィスアワー：随時 (事前にメールすること) メールアドレス：adrian@staff.miyakyo-u.ac.jp</p>						1. (1) 学習指導要領	9. (17) 模擬授業 (導入編)	(2) Text: Chapter 1	(18) 模擬授業 (導入編)	2. (3) Text: Chapter 2 (pp. 25-48)	10. (19) 模擬授業 (導入編)	(4) Text: Chapter 2 (pp. 48-59)	(20) 模擬授業 (導入編)	3. (5) Text: Chapter 3	11. (21) 模擬授業 (展開編)	(6) Text: Chapter 4	(22) 模擬授業 (展開編)	4. (7) Text: Chapter 5	12. (23) 模擬授業 (展開編)	(8) Text: Chapter 6	(24) 模擬授業 (展開編)	5. (9) 復習と評価	13. (25) 模擬授業 (通し授業編)	(10) Text: Chapter 7	(26) 模擬授業 (通し授業編)	6. (11) Text: Chapter 8	14. (27) 模擬授業 (通し授業編)	(12) Text: Chapter 9	(28) 模擬授業 (通し授業編)	7. (13) Text: Chapter 10	15. (29) 模擬授業 (通し授業編)	(14) Text: Chapter 11	(30) 模擬授業 (通し授業編)	8. (15) 復習と評価		(16) 授業の構成と指導案	
1. (1) 学習指導要領	9. (17) 模擬授業 (導入編)																																				
(2) Text: Chapter 1	(18) 模擬授業 (導入編)																																				
2. (3) Text: Chapter 2 (pp. 25-48)	10. (19) 模擬授業 (導入編)																																				
(4) Text: Chapter 2 (pp. 48-59)	(20) 模擬授業 (導入編)																																				
3. (5) Text: Chapter 3	11. (21) 模擬授業 (展開編)																																				
(6) Text: Chapter 4	(22) 模擬授業 (展開編)																																				
4. (7) Text: Chapter 5	12. (23) 模擬授業 (展開編)																																				
(8) Text: Chapter 6	(24) 模擬授業 (展開編)																																				
5. (9) 復習と評価	13. (25) 模擬授業 (通し授業編)																																				
(10) Text: Chapter 7	(26) 模擬授業 (通し授業編)																																				
6. (11) Text: Chapter 8	14. (27) 模擬授業 (通し授業編)																																				
(12) Text: Chapter 9	(28) 模擬授業 (通し授業編)																																				
7. (13) Text: Chapter 10	15. (29) 模擬授業 (通し授業編)																																				
(14) Text: Chapter 11	(30) 模擬授業 (通し授業編)																																				
8. (15) 復習と評価																																					
(16) 授業の構成と指導案																																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
ド イ ツ 語 科 教 育 法 Ⅲ Teaching Method of German Studies Ⅲ	2	非常勤 講師 菊 池 克 己	5	火	4		
◆ 科目ナンバリング	LHM-EDU905J						
◆ 授業題目	多読によるドイツ語の習得 (Practice of German by reading a lot)						
◆ 目的・概要	ドイツ語を知識として「知る」ことはむずかしいことではない。むずかしいのはそれがなかなか「身につかない」ことだ。従来の訳読や語法・文法解説ではドイツ語の知識を伝える段階で終わってしまい、身につけるレベルまで持っていけない。能力に合わないむずかしい文章を解説させられることが多く、インプットの量も少なすぎるからだ。そこで新たなアプローチとして「多読」を実際に体験することによって、新たな外国語習得の可能性を探る。						
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな外国語とのつきあい方として多読を知る。 ・ 訳読＝「暗号解説」ではない、外国語で「読書」する楽しさを知る。 ・ 自分にあった本を選べるようになり、ドイツ語での読書を習慣化する。 ・ それによって、従来の学習法の相対化し、その問題点を考えるきっかけを得る。 						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 多読実践 本の選び方のポイント 3. 多読実践 多読の読み方を知る 4. 多読実践 多読の読み方に慣れる 5. 多読実践 自分にあった本を知る 6. 多読実践 読み方のポイント 1 7. 多読実践 読み方のポイント 2 8. ここまでの感想、本の紹介、情報交換 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. 経験を踏まえて目標を定める 10. 多読の本格化 1 11. 多読の本格化 2 12. 多読の本格化 3 13. 多読の本格化 4 14. 多読の本格化 5 15. 多読の本格化 6 </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 多読実践 本の選び方のポイント 3. 多読実践 多読の読み方を知る 4. 多読実践 多読の読み方に慣れる 5. 多読実践 自分にあった本を知る 6. 多読実践 読み方のポイント 1 7. 多読実践 読み方のポイント 2 8. ここまでの感想、本の紹介、情報交換 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 経験を踏まえて目標を定める 10. 多読の本格化 1 11. 多読の本格化 2 12. 多読の本格化 3 13. 多読の本格化 4 14. 多読の本格化 5 15. 多読の本格化 6
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 多読実践 本の選び方のポイント 3. 多読実践 多読の読み方を知る 4. 多読実践 多読の読み方に慣れる 5. 多読実践 自分にあった本を知る 6. 多読実践 読み方のポイント 1 7. 多読実践 読み方のポイント 2 8. ここまでの感想、本の紹介、情報交換 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 経験を踏まえて目標を定める 10. 多読の本格化 1 11. 多読の本格化 2 12. 多読の本格化 3 13. 多読の本格化 4 14. 多読の本格化 5 15. 多読の本格化 6 						
◇ 成績評価の方法	毎回の課題 [100%]						
◇ 教科書・参考書	教室で指示						
◇ 授業時間外学習	隙間時間を利用するなど、自分で本を選んで多読に取り組むこと。訳読ではなくドイツ語での「読書」を習慣化する努力を。						
その他：							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
ド イ ツ 語 科 教 育 法 Ⅳ Teaching Method of German Studies Ⅳ	2	非常勤 講師 松 崎 裕 人	6	木	3		
◆ 科目ナンバリング	LHM-EDU906J						
◆ 授業題目	ドイツ語文献講読を通してドイツ語教授法を考える (Text reading and Teaching method of German)						
◆ 目的・概要	文学研究入門書を読みながら、ドイツ語文読解力の養成をはかる。 その作業を通して、「科目」としてのドイツ語について理解を深める。						
◆ 到達目標	併せて、補助教材や資料の使用法に習熟する。 中級ドイツ語の文献を読解することができる。 特殊辞典・事典を効果的に使うことができる。						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 講読 (1) およびビューチャーケンデについて (1) 3. 講読 (2) およびビューチャーケンデについて (2) 4. 講読 (3) および独辞典の活用 (1) 5. 講読 (4) および独辞典の活用 (2) 6. 講読 (5) および特殊事典の活用 (1) 7. 講読 (6) および特殊事典の活用 (2) 8. 講読 (7) およびランデスクンデについて (1) </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. 講読 (8) およびランデスクンデについて (2) 10. 講読 (9) および年表の活用 (1) 11. 講読 (10) および年表の活用 (2) 12. 講読 (11) および地図の活用 (1) 13. 講読 (12) および地図の活用 (2) 14. 講読 (13) および図録の活用 15. まとめ </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 講読 (1) およびビューチャーケンデについて (1) 3. 講読 (2) およびビューチャーケンデについて (2) 4. 講読 (3) および独辞典の活用 (1) 5. 講読 (4) および独辞典の活用 (2) 6. 講読 (5) および特殊事典の活用 (1) 7. 講読 (6) および特殊事典の活用 (2) 8. 講読 (7) およびランデスクンデについて (1) 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 講読 (8) およびランデスクンデについて (2) 10. 講読 (9) および年表の活用 (1) 11. 講読 (10) および年表の活用 (2) 12. 講読 (11) および地図の活用 (1) 13. 講読 (12) および地図の活用 (2) 14. 講読 (13) および図録の活用 15. まとめ
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 講読 (1) およびビューチャーケンデについて (1) 3. 講読 (2) およびビューチャーケンデについて (2) 4. 講読 (3) および独辞典の活用 (1) 5. 講読 (4) および独辞典の活用 (2) 6. 講読 (5) および特殊事典の活用 (1) 7. 講読 (6) および特殊事典の活用 (2) 8. 講読 (7) およびランデスクンデについて (1) 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 講読 (8) およびランデスクンデについて (2) 10. 講読 (9) および年表の活用 (1) 11. 講読 (10) および年表の活用 (2) 12. 講読 (11) および地図の活用 (1) 13. 講読 (12) および地図の活用 (2) 14. 講読 (13) および図録の活用 15. まとめ 						
◇ 成績評価の方法	筆記試験 (60%) および平常評価 (40%) による総合評価						
◇ 教科書・参考書	J. Culler 『Literaturtheorie. Eine kurze Einfuehrung』 (Reclam) から抜粋 (プリント配布) それ以外のテキストや参考文献については開講時に紹介します。						
◇ 授業時間外学習	毎回、テキスト1頁半ほどの準備が必要です。その段階で不明な箇所を洗い出し、それを授業時に確認し、復習によって確かなものとしてください。						
その他：オフィスアワー等については開講時に案内します。							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 語 科 教 育 法 I Teaching Method of French Studies I	2	准教授 メヴェル ヤン	5	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-EDU909F																				
◆ 授業題目	Langue et culture de la France contemporaine (Language and Culture of Contemporary France)																				
◆ 目的・概要	Le cours prendra plusieurs formes. Il permettra - la lecture de divers types de textes - l'audition de documents sonores - une analyse de documents visuels - des discussions sur des sujets de société - des jeux de rôles																				
◆ 到達目標	A l'oral comme à l'écrit, le cours permettra - d'enrichir le vocabulaire et de consolider la syntaxe - d'augmenter les capacités d'argumentation - d'améliorer les capacités de compréhension Le cours aidera aussi à découvrir la vie quotidienne en France, ses codes et usages.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Expression orale et écrite</td> <td>9. Expression orale et écrite</td> </tr> <tr> <td>2. Expression orale et écrite</td> <td>10. Expression orale et écrite</td> </tr> <tr> <td>3. Expression orale et écrite</td> <td>11. Expression orale et écrite</td> </tr> <tr> <td>4. Expression orale et écrite</td> <td>12. Expression orale et écrite</td> </tr> <tr> <td>5. Expression orale et écrite</td> <td>13. Expression orale et écrite</td> </tr> <tr> <td>6. Expression orale et écrite</td> <td>14. Expression orale et écrite</td> </tr> <tr> <td>7. Expression orale et écrite</td> <td>15. Projection de film. Analyse et discussion.</td> </tr> <tr> <td>8. Expression orale et écrite</td> <td></td> </tr> </table>					1. Expression orale et écrite	9. Expression orale et écrite	2. Expression orale et écrite	10. Expression orale et écrite	3. Expression orale et écrite	11. Expression orale et écrite	4. Expression orale et écrite	12. Expression orale et écrite	5. Expression orale et écrite	13. Expression orale et écrite	6. Expression orale et écrite	14. Expression orale et écrite	7. Expression orale et écrite	15. Projection de film. Analyse et discussion.	8. Expression orale et écrite	
1. Expression orale et écrite	9. Expression orale et écrite																				
2. Expression orale et écrite	10. Expression orale et écrite																				
3. Expression orale et écrite	11. Expression orale et écrite																				
4. Expression orale et écrite	12. Expression orale et écrite																				
5. Expression orale et écrite	13. Expression orale et écrite																				
6. Expression orale et écrite	14. Expression orale et écrite																				
7. Expression orale et écrite	15. Projection de film. Analyse et discussion.																				
8. Expression orale et écrite																					
◇ 成績評価の方法	Une participation à tous les cours est nécessaire. La participation à l'oral compte pour 60%. L'évaluation sera aussi écrite (rédaction de plusieurs textes brefs).																				
◇ 教科書・参考書	A. Berthet, E. Daill, C. Hugot, V. M. Kizirian, M. Waendendries, Alter ego +, Paris, Editions Hachette Français langue étrangère, 2012.																				
◇ 授業時間外学習	Des photocopies seront fournies pour les premiers cours. Des exercices permettront de revoir du vocabulaire ou des points de grammaire. Il faudra aussi rédiger des textes brefs en relation avec l'objet du cours.																				
その他 :																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 語 科 教 育 法 II Teaching Method of French Studies II	2	准教授 メヴェル ヤン	6	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-EDU910F																				
◆ 授業題目	Langue et culture de la France contemporaine (Language and Culture of Contemporary France)																				
◆ 目的・概要	Le cours prendra plusieurs formes. Il permettra - la lecture de divers types de textes - l'audition de documents sonores - une analyse de documents visuels - des discussions sur des sujets de société - des jeux de rôles																				
◆ 到達目標	A l'oral comme à l'écrit, le cours permettra - d'enrichir le vocabulaire et de consolider la syntaxe - d'augmenter les capacités d'argumentation - d'améliorer les capacités de compréhension Le cours aidera aussi à découvrir la vie quotidienne en France, ses codes et usages.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Expression orale et écrite</td> <td>9. Expression orale et écrite</td> </tr> <tr> <td>2. Expression orale et écrite</td> <td>10. Expression orale et écrite</td> </tr> <tr> <td>3. Expression orale et écrite</td> <td>11. Expression orale et écrite</td> </tr> <tr> <td>4. Expression orale et écrite</td> <td>12. Expression orale et écrite</td> </tr> <tr> <td>5. Expression orale et écrite</td> <td>13. Expression orale et écrite</td> </tr> <tr> <td>6. Expression orale et écrite</td> <td>14. Expression orale et écrite</td> </tr> <tr> <td>7. Expression orale et écrite</td> <td>15. Projection de film. Analyse et discussion.</td> </tr> <tr> <td>8. Expression orale et écrite</td> <td></td> </tr> </table>					1. Expression orale et écrite	9. Expression orale et écrite	2. Expression orale et écrite	10. Expression orale et écrite	3. Expression orale et écrite	11. Expression orale et écrite	4. Expression orale et écrite	12. Expression orale et écrite	5. Expression orale et écrite	13. Expression orale et écrite	6. Expression orale et écrite	14. Expression orale et écrite	7. Expression orale et écrite	15. Projection de film. Analyse et discussion.	8. Expression orale et écrite	
1. Expression orale et écrite	9. Expression orale et écrite																				
2. Expression orale et écrite	10. Expression orale et écrite																				
3. Expression orale et écrite	11. Expression orale et écrite																				
4. Expression orale et écrite	12. Expression orale et écrite																				
5. Expression orale et écrite	13. Expression orale et écrite																				
6. Expression orale et écrite	14. Expression orale et écrite																				
7. Expression orale et écrite	15. Projection de film. Analyse et discussion.																				
8. Expression orale et écrite																					
◇ 成績評価の方法	Une participation à tous les cours est nécessaire. La participation à l'oral compte pour 60%. L'évaluation sera aussi écrite (rédaction de plusieurs textes brefs).																				
◇ 教科書・参考書	A. Berthet, E. Daill, C. Hugot, V. M. Kizirian, M. Waendendries, Alter ego +, Paris, Editions Hachette Français langue étrangère, 2012.																				
◇ 授業時間外学習	Des photocopies seront fournies pour les premiers cours. Des exercices permettront de revoir du vocabulaire ou des points de grammaire. Il faudra aussi rédiger des textes brefs en relation avec l'objet du cours.																				
その他 :																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
地 理 歴 史 科 教 育 法 I Teaching Method of Geography and History Studies I	2	非常勤 講師 初 澤 敏 生	6	木	1
◆ 科目ナンバリング	LHM-EDU913J				
◆ 授業題目	高等学校の地理授業の設計と実践 (Teaching Method of Geography Study)				
◆ 目的・概要	「高等学校学習指導要領地理歴史編解説」についての解説を行い、その特徴と課題を把握する。合わせて教科書分析を行い、その授業化のための留意点などを検討する。次いで、受講生が授業案を作成し、それに関する討議・講評を行う。その後、受講生をいくつかのグループに分けて模擬授業を作成・実践し、それについての討議を行う。模擬授業は各グループごとに50分1コマ分を行い、各授業実践に関して受講者全員で討議する。				
◆ 到達目標	平成21年度改訂学習指導要領の特徴と課題を理解した上で、高等学校地理の授業づくりに関する基礎的な考え方と方法、技能を身につける。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に関するガイダンスと授業案作成にあたっての留意点 2. 平成21年度改訂学習指導要領に関する解説 (A科目を中心に) 3. 教科書分析 (A科目を中心に) 4. 平成21年度改訂学習指導要領に関する解説 (B科目の系統学習を中心に) 5. 教科書分析 (B科目の系統学習を中心に) 6. 平成21年度改訂学習指導要領に関する解説 (B科目の地域学習を中心に) 7. 教科書分析 (B科目の地域学習を中心に) 8. 今後の学習指導要領について/防災教育について 9. 授業案の講評 (A科目を中心に) 10. 授業案の講評 (B科目を中心に) 11. 模擬授業 (グループA) の実践と討議、講評 ① 12. 模擬授業 (グループB) の実践と討議、講評 ② 13. 模擬授業 (グループC) の実践と討議、講評 ③ 14. 模擬授業 (グループD) の実践と討議、講評 ④ 15. 振り返りと学習内容の定着 				
◇ 成績評価の方法	模擬授業の評価と授業づくりへの貢献度 (50%)、作成した授業案の評価 (40%)、授業中の積極性 (10%)				
◇ 教科書・参考書	文部科学省『学習指導要領解説 地理歴史編』(教育出版、平成22年6月) 必携のこと。				
◇ 授業時間外学習	授業時間外に授業案づくりに関する課題を課す。また、グループ作成となる模擬授業づくりの準備等は授業時間外に行うことになるので、準備しておくこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
地 理 歴 史 科 教 育 法 II Teaching Method of Geography and History Studies II	2	非常勤 講師 菊 地 茂 樹	5	木	1
◆ 科目ナンバリング	LHM-EDU914J				
◆ 授業題目	高等学校の歴史授業の設計と実践 (Teaching Method of History Study)				
◆ 目的・概要	社会科教育の歴史及び教育課程の変遷を踏まえ、地理歴史科誕生の意義を明らかにするとともに、各科目の基本的な内容や特質を理解する。さらに、教材研究の仕方や学習指導案の作成など授業実践のための基礎を学ぶ。そのうえで、学習指導案を作成・検討し、グループ単位で模擬授業を行うことによって、授業構成や発問・板書など教育実習に向けた実践的な指導法や心構えを身につける。				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ①学習指導要領の変遷を踏まえた地理歴史科の目的、内容を理解する。 ②歴史系科目の構造、内容、特質を把握する。 ③各自の専門科目の学習指導案を作成する。 ④模擬授業をとらして授業構成力や実践力を高めるとともに、教育実習に向けての心構えを身につける。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に関するガイダンスと社会科の存在意義 2. 教育課程の変遷と社会科の再編成 3. 世界史A・Bの目標と内容 4. 日本史A・Bの目標と内容 5. 学習指導要領の「指導上の配慮事項」、追加項目 6. 授業と学習指導案の関係 (VTR視聴) 7. 教材研究の意義と方法 8. 学習指導案の書き方 9. 学習指導案の講評 (世界史A・B) 10. 学習指導案の講評 (日本史A・B) 11. 模擬授業と授業評価 ① (演習) 12. 模擬授業と授業評価 ② (演習) 13. 模擬授業と授業評価 ③ (演習) 14. 模擬授業と授業評価 ④ (演習) 15. 振り返りと学習内容の定着 				
◇ 成績評価の方法	模擬授業の評価 (40%)、学習指導案の評価 (30%)、小テスト (20%)、授業への参加・態度 (10%)。				
◇ 教科書・参考書	文部科学省『学習指導要領解説 地理歴史編』(平成22年6月) 必携のこと。				
◇ 授業時間外学習	授業時間外に学習指導案の作成、模擬授業づくりの準備を行う。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 科 教 育 法 I Teaching Method of Religions Studies I	2	准教授 山田仁史	5	金	1																
◆ 科目ナンバリング	LHM-EDU915J																				
◆ 授業題目	岡正雄の日本宗教論(1) (Masao Oka's thesis on Japanese religion)																				
◆ 目的・概要	民族学者・岡正雄 (1898-1982) は戦前ウィーンにおいて『古日本の文化層』を著し、日本の宗教について新たな知見を提出した。これは皇国史観とは相容れない内容をふくみ、戦後日本の宗教教育にも直接間接に影響を及ぼしたと見なすことができる。 本授業では、岡のドイツ語原文を読解することから内容を考察し、戦後日本の宗教教育について再考したい。																				
◆ 到達目標	岡正雄のドイツ語を精確に読解し、戦後日本の宗教観・宗教教育について考察を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. はじめに：岡正雄とその著作</td> <td style="width:50%;">9. Religion 8</td> </tr> <tr> <td>2. Religion 1</td> <td>10. Religion 9</td> </tr> <tr> <td>3. Religion 2</td> <td>11. Religion 10</td> </tr> <tr> <td>4. Religion 3</td> <td>12. Religion 11</td> </tr> <tr> <td>5. Religion 4</td> <td>13. Religion 12</td> </tr> <tr> <td>6. Religion 5</td> <td>14. Religion 13</td> </tr> <tr> <td>7. Religion 6</td> <td>15. 小括</td> </tr> <tr> <td>8. Religion 7</td> <td></td> </tr> </table>					1. はじめに：岡正雄とその著作	9. Religion 8	2. Religion 1	10. Religion 9	3. Religion 2	11. Religion 10	4. Religion 3	12. Religion 11	5. Religion 4	13. Religion 12	6. Religion 5	14. Religion 13	7. Religion 6	15. 小括	8. Religion 7	
1. はじめに：岡正雄とその著作	9. Religion 8																				
2. Religion 1	10. Religion 9																				
3. Religion 2	11. Religion 10																				
4. Religion 3	12. Religion 11																				
5. Religion 4	13. Religion 12																				
6. Religion 5	14. Religion 13																				
7. Religion 6	15. 小括																				
8. Religion 7																					
◇ 成績評価の方法	担当部分の発表 (50%) と討論への参加状況 (50%) により評価する。																				
◇ 教科書・参考書	テキストは、Oka, Masao, Kulturschichten in Alt-Japan, 2 Bde. Bonn: Bier'sche Verlagsanstalt, 2012. (Kap. 5. 3 Religion)。 入手方法は初回に指示します。																				
◇ 授業時間外学習	岡の独文読解と和訳に精力的に取り組んでください。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 科 教 育 法 II Teaching Method of Religions Studies II	2	准教授 山田仁史	6	金	1																
◆ 科目ナンバリング	LHM-EDU916J																				
◆ 授業題目	岡正雄の日本宗教論(2) (Masao Oka's thesis on Japanese religion)																				
◆ 目的・概要	民族学者・岡正雄 (1898-1982) は戦前ウィーンにおいて『古日本の文化層』を著し、日本の宗教について新たな知見を提出した。これは皇国史観とは相容れない内容をふくみ、戦後日本の宗教教育にも直接間接に影響を及ぼしたと見なすことができる。 本授業では、岡のドイツ語原文を読解することから内容を考察し、戦後日本の宗教教育について再考したい。																				
◆ 到達目標	岡正雄のドイツ語を精確に読解し、戦後日本の宗教観・宗教教育について考察を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. Religion 14</td> <td style="width:50%;">9. Religion 22</td> </tr> <tr> <td>2. Religion 15</td> <td>10. Religion 23</td> </tr> <tr> <td>3. Religion 16</td> <td>11. Religion 24</td> </tr> <tr> <td>4. Religion 17</td> <td>12. Religion 25</td> </tr> <tr> <td>5. Religion 18</td> <td>13. Religion 26</td> </tr> <tr> <td>6. Religion 19</td> <td>14. Religion 27</td> </tr> <tr> <td>7. Religion 20</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. Religion 21</td> <td></td> </tr> </table>					1. Religion 14	9. Religion 22	2. Religion 15	10. Religion 23	3. Religion 16	11. Religion 24	4. Religion 17	12. Religion 25	5. Religion 18	13. Religion 26	6. Religion 19	14. Religion 27	7. Religion 20	15. 全体のまとめ	8. Religion 21	
1. Religion 14	9. Religion 22																				
2. Religion 15	10. Religion 23																				
3. Religion 16	11. Religion 24																				
4. Religion 17	12. Religion 25																				
5. Religion 18	13. Religion 26																				
6. Religion 19	14. Religion 27																				
7. Religion 20	15. 全体のまとめ																				
8. Religion 21																					
◇ 成績評価の方法	担当部分の発表 (50%) と討論への参加状況 (50%) により評価する。																				
◇ 教科書・参考書	テキストは、Oka, Masao, Kulturschichten in Alt-Japan, 2 Bde. Bonn: Bier'sche Verlagsanstalt, 2012. (Kap. 5. 3 Religion)																				
◇ 授業時間外学習	岡の独文読解と和訳に精力的に取り組んでください。																				
その他：																					

海外研修科目一覽

授業科目	講義題目	単位	担当教員 氏名	開講 Semester	曜日	講時	頁
			氏名				
基礎海外研修Ⅰ	基礎海外研修Ⅰ	3	学務教育室長	通年			303
基礎海外研修Ⅱ	基礎海外研修Ⅱ	6	学務教育室長	通年			303
発展海外研修Ⅰ	発展海外研修Ⅰ	3	学務教育室長	通年			304
発展海外研修Ⅱ	発展海外研修Ⅱ	6	学務教育室長	通年			304

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
基 礎 海 外 研 修 I Overseas Study (Introductory Seminar) I	3	学務教育室長	通 年																		
◆ 科目ナンバリング	LHM-OAR903J																				
◆ 授業題目	基礎海外研修 I (Overseas Study (Introductory Seminar) I)																				
◆ 目的・概要	この授業は、3か月以上の海外留学を行うものを対象とし、その海外留学経験を深化させることを目的とする。 海外留学中に月一回程度のレポートを提出し（電子メール）、帰国後には留学で学んだことを整理し、総合的に振り返るレポートを提出してもらう。また面接を実施し、留学で得た知見を発表してもらう。																				
◆ 到達目標	海外留学で得た経験と知識をきちんと表現できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. レポート作成とそれに基づいた指導 1</td> <td>9. レポート作成とそれに基づいた指導 9</td> </tr> <tr> <td>2. レポート作成とそれに基づいた指導 2</td> <td>10. レポート作成とそれに基づいた指導 10</td> </tr> <tr> <td>3. レポート作成とそれに基づいた指導 3</td> <td>11. レポート作成とそれに基づいた指導 11</td> </tr> <tr> <td>4. レポート作成とそれに基づいた指導 4</td> <td>12. レポート作成とそれに基づいた指導 12</td> </tr> <tr> <td>5. レポート作成とそれに基づいた指導 5</td> <td>13. レポート作成とそれに基づいた指導 13</td> </tr> <tr> <td>6. レポート作成とそれに基づいた指導 6</td> <td>14. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 1</td> </tr> <tr> <td>7. レポート作成とそれに基づいた指導 7</td> <td>15. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 2</td> </tr> <tr> <td>8. レポート作成とそれに基づいた指導 8</td> <td></td> </tr> </table>					1. レポート作成とそれに基づいた指導 1	9. レポート作成とそれに基づいた指導 9	2. レポート作成とそれに基づいた指導 2	10. レポート作成とそれに基づいた指導 10	3. レポート作成とそれに基づいた指導 3	11. レポート作成とそれに基づいた指導 11	4. レポート作成とそれに基づいた指導 4	12. レポート作成とそれに基づいた指導 12	5. レポート作成とそれに基づいた指導 5	13. レポート作成とそれに基づいた指導 13	6. レポート作成とそれに基づいた指導 6	14. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 1	7. レポート作成とそれに基づいた指導 7	15. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 2	8. レポート作成とそれに基づいた指導 8	
1. レポート作成とそれに基づいた指導 1	9. レポート作成とそれに基づいた指導 9																				
2. レポート作成とそれに基づいた指導 2	10. レポート作成とそれに基づいた指導 10																				
3. レポート作成とそれに基づいた指導 3	11. レポート作成とそれに基づいた指導 11																				
4. レポート作成とそれに基づいた指導 4	12. レポート作成とそれに基づいた指導 12																				
5. レポート作成とそれに基づいた指導 5	13. レポート作成とそれに基づいた指導 13																				
6. レポート作成とそれに基づいた指導 6	14. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 1																				
7. レポート作成とそれに基づいた指導 7	15. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 2																				
8. レポート作成とそれに基づいた指導 8																					
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]・面接試験 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	なし。																				
◇ 授業時間外学習	留学先の大学で学んだことと共に、日々の暮らしを通じ、日本との文化的な違い・驚きを、きちんと記録しておくこと。																				
この授業は3ヶ月以上の海外留学を行って帰国したものを対象とする。																					
その他：海外留学に関連した授業としては「基礎海外研修Ⅰ」、「基礎海外研修Ⅱ」、「発展海外研修Ⅰ」、「発展海外研修Ⅱ」があるが、合計6単位を上限とする。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
基 礎 海 外 研 修 II Overseas Study (Introductory Seminar) II	6	学務教育室長	通 年																		
◆ 科目ナンバリング	LHM-OAR905J																				
◆ 授業題目	基礎海外研修Ⅱ (Overseas Study (Introductory Seminar) II)																				
◆ 目的・概要	この授業は、6か月以上の海外留学を行うものを対象とし、その海外留学経験を深化させることを目的とする。 海外留学中に月一回程度のレポートを提出し（電子メール）、帰国後には留学で学んだことを整理し、総合的に振り返るレポートを提出してもらう。また面接を実施し、留学で得た知見を発表してもらう。																				
◆ 到達目標	海外留学で得た経験と知識をきちんと表現できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. レポート作成とそれに基づいた指導 1</td> <td>9. レポート作成とそれに基づいた指導 9</td> </tr> <tr> <td>2. レポート作成とそれに基づいた指導 2</td> <td>10. レポート作成とそれに基づいた指導 10</td> </tr> <tr> <td>3. レポート作成とそれに基づいた指導 3</td> <td>11. レポート作成とそれに基づいた指導 11</td> </tr> <tr> <td>4. レポート作成とそれに基づいた指導 4</td> <td>12. レポート作成とそれに基づいた指導 12</td> </tr> <tr> <td>5. レポート作成とそれに基づいた指導 5</td> <td>13. レポート作成とそれに基づいた指導 13</td> </tr> <tr> <td>6. レポート作成とそれに基づいた指導 6</td> <td>14. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 1</td> </tr> <tr> <td>7. レポート作成とそれに基づいた指導 7</td> <td>15. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 2</td> </tr> <tr> <td>8. レポート作成とそれに基づいた指導 8</td> <td></td> </tr> </table>					1. レポート作成とそれに基づいた指導 1	9. レポート作成とそれに基づいた指導 9	2. レポート作成とそれに基づいた指導 2	10. レポート作成とそれに基づいた指導 10	3. レポート作成とそれに基づいた指導 3	11. レポート作成とそれに基づいた指導 11	4. レポート作成とそれに基づいた指導 4	12. レポート作成とそれに基づいた指導 12	5. レポート作成とそれに基づいた指導 5	13. レポート作成とそれに基づいた指導 13	6. レポート作成とそれに基づいた指導 6	14. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 1	7. レポート作成とそれに基づいた指導 7	15. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 2	8. レポート作成とそれに基づいた指導 8	
1. レポート作成とそれに基づいた指導 1	9. レポート作成とそれに基づいた指導 9																				
2. レポート作成とそれに基づいた指導 2	10. レポート作成とそれに基づいた指導 10																				
3. レポート作成とそれに基づいた指導 3	11. レポート作成とそれに基づいた指導 11																				
4. レポート作成とそれに基づいた指導 4	12. レポート作成とそれに基づいた指導 12																				
5. レポート作成とそれに基づいた指導 5	13. レポート作成とそれに基づいた指導 13																				
6. レポート作成とそれに基づいた指導 6	14. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 1																				
7. レポート作成とそれに基づいた指導 7	15. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 2																				
8. レポート作成とそれに基づいた指導 8																					
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]・面接試験 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	なし。																				
◇ 授業時間外学習	留学先の大学で学んだことと共に、日々の暮らしを通じ、日本との文化的な違い・驚きを、きちんと記録しておくこと。																				
この授業は6ヶ月以上の海外留学を行って帰国したものを対象とする。																					
その他：海外留学に関連した授業としては「基礎海外研修Ⅰ」、「基礎海外研修Ⅱ」、「発展海外研修Ⅰ」、「発展海外研修Ⅱ」があるが、合計6単位を上限とする。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
発 展 海 外 研 修 Overseas Study (Seminar) I	I 3	学務教育室長	通 年																		
◆ 科目ナンバリング	LHM-OAR905J																				
◆ 授業題目	発展海外研修Ⅰ (Overseas Study (Advanced Seminar) I)																				
◆ 目的・概要	この授業は、3か月以上の海外留学を行うものを対象とし、その海外留学経験を深化・発展させることを目的とする。 海外留学中に月一回程度のレポートを提出し（電子メール）、帰国後には留学で学んだことを整理し、総合的に振り返るレポートを提出してもらう。また面接を実施し、留学で得た知見を発表してもらう。																				
◆ 到達目標	海外留学で得た経験と知識をきちんと表現できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. レポート作成とそれに基づいた指導 1</td> <td>9. レポート作成とそれに基づいた指導 9</td> </tr> <tr> <td>2. レポート作成とそれに基づいた指導 2</td> <td>10. レポート作成とそれに基づいた指導 10</td> </tr> <tr> <td>3. レポート作成とそれに基づいた指導 3</td> <td>11. レポート作成とそれに基づいた指導 11</td> </tr> <tr> <td>4. レポート作成とそれに基づいた指導 4</td> <td>12. レポート作成とそれに基づいた指導 12</td> </tr> <tr> <td>5. レポート作成とそれに基づいた指導 5</td> <td>13. レポート作成とそれに基づいた指導 13</td> </tr> <tr> <td>6. レポート作成とそれに基づいた指導 6</td> <td>14. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 1</td> </tr> <tr> <td>7. レポート作成とそれに基づいた指導 7</td> <td>15. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 2</td> </tr> <tr> <td>8. レポート作成とそれに基づいた指導 8</td> <td></td> </tr> </table>					1. レポート作成とそれに基づいた指導 1	9. レポート作成とそれに基づいた指導 9	2. レポート作成とそれに基づいた指導 2	10. レポート作成とそれに基づいた指導 10	3. レポート作成とそれに基づいた指導 3	11. レポート作成とそれに基づいた指導 11	4. レポート作成とそれに基づいた指導 4	12. レポート作成とそれに基づいた指導 12	5. レポート作成とそれに基づいた指導 5	13. レポート作成とそれに基づいた指導 13	6. レポート作成とそれに基づいた指導 6	14. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 1	7. レポート作成とそれに基づいた指導 7	15. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 2	8. レポート作成とそれに基づいた指導 8	
1. レポート作成とそれに基づいた指導 1	9. レポート作成とそれに基づいた指導 9																				
2. レポート作成とそれに基づいた指導 2	10. レポート作成とそれに基づいた指導 10																				
3. レポート作成とそれに基づいた指導 3	11. レポート作成とそれに基づいた指導 11																				
4. レポート作成とそれに基づいた指導 4	12. レポート作成とそれに基づいた指導 12																				
5. レポート作成とそれに基づいた指導 5	13. レポート作成とそれに基づいた指導 13																				
6. レポート作成とそれに基づいた指導 6	14. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 1																				
7. レポート作成とそれに基づいた指導 7	15. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 2																				
8. レポート作成とそれに基づいた指導 8																					
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]・面接試験 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	なし。																				
◇ 授業時間外学習	留学先の大学で学んだことと共に、日々の暮らしを通じ、日本との文化的な違い・驚きを、きちんと記録しておくこと。																				
この授業は3ヶ月以上の海外留学を行って帰国したものを対象とする。 その他：海外留学に関連した授業としては「基礎海外研修Ⅰ」、「基礎海外研修Ⅱ」、「発展海外研修Ⅰ」、「発展海外研修Ⅱ」があるが、合計6単位を上限とする。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
発 展 海 外 研 修 Overseas Study (Seminar) II	II 6	学務教育室長	通 年																		
◆ 科目ナンバリング	LHM-OAR908J																				
◆ 授業題目	発展海外研修Ⅱ (Overseas Study (Advanced Seminar) II)																				
◆ 目的・概要	この授業は、6か月以上の海外留学を行うものを対象とし、その海外留学経験を深化・発展させることを目的とする。 海外留学中に月一回程度のレポートを提出し（電子メール）、帰国後には留学で学んだことを整理し、総合的に振り返るレポートを提出してもらう。また面接を実施し、留学で得た知見を発表してもらう。																				
◆ 到達目標	海外留学で得た経験と知識をきちんと表現できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. レポート作成とそれに基づいた指導 1</td> <td>9. レポート作成とそれに基づいた指導 9</td> </tr> <tr> <td>2. レポート作成とそれに基づいた指導 2</td> <td>10. レポート作成とそれに基づいた指導 10</td> </tr> <tr> <td>3. レポート作成とそれに基づいた指導 3</td> <td>11. レポート作成とそれに基づいた指導 11</td> </tr> <tr> <td>4. レポート作成とそれに基づいた指導 4</td> <td>12. レポート作成とそれに基づいた指導 12</td> </tr> <tr> <td>5. レポート作成とそれに基づいた指導 5</td> <td>13. レポート作成とそれに基づいた指導 13</td> </tr> <tr> <td>6. レポート作成とそれに基づいた指導 6</td> <td>14. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 1</td> </tr> <tr> <td>7. レポート作成とそれに基づいた指導 7</td> <td>15. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 2</td> </tr> <tr> <td>8. レポート作成とそれに基づいた指導 8</td> <td></td> </tr> </table>					1. レポート作成とそれに基づいた指導 1	9. レポート作成とそれに基づいた指導 9	2. レポート作成とそれに基づいた指導 2	10. レポート作成とそれに基づいた指導 10	3. レポート作成とそれに基づいた指導 3	11. レポート作成とそれに基づいた指導 11	4. レポート作成とそれに基づいた指導 4	12. レポート作成とそれに基づいた指導 12	5. レポート作成とそれに基づいた指導 5	13. レポート作成とそれに基づいた指導 13	6. レポート作成とそれに基づいた指導 6	14. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 1	7. レポート作成とそれに基づいた指導 7	15. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 2	8. レポート作成とそれに基づいた指導 8	
1. レポート作成とそれに基づいた指導 1	9. レポート作成とそれに基づいた指導 9																				
2. レポート作成とそれに基づいた指導 2	10. レポート作成とそれに基づいた指導 10																				
3. レポート作成とそれに基づいた指導 3	11. レポート作成とそれに基づいた指導 11																				
4. レポート作成とそれに基づいた指導 4	12. レポート作成とそれに基づいた指導 12																				
5. レポート作成とそれに基づいた指導 5	13. レポート作成とそれに基づいた指導 13																				
6. レポート作成とそれに基づいた指導 6	14. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 1																				
7. レポート作成とそれに基づいた指導 7	15. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 2																				
8. レポート作成とそれに基づいた指導 8																					
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]・面接試験 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	なし。																				
◇ 授業時間外学習	留学先の大学で学んだことと共に、日々の暮らしを通じ、日本との文化的な違い・驚きを、きちんと記録しておくこと。																				
この授業は6ヶ月以上の海外留学を行って帰国したものを対象とする。 その他：海外留学に関連した授業としては「基礎海外研修Ⅰ」、「基礎海外研修Ⅱ」、「発展海外研修Ⅰ」、「発展海外研修Ⅱ」があるが、合計6単位を上限とする。																					

職業関連科目一覧

授業科目	講義題目	単位	担当教員 氏名	開講 Semester	曜日	講時	頁
キャリアデザイン講座	キャリア・イメージを作る	2	入試就職室長	4	木	3	306
インターンシップ	インターンシップ(就業・ボランティア体験)	2	文学部教官	通年			306

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
キ ャ リ ア デ ザ イ ン 講 座 C a r r i e r D e s i g n C o u r s e	2	入 試 就 職 室 長	4	木	3
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHM-OAR901J キャリア・イメージを作る (For making a concept of your own profession) 卒業後、どのような形で自分が「社会」に関わってゆくのかを考え、そのスタートに向けた準備をすることは、専門の勉強と並んで、学生時代に取り組まなくてはならない最重要テーマのひとつです。進路選択へ向けた準備として重要なことは、企業や官公庁で働く自分の姿を具体的にイメージし、就職へのモチベーションを高めることです。「具体的に」という意味は、たんに業種や職種を見きわめるというだけでなく、労働の対価を得て自立した生活を営むことの意義を認識し、またそれを支えている今の社会の経済的な仕組みがどうなっているのか、その中で自分にはどんな権利と義務が生じてくるのかなど、「生活」の全体に関する理解を持つということです。今年度から開講されるこのキャリアデザイン講座では、「働く人」になってゆくために必要な基礎的知識を提供するとともに、具体性のあるキャリア・イメージを形成してゆけるよう、様々な角度からのガイダンスを行います。なおこの授業は、キャリア支援センターとの連携によるものですが、取得単位は学部専門教育科目として卒業単位にカウントされます (学生便覧で確認のこと)。				
◆ 到達目標	職業生活についての具体的なイメージを得て、自らのキャリアについて主体的に構想していけるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. オリエンテーション 2. 日本経済の基本構造について (1) 3. 日本経済の基本構造について (2) 4. ビジネス全般について (1) 5. ビジネス全般について (2) 6. ビジネス全般について (3) 7. 公務員 8. 労働法 9. 二十歳のハローワーク 10. 業界研究 (1) 11. 業界研究 (2) 12. 業界研究 (3) 13. 自己分析と就職活動 (1) 14. 自己分析と就職活動 (2) 15. まとめ				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	授業と指定されたセミナーへの出席およびその報告の提出 (100%)。 特になし。 授業中に指示された課題の準備。日常的に、新聞・ネット等を通じて経済情報に目配りすること。				
その他 :					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン タ ー ン シ ッ プ I n t e r n s h i p	2	文 学 部 教 官	通 年		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHM-OAR902J インターンシップ (就業・ボランティア体験) (Internship (working and volunteer activities)) 実質10日間以上 (60時間以上) にわたる企業等での就業体験またはボランティア体験について、2単位を授業単位として認める。大まかな流れは以下の通りである。 (1)4月 履修を希望する学生は、ガイダンスに出席し、履修届を提出する。 (2)4月～7月 履修学生は、学部が提供する受入企業等の情報をもとに、あるいはみずから情報を収集して、各自インターンシップに応募し、受入内諾書を得たい教務係に提出する。 (3)夏期休業中 履修学生は、実習を行い、実習修了証明書および報告書・評価書 (いずれも学部で定めた様式による) を終了後1週間以内に教務係に提出する。 (4)1月 履修学生は、報告会で報告する。				
◆ 到達目標	自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験または震災復興等ボランティア体験を行うことによって、職業適性や資質を正しく認識し、高い意識のもとで主体的な職業選択ができるようになる。また、社会体験を大学での勉強にフィードバックすることで、学生生活をより実りあるものとする。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス 2. 受入企業等での実習、ボランティア活動 3. 受入企業等での実習、ボランティア活動 4. 受入企業等での実習、ボランティア活動 5. 受入企業等での実習、ボランティア活動 6. 受入企業等での実習、ボランティア活動 7. 受入企業等での実習、ボランティア活動 8. 受入企業等での実習、ボランティア活動 9. 受入企業等での実習、ボランティア活動 10. 受入企業等での実習、ボランティア活動 11. 受入企業等での実習、ボランティア活動 12. 受入企業等での実習、ボランティア活動 13. 受入企業等での実習、ボランティア活動 14. 受入企業等での実習、ボランティア活動 15. 事後報告会での発表				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	(1)ガイダンスへの出席、(2)実習修了証明書の提出、(3)実習報告書・評価書の提出、(4)事後報告会での発表 ガイダンスで指示する。 この科目は、受入企業等での履修学生の実習、あるいは震災復興等ボランティア活動を中心としている。				
その他 :	(1)選択必修科目としては2単位を上限とする。(2)就業体験は、夏期休業中に行うことを奨励する。 (3)インターンシップという名称でなくとも、実質それに相当すると見なされる就業体験については、単位取得の対象として認めるので、担当教員に相談すること (福祉・医療施設での実習など)。				

平成29年度 文学研究科学年暦

授業日程等	主な行事及び書類提出期日等	備 考	
第1学期 授業期間 自4月7日(金) 至7月24日(月)	入学式	4月5日(水)午前	
	入学者オリエンテーション	4月5日(水)午後	
	WEB履修登録期間		
	研究題目提出期限 (MC1、DC1)	4月11日(火)	
	定期健康診断	5月中旬	
	教育実習 (前期) (2又は3週間)	5月中旬～7月上旬	
	介護等体験参加申込書提出期限	6月中旬	
	オープン研究室	6月中旬	
	創立記念日	6月22日(木)	
	修士論文・修士研究題目届提出期限	6月26日(月)	
	論文作成計画書提出期限 (DC1)	7月21日(金)	
	大学院説明会	7月25日(火)～26日(水)	
	大学院入学願書 (秋期) 受付期間	8月2日(水)～8日(火)	
	修士論文・修士研究提出期限	7月31日(月)	
介護等体験事前指導	9月上旬		
大学院入学試験 (秋期)	9月13日(水)～15日(金)		
学位記授与式 (修士・博士)	9月25日(月)		
第1学期 補講期間 自7月27日(木) 至8月2日(水) ※7月25日～26日 は休業日		文学部第1講義室 日程は掲示等で連絡	
			日程は掲示等で連絡
			協力校 (中・高) 及び 出身校 (中・高)
			授業を行う
			9月修了予定者
			提出先：指導教員
			一般選抜・社会人特別選抜
			9月修了予定者
			日程は掲示等で連絡
夏季休業期間 自8月3日(木) 至9月29日(金)			
第2学期 授業期間 自10月2日(月) 至1月29日(月)	修士論文・修士研究題目届提出期限	10月6日(金)	
	教育実習参加申込書提出期限	10月上旬	
	WEB履修登録期間		
	教育実習 (後期) (3週間)	10月中旬～11月上旬	
	大学祭	11月3日(金)～5日(日)	
	教育実習事前指導	11月中旬	
	中間論文提出期限 (DC2)	11月24日(金)	
	博士論文題目等調査書提出期限	12月8日(金)	
	教員免許状出願期限	12月下旬	
	大学院入学願書 (春期) 受付期間	1月9日(火)～15日(月)	
	博士論文提出期限	1月4日(木)	
	修士論文・修士研究提出期限	1月5日(金)	
	大学院入学試験 (春期)	1月31日(水)～2月2日(金)	
	研究生・科目等履修生入学願書受付	2月9日(金)～16日(金)	
修了者決定の掲示	3月上旬		
学位記授与式 (修士・博士)	3月27日(火)		
第2学期 補講期間 自2月5日(月) 至2月9日(金)		次年度希望者 日程は掲示等で連絡 協力校 (中)	
			次年度履修希望者 日程は掲示等で連絡
			提出先：指導教員
			年度内修了予定者
			日程は掲示等で連絡
			年度内修了予定者
			3月修了予定者
論文口頭 試問期間 自2月5日(月) 至2月15日(木)			

(注1) 定期試験の期間は特に設けず、授業担当教員の判断により当該セメスター (学年) 内に随時実施する。

(注2) 6月22日 (木) は創立記念日であるが授業を行う。

大学院開講科目一覧

国文学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員名		開学 講期	曜日	講時	頁
			氏名					
国文学特論Ⅰ	『源氏物語』の探究	2	横	溝 博	1学期	月	5	338
国文学特論Ⅱ	『源氏物語』の探究	2	横	溝 博	2学期	月	5	338
国文学特論Ⅲ	日本古典書誌学入門	2	㊦	佐々木 孝 浩	集 中 (1学期)			339
国文学研究演習Ⅰ	日本文芸の考究とその論述の方法	2	佐 藤	伸 宏 横 溝 泰博	1学期	火	4	339
国文学研究演習Ⅱ	日本文芸の考究とその論述の方法	2	佐 藤	伸 宏 横 溝 泰博	2学期	火	4	340
日本文芸形成論研究演習Ⅰ	大正文学の研究	2	佐 藤	伸 宏	1学期	水	2	340
日本文芸形成論研究演習Ⅱ	大正文学の研究	2	佐 藤	伸 宏	2学期	水	2	341
日本文芸形成論研究演習Ⅲ	日本文学テキストの外国語翻訳に関する研究	2	佐 藤	伸 宏	1学期	水	5	341
日本文芸形成論研究演習Ⅳ	日本文学テキストの外国語翻訳に関する研究	2	佐 藤	伸 宏	2学期	水	5	342
日本文芸形成論研究演習Ⅴ	源義経と曾我兄弟をめぐる物語の表現形成	2	佐 倉	由 泰	1学期	木	2	342
日本文芸形成論研究演習Ⅵ	源義経と曾我兄弟をめぐる物語の表現形成	2	佐 倉	由 泰	2学期	木	2	343
課 題 研 究 (国 文 学)		4	佐 藤	伸 宏 横 溝 泰博	通 年	月	1	

日本思想史専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員名		開学 講期	曜日	講時	頁
			氏	名				
日本思想史特論Ⅰ	日本人と神	2	佐藤弘夫		1学期	火	1	344
日本思想史特論Ⅱ	現人神の誕生	2	佐藤弘夫		2学期	火	1	344
日本思想史特論Ⅲ	近代日本の政治思想	2	⑤ 大久保健晴		集中 (2学期)			345
日本思想史特論Ⅳ	老いと死をめぐる日本思想史	2	⑤ 本村昌文		集中 (2学期)			345
日本思想史研究演習Ⅰ	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	佐藤弘夫		1学期	水	5	346
日本思想史研究演習Ⅱ	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	佐藤弘夫		2学期	水	5	346
課題研究 (日本思想史)		4	佐藤弘夫		通年	水	4	

中国語学中国文学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
中国語学中国文学特論Ⅰ	唐詩と唐代社会（胡曾の《詠史詩》）	2	馬	曉 地	1 学期	火	4	347
中国語学中国文学特論Ⅱ	唐詩と唐代社会（胡曾の《詠史詩》）	2	馬	曉 地	2 学期	火	4	347
中国語学中国文学特論Ⅲ	20世紀中国文学における女学生表象	2	濱 田	麻 矢	集 中 (1 学期)			348
中国語学中国文学研究演習Ⅰ	中国語学史中国文学史上の諸問題	2	佐 土	竹 屋 保 子	1 学期	月	5	348
中国語学中国文学研究演習Ⅱ	中国語学史中国文学史上の諸問題	2	佐 土	竹 屋 保 子	2 学期	月	5	349
中国語学中国文学研究演習Ⅰ	中国当代文学研究	2	馬	曉 地	1 学期	木	2	349
中国語学中国文学研究演習Ⅱ	中国当代文学研究	2	馬	曉 地	2 学期	木	2	350
中国語学中国文学研究演習Ⅰ	中国の俗文学を読む	2	土 屋	育 子	1 学期	水	5	350
中国語学中国文学研究演習Ⅱ	中国の俗文学を読む	2	土 屋	育 子	2 学期	水	4	351
中国語学中国文学研究演習Ⅰ	漢魏六朝詩、及びその背後にある文献研究	2	佐 竹	保 子	1 学期	火	5	351
中国語学中国文学研究演習Ⅱ	漢魏六朝詩、及びその背後にある文献研究	2	佐 竹	保 子	2 学期	火	5	352
課 題 研 究 (中国語学中国文学)		4	佐 土	竹 屋 保 子	通 年	月	4	

中国思想中国哲学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員 名		開 学 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏	名				
中国思想中国哲学特論Ⅰ	中国近世・近代思想研究の現状と課題	2	三 浦 秀 一		1 学期	水	5	353
中国思想中国哲学特論Ⅱ	中国古代中世思想研究の現状と課題	2	齋 藤 智 寛		2 学期	水	5	353
中国思想中国哲学特論Ⅲ	諸子の「辯」の論理と、『易』の術数の思考	2	⑤ 近 藤 浩 之		集 中 (1 学期)			354
中国思想中国哲学研究演習Ⅰ	楊文会等『仏教宗派詳注』輪読	2	齋 藤 智 寛		1 学期	水	2	354
中国思想中国哲学研究演習Ⅱ	文才『肇論新疏』精読	2	齋 藤 智 寛		2 学期	水	2	355
中国思想中国哲学研究演習Ⅲ	陽明後学研究 1	2	三 浦 秀 一		1 学期	金	2	355
中国思想中国哲学研究演習Ⅳ	陽明後学研究 2	2	三 浦 秀 一		2 学期	金	2	356
中国思想中国哲学研究演習Ⅰ	中国思想研究上の諸問題 1	2	三 齋 浦 藤 秀 智 一 寛		1 学期	金	5	356
中国思想中国哲学研究演習Ⅱ	中国思想研究上の諸問題 2	2	三 齋 浦 藤 秀 智 一 寛		2 学期	金	5	357
課 題 研 究 (中国思想中国哲学)		4	三 齋 浦 藤 秀 智 一 寛		通 年	月	5	

インド学仏教史専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏	名				
インド学特論Ⅰ	ヴェーダ文献講読(1)	2	㊦	西村直子	1学期	木	5	358
インド学特論Ⅱ	ヴェーダ文献講読(2)	2	㊦	尾園絢一	2学期	木	5	358
インド学特論Ⅲ	ジャイナ教概論	2	㊦	堀田和義	集 中 (2学期)			359
インド仏教史特論Ⅰ	Grags pa rgyal mtshan 著 『タントラ現観』の原典講読	2		桜井宗信	1学期	火	3	359
インド仏教史特論Ⅱ	Grags pa rgyal mtshan 著 『タントラ現観』の原典講読	2		桜井宗信	2学期	火	3	360
インド学研究演習Ⅰ	インド哲学文献研究(1)	2	㊦	尾園絢一	1学期	水	3	360
インド学研究演習Ⅱ	インド哲学文献研究(2)	2	㊦	西村直子	2学期	水	3	361
インド仏教史研究演習Ⅰ	梵蔵漢対照による『俱舎論』 の講読	2		桜井宗信	1学期	月	3	361
インド仏教史研究演習Ⅱ	梵蔵漢対照による『俱舎論』 の講読	2		桜井宗信	2学期	月	3	362
課 題 研 究 (インド学仏教史)		4		桜井宗信	通 年	金	4	

英文学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員名	開講期	曜日	講時	頁
			氏名				
英文学特論Ⅰ	Critical Theory	2	大河内 昌	1学期	金	3	363
英文学特論Ⅱ	Daniel Defoe, <i>Robinson Crusoe</i>	2	大河内 昌	2学期	金	3	363
英文学特論Ⅲ	近現代イギリス小説におけるユートピア/ディストピア	2	㊦ 秦 邦生	集中 (1学期)			364
英文学研究演習Ⅰ	Christopher Marlowe, <i>Tamburlaine</i> and Tudor Drama	2	ティンク ジェイムズ	1学期	火	3	364
英文学研究演習Ⅱ	Modernist poetry 1900-1940	2	ティンク ジェイムズ	2学期	火	3	365
英文学研究演習Ⅲ	Academic Writing for Graduate Studies	2	ティンク ジェイムズ	1学期	木	2	365
英文学研究演習Ⅳ	Academic Writing for Graduates	2	ティンク ジェイムズ	2学期	木	2	366
英語文化論特論Ⅰ	初期女性作家を読む(1)	2	㊦ 川田 潤	1学期	月	3	366
英語文化論特論Ⅱ	初期女性作家を読む(2)	2	㊦ 川田 潤	2学期	月	3	367
課題研究 (英文学)		4	大河内 昌 ティンク ジェイムズ	通年	金	4	

英語学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員 名		開 学 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏	名				
英 語 学 特 論 I	統語論と意味論における諸問題の研究 I	2	島	越 郎	1 学期	木	2	368
英 語 学 特 論 II	統語論と意味論における諸問題の研究 II	2	島	越 郎	2 学期	木	2	368
英 語 学 特 論 III	不定名詞句の諸問題	2	Ⓣ	藏 藤 健 雄	集 中 (1 学期)			369
英 語 学 研 究 演 習 I	英語学の諸問題研究 I	2	金 島	子 義 明 郎	1 学期	水	2	369
英 語 学 研 究 演 習 II	英語学の諸問題研究 II	2	金 島	子 義 明 郎	2 学期	水	2	370
英 語 解 析 学 特 論 I	統語論・意味論インターフェイス研究 I	2	金	子 義 明	1 学期	火	5	370
英 語 解 析 学 特 論 II	統語論・意味論インターフェイス研究 II	2	金	子 義 明	2 学期	火	5	371
課 題 研 究 (英 語 学)		4	金 島	子 義 明 郎	通 年	月	1	

ドイツ文学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
ド イ ツ 文 学 特 論 I	ドイツ (語) 文化圏の文化と歴史(1)	2	佐 藤 雪 野	1 学期	火	3	372
ド イ ツ 文 学 特 論 II	ドイツ (語) 文化圏の文化と歴史(2)	2	佐 藤 雪 野	2 学期	火	3	372
ド イ ツ 文 学 特 論 III	文芸批評研究「言語芸術とは何か」－ドイツの小説を中心に－	2	㊦ 堺 雅 志	集 中 (2 学期)			373
ドイツ文学研究演習 I	批評演習(1)	2	森 本 浩 一	1 学期	金	3	373
ドイツ文学研究演習 II	批評演習(2)	2	森 本 浩 一	2 学期	金	3	374
ドイツ文学研究演習 III	十八世紀ドイツ戯曲の誕生	2	㊦ 佐 藤 研 一	1 学期	木	4	374
ドイツ文学研究演習 IV	十八世紀ドイツ戯曲の誕生	2	㊦ 佐 藤 研 一	2 学期	木	4	375
ドイツ文化学特論 I	近現代ドイツ短編小説講読	2	嶋 崎 啓	1 学期	金	2	375
ドイツ文化学特論 II	近現代ドイツ短編小説講読	2	嶋 崎 啓	2 学期	金	2	376
ドイツ文化学研究演習 I	中高ドイツ語講読	2	嶋 崎 啓	1 学期	月	4	376
ドイツ文化学研究演習 II	中高ドイツ語講読	2	嶋 崎 啓	2 学期	月	4	377
ドイツ文化学研究演習 III	ドイツ文化学研究演習 III	2	ナ ロ ッ ク ハ イ コ	1 学期	火	2	377
ドイツ文化学研究演習 IV	ドイツ文化学研究演習 III	2	ナ ロ ッ ク ハ イ コ	2 学期	月	3	378
課 題 研 究 (ド イ ツ 文 学)		4	森 本 浩 一 嶋 崎 啓 ナ ロ ッ ク ハ イ コ		水	5	

フランス語学フランス文学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
フ ラ ン ス 文 学 特 論 I	フランス文学批評史(1)	2	今 井 勉	1 学期	木	2	379
フ ラ ン ス 文 学 特 論 II	フランス文学批評史(2)	2	今 井 勉	2 学期	木	2	379
フ ラ ン ス 文 学 特 論 III	フランス古典主義悲劇研究	2	㊦ 小 倉 博 孝	集 中 (1 学期)			380
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 I	『若きパルク』を読む(1)	2	今 井 勉	1 学期	水	2	380
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 II	『若きパルク』を読む(2)	2	今 井 勉	2 学期	水	2	381
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 III	Pierre Michon et la peinture	2	メ ヴ ェ ル ヤ ン	1 学期	水	4	381
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 IV	Pierre Michon et la peinture	2	メ ヴ ェ ル ヤ ン	2 学期	水	4	382
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 V	中世・ルネサンスの伝説伝文学研究(1)	2	黒 岩 卓	1 学期	月	3	382
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 VI	中世・ルネサンスの伝説伝文学研究(2)	2	黒 岩 卓	2 学期	月	3	383
フ ラ ン ス 語 学 研 究 演 習 I	フランス語学の現代的トピック I	2	阿 部 宏	1 学期	水	5	383
フ ラ ン ス 語 学 研 究 演 習 II	フランス語学の現代的トピック II	2	阿 部 宏	2 学期	水	5	384
フ ラ ン ス 語 学 研 究 演 習 III	Samuel Beckett	2	メ ヴ ェ ル ヤ ン	1 学期	月	5	384
フ ラ ン ス 語 学 研 究 演 習 IV	Samuel Beckett	2	メ ヴ ェ ル ヤ ン	2 学期	月	5	385
課 題 研 究 (フ ラ ン ス 文 学)		4	阿部 宏・今井 勉 黒岩 卓・メヴェル ヤン	通 年	金	5	

哲学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
哲 学 特 論 I	フッサール『論理学研究』を読む	2	㊦	野 家 伸 也	1 学期	火	3	386
哲 学 特 論 I	カント実践哲学の諸問題	2	㊦	加 藤 泰 史	集 中 (2 学期)			386
哲 学 特 論 I	現代の分析的倫理学	2	㊦	福 間 聡	2 学期	月	2	387
哲 学 特 論 II	プラトン『パルメニデス』研究	2		荻 原 理	2 学期	月	3	387
哲 学 特 論 III	カントの超越論的弁証論	2		城 戸 淳	1 学期	木	2	388
哲 学 研 究 演 習 I	哲学の作法と技法 1	2		荻 原 理	1 学期	月	5	388
哲 学 研 究 演 習 I	アーレント『革命について』 第 4 章を読む	2		森 一 郎	1 学期	火	4	389
哲 学 研 究 演 習 I	フッサール『デカルト的省察』 を読む	2		佐 藤 駿	1 学期	木	4	389
哲 学 研 究 演 習 I	哲学研究の基礎	2		原 塑	1 学期	金	3	390
哲 学 研 究 演 習 II	哲学研究の作法と技法 1	2		直 江 清 隆	2 学期	月	5	390
哲 学 研 究 演 習 II	ホップズ＝プラムホール論争 と近代の自由意志論(3)	2		城 戸 淳	2 学期	木	2	391
哲 学 研 究 演 習 II	科学理論と証拠	2		原 塑	2 学期	金	3	391
哲 学 研 究 演 習 II	自己と他者の現象学	2		直 江 清 隆	2 学期	金	5	392
古代中世哲学研究演習 I	アリストテレス『分析論後書』 を読む	2		荻 原 理	1 学期	月	3	392
近現代哲学研究演習 I	カントの超越論的演繹論(A)	2		城 戸 淳	1 学期	水	5	393
近現代哲学研究演習 II	カントの超越論的演繹論(B)	2		城 戸 淳	2 学期	水	5	393
科学哲学研究演習 I	社会認識論 1	2		原 塑	1 学期	金	2	394
科学哲学研究演習 II	社会認識論 2	2		原 塑	2 学期	金	2	394
生命環境倫理学研究演習	エンハンスメントの倫理学	2		直 江 清 隆	2 学期	火	3	395
課 題 研 究 (哲 学)		4		直江清隆・荻原理 原 塑・城戸淳	通 年	火	1	

倫理学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員 名		開 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名	氏 名				
倫 理 学 特 論 II	生の情念と死の思惟	2	戸 島 貴 代 志		2 学期	火	2	396
倫 理 学 特 論 III	西谷啓治の哲学	2	⑨ 秋 富 克 哉		集 中 (1 学期)			396
倫 理 学 研 究 演 習 I	発表と討論	2	戸 島 貴 代 志		1 学期	月	5	397
倫 理 学 研 究 演 習 II	発表と討論	2	戸 島 貴 代 志		2 学期	月	5	397
倫 理 学 研 究 演 習 III	現象学と存在論	2	戸 島 貴 代 志		1 学期	水	4	398
倫 理 学 研 究 演 習 IV	現象学と存在論	2	戸 島 貴 代 志		2 学期	水	4	398
倫 理 学 研 究 演 習 V	フランス語演習	2	⑨ 越 門 勝 彦		1 学期	水	2	399
倫 理 学 研 究 演 習 VI	フランス哲学演習(1) ライ プニッツ『モノドロジー』	2	村 山 達 也		2 学期	水	2	399
倫 理 学 研 究 演 習 VI	フランス哲学演習(2) ラ・ ボエシ『自発的隷従論』	2	村 山 達 也		2 学期	金	2	400
課 題 研 究 (倫 理 学)		4	戸 島 貴 代 志 村 山 貴 達 也		通 年	月	1	

言語学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員 名		開 学 講 期	曜 日	講 時	頁	
			氏	名					
言 語 学 特 論 I	日本語の音韻構造	2	㊦	窪 蘭 晴 夫	集 中 (1学期)			401	
言 語 学 特 論 II	心理言語学：文理解を中心に	2	㊦	小 野 創	集 中 (1学期)			401	
言 語 学 特 論 III	セイリッシュ語文法概説	2	㊦	渡 辺 己	集 中 (2学期)			402	
言 語 学 特 論 IV	実験語用論	2		木 山 幸 子	1学期	水	2	402	
言 語 学 研 究 演 習 I	言語学研究法	2	後 小 木	藤 泉 山 政 幸	齊 利 子	1学期	金	4	403
言 語 学 研 究 演 習 II	言語学研究法	2	後	藤 齊		2学期	金	4	403
言 語 解 析 学 特 論 I	言語研究におけるコンピュータ利用の基礎	2	後	藤 齊		1学期	月	4	404
言 語 解 析 学 特 論 II	専門的言語調査・実験法実践	2	木	山 幸 子		2学期	水	2	404
言 語 解 析 学 研 究 演 習 I	コーパス言語学の実践	2	後	藤 齊		1学期	金	2	405
言 語 解 析 学 研 究 演 習 II	日本語コーパス言語学の進展	2	後	藤 齊		2学期	金	2	405
言 語 解 析 学 研 究 演 習 III	統語論	2	小	泉 政 利		1学期	水	3	406
言 語 解 析 学 研 究 演 習 IV	言語データ分析法基礎	2	木	山 幸 子		2学期	火	2	406
言 語 解 析 学 研 究 演 習 V	言語データ分析法発展	2	木	山 幸 子		2学期	火	2	407
課 題 研 究 (言 語 学)		4	後 小 木	藤 泉 山 政 幸	齊 利 子	通 年	木	1	

国語学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
日 本 語 構 造 論 特 論 I	「連語」と文法論の構成	2	齋 藤 倫 明	1 学期	月	4	408
日 本 語 構 造 論 特 論 II	文章・談話の構造論	2	甲 田 直 美	1 学期	月	3	408
日 本 語 構 造 論 講 読	近世言語論講読	2	齋 藤 倫 明	2 学期	月	4	409
日 本 語 構 造 論 研 究 演 習 I	方言調査法	2	小 林 隆	1 学期	火	2	409
日 本 語 構 造 論 研 究 演 習 II	文章・談話の構造	2	甲 田 直 美	2 学期	月	3	410
日 本 語 変 異 論 特 論 I	方言学的日本語史研究	2	小 林 隆	2 学期	火	2	410
日 本 語 変 異 論 特 論 II	日本語文法研究	2	大 木 一 夫	1 学期	木	2	411
日 本 語 変 異 論 特 論 III	日本語方言語彙研究	2	㊦ 新 井 小 枝 子	集 中 (1 学期)			411
日 本 語 変 異 論 講 読	コーパスにもとづく日本語史研究	2	大 木 一 夫	2 学期	木	2	412
日 本 語 変 異 論 研 究 演 習 I	国語史・方言研究の諸問題	2	齋藤倫明・小林 隆 大木一夫・甲田直美	1 学期	火	4	412
日 本 語 変 異 論 研 究 演 習 II	現代語研究の諸問題	2	齋藤倫明・小林 隆 大木一夫・甲田直美	2 学期	火	4	413
日 本 語 変 異 論 研 究 演 習 III	国語史・方言研究の諸問題	2	齋藤倫明・小林 隆 大木一夫・甲田直美	1 学期	火	5	413
日 本 語 変 異 論 研 究 演 習 IV	現代語研究の諸問題	2	齋藤倫明・小林 隆 大木一夫・甲田直美	2 学期	火	5	414
課 題 研 究 (国 語 学)		4	齋藤倫明・小林 隆 大木一夫・甲田直美	通 年	木	1	

日本語教育学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
日 本 語 教 育 論 特 論 I	海外の日本語教育	2	㊦ 長 田 佳奈子	1 学期	火	4	415
日 本 語 教 育 論 特 論 II	学習者と社会	2	島 崎 薫	2 学期	金	3	415
日 本 語 教 育 論 特 論 III	日本語教育方法論	2	㊦ 横 溝 紳一郎	集 中 (1 学期)			416
日 本 語 教 育 論 講 読	第二言語習得研究	2	小 河 原 義 朗	1 学期	月	2	416
日 本 語 教 育 論 研 究 演 習 I	読解の授業と教材	2	才 田 い ず み	1 学期	火	2	417
日 本 語 教 育 論 研 究 演 習 II	学習者の音声と教育	2	小 河 原 義 朗	2 学期	火	4	417
日 本 語 教 育 論 実 習 I	日本語コース運営の基礎	2	才 田 い ず み	1 学期	月	3・4	418
日 本 語 教 育 論 実 習 II	日本語コースの評価と改善	2	才 田 い ず み	2 学期	月	3・4	418
比 較 現 代 日 本 論 講 読 I	現代日本論論文講読	2	田 中 重 人	1 学期	金	4	419
比 較 現 代 日 本 論 研 究 演 習 I	統計分析の基礎	2	田 中 重 人	1 学期	木	2	419
比 較 現 代 日 本 論 研 究 演 習 II	質問紙調査の基礎	2	田 中 重 人	1 学期	水	2	420
比 較 現 代 日 本 論 研 究 演 習 II	調査的面接の基礎	2	田 中 重 人	2 学期	水	2	420
比 較 現 代 日 本 論 研 究 演 習 III	実践的統計分析法	2	田 中 重 人	2 学期	木	2	421
課 題 研 究 (日 本 語 教 育 学)		4	才田いずみ・田中 重人 小河原義朗・梅木 俊輔	通 年	水	5	

日本史専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
日本古代・中世史特論Ⅰ	日本古代史の研究と方法(1)	2	堀	裕	1学期	金	2	422
日本古代・中世史特論Ⅱ	日本古代史の研究と方法(2)	2	堀	裕	2学期	金	1	422
日本古代・中世史特論Ⅲ	中世社会論	2	㊦	桜井英治	集中 (2学期)			423
日本古代・中世史研究演習Ⅰ	古代史料の研究(1)	2	堀	裕	1学期	火	2	423
日本古代・中世史研究演習Ⅱ	古代史料の研究(2)	2	堀	裕	2学期	火	2	424
日本古代・中世史研究演習Ⅲ	古代史料研究(1)	2	堀	裕	1学期	金	3	424
日本古代・中世史研究演習Ⅳ	古代史料研究(2)	2	堀	裕	2学期	金	3	425
日本古代・中世史研究演習Ⅴ	鎌倉時代の法と社会(1)	2	柳	原敏昭	1学期	月	3	425
日本古代・中世史研究演習Ⅵ	鎌倉時代の法と社会(2)	2	柳	原敏昭	2学期	月	3	426
日本古代・中世史研究演習Ⅶ	中世史料演習(1)	2	柳	原敏昭	1学期	月	4	426
日本古代・中世史研究演習Ⅷ	中世史料演習(2)	2	柳	原敏昭	2学期	月	4	427
日本近世・近代史特論Ⅰ	近世社会の研究(1)	2	籠	橋俊光	1学期	金	3	427
日本近世・近代史特論Ⅱ	近世社会の研究(2)	2	籠	橋俊光	2学期	金	3	428
日本近世・近代史特論Ⅲ	日本近現代史研究の現状と課題(5)	2	安	達宏昭	1学期	水	2	428
日本近世・近代史特論Ⅲ	歴史資料保全の実践(その1)	2	佐	藤大真介志	集中 (1学期)			429
日本近世・近代史特論Ⅲ	歴史資料保全の実践(その2)	2	佐	藤大介	2学期	水	2	429
日本近世・近代史特論Ⅲ	Understanding Japanese History	2	松	崎瑠美	1学期	火	4	430
日本近世・近代史特論Ⅲ	History of Disaster	2	松	崎瑠美	2学期	火	3	430
日本近世・近代史研究演習Ⅰ	近世史料研究(1)	2	籠	橋俊光	1学期	火	4	431
日本近世・近代史研究演習Ⅱ	近世史料研究(2)	2	籠	橋俊光	2学期	火	4	431
日本近世・近代史研究演習Ⅲ	近世史研究法(1)	2	籠	橋俊光	1学期	水	5	432
日本近世・近代史研究演習Ⅳ	近世史研究法(2)	2	籠	橋俊光	2学期	水	5	432
日本近世・近代史研究演習Ⅴ	近現代政治・社会史の研究	2	安	達宏昭	1学期	水	3	433

日本史専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員 名		開 学 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏	名				
日本近世・近代史研究演習Ⅵ	近現代政治・外交史の研究	2	㊦	河 西 晃 祐	2 学期	金	2	433
日本近世・近代史研究演習Ⅶ	近現代史研究法	2		安 達 宏 昭	1 学期	火	5	434
史 料 学 I	中世古文書読解	2		柳 原 敏 昭	1 学期	火	3	434
史 料 学 II	近世古文書読解	2		籠 橋 俊 光	2 学期	水	4	435
史 料 管 理 学 I	史料整理・保存の理論と方法	2		籠 橋 俊 光	1 学期	金	4・5	435
史 料 管 理 学 II	史料整理実習	2		籠 橋 俊 光	2 学期	金	4・5	436
課 題 研 究 (日 本 史)		4		柳原敏昭・安達宏昭 堀 裕・籠橋俊光	通 年	木	1	

考古学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員名	開講期	曜日	講時	頁
			氏名				
考古学特論Ⅰ	日本考古学の諸問題	2	鹿又喜隆	1学期	月	2	437
考古学特論Ⅱ	土器の機能研究	2	Ⓞ 小林正史	集中 (1学期)			437
考古学特論Ⅲ	先史文化の考古学	2	菅野智則	2学期	木	4	438
資料基礎論特論	先史考古学資料論	2	阿子島 香	2学期	月	3	438
博物館資料論特論	東北大学収蔵の考古学資料	2	藤澤 敦	1学期	火	3	439
考古学研究演習Ⅰ	考古学研究史	2	阿子島 喜隆 鹿又 喜隆	1学期	金	4	439
考古学研究演習Ⅱ	考古学の方法と理論	2	鹿又 喜隆 阿子島 喜隆	2学期	金	4	440
考古学研究実習Ⅰ	考古学の調査と資料分析(1)	2	阿子島 喜隆 鹿又 喜隆	1学期	水	3・4	440
考古学研究実習Ⅱ	考古学の調査と資料分析(2)	2	鹿又 喜隆 阿子島 喜隆	2学期	水	3・4	441
課題研究 (考古学)		4	阿子島 喜隆 鹿又 喜隆 藤澤 敦	通年	金	5	

文化財科学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員		開学 講期	曜日	講時	頁
			氏	名				
文化財科学特論	日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究	2	藤 澤	敦	2 学期	火	3	442
文化財科学研究演習Ⅰ	未定	2	須古	田川 良一	1 学期			442
文化財科学研究演習Ⅱ	未定	2	古須	川田 一良	2 学期			443
文化財科学研究実習Ⅰ	古代遺跡調査の方法と実践	2	須吉	田野 良平	集 中 (1 学期)			443
課 題 研 究 (文 化 財 科 学)		4	古川一明・須田良平 吉野武・阿子島香 鹿又喜隆		通 年			

東洋史専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員 名		開 學 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
東洋古代中世史特論Ⅰ	六朝時代の諸問題	2	川 合	安	1学期	金	2	444
東洋古代中世史特論Ⅱ	隋唐時代の諸問題	2	川 合	安	2学期	金	2	444
東洋古代中世史研究演習Ⅰ	『宋書』礼志の研究Ⅰ	2	川 合	安	1学期	金	5	445
東洋古代中世史研究演習Ⅱ	『宋書』礼志の研究Ⅱ	2	川 合	安	2学期	金	5	445
東洋近世史特論Ⅰ	中国近世の諸問題Ⅰ	2	大 野	晃 嗣	1学期	火	5	446
東洋近世史特論Ⅱ	中国近世の諸問題Ⅱ	2	大 野	晃 嗣	2学期	火	5	446
東洋近世史特論Ⅰ	清朝とモンゴル	2	岡	洋 樹	1学期	水	4	447
東洋近世史特論Ⅰ	宋代社会の空間とネットワーク	2	㊦	平 田 茂 樹	集 中 (1学期)			447
東洋近世史特論Ⅱ	近世東アジアの通商と外交	2	㊦	岩 井 茂 樹	集 中 (2学期)			448
東洋近世史研究演習Ⅰ	明清官僚制度研究Ⅰ	2	大 野	晃 嗣	1学期	水	5	448
東洋近世史研究演習Ⅱ	明清官僚制度研究Ⅱ	2	大 野	晃 嗣	2学期	水	5	449
課 題 研 究 (東 洋 史)		4	川 大	合 野 晃 安 嗣	通 年	金	1	

ヨーロッパ史専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 期	曜 日	講 時	頁	
			氏 名						
古代地中海世界史特論	ローマ帝国とキリスト教	2	㊦	後藤篤子	集中 (1学期)			450	
西洋中近世史特論	ビザンツ帝国の国家と社会	2	㊦	大月康弘	集中 (1学期)			450	
西洋中近世史特論	「ノルマン人の帝国」に生きる	2	有	光秀行	2学期	月	4	451	
西洋中近世史特論	ドイツ中世の国家と社会	2	小	野善彦	1学期	月	2	451	
西洋中近世史研究演習Ⅰ	中世ヨーロッパ史研究	2	有	光秀行	1学期	火	4	452	
西洋中近世史研究演習Ⅱ	中世ヨーロッパ史研究	2	有	光秀行	2学期	火	4	452	
西洋中近世史研究演習Ⅲ	ヨーロッパ中世史料研究	2	有	光秀行	1学期	水	4	453	
西洋中近世史研究演習Ⅳ	ヨーロッパ中世史料研究	2	有	光秀行	2学期	水	4	453	
西洋中近世史研究演習Ⅴ	西洋近世史料研究	2	小	野善彦	1学期	木	2	454	
西洋中近世史研究演習Ⅵ	西洋近世史料研究	2	小	野善彦	2学期	月	2	454	
西洋中近世史研究演習Ⅶ	ドイツ中世史の諸問題	2	小	野善彦	1学期	月	3	455	
西洋中近世史研究演習Ⅷ	ドイツ中世史の諸問題	2	小	野善彦	2学期	月	3	455	
欧米近現代史研究演習Ⅰ	ロシア革命の歴史的再検討	2	浅	岡善治	1学期	金	2	456	
欧米近現代史研究演習Ⅱ	ロシア革命の歴史的再検討	2	浅	岡善治	2学期	金	2	456	
欧米近現代史研究演習Ⅲ	欧米近現代史研究方法論	2	浅	岡善治	1学期	金	4	457	
欧米近現代史研究演習Ⅳ	欧米近現代史研究方法論	2	浅	岡善治	2学期	金	4	457	
課 題 研 究 (ヨーロッパ史)		4	小 有 浅	野 光 岡	善 秀 善	彦 行 治	通 年	火	1

東洋・日本美術史専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名	氏 名				
東洋・日本美術史特論Ⅰ	信仰と造形	2	長	岡 龍 作	1 学期	月	4	458
東洋・日本美術史特論Ⅱ	信仰と造形	2	長	岡 龍 作	2 学期	月	4	458
東洋・日本美術史特論Ⅰ	仏教説話画研究	2	㊦	加須屋 誠	集 中 (1 学期)			459
東洋・日本美術史特論Ⅱ	日本美術史の構図と水墨文化	2	㊦	島 尾 新	集 中 (2 学期)			459
東洋・日本美術史研究演習Ⅰ	美術史基礎資料読解	2	長	岡 龍 作	1 学期	水	4	460
東洋・日本美術史研究演習Ⅱ	美術史基礎資料読解	2	長	岡 龍 作	2 学期	水	4	460
課 題 研 究 (東洋・日本美術史)		4	長	岡 龍 作	通 年	水	5	

美学・西洋美術史専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
美学・西洋美術史特論Ⅰ	グローバル・アートヒストリーとネーデルラント絵画：共感表現、スペクタクル、美術市場	2	尾 崎 彰 宏		1 学期	金	3	461
美学・西洋美術史特論Ⅰ	古代ギリシア・ローマ美術における英雄表現	2	芳 賀 京 子		2 学期	月	2	461
美学・西洋美術史特論Ⅰ	西洋近現代絵画の見方	2	⑤ 三 浦 篤		集 中 (1 学期)			462
美学・西洋美術史研究演習Ⅰ	西洋美術史に関する方法論の諸問題	2	尾 崎 彰 宏		1 学期	金	5	462
美学・西洋美術史研究演習Ⅱ	西洋美術史に関する方法論の諸問題	2	尾 崎 彰 宏		2 学期	金	5	463
美学・西洋美術史研究演習Ⅰ	西洋古代・中世美術作品研究	2	芳 賀 京 子		1 学期	月	4	463
美学・西洋美術史研究演習Ⅱ	西洋古代・中世美術作品研究	2	芳 賀 京 子		2 学期	月	4	464
美学・西洋美術史研究演習Ⅰ	西洋美学演習（前期）	2	フォンガロ エンリコ		1 学期	木	5	464
美学・西洋美術史研究演習Ⅱ	西洋美学演習（後期）	2	フォンガロ エンリコ		2 学期	木	5	465
美学・西洋美術史研究実習Ⅰ	西洋美術の基礎知識と調査研究	2	尾 崎 彰 宏 芳 賀 京 子		1 学期	火	3・4	465
美学・西洋美術史研究実習Ⅱ	美術作品の記述と西洋美術の見方	2	尾 崎 彰 宏 芳 賀 京 子		2 学期	火	3・4	466
課 題 研 究 (美学・西洋美術史)		4	尾 崎 彰 宏 芳 賀 京 子		通 年	月	1	

比較文化史学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員	開学	講期	曜日	講時	頁
			氏名					
ユーラシア文化史特論Ⅰ	スターリンとソ連極東	2	寺山恭輔	1学期		金	2	467
ユーラシア文化史特論Ⅱ	スターリンとソ連極東	2	寺山恭輔	2学期		金	2	467
ユーラシア文化史研究演習Ⅰ	ソ連史文献研究(1)	2	寺山恭輔	1学期		金	4	468
ユーラシア文化史研究演習Ⅱ	ソ連史文献研究(2)	2	寺山恭輔	2学期		金	4	468
課題研究 (比較文化史学)		4	寺山恭輔	通年		水	2	

社会学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
理論社会学研究演習Ⅰ	ハーバーマスの現代福祉国家論(1)	2	永 井 彰	1 学期	水	1	469
理論社会学研究演習Ⅱ	ハーバーマスの現代福祉国家論(2)	2	永 井 彰	2 学期	水	1	469
理論社会学研究演習Ⅲ	社会科学のなかの社会学	2	永 井 彰	1 学期	水	2	470
社会変動学特論	日本の家族政策	2	下 夷 美 幸	1 学期	木	2	470
社会変動学特論	気候変動政策の社会学	2	長 谷 川 公 一	2 学期	木	2	471
社会変動学研究演習Ⅰ	家族政策研究	2	下 夷 美 幸	1 学期	金	2	471
社会変動学研究演習Ⅱ	家族政策研究	2	下 夷 美 幸	2 学期	金	2	472
社会変動学研究演習Ⅰ	公共政策と合意形成の社会学	2	長 谷 川 公 一	2 学期	火	2	472
社会変動学研究演習Ⅱ	作田啓一との対話	2	長 谷 川 公 一	2 学期	火	4	473
地域社会学特論	リスクと無知の社会学	2	小 松 丈 晃	2 学期	火	1	473
地域社会学研究演習Ⅰ	リスクガバナンス論	2	小 松 丈 晃	1 学期	火	3	474
地域社会学研究演習Ⅱ	リスクガバナンス論	2	小 松 丈 晃	2 学期	火	3	474
地域社会学研究演習Ⅲ	不確実性の社会学	2	小 松 丈 晃	2 学期	火	5	475
社会学特論Ⅰ	質的研究概論	2	徳 川 直 人	1 学期	水	3	475
社会学特論Ⅱ	死と死にゆくことの社会学	2	㊦ 田 代 志 門	集 中 (1 学期)			476
社会学特論Ⅲ	「認められること」の社会学	2	㊦ 山 尾 貴 則	集 中 (2 学期)			476
社会学調査実習Ⅰ	社会調査実習Ⅰ	2	下 夷 美 幸	1 学期	金	3・4	477
社会学調査実習Ⅱ	社会調査実習Ⅱ	2	下 夷 美 幸	2 学期	金	3・4	477
課 題 研 究 (社 会 学)		4	長谷川公一・永井 彰 下夷美幸・小松丈晃	通 年	月	1	

行動科学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
数理行動科学研究演習Ⅰ	社会秩序の自己組織化とエージェント・ベースト・モデル	2	佐 藤 嘉 倫		1 学期	水	3	478
数理行動科学研究演習Ⅱ	エージェント・ベースト・モデルによる自己組織性の解明	2	佐 藤 嘉 倫		2 学期	水	3	478
数理行動科学研究演習Ⅲ	ベイズアプローチによる社会学の理論と実証	2	浜 田 宏		1 学期	水	2	479
数理行動科学研究演習Ⅳ	計算・数理社会学	2	浜 田 宏		2 学期	水	2	479
計量行動科学特論Ⅰ	計量家族社会学	2	筒 井 淳 也		集 中 (1 学期)			480
計量行動科学特論Ⅱ	格差・不平等・リスクの社会学	2	佐 藤 嘉 倫		2 学期	月	5	480
計量行動科学研究演習Ⅰ	階層帰属意識の計量分析	2	木 村 邦 博		1 学期	月	4	481
計量行動科学研究演習Ⅱ	社会調査法への認知科学的アプローチ	2	木 村 邦 博		2 学期	月	4	481
計量行動科学研究演習Ⅲ	移動と階層	2	永 吉 希 久 子		1 学期	木	2	482
計量行動科学研究演習Ⅳ	政治意識論	2	永 吉 希 久 子		1 学期	金	2	482
計量行動科学研究演習Ⅳ	実践計量社会学	2	永 吉 希 久 子		2 学期	金	2	483
計量行動科学研究演習Ⅴ	リスクと社会的不平等	2	佐 藤 嘉 倫 松 崎 嘉 瑠 美		集 中 (1 学期)			483
社会行動科学特論Ⅰ	リスクと防災の社会学	2	佐 藤 嘉 倫		1 学期	月	5	484
社会行動科学特論Ⅱ	多文化共生論	2	永 吉 希 久 子		2 学期	木	2	484
社会行動科学特論Ⅰ	A Sociological Primer on the United States	2	㊦ アンジー アレハンドロ		1 学期	木	3	485
課 題 研 究 (行 動 科 学)		4	佐藤嘉倫・木村邦博 浜田宏・永吉希久子		通 年	金	5	

心理学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
心 理 学 特 論 I	心理調査概論	2	倉 元 直 樹	1 学期	月	2	486
心 理 学 特 論 II	ポジティブ心理学研究の発展	2	㊦ 堀 毛 一 也	集 中 (2 学期)			486
心 理 学 研 究 演 習 I	社会心理学の重要研究	2	㊦ 福 野 光 輝	1 学期	金	4	487
心 理 学 研 究 演 習 II	知覚・注意・動作・感性研究の最近の展開	2	行 場 次 朗	1 学期	火	2	487
心 理 学 研 究 演 習 III	生理心理学の発展	2	阿 部 恒 之	2 学期	水	1	488
心 理 学 研 究 演 習 IV	食と健康の心理学	2	坂 井 信 之	2 学期	水	3	488
心 理 学 研 究 演 習 V	現代文化心理学の視角	2	辻 本 昌 弘	1 学期	木	2	489
心 理 学 研 究 演 習 VI	Fundamentals of Psychological Measurement	2	倉 元 直 樹	2 学期	月	2	489
心 理 学 総 合 演 習 I	特選題目研究 I	2	阿部恒之・行場次朗 坂井信之・辻本昌弘	1 学期	金	5	490
心 理 学 総 合 演 習 II	特選題目研究 II	2	阿部恒之・行場次朗 坂井信之・辻本昌弘	2 学期	金	5	490
心 理 学 研 究 実 習 I	心理学実験技法実習 I	2	阿部恒之・行場次朗 坂井信之・辻本昌弘	1 学期	火	3・4	491
心 理 学 研 究 実 習 II	心理学実験技法実習 II	2	阿部恒之・行場次朗 坂井信之・辻本昌弘	2 学期	火	3・4	491
実 験 心 理 学 特 論	ストレスの社会生理心理学	2	阿 部 恒 之	1 学期	水	1	492
社 会 心 理 学 特 論	対人行動の社会心理学	2	㊦ 福 野 光 輝	2 学期	金	4	492
応 用 心 理 学 特 論	健康と幸福の応用心理学	2	坂 井 信 之	1 学期	水	3	493
課 題 研 究 (心 理 学)		4	阿部恒之・行場次朗 坂井信之・辻本昌弘	通 年	水	5	

文化人類学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 学	講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
文化人類学特論Ⅰ	東アジアの文化人類学	2	川 口 幸 大	1	学 期	金	4	494
文化人類学特論Ⅰ	現代ブータン研究	2	㊦ 宮 本 万 里	集 中	(1学 期)			494
文化人類学特論Ⅱ	宗教の人類学	2	㊦ 門 田 岳 久	集 中	(2学 期)			495
文化人類学特論Ⅱ	Anthropology of Globalization	2	㊦ アンジー アレハンドロ	1	学 期	木	2	495
文化人類学特論Ⅲ	災害人類学	2	ボレー・ベンメレン・セバスチャン	2	学 期	金	2	496
文化人類学研究演習Ⅰ	文化人類学の視野と思考	2	川 口 幸 大	1	学 期	火	3	496
文化人類学研究演習Ⅱ	文化人類学の視野と思考	2	川 口 幸 大	2	学 期	火	3	497
文化人類学研究演習Ⅲ	英語古典原書講読	2	沼 崎 一 郎	2	学 期	木	2	497
文化人類学調査実習Ⅰ	フィールドワークの理論と方法	2	沼 崎 一 郎	1	学 期	水	3・4	498
文化人類学調査実習Ⅱ	フィールドワークの理論と方法	2	沼 崎 一 郎	2	学 期	水	3・4	498
課 題 研 究 (文 化 人 類 学)		4	沼 川 崎 口 一 幸 郎 大	通 年		水	5	

宗教学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員 名		開 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏	名				
宗 教 人 類 学 特 論	宗教人類学者列伝：13人の生・愛・死	2	山	田 仁 史	2 学期	水	1	499
宗 教 人 類 学 特 論	宗教と社会福祉	2	谷	山 洋 三	2 学期	月	2	499
宗 教 学 特 論 I	宗教学特論 I	2	川	島 秀 一	1 学期	水	1	500
宗 教 学 特 論 II	宗教と心理療法	2	高	橋 原	1 学期	水	3	500
宗 教 学 特 論 III	自然災害と宗教	2	木	村 敏 明	1 学期	金	2	501
宗 教 学 特 論 IV	ドイツ民族主義宗教運動の諸相	2	㊦	深 澤 英 隆	集 中 (2 学期)			501
宗 教 学 研 究 演 習 I	英国におけるチャプレン（臨床宗教師）研究	2	谷	山 洋 三	1 学期	金	3	502
宗 教 学 研 究 演 習 II	英国におけるチャプレン（臨床宗教師）研究	2	谷	山 洋 三	2 学期	金	3	502
宗 教 学 研 究 演 習 III	A Study of Religion, Food, and Eating in North America	2	㊦	アンドリューズ デール	1 学期	火	4	503
宗 教 学 研 究 演 習 IV	A Study of Religion, Food, and Eating in North America	2	㊦	アンドリューズ デール	2 学期	火	4	503
宗 教 学 実 習 I	宗教学調査法	2	木 山 高	村 田 倉 敏 仁 浩 明 史 樹	1 学期	月	4・5	504
宗 教 学 実 習 II	宗教学調査法	2	木 山 高	村 田 倉 敏 仁 浩 明 史 樹	2 学期	月	4・5	504
課 題 研 究 (宗 教 学)		4	木 山	村 田 敏 仁 明 史	通 年	火	5	

講義概要利用の手引

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 期	曜 日	講 時
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要 ◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法 ◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習 					
その他：					

- ◎授 業 科 目：各専攻分野ごとに次の順で掲載されている。
 特論、講読、研究演習、実習
- ◎開 講 学 期：集中講義と表記されている科目は、学期に関係なく、随時開講されるものである。
- ◎履 修 要 件：「連続履修すること」の表記がある科目については、1学期と2学期を連続して履修しなければならない。どちらか一方のみの履修は認めないので注意すること。

博士前期課程における学部授業科目の読み替え履修について

平成 23 年度以降に博士前期課程に入学した学生は、下記の要件のもとで、学部で開講する授業科目を読み替え履修し、修了に必要な単位に加えることができる。

●読み替え履修可能な学部開講科目

- ・基礎専門科目（概論・基礎）
- ・専修以外の基礎科目

例：「英文学概論」（2 単位）を履修し、「英文学特論」（2 単位）に読み替える。
「英文学基礎講読」（2 単位）を履修し、「英文学研究演習」（2 単位）に読み替える。
「専門ドイツ語」（2 単位）を履修し、「ドイツ文化学特論」（2 単位）に読み替える。

●読み替え単位の取り扱いと上限

博士前期課程の修了に必要な「選択単位」、すなわち「専攻授業科目および専攻共通授業科目から 10 単位以上」に、**8 単位**を上限として算入できる。

●読み替え申請の時期

各学期の履修登録期間。ただし Web による履修登録はできないので、教務係窓口にある書類によって申請する。

●申請方法およびその後の流れ

- (1) 学生は、「学部授業科目読み替え履修申請書」用紙を教務係から受け取り、読み替えの方法（どの大学院科目に読み替えるか、等）について指導教員と十分協議した後、必要事項を記入し、指導教員から署名・捺印、授業担当教員から捺印をもらい、教務係窓口に提出する。
- (2) 読み替え履修が最終的に許可された場合、教務係は、学生本人には掲示にて、授業担当教員には書面にて通知する。
- (3) 学生は、学期末以降に当該授業の成績を Web で確認する。

* なお、読み替え履修が不許可となった場合でも、学生は「自由聴講」として当該科目を履修することができる。

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
国 文 学 特 論 I Japanese Literature (Advanced Lecture) I	2	准教授 横 溝 博	1 学期	月	5
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要 ◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法 ◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	LHS-LIT601J 『源氏物語』の探究 (Study of "The Tale of Genji") 『源氏物語』「夕霧」巻を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【鑑賞】と【考察】をレジュメとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。 『源氏物語』「夕霧」巻を精読することで、(1)物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2)諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。 1. ガイダンス(発表者及びローテーション決定) 2. 講義(柏木と夕霧について・柏木巻～夕霧巻) 3. 「夕霧」巻の輪読 (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 4. 「夕霧」巻の輪読 (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 5. 「夕霧」巻の輪読 (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 6. 「夕霧」巻の輪読 (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 7. 「夕霧」巻の輪読 (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 8. 「夕霧」巻の輪読 (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 9. 「夕霧」巻の輪読 (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 10. 「夕霧」巻の輪読 (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 11. 「夕霧」巻の輪読 (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 12. 「夕霧」巻の輪読 (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 13. 「夕霧」巻の輪読 (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 14. 「夕霧」巻の輪読 (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 15. 「夕霧」巻の輪読 (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 授業時の発表および期末レポート(発表のまとめ)の内容[50%]、授業への参加(質疑応答を含む)[50%] テキストとして角川ソフィア文庫 玉上琢彌 訳注『源氏物語第七巻(柏木～雲隠)』を用いるので、大学生協で購入のこと。また、参考書として中野幸一編『(新装版)常用 源氏物語要覧』(武蔵野書院、2012年)がある。その他、参考文献は随時紹介する。 毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。				
その他：本演習は、第6セメスターも連続して履修すること。 物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや興味を大事にしていきたいと思います。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
国 文 学 特 論 II Japanese Literature (Advanced Lecture) II	2	准教授 横 溝 博	2 学期	月	5
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要 ◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法 ◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	LHS-LIT602J 『源氏物語』の探究 (Study of "The Tale of Genji") 『源氏物語』「横笛」巻を輪読する。担当者は該当巻の【梗概】および【鑑賞】と【考察】をレジュメとしてまとめ、それを事前配布し、発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。 『源氏物語』「横笛」巻を輪読していくことで、(1)登場人物の造型や語りの有りよう、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2)准拠の問題や有職故実、風俗と文化についての理解を深める。以上を通して物語を読む力、批評する力を高めることで、課題に対して研究的に取り組むための応用力を身につける。 1. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当) (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ (以降同) 2. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当) (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 3. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当) (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 4. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当) (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 5. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当) (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 6. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当) (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 7. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当) (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 8. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当) (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 9. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当) (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 10. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当) (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 11. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当) (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 12. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当) (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 13. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当) (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 14. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当) (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 15. 「横笛」巻の輪読 (一回分相当) (1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ 授業時の発表および期末レポート(発表のまとめ)の内容[50%]、授業への参加度合い[50%] テキストとして角川ソフィア文庫 玉上琢彌 訳注『源氏物語第七巻(柏木～雲隠)』を用いるので、大学生協で購入のこと。また、参考書として中野幸一編『(新装版)常用 源氏物語要覧』(武蔵野書院、2012年)がある。その他、参考文献は随時紹介する。 毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。				
その他：本演習は、第5セメスターから連続して履修すること。 物語の筋を先取りするのではなく、物語の進行に従いながら、その表現世界を丁寧に探求していきたいと思います。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
国 文 学 特 論 III Japanese Literature (Advanced Lecture) III	2	非常勤講師 佐々木 孝 浩	集 中 (1学期)		
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT603J				
◆ 授業題目	日本古典書誌学入門 (Introduction to Japanese Classical Bibliography)				
◆ 目的・概要	日本古典文学研究の現状に閉塞感があるとしたら、その大きな理由の一つは、既存の翻刻や影印のみを利用して事足りりとする研究のスタイルにあると思われる。古典作品は基本的に書物に保存されて伝存してきている。古典作品は何かの形で書物の制約を受けて存在しているものであり、作品の器たる書物を学ぶことから、本文の読解のみでは知ることができない、作品に関する様々な情報を得ることができるとは、その知見を利用して本文研究を行えば、従来の研究では到達することのできない領域に達することも可能となるはずである。本講義では、古典籍を対象とする学問である日本古典書誌学の基礎的な知識とその応用方法を、原資料に触れながらできるだけ具体的に説明する。受講生の身近に存在する附属図書館所蔵古典籍も可能な範囲で活用したい。				
◆ 到達目標	自分が対象としたい作品が保存されたの古典籍を取り扱え、正しく評価して研究に活用することができるようになるための、書誌学の基本的な知識を身に付ける。具体的には以下の3点である。 1. 装訂の種類とその特徴が説明できるようになる。 2. 装訂と保存される内容の相関関係が説明できるようになる。 3. 書誌学を研究に活用できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. 日本古典書誌学とは 日本古典文学研究と書誌学の関係について 2. 古典籍に用いられる和紙の種類 1 紙の歴史と和紙の種類について 3. 古典籍に用いられる和紙の種類 2 紙の加工と装飾について 4. 装訂の種類 1 卷子装と折本・粘葉装について 5. 装訂の種類 2 綴葉装と袋綴、及びその他の装訂について 6. 改装の問題 改装の在り方とその意味について 7. 装訂と内容の関連性 ジャンルと装訂の相関関係について 8. 書誌調査法 基礎 1 調査項目と項目の有する意味について	9. 書誌調査法 基礎 2 奥書・刊記を中心に 10. 書誌調査法 基礎 3 製作年代判定について 11. 書誌調査法 応用 1 図書館蔵書の調査 写本を中心に 12. 書誌調査法 応用 2 図書館蔵書の調査 版本を中心に 13. 書誌調査法 応用 3 図書館蔵書の調査のまとめ 14. 授業の総括 1 書誌学研究の可能性について 15. 授業の総括 2 授業の補足と期末試験			
◇ 成績評価の方法	最終時間にテストを行うが、単なる知識の暗記ではなく、その知識をどのように活用するかの応用力を問う問題となる。その他出席と授業態度も加味して判定する。 テスト 70% 出席・授業態度 30%				
◇ 教科書・参考書	テキストはプリントを配布する。 参考書：藤井隆『日本古典書誌学総説』和泉書院 1991 楠筒節男『宮内庁書陵部 書庫渉獵一書写と装訂』おうふう 2006 堀川貴司『書誌学入門 古典籍を見る・知る・読む』勉誠出版 2010 大沼晴暉『図書大概』汲古書院 2011 佐々木孝浩『日本古典書誌学論』笠間書院 2016 この他講義中に適宜紹介する。				
◇ 授業時間外学習	集中講義で一度に多くの情報に接するので、1日毎に復習し、疑問点などを整理して、早めに質問すること。				
できるだけ原資料に触れる授業なので、授業前に必ず石鹸で手を洗うこと。 その他：原資料を汚さないように心懸け、飲み物などにも注意を払うこと。 書誌学の個々の知識は有機的な関連性を有しており、途中で聞き逃すと理解が難しくなるので、休まず出席すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
国 文 学 研 究 演 習 I Japanese Literature (Advanced Seminar) I	2	教授 佐藤 伸宏・佐倉 由泰 准教授 横溝 博	1学期	火	4
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT604J				
◆ 授業題目	日本芸文の考究とその論述の方法 (Research of Japanese Literature)				
◆ 目的・概要	論文作成の実践を通して、文学を思考し論ずる上での高度で専門的な問題発見力・分析力・構想力を高めることを目的とする。				
◆ 到達目標	論述の説得力を高めるためのスキルを身につける。また質疑応答に際してのディベートの力を養う。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス。 次回以降の予定の確認と発表担当者の決定 2. 研究発表と質疑応答。 3. 研究発表と質疑応答。 4. 研究発表と質疑応答。 5. 研究発表と質疑応答。 6. 研究発表と質疑応答。 7. 研究発表と質疑応答。 8. 研究発表と質疑応答。	9. 研究発表と質疑応答。 10. 研究発表と質疑応答。 11. 研究発表と質疑応答。 12. 研究発表と質疑応答。 13. 研究発表と質疑応答。 14. 研究発表と質疑応答。 15. 研究発表と質疑応答。			
◇ 成績評価の方法	授業における発表 (60%)・授業への参加 (40%)				
◇ 教科書・参考書	とくに指定しないが、各回で考察対象とする作品のテキストを持参すること。				
◇ 授業時間外学習	予め配布された資料を熟読し、質問事項を用意しておくこと。				
その他：この授業はI・IIを連続して履修すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
国 文 学 研 究 演 習 II Japanese Literature (Advanced Seminar) II	2	教授 佐藤 伸宏・佐倉 由泰 准教授 横溝 博	2 学期	火	4
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT605J				
◆ 授業題目	日本文芸の考究とその論述の方法 (Research of Japanese Literature)				
◆ 目的・概要	論文作成の実践を通して、文学を思考し論ずる上での高度で専門的な問題発見力・分析力・構想力を高めることを目的とする。				
◆ 到達目標	論述の説得力を高めるためのスキルを身につける。また質疑応答に際してのディベートの力を養う。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス。 次回以降の予定の確認と発表担当者の決定 2. 研究発表と質疑応答。 3. 研究発表と質疑応答。 4. 研究発表と質疑応答。 5. 研究発表と質疑応答。 6. 研究発表と質疑応答。 7. 研究発表と質疑応答。 8. 研究発表と質疑応答。	9. 研究発表と質疑応答。 10. 研究発表と質疑応答。 11. 研究発表と質疑応答。 12. 研究発表と質疑応答。 13. 研究発表と質疑応答。 14. 研究発表と質疑応答。 15. 研究発表と質疑応答。			
◇ 成績評価の方法	授業における発表 (60%)・授業への参加 (40%)				
◇ 教科書・参考書	とくに指定しないが、各回で考察対象とする作品のテキストを持参すること。				
◇ 授業時間外学習	予め配布された資料を熟読し、質問事項を用意しておくこと。				
その他：この授業はⅠ・Ⅱを連続して履修すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 文 芸 形 成 論 研 究 演 習 I Study of Formation of Japanese Literature (Advanced Seminar) I	2	教授 佐藤 伸宏	1 学期	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT606J				
◆ 授業題目	大正文学の研究 (Research on the Japanese literature of the Taisyo era)				
◆ 目的・概要	日本近代文学の成立期である明治時代に続く大正期は、前代を引き継ぎながら、また新たな文学の領域や可能性が追求された時期であった。その大正時代の文学を取り上げ、考察を加える。受講者は各自担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて報告する。口頭発表と質疑応答をとおして各作品の精緻な読解を試みる。本セメスターでは、主として大正前期の小説等を取り上げる。				
◆ 到達目標	(1)文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。 (2)大正期の文学の多様な展開とその特質について理解を深める。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス：大正という時代 2. 大正文学史 3. 担当者による口頭発表と質疑応答 4. 担当者による口頭発表と質疑応答 5. 担当者による口頭発表と質疑応答 6. 担当者による口頭発表と質疑応答 7. 担当者による口頭発表と質疑応答 8. 担当者による口頭発表と質疑応答	9. 担当者による口頭発表と質疑応答 10. 担当者による口頭発表と質疑応答 11. 担当者による口頭発表と質疑応答 12. 担当者による口頭発表と質疑応答 13. 担当者による口頭発表と質疑応答 14. 担当者による口頭発表と質疑応答 15. 前期のまとめ			
◇ 成績評価の方法	授業における発表とレポート (70%)、授業への積極的参加 (30%)				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。				
◇ 授業時間外学習	授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておく				
その他：本演習は第2学期も連続して履修すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 文 芸 形 成 論 研 究 演 習 Ⅱ Study of Formation of Japanese Literature (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教 授 佐 藤 伸 宏	2 学 期	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT607J																				
◆ 授業題目	大正文学の研究 (Research on the Japanese literature of the Taisyo era)																				
◆ 目的・概要	日本近代文学の成立期である明治時代に続く大正期は、前代を引き継ぎながら、また新たな文学の領域や可能性が追求された時期であった。その大正時代の文学を取り上げ、考察を加える。受講者は各自担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて報告する。口頭発表と質疑応答をとおして各作品の精緻な読解を試みる。本セメスターでは、主として大正後期の小説等を取り上げる。																				
◆ 到達目標	(1)文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。 (2)大正期の文学の多様な展開とその特質について理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス：大正後期という時代</td> <td>9. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>2. 大正時代後期の文学状況</td> <td>10. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>3. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>11. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>4. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>12. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>5. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>13. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>6. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>14. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>7. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>15. 後期のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス：大正後期という時代	9. 担当者による口頭発表と質疑応答	2. 大正時代後期の文学状況	10. 担当者による口頭発表と質疑応答	3. 担当者による口頭発表と質疑応答	11. 担当者による口頭発表と質疑応答	4. 担当者による口頭発表と質疑応答	12. 担当者による口頭発表と質疑応答	5. 担当者による口頭発表と質疑応答	13. 担当者による口頭発表と質疑応答	6. 担当者による口頭発表と質疑応答	14. 担当者による口頭発表と質疑応答	7. 担当者による口頭発表と質疑応答	15. 後期のまとめ	8. 担当者による口頭発表と質疑応答	
1. ガイダンス：大正後期という時代	9. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
2. 大正時代後期の文学状況	10. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
3. 担当者による口頭発表と質疑応答	11. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
4. 担当者による口頭発表と質疑応答	12. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
5. 担当者による口頭発表と質疑応答	13. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
6. 担当者による口頭発表と質疑応答	14. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
7. 担当者による口頭発表と質疑応答	15. 後期のまとめ																				
8. 担当者による口頭発表と質疑応答																					
◇ 成績評価の方法	授業における発表とレポート (70%)、授業への積極的参加 (30%)																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておく																				
その他：本演習は第1学期も連続して履修すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 文 芸 形 成 論 研 究 演 習 Ⅲ Study of Formation of Japanese Literature (Advanced Seminar) Ⅲ	2	教 授 佐 藤 伸 宏	1 学 期	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT608J																				
◆ 授業題目	日本文学テキストの外国語翻訳に関する研究 (Research on translation of the Japanese literature)																				
◆ 目的・概要	日本文学の外国語翻訳テキストについて検討を行うことをとおして、翻訳を介しての日本文学の再考を試みる。テキストは主として Donald Keene 編の Anthology of Japanese Literature および Modern Japanese Literature を用いる。																				
◆ 到達目標	(1)文学テキストの外国語翻訳に関わる問題の所在についての認識を深める。 (2)日本文学について改めて考えるための新たな発想や思考、分析の力を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>2. 文学テキストの翻訳について</td> <td>10. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>3. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>11. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>4. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>12. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>5. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>13. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>6. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>14. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>7. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>15. 前期のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 担当者による口頭発表と質疑応答	2. 文学テキストの翻訳について	10. 担当者による口頭発表と質疑応答	3. 担当者による口頭発表と質疑応答	11. 担当者による口頭発表と質疑応答	4. 担当者による口頭発表と質疑応答	12. 担当者による口頭発表と質疑応答	5. 担当者による口頭発表と質疑応答	13. 担当者による口頭発表と質疑応答	6. 担当者による口頭発表と質疑応答	14. 担当者による口頭発表と質疑応答	7. 担当者による口頭発表と質疑応答	15. 前期のまとめ	8. 担当者による口頭発表と質疑応答	
1. ガイダンス	9. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
2. 文学テキストの翻訳について	10. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
3. 担当者による口頭発表と質疑応答	11. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
4. 担当者による口頭発表と質疑応答	12. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
5. 担当者による口頭発表と質疑応答	13. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
6. 担当者による口頭発表と質疑応答	14. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
7. 担当者による口頭発表と質疑応答	15. 前期のまとめ																				
8. 担当者による口頭発表と質疑応答																					
◇ 成績評価の方法	授業における発表とレポート (70%)、授業への積極的参加 (30%)																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業で取り上げるテキストを受講者全員が事前に精読しておく																				
その他：本演習は第2学期も連続して履修すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 文 芸 形 成 論 研 究 演 習 Ⅳ Study of Formation of Japanese Literature (Advanced Seminar) Ⅳ	2	教 授 佐 藤 伸 宏	2 学 期	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT609J																				
◆ 授業題目	日本文学テキストの外国語翻訳に関する研究 (Research on translation of the Japanese literature)																				
◆ 目的・概要	日本文学の外国語翻訳テキストについて検討を行うことをとおして、翻訳を介しての日本文学の再考を試みる。テキストは主として Donald Keene 編の Anthology of Japanese Literature および Modern Japanese Literature を用いる。																				
◆ 到達目標	(1)文学テキストの外国語翻訳に関わる問題の所在についての認識を深める。 (2)日本文学について改めて考えるための新たな発想や思考、分析の力を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>2. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>10. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>3. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>11. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>4. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>12. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>5. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>13. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>6. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>14. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>7. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>15. 後期のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 担当者による口頭発表と質疑応答	2. 担当者による口頭発表と質疑応答	10. 担当者による口頭発表と質疑応答	3. 担当者による口頭発表と質疑応答	11. 担当者による口頭発表と質疑応答	4. 担当者による口頭発表と質疑応答	12. 担当者による口頭発表と質疑応答	5. 担当者による口頭発表と質疑応答	13. 担当者による口頭発表と質疑応答	6. 担当者による口頭発表と質疑応答	14. 担当者による口頭発表と質疑応答	7. 担当者による口頭発表と質疑応答	15. 後期のまとめ	8. 担当者による口頭発表と質疑応答	
1. ガイダンス	9. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
2. 担当者による口頭発表と質疑応答	10. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
3. 担当者による口頭発表と質疑応答	11. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
4. 担当者による口頭発表と質疑応答	12. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
5. 担当者による口頭発表と質疑応答	13. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
6. 担当者による口頭発表と質疑応答	14. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
7. 担当者による口頭発表と質疑応答	15. 後期のまとめ																				
8. 担当者による口頭発表と質疑応答																					
◇ 成績評価の方法	授業における発表とレポート (70%)、授業への積極的参加 (30%)																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業で取り上げるテキストを受講者全員が事前に精読しておく																				
その他：本演習は第1学期も連続して履修すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 文 芸 形 成 論 研 究 演 習 Ⅴ Study of Formation of Japanese Literature (Advanced Seminar) Ⅴ	2	教 授 佐 倉 由 泰	1 学 期	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT610J																				
◆ 授業題目	源義経と曾我兄弟をめぐる物語の表現形成 (Research on Tales about Minamoto-no-Yoshitsune and Soga Brothers)																				
◆ 目的・概要	『曾我物語』、『義経記』等、源義経と曾我兄弟をめぐる物語の記述について、表現形成の実態と要因を、広く文化的、社会的問題とかわらせて考察する。																				
◆ 到達目標	文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、表現力を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 源義経と曾我兄弟をめぐる物語についての解説 (1)</td> <td>9. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (4)</td> </tr> <tr> <td>2. 源義経と曾我兄弟をめぐる物語についての解説 (2)</td> <td>10. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (5)</td> </tr> <tr> <td>3. 源義経と曾我兄弟をめぐる物語についての解説 (3)</td> <td>11. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (6)</td> </tr> <tr> <td>4. 源義経と曾我兄弟をめぐる物語についての解説 (4)</td> <td>12. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (7)</td> </tr> <tr> <td>5. 源義経と曾我兄弟をめぐる物語についての解説 (5)</td> <td>13. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (8)</td> </tr> <tr> <td>6. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (1)</td> <td>14. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (9)</td> </tr> <tr> <td>7. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (2)</td> <td>15. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (10)</td> </tr> <tr> <td>8. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (3)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 源義経と曾我兄弟をめぐる物語についての解説 (1)	9. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (4)	2. 源義経と曾我兄弟をめぐる物語についての解説 (2)	10. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (5)	3. 源義経と曾我兄弟をめぐる物語についての解説 (3)	11. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (6)	4. 源義経と曾我兄弟をめぐる物語についての解説 (4)	12. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (7)	5. 源義経と曾我兄弟をめぐる物語についての解説 (5)	13. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (8)	6. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (1)	14. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (9)	7. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (2)	15. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (10)	8. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (3)	
1. 源義経と曾我兄弟をめぐる物語についての解説 (1)	9. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (4)																				
2. 源義経と曾我兄弟をめぐる物語についての解説 (2)	10. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (5)																				
3. 源義経と曾我兄弟をめぐる物語についての解説 (3)	11. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (6)																				
4. 源義経と曾我兄弟をめぐる物語についての解説 (4)	12. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (7)																				
5. 源義経と曾我兄弟をめぐる物語についての解説 (5)	13. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (8)																				
6. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (1)	14. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (9)																				
7. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (2)	15. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (10)																				
8. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (3)																					
◇ 成績評価の方法	授業時の発表およびレポート [60%] と、授業への参加 [40%] により評価する。																				
◇ 教科書・参考書	教科書：特に指定しない。 参考書：授業の中で随時紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。																				
その他：本演習のⅥも連続して履修すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時		
日 本 文 芸 形 成 論 研 究 演 習 VI Study of Formation of Japanese Literature (Advanced Seminar) VI	2	教 授 佐 倉 由 泰	2 学 期	木	2		
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT611J						
◆ 授業題目	源義経と曾我兄弟をめぐる物語の表現形成 (Research on Tales about Minamoto-no-Yoshitsune and Soga Brothers)						
◆ 目的・概要	『曾我物語』、『義経記』等、源義経と曾我兄弟をめぐる物語の記述について、表現形成の実態と要因を、広く文化的、社会的問題とかわらせて考察する。						
◆ 到達目標	文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、表現力を身につける。						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (1) 2. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (2) 3. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (3) 4. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (4) 5. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (5) 6. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (6) 7. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (7) 8. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (8) </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 9. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (9) 10. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (10) 11. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (11) 12. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (12) 13. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (13) 14. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (14) 15. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (15) </td> </tr> </table>					1. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (1) 2. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (2) 3. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (3) 4. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (4) 5. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (5) 6. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (6) 7. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (7) 8. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (8)	9. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (9) 10. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (10) 11. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (11) 12. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (12) 13. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (13) 14. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (14) 15. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (15)
1. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (1) 2. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (2) 3. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (3) 4. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (4) 5. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (5) 6. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (6) 7. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (7) 8. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (8)	9. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (9) 10. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (10) 11. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (11) 12. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (12) 13. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (13) 14. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (14) 15. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (15)						
◇ 成績評価の方法	授業時の発表およびレポート [60%] と、授業への参加 [40%] により評価する。						
◇ 教科書・参考書	教科書：特に指定しない。 参考書：授業の中で随時紹介する。						
◇ 授業時間外学習	授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。						
その他：本演習のVから連続して履修すること。							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																				
日 本 思 想 史 特 論 I History of Japanese Thought (Advanced Lecture) I	2	教授 佐藤弘夫	1 学期	火	1																				
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI601J																								
◆ 授業題目	日本人と神 (Kami for Japanese)																								
◆ 目的・概要	神道にまつわるさまざまな日本文化論の常識を根底から見直すとともに、日本の神を「伝統的な」「固有の」という形容詞から解放して、世界の神と比較研究できるフォーマットに転換することを試みる。																								
◆ 到達目標	日本の神に関する通説・俗説がいかに根拠のないものであるかを知るとともに、日本の神を研究するにあたって、まったく新たなアプローチと視座を設定する必要性を理解する。																								
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンスと序論</td> <td>9. (2) 日本列島における宗教の発生</td> </tr> <tr> <td>2. 1 神の常識を疑う</td> <td>10. (3) 浄土に導く神</td> </tr> <tr> <td>(1) 最初の神信仰の形は神体山か</td> <td>11. (4) 神になる人々</td> </tr> <tr> <td>3. (2) 神は目に見えない存在か</td> <td>12. (5) ヤスクニへの道</td> </tr> <tr> <td>4. (3) 神道はアニミズムか</td> <td>13. (6) 神・天皇・ナショナルリズム</td> </tr> <tr> <td>5. (4) 神は死穢を嫌うか</td> <td>14. 3 人と神の精神史</td> </tr> <tr> <td>6. (5) 神道は日本固有の宗教か</td> <td>(1) 日本人は無宗教か</td> </tr> <tr> <td>7. (6) 神は誰が拝んでもいいのか</td> <td>15. (2) 世界から見直す日本の神</td> </tr> <tr> <td>8. 2 日本列島の神の歴史</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(1) 日本人が発見した最初の神</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンスと序論	9. (2) 日本列島における宗教の発生	2. 1 神の常識を疑う	10. (3) 浄土に導く神	(1) 最初の神信仰の形は神体山か	11. (4) 神になる人々	3. (2) 神は目に見えない存在か	12. (5) ヤスクニへの道	4. (3) 神道はアニミズムか	13. (6) 神・天皇・ナショナルリズム	5. (4) 神は死穢を嫌うか	14. 3 人と神の精神史	6. (5) 神道は日本固有の宗教か	(1) 日本人は無宗教か	7. (6) 神は誰が拝んでもいいのか	15. (2) 世界から見直す日本の神	8. 2 日本列島の神の歴史		(1) 日本人が発見した最初の神	
1. ガイダンスと序論	9. (2) 日本列島における宗教の発生																								
2. 1 神の常識を疑う	10. (3) 浄土に導く神																								
(1) 最初の神信仰の形は神体山か	11. (4) 神になる人々																								
3. (2) 神は目に見えない存在か	12. (5) ヤスクニへの道																								
4. (3) 神道はアニミズムか	13. (6) 神・天皇・ナショナルリズム																								
5. (4) 神は死穢を嫌うか	14. 3 人と神の精神史																								
6. (5) 神道は日本固有の宗教か	(1) 日本人は無宗教か																								
7. (6) 神は誰が拝んでもいいのか	15. (2) 世界から見直す日本の神																								
8. 2 日本列島の神の歴史																									
(1) 日本人が発見した最初の神																									
◇ 成績評価の方法	出席 20% レポート 80%																								
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。プリントとスライドを使用する。																								
◇ 授業時間外学習	そのつど教室で指示する。																								
その他：																									

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 思 想 史 特 論 II History of Japanese Thought (Advanced Lecture) II	2	教授 佐藤弘夫	2 学期	火	1																
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI602J																				
◆ 授業題目	現人神の誕生 (Tennô Discourse and Ideology)																				
◆ 目的・概要	招魂社から靖国神社への展開と関連づけながら、日本における身分制社会の解体と国民国家形成のプロセスの中で、なぜ天皇が神格化されていかなければならなかったのかという問題を考える。 【キーワード】 イキガミ、記憶、通俗道徳、鯀絵																				
◆ 到達目標	日本における国民国家形成の歴史的背景とその独自性を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 序論とガイダンス</td> <td>9. 招魂社から靖国神社へ 2</td> </tr> <tr> <td>2. ヒトガミの思想の系譜 1</td> <td>10. ヒトガミを生み出す装置 1</td> </tr> <tr> <td>3. ヒトガミの思想の系譜 2</td> <td>11. ヒトガミを生み出す装置 2</td> </tr> <tr> <td>4. 記憶される死者 1</td> <td>12. 現人神の誕生 1</td> </tr> <tr> <td>5. 記憶される死者 2</td> <td>13. 現人神の誕生 2</td> </tr> <tr> <td>6. 鯀絵のコスモロジー 1</td> <td>14. 現人神の誕生 3</td> </tr> <tr> <td>7. 鯀絵のコスモロジー 2</td> <td>15. まとめと討論</td> </tr> <tr> <td>8. 招魂社から靖国神社へ 1</td> <td></td> </tr> </table>					1. 序論とガイダンス	9. 招魂社から靖国神社へ 2	2. ヒトガミの思想の系譜 1	10. ヒトガミを生み出す装置 1	3. ヒトガミの思想の系譜 2	11. ヒトガミを生み出す装置 2	4. 記憶される死者 1	12. 現人神の誕生 1	5. 記憶される死者 2	13. 現人神の誕生 2	6. 鯀絵のコスモロジー 1	14. 現人神の誕生 3	7. 鯀絵のコスモロジー 2	15. まとめと討論	8. 招魂社から靖国神社へ 1	
1. 序論とガイダンス	9. 招魂社から靖国神社へ 2																				
2. ヒトガミの思想の系譜 1	10. ヒトガミを生み出す装置 1																				
3. ヒトガミの思想の系譜 2	11. ヒトガミを生み出す装置 2																				
4. 記憶される死者 1	12. 現人神の誕生 1																				
5. 記憶される死者 2	13. 現人神の誕生 2																				
6. 鯀絵のコスモロジー 1	14. 現人神の誕生 3																				
7. 鯀絵のコスモロジー 2	15. まとめと討論																				
8. 招魂社から靖国神社へ 1																					
◇ 成績評価の方法	レポート [80%] 出席 [20%]																				
◇ 教科書・参考書	プリントとスライドを使用する。参考書は随時紹介する。 【参考文献】 佐藤弘夫「ヤスクニの思想と語られる死者の系譜」『思想』2015年7月号、岩波書店。																				
◇ 授業時間外学習	授業中に次回までの課題を指示する。																				
その他：オフィスアワー：水 4校時																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 思 想 史 特 論 III History of Japanese Thought (Advanced Lecture) III	2	非常勤講師 大久保 健 晴	集 中 (2学期)		
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI603J				
◆ 授業題目	近代日本の政治思想 (Political thought in Modern Japan)				
◆ 目的・概要	近代東アジア世界の歴史的な起源に遡り、「私たちはどこから来て、どこへ向かおうとしているのか」という問いを思想的に検証する作業は、今日きわめて重要な意義を有しています。 この講義ではそのような問題関心のもと、西洋世界との文化接触に光を当てるとともに、東アジアの学問・政治・外交の動向を広く視野に入れながら、19世紀から20世紀に至る近代日本の歩みについて、比較思想史の視座から検討します。				
◆ 到達目標	近代日本の成り立ちを、グローバル・ヒストリーの観点から理解する能力を身に付けていきます。その作業を通じて、現代の政治的な出来事を多角的かつ歴史的な視座から捉え、その本質的な課題について、自らの言葉で語れるようになることが目標です。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション—思想史の方法論について— 2. 19世紀東アジア国際秩序と「西洋の衝撃」—「開国」を巡る思想的考察— 3. 近代日本の黎明とオランダ法学 4. ヨーロッパ国際法と東アジア世界の変容 1 5. ヨーロッパ国際法と東アジア世界の変容 2 6. 文明化と脱亜—福澤諭吉の政治思想— 7. 近代東アジアにおける「功利」と「正義」 8. 儒学とキリスト教—政治・徳・宗教— 9. Constitution とは何か?—「憲法」制定と「この国のかたち」— 10. 翻訳の政治思想史—「権利」の概念を中心に— 11. 東アジアの政治哲学とデモクラシー 12. メディアとナショナリズム 13. 帝国主義と正義の行方 14. 「時代閉塞の現状」と超国家主義 15. 総括・試験				
◇ 成績評価の方法	テスト [50%] 平常点 [50%]				
◇ 教科書・参考書	教科書：毎回、プリントを配布する 参考書：大久保健晴『近代日本の政治構想とオランダ』（東京大学出版会、2010年）				
◇ 授業時間外学習	授業で配布したレジュメをもとに、家で復習をしてください。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 思 想 史 特 論 IV History of Japanese Thought (Advanced Lecture) IV	2	非常勤講師 本 村 昌 文	集 中 (2学期)		
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI604J				
◆ 授業題目	老いと死をめぐる日本思想史 (Study on relationship between Gerontology and Japanese Intellectual History)				
◆ 目的・概要	本授業は、「老い」をめぐる近年の研究状況を振り返りつつ、以下の2点について検討し、「老い」と「死」をめぐる日本思想史研究について考える。 ①日本思想史研究の視座を通して「老い」から「死」に至るプロセスにおいて人々が抱く意識に光をあて、近世日本における「老い」と「死」の観念について検討する。 ②近代日本から戦後日本における「老年学」研究の形成と展開を跡づけ、「老い」に関する研究における日本思想史研究の意義を検討する。				
◆ 到達目標	1、「老い」や「死」をめぐる問題に対する日本思想史研究からのアプローチを理解する。 2、近世日本における「老い」や「死」の観念について説明できる。 3、「老い」をめぐる現在の研究状況と日本思想史研究の接点について説明できる。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 2. 「老い」に関する研究状況(1) 3. 「老い」に関する研究状況(2) 4. 近世日本における「老い」の認識 5. 近世日本における「老い」と死別体験(1) 6. 近世日本における「老い」と死別体験(2) 7. 近世日本における「老い」と「死」の観念(1) 8. 近世日本における「老い」と「死」の観念(2) 9. 近世日本における「老い」と「死」の観念(3) 10. 近世日本における「老い」と「死」の観念(4) 11. 「老年学」の形成と展開(1) 12. 「老年学」の形成と展開(2) 13. 「老年学」の形成と展開(3) 14. 「老年学」の形成と展開(4) 15. まとめ				
◇ 成績評価の方法	授業期間中に課すリアクションペーパー（4回）40%、レポート60%。				
◇ 教科書・参考書	プリント等を配布する。参考書については、授業中に適宜紹介する。				
◇ 授業時間外学習	老いや死について、ニュースや新聞なども活用し、広く関心を持つようにする。				
その他：授業初日に具体的な内容とスケジュールを配布します。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 思 想 史 研 究 演 習 I History of Japanese Thought (Advanced Seminar) I	2	教授 佐藤弘夫	1 学期	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI607J																				
◆ 授業題目	日本思想史の諸問題Ⅰ (Varies issues of history of Japanese thought 1)																				
◆ 目的・概要	研究参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。																				
◆ 到達目標	日本思想史の研究方法の会得と深化																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width:50%;">9. 研究発表 6</td> </tr> <tr> <td>2. 新歓発表 1</td> <td>10. 研究発表 7</td> </tr> <tr> <td>3. 新歓発表 2</td> <td>11. 研究発表 8</td> </tr> <tr> <td>4. 研究発表 1</td> <td>12. 研究発表 9</td> </tr> <tr> <td>5. 研究発表 2</td> <td>13. 研究発表 10</td> </tr> <tr> <td>6. 研究発表 3</td> <td>14. 研究発表 11</td> </tr> <tr> <td>7. 研究発表 4</td> <td>15. 研究発表 12</td> </tr> <tr> <td>8. 研究発表 5</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 研究発表 6	2. 新歓発表 1	10. 研究発表 7	3. 新歓発表 2	11. 研究発表 8	4. 研究発表 1	12. 研究発表 9	5. 研究発表 2	13. 研究発表 10	6. 研究発表 3	14. 研究発表 11	7. 研究発表 4	15. 研究発表 12	8. 研究発表 5	
1. ガイダンス	9. 研究発表 6																				
2. 新歓発表 1	10. 研究発表 7																				
3. 新歓発表 2	11. 研究発表 8																				
4. 研究発表 1	12. 研究発表 9																				
5. 研究発表 2	13. 研究発表 10																				
6. 研究発表 3	14. 研究発表 11																				
7. 研究発表 4	15. 研究発表 12																				
8. 研究発表 5																					
◇ 成績評価の方法	論文 [80%] 出席 [20%]																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	プレレジユメは1週間前、本レジユメは1日前までに完成するよう準備する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 思 想 史 研 究 演 習 II History of Japanese Thought (Advanced Seminar) II	2	教授 佐藤弘夫	2 学期	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI608J																				
◆ 授業題目	日本思想史の諸問題Ⅱ (Varies issues of history of Japanese thought 2)																				
◆ 目的・概要	演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、学期末にはそれを全員が提出する。																				
◆ 到達目標	研究論文の作成																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width:50%;">9. 研究発表 8</td> </tr> <tr> <td>2. 研究発表 1</td> <td>10. 研究発表 9</td> </tr> <tr> <td>3. 研究発表 2</td> <td>11. 研究発表 10</td> </tr> <tr> <td>4. 研究発表 3</td> <td>12. 研究発表 11</td> </tr> <tr> <td>5. 研究発表 4</td> <td>13. 研究発表 12</td> </tr> <tr> <td>6. 研究発表 5</td> <td>14. 研究発表 13</td> </tr> <tr> <td>7. 研究発表 6</td> <td>15. 研究発表 14</td> </tr> <tr> <td>8. 研究発表 7</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 研究発表 8	2. 研究発表 1	10. 研究発表 9	3. 研究発表 2	11. 研究発表 10	4. 研究発表 3	12. 研究発表 11	5. 研究発表 4	13. 研究発表 12	6. 研究発表 5	14. 研究発表 13	7. 研究発表 6	15. 研究発表 14	8. 研究発表 7	
1. ガイダンス	9. 研究発表 8																				
2. 研究発表 1	10. 研究発表 9																				
3. 研究発表 2	11. 研究発表 10																				
4. 研究発表 3	12. 研究発表 11																				
5. 研究発表 4	13. 研究発表 12																				
6. 研究発表 5	14. 研究発表 13																				
7. 研究発表 6	15. 研究発表 14																				
8. 研究発表 7																					
◇ 成績評価の方法	論文 [80%] 出席 [20%]																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	プレレジユメは1週間前、本レジユメは1日前までに完成するよう準備する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
中国語学 中国文学 特論 I Chinese Language and Literature (Advanced Lecture) I	2	准教授 馬 暁 地	1 学期	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT612B																				
◆ 授業題目	唐詩と唐代社会（胡曾の《詠史詩》）(On Tang poetry)																				
◆ 目的・概要	晩唐時代の詩人胡曾は上古から隋時代までの歴史を詠じる百五十首の詠史詩を作りました。これらの作品を一首一首精読し、詩の美しさを味わいながら、中国の歴史を勉強する。授業は輪番で報告してもらう形式で進める。授業中に中国語で大量の詩文を読むので、受講生は二年以上中国語学習歴を有することが望ましい。																				
◆ 到達目標	唐詩の読解力を高める。特に中国語で唐詩及び文章を読む能力を養成すること。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 中国古代の詠史詩について (1)</td> <td>9. 《詠史詩》精読 1 《玉門関》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>2. 同上 (2)</td> <td>10. 《詠史詩》精読 2 《関西》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>3. 唐代の詠史詩 (1)</td> <td>11. 精読 3 《江夏》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>4. 同上 (2)</td> <td>12. 精読 4 《銅雀台》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>5. 詩人胡曾と彼の《詠史詩》(1)</td> <td>13. 精読 5 《西園》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>6. 同上 (2)</td> <td>14. 精読 6 《官渡》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>7. 同上 (3)</td> <td>15. 精読 7 《赤壁》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>8. 同上 (4)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 中国古代の詠史詩について (1)	9. 《詠史詩》精読 1 《玉門関》詩の内容と芸術表現	2. 同上 (2)	10. 《詠史詩》精読 2 《関西》詩の内容と芸術表現	3. 唐代の詠史詩 (1)	11. 精読 3 《江夏》詩の内容と芸術表現	4. 同上 (2)	12. 精読 4 《銅雀台》詩の内容と芸術表現	5. 詩人胡曾と彼の《詠史詩》(1)	13. 精読 5 《西園》詩の内容と芸術表現	6. 同上 (2)	14. 精読 6 《官渡》詩の内容と芸術表現	7. 同上 (3)	15. 精読 7 《赤壁》詩の内容と芸術表現	8. 同上 (4)	
1. 中国古代の詠史詩について (1)	9. 《詠史詩》精読 1 《玉門関》詩の内容と芸術表現																				
2. 同上 (2)	10. 《詠史詩》精読 2 《関西》詩の内容と芸術表現																				
3. 唐代の詠史詩 (1)	11. 精読 3 《江夏》詩の内容と芸術表現																				
4. 同上 (2)	12. 精読 4 《銅雀台》詩の内容と芸術表現																				
5. 詩人胡曾と彼の《詠史詩》(1)	13. 精読 5 《西園》詩の内容と芸術表現																				
6. 同上 (2)	14. 精読 6 《官渡》詩の内容と芸術表現																				
7. 同上 (3)	15. 精読 7 《赤壁》詩の内容と芸術表現																				
8. 同上 (4)																					
◇ 成績評価の方法	レポート (50%) 出席 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布																				
◇ 授業時間外学習	予習と復習を重視する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
中国語学 中国文学 特論 II Chinese Language and Literature (Advanced Lecture) II	2	准教授 馬 暁 地	2 学期	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT613B																				
◆ 授業題目	唐詩と唐代社会（胡曾の《詠史詩》）(On Tang poetry)																				
◆ 目的・概要	晩唐時代の詩人胡曾は上古から隋時代までの歴史を詠じる百五十首の詠史詩を作りました。これらの作品を一首一首精読し、詩の美しさを味わいながら、中国の歴史を勉強する。授業は輪番で報告してもらう形式で進める。授業中に中国語で大量の詩文を読むので、受講生は二年以上中国語学習歴を有することが望ましい。																				
◆ 到達目標	唐詩の読解力を高める。特に中国語で唐詩及び文章を読む能力を養成すること。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 中国古代の詠史詩について (1)</td> <td>9. 《詠史詩》精読 1 《玉門関》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>2. 同上 (2)</td> <td>10. 《詠史詩》精読 2 《関西》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>3. 唐代の詠史詩 (1)</td> <td>11. 精読 3 《江夏》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>4. 同上 (2)</td> <td>12. 精読 4 《銅雀台》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>5. 詩人胡曾と彼の《詠史詩》(1)</td> <td>13. 精読 5 《西園》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>6. 同上 (2)</td> <td>14. 精読 6 《官渡》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>7. 同上 (3)</td> <td>15. 精読 7 《赤壁》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>8. 同上 (4)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 中国古代の詠史詩について (1)	9. 《詠史詩》精読 1 《玉門関》詩の内容と芸術表現	2. 同上 (2)	10. 《詠史詩》精読 2 《関西》詩の内容と芸術表現	3. 唐代の詠史詩 (1)	11. 精読 3 《江夏》詩の内容と芸術表現	4. 同上 (2)	12. 精読 4 《銅雀台》詩の内容と芸術表現	5. 詩人胡曾と彼の《詠史詩》(1)	13. 精読 5 《西園》詩の内容と芸術表現	6. 同上 (2)	14. 精読 6 《官渡》詩の内容と芸術表現	7. 同上 (3)	15. 精読 7 《赤壁》詩の内容と芸術表現	8. 同上 (4)	
1. 中国古代の詠史詩について (1)	9. 《詠史詩》精読 1 《玉門関》詩の内容と芸術表現																				
2. 同上 (2)	10. 《詠史詩》精読 2 《関西》詩の内容と芸術表現																				
3. 唐代の詠史詩 (1)	11. 精読 3 《江夏》詩の内容と芸術表現																				
4. 同上 (2)	12. 精読 4 《銅雀台》詩の内容と芸術表現																				
5. 詩人胡曾と彼の《詠史詩》(1)	13. 精読 5 《西園》詩の内容と芸術表現																				
6. 同上 (2)	14. 精読 6 《官渡》詩の内容と芸術表現																				
7. 同上 (3)	15. 精読 7 《赤壁》詩の内容と芸術表現																				
8. 同上 (4)																					
◇ 成績評価の方法	レポート (50%) 出席 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布																				
◇ 授業時間外学習	予習と復習を重視する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
中国語学中国文学特論Ⅲ Chinese Language and Literature (Advanced Lecture) Ⅲ	2	非常勤講師 濱田麻矢	集中 (1学期)		
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT614J				
◆ 授業題目	20世紀中国文学における女学生表象 (Love and Decision Making: Contested Representations of Female Students in 20th Century China)				
◆ 目的・概要	近代中国文学をジェンダーの視角から再読することを目的とする。女子教育が興って以降、文学はどのように知性あるヒロインを創出し、享受し、消費したのかを具体的に作品に即して講じ、討論する。				
◆ 到達目標	20世紀中国の文学作品を多読し、女性史の視点からその潮流を理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：知性を持つ少女の登場 2. 新天地の発見：五四期の女学校小説(1) 陳衡哲と謝冰心 3. 楽園からの追放：五四期の女学校小説(2) 馮沅君と凌叔華 4. 自分のなかに蠢くもの：丁玲の初期小説 5. 内助の功という自己実現：魯迅と許広平 6. 欲望され、嫌悪される他者：郁達夫と沈從文 7. 青い服の少女：張恨水と張愛玲 8. 帝国のうちそとで：梅娘と楊千鶴 9. 愛よりも強いもの：革命前後の丁玲 10. 解放軍の入城と米国の誘惑：宗璞とイーユン・リー 11. 異性愛からの逸脱：張愛玲の後期小説 12. 政治の季節がすぎた後：六四直前の王安憶 13. 大きな歴史と小さな記憶：朱天心「古都」の周辺 14. Made in Hong Kong：西西、梁秉鈞、董啓章 15. まとめの討論 				
◇ 成績評価の方法	平常授業の討論参加で 60%、レポート 40%。				
◇ 教科書・参考書	各テキストについては、事前にPDFのかたちで配布します。受講を希望する人は、濱田(hamadama@gmail.com)に「女学生表象受講」という件名で、氏名のみ本文に記入したメールを送付してください。折り返しテキストをアップロードした電子掲示板へのパスワードを送付します。 (なお、電子掲示板への登録は、履修登録及び単位取得とは全く無関係です)				
◇ 授業時間外学習	日本語訳のあるテキストは必ず(そうでないものもできるだけ)授業前に読んでください。				
その他：毎回発言を求めますので、予習必須です。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
中国語学中国文学研究演習Ⅰ Chinese Language and Literature (Advanced Seminar) Ⅰ	2	教授 准教授 佐竹保子 土屋育子	1学期	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT615J				
◆ 授業題目	中国語学史中国文学史上の諸問題 (Studies of Chinese Language and Literature)				
◆ 目的・概要	【目的】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 中国語学の各分野について、理解を深める。 2. 中国文学の各分野について、理解を深める。 3. 研究発表の方法と論文作成の方法を、学ぶ。 4. 教員からの指摘を的確に理解し、解決方法を探索する。 5. 他人の研究発表を的確に理解した上で、自らの質問を過不足なく言語化する方法を、学ぶ。 【概要】 受講生は輪番で、自らのもっとも関心のある課題について、その先行研究の整理・問題点の析出・解決のための調査(文献の読解と分析を含む)の過程と結果を、文章化して発表する。発表レジュメは前週金曜正午まで。 発表レジュメを受け取った受講生は、三日間でレジュメを吟味・検討する。 上記の【目的】の1～5。および 6. 自ら納得のいく、適正な論文の作成。				
◆ 到達目標					
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(1) 2. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(2) 3. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(3) 4. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(4) 5. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(5) 6. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(6) 7. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(7) 8. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(8) 9. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(9) 10. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(10) 11. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(11) 12. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(12) 13. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(13) 14. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(14) 15. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(15) 				
◇ 成績評価の方法	出席と質疑応答(50%)。 レジュメによるプレゼンテーションと、レジュメ改訂の試みの発表(50%)。				
◇ 教科書・参考書	受講生各自の準備するプリント。				
◇ 授業時間外学習	発表者は、プレゼンテーションの準備。三日後の改訂稿の準備も含む。 発表者以外の受講生は、三日前に提出されるレジュメの吟味と検討。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
中国語学中国文学研究演習Ⅱ Chinese Language and Literature (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教授 佐竹保子 准教授 土屋育子	2学期	月	5
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHS-LIT616J 中国語学史中国文学史上の諸問題 (Studies of Chinese Language and Literature) 【目的】 1. 中国語学の各分野について、理解を深める。 2. 中国文学の各分野について、理解を深める。 3. 研究発表の方法と論文作成の方法を、学ぶ。 4. 教員からの指摘を的確に理解し、解決方法を探索する。 5. 他人の研究発表を的確に理解した上で、自らの質問を過不足なく言語化する方法を、学ぶ。 【概要】 受講生は輪番で、自らのもっとも関心のある課題について、その先行研究の整理・問題点の析出・解決のための調査（文献の読解と分析を含む）の過程と結果を、文章化して発表する。発表レジュメは前週金曜正午まで。 発表レジュメを受け取った受講生は、三日間でレジュメを吟味・検討する。 上記の【目的】の1～5。および 6. 自ら納得のいく、適正な論文の作成。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	1. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (1) 9. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (9) 2. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (2) 10. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (10) 3. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (3) 11. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (11) 4. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (4) 12. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (12) 5. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (5) 13. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (13) 6. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (6) 14. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (14) 7. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (7) 15. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (15) 8. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (8)				
◇ 成績評価の方法	出席と質疑応答 (50%)。 レジュメによるプレゼンテーションと、レジュメ改訂の試みの発表 (50%)。				
◇ 教科書・参考書	受講生各自の準備するプリント。				
◇ 授業時間外学習	発表者は、プレゼンテーションの準備。三日後の改訂稿の準備も含む。 発表者以外の受講生は、三日前に提出されるレジュメの吟味と検討。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
中国語学中国文学研究演習Ⅰ Chinese Language and Literature (Advanced Seminar) Ⅰ	2	准教授 馬 暁 地	1学期	木	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHS-LIT615B 中国当代文学研究 (Chinses modern novel) 中国当代の有名な女性作家の代表作品を選んで精読し、面白い内容と新鮮な言語表現を味わう。 今年叶广芩氏の京味小説《全家福》を読む。授業は輪番で報告してもらう形式で進める。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	中国当代の文学作品の読解力を高めること。 1. 中国当代女性作家と代表作品について 9. 同上 2. 同上 10. 同上 3. 叶广芩と彼女の《全家福》 11. 同上 4. 同上 12. 同上 5. 同上 13. 同上 6. 同上 14. 同上 7. 同上 15. まとめと復習 8. 《全家福》第十章の精読——その内容と言語表現				
◇ 成績評価の方法	レポート (50%)、出席 (50%)				
◇ 教科書・参考書	プリント配布				
◇ 授業時間外学習	予習と復習を重視すること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
中国語学中国文学研究演習Ⅱ Chinese Language and Literature (Advanced Seminar) Ⅱ	2	准教授 馬 暁 地	2学期	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT616B																				
◆ 授業題目	中国当代文学研究 (Chinses modern novel)																				
◆ 目的・概要	中国当代の有名な女性作家の代表作品を選んで精読し、面白い内容と新鮮な言語表現を味わう。今年叶广岑氏の京味小説《全家福》を読む。授業は輪番で報告してもらう形式で進める。																				
◆ 到達目標	中国当代の文学作品の読解力を高めること。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 中国当代女性作家と代表作品について</td> <td>9. 同上</td> </tr> <tr> <td>2. 同上</td> <td>10. 同上</td> </tr> <tr> <td>3. 叶广岑と彼女の《全家福》</td> <td>11. 同上</td> </tr> <tr> <td>4. 同上</td> <td>12. 同上</td> </tr> <tr> <td>5. 同上</td> <td>13. 同上</td> </tr> <tr> <td>6. 同上</td> <td>14. 同上</td> </tr> <tr> <td>7. 同上</td> <td>15. まとめと復習</td> </tr> <tr> <td>8. 《全家福》第十章の精読——その内容と言語表現</td> <td></td> </tr> </table>					1. 中国当代女性作家と代表作品について	9. 同上	2. 同上	10. 同上	3. 叶广岑と彼女の《全家福》	11. 同上	4. 同上	12. 同上	5. 同上	13. 同上	6. 同上	14. 同上	7. 同上	15. まとめと復習	8. 《全家福》第十章の精読——その内容と言語表現	
1. 中国当代女性作家と代表作品について	9. 同上																				
2. 同上	10. 同上																				
3. 叶广岑と彼女の《全家福》	11. 同上																				
4. 同上	12. 同上																				
5. 同上	13. 同上																				
6. 同上	14. 同上																				
7. 同上	15. まとめと復習																				
8. 《全家福》第十章の精読——その内容と言語表現																					
◇ 成績評価の方法	レポート (50%)、出席 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布																				
◇ 授業時間外学習	予習と復習を重視すること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
中国語学中国文学研究演習Ⅰ Chinese Language and Literature (Advanced Seminar) Ⅰ	2	准教授 土 屋 育 子	1学期	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT615B																				
◆ 授業題目	中国の俗文学を読む (Chinese Popular Literature)																				
◆ 目的・概要	中国近世の白話文学作品の読解を通して、中国の俗文学に関する基礎的な知識を学ぶとともに、原文の読解力、分析し鑑賞する力を習得します。授業は、発表と質疑応答によってすすめます。前期は『三国志演義』を取り上げます。																				
◆ 到達目標	(1)中国近世の白話文の読解力を向上させる。 (2)白話文学作品について、分析し鑑賞する力を習得する。 (3)辞書やデータベース等の活用と、原典 (影印本・標点本等) に慣れる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 発表と質疑応答 (7)</td> </tr> <tr> <td>2. 作品について</td> <td>10. 発表と質疑応答 (8)</td> </tr> <tr> <td>3. 発表と質疑応答 (1)</td> <td>11. 発表と質疑応答 (9)</td> </tr> <tr> <td>4. 発表と質疑応答 (2)</td> <td>12. 発表と質疑応答 (10)</td> </tr> <tr> <td>5. 発表と質疑応答 (3)</td> <td>13. 発表と質疑応答 (11)</td> </tr> <tr> <td>6. 発表と質疑応答 (4)</td> <td>14. 発表と質疑応答 (12)</td> </tr> <tr> <td>7. 発表と質疑応答 (5)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 発表と質疑応答 (6)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 発表と質疑応答 (7)	2. 作品について	10. 発表と質疑応答 (8)	3. 発表と質疑応答 (1)	11. 発表と質疑応答 (9)	4. 発表と質疑応答 (2)	12. 発表と質疑応答 (10)	5. 発表と質疑応答 (3)	13. 発表と質疑応答 (11)	6. 発表と質疑応答 (4)	14. 発表と質疑応答 (12)	7. 発表と質疑応答 (5)	15. まとめ	8. 発表と質疑応答 (6)	
1. ガイダンス	9. 発表と質疑応答 (7)																				
2. 作品について	10. 発表と質疑応答 (8)																				
3. 発表と質疑応答 (1)	11. 発表と質疑応答 (9)																				
4. 発表と質疑応答 (2)	12. 発表と質疑応答 (10)																				
5. 発表と質疑応答 (3)	13. 発表と質疑応答 (11)																				
6. 発表と質疑応答 (4)	14. 発表と質疑応答 (12)																				
7. 発表と質疑応答 (5)	15. まとめ																				
8. 発表と質疑応答 (6)																					
◇ 成績評価の方法	出席：30% 授業への取り組み (発表・質疑等)：70%																				
◇ 教科書・参考書	テキストはこちらでプリントを配布。 参考文献は授業中に指示。																				
◇ 授業時間外学習	原文の一字一字についてそれがどのような意味か、その箇所が前後の文脈からどのような状況を言っているのか、などに気を配りながら、丁寧な予習をこころがけてください。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
中国語学中国文学研究演習Ⅱ Chinese Language and Literature (Advanced Seminar) Ⅱ	2	准教授 土屋育子	2学期	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT616B																				
◆ 授業題目	中国の俗文学を読む (Chinese Popular Literature)																				
◆ 目的・概要	中国近世の白話文学作品の読解を通して、中国の俗文学に関する基礎的な知識を学ぶとともに、原文の読解力、分析し鑑賞する力を習得します。授業は、発表と質疑応答によってすすめます。後期は『水滸伝』を取り上げます。																				
◆ 到達目標	(1)中国近世の白話文の読解力を向上させる。 (2)白話文学作品について、分析し鑑賞する力を習得する。 (3)辞書やデータベース等の活用と、原典(影印本・標点本等)に慣れる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 発表と質疑応答 (7)</td> </tr> <tr> <td>2. 作品について</td> <td>10. 発表と質疑応答 (8)</td> </tr> <tr> <td>3. 発表と質疑応答 (1)</td> <td>11. 発表と質疑応答 (9)</td> </tr> <tr> <td>4. 発表と質疑応答 (2)</td> <td>12. 発表と質疑応答 (10)</td> </tr> <tr> <td>5. 発表と質疑応答 (3)</td> <td>13. 発表と質疑応答 (11)</td> </tr> <tr> <td>6. 発表と質疑応答 (4)</td> <td>14. 発表と質疑応答 (12)</td> </tr> <tr> <td>7. 発表と質疑応答 (5)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 発表と質疑応答 (6)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 発表と質疑応答 (7)	2. 作品について	10. 発表と質疑応答 (8)	3. 発表と質疑応答 (1)	11. 発表と質疑応答 (9)	4. 発表と質疑応答 (2)	12. 発表と質疑応答 (10)	5. 発表と質疑応答 (3)	13. 発表と質疑応答 (11)	6. 発表と質疑応答 (4)	14. 発表と質疑応答 (12)	7. 発表と質疑応答 (5)	15. まとめ	8. 発表と質疑応答 (6)	
1. ガイダンス	9. 発表と質疑応答 (7)																				
2. 作品について	10. 発表と質疑応答 (8)																				
3. 発表と質疑応答 (1)	11. 発表と質疑応答 (9)																				
4. 発表と質疑応答 (2)	12. 発表と質疑応答 (10)																				
5. 発表と質疑応答 (3)	13. 発表と質疑応答 (11)																				
6. 発表と質疑応答 (4)	14. 発表と質疑応答 (12)																				
7. 発表と質疑応答 (5)	15. まとめ																				
8. 発表と質疑応答 (6)																					
◇ 成績評価の方法	出席：30% 授業への取り組み(発表・質疑等)：70%																				
◇ 教科書・参考書	テキストはこちらでプリントを配布。 参考文献は授業中に指示。																				
◇ 授業時間外学習	原文の一字一字についてそれがどのような意味か、その箇所が前後の文脈からどのような状況を言っているのか、などに気を配りながら、丁寧な予習をこころがけてください。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
中国語学中国文学研究演習Ⅰ Chinese Language and Literature (Advanced Seminar) Ⅰ	2	教授 佐竹保子	1学期	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT615B																				
◆ 授業題目	漢魏六朝詩、及びその背後にある文献研究 (Study of Chinese Classical Verse and Prose in Han-Wei and Six dynasties Era)																				
◆ 目的・概要	【目的】 (1)中国古典詩の基礎的伝統的読解方法を、体得する。 (2)テキストの校勘方法を、学ぶ。 (3)テキストの注に引用された多種多様な文献を認知して、目録学上に位置づける。 (4)上記の文献に関わる東北大学図書館内の書籍を探索し、図書館の活用方法を知る。 (5)上記の文献を、読みこなす。 (6)テキストの注釈者と対話しつつ、古典詩を読解し、鑑賞する。 【概要】 六家注本『文選』卷二十三(李善注本、六臣注本も同じ。五臣注本では卷十二)の張載「七哀詩二首之二」以後を解説します。担当者は、レジユメを作り発表します。担当者以外の受講者は、テキストとレジユメを熟読して質疑応答します。																				
◆ 到達目標	上記の【目的】(1)~(6)。および、(7)担当者は、受講生に分かりやすいレジユメと説明を準備する。 (8)受講生は、担当者の説明を理解したうえで、自らの疑問点を洗い出し、それを的確に言語化する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション。テキストの注に引用される文献について理解を深めると同時に、目録学の基本を知る。</td> <td>8. 『文選』 卷二十三読解 (7)</td> </tr> <tr> <td>2. 『文選』 卷二十三読解 (1)</td> <td>9. 『文選』 卷二十三読解 (8)</td> </tr> <tr> <td>3. 『文選』 卷二十三読解 (2)</td> <td>10. 『文選』 卷二十三読解 (9)</td> </tr> <tr> <td>4. 『文選』 卷二十三読解 (3)</td> <td>11. 『文選』 卷二十三読解 (10)</td> </tr> <tr> <td>5. 『文選』 卷二十三読解 (4)</td> <td>12. 『文選』 卷二十三読解 (11)</td> </tr> <tr> <td>6. 『文選』 卷二十三読解 (5)</td> <td>13. 『文選』 卷二十三読解 (12)</td> </tr> <tr> <td>7. 『文選』 卷二十三読解 (6)</td> <td>14. 『文選』 卷二十三読解 (13)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 授業のまとめ。</td> </tr> </table>					1. オリエンテーション。テキストの注に引用される文献について理解を深めると同時に、目録学の基本を知る。	8. 『文選』 卷二十三読解 (7)	2. 『文選』 卷二十三読解 (1)	9. 『文選』 卷二十三読解 (8)	3. 『文選』 卷二十三読解 (2)	10. 『文選』 卷二十三読解 (9)	4. 『文選』 卷二十三読解 (3)	11. 『文選』 卷二十三読解 (10)	5. 『文選』 卷二十三読解 (4)	12. 『文選』 卷二十三読解 (11)	6. 『文選』 卷二十三読解 (5)	13. 『文選』 卷二十三読解 (12)	7. 『文選』 卷二十三読解 (6)	14. 『文選』 卷二十三読解 (13)		15. 授業のまとめ。
1. オリエンテーション。テキストの注に引用される文献について理解を深めると同時に、目録学の基本を知る。	8. 『文選』 卷二十三読解 (7)																				
2. 『文選』 卷二十三読解 (1)	9. 『文選』 卷二十三読解 (8)																				
3. 『文選』 卷二十三読解 (2)	10. 『文選』 卷二十三読解 (9)																				
4. 『文選』 卷二十三読解 (3)	11. 『文選』 卷二十三読解 (10)																				
5. 『文選』 卷二十三読解 (4)	12. 『文選』 卷二十三読解 (11)																				
6. 『文選』 卷二十三読解 (5)	13. 『文選』 卷二十三読解 (12)																				
7. 『文選』 卷二十三読解 (6)	14. 『文選』 卷二十三読解 (13)																				
	15. 授業のまとめ。																				
◇ 成績評価の方法	授業中のプレゼンテーションに至るまでの調査とレジユメの作成の仕方 (33%)。 授業中のプレゼンテーション (34%)。 それに対する質疑応答 (33%)。																				
◇ 教科書・参考書	教科書はプリントを配布。参考書は多数あるので、オリエンテーション及びそれ以後の授業で説明します。																				
◇ 授業時間外学習	担当者は、授業中のプレゼンテーションに至るまでの調査と、プレゼンテーションの予行演習。 担当者以外の受講生は、テキストの予習と、提出されたレジユメの熟読。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
中国語学中国文学研究演習Ⅱ Chinese Language and Literature (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教授 佐竹保子	2学期	火	5
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHS-LIT616B 漢魏六朝詩、及びその背後にある文献研究 (Study of Chinese Classical Verse and Prose in Han-Wei and Six dynasties Era) 【目的】 (1)中国古典詩の基礎的伝統的読解方法を、体得する。 (2)テキストの校勘方法を、学ぶ。 (3)テキストの注に引用された多種多様な文献を認知して、目録学上に位置づける。 (4)上記の文献に関わる東北大学図書館内の書籍を探索し、図書館の活用方法を知る。 (5)上記の文献を、読みこなす。 (6)テキストの注釈者と対話しつつ、古典詩を読解し、鑑賞する。 【概要】 六家注本『文選』卷二十三（李善注本、六臣注本も同じ。五臣注本では卷十二）の張載「七哀詩二首之二」以後を解読します。担当者は、レジユメを作り発表します。担当者以外の受講者は、テキストとレジユメを熟読して質疑応答します。 ◆ 到達目標 上記の【目的】(1)～(6)。および、(7)担当者は、受講生に分かりやすいレジユメと説明を準備する。 (8)受講生は、担当者の説明を理解したうえで、自らの疑問点を洗い出し、それを的確に言語化する。 ◆ 授業内容・方法 1. オリエンテーション。テキストの注に引用される文献について理解を深めると同時に、目録学の基本を知る。 2. 『文選』 卷二十三読解 (1) 3. 『文選』 卷二十三読解 (2) 4. 『文選』 卷二十三読解 (3) 5. 『文選』 卷二十三読解 (4) 6. 『文選』 卷二十三読解 (5) 7. 『文選』 卷二十三読解 (6) 8. 『文選』 卷二十三読解 (7) 9. 『文選』 卷二十三読解 (8) 10. 『文選』 卷二十三読解 (9) 11. 『文選』 卷二十三読解 (10) 12. 『文選』 卷二十三読解 (11) 13. 『文選』 卷二十三読解 (12) 14. 『文選』 卷二十三読解 (13) 15. 授業のまとめ。 ◇ 成績評価の方法 授業中のプレゼンテーションに至るまでの調査とレジユメの作成の仕方 (33%)。 授業中のプレゼンテーション (34%)。 それに対する質疑応答 (33%)。 ◇ 教科書・参考書 教科書はプリントを配布。参考書は多数あるので、オリエンテーション及びそれ以後の授業で説明します。 ◇ 授業時間外学習 担当者は、授業中のプレゼンテーションに至るまでの調査と、プレゼンテーションの予行演習。 担当者以外の受講生は、テキストの予習と、提出されたレジユメの熟読。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
中国思想中国哲学特論Ⅰ Chinese Thought (Advanced Lecture) Ⅰ	2	教授 三浦秀一	1学期	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI613J																				
◆ 授業題目	中国近世・近代思想研究の現状と課題 (Recent Studies on the Thought of the Pre-modern and Modern China in Japan)																				
◆ 目的・概要	中国思想に関する日本語で書かれた研究論文・論著のなかから、いわゆる近世から近代にいたる時期を対象として執筆された最近の作品を読み、その概要をまとめる。 受講生は、そうした作業を通じて、当該時代の研究状況を全体的に把握するとともに、個別の論文に対する批判的読解の作法を学ぶ。																				
◆ 到達目標	学術論文の探索、読解、批判に慣れる。中国近世、近代の思想に関する研究の動向を掌握する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 報告と討論</td> </tr> <tr> <td>2. 報告と討論</td> <td>10. 報告と討論</td> </tr> <tr> <td>3. 報告と討論</td> <td>11. 報告と討論</td> </tr> <tr> <td>4. 報告と討論</td> <td>12. 報告と討論</td> </tr> <tr> <td>5. 報告と討論</td> <td>13. 報告と討論</td> </tr> <tr> <td>6. 報告と討論</td> <td>14. 報告と討論</td> </tr> <tr> <td>7. 報告と討論</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 報告と討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 報告と討論	2. 報告と討論	10. 報告と討論	3. 報告と討論	11. 報告と討論	4. 報告と討論	12. 報告と討論	5. 報告と討論	13. 報告と討論	6. 報告と討論	14. 報告と討論	7. 報告と討論	15. まとめ	8. 報告と討論	
1. ガイダンス	9. 報告と討論																				
2. 報告と討論	10. 報告と討論																				
3. 報告と討論	11. 報告と討論																				
4. 報告と討論	12. 報告と討論																				
5. 報告と討論	13. 報告と討論																				
6. 報告と討論	14. 報告と討論																				
7. 報告と討論	15. まとめ																				
8. 報告と討論																					
◇ 成績評価の方法	授業時間内における報告内容 (50%)、討論への参加度 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、討論の対象となる研究論文をその都度、配付する。																				
◇ 授業時間外学習	自身が担当する論文について、論証方法や独自性などに注意しながら、その概要をまとめ、報告の準備をおこなう。自身が担当しない論文についても、事前に読んでおく。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
中国思想中国哲学特論Ⅱ Chinese Thought (Advanced Lecture) Ⅱ	2	准教授 齋藤智寛	2学期	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI614J																				
◆ 授業題目	中国古代中世思想研究の現状と課題 (Study in the contemporary researches for Chinese ancient and medieval thought)																				
◆ 目的・概要	日本国内の学術誌に発表された学術論文を題材に、中国古代中世思想研究の現状を把握し検討する。授業は、担当教員による講義と受講生による発表と討論の両形式により進める。発表では、発表担当者は自分の選んだ論文について紹介し、教員と他の受講生も当該論文の内容について討論するほか、担当者の発表内容についても議論をおこなう。発表者は討論の結果をふまえて発表内容をより良いものに修正し、学期末に小レポートとして提出する。一連の発表とレポートを通じて、学術論文について研究史や著者の課題といった背景を踏まえた読解をし、その理解の上に立って的確な批判と批評をおこなう能力を養うのが本講義の目的である。																				
◆ 到達目標	学術論文の論旨を的確に理解し、その意義を的確に評価できる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入。講義の目的と計画の説明。</td> <td>9. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 4</td> </tr> <tr> <td>2. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 1</td> <td>10. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 5</td> </tr> <tr> <td>3. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 1</td> <td>11. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 5</td> </tr> <tr> <td>4. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 2</td> <td>12. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 6</td> </tr> <tr> <td>5. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 2</td> <td>13. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 6</td> </tr> <tr> <td>6. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 3</td> <td>14. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 7</td> </tr> <tr> <td>7. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 3</td> <td>15. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 7</td> </tr> <tr> <td>8. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 4</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入。講義の目的と計画の説明。	9. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 4	2. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 1	10. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 5	3. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 1	11. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 5	4. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 2	12. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 6	5. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 2	13. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 6	6. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 3	14. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 7	7. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 3	15. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 7	8. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 4	
1. 導入。講義の目的と計画の説明。	9. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 4																				
2. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 1	10. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 5																				
3. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 1	11. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 5																				
4. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 2	12. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 6																				
5. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 2	13. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 6																				
6. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 3	14. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 7																				
7. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 3	15. 中国古代中世思想研究論文に関する発表と討論 7																				
8. 中国古代中世思想研究論文の紹介と批評 4																					
◇ 成績評価の方法	口頭発表 (30%)、議論への参加状況 (10%)、レポート (60%)																				
◇ 教科書・参考書	講義中に随時紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	講義で取り上げる論文は各自読んでおくこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
中国思想中国哲学特論Ⅲ Chinese Thought (Advanced Lecture) Ⅲ	2	非常勤講師 近藤浩之	集中 (1学期)		
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI615J				
◆ 授業題目	諸子の「辯」の論理と、「易」の術数の思考 (The Logic of "Bian" (debate) and The Mathematics of I-Ching)				
◆ 目的・概要	中国の戦国諸子の「辯」(言語哲学、論理学)に関わる資料の読解を通じて、諸子百家の言説の思想と論理(思考方法)に対する理解を深める。 また、馬王堆漢墓帛書『周易』と関連資料の読解を通じて、戦国時代から漢代にかけての「易」と術数に関する諸言説について、その思想と論理(思考方法)に対する理解を深める。				
◆ 到達目標	両者の思想や論理に対する分析や比較を通じて、中国思想独特の思考方法を理解する。 中国戦国時代における諸子の言説とその基盤となっている「辯」の論理を、現代の思考法にとらわれることなく、原典の漢文に即して把握するとともに、それに基づいて古代思想の構造を復元していく手法を身につける。 また、「易」とそれをめぐる術数の論理の展開を、出土文字資料を含む原典に即して把握するとともに、原典を根拠にして思想史を再構成していく手法を身につける。				
◆ 授業内容・方法	1. 導入：張家山漢墓竹簡『算數書』より見る算数の論理 (抽象的思考法と具体的思考法) 2. 『墨子』小取篇より見る日常言語の論理 1 (「是にして然り」と「是にして然らず」) 3. 『墨子』小取篇より見る日常言語の論理 2 (「是ならずして然り」その他) 4. 『莊子』齊物論篇より見る是非論争の論理 1 (是非の「辯」について) 5. 『莊子』齊物論篇より見る是非論争の論理 2 (類と不類は同類?) 6. 諸子百家の「辯」と論理(『孟子』を読み直す) 7. 馬王堆漢墓帛書『周易』の構造と内容	8. 帛書『周易』と今本『周易』より見る易学思想史 1 (二三子篇を中心に) 9. 帛書『周易』と今本『周易』より見る易学思想史 2 (要篇と繆篇を中心に) 10. 王家台秦墓竹簡『歸藏』について 11. 桃源瑞仙『百衲襖』(『易抄』)と朱熹「筮儀」1 (本筮法に関する解説) 12. 桃源瑞仙『百衲襖』(『易抄』)と朱熹「筮儀」2 (本筮法の実践) 13. 擲錢法に対する桃源瑞仙の講抄1 (擲錢法に関する解説) 14. 擲錢法に対する桃源瑞仙の講抄2 (擲錢法の実践) 15. まとめ			
◇ 成績評価の方法	毎回の授業における質問票、授業への参加態度、授業終了後のレポートの内容を総合して、授業内容の理解度と到達目標の達成度を評価する。				
◇ 教科書・参考書	毎回、事前に資料プリントを配布する。『易』に関する参考書は次の通り。 三浦国雄【増訂】『易経』(東洋書院、2008年) ISBN: 978-4-88594-408-6 (用語解説・重要論文も収録されていて有益。) 朱伯崑・伊東倫厚『易学哲学史』(朋友書店、2009年) ISBN: 978-4-89281-120-3 (易学の思想史を原典に拠りつつしっかりと記述した名著の翻訳。) 事前に配布するプリントに目を通して置く。 授業内容を復習しておく。				
◇ 授業時間外学習	事前に配布するプリントに目を通して置く。 授業内容を復習しておく。				
その他：学習の理解度に応じて、授業内容や進度が変更される場合がある。 授業内容の一部を、馬王堆漢墓帛書『戦国縦横家書』の読解と解説に変更する場合もある。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
中国思想中国哲学研究演習Ⅰ Chinese Thought (Advanced Seminar) Ⅰ	2	准教授 齋藤智寛	1学期	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI617J				
◆ 授業題目	楊文会等『仏教宗派詳注』輪読 (Reading in the Commentary for the Treatise of Chinese Buddhist schools)				
◆ 目的・概要	清・楊文会撰、民国・万鈞注『仏教宗派詳注』を輪読会形式で読む。中国仏教各宗派の歴史と教理について一定の理解を得るのみならず、それを清末民初の仏教徒がいかに総括し同時代に宣伝しようとしたのかを理解する。				
◆ 到達目標	清末民初期の仏教徒が総括した中国仏教の姿を正確な原典読解にもとづいて理解できる。				
◆ 授業内容・方法	1. 導入。楊文会と清末民初の仏教について。 2. 『仏教宗派詳注』会読 1 3. 『仏教宗派詳注』会読 2 4. 『仏教宗派詳注』会読 3 5. 『仏教宗派詳注』会読 4 6. 『仏教宗派詳注』会読 5 7. 『仏教宗派詳注』会読 6 8. 『仏教宗派詳注』会読 7	9. 『仏教宗派詳注』会読 8 10. 『仏教宗派詳注』会読 9 11. 『仏教宗派詳注』会読 10 12. 『仏教宗派詳注』会読 11 13. 『仏教宗派詳注』会読 12 14. 『仏教宗派詳注』会読 13 15. 『仏教宗派詳注』会読 14			
◇ 成績評価の方法	発表(80%)、討論への参加状況(20%)				
◇ 教科書・参考書	プリントを配布する。				
◇ 授業時間外学習	毎回の予習のほか、問題になった事柄は授業終了後できるだけ早く各自調べておくこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
中国思想中国哲学研究演習Ⅱ Chinese Thought (Advanced Seminar) Ⅱ	2	准教授 齋藤智寛	2学期	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI618J																				
◆ 授業題目	文才『肇論新疏』精読 (Advanced reading in the New commentary for Zhao-lun)																				
◆ 目的・概要	元・文才『肇論新疏』を輪読会形式で読む。																				
◆ 到達目標	本文と注釈の立場の違いや思想史的背景に留意しながらテキストを読むことができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入。『肇論』とその注釈書について。</td> <td>9. 『肇論新疏』会読 8</td> </tr> <tr> <td>2. 『肇論新疏』会読 1</td> <td>10. 『肇論新疏』会読 9</td> </tr> <tr> <td>3. 『肇論新疏』会読 2</td> <td>11. 『肇論新疏』会読 10</td> </tr> <tr> <td>4. 『肇論新疏』会読 3</td> <td>12. 『肇論新疏』会読 11</td> </tr> <tr> <td>5. 『肇論新疏』会読 4</td> <td>13. 『肇論新疏』会読 12</td> </tr> <tr> <td>6. 『肇論新疏』会読 5</td> <td>14. 『肇論新疏』会読 13</td> </tr> <tr> <td>7. 『肇論新疏』会読 6</td> <td>15. 『肇論新疏』会読 14</td> </tr> <tr> <td>8. 『肇論新疏』会読 7</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入。『肇論』とその注釈書について。	9. 『肇論新疏』会読 8	2. 『肇論新疏』会読 1	10. 『肇論新疏』会読 9	3. 『肇論新疏』会読 2	11. 『肇論新疏』会読 10	4. 『肇論新疏』会読 3	12. 『肇論新疏』会読 11	5. 『肇論新疏』会読 4	13. 『肇論新疏』会読 12	6. 『肇論新疏』会読 5	14. 『肇論新疏』会読 13	7. 『肇論新疏』会読 6	15. 『肇論新疏』会読 14	8. 『肇論新疏』会読 7	
1. 導入。『肇論』とその注釈書について。	9. 『肇論新疏』会読 8																				
2. 『肇論新疏』会読 1	10. 『肇論新疏』会読 9																				
3. 『肇論新疏』会読 2	11. 『肇論新疏』会読 10																				
4. 『肇論新疏』会読 3	12. 『肇論新疏』会読 11																				
5. 『肇論新疏』会読 4	13. 『肇論新疏』会読 12																				
6. 『肇論新疏』会読 5	14. 『肇論新疏』会読 13																				
7. 『肇論新疏』会読 6	15. 『肇論新疏』会読 14																				
8. 『肇論新疏』会読 7																					
◇ 成績評価の方法	発表 (80%)、討論への参加状況 (20%)																				
◇ 教科書・参考書	プリントを配布する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の予習のほか、問題になった事柄は授業終了後できるだけ早く各自調べておくこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
中国思想中国哲学研究演習Ⅲ Chinese Thought (Advanced Seminar) Ⅲ	2	教授 三浦秀一	1学期	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI619J																				
◆ 授業題目	陽明後学研究1 (Reading and Research : the Thought of Wang Yang-ming school 1)																				
◆ 目的・概要	<p>明朝正徳から嘉靖期に活躍した王守仁 (号陽明) の学問の語彙や思考方法の習得を目的として、王畿 (号龍溪) と聶豹 (号双江) とのあいだに交わされた思想的書簡を精読する。体制教学としての朱子学を批判しつつ陽明が構築した学問は、その高弟たちによって洗練される一方、弟子それぞれの個性に従って多様化しました。その高弟のなかでも、龍溪と双江両者の思想は両極に位置するものと評価されるのであり、本講義では、王学の宗旨とも言える「致良知」をめぐる、この両者が各自の主張を述べ合った往復書簡 (王畿と聶豹それぞれの文集に収録される「致知議略」) を取り上げ、その丁寧な現代語訳と注釈の作成をおこなう。</p>																				
◆ 到達目標	王学関連の文献に習熟し、その現代語訳と詳細な注釈とが作成できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>2. 訳注の発表と討論</td> <td>10. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>3. 訳注の発表と討論</td> <td>11. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>4. 訳注の発表と討論</td> <td>12. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>5. 訳注の発表と討論</td> <td>13. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>6. 訳注の発表と討論</td> <td>14. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>7. 訳注の発表と討論</td> <td>15. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>8. 訳注の発表と討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 訳注の発表と討論	2. 訳注の発表と討論	10. 訳注の発表と討論	3. 訳注の発表と討論	11. 訳注の発表と討論	4. 訳注の発表と討論	12. 訳注の発表と討論	5. 訳注の発表と討論	13. 訳注の発表と討論	6. 訳注の発表と討論	14. 訳注の発表と討論	7. 訳注の発表と討論	15. 訳注の発表と討論	8. 訳注の発表と討論	
1. ガイダンス	9. 訳注の発表と討論																				
2. 訳注の発表と討論	10. 訳注の発表と討論																				
3. 訳注の発表と討論	11. 訳注の発表と討論																				
4. 訳注の発表と討論	12. 訳注の発表と討論																				
5. 訳注の発表と討論	13. 訳注の発表と討論																				
6. 訳注の発表と討論	14. 訳注の発表と討論																				
7. 訳注の発表と討論	15. 訳注の発表と討論																				
8. 訳注の発表と討論																					
◇ 成績評価の方法	発表 (75%)、受講態度 (25%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せずプリントを配布する。参考書は講義のなかで紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	<p>担当者は、発表の準備を入念におこなう。担当者以外の受講者も、担当者と同等もしくはそれ以上に、読解のための予習をおこなう。</p> <p>また、発表時に配布されたレジュメ等に関しては、それを改めて読み直し、次回以降の授業に活用する。</p>																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																
中国思想中国哲学研究演習Ⅳ Chinese Thought (Advanced SeminarⅣ)	2	教授	三 浦 秀 一	2学期	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI620J																					
◆ 授業題目	陽明後学研究2 (Reading and Research : the Thought of Wang Yang-ming school 2)																					
◆ 目的・概要	<p>明朝正徳から嘉靖期に活躍した王守仁(号陽明)の学問の語彙や思考方法の習得を目的として、王畿(号龍溪)と聶豹(号双江)とのあいだに交わされた思想的書簡を精読する。体制教学としての朱子学を批判しつつ陽明が構築した学問は、その高弟たちによって洗練される一方、弟子それぞれの個性に従って多様化しました。その高弟のなかでも、龍溪と双江両者の思想は両極に位置するものと評価されるのであり、本講義では、王学の宗旨とも言える「致良知」をめぐる、この両者が各自の主張を述べ合った往復書簡(王畿と聶豹それぞれの文集に収録される「致知議略」)を取り上げ、その丁寧な現代語訳と注釈の作成をおこなう。</p>																					
◆ 到達目標	王学関連の文献に習熟し、その現代語訳と詳細な注釈とが作成できるようになる。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 前期の復習</td> <td>9. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>2. 訳注の発表と討論</td> <td>10. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>3. 訳注の発表と討論</td> <td>11. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>4. 訳注の発表と討論</td> <td>12. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>5. 訳注の発表と討論</td> <td>13. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>6. 訳注の発表と討論</td> <td>14. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>7. 訳注の発表と討論</td> <td>15. 訳注の発表と討論</td> </tr> <tr> <td>8. 訳注の発表と討論</td> <td></td> </tr> </table>						1. 前期の復習	9. 訳注の発表と討論	2. 訳注の発表と討論	10. 訳注の発表と討論	3. 訳注の発表と討論	11. 訳注の発表と討論	4. 訳注の発表と討論	12. 訳注の発表と討論	5. 訳注の発表と討論	13. 訳注の発表と討論	6. 訳注の発表と討論	14. 訳注の発表と討論	7. 訳注の発表と討論	15. 訳注の発表と討論	8. 訳注の発表と討論	
1. 前期の復習	9. 訳注の発表と討論																					
2. 訳注の発表と討論	10. 訳注の発表と討論																					
3. 訳注の発表と討論	11. 訳注の発表と討論																					
4. 訳注の発表と討論	12. 訳注の発表と討論																					
5. 訳注の発表と討論	13. 訳注の発表と討論																					
6. 訳注の発表と討論	14. 訳注の発表と討論																					
7. 訳注の発表と討論	15. 訳注の発表と討論																					
8. 訳注の発表と討論																						
◇ 成績評価の方法	発表(75%)、受講態度(25%)																					
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せずプリントを配布する。参考書は講義のなかで紹介する。																					
◇ 授業時間外学習	<p>担当者は、発表の準備を入念におこなう。担当者以外の受講者も、担当者と同等もしくはそれ以上に、読解のための予習をおこなう。</p> <p>また、発表時に配布されたレジュメ等に関しては、それを改めて読み直し、次回以降の授業に活用する。</p>																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																
中国思想中国哲学研究演習Ⅰ Chinese Thought (Advanced Seminar)Ⅰ	2	教授 准教授	三 浦 秀 一 齋 藤 智 寛	1学期	金	5																
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI617J																					
◆ 授業題目	中国思想研究上の諸問題1 (Major Issues in the Research of Chinese Philosophy 1)																					
◆ 目的・概要	<p>受講者各自が、それぞれの研究段階に応じて、自身の研究テーマに関する研究史の整理や問題点の析出、関連文献の調査・分析・読解などをおこない、その結果を発表するとともに、受講者全員が、その発表にもとづいて自由に討論する。</p>																					
◆ 到達目標	論文の執筆を念頭に置いたうえで、みずからの研究テーマに即した研究方法を確立する。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>2. 発表と討論</td> <td>10. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>3. 発表と討論</td> <td>11. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>4. 発表と討論</td> <td>12. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>5. 発表と討論</td> <td>13. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>6. 発表と討論</td> <td>14. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>7. 発表と討論</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. 発表と討論</td> <td></td> </tr> </table>						1. ガイダンス	9. 発表と討論	2. 発表と討論	10. 発表と討論	3. 発表と討論	11. 発表と討論	4. 発表と討論	12. 発表と討論	5. 発表と討論	13. 発表と討論	6. 発表と討論	14. 発表と討論	7. 発表と討論	15. 総括	8. 発表と討論	
1. ガイダンス	9. 発表と討論																					
2. 発表と討論	10. 発表と討論																					
3. 発表と討論	11. 発表と討論																					
4. 発表と討論	12. 発表と討論																					
5. 発表と討論	13. 発表と討論																					
6. 発表と討論	14. 発表と討論																					
7. 発表と討論	15. 総括																					
8. 発表と討論																						
◇ 成績評価の方法	発表内容(50%)、参加態度(50%)																					
◇ 教科書・参考書	教科書はとくにない。受講者各自によって事前に配布された発表資料を使用する。																					
◇ 授業時間外学習	<p>入念な準備作業のもと、発表内容について十分に構想を練ったうえで、配付資料を丁寧に作成し、遅くとも発表の1週間前にはそれを配付する。</p>																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
中国思想中国哲学研究演習Ⅱ Chinese Thought (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教授 三 浦 秀 一 准教授 齋 藤 智 寛	2学期	金	5																
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI618J																				
◆ 授業題目	中国思想研究上の諸問題2 (Major Issues in the Research of Chinese Philosophy 2)																				
◆ 目的・概要	前期での発表や討議にもとづいて、受講者各自が、それぞれの研究テーマにもとづく論文の草稿を作成して発表するとともに、受講者全員が、その発表にもとづいて自由に討論する。																				
◆ 到達目標	みずからの研究テーマにもとづく論文を作成するとともに、その質的向上をめざす。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>2. 発表と討論</td> <td>10. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>3. 発表と討論</td> <td>11. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>4. 発表と討論</td> <td>12. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>5. 発表と討論</td> <td>13. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>6. 発表と討論</td> <td>14. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>7. 発表と討論</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. 発表と討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 発表と討論	2. 発表と討論	10. 発表と討論	3. 発表と討論	11. 発表と討論	4. 発表と討論	12. 発表と討論	5. 発表と討論	13. 発表と討論	6. 発表と討論	14. 発表と討論	7. 発表と討論	15. 総括	8. 発表と討論	
1. ガイダンス	9. 発表と討論																				
2. 発表と討論	10. 発表と討論																				
3. 発表と討論	11. 発表と討論																				
4. 発表と討論	12. 発表と討論																				
5. 発表と討論	13. 発表と討論																				
6. 発表と討論	14. 発表と討論																				
7. 発表と討論	15. 総括																				
8. 発表と討論																					
◇ 成績評価の方法	発表内容 (50%)、参加態度 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書はとくにない。受講者各自によって事前に配布された発表資料を使用する。																				
◇ 授業時間外学習	入念な準備作業のもと、発表内容について十分に構想を練ったうえで、配付資料を丁寧に作成し、遅くとも発表の1週間前にはそれを配付する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 I Indological Studies (Advanced Lecture) I	2	非常勤 講師 西 村 直 子	1 学期	木	5
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI621J				
◆ 授業題目	ヴェーダ文献講読(1) (Vedic Literature (1))				
◆ 目的・概要	ヴェーダのプラーフマナ (B.C. 8世紀頃以降) は、マントラ (祝詞、祭詞) の解釈、祭式行為や道具、供物等の由来を語る神話及び神学議論などを主な内容とする。本講義ではインドラによるヴリトラ殺しの神話を取り上げ、読解演習を行う。インドの神話世界に触れ、ヴェーダの宗教及び祭式文献に関する知識を得るとともに、サンスクリット語の文法・語彙についても更なる理解の深化を目指す。Weberが校訂したŚatapatha-Brah̥manaをテキストとして、McDonnellのVedic Grammar for Student, DelbrückのAltindische Syntax等を参照しながら、文献学の具体的な訓練を行う。				
◆ 到達目標	ヴェーダ文献及び祭式に関する知識を習得し、ヴェーダの散文が読めるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明) 2. Śatapatha-Brah̥mana I 6,3 (IndraによるVṛtra殺し) (1) 3. 同 (2) 4. 同 (3) 5. 同 (4) 6. 同 (5) 7. 同 Śatapatha-Brah̥mana I 6,4 (Vṛtra殺しの後日譚) (1) 8. 同 (2) 9. 同 (3) 10. 同 (4) 11. 同 (5) 12. 同 (6) 13. 同 (7) 14. 同 (8) 15. 同 (9) 				
◇ 成績評価の方法	授業への準備状況 (30%)、授業で示される理解度 (70%)				
◇ 教科書・参考書	Śatapatha-Brah̥mana (Ed. Weber, Ed. Kalyan-Bombay); MacDonnell, Vedic Grammar for Student; Delbrück, Altindische Syntax; Whitney, Sanskrit Grammar等。				
◇ 授業時間外学習	授業は、最初はゆっくり進めるが、後半では毎回7～9詩節読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。				
履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とするが、テキストは懇切丁寧にできているので、やる気があって相応の時間をかけること その他：とのできる人は、サンスクリット語初級と同時に始めることも可能。 また、3、4セメのサンスクリット語は連続履修することがのぞましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 II Indological Studies (Advanced Lecture) II	2	非常勤 講師 尾 園 絢 一	2 学期	木	5
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI622J				
◆ 授業題目	ヴェーダ文献講読(2) (Vedic Literature (2))				
◆ 目的・概要	インド最古の文献『リグヴェーダ』を中心とするヴェーダ文献を講読し、文献学的、言語学的訓練を行う。語形を分析し、文法事項、語源、先行研究を確認しながら、原典を読む。実際に原典の読解に取り組む中で、歴史文法の原理や研究書の使い方を徐々に身につける。				
◆ 到達目標	『リグヴェーダ』の原典を講読しながら、古インドアーリア語 (サンスクリット) 歴史文法の基礎知識と原理を身につける。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション (辞書、文法書の使い方、古インドアーリア語歴史文法の初歩) 2. 十王戦争 1 (RV VII 18, 1-5) 3. 十王戦争 2 (RV VII 18, 6-10) 4. 十王戦争 3 (RV VII 18, 11-15) 5. 十王戦争 4 (RV VII 18, 16-20) 6. 十王戦争 5 (RV VII 18, 21-25) 7. 十王戦争 6 (RV VII 33) 8. 十王戦争 7 (JB III 245-248) 9. ヴィシュヴァーミトラと河の対話 1 (RV III 33, 1-7) 10. ヴィシュヴァーミトラと河の対話 2 (RV III 33, 8-13) 11. ヴァルナ賛歌 1 (RV VII 86) 12. ヴァルナ賛歌 2 (RV VII 87) 13. ヴァルナ賛歌 3 (RV VII 88) 14. ヴァルナ賛歌 4 (RV VII 89) 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	出席 (30%)、授業で示される理解度 (70%)				
◇ 教科書・参考書	辞書：H. Grassmann Wörterbuch des Rigveda (1872-1885), M. Mayrhofer Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen (1986-2001)。 文法書：T. Gotō, Old Indo-Aryan Morphology (2013), A.A. MacDonnell, Vedic Grammar (1910)、等。 底本は授業前にコピーを準備する。その他の研究書、先行研究については授業時に指示する。				
◇ 授業時間外学習	予習は必ずしも必要ではないが、必ず復習を行うこと。授業でリグヴェーダを読んだことがある者は、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。徒に知識を詰め込むのではなく、原理の理解に重点をおいて授業と学習に臨むこと。				
その他：受講者はサンスクリット語文法の初級知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 Ⅲ Indological Studies (Advanced Lecture) Ⅲ	2	非常勤 講師 堀 田 和 義	集 中 (2学期)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHS-PHI623J ジャイナ教概論 (Introduction to Jainism) ジャイナ教は、仏教とほぼ同じ時代に同じ地域で誕生し、インドにおいて今日までその伝統が途絶えることなく生き延びてきた。信者数という点では、インド全人口の0.4%と少ないが、現在のインドの所得税全体の約20%をジャイナ教徒が納めているとも言われる。また、インド建国の父ガンジーに大きな影響を与えたこともよく知られており、インドにおけるジャイナ教の文化的・社会的な影響力は非常に大きいと言える。しかしながら、インド哲学史などにおけるジャイナ教の扱いは非常に小さく、ジャイナ教徒があらゆる分野にまたがって残してきた膨大な量の文献については、まだまだ未知の部分が多い。本講義では、ジャイナ教の歴史とその教えを初歩の初歩から解説し、さらには、中級以上の知識を身につけるうえで必要な資料についても詳しく紹介する。				
◆ 到達目標	インドの思想や文化におけるジャイナ教の位置付けを正しく理解する。また、適切な資料を用いて、ジャイナ教について自分自身で調べることができる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ジャイナ教誕生前夜のインド ① ヴェーダの宗教とバラモン教：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 2. ジャイナ教誕生前夜のインド ② ーバラモンと沙門：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 3. ジャイナ教の歴史 ① ー開祖マハーヴィーラの生涯：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 4. ジャイナ教の歴史 ② ーマハーヴィーラの入滅と正典の成立：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 5. ジャイナ教の歴史 ③ ー中世～現代の展開：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 6. マハーヴィーラと23人の祖師：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 7. マハーヴィーラの悟りと一切知：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 8. ジャイナ教の教え ① ー輪廻と解脱：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 9. ジャイナ教の教え ② ー靈魂と自我：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 10. ジャイナ教の教え ③ ー業と苦行：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 11. ジャイナ教の教え ④ ー誓戒と行動規範：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 12. ジャイナ教の教え ⑤ ー不殺生の重視：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 13. ジャイナ教の教え ⑥ ー認識論と非極端説：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 14. ジャイナ教各宗派の特徴：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 15. まとめ：パワーポイントを使用し、講義形式で進める。 				
◇ 成績評価の方法	出席 (70%)、および課題 (30%) により総合的に評価する。				
◇ 教科書・参考書	教科書は特に指定せず、パワーポイントを使用し、プリント資料を配布する。参考書に関しては、必要に応じて、授業内で紹介する。				
◇ 授業時間外学習	予習は特に必要としないが、前日までのプリントを読み返して、復習しておくことが望ましい。				
その他：授業は基本的に講義形式で進めるが、学生の興味・関心に応じて、原典講読などに一部変更することもある。また、質問等に関しては、授業後に教室内で受け付ける。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 特 論 I History of Indian Buddhism (Advanced Lecture) I	2	教授 桜 井 宗 信	1 学期	火	3
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHS-PHI626J Grags pa rgyal mtshan 著『タントラ現観』の原典講読 (rGyud kyi mñon par rtogs pa of Grags pa rgyal mtshan: reading) チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の第4代管長を務めた Grags pa rgyal mtshan の代表作の1つ『タントラ現観』(rGyud kyi mñon par rtogs pa) の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『タントラ現観』 講読 - 1 - 2. 『タントラ現観』 講読 - 2 - 3. 『タントラ現観』 講読 - 3 - 4. 『タントラ現観』 講読 - 4 - 5. 『タントラ現観』 講読 - 5 - 6. 『タントラ現観』 講読 - 6 - 7. 『タントラ現観』 講読 - 7 - 8. 『タントラ現観』 講読 - 8 - 9. 『タントラ現観』 講読 - 9 - 10. 『タントラ概論』 講読 - 10 - 11. 『タントラ現観』 講読 - 11 - 12. 『タントラ現観』 講読 - 12 - 13. 『タントラ現観』 講読 - 13 - 14. 『タントラ現観』 講読 - 14 - 15. 『タントラ現観』 講読 - 15 - 				
◇ 成績評価の方法	○ 出席 [70%] ○ 授業中に示される理解度 [30%]				
◇ 教科書・参考書	rGyud kyi mñon par rtogs pa Rin po chehi ljon śiñ. 『Sa skya 派全書』 Vol. 3 (東洋文庫刊)、pp. 1-70.				
◇ 授業時間外学習	予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。				
その他：「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
インド仏教史特論Ⅱ History of Indian Buddhism (Advanced Lecture) Ⅱ	2	教授 桜井宗信	2学期	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI627J																				
◆ 授業題目	Grags pa rgyal mtshan 著『タントラ現観』の原典講読 (rGyud kyi mñon par rtogs pa of Grags pa rgyal mtshan: reading)																				
◆ 目的・概要	チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の第4代管長を務めた Grags pa rgyal mtshan の代表作の1つ『タントラ現観』(rGyud kyi mñon par rtogs pa) の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。																				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 『タントラ現観』講読 - 1 -</td> <td>9. 『タントラ現観』講読 - 9 -</td> </tr> <tr> <td>2. 『タントラ現観』講読 - 2 -</td> <td>10. 『タントラ概論』講読 - 10 -</td> </tr> <tr> <td>3. 『タントラ現観』講読 - 3 -</td> <td>11. 『タントラ現観』講読 - 11 -</td> </tr> <tr> <td>4. 『タントラ現観』講読 - 4 -</td> <td>12. 『タントラ現観』講読 - 12 -</td> </tr> <tr> <td>5. 『タントラ現観』講読 - 5 -</td> <td>13. 『タントラ現観』講読 - 13 -</td> </tr> <tr> <td>6. 『タントラ現観』講読 - 6 -</td> <td>14. 『タントラ現観』講読 - 14 -</td> </tr> <tr> <td>7. 『タントラ現観』講読 - 7 -</td> <td>15. 『タントラ現観』講読 - 15 -</td> </tr> <tr> <td>8. 『タントラ現観』講読 - 8 -</td> <td></td> </tr> </table>					1. 『タントラ現観』講読 - 1 -	9. 『タントラ現観』講読 - 9 -	2. 『タントラ現観』講読 - 2 -	10. 『タントラ概論』講読 - 10 -	3. 『タントラ現観』講読 - 3 -	11. 『タントラ現観』講読 - 11 -	4. 『タントラ現観』講読 - 4 -	12. 『タントラ現観』講読 - 12 -	5. 『タントラ現観』講読 - 5 -	13. 『タントラ現観』講読 - 13 -	6. 『タントラ現観』講読 - 6 -	14. 『タントラ現観』講読 - 14 -	7. 『タントラ現観』講読 - 7 -	15. 『タントラ現観』講読 - 15 -	8. 『タントラ現観』講読 - 8 -	
1. 『タントラ現観』講読 - 1 -	9. 『タントラ現観』講読 - 9 -																				
2. 『タントラ現観』講読 - 2 -	10. 『タントラ概論』講読 - 10 -																				
3. 『タントラ現観』講読 - 3 -	11. 『タントラ現観』講読 - 11 -																				
4. 『タントラ現観』講読 - 4 -	12. 『タントラ現観』講読 - 12 -																				
5. 『タントラ現観』講読 - 5 -	13. 『タントラ現観』講読 - 13 -																				
6. 『タントラ現観』講読 - 6 -	14. 『タントラ現観』講読 - 14 -																				
7. 『タントラ現観』講読 - 7 -	15. 『タントラ現観』講読 - 15 -																				
8. 『タントラ現観』講読 - 8 -																					
◇ 成績評価の方法	○ 出席 [70%] ○ 授業中に示される理解度 [30%]																				
◇ 教科書・参考書	rGyud kyi mñon par rtogs pa Rin po chehi ljon śin, 『Sa skya 派全書』Vol. 3 (東洋文庫刊)、pp. 1-70.																				
◇ 授業時間外学習	予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。																				
その他：「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
インド学研究演習Ⅰ Indological Studies (Advanced Seminar) Ⅰ	2	非常勤講師 尾園 絢 一	1学期	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI624J																				
◆ 授業題目	インド哲学文献研究(1) (Indian Philosophical Literature (1))																				
◆ 目的・概要	インド最古の文法書を残したパーニニ (紀元前4世紀) に始まる文法学の伝統は今日まで生きている。インドの知識人は文法学の知識を用いてサンスクリットを分析、理解できることを前提としている。特に「行為関与要素 (kāraka)」理論は哲学文献を読む上で重要である。バトージ・ディークシタ (17世紀) によって著わされた、パーニニ文法学の教科書『シッターンタ・カウムディー』の「行為関与要素の章 (Kāraka-prakarāṇa)」を講読する。																				
◆ 到達目標	パーニニ文法学と K?raka 理論の基礎知識を身につけ、論書、哲学文献研究に必要な能力を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション (パーニニ文法学概説、工具書、研究書の使い方)</td> <td>8. No. 586-595</td> </tr> <tr> <td>2. No. 532-539</td> <td>9. No. 596-605</td> </tr> <tr> <td>3. No. 540-549</td> <td>10. No. 606-615</td> </tr> <tr> <td>4. No. 550-558</td> <td>11. No. 616-625</td> </tr> <tr> <td>5. No. 559-568</td> <td>12. No. 626-635</td> </tr> <tr> <td>6. No. 569-578</td> <td>13. No. 636-640</td> </tr> <tr> <td>7. No. 579-585</td> <td>14. No. 641-646</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ</td> </tr> </table>					1. イントロダクション (パーニニ文法学概説、工具書、研究書の使い方)	8. No. 586-595	2. No. 532-539	9. No. 596-605	3. No. 540-549	10. No. 606-615	4. No. 550-558	11. No. 616-625	5. No. 559-568	12. No. 626-635	6. No. 569-578	13. No. 636-640	7. No. 579-585	14. No. 641-646		15. まとめ
1. イントロダクション (パーニニ文法学概説、工具書、研究書の使い方)	8. No. 586-595																				
2. No. 532-539	9. No. 596-605																				
3. No. 540-549	10. No. 606-615																				
4. No. 550-558	11. No. 616-625																				
5. No. 559-568	12. No. 626-635																				
6. No. 569-578	13. No. 636-640																				
7. No. 579-585	14. No. 641-646																				
	15. まとめ																				
◇ 成績評価の方法	出席 (30%)、授業で示される理解度 (70%)																				
◇ 教科書・参考書	テキストはコピーを準備する。工具書や研究書については授業時に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	予習は必ずしも必要ではないが、復習を行い、訳を作って残しておくこと。																				
その他：受講者はサンスクリット語文法の初級知識を有すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																		
インド学 研究 演習 II Indological Studies (Advanced Seminar) II	2	非常勤 講師 西村直子	2学期	水	3																		
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI625J																						
◆ 授業題目	インド哲学文献研究(2) (Indian Philosophical Literature (2))																						
◆ 目的・概要	本講義では、リグヴェーダ X 72の天地創造讃歌 (B.C. 1200年頃) と、関連するマールターンダの散文神話 (マイトラーヤニー サンヒター及びカタ・サンヒター、B.C. 800年頃) を取り上げ、読解演習を行う。この神話は女神アディティが息子 (アーディティヤ神達) を単性生殖で産むモチーフと、最後に生まれる息子マールターンダの勢力を恐れてアーディティヤ達が母を流産させるモチーフとから成る。アーディティヤ神は社会制度を神格化したものであり、インド・アーリヤ諸部族がインド亜大陸入植以前に異部族と接触し、彼らと取り交わした契約関係を背景とすると考えられる。リグヴェーダ及びブラーフマナの講義を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。リグヴェーダは Aufrecht の校訂本及び Geldner のドイツ語訳、Grassmann のリグヴェーダ辞書を用い、マイトラーヤニー サンヒター及びカタ・サンヒターについては、Schröder のテキストを用いる。何れも MacDonnell の Vedic Grammar for Student, Delbrück の Altindische Syntax 等を参照しながら、文献学の具体的な訓練を行う。																						
◆ 到達目標	リグヴェーダ及びブラーフマナの講義を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)</td> <td>7. 同 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. Rgveda X 72 (天地創造讃歌) (1)</td> <td>8. 同 (3)</td> </tr> <tr> <td>3. 同 (2)</td> <td>9. 同 (4)</td> </tr> <tr> <td>4. 同 (3)</td> <td>10. 同 (5)</td> </tr> <tr> <td>5. 同 (4)</td> <td>11. Katha-Samhitā XI 6 (1)</td> </tr> <tr> <td>6. Maitrāyaṇī Samhitā I 6, 12 (Aditi による Āditya 達の出産と Mārāṇḍa の流産) (1)</td> <td>12. 同 (2)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13. 同 (3)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. 同 (4)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 同 (5)</td> </tr> </table>					1. イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)	7. 同 (2)	2. Rgveda X 72 (天地創造讃歌) (1)	8. 同 (3)	3. 同 (2)	9. 同 (4)	4. 同 (3)	10. 同 (5)	5. 同 (4)	11. Katha-Samhitā XI 6 (1)	6. Maitrāyaṇī Samhitā I 6, 12 (Aditi による Āditya 達の出産と Mārāṇḍa の流産) (1)	12. 同 (2)		13. 同 (3)		14. 同 (4)		15. 同 (5)
1. イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)	7. 同 (2)																						
2. Rgveda X 72 (天地創造讃歌) (1)	8. 同 (3)																						
3. 同 (2)	9. 同 (4)																						
4. 同 (3)	10. 同 (5)																						
5. 同 (4)	11. Katha-Samhitā XI 6 (1)																						
6. Maitrāyaṇī Samhitā I 6, 12 (Aditi による Āditya 達の出産と Mārāṇḍa の流産) (1)	12. 同 (2)																						
	13. 同 (3)																						
	14. 同 (4)																						
	15. 同 (5)																						
◇ 成績評価の方法	授業への準備状況 (30%)、授業で示される理解度 (70%)																						
◇ 教科書・参考書	Rgveda (Ed. Aufrecht, Tr. Geldner); Maitrāyaṇī Samhitā 及び Katha-Samhitā (Ed. Schröder); Grassmann, Wörterbuch zum Rigveda; MacDonnell, Vedic Grammar for Student; Delbrück, Altindische Syntax; Whitney, Sanskrit Grammar 等。																						
◇ 授業時間外学習	授業は、最初はゆっくり進めるが、後半では毎回 7~9 詩節読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりとノートに書き込み復習すること。																						
履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とするが、テキストは懇切丁寧にできているので、やる気があるで相応の時間をかけること その他：とのできる人は、サンスクリット語初級と同時に始めることも可能。 また、3、4セメのサンスクリット語は連続履修することがのぞましい。																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
インド仏教史 研究 演習 I History of Indian Buddhism (Advanced Seminar) I	2	教授 桜井宗信	1学期	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI629J																				
◆ 授業題目	梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読 (Abhidharmakośa of Vasubandhu: reading)																				
◆ 目的・概要	Vasubandhu (世親) の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要不可欠な基本典籍である。この授業では前年に引き続き、同書第 2 章 (「根品」) の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、梵蔵漢 3 書を比較対照し考察を進めるといふインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。																				
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 『俱舎論』講読 - 1 -</td> <td>9. 『俱舎論』講読 - 9 -</td> </tr> <tr> <td>2. 『俱舎論』講読 - 2 -</td> <td>10. 『俱舎論』講読 - 10 -</td> </tr> <tr> <td>3. 『俱舎論』講読 - 3 -</td> <td>11. 『俱舎論』講読 - 11 -</td> </tr> <tr> <td>4. 『俱舎論』講読 - 4 -</td> <td>12. 『俱舎論』講読 - 12 -</td> </tr> <tr> <td>5. 『俱舎論』講読 - 5 -</td> <td>13. 『俱舎論』講読 - 13 -</td> </tr> <tr> <td>6. 『俱舎論』講読 - 6 -</td> <td>14. 『俱舎論』講読 - 14 -</td> </tr> <tr> <td>7. 『俱舎論』講読 - 7 -</td> <td>15. 『俱舎論』講読 - 15 -</td> </tr> <tr> <td>8. 『俱舎論』講読 - 8 -</td> <td></td> </tr> </table>					1. 『俱舎論』講読 - 1 -	9. 『俱舎論』講読 - 9 -	2. 『俱舎論』講読 - 2 -	10. 『俱舎論』講読 - 10 -	3. 『俱舎論』講読 - 3 -	11. 『俱舎論』講読 - 11 -	4. 『俱舎論』講読 - 4 -	12. 『俱舎論』講読 - 12 -	5. 『俱舎論』講読 - 5 -	13. 『俱舎論』講読 - 13 -	6. 『俱舎論』講読 - 6 -	14. 『俱舎論』講読 - 14 -	7. 『俱舎論』講読 - 7 -	15. 『俱舎論』講読 - 15 -	8. 『俱舎論』講読 - 8 -	
1. 『俱舎論』講読 - 1 -	9. 『俱舎論』講読 - 9 -																				
2. 『俱舎論』講読 - 2 -	10. 『俱舎論』講読 - 10 -																				
3. 『俱舎論』講読 - 3 -	11. 『俱舎論』講読 - 11 -																				
4. 『俱舎論』講読 - 4 -	12. 『俱舎論』講読 - 12 -																				
5. 『俱舎論』講読 - 5 -	13. 『俱舎論』講読 - 13 -																				
6. 『俱舎論』講読 - 6 -	14. 『俱舎論』講読 - 14 -																				
7. 『俱舎論』講読 - 7 -	15. 『俱舎論』講読 - 15 -																				
8. 『俱舎論』講読 - 8 -																					
◇ 成績評価の方法	○ 出席 [70%] ○ 授業中に示される理解度 [30%]																				
◇ 教科書・参考書	用いる基本資料は次の通り： ・梵文原典：Abhidharmakośa-bhāṣya of Vasubandhu, Ed. by P. Pradhan, Patna, 1967. ・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』(玄奘訳)；『阿毘達磨俱舎論』(真諦訳)。 ※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。																				
◇ 授業時間外学習	予習時に前記基本資料を訳読すると共に、重要術語の内容確認等を行う。																				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
インド仏教史研究演習Ⅱ History of Indian Buddhism (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教授 桜井宗信	2学期	月	3
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHS-PHI630J 梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読 (Abhidharmakośa of Vasubandhu: reading) Vasubandhu (世親)の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要欠くべからざる基本典籍である。 この授業では前年に引き続き、同書第2章(「根品」)の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読しVasubandhuの考え方を理解するとともに、梵蔵漢3書を比較対照し考察を進めるというインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。				
	1. 『俱舎論』講読 - 1 - 2. 『俱舎論』講読 - 2 - 3. 『俱舎論』講読 - 3 - 4. 『俱舎論』講読 - 4 - 5. 『俱舎論』講読 - 5 - 6. 『俱舎論』講読 - 6 - 7. 『俱舎論』講読 - 7 - 8. 『俱舎論』講読 - 8 -	9. 『俱舎論』講読 - 9 - 10. 『俱舎論』講読 - 10 - 11. 『俱舎論』講読 - 11 - 12. 『俱舎論』講読 - 12 - 13. 『俱舎論』講読 - 13 - 14. 『俱舎論』講読 - 14 - 15. 『俱舎論』講読 - 15 -			
◇ 成績評価の方法	○ 出席 [70%] ○ 授業中に示される理解度 [30%]				
◇ 教科書・参考書	用いる基本資料は次の通り： ・梵文原典：Abhidharmakośa-bhāṣya of Vasubandhu, Ed. by P. Pradhan, Patna, 1967. ・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎釈論』（真諦訳）。 ※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。				
◇ 授業時間外学習	予習時に前記基本資料を訳読すると共に、重要術語の内容確認等を行う。				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
英 文 学 特 論 I English Literature (Advanced Lecture) I	2	教授 大河内 昌	1 学期	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT619J																				
◆ 授業題目	Critical Theory (Critical Theory)																				
◆ 目的・概要	ポスト構造主義とそれ以降の批評理論の展開においてフランスの思想家ミシェル・フーコーは大きな影響力を持ちました。この授業ではフーコーの「言説」と「権力」の理論を中心に彼の思想の展開を追います。また、フーコーの理論を植民地支配と帝国主義の問題に援用したエドワード・サイードの批評的な業績について学びます。授業では毎回担当者を決めて、発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションをします。																				
◆ 到達目標	(1)批評理論に関する知識を身につける (2)論理的な思考力を身につける (3)批評的な英語の読解能力を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イン트로ダクション</td> <td>9. Edward Said (chapter 1)</td> </tr> <tr> <td>2. Michel Foucault (chapter 1)</td> <td>10. Edward Said (chapter 2)</td> </tr> <tr> <td>3. Michel Foucault (chapter 2)</td> <td>11. Edward Said (chapter 3)</td> </tr> <tr> <td>4. Michel Foucault (chapter 3)</td> <td>12. Edward Said (chapter 4)</td> </tr> <tr> <td>5. Michel Foucault (chapter 4)</td> <td>13. Edward Said (chapter 5)</td> </tr> <tr> <td>6. Michel Foucault (chapter 5)</td> <td>14. Edward Said (chapter 6)</td> </tr> <tr> <td>7. Michel Foucault (chapter 6)</td> <td>15. Discussion</td> </tr> <tr> <td>8. Michel Foucault (chapter 7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イン트로ダクション	9. Edward Said (chapter 1)	2. Michel Foucault (chapter 1)	10. Edward Said (chapter 2)	3. Michel Foucault (chapter 2)	11. Edward Said (chapter 3)	4. Michel Foucault (chapter 3)	12. Edward Said (chapter 4)	5. Michel Foucault (chapter 4)	13. Edward Said (chapter 5)	6. Michel Foucault (chapter 5)	14. Edward Said (chapter 6)	7. Michel Foucault (chapter 6)	15. Discussion	8. Michel Foucault (chapter 7)	
1. イン트로ダクション	9. Edward Said (chapter 1)																				
2. Michel Foucault (chapter 1)	10. Edward Said (chapter 2)																				
3. Michel Foucault (chapter 2)	11. Edward Said (chapter 3)																				
4. Michel Foucault (chapter 3)	12. Edward Said (chapter 4)																				
5. Michel Foucault (chapter 4)	13. Edward Said (chapter 5)																				
6. Michel Foucault (chapter 5)	14. Edward Said (chapter 6)																				
7. Michel Foucault (chapter 6)	15. Discussion																				
8. Michel Foucault (chapter 7)																					
◇ 成績評価の方法	発表と授業参加 50%・レポート 50%																				
◇ 教科書・参考書	Sara Mills, Michel Foucault (Routledge Critical Thinkers, 2003) Bill Ashcroft & Pal Ahluwalia, Edward Said, 2nd ed. (Routledge Critical Thinkers, 2008)																				
◇ 授業時間外学習	予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。																				
その他：オフィスアワー：火曜日 午後4時～5時30分、その他アポイントメントで随時																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
英 文 学 特 論 II English Literature (Advanced Lecture) II	2	教授 大河内 昌	2 学期	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT620J																				
◆ 授業題目	Daniel Defoe, <i>Robinson Crusoe</i> (Daniel Defoe, <i>Robinson Crusoe</i>)																				
◆ 目的・概要	18世紀イギリスの小説家 Daniel Defoe の代表的な小説 Robinson Crusoe を読解してゆきます。近代小説の元祖とされるこの作品には、小説の特徴としてのリアリズムの問題や、階級社会の問題、植民地支配の問題など、西洋近代の問題がすでにはっきりと見ることができます。読解作業とおして、近代小説のテーマ、構造、語りの問題を議論してゆきます。同時に、現代批評における小説の分析方法についても学びます。授業では毎回担当者を決めて、発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションをします。																				
◆ 到達目標	(1)18世紀イギリス小説を読解する英語力を養う (2)文学史とジャンルの知識を身につける (3)小説を分析する批評的視点を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イン트로ダクション</td> <td>9. Robinson Crusoe pp. 161-180</td> </tr> <tr> <td>2. Robinson Crusoe pp. 1-20.</td> <td>10. Robinson Crusoe pp. 181-200</td> </tr> <tr> <td>3. Robinson Crusoe pp. 21-40.</td> <td>11. Robinson Crusoe pp. 201-220</td> </tr> <tr> <td>4. Robinson Crusoe pp. 41-60.</td> <td>12. Robinson Crusoe pp. 221-240</td> </tr> <tr> <td>5. Robinson Crusoe pp. 61-80.</td> <td>13. Robinson Crusoe pp. 241-260</td> </tr> <tr> <td>6. Robinson Crusoe pp. 81-120.</td> <td>14. Robinson Crusoe pp. 260-280</td> </tr> <tr> <td>7. Robinson Crusoe pp. 121-140.</td> <td>15. Discussion</td> </tr> <tr> <td>8. Robinson Crusoe pp. 141-160</td> <td></td> </tr> </table>					1. イン트로ダクション	9. Robinson Crusoe pp. 161-180	2. Robinson Crusoe pp. 1-20.	10. Robinson Crusoe pp. 181-200	3. Robinson Crusoe pp. 21-40.	11. Robinson Crusoe pp. 201-220	4. Robinson Crusoe pp. 41-60.	12. Robinson Crusoe pp. 221-240	5. Robinson Crusoe pp. 61-80.	13. Robinson Crusoe pp. 241-260	6. Robinson Crusoe pp. 81-120.	14. Robinson Crusoe pp. 260-280	7. Robinson Crusoe pp. 121-140.	15. Discussion	8. Robinson Crusoe pp. 141-160	
1. イン트로ダクション	9. Robinson Crusoe pp. 161-180																				
2. Robinson Crusoe pp. 1-20.	10. Robinson Crusoe pp. 181-200																				
3. Robinson Crusoe pp. 21-40.	11. Robinson Crusoe pp. 201-220																				
4. Robinson Crusoe pp. 41-60.	12. Robinson Crusoe pp. 221-240																				
5. Robinson Crusoe pp. 61-80.	13. Robinson Crusoe pp. 241-260																				
6. Robinson Crusoe pp. 81-120.	14. Robinson Crusoe pp. 260-280																				
7. Robinson Crusoe pp. 121-140.	15. Discussion																				
8. Robinson Crusoe pp. 141-160																					
◇ 成績評価の方法	発表と授業参加 50%・レポート 50%																				
◇ 教科書・参考書	Daniel Defoe, Robinson Crusoe (Oxford World's Classics, 2007)																				
◇ 授業時間外学習	予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。																				
その他：オフィスアワー：火曜日 午後4時～5時30分、その他アポイントメントで随時																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
英 文 学 特 論 III English Literature (Advanced Lecture) III	2	非常勤 講師 秦 邦 生	集 中 (1 学期)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目	LHS-LIT621J 近現代イギリス小説におけるユートピア／ディストピア (Utopia and Dystopia in Modern British Novel)				
◆ 目的・概要	ジョージ・オーウェルの『1984年』を中心に、19世紀末～20世紀中葉のイギリス小説におけるユートピア／ディストピアについて論じます。「ユートピア」はそもそも諷刺と表裏一体の文学ジャンルですが、現代においては(理想社会を描く)「ユートピア」と(悪夢の世界を描く)「ディストピア」とを二項対立的にとらえる見方が支配的です。本講義では、「ディストピア」の代表的作品として読まれることの多い『1984年』を20世紀の文化的・政治的状況に置きなおしつつ、このような二項対立を越えるテキストの読み方を探ります。授業の序盤ではユートピアに関するオーウェルのエッセイを抜粋で読みながらユートピアの「伝統」について知識をつけ、その後『1984年』を原文の引用を読みながら考察します。作品への理解を深めるために、適宜映像版なども参照します。				
◆ 到達目標	(1)ユートピア／ディストピア文学について理解を深める (2)批評的思考力を身につける (3)英語の原書を読解する英語力を身につける				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション——George Orwellとその時代 2. 「ジャンル」としてのユートピア 3. Orwell, <i>The Road to Wigan Pier</i> (1937) 4. 映画 <i>Things to Come</i> (1936) 5. Orwell, Wells, Hitler, and the World State (1941) 6. Orwell, Review of <i>The Soul of Man under Socialism</i>, by Oscar Wilde ほか 7. Orwell, <i>Nineteen Eighty-Four</i> (1949), Part 1, Chapter 1-5 8. Orwell, <i>Nineteen Eighty-Four</i> (1949), Part 1, Chapter 6-8 9. Orwell, <i>Nineteen Eighty-Four</i> (1949), Part 2, Chapter 1-5 10. Orwell, <i>Nineteen Eighty-Four</i> (1949), Part 2, Chapter 6-10 11. Orwell, <i>Nineteen Eighty-Four</i> (1949), Part 3, Chapter 1-5 12. Orwell, <i>Nineteen Eighty-Four</i> (1949), Part 3, Chapter 6 & Appendix 13. 映画版 <i>Nineteen Eighty-Four</i> について 14. ユートピア文学批評史の再検討 15. 全体のまとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート 70%、授業内課題および授業での発言 30%				
◇ 教科書・参考書	George Orwell, <i>Nineteen Eighty-Four</i> (Penguin)				
◇ 授業時間外学習	受講する学生には、授業の進行とあわせて『1984年』を原文で読み進め、自分が関心を持った作品の部分を用いて分析する課題を課しますので、Penguin 版のテキストはかならず入手しておいてください。また、(原語でも翻訳版でも)『1984年』を授業開始前に一度は通読しておくことさらに理解が深まるでしょう。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
英 文 学 研 究 演 習 I English Literature (Advanced Seminar) I	2	准教授 ティンク ジェイムズ	1 学期	火	3
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目	LHS-LIT622E Christopher Marlowe, <i>Tamburlaine</i> and Tudor Drama (Christopher Marlowe, <i>Tamburlaine</i> and Tudor Drama)				
◆ 目的・概要	This class will examine sixteenth century English drama before the rise of Shakespeare by studying one of the most popular works of the Elizabethan theatre, Christopher Marlowe's two-part play about the violent life and death of an Asian emperor, 'Tamburlaine the Great' (1587-88?). The first part is a remarkable heroic drama about the rise to power of the violent conqueror, and was groundbreaking in its use of verse and exploration of the theme of power. The second play, written later to make a sequel, is more tragic but remains highly controversial to this day. This course will examine the literary and historical background to Marlowe's work, and consider especially how ideas of power, subjectivity, geography and the exotic in early-modern English culture operate in the text. By way of comparison, we will begin the course by reading an earlier sixteenth century short drama, 'Everyman', to see ways in which popular drama and ideas of subjectivity changed during the Tudor period.				
◆ 到達目標	1 : To read a group of sixteenth-century dramatic texts 2 : To consider the development of English drama across the sixteenth century 3 : To study the intellectual and literary contexts of early-modern literature				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Reading "Everyman" 3. Reading "Everyman" and Mid-Tudor drama 4. Christopher Marlowe, "Tamburlaine the Great" (1) 5. <i>Tamburlaine</i> (2) 6. <i>Tamburlaine</i> (3) 7. <i>Tamburlaine</i> (4) 8. <i>Tamburlaine</i> (5) 9. Reading "Tamburlaine the Great: Part two" (1) 10. <i>Tamburlaine</i> Part Two (2) 11. <i>Tamburlaine</i> Part Two (3) 12. <i>Tamburlaine</i> Part Two (4) 13. <i>Tamburlaine</i> Part Two (5) 14. After Marlowe: The influence of <i>Tamburlaine</i> on Shakespeare 15. Conclusion and Review 				
◇ 成績評価の方法	Mid-term paper 25% ; class presentation 25% ; final essay 50%.				
◇ 教科書・参考書	Christopher Marlowe, <i>Tamburlaine</i> , Parts One and Two, edited by Anthony Dawson (New Mermaid, 2007). Other material (which is in the common domain) will be provided.				
◇ 授業時間外学習	David Bevington's "From Mankind to Marlowe" (Harvard UP, 1962) or Janette Dillon, "The Cambridge Introduction Early English Theatre" (Cambridge UP, 2006) are good preparatory reading.				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
英 文 学 研 究 演 習 II English Literature (Advanced Seminar) II	2	准教授 ティンク ジェイムズ	2 学期	火	3
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT623E				
◆ 授業題目	Modernist poetry 1900-1940 (Modernist poetry 1900-1940)				
◆ 目的・概要	This course will examine a selection of British, Irish and American poetry from the early twentieth-century that can broadly be described as examples of Modernism. The poems will be taken from an important anthology, The Faber Book of Modern Verse, that was itself first published in 1936 and helped to consolidate the idea of a Modernist tradition of poetry in the period. The aim of the course then will be to read significant works by important poets of the period, and also put the anthology into context to see the ways in which it created a sense of continuity between the selected authors and helped to create an idea of modern poetry. Each week we will read at least one poem from the volume and consider relevant approaches to the work. We will also consider the social, political and gender implications of the writing, and explore questions of literary reputation and the formation of a modernist canon.				
◆ 到達目標	1 : To read a selection of modern poetry 2 : To introduce arguments about Modernism and modernist poetics 3 : To develop critical approaches to discussing literary and theoretical texts.				
◆ 授業内容・方法	1. Introduction 2. W.B. Yeats "The Second Coming" and "Byzantium" 3. Ezra Pound, "E.P Ode" 4. Imagism: Poems by T.E. Hulme and H.D. 5. T.S. Eliot, "Ash Wednesday" 6. War Poetry: Isaac Rosenberg, "Break of Day in the Trenches" 7. American Modernism: Marianne Morre, "The Steeple Jack" 8. American Modernism: Wallace Stevens, "Tea at the Palaz of Hoon" and "The Emperor of Ice-Cream." D.H. Lawrence, "Snake" 9. Outsider Modernism: D.H. Lawrence, "Snake". 10. Outsider Modernism, Laura Riding, "The Tiger". 11. Younger Modernism: W.H. Auden, "Consider this and in our time" and "Epilogue from The Orators" 12. 1930s, Politics, and Poetry: Louis MacNeice, "An Eclogue for Christmas" and "Snow" 13. Younger British Modernism: William Empson "Homage to the British Museum" and Charles Madge "Lusty Juventus" 14. Dylan Thomas and Surrealism: "The force that through the green fuse drives the flower" 15. Conclusion				
◇ 成績評価の方法	Mid-term paper 25% ; presentation 25% ; final essay 50%				
◇ 教科書・参考書	Roberts, Michael, ed. The Faber Book of Modern Verse (Faber Finds, 2009).				
◇ 授業時間外学習	Most of the poems on this course are widely available online and in many anthologies				
その他 :					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
英 文 学 研 究 演 習 III English Literature (Advanced Seminar) III	2	准教授 ティンク ジェイムズ	1 学期	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT624E				
◆ 授業題目	Academic Writing for Graduate Studies (Academic Writing for Graduate Students)				
◆ 目的・概要	This course is intended to help graduate students develop the skills necessary for successfully writing academic assignments in English. Over the course of the semester, students will review and practice the necessary stages for preparing, drafting and editing academic work by writing three assignments: two short essays (or "papers") on specific set topics and a third longer, research-based essay on a self-chosen topic. Classes each week will review specific skills and strategies for the writing assignment, such as brainstorming, outlining, revising, and practicing sentence styles. The course will also include citation skills using MLA 2016.				
◆ 到達目標	1 : To develop and improve skills for writing academic papers in English. 2 : To produce at least three written assignments in English over the semester 3 : To read and discuss different examples of academic essay writing. 4 : To develop skills in academic citation styles. 5 : To improve English communication skills in the classroom				
◆ 授業内容・方法	1. Introduction 2. Essay One: Descriptive, thesis-statement based essay 3. Essay one 4. Essay one 5. Essay one 6. Essay Two: Argumentative essay 7. Essay two 8. Essay two 9. Essay two 10. Essay Three: Research essay in topic of student's own choice 11. Essay three 12. Essay three 13. Essay three 14. Essay three 15. Conclusion and review				
◇ 成績評価の方法	first essay 25% second essay 25%, third essay 30%, additional class work 20%				
◇ 教科書・参考書	Laurie G. Kiszner & Stephen R. Mandell, The Pocket Cengage Handbook. Seventh Edition (with MLA 2016 insert card). Cengage, 2017.				
◇ 授業時間外学習	This course is intended to help students from any discipline improve writing skills, and the precise content of the material used in class can be decided by the students depending on their needs. Unfortunately it is not possible for students to audit this class.				
その他 :					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
英 文 学 研 究 演 習 IV English Literature (Advanced Seminar) IV	2	准教授 ティンク ジェイムズ	2 学期	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT625E				
◆ 授業題目	Academic Writing for Graduates (Academic Writing for Graduates)				
◆ 目的・概要	This class is a continuation of the writing class in the previous semester, and is intended to help students develop the skills for writing research papers/essays in English. This course will therefore concentrate on the skills for writing longer research projects in the humanities by asking students to research two longer written assignments during the semester. Each week, the class will review and practice an aspect of research writing (the precise details of which will be decided by the class members themselves depending on their progress). By the end of the course, students should have developed a more sophisticated "voice" for writing for English academic purposes.				
◆ 到達目標	1 : To develop and improve writing skills for dissertations in English 2 : To practice research skills in developing academic projects. 3 : To understand academic citation skills. 4 : To have read and discussed examples of academic writing in the humanities. 5 : To improve English discussion skills in the classroom				
◆ 授業内容・方法	1. Introduction 2. First Research Assignment, part 1. 3. First Assignment, part 2 4. First Assignment, part 3 5. First assignment, part 4 (draft version due this week) 6. First assignment, part 5 7. Deadline of first research assignment. 8. Second research assignment, part 1 9. second assignment part 2 10. second assignment part 3 11. second assignment part 4 (drafts due this week) 12. second assignment part 5 13. second assignment part 6 14. Second assignment due, 15. Conclusion & Review				
◇ 成績評価の方法	Two assignments 40% each; additional class work 20%				
◇ 教科書・参考書	Laurie G. Kiszner & Stephen R. Mandell, The Pocket Cengage Handbook. Seventh Edition (with MLA 2016 insert card). Cengage, 2017.				
◇ 授業時間外学習	This course is intended to help students from any discipline improve writing skills, and the precise content of the material used in class can be decided by the members depending on their needs. Unfortunately, it will not be possible for students to audit this class.				
その他 :					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
英 語 文 化 論 特 論 I English Culture (Advanced Lecture) I	2	非常勤 講師 川 田 潤	1 学期	月	3
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT626J				
◆ 授業題目	初期女性作家を読む(1) (Reading Early Women Writers (1))				
◆ 目的・概要	この授業では、16世紀から18世紀までの女性作家の作品を扱います。近年の女性作家の再発見によって、さまざまな女性作家の作品が読まれ、さまざまな文学ジャンルの形成において重要な役割を果たしていたことが明らかになってきています。本講義では、通時的に女性作家によって書かれたテキストを、そのジャンル(形式)を意識しながら、辿ることで、女性が文学史の形成に果たした役割を確認しつつ、そのテキスト内外で、ジェンダーを巡る問題がどのように認識、形成されていったかを考察します。作品の重要な場面は英語の原文で読むことで、より理解を深めます。				
◆ 到達目標	(1)英文学史、英国文化の知識を身につける (2)批評的思考力を身につける (主にフェミニズム/ジェンダー批評の観点から) (3)英語の原書を読解する英語力を身につける				
◆ 授業内容・方法	1. 授業概要の説明および現在のフェミニズム/ジェンダー批評について (1) 2. 文学的・文化的背景の確認、現在のフェミニズム/ジェンダー批評について (2) 3. 牧歌ロマンス (The Pastoral Romance) (1) : Lady Mary Wroath 4. 牧歌ロマンス (The Pastoral Romance) (2) : Anne Wamys 5. 伝記文学 (Biography) (1) : Countess of Pembroke 6. 伝記文学 (Biography) (2) : Lucy Hutchinson 7. 異世界旅行 (Journey to Imaginary Country) : Duchess of Newcastle (1) 8. 英国の生活 (English Life) : Duchess of Newcastle (2) 9. リアリズム (Realism) : Aphra Behn (1) 10. 諷刺 (Satire) : Aphra Behn (2) 11. 鍵小説 (Key Novel) : Delarivier Manley (1) 12. 書簡体 (Epistolary Form) (1) : Delarivier Manley (2) 13. 書簡体 (Epistolary Form) (2) : Elizabeth Rowe 14. 感傷的短編小説 (Sentimentalized Novella) : Eliza Heywood 15. 授業のまとめと試験				
◇ 成績評価の方法	授業への参加状況 (グループ活動、質疑、Minutes Paper 等、30%)、レポート (授業内容の理解、興味をもったジャンル、作家について、70%) に基づいて、総合的に判断します。				
◇ 教科書・参考書	プリントを配布します。				
◇ 授業時間外学習	予習段階で配布教材に目を通し、授業後には自分なりに興味をもった点や疑問点についてまとめ、リサーチを行ってもらいます。				
その他 :					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
英 語 文 化 論 特 論 II English Culture (Advanced Lecture) II	2	非常勤 講師 川 田 潤	2 学期	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT627J																				
◆ 授業題目	初期女性作家を読む(2) (Reading Early Women Writers (2))																				
◆ 目的・概要	この授業では、散文作品を読解することによって、英語を読む力を養うとともに、イギリス文化の理解を深めること目指します。具体的には、17世紀の女性作家であるアフラ・ベーン (Aprha Behn, 1640-1689) の『美しい浮気女』と、マーガレット・キャヴェンディッシュ (Margaret Cavendish, 1623-1673) の『契約』を読みます。二つの作品を読むことで、フェミニズム/ジェンダー的な観点など、より広い文化的な理解を目指すとともに、文化を「解釈」する能力およびそれを「論理的にまとめる」能力を学びます。授業時には、予習してきたものをもとに、話し合い、発表、質疑応答などの活動を主体的に行ってもらいます。また、関連する資料などの調査・紹介を行うことによって、資料の探し方および紹介の仕方についても力を付けてもらうことも目的としています。																				
◆ 到達目標	(1)英文学を文化的観点から理解する (2)批評的思考に基づき、作品の分析を行うとともに、リサーチの手法を身につける (3)英語の原書をより深く読解する英語力を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業概要の説明および作者アフラ・ベーンについて</td> <td>9. 作者マーガレット・キャヴェンディッシュについて</td> </tr> <tr> <td>2. 概説的な論文の読解</td> <td>10. pp. 3-10.</td> </tr> <tr> <td>3. pp. 75-82.</td> <td>11. pp. 10-17.</td> </tr> <tr> <td>4. pp. 82-91.</td> <td>12. pp. 17-25.</td> </tr> <tr> <td>5. pp. 91-100.</td> <td>13. pp. 26-33.</td> </tr> <tr> <td>6. pp. 100-110.</td> <td>14. pp. 34-43.</td> </tr> <tr> <td>7. pp. 110-119.</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 中間まとめ</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業概要の説明および作者アフラ・ベーンについて	9. 作者マーガレット・キャヴェンディッシュについて	2. 概説的な論文の読解	10. pp. 3-10.	3. pp. 75-82.	11. pp. 10-17.	4. pp. 82-91.	12. pp. 17-25.	5. pp. 91-100.	13. pp. 26-33.	6. pp. 100-110.	14. pp. 34-43.	7. pp. 110-119.	15. 授業のまとめ	8. 中間まとめ	
1. 授業概要の説明および作者アフラ・ベーンについて	9. 作者マーガレット・キャヴェンディッシュについて																				
2. 概説的な論文の読解	10. pp. 3-10.																				
3. pp. 75-82.	11. pp. 10-17.																				
4. pp. 82-91.	12. pp. 17-25.																				
5. pp. 91-100.	13. pp. 26-33.																				
6. pp. 100-110.	14. pp. 34-43.																				
7. pp. 110-119.	15. 授業のまとめ																				
8. 中間まとめ																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加状況 (グループ活動、質疑、Minutes Paper等、20%)、発表 (担当範囲の理解、資料作成、プレゼンテーション、40%)、レポート (作品を自分なりの視点から分析する、40%) に基づいて、総合的に判断します。																				
◇ 教科書・参考書	プリントを配布します																				
◇ 授業時間外学習	発表者以外も、予習段階で当日の範囲の教材にあらかじめ目を通し、重要な点、疑問点などについて、自分なりの意見を持って授業に臨みましょう。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
英 語 学 特 論 I English Linguistics (Advanced Lecture) I	2	教授 島 越 郎	1 学期	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIN601J																				
◆ 授業題目	統語論と意味論における諸問題の研究 I (Topics in Syntax and Semantics I)																				
◆ 目的・概要	生成文法における統語論や意味論の最新の研究を批判的に検討し、今後の理論展開の可能性を探る。今年度は、前年度に引き続き、Anna Szabolcsi による Quantification (Cambridge University Press) を精読する。																				
◆ 到達目標	統語論と意味論における最新動向を把握する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Ch. 10. Modified Numerals (1)</td> <td>9. Ch. 11 Clause-Internal Scope Diversity (4)</td> </tr> <tr> <td>2. Ch. 10. Modified Numerals (2)</td> <td>10. Ch. 11 Clause-Internal Scope Diversity (5)</td> </tr> <tr> <td>3. Ch. 10. Modified Numerals (3)</td> <td>11. Ch. 12 Towards a Compositional Semantics (1)</td> </tr> <tr> <td>4. Ch. 10. Modified Numerals (4)</td> <td>12. Ch. 12 Towards a Compositional Semantics (2)</td> </tr> <tr> <td>5. Ch. 10. Modified Numerals (5)</td> <td>13. Ch. 12 Towards a Compositional Semantics (3)</td> </tr> <tr> <td>6. Ch. 11 Clause-Internal Scope Diversity (1)</td> <td>14. Ch. 12 Towards a Compositional Semantics (4)</td> </tr> <tr> <td>7. Ch. 11 Clause-Internal Scope Diversity (2)</td> <td>15. Ch. 12 Towards a Compositional Semantics (5)</td> </tr> <tr> <td>8. Ch. 11 Clause-Internal Scope Diversity (3)</td> <td></td> </tr> </table>					1. Ch. 10. Modified Numerals (1)	9. Ch. 11 Clause-Internal Scope Diversity (4)	2. Ch. 10. Modified Numerals (2)	10. Ch. 11 Clause-Internal Scope Diversity (5)	3. Ch. 10. Modified Numerals (3)	11. Ch. 12 Towards a Compositional Semantics (1)	4. Ch. 10. Modified Numerals (4)	12. Ch. 12 Towards a Compositional Semantics (2)	5. Ch. 10. Modified Numerals (5)	13. Ch. 12 Towards a Compositional Semantics (3)	6. Ch. 11 Clause-Internal Scope Diversity (1)	14. Ch. 12 Towards a Compositional Semantics (4)	7. Ch. 11 Clause-Internal Scope Diversity (2)	15. Ch. 12 Towards a Compositional Semantics (5)	8. Ch. 11 Clause-Internal Scope Diversity (3)	
1. Ch. 10. Modified Numerals (1)	9. Ch. 11 Clause-Internal Scope Diversity (4)																				
2. Ch. 10. Modified Numerals (2)	10. Ch. 11 Clause-Internal Scope Diversity (5)																				
3. Ch. 10. Modified Numerals (3)	11. Ch. 12 Towards a Compositional Semantics (1)																				
4. Ch. 10. Modified Numerals (4)	12. Ch. 12 Towards a Compositional Semantics (2)																				
5. Ch. 10. Modified Numerals (5)	13. Ch. 12 Towards a Compositional Semantics (3)																				
6. Ch. 11 Clause-Internal Scope Diversity (1)	14. Ch. 12 Towards a Compositional Semantics (4)																				
7. Ch. 11 Clause-Internal Scope Diversity (2)	15. Ch. 12 Towards a Compositional Semantics (5)																				
8. Ch. 11 Clause-Internal Scope Diversity (3)																					
◇ 成績評価の方法	レポート [80%] 授業における貢献度 [20%]																				
◇ 教科書・参考書	Anna Szabolcsi (2010) Quantification, Cambridge University Press.																				
◇ 授業時間外学習	担当箇所は勿論のこと、担当外の箇所についてもしっかり予習し、不明な点を整理しておくこと。																				
その他：生成文法に関する基礎的知識を前提とする。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																				
英 語 学 特 論 II English Linguistics (Advanced Lecture) II	2	教授 島 越 郎	2 学期	木	2																				
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIN602J																								
◆ 授業題目	統語論と意味論における諸問題の研究 II (Topics in Syntax and Semantics II)																								
◆ 目的・概要	生成文法における統語論や意味論の最新の研究を批判的に検討し、今後の理論展開の可能性を探る。今学期は、Thomas Grano による Control and Restructuring (Oxford University Press) を精読する。																								
◆ 到達目標	統語論と意味論における最新動向を把握する。																								
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Ch. 3 The Semantics of Restructuring (1)</td> <td>11. Ch. 5 Control, Restructuring, and Temporal Interpretation (1)</td> </tr> <tr> <td>2. Ch. 3 The Semantics of Restructuring (2)</td> <td>12. Ch. 5 Control, Restructuring, and Temporal Interpretation (2)</td> </tr> <tr> <td>3. Ch. 3 The Semantics of Restructuring (3)</td> <td>13. Ch. 5 Control, Restructuring, and Temporal Interpretation (3)</td> </tr> <tr> <td>4. Ch. 3 The Semantics of Restructuring (4)</td> <td>14. Ch. 5 Control, Restructuring, and Temporal Interpretation (4)</td> </tr> <tr> <td>5. Ch. 3 The Semantics of Restructuring (5)</td> <td>15. Ch. 5 Control, Restructuring, and Temporal Interpretation (5)</td> </tr> <tr> <td>6. Ch. 4 Explaining the Mixed Properties of Want (1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. Ch. 4 Explaining the Mixed Properties of Want (2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. Ch. 4 Explaining the Mixed Properties of Want (3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. Ch. 4 Explaining the Mixed Properties of Want (4)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10. Ch. 4 Explaining the Mixed Properties of Want (5)</td> <td></td> </tr> </table>					1. Ch. 3 The Semantics of Restructuring (1)	11. Ch. 5 Control, Restructuring, and Temporal Interpretation (1)	2. Ch. 3 The Semantics of Restructuring (2)	12. Ch. 5 Control, Restructuring, and Temporal Interpretation (2)	3. Ch. 3 The Semantics of Restructuring (3)	13. Ch. 5 Control, Restructuring, and Temporal Interpretation (3)	4. Ch. 3 The Semantics of Restructuring (4)	14. Ch. 5 Control, Restructuring, and Temporal Interpretation (4)	5. Ch. 3 The Semantics of Restructuring (5)	15. Ch. 5 Control, Restructuring, and Temporal Interpretation (5)	6. Ch. 4 Explaining the Mixed Properties of Want (1)		7. Ch. 4 Explaining the Mixed Properties of Want (2)		8. Ch. 4 Explaining the Mixed Properties of Want (3)		9. Ch. 4 Explaining the Mixed Properties of Want (4)		10. Ch. 4 Explaining the Mixed Properties of Want (5)	
1. Ch. 3 The Semantics of Restructuring (1)	11. Ch. 5 Control, Restructuring, and Temporal Interpretation (1)																								
2. Ch. 3 The Semantics of Restructuring (2)	12. Ch. 5 Control, Restructuring, and Temporal Interpretation (2)																								
3. Ch. 3 The Semantics of Restructuring (3)	13. Ch. 5 Control, Restructuring, and Temporal Interpretation (3)																								
4. Ch. 3 The Semantics of Restructuring (4)	14. Ch. 5 Control, Restructuring, and Temporal Interpretation (4)																								
5. Ch. 3 The Semantics of Restructuring (5)	15. Ch. 5 Control, Restructuring, and Temporal Interpretation (5)																								
6. Ch. 4 Explaining the Mixed Properties of Want (1)																									
7. Ch. 4 Explaining the Mixed Properties of Want (2)																									
8. Ch. 4 Explaining the Mixed Properties of Want (3)																									
9. Ch. 4 Explaining the Mixed Properties of Want (4)																									
10. Ch. 4 Explaining the Mixed Properties of Want (5)																									
◇ 成績評価の方法	レポート [80%] 授業における貢献度 [20%]																								
◇ 教科書・参考書	Thomas Grano (2015) Control and Restructuring (Oxford University Press)																								
◇ 授業時間外学習	担当箇所は勿論のこと、担当外の箇所についてもしっかり予習し、不明な点を整理しておくこと。																								
その他：生成文法の基礎的知識を前提とする。																									

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
英 語 学 特 論 III English Linguistics (Advanced Lecture) III	2	非常勤 講師 藏 藤 健 雄	集 中 (1 学期)		
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIN603J				
◆ 授業題目	不定名詞句の諸問題 (Topics in Indefinite NPs)				
◆ 目的・概要	不定名詞句に関して、照応の問題と作用域の問題をとりあげ、ここ30年の間に提案された主要なアプローチを概観し、問題点を議論する。				
◆ 到達目標	動的意味論の考え方を理解し、理論的道具立てをある程度使えるようする。また、量化詞の作用域を派生させる代表的な方策を理解し、ある程度使えるようにする。				
◆ 授業内容・方法	1. 不定名詞句をめぐる問題のアウトライン 2. 定名詞句と不定名詞句 3. 動的意味論 (1): 割り当て関数から動的意味論への展開 4. 動的意味論 (2): ファイル変化意味論と談話表示理論 5. 動的意味論 (3): 動的述語論理 6. 動的意味論 (4): 非対称量化の問題 7. 動的意味論 (5): 後置条件節と照応 8. E/D型代名詞分析 9. 従属する代名詞等残った問題とまとめ 10. 不定名詞句 (1): 中間解釈の可能性 11. 不定名詞句 (2): 選択関数分析 12. 不定名詞句 (3): 選択/スコールム関数の応用 13. 空項の不定表現分析 (1) 14. 空項の不定表現分析 (2) 15. まとめ				
◇ 成績評価の方法	レポート 100%				
◇ 教科書・参考書	プリントにより配布。 主な参考文献は Chierchia, Gennaro (1995) Dynamics of Meaning と Szabolcsi, Ann (2010) Quantification.				
◇ 授業時間外学習	適宜、形式意味論の基礎を確認し、わからない点は授業内で確認すること。				
その他:					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
英 語 学 研 究 演 習 I English Linguistics (Advanced Seminar) I	2	教授 金 子 義 明 郎 島 越 郎	1 学期	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIN604J				
◆ 授業題目	英語学の諸問題研究 I (Current Topics in English Linguistics (Advanced Seminar) I)				
◆ 目的・概要	英語学研究の最新の動向を把握し、各自の学習・研究の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。 ①最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。 ②討論者がコメントを加える。 ③授業の参加者全員でディスカッションを行う。				
◆ 到達目標	授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。 ①英語学研究の最新動向を把握する ②研究論文の実践的作成法が身に付く ③効果的プレゼンテーション力が身に付く				
◆ 授業内容・方法	1. 英語学研究論文(1)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 2. 英語学研究論文(2)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 3. 英語学研究論文(3)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 4. 英語学研究論文(4)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 5. 英語学研究論文(5)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 6. 英語学研究論文(6)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 7. 英語学研究論文(7)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 8. 英語学研究論文(8)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 9. 英語学研究論文(9)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 10. 英語学研究論文(10)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 11. 英語学研究論文(11)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 12. 英語学研究論文(12)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 13. 英語学研究論文(13)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 14. 英語学研究論文(14)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 15. 英語学研究論文(15)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション				
◇ 成績評価の方法	期末レポート				
◇ 教科書・参考書	取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。				
◇ 授業時間外学習	取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。				
その他:					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
英 語 学 研 究 演 習 II English Linguistics (Advanced Seminar) II	2	教 授 金 子 義 明 郎 金 島 越 郎	2 学 期	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIN605J																				
◆ 授業題目	英語学の諸問題研究Ⅱ (Current Topics in English Linguistics (Advanced Seminar) Ⅱ)																				
◆ 目的・概要	英語学研究の最新の動向を把握し、各自の学習・研究の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。 ①最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。 ②討論者がコメントを加える。 ③授業の参加者全員でディスカッションを行う。 授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。																				
◆ 到達目標	①英語学研究の最新動向を把握する ②研究論文の実践的作成法が身に付く ③効果的プレゼンテーション力が身に付く																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 英語学研究論文(1)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> <td>9. 英語学研究論文(9)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>2. 英語学研究論文(2)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> <td>10. 英語学研究論文(10)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>3. 英語学研究論文(3)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> <td>11. 英語学研究論文(11)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>4. 英語学研究論文(4)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> <td>12. 英語学研究論文(12)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>5. 英語学研究論文(5)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> <td>13. 英語学研究論文(13)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>6. 英語学研究論文(6)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> <td>14. 英語学研究論文(14)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>7. 英語学研究論文(7)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> <td>15. 英語学研究論文(15)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>8. 英語学研究論文(8)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> <td></td> </tr> </table>					1. 英語学研究論文(1)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	9. 英語学研究論文(9)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	2. 英語学研究論文(2)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	10. 英語学研究論文(10)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	3. 英語学研究論文(3)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	11. 英語学研究論文(11)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	4. 英語学研究論文(4)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	12. 英語学研究論文(12)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	5. 英語学研究論文(5)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	13. 英語学研究論文(13)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	6. 英語学研究論文(6)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	14. 英語学研究論文(14)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	7. 英語学研究論文(7)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	15. 英語学研究論文(15)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	8. 英語学研究論文(8)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	
1. 英語学研究論文(1)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	9. 英語学研究論文(9)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション																				
2. 英語学研究論文(2)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	10. 英語学研究論文(10)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション																				
3. 英語学研究論文(3)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	11. 英語学研究論文(11)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション																				
4. 英語学研究論文(4)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	12. 英語学研究論文(12)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション																				
5. 英語学研究論文(5)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	13. 英語学研究論文(13)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション																				
6. 英語学研究論文(6)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	14. 英語学研究論文(14)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション																				
7. 英語学研究論文(7)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	15. 英語学研究論文(15)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション																				
8. 英語学研究論文(8)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション																					
◇ 成績評価の方法	期末レポート																				
◇ 教科書・参考書	取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
英 語 解 析 学 特 論 I Analytical Study of English (Advanced Lecture) I	2	教 授 金 子 義 明	1 学 期	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIN606J																				
◆ 授業題目	統語論・意味論インターフェイス研究Ⅰ (Syntax-Semantics Interface I)																				
◆ 目的・概要	生成文法理論による統語論・意味論(および語用論)のインターフェイスに関わる具体的研究をとりあげ、研究動向を把握し、今後の理論進展の方向を探る。																				
◆ 到達目標	生成文法理論によるインターフェイス研究の動向を把握する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(1)の批判的検討 ディスカッション</td> <td>9. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(9)の批判的検討 ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>2. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(2)の批判的検討 ディスカッション</td> <td>10. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(10)の批判的検討 ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>3. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(3)の批判的検討 ディスカッション</td> <td>11. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(11)の批判的検討 ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>4. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(4)の批判的検討 ディスカッション</td> <td>12. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(12)の批判的検討 ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>5. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(5)の批判的検討 ディスカッション</td> <td>13. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(13)の批判的検討 ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>6. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(6)の批判的検討 ディスカッション</td> <td>14. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(14)の批判的検討 ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>7. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(7)の批判的検討 ディスカッション</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(8)の批判的検討 ディスカッション</td> <td></td> </tr> </table>					1. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(1)の批判的検討 ディスカッション	9. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(9)の批判的検討 ディスカッション	2. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(2)の批判的検討 ディスカッション	10. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(10)の批判的検討 ディスカッション	3. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(3)の批判的検討 ディスカッション	11. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(11)の批判的検討 ディスカッション	4. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(4)の批判的検討 ディスカッション	12. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(12)の批判的検討 ディスカッション	5. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(5)の批判的検討 ディスカッション	13. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(13)の批判的検討 ディスカッション	6. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(6)の批判的検討 ディスカッション	14. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(14)の批判的検討 ディスカッション	7. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(7)の批判的検討 ディスカッション	15. まとめ	8. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(8)の批判的検討 ディスカッション	
1. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(1)の批判的検討 ディスカッション	9. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(9)の批判的検討 ディスカッション																				
2. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(2)の批判的検討 ディスカッション	10. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(10)の批判的検討 ディスカッション																				
3. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(3)の批判的検討 ディスカッション	11. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(11)の批判的検討 ディスカッション																				
4. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(4)の批判的検討 ディスカッション	12. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(12)の批判的検討 ディスカッション																				
5. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(5)の批判的検討 ディスカッション	13. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(13)の批判的検討 ディスカッション																				
6. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(6)の批判的検討 ディスカッション	14. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(14)の批判的検討 ディスカッション																				
7. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(7)の批判的検討 ディスカッション	15. まとめ																				
8. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(8)の批判的検討 ディスカッション																					
◇ 成績評価の方法	期末レポート																				
◇ 教科書・参考書	取り上げる文献は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	十分な予習・復習に心がけること。特に自分の研究テーマとの関連性に留意した学習を行うこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時		
英 語 解 析 学 特 論 II Analytical Study of English (Advanced Lecture) II	2	教 授 金 子 義 明	2 学 期	火	5		
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIN607J						
◆ 授業題目	統語論・意味論インターフェイス研究Ⅱ (Syntax-Semantics Interface Ⅱ)						
◆ 目的・概要	生成文法理論による統語論・意味論（および語用論）のインターフェイスに関わる具体的研究をとりあげ、研究動向を把握し、今後の理論進展の方向を探る。						
◆ 到達目標	生成文法理論によるインターフェイス研究の動向を把握する						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 1. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(1)の批判的検討 ディスカッション 2. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(2)の批判的検討 ディスカッション 3. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(3)の批判的検討 ディスカッション 4. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(4)の批判的検討 ディスカッション 5. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(5)の批判的検討 ディスカッション 6. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(6)の批判的検討 ディスカッション 7. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(7)の批判的検討 ディスカッション 8. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(8)の批判的検討 ディスカッション </td> <td style="vertical-align: top; padding-left: 20px;"> 9. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(9)の批判的検討 ディスカッション 10. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(10)の批判的検討 ディスカッション 11. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(11)の批判的検討 ディスカッション 12. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(12)の批判的検討 ディスカッション 13. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(13)の批判的検討 ディスカッション 14. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(14)の批判的検討 ディスカッション 15. まとめ </td> </tr> </table>					1. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(1)の批判的検討 ディスカッション 2. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(2)の批判的検討 ディスカッション 3. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(3)の批判的検討 ディスカッション 4. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(4)の批判的検討 ディスカッション 5. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(5)の批判的検討 ディスカッション 6. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(6)の批判的検討 ディスカッション 7. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(7)の批判的検討 ディスカッション 8. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(8)の批判的検討 ディスカッション	9. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(9)の批判的検討 ディスカッション 10. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(10)の批判的検討 ディスカッション 11. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(11)の批判的検討 ディスカッション 12. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(12)の批判的検討 ディスカッション 13. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(13)の批判的検討 ディスカッション 14. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(14)の批判的検討 ディスカッション 15. まとめ
1. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(1)の批判的検討 ディスカッション 2. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(2)の批判的検討 ディスカッション 3. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(3)の批判的検討 ディスカッション 4. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(4)の批判的検討 ディスカッション 5. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(5)の批判的検討 ディスカッション 6. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(6)の批判的検討 ディスカッション 7. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(7)の批判的検討 ディスカッション 8. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(8)の批判的検討 ディスカッション	9. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(9)の批判的検討 ディスカッション 10. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(10)の批判的検討 ディスカッション 11. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(11)の批判的検討 ディスカッション 12. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(12)の批判的検討 ディスカッション 13. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(13)の批判的検討 ディスカッション 14. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(14)の批判的検討 ディスカッション 15. まとめ						
◇ 成績評価の方法	期末レポート						
◇ 教科書・参考書	取り上げる文献は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。						
◇ 授業時間外学習	十分な予習・復習に心がけること。特に、各自の研究テーマとの関連性に留意すること。						
その他：							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 学 特 論 I German Literature (Advanced Lecture) I	2	非常勤 講師 佐藤雪野	1 学期	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT630J																				
◆ 授業題目	ドイツ (語) 文化圏の文化と歴史(1) (Culture and History of German Cultural Sphere (1))																				
◆ 目的・概要	広い意味でのドイツ (語) 文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。その際、余り知られていないドイツ以外のドイツ (語) 文化圏に着目する。 今学期はヨーロッパ東部に居住している (いた) ドイツ人が、なぜそこに移り住んだのか、周辺異民族とどのように交流しつつ、自らの文化を維持し、発展させ、アイデンティティを形成したかを検討する。そのために、ドイツ語で書かれたテキストを精読し、ドイツ語の読解力も高める。																				
◆ 到達目標	1. ドイツ (語) 文化圏の歴史と文化を理解する。 2. ドイツ語の読解力を向上させる。 3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (4)</td> </tr> <tr> <td>2. Die Siedlung Deutscher in Osteuropa</td> <td>10. Vom Miteinander zum Gegeneinander (1)</td> </tr> <tr> <td>3. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter (1)</td> <td>11. Vom Miteinander zum Gegeneinander (2)</td> </tr> <tr> <td>4. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter (2)</td> <td>12. Vom Miteinander zum Gegeneinander (3)</td> </tr> <tr> <td>5. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter (3)</td> <td>13. Vom Miteinander zum Gegeneinander (4)</td> </tr> <tr> <td>6. Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (1)</td> <td>14. Vom Miteinander zum Gegeneinander (5)</td> </tr> <tr> <td>7. Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (2)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (3)</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (4)	2. Die Siedlung Deutscher in Osteuropa	10. Vom Miteinander zum Gegeneinander (1)	3. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter (1)	11. Vom Miteinander zum Gegeneinander (2)	4. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter (2)	12. Vom Miteinander zum Gegeneinander (3)	5. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter (3)	13. Vom Miteinander zum Gegeneinander (4)	6. Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (1)	14. Vom Miteinander zum Gegeneinander (5)	7. Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (2)	15. まとめ	8. Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (3)	
1. オリエンテーション	9. Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (4)																				
2. Die Siedlung Deutscher in Osteuropa	10. Vom Miteinander zum Gegeneinander (1)																				
3. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter (1)	11. Vom Miteinander zum Gegeneinander (2)																				
4. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter (2)	12. Vom Miteinander zum Gegeneinander (3)																				
5. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter (3)	13. Vom Miteinander zum Gegeneinander (4)																				
6. Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (1)	14. Vom Miteinander zum Gegeneinander (5)																				
7. Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (2)	15. まとめ																				
8. Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (3)																					
◇ 成績評価の方法	平常点 (出席、アサインメント、発言状況) : 70% 期末課題 : 30%																				
◇ 教科書・参考書	テキスト : Dralle, Lothar, Die Deutschen in Ostmittel- und Osteuropa: Ein Jahrtausend europäischer Geschichte, Darmstadt: Wissenschaftliche Buchgesellschaft, 1991. その他参考書等については、随時指示する。																				
◇ 授業時間外学習	予習中心 : テキストを読み、関連事項を調べておくこと。復習時にも、調査が必要。																				
その他 : 進捗については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。 テキストの入手方法や、その他の補足説明 (オフィス・アワー、講師への連絡方法など) は開講時に行う。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 学 特 論 II German Literature (Advanced Lecture) II	2	非常勤 講師 佐藤雪野	2 学期	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT631J																				
◆ 授業題目	ドイツ (語) 文化圏の文化と歴史(2) (Culture and History of German Cultural Sphere (2))																				
◆ 目的・概要	広い意味でのドイツ (語) 文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。その際、余り知られていないドイツ以外のドイツ (語) 文化圏に着目する。 今学期はかつてプラハに存在したドイツ文化空間の特性を、ユダヤ人との関係に注目しつつ検討する。そのために、初版が1916年に出版されたグスタフ・マイリンクの『ゴーレム』をテキストとして精読し、作品とその背景を考察する。																				
◆ 到達目標	1. ドイツ (語) 文化圏の歴史と文化を理解する。 2. ドイツ語の読解力を向上させる。 3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. Golem: Punsch (2)</td> </tr> <tr> <td>2. グスタフ・マイリンクについて</td> <td>10. Golem: Nacht</td> </tr> <tr> <td>3. Golem: Schlaf</td> <td>11. Golem: Wach</td> </tr> <tr> <td>4. Golem: Tag</td> <td>12. Golem: Schnee</td> </tr> <tr> <td>5. Golem: I</td> <td>13. Golem: Spuk</td> </tr> <tr> <td>6. Golem: Prag (1)</td> <td>14. Golem: Licht</td> </tr> <tr> <td>7. Golem: Prag (2)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. Golem: Punsch (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. Golem: Punsch (2)	2. グスタフ・マイリンクについて	10. Golem: Nacht	3. Golem: Schlaf	11. Golem: Wach	4. Golem: Tag	12. Golem: Schnee	5. Golem: I	13. Golem: Spuk	6. Golem: Prag (1)	14. Golem: Licht	7. Golem: Prag (2)	15. まとめ	8. Golem: Punsch (1)	
1. オリエンテーション	9. Golem: Punsch (2)																				
2. グスタフ・マイリンクについて	10. Golem: Nacht																				
3. Golem: Schlaf	11. Golem: Wach																				
4. Golem: Tag	12. Golem: Schnee																				
5. Golem: I	13. Golem: Spuk																				
6. Golem: Prag (1)	14. Golem: Licht																				
7. Golem: Prag (2)	15. まとめ																				
8. Golem: Punsch (1)																					
◇ 成績評価の方法	平常点 (出席、アサインメント、発言状況) : 70% 期末課題 : 30%																				
◇ 教科書・参考書	テキスト : Meyrink, Gustav, Golem, Augsburg: Weltbild, 1994. 他の版でも可。 その他参考書等については随時指示する。																				
◇ 授業時間外学習	予習中心 : テキストをよく読んでおくこと。																				
その他 : 進捗については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。 テキストの入手方法や、その他の補足説明 (オフィス・アワー、講師への連絡方法など) は開講時に行う。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
ド イ ツ 文 学 特 論 III German Literature (Advanced Lecture) III	2	非常勤 講師 堺 雅 志	集 中 (2学期)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要 ◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法 ◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	LHS-LIT63J 文芸批評研究「言語芸術とは何か」－ドイツの小説を中心に－ (Literary criticism or what literature is – on german novel –) 韻文、戯曲の芸術性は、古来保証されてきた事実である一方で、散文の言語芸術としての価値は、常に疑問視されてきた。とりわけ近世以降成立する小説は、その娯楽性が強調され、その芸術性には疑問符が付されるものの、今日、散文形式の芸術の代表格とされている小説は、芸術であることを誰もが疑わないだろうし、現代の小説家も、自らが芸術家であるという自負を持っていることだろう。けれども小説は近現代において、叙事詩の発展形式と位置づけられたり、詩や戯曲なども包括しうる芸術的受け皿と考えられたりと、いわば新しい「芸術形式」としての理論武装が施されてきたわけである。そこで、18世紀以降の芸術論（レッシング、シュレーゲル、ショーペンハウアー、ニーチェ、カール・クラウス等）における言語芸術についての記述を中心に読み直し、言語芸術のはらむ諸問題を炙り出す。その上で、20世紀にみられる小説と小説論を参照しながら「文学とは何か」という問いに迫る。 「言語芸術とは何か」について、さまざまな言説を引用しつつ説明することができる。 個々の言語芸術作品を取り上げ、その特徴をほかの作品と比較して説明することができる。	9. 閑話休題－日本の文壇－ 10. 批評の誕生 11. 批評の実践 12. 世紀転換期の言語芸術－ウィーンを中心に－ 13. 小説は芸術か－小説の冒頭を考える－ 14. 批評の展開－現代文学を読むために－ 15. 議論と総論			
その他：ことばと文学について大いに考え、議論しよう。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
ド イ ツ 文 学 研 究 演 習 I German Literature (Advanced Seminar) I	2	教授 森 本 浩 一	1 学期	金	3
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要 ◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法 ◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	LHS-LIT633J 批評演習(1) (Critical Practice: A Seminar) 主観的な作品経験から出発して批評的テキストを生み出す、つまり「読む（見る）こと」を「書くこと」につなげるための訓練である。論文執筆の準備を兼ねる。「文学」分野での主たる仕事は、文化的な対象、特に文学などのアート作品について「何かを書く」ことである。それは通常の学問＝科学的な「説明」とは違い、自らが作品から受容したものをあらためて言語で「表現」するという、それ自体創造的な行為である。この「批評」と呼ばれる作業では、作品のいわゆる「客観的」な分析も必要ではあるが、それも実際には論者の「解釈」を効果的・説得的に他者に伝達するための手段に過ぎない。しかも難しいのは、どのように書けば説得的でありうるのか、一義的な指針がないことである。この授業は、物語的性格を持つ様々なジャンルの作品について、実際に各人が批評文を書き、それを素材に参加者全員が討議する形で進めてゆく。「批評」とはどのようなかを実感し、自分にとって満足のゆくテキストを生産できるようになることが授業の目標である。 作品を批評的に受容・解釈するための観点や方法について理解が深まるとともに、物語に向き合う自分自身の嗜好や傾向性を自覚できるようになり、それによって日本語による批評的作文技能が向上する。	9. 小説を批評する (1) 10. 小説を批評する (2) 11. マンガを批評する (1) 12. マンガを批評する (2) 13. 映画を批評する (3) 14. 映画を批評する (4) 15. 長篇小説を批評する			
その他：個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ること。 xkc-m2rt@m.tohoku.ac.jp (森本浩一)					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 学 研 究 演 習 Ⅱ German Literature (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教 授 森 本 浩 一	2 学 期	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT634J																				
◆ 授業題目	批評演習(2) (Critical Practice: A Seminar)																				
◆ 目的・概要	主観的な作品経験から出発して批評的テキストを生み出す、つまり「読む(見る)こと」を「書くこと」につなげるための訓練である。論文執筆の準備を兼ねる。「文学」分野での主たる仕事は、文化的な対象、特に文学などのアート作品について「何かを書く」ことである。それは通常の学問=科学的な「説明」とは違い、自らが作品から受容したものをあらためて言語で「表現」という、それ自体創造的な行為である。この「批評」と呼ばれる作業では、作品のいわゆる「客観的」な分析も必要ではあるが、それも実際には論者の「解釈」を効果的・説得的に他者に伝達するための手段に過ぎない。しかも難しいのは、どのように書けば説得的でありうるのか、一義的な指針がないことである。後期は、各自が選定した作品について発表を行い、他の参加者がその作品を読んで(見て)発表者と討議・応答する形式で進めてゆく。「批評」とはどのような営為なのかを各人が実感し、自分にとって満足のゆくより効果的なテキストを生産できるようになることが授業の目標である。																				
◆ 到達目標	作品を批評的に受容・解釈するための観点や方法について理解が深まるとともに、物語に向き合う自身の嗜好や傾向性を自覚できるようになり、それによって日本語による批評的作文技能が向上する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入講義 (1)</td> <td>9. 発表と討議 (7)</td> </tr> <tr> <td>2. 導入講義 (2)</td> <td>10. 発表と討議 (8)</td> </tr> <tr> <td>3. 発表と討議 (1)</td> <td>11. 発表と討議 (9)</td> </tr> <tr> <td>4. 発表と討議 (2)</td> <td>12. 発表と討議 (10)</td> </tr> <tr> <td>5. 発表と討議 (3)</td> <td>13. 発表と討議 (11)</td> </tr> <tr> <td>6. 発表と討議 (4)</td> <td>14. 発表と討議 (12)</td> </tr> <tr> <td>7. 発表と討議 (5)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 発表と討議 (6)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入講義 (1)	9. 発表と討議 (7)	2. 導入講義 (2)	10. 発表と討議 (8)	3. 発表と討議 (1)	11. 発表と討議 (9)	4. 発表と討議 (2)	12. 発表と討議 (10)	5. 発表と討議 (3)	13. 発表と討議 (11)	6. 発表と討議 (4)	14. 発表と討議 (12)	7. 発表と討議 (5)	15. まとめ	8. 発表と討議 (6)	
1. 導入講義 (1)	9. 発表と討議 (7)																				
2. 導入講義 (2)	10. 発表と討議 (8)																				
3. 発表と討議 (1)	11. 発表と討議 (9)																				
4. 発表と討議 (2)	12. 発表と討議 (10)																				
5. 発表と討議 (3)	13. 発表と討議 (11)																				
6. 発表と討議 (4)	14. 発表と討議 (12)																				
7. 発表と討議 (5)	15. まとめ																				
8. 発表と討議 (6)																					
◇ 成績評価の方法	個人発表・各回の討議への参加・応答レポートの提出 (80%) および最終レポート (20%)。																				
◇ 教科書・参考書	必要に応じて授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	発表のレジュメと各回の応答レポートは、必ず指示された時間までにメール添付で提出すること。																				
その他：個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ることに。 xkc-m2rt@m.tohoku.ac.jp (森本浩一)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 学 研 究 演 習 Ⅲ German Literature (Advanced Seminar) Ⅲ	2	非 常 勤 講 師 佐 藤 研 一	1 学 期	木	4																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT635J																				
◆ 授業題目	十八世紀ドイツ戯曲の誕生 (German drama in the 18th century)																				
◆ 目的・概要	「啓蒙の世紀」とは、たえず近代と近世が衝突しつづけ、漸次的に地殻変動を起こす過程にほかならない。近代社会が、突如、フランス革命後に誕生したわけではないのである。この点を見定めながら、十八世紀ドイツを代表するレッシング(1729-81)の喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(1767)を精読して、いかに近代の文学が創出されてゆくのか考える。十八世紀ドイツ戯曲は、『エミーリア・ガロッティ』(1772)を以て、擬古典主義の藪が大きく払われ、新文学への道が切り開かれた。ついで、ゲーテの『ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン』(1773)、J.M.R.レンツの喜劇『家庭教師』(1774)や喜劇『軍人たち』(1776)等が、旧文学に抗して噴流のごとく奔騰する絵巻を繰り広げてゆく。ドイツの市井風俗百態を、その体内に巣食う矛盾とともに活写する戯曲の誕生である。この点を念頭に置いて、『ミンナ・フォン・バルンヘルム』を台詞の一言一句を味わいながら、語学上および文学上の問題点について議論を交わし、演習形式で読み進めてゆく。このような演習の授業は、講義とは異なり、学生諸君との不断のやりとりを通して、内実を具え、展開してゆくので、その進捗は機械的に決められない。初回は、オリエンテーションに当てるが、2回目から15回目までは、学生諸君の読解力や議論の方向をみずえながら、読み進めてゆく。																				
◆ 到達目標	文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されているが、作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれてくる。原典を読みつつ、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 原典講読 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 原典講読 (1)</td> <td>10. 原典講読 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 原典講読 (2)</td> <td>11. 原典講読 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 原典講読 (3)</td> <td>12. 原典講読 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 原典講読 (4)</td> <td>13. 原典講読 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 原典講読 (5)</td> <td>14. 原典講読 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 原典講読 (6)</td> <td>15. 原典講読 (14)</td> </tr> <tr> <td>8. 原典講読 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 原典講読 (8)	2. 原典講読 (1)	10. 原典講読 (9)	3. 原典講読 (2)	11. 原典講読 (10)	4. 原典講読 (3)	12. 原典講読 (11)	5. 原典講読 (4)	13. 原典講読 (12)	6. 原典講読 (5)	14. 原典講読 (13)	7. 原典講読 (6)	15. 原典講読 (14)	8. 原典講読 (7)	
1. オリエンテーション	9. 原典講読 (8)																				
2. 原典講読 (1)	10. 原典講読 (9)																				
3. 原典講読 (2)	11. 原典講読 (10)																				
4. 原典講読 (3)	12. 原典講読 (11)																				
5. 原典講読 (4)	13. 原典講読 (12)																				
6. 原典講読 (5)	14. 原典講読 (13)																				
7. 原典講読 (6)	15. 原典講読 (14)																				
8. 原典講読 (7)																					
◇ 成績評価の方法	レポート [30%]・出席 [70%]																				
◇ 教科書・参考書	・テキスト (Lessing, Gotthold Ephraim: Minna von Barnhelm. Stuttgart: Reclam, 2014.) は、プリントで配布する。 参考文献はつぎのとおり。 ・Goethe, Johann Wolfgang: Götz von Berlichingen mit der eisernen Hand. Stuttgart: Reclam, 2004. ・Lenz, Jakob Michael Reinhold: Der Hofmeister oder Vorteile der Privaterziehung. Stuttgart: Reclam, 2001. ・Lenz, Jakob Michael Reinhold: Die Soldaten. Stuttgart: Reclam, 2004. ・柴田翔『内面世界に映る歴史―ゲーテ時代ドイツ文学史論』筑摩書房、1986年。 ・坂井栄八郎『ゲーテとその時代』朝日選書、1996年。																				
◇ 授業時間外学習	授業の準備。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
ド イ ツ 文 学 研 究 演 習 IV German Literature (Advanced Seminar) IV	2	非常勤講師 佐藤 研 一	2 学期	木	4
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHS-LIT636J 十八世紀ドイツ戯曲の誕生 (German drama in the 18th century) 「啓蒙の世紀」とは、たえず近代と近世が衝突しつづけ、漸次的に地殻変動を起こす過程にほかならない。近代社会が、突如、フランス革命後に誕生したわけではないのである。この点を見定めながら、十八世紀ドイツを代表するレッシング (1729-81) の喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(1767) を精読して、いかに近代の文学が創出されてゆくのか考える。 十八世紀ドイツ戯曲は、『エミーリア・ガロッティ』(1772) を以て、擬古典主義の藪が大きく払われ、新文学への道が切り開かれた。ついで、ゲーテの『ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン』(1773)、J.M.R. レントの喜劇『家庭教師』(1774) や喜劇『軍人たち』(1776) 等が、旧文学に抗して噴流のごとく奔騰する絵巻を繰り広げてゆく。ドイツの市井風俗百態を、その体内に巣食う矛盾とともに活写する戯曲の誕生である。 この点を念頭に置いて、『ミンナ・フォン・バルンヘルム』を台詞の一言一句を味わいながら、語学上および文学上の問題点について議論を交わし、演習形式で読み進めてゆく。 かような演習の授業は、講義とは異なり、学生諸君との不断のやりとりを通して、内実を具え、展開してゆくので、その進捗は機械的に決められない。初回は、オリエンテーションに当てるが、2回目から15回目までは、学生諸君の読解力や議論の方向をみすえながら、読み進めてゆく。 ◆ 到達目標 文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されているが、作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれてくる。原典を読みつつ、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。				
◆ 授業内容・方法	1. オリエンテーション 2. 原典講読 (1) 3. 原典講読 (2) 4. 原典講読 (3) 5. 原典講読 (4) 6. 原典講読 (5) 7. 原典講読 (6) 8. 原典講読 (7) 9. 原典講読 (8) 10. 原典講読 (9) 11. 原典講読 (10) 12. 原典講読 (11) 13. 原典講読 (12) 14. 原典講読 (13) 15. 原典講読 (14)				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書	レポート [30%]・出席 [70%] ・テキスト (Lessing, Gotthold Ephraim: Minna von Barnhelm. Stuttgart: Reclam, 2014.) は、プリントで配布する。 参考文献はつぎのとおり。 ・Goethe, Johann Wolfgang: Götz von Berlichingen mit der eisernen Hand. Stuttgart: Reclam, 2004. ・Lenz, Jakob Michael Reinhold: Der Hofmeister oder Vorteile der Privaterziehung. Stuttgart: Reclam, 2001. ・Lenz, Jakob Michael Reinhold: Die Soldaten. Stuttgart: Reclam, 2004. ・柴田翔『内面世界に映る歴史 ゲーテ時代ドイツ文学史論』筑摩書房、1986年。 ・坂井栄八郎『ゲーテとその時代』朝日選書、1996年。				
◇ 授業時間外学習	原典の準備。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
ド イ ツ 文 化 学 特 論 I German Culture (Advanced Lecture) I	2	教授 嶋 崎 啓	1 学期	金	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHS-LIT637J 近現代ドイツ短編小説講読 ドイツ語で書かれた短編小説を読み、ドイツ文学一般の特徴と個々の作家の魅力を探る。今学期は Schnitzler: Leutnant Gustl を読む予定である。				
◆ 到達目標	ドイツ語の語彙力を強化し、文構造に慣れ、読解力を高める。それによって近現代のドイツ語の短編小説の特性を考察する。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス 2. "Leutnant Gustl" 講読 1 3. "Leutnant Gustl" 講読 2 4. "Leutnant Gustl" 講読 3 5. "Leutnant Gustl" 講読 4 6. "Leutnant Gustl" 講読 5 7. "Leutnant Gustl" 講読 6 8. "Leutnant Gustl" 講読 7 9. "Leutnant Gustl" 講読 8 10. "Leutnant Gustl" 講読 9 11. "Leutnant Gustl" 講読 10 12. "Leutnant Gustl" 講読 11 13. "Leutnant Gustl" 講読 12 14. "Leutnant Gustl" 講読 13 15. まとめ				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	平常点 (出席、授業での発言、質疑) [100%] プリントを配布する。 一言一句をおろそかにしない、徹底した予習を期待している。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 化 学 特 論 II German Culture (Advanced Lecture) II	2	教 授 嶋 崎 啓	2 学 期	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT638J																				
◆ 授業題目	近現代ドイツ短編小説講読																				
◆ 目的・概要	ドイツ語で書かれた短編小説を読み、ドイツ文学一般の特徴と個々の作家の魅力を探る。今学期は Grillparzer: Der arme Spielmann を読む予定である。																				
◆ 到達目標	ドイツ語の語彙力を強化し、文構造に慣れ、読解力を高める。それによって近現代のドイツ語の短編小説の特性を考察する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. “Der arme Spielmann” 講読 8</td> </tr> <tr> <td>2. “Der arme Spielmann” 講読 1</td> <td>10. “Der arme Spielmann” 講読 9</td> </tr> <tr> <td>3. “Der arme Spielmann” 講読 2</td> <td>11. “Der arme Spielmann” 講読 10</td> </tr> <tr> <td>4. “Der arme Spielmann” 講読 3</td> <td>12. “Der arme Spielmann” 講読 11</td> </tr> <tr> <td>5. “Der arme Spielmann” 講読 4</td> <td>13. “Der arme Spielmann” 講読 12</td> </tr> <tr> <td>6. “Der arme Spielmann” 講読 5</td> <td>14. “Der arme Spielmann” 講読 13</td> </tr> <tr> <td>7. “Der arme Spielmann” 講読 6</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. “Der arme Spielmann” 講読 7</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. “Der arme Spielmann” 講読 8	2. “Der arme Spielmann” 講読 1	10. “Der arme Spielmann” 講読 9	3. “Der arme Spielmann” 講読 2	11. “Der arme Spielmann” 講読 10	4. “Der arme Spielmann” 講読 3	12. “Der arme Spielmann” 講読 11	5. “Der arme Spielmann” 講読 4	13. “Der arme Spielmann” 講読 12	6. “Der arme Spielmann” 講読 5	14. “Der arme Spielmann” 講読 13	7. “Der arme Spielmann” 講読 6	15. まとめ	8. “Der arme Spielmann” 講読 7	
1. ガイダンス	9. “Der arme Spielmann” 講読 8																				
2. “Der arme Spielmann” 講読 1	10. “Der arme Spielmann” 講読 9																				
3. “Der arme Spielmann” 講読 2	11. “Der arme Spielmann” 講読 10																				
4. “Der arme Spielmann” 講読 3	12. “Der arme Spielmann” 講読 11																				
5. “Der arme Spielmann” 講読 4	13. “Der arme Spielmann” 講読 12																				
6. “Der arme Spielmann” 講読 5	14. “Der arme Spielmann” 講読 13																				
7. “Der arme Spielmann” 講読 6	15. まとめ																				
8. “Der arme Spielmann” 講読 7																					
◇ 成績評価の方法	平常点（出席、授業での発言、質疑）[100%]																				
◇ 教科書・参考書	プリントを配布する。																				
◇ 授業時間外学習	一言一句をおろそかにしない、徹底した予習を期待している。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 化 学 研 究 演 習 I German Culture (Advanced Seminar) I	2	教 授 嶋 崎 啓	1 学 期	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT641J																				
◆ 授業題目	中高ドイツ語講読 (Reading “Nibelungenlied” in middle high German)																				
◆ 目的・概要	ドイツ中世叙事詩「ニーベルンゲンの歌」を原文で講読する。1200年頃の中高ドイツ語 (Mittelhochdeutsch) をよりよく理解することを目指しながら、物語展開上の文脈の解釈にも重点を置きたい。その際、中世ヨーロッパの文化や社会についての理解を深めることにも留意する。また北欧の伝承との関連についてもあわせて考察したい。																				
◆ 到達目標	中高ドイツ語の文学作品を読み、表現が理解できるようになる。ヨーロッパ中世の文化や世界観についての知識を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 5</td> </tr> <tr> <td>2. 中高ドイツ語の基礎知識 1</td> <td>10. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 6</td> </tr> <tr> <td>3. 中高ドイツ語の基礎知識 2</td> <td>11. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 7</td> </tr> <tr> <td>4. 中高ドイツ語の基礎知識 3</td> <td>12. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 8</td> </tr> <tr> <td>5. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 1</td> <td>13. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 9</td> </tr> <tr> <td>6. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 2</td> <td>14. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 10</td> </tr> <tr> <td>7. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 3</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 4</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 5	2. 中高ドイツ語の基礎知識 1	10. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 6	3. 中高ドイツ語の基礎知識 2	11. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 7	4. 中高ドイツ語の基礎知識 3	12. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 8	5. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 1	13. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 9	6. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 2	14. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 10	7. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 3	15. まとめ	8. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 4	
1. ガイダンス	9. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 5																				
2. 中高ドイツ語の基礎知識 1	10. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 6																				
3. 中高ドイツ語の基礎知識 2	11. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 7																				
4. 中高ドイツ語の基礎知識 3	12. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 8																				
5. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 1	13. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 9																				
6. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 2	14. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 10																				
7. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 3	15. まとめ																				
8. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 4																					
◇ 成績評価の方法	平常点（出席、授業での発言、質疑）[100%]																				
◇ 教科書・参考書	テキスト：Das Nibelungenlied. Mittelhochdeutsch/Neuhochdeutsch. Stuttgart: Reclam 1997. 参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社、浜崎長寿『中高ドイツ語の分類語彙と変化表』大学書林、M. Lexers Mittelhochdeutsches Taschenwörterbuch. Stuttgart: Hirzel.																				
◇ 授業時間外学習	前もって単語の文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づきつつ、辞書を使って予習をしてもらいたい。																				
その他：講読する箇所は先学期からの続きである。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 化 学 研 究 演 習 Ⅱ German Culture (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教 授 嶋 崎 啓	2 学 期	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT642J																				
◆ 授業題目	中高ドイツ語講読 (Reading "Nibelungelied" in middle high German)																				
◆ 目的・概要	ドイツ中世叙事詩「ニーベルンゲンの歌」を原文で講読する。1200年頃の中高ドイツ語 (Mittelhochdeutsch) をよりよく理解することを目指しながら、物語展開上の文脈の解釈にも重点を置きたい。その際、中世ヨーロッパの文化や社会についての理解を深めることにも留意する。また北欧の伝承との関連についてもあわせて考察したい。																				
◆ 到達目標	中高ドイツ語の文学作品を読み、表現が理解できるようになる。ヨーロッパ中世の文化や世界観についての知識を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 「ニーベルンゲンの歌」講読 5</td> </tr> <tr> <td>2. 中高ドイツ語の基礎知識 1</td> <td>10. 「ニーベルンゲンの歌」講読 6</td> </tr> <tr> <td>3. 中高ドイツ語の基礎知識 2</td> <td>11. 「ニーベルンゲンの歌」講読 7</td> </tr> <tr> <td>4. 中高ドイツ語の基礎知識 3</td> <td>12. 「ニーベルンゲンの歌」講読 8</td> </tr> <tr> <td>5. 「ニーベルンゲンの歌」講読 1</td> <td>13. 「ニーベルンゲンの歌」講読 9</td> </tr> <tr> <td>6. 「ニーベルンゲンの歌」講読 2</td> <td>14. 「ニーベルンゲンの歌」講読 10</td> </tr> <tr> <td>7. 「ニーベルンゲンの歌」講読 3</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 「ニーベルンゲンの歌」講読 4</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 「ニーベルンゲンの歌」講読 5	2. 中高ドイツ語の基礎知識 1	10. 「ニーベルンゲンの歌」講読 6	3. 中高ドイツ語の基礎知識 2	11. 「ニーベルンゲンの歌」講読 7	4. 中高ドイツ語の基礎知識 3	12. 「ニーベルンゲンの歌」講読 8	5. 「ニーベルンゲンの歌」講読 1	13. 「ニーベルンゲンの歌」講読 9	6. 「ニーベルンゲンの歌」講読 2	14. 「ニーベルンゲンの歌」講読 10	7. 「ニーベルンゲンの歌」講読 3	15. まとめ	8. 「ニーベルンゲンの歌」講読 4	
1. ガイダンス	9. 「ニーベルンゲンの歌」講読 5																				
2. 中高ドイツ語の基礎知識 1	10. 「ニーベルンゲンの歌」講読 6																				
3. 中高ドイツ語の基礎知識 2	11. 「ニーベルンゲンの歌」講読 7																				
4. 中高ドイツ語の基礎知識 3	12. 「ニーベルンゲンの歌」講読 8																				
5. 「ニーベルンゲンの歌」講読 1	13. 「ニーベルンゲンの歌」講読 9																				
6. 「ニーベルンゲンの歌」講読 2	14. 「ニーベルンゲンの歌」講読 10																				
7. 「ニーベルンゲンの歌」講読 3	15. まとめ																				
8. 「ニーベルンゲンの歌」講読 4																					
◇ 成績評価の方法	平常点 (出席、授業での発言、質疑) [100%]																				
◇ 教科書・参考書	テキスト：Das Nibelungenlied. Mittelhochdeutsch/Neuhochdeutsch. Stuttgart: Reclam 1997. 参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社、浜崎長寿『中高ドイツ語の分類語彙と変化表』大学書林、M. Lexers Mittelhochdeutsches Taschenwörterbuch. Stuttgart: Hirzel.																				
◇ 授業時間外学習	前もって単語の文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づきつつ、辞書を使って予習をしてもらいたい。																				
その他：講読する箇所は先学期からの続きである。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 化 学 研 究 演 習 Ⅲ German Culture (Advanced Seminar) Ⅲ	2	教 授 ナ ロ ッ ク ハ イ コ	1 学 期	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT643F																				
◆ 授業題目	ドイツ文化学研究演習Ⅲ (German Culture (Advanced Seminar) Ⅲ)																				
◆ 目的・概要	大学で必要となる言語活動ができるドイツ語能力を少しでも身につける。 ドイツ留学を想定した教材または受講者が提示する素材を利用する。																				
◆ 到達目標	ドイツ語圏の大学環境に必要なドイツ語能力の一部を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業説明受講者のドイツ語能力確認</td> <td>9. Hausarbeit - Abstract - Handout I</td> </tr> <tr> <td>2. Den Schreibprozess vorbereiten I</td> <td>10. Hausarbeit - Abstract - Handout II</td> </tr> <tr> <td>3. Den Schreibprozess vorbereiten II</td> <td>11. Hausarbeit - Abstract - Handout III</td> </tr> <tr> <td>4. Den Schreibprozess vorbereiten III</td> <td>12. Hausarbeit - Abstract - Handout IV</td> </tr> <tr> <td>5. Den Schreibprozess vorbereiten IV</td> <td>13. Hausarbeit - Abstract - Handout V</td> </tr> <tr> <td>6. Zusammenfassung - Exzerpt I</td> <td>14. Protokoll - Praktikumsbericht I</td> </tr> <tr> <td>7. Zusammenfassung - Exzerpt II</td> <td>15. Protokoll - Praktikumsbericht II</td> </tr> <tr> <td>8. Zusammenfassung - Exzerpt III</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業説明受講者のドイツ語能力確認	9. Hausarbeit - Abstract - Handout I	2. Den Schreibprozess vorbereiten I	10. Hausarbeit - Abstract - Handout II	3. Den Schreibprozess vorbereiten II	11. Hausarbeit - Abstract - Handout III	4. Den Schreibprozess vorbereiten III	12. Hausarbeit - Abstract - Handout IV	5. Den Schreibprozess vorbereiten IV	13. Hausarbeit - Abstract - Handout V	6. Zusammenfassung - Exzerpt I	14. Protokoll - Praktikumsbericht I	7. Zusammenfassung - Exzerpt II	15. Protokoll - Praktikumsbericht II	8. Zusammenfassung - Exzerpt III	
1. 授業説明受講者のドイツ語能力確認	9. Hausarbeit - Abstract - Handout I																				
2. Den Schreibprozess vorbereiten I	10. Hausarbeit - Abstract - Handout II																				
3. Den Schreibprozess vorbereiten II	11. Hausarbeit - Abstract - Handout III																				
4. Den Schreibprozess vorbereiten III	12. Hausarbeit - Abstract - Handout IV																				
5. Den Schreibprozess vorbereiten IV	13. Hausarbeit - Abstract - Handout V																				
6. Zusammenfassung - Exzerpt I	14. Protokoll - Praktikumsbericht I																				
7. Zusammenfassung - Exzerpt II	15. Protokoll - Praktikumsbericht II																				
8. Zusammenfassung - Exzerpt III																					
◇ 成績評価の方法	毎回の授業参加、課題、宿題に基づく。																				
◇ 教科書・参考書	Campus Deutsch. Schreiben. Hueber. 2015. Glottz-Kastanis, J. & D. Tippmann. 2008. Sprechen. Schreiben. Mitreden. Christos Karabatos.																				
◇ 授業時間外学習	授業の準備、宿題																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 化 学 研 究 演 習 Ⅳ German Culture (Advanced Seminar) Ⅳ	2	教授 ナロック ハイコ	2学期	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT644F																				
◆ 授業題目	ドイツ文化学研究演習Ⅲ (German Culture (Advanced Seminar) Ⅲ)																				
◆ 目的・概要	大学で必要となる言語活動ができるドイツ語能力を少しでも身につける。 ドイツ留学を想定した教材または受講者が提示する素材を利用する。																				
◆ 到達目標	ドイツ語圏の大学環境に必要なドイツ語能力の一部を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業説明受講者のドイツ語能力確認</td> <td>9. Sprech- und Schreibanlass Wissenschaft und Zukunft II</td> </tr> <tr> <td>2. Sprech- und Schreibanlass Freizeit I</td> <td>10. Sprech- und Schreibanlass Medien I</td> </tr> <tr> <td>3. Sprech- und Schreibanlass Freizeit II</td> <td>11. Sprech- und Schreibanlass Medien II</td> </tr> <tr> <td>4. Sprech- und Schreibanlass Sport I</td> <td>12. Sprech- und Schreibanlass Umweltschutz I</td> </tr> <tr> <td>5. Sprech- und Schreibanlass Sport II</td> <td>13. Sprech- und Schreibanlass Umweltschutz II</td> </tr> <tr> <td>6. Sprech- und Schreibanlass Schule I</td> <td>14. Sprech- und Schreibanlass Kultur I</td> </tr> <tr> <td>7. Sprech- und Schreibanlass Schule II</td> <td>15. Sprech- und Schreibanlass Kultur II</td> </tr> <tr> <td>8. Sprech- und Schreibanlass Wissenschaft und Zukunft I</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業説明受講者のドイツ語能力確認	9. Sprech- und Schreibanlass Wissenschaft und Zukunft II	2. Sprech- und Schreibanlass Freizeit I	10. Sprech- und Schreibanlass Medien I	3. Sprech- und Schreibanlass Freizeit II	11. Sprech- und Schreibanlass Medien II	4. Sprech- und Schreibanlass Sport I	12. Sprech- und Schreibanlass Umweltschutz I	5. Sprech- und Schreibanlass Sport II	13. Sprech- und Schreibanlass Umweltschutz II	6. Sprech- und Schreibanlass Schule I	14. Sprech- und Schreibanlass Kultur I	7. Sprech- und Schreibanlass Schule II	15. Sprech- und Schreibanlass Kultur II	8. Sprech- und Schreibanlass Wissenschaft und Zukunft I	
1. 授業説明受講者のドイツ語能力確認	9. Sprech- und Schreibanlass Wissenschaft und Zukunft II																				
2. Sprech- und Schreibanlass Freizeit I	10. Sprech- und Schreibanlass Medien I																				
3. Sprech- und Schreibanlass Freizeit II	11. Sprech- und Schreibanlass Medien II																				
4. Sprech- und Schreibanlass Sport I	12. Sprech- und Schreibanlass Umweltschutz I																				
5. Sprech- und Schreibanlass Sport II	13. Sprech- und Schreibanlass Umweltschutz II																				
6. Sprech- und Schreibanlass Schule I	14. Sprech- und Schreibanlass Kultur I																				
7. Sprech- und Schreibanlass Schule II	15. Sprech- und Schreibanlass Kultur II																				
8. Sprech- und Schreibanlass Wissenschaft und Zukunft I																					
◇ 成績評価の方法	毎回の授業参加、課題、宿題に基づく。																				
◇ 教科書・参考書	Campus Deutsch. Schreiben. Hueber. 2015. Glötz-Kastanis, J. & D. Tippmann. 2008. Sprechen. Schreiben. Mitreden. Christos Karabatos.																				
◇ 授業時間外学習	授業の準備、宿題																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																		
フ ラ ン ス 文 学 特 論 I French Literature (Advanced Lecture) I	2	教授 今 井 勉	1 学期	木	2																		
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT645J																						
◆ 授業題目	フランス文学批評史(1) (History of french criticism)																						
◆ 目的・概要	19世紀以降のフランスの文学批評の歴史を振り返ります。文学批評史は時代の政治・経済・文化の動きと密接な関係を保っています。この授業では、アントワヌ・コンパニョンの『文学の第三共和国』(1983)を主要参考文献として、19世紀後半から20世紀前半のフランス第三共和政期の文学批評の流れをたどってみます。																						
◆ 到達目標	フランス第三共和政期の文学批評の勢力図の変遷を知り、文学と歴史の関わりについて考察を深める。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>10. ギュスターヴ・ランソン (9) シャルル・ペギー</td> </tr> <tr> <td>2. ギュスターヴ・ランソン (1) 文学か歴史か</td> <td>11. ギュスターヴ・ランソン (10) ランソン主義</td> </tr> <tr> <td>3. ギュスターヴ・ランソン (2) 大学と歴史家</td> <td>12. ギュスターヴ・ランソン (11) 人格礼賛</td> </tr> <tr> <td>4. ギュスターヴ・ランソン (3) 文学史</td> <td>13. ギュスターヴ・ランソン (12) サント＝ブーヴ、テーヌ、ブリュヌチエール</td> </tr> <tr> <td>5. ギュスターヴ・ランソン (4) 講壇批評</td> <td>14. ギュスターヴ・ランソン (13) テーヌの独裁</td> </tr> <tr> <td>6. ギュスターヴ・ランソン (5) ドレフェス事件</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. ギュスターヴ・ランソン (6) 修辞学教育</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. ギュスターヴ・ランソン (7) 大作家</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. ギュスターヴ・ランソン (8) アクション・フランセーズvsソルボンヌ</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入	10. ギュスターヴ・ランソン (9) シャルル・ペギー	2. ギュスターヴ・ランソン (1) 文学か歴史か	11. ギュスターヴ・ランソン (10) ランソン主義	3. ギュスターヴ・ランソン (2) 大学と歴史家	12. ギュスターヴ・ランソン (11) 人格礼賛	4. ギュスターヴ・ランソン (3) 文学史	13. ギュスターヴ・ランソン (12) サント＝ブーヴ、テーヌ、ブリュヌチエール	5. ギュスターヴ・ランソン (4) 講壇批評	14. ギュスターヴ・ランソン (13) テーヌの独裁	6. ギュスターヴ・ランソン (5) ドレフェス事件	15. まとめ	7. ギュスターヴ・ランソン (6) 修辞学教育		8. ギュスターヴ・ランソン (7) 大作家		9. ギュスターヴ・ランソン (8) アクション・フランセーズvsソルボンヌ	
1. 導入	10. ギュスターヴ・ランソン (9) シャルル・ペギー																						
2. ギュスターヴ・ランソン (1) 文学か歴史か	11. ギュスターヴ・ランソン (10) ランソン主義																						
3. ギュスターヴ・ランソン (2) 大学と歴史家	12. ギュスターヴ・ランソン (11) 人格礼賛																						
4. ギュスターヴ・ランソン (3) 文学史	13. ギュスターヴ・ランソン (12) サント＝ブーヴ、テーヌ、ブリュヌチエール																						
5. ギュスターヴ・ランソン (4) 講壇批評	14. ギュスターヴ・ランソン (13) テーヌの独裁																						
6. ギュスターヴ・ランソン (5) ドレフェス事件	15. まとめ																						
7. ギュスターヴ・ランソン (6) 修辞学教育																							
8. ギュスターヴ・ランソン (7) 大作家																							
9. ギュスターヴ・ランソン (8) アクション・フランセーズvsソルボンヌ																							
◇ 成績評価の方法	授業への参加状況100%																						
◇ 教科書・参考書	アントワヌ・コンパニョン『文学の第三共和国』(1983)〔邦訳なし〕、『理論の魔』(1998)〔邦訳『文学をめぐる理論と常識』(2007)〕、ミシェル・ジャルティ『フランスにおける文学批評 歴史と方法 (1800-2000)』(2016)〔邦訳なし〕																						
◇ 授業時間外学習	配付資料の予習をして授業に臨むこと。																						
その他：連絡先：tsutomu@m.tohoku.ac.jp																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 文 学 特 論 II French Literature (Advanced Lecture) II	2	教授 今 井 勉	2 学期	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT646J																				
◆ 授業題目	フランス文学批評史(2) (History of french criticism (2))																				
◆ 目的・概要	前期に引き続き、19世紀以降のフランスの文学批評の歴史を振り返ります。文学批評史は時代の政治・経済・文化の動きと密接な関係を保っています。この授業では、アントワヌ・コンパニョンの『文学の第三共和国』(1983)を主要参考文献として、19世紀後半から20世紀前半のフランス第三共和政期の文学批評の流れをたどってみます。																				
◆ 到達目標	フランス第三共和政期の文学批評の勢力図の変遷を知り、文学と歴史の関わりについて考察を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>9. 文学とは何か (8) プルースト『失われた時を求めて』</td> </tr> <tr> <td>2. 文学とは何か (1) 読書</td> <td>10. 文学とは何か (9) フローベール『現代のフランス』</td> </tr> <tr> <td>3. 文学とは何か (2) 図書館</td> <td>11. 文学とは何か (10) 文学史を少々</td> </tr> <tr> <td>4. 文学とは何か (3) 愛書家</td> <td>12. 文学とは何か (11) テーヌ</td> </tr> <tr> <td>5. 文学とは何か (4) 偶像崇拜</td> <td>13. 文学とは何か (12) 反動</td> </tr> <tr> <td>6. 文学とは何か (5) 読書あるいは人生</td> <td>14. 文学とは何か (13) フローベール、テーヌ、プルースト</td> </tr> <tr> <td>7. 文学とは何か (6) インスピレーション</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 文学とは何か (7) ヴィジョン</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入	9. 文学とは何か (8) プルースト『失われた時を求めて』	2. 文学とは何か (1) 読書	10. 文学とは何か (9) フローベール『現代のフランス』	3. 文学とは何か (2) 図書館	11. 文学とは何か (10) 文学史を少々	4. 文学とは何か (3) 愛書家	12. 文学とは何か (11) テーヌ	5. 文学とは何か (4) 偶像崇拜	13. 文学とは何か (12) 反動	6. 文学とは何か (5) 読書あるいは人生	14. 文学とは何か (13) フローベール、テーヌ、プルースト	7. 文学とは何か (6) インスピレーション	15. まとめ	8. 文学とは何か (7) ヴィジョン	
1. 導入	9. 文学とは何か (8) プルースト『失われた時を求めて』																				
2. 文学とは何か (1) 読書	10. 文学とは何か (9) フローベール『現代のフランス』																				
3. 文学とは何か (2) 図書館	11. 文学とは何か (10) 文学史を少々																				
4. 文学とは何か (3) 愛書家	12. 文学とは何か (11) テーヌ																				
5. 文学とは何か (4) 偶像崇拜	13. 文学とは何か (12) 反動																				
6. 文学とは何か (5) 読書あるいは人生	14. 文学とは何か (13) フローベール、テーヌ、プルースト																				
7. 文学とは何か (6) インスピレーション	15. まとめ																				
8. 文学とは何か (7) ヴィジョン																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加状況100%																				
◇ 教科書・参考書	アントワヌ・コンパニョン『文学の第三共和国』(1983)〔邦訳なし〕、『理論の魔』(1998)〔邦訳『文学をめぐる理論と常識』(2007)〕、ミシェル・ジャルティ『フランスにおける文学批評 歴史と方法 (1800-2000)』(2016)〔邦訳なし〕																				
◇ 授業時間外学習	配付資料の予習をして授業に臨むこと。																				
その他：連絡先：tsutomu@m.tohoku.ac.jp																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
フ ラ ン ス 文 学 特 論 Ⅲ French Literature (Advanced Lecture) Ⅲ	2	非常勤 講師 小 倉 博 孝	集 中 (1 学 期)		
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT647J				
◆ 授業題目	フランス古典主義悲劇研究 (French Classical Tragedy)				
◆ 目的・概要	十六世紀半ばに誕生したフランス悲劇は、十七世紀にどのような変化を遂げ、コルネイユ、ラシーヌの悲劇へと向かっていくのか。コルネイユとラシーヌの劇作法の違いはどこにあるのか。まず、演劇規則に関する議論を追いながらフランス悲劇の変化について考察していきます。そして、抽象的な議論になることを避けるため、取り扱う作品についてはテキストの分析を中心におきながら考察を進めていきます。最後に講義のまとめとして、ラシーヌ処女悲劇成立に関する研究をともに見ていくことによって、文学研究における考証とその意味、外国人研究者が果たす役割について考えてみたいと思います。				
◆ 到達目標	十七世紀フランス悲劇の特徴がわかるようになり、また作品のテキスト分析をとおして、自分自身で問題点を見出すことができるようになること。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 悲劇性という概念について (以下の学習内容・進度については、受講生の関心等により、若干変更する場合があります) 2. 悲劇と悲喜劇 3. 悲劇と規則 4. コルネイユの劇作法について (1) — “Le Cid” (1637) — 5. コルネイユの劇作法について (2) — “Horace” (1640) から “Cinna” (1642) へ — 6. コルネイユの劇作法について (3) — “Horace” (1640) から “Cinna” (1642) へ — 7. コルネイユの劇作法について (4) — “Rodogune” (1644-45) — 8. コルネイユの劇作法について (5) — “Rodogune” (1644-45) — 9. ラシーヌの劇作法について (1) — “Andromaque” (1667) — 10. ラシーヌの劇作法について (2) — “Andromaque” (1667) — 11. ラシーヌの劇作法について (3) — “Britannicus” (1669) — 12. ラシーヌの劇作法について (4) — “Britannicus” (1669) — 13. ラシーヌの劇作法について (5) — “Bérénice” (1670) — 14. まとめ、考証と文学研究 (1) — Racine, “La Thébaïde” (1664) 過程をめぐって — 15. まとめ、考証と文学研究 (2) — Racine, “La Thébaïde” (1664) 過程をめぐって — 				
◇ 成績評価の方法	出席 (30%)、授業への積極的参加 (70%)				
◇ 教科書・参考書	プリント配布。 主な参考書は Georges Forestier, “La tragédie française: Passions tragiques et règles classiques”, Armand Colin, 2010.				
◇ 授業時間外学習	授業の予習・復習ならびに毎回の講義後、疑問点を整理し、質問を用意しておくことが求められます。				
その他 :					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 Ⅰ French Literature (Advanced Seminar) Ⅰ	2	教授 今 井 勉	1 学 期	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT648J				
◆ 授業題目	『若きパルク』を読む(1) (Reading of 《La jeune Parque》(1))				
◆ 目的・概要	ポール・ヴァレリーの代表作『若きパルク』(1917)を読みます。今年はこの詩が発表されてからちょうど100周年に当たります。これまでに蓄積された諸家の研究を随時紹介しつつ、改めて、アレクサンドラン512行から成るこの詩を丁寧に読んでみたいと思います。折に触れて、作品の草稿やヴァレリーの手紙を参照し、詩の生成過程について検討してみます。				
◆ 到達目標	定型詩の表現技巧に親しむと同時に、ヴァレリーの代表作の生成過程を知る。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 読解 (1) 3. 読解 (2) 4. 読解 (3) 5. 読解 (4) 6. 読解 (5) 7. 読解 (6) 8. 読解 (7) 9. 読解 (8) 10. 読解 (9) 11. 読解 (10) 12. 読解 (11) 13. 読解 (12) 14. 読解 (13) 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	授業への参加状況 100%				
◇ 教科書・参考書	プリント配付				
◇ 授業時間外学習	毎回予習をして授業に臨むこと				
その他 : 連絡先 : tsutomu@m.tohoku.ac.jp					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 Ⅱ French Literature (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教 授 今 井 勉	2 学 期	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT649J																				
◆ 授業題目	『若きパルク』を読む(2) (Reading of 《La jeune Parque》 (2))																				
◆ 目的・概要	前期に引き続き、ポール・ヴァレリーの代表作『若きパルク』(1917)を読みます。今年はこの詩が発表されてからちょうど100周年に当たります。これまでに蓄積された諸家の研究を随時紹介しつつ、改めて、アレクサンドラン512行から成るこの詩を丁寧に読んでみたいと思います。折に触れて、作品の草稿やヴァレリーの手紙を参照し、詩の生成過程について検討してみます。																				
◆ 到達目標	定型詩の表現技巧に親しむと同時に、ヴァレリーの代表作の生成過程を知る。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>9. 読解 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 読解 (1)</td> <td>10. 読解 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 読解 (2)</td> <td>11. 読解 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 読解 (3)</td> <td>12. 読解 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 読解 (4)</td> <td>13. 読解 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 読解 (5)</td> <td>14. 読解 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 読解 (6)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 読解 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入	9. 読解 (8)	2. 読解 (1)	10. 読解 (9)	3. 読解 (2)	11. 読解 (10)	4. 読解 (3)	12. 読解 (11)	5. 読解 (4)	13. 読解 (12)	6. 読解 (5)	14. 読解 (13)	7. 読解 (6)	15. まとめ	8. 読解 (7)	
1. 導入	9. 読解 (8)																				
2. 読解 (1)	10. 読解 (9)																				
3. 読解 (2)	11. 読解 (10)																				
4. 読解 (3)	12. 読解 (11)																				
5. 読解 (4)	13. 読解 (12)																				
6. 読解 (5)	14. 読解 (13)																				
7. 読解 (6)	15. まとめ																				
8. 読解 (7)																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加状況 100%																				
◇ 教科書・参考書	プリント配付																				
◇ 授業時間外学習	毎回予習をして授業に臨むこと																				
その他：連絡先：tsutomu@m.tohoku.ac.jp																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 Ⅲ French Literature (Advanced Seminar) Ⅲ	2	准教授 メヴェル ヤン	1 学 期	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT650F																				
◆ 授業題目	Pierre Michon et la peinture (Pierre Michon and Painting)																				
◆ 目的・概要	- pratique de l'explication de texte - analyse de documents																				
◆ 到達目標	Les principaux objectifs du cours sont les suivants: - approfondissement de la méthode de l'explication de texte - analyse d'une prose poétique et lyrique - réflexion sur les notions de «fiction biographique» et d'ekphrasis - analyse d'une œuvre littéraire qui se confronte au savoir et à la peinture, donne lieu à une réflexion sur l'art																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Introduction</td> <td>9. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>2. Introduction</td> <td>10. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>3. Explication de texte</td> <td>11. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>4. Explication de texte</td> <td>12. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>5. Explication de texte</td> <td>13. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>6. Explication de texte</td> <td>14. Conclusion</td> </tr> <tr> <td>7. Explication de texte</td> <td>15. Travaux d'étudiants</td> </tr> <tr> <td>8. Explication de texte</td> <td></td> </tr> </table>					1. Introduction	9. Explication de texte	2. Introduction	10. Explication de texte	3. Explication de texte	11. Explication de texte	4. Explication de texte	12. Explication de texte	5. Explication de texte	13. Explication de texte	6. Explication de texte	14. Conclusion	7. Explication de texte	15. Travaux d'étudiants	8. Explication de texte	
1. Introduction	9. Explication de texte																				
2. Introduction	10. Explication de texte																				
3. Explication de texte	11. Explication de texte																				
4. Explication de texte	12. Explication de texte																				
5. Explication de texte	13. Explication de texte																				
6. Explication de texte	14. Conclusion																				
7. Explication de texte	15. Travaux d'étudiants																				
8. Explication de texte																					
◇ 成績評価の方法	L'évaluation prendra d'abord la forme d'un contrôle continu (participation aux cours). Il comptera pour 60% dans l'évaluation globale. A la fin du second semestre, il s'agira de présenter un exposé sur l'œuvre étudiée (25%) et, par écrit, un bref compte rendu critique (25%).																				
◇ 教科書・参考書	Vies minuscules; Vie de Joseph Roulin; Maîtres et serviteurs; Les Onze																				
◇ 授業時間外学習	Pour toute explication de texte il faudra avant le cours effectuer les recherches utiles (vocabulaire, grammaire, références...), en s'interrogeant sur les fonctions et effets de ce texte.																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 IV French Literature (Advanced Seminar) IV	2	准教授 メヴェル ヤン	2 学期	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT651F																				
◆ 授業題目	Pierre Michon et la peinture (Pierre Michon and Painting)																				
◆ 目的・概要	- pratique de l'explication de texte - analyse de documents																				
◆ 到達目標	Les principaux objectifs du cours sont les suivants: - approfondissement de la méthode de l'explication de texte - analyse d'une prose poétique et lyrique - réflexion sur les notions de «fiction biographique» et d'ekphrasis - analyse d'une œuvre littéraire qui se confronte au savoir et à la peinture, donne lieu à une réflexion sur l'art																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Introduction</td> <td>9. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>2. Introduction</td> <td>10. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>3. Explication de texte</td> <td>11. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>4. Explication de texte</td> <td>12. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>5. Explication de texte</td> <td>13. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>6. Explication de texte</td> <td>14. Conclusion</td> </tr> <tr> <td>7. Explication de texte</td> <td>15. Travaux d'étudiants</td> </tr> <tr> <td>8. Explication de texte</td> <td></td> </tr> </table>					1. Introduction	9. Explication de texte	2. Introduction	10. Explication de texte	3. Explication de texte	11. Explication de texte	4. Explication de texte	12. Explication de texte	5. Explication de texte	13. Explication de texte	6. Explication de texte	14. Conclusion	7. Explication de texte	15. Travaux d'étudiants	8. Explication de texte	
1. Introduction	9. Explication de texte																				
2. Introduction	10. Explication de texte																				
3. Explication de texte	11. Explication de texte																				
4. Explication de texte	12. Explication de texte																				
5. Explication de texte	13. Explication de texte																				
6. Explication de texte	14. Conclusion																				
7. Explication de texte	15. Travaux d'étudiants																				
8. Explication de texte																					
◇ 成績評価の方法	L'évaluation prendra d'abord la forme d'un contrôle continu (participation aux cours). Il comptera pour 60% dans l'évaluation globale. A la fin du second semestre, il s'agira de présenter un exposé sur l'œuvre étudiée (25%) et, par écrit, un bref compte rendu critique (25%).																				
◇ 教科書・参考書	Vies minuscules; Vie de Joseph Roulin; Maîtres et serviteurs; Les Onze																				
◇ 授業時間外学習	Pour toute explication de texte il faudra avant le cours effectuer les recherches utiles (vocabulaire, grammaire, références...), en s'interrogeant sur les fonctions et effets de ce texte.																				
その他 :																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																		
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 V French Literature (Advanced Seminar) V	2	准教授 黒 岩 卓	1 学期	月	3																		
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT652J																						
◆ 授業題目	中世・ルネサンスの伝語伝文学研究(1) (Medieval and Renaissance French Literature (1))																						
◆ 目的・概要	前年度に引き続き、フランス語による神学・哲学的散文の嚆矢であり、思想史的にも重要な位置を占めるジャン・カルヴァンの『キリスト教綱要』の1541年フランス語版 (Olivier Millet 校訂版) を読みます。近代校訂諸版を適時参照し、テキスト校訂に関わる諸問題を同時に考える機会としたいとも考えています。前年度に受講していない人や中期フランス語を読んだ経験が無い人でも、現代フランス語の十分な知識があれば受講が可能です。また、後期のフランス文学研究演習VIと共に受講することで、より深い通史的なフランス語の知識が得られます (こちらだけでの受講も可能です)。																						
◆ 到達目標	中期フランス語およびそれによって書かれた作品の研究に関する基礎知識を習得する。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. (以下、テキスト講読と並行して取り上げるトピックを記します。順番などは適時変更することがあります。)</td> <td>7. 書誌の作り方</td> </tr> <tr> <td>中期フランス語入門 1</td> <td>8. 雑誌</td> </tr> <tr> <td>2. 中期フランス語入門 2</td> <td>9. 歴史音声学</td> </tr> <tr> <td>3. 中期フランス語の辞書と文法書</td> <td>10. ラテン語</td> </tr> <tr> <td>4. 近代校訂版とは</td> <td>11. 韻文と散文</td> </tr> <tr> <td>5. テキスト校訂に関する種々の立場</td> <td>12. 句読点</td> </tr> <tr> <td>6. 印刷本</td> <td>13. 聖書</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. 中世神学</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 後世への影響</td> </tr> </table>					1. (以下、テキスト講読と並行して取り上げるトピックを記します。順番などは適時変更することがあります。)	7. 書誌の作り方	中期フランス語入門 1	8. 雑誌	2. 中期フランス語入門 2	9. 歴史音声学	3. 中期フランス語の辞書と文法書	10. ラテン語	4. 近代校訂版とは	11. 韻文と散文	5. テキスト校訂に関する種々の立場	12. 句読点	6. 印刷本	13. 聖書		14. 中世神学		15. 後世への影響
1. (以下、テキスト講読と並行して取り上げるトピックを記します。順番などは適時変更することがあります。)	7. 書誌の作り方																						
中期フランス語入門 1	8. 雑誌																						
2. 中期フランス語入門 2	9. 歴史音声学																						
3. 中期フランス語の辞書と文法書	10. ラテン語																						
4. 近代校訂版とは	11. 韻文と散文																						
5. テキスト校訂に関する種々の立場	12. 句読点																						
6. 印刷本	13. 聖書																						
	14. 中世神学																						
	15. 後世への影響																						
◇ 成績評価の方法	出席 100%																						
◇ 教科書・参考書	Jean Calvin, Institution de la religion chrétienne (1541), éd. par Olivier Millet, Genève, Droz, 2008.																						
◇ 授業時間外学習	当該のテキストの予習が必要になります。																						
その他 :																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 VI French Literature (Advanced Seminar) VI	2	准教授 黒 岩 卓	2 学期	月	3
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT653J				
◆ 授業題目	中世・ルネサンスの伝語仏文学研究(2) (Medieval and Renaissance French Literature (2))				
◆ 目的・概要	前年度に引き続き、現存最古の伝語宗教劇である『アダム劇』(Véronique Dominguez 校訂版)を読みながら、古伝語の基礎を学びます。近代校訂諸版を適時参照し、また写本のファクシミリなどを適時利用することで、テキスト校訂に関わる諸問題を同時に考える機会としたいとも考えています。前年度未参加で古フランス語を読んだ経験が無くても、現代フランス語の十分な知識があれば受講が可能です。また、前期のフランス文学研究演習Vと共に受講することで、より深い通史的なフランス語の知識が得られます(こちらだけの受講も可能です)。				
◆ 到達目標	古フランス語およびそれによって書かれた作品の研究に関する基礎知識を習得する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. (以下、テキスト講読と並行して取り上げるトピックを記します。順番などは適時変更することがあります。) <ol style="list-style-type: none"> 古フランス語入門 1 古フランス語入門 2 古フランス語の辞書と文法書 近代校訂版とは テキスト校訂に関する種々の立場 写本系統樹とは 7. 書誌の作り方 8. 雑誌 9. 歴史音声学 10. ラテン語 11. 詩作技巧の問題 12. 句読点 13. 聖書 14. 中世神学 15. 劇テキストの歴史 				
◇ 成績評価の方法	出席 100%				
◇ 教科書・参考書	Le Jeu d'Adam, édition bilingue, établie, traduite, présentée et annotée par Véronique Dominguez, Paris, H. Champion, 2012.				
◇ 授業時間外学習	当該のテキストの予習が必要になります。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
フ ラ ン ス 語 学 研 究 演 習 I French Linguistics (Advanced Seminar) I	2	教授 阿 部 宏	1 学期	水	5
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT654J				
◆ 授業題目	フランス語学の現代的トピック I (Contemporary topics in French linguistics I)				
◆ 目的・概要	フランス語に関する論文を読みながら、フランス語学・一般言語学・言語学史・対照言語研究の基礎概念を紹介・解説し、フランス語の諸現象について考える。また、日本語、英語との対照的考察を行う。				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語学・一般言語学・仏英日対照言語学の基礎が理解できる。 ・フランス語学の研究史が把握できる。 ・語学研究の方法論が理解できる。 ・言語に潜在する主観性概念への関心が高まる。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. フランス語学関連文献読解 (1) 3. フランス語学関連文献読解 (2) 4. フランス語学関連文献読解 (3) 5. フランス語学関連文献読解 (4) 6. 一般言語学関連文献読解 (1) 7. 一般言語学関連文献読解 (2) 8. 一般言語学関連文献読解 (3) 9. 一般言語学関連文献読解 (4) 10. 言語学史関連文献読解 (1) 11. 言語学史関連文献読解 (2) 12. 言語学史関連文献読解 (3) 13. 対照言語学関連文献読解 (1) 14. 対照言語学関連文献読解 (2) 15. まとめと筆記試験 				
◇ 成績評価の方法	平常点 40%、筆記試験 60%				
◇ 教科書・参考書	プリント使用。 参考書：阿部宏『言葉に心の声を聞く』(2015) 東北大学出版会。 他に、関連図書について、適宜推薦します。				
◇ 授業時間外学習	教室で適宜テーマを与えますので、関連資料を調査し、各自考えていただきます				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時		
フ ラ ン ス 語 学 研 究 演 習 Ⅱ French Linguistics (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教授 阿 部 宏	2 学 期	水	5		
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT655J						
◆ 授業題目	フランス語学の現代的トピックⅡ (Contemporary topics in French linguistics Ⅱ)						
◆ 目的・概要	フランス語に関する論文を読みながら、フランス語学・一般言語学・言語学史・対照言語研究の基礎概念を紹介・解説し、フランス語の諸現象について考える。また、日本語、英語との対照的考察を行う。						
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語学・一般言語学・仏英日対照言語学の基礎が理解できる。 ・フランス語学の研究史が把握できる。 ・語学研究の方法論が理解できる。 ・言語に潜在する主観性概念への関心が高まる。 						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. フランス語学関連文献読解 (1) 3. フランス語学関連文献読解 (2) 4. フランス語学関連文献読解 (3) 5. フランス語学関連文献読解 (4) 6. 一般言語学関連文献読解 (1) 7. 一般言語学関連文献読解 (2) 8. 一般言語学関連文献読解 (3) </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. 一般言語学関連文献読解 (4) 10. 言語学史関連文献読解 (1) 11. 言語学史関連文献読解 (2) 12. 言語学史関連文献読解 (3) 13. 対照言語学関連文献読解 (1) 14. 対照言語学関連文献読解 (2) 15. まとめと筆記試験 </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. フランス語学関連文献読解 (1) 3. フランス語学関連文献読解 (2) 4. フランス語学関連文献読解 (3) 5. フランス語学関連文献読解 (4) 6. 一般言語学関連文献読解 (1) 7. 一般言語学関連文献読解 (2) 8. 一般言語学関連文献読解 (3) 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 一般言語学関連文献読解 (4) 10. 言語学史関連文献読解 (1) 11. 言語学史関連文献読解 (2) 12. 言語学史関連文献読解 (3) 13. 対照言語学関連文献読解 (1) 14. 対照言語学関連文献読解 (2) 15. まとめと筆記試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. フランス語学関連文献読解 (1) 3. フランス語学関連文献読解 (2) 4. フランス語学関連文献読解 (3) 5. フランス語学関連文献読解 (4) 6. 一般言語学関連文献読解 (1) 7. 一般言語学関連文献読解 (2) 8. 一般言語学関連文献読解 (3) 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 一般言語学関連文献読解 (4) 10. 言語学史関連文献読解 (1) 11. 言語学史関連文献読解 (2) 12. 言語学史関連文献読解 (3) 13. 対照言語学関連文献読解 (1) 14. 対照言語学関連文献読解 (2) 15. まとめと筆記試験 						
◇ 成績評価の方法	平常点 40%、筆記試験 60%						
◇ 教科書・参考書	プリント使用。 参考書：阿部宏『言葉に心の声を聞く』(2016) 東北大学出版会。 他に、関連図書について、適宜推薦します。						
◇ 授業時間外学習	教室で適宜テーマを与えますので、関連資料を調査し、各自考えていただきます						
その他：							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時		
フ ラ ン ス 語 学 研 究 演 習 Ⅲ French Linguistics (Advanced Seminar) Ⅲ	2	准教授 メヴェル ヤン	1 学 期	月	5		
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT656F						
◆ 授業題目	Samuel Beckett (Samuel Beckett)						
◆ 目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> - pratique de l'explication de texte - approches thématiques - analyse de documents 						
◆ 到達目標	Les principaux buts du cours seront les suivants : <ul style="list-style-type: none"> - approfondissement de la méthode de l'explication de texte - apprentissage du mode d'analyse d'une œuvre complète - analyse d'une œuvre qui met à l'épreuve les codes du roman - réflexion sur les apports des manuscrits, de la biographie et de la correspondance pour l'analyse de la genèse et l'interprétation d'une œuvre littéraire 						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Introduction 3. Explication de texte 4. Explication de texte 5. Explication de texte 6. Explication de texte 7. Explication de texte 8. Explication de texte </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. Explication de texte 10. Explication de texte 11. Explication de texte 12. Explication de texte 13. Explication de texte 14. Conclusion 15. Travaux d'étudiants </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Introduction 3. Explication de texte 4. Explication de texte 5. Explication de texte 6. Explication de texte 7. Explication de texte 8. Explication de texte 	<ol style="list-style-type: none"> 9. Explication de texte 10. Explication de texte 11. Explication de texte 12. Explication de texte 13. Explication de texte 14. Conclusion 15. Travaux d'étudiants
<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Introduction 3. Explication de texte 4. Explication de texte 5. Explication de texte 6. Explication de texte 7. Explication de texte 8. Explication de texte 	<ol style="list-style-type: none"> 9. Explication de texte 10. Explication de texte 11. Explication de texte 12. Explication de texte 13. Explication de texte 14. Conclusion 15. Travaux d'étudiants 						
◇ 成績評価の方法	L'évaluation prendra d'abord la forme d'un contrôle continu (participation aux cours). Il comptera pour 50% dans l'évaluation globale. A la fin du second semestre, il s'agira de présenter un exposé (25%) et de rédiger un bref compte rendu critique (25%).						
◇ 教科書・参考書	Molloy; Malone meurt; L'Innommable						
◇ 授業時間外学習	Pour toute explication de texte il faudra avant le cours effectuer les recherches utiles (vocabulaire, grammaire, références...), en s'interrogeant sur les fonctions et effets de ce texte.						
その他：							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時		
フ ラ ン ス 語 学 研 究 演 習 IV French Linguistics (Advanced Seminar) IV	2	准教授 メヴェル ヤン	2学期	月	5		
◆ 科目ナンバリング	LHS-LIT657F						
◆ 授業題目	Samuel Beckett (Samuel Beckett)						
◆ 目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> - pratique de l'explication de texte - approches thématiques - analyse de documents 						
◆ 到達目標	<p>Les principaux buts du cours seront les suivants :</p> <ul style="list-style-type: none"> - approfondissement de la méthode de l'explication de texte - apprentissage du mode d'analyse d'une œuvre complète - analyse d'une œuvre qui met à l'épreuve les codes du roman - réflexion sur les apports des manuscrits, de la biographie et de la correspondance pour l'analyse de la genèse et l'interprétation d'une œuvre littéraire 						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Introduction 3. Explication de texte 4. Explication de texte 5. Explication de texte 6. Explication de texte 7. Explication de texte 8. Explication de texte </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 9. Explication de texte 10. Explication de texte 11. Explication de texte 12. Explication de texte 13. Explication de texte 14. Conclusion 15. Travaux d'étudiants </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Introduction 3. Explication de texte 4. Explication de texte 5. Explication de texte 6. Explication de texte 7. Explication de texte 8. Explication de texte 	<ul style="list-style-type: none"> 9. Explication de texte 10. Explication de texte 11. Explication de texte 12. Explication de texte 13. Explication de texte 14. Conclusion 15. Travaux d'étudiants
<ul style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Introduction 3. Explication de texte 4. Explication de texte 5. Explication de texte 6. Explication de texte 7. Explication de texte 8. Explication de texte 	<ul style="list-style-type: none"> 9. Explication de texte 10. Explication de texte 11. Explication de texte 12. Explication de texte 13. Explication de texte 14. Conclusion 15. Travaux d'étudiants 						
◇ 成績評価の方法	L'évaluation prendra d'abord la forme d'un contrôle continu (participation aux cours). Il comptera pour 50% dans l'évaluation globale. A la fin du second semestre, il s'agira de présenter un exposé (25%) et de rédiger un bref compte rendu critique (25%).						
◇ 教科書・参考書	Molloy; Malone meurt; L'Innommable						
◇ 授業時間外学習	Pour toute explication de texte il faudra avant le cours effectuer les recherches utiles (vocabulaire, grammaire, références...), en s'interrogeant sur les fonctions et effets de ce texte.						
その他 :							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
哲 学 特 論 Philosophy (Advanced Lecture) I	I 2	非常勤 講師 野 家 伸 也	1 学期	火	3
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI631J				
◆ 授業題目	フッサール『論理学研究』を読む (Reading Husserl's Logical Investigations)				
◆ 目的・概要	『論理学研究』において現象学的思考が誕生していく過程についての正確な知識を得ることを目的とする。『論理学研究』においてフッサールが自らに与えた課題は、「心理的なもの」と「論理的なもの」の相互関係を記述することであった。その際フッサールは、「心理的なもの」を切り捨てたり（論理主義）、「論理的なもの」を「心理的なもの」に還元したり（心理主義）という「力技」ではなく、「心理的なもの」と「論理的なもの」という二つのシステムの相互の独立性を認めながらも、それらの間に共通の〈構造〉を通じた対応関係を見出すことで両者を統一的全体の中に位置づけるという方法を選んだ。これは「内的なもの」と「外的なもの」、「主観的なもの」と「客観的なもの」の二項対立を〈構造〉概念によって〈中和化〉ないし〈調停〉していくことによって、近代の実証主義的方法がもたらした「知の分裂」を克服するという構造主義の方法を先取りするものである。この授業では、特に『論理学研究』第二巻の第六研究におけるカテゴリー的直観の理論と、第三研究における全体／部分関係の理論がヤーコブソンの構造言語学において〈構造〉概念の成立を促したこと、さらにヤーコブソンを介してレヴィ＝ストロースの構造人類学の成立にも機縁を与えていることに着目し、フッサールに始まる現象学的思考と東欧に始まりパリに受け継がれた構造主義的思考の本質的な関連性を探っていく。				
◆ 到達目標	現象学的思考が誕生していく過程についての正確な知識を得ることで、現象学についての理解を確かなものとする。				
◆ 授業内容・方法	1. 序：『算術の哲学』から『論理学研究』へ 2. 『論理学研究』全体の意図と時代背景 3. 『論理学研究』第二巻の意図と現象学的思考の誕生 4. ロシアにおける『論理学研究』の受容と構造言語学 5. フッサールとヤーコブソン 6. ヤーコブソンとレヴィ＝ストロース 7. 表現とその意味 8. 純粹文法の理念 9. 意味志向と意味充実 10. カテゴリー的直観 11. 基づけの関係 12. 独立性と非独立性 13. 全体／部分関係 14. 意味の独立性と非独立性 15. まとめ：現象学的思考と構造主義的思考				
◇ 成績評価の方法	期末のレポートによる。				
◇ 教科書・参考書	関連するテキストは前もってプリントで配布する。参考書は授業中に随時指示する。				
◇ 授業時間外学習	関連するテキストを前もって熟読しておくことが望まれる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
哲 学 特 論 Philosophy (Advanced Lecture) I	I 2	非常勤 講師 加 藤 泰 史	集 中 (2 学期)		
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI631J				
◆ 授業題目	カント実践哲学の諸問題 (Kant's Practical Philosophy as modern and contemporary philosophy)				
◆ 目的・概要	カント哲学を理解することは近代哲学ばかりでなく現代哲学も理解するのに不可欠である。本講義では、特にカントの実践哲学のいくつかのテーマに焦点を当てながら、「公共性」・「価値（あるいは、尊厳）」・「責任」といった現代哲学でも重要な問題を取り上げて論じてみたい。最後に『オプス・ポストウムム』に関する最新の研究状況を紹介しながら、「移行」の問題などを分析するとともに、「超越論的観念論がスピノザ主義である」とは何を意味するのかという問いを通して『オプス・ポストウムム』がカント哲学の体型のどこに位置するのかを論じる。				
◆ 到達目標	上記で示した考察を通して、カント哲学が現代哲学に深く浸透している状況を把握すると同時に、他方でカント哲学そのものの課題および限界がどのような仕方でも乗り越えられようとしているのかを理解することを本講義の目指す到達目標とした。				
◆ 授業内容・方法	1. 前批判期カントの自然倫理学 1 2. 前批判期カントの自然倫理学 2 3. 前批判期カントの社会哲学（カントのホップズ需要） 4. カントとホップズ 1（カントの根源的契約） 5. カントとホップズ 2（カントの制度化論） 6. 理性の公共的使用とは何か？ 7. 国際連盟か国際国家か（『永遠平和のために』と公共的使用） 8. クレプスの価値論 9. コースガードの価値論 10. カントの価値論 11. カントの尊厳概念（絶対的価値としての尊厳？） 12. 嘘論文の政治哲学 13. 道徳と政治のアンチノミー 14. 『オプス・ポストウムム』と「移行（Übergang）」の問題 15. 『オプス・ポストウムム』のスピノザ主義？（超越論的観念論はシュピノザ主義か？）				
◇ 成績評価の方法	レポート（100%）				
◇ 教科書・参考書	教科書：特に使用しない。参考書：岩波版カント全集（岩波書店）、シェーンリッヒ『カントと討議倫理学の問題』（晃洋書房）、コースガード『義務とアイデンティティの倫理学』（岩波書店）、渡辺二郎監修『西洋哲学史再構築試論』（昭和堂）など。				
◇ 授業時間外学習	カントの実践哲学関係の著作や、参考文献をあらかじめ読んでおくとう理解が深まる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
哲 学 特 論 I Philosophy (Advanced Lecture) I	2	非常勤 講師 福 間 聡	2 学期	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI631J																				
◆ 授業題目	現代の分析的倫理学 (Contemporary Analytic Ethics)																				
◆ 目的・概要	本講義では英語圏の倫理学である「分析的倫理学」について考察します。G.E. ムアの『倫理学原理』からはじまる分析的倫理学の系譜ですが、現在では多様な立場が存在しています。その中から主要な立場をピックアップし、それらは道徳的判断や道徳的推論、そして道徳的理由や道徳的事実についてどのような見解を示しているのかを吟味します。とりわけ構成主義という立場を中心に検討を行います。授業は、関連するテキストを読み解きながら、担当教員の講義・解説と受講者からの質問やコメントを中心に進めます。																				
◆ 到達目標	現代の分析的倫理学の論争状況について理解した上で、倫理的な諸概念について批判的な考察ができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業のテーマと授業計画の説明</td> <td>9. 準実在論と表出主義の検討 (1)</td> </tr> <tr> <td>2. 未決問題論法の検討</td> <td>10. 準実在論と表出主義の検討 (2)</td> </tr> <tr> <td>3. 情動主義の検討</td> <td>11. 構成主義 (1)</td> </tr> <tr> <td>4. 錯誤理論の検討</td> <td>12. 構成主義 (2)</td> </tr> <tr> <td>5. 自然主義的道徳実在論の検討 (1)</td> <td>13. 構成主義 (3)</td> </tr> <tr> <td>6. 自然主義的道徳実在論の検討 (2)</td> <td>14. 構成主義 (4)</td> </tr> <tr> <td>7. 非自然主義的道徳実在論の検討 (1)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 非自然主義的道徳実在論の検討 (2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業のテーマと授業計画の説明	9. 準実在論と表出主義の検討 (1)	2. 未決問題論法の検討	10. 準実在論と表出主義の検討 (2)	3. 情動主義の検討	11. 構成主義 (1)	4. 錯誤理論の検討	12. 構成主義 (2)	5. 自然主義的道徳実在論の検討 (1)	13. 構成主義 (3)	6. 自然主義的道徳実在論の検討 (2)	14. 構成主義 (4)	7. 非自然主義的道徳実在論の検討 (1)	15. まとめ	8. 非自然主義的道徳実在論の検討 (2)	
1. 授業のテーマと授業計画の説明	9. 準実在論と表出主義の検討 (1)																				
2. 未決問題論法の検討	10. 準実在論と表出主義の検討 (2)																				
3. 情動主義の検討	11. 構成主義 (1)																				
4. 錯誤理論の検討	12. 構成主義 (2)																				
5. 自然主義的道徳実在論の検討 (1)	13. 構成主義 (3)																				
6. 自然主義的道徳実在論の検討 (2)	14. 構成主義 (4)																				
7. 非自然主義的道徳実在論の検討 (1)	15. まとめ																				
8. 非自然主義的道徳実在論の検討 (2)																					
◇ 成績評価の方法	課題の提出と期末レポートによって評価します。																				
◇ 教科書・参考書	授業内で指定します。																				
◇ 授業時間外学習	配布あるいは指定された資料を熟読すること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
哲 学 特 論 II Philosophy (Advanced Lecture) II	2	准教授 荻 原 理	2 学期	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI632J																				
◆ 授業題目	プラトン『パルメニデス』研究 (Lecture on Plato's PARMENIDES)																				
◆ 目的・概要	プラトン『パルメニデス』篇 (最初の部分はイデア論の問題点の指摘、それ以降は、「一」をめぐるある意味で抽象的な思弁) の思考を可能な限り理解する。講義形式だが、積極的に質問してほしい。希望者がいれば数名まで、プレゼンテーションをお願いする。																				
◆ 到達目標	プラトン『パルメニデス』でいかなる議論が展開されているのかについて、少なくとも一つの解釈に則って、説明できるようになる。その説明は、テキストに即しつつ、哲学的に明確であることが望ましい。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション： 『パルメニデス』篇についての概説</td> <td>8. 『パルメニデス』第Ⅱ部 4</td> </tr> <tr> <td>2. 『パルメニデス』第Ⅰ部 1</td> <td>9. 『パルメニデス』第Ⅱ部 5</td> </tr> <tr> <td>3. 『パルメニデス』第Ⅰ部 2</td> <td>10. 『パルメニデス』第Ⅱ部 6</td> </tr> <tr> <td>4. 『パルメニデス』第Ⅰ部 3</td> <td>11. 『パルメニデス』第Ⅱ部 7</td> </tr> <tr> <td>5. 『パルメニデス』第Ⅱ部 1</td> <td>12. 『パルメニデス』第Ⅱ部 8</td> </tr> <tr> <td>6. 『パルメニデス』第Ⅱ部 2</td> <td>13. 『パルメニデス』解釈をめぐる諸問題 1</td> </tr> <tr> <td>7. 『パルメニデス』第Ⅱ部 3</td> <td>14. 『パルメニデス』解釈をめぐる諸問題 2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 『パルメニデス』解釈をめぐる諸問題 3</td> </tr> </table>					1. オリエンテーション： 『パルメニデス』篇についての概説	8. 『パルメニデス』第Ⅱ部 4	2. 『パルメニデス』第Ⅰ部 1	9. 『パルメニデス』第Ⅱ部 5	3. 『パルメニデス』第Ⅰ部 2	10. 『パルメニデス』第Ⅱ部 6	4. 『パルメニデス』第Ⅰ部 3	11. 『パルメニデス』第Ⅱ部 7	5. 『パルメニデス』第Ⅱ部 1	12. 『パルメニデス』第Ⅱ部 8	6. 『パルメニデス』第Ⅱ部 2	13. 『パルメニデス』解釈をめぐる諸問題 1	7. 『パルメニデス』第Ⅱ部 3	14. 『パルメニデス』解釈をめぐる諸問題 2		15. 『パルメニデス』解釈をめぐる諸問題 3
1. オリエンテーション： 『パルメニデス』篇についての概説	8. 『パルメニデス』第Ⅱ部 4																				
2. 『パルメニデス』第Ⅰ部 1	9. 『パルメニデス』第Ⅱ部 5																				
3. 『パルメニデス』第Ⅰ部 2	10. 『パルメニデス』第Ⅱ部 6																				
4. 『パルメニデス』第Ⅰ部 3	11. 『パルメニデス』第Ⅱ部 7																				
5. 『パルメニデス』第Ⅱ部 1	12. 『パルメニデス』第Ⅱ部 8																				
6. 『パルメニデス』第Ⅱ部 2	13. 『パルメニデス』解釈をめぐる諸問題 1																				
7. 『パルメニデス』第Ⅱ部 3	14. 『パルメニデス』解釈をめぐる諸問題 2																				
	15. 『パルメニデス』解釈をめぐる諸問題 3																				
◇ 成績評価の方法	学期末レポート または プレゼンテーション (プレゼンテーションは希望者数名のみ)																				
◇ 教科書・参考書	『プラトン全集 4 パルメニデス・ピレボス』(岩波書店)。 参考文献については授業中適宜紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	授業の内容について考え、わかりにくかったところや、自分で考えたことをまとめておく (次回の授業で質問・発言するために)。																				
その他：予備知識は特に必要ない。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
哲 学 特 論 Philosophy (Advanced Lecture) III	2	准教授 城 戸 淳	1 学期	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI633J				
◆ 授業題目	カントの超越論的弁証論 (Kant's Transcendental Dialectic)				
◆ 目的・概要	カントの『純粋理性批判』における超越論的弁証論について講義する。超越論的弁証論の生成と問題構成をふまえて、超越論的弁証論で争われる個々の哲学的諸主題を検討したい。とりわけ、誤謬推理論における自己認識の問題と、第三アンチノミーで問われる人間的自由については立ち入った分析を試み、哲学的な問題考察へと踏みこむ。その他、関連する諸問題についても補論として触れる予定である。				
◆ 到達目標	カントの超越論的弁証論の基本骨格を理解するとともに、自己認識と自由の問題について、カント的な問題設定のうえで、みずから哲学的に思考できる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 超越論的弁証論とは何か —— 理性の深淵 2. 「取り違え」概念の展開 —— 発展史の一断面 3. 超越論的弁証論と理性 —— 沈黙の十年間 4. 理性批判と自己意識 (1) —— 第一版の誤謬推理論 5. 理性批判と自己意識 (2) —— 演繹論の問題圏 6. 理性批判と自己意識 (3) —— 第二版の誤謬推理論 7. 補論 1 人格と時間 —— 第三誤謬推理論 8. 補論 2 カントの Cogito ergo sum 解釈 9. 人間的自由の宇宙論的本質 (1) —— 第三アンチノミーの論証と解決 10. 人間的自由の宇宙論の本質 (2) —— 性格の選択 11. 人間的自由の宇宙論の本質 (3) —— 宇宙論的自由と実践的パースペクティブ 12. 補論 3 時間と自我 —— 超越論的感性論第7節 13. 補論 4 観念論駁への途上で —— 第四誤謬推理をめぐって 14. 総括的考察 (1) —— 超越論的弁証論の位置と意義 15. 総括的考察 (2) —— 超越論的観念論へ 				
◇ 成績評価の方法	数回のコメントと期末のレポートによる。				
◇ 教科書・参考書	最低限はプリントを配布するが、各自で『純粋理性批判』に挑戦してほしい。ひとまず弁証論のところを購入するなら、カント『純粋理性批判 (中)』(原佑訳、平凡社ライブラリー)をお勧めします。				
◇ 授業時間外学習	『純粋理性批判』を読むことは、哲学的な語彙力や思考力を鍛える最善の道の一つです。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
哲 学 研 究 演 習 Philosophy (Advanced Seminar) I	2	准教授 荻 原 理	1 学期	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI634J				
◆ 授業題目	哲学の作法と技法 1 (Philosophy graduate seminar (Part 1))				
◆ 目的・概要	発表者による口頭発表や、参加者全員による討論を通して、哲学的思考力・表現力を養うことが目的。参加者は順に口頭発表を行なう。各発表に特定質問者がつく。発表予定者は、テーマを決め、研究を進め、発表論文を作成する。発表日 (月曜) の前の金曜午後までに、その時点でのバージョンを1部、哲学倫理学合同研究室の机の上に置いておく (関心のある人が読めるように。不完全でも構わない)。また、発表前に特定質問者と適宜連絡を取る。特定質問者は、発表者の原稿を事前に読み、質問を準備する。当日、完成原稿が配布され、これを読み上げる形で発表がなされ、次に、特定質問者が質問し発表者が応答し、最後に、参加者全員 (哲学の教員を含む) が討議する。				
◆ 到達目標	研究発表を通して、研究テーマの発見と研究の推進、論文作成および発表、質疑への応答について、基礎的な事柄を習得する。特定質問者となったり討論に参加したりすることを通して、人の主張を的確に理解・評価する力、有意義な議論を行なう力を身につける。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、発表者の確定 2. 発表と討論 (1) 3. 発表と討論 (2) 4. 発表と討論 (3) 5. 発表と討論 (4) 6. 発表と討論 (5) 7. 発表と討論 (6) 8. 発表と討論 (7) 9. 発表と討論 (8) 10. 発表と討論 (9) 11. 発表と討論 (10) 12. 発表と討論 (11) 13. 発表と討論 (12) 14. 発表と討論 (13) 15. 発表と討論 (14) 				
◇ 成績評価の方法	出席：30% 発表：35% 討論への参加：35% (研究発表が単位取得の条件)				
◇ 教科書・参考書	なし				
◇ 授業時間外学習	発表者は発表の準備を行なう。特定質問者は質問の準備をする。関心のある人は、金曜日の午後までに哲学倫理学合同研究室の机の上に置かれた発表原稿草稿に目を通す。(以上については上の「授業の目的と概要」を参照。)				
その他：	哲学専攻の学生は可能な限り履修することが望ましい。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
哲 学 研 究 演 習 I Philosophy (Advanced Seminar) I	2	非常勤 講師 森 一 郎	1 学期	火	4
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI634J				
◆ 授業題目	アーレント『革命について』第4章を読む (Reading Hannah Arendt's On Revolution, Chapter 4)				
◆ 目的・概要	ハンナ・アーレントの『革命について』は、『人間の条件』(『活動的生』)に次ぐ、第二の哲学的名著であり、21世紀の今日、まさに読まれるべき根本書である。この授業では、英語版 (1963年) とドイツ語版 (1965年) との違いに留意し、とりわけドイツ語版の精読に努める (ドイツ語版からの日本語訳を配布予定)。第4章「創設——自由の構成」を読んでゆく。				
◆ 到達目標	・20世紀の古典的テキストを読み味わい、哲学的思考を鍛える。 ・哲学書の原典読解に堪える語学力を身につける。 ・テキストの内容や疑問点を整理して発表し、質疑応答を交わす力を養う。 ・哲学の根本問題と現代日本の問題状況が直結していることを学ぶ。				
◆ 授業内容・方法	1. オリエンテーションとイントロダクション：アーレントと『革命について』 2. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その1：第1節 (その1)——解放のための反乱と、自由のための革命 3. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その2：第1節 (その2)——権力のポジティブな意味 4. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その3：第1節 (その3)——モンテスキュー論 5. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その4：第1節 (その4)——押しつけられた憲法と、人民自身が構成する体制 6. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その5：第1節 (その5)——権力の分立と均衡 7. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その6：第2節 (その1)——権力と権威 8. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その7：第2節 (その2)——絶対者の問題 9. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その8：第2節 (その3)——近代における世俗化の政治的意味 10. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その9：第2節 (その4)——法と権力の無根拠性の問題 11. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その10：第3節 (その1)——新しいアメリカ的権力概念 12. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その11：第3節 (その2)——連邦制の原理 13. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その12：第3節 (その3)——メイフラワー誓約のアーレント的解釈 14. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その13：第3節 (その4)——約束と契約 15. 『革命について』第4章「創設——自由の構成」その14：第3節 (その5)——ロックの社会契約論の背景としてのアメリカ植民地の経験				
◇ 成績評価の方法	平常点 (出席、発表担当、議論への参加など) を70%、学期末レポートを30%として総合評価する。				
◇ 教科書・参考書	教科書 (購入を勧めるが、プリントを配布することもある) : Hannah Arendt, On Revolution, Penguin Books Hannah Arendt, Über die Revolution, Piper 参考書 (購入を勧める) : ハンナ・アーレント『革命について』志水速雄訳、ちくま学芸文庫				
◇ 授業時間外学習	毎回の講読範囲をあらかじめ熟読し、疑問点などはメモして、授業に臨むこと。また、授業後には何度も読み直して、理解を深めること。				
その他 :					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
哲 学 研 究 演 習 I Philosophy (Advanced Seminar) I	2	助教 佐 藤 駿	1 学期	木	4
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI634J				
◆ 授業題目	フッサール『デカルト的省察』を読む (Reading Husserl's Cartesianische Meditationen)				
◆ 目的・概要	【目的】 間主観性の問題に対するフッサールのアプローチを理解することを通じ、同様の主題について自ら哲学するための手がかりを見つける。 【概要】 Edmund Husserl 著、Cartesianische Meditationen の “V. Meditation: Enthüllung der transzendentalen Seinssphäre als monadologische Intersubjektivität” を原文で読む。適当な部分ごとに担当者をあらかじめ決め、担当者が授業内でテキストを訳読するかたちで進める。もちろん不明点・問題点があれば、それを取り上げて議論する時間を適宜はさむ。				
◆ 到達目標	1. 他の哲学者およびその思想と、フッサール現象学との相違点や共通点をいくつか挙げるができる。 2. 間主観性の問題に対するフッサールの考え方について、何らかの評価を下すことができる。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション。授業の概要を説明するとともに、主に初めて参加する受講者のために、昨年度までに読み進めた部分のまとめを行なう。 2. 第51節を読む (1)。 3. 第51節を読む (2)。 4. 第52節を読む (1)。 5. 第52節を読む (2)。 6. 第53節を読む。 7. 第54節を読む (1)。 8. 第54節を読む (2)。 9. 第55節を読む (1)。 10. 第55節を読む (2)。 11. 第55節を読む (3)。 12. 第55節を読む (4)。 13. 第55節を読む (5)。 14. 第56節を読む (1)。 15. 第56節を読む (2)。				
◇ 成績評価の方法	訳読の担当 (50%) + 授業全体への貢献度 (50%)。				
◇ 教科書・参考書	Edmund Husserl, Cartesianische Meditationen und Pariser Vorträge, Husserliana I, hrsg. von S. Strasser, 2 Auflage, Kluwer Academic Publishers, 1991. * 初回授業時にコピーを配布する。また適宜、以下の翻訳を参照するとよい。 - Cartesian Meditations. An Introduction to Phenomenology. Trans. Dorion Cairns. Springer, 1997. - Méditations cartésiennes. Introduction à la phénoménologie. Traduit par Gabrielle Peiffer et Emmanuel Levinas. Vrin, 1992. - 『デカルト的省察』浜渦辰二訳、岩波書店 (岩波文庫)、2001年。				
◇ 授業時間外学習	担当でない場合でも予習をし、不明点・疑問点を他人にもわかるように言語化してみる。				
その他 :					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
哲 学 研 究 演 習 I Philosophy (Advanced Seminar) I	2	准教授 原 壘	1 学期	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI634J																				
◆ 授業題目	哲学研究の基礎 (How to Write a Philosophy Paper)																				
◆ 目的・概要	哲学で論文を執筆するのは難しい。論文を執筆するためには、テーマを決め、そのテーマに関連する文献を集め、それらを読解し、議論状況を確認した後で、いままでの議論には見られない著者独自の視点をもつ議論を組み立てなければならない。だが、特にどのようなテーマで、またどのような仕方議論を組み立てれば、著者独自で、〈哲学〉らしい論文になるのだろうか。この授業では、いくつかの研究論文を選んで、その特徴や成立過程を分析し、哲学論文の書き方を示した後で、受講者に実際に短い研究論文を執筆、発表してもらう。																				
◆ 到達目標	1. 哲学論文の分析方法に習熟する。 2. 研究テーマを見つけ、テーマに関連する文献を調査し、著者独自の議論を組み立て、論文を執筆し、発表することができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. はじめに</td> <td>9. 研究論文の分析 2</td> </tr> <tr> <td>2. 哲学論文を書くとはどのようなことか</td> <td>10. 研究論文の分析 3</td> </tr> <tr> <td>3. 研究論文の読み方</td> <td>11. 研究論文の分析 4</td> </tr> <tr> <td>4. 論文の主題を見つける</td> <td>12. 研究発表 1</td> </tr> <tr> <td>5. 議論の組み立て方</td> <td>13. 研究発表 2</td> </tr> <tr> <td>6. 引用の倫理</td> <td>14. 研究発表 3</td> </tr> <tr> <td>7. 研究発表の仕方</td> <td>15. 研究発表 4</td> </tr> <tr> <td>8. 研究論文の分析 1</td> <td></td> </tr> </table>					1. はじめに	9. 研究論文の分析 2	2. 哲学論文を書くとはどのようなことか	10. 研究論文の分析 3	3. 研究論文の読み方	11. 研究論文の分析 4	4. 論文の主題を見つける	12. 研究発表 1	5. 議論の組み立て方	13. 研究発表 2	6. 引用の倫理	14. 研究発表 3	7. 研究発表の仕方	15. 研究発表 4	8. 研究論文の分析 1	
1. はじめに	9. 研究論文の分析 2																				
2. 哲学論文を書くとはどのようなことか	10. 研究論文の分析 3																				
3. 研究論文の読み方	11. 研究論文の分析 4																				
4. 論文の主題を見つける	12. 研究発表 1																				
5. 議論の組み立て方	13. 研究発表 2																				
6. 引用の倫理	14. 研究発表 3																				
7. 研究発表の仕方	15. 研究発表 4																				
8. 研究論文の分析 1																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題に取り組む (60%)、論文執筆と研究発表 (40%)																				
◇ 教科書・参考書	佐々木健一『論文ゼミナール』2014年、東京大学出版会 戸田山和久『新版 論文教室——レポートから卒論まで』2012年、NHK 出版会 本多勝一『(新版) 日本語の作文技術』2015年、朝日出版																				
◇ 授業時間外学習	論文執筆を目的として授業時に課される課題と取り組む。																				
授業の具体的な進め方については初回授業時に説明する。この授業は基本的には哲学専修・倫理学専修3年次の学生向けであるが、哲学・倫理学を その他：専門とする博士前期課程大学院生も出席してもよい。ただ、この授業を受講することで、毎週月曜5限に実施している演習を代替することはできない。また、他の分野を専門とする大学院生で、この授業を受講することを希望する者は授業担当教員に相談すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
哲 学 研 究 演 習 II Philosophy (Advanced Seminar) II	2	教授 直 江 清 隆	2 学期	月	5																
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI635J																				
◆ 授業題目	哲学研究の作法と技法1 (Philosophy graduate seminar (Part 2))																				
◆ 目的・概要	口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を養う。 参加者は自由に自らの研究テーマを設定し、協議して決めた発表日までに、発表論文および発表資料 (レジュメ等) を作成する。 発表の場では、発表者によるプレゼンテーションに続いて、参加者の中から予め指定された特定質問者を中心に、全員で自由な討論を行い、また教員からのコメントを受ける (哲学専攻分野の教員は可能な限り全員が出席する)。 参加者は研究発表を行うことを通して、研究テーマの発見、論文作成および発表の方法、討論の仕方等について、基礎的なトレーニングを積む。 また、特定質問者の役割を果すことや、討論に積極的に参加することを通して、他者の主張を適切に把握し、批判・評価し、建設的な議論を行う力を養う。 哲学専攻分野の大学院学生は可能な限り全員が履修することが望ましい。 口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を身につける。																				
◆ 到達目標																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 報告と討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 報告と討論 (1)</td> <td>10. 報告と討論 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 報告と討論 (2)</td> <td>11. 報告と討論 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 報告と討論 (3)</td> <td>12. 報告と討論 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 報告と討論 (4)</td> <td>13. 報告と討論 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 報告と討論 (5)</td> <td>14. 報告と討論 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 報告と討論 (6)</td> <td>15. 報告と討論 (14)</td> </tr> <tr> <td>8. 報告と討論 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 報告と討論 (8)	2. 報告と討論 (1)	10. 報告と討論 (9)	3. 報告と討論 (2)	11. 報告と討論 (10)	4. 報告と討論 (3)	12. 報告と討論 (11)	5. 報告と討論 (4)	13. 報告と討論 (12)	6. 報告と討論 (5)	14. 報告と討論 (13)	7. 報告と討論 (6)	15. 報告と討論 (14)	8. 報告と討論 (7)	
1. オリエンテーション	9. 報告と討論 (8)																				
2. 報告と討論 (1)	10. 報告と討論 (9)																				
3. 報告と討論 (2)	11. 報告と討論 (10)																				
4. 報告と討論 (3)	12. 報告と討論 (11)																				
5. 報告と討論 (4)	13. 報告と討論 (12)																				
6. 報告と討論 (5)	14. 報告と討論 (13)																				
7. 報告と討論 (6)	15. 報告と討論 (14)																				
8. 報告と討論 (7)																					
◇ 成績評価の方法	方法：究発表をすること (単位認定のためには必須) その上で、出席 30% 発表内容 35% 討論への積極的参加 35%																				
◇ 教科書・参考書	特に指定しない。																				
◇ 授業時間外学習	報告者は前の週の金曜日までに原稿を用意する。 特定質問者および参加者はそれをもとに事前に質問事項を用意する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
哲 学 研 究 演 習 II Philosophy (Advanced Seminar) II	2	准教授 城 戸 淳	2 学期	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI635J				
◆ 授業題目	ホッブズ＝プラムホール論争と近代の自由意志論(3) (Hobbes and Bramhall on Liberty and Necessity) (3)				
◆ 目的・概要	ホッブズ＝プラムホール論争とは、17世紀中頃に、いわば中世から近代への時代の断絶面を露呈するように展開された、自由意志をめぐる名高い論争である。デリーにて主教を務め、中世スコラ哲学以来の伝統的な自由意志論を擁護するジョン・プラムホールと、唯物論的な決定論を背景にして、たんに妨げられない意志の実現にのみ自由を認めるトマス・ホッブズとの論争は、今日にいたるまで自由意志の問題を考えるための最良の題材である。さらには、この論争を起点にして、近代のさまざまな哲学者の自由意志論へと考察の幅を広げてゆくこともできよう。 演習では、この論争の英語原文をレジュメ形式で要約してもらいつつ読みすすめる（昨年度に続く箇所から読み始めるが、はじめて参加する受講者にも配慮する）。またそれと並行して、近代における自由意志の代表的な哲学説を報告してもらい、自由意志論の切り口から近代哲学史への知見を深めたい。				
◆ 到達目標	ホッブズ＝プラムホール論争の骨子を把握し、近代のさまざまな自由意志論を学ぶ。その成果をふまえて、みずから問題を思考し、表現する力を養う。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス——導入と問題設定（昨年度までの概要） 2. プラムホール『真の自由の擁護』(1) 3. プラムホール『真の自由の擁護』(2) 4. プラムホール『真の自由の擁護』(3) 5. プラムホール『真の自由の擁護』(4) 6. ホッブズ『自由、必然性、偶然についての諸問題』(1) 7. ホッブズ『自由、必然性、偶然についての諸問題』(2) 8. ホッブズ『自由、必然性、偶然についての諸問題』(3) 9. ホッブズ『自由、必然性、偶然についての諸問題』(4) 10. ホッブズ『自由、必然性、偶然についての諸問題』(5) 11. デカルト——自発性の自由と無差別の自由 12. ライプニッツ——可能世界論と人間的自由 13. ロックとヒューム——イギリス経験論の自由論 14. カント——第三アンチノミーと自律 15. 総括と考察 				
◇ 成績評価の方法	出席、担当と発表、討議（以上70%）と期末のレポート（30%）による。				
◇ 教科書・参考書	Vere Chappell (ed.), Hobbes and Bramhall on Liberty and Necessity, Cambridge: Cambridge University Press, 1999. (必要な部分はコピーで配布する。)				
◇ 授業時間外学習	発表のときに思い切って全力を投入することはもちろん、担当の回でなくとも予習を欠かさずに出席し、討議に参加するように努めることで、徐々に哲学的な体力が鍛えられるだろう。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
哲 学 研 究 演 習 II Philosophy (Advanced Seminar) II	2	准教授 原 壘	2 学期	金	3
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI635J				
◆ 授業題目	科学理論と証拠 (Scientific Evidence)				
◆ 目的・概要	観察や実験によって証拠がえられた時、その証拠によって科学理論や仮説が検証されたり、反証されたりすると言われる。しかし、たった一つの証拠によって、科学理論が真であることが確かめられたり、偽であることが示されたりするわけではない。とすれば、証拠と理論はどのような関係に立つのか。このことを検討するために、エリオット・ソーバー『科学と証拠?? 統計の哲学入門』松王政浩訳、名古屋大学出版会、2012年を読解する。				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 科学理論や仮説と証拠の関係について理解する。 2. 統計の哲学について理解する。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 1 3. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 2 4. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 3 5. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 4 6. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 5 7. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 6 8. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 7 9. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 8 10. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 9 11. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 10 12. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 11 13. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 12 14. エリオット・ソーバー『科学と証拠』読解 13 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	課題への取り組み（60%）、レポート（40%）				
◇ 教科書・参考書	エリオット・ソーバー『科学と証拠?? 統計の哲学入門』松王政浩訳、名古屋大学出版会、2012年				
◇ 授業時間外学習	授業前にテキストを読解しておくこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
哲 学 研 究 演 習 II Philosophy (Advanced Seminar) II	2	教授 直 江 清 隆	2 学期	金	5																
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI635J																				
◆ 授業題目	自己と他者の現象学 (Phenomenology of Self and Other)																				
◆ 目的・概要	自己や相互主観性は最近ふたたび注目を集めているテーマです。この演習では Dan Zahav, Self and Other: Exploring Subjectivity, Empathy, and Shame, 2015を読みすすめるでこの問題に対するアプローチの仕方をも身につけていくことになります。この本は、現象学の伝統にある著作ですが、分析哲学や認知科学にも目を配っていて、たんに学説の解釈だけにとどまらない議論を展開しています。参加者の興味に応じて若干の変更はありますが、Empath and social cognition ないし subjectivity or Selfhood の章を読みすすめる予定でいます。前期の「哲学研究演習 I」(佐藤駿助教、木 4) と関係が深いテーマですが、そちらを履修していなくても支障はありません。																				
◆ 到達目標	自己と他者に関する現象学や認知科学的アプローチの基本的な問題構成を理解し、自ら考察できる素養を養う。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 報告と議論 自己と他者の現象学 (7)</td> </tr> <tr> <td>2. 報告と議論 自己と他者の現象学 (1)</td> <td>10. 報告と議論 自己と他者の現象学 (8)</td> </tr> <tr> <td>3. 報告と議論 自己と他者の現象学 (2)</td> <td>11. 間章 現在の集合志向性論</td> </tr> <tr> <td>4. 報告と議論 自己と他者の現象学 (3)</td> <td>12. 報告と議論 自己と他者の現象学 (9)</td> </tr> <tr> <td>5. 報告と議論 自己と他者の現象学 (4)</td> <td>13. 報告と議論 自己と他者の現象学 (10)</td> </tr> <tr> <td>6. 間章 他者論の問題構成</td> <td>14. 報告と議論 自己と他者の現象学 (11)</td> </tr> <tr> <td>7. 報告と議論 自己と他者の現象学 (5)</td> <td>15. まとめ 自己と他者とは</td> </tr> <tr> <td>8. 報告と議論 自己と他者の現象学 (6)</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 報告と議論 自己と他者の現象学 (7)	2. 報告と議論 自己と他者の現象学 (1)	10. 報告と議論 自己と他者の現象学 (8)	3. 報告と議論 自己と他者の現象学 (2)	11. 間章 現在の集合志向性論	4. 報告と議論 自己と他者の現象学 (3)	12. 報告と議論 自己と他者の現象学 (9)	5. 報告と議論 自己と他者の現象学 (4)	13. 報告と議論 自己と他者の現象学 (10)	6. 間章 他者論の問題構成	14. 報告と議論 自己と他者の現象学 (11)	7. 報告と議論 自己と他者の現象学 (5)	15. まとめ 自己と他者とは	8. 報告と議論 自己と他者の現象学 (6)	
1. オリエンテーション	9. 報告と議論 自己と他者の現象学 (7)																				
2. 報告と議論 自己と他者の現象学 (1)	10. 報告と議論 自己と他者の現象学 (8)																				
3. 報告と議論 自己と他者の現象学 (2)	11. 間章 現在の集合志向性論																				
4. 報告と議論 自己と他者の現象学 (3)	12. 報告と議論 自己と他者の現象学 (9)																				
5. 報告と議論 自己と他者の現象学 (4)	13. 報告と議論 自己と他者の現象学 (10)																				
6. 間章 他者論の問題構成	14. 報告と議論 自己と他者の現象学 (11)																				
7. 報告と議論 自己と他者の現象学 (5)	15. まとめ 自己と他者とは																				
8. 報告と議論 自己と他者の現象学 (6)																					
◇ 成績評価の方法	レポート (訳読の担当など) 70% 授業全体への貢献度 30%																				
◇ 教科書・参考書	教科書: Zahav, Self and Other: Exploring Subjectivity, Empathy, and Shame, 2015 (開講時に配布する) 参考書: ギャラガー、ザハヴィ『現象学的な心』石原孝二 他訳、勁草書房、2011。 そのほかの参考文献については適宜授業内で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	担当の回でなくとも予習すること、出席して討議に参加するように努めること。現象学や認知科学の紹介文献はたくさんあるので、進んで取り組んで欲しい。																				
その他:																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
古 代 中 世 哲 学 研 究 演 習 I Ancient and Medieval Philosophy (Advanced Seminar) I	2	准教授 荻 原 理	1 学期	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI636J																				
◆ 授業題目	アリストテレス『分析論後書』を読む (Seminar on Aristotle's POSTERIOR ANALYTICS)																				
◆ 目的・概要	アリストテレス『分析論後書』第2巻を原語 (古代ギリシャ語) で読んでいく。W. D. Ross の校訂・注を中心的に用いる。 あらかじめ当てておいた担当の方に、担当箇所を日本語に訳してもらい (わからなかった点はいくらでも質問してくれれば結構)。テキストの語学上の諸点や、内容を正確に理解するために、教員も含め、皆で議論する (そのさい、解釈上の問題も話題に上るであろう)。翻訳や注釈書も参照する。また、David Charles, MEANING AND ESSENCE (Clarendon Press, 2000) の検討にも時間を割く。																				
◆ 到達目標	アリストテレス『分析論後書』第2巻の内容を正確に理解し、解釈上の主な問題にどのようなものがあるかを知る。Charles の解釈の大筋を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. (以下の予定は変更がありうる。) オリエンテーション</td> <td>9. 『分析論後書』第2巻 第8章</td> </tr> <tr> <td>2. 『分析論後書』第2巻 第1章</td> <td>10. 『分析論後書』第2巻 第9章</td> </tr> <tr> <td>3. 『分析論後書』第2巻 第2章</td> <td>11. 『分析論後書』第2巻 第10章</td> </tr> <tr> <td>4. 『分析論後書』第2巻 第3章</td> <td>12. 『分析論後書』第2巻 第11章</td> </tr> <tr> <td>5. 『分析論後書』第2巻 第4章</td> <td>13. 『分析論後書』第2巻 第12章</td> </tr> <tr> <td>6. 『分析論後書』第2巻 第5章</td> <td>14. 『分析論後書』第2巻 第13章</td> </tr> <tr> <td>7. 『分析論後書』第2巻 第6章</td> <td>15. 『分析論後書』第2巻 第14章</td> </tr> <tr> <td>8. 『分析論後書』第2巻 第7章</td> <td></td> </tr> </table>					1. (以下の予定は変更がありうる。) オリエンテーション	9. 『分析論後書』第2巻 第8章	2. 『分析論後書』第2巻 第1章	10. 『分析論後書』第2巻 第9章	3. 『分析論後書』第2巻 第2章	11. 『分析論後書』第2巻 第10章	4. 『分析論後書』第2巻 第3章	12. 『分析論後書』第2巻 第11章	5. 『分析論後書』第2巻 第4章	13. 『分析論後書』第2巻 第12章	6. 『分析論後書』第2巻 第5章	14. 『分析論後書』第2巻 第13章	7. 『分析論後書』第2巻 第6章	15. 『分析論後書』第2巻 第14章	8. 『分析論後書』第2巻 第7章	
1. (以下の予定は変更がありうる。) オリエンテーション	9. 『分析論後書』第2巻 第8章																				
2. 『分析論後書』第2巻 第1章	10. 『分析論後書』第2巻 第9章																				
3. 『分析論後書』第2巻 第2章	11. 『分析論後書』第2巻 第10章																				
4. 『分析論後書』第2巻 第3章	12. 『分析論後書』第2巻 第11章																				
5. 『分析論後書』第2巻 第4章	13. 『分析論後書』第2巻 第12章																				
6. 『分析論後書』第2巻 第5章	14. 『分析論後書』第2巻 第13章																				
7. 『分析論後書』第2巻 第6章	15. 『分析論後書』第2巻 第14章																				
8. 『分析論後書』第2巻 第7章																					
◇ 成績評価の方法	担当時のパフォーマンス: 80% 担当以外、授業時のパフォーマンス: 20%																				
◇ 教科書・参考書	使用テキストはプリントを配布する。参考文献等は授業時に随時知らせる。																				
◇ 授業時間外学習	次回に読む箇所の下調べ。																				
その他: 古代ギリシャ語の初等文法を学んでいることが参加の条件です。ただし、文法事項の覚え残しが多々あっても構いません。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
近 現 代 哲 学 研 究 演 習 I Modern and Contemporary Philosophy (Advanced Seminar) I	2	准教授 城 戸 淳	1 学期	水	5
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHS-PHI640J カントの超越論的演繹論(A) (Kant's Transcendental Deduction (A)) カント『純粋理性批判』(1781/87年)における超越論的演繹論は、いかにしてカテゴリー(純粋悟性概念)が対象へと関わるかを説明することを試みるもので、アприオリな総合判断の客観的实在性を論証するという批判哲学のプロジェクトの肝になる箇所である。とはいえこの箇所は、難解な諸論証が脈略なく結晶化したかのようなテキストであり、古くからカント解釈の論争の中心地の一つであった。しかもそれが第二版でほぼ全面的に書き改められたので、二つの版での異同も検討の必要がある。演習では、前期は第一版の、後期は第二版の超越論的演繹論をドイツ語原文で読みすすめる(範囲は進捗状況に応じて変わる場合がある)。また、英語・ドイツ語・日本語等の各種コメンタリーや研究書・研究論文などを、輪番でレジュメにして紹介してもらう。				
◆ 到達目標	哲学テキストを読む忍耐力と咀嚼力を身につける。カントの超越論的演繹論の骨子を理解したうえで、みずから思考し、表現する力を養う。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入と問題設定 2. 第一節 (§13) 超越論的演繹一般の原理について (1) 3. (§13) 超越論的演繹一般の原理について (2) 4. (§14) カテゴリーの超越論的演繹への移行 5. 第二節 経験の可能性のためのアприオリな諸根拠について 6. 予備的注意 7. 1 直観における把握の総合について 8. 2 想像における再生の総合について 9. 3 概念における再認の総合について (1) 10. 3 概念における再認の総合について (2) 11. 4 アприオリな認識としてのカテゴリーの可能性についての予備的説明 12. 第三節 対象一般への悟性の関係について、対象一般をアприオリに説明する可能性について (1) 13. 対象一般への悟性の関係について、対象一般をアприオリに説明する可能性について (2) 14. 純粋悟性概念のこの演繹が正当で、唯一可能であることの要約提示 15. 第一版超越論的演繹論の総括と考察 				
◇ 成績評価の方法	出席、邦訳や担当発表の達成度、討議の貢献度などを総合的に判定する。				
◇ 教科書・参考書	Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.				
◇ 授業時間外学習	予習を欠かさず、各種の訳書、コメンタリーや研究書などに目を通して演習に臨むこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
近 現 代 哲 学 研 究 演 習 II Modern and Contemporary Philosophy (Advanced Seminar) II	2	准教授 城 戸 淳	2 学期	水	5
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHS-PHI641J カントの超越論的演繹論(B) (Kant's Transcendental Deduction (B)) カント『純粋理性批判』(1781/87年)における超越論的演繹論は、いかにしてカテゴリー(純粋悟性概念)が対象へと関わるかを説明することを試みるもので、アприオリな総合判断の客観的实在性を論証するという批判哲学のプロジェクトの肝になる箇所である。とはいえこの箇所は、難解な諸論証が脈略なく結晶化したかのようなテキストであり、古くからカント解釈の論争の中心地の一つであった。しかもそれが第二版でほぼ全面的に書き改められたので、二つの版での異同も検討の必要がある。演習では、前期は第一版の、後期は第二版の超越論的演繹論をドイツ語原文で読みすすめる(範囲は進捗状況に応じて変わる場合がある)。また、英語・ドイツ語・日本語等の各種コメンタリーや研究書・研究論文などを、輪番でレジュメにして紹介してもらう。				
◆ 到達目標	哲学テキストを読む忍耐力と咀嚼力を身につける。カントの超越論的演繹論の骨子を理解したうえで、みずから思考し、表現する力を養う。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第二節 §15 総合一般の可能性について 2. §16 統覚の根源的=総合的統一について 3. §17 統覚の総合的統一の原則があらゆる悟性概念の最上の原理である 4. §18 自己意識の客観的統一とは何か 5. §19 あらゆる判断の論理的形式は、判断に含まれる諸概念が統覚によって客観的に統一されることに存する 6. §20 すべての感性的直観はカテゴリーの下に立ち、カテゴリーとはその下でのみ感性的直観の多様が意識において総括されうる条件である 7. §21 註記 8. §22 カテゴリーには、経験の対象へと適用される以外には、物の認識のために使用されない 9. §23 10. §24 感官の対象一般へのカテゴリーの適用について 11. §25 12. §26 純粋悟性概念の一般に可能な経験使用についての超越論的演繹 13. §27 悟性概念のこの演繹の成果 14. この演繹の短い総括 15. 第二版超越論的演繹論の総括と考察 				
◇ 成績評価の方法	出席、邦訳や担当発表の達成度、討議の貢献度などを総合的に判定する。				
◇ 教科書・参考書	Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.				
◇ 授業時間外学習	予習を欠かさず、各種の訳書、コメンタリーや研究書などに目を通して演習に臨むこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																
科 学 哲 学 研 究 演 習 I Philosophy of Science (Advanced Seminar) I	2	准教授	原 壘	1 学期	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI644J																					
◆ 授業題目	社会認識論 1 (Social Epistemology 1)																					
◆ 目的・概要	従来の認識論は社会から切り離された個人の信念を分析対象としていたが、知識とは何かについて十分な理解をうるためには、社会関係や組織についても考察することが不可欠である。社会における知識生産のあり方に焦点をあて、分析する認識論の新規分野が社会認識論である。 この演習では、社会認識論の古典である、A. I. Goldman, 2003. Knowledge in a Social World. Oxford University Pressを精読する。前期は、第1章 (1. Epistemology and Postmodern Resistance) を扱う。																					
◆ 到達目標	1. 社会認識論について理解する。 2. 英文の哲学文献を読み、理解し、内容を議論するスキルを身につける。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. はじめに</td> <td>9. Knowledge in a Social World 読解 8</td> </tr> <tr> <td>2. Knowledge in a Social World 読解 1</td> <td>10. Knowledge in a Social World 読解 9</td> </tr> <tr> <td>3. Knowledge in a Social World 読解 2</td> <td>11. Knowledge in a Social World 読解 10</td> </tr> <tr> <td>4. Knowledge in a Social World 読解 3</td> <td>12. Knowledge in a Social World 読解 11</td> </tr> <tr> <td>5. Knowledge in a Social World 読解 4</td> <td>13. Knowledge in a Social World 読解 12</td> </tr> <tr> <td>6. Knowledge in a Social World 読解 5</td> <td>14. Knowledge in a Social World 読解 13</td> </tr> <tr> <td>7. Knowledge in a Social World 読解 6</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. Knowledge in a Social World 読解 7</td> <td></td> </tr> </table>						1. はじめに	9. Knowledge in a Social World 読解 8	2. Knowledge in a Social World 読解 1	10. Knowledge in a Social World 読解 9	3. Knowledge in a Social World 読解 2	11. Knowledge in a Social World 読解 10	4. Knowledge in a Social World 読解 3	12. Knowledge in a Social World 読解 11	5. Knowledge in a Social World 読解 4	13. Knowledge in a Social World 読解 12	6. Knowledge in a Social World 読解 5	14. Knowledge in a Social World 読解 13	7. Knowledge in a Social World 読解 6	15. まとめ	8. Knowledge in a Social World 読解 7	
1. はじめに	9. Knowledge in a Social World 読解 8																					
2. Knowledge in a Social World 読解 1	10. Knowledge in a Social World 読解 9																					
3. Knowledge in a Social World 読解 2	11. Knowledge in a Social World 読解 10																					
4. Knowledge in a Social World 読解 3	12. Knowledge in a Social World 読解 11																					
5. Knowledge in a Social World 読解 4	13. Knowledge in a Social World 読解 12																					
6. Knowledge in a Social World 読解 5	14. Knowledge in a Social World 読解 13																					
7. Knowledge in a Social World 読解 6	15. まとめ																					
8. Knowledge in a Social World 読解 7																						
◇ 成績評価の方法	課題との取り組み (60%)、レポート (40%)																					
◇ 教科書・参考書	A. I. Goldman, 2003. Knowledge in a Social World. Oxford University Press																					
◇ 授業時間外学習	授業前にテキストを自宅で読解しておくこと。																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																
科 学 哲 学 研 究 演 習 II Philosophy of Science (Advanced Seminar) II	2	准教授	原 壘	2 学期	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI645J																					
◆ 授業題目	社会認識論 2 (Social Epistemology 2)																					
◆ 目的・概要	従来の認識論は社会から切り離された個人の信念を分析対象としていたが、知識とは何かについて十分な理解をうるためには、社会関係や組織についても考察することが不可欠である。社会における知識生産のあり方に焦点をあて、分析する認識論の新規分野が社会認識論である。 この演習では、社会認識論の古典である、A. I. Goldman, 2003. Knowledge in a Social World. Oxford University Pressを精読する。後期は、第2章 (2. Truth) を扱う。																					
◆ 到達目標	1. 社会認識論について理解する。 2. 英文の哲学文献を読み、理解し、内容を議論するスキルを身につける。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. はじめに</td> <td>9. Knowledge in a Social World 読解 8</td> </tr> <tr> <td>2. Knowledge in a Social World 読解 1</td> <td>10. Knowledge in a Social World 読解 9</td> </tr> <tr> <td>3. Knowledge in a Social World 読解 2</td> <td>11. Knowledge in a Social World 読解 10</td> </tr> <tr> <td>4. Knowledge in a Social World 読解 3</td> <td>12. Knowledge in a Social World 読解 11</td> </tr> <tr> <td>5. Knowledge in a Social World 読解 4</td> <td>13. Knowledge in a Social World 読解 12</td> </tr> <tr> <td>6. Knowledge in a Social World 読解 5</td> <td>14. Knowledge in a Social World 読解 13</td> </tr> <tr> <td>7. Knowledge in a Social World 読解 6</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. Knowledge in a Social World 読解 7</td> <td></td> </tr> </table>						1. はじめに	9. Knowledge in a Social World 読解 8	2. Knowledge in a Social World 読解 1	10. Knowledge in a Social World 読解 9	3. Knowledge in a Social World 読解 2	11. Knowledge in a Social World 読解 10	4. Knowledge in a Social World 読解 3	12. Knowledge in a Social World 読解 11	5. Knowledge in a Social World 読解 4	13. Knowledge in a Social World 読解 12	6. Knowledge in a Social World 読解 5	14. Knowledge in a Social World 読解 13	7. Knowledge in a Social World 読解 6	15. まとめ	8. Knowledge in a Social World 読解 7	
1. はじめに	9. Knowledge in a Social World 読解 8																					
2. Knowledge in a Social World 読解 1	10. Knowledge in a Social World 読解 9																					
3. Knowledge in a Social World 読解 2	11. Knowledge in a Social World 読解 10																					
4. Knowledge in a Social World 読解 3	12. Knowledge in a Social World 読解 11																					
5. Knowledge in a Social World 読解 4	13. Knowledge in a Social World 読解 12																					
6. Knowledge in a Social World 読解 5	14. Knowledge in a Social World 読解 13																					
7. Knowledge in a Social World 読解 6	15. まとめ																					
8. Knowledge in a Social World 読解 7																						
◇ 成績評価の方法	課題との取り組み (60%)、レポート (40%)																					
◇ 教科書・参考書	A. I. Goldman, 2003. Knowledge in a Social World. Oxford University Press																					
◇ 授業時間外学習	授業前にテキストを自宅で読解しておくこと。																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
生 命 環 境 倫 理 学 研 究 演 習 Social and Applied Ethics (Advanced Seminar)	2	教授 直 江 清 隆	2 学 期	火	3
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHS-PHI646J エンハンスメントの倫理学 (Ethics of Enhancement) 現在、人間のいくつかの心的、身体的能力を通常の限界を超えて増強することができるようになった。これはエンハンスメントと呼ばれるが、特定の薬物療法や医学的処置がそこで用いられる。近い将来には、より多くの能力をより多様な仕方で増強できるようになることが見込まれている。エンハンスメント技術がより広範に用いられることを歓迎する議論もあれば、警戒を持ち、あるいは道徳的に異議を唱えるべしと考える議論もある。エンハンスメントの倫理学では、こうした反応が明確な哲学的論拠によって支持しうるかどうかの検討がなされる。この授業では、Steve Clarke et al (ed.), The Ethics of Human Enhancement: Understanding the Debate, 2016 に取められたいくつかの論文を取り上げ、この問題について考えていくことにする。障害者にとこの技術が堂であるかが論点になるので、場合によっては Erik Parens, Adrienne Asch (ed.), Prenatal testing and disability rights, 2000 から短い論文を紹介したり、関連する日本語文献の紹介を交えることも検討する。生命倫理学の基本的な事項と問題を理解し、批判的に検討できるようになることを目標とする。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス (授業の進め方、予習上の注意、テキストの配布、要約担当の割り当て) 2. 担当者による報告と内容についての議論 (1) 3. 担当者による報告と内容についての議論 (2) 4. 担当者による報告と内容についての議論 (3) 5. 担当者による報告と内容についての議論 (4) 6. 担当者による報告と内容についての議論 (5) 7. 担当者による報告と内容についての議論 (6) 8. 担当者による報告と内容についての議論 (7) 9. 担当者による報告と内容についての議論 (8) 10. 担当者による報告と内容についての議論 (9) 11. 担当者による報告と内容についての議論 (10) 12. 担当者による報告と内容についての議論 (11) 13. 担当者による報告と内容についての議論 (12) 14. 担当者による報告と内容についての議論 (13) 15. まとめ エンハンスメントをどう捉えればよいのか				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書	レポート (訳読の担当など) 60% 授業全体への貢献度 40% 教科書: Steve Clarke et al (ed.), The Ethics of Human Enhancement: Understanding the Debate, 2016 (開講時にプリントを配布) 参考書: 赤林朗編『入門・医療倫理 (1)』、マイケル・J・サンデル『完全な人間を目指さなくてもよい理由 - 遺伝子操作とエンハンスメントの倫理』、生命環境倫理ドイツ情報センター『エンハンスメントーバイオテクノロジーによる人間改造と倫理』そのほかの参考文献については適宜授業内で指示する。				
◇ 授業時間外学習	担当の回でなくとも予習すること、出席して討議に参加するように努めること。生命倫理についての基本的な考え方が問われることも多いので、基本書にも進んで取り組んで欲しい。				
その他:					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
倫 理 学 特 論 II Ethics (Advanced Lecture) II	2	教授 戸 島 貴代志	2 学期	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI648]																				
◆ 授業題目	生の情念と死の思惟 (Pathos of Life and Speculation of Death)																				
◆ 目的・概要	自らの「自然」に抗い己を虐げることを何よりの「徳」とし、果ては究極の「不動心」impassibilitéの獲得に至ることをこの「徳」の極致と見るストア思想は、これに倣おうとする者にも自ずと「厳しく」「痛ましく」「悲壮な」顔つきを要求する。こうしたストア思想を思惟の鑑とするだけでなく、永きに亘ってこれを自らの生活信条とし自ら実践さえてきたモンテーニュ自身が、しかしながら晩年に至って「徳は楽しい陽気なもの」だと語ることになる。この「陽気さ」を誰よりも体現している「顔つき」、それを彼はソクラテスのそれに見ていた。「静かで楽々と」、「軽やかで楽しそう」、これが最期に毒盃を仰いだ賢者の「顔つき」であったと、モンテーニュはみずからの生涯を振り返って述懐している。人間を論ずるとき『エッセー』が常にそこへと立ち戻りそこから出発する問題、それが死の問題である。同書が「死を忘れるな」memento mori の書であるといわれる所以である。それにもかかわらずその書の到達点は、「死を忘れるな」ではなく、むしろ「死を忘れよ」であったといえる。本講義では、こうした一連の過程を「生の哲学」の視点から問い直すことを試みる。																				
◆ 到達目標	「死を忘れるな」でもなく「死を忘れよ」でもない、死に面しての思惟の第三のあり方と、そのあり方を支える生の情念とを、モンテーニュ、ソクラテス、ベルクソンの思想に沿って理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. モンテーニュの「死の思惟」(1)</td> <td>9. ベルクソンとソクラテス「生の情念」(1)</td> </tr> <tr> <td>2. モンテーニュの「死の思惟」(2)</td> <td>10. ベルクソンとソクラテス「生の情念」(2)</td> </tr> <tr> <td>3. モンテーニュの「死の思惟」(3)</td> <td>11. ベルクソンとソクラテス「生の情念」(3)</td> </tr> <tr> <td>4. モンテーニュの「死の思惟」(4)</td> <td>12. 二つの情緒「知性以下」と「知性以上」</td> </tr> <tr> <td>5. ストアとソクラテス「死の準備」(1)</td> <td>13. 抑圧と憧憬</td> </tr> <tr> <td>6. ストアとソクラテス「死の準備」(2)</td> <td>14. まとめ(1)</td> </tr> <tr> <td>7. ストアとソクラテス「死の準備」(3)</td> <td>15. まとめ(2)</td> </tr> <tr> <td>8. ストアとソクラテス「死の準備」(4)</td> <td></td> </tr> </table>					1. モンテーニュの「死の思惟」(1)	9. ベルクソンとソクラテス「生の情念」(1)	2. モンテーニュの「死の思惟」(2)	10. ベルクソンとソクラテス「生の情念」(2)	3. モンテーニュの「死の思惟」(3)	11. ベルクソンとソクラテス「生の情念」(3)	4. モンテーニュの「死の思惟」(4)	12. 二つの情緒「知性以下」と「知性以上」	5. ストアとソクラテス「死の準備」(1)	13. 抑圧と憧憬	6. ストアとソクラテス「死の準備」(2)	14. まとめ(1)	7. ストアとソクラテス「死の準備」(3)	15. まとめ(2)	8. ストアとソクラテス「死の準備」(4)	
1. モンテーニュの「死の思惟」(1)	9. ベルクソンとソクラテス「生の情念」(1)																				
2. モンテーニュの「死の思惟」(2)	10. ベルクソンとソクラテス「生の情念」(2)																				
3. モンテーニュの「死の思惟」(3)	11. ベルクソンとソクラテス「生の情念」(3)																				
4. モンテーニュの「死の思惟」(4)	12. 二つの情緒「知性以下」と「知性以上」																				
5. ストアとソクラテス「死の準備」(1)	13. 抑圧と憧憬																				
6. ストアとソクラテス「死の準備」(2)	14. まとめ(1)																				
7. ストアとソクラテス「死の準備」(3)	15. まとめ(2)																				
8. ストアとソクラテス「死の準備」(4)																					
◇ 成績評価の方法	レポート5割、出席5割																				
◇ 教科書・参考書	授業時に指示します。																				
◇ 授業時間外学習	復習に重点を置いて下さい。																				
その他：オフィスアワーは昼休み																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
倫 理 学 特 論 III Ethics (Advanced Lecture) III	2	非常勤講師 秋 富 克 哉	集 中 (1 学期)																		
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI649]																				
◆ 授業題目	西谷啓治の哲学 (Philosophy of Keiji NISHITANI)																				
◆ 目的・概要	西谷啓治は、西田幾多郎の最も正統的な後継者として、国内外で少しずつ研究の幅が広がっているが、いまだ十分に注目されているとは言えない。本講義では、西谷の代表的な著作を順次取り上げ、西洋の諸思想との対話・対決を確認しながら、西谷が自らの思想的立場を形成していった過程を明らかにしたい。構想力、ニヒリズム、空などの主要テーマをめぐって、西谷の立場の独自性を理解することを目的とする。毎時間、最初にまとまった内容について講義し、講義の最後に質問および議論の時間を設けたい。																				
◆ 到達目標	日本を代表する宗教哲学者・西谷啓治 (1900-1990) について、(1)その基本的立場と思想的展開を跡づけるとともに、(2)とりわけ「空」の立場の独自性を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入 「哲学以前、哲学以後」</td> <td>9. ニヒリズムについて(2) ニイチェ解釈</td> </tr> <tr> <td>2. 根源的主体性について(1) 生の根源性</td> <td>10. ニヒリズムについて(3) ハイデッガー解釈</td> </tr> <tr> <td>3. 根源的主体性について(2) 「中」</td> <td>11. ニヒリズムについて(4) 日本におけるニヒリズム</td> </tr> <tr> <td>4. 根源的主体性について(3) 宗教哲学と神秘主義</td> <td>12. 空について(1) 宗教とは何か</td> </tr> <tr> <td>5. 形/像/構想力について(1) 「形」の問題系</td> <td>13. 空について(2) 虚無と空</td> </tr> <tr> <td>6. 形/像/構想力について(2) アリストテレス解釈</td> <td>14. 空について(3) 空の立場</td> </tr> <tr> <td>7. 形/像/構想力について(3) エックハルト解釈</td> <td>15. まとめ 総括と展望</td> </tr> <tr> <td>8. ニヒリズムについて(1) 歴史としてのニヒリズム</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入 「哲学以前、哲学以後」	9. ニヒリズムについて(2) ニイチェ解釈	2. 根源的主体性について(1) 生の根源性	10. ニヒリズムについて(3) ハイデッガー解釈	3. 根源的主体性について(2) 「中」	11. ニヒリズムについて(4) 日本におけるニヒリズム	4. 根源的主体性について(3) 宗教哲学と神秘主義	12. 空について(1) 宗教とは何か	5. 形/像/構想力について(1) 「形」の問題系	13. 空について(2) 虚無と空	6. 形/像/構想力について(2) アリストテレス解釈	14. 空について(3) 空の立場	7. 形/像/構想力について(3) エックハルト解釈	15. まとめ 総括と展望	8. ニヒリズムについて(1) 歴史としてのニヒリズム	
1. 導入 「哲学以前、哲学以後」	9. ニヒリズムについて(2) ニイチェ解釈																				
2. 根源的主体性について(1) 生の根源性	10. ニヒリズムについて(3) ハイデッガー解釈																				
3. 根源的主体性について(2) 「中」	11. ニヒリズムについて(4) 日本におけるニヒリズム																				
4. 根源的主体性について(3) 宗教哲学と神秘主義	12. 空について(1) 宗教とは何か																				
5. 形/像/構想力について(1) 「形」の問題系	13. 空について(2) 虚無と空																				
6. 形/像/構想力について(2) アリストテレス解釈	14. 空について(3) 空の立場																				
7. 形/像/構想力について(3) エックハルト解釈	15. まとめ 総括と展望																				
8. ニヒリズムについて(1) 歴史としてのニヒリズム																					
◇ 成績評価の方法	レポート [70%]・出席 [30%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書は特に用いない。主要資料は、『西谷啓治著作集』全26巻(創文社、1986-1995)をもとに、講義時に配布する。参考書については、適宜紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	授業の予習と復習をすること。																				
その他：各自実際に著作集に当たること、および自らの専門思想家や研究テーマと付き合いながら積極的に取り組むことを求めたい。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
倫 理 学 研 究 演 習 I Ethics (Advanced Seminar) I	2	教授 戸 島 貴代志	1 学期	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI650J				
◆ 授業題目	発表と討論 (Presentation and Discussion)				
◆ 目的・概要	参加者は、自分の研究テーマに基づいた発表を行い (レジメ配布)、それについてあらかじめ決めておいたコメンテーターによる質問や、他の参加者からの質問に答える。				
◆ 到達目標	発表と討論を通して、相手に自分の考えを理解してもらう力と、相手の考えを理解する力とを、同時に養う。				
◆ 授業内容・方法					
1. 発表と討論	1	9. 発表と討論	9		
2. 発表と討論	2	10. 発表と討論	10		
3. 発表と討論	3	11. 発表と討論	11		
4. 発表と討論	4	12. 発表と討論	12		
5. 発表と討論	5	13. 発表と討論	13		
6. 発表と討論	6	14. 発表と討論	14		
7. 発表と討論	7	15. 発表と討論	15		
8. 発表と討論	8				
◇ 成績評価の方法	発表7割、出席3割。				
◇ 教科書・参考書	授業時に指示する。				
◇ 授業時間外学習	発表者の予稿を精読し、質問に備える。				
その他：オフィスアワーは昼休み。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
倫 理 学 研 究 演 習 II Ethics (Advanced Seminar) II	2	教授 戸 島 貴代志	2 学期	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI651J				
◆ 授業題目	発表と討論 (Presentation and Discussion)				
◆ 目的・概要	参加者は、自分の研究テーマに基づいた発表を行い (レジメ配布)、それについてあらかじめ決めておいたコメンテーターによる質問や、他の参加者からの質問に答える。				
◆ 到達目標	発表と討論を通して、相手に自分の考えを理解してもらう力と、相手の考えを理解する力とを、同時に養う。				
◆ 授業内容・方法					
1. 発表と討論	1	9. 発表と討論	9		
2. 発表と討論	2	10. 発表と討論	10		
3. 発表と討論	3	11. 発表と討論	11		
4. 発表と討論	4	12. 発表と討論	12		
5. 発表と討論	5	13. 発表と討論	13		
6. 発表と討論	6	14. 発表と討論	14		
7. 発表と討論	7	15. 発表と討論	15		
8. 発表と討論	8				
◇ 成績評価の方法	発表7割、出席3割。				
◇ 教科書・参考書	授業時に指示する。				
◇ 授業時間外学習	発表者の予稿を精読し、質問に備える。				
その他：オフィスアワーは昼休み。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
倫 理 学 研 究 演 習 Ⅲ Ethics (Advanced Seminar) Ⅲ	2	教授 戸 島 貴代志	1 学期	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI652J																				
◆ 授業題目	現象学と存在論 (Phenomenology and Ontology)																				
◆ 目的・概要	1) ハイデガールの『存在と時間』を精読する。本年度は、テキストでは「世界内存在」「被投」「企投」「言葉」「死」「不安」といった概念が中心となる。前年度に引き続き、そのつどハイデガールの「存在の問い」の核心に立ち戻りつつ、前期・中期・後期を貫く「存在」概念の柔軟な理解を目指す。 2) 現象学と存在論のかかわりをハイデガールの存在概念とその探求方法とを通して解明する。																				
◆ 到達目標	ハイデガールの「存在の問い」における人間・存在・世界のかかわりを理解することを通して、「現象学」と「存在論」の関係を把握する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 総合演習：「現象学」と「存在論」1</td> <td>9. 総合演習：「現象学」と「存在論」9</td> </tr> <tr> <td>2. 総合演習：「現象学」と「存在論」2</td> <td>10. 総合演習：「現象学」と「存在論」10</td> </tr> <tr> <td>3. 総合演習：「現象学」と「存在論」3</td> <td>11. 総合演習：「現象学」と「存在論」11</td> </tr> <tr> <td>4. 総合演習：「現象学」と「存在論」4</td> <td>12. 総合演習：「現象学」と「存在論」12</td> </tr> <tr> <td>5. 総合演習：「現象学」と「存在論」5</td> <td>13. 総合演習：「現象学」と「存在論」13</td> </tr> <tr> <td>6. 総合演習：「現象学」と「存在論」6</td> <td>14. 総合演習：「現象学」と「存在論」14</td> </tr> <tr> <td>7. 総合演習：「現象学」と「存在論」7</td> <td>15. 総合演習：「現象学」と「存在論」15</td> </tr> <tr> <td>8. 総合演習：「現象学」と「存在論」8</td> <td></td> </tr> </table>					1. 総合演習：「現象学」と「存在論」1	9. 総合演習：「現象学」と「存在論」9	2. 総合演習：「現象学」と「存在論」2	10. 総合演習：「現象学」と「存在論」10	3. 総合演習：「現象学」と「存在論」3	11. 総合演習：「現象学」と「存在論」11	4. 総合演習：「現象学」と「存在論」4	12. 総合演習：「現象学」と「存在論」12	5. 総合演習：「現象学」と「存在論」5	13. 総合演習：「現象学」と「存在論」13	6. 総合演習：「現象学」と「存在論」6	14. 総合演習：「現象学」と「存在論」14	7. 総合演習：「現象学」と「存在論」7	15. 総合演習：「現象学」と「存在論」15	8. 総合演習：「現象学」と「存在論」8	
1. 総合演習：「現象学」と「存在論」1	9. 総合演習：「現象学」と「存在論」9																				
2. 総合演習：「現象学」と「存在論」2	10. 総合演習：「現象学」と「存在論」10																				
3. 総合演習：「現象学」と「存在論」3	11. 総合演習：「現象学」と「存在論」11																				
4. 総合演習：「現象学」と「存在論」4	12. 総合演習：「現象学」と「存在論」12																				
5. 総合演習：「現象学」と「存在論」5	13. 総合演習：「現象学」と「存在論」13																				
6. 総合演習：「現象学」と「存在論」6	14. 総合演習：「現象学」と「存在論」14																				
7. 総合演習：「現象学」と「存在論」7	15. 総合演習：「現象学」と「存在論」15																				
8. 総合演習：「現象学」と「存在論」8																					
◇ 成績評価の方法	発表7割、出席3割。																				
◇ 教科書・参考書	授業時に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	テキストを読み、授業に備える。																				
その他：オフィスアワーは昼休み。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
倫 理 学 研 究 演 習 Ⅳ Ethics (Advanced Seminar) Ⅳ	2	教授 戸 島 貴代志	2 学期	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI653J																				
◆ 授業題目	現象学と存在論 (Phenomenology and Ontology)																				
◆ 目的・概要	1) ハイデガールの『存在と時間』を精読する。本年度は、テキストでは「世界内存在」「被投」「企投」「言葉」「死」「不安」といった概念が中心となる。前年度に引き続き、そのつどハイデガールの「存在の問い」の核心に立ち戻りつつ、前期・中期・後期を貫く「存在」概念の柔軟な理解を目指す。 2) 現象学と存在論のかかわりをハイデガールの存在概念とその探求方法とを通して解明する。																				
◆ 到達目標	ハイデガールの「存在の問い」における人間・存在・世界のかかわりを理解することを通して、「現象学」と「存在論」の関係を把握する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 総合演習：「現象学」と「存在論」1</td> <td>9. 総合演習：「現象学」と「存在論」9</td> </tr> <tr> <td>2. 総合演習：「現象学」と「存在論」2</td> <td>10. 総合演習：「現象学」と「存在論」10</td> </tr> <tr> <td>3. 総合演習：「現象学」と「存在論」3</td> <td>11. 総合演習：「現象学」と「存在論」11</td> </tr> <tr> <td>4. 総合演習：「現象学」と「存在論」4</td> <td>12. 総合演習：「現象学」と「存在論」12</td> </tr> <tr> <td>5. 総合演習：「現象学」と「存在論」5</td> <td>13. 総合演習：「現象学」と「存在論」13</td> </tr> <tr> <td>6. 総合演習：「現象学」と「存在論」6</td> <td>14. 総合演習：「現象学」と「存在論」14</td> </tr> <tr> <td>7. 総合演習：「現象学」と「存在論」7</td> <td>15. 総合演習：「現象学」と「存在論」15</td> </tr> <tr> <td>8. 総合演習：「現象学」と「存在論」8</td> <td></td> </tr> </table>					1. 総合演習：「現象学」と「存在論」1	9. 総合演習：「現象学」と「存在論」9	2. 総合演習：「現象学」と「存在論」2	10. 総合演習：「現象学」と「存在論」10	3. 総合演習：「現象学」と「存在論」3	11. 総合演習：「現象学」と「存在論」11	4. 総合演習：「現象学」と「存在論」4	12. 総合演習：「現象学」と「存在論」12	5. 総合演習：「現象学」と「存在論」5	13. 総合演習：「現象学」と「存在論」13	6. 総合演習：「現象学」と「存在論」6	14. 総合演習：「現象学」と「存在論」14	7. 総合演習：「現象学」と「存在論」7	15. 総合演習：「現象学」と「存在論」15	8. 総合演習：「現象学」と「存在論」8	
1. 総合演習：「現象学」と「存在論」1	9. 総合演習：「現象学」と「存在論」9																				
2. 総合演習：「現象学」と「存在論」2	10. 総合演習：「現象学」と「存在論」10																				
3. 総合演習：「現象学」と「存在論」3	11. 総合演習：「現象学」と「存在論」11																				
4. 総合演習：「現象学」と「存在論」4	12. 総合演習：「現象学」と「存在論」12																				
5. 総合演習：「現象学」と「存在論」5	13. 総合演習：「現象学」と「存在論」13																				
6. 総合演習：「現象学」と「存在論」6	14. 総合演習：「現象学」と「存在論」14																				
7. 総合演習：「現象学」と「存在論」7	15. 総合演習：「現象学」と「存在論」15																				
8. 総合演習：「現象学」と「存在論」8																					
◇ 成績評価の方法	発表7割、出席3割。																				
◇ 教科書・参考書	授業時に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	テキストを読み、授業に備える。																				
その他：オフィスアワーは昼休み。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
倫 理 学 研 究 演 習 V Ethics (Advanced Seminar) V	2	非常勤 講師 越 門 勝 彦	1 学期	水	2																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHS-PHI654J フランス語演習 (French Philosophy (Seminar)) 20世紀フランスを代表する哲学者の一人であるポール・リクール(邦訳タイトルは『他者としての自己自身』)を読む。リクールの数多くの著作の中でも、『他者としての自己自身』は、(自己の解釈学)を全面展開した書であること、また、分析哲学に対する彼のスタンスがそこで明らかにされていることから、リクール哲学を理解するうえで際立って重要な論考である。授業で読む箇所は、「第五研究 人格的自己同一性と物語的自己同一性」である。初回のガイダンスでは、著作全体の内容を概観し、「第五研究」の位置づけについて解説する。同時に、参加者のフランス語習熟度を確認し、役割分担等の詳細を決定する。その後は、毎回、担当者が作成した訳を検討し、次いで、担当者や参加者が提示する問題点について議論する、という仕方で行く。テキストは、ポケット版を用いる。																				
◆ 到達目標	フランス語で書かれた哲学の文章を厳密に読み、その内容を正確に理解する力を養う。異なる意見を批判する議論の要点を的確に把握し、その批判の妥当性を判断する能力を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション リクールの紹介・『他者としての自己自身』全体の概要・「第五研究」の位置づけ</td> <td>一性のパラドクス」読解</td> </tr> <tr> <td>2. リクール『他者としての自己自身』第五研究導入部読解</td> <td>9. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解</td> </tr> <tr> <td>3. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解</td> <td>10. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解</td> </tr> <tr> <td>4. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解</td> <td>11. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解</td> </tr> <tr> <td>5. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解</td> <td>12. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解</td> </tr> <tr> <td>6. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解</td> <td>13. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解</td> </tr> <tr> <td>7. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解</td> <td>14. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解</td> </tr> <tr> <td>8. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解</td> <td>15. まとめと展望</td> </tr> </table>					1. イントロダクション リクールの紹介・『他者としての自己自身』全体の概要・「第五研究」の位置づけ	一性のパラドクス」読解	2. リクール『他者としての自己自身』第五研究導入部読解	9. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解	3. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解	10. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解	4. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解	11. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解	5. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解	12. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解	6. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解	13. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解	7. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解	14. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解	8. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解	15. まとめと展望
1. イントロダクション リクールの紹介・『他者としての自己自身』全体の概要・「第五研究」の位置づけ	一性のパラドクス」読解																				
2. リクール『他者としての自己自身』第五研究導入部読解	9. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解																				
3. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解	10. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解																				
4. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解	11. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解																				
5. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解	12. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解																				
6. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解	13. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解																				
7. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解	14. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性のパラドクス」読解																				
8. リクール『他者としての自己自身』第五研究「人格的自己同一性の問題」読解	15. まとめと展望																				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	発表担当(日本語訳の作成)50%、議論への参加(問題点の提示など)50%で評価する。 Paul Ricoeur, Soi-même comme un autre, Éditions du Seuil 演習で扱う箇所の予習(疑問点のメモや事典での下調べなど)、担当箇所の日本語訳作成。																				
その他:																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
倫 理 学 研 究 演 習 VI Ethics (Advanced Seminar) VI	2	准教授 村 山 達 也	2 学期	水	2																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHS-PHI655J フランス哲学演習(1) ライブニッツ『モノドロジー』(Leibniz: Monadology) ライブニッツ(一六四六―一七一六年)が晩年の一七一四年に自らの形而上学をまとめた論考『モノドロジー』を読みます。																				
◆ 到達目標	担当者が作成した訳と要約を検討し、次いで、担当者や参加者が挙げる問題点について議論する、というかたちで進めます。主に用いるのはフランス語テキストですが、フランス語が(あまり)読めない方には英語の注釈の要約を担当していただきます。初回にガイダンスを行い、詳細を決めますので、参加希望者は必ず出席してください。二〇一六年度からの継続で、今年度は第六一節から読み進めます。ただし、既に読んだ分についてははじめに概観しますので、今年度からの参加ももちろん歓迎です。テキストはMichel Fichantが校訂した版(Folio, Gallimard)を用います。注釈として主に参照するのは、この版に付されたものと、Rescher, G. W. Leibniz's Monadology: An Edition for Student (University of Pittsburgh Press)です。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>9. 『モノドロジー』読解(つづき)</td> </tr> <tr> <td>2. 『モノドロジー』読解</td> <td>10. 『モノドロジー』読解(つづき)</td> </tr> <tr> <td>3. 『モノドロジー』読解(つづき)</td> <td>11. 『モノドロジー』読解(つづき)</td> </tr> <tr> <td>4. 『モノドロジー』読解(つづき)</td> <td>12. 『モノドロジー』読解(つづき)</td> </tr> <tr> <td>5. 『モノドロジー』読解(つづき)</td> <td>13. 『モノドロジー』読解(つづき)</td> </tr> <tr> <td>6. 『モノドロジー』読解(つづき)</td> <td>14. 『モノドロジー』読解(つづき)</td> </tr> <tr> <td>7. 『モノドロジー』読解(つづき)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 『モノドロジー』読解(つづき)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入	9. 『モノドロジー』読解(つづき)	2. 『モノドロジー』読解	10. 『モノドロジー』読解(つづき)	3. 『モノドロジー』読解(つづき)	11. 『モノドロジー』読解(つづき)	4. 『モノドロジー』読解(つづき)	12. 『モノドロジー』読解(つづき)	5. 『モノドロジー』読解(つづき)	13. 『モノドロジー』読解(つづき)	6. 『モノドロジー』読解(つづき)	14. 『モノドロジー』読解(つづき)	7. 『モノドロジー』読解(つづき)	15. まとめ	8. 『モノドロジー』読解(つづき)	
1. 導入	9. 『モノドロジー』読解(つづき)																				
2. 『モノドロジー』読解	10. 『モノドロジー』読解(つづき)																				
3. 『モノドロジー』読解(つづき)	11. 『モノドロジー』読解(つづき)																				
4. 『モノドロジー』読解(つづき)	12. 『モノドロジー』読解(つづき)																				
5. 『モノドロジー』読解(つづき)	13. 『モノドロジー』読解(つづき)																				
6. 『モノドロジー』読解(つづき)	14. 『モノドロジー』読解(つづき)																				
7. 『モノドロジー』読解(つづき)	15. まとめ																				
8. 『モノドロジー』読解(つづき)																					
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	担当(40%)と議論への参加度(60%)で評価します。 必要なものはプリントで配布します。参考書は適宜紹介します。 演習で扱う箇所の予習、要約の作成。「その他」の項目も参照。																				
その他:	予備知識なしに参加しても問題がないようにします。ただし、ライブニッツ『モノドロジー』のうち演習では読まない箇所、ライブニッツの他の著作・論文、ライブニッツについての本(主に入門書)などについて、ある程度は自主的に読書をしなさいといいたいし、楽しくないだろうと思います(なお、そうした読書は、すべて日本語で構いませんが、学期を通じて最低でも新書二冊程度の分量を想定しています)。読むと有益なものについては適宜紹介します。																				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
倫 理 学 研 究 演 習 VI Ethics (Advanced Seminar) VI	2	准教授 村 山 達 也	2 学期	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHS-PHI655J																				
◆ 授業題目	フランス哲学演習(2) ラ・ボエシ『自発的隷従論』(La Boetie: The Discourse on Voluntary Servitude)																				
◆ 目的・概要	<p>ラ・ボエシ(1530-1563年)は、モンテーニュが『エッセー』「友情について」で哀惜を込めて語った友人として、そして『自発的隷従論』(別名『反一者論』)の著者として知られています。彼が16才か18才のときに書いたとされるこの論考は、議論こそ荒削りなもの、鋭い問題提起によって、いまなおその重要性を失っていません。</p> <p>本演習では、この『自発的隷従論』をメインテキストに、「人はなぜ人に従うのか」「政治権力はどのように正当化されるか」「いかなる統治形態が最も望ましいのか」といった問題について考えていきます。具体的には、(1)この論考を読み、(2)上記の問題に関係する論文を数本読んでから、(3)みなさんに4000字程度のレポートを書いてもらい、それを全員で検討していく、というかたちで進めます。なお、テキストや論文はすべて日本語のものを用います。</p> <p>初回にガイダンスを行い、詳細を決めたく思いますので、参加希望者は必ず出席してください。</p>																				
◆ 到達目標	<p>(1)政治哲学(の一部)の基本的な考え方を理解する。</p> <p>(2)哲学のテキストから自分なりに問題を取り出し、考察できるようになる。</p>																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>9. 発表ならびに議論(2)</td> </tr> <tr> <td>2. ラ・ボエシ『自発的隷従論』読解</td> <td>10. 発表ならびに議論(3)</td> </tr> <tr> <td>3. ラ・ボエシ『自発的隷従論』読解(つづき)</td> <td>11. 発表ならびに議論(4)</td> </tr> <tr> <td>4. ラ・ボエシ『自発的隷従論』読解(つづき)</td> <td>12. 発表ならびに議論(5)</td> </tr> <tr> <td>5. 政治哲学論文の読解</td> <td>13. 発表ならびに議論(6)</td> </tr> <tr> <td>6. 政治哲学論文の読解(つづき)</td> <td>14. 発表ならびに議論(7)</td> </tr> <tr> <td>7. 政治哲学論文の読解(つづき)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 発表ならびに議論(1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入	9. 発表ならびに議論(2)	2. ラ・ボエシ『自発的隷従論』読解	10. 発表ならびに議論(3)	3. ラ・ボエシ『自発的隷従論』読解(つづき)	11. 発表ならびに議論(4)	4. ラ・ボエシ『自発的隷従論』読解(つづき)	12. 発表ならびに議論(5)	5. 政治哲学論文の読解	13. 発表ならびに議論(6)	6. 政治哲学論文の読解(つづき)	14. 発表ならびに議論(7)	7. 政治哲学論文の読解(つづき)	15. まとめ	8. 発表ならびに議論(1)	
1. 導入	9. 発表ならびに議論(2)																				
2. ラ・ボエシ『自発的隷従論』読解	10. 発表ならびに議論(3)																				
3. ラ・ボエシ『自発的隷従論』読解(つづき)	11. 発表ならびに議論(4)																				
4. ラ・ボエシ『自発的隷従論』読解(つづき)	12. 発表ならびに議論(5)																				
5. 政治哲学論文の読解	13. 発表ならびに議論(6)																				
6. 政治哲学論文の読解(つづき)	14. 発表ならびに議論(7)																				
7. 政治哲学論文の読解(つづき)	15. まとめ																				
8. 発表ならびに議論(1)																					
◇ 成績評価の方法	担当(要約と発表、あわせて50%)と議論への参加度(50%)で評価します。																				
◇ 教科書・参考書	エティエンヌ・ド・ラ・ボエシ『自発的隷従論』(ちくま学芸文庫)は各自で用意してください。それ以外のものはすべてプリントを配布します。参考文献は適宜紹介します。																				
◇ 授業時間外学習	演習で扱う箇所の子習、要約の作成、発表用原稿の作成。																				
その他:																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
言 語 学 特 論 I Linguistics (Advanced Lecture) I	2	非常勤講師 窪 蘭 晴 夫	集 中 (1学期)		
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN601J				
◆ 授業題目	日本語の音韻構造 (Japanese Phonology)				
◆ 目的・概要	英語をはじめとする他の言語と対照しながら、類型論的観点から日本語の音韻構造を考察する。音韻構造の中でも特に音節構造、音節量、アクセントの3項目を中心に考察を行う。音節構造については、母音連続や尾子音を避けようとして起こる諸現象を、音節量については超重音節を避けようとして起こる諸現象を中心に分析する。アクセントはおもに単純名詞アクセント、複合語アクセント、頭文字語アクセントの3つの規則を分析する。いずれについても、標準語(東京方言)から他の方言にも分析対象を広げ、(i)日本語が他の言語とどのような異同を示すか、(ii)日本語は類型論的にみてどのような言語であるか、(iii)日本語の研究が一般言語学にどのように貢献できるかを考察する。				
◆ 到達目標	(1)日常生活の身近なところに存在する言語の規則性について関心を持つようになる、(2)音韻論の基本概念を理解する、(3)基本的な文献を正しく読むことができる、(4)自らデータを集め分析することができる、以上の4点を到達目標とする。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序説(言語研究における音韻研究、言語学の基本的な考え方、音韻構造の類型論) 2. 音節構造(1) 音節構造の普遍性、モーラと音節 3. 音節構造(2) 頭子音制約と尾子音制約 4. 音節構造(3) 二重母音と母音融合 5. 音節量(1) 英語の音節量 6. 音節量(2) 標準語の音節量 7. 音節量(3) 諸方言の音節量 8. アクセント(1)アクセントの類型 9. アクセント(2) 標準語のアクセント(単純語のアクセント規則) 10. アクセント(3) 標準語のアクセント(複合語のアクセント規則) 11. アクセント(4) 標準語のアクセント(頭文字語のアクセント規則) 12. アクセント(5) 語形成とアクセント 13. アクセント(6) 鹿児島方言のアクセント 14. イントネーションとリズムの類型 15. 総括(音韻構造の類型と日本語の特徴) 				
◇ 成績評価の方法	平常点(出席、小テスト)30%、レポートまたは筆記試験70%				
◇ 教科書・参考書	教材(プリント配布): 窪蘭晴夫(2013)『音韻論』(三原健一・高見健一(編)『日英対照 英語学の基礎』くろしお出版、第1章)。 参考書: 窪蘭晴夫・太田聡(1998)『音韻構造とアクセント』研究社。 窪蘭晴夫(1999)『日本語の音声』岩波書店。				
◇ 授業時間外学習	事前に配布する教材(プリント)を読んでおくこと。また、その日に習ったことを復習しておくこと。				
その他: 集中講義のため、質問は授業中もしくは休憩時間に受ける。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
言 語 学 特 論 II Linguistics (Advanced Lecture) II	2	非常勤講師 小 野 創	集 中 (1学期)		
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN602J				
◆ 授業題目	心理言語学: 文理解を中心に (Psycholinguistics: Topics in Sentence Processing)				
◆ 目的・概要	言語の発話と言語理解にみられることばの使用のメカニズムを探る。具体的には、以下の3種類の活動を行う。 (1)英語で書かれた文献を読み、この分野の先行研究に関する知識を得る。 (2)文献で論じられている情報を丁寧に整理し、きちんとした文章にまとめる。 (3)心理言語学実験の基礎を学び、実験構築の準備をする。				
◆ 到達目標	言語学、心理言語学の基礎知識を習得し、それをもとに日常生活におけることばの分析を通して、人間の心のメカニズムを捉えることを目的とする。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. Minimal Attachment #1 3. Minimal Attachment #2 4. Minimal Attachment #3 5. Arguments and Modifiers with MA #1 6. Arguments and Modifiers with MA #2 7. Arguments and Modifiers with MA #3 8. Reanalysis as a Last Resort #1 9. Reanalysis as a Last Resort #2 10. Japanese Relative Clause Attachment #1 11. Japanese Relative Clause Attachment #2 12. Japanese Wh-processing #1 13. Japanese Wh-processing #2 14. Japanese Wh-processing #3 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート				
◇ 教科書・参考書	資料を適宜配布				
◇ 授業時間外学習	課された論文を読み、コメントを考える				
その他:					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
言 語 学 特 論 III Linguistics (Advanced Lecture) III	2	非常勤 講師 渡 辺 己	集 中 (2学期)		
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN603J				
◆ 授業題目	セイリッシュ語文法概説 (Salishan grammar)				
◆ 目的・概要	北アメリカ先住民諸語のうち、北西海岸地域で話されるセイリッシュ語族について、特にそのなかでもスライアモン語の音声・音韻、ならびに形態統語法について学び、フィールド調査を通して得たデータを分析し、文法を記述することについて学習する。				
◆ 到達目標	スライアモン語の文法、およびその類型的特徴を理解すること。いわゆる無文字言語の現地調査を通して、その言語の仕組みを分析し、記述することを理解すること。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. セイリッシュ語族の概観、話者数に関する現況、フィールド言語について 2. セイリッシュ語族およびスライアモン語の音声・音韻 3. 音声・音韻 (続き) 4. スライアモン語形態統語論 (以下順に、概観、語形成、動詞結合価とその増減、「語彙的接尾辞」、重複法、アスペクト、統語的構造について) 5. スライアモン語形態統語論 6. スライアモン語形態統語論 (続き) 7. スライアモン語形態統語論 (続き) 8. スライアモン語形態統語論 (続き) 9. スライアモン語形態統語論 (続き) 10. スライアモン語形態統語論 (続き) 11. スライアモン語形態統語論 (続き) 12. スライアモン語形態統語論 (続き) 13. スライアモン語形態統語論 (続き) 14. スライアモン語形態統語論 (続き) 15. スライアモン語形態統語論 (続き) 				
◇ 成績評価の方法	レポートによって評価する。ただし、本講義に一度も出席していない者には、レポート提出を認めない。レポートでは本講義で学習するセイリッシュ語の特徴と、自分の専門とする言語 (あるいは履修したことのある言語、興味のある言語、日本語やその他自分の母語でも良い) を対照して考察したレポートを提出してもらう。(A4用紙3枚程度) 特に関心があった部分、比較対照がおもしろいと思われる特徴に絞って考察すること。				
◇ 教科書・参考書	特に指定しない。適宜ハンドアウトを配布しながら、講義を進める。講義の中で関連する論文・本などを紹介していく。				
◇ 授業時間外学習	その日に提示した例文を復習すること。				
その他：言語学と音声学の基本的知識があることが望ましい。できれば声門化音 (放出音)、側面摩擦音、側面破擦音が調音できるとなお良い。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
言 語 学 特 論 IV Linguistics (Advanced Lecture) IV	2	准教授 木 山 幸 子	1 学期	水	2
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN64J				
◆ 授業題目	実験語用論 (Experimental Pragmatics)				
◆ 目的・概要	実験語用論 (Experimental Pragmatics) は、ことばの実際の運用を調査・実験によって実証的に確かめようという科学的研究分野です。本科目では、実験語用論でとられる主要な方法論の要点を理解するために、受講生自身に文献を理解してまとめ、他の受講生と共有してもらいます。一つの研究目的に対してなぜこのような方法論がとられているのかを考えながら、実験語用論の方法論の趣旨を理解することを目指します。また、グループワークを通して、専門的な文献の要旨を把握する基本的読解力と研究のプレゼンテーションの基礎を身につけることを意図しています。さらに、語用論研究における独創的なテーマを自ら見出し適切な方法論を提案する訓練として、期末レポートで仮想語用論研究計画書をまとめてもらいます。				
◆ 到達目標	語用論の関心事と主要理論の要点、またそれに応じた方法論の概要を理解する。それらを踏まえて独自の研究計画を立案できるようになる。また、自身が調査した文献の要点を過不足なくまとめて専門外の他者にもわかりやすく伝えられるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 実証研究の論文の構成 (教員) 3. 質問紙法 (受講生) 4. 談話完成タスク (受講生) 5. 会話分析 (受講生) 6. 発達 (縦断的) 研究 (受講生) 7. 言語処理の実験法の概要 (教員) 8. 反応時間パラダイム (受講生) 9. プライミング (受講生) 10. 視線計測 (受講生) 11. 言語の脳機能研究について (教員) 12. 脳波、事象関連電位 (受講生) 13. 脳機能イメージング (受講生) 14. フィールドでの実験研究 (受講生) 15. まとめ：実験語用論の未来 (教員) 				
◇ 成績評価の方法	期末レポート (50%)、発表分担 (30%)、毎回授業の最後に課すワークシート (20%)、授業時間外の語用論調査・実験の体験 (若干)				
◇ 教科書・参考書	指定しない。各回で講読する文献のパッケージを配布する。				
◇ 授業時間外学習	受講者全員にグループ発表を担当してもらうので、その準備を他のメンバーとよく協力して進め、自分の分担作業は責任をもって行うこと (その自信がない場合は受講しないこと)。また、語用論をテーマとした調査や実験に参加してもらう機会を設けます (参加は任意)。				
その他：期末レポートとして、何か実験語用論の研究を行うとした場合の仮想研究計画書をまとめてもらいます。初回授業時にその詳細を提示しますので、授業期間中もそれを見越して各自文献調査を進め構想を練っておくようにしてください。計画だけでなく実際の言語調査・実験の実際を体験してみたいと思ったら、ぜひ後期の同教員による言語解析学特論Ⅲ「専門的言語調査・実験法実践」を受講してください。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
言 語 学 研 究 演 習 I Linguistics (Advanced Seminar) I	2	教授 後藤 齊・小泉 政利 准教授 木山 幸子	1 学期	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN606J																				
◆ 授業題目	言語学研究法 (Methods and practices of linguistic research)																				
◆ 目的・概要	<p>授業は、参加者の分担による口頭発表と質疑応答の形式で行う。これにより、学会発表および論文作成のための知識ならびに方法を身につけることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発表者は、発表のためのハンドアウトを事前に作成したうえで、研究目的、資料、分析と考察、結論を所定の時間で口頭発表する。 2. 質疑応答を参考にして論を練り直し、また、プレゼンテーション方法を再考し、学会発表や雑誌投稿ができるよりよい論文にしよう努める。 3. 参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、自己の研究領域以外の方分野への理解をも深めつつ、他者の論文をよりよいものことに貢献する。 																				
◆ 到達目標	学会発表・論文作成の方法を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 発表 8</td> </tr> <tr> <td>2. 発表 1</td> <td>10. 発表 9</td> </tr> <tr> <td>3. 発表 2</td> <td>11. 発表 10</td> </tr> <tr> <td>4. 発表 3</td> <td>12. 発表 11</td> </tr> <tr> <td>5. 発表 4</td> <td>13. 発表 12</td> </tr> <tr> <td>6. 発表 5</td> <td>14. 発表 13</td> </tr> <tr> <td>7. 発表 6</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 発表 7</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 発表 8	2. 発表 1	10. 発表 9	3. 発表 2	11. 発表 10	4. 発表 3	12. 発表 11	5. 発表 4	13. 発表 12	6. 発表 5	14. 発表 13	7. 発表 6	15. 全体のまとめ	8. 発表 7	
1. ガイダンス	9. 発表 8																				
2. 発表 1	10. 発表 9																				
3. 発表 2	11. 発表 10																				
4. 発表 3	12. 発表 11																				
5. 発表 4	13. 発表 12																				
6. 発表 5	14. 発表 13																				
7. 発表 6	15. 全体のまとめ																				
8. 発表 7																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加 60%、発表 40%																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。																				
◇ 授業時間外学習	発表に使用するハンドアウトは、事前に作成し、配布すること。 学会発表や論文投稿につなげるのが望ましい。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
言 語 学 研 究 演 習 II Linguistics (Advanced Seminar) II	2	教授 後藤 齊	2 学期	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN607J																				
◆ 授業題目	言語学研究法 (Methods and practices of linguistic research)																				
◆ 目的・概要	<p>授業は、参加者の分担による口頭発表と質疑応答の形式で行う。これにより、学会発表および論文作成のための知識ならびに方法を身につけることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発表者は、発表のためのハンドアウトを事前に作成したうえで、研究目的、資料、分析と考察、結論を所定の時間で口頭発表する。 2. 質疑応答を参考にして論を練り直し、また、プレゼンテーション方法を再考し、学会発表や雑誌投稿ができるよりよい論文にしよう努める。 3. 参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、自己の研究領域以外の方分野への理解をも深めつつ、他者の論文をよりよいものことに貢献する。 																				
◆ 到達目標	学会発表・論文作成の方法を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 発表 8</td> </tr> <tr> <td>2. 発表 1</td> <td>10. 発表 9</td> </tr> <tr> <td>3. 発表 2</td> <td>11. 発表 10</td> </tr> <tr> <td>4. 発表 3</td> <td>12. 発表 11</td> </tr> <tr> <td>5. 発表 4</td> <td>13. 発表 12</td> </tr> <tr> <td>6. 発表 5</td> <td>14. 発表 13</td> </tr> <tr> <td>7. 発表 6</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 発表 7</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 発表 8	2. 発表 1	10. 発表 9	3. 発表 2	11. 発表 10	4. 発表 3	12. 発表 11	5. 発表 4	13. 発表 12	6. 発表 5	14. 発表 13	7. 発表 6	15. 全体のまとめ	8. 発表 7	
1. ガイダンス	9. 発表 8																				
2. 発表 1	10. 発表 9																				
3. 発表 2	11. 発表 10																				
4. 発表 3	12. 発表 11																				
5. 発表 4	13. 発表 12																				
6. 発表 5	14. 発表 13																				
7. 発表 6	15. 全体のまとめ																				
8. 発表 7																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加 60%、発表 40%																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。																				
◇ 授業時間外学習	発表に使用するハンドアウトは、事前に作成し、配布すること。 学会発表や論文投稿につなげるのが望ましい。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
言 語 解 析 学 特 論 I Linguistics Analysis (Advanced Lecture) I	2	教授 後 藤 齊	1 学期	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN608J																				
◆ 授業題目	言語研究におけるコンピュータ利用の基礎 (Computing in linguistic research)																				
◆ 目的・概要	以下の事項について講義を行い、さらに実習によりその知識を深め、関連した技術を習得する。 ・文字コード ・文献検索 (OPAC、文献データベース) ・言語研究用ソフトウェア																				
◆ 到達目標	コンピュータおよびインターネットを言語研究により効果的に利用する方法について、基本的な知識と技術を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 海外の図書館のOPAC</td> </tr> <tr> <td>2. Windowsの基礎</td> <td>10. 国立情報学研究所のデータベース</td> </tr> <tr> <td>3. ファイル</td> <td>11. 言語学関係の論文データベース</td> </tr> <tr> <td>4. 文字コード</td> <td>12. 海外の論文データベース</td> </tr> <tr> <td>5. 文字コード (続き)</td> <td>13. 言語研究用ソフトウェア</td> </tr> <tr> <td>6. 東北大学附属図書館および大学図書館等のOPAC</td> <td>14. 言語研究用ソフトウェア (続き)</td> </tr> <tr> <td>7. 国立国会図書館と公共図書館のOPAC</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 出版社系の書籍データベース</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 海外の図書館のOPAC	2. Windowsの基礎	10. 国立情報学研究所のデータベース	3. ファイル	11. 言語学関係の論文データベース	4. 文字コード	12. 海外の論文データベース	5. 文字コード (続き)	13. 言語研究用ソフトウェア	6. 東北大学附属図書館および大学図書館等のOPAC	14. 言語研究用ソフトウェア (続き)	7. 国立国会図書館と公共図書館のOPAC	15. 全体のまとめ	8. 出版社系の書籍データベース	
1. ガイダンス	9. 海外の図書館のOPAC																				
2. Windowsの基礎	10. 国立情報学研究所のデータベース																				
3. ファイル	11. 言語学関係の論文データベース																				
4. 文字コード	12. 海外の論文データベース																				
5. 文字コード (続き)	13. 言語研究用ソフトウェア																				
6. 東北大学附属図書館および大学図書館等のOPAC	14. 言語研究用ソフトウェア (続き)																				
7. 国立国会図書館と公共図書館のOPAC	15. 全体のまとめ																				
8. 出版社系の書籍データベース																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加 40%、レポート 60%																				
◇ 教科書・参考書	資料を配布する。																				
◇ 授業時間外学習	授業中に紹介したサイトは実際にアクセスして、その詳細を体得すること。ソフトウェアも実際に使ってみることが望ましい。																				
その他：http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/bunkenkensaku.htmlも参照すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
言 語 解 析 学 特 論 II Linguistics Analysis (Advanced Lecture) II	2	准教授 木 山 幸 子	2 学期	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN69J																				
◆ 授業題目	専門的言語調査・実験法実践 (Advanced Experiments in Language Processing)																				
◆ 目的・概要	本科目では、人間の言語処理過程を捉えるために用いられる調査・実験手法のグループ実習を行います。課題として設定された素材について、調査・実験の準備、実施、分析までの手続きを一通り行ってもらいます。他のグループの調査、実験に参加したり分析過程や結果を共有する活動を通して、多様なタイプの研究手法の意義を相対化し、研究目的に応じて最適の研究手法を選択するための訓練としてもらいたいと思います。																				
◆ 到達目標	心理言語学で用いられる基本的な調査・実験手法の意義を理解し、自立的に実施できるようになる。また、実際の言語処理過程が自分の頭の中で想像していることとは決して同じではない (大いに異なる) ことを目の当たりにし、「データを取って確かめる」ことの意義を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 反応時間 (視覚提示) ③：分析</td> </tr> <tr> <td>2. 質問紙調査の手続き (講義)</td> <td>10. 反応時間 (聴覚提示) ①：準備</td> </tr> <tr> <td>3. 質問紙調査 ①：準備</td> <td>11. 反応時間 (聴覚提示) ②：実施</td> </tr> <tr> <td>4. 質問紙調査 ②：実施</td> <td>12. 反応時間 (聴覚提示) ③：分析</td> </tr> <tr> <td>5. 質問紙調査 ③：分析</td> <td>13. 反応時間 (命名課題) ①：準備</td> </tr> <tr> <td>6. 実験の手続き (講義)</td> <td>14. 反応時間 (命名課題) ②：実施</td> </tr> <tr> <td>7. 反応時間 (視覚提示) ①：準備</td> <td>15. 反応時間 (命名課題) ③：分析</td> </tr> <tr> <td>8. 反応時間 (視覚提示) ②：実施</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 反応時間 (視覚提示) ③：分析	2. 質問紙調査の手続き (講義)	10. 反応時間 (聴覚提示) ①：準備	3. 質問紙調査 ①：準備	11. 反応時間 (聴覚提示) ②：実施	4. 質問紙調査 ②：実施	12. 反応時間 (聴覚提示) ③：分析	5. 質問紙調査 ③：分析	13. 反応時間 (命名課題) ①：準備	6. 実験の手続き (講義)	14. 反応時間 (命名課題) ②：実施	7. 反応時間 (視覚提示) ①：準備	15. 反応時間 (命名課題) ③：分析	8. 反応時間 (視覚提示) ②：実施	
1. ガイダンス	9. 反応時間 (視覚提示) ③：分析																				
2. 質問紙調査の手続き (講義)	10. 反応時間 (聴覚提示) ①：準備																				
3. 質問紙調査 ①：準備	11. 反応時間 (聴覚提示) ②：実施																				
4. 質問紙調査 ②：実施	12. 反応時間 (聴覚提示) ③：分析																				
5. 質問紙調査 ③：分析	13. 反応時間 (命名課題) ①：準備																				
6. 実験の手続き (講義)	14. 反応時間 (命名課題) ②：実施																				
7. 反応時間 (視覚提示) ①：準備	15. 反応時間 (命名課題) ③：分析																				
8. 反応時間 (視覚提示) ②：実施																					
◇ 成績評価の方法	グループワークへの貢献 (50%)、実習レポート (50%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書は指定しない。参考文献：Spapé, M., Verdonshot, R.G., van Dantzig, S., & van Steenbergen, H. (2014). The E-Primer: An Introduction to Creating Psychological Experiments in E-Prime. Leiden University Press.																				
◇ 授業時間外学習	グループごとに進める調査、実験の準備や分析について、相当の授業外での作業が必要になります。他のメンバーに迷惑をかけないために、自分が分担する作業を責任をもって行う意思のある学生のみ受講登録してください (初回でその意思の確認をします)。																				
その他：多様な背景を持つ意欲ある受講生を歓迎したいと思いますが、授業の性質上、受講者数を制限する可能性があります。その場合は、前期の同教員による言語学特論IV「実験語用論」を受講済みの学生、言語学及び関連領域の学生を優先します。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
言 語 解 析 学 研 究 演 習 I Linguistics Analysis (Advanced Seminar) I	2	教 授 後 藤 齊	1 学 期	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN610J																				
◆ 授業題目	コーパス言語学の実践 (Practices in corpus linguistics)																				
◆ 目的・概要	日本語を含めて多くの言語で大規模な言語資料がコーパスとして整備されるようになってきており、そこからデータを検索することが容易になりつつある。しかし、言語構造あるいは言語運用のより深い理解につなげるためにどのような検索を行い、どのように検索結果を解釈すればよいかは、必ずしも自明ではない。この授業で取り上げる本は、豊富な実例によりその手法を身につけさせようというものである。英語からの例であるが、手法自体は他の言語にも適用できる部分が多い。授業では、その中からいくつかを具体的に検討したい。																				
◆ 到達目標	コーパスを適切に利用し、検索結果を適切に解釈するための手法を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 実例の検討 8</td> </tr> <tr> <td>2. 実例の検討 1</td> <td>10. 実例の検討 9</td> </tr> <tr> <td>3. 実例の検討 2</td> <td>11. 実例の検討 10</td> </tr> <tr> <td>4. 実例の検討 3</td> <td>12. 実例の検討 11</td> </tr> <tr> <td>5. 実例の検討 4</td> <td>13. 実例の検討 12</td> </tr> <tr> <td>6. 実例の検討 5</td> <td>14. 実例の検討 13</td> </tr> <tr> <td>7. 実例の検討 6</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 実例の検討 7</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 実例の検討 8	2. 実例の検討 1	10. 実例の検討 9	3. 実例の検討 2	11. 実例の検討 10	4. 実例の検討 3	12. 実例の検討 11	5. 実例の検討 4	13. 実例の検討 12	6. 実例の検討 5	14. 実例の検討 13	7. 実例の検討 6	15. 全体のまとめ	8. 実例の検討 7	
1. ガイダンス	9. 実例の検討 8																				
2. 実例の検討 1	10. 実例の検討 9																				
3. 実例の検討 2	11. 実例の検討 10																				
4. 実例の検討 3	12. 実例の検討 11																				
5. 実例の検討 4	13. 実例の検討 12																				
6. 実例の検討 5	14. 実例の検討 13																				
7. 実例の検討 6	15. 全体のまとめ																				
8. 実例の検討 7																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加 (60%)、レポート (40%)																				
◇ 教科書・参考書	リンドクヴィスト 『英語コーパスを活用した言語研究』(大修館書店、2016)																				
◇ 授業時間外学習	実例については条件を少し変えるとどうなるか、等を考えてみる。別途提供されている練習問題に挑戦することが望ましい。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
言 語 解 析 学 研 究 演 習 II Linguistics Analysis (Advanced Seminar) II	2	教 授 後 藤 齊	2 学 期	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN611J																				
◆ 授業題目	日本語コーパス言語学の進展 (Advances in Japanese corpus linguistics)																				
◆ 目的・概要	2011年に国立国語研究所により開発された「現代日本語書き言葉均衡コーパス」により、日本語研究に新しいインフラがもたらされた。これ以外にも各種の日本語コーパスが開発され、公開されつつある。関係の文献・論文を読むことによって、コーパスの意義およびコーパスを利用した日本語研究の動向および将来に向けた可能性への理解を深める。担当者が論文を紹介し、コーパスを使う意義に特に注目しながら、内容を検討していく形式で授業を行う。																				
◆ 到達目標	コーパスを利用した日本語研究の現状と可能性について理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 論文紹介 8</td> </tr> <tr> <td>2. 論文紹介 1</td> <td>10. 論文紹介 9</td> </tr> <tr> <td>3. 論文紹介 2</td> <td>11. 論文紹介 10</td> </tr> <tr> <td>4. 論文紹介 3</td> <td>12. 論文紹介 11</td> </tr> <tr> <td>5. 論文紹介 4</td> <td>13. 論文紹介 12</td> </tr> <tr> <td>6. 論文紹介 5</td> <td>14. 論文紹介 13</td> </tr> <tr> <td>7. 論文紹介 6</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 論文紹介 7</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 論文紹介 8	2. 論文紹介 1	10. 論文紹介 9	3. 論文紹介 2	11. 論文紹介 10	4. 論文紹介 3	12. 論文紹介 11	5. 論文紹介 4	13. 論文紹介 12	6. 論文紹介 5	14. 論文紹介 13	7. 論文紹介 6	15. まとめ	8. 論文紹介 7	
1. ガイダンス	9. 論文紹介 8																				
2. 論文紹介 1	10. 論文紹介 9																				
3. 論文紹介 2	11. 論文紹介 10																				
4. 論文紹介 3	12. 論文紹介 11																				
5. 論文紹介 4	13. 論文紹介 12																				
6. 論文紹介 5	14. 論文紹介 13																				
7. 論文紹介 6	15. まとめ																				
8. 論文紹介 7																					
◇ 成績評価の方法	出席・発表 60%、レポート 40%																				
◇ 教科書・参考書	教科書は用いない。資料を配布する。																				
◇ 授業時間外学習	適切な論文を選択できるよう、あらかじめ十分に検討すること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
言 語 解 析 学 研 究 演 習 Ⅲ Linguistics Analysis (Advanced Seminar) Ⅲ	2	教授 小 泉 政 利	1 学期	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN612J																				
◆ 授業題目	統語論 (syntax)																				
◆ 目的・概要	統語論の基礎を学びます。																				
◆ 到達目標	身近な言語現象を統語論の観点から分析できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 言語間変異</td> </tr> <tr> <td>2. 構造とは？</td> <td>10. 非対格仮説</td> </tr> <tr> <td>3. 構造の必要性</td> <td>11. 動詞句内主語仮説</td> </tr> <tr> <td>4. 統語範疇と構成素構造</td> <td>12. VP シェル</td> </tr> <tr> <td>5. 句の構造</td> <td>13. 疑問文</td> </tr> <tr> <td>6. 移動</td> <td>14. 命令文</td> </tr> <tr> <td>7. 文の基本構造</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 補文の構造</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 言語間変異	2. 構造とは？	10. 非対格仮説	3. 構造の必要性	11. 動詞句内主語仮説	4. 統語範疇と構成素構造	12. VP シェル	5. 句の構造	13. 疑問文	6. 移動	14. 命令文	7. 文の基本構造	15. まとめ	8. 補文の構造	
1. ガイダンス	9. 言語間変異																				
2. 構造とは？	10. 非対格仮説																				
3. 構造の必要性	11. 動詞句内主語仮説																				
4. 統語範疇と構成素構造	12. VP シェル																				
5. 句の構造	13. 疑問文																				
6. 移動	14. 命令文																				
7. 文の基本構造	15. まとめ																				
8. 補文の構造																					
◇ 成績評価の方法	概ね次の基準で総合的に評価します。 発表 40%、レポート 40%、平常点 20%																				
◇ 教科書・参考書	立石浩一・小泉政利 (著) 『文の構造』 研究社																				
◇ 授業時間外学習	毎回、授業の前に教科書の該当範囲を予習し、概要と疑問点などを短いレポートにまとめること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
言 語 解 析 学 研 究 演 習 Ⅳ Linguistics Analysis (Advanced Seminar) Ⅳ	2	准教授 木 山 幸 子	2 学期	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN613J																				
◆ 授業題目	言語データ分析法基礎 (Basic Methods of Language Data Analysis)																				
◆ 目的・概要	本科目では、言語研究に必要なデータ分析の実習を行います。用意された課題データについて、ペアを組んで統計ソフトウェアを使いながら分析を体験してもらいます。何か新規のソフトウェアを学ぼうとするときには、ちょっとした思わぬところでつまづいてしまうことがありますので、ペアを組んでお互いの知恵を出し合いながら課題データと格闘してもらいます (もちろん教員も適宜助言します)。統計学の専門家ではなくとも、言語データを定量的に分析することの楽しさを味わってほしいと思います。																				
◆ 到達目標	定量的言語研究に必要な基本的な統計分析手法の要点を把握する。また、自身が扱う言語データについて、統計ソフトウェアを使って適切に分析できる素地を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. t検定①</td> </tr> <tr> <td>2. 変数の色々</td> <td>10. t検定②</td> </tr> <tr> <td>3. 統計的検定の論理</td> <td>11. t検定③</td> </tr> <tr> <td>4. カイ二乗検定 ①</td> <td>12. 分散分析 (Analysis of variance: ANOVA) ①</td> </tr> <tr> <td>5. カイ二乗検定 ②</td> <td>13. 分散分析 (Analysis of variance: ANOVA) ②</td> </tr> <tr> <td>6. 残差分析</td> <td>14. 分散分析 (Analysis of variance: ANOVA) ③</td> </tr> <tr> <td>7. 評定者間信頼性分析</td> <td>15. まとめと最終テスト</td> </tr> <tr> <td>8. データの分布・標準化</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. t検定①	2. 変数の色々	10. t検定②	3. 統計的検定の論理	11. t検定③	4. カイ二乗検定 ①	12. 分散分析 (Analysis of variance: ANOVA) ①	5. カイ二乗検定 ②	13. 分散分析 (Analysis of variance: ANOVA) ②	6. 残差分析	14. 分散分析 (Analysis of variance: ANOVA) ③	7. 評定者間信頼性分析	15. まとめと最終テスト	8. データの分布・標準化	
1. ガイダンス	9. t検定①																				
2. 変数の色々	10. t検定②																				
3. 統計的検定の論理	11. t検定③																				
4. カイ二乗検定 ①	12. 分散分析 (Analysis of variance: ANOVA) ①																				
5. カイ二乗検定 ②	13. 分散分析 (Analysis of variance: ANOVA) ②																				
6. 残差分析	14. 分散分析 (Analysis of variance: ANOVA) ③																				
7. 評定者間信頼性分析	15. まとめと最終テスト																				
8. データの分布・標準化																					
◇ 成績評価の方法	ペアワークへの貢献 (50%)、毎回授業の最後に課すワークシート (30%)、期末テスト (20%)、授業時間外の語用論調査・実験の体験 (若干)																				
◇ 教科書・参考書	指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	授業時間外にもペア単位で課題を行ってもらいます。ペアの相手に迷惑をかけないために、自分が担当する作業を責任をもって行う意思のある学生のみ受講登録してください (初回でその意思の確認をします)。また語用論をテーマとした調査や実験に参加してもらおう機会を設けます (参加は任意)。																				
その他：文科系の学生にとって、統計分析は必ずしもなじみやすいものではないかもしれませんが、実際、数多くある分析手法を駆使できるようになるには相 当の訓練と経験が必要になると思います。わからないことは当たり前なので、分析の考え方もソフトの扱い方でも、つまづいたら遠慮なく尋ねて ください。授業外の質問も歓迎します。意欲ある受講生の皆さんが自立的に言語データ分析ができるようになるためのサポートをしたいと思 います。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時		
言 語 解 析 学 研 究 演 習 V Linguistics Analysis (Advanced Seminar) V	2	准教授 木 山 幸 子	2 学期	火	2		
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN614J						
◆ 授業題目	言語データ分析法発展 (Advanced Methods of Language Data Analysis)						
◆ 目的・概要	本科目では、言語研究に必要なデータ分析の実習を行います。後期はとくに、種々の多変量解析の手法を扱います。用意された課題データについて、ペアを組んで統計ソフトウェアを使いながら分析を体験してもらいます。何か新規のソフトウェアを学ぼうとするときには、ちょっとした思わぬところでつまづいてしまうことがありますので、ペアを組んでお互いの知恵を出し合いながら課題データと格闘してもらいます (もちろん教員も適宜助言します)。統計学の専門家ではなくとも、言語データの多変量解析から示される結果のおもしろさを味わってほしいと思います。						
◆ 到達目標	定量的言語研究に必要な多変量解析手法の要点を把握する。また、多要因で構成される言語データについて、統計ソフトウェアを使って適切に分析できる素地を身につける。						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 統計的検定の概要 3. 相関分析 ① 4. 相関分析 ② 5. 尺度の信頼性分析 6. 回帰分析 ① 7. 回帰分析 ② 8. 回帰分析 ③ </td> <td style="vertical-align: top; padding-left: 20px;"> <ul style="list-style-type: none"> 9. 共分散分析 (Analysis of covariance: ANCOVA) ① 10. 共分散分析 (Analysis of covariance: ANCOVA) ② 11. 共分散分析 (Analysis of covariance: ANCOVA) ③ 12. マルチレベルモデリング (線形混合効果モデル) ① 13. マルチレベルモデリング (線形混合効果モデル) ② 14. マルチレベルモデリング (線形混合効果モデル) ③ 15. まとめと最終テスト </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 統計的検定の概要 3. 相関分析 ① 4. 相関分析 ② 5. 尺度の信頼性分析 6. 回帰分析 ① 7. 回帰分析 ② 8. 回帰分析 ③ 	<ul style="list-style-type: none"> 9. 共分散分析 (Analysis of covariance: ANCOVA) ① 10. 共分散分析 (Analysis of covariance: ANCOVA) ② 11. 共分散分析 (Analysis of covariance: ANCOVA) ③ 12. マルチレベルモデリング (線形混合効果モデル) ① 13. マルチレベルモデリング (線形混合効果モデル) ② 14. マルチレベルモデリング (線形混合効果モデル) ③ 15. まとめと最終テスト
<ul style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 統計的検定の概要 3. 相関分析 ① 4. 相関分析 ② 5. 尺度の信頼性分析 6. 回帰分析 ① 7. 回帰分析 ② 8. 回帰分析 ③ 	<ul style="list-style-type: none"> 9. 共分散分析 (Analysis of covariance: ANCOVA) ① 10. 共分散分析 (Analysis of covariance: ANCOVA) ② 11. 共分散分析 (Analysis of covariance: ANCOVA) ③ 12. マルチレベルモデリング (線形混合効果モデル) ① 13. マルチレベルモデリング (線形混合効果モデル) ② 14. マルチレベルモデリング (線形混合効果モデル) ③ 15. まとめと最終テスト 						
◇ 成績評価の方法	ペアワークへの貢献 (50%)、毎回授業の最後に課すワークシート (30%)、期末テスト (20%)、授業時間外の語用論調査・実験の体験 (若干)						
◇ 教科書・参考書	指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。						
◇ 授業時間外学習	授業時間外にもペア単位で課題を行ってもらいます。ペアの相手に迷惑をかけないために、自分が分担する作業を責任をもって行う意思のある学生のみ受講登録してください (初回でその意思の確認をします)。また語用論をテーマとした調査や実験に参加してもらおう機会を設けます (参加は任意)。						
<p>本科目は、前期の同教員による言語解析学演習 IV「言語データ分析法基礎」の続きですので、同科目の単位を修得済みであるか、その他：の内容を十分に習得している学生のみ受講を認めます。前期に引き続き、自由に質問できる環境をつくり、意欲ある受講生の皆さんが自立的に言語データ分析ができるようになるためのサポートをしたいと思います。</p>							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 構 造 論 特 論 I Structure of Japanese (Advanced Lecture) I	2	教授 齋藤倫明	1 学期	月	4
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN616J				
◆ 授業題目	「連語」と文法論の構成 (A Structure of the Grammar Viewed from Word Combination)				
◆ 目的・概要	「語」と「文」とは、基本的な言語単位として一般に認められているが、両者の間にも立場によって様々な言語単位が設定されている。そこで、本講義では、(1)従来、そういった言語単位としてどのようなものが設定されているのか、(2)なぜ様々な言語単位が設定されるのか、(3)本来、どういった言語単位を設定するのが望ましいのか、といった点について考察することを通し、最終的には、そもそも言語単位とは何か、といった点を明らかにすることを旨とする。今年度は、そのための一環として教科研の「連語」という単位を取り上げ、文法論を構成する際に「連語」という単位が有している意味合いについて考える。具体的には、教科研文法、山田文法、松下文法の文法論の構成を比較・対照するという作業を通して論を進める。				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 「言語単位」についての理解を深める。 種々の具体的な文法論の言語単位とその考え方について理解する。 「語」と「文」の間にある言語単位の考え方について理解する。 「連語」という単位とその問題点について理解する。 山田文法、松下文法の特質について理解する。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス (講義の進め方、今年度の講義の位置づけ等)。 「連語」とは何か。 「連語」の問題点について。 教科研文法における「連語」の位置づけ (その一)。 教科研文法における「連語」の位置づけ (その二)。 山田文法と教科研の「連語」。 山田文法における「連語」の位置づけ (その一)。 山田文法における「連語」の位置づけ (その二)。 松下文法と教科研の「連語」。 松下文法における「連語」の位置づけ (その一)。 松下文法における「連語」の位置づけ (その二)。 「連語」と文法論の在り方について (その一)。 「連語」と文法論の在り方について (その二)。 「連語」と文法論の構成に関する総括。 今後の発展と残された問題。 				
◇ 成績評価の方法	レポート [80%]・出席 [10%]・その他 [10%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。 参考書は講義中に適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	毎回コメントペーパーを配布するので、前回自分が提出したコメントペーパーの内容について自分なりにある程度下調べをして講義に臨むようにする。				
その他：特になし。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 構 造 論 特 論 II Structure of Japanese (Advanced Lecture) II	2	准教授 甲田直美	1 学期	月	3
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN617J				
◆ 授業題目	文章・談話の構造論 (Discourse and Conversation Structure)				
◆ 目的・概要	文章・談話の構造は、どのようにして捉えることができるであろうか。研究手法としては、(1)文法論との接点から、談話・文章における結束性保持の手段を考える研究、(2)会話分析を中心とする実際に生じた会話の参与構造を扱う研究に大別できる。これらの研究について整理し、解説する。				
◆ 到達目標	(1)近年の研究で重要とされる理論を理解する。(2)授業で扱う研究の意義と限界・問題点について批判能力を身につける。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 文章・談話研究とは～テーマ設定から分析まで～ 音声、イントネーション ターン交替、TCU 分析データの記述法、 音声転記の方法 コーパス、言語のバリエーション コンピューター実習 KWIC Finder, Praat, Audacity 会話に頻繁に見られる現象 1 会話に頻繁に見られる現象 2 会話に頻繁に見られる現象 3 会話に頻繁に見られる現象 4 研究テーマの着眼点、レポートの書き方 研究の進め方 1 研究の進め方 2 レポートの書き方 				
◇ 成績評価の方法	レポート [60%]・出席 [10%]・授業中の提出物 [30%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。				
◇ 授業時間外学習	会話・対話・談話研究のための分析単位の実際をデータを元に観察する。 音声言語コミュニケーションのための分析単位IUの実際をデータと対照する。 会話データを作成し、会話分析の手法を体験する。 論文を読んで論点を提出する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 語 構 造 論 講 読 Structure of Japanese (Reading)	2	教授 齋藤倫明	2 学期	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN618J																				
◆ 授業題目	近世言語論講読 (Reading of the Modern Japanese Linguistic Works)																				
◆ 目的・概要	近世言語論の大きな流れを形成した本居宣長とその学統を継ぐ一派(「八衢派」)の言語論を講読する。今年度は、そのうちの鈴木胤(1764~1837)の『言語四種論(げんぎょししゅろん)』(1824年刊)を読む。本書は、師の宣長の『詞の玉緒』の考えを継承し、日本語の品詞分類についてより詳しく述べたものである。本講義では、活字本と東北大学図書館蔵本の版本とを対比させつつ、一字一句精確に読み解くとともに、鈴木胤の所説を理解することを目指す。																				
◆ 到達目標	1. テキストに書かれていることを精確に理解する。 2. 日本語学史上における近世言語論の特質を把握する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス (講義の進め方、鈴木胤と「言語四種論」についての概説等)。</td> <td>8. 「言語四種論」の講読(その七)。</td> </tr> <tr> <td>2. 「言語四種論」の講読(その一)。</td> <td>9. 「言語四種論」の講読(その八)。</td> </tr> <tr> <td>3. 「言語四種論」の講読(その二)。</td> <td>10. 「言語四種論」の講読(その九)。</td> </tr> <tr> <td>4. 「言語四種論」の講読(その三)。</td> <td>11. 「言語四種論」の講読(その十)。</td> </tr> <tr> <td>5. 「言語四種論」の講読(その四)。</td> <td>12. 「言語四種論」の講読(その十一)。</td> </tr> <tr> <td>6. 「言語四種論」の講読(その五)。</td> <td>13. 「言語四種論」の講読(その十二)。</td> </tr> <tr> <td>7. 「言語四種論」の講読(その六)。</td> <td>14. 「言語四種論」の講読(その十三)。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 「言語四種論」講読の総括。</td> </tr> </table>					1. ガイダンス (講義の進め方、鈴木胤と「言語四種論」についての概説等)。	8. 「言語四種論」の講読(その七)。	2. 「言語四種論」の講読(その一)。	9. 「言語四種論」の講読(その八)。	3. 「言語四種論」の講読(その二)。	10. 「言語四種論」の講読(その九)。	4. 「言語四種論」の講読(その三)。	11. 「言語四種論」の講読(その十)。	5. 「言語四種論」の講読(その四)。	12. 「言語四種論」の講読(その十一)。	6. 「言語四種論」の講読(その五)。	13. 「言語四種論」の講読(その十二)。	7. 「言語四種論」の講読(その六)。	14. 「言語四種論」の講読(その十三)。		15. 「言語四種論」講読の総括。
1. ガイダンス (講義の進め方、鈴木胤と「言語四種論」についての概説等)。	8. 「言語四種論」の講読(その七)。																				
2. 「言語四種論」の講読(その一)。	9. 「言語四種論」の講読(その八)。																				
3. 「言語四種論」の講読(その二)。	10. 「言語四種論」の講読(その九)。																				
4. 「言語四種論」の講読(その三)。	11. 「言語四種論」の講読(その十)。																				
5. 「言語四種論」の講読(その四)。	12. 「言語四種論」の講読(その十一)。																				
6. 「言語四種論」の講読(その五)。	13. 「言語四種論」の講読(その十二)。																				
7. 「言語四種論」の講読(その六)。	14. 「言語四種論」の講読(その十三)。																				
	15. 「言語四種論」講読の総括。																				
◇ 成績評価の方法	レポート(60%)、授業への取り組み方(20%)、出席(20%)。																				
◇ 教科書・参考書	特に使用しない。																				
◇ 授業時間外学習	必要があれば適宜指示する。 講義に臨むに当たっては、前回分を復習の上、次回分を読んで下調べしておくこと。																				
その他：特になし。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 語 構 造 論 研 究 演 習 I Structure of Japanese (Advanced Seminar) I	2	教授 小林 隆	1 学期	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN619J																				
◆ 授業題目	方言調査法 (method of the dialect investigation)																				
◆ 目的・概要	方言のしくみや地理的広がりを把握するための調査方法について具体的に検討する。記述的研究のほか、方言地理学や社会方言学、あるいは地方語文献による方言研究を取り上げる。また、方言会話の記録を一つのテーマとすることもある。学期の後半、ないし、夏休みに実際に方言調査を行うので、受講者は準備段階からそれに参加する必要がある。																				
◆ 到達目標	方言調査の方法を検討し、実際に調査を企画・実施する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明</td> <td>8. 中間報告(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業</td> <td>9. 調査票の作り方についての解説</td> </tr> <tr> <td>3. 方言的特徴の調べ方についての解説(1)</td> <td>10. 調査票の検討、方言会話の収録調査の方法</td> </tr> <tr> <td>4. 方言的特徴の調べ方についての解説(2)</td> <td>11. 調査票の検討、模擬調査と録音機の使い方</td> </tr> <tr> <td>5. テーマ等設定に向けての作業(1)</td> <td>12. 現地調査と結果の分析(1)</td> </tr> <tr> <td>6. テーマ等設定に向けての作業(2)</td> <td>13. 現地調査と結果の分析(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 中間報告(1)</td> <td>14. 最終報告(1)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 最終報告(2)、授業のまとめ</td> </tr> </table>					1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明	8. 中間報告(2)	2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業	9. 調査票の作り方についての解説	3. 方言的特徴の調べ方についての解説(1)	10. 調査票の検討、方言会話の収録調査の方法	4. 方言的特徴の調べ方についての解説(2)	11. 調査票の検討、模擬調査と録音機の使い方	5. テーマ等設定に向けての作業(1)	12. 現地調査と結果の分析(1)	6. テーマ等設定に向けての作業(2)	13. 現地調査と結果の分析(2)	7. 中間報告(1)	14. 最終報告(1)		15. 最終報告(2)、授業のまとめ
1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明	8. 中間報告(2)																				
2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業	9. 調査票の作り方についての解説																				
3. 方言的特徴の調べ方についての解説(1)	10. 調査票の検討、方言会話の収録調査の方法																				
4. 方言的特徴の調べ方についての解説(2)	11. 調査票の検討、模擬調査と録音機の使い方																				
5. テーマ等設定に向けての作業(1)	12. 現地調査と結果の分析(1)																				
6. テーマ等設定に向けての作業(2)	13. 現地調査と結果の分析(2)																				
7. 中間報告(1)	14. 最終報告(1)																				
	15. 最終報告(2)、授業のまとめ																				
◇ 成績評価の方法	レポート(50%)・出席(50%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書は適宜教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	①テーマの設定、中間報告、最終報告のための準備を行う。 ②現地調査に参加し、結果の分析を行う。																				
その他：オフィスアワー：随時																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 構 造 論 研 究 演 習 Ⅱ Structure of Japanese (Advanced Seminar) Ⅱ	2	准教授 甲 田 直 美	2 学期	月	3
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN620J				
◆ 授業題目	文章・談話の構造 (Discourse and Conversation Analysis)				
◆ 目的・概要	<p>これまでに共有・公開されている文章・談話のデータをもとに、文章・談話研究でのデータの採取の仕方とその分析方法について整理・検討する。以下の項目を、具体例の検証とともに押さえる。</p> <p>I. データの種類とその扱い：分析の観点、ジャンル、レジスター、談話標識の研究、照応と省略、接続表現などの文法項目と適切性に関する項目の研究手法、参与構造、話者交替に関する項目の研究手法、</p> <p>II. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法、</p> <p>III. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方</p>				
◆ 到達目標	(1)文章・談話研究のために必要な方法論を身につける。				
◆ 授業内容・方法	(2)データの採取方法と採取したデータの分析方法を身につける。				
	1. データの種類とその扱い：分析の観点	10. ドラマの構造分析			
	2. ジャンル、レジスター、スタイルと言語差	11. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法			
	3. テキストにおけるジャンル差	12. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法			
	4. コーパス研究 1	13. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法			
	5. コーパス研究 2	14. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方			
	6. 文章における諸現象 1	15. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方			
	7. 文章における諸現象 2				
	8. 会話における諸現象 1				
	9. 会話における諸現象 1				
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]・出席 [10%]・発表内容 [40%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。				
◇ 授業時間外学習	電子化データを検索し、鍵となる言語項目について分析する。論文を読んで、論点を把握し、批判的検討を行う。				
その他：受講希望者は日本語構造論特論Ⅱ「文章・談話の構造論」を履修しているのが望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 変 異 論 特 論 Ⅰ Variation of Japanese (Advanced Lecture) Ⅰ	2	教授 小 林 隆	2 学期	火	2
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN621J				
◆ 授業題目	方言学的日本語史研究 (study of the dialectological Japanese history)				
◆ 目的・概要	<p>これまでの国語史研究には、文献資料のみに頼り、しかも、中央語史に偏るという問題点があった。方言学的日本語史は、方言を視野に入れることによって、ことばの位相や地理的広がりの面で、従来の国語史の限界を超えることをめざす。この授業では、そのような研究の目的と方法論を解説し、具体的な歴史の記述を通してさまざまな課題について検討していく。</p> <p>今回は特に、これまで研究が進んでいなかった言葉の運用面を取り上げることにし、その地域差を明らかにするとともに、社会的な視点も交えて歴史的考察へと進んでいきたい。</p> <p>方言を視野に入れた日本語史研究について理解する。</p>				
◆ 到達目標	方言を視野に入れた日本語史研究について理解する。				
◆ 授業内容・方法	1. 授業への導入	9. 言語行動 (1)			
	2. 目的・方法・資料	10. 言語行動 (2)			
	3. オノマトペ (1)	11. 談話展開 (1)			
	4. オノマトペ (2)	12. 談話展開 (2)			
	5. 感動詞 (1)	13. 言語的発想法 (1)			
	6. 感動詞 (2)	14. 言語的発想法 (2)			
	7. 挨拶表現 (1)	15. まとめ			
	8. 挨拶表現 (2)				
◇ 成績評価の方法	レポート (80%)・出席 (20%)				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、補助資料を配布する。参考文献は、小林隆・澤村美幸『ものの言いかた西東』(岩波新書)のほか、授業時に指示する。				
◇ 授業時間外学習	言葉の運用面の地域差について、自分および周囲の人たちの言葉遣いを観察し、授業の内容理解に役立てるようにする。				
その他：オフィスアワー：随時					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 変 異 論 特 論 II Variation of Japanese (Advanced Lecture) II	2	教授 大 木 一 夫	1 学期	木	2
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN622J				
◆ 授業題目	日本語文法研究 (Study of Japanese grammar)				
◆ 目的・概要	現代日本語の文法現象をとりあげ、それについて文法的な分析を試みる。また、その内容について、具体的な例文にもとづきながら文法的に考え、議論する。加えて、現代日本語の分析の前提となる言語データの収集技法・分析視点についても検討を加える。なお、より具体的な講義内容・日程等の詳細は、開講時に提示する。				
◆ 到達目標	(1)日本語文法論における分析視点や論理展開の問題点を見いだすことができるようになる。 (2)文法論的に考え、その結果について報告や議論ができるようになる。 (3)日本語研究のための言語データ収集の技法を身につけ、それを実践できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 文法論の立場と方法 3. 文法論的分析 (1) 4. 文法論的分析 (2) 5. 文法論的分析 (3) 6. 文法論的分析 (4) 7. 文法論的分析 (5) 8. 文法論的分析 (6) 9. 文法論的分析 (7) 10. 文法論的分析 (8) 11. 文法論的分析 (9) 12. 文法論的分析 (10) 13. 文法論的分析 (11) 14. 文法論的分析 (12) 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	参加態度・講義内の小課題・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。				
◇ 教科書・参考書	必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。				
◇ 授業時間外学習	(1)テキストを読み、その内容の要点を把握して参加する。 (2)講義内の分析・議論についての疑問点を整理する。 (3)言語データの収集技法・分析視点についての課題をおこなう。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 変 異 論 特 論 III Variation of Japanese (Advanced Lecture) III	2	非常勤講師 新 井 小 枝 子	集 中 (1 学期)		
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN623J				
◆ 授業題目	日本語方言語彙研究 (study of the Japanese dialect lexicology)				
◆ 目的・概要	日本語における方言語彙研究の方法と課題を整理し、生活場面に即した意味分野を設定して分析を試みる。具体的には「絹文化に関する語彙」「食文化に関する語彙」を取り上げる。語彙資料の収集の仕方や扱い方を模索しながら、具体的な分析をすすめることを重視する。なお、より詳細な講義内容・日程等は、開講時に提示する。				
◆ 到達目標	(1)日本語方言語彙研究の考え方や立場を理解し、かつ、分析の観点を学び、自身の課題が具体的に設定できるようになる。 (2)語彙論的に考え、その結果について報告や議論ができるようになる。 (3)日本語方言語彙の研究をとらえて、地域の生活、歴史、文化について考えられるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・授業の目標 2. 方言語彙研究の方法と課題 (1) 3. 方言語彙研究の方法と課題 (2) 4. 絹文化に関する語彙 (1) 5. 絹文化に関する語彙 (2) 6. 絹文化に関する語彙 (3) 7. 絹文化に関する語彙 (4) 8. 絹文化に関する語彙 (5) 9. 絹文化に関する語彙 (6) 10. 食文化に関する語彙 (1) 11. 食文化に関する語彙 (2) 12. 食文化に関する語彙 (3) 13. 食文化に関する語彙 (4) 14. 食文化に関する語彙 (5) 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。				
◇ 教科書・参考書	教科書として、玉村豊男 (2010)『料理の四面体』中公文庫 (\648 ISBN978-4-12-205283-3) を使用する。 その他に必要な資料は印刷して配布する。参考書は講義内で提示する。				
◇ 授業時間外学習	教科書を読む。自身の使用語彙を内省したり、辞典類にあたって、方言語彙を収集する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 変 異 論 講 読 Variation of Japanese (Reading)	2	教授 大 木 一 夫	2 学期	木	2
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN624J				
◆ 授業題目	コーパスにもとづく日本語史研究 (Corpus based study of Japanese language history)				
◆ 目的・概要	言語の歴史を明らかにする方法として古い文献を利用する方法があり、日本語の歴史の場合、これを文献日本語史研究とすることができる。近年、この古い文献が電子化され、コンピュータを利用して検索することが比較的容易になってきている。このような電子化された言語資料体をコーパスというが、このコーパスは文献日本語史研究の進展におおいに有用なものと考えられる。そこで、日本語史研究に有用なコーパスを利用して、参加者が日本語の歴史についての調査・考察をおこなって、その成果を発表し、議論することを試みる。				
◆ 到達目標	(1)日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。 (2)日本語文法史上の問題点を見いだすことができるようになる。 (3)文献(コーパスを含む)によって日本語史をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論ができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. コーパスにもとづく言語研究への視点(1) 3. コーパスにもとづく言語研究への視点(2) 4. コーパスにもとづく日本語研究の方法(1) 5. コーパスにもとづく日本語研究の方法(2) 6. コーパス日本語史研究、研究発表(1) 7. コーパス日本語史研究、研究発表(2) 8. コーパス日本語史研究、研究発表(3) 9. コーパス日本語史研究、研究発表(4) 10. コーパス日本語史研究、研究発表(5) 11. コーパス日本語史研究、研究発表(6) 12. コーパス日本語史研究、研究発表(7) 13. コーパス日本語史研究、研究発表(8) 14. コーパス日本語史研究、研究発表(9) 15. コーパス日本語史研究、研究発表(10) まとめ 				
◇ 成績評価の方法	参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。				
◇ 教科書・参考書	必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。				
◇ 授業時間外学習	(1)日本語史研究にかかわる文献資料を読んで参加する。 (2)コーパスにもとづく言語研究・日本語文法史研究の方法について検討する。 (3)日本語史研究にかかわる文献資料・コーパスを用いて日本語史についての調査をおこなう。				
その他：(1)文献日本語史研究の基礎的な知見に不安のある場合は、「国語学講読」(今昔物語集を読む、前期・月2)に参加するとよい。 (2)コーパス利用の技法については、「日本語変異論特論Ⅱ」(日本語文法研究、前期・木2)でも扱う。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 変 異 論 研 究 演 習 I Variation of Japanese (Advanced Seminar) I	2	教授 齋 藤 倫 明・小 林 隆・大 木 一 夫 准教授 甲 田 直 美	1 学期	火	4
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN625J				
◆ 授業題目	国語史・方言研究の諸問題 (Research and Publication on the Japanese Language History and Dialect)				
◆ 目的・概要	国語史・方言研究について種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を認識しながら、自己のテーマと研究方法を定める。具体的には、自己のテーマに関する先行研究の調査、批判、および資料の精査に充分基づいた新たな方法論の確立、研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。				
◆ 到達目標	自己の研究テーマを深める。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (授業の進め方・発表順の決定等)。 2. 第一回目の発表。 3. 第二回目の発表。 4. 第三回目の発表。 5. 第四回目の発表。 6. 第五回目の発表。 7. 第六回目の発表。 8. 第七回目の発表。 9. 第八回目の発表。 10. 第九回目の発表。 11. 第十回目の発表。 12. 第十一回目の発表。 13. 第十二回目の発表。 14. 第十三回目の発表。 15. 第十四回目の発表、および総括。 				
◇ 成績評価の方法	レポート [90%]・出席 [10%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。				
◇ 授業時間外学習	発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。				
その他：発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 変 異 論 研 究 演 習 Ⅱ Variation of Japanese (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教授 齋藤 倫明・小林 隆・大木 一夫 准教授 甲田 直美	2 学期	火	4
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN626J				
◆ 授業題目	現代語研究の諸問題 (Research and Publication on the Japanese Contemporary Language)				
◆ 目的・概要	現代日本語研究について種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を認識しながら、自己のテーマと研究方法を定める。具体的には、自己のテーマに関する先行研究の調査、批判、および資料の精査に充分基づいた新たな方法論の確立、研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。				
◆ 到達目標	自己の研究テーマを深める。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (授業の進め方・発表順の決定等)。 2. 第一回目の発表。 3. 第二回目の発表。 4. 第三回目の発表。 5. 第四回目の発表。 6. 第五回目の発表。 7. 第六回目の発表。 8. 第七回目の発表。 9. 第八回目の発表。 10. 第九回目の発表。 11. 第十回目の発表。 12. 第十一回目の発表。 13. 第十二回目の発表。 14. 第十三回目の発表。 15. 第十四回目の発表、および総括。 				
◇ 成績評価の方法	レポート [90%]・出席 [10%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。				
◇ 授業時間外学習	発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。				
その他：発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 変 異 論 研 究 演 習 Ⅲ Variation of Japanese (Advanced Seminar) Ⅲ	2	教授 齋藤 倫明・小林 隆・大木 一夫 准教授 甲田 直美	1 学期	火	5
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN627J				
◆ 授業題目	国語史・方言研究の諸問題 (Research and Publication on the Japanese Language History and Dialect)				
◆ 目的・概要	国語史・方言研究について種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を認識しながら、自己のテーマと研究方法を定める。具体的には、自己のテーマに関する先行研究の調査、批判、および資料の精査に充分基づいた新たな方法論の確立、研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。				
◆ 到達目標	自己の研究テーマを深める。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (授業の進め方・発表順の決定等)。 2. 第一回目の発表。 3. 第二回目の発表。 4. 第三回目の発表。 5. 第四回目の発表。 6. 第五回目の発表。 7. 第六回目の発表。 8. 第七回目の発表。 9. 第八回目の発表。 10. 第九回目の発表。 11. 第十回目の発表。 12. 第十一回目の発表。 13. 第十二回目の発表。 14. 第十三回目の発表。 15. 第十四回目の発表、および総括。 				
◇ 成績評価の方法	レポート [90%]・出席 [10%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。				
◇ 授業時間外学習	発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。				
その他：発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 変 異 論 研 究 演 習 IV Variation of Japanese (Advanced Seminar) IV	2	教授 齋藤 倫明・小林 隆・大木 一夫 准教授 甲田 直美	2 学期	火	5
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN628J				
◆ 授業題目	現代語研究の諸問題 (Research and Publication on the Japanese Contemporary Language)				
◆ 目的・概要	現代日本語研究について種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を認識しながら、自己のテーマと研究方法を定める。具体的には、自己のテーマに関する先行研究の調査、批判、および資料の精査に充分基づいた新たな方法論の確立、研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。				
◆ 到達目標	自己の研究テーマを深める。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (授業の進め方・発表順の決定等)。 2. 第一回目の発表。 3. 第二回目の発表。 4. 第三回目の発表。 5. 第四回目の発表。 6. 第五回目の発表。 7. 第六回目の発表。 8. 第七回目の発表。 9. 第八回目の発表。 10. 第九回目の発表。 11. 第十回目の発表。 12. 第十一回目の発表。 13. 第十二回目の発表。 14. 第十三回目の発表。 15. 第十四回目の発表、および総括。 				
◇ 成績評価の方法	レポート [90%]・出席 [10%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。				
◇ 授業時間外学習	発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。				
その他：発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 論 特 論 I Applied Japanese Linguistics (Advanced Lecture) I	2	非常勤 講師 長 田 佳奈子	1 学期	火	4
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN630J				
◆ 授業題目	海外の日本語教育 (Japanese-Language Education Abroad)				
◆ 目的・概要	海外における日本語教育が広がる中、母語話者教師、非母語話者教師を問わず、日本語教師が果たすべき役割も多様化している。教師として日本語を教えるだけでなく、現地の教師育成支援、ネットワーク形成、アドボカシー等に貢献できるよう、海外の日本語教育を、さまざまな視点からとらえる。				
◆ 到達目標	海外における日本語教育の現状、課題を捉え、その対策が考えられる。 海外で、現地の日本語教育関係者とともに、カリキュラムを考えたり、研修やイベントを実施したりするために必要な視点を獲得。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 海外で教える日本語教師に求められる要素 3. 海外の日本語教育の現状 (アジア) 4. 海外の日本語教育の現状 (アジア以外) 5. 海外の初・中等教育における日本語科目 6. 海外の高等教育における日本語教育 7. 海外の日本語予備教育 8. 海外で求められるビジネス日本語 9. 海外における日本語教師養成、教師育成 10. 海外における母語話者教師と非母語話者教師のチーム・ティーチング 11. 海外で現地日本語母語話者をゲストに呼んだ日本語授業を実施する 12. 海外で日本語学習者対象の日本語、日本文化イベントを企画、運営する 13. 非母語話者教師対象のワークショップを企画、運営する 14. 海外における日本語教師ネットワーク形成 15. まとめ 海外における日本語教育の現状と課題 				
◇ 成績評価の方法	レポート 50%・授業課題30%・発言ならびにクラス参加度とクラス貢献度 20%				
◇ 教科書・参考書	参考書：椎名和男編 (2006)『海外で日本語を教える - ネイティブ日本語教師への期待-』凡人社				
◇ 授業時間外学習	参考書、配布資料を読む。 与えられた課題を行う。				
特別な理由なく3回以上欠席した場合には単位を与えないので注意すること。 その他：授業内で多くの発表活動を行うが、発表に対しては他の受講者からの率直な評価や改善案の提示などのフィードバックが期待されている。各受講者には積極的に課題に取り組み、クラス全体の学習に貢献すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 論 特 論 II Applied Japanese Linguistics (Advanced Lecture) II	2	非常勤 講師 島 崎 薫	2 学期	金	3
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN631J				
◆ 授業題目	学習者と社会 (Japanese language learners and society)				
◆ 目的・概要	日本語学習者が日本語使用者としてどのように社会の中で活動しているのかを知り、実践研究や報告を参照しながら、日本語教師はどのように日本語学習者の日本語使用者としての社会での活動や学びを支援できるのかを考えます。				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1)日本語学習者が日本語使用者としてどのように教室の外で活動しているのかを知る (2)日本語学習者と社会に関する論文や実践報告などをクリティカルに読むことができる (3)学習者の日本語使用者としての社会での学びや活動を支援するプログラムデザインができるようになる (4)グループで協力しながらプログラムデザインを行うことができる 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、自己紹介 2. 理論的背景を学ぶ (社会文化アプローチ、状況論、リソースなど) 3. 教室の中に社会を持ち込む ① 4. 教室の中に社会を持ち込む ② 5. 教室と社会を繋げる ① 6. 教室と社会を繋げる ② 7. 社会を教室にする ① 8. 社会を教室にする ② 9. 社会を教室にする ③ 10. 日本語学習者の教室外での日本語使用を知る 11. 東北大学のサマープログラムの紹介/プログラムデザイン 12. グループでプログラムデザイン 13. デザインしたプログラムをグループごとに中間発表 14. 中間発表でのフィードバックを踏まえて最終発表に向けての準備 15. 受講生のデザインしたプログラム最終発表、まとめ 				
◇ 成績評価の方法	参加態度40%、プログラムデザイン (グループプロジェクト) 30%、最終レポート30%				
◇ 教科書・参考書	授業内で適宜配布予定				
◇ 授業時間外学習	授業時間外でグループ活動をする必要があります。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 論 特 論 Ⅲ Applied Japanese Linguistics (Advanced Lecture) Ⅲ	2	非常勤 講師 横 溝 紳一郎	集 中 (1学期)		
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN632J				
◆ 授業題目	日本語教育方法論 (Japanese Language Pedagogy)				
◆ 目的・概要	日本語教育の現場で生じる様々な出来事に適切に対処するために必要不可欠な技術・知識について、包括的に講義を行う。				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語教師の役割が理解できる。 2. テストと評価の大切さが理解できる。 3. 教材と学習環境の大切さが理解できる。 4. 多様な学習者を受け止め、その多様性への対応の大切さが理解できる。 5. 学習者との信頼関係づくりの大切さが理解できる。 6. 教師としての自分の言動をふり返るポイントが理解できる。 7. 自律的学習者の育成方法が理解できる。 8. 学習支援者としての心構えが理解できる。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、教師の成長 2. 教師の役割 3. テストと評価 (1) 4. テストと評価 (2) 5. 教材と学習環境 (1) 6. 教材と学習環境 (2) 7. 多様な学習者の理解 8. 多様な学習者への対応 9. 学習者との信頼関係づくり (1) 10. 学習者との信頼関係づくり (2) 11. 教師の言動のふり返り (1) 12. 教師の言動のふり返り (2) 13. 教師の言動のふり返り (3) 14. 自律的学習者の育成 15. 学習支援者としての心構え、まとめ 				
◇ 成績評価の方法	出席を含む授業態度 (50%) と、期末レポート (50%) により評価する。 欠席3回で、自動的に不可となる。遅刻・早退は、2回で欠席1回とみなす。				
◇ 教科書・参考書	教科書：横溝紳一郎 (2011) 『クラスルーム運営』 くろしお出版 参考書：川口義一・横溝紳一郎 (2005) 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上・下』 ひつじ書房				
◇ 授業時間外学習	毎回の授業で学んだ内容について、教科書に書かれている内容をしっかり復習し、理解を深め続けること。				
その他：	1. 出席と積極的な参加を重視します。(授業中の私語・スマホ使用は厳禁！) 2. これまでの学習者/教師としての体験を振り返りながら、授業に参加してください。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 論 講 読 Applied Japanese Linguistics (Reading)	2	准教授 小 河 原 義 朗	1 学期	月	2
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN634J				
◆ 授業題目	第二言語習得研究 (Second Language Acquisition Research)				
◆ 目的・概要	日本語を教えるために必要な第二言語習得の基本的な考え方を理解し、授業実践と結び付けて考えることを目指す。授業は、第二言語習得に関して提示された課題について次のような活動を通して進める。 (1)資料をもとに課題に対する考えをまとめる。(2)担当資料を理解し、課題を解く。(3)担当資料を紹介し合い、協働して課題に対する解作りに取り組む。(4)課題に対する解を発表し合い、全体で議論する。 (5)課題に対する解について改めてまとめる。				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1)第二言語習得の基本的な考え方を理解し、説明できる。 (2)第二言語習得研究の知見を日本語教育の具体的な授業実践と結び付けて考えることができる。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 課題1 3. 課題2-1 4. 課題2-2 5. 課題3-1 6. 課題3-2 7. 課題4-1 8. 課題4-2 9. 課題5-1 10. 課題5-2 11. 課題6-1 12. 課題6-2 13. 課題7-1 14. 課題7-2 15. まとめと期末テスト 				
◇ 成績評価の方法	期末テスト 30%・課題 40%・授業参加度 30%				
◇ 教科書・参考書	授業内で指定、または配布する。				
◇ 授業時間外学習	提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。				
その他：	3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 論 研 究 演 習 I Applied Japanese Linguistics (Advanced Seminar) I	2	教 授 才 田 い ず み	1 学 期	月	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LLI-LIN635J 読解の授業と教材 (Activities and Materials for Reading Comprehension) 読解という活動は、取り組んでいる学習者がどのように理解に達しているかが見えない活動である。通常、内容確認質問を行うことで理解の程度を知ろうとするわけだが、内容確認質問への答えからは何がわかるだろうか。教師は、授業の中で学習者に行わせる活動を通して何が把握でき、何が把握できないのかを意識して活動を展開する必要がある。 この授業では、読みをめぐる教材とタスクデザインによって、学習者がどのようなことを考えたのか、あるいは考えているのかを、可視化するにはどうしたらよいか、受講者全員で考える。 また、自分のアイデアを盛り込んだ読解教材あるいはタスクデザインの提案を行い、それぞれの提案について議論することによって、よりよい教材や授業デザインを志向する。				
◆ 到達目標	学習者が読むことに取り組みやすい教材デザインとはどのようなものかを考えることができるようになる。 学習者の読みのプロセスが把握しやすくなる教材デザインや授業活動の展開方法について、さまざまなアイデアを出すことができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 「読める」とは何ができることで、「読めない」とは何ができないことか。 2. 市販教材の検討 (1) 3. 改善策の検討と提案 (1) 4. 改善策の検討と提案 (2) 5. 市販教材の検討 (2) 6. タスクの検討：その意味と期待される効果 7. リソースの選定について 8. 予習の与え方について 9. フィードバックが組み込まれるタスクとは 10. 発表と質疑 (1) 11. 発表と質疑 (2) 12. 発表と質疑 (3) 13. 改善の提案 (1) 14. 改善の提案 (2) 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	期末レポート 30%、教材・タスクの提案 20%、発表とその態度 20%、 質疑・コメント等による授業への貢献 20%、出席 10%				
◇ 教科書・参考書	教科書は用いない。参考文獻は適宜紹介する。 参考書：奥田純子監修、竹田悦子他編著 (2011)『読む力 中級』くろしお出版 縫部義憲編著 (2002)『多文化共生時代の日本語教育－日本語の効果的な教え方・学び方』瀝々社ほか				
◇ 授業時間外学習	授業課題を行い、わかりやすい発表の準備をする。紹介された文献を読む。 自分の読みの活動を観察し内省する。				
その他：授業では、積極的に発言し、他の受講者の思考に刺激を与える存在になること。 3回以上授業を欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 論 研 究 演 習 II Applied Japanese Linguistics (Advanced Seminar) II	2	准教授 小 河 原 義 朗	2 学 期	火	4
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LLI-LIN636J 学習者の音声と教育 (Learners' Pronunciation and its Education) 日本語学習者はよりよい音声の実現に対して、高いニーズを持っている。この演習では、さまざまな母語を持つ学習者のいる教室を念頭に、有効な音声教育の方法について考えていく。 授業においては、具体的な指導法を考えて実践してみる活動や、市販の教材の利用法の検討、オリジナル教材の作成など、グループや個人単位での活動とその発表が盛り込まれる。 各受講者は積極的に課題に取り組み、クラス全体の学習に貢献すること。				
◆ 到達目標	日本語学習者に対する音声教育について、その考え方や方法を学び、基礎的な運用ができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 音声とコミュニケーション 3. 音声言語と文字言語 4. 学習者の音声 5. 子音・母音 (1) 6. 子音・母音 (2) 7. 特殊拍と音素 8. 韻律 (1) 9. 韻律 (2) 10. 教科書分析と模擬授業 (1) 11. 教科書分析と模擬授業 (2) 12. 模擬授業の振り返り 13. 音声教育と研究 (1) 14. 音声教育と研究 (2) 15. 音声教育の方法と教師の役割・まとめ 				
◇ 成績評価の方法	期末レポート 30%・授業課題 40%・発言ならびにクラス参加度とクラス貢献度 30%				
◇ 教科書・参考書	参考書：松崎寛・河野俊之 (1998)『よくわかる音声』アルク。 小河原義朗・河野俊之 (2009)『日本語教師のための音声教育を考える本』アルク。ほか				
◇ 授業時間外学習	参考書を読む。与えられた課題を行う。				
特別な理由なく3回以上欠席した場合には単位を与えないので注意すること。 その他：授業内で多くの発表活動を行うが、発表に際しては、他の受講者からの率直な評価や改善案の提示などのフィードバックが得られるよう、わかりやすい提示を心がけること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 語 教 育 論 実 習 I Methodologies in Japanese Language Teaching (Practice) I	2	教 授 才 田 い ず み	1 学 期	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN637J																				
◆ 授業題目	日本語コース運営の基礎 (Basics for Designing a Japanese Language Course)																				
◆ 目的・概要	日本語のコースデザインやコースの実施運営に必要な内容を学び、身につける。 1. コースデザインや授業デザイン、教師教育関連の論文を読みながら、夏季休暇中に実施予定の日本語コースに対するレディネスを高める。 2. 夏季集中コースのためのコースデザインを行う。 3. コース運営に必要な種々の準備作業を行う。																				
◆ 到達目標	(1)コースデザインやコース運営に対するレディネスを高める。 (2)実際に日本語夏季集中コースのコースデザインを行う。 (3)日本語夏季集中コースのための準備作業を行う。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション 夏季日本語コース関連スケジュールの検討</td> <td>9. 事前インタビュー調査またはオリエンテーションの実施</td> </tr> <tr> <td>2. コースデザインとシラバスデザイン案の作成 1</td> <td>10. 学習者情報の分析とコースデザインの改訂</td> </tr> <tr> <td>3. コースデザインとシラバスデザイン案の作成 2</td> <td>11. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 1</td> </tr> <tr> <td>4. 事前調査について 学習者募集の検討</td> <td>12. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 2</td> </tr> <tr> <td>5. ニーズ調査・レディネス調査の調査票作成</td> <td>13. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 3</td> </tr> <tr> <td>6. ニーズ調査・レディネス調査の調査票の改訂</td> <td>14. 日本語夏季集中コースの詳細の決定</td> </tr> <tr> <td>7. 学習者の日本語力の測定と評価</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. プレイスメントテスト案の作成・検討</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション 夏季日本語コース関連スケジュールの検討	9. 事前インタビュー調査またはオリエンテーションの実施	2. コースデザインとシラバスデザイン案の作成 1	10. 学習者情報の分析とコースデザインの改訂	3. コースデザインとシラバスデザイン案の作成 2	11. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 1	4. 事前調査について 学習者募集の検討	12. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 2	5. ニーズ調査・レディネス調査の調査票作成	13. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 3	6. ニーズ調査・レディネス調査の調査票の改訂	14. 日本語夏季集中コースの詳細の決定	7. 学習者の日本語力の測定と評価	15. まとめ	8. プレイスメントテスト案の作成・検討	
1. イントロダクション 夏季日本語コース関連スケジュールの検討	9. 事前インタビュー調査またはオリエンテーションの実施																				
2. コースデザインとシラバスデザイン案の作成 1	10. 学習者情報の分析とコースデザインの改訂																				
3. コースデザインとシラバスデザイン案の作成 2	11. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 1																				
4. 事前調査について 学習者募集の検討	12. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 2																				
5. ニーズ調査・レディネス調査の調査票作成	13. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 3																				
6. ニーズ調査・レディネス調査の調査票の改訂	14. 日本語夏季集中コースの詳細の決定																				
7. 学習者の日本語力の測定と評価	15. まとめ																				
8. プレイスメントテスト案の作成・検討																					
◇ 成績評価の方法	レポート50%、平常点(クラス参加度・授業課題・ジャーナル) 50%																				
◇ 教科書・参考書	適宜教員が指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の授業で、次回までの課題が課せられる。本授業の課題として運営する夏季日本語コースに関する作業のほとんどは、授業時間外に行う必要があると想定しておくこと。																				
その他：履修要件：夏季休暇中の教壇実習に参加できること(日本語夏季集中コースは8月の数週間を使って実施予定)。2学期の日本語教育論実習Ⅱが履修できること。教壇実習の報告書の作成に参加できること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 語 教 育 論 実 習 II Methodologies in Japanese Language Teaching (Practice) II	2	教 授 才 田 い ず み	2 学 期	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN638J																				
◆ 授業題目	日本語コースの評価と改善 (Japanese Language Course Reflection for further Development)																				
◆ 目的・概要	夏季休暇中に運営した集中日本語コースを材料に、授業活動や授業運営、コース運営について分析・評価を行う。その活動を通して、日本語コースのデザインや運営についての気づきと、より広い知識を得る。 具体的には以下の項目を扱う。 1) 授業データを利用して、種々の分析法を学びながら、授業を記述・分析することの意義について検討する。 2) 授業ビデオを詳細に検討することによって、授業・およびコースデザインの評価を行い、改善策を考える。 3) コース全体を振り返り、その問題点を検討し、改善策を考える。																				
◆ 到達目標	(1)授業の記述・分析と評価ができる。 (2)コース・授業の改善・発展について有効なアイデアを出すことができる。 (3)日本語コースのデザインや運営についての気づきと、より広い知識を得る。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 授業分析の枠組み 2</td> </tr> <tr> <td>2. 夏季集中コースについての振り返り</td> <td>10. 分析枠組みを用いた結果の検討 1</td> </tr> <tr> <td>3. 授業ビデオの検討：問題点の抽出 1</td> <td>11. 分析枠組みを用いた結果の検討 2</td> </tr> <tr> <td>4. 授業ビデオの検討：問題点の抽出 2</td> <td>12. 分析枠組みを用いた結果の検討 3</td> </tr> <tr> <td>5. 授業ビデオの検討：問題点の抽出 3</td> <td>13. 分析枠組みを用いた結果の検討 4</td> </tr> <tr> <td>6. 改善策の検討</td> <td>14. 教師としての自分の傾向について考える</td> </tr> <tr> <td>7. 書き起こしデータから見えることを考える</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 授業分析の枠組み 1</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 授業分析の枠組み 2	2. 夏季集中コースについての振り返り	10. 分析枠組みを用いた結果の検討 1	3. 授業ビデオの検討：問題点の抽出 1	11. 分析枠組みを用いた結果の検討 2	4. 授業ビデオの検討：問題点の抽出 2	12. 分析枠組みを用いた結果の検討 3	5. 授業ビデオの検討：問題点の抽出 3	13. 分析枠組みを用いた結果の検討 4	6. 改善策の検討	14. 教師としての自分の傾向について考える	7. 書き起こしデータから見えることを考える	15. まとめ	8. 授業分析の枠組み 1	
1. イントロダクション	9. 授業分析の枠組み 2																				
2. 夏季集中コースについての振り返り	10. 分析枠組みを用いた結果の検討 1																				
3. 授業ビデオの検討：問題点の抽出 1	11. 分析枠組みを用いた結果の検討 2																				
4. 授業ビデオの検討：問題点の抽出 2	12. 分析枠組みを用いた結果の検討 3																				
5. 授業ビデオの検討：問題点の抽出 3	13. 分析枠組みを用いた結果の検討 4																				
6. 改善策の検討	14. 教師としての自分の傾向について考える																				
7. 書き起こしデータから見えることを考える	15. まとめ																				
8. 授業分析の枠組み 1																					
◇ 成績評価の方法	レポート50%、平常点(クラス参加度、授業課題、ジャーナル) 40%、実習報告書への貢献10%																				
◇ 教科書・参考書	適宜教員が指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業データに関する分析作業は、ほとんど授業時間外に実施する課題となる。 毎回の授業を振り返りジャーナルを書くことを課すが、これも時間外の学習課題である。																				
その他：履修要件：日本語教育論実習Ⅰを履修済みであること。 3回以上欠席した場合には、特別な理由のない限り単位を与えないので注意すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
比 較 現 代 日 本 論 講 読 I Comparative study on Contemporary Japan (Reading) I	2	准教授 田 中 重 人	1 学期	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN641J																				
◆ 授業題目	現代日本論論文講読 (Reading seminar in contemporary Japanese studies)																				
◆ 目的・概要	研究は、学術雑誌の原著論文を探して読むことから始まります。この授業では、文献データベースを使って論文を探し、その内容を読み、プレゼンテーションと質疑応答を通して理解していくことを目指します。とりあげる論文は、現代日本文化に関するもので、日本語または英語のもの、という条件のなかで、受講者の興味にしたがって選定します。1論文を、(a)鍵概念の抽出 (scanning)、(b)構造の抽出 (skimming)、(c)図表の解説、(d)ロジックの抽出、の4人で分担して、それぞれの担当者がコンピュータを使用したプレゼンテーションをおこないます。																				
◆ 到達目標	(1)論文の探しかたと読みかたを理解する； (2)プレゼンテーションと質疑応答の技術を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. プレゼンテーション (1)</td> </tr> <tr> <td>2. 論文をさがす (1): 日本語文献</td> <td>10. プレゼンテーション (2)</td> </tr> <tr> <td>3. 論文をさがす (2): 英語文献</td> <td>11. 録画視聴と振り返り (1)</td> </tr> <tr> <td>4. 論文の読みかた (1): 鍵概念と構造</td> <td>12. プレゼンテーション (3)</td> </tr> <tr> <td>5. 論文の読みかた (2): 図表とロジック</td> <td>13. プレゼンテーション (4)</td> </tr> <tr> <td>6. プレゼンテーション資料の作成</td> <td>14. 録画視聴と振り返り (2)</td> </tr> <tr> <td>7. プレゼンテーションの準備</td> <td>15. 全体のまとめと講評</td> </tr> <tr> <td>8. 発表と質疑</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. プレゼンテーション (1)	2. 論文をさがす (1): 日本語文献	10. プレゼンテーション (2)	3. 論文をさがす (2): 英語文献	11. 録画視聴と振り返り (1)	4. 論文の読みかた (1): 鍵概念と構造	12. プレゼンテーション (3)	5. 論文の読みかた (2): 図表とロジック	13. プレゼンテーション (4)	6. プレゼンテーション資料の作成	14. 録画視聴と振り返り (2)	7. プレゼンテーションの準備	15. 全体のまとめと講評	8. 発表と質疑	
1. イントロダクション	9. プレゼンテーション (1)																				
2. 論文をさがす (1): 日本語文献	10. プレゼンテーション (2)																				
3. 論文をさがす (2): 英語文献	11. 録画視聴と振り返り (1)																				
4. 論文の読みかた (1): 鍵概念と構造	12. プレゼンテーション (3)																				
5. 論文の読みかた (2): 図表とロジック	13. プレゼンテーション (4)																				
6. プレゼンテーション資料の作成	14. 録画視聴と振り返り (2)																				
7. プレゼンテーションの準備	15. 全体のまとめと講評																				
8. 発表と質疑																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題 (30%)、担当部分のプレゼンテーション (40%)、プレゼンテーションに対する質疑応答 (30%) を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 東北大学附属図書館『情報探索の基礎知識』基本編／人文社会科学編。 【参考書】 諏訪邦夫 (1995) 『発表の技法』講談社。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の授業での課題のほか、取り上げる論文の読解、プレゼンテーションの資料作成と準備、プレゼンテーション録画を見ての反省をおこなうこと																				
その他：授業計画は、受講者の人数によって変更する可能性がある。授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
比 較 現 代 日 本 論 研 究 演 習 I Comparative study on Contemporary Japan (Advanced Seminar) I	2	准教授 田 中 重 人	1 学期	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN643J																				
◆ 授業題目	統計分析の基礎 (Basics of Statistical Analysis)																				
◆ 目的・概要	意識調査・テスト・実験などのデータはどのように分析すればいいのでしょうか。この授業では、小規模の標本調査を念頭において、統計分析の基礎的な手法を学びます。これまで統計的な分析をおこなったことのない人を対象に、初歩から講義します。同時に、コンピュータを実際に使って、データ分析の実習をおこないます。																				
◆ 到達目標	(1)統計分析の基礎を理解する； (2)データ分析ができるようになる																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 平均と分散</td> </tr> <tr> <td>2. SPSS入門</td> <td>10. 平均値の比較</td> </tr> <tr> <td>3. 統計分析の基礎</td> <td>11. 分散分析</td> </tr> <tr> <td>4. 度数分布表とグラフの利用</td> <td>12. 推測統計の基礎と区間推定</td> </tr> <tr> <td>5. クロス表分析の基礎</td> <td>13. 統計的検定</td> </tr> <tr> <td>6. 連関係数</td> <td>14. さまざまな検定手法</td> </tr> <tr> <td>7. クロス表の解釈</td> <td>15. 全体のまとめとレポート内容についての相談</td> </tr> <tr> <td>8. 前回までの復習と進捗確認課題</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 平均と分散	2. SPSS入門	10. 平均値の比較	3. 統計分析の基礎	11. 分散分析	4. 度数分布表とグラフの利用	12. 推測統計の基礎と区間推定	5. クロス表分析の基礎	13. 統計的検定	6. 連関係数	14. さまざまな検定手法	7. クロス表の解釈	15. 全体のまとめとレポート内容についての相談	8. 前回までの復習と進捗確認課題	
1. イントロダクション	9. 平均と分散																				
2. SPSS入門	10. 平均値の比較																				
3. 統計分析の基礎	11. 分散分析																				
4. 度数分布表とグラフの利用	12. 推測統計の基礎と区間推定																				
5. クロス表分析の基礎	13. 統計的検定																				
6. 連関係数	14. さまざまな検定手法																				
7. クロス表の解釈	15. 全体のまとめとレポート内容についての相談																				
8. 前回までの復習と進捗確認課題																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題 (70%)、期末レポート (30%) を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 吉田寿夫 (1998) 『本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の課題とレポート作成の準備																				
その他：実習室で使用できるコンピュータ台数が限られているため、受講人数を制限することがある。 授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
比 較 現 代 日 本 論 研 究 演 習 Ⅱ Comparative study on Contemporary Japan (Advanced Seminar) Ⅱ	2	准教授 田 中 重 人	1 学 期	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN644J																				
◆ 授業題目	質問紙調査の基礎 (Basics of Questionnaire Survey)																				
◆ 目的・概要	質問紙を使った調査の方法についての講義と実習をおこないます。講義では、質問紙調査の基本的な概念と方法、仮説設定からレポート作成までの一連のプロセスについて解説します。実習では、受講者が各自の選んだ研究テーマに沿って文献収集をおこない、テーマへの理論的アプローチを検討し、質問紙を作成し、調査を実施し、その結果をレポートとして提出します。																				
◆ 到達目標	(1)質問紙調査の長所と短所を把握する； (2)質問紙調査の実際のプロセスについて、体験を通して習得する																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 調査票の検討</td> </tr> <tr> <td>2. 調査課題の設定</td> <td>10. エディティングとコーディング</td> </tr> <tr> <td>3. 既存調査と先行研究の探索</td> <td>11. データの入力と点検</td> </tr> <tr> <td>4. 調査対象者と調査方法</td> <td>12. 報告書の執筆</td> </tr> <tr> <td>5. 調査の企画</td> <td>13. 調査結果発表会 (1)</td> </tr> <tr> <td>6. 質問文と回答欄</td> <td>14. 調査結果発表会 (2)</td> </tr> <tr> <td>7. 調査実施について面談</td> <td>15. 全体のまとめとレポート執筆についての相談</td> </tr> <tr> <td>8. 調査票の構成</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 調査票の検討	2. 調査課題の設定	10. エディティングとコーディング	3. 既存調査と先行研究の探索	11. データの入力と点検	4. 調査対象者と調査方法	12. 報告書の執筆	5. 調査の企画	13. 調査結果発表会 (1)	6. 質問文と回答欄	14. 調査結果発表会 (2)	7. 調査実施について面談	15. 全体のまとめとレポート執筆についての相談	8. 調査票の構成	
1. イントロダクション	9. 調査票の検討																				
2. 調査課題の設定	10. エディティングとコーディング																				
3. 既存調査と先行研究の探索	11. データの入力と点検																				
4. 調査対象者と調査方法	12. 報告書の執筆																				
5. 調査の企画	13. 調査結果発表会 (1)																				
6. 質問文と回答欄	14. 調査結果発表会 (2)																				
7. 調査実施について面談	15. 全体のまとめとレポート執筆についての相談																				
8. 調査票の構成																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題 (40%)、学期末に提出する質問紙 (30%)、調査結果に基づくレポート (30%) を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 轟亮・杉野勇 (編) (2013) 『入門・社会調査法 [第2版]』法律文化社。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の課題と調査の企画・実施およびレポート作成																				
その他：1 学期開講の比較現代日本論研究演習Ⅰ「統計分析の基礎」をあわせて履修することが望ましい。 授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
比 較 現 代 日 本 論 研 究 演 習 Ⅱ Comparative study on Contemporary Japan (Advanced Seminar) Ⅱ	2	准教授 田 中 重 人	2 学 期	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN644J																				
◆ 授業題目	調査的面接の基礎 (Basics of In-depth Interview)																				
◆ 目的・概要	面接法による質的調査の方法についての講義と実習をおこないます。講義では、面接調査の基本的な方法とプロセスについて解説します。実習では、受講者が各自の選んだ研究テーマに沿って文献収集をおこない、面接調査を実施し、その結果をレポートとして提出します。																				
◆ 到達目標	(1)面接調査の長所と短所を把握する； (2)面接調査の実際のプロセスについて、体験を通して習得する																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. インタビュー実施から書き起こしまで</td> </tr> <tr> <td>2. 研究のイメージをつかむ</td> <td>10. 分析</td> </tr> <tr> <td>3. 調査的面接の方法</td> <td>11. 報告書</td> </tr> <tr> <td>4. シナリオの作成</td> <td>12. 発表会 (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 面接実習</td> <td>13. 発表会 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 面接実習結果について検討</td> <td>14. 調査的面接の倫理</td> </tr> <tr> <td>7. 対象者の選びかた</td> <td>15. 全体のまとめ；</td> </tr> <tr> <td>8. 調査計画について討論</td> <td>レポート執筆に向けて討論</td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. インタビュー実施から書き起こしまで	2. 研究のイメージをつかむ	10. 分析	3. 調査的面接の方法	11. 報告書	4. シナリオの作成	12. 発表会 (1)	5. 面接実習	13. 発表会 (2)	6. 面接実習結果について検討	14. 調査的面接の倫理	7. 対象者の選びかた	15. 全体のまとめ；	8. 調査計画について討論	レポート執筆に向けて討論
1. イントロダクション	9. インタビュー実施から書き起こしまで																				
2. 研究のイメージをつかむ	10. 分析																				
3. 調査的面接の方法	11. 報告書																				
4. シナリオの作成	12. 発表会 (1)																				
5. 面接実習	13. 発表会 (2)																				
6. 面接実習結果について検討	14. 調査的面接の倫理																				
7. 対象者の選びかた	15. 全体のまとめ；																				
8. 調査計画について討論	レポート執筆に向けて討論																				
◇ 成績評価の方法	授業中の課題 (50%)、調査結果に基づく口頭発表とレポート (50%) を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 松浦均・西口利文 (2008) 『観察法・調査的面接法の進め方』ナカニシヤ出版。																				
◇ 授業時間外学習	各回の課題と各自の調査企画、実施およびレポート作成																				
その他：1 学期開講の比較現代日本論研究演習Ⅱ「質問紙調査の基礎」も履修することが望ましい。 授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
比 較 現 代 日 本 論 研 究 演 習 Ⅲ Comparative study on Contemporary Japan (Advanced Seminar) Ⅲ	2	准教授 田 中 重 人	2 学 期	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN645J																				
◆ 授業題目	実践的統計分析法 (Statistical Analysis in Practice)																				
◆ 目的・概要	研究の現場で必要となる統計分析手法は、分析の目的とデータの特徴によってさまざまです。この授業の前半では、推測統計学の基本的な概念について解説し、統計的推定および検定の方法について学びます。後半では、さまざまな分析手法を取りあげて、それらの特徴と使い方を習得していきます。どのような分析手法を取りあげるかについては、受講者の関心と必要性を考慮します。統計解析パッケージを使ってデータ分析の実習をおこないます。																				
◆ 到達目標	さまざまな統計分析手法を理解し、使いこなせるようになる																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 推測統計の基礎</td> <td>9. 対応のある平均値の比較</td> </tr> <tr> <td>2. 正規分布の利用</td> <td>10. 多変量解析 (1)</td> </tr> <tr> <td>3. 統計的検定と検定力</td> <td>11. 多変量解析 (2)</td> </tr> <tr> <td>4. 順位相関係数</td> <td>12. 多変量解析 (3)</td> </tr> <tr> <td>5. 積率相関係数</td> <td>13. 多変量解析 (4)</td> </tr> <tr> <td>6. 相関係数行列</td> <td>14. 多変量解析 (5)</td> </tr> <tr> <td>7. 前回までの復習と進度確認課題</td> <td>15. 全体のまとめとレポート内容について相談</td> </tr> <tr> <td>8. 符号検定</td> <td></td> </tr> </table>					1. 推測統計の基礎	9. 対応のある平均値の比較	2. 正規分布の利用	10. 多変量解析 (1)	3. 統計的検定と検定力	11. 多変量解析 (2)	4. 順位相関係数	12. 多変量解析 (3)	5. 積率相関係数	13. 多変量解析 (4)	6. 相関係数行列	14. 多変量解析 (5)	7. 前回までの復習と進度確認課題	15. 全体のまとめとレポート内容について相談	8. 符号検定	
1. 推測統計の基礎	9. 対応のある平均値の比較																				
2. 正規分布の利用	10. 多変量解析 (1)																				
3. 統計的検定と検定力	11. 多変量解析 (2)																				
4. 順位相関係数	12. 多変量解析 (3)																				
5. 積率相関係数	13. 多変量解析 (4)																				
6. 相関係数行列	14. 多変量解析 (5)																				
7. 前回までの復習と進度確認課題	15. 全体のまとめとレポート内容について相談																				
8. 符号検定																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題 (70%)、期末レポート (30%) を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 吉田寿夫 (1998) 『本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』 北大路書房。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の課題とレポート作成の準備																				
その他：1学期開講の比較現代日本論研究演習Ⅰ「統計分析の基礎」を履修済みか、それと同等の知識を習得済みの者を対象とする。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 古 代 ・ 中 世 史 特 論 I Ancient and Medieval History in Japan (Advanced Lecture) I	2	准教授 堀 裕	1 学期	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS601J																				
◆ 授業題目	日本古代史の研究と方法(1) (Research and method of Japanese ancient history)																				
◆ 目的・概要	日本古代史に関する代表的な論文を読む。おもに受講生による報告を通して、日本古代史の研究成果を学ぶとともに、論文から何を読み取り、何を考えるべきかを検討する。																				
◆ 到達目標	日本古代史の研究成果と研究方法を学ぶ																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>8. 論文講読 6</td> </tr> <tr> <td>進め方と目的、評価方法についての説明</td> <td>9. 論文講読 7</td> </tr> <tr> <td>2. 論文を読む方法</td> <td>10. 論文講読 8</td> </tr> <tr> <td>3. 論文講読 1</td> <td>11. 論文講読 9</td> </tr> <tr> <td>4. 論文講読 2</td> <td>12. 論文講読 10</td> </tr> <tr> <td>5. 論文講読 3</td> <td>13. 論文講読 11</td> </tr> <tr> <td>6. 論文講読 4</td> <td>14. 論文講読 12</td> </tr> <tr> <td>7. 論文講読 5</td> <td>15. まとめ</td> </tr> </table>					1. ガイダンス	8. 論文講読 6	進め方と目的、評価方法についての説明	9. 論文講読 7	2. 論文を読む方法	10. 論文講読 8	3. 論文講読 1	11. 論文講読 9	4. 論文講読 2	12. 論文講読 10	5. 論文講読 3	13. 論文講読 11	6. 論文講読 4	14. 論文講読 12	7. 論文講読 5	15. まとめ
1. ガイダンス	8. 論文講読 6																				
進め方と目的、評価方法についての説明	9. 論文講読 7																				
2. 論文を読む方法	10. 論文講読 8																				
3. 論文講読 1	11. 論文講読 9																				
4. 論文講読 2	12. 論文講読 10																				
5. 論文講読 3	13. 論文講読 11																				
6. 論文講読 4	14. 論文講読 12																				
7. 論文講読 5	15. まとめ																				
◇ 成績評価の方法	出席と報告 (50%)・レポート (50%)																				
◇ 教科書・参考書	プリント随時配布																				
◇ 授業時間外学習	配付された論文を読むこと。報告者となっている場合は、レポートの作成をすること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 古 代 ・ 中 世 史 特 論 II Ancient and Medieval History in Japan (Advanced Lecture) II	2	准教授 堀 裕	2 学期	金	1																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS602J																				
◆ 授業題目	日本古代史の研究と方法(2) (Research and method of Japanese ancient history)																				
◆ 目的・概要	日本古代における天皇と宗教について論じる。東アジアのなかの交流史・比較史や、列島の中の地域史を視野にいれ、おおむね7-12世紀の天皇と宗教の歴史の変遷を、時に統一的に、時に別個に示すとともに、それが国家や社会とどのような関係にあったのかを明らかにする。																				
◆ 到達目標	日本古代史の研究成果と研究方法を学ぶ																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 法会と会場 (3)</td> </tr> <tr> <td>2. 天皇の権威 (1)</td> <td>10. 天皇の権威 (3)</td> </tr> <tr> <td>3. 天皇の権威 (2)</td> <td>11. 天皇の権威 (4)</td> </tr> <tr> <td>4. 誓約 (1)</td> <td>12. 地域と宗教 (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 誓約 (2)</td> <td>13. 地域と宗教 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 誓約 (3)</td> <td>14. 地域と宗教 (3)</td> </tr> <tr> <td>7. 法会と会場 (1)</td> <td>15. おわりに</td> </tr> <tr> <td>8. 法会と会場 (2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 法会と会場 (3)	2. 天皇の権威 (1)	10. 天皇の権威 (3)	3. 天皇の権威 (2)	11. 天皇の権威 (4)	4. 誓約 (1)	12. 地域と宗教 (1)	5. 誓約 (2)	13. 地域と宗教 (2)	6. 誓約 (3)	14. 地域と宗教 (3)	7. 法会と会場 (1)	15. おわりに	8. 法会と会場 (2)	
1. ガイダンス	9. 法会と会場 (3)																				
2. 天皇の権威 (1)	10. 天皇の権威 (3)																				
3. 天皇の権威 (2)	11. 天皇の権威 (4)																				
4. 誓約 (1)	12. 地域と宗教 (1)																				
5. 誓約 (2)	13. 地域と宗教 (2)																				
6. 誓約 (3)	14. 地域と宗教 (3)																				
7. 法会と会場 (1)	15. おわりに																				
8. 法会と会場 (2)																					
◇ 成績評価の方法	レポート (100%)																				
◇ 教科書・参考書	随時プリント配布																				
◇ 授業時間外学習	オフィスアワーは金曜日 4限です。事前に予約願います。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 古 代 ・ 中 世 史 特 論 Ⅲ Ancient and Medieval History in Japan (Advanced Lecture) Ⅲ	2	非常勤 講師 桜 井 英 治	集 中 (2学期)		
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS603J				
◆ 授業題目	中世社会論 (Study of Medieval Society)				
◆ 目的・概要	現代歴史学の流れは、1970年代前半までの戦後歴史学の時代、70年代後半から80年代の社会史の時代を経て、現在はさしずめグローバル・ヒストリーの時代にあるといえようか。この間に日本中世史研究も関心や視点、方法等をさまざまに変化させてきたが、この授業ではこれまでの研究成果や論争史をふまえながら、日本の中世社会の特質を日本史全体の流れのなかで、あるいは東アジア諸地域との比較において整理・究明するとともに、今後の研究の進むべき方向性についても模索してみたい。後半には「塵芥集」を中心に中世法とその近世化の問題について考察する。				
◆ 到達目標	日本の中世社会の特質と中世史研究の現状について理解するとともに、文献史料、とくに法制史料の読解法を学ぶ。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論—現代歴史学の歩み 2. 時期区分論 3. 中世日本の時間的布置—環境史の視点 4. 中世日本の時間的布置—経済史の視点 (1) 5. 中世日本の時間的布置—経済史の視点 (2) 6. 中世日本の時間的布置—贈与論の視点 7. 中世日本の空間的布置—比較史的考察 8. 中世日本の空間的布置—中国銭と中世の市場経済 9. 中世日本の空間的布置—日本の家について 10. 中世法の世界—「塵芥集」を中心に (1) 11. 中世法の世界—「塵芥集」を中心に (2) 12. 中世法の世界—「塵芥集」を中心に (3) 13. 中世法の世界—「塵芥集」を中心に (4) 14. 中世法の世界—「塵芥集」を中心に (5) 15. 授業のまとめと試験 				
◇ 成績評価の方法	筆記試験による。				
◇ 教科書・参考書	教科書は使わない。プリントを配付して講義を行う。参考書は授業中に紹介する。				
◇ 授業時間外学習	質問などは随時受け付ける。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 古 代 ・ 中 世 史 研 究 演 習 Ⅰ Ancient and Medieval History in Japan (Advanced Seminar) Ⅰ	2	准教授 堀 裕	1 学期	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS605J				
◆ 授業題目	古代史料の研究(1) (research of ancient historical materials)				
◆ 目的・概要	平安時代の貴族の日記である『小右記』をテキストとして精読する。あわせて、関連史料も調査・読解することで、史料としての扱い方に習熟する。これにより古記録に基づいた歴史像の構築の方法について理解を深める。なお、授業では毎回担当者が報告する。				
◆ 到達目標	古代史の基本史料の基礎知識を得るとともにその読解に習熟する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 『小右記』とは何か。講読のすすめかた。 2. 『小右記』を読む (1) 3. 『小右記』を読む (2) 4. 『小右記』を読む (3) 5. 『小右記』を読む (4) 6. 『小右記』を読む (5) 7. 『小右記』を読む (6) 8. 『小右記』を読む (7) 9. 『小右記』を読む (8) 10. 『小右記』を読む (9) 11. 『小右記』を読む (10) 12. 『小右記』を読む (11) 13. 『小右記』を読む (12) 14. 『小右記』を読む (13) 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート (50%) 出席 (50%)				
◇ 教科書・参考書	テキスト 『大日本古記録 小右記』 1～11 (岩波書店)。購入の必要はない。				
◇ 授業時間外学習	オフィスアワーは金曜 4限になります。来訪の際は事前に連絡下さい。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 古 代 ・ 中 世 史 研 究 演 習 Ⅱ Ancient and Medieval History in Japan (Advanced Seminar) Ⅱ	2	准教授	堀 裕	2 学期	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS606J																					
◆ 授業題目	古代史料の研究(2) (research of ancient historical materials)																					
◆ 目的・概要	養老令の注釈書である『令集解』をテキストとしてとりあげる。精読するとともに、関連史料も調査・読解することで、史料の特質を明らかにする。本年度は神祇令・僧尼令を取り上げる。史料に基づいた歴史像の構築方法について理解を深める。なお、授業では毎回担当者が報告する。																					
◆ 到達目標	律令に関する知識を得るとともに、その内容から歴史像を構築する力を養う。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス 『令集解』とは何か。講読のすすめかた。</td> <td>9. 『令集解』を読む (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 『令集解』を読む (1)</td> <td>10. 『令集解』を読む (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 『令集解』を読む (2)</td> <td>11. 『令集解』を読む (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 『令集解』を読む (3)</td> <td>12. 『令集解』を読む (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 『令集解』を読む (4)</td> <td>13. 『令集解』を読む (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 『令集解』を読む (5)</td> <td>14. 『令集解』を読む (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 『令集解』を読む (6)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 『令集解』を読む (7)</td> <td></td> </tr> </table>						1. ガイダンス 『令集解』とは何か。講読のすすめかた。	9. 『令集解』を読む (8)	2. 『令集解』を読む (1)	10. 『令集解』を読む (9)	3. 『令集解』を読む (2)	11. 『令集解』を読む (10)	4. 『令集解』を読む (3)	12. 『令集解』を読む (11)	5. 『令集解』を読む (4)	13. 『令集解』を読む (12)	6. 『令集解』を読む (5)	14. 『令集解』を読む (13)	7. 『令集解』を読む (6)	15. まとめ	8. 『令集解』を読む (7)	
1. ガイダンス 『令集解』とは何か。講読のすすめかた。	9. 『令集解』を読む (8)																					
2. 『令集解』を読む (1)	10. 『令集解』を読む (9)																					
3. 『令集解』を読む (2)	11. 『令集解』を読む (10)																					
4. 『令集解』を読む (3)	12. 『令集解』を読む (11)																					
5. 『令集解』を読む (4)	13. 『令集解』を読む (12)																					
6. 『令集解』を読む (5)	14. 『令集解』を読む (13)																					
7. 『令集解』を読む (6)	15. まとめ																					
8. 『令集解』を読む (7)																						
◇ 成績評価の方法	レポート (50%) 出席 (50%)																					
◇ 教科書・参考書	テキスト 新訂増補国史大系普及版『令集解』第1巻 (吉川弘文館)。																					
◇ 授業時間外学習	オフィスアワーは金曜日 4限です。来訪時は事前に連絡をください。																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 古 代 ・ 中 世 史 研 究 演 習 Ⅲ Ancient and Medieval History in Japan (Advanced Seminar) Ⅲ	2	准教授	堀 裕	1 学期	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS607J																					
◆ 授業題目	古代史料研究(1) (research of Japanese ancient historical materials)																					
◆ 目的・概要	8世紀を中心とした歴史書『続日本紀』と、格を集成した『類聚三代格』をテキストとして、古代史料の読解と史料としての扱い方に習熟し、研究課題を抽出する。授業では毎回担当者が報告する。できれば、現地見学会を実施する。																					
◆ 到達目標	古代史料の読解力の養成と史料としての扱い方の習熟。さらには史料から研究課題を抽出する力をみかく。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス 『続日本紀』と『類聚三代格』とは何か。講読のすすめかた。</td> <td>8. 史料を読む (7)</td> </tr> <tr> <td>2. 史料を読む (1)</td> <td>9. 史料を読む (8)</td> </tr> <tr> <td>3. 史料を読む (2)</td> <td>10. 史料を読む (9)</td> </tr> <tr> <td>4. 史料を読む (3)</td> <td>11. 史料を読む (10)</td> </tr> <tr> <td>5. 史料を読む (4)</td> <td>12. 史料を読む (11)</td> </tr> <tr> <td>6. 史料を読む (5)</td> <td>13. 史料を読む (12)</td> </tr> <tr> <td>7. 史料を読む (6)</td> <td>14. 史料を読む (13)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ</td> </tr> </table>						1. ガイダンス 『続日本紀』と『類聚三代格』とは何か。講読のすすめかた。	8. 史料を読む (7)	2. 史料を読む (1)	9. 史料を読む (8)	3. 史料を読む (2)	10. 史料を読む (9)	4. 史料を読む (3)	11. 史料を読む (10)	5. 史料を読む (4)	12. 史料を読む (11)	6. 史料を読む (5)	13. 史料を読む (12)	7. 史料を読む (6)	14. 史料を読む (13)		15. まとめ
1. ガイダンス 『続日本紀』と『類聚三代格』とは何か。講読のすすめかた。	8. 史料を読む (7)																					
2. 史料を読む (1)	9. 史料を読む (8)																					
3. 史料を読む (2)	10. 史料を読む (9)																					
4. 史料を読む (3)	11. 史料を読む (10)																					
5. 史料を読む (4)	12. 史料を読む (11)																					
6. 史料を読む (5)	13. 史料を読む (12)																					
7. 史料を読む (6)	14. 史料を読む (13)																					
	15. まとめ																					
◇ 成績評価の方法	レポート (50%) 出席 (50%)																					
◇ 教科書・参考書	テキスト 新訂増補国史大系普及版『続日本紀』前編・後編 (吉川弘文館)・同『類聚三代格』(同)																					
◇ 授業時間外学習	オフィスアワーは金曜 4限になります。来訪の際は事前に連絡下さい。																					
その他：古代史料研究(1)(2)は連続履修すること。																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																								
日本古代・中世史研究演習Ⅳ Ancient and Medieval History in Japan (Advanced Seminar) Ⅳ	2	准教授 堀 裕	2学期	金	3																								
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS608J																												
◆ 授業題目	古代史料研究(2) (research of Japanese ancient historical materials 2)																												
◆ 目的・概要	8世紀を中心とした歴史書『続日本紀』と、格を集成した『類聚三代格』をテキストとして、古代史料の読解と史料としての扱い方に習熟し、研究課題を抽出する。授業では毎回担当者が報告する。できれば、現地見学会を実施する。																												
◆ 到達目標	古代史の基本史料の読解力の養成と史料としての扱い方の習熟。さらには研究課題を抽出する力をみがく。																												
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>講読のすすめかたの確認</td> <td>9. 史料を読む (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 史料を読む (1)</td> <td></td> <td>10. 史料を読む (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 史料を読む (2)</td> <td></td> <td>11. 史料を読む (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 史料を読む (3)</td> <td></td> <td>12. 史料を読む (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 史料を読む (4)</td> <td></td> <td>13. 史料を読む (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 史料を読む (5)</td> <td></td> <td>14. 史料を読む (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 史料を読む (6)</td> <td></td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 史料を読む (7)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	講読のすすめかたの確認	9. 史料を読む (8)	2. 史料を読む (1)		10. 史料を読む (9)	3. 史料を読む (2)		11. 史料を読む (10)	4. 史料を読む (3)		12. 史料を読む (11)	5. 史料を読む (4)		13. 史料を読む (12)	6. 史料を読む (5)		14. 史料を読む (13)	7. 史料を読む (6)		15. まとめ	8. 史料を読む (7)		
1. ガイダンス	講読のすすめかたの確認	9. 史料を読む (8)																											
2. 史料を読む (1)		10. 史料を読む (9)																											
3. 史料を読む (2)		11. 史料を読む (10)																											
4. 史料を読む (3)		12. 史料を読む (11)																											
5. 史料を読む (4)		13. 史料を読む (12)																											
6. 史料を読む (5)		14. 史料を読む (13)																											
7. 史料を読む (6)		15. まとめ																											
8. 史料を読む (7)																													
◇ 成績評価の方法	レポート (50%) 出席 (50%)																												
◇ 教科書・参考書	テキスト 新訂増補国史大系普及版『続日本紀』前編・後編 (吉川弘文館)・同『類聚三代格』(同) 8-9世紀に興味のある方にも受講を勧めます。																												
◇ 授業時間外学習	オフィスアワーは金曜4限になります。来訪の際は事前に連絡下さい。																												
その他：古代史料研究(1)(2)は連続履修すること。																													

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日本古代・中世史研究演習Ⅴ Ancient and Medieval History in Japan (Advanced Seminar) Ⅴ	2	教授 柳原敏昭	1学期	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS609J																				
◆ 授業題目	鎌倉時代の法と社会(1) (The Law and Society of the Kamakura Period 1)																				
◆ 目的・概要	鎌倉幕府は、基本法典である御成敗式目を編纂し、そのほか多数の法令・行政命令を発した(追加法という)。それらは鎌倉時代の法・社会、政権の性格を解明する上での重要な史料である。この時間は、追加法および関連史料の精密な読解を通じて、鎌倉時代の法と社会について探究する。当然のことながら、授業は受講生による発表と討論が中心となる。																				
◆ 到達目標	(1)中世史料の読解力を身につける。 (2)報告・討論の方法の基礎を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 学生による報告と討論 ⑧</td> </tr> <tr> <td>2. 学生による報告と討論 ①</td> <td>10. 学生による報告と討論 ⑨</td> </tr> <tr> <td>3. 学生による報告と討論 ②</td> <td>11. 学生による報告と討論 ⑩</td> </tr> <tr> <td>4. 学生による報告と討論 ③</td> <td>12. 学生による報告と討論 ⑪</td> </tr> <tr> <td>5. 学生による報告と討論 ④</td> <td>13. 学生による報告と討論 ⑫</td> </tr> <tr> <td>6. 学生による報告と討論 ⑤</td> <td>14. 学生による報告と討論 ⑬</td> </tr> <tr> <td>7. 学生による報告と討論 ⑥</td> <td>15. 授業の総括</td> </tr> <tr> <td>8. 学生による報告と討論 ⑦</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論 ⑧	2. 学生による報告と討論 ①	10. 学生による報告と討論 ⑨	3. 学生による報告と討論 ②	11. 学生による報告と討論 ⑩	4. 学生による報告と討論 ③	12. 学生による報告と討論 ⑪	5. 学生による報告と討論 ④	13. 学生による報告と討論 ⑫	6. 学生による報告と討論 ⑤	14. 学生による報告と討論 ⑬	7. 学生による報告と討論 ⑥	15. 授業の総括	8. 学生による報告と討論 ⑦	
1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論 ⑧																				
2. 学生による報告と討論 ①	10. 学生による報告と討論 ⑨																				
3. 学生による報告と討論 ②	11. 学生による報告と討論 ⑩																				
4. 学生による報告と討論 ③	12. 学生による報告と討論 ⑪																				
5. 学生による報告と討論 ④	13. 学生による報告と討論 ⑫																				
6. 学生による報告と討論 ⑤	14. 学生による報告と討論 ⑬																				
7. 学生による報告と討論 ⑥	15. 授業の総括																				
8. 学生による報告と討論 ⑦																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) レポート [40%]・(○) 出席 [20%]・(○) その他(授業中における発表の内容) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	テキストは開講時に配付する。 参考書は佐藤進一・池内義資編『中世法制史料集』第1巻・鎌倉幕府法(岩波書店)。																				
◇ 授業時間外学習	報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。 報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。																				
その他：日本古代・中世史研究演習「鎌倉時代の法と社会(1)(2)」(柳原担当)は連続履修すること。 大学院生には、学部学生に対するアドバイザーとしての役割も求められる。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日本古代・中世史研究演習Ⅵ Ancient and Medieval History in Japan (Advanced Seminar) Ⅵ	2	教授 柳原敏昭	2学期	月	3
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS610J				
◆ 授業題目	鎌倉時代の法と社会(2) (The Law and Society of the Kamakura Period 2)				
◆ 目的・概要	「鎌倉時代の法と社会(1)」の続講。 単なる史料の読み方や基本的な知識を学ぶ場ではなく、問題点を発見し議論する場と位置づけているので、発表者には問題提起的な報告をすることが求められる。また、それ以外の受講生も主体的に議論に参加しなければならない。受講者が任意にテーマを選び報告する機会も設けたい。				
◆ 到達目標	(1)中世史料の読解力を身につける。 (2)鎌倉時代の法と社会について理解を深める。 (3)報告・討論の方法の基礎を身につける。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス 2. 学生による報告と討論 ① 3. 学生による報告と討論 ② 4. 学生による報告と討論 ③ 5. 学生による報告と討論 ④ 6. 学生による報告と討論 ⑤ 7. 学生による報告と討論 ⑥ 8. 学生による報告と討論 ⑦ 9. 学生による報告と討論 ⑧ 10. 学生による報告と討論 ⑨ 11. 学生による報告と討論 ⑩ 12. 学生による報告と討論 ⑪ 13. 学生による報告と討論 ⑫ 14. 学生による報告と討論 ⑬ 15. 授業の総括				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] ・ (○) その他 (授業中における発表の内容) [40%]				
◇ 教科書・参考書	テキストは開講時に配付する。 参考書は佐藤進一・池内義資編『中世法制史料集』第1巻・鎌倉幕府法 (岩波書店)。				
◇ 授業時間外学習	報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。 報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。				
その他：日本古代・中世史研究演習「鎌倉時代の法と社会(1)(2)」(柳原担当)は連続履修すること。 大学院生には、学部学生に対するアドバイザーとしての役割も求められる。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日本古代・中世史研究演習Ⅶ Ancient and Medieval History in Japan (Advanced Seminar) Ⅶ	2	教授 柳原敏昭	1学期	月	4
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS611J				
◆ 授業題目	中世史料演習(1) (Seminar on Medieval Historical Materials 1)				
◆ 目的・概要	伏見宮貞成『看聞日記』は、記主が当時の政権中枢に近く、また所領である山城国伏見庄に居住していたため、朝廷や幕府の動向から、村落内部の様相までを詳細に知ることのできる希有の史料である。この日記を精読することを通じて、記録史料の読解力を錬磨するとともに、室町時代の政治や社会について検討を加える。当然のことながら、授業は受講生による発表と議論が中心となる。修士論文の構想・中間発表も行う。				
◆ 到達目標	(1)日本中世史に関する高度な史料読解力・研究能力を養う。 (2)報告・討論の方法を身につける。 (3)修士論文・博士論文作成の1ステップとする。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス 2. 学生による報告と討論 ① 3. 学生による報告と討論 ② 4. 学生による報告と討論 ③ 5. 学生による報告と討論 ④ 6. 学生による報告と討論 ⑤ 7. 学生による報告と討論 ⑥ 8. 学生による報告と討論 ⑦ 9. 学生による報告と討論 ⑧ 10. 学生による報告と討論 ⑨ 11. 学生による報告と討論 ⑩ 12. 学生による報告と討論 ⑪ 13. 学生による報告と討論 ⑫ 研究発表 14. 学生による報告と討論 ⑬ 研究発表 15. 授業の総括				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] ・ (○) その他 (授業中における発表の内容) [40%]				
◇ 教科書・参考書	続群書類従・補遺二『看聞御記』上・下 (続群書類従完成会)				
◇ 授業時間外学習	報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。 報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。				
その他：日本古代・中世史研究演習「中世史料演習」(1)(2)は連続履修すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 古 代 ・ 中 世 史 研 究 演 習 Ⅷ Ancient and Medieval History in Japan (Advanced Seminar) Ⅷ	2	教 授 柳 原 敏 昭	2 学 期	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS612J																				
◆ 授業題目	中世史料演習(2) (Seminar on Medieval Historical Materials 2)																				
◆ 目的・概要	中世史料演習(1)の続講。 受講者が任意にテーマを選び、研究発表を行う機会も設ける。																				
◆ 到達目標	(1)日本中世史に関する高度な史料読解力・研究能力を養う。 (2)報告・討論の方法を身につける。 (3)修士論文(研究)・博士論文作成の1ステップとする。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 学生による報告と討論 ⑧</td> </tr> <tr> <td>2. 学生による報告と討論 ①</td> <td>10. 学生による報告と討論 ⑨</td> </tr> <tr> <td>3. 学生による報告と討論 ②</td> <td>11. 学生による報告と討論 ⑩</td> </tr> <tr> <td>4. 学生による報告と討論 ③</td> <td>12. 学生による報告と討論 ⑪ 研究発表</td> </tr> <tr> <td>5. 学生による報告と討論 ④</td> <td>13. 学生による報告と討論 ⑫ 研究発表</td> </tr> <tr> <td>6. 学生による報告と討論 ⑤</td> <td>14. 学生による報告と討論 ⑬ 研究発表</td> </tr> <tr> <td>7. 学生による報告と討論 ⑥</td> <td>15. 授業の総括</td> </tr> <tr> <td>8. 学生による報告と討論 ⑦</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論 ⑧	2. 学生による報告と討論 ①	10. 学生による報告と討論 ⑨	3. 学生による報告と討論 ②	11. 学生による報告と討論 ⑩	4. 学生による報告と討論 ③	12. 学生による報告と討論 ⑪ 研究発表	5. 学生による報告と討論 ④	13. 学生による報告と討論 ⑫ 研究発表	6. 学生による報告と討論 ⑤	14. 学生による報告と討論 ⑬ 研究発表	7. 学生による報告と討論 ⑥	15. 授業の総括	8. 学生による報告と討論 ⑦	
1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論 ⑧																				
2. 学生による報告と討論 ①	10. 学生による報告と討論 ⑨																				
3. 学生による報告と討論 ②	11. 学生による報告と討論 ⑩																				
4. 学生による報告と討論 ③	12. 学生による報告と討論 ⑪ 研究発表																				
5. 学生による報告と討論 ④	13. 学生による報告と討論 ⑫ 研究発表																				
6. 学生による報告と討論 ⑤	14. 学生による報告と討論 ⑬ 研究発表																				
7. 学生による報告と討論 ⑥	15. 授業の総括																				
8. 学生による報告と討論 ⑦																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] ・ (○) その他(授業中における発表の内容) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	続群書類従・補遺二『看聞御記』上・下(続群書類従完成会)																				
◇ 授業時間外学習	報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。 報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。																				
その他：日本古代・中世史研究演習「中世史料演習」(1)(2)は連続履修すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 近 世 ・ 近 代 史 特 論 I Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Lecture) I	2	准教授 籠 橋 俊 光	1 学 期	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS613J																				
◆ 授業題目	近世社会の研究(1) (Research in Early Modern Society (1))																				
◆ 目的・概要	日本近世史における代表的ないしは最新の論文を読み、理解し、それをもとに討論する。受講者は指定された論文を事前に読み、順番にレポーターとして要旨等を紹介し、討論に参加する。 受講に際しては議論への積極的な参加を求めることになる。必要に応じ、学外の見学なども実施する。																				
◆ 到達目標	(1)近世史の論文を読むことを通じて、日本近世史への理解を深める。 (2)報告、討論の方法を身につけ、自ら論文を執筆する基礎を養成する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 受講者による報告と討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 受講者による報告と討論 (1)</td> <td>10. 受講者による報告と討論 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 受講者による報告と討論 (2)</td> <td>11. 受講者による報告と討論 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 受講者による報告と討論 (3)</td> <td>12. 受講者による報告と討論 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 受講者による報告と討論 (4)</td> <td>13. 受講者による報告と討論 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 受講者による報告と討論 (5)</td> <td>14. 受講者による報告と討論 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 受講者による報告と討論 (6)</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 受講者による報告と討論 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 受講者による報告と討論 (8)	2. 受講者による報告と討論 (1)	10. 受講者による報告と討論 (9)	3. 受講者による報告と討論 (2)	11. 受講者による報告と討論 (10)	4. 受講者による報告と討論 (3)	12. 受講者による報告と討論 (11)	5. 受講者による報告と討論 (4)	13. 受講者による報告と討論 (12)	6. 受講者による報告と討論 (5)	14. 受講者による報告と討論 (13)	7. 受講者による報告と討論 (6)	15. 全体のまとめ	8. 受講者による報告と討論 (7)	
1. ガイダンス	9. 受講者による報告と討論 (8)																				
2. 受講者による報告と討論 (1)	10. 受講者による報告と討論 (9)																				
3. 受講者による報告と討論 (2)	11. 受講者による報告と討論 (10)																				
4. 受講者による報告と討論 (3)	12. 受講者による報告と討論 (11)																				
5. 受講者による報告と討論 (4)	13. 受講者による報告と討論 (12)																				
6. 受講者による報告と討論 (5)	14. 受講者による報告と討論 (13)																				
7. 受講者による報告と討論 (6)	15. 全体のまとめ																				
8. 受講者による報告と討論 (7)																					
◇ 成績評価の方法	(○) 出席 [20%] (○) レポート [40%] (○) その他(報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	講義中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回事前の予習を必要とする。																				
その他：「近世社会の研究(2)」と連続して受講することが望ましい。 オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 近 世 ・ 近 代 史 特 論 Ⅱ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Lecture) Ⅱ	2	准教授 籠 橋 俊 光	2 学期	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS614J																				
◆ 授業題目	近世社会の研究(2) (Research in Early Modern Society (2))																				
◆ 目的・概要	「近世社会の研究(1)」に引き続き、日本近世の社会とその研究を理解することを目的として、様々な研究論文を読み進め、理解を深める。 受講に際しては議論への積極的な参加が求められる。可能であれば、必要に応じ、学外の見学なども実施する。																				
◆ 到達目標	(1)近世史の論文を読むことを通じて、日本近世史への理解を深める。 (2)報告、討論の方法を身につけ、自ら論文を執筆する基礎を養成する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 受講者による報告と討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 受講者による報告と討論 (1)</td> <td>10. 受講者による報告と討論 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 受講者による報告と討論 (2)</td> <td>11. 受講者による報告と討論 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 受講者による報告と討論 (3)</td> <td>12. 受講者による報告と討論 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 受講者による報告と討論 (4)</td> <td>13. 受講者による報告と討論 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 受講者による報告と討論 (5)</td> <td>14. 受講者による報告と討論 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 受講者による報告と討論 (6)</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 受講者による報告と討論 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 受講者による報告と討論 (8)	2. 受講者による報告と討論 (1)	10. 受講者による報告と討論 (9)	3. 受講者による報告と討論 (2)	11. 受講者による報告と討論 (10)	4. 受講者による報告と討論 (3)	12. 受講者による報告と討論 (11)	5. 受講者による報告と討論 (4)	13. 受講者による報告と討論 (12)	6. 受講者による報告と討論 (5)	14. 受講者による報告と討論 (13)	7. 受講者による報告と討論 (6)	15. 全体のまとめ	8. 受講者による報告と討論 (7)	
1. ガイダンス	9. 受講者による報告と討論 (8)																				
2. 受講者による報告と討論 (1)	10. 受講者による報告と討論 (9)																				
3. 受講者による報告と討論 (2)	11. 受講者による報告と討論 (10)																				
4. 受講者による報告と討論 (3)	12. 受講者による報告と討論 (11)																				
5. 受講者による報告と討論 (4)	13. 受講者による報告と討論 (12)																				
6. 受講者による報告と討論 (5)	14. 受講者による報告と討論 (13)																				
7. 受講者による報告と討論 (6)	15. 全体のまとめ																				
8. 受講者による報告と討論 (7)																					
◇ 成績評価の方法	(○) 出席 [20%] (○) レポート [40%] (○) その他 (報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	講義中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回事前の予習を必要とする。																				
その他：「近世社会の研究(1)」と連続して受講することが望ましい。 オフィスアワー 火曜日 16：20～17：50 (要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 近 世 ・ 近 代 史 特 論 Ⅲ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Lecture) Ⅲ	2	教授 安 達 宏 昭	1 学期	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS615J																				
◆ 授業題目	日本近現代史研究の現状と課題(5) (Current status and problems about the study of Japanese Modern History (5))																				
◆ 目的・概要	日本近現代史研究における現時点での到達点を理解するために、2015年に刊行された『岩波講座 日本歴史 (第19巻、近現代5)』におさめられている各論文を読んでいく。その後、この時代に関連する論文も読み進める。 進め方は、受講者が順番にレポーターとなって、担当する論文の要旨や内容の特徴を発表し、その上で受講者全員によって討論する方式で行う。それにより、相互に認識を深める。																				
◆ 到達目標	(1)日本近現代史に関する最近の研究を読解し、内容を理解できるようになる。 (2)研究の内容要旨を発表し、討論することができるようになる。 (3)最近の研究成果を通して、近現代史研究の現状と課題について、理解できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>8. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (6)</td> </tr> <tr> <td>日本近現代史研究の特徴</td> <td>9. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (7)</td> </tr> <tr> <td>2. 日本近現代史研究の方法</td> <td>10. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>3. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (1)</td> <td>11. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (9)</td> </tr> <tr> <td>4. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (2)</td> <td>12. 日本近現代史に関する研究論文についての報告 (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (3)</td> <td>13. 日本近現代史に関する研究論文についての報告 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (4)</td> <td>14. 日本近現代史に関する研究論文についての報告 (3)</td> </tr> <tr> <td>7. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (5)</td> <td>15. 日本近現代史に関する研究論文についての報告 (4)</td> </tr> </table>					1. ガイダンス	8. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (6)	日本近現代史研究の特徴	9. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (7)	2. 日本近現代史研究の方法	10. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (8)	3. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (1)	11. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (9)	4. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (2)	12. 日本近現代史に関する研究論文についての報告 (1)	5. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (3)	13. 日本近現代史に関する研究論文についての報告 (2)	6. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (4)	14. 日本近現代史に関する研究論文についての報告 (3)	7. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (5)	15. 日本近現代史に関する研究論文についての報告 (4)
1. ガイダンス	8. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (6)																				
日本近現代史研究の特徴	9. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (7)																				
2. 日本近現代史研究の方法	10. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (8)																				
3. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (1)	11. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (9)																				
4. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (2)	12. 日本近現代史に関する研究論文についての報告 (1)																				
5. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (3)	13. 日本近現代史に関する研究論文についての報告 (2)																				
6. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (4)	14. 日本近現代史に関する研究論文についての報告 (3)																				
7. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論 (5)	15. 日本近現代史に関する研究論文についての報告 (4)																				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) レポート [50%]・(○) 出席 [20%]・ (○) その他 (報告の内容、討論への取り組みなど) [30%]																				
◇ 教科書・参考書	『岩波講座 日本歴史 (第19巻、近現代5)』(岩波書店、2015年)を主なテキストとする。 該当する論文などについては、適宜、指示する。																				
◇ 授業時間外学習	『岩波講座 日本歴史 (第19巻、近現代5)』や指定された研究論文を、事前に読んでおく。																				
その他：オフィスアワー：水曜日 16：20～17：50																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 近 世 ・ 近 代 史 特 論 Ⅲ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Lecture) Ⅲ	2	非常勤 講師 佐藤大介 天野真志	集 中 (1学期)		
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS615J				
◆ 授業題目	歴史資料保全の実践（その1）(Passing on the Historical heritage on Tohoku area (Part 1))				
◆ 目的・概要	いま、人文社会学研究への「社会的要請」とは何か、ということが議論されています。日本史を学ぶ者にとっては、「先祖や地元の歴史を知りたい・伝えたい」という思いに応えることが、その一つといえるかもしれません。この講義では、地域社会に今なお膨大に残されている歴史資料を守り、伝えるための課題や、そのための実践を、座学、議論、および実際の地域での活動を通じて学んでいきます。				
◆ 到達目標	・過去の歴史資料保存をめぐる経緯を踏まえながら、地域社会に残された歴史資料を継承するための課題を学びます。 ・講義を通じて、「社会にとっての歴史研究者の存在意義とは何か」ということを自ら考える力を付けます。				
◆ 授業内容・方法	1. 「歴史資料保全活動」の経緯 ① 一終戦直後～1960年代 2. 「歴史資料保全活動」の経緯 ② 一1970年代～1990年代 3. 「歴史資料保全活動」の経緯 ③ 一1990年代～現在 4. 史料保全活動の課題 ① 一報告 1 5. 史料保全活動の課題 ② 一報告 2 6. 史料保全活動の課題 ③ 一討論 7. 地域の歴史資料を守る ① 一文書資料の応急処置・洗浄 8. 地域の歴史資料を守る ② 一文書資料の応急処置・乾燥 9. 地域の歴史資料を守る ③ 一文書資料の応急処置・修復 10. 地域の歴史資料を守る ④ 一保管環境を整える 11. 地域の歴史資料を守る ⑤ 一所蔵者のお話をうかがう 12. 地域の歴史資料を守る ⑥ 一所蔵者との対話 13. 地域の歴史資料を守る ⑦ 一史料の整理 14. 地域の歴史資料を守る ⑧ 一デジタルカメラでの撮影・管理 15. 地域の歴史資料を守る ⑨ 一まとめ				
◇ 成績評価の方法	・平常点（出席、討論への参加）(40パーセント) ・レポート (60パーセント)				
◇ 教科書・参考書	・奥村弘『大震災と歴史資料保存』（吉川弘文館 2011年） ・平川新・佐藤大介編『歴史遺産を未来へ』（東北大学東北アジア研究センター報告 2012年） ・奥村弘編『歴史文化を大災害から守る 地域歴史資料学の構築』（東京大学出版会 2014年） ほか、講義中指示する。				
◇ 授業時間外学習	上記の参考文献、およびそれらに引用されている関連文献に、可能な範囲で目を通しておくこと。				
◆ その他	・10コマ目以降は、大学を離れた地域での講義となる。全日程参加出来るよう予定を調整しておくこと。 ・日本近世・近代史特論Ⅲ 後期「歴史資料保全の実践（その2）」と連続履修することが望ましい。 ・実技や現地調査を行う関係で、受講者人数を制限する（最大15名程度）。多数の場合は日本史専修の学生を優先する。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 近 世 ・ 近 代 史 特 論 Ⅲ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Lecture) Ⅲ	2	非常勤 講師 佐藤大介	2学期	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS615J				
◆ 授業題目	歴史資料保全の実践（その2）(Passing on the Historical heritage on Tohoku area (part 2))				
◆ 目的・概要	活字、くすし字を問わず、日本史研究で必須の「古文書を読み解く力」は、それらに親しみのない市民が、過去の歴史を自ら学ぼうとする時、専門家に求められる能力です。地域の歴史に対する関心が高まる今、その能力を生かして市民と積極的に交流する事が求められています。この講義では、江戸時代の仙台藩に残された古文書を用いて、歴史を復元するための解読方法を学ぶとともに、知り得た内容をわかりやすく紹介するための方法を学びます。				
◆ 到達目標	・古文書の内容から、歴史を復元できるような情報を読み解く力を身につけます。 ・さらに、その内容をどのようにしてわかりやすく伝えるかについても学びます。 ・成果を実地に発表し、その反応を知る事で、歴史研究を学ぶ者が求められている課題を知ります。				
◆ 授業内容・方法	1. はじめに 一市民と歴史像を共有する意義 2. 古文書を読んでみる ① 一証文 3. 古文書を読んでみる ② 一願書 4. 古文書を読んでみる ③ 一記録 5. 古文書を読んでみる ④ 一手紙 6. 歴史像を復元する ① 一基礎的な内容 7. 歴史像を復元する ② 一ものの流れ 8. 歴史像を復元する ③ 一人物像 9. 歴史像を復元する ④ 一地域像 10. 歴史像を伝える ① 一基礎的な情報の提示 11. 歴史像を伝える ② 一文章表現 12. 歴史像を伝える ③ 一関連資料の調査 13. 歴史像を伝える ④ 一編集 14. 歴史像を伝える ⑤ 一展示・公開の方法 15. まとめ				
◇ 成績評価の方法	・分担か所の発表及び解説資料の内容 (50パーセント) ・レポート (50パーセント) 講義中に指示します。				
◇ 教科書・参考書	歴史像を明らかにするには、多数の文献に当たる必要もあります。シラバスでそのすべてを紹介することはできませんので、講義中に指示します。				
◇ 授業時間外学習	・この講義は、受講者による発表が基本となります。各回の予習は必須となります。あらかじめ担当か所を割り当てますので、発表前日に慌てて準備を始め「徹夜」になることのないよう、一日30分～1時間程度、ないし週2時間程度の学習時間を、日課として取り入れていただくことをお勧めします。				
◆ その他	・日本近世・近代史特論Ⅲ 前期「歴史資料保全の実践（その1）」との連続履修が望ましいです。 ・古文書解読の能力が必要です。古文書学など、日本史専修で開講される関連講義などで十分に学習しておいてください。 ・少人数講義とします。希望者多数の場合は、日本史専修の学生を優先します。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																		
日 本 近 世 ・ 近 代 史 特 論 Ⅲ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Lecture) Ⅲ	2	助 教 松 崎 瑠 美	1 学 期	火	4																		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHI-HIS615E Understanding Japanese History (Understanding Japanese History) The purpose of this course is for students to learn basic knowledge of Japanese history and how to express Japanese history in English. This course introduces the general history of Japan from primitive times to modern times including the history of women, gender, family, minorities, and disasters. Students will examine the backgrounds and characteristics of each period and society in Japan and understand the similarities and differences between Japanese and other countries' histories through classroom discussion. This course is conducted in English. The instructor will translate into Japanese based on students' understanding of the English language.																						
◆ 到達目標	(1) To become familiar with the general history of Japan (2) To learn how to express Japanese history in English (3) To understand the characteristics of each period and society in Japan, and the similarities and differences between Japanese and other countries' histories																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Course orientation: Overview of the course. What is history? Why do we study history?</td> <td>7. The general history of Japan: Medieval times 3</td> </tr> <tr> <td>2. The general history of Japan: Primitive times and Ancient times 1</td> <td>8. The general history of Japan: Early modern times 1</td> </tr> <tr> <td>3. The general history of Japan: Primitive times and Ancient times 2</td> <td>9. The general history of Japan: Early modern times 2</td> </tr> <tr> <td>4. The general history of Japan: Primitive times and Ancient times 3</td> <td>10. The general history of Japan: Early modern times 3</td> </tr> <tr> <td>5. The general history of Japan: Medieval times 1</td> <td>11. The general history of Japan: Modern times 1</td> </tr> <tr> <td>6. The general history of Japan: Medieval times 2</td> <td>12. The general history of Japan: Modern times 2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13. The general history of Japan: Modern times 3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. The general history of Japan: The postwar period</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. Final exam</td> </tr> </table>					1. Course orientation: Overview of the course. What is history? Why do we study history?	7. The general history of Japan: Medieval times 3	2. The general history of Japan: Primitive times and Ancient times 1	8. The general history of Japan: Early modern times 1	3. The general history of Japan: Primitive times and Ancient times 2	9. The general history of Japan: Early modern times 2	4. The general history of Japan: Primitive times and Ancient times 3	10. The general history of Japan: Early modern times 3	5. The general history of Japan: Medieval times 1	11. The general history of Japan: Modern times 1	6. The general history of Japan: Medieval times 2	12. The general history of Japan: Modern times 2		13. The general history of Japan: Modern times 3		14. The general history of Japan: The postwar period		15. Final exam
1. Course orientation: Overview of the course. What is history? Why do we study history?	7. The general history of Japan: Medieval times 3																						
2. The general history of Japan: Primitive times and Ancient times 1	8. The general history of Japan: Early modern times 1																						
3. The general history of Japan: Primitive times and Ancient times 2	9. The general history of Japan: Early modern times 2																						
4. The general history of Japan: Primitive times and Ancient times 3	10. The general history of Japan: Early modern times 3																						
5. The general history of Japan: Medieval times 1	11. The general history of Japan: Modern times 1																						
6. The general history of Japan: Medieval times 2	12. The general history of Japan: Modern times 2																						
	13. The general history of Japan: Modern times 3																						
	14. The general history of Japan: The postwar period																						
	15. Final exam																						
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	Attendance and participation 20%, Final exam 80% No textbook required. Reference books will be introduced in class. Handouts will be distributed in class. Review the contents of each lecture by reading handouts and reference books every week.																						
その他: Office hour: by appointment グローバル安全学トップリーダー育成プログラムからの提供科目、IPLA科目を兼ねる。学部生の先行履修を認める。																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 近 世 ・ 近 代 史 特 論 Ⅲ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Lecture) Ⅱ	2	助 教 松 崎 瑠 美	2 学 期	火	3																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHI-HIS615E History of Disaster (History of Disaster) The purpose of this course is for students to learn basic knowledge of the history of disasters in Japan and how to express this knowledge in English. This course introduces the history of disasters from ancient times to modern times including disaster damage, disaster recovery, and disaster prevention by focusing on the social aspects. Students will examine the backgrounds and characteristics of each period and society and understand the relationship with today's issues on disasters through classroom discussion. This course is conducted in English. The instructor will translate into Japanese based on students' understanding of the English language.																				
◆ 到達目標	(1) To become familiar with the history of disasters in Japan (2) To learn how to express the history of disasters in English (3) To understand the relationship with today's issues regarding disasters																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Course orientation: Overview of the course. What is history? Why do we study history of disasters?</td> <td>9. Disaster history of Japan: Early modern times 3 (details)</td> </tr> <tr> <td>2. Disaster history of Japan: Ancient times 1 (background and outline)</td> <td>10. Disaster history of Japan: Early modern times 4 (details)</td> </tr> <tr> <td>3. Disaster history of Japan: Ancient times 2 (details)</td> <td>11. Disaster history of Japan: Modern times 1 (background and outline)</td> </tr> <tr> <td>4. Disaster history of Japan: Ancient times 3 (details)</td> <td>12. Disaster history of Japan: Modern times 2 and present day (details) Volunteer activity to preserve historical materials</td> </tr> <tr> <td>5. Disaster history of Japan: Medieval times 1 (background and outline)</td> <td>13. Disaster history of Japan: New disasters and global disasters</td> </tr> <tr> <td>6. Disaster history of Japan: Medieval times 2 (details)</td> <td>14. Classroom discussion: Today's social issues regarding disasters</td> </tr> <tr> <td>7. Disaster history of Japan: Early modern times 1 (background and outline)</td> <td>15. Final exam</td> </tr> <tr> <td>8. Disaster history of Japan: Early modern times 2 (details)</td> <td></td> </tr> </table>					1. Course orientation: Overview of the course. What is history? Why do we study history of disasters?	9. Disaster history of Japan: Early modern times 3 (details)	2. Disaster history of Japan: Ancient times 1 (background and outline)	10. Disaster history of Japan: Early modern times 4 (details)	3. Disaster history of Japan: Ancient times 2 (details)	11. Disaster history of Japan: Modern times 1 (background and outline)	4. Disaster history of Japan: Ancient times 3 (details)	12. Disaster history of Japan: Modern times 2 and present day (details) Volunteer activity to preserve historical materials	5. Disaster history of Japan: Medieval times 1 (background and outline)	13. Disaster history of Japan: New disasters and global disasters	6. Disaster history of Japan: Medieval times 2 (details)	14. Classroom discussion: Today's social issues regarding disasters	7. Disaster history of Japan: Early modern times 1 (background and outline)	15. Final exam	8. Disaster history of Japan: Early modern times 2 (details)	
1. Course orientation: Overview of the course. What is history? Why do we study history of disasters?	9. Disaster history of Japan: Early modern times 3 (details)																				
2. Disaster history of Japan: Ancient times 1 (background and outline)	10. Disaster history of Japan: Early modern times 4 (details)																				
3. Disaster history of Japan: Ancient times 2 (details)	11. Disaster history of Japan: Modern times 1 (background and outline)																				
4. Disaster history of Japan: Ancient times 3 (details)	12. Disaster history of Japan: Modern times 2 and present day (details) Volunteer activity to preserve historical materials																				
5. Disaster history of Japan: Medieval times 1 (background and outline)	13. Disaster history of Japan: New disasters and global disasters																				
6. Disaster history of Japan: Medieval times 2 (details)	14. Classroom discussion: Today's social issues regarding disasters																				
7. Disaster history of Japan: Early modern times 1 (background and outline)	15. Final exam																				
8. Disaster history of Japan: Early modern times 2 (details)																					
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	Attendance and participation 20%, Final exam 80% No textbook required. Reference books will be introduced in class. Handouts will be distributed in class. Review the contents of each lecture by reading handouts and reference books every week.																				
その他: Office hour: by appointment グローバル安全学トップリーダー育成プログラムからの提供科目。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日本近世・近代史研究演習Ⅰ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Seminar) I	2	准教授 籠橋俊光	1学期	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS616J																				
◆ 授業題目	近世史料研究(1) (Early Modern Document Research (1))																				
◆ 目的・概要	本講義では、近世史料の正確な読解能力を養成する。素材には、伊達騒動に関する記録である「桃遠境論集」を用いる。御家騒動の代表例として名高い伊達騒動に関する史料を読み進めながら、事件そのものはもちろんであるが、近世前期の武家社会、藩主と重臣の関係、藩内政治の実像、武家文書の特徴、仙台藩士の存在形態、村と境界の問題などを考えていく。原文書のコピーを使用するため、相当の古文書読解能力を必要とする。																				
◆ 到達目標	(1)近世史料の基礎的な読解能力を身につける。 (2)自ら問題・関心を発見し、深めるきっかけをつかむ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 史料読解の報告と討論 (6)</td> </tr> <tr> <td>2. 伊達騒動について (1)</td> <td>10. 史料読解の報告と討論 (7)</td> </tr> <tr> <td>3. 伊達騒動について (2)</td> <td>11. 史料読解の報告と討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>4. 史料読解の報告と討論 (1)</td> <td>12. 史料読解の報告と討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>5. 史料読解の報告と討論 (2)</td> <td>13. 史料読解の報告と討論 (10)</td> </tr> <tr> <td>6. 史料読解の報告と討論 (3)</td> <td>14. 史料読解の報告と討論 (11)</td> </tr> <tr> <td>7. 史料読解の報告と討論 (4)</td> <td>15. 史料読解の報告と討論 (12)</td> </tr> <tr> <td>8. 史料読解の報告と討論 (5)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 史料読解の報告と討論 (6)	2. 伊達騒動について (1)	10. 史料読解の報告と討論 (7)	3. 伊達騒動について (2)	11. 史料読解の報告と討論 (8)	4. 史料読解の報告と討論 (1)	12. 史料読解の報告と討論 (8)	5. 史料読解の報告と討論 (2)	13. 史料読解の報告と討論 (10)	6. 史料読解の報告と討論 (3)	14. 史料読解の報告と討論 (11)	7. 史料読解の報告と討論 (4)	15. 史料読解の報告と討論 (12)	8. 史料読解の報告と討論 (5)	
1. ガイダンス	9. 史料読解の報告と討論 (6)																				
2. 伊達騒動について (1)	10. 史料読解の報告と討論 (7)																				
3. 伊達騒動について (2)	11. 史料読解の報告と討論 (8)																				
4. 史料読解の報告と討論 (1)	12. 史料読解の報告と討論 (8)																				
5. 史料読解の報告と討論 (2)	13. 史料読解の報告と討論 (10)																				
6. 史料読解の報告と討論 (3)	14. 史料読解の報告と討論 (11)																				
7. 史料読解の報告と討論 (4)	15. 史料読解の報告と討論 (12)																				
8. 史料読解の報告と討論 (5)																					
◇ 成績評価の方法	出席 [20%]・レポート [40%]・その他(報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	「桃遠境論集」(コピー配布) 参考書：大槻文彦『伊達騒動実録』(吉川弘文館)、『仙台市史』通史編4 近世2 (仙台市)、 小林清治『伊達騒動と原田甲斐』(吉川弘文館)。																				
◇ 授業時間外学習	毎回事前の予習を必要とする。																				
その他：受講に際しては、学部生へのアドバイザーとしての役割も期待する。必ず「近世史料研究(2)」と連続で受講すること。 オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日本近世・近代史研究演習Ⅱ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Seminar) II	2	准教授 籠橋俊光	2学期	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS617J																				
◆ 授業題目	近世史料研究(2) (Early Modern Document Research (2))																				
◆ 目的・概要	「近世史料研究(1)」の続講。近世史料の正確な読解や基礎的な知識を身につけ、その上で自ら論点を探り、深めていく。受講者には、講義への主体的な参加を求める。なお、必ず「近世史料研究(1)」と連続で受講すること。																				
◆ 到達目標	(1)近世史料の基礎的な読解能力を身につける。 (2)自ら問題・関心を発見し、深めるきっかけをつかむ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 史料読解の報告と討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 史料読解の報告と討論 (1)</td> <td>10. 史料読解の報告と討論 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 史料読解の報告と討論 (2)</td> <td>11. 史料読解の報告と討論 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 史料読解の報告と討論 (3)</td> <td>12. 史料読解の報告と討論 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 史料読解の報告と討論 (4)</td> <td>13. 史料読解の報告と討論 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 史料読解の報告と討論 (5)</td> <td>14. 史料読解の報告と討論 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 史料読解の報告と討論 (6)</td> <td>15. 史料読解の報告と討論 (14)</td> </tr> <tr> <td>8. 史料読解の報告と討論 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 史料読解の報告と討論 (8)	2. 史料読解の報告と討論 (1)	10. 史料読解の報告と討論 (9)	3. 史料読解の報告と討論 (2)	11. 史料読解の報告と討論 (10)	4. 史料読解の報告と討論 (3)	12. 史料読解の報告と討論 (11)	5. 史料読解の報告と討論 (4)	13. 史料読解の報告と討論 (12)	6. 史料読解の報告と討論 (5)	14. 史料読解の報告と討論 (13)	7. 史料読解の報告と討論 (6)	15. 史料読解の報告と討論 (14)	8. 史料読解の報告と討論 (7)	
1. ガイダンス	9. 史料読解の報告と討論 (8)																				
2. 史料読解の報告と討論 (1)	10. 史料読解の報告と討論 (9)																				
3. 史料読解の報告と討論 (2)	11. 史料読解の報告と討論 (10)																				
4. 史料読解の報告と討論 (3)	12. 史料読解の報告と討論 (11)																				
5. 史料読解の報告と討論 (4)	13. 史料読解の報告と討論 (12)																				
6. 史料読解の報告と討論 (5)	14. 史料読解の報告と討論 (13)																				
7. 史料読解の報告と討論 (6)	15. 史料読解の報告と討論 (14)																				
8. 史料読解の報告と討論 (7)																					
◇ 成績評価の方法	出席 [20%]・レポート [40%]・その他(報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	「桃遠境論集」(コピー配布) 参考書：大槻文彦『伊達騒動実録』(吉川弘文館)、『仙台市史』通史編4 近世2 (仙台市)、 小林清治『伊達騒動と原田甲斐』(吉川弘文館)。																				
◇ 授業時間外学習	毎回事前の予習を必要とする。																				
その他：必ず「近世史料研究(1)」と連続で受講すること。 オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日本近世・近代史研究演習Ⅲ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Seminar) Ⅲ	2	准教授 籠橋俊光	1学期	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS618J																				
◆ 授業題目	近世史研究法(1) (Research Methods in Early Modern History (1))																				
◆ 目的・概要	受講者各自が、日本近世史に関して自らの研究テーマに基づいて研究報告をし、それを参加者全員で討議する。研究の実践の場として、受講者自身の論文執筆に資することはもちろんであるが、報告・司会の方法に習熟し、加えて他の受講者の意見や報告を通じて新たな知見を得ることもねらいとする。必ず「近世史研究法(2)」と連続で受講すること。																				
◆ 到達目標	(1)日本近世史において、高度な資料読解能力と、自主的な研究能力を培う。 (2)報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 受講者による報告と討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 受講者による報告と討論 (1)</td> <td>10. 受講者による報告と討論 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 受講者による報告と討論 (2)</td> <td>11. 受講者による報告と討論 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 受講者による報告と討論 (3)</td> <td>12. 受講者による報告と討論 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 受講者による報告と討論 (4)</td> <td>13. 受講者による報告と討論 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 受講者による報告と討論 (5)</td> <td>14. 受講者による報告と討論 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 受講者による報告と討論 (6)</td> <td>15. 受講者による報告と討論 (14)</td> </tr> <tr> <td>8. 受講者による報告と討論 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 受講者による報告と討論 (8)	2. 受講者による報告と討論 (1)	10. 受講者による報告と討論 (9)	3. 受講者による報告と討論 (2)	11. 受講者による報告と討論 (10)	4. 受講者による報告と討論 (3)	12. 受講者による報告と討論 (11)	5. 受講者による報告と討論 (4)	13. 受講者による報告と討論 (12)	6. 受講者による報告と討論 (5)	14. 受講者による報告と討論 (13)	7. 受講者による報告と討論 (6)	15. 受講者による報告と討論 (14)	8. 受講者による報告と討論 (7)	
1. ガイダンス	9. 受講者による報告と討論 (8)																				
2. 受講者による報告と討論 (1)	10. 受講者による報告と討論 (9)																				
3. 受講者による報告と討論 (2)	11. 受講者による報告と討論 (10)																				
4. 受講者による報告と討論 (3)	12. 受講者による報告と討論 (11)																				
5. 受講者による報告と討論 (4)	13. 受講者による報告と討論 (12)																				
6. 受講者による報告と討論 (5)	14. 受講者による報告と討論 (13)																				
7. 受講者による報告と討論 (6)	15. 受講者による報告と討論 (14)																				
8. 受講者による報告と討論 (7)																					
◇ 成績評価の方法	出席 [20%]・レポート [40%]・その他(報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	特になし。																				
◇ 授業時間外学習	特になし。																				
その他：必ず「近世史研究法(2)」と連続で受講すること。 オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日本近世・近代史研究演習Ⅳ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Seminar) Ⅳ	2	准教授 籠橋俊光	2学期	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS619J																				
◆ 授業題目	近世史研究法(2) (Research Methods in Early Modern History (2))																				
◆ 目的・概要	「近世史研究法(1)」の続講。受講者は、自らの報告内容に講義中での議論を踏まえ、論文の執筆を目指していく。受講者には、主体的・積極的な議論への参加を求める。必ず「近世史研究法(1)」と連続で受講すること。																				
◆ 到達目標	(1)日本近世史において、高度な資料読解能力と、自主的な研究能力を培う。 (2)報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 受講者による報告・討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 受講者による報告・討論 (1)</td> <td>10. 受講者による報告・討論 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 受講者による報告・討論 (2)</td> <td>11. 受講者による報告・討論 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 受講者による報告・討論 (3)</td> <td>12. 受講者による報告・討論 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 受講者による報告・討論 (4)</td> <td>13. 受講者による報告・討論 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 受講者による報告・討論 (5)</td> <td>14. 受講者による報告・討論 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 受講者による報告・討論 (6)</td> <td>15. 受講者による報告・討論 (14)</td> </tr> <tr> <td>8. 受講者による報告・討論 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 受講者による報告・討論 (8)	2. 受講者による報告・討論 (1)	10. 受講者による報告・討論 (9)	3. 受講者による報告・討論 (2)	11. 受講者による報告・討論 (10)	4. 受講者による報告・討論 (3)	12. 受講者による報告・討論 (11)	5. 受講者による報告・討論 (4)	13. 受講者による報告・討論 (12)	6. 受講者による報告・討論 (5)	14. 受講者による報告・討論 (13)	7. 受講者による報告・討論 (6)	15. 受講者による報告・討論 (14)	8. 受講者による報告・討論 (7)	
1. ガイダンス	9. 受講者による報告・討論 (8)																				
2. 受講者による報告・討論 (1)	10. 受講者による報告・討論 (9)																				
3. 受講者による報告・討論 (2)	11. 受講者による報告・討論 (10)																				
4. 受講者による報告・討論 (3)	12. 受講者による報告・討論 (11)																				
5. 受講者による報告・討論 (4)	13. 受講者による報告・討論 (12)																				
6. 受講者による報告・討論 (5)	14. 受講者による報告・討論 (13)																				
7. 受講者による報告・討論 (6)	15. 受講者による報告・討論 (14)																				
8. 受講者による報告・討論 (7)																					
◇ 成績評価の方法	出席 [20%]・レポート [40%]・その他(報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	特になし。																				
◇ 授業時間外学習	特になし。																				
その他：必ず「近世史研究法(1)」と連続で受講すること。 オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日本近世・近代史研究演習 V Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Seminar) V	2	教授 安達宏昭	1学期	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS620J																				
◆ 授業題目	近現代政治・社会史の研究 (A study of the Modern Japanese Political and Social History)																				
◆ 目的・概要	2014年に編修が完了し、2015年3月から公刊されている『昭和天皇実録』などを読解し、関連する史料と照合して、近現代日本の政治・社会について考察する。演習形式で行い、報告者に対する質問や討論により、受講者の各自の認識を深める。																				
◆ 到達目標	(1)史料を幅広い視点から分析できるようになる。 (2)史料分析を通して、時代状況を理解できるようになる。 (3)上記2つを通して日本近現代史に対する認識を深めることができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス・『昭和天皇実録』の概要</td> <td>9. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (7)</td> </tr> <tr> <td>2. 昭和天皇に関する研究書の把握・検討</td> <td>10. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>3. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (1)</td> <td>11. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (9)</td> </tr> <tr> <td>4. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (2)</td> <td>12. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (10)</td> </tr> <tr> <td>5. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (3)</td> <td>13. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (11)</td> </tr> <tr> <td>6. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (4)</td> <td>14. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (12)</td> </tr> <tr> <td>7. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (5)</td> <td>15. これまでの報告と討論のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (6)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス・『昭和天皇実録』の概要	9. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (7)	2. 昭和天皇に関する研究書の把握・検討	10. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (8)	3. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (1)	11. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (9)	4. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (2)	12. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (10)	5. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (3)	13. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (11)	6. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (4)	14. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (12)	7. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (5)	15. これまでの報告と討論のまとめ	8. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (6)	
1. ガイダンス・『昭和天皇実録』の概要	9. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (7)																				
2. 昭和天皇に関する研究書の把握・検討	10. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (8)																				
3. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (1)	11. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (9)																				
4. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (2)	12. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (10)																				
5. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (3)	13. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (11)																				
6. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (4)	14. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (12)																				
7. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (5)	15. これまでの報告と討論のまとめ																				
8. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (6)																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%] (○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	『昭和天皇実録 第五』・『昭和天皇実録 第六』・『昭和天皇実録 第七』(東京書籍、2016年3月)																				
◇ 授業時間外学習	『昭和天皇実録』について、毎週、翌週の報告者が担当する箇所の記述を読んできて、その叙述に対する疑問点・問題点を、報告者に質問できるようにする。																				
その他：オフィスアワー：水曜日 16：20～17：50、要予約																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日本近世・近代史研究演習 VI Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Seminar) VI	2	非常勤講師 河西晃祐	2学期	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS621J																				
◆ 授業題目	近現代政治・外交史の研究 (A study of the Modern Japanese Political and Diplomatic History)																				
◆ 目的・概要	満州事変から日中戦争に至る時期の日本近現代史にかかわる多様な一次史料を実際に読解・分析しながら、アクティブラーニングを実践しながら演習形式で議論を深めていく。																				
◆ 到達目標	(1)一次史料を多角的に分析できるようになる。 (2)一次史料が成立した時代背景への理解を深めることができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス：アジア歴史資料センターの使い方</td> <td>9. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (1)</td> <td>10. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (3)</td> </tr> <tr> <td>3. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (2)</td> <td>11. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (4)</td> </tr> <tr> <td>4. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (3)</td> <td>12. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (5)</td> </tr> <tr> <td>5. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (4)</td> <td>13. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (6)</td> </tr> <tr> <td>6. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (5)</td> <td>14. 各自の課題報告 (1)</td> </tr> <tr> <td>7. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (6)</td> <td>15. 各自の課題報告 (2)</td> </tr> <tr> <td>8. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス：アジア歴史資料センターの使い方	9. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (2)	2. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (1)	10. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (3)	3. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (2)	11. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (4)	4. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (3)	12. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (5)	5. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (4)	13. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (6)	6. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (5)	14. 各自の課題報告 (1)	7. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (6)	15. 各自の課題報告 (2)	8. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (1)	
1. ガイダンス：アジア歴史資料センターの使い方	9. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (2)																				
2. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (1)	10. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (3)																				
3. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (2)	11. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (4)																				
4. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (3)	12. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (5)																				
5. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (4)	13. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (6)																				
6. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (5)	14. 各自の課題報告 (1)																				
7. 満州事変に関する一次史料の読解と討論 (6)	15. 各自の課題報告 (2)																				
8. 日中戦争に関する一次史料の読解と討論 (1)																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) リポート [50%]・(○) 出席 [20%] (○) その他 (発表態度、受講態度) [30%]																				
◇ 教科書・参考書	加藤陽子『満州事変から日中戦争へ』(岩波書店、2007年)。 他は講義中に指示します。																				
◇ 授業時間外学習	『満州事変から日中戦争へ』を通読したうえで、各自で疑問などを書き起こし、併せてアジア歴史資料センターなどで関連する一次史料を探してみる。																				
その他：オフィスアワーなどについては、講義中に指示します。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日本近世・近代史研究演習Ⅶ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Seminar) Ⅶ	2	教授 安達宏昭	1学期	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS622J																				
◆ 授業題目	近現代史研究法 (Method of Studies on Japanese Modern History)																				
◆ 目的・概要	近現代史における基礎的な研究テーマについて受講者相互に認識を深めるとともに、各自が研究テーマを設定して、その問題関心、視角、実証分析について発表する。それに対する討論を通して、発表者の研究方法について課題を明確にする。																				
◆ 到達目標	(1)先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。 (2)自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。 (3)上記の2つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義</td> <td>9. 受講者の研究報告と討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 受講者の研究報告と討論 (1)</td> <td>10. 受講者の研究報告と討論 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 受講者の研究報告と討論 (2)</td> <td>11. 受講者の研究報告と討論 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 受講者の研究報告と討論 (3)</td> <td>12. 受講者の研究報告と討論 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 受講者の研究報告と討論 (4)</td> <td>13. 受講者の研究報告と討論 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 受講者の研究報告と討論 (5)</td> <td>14. 受講者の研究報告と討論 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 受講者の研究報告と討論 (6)</td> <td>15. 受講者の研究報告と討論 (14)</td> </tr> <tr> <td>8. 受講者の研究報告と討論 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義	9. 受講者の研究報告と討論 (8)	2. 受講者の研究報告と討論 (1)	10. 受講者の研究報告と討論 (9)	3. 受講者の研究報告と討論 (2)	11. 受講者の研究報告と討論 (10)	4. 受講者の研究報告と討論 (3)	12. 受講者の研究報告と討論 (11)	5. 受講者の研究報告と討論 (4)	13. 受講者の研究報告と討論 (12)	6. 受講者の研究報告と討論 (5)	14. 受講者の研究報告と討論 (13)	7. 受講者の研究報告と討論 (6)	15. 受講者の研究報告と討論 (14)	8. 受講者の研究報告と討論 (7)	
1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義	9. 受講者の研究報告と討論 (8)																				
2. 受講者の研究報告と討論 (1)	10. 受講者の研究報告と討論 (9)																				
3. 受講者の研究報告と討論 (2)	11. 受講者の研究報告と討論 (10)																				
4. 受講者の研究報告と討論 (3)	12. 受講者の研究報告と討論 (11)																				
5. 受講者の研究報告と討論 (4)	13. 受講者の研究報告と討論 (12)																				
6. 受講者の研究報告と討論 (5)	14. 受講者の研究報告と討論 (13)																				
7. 受講者の研究報告と討論 (6)	15. 受講者の研究報告と討論 (14)																				
8. 受講者の研究報告と討論 (7)																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] (○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	特になし。																				
◇ 授業時間外学習	報告者の研究テーマに関する史実などを、事前に学習しておく。																				
その他：オフィスアワー：水曜日 16：20～17：50、要予約																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
史料学 A r c h i v a l S c i e n c e I	2	教授 柳原敏昭	1学期	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS624J																				
◆ 授業題目	中世古文書読解 (Study of Medieval Japanese Primary Documents)																				
◆ 目的・概要	古文書とは、差出人と受取人とが明示されている歴史的な文書をいう。身近な例で言えば、手紙、合格通知、入学許可書、授業料納入通知書、授業料領収書、学位記等が一定の年月を経れば古文書となる (日記や編纂物、文学作品等は古文書には含まれない)。古文書は、歴史研究にとって最も大切な史料である。本講では、中世の武家文書を主な素材として、用字・用語に習熟するとともに、様式の展開ひいてはその歴史的背景についても学べるようにしたい。																				
◆ 到達目標	日本中世文書の読解力を身につけ、様式についての基本的な知識を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス ①</td> <td>9. 室町幕府文書 奉書系文書</td> </tr> <tr> <td>2. ガイダンス ②</td> <td>10. 室町幕府文書 命令の到達・施行</td> </tr> <tr> <td>3. 鎌倉幕府文書 下文</td> <td>11. 軍事関係文書</td> </tr> <tr> <td>4. 鎌倉幕府文書 政所下文</td> <td>12. 戦国大名文書 ①</td> </tr> <tr> <td>5. 鎌倉幕府文書 御教書</td> <td>13. 戦国大名文書 ②</td> </tr> <tr> <td>6. 鎌倉幕府文書 下知状</td> <td>14. 讓状、起請文など</td> </tr> <tr> <td>7. 室町幕府文書 御判御教書</td> <td>15. 授業のまとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 室町幕府文書 御内書</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス ①	9. 室町幕府文書 奉書系文書	2. ガイダンス ②	10. 室町幕府文書 命令の到達・施行	3. 鎌倉幕府文書 下文	11. 軍事関係文書	4. 鎌倉幕府文書 政所下文	12. 戦国大名文書 ①	5. 鎌倉幕府文書 御教書	13. 戦国大名文書 ②	6. 鎌倉幕府文書 下知状	14. 讓状、起請文など	7. 室町幕府文書 御判御教書	15. 授業のまとめと試験	8. 室町幕府文書 御内書	
1. ガイダンス ①	9. 室町幕府文書 奉書系文書																				
2. ガイダンス ②	10. 室町幕府文書 命令の到達・施行																				
3. 鎌倉幕府文書 下文	11. 軍事関係文書																				
4. 鎌倉幕府文書 政所下文	12. 戦国大名文書 ①																				
5. 鎌倉幕府文書 御教書	13. 戦国大名文書 ②																				
6. 鎌倉幕府文書 下知状	14. 讓状、起請文など																				
7. 室町幕府文書 御判御教書	15. 授業のまとめと試験																				
8. 室町幕府文書 御内書																					
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験 [60%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [20%] (○) その他 (講義中における発表の内容) [20%]																				
◇ 教科書・参考書	随時プリントを配布する。																				
◇ 授業時間外学習	受講者には毎回、古文書 (写真版コピー) を筆写する課題が出される。																				
その他：古文・漢文の基礎的読解力を要する。大学院生にはアドバイザー的な役割が求められる。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
史 料 学 A r c h i v a l S c i e n c e	Ⅱ Ⅱ	2	准教授	籠 橋 俊 光	2 学 期 水 4
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS625J				
◆ 授業題目	近世古文書読解 (Reading Early Modern Documents)				
◆ 目的・概要	古文書は歴史学において最も重要な材料であり、その読解は必要不可欠な技術である。なかでも近世史研究においては、実際に膨大な原文書を読み、取り扱う能力が必要とされる。本講義は、近世古文書のなかでも代表的な文書様式について理解を深め、読解能力を培うものである。さまざまな近世の古文書が自力で読めるようになることを目標とするため、テキストとして配布する古文書(コピー)について毎回受講者の中から指名し、読みを発表させる。				
◆ 到達目標	(1)近世古文書に関する基礎的知識を持つ。 (2)近世古文書の読解能力を養う。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス・近世古文書学について 2. 近世古文書の特徴と基礎的知識 3. 文字の読解法とその訓練 4. 武家文書(1) 將軍関係文書・將軍発給文書 ① 5. 武家文書(2) 將軍発給文書 ② 6. 武家文書(3) 將軍発給文書 ③ 7. 武家文書(4) 老中発給文書 ① 8. 武家文書(5) 老中発給文書 ② 9. 武家文書(6) 幕府発給廻状 10. 町方・村方文書(1) 定 11. 町方・村方文書(2) 人別帳・検地帳 12. 町方・村方文書(3) 年貢関係文書 13. 町方・村方文書(4) 商業関係文書・訴願関係文書 14. 町方・村方文書(5) 家・個人文書 15. 講義のまとめ・試験				
◇ 成績評価の方法	出席 [30%]・筆記試験 [60%]・その他(報告の内容など) [10%]				
◇ 教科書・参考書	随時プリント配布。受講に際して古文書読解用の辞典類を用意すること。				
◇ 授業時間外学習	毎回事前の予習を必要とする。				
その他：受講に際しては、学部生へのアドバイザーとしての役割も期待する。] オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
史 料 管 理 学 Scientific Study of Historical Materials	Ⅰ Ⅰ	2	准教授	籠 橋 俊 光	1 学 期 金 4・5
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS626J				
◆ 授業題目	史料整理・保存の理論と方法 (Document Organization and Preservation: Purpose and Methods)				
◆ 目的・概要	歴史学は、史料の内容を理解することに大きな比重を置く学問である。しかし、その一方で史料はモノとしての側面も持っている。文字・画像の情報だけではなく、史料そのものを永く保存し、人類共有の文化遺産として後世に伝えなければならない。そのためには史料の特質や史料群の構造を理解し、史料そのものを正しく取り扱い、適切に保存していく理論と方法を学ぶ必要がある。この講義では、史料の保存・活用のための学問であるアーカイブズ学についてその基礎を学ぶ。さらにそれをもとにして、博物館・図書館などの機能の相違や、実物史料の取り扱い方、史料の撮影や目録編成の理論などについて学んでいく。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れることがあるので、特に丁寧な取り扱いを心がけてほしい。				
◆ 到達目標	史料保存の意義と理論・方法について理解し、史料の調査・整理・保存に関する基礎的知識を習得する。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス・史料保存の意義と意味(1) 2. 史料保存の意義と意味(2) 3. 文書館・図書館・博物館・史料保存機関の性格と特色 4. アーカイブズの理論(1) 5. アーカイブズの理論(2) 6. 史料調査・整理の実際 7. 目録論 8. 目録作成の技術(1) 9. 目録作成の技術(2) 10. 歴史資料の取り扱いとその実践 11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際 12. マイクロフィルム・カメラの取り扱い 13. フィールド実習 14. 史料整理の基礎(1) 15. 史料整理の基礎(2)				
◇ 成績評価の方法	出席 [30%]・受講態度 [20%]・レポート [50%]				
◇ 教科書・参考書	随時プリントを配布する。参考書：安藤正人・大藤修『史料保存と文書館学』(吉川弘文館)。				
◇ 授業時間外学習	特になし。				
その他：必ず「史料整理実習」と連続して受講すること。 オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
史 料 管 理 学 II Scientific Study of Historical Materials II	2	准教授 籠 橋 俊 光	2 学期	金	4・5																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS627J																				
◆ 授業題目	史料整理実習 (Practicum in Document Organization)																				
◆ 目的・概要	実際に史料整理を行う。大規模な文書群を対象として取り上げ、史料の取り扱い、現状の把握、基本データの採録、目録作成、保存に向けての作業など、史料整理に関する基本的な実務を実際に行う。さらに、自ら整理した史料について、その個別の内容の理解だけではなく、文書群のなかにおける位置づけや文書群そのものの構造など、幅広く文書群を把握する方法を学ぶ。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れるので、その際には特に丁寧な取り扱いを心がけてほしい。																				
◆ 到達目標	実際に実物の史料を整理し、「史料整理・保存の理論と方法」において学習した史料整理の理論と方法を体得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 史料整理実習 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 史料整理実習 (1)</td> <td>10. 史料整理実習 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 史料整理実習 (2)</td> <td>11. 史料整理実習 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 史料整理実習 (3)</td> <td>12. 史料整理実習 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 史料整理実習 (4)</td> <td>13. 史料整理実習 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 史料整理実習 (5)</td> <td>14. 史料整理実習 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 史料整理実習 (6)</td> <td>15. 史料整理実習 (14)・整理内容報告</td> </tr> <tr> <td>8. 史料整理実習 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 史料整理実習 (8)	2. 史料整理実習 (1)	10. 史料整理実習 (9)	3. 史料整理実習 (2)	11. 史料整理実習 (10)	4. 史料整理実習 (3)	12. 史料整理実習 (11)	5. 史料整理実習 (4)	13. 史料整理実習 (12)	6. 史料整理実習 (5)	14. 史料整理実習 (13)	7. 史料整理実習 (6)	15. 史料整理実習 (14)・整理内容報告	8. 史料整理実習 (7)	
1. ガイダンス	9. 史料整理実習 (8)																				
2. 史料整理実習 (1)	10. 史料整理実習 (9)																				
3. 史料整理実習 (2)	11. 史料整理実習 (10)																				
4. 史料整理実習 (3)	12. 史料整理実習 (11)																				
5. 史料整理実習 (4)	13. 史料整理実習 (12)																				
6. 史料整理実習 (5)	14. 史料整理実習 (13)																				
7. 史料整理実習 (6)	15. 史料整理実習 (14)・整理内容報告																				
8. 史料整理実習 (7)																					
◇ 成績評価の方法	出席 [50%]・受講態度 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	各自古文書読解用辞典類を持参すること。																				
◇ 授業時間外学習	特になし。																				
その他：必ず「史料整理・保存の理論と方法」と連続して受講すること。また、受講に際しては、学部生へのアドバイザーとしての役割を強く期待する。オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
考 古 学 特 論 Archaeology (Advanced Lecture) I	I 2	准教授 鹿 又 喜 隆	1 学期	月	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHI-HIS628J 日本考古学の諸問題 (Advanced Lecture of Japanese Archaeology) 日本考古学は、海外とは異なる独自の発展を遂げています。その特質を研究史を通して学ぶことは重要であり、考古学研究を行なう基礎となります。この日本考古学の特徴を理解した上で、現代考古学の課題や問題点を明らかにし、その解決方法を具体的な事例研究を通して理解していきます。先史時代を主要な対象時期として、自然環境や社会環境の変化と、人類行動の変化の関係を把握し、自然・文化・社会の関わりについて理解を深めます。また、遺物や遺構からかつての人類活動に接近するには幾つかのプロセスを経る必要がありますが、その考古学的方法を理解することは重要です。この点について発掘調査による重要な発見や、研究対象に応じた調査・分析方法の事例を通じて解説します。近年は関連諸分野の方法を導入することで、新たな考古学的方法が開発されています。このような研究動向を理解することが、これから考古学を研究する者にとって重要なことです。				
◆ 到達目標	(1)考古学研究の歴史を理解する。 (2)現在の考古学研究の方法を理解する。 (3)考古学関連分野の理解を深め、考古学研究の方法を前進させる方法を学ぶ。 (4)人類が自然・社会・文化とのかかわりの中で生きてきて、それが現代社会に繋がっていることを理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 考古学特論Ⅰの1年間の講義内容をダイジェストで紹介する。講義内容の目次の役割を果たし、講義の全体像を把握できる。 2. 考古学的解釈のための理論と方法。範囲論、技術組織、動作連鎖、ミドルレンジセオリー、アフォーダンス、フューリスティック・アプローチなど、考古学の基礎的・応用的概念を学ぶ。 3. 災害と人々の営み。考古学では、人類の長い歴史を扱うため、防災の面でも長期的な視点をもつことが可能である。発掘調査事例に基づく災害の歴史を紹介するとともに、なぜ文化財を保存する必要があるかについて考える。 4. 研究倫理。2000年に発覚した前期旧石器時代遺跡捏造問題を紹介し、研究倫理について考える。様々な側面から研究方法や成果の発信の方法について現実的に理解する。 5. 比較文化研究。比較文化研究には幾つかの方法がある。隣接地域を同時に比較する機会が多いが、遠く離れた地域間の比較であっても、意義ある研究となる。具体的な比較文化研究を紹介する。 6. 抽象的観念の研究。考古学では実証性が求められるため、抽象的観念の研究が難しい。本講義では、縄文時代の祭祀・彩色・性差などを踏まえて、抽象的観念に関わる研究を紹介する。 7. 自然環境の変化と人々の営み。人々は自然環境との関わりの中で生きてきた歴史がある。本講義では、人と自然の関わりの変化を通時的に概観する。 8. 更新世の環境と人類の適応的行動。更新世の長い時間の中で、人類は様々な技術を開発し、生き延びてきた。具体的な事例をあげて、その関係を紹介する。 9. 石刃技法の諸問題。ホモサピエンスの出現と合せて重視される石刃技法について、国内外の様々な研究事例をもとに紹介すると共に、研究の問題点をあげる。 10. 狩猟活動の変革。狩猟具の変化は、人類の技術革新の代表例である。その研究の現状を国内外の研究を紹介しながら、理解する。 11. 民族考古学の基礎と応用。民族考古学的な研究の研究の歴史と問題点を取り上げ、日本の後期旧石器時代の事例をもとに、より積極的な実践事例を紹介する。 12. 更新世から完新世への移行と人類の適応的行動。以下の4回で完新世適応について学ぶ。ここでは、急激な温暖化があった時代の様相を具体的な事例を通して紹介する。 13. 完新世への移行と生業。縄文時代の前半期を中心に、完新世の環境に応じた人類活動の変化について概観する。 14. 温暖化最盛期のその後。縄文時代の中盤から終末にかけての集落、生業、祭祀の変化を概観する。 15. 農耕集落の形成と展開。日本列島の農耕の開始について、世界史的な視点から評価する。弥生文化と世界の農耕文化を比較する。 				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	(○)筆記試験 [70%]・(○)出席 [30%] 教科書は使用しない。参考文献を講義中に随時提示する。 講義内で試験課題に対応した設問をおこなうので、時間外に文献などで調べることを。				
その他：オフィスアワー：水曜日 16：20～17：00					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
考 古 学 特 論 Archaeology (Advanced Lecture) II	II 2	非常勤 講 師 小 林 正 史	集 中 (1 学期)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHI-HIS629J 土器の機能研究 (Functional Study of Pottery) この講義の副題は「使い勝手との関連からみた土器作り技術の研究」である。これまでの土器研究では、土器作り技術の特徴を「集団の癖」ととらえ、それらの特徴の類似と差異を時期間・地域間で詳細に観察することにより、集団間の交流密度 (人・モノ・情報の移動程度) を復元することを主目的としてきた。この研究方法の課題として、「情報の受け手側の選択」がブラックボックスとなっていることがあげられる。そこで、この講義では、「使い勝手 (機能性・耐久性) と製作の手間とのバランス」という視点にたつて、「一定の選択肢の中から特定の技術が選択された機能的理由」を検討する。				
◆ 到達目標	①日本の土器研究の特徴を理解できるようになる。 ②機能研究の必要性を理解できるようになる。 ③特定の技術の選択は、社会的 (人・モノ・情報の伝播)、生態学的 (使い勝手と製作の手間とのバランス)、心理的 (あこがれ意識とライバル意識) などの諸側面が総合的に考慮された結果であることを理解できるようになる。言い換えれば、新技術の受け手側の選択のプロセスを理解する。 ④土器研究は未開拓部分が非常に大きいことを理解できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 土器機能研究の研究史 2. 土器の形・作りと機能の結びつき 3. 炊飯民族誌の比較分析：南アジア 4. 炊飯民族誌の比較分析：東南アジア島部 5. 炊飯民族誌の比較分析：東南アジア大陸部 6. 米作りの始まりに伴う調理方法の変化 7. 和食の成立過程：弥生時代の炊飯方法 8. 和食の成立過程： 古墳時代前期における炊飯の、茹で時間短縮化 9. 和食の成立過程：5世紀後半から古代の、米蒸し調理 10. 和食の成立過程：和食の成立過程 11. 素地作りと紐積み方法 12. 叩き技法 13. 野焼き方法の復元 14. 土器文様の分析 15. 土器の形・作りと製作技術の関連 				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	レポート (50%)、授業中の課題ワーク (数回) (30%)、授業中のディスカッションへの参加態度 (20%) 各授業において、指定された筆者論文のPDFをWEBから各自がコピーする。 事前に指定論文を読んでおくことが要求される。(WEBから各自が取得)。 課題ワークを翌日に提出することを要求される場合がある。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
考古学特論Ⅲ Archaeology (Advanced Lecture) Ⅲ	2	特任准教授 菅野智則	2学期	木	4
<p>◆ 科目ナンバリング LHI-HIS630J</p> <p>◆ 授業題目 先史文化の考古学 (Archeology of the prehistory culture)</p> <p>◆ 目的・概要 本授業では、日本列島の先史時代である所謂「縄文時代」における先史文化(縄文文化)を理解することを目的とします。この縄文文化に関する考古学研究は、これまで土器や石器等の遺物が主要な対象となり、研究が進められてきました。しかし、縄文文化を理解するためには多種多様な側面から研究する必要があります。例えば、動植物遺存体の研究からは食生活や周囲の環境、堅住居跡や墓などの諸施設の研究からは居住形態や社会構造などの縄文文化の一端を明らかにすることができます。そのほかには、考古学に限らず自然環境に関する研究などの他分野の様々な研究も縄文文化を理解する上では重要です。本授業では、このような縄文文化に関する多種多様な研究の歴史とその方法を学び、これまでの研究により構築されてきた縄文文化観を理解することを当初の目的とします。また、縄文文化は、これまで環太平洋の枠組みのもと、北米大陸北西海岸部における先史時代狩猟採集民文化との比較研究がなされてきました。本授業でも北米北西海岸部における先史文化に関する研究を解説し、縄文文化の相対的な位置を理解し、比較文化的視点を学ぶことを最終的な目的とします。</p> <p>◆ 到達目標 (1)縄文文化に関するこれまでの研究の歴史を理解する。 (2)縄文文化研究における多種多様な視点や研究方法を理解する。 (3)縄文文化にかぎらず広く先史文化一般を理解するための基礎を学ぶ。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本授業の1年間の講義内容を概観することにより、授業の目的と到達目標について理解する。 2. 第2次世界大戦前後における縄文文化研究について解説する。戦前の研究は、皇国史観などの時代的背景が強く影響していた。そのような状況下で考古学者はどのように研究を進めてきたのか、そして戦後どのように変わったのか理解する。 3. 戦後から近年までの縄文文化研究について解説する。1980年代から様々な考古学的新発見があり、日本列島における「縄文時代」観が変化してきた。その新発見に基づく研究の内容について紹介し、その成果や問題点等について理解する。 4. 最近の縄文文化研究について解説する。最近の研究の視点や方法もより多様化し、新資料の発見というだけではなく、考古学における新たな展開が認められている。この点について、最近の研究事例を紹介し解説する。 5. 「縄文時代」という枠組みについて解説する。「縄文時代」という時代設定・概念が果たして適切なのか、これまでの研究の歴史を振り返り、これまでの講義のまとめとして説明する。 6. 縄文文化の研究手法。基本的な研究方法に関して解説する。最も基礎的なものには縄文土器の型式学的方法がある。これは「縄文時代」の時期をはかるための物差し(編年)として機能している。このような研究のほか、層位学的方法等の考古学の基礎的な研究方法について概観する。 7. 成立期の縄文文化の年代と地域性。東北地方の縄文土器(草創期～前期)に関する研究について解説する。この時期は、縄文文化が成立する時期の土器であり、その内容も多様である。このような時期の土器に関して、編年研究だけではなく、技術的あり方や地域性などについても説明する。 8. 展開・転換期の縄文文化の年代と地域性。東北地方の縄文土器(中期～晩期)に関する研究について解説する。この時期は、縄文文化の展開期とも言える時期に当たり、特徴的な土器も誕生している。この時期の土器に関して、その特徴や地域性について説明する。 9. 成立期の縄文文化の居住形態。縄文文化(草創期・早期)における生業と居住の形態に関する研究について解説する。この時期は、定住的な縄文集落が形成されるまでの時期である。その中で、居住・生業関連施設や、初めて出現する貝塚、それらに関連する遺物の研究に関して説明する。 10. 展開期の縄文文化の居住形態。縄文文化(前期・中期)における生業と居住の形態に関する研究について解説する。この時期は、典型的な縄文集落が形成され、活発に活動がなされる時期である。その中で、居住・生業関連施設や、それらに関連する遺物の研究に関して説明する。 11. 転換期の縄文文化の居住形態。縄文文化(後期・晩期)における生業と居住の形態に関する研究について解説する。この時期は、典型的な縄文集落が形成され、弥生時代に向かって変質する時期である。その中で、居住・生業関連施設や、それらに関連する遺物の研究に関して説明する。 12. 縄文文化と北米大陸北西海岸部先史文化との比較に関して説明する。これまでになされた両文化の比較研究の歴史を振り返るとともに、北米大陸北西海岸部の先史文化の研究について概説する。 13. 縄文文化と北米北西海岸部先史文化における生業活動の差異について、北米北西海岸部における貝塚の調査事例と日本の事例と比較しながら説明する。 14. 縄文文化と北米北西海岸部先史文化における生業活動について、北米北西海岸部における低湿地遺跡の調査事例と日本の事例と比較しながら説明する。 15. 縄文文化と北米先史文化との比較検討。これまでの講義のまとめとして、両文化の比較を行い、今後の研究の方向性について解説する。 <p>◇ 成績評価の方法 (○) レポート [60%]・(○) 出席 [40%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 教科書は使用しない。参考書は講義中に随時提示する。</p> <p>◇ 授業時間外学習 講義内でレポート内容に応じた問題を設定するので、時間外に講義内に提示した参考書などで調べること。</p>					
その他：オフィスアワー：水曜日 16：15～17：15 (片平キャンパス・埋蔵文化財調査室)					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
資料基礎論特論 Archaeology (Advanced Lecture)	2	教授 阿子島 香	2学期	月	3
<p>◆ 科目ナンバリング LHI-HIS637J</p> <p>◆ 授業題目 先史考古学資料論 (Research Method of Prehistoric Archaeology)</p> <p>◆ 目的・概要 先史時代の考古学資料研究の現状と課題について、発掘調査資料の基礎的な特質に応じた実証的な研究方法の理解を深める授業である。西ヨーロッパ(特にフランス南部)、北米(特にアメリカのグレイトプレーンズ地域)、東アジア(特に韓半島、ロシアサハリン)など、世界各地の遺跡を比較文化的視点で考察する。旧石器時代を中心とする事例研究の中から、問題点を選択して詳説する。年代論、機能論、分布論の持つ意義を考察する。また理論的には、人類学の一分野であるアメリカの「プロセス考古学」学派による研究史、遺跡・遺物の分析法を学ぶ。受講者の関心をフィードバックしながら、タイポロジー(型式学)、遺物の使用痕分析、遺物の空間分布、石器製作技術、統計的方法などから取り上げ、具体的な分析方法を解説する。</p> <p>期末レポートにおいては、受講者は日本国内の発掘調査報告書を各自の関心に従って選択し、先史時代遺跡から発掘された資料の事実記録に基づいて、各自がデータの分析を試みる。</p> <p>先史時代の遺跡・遺構・遺物の特質を、資料にそくして理解できるようになる。</p> <p>◆ 到達目標</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス。授業の構成と成績評価基準の説明。「キュレレーター養成コース」の授業としての説明。アメリカ考古学の特質(1)。 2. アメリカ考古学の特質(2)。「人類学としての考古学」パラダイムと、日本の埋蔵文化財の考古学との比較。 3. アメリカ考古学の歴史(1)。1960年代のニューアーケオロジーと、その研究事例、社会的背景。ムスチエ文化論争の意義。 4. アメリカ考古学の歴史(2)。1970年代の「プロセス考古学」と、民族考古学の「ミドルレンジセオリー」の本質をめぐって。 5. ルイス・ビンフォードの考古学とミドルレンジセオリーの実践(1)。 6. ルイス・ビンフォードの考古学とミドルレンジセオリーの実践(2)。 7. 各国考古学の研究伝統と学史の特質。日本考古学、アジアの考古学、ヨーロッパの考古学の研究事例から(1)。 8. 各国考古学の研究伝統と学史の特質。日本考古学、アジアの考古学、ヨーロッパの考古学の研究事例から(2)。 9. 各国考古学の研究伝統と学史の特質。日本考古学、アジアの考古学、ヨーロッパの考古学の研究事例から(3)。 10. 課題レポートの解説(1)。対象とする遺跡の選択と調査報告書の特質。埋蔵文化財保護と考古学研究との関係をめぐって。 11. 課題レポートの解説(2)。発掘調査報告書における事実記載と解釈、考察の判断基準の問題をめぐって。 12. 先史考古学方法論の諸問題(1)。型式学と人間集団論および年代学。 13. 先史考古学方法論の諸問題(2)。機能論と使用痕分析法。 14. 先史考古学方法論の諸問題(3)。遺跡内での遺物分布。人間活動の復元。 15. 先史考古学の国際的展望。レポート提出。 <p>◇ 成績評価の方法 (○) レポート [60%]・(○) 出席 [40%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 参考文献について、随時教室で指示。毎回、資料としてプリントを配布する(英語および日本語)。</p> <p>◇ 授業時間外学習 各回の講義のトピックに関して、各自で参考文献を学習し、理解を深める。配布プリントの内容に関連した事項について、文献読解を行なう。レポートの対象とする「発掘調査報告書」は、各自の関心に応じて附属図書館の地下書庫で、配架されている埋蔵文化財報告書を探求し、レポート課題として選択する。</p>					
<p>◆ その他：セメスター期間中を通じて、考古学や埋蔵文化財関連の行事、研究会・学会、説明会等を、そのつど紹介・解説するので、受講者は積極的に参加し、この授業と関連するテーマについての理解を深めていくことが望ましい。考古学専攻分野の活動等との関連で、授業内容に若干のスケジュール調整あり。</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
博 物 館 資 料 論 特 論 Museum Collection Study (Advanced Lecture)	2	教 授 藤 澤 敦	1 学 期	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS638J																				
◆ 授業題目	東北大学収蔵の考古学資料 (Archaeology collection of Tohoku University and history of the research)																				
◆ 目的・概要	東北大学には研究の基礎となり成果となった、膨大な資料標本や研究機器類がある。その中には、文学研究科の考古学資料が約20万件あり、一部は考古学陳列館に収蔵・展示されている。これらの資料は、喜田貞吉による収集資料、伊東信雄による東北地方を中心とする各地の発掘調査資料、芹沢長介による旧石器時代遺跡の調査資料や近世陶磁器資料などからなっている。 本講義では、これらの資料について解説し、これら資料に基づいて構築された学説の意義について紹介するとともに、その研究史的意義と今日的意義について検討する。本年度は、伊東信雄の調査による資料と、それに基づく研究について取り上げる。特に、伊東が東北地方の弥生時代以降の歴史をどのように認識してきたのか、その調査研究の過程と関連づけて検討したい。そこから、伊東が考古学研究において文化と人間集団をどのように認識してきたのかを検討する。																				
◆ 到達目標	(1)東北大学が収蔵する考古学資料について理解する。 (2)東北大学の考古学資料の研究史的意義、現在の意義を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 講義の概要と進め方の説明および導入</td> <td>8. 伊東信雄の古代研究 (1)</td> </tr> <tr> <td>2. 東北大学での考古学研究の歩みと考古学陳列館の概要</td> <td>9. 伊東信雄の古代研究 (2)</td> </tr> <tr> <td>3. 考古学陳列館の見学と収蔵資料の解説 (1)</td> <td>10. 伊東信雄と蝦夷研究</td> </tr> <tr> <td>4. 考古学陳列館の見学と収蔵資料の解説 (2)</td> <td>11. 伊東信雄の戦前の研究と戦後の研究を貫くもの</td> </tr> <tr> <td>5. 伊東信雄の経歴と主な研究</td> <td>12. 伊東信雄と戦後歴史学</td> </tr> <tr> <td>6. 伊東信雄の弥生時代研究</td> <td>13. 伊東信雄の研究における文化と人間集団 (1)</td> </tr> <tr> <td>7. 伊東信雄の古墳時代研究</td> <td>14. 伊東信雄の研究における文化と人間集団 (2)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ</td> </tr> </table>					1. 講義の概要と進め方の説明および導入	8. 伊東信雄の古代研究 (1)	2. 東北大学での考古学研究の歩みと考古学陳列館の概要	9. 伊東信雄の古代研究 (2)	3. 考古学陳列館の見学と収蔵資料の解説 (1)	10. 伊東信雄と蝦夷研究	4. 考古学陳列館の見学と収蔵資料の解説 (2)	11. 伊東信雄の戦前の研究と戦後の研究を貫くもの	5. 伊東信雄の経歴と主な研究	12. 伊東信雄と戦後歴史学	6. 伊東信雄の弥生時代研究	13. 伊東信雄の研究における文化と人間集団 (1)	7. 伊東信雄の古墳時代研究	14. 伊東信雄の研究における文化と人間集団 (2)		15. まとめ
1. 講義の概要と進め方の説明および導入	8. 伊東信雄の古代研究 (1)																				
2. 東北大学での考古学研究の歩みと考古学陳列館の概要	9. 伊東信雄の古代研究 (2)																				
3. 考古学陳列館の見学と収蔵資料の解説 (1)	10. 伊東信雄と蝦夷研究																				
4. 考古学陳列館の見学と収蔵資料の解説 (2)	11. 伊東信雄の戦前の研究と戦後の研究を貫くもの																				
5. 伊東信雄の経歴と主な研究	12. 伊東信雄と戦後歴史学																				
6. 伊東信雄の弥生時代研究	13. 伊東信雄の研究における文化と人間集団 (1)																				
7. 伊東信雄の古墳時代研究	14. 伊東信雄の研究における文化と人間集団 (2)																				
	15. まとめ																				
◇ 成績評価の方法	レポート (60%)・出席 (40%)																				
◇ 教科書・参考書	教室にて資料を配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
考 古 学 研 究 演 習 I Archaeology (Advanced Seminar) I	2	教 授 阿 子 島 香 隆 准 教 授 鹿 又 喜 隆	1 学 期	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS633J																				
◆ 授業題目	考古学研究史 (Advanced Seminar of Archaeological Studies)																				
◆ 目的・概要	日本考古学を中心に、明治時代以来の考古学研究の流れを整理し、今後の各自の研究方向を探る。旧石器の編年と製作技術、縄文土器の型式学、縄文集落と社会、農耕社会の成立と発展、古墳文化、城柵官衙遺跡、古代窯業生産と供給、中・近世考古学その他、受講者各自が具体的な課題を選んで、順次、発表を行う。詳細な文献目録の作製、研究史の画期となった主要業績の解題、基本的な考古学資料の内容理解、調査研究報告書の詳細な検討、そして相互の討論を通して、研究の現状についての認識を深める。																				
◆ 到達目標	(1)日本考古学の研究史の流れを把握し、学史上の画期を整理して理解し、その中で各自の研究テーマを位置づけられるようになる。 (2)各時代、各地域の考古学における研究内容の広がり把握し、各自の研究テーマの現状と課題を理解できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンスと発表の説明</td> <td>9. 学生による研究発表 ⑧</td> </tr> <tr> <td>2. 学生による研究発表 ①</td> <td>10. 学生による研究発表 ⑨</td> </tr> <tr> <td>3. 学生による研究発表 ②</td> <td>11. 学生による研究発表 ⑩</td> </tr> <tr> <td>4. 学生による研究発表 ③</td> <td>12. 学生による研究発表 ⑪</td> </tr> <tr> <td>5. 学生による研究発表 ④</td> <td>13. 学生による研究発表 ⑫</td> </tr> <tr> <td>6. 学生による研究発表 ⑤</td> <td>14. 学生による研究発表 ⑬</td> </tr> <tr> <td>7. 学生による研究発表 ⑥</td> <td>15. 学生による研究発表 ⑭</td> </tr> <tr> <td>8. 学生による研究発表 ⑦</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンスと発表の説明	9. 学生による研究発表 ⑧	2. 学生による研究発表 ①	10. 学生による研究発表 ⑨	3. 学生による研究発表 ②	11. 学生による研究発表 ⑩	4. 学生による研究発表 ③	12. 学生による研究発表 ⑪	5. 学生による研究発表 ④	13. 学生による研究発表 ⑫	6. 学生による研究発表 ⑤	14. 学生による研究発表 ⑬	7. 学生による研究発表 ⑥	15. 学生による研究発表 ⑭	8. 学生による研究発表 ⑦	
1. ガイダンスと発表の説明	9. 学生による研究発表 ⑧																				
2. 学生による研究発表 ①	10. 学生による研究発表 ⑨																				
3. 学生による研究発表 ②	11. 学生による研究発表 ⑩																				
4. 学生による研究発表 ③	12. 学生による研究発表 ⑪																				
5. 学生による研究発表 ④	13. 学生による研究発表 ⑫																				
6. 学生による研究発表 ⑤	14. 学生による研究発表 ⑬																				
7. 学生による研究発表 ⑥	15. 学生による研究発表 ⑭																				
8. 学生による研究発表 ⑦																					
◇ 成績評価の方法	(○) レポート [30%]・(○) 出席 [30%] (○) その他 (具体的には、発表と討論) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	教室にて指示、プリントを配布。																				
◇ 授業時間外学習	発表内容は、時間外に各自がまとめる。																				
その他：研究演習 I、II を通年で連続履修することが望ましい。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																
考 古 学 研 究 演 習 II Archaeology (Advanced Seminar) II	2	准教授 教授	鹿 又 喜 隆 阿子島 香	2 学期	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS634J																					
◆ 授業題目	考古学の方法と理論 (Advanced Seminar of Archaeological Method and Theory)																					
◆ 目的・概要	考古学研究の歴史と現状について、各自の関心領域を中心にまとめて発表し、相互の討論を通じて理解を深める。各時代の研究における、型式学と技術、材質研究、編年と地域性、生産と流通、文化変化、環境と生業活動、社会と集団、葬制、集落論など、具体的に課題を選択し、詳細な文献目録を作成し、現在の問題点を的確に把握し、今後の各自の研究指針を追究する。																					
◆ 到達目標	(1)日本考古学研究の現状について、学史の流れを踏まえて問題点を展望し、各自の研究テーマを具体的に追求できるようになる。 (2)近年その内容が非常に多岐にわたる考古学研究の、広がりや深まりを認識し、各自の研究方法を位置づけられるようになる。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 学生による研究発表 ①</td> <td>9. 学生による研究発表 ⑨</td> </tr> <tr> <td>2. 学生による研究発表 ②</td> <td>10. 学生による研究発表 ⑩</td> </tr> <tr> <td>3. 学生による研究発表 ③</td> <td>11. 学生による研究発表 ⑪</td> </tr> <tr> <td>4. 学生による研究発表 ④</td> <td>12. 学生による研究発表 ⑫</td> </tr> <tr> <td>5. 学生による研究発表 ⑤</td> <td>13. 学生による研究発表 ⑬</td> </tr> <tr> <td>6. 学生による研究発表 ⑥</td> <td>14. 学生による研究発表 ⑭</td> </tr> <tr> <td>7. 学生による研究発表 ⑦</td> <td>15. 学生による研究発表 ⑮</td> </tr> <tr> <td>8. 学生による研究発表 ⑧</td> <td></td> </tr> </table>						1. 学生による研究発表 ①	9. 学生による研究発表 ⑨	2. 学生による研究発表 ②	10. 学生による研究発表 ⑩	3. 学生による研究発表 ③	11. 学生による研究発表 ⑪	4. 学生による研究発表 ④	12. 学生による研究発表 ⑫	5. 学生による研究発表 ⑤	13. 学生による研究発表 ⑬	6. 学生による研究発表 ⑥	14. 学生による研究発表 ⑭	7. 学生による研究発表 ⑦	15. 学生による研究発表 ⑮	8. 学生による研究発表 ⑧	
1. 学生による研究発表 ①	9. 学生による研究発表 ⑨																					
2. 学生による研究発表 ②	10. 学生による研究発表 ⑩																					
3. 学生による研究発表 ③	11. 学生による研究発表 ⑪																					
4. 学生による研究発表 ④	12. 学生による研究発表 ⑫																					
5. 学生による研究発表 ⑤	13. 学生による研究発表 ⑬																					
6. 学生による研究発表 ⑥	14. 学生による研究発表 ⑭																					
7. 学生による研究発表 ⑦	15. 学生による研究発表 ⑮																					
8. 学生による研究発表 ⑧																						
◇ 成績評価の方法	(○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%] (○) その他 (具体的には、発表と討論) [40%]																					
◇ 教科書・参考書	教室にて指示、プリントを配布。																					
◇ 授業時間外学習	発表内容は時間外に各自がまとめる。																					
その他：研究演習Ⅰ、Ⅱを通年で連続履修することが望ましい。																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																		
考 古 学 研 究 実 習 I Archaeology (Advanced Field Work) I	2	教授 准教授	阿子島 香 鹿 又 喜 隆	1 学期	水	3・4																		
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS635J																							
◆ 授業題目	考古学の調査と資料分析(1) (Research and Analysis of Archaeological Materials)																							
◆ 目的・概要	発掘調査から、出土遺物の処理、資料整理と分析、図面製作、写真撮影、遺物の資料化、そして調査研究報告書の作成に至る、一連の作業を通して、考古学の高度な研究方法の実際を修得する。今学期は次のような実習を中心に行う。																							
◆ 到達目標	考古学資料の実証的研究法を修得し、研究報告書の作成方法を学ぶ。発掘調査実習を通して、調査の計画と実践を学習する。																							
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作) ①</td> <td>7. 調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築 ②</td> </tr> <tr> <td>2. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作) ②</td> <td>8. 遺物の実測と製図 ①</td> </tr> <tr> <td>3. 発掘調査実習 ①</td> <td>9. 遺物の実測と製図 ②</td> </tr> <tr> <td>4. 発掘調査実習 ②</td> <td>10. 遺物の実測と製図 ③</td> </tr> <tr> <td>5. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作) ③</td> <td>11. 遺物の実測と製図 ④</td> </tr> <tr> <td>6. 調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築 ①</td> <td>12. 遺物の実測と製図 ⑤</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13. 測定の基礎と機器の操作 ①</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. 測定の基礎と機器の操作 ②</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 測定の基礎と機器の操作 ③</td> </tr> </table>						1. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作) ①	7. 調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築 ②	2. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作) ②	8. 遺物の実測と製図 ①	3. 発掘調査実習 ①	9. 遺物の実測と製図 ②	4. 発掘調査実習 ②	10. 遺物の実測と製図 ③	5. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作) ③	11. 遺物の実測と製図 ④	6. 調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築 ①	12. 遺物の実測と製図 ⑤		13. 測定の基礎と機器の操作 ①		14. 測定の基礎と機器の操作 ②		15. 測定の基礎と機器の操作 ③
1. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作) ①	7. 調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築 ②																							
2. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作) ②	8. 遺物の実測と製図 ①																							
3. 発掘調査実習 ①	9. 遺物の実測と製図 ②																							
4. 発掘調査実習 ②	10. 遺物の実測と製図 ③																							
5. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作) ③	11. 遺物の実測と製図 ④																							
6. 調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築 ①	12. 遺物の実測と製図 ⑤																							
	13. 測定の基礎と機器の操作 ①																							
	14. 測定の基礎と機器の操作 ②																							
	15. 測定の基礎と機器の操作 ③																							
◇ 成績評価の方法	(○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%] (○) その他 (具体的には、受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み) [30%]																							
◇ 教科書・参考書	教室にて指示。																							
◇ 授業時間外学習	夏季に発掘調査を実施する。講義内で課題が終わらない場合には、宿題となる。																							
その他：研究実習Ⅰ・Ⅱを通年で連続履修することが望ましい。15回の講義の順番は、発掘計画に応じて前後することがある。																								

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																
考 古 学 研 究 実 習 II Archaeology (Advanced Field Work) II	2	准教授 教授	鹿 又 喜 隆 阿子島 香	2学期	水	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS636J																					
◆ 授業題目	考古学の調査と資料分析(2) (Research and Analysis of Archaeological Materials)																					
◆ 目的・概要	第1学期に引き続き、考古学研究室による発掘調査資料・収蔵資料に取り組み、実際の研究分析法を学ぶ。発掘調査実習を通して、調査の計画と実践を学習する。 実際の遺跡発掘調査による資料の整理と分析作業を通して、考古学における遺跡調査法、資料分析法の基礎を学ぶ。資料に対する観察眼を養い、遺跡・遺物の調査研究を進めていくために必要な実技を修得する。遺物の特徴に応じた写真撮影の方法を実習する。資料保存・修復の作業実習も行う。また通年において、発掘技術、測量作業、記録法などの実際を発掘調査現場において学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。相当量の宿題あり。																					
◆ 到達目標	(1)考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。 (2)共同研究の意義について、理解できるようになる。 (3)考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。 (4)発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理 (1)。</td> <td>9. 製図・トレース・レイアウトの作成 (3)。</td> </tr> <tr> <td>2. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理 (2)。</td> <td>10. 写真撮影 (1)。</td> </tr> <tr> <td>3. 遺物の観察・記録と図化 (1)。</td> <td>11. 写真撮影 (2)。</td> </tr> <tr> <td>4. 遺物の観察・記録と図化 (2)。</td> <td>12. 写真撮影 (3)。</td> </tr> <tr> <td>5. 遺物の観察・記録と図化 (3)。</td> <td>13. 保存処理に関する研修。</td> </tr> <tr> <td>6. 遺物の観察・記録と図化 (4)。</td> <td>14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成 (1)。</td> </tr> <tr> <td>7. 製図・トレース・レイアウトの作成 (1)。</td> <td>15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成 (2)。</td> </tr> <tr> <td>8. 製図・トレース・レイアウトの作成 (2)。</td> <td></td> </tr> </table>						1. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理 (1)。	9. 製図・トレース・レイアウトの作成 (3)。	2. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理 (2)。	10. 写真撮影 (1)。	3. 遺物の観察・記録と図化 (1)。	11. 写真撮影 (2)。	4. 遺物の観察・記録と図化 (2)。	12. 写真撮影 (3)。	5. 遺物の観察・記録と図化 (3)。	13. 保存処理に関する研修。	6. 遺物の観察・記録と図化 (4)。	14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成 (1)。	7. 製図・トレース・レイアウトの作成 (1)。	15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成 (2)。	8. 製図・トレース・レイアウトの作成 (2)。	
1. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理 (1)。	9. 製図・トレース・レイアウトの作成 (3)。																					
2. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理 (2)。	10. 写真撮影 (1)。																					
3. 遺物の観察・記録と図化 (1)。	11. 写真撮影 (2)。																					
4. 遺物の観察・記録と図化 (2)。	12. 写真撮影 (3)。																					
5. 遺物の観察・記録と図化 (3)。	13. 保存処理に関する研修。																					
6. 遺物の観察・記録と図化 (4)。	14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成 (1)。																					
7. 製図・トレース・レイアウトの作成 (1)。	15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成 (2)。																					
8. 製図・トレース・レイアウトの作成 (2)。																						
◇ 成績評価の方法	(○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%] (○) その他 (具体的には、受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み) [30%]																					
◇ 教科書・参考書	教室にて指示。																					
◇ 授業時間外学習	講義内で課題が終わらない場合には宿題となる。																					
その他：考古学研究実習Ⅰ・Ⅱを連続履修することが望ましい。発掘調査の出土量や作業の進捗に応じて、講義内容は前後します。																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
文 化 財 科 学 特 論 Science of Cultural Properties (Advanced Lecture)	2	教 授 藤 澤 敦	2 学 期	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHI-CUM601J																				
◆ 授業題目	日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究 (Japanese Cultural Properties Protection Law system and the characteristic of the archaeological study)																				
◆ 目的・概要	日本では、発掘調査の圧倒的多数が、開発に伴う調査であることが特徴である。このような調査は、文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政の一環として、行政機関によって実施されている。このことは日本における考古学研究に大きな影響を与えている。 本講義では、文化財保護法や関連する諸規定と、それに基づく埋蔵文化財保護行政の実際について解説する。あわせて、開発に伴う発掘調査によってもたらされた資料の急激な増加や、社会的関心の高まりと調査成果の活用などの現状についても検討する。そのうえで、このような中で進展してきた日本の考古学研究が構造的に有している特質について考察する。																				
◆ 到達目標	(1)日本の埋蔵文化財保護行政の枠組みと実務について理解する。 (2)開発に伴う発掘調査と考古学研究の関係について理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業概要と進め方の解説および導入</td> <td>9. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究の特徴 (1) - 事前調査で開発された調査方法</td> </tr> <tr> <td>2. 日本の考古学をめぐる状況</td> <td>10. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究の特徴 (2) - 大規模データの集積と利用</td> </tr> <tr> <td>3. 文化財保護法の基本理念と構成および教育委員会制度</td> <td>11. 開発に伴う事前調査の成果が変えた歴史認識 (1)</td> </tr> <tr> <td>4. 文化財保護法での埋蔵文化財関係条文と行政手続き</td> <td>12. 開発に伴う事前調査の成果が変えた歴史認識 (2)</td> </tr> <tr> <td>5. 開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査</td> <td>13. 開発に伴う事前調査の成果が変えた歴史認識 (3)</td> </tr> <tr> <td>6. 国指定史跡制度と関連する保護制度</td> <td>14. 開発に伴う事前調査の成果が変えた歴史認識 (4)</td> </tr> <tr> <td>7. 国史跡の保存管理と整備活用</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 国史跡仙台城跡の保存管理と整備活用の実地見学</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業概要と進め方の解説および導入	9. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究の特徴 (1) - 事前調査で開発された調査方法	2. 日本の考古学をめぐる状況	10. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究の特徴 (2) - 大規模データの集積と利用	3. 文化財保護法の基本理念と構成および教育委員会制度	11. 開発に伴う事前調査の成果が変えた歴史認識 (1)	4. 文化財保護法での埋蔵文化財関係条文と行政手続き	12. 開発に伴う事前調査の成果が変えた歴史認識 (2)	5. 開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査	13. 開発に伴う事前調査の成果が変えた歴史認識 (3)	6. 国指定史跡制度と関連する保護制度	14. 開発に伴う事前調査の成果が変えた歴史認識 (4)	7. 国史跡の保存管理と整備活用	15. まとめ	8. 国史跡仙台城跡の保存管理と整備活用の実地見学	
1. 授業概要と進め方の解説および導入	9. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究の特徴 (1) - 事前調査で開発された調査方法																				
2. 日本の考古学をめぐる状況	10. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究の特徴 (2) - 大規模データの集積と利用																				
3. 文化財保護法の基本理念と構成および教育委員会制度	11. 開発に伴う事前調査の成果が変えた歴史認識 (1)																				
4. 文化財保護法での埋蔵文化財関係条文と行政手続き	12. 開発に伴う事前調査の成果が変えた歴史認識 (2)																				
5. 開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査	13. 開発に伴う事前調査の成果が変えた歴史認識 (3)																				
6. 国指定史跡制度と関連する保護制度	14. 開発に伴う事前調査の成果が変えた歴史認識 (4)																				
7. 国史跡の保存管理と整備活用	15. まとめ																				
8. 国史跡仙台城跡の保存管理と整備活用の実地見学																					
◇ 成績評価の方法	レポート (60%)・出席 (40%)																				
◇ 教科書・参考書	教室にて資料を配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
文 化 財 科 学 研 究 演 習 I Science of Cultural Properties(Advanced Seminar) 1	2	教 授 須 田 良 平 古 川 一 明	1 学 期																		
◆ 科目ナンバリング	LHI-CUM602J																				
◆ 授業題目	未定 (Advanced Seminar on Cultural Properties)																				
◆ 目的・概要	未定																				
◆ 到達目標	未定																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 未定</td> <td>9. 未定</td> </tr> <tr> <td>2. 未定</td> <td>10. 未定</td> </tr> <tr> <td>3. 未定</td> <td>11. 未定</td> </tr> <tr> <td>4. 未定</td> <td>12. 未定</td> </tr> <tr> <td>5. 未定</td> <td>13. 未定</td> </tr> <tr> <td>6. 未定</td> <td>14. 未定</td> </tr> <tr> <td>7. 未定</td> <td>15. 未定</td> </tr> <tr> <td>8. 未定</td> <td></td> </tr> </table>					1. 未定	9. 未定	2. 未定	10. 未定	3. 未定	11. 未定	4. 未定	12. 未定	5. 未定	13. 未定	6. 未定	14. 未定	7. 未定	15. 未定	8. 未定	
1. 未定	9. 未定																				
2. 未定	10. 未定																				
3. 未定	11. 未定																				
4. 未定	12. 未定																				
5. 未定	13. 未定																				
6. 未定	14. 未定																				
7. 未定	15. 未定																				
8. 未定																					
◇ 成績評価の方法	未定																				
◇ 教科書・参考書	未定																				
◇ 授業時間外学習	未定																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
文 化 財 科 学 研 究 演 習 II Science of Cultural Properties (Advanced Seminar) II	2	教授 古 川 一 明 須 田 良 平	2 学期		
◆ 科目ナンバリング	LHI-CUM603J				
◆ 授業題目	未定 (Advanced Seminar on Cultural Properties)				
◆ 目的・概要	未定				
◆ 到達目標	未定				
◆ 授業内容・方法					
1. 未定		9. 未定			
2. 未定		10. 未定			
3. 未定		11. 未定			
4. 未定		12. 未定			
5. 未定		13. 未定			
6. 未定		14. 未定			
7. 未定		15. 未定			
8. 未定					
◇ 成績評価の方法	未定				
◇ 教科書・参考書	未定				
◇ 授業時間外学習	未定				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
文 化 財 科 学 研 究 実 習 I Science of Cultural Properties (Advanced Field Work) I	2	教授 須 田 良 平 吉 野 武	集 中 (1 学期)		
◆ 科目ナンバリング	LHI-CUM604J				
◆ 授業題目	古代遺跡調査の方法と実践 (Method and Practice of Field Work at Ancient Site)				
◆ 目的・概要	未定				
◆ 到達目標	未定				
◆ 授業内容・方法					
1. 未定		9. 未定			
2. 未定		10. 未定			
3. 未定		11. 未定			
4. 未定		12. 未定			
5. 未定		13. 未定			
6. 未定		14. 未定			
7. 未定		15. 未定			
8. 未定					
◇ 成績評価の方法	未定				
◇ 教科書・参考書	未定				
◇ 授業時間外学習	未定				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
東 洋 古 代 中 世 史 特 論 I Ancient and Medieval Histry in Orient (Advanced Lecture) I	2	教 授 川 合 安	1 学 期	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS639J																				
◆ 授業題目	六朝時代の諸問題 (Subjects of The Six Dynasties Time)																				
◆ 目的・概要	中国の六朝時代（魏晋南北朝時代、220～589）は、秦漢古代帝国の崩壊をうけて、新たな国家秩序構築の模索が行われた時代であった。講義では、この時代につくられた様々な国家の形成過程や構造について分析し、当時を生きた人々の社会的活動や思想などの具体相を浮かび上がらせることを試みる。この混沌と模索の時代を生きた人々の営みについて、自分なりに考えつつ、中国史における六朝時代の意味について理解を深めることを目的とする。																				
◆ 到達目標	六朝時代に形成された諸国家それぞれの政治・社会体制の特質を理解し、興味をもった論点について、自分なりに調査して論じることができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス、六朝時代の概略</td> <td>9. 東晋中期政治史 (1)</td> </tr> <tr> <td>2. 秦漢古代帝国の概要</td> <td>10. 東晋中期政治史 (2)</td> </tr> <tr> <td>3. 九品官人法の制定と魏晋貴族制 (1)</td> <td>11. 東晋貴族制の特質 (1)</td> </tr> <tr> <td>4. 九品官人法の制定と魏晋貴族制 (2)</td> <td>12. 東晋貴族制の特質 (2)</td> </tr> <tr> <td>5. 九品官人法の制定と魏晋貴族制 (3)</td> <td>13. 東晋王朝の崩壊と劉宋王朝の成立 (1)</td> </tr> <tr> <td>6. 東晋王朝の成立 (1)</td> <td>14. 東晋王朝の崩壊と劉宋王朝の成立 (2)</td> </tr> <tr> <td>7. 東晋王朝の成立 (2)</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. 東晋王朝の成立 (3)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス、六朝時代の概略	9. 東晋中期政治史 (1)	2. 秦漢古代帝国の概要	10. 東晋中期政治史 (2)	3. 九品官人法の制定と魏晋貴族制 (1)	11. 東晋貴族制の特質 (1)	4. 九品官人法の制定と魏晋貴族制 (2)	12. 東晋貴族制の特質 (2)	5. 九品官人法の制定と魏晋貴族制 (3)	13. 東晋王朝の崩壊と劉宋王朝の成立 (1)	6. 東晋王朝の成立 (1)	14. 東晋王朝の崩壊と劉宋王朝の成立 (2)	7. 東晋王朝の成立 (2)	15. 総括	8. 東晋王朝の成立 (3)	
1. ガイダンス、六朝時代の概略	9. 東晋中期政治史 (1)																				
2. 秦漢古代帝国の概要	10. 東晋中期政治史 (2)																				
3. 九品官人法の制定と魏晋貴族制 (1)	11. 東晋貴族制の特質 (1)																				
4. 九品官人法の制定と魏晋貴族制 (2)	12. 東晋貴族制の特質 (2)																				
5. 九品官人法の制定と魏晋貴族制 (3)	13. 東晋王朝の崩壊と劉宋王朝の成立 (1)																				
6. 東晋王朝の成立 (1)	14. 東晋王朝の崩壊と劉宋王朝の成立 (2)																				
7. 東晋王朝の成立 (2)	15. 総括																				
8. 東晋王朝の成立 (3)																					
◇ 成績評価の方法	出席 (30%)、レポート (70%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書：資料を配布 参考書：川勝義雄『魏晋南北朝』（講談社「学術文庫」2003年）。ほかは、講義中に紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	配布した資料に目を通し、理解できた点、理解できなかった点を整理しておく。理解できなかった点については、参考書等を参照して調査し、それでもわからない点については、授業時間中でも質問を受け付ける。また、授業時間外に質問してもよい。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
東 洋 古 代 中 世 史 特 論 II Ancient and Medieval Histry in Orient (Advanced Lecture) II	2	教 授 川 合 安	2 学 期	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS640J																				
◆ 授業題目	隋唐時代の諸問題 (Subjects of Sui and Tang dynasties)																				
◆ 目的・概要	隋唐時代は、六朝時代の政治的分裂を克服して統一を回復した時代であったが、なお、多くの矛盾をかかえていた。このような隋唐時代の政治、制度等の諸問題について考察し、理解を深める。																				
◆ 到達目標	隋唐時代の政治、制度等の諸問題について、その概略を理解し、特に関心をもった問題について、関連の研究論文等の調査を進め、考察できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. はじめに：隋唐史の史料</td> <td>9. 天宝時代と安史の乱</td> </tr> <tr> <td>2. 隋王朝の政治</td> <td>10. 唐の財政の回復</td> </tr> <tr> <td>3. 貞観の治</td> <td>11. 徳宗時代</td> </tr> <tr> <td>4. 唐と東突厥</td> <td>12. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究 (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 唐と吐蕃</td> <td>13. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 唐の官制</td> <td>14. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究 (2)</td> </tr> <tr> <td>7. 唐の軍制</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. 唐の財政</td> <td></td> </tr> </table>					1. はじめに：隋唐史の史料	9. 天宝時代と安史の乱	2. 隋王朝の政治	10. 唐の財政の回復	3. 貞観の治	11. 徳宗時代	4. 唐と東突厥	12. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究 (1)	5. 唐と吐蕃	13. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究 (2)	6. 唐の官制	14. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究 (2)	7. 唐の軍制	15. 総括	8. 唐の財政	
1. はじめに：隋唐史の史料	9. 天宝時代と安史の乱																				
2. 隋王朝の政治	10. 唐の財政の回復																				
3. 貞観の治	11. 徳宗時代																				
4. 唐と東突厥	12. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究 (1)																				
5. 唐と吐蕃	13. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究 (2)																				
6. 唐の官制	14. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究 (2)																				
7. 唐の軍制	15. 総括																				
8. 唐の財政																					
◇ 成績評価の方法	出席 (30%)、レポート (70%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書：資料を配布する。 参考書：布目潮風・栗原益男『隋唐帝国』（講談社「学術文庫」、1997年）。その他、授業中に紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	授業で配布した資料に目を通し、理解できた点、理解できなかった点を整理しておく。理解できなかった点については、参考書等で独力で調査し解決することを試み、それでも不明な点は、随時質問する。授業時間中に質問してもよい。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
東 洋 古 代 中 世 史 研 究 演 習 I Ancient and Medieval Histry in Orient (Advanced Seminar) I	2	教 授 川 合 安	1 学 期	金	5
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHI-HIS642J 『宋書』礼志の研究 I (A study of SONGSHU LIZHI) 中国南朝時代の同時代史料たる沈約『宋書』の礼志を読む。南朝史料に特有の語彙や語法を習得するほか、官僚制度や礼制など、史料読解に必須の事項についての理解を深める。担当者は、担当部分についての訳注を作成して提出の上、その訳注について発表する。その発表内容について、受講者全員で検討を加える。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	独特の用語を含んで難解な南朝史料の訳注を作成できるようになる。				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	出席 (20%)、発表内容 (80%) 教科書：資料を配布する 参考書：授業中に紹介する 訳注作成担当者は、授業時間前に訳注を作成する。担当者以外も、授業で訳注の検討に加わることができるように、あらかじめ授業で読む部分に目を通し、疑問点を整理しておく。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
東 洋 古 代 中 世 史 研 究 演 習 II Ancient and Medieval Histry in Orient (Advanced Seminar) II	2	教 授 川 合 安	2 学 期	金	5
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHI-HIS643J 『宋書』礼志の研究 II (A study of SONGSHU LIZHI) 『宋書』礼志の研究 I の作業を継続するほか、II においては特に南朝における上奏文の形式や、合意形成の方法についての理解を深めつつ、当時の政治、制度、社会の実態究明を行えるようになることを目指す。担当者は、担当部分についての訳注を作成して提出の上、それについて発表する。その発表内容について、受講者全員で検討を加える。さらに、学期後半の授業では訳注作成の成果を踏まえた研究発表を行う。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	訳注作成能力を向上させ、学術論文作成の基礎を確立する。				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	出席 (20%)、発表内容 (80%) 教科書：資料を配布する 参考書：授業中に紹介する 担当者は、訳注や研究発表の資料を事前に準備する。担当者以外も、訳注や研究発表についての検討に参加できるように、あらかじめ授業で読む部分や研究発表資料に目を通して、疑問点などを整理しておく。				
その他：『宋書』礼志の研究 I との連続履修が望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
東 洋 近 世 史 特 論 I Early Modern History in Orient (Advanced Lecture) I	2	准教授 大野晃嗣	1学期	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS644J																				
◆ 授業題目	中国近世の諸問題Ⅰ (History of Early Modern China)																				
◆ 目的・概要	中国近世の政治と官僚制度などについての基礎的知識を身につけると同時に、英語文献の読解力を養う。																				
◆ 到達目標	中国近世史に関する英文学術著作を題材に、中国近世史の官僚機構と政治体制について基本的な知識を学ぶ。なお、英語文献を日本語訳をしながら授業を進めるため、事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス－史料の背景と工具書－</td> <td>9. 中国近世の諸問題Ⅰ－(8)及び行政区画の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>2. 中国近世の諸問題Ⅰ－(1)及び行政制度の基礎知識</td> <td>10. 中国近世の諸問題Ⅰ－(9)及び人事制度の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>3. 中国近世の諸問題Ⅰ－(2)及び行政制度の基礎知識</td> <td>11. 中国近世の諸問題Ⅰ－(10)及び人事制度の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>4. 中国近世の諸問題Ⅰ－(3)及び法律制度の基礎知識</td> <td>12. 中国近世の諸問題Ⅰ－(11)及び人事制度の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>5. 中国近世の諸問題Ⅰ－(4)及び法律制度の基礎知識</td> <td>13. 中国近世の諸問題Ⅰ－(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 中国近世の諸問題Ⅰ－(5)及び法律制度の基礎知識</td> <td>14. 中国近世の諸問題Ⅰ－(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 中国近世の諸問題Ⅰ－(6)及び行政区画の基礎知識</td> <td>15. 中国近世の諸問題Ⅰ－(14)及びまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 中国近世の諸問題Ⅰ－(7)及び行政区画の基礎知識</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス－史料の背景と工具書－	9. 中国近世の諸問題Ⅰ－(8)及び行政区画の基礎知識	2. 中国近世の諸問題Ⅰ－(1)及び行政制度の基礎知識	10. 中国近世の諸問題Ⅰ－(9)及び人事制度の基礎知識	3. 中国近世の諸問題Ⅰ－(2)及び行政制度の基礎知識	11. 中国近世の諸問題Ⅰ－(10)及び人事制度の基礎知識	4. 中国近世の諸問題Ⅰ－(3)及び法律制度の基礎知識	12. 中国近世の諸問題Ⅰ－(11)及び人事制度の基礎知識	5. 中国近世の諸問題Ⅰ－(4)及び法律制度の基礎知識	13. 中国近世の諸問題Ⅰ－(12)	6. 中国近世の諸問題Ⅰ－(5)及び法律制度の基礎知識	14. 中国近世の諸問題Ⅰ－(13)	7. 中国近世の諸問題Ⅰ－(6)及び行政区画の基礎知識	15. 中国近世の諸問題Ⅰ－(14)及びまとめ	8. 中国近世の諸問題Ⅰ－(7)及び行政区画の基礎知識	
1. ガイダンス－史料の背景と工具書－	9. 中国近世の諸問題Ⅰ－(8)及び行政区画の基礎知識																				
2. 中国近世の諸問題Ⅰ－(1)及び行政制度の基礎知識	10. 中国近世の諸問題Ⅰ－(9)及び人事制度の基礎知識																				
3. 中国近世の諸問題Ⅰ－(2)及び行政制度の基礎知識	11. 中国近世の諸問題Ⅰ－(10)及び人事制度の基礎知識																				
4. 中国近世の諸問題Ⅰ－(3)及び法律制度の基礎知識	12. 中国近世の諸問題Ⅰ－(11)及び人事制度の基礎知識																				
5. 中国近世の諸問題Ⅰ－(4)及び法律制度の基礎知識	13. 中国近世の諸問題Ⅰ－(12)																				
6. 中国近世の諸問題Ⅰ－(5)及び法律制度の基礎知識	14. 中国近世の諸問題Ⅰ－(13)																				
7. 中国近世の諸問題Ⅰ－(6)及び行政区画の基礎知識	15. 中国近世の諸問題Ⅰ－(14)及びまとめ																				
8. 中国近世の諸問題Ⅰ－(7)及び行政区画の基礎知識																					
◇ 成績評価の方法	発表用のレジュメ及び出席点。																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
東 洋 近 世 史 特 論 II Early Modern History in Orient (Advanced Lecture) II	2	准教授 大野晃嗣	2学期	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS645J																				
◆ 授業題目	中国近世の諸問題Ⅱ (History of Early Modern China)																				
◆ 目的・概要	中国近世の政治と官僚制度などについての基礎的知識を身につけると同時に、英語文献の読解力を養う。																				
◆ 到達目標	中国近世史に関する英文学術著作を題材に、中国近世史の官僚機構と政治体制について基本的な知識を学ぶ。なお、英語文献を日本語訳をしながら授業を進めるため、事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス－史料の背景と工具書－</td> <td>9. 中国近世の諸問題Ⅱ－(8)及び行政区画の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>2. 中国近世の諸問題Ⅱ－(1)及び行政制度の基礎知識</td> <td>10. 中国近世の諸問題Ⅱ－(9)及び人事制度の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>3. 中国近世の諸問題Ⅱ－(2)及び行政制度の基礎知識</td> <td>11. 中国近世の諸問題Ⅱ－(10)及び人事制度の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>4. 中国近世の諸問題Ⅱ－(3)及び法律制度の基礎知識</td> <td>12. 中国近世の諸問題Ⅱ－(11)及び人事制度の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>5. 中国近世の諸問題Ⅱ－(4)及び法律制度の基礎知識</td> <td>13. 中国近世の諸問題Ⅱ－(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 中国近世の諸問題Ⅱ－(5)及び法律制度の基礎知識</td> <td>14. 中国近世の諸問題Ⅱ－(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 中国近世の諸問題Ⅱ－(6)及び行政区画の基礎知識</td> <td>15. 中国近世の諸問題Ⅱ－(14)及びまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 中国近世の諸問題Ⅱ－(7)及び行政区画の基礎知識</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス－史料の背景と工具書－	9. 中国近世の諸問題Ⅱ－(8)及び行政区画の基礎知識	2. 中国近世の諸問題Ⅱ－(1)及び行政制度の基礎知識	10. 中国近世の諸問題Ⅱ－(9)及び人事制度の基礎知識	3. 中国近世の諸問題Ⅱ－(2)及び行政制度の基礎知識	11. 中国近世の諸問題Ⅱ－(10)及び人事制度の基礎知識	4. 中国近世の諸問題Ⅱ－(3)及び法律制度の基礎知識	12. 中国近世の諸問題Ⅱ－(11)及び人事制度の基礎知識	5. 中国近世の諸問題Ⅱ－(4)及び法律制度の基礎知識	13. 中国近世の諸問題Ⅱ－(12)	6. 中国近世の諸問題Ⅱ－(5)及び法律制度の基礎知識	14. 中国近世の諸問題Ⅱ－(13)	7. 中国近世の諸問題Ⅱ－(6)及び行政区画の基礎知識	15. 中国近世の諸問題Ⅱ－(14)及びまとめ	8. 中国近世の諸問題Ⅱ－(7)及び行政区画の基礎知識	
1. ガイダンス－史料の背景と工具書－	9. 中国近世の諸問題Ⅱ－(8)及び行政区画の基礎知識																				
2. 中国近世の諸問題Ⅱ－(1)及び行政制度の基礎知識	10. 中国近世の諸問題Ⅱ－(9)及び人事制度の基礎知識																				
3. 中国近世の諸問題Ⅱ－(2)及び行政制度の基礎知識	11. 中国近世の諸問題Ⅱ－(10)及び人事制度の基礎知識																				
4. 中国近世の諸問題Ⅱ－(3)及び法律制度の基礎知識	12. 中国近世の諸問題Ⅱ－(11)及び人事制度の基礎知識																				
5. 中国近世の諸問題Ⅱ－(4)及び法律制度の基礎知識	13. 中国近世の諸問題Ⅱ－(12)																				
6. 中国近世の諸問題Ⅱ－(5)及び法律制度の基礎知識	14. 中国近世の諸問題Ⅱ－(13)																				
7. 中国近世の諸問題Ⅱ－(6)及び行政区画の基礎知識	15. 中国近世の諸問題Ⅱ－(14)及びまとめ																				
8. 中国近世の諸問題Ⅱ－(7)及び行政区画の基礎知識																					
◇ 成績評価の方法	発表用のレジュメ及び出席点。																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
東 洋 近 世 史 特 論 I Early Modern History in Orient (Advanced Lecture) I	2	非常勤 講師 岡 洋 樹	1 学期	水	4
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS644J				
◆ 授業題目	清朝とモンゴル (The Qing dynasty and the Mongols)				
◆ 目的・概要	モンゴル遊牧民は、17世紀初頭から漸次マンジュ (満洲) の大清国により征服され、中国本土、モンゴル、チベット、東トルキスタンとともに1911年までその支配を受けた。清朝はモンゴルを外藩と呼ばれるカテゴリーのもとで支配したが、その支配は、中国ばかりでなく、近現代におけるモンゴル民族形成の基盤ともなった。本講義では、清代モンゴル史の研究史と課題、史料状況を整理した上で、清のモンゴル統治の特質と、北アジア遊牧民史における歴史的位置を考察する。				
◆ 到達目標	北方の遊牧民と南方の定着農耕民の歴史的關係のダイナミズムの帰結として成立した大清国が、両者をいかに統合し、安定的な統治を実現したのかを、モンゴルを視座とすることによって複眼的に考察するとともに、遊牧民史研究におけるこの時代の意義を考察する。これにより近代東北アジアの文化的多様性や政治的諸事象のマトリクスとしてのその歴史的意义や、さらには歴史理解の多面的・多元的性格を理解することを目標とする。				
◆ 授業内容・方法	1. 清代モンゴル研究史の諸課題 2. 清代モンゴル史の史料 1：清朝編纂史料 (実録・方略・則例等) 3. 清代モンゴル史の史料 2：満蒙文書・年代記史料等 1 テーマごとに2回の講義を予定するが、2回目の講義ではなるべくディスカッションの時間を取り、討議を行うようにしたい (以下も同じ)。 4. 清朝のモンゴル統治形成過程の諸問題 1：王公制度・盟旗制度の概要と問題点 5. 清朝のモンゴル統治形成過程の諸問題 2：北元期から清代への統治構造の連続性 6. 清朝のモンゴル統治におけるアルバ 1：モンゴルに課されたアルバ (貢租賦役) の概要 7. 清朝のモンゴル統治におけるアルバ 2：遊牧民統治におけるアルバの意義	8. 清代モンゴルの社会構造と遊牧民統治 1：モンゴル王公による属民支配 9. 清代モンゴルの社会構造と遊牧民統治 2：清朝の外藩統治におけるモンゴル支配氏族の役割 10. 「封禁政策」論再考 1：清朝の蒙漢分離統治の法制史的再検討 11. 「封禁政策」論再考 2：清代モンゴルにおける人の移動 12. 清代モンゴル人の歴史認識 1：清朝の歴史記述におけるモンゴル 13. 清代モンゴル人の歴史認識 2：清代モンゴルの年代記における歴史認識 14. 清朝のモンゴル統治 (ディスカッション) 15. 講義の総括			
◇ 成績評価の方法	出席 50%、レポート 50%				
◇ 教科書・参考書	参考文献は、講義の中で逐次紹介する。				
◇ 授業時間外学習	紹介した文献を読み、また講義の内容について咀嚼しつつ、疑問点を整理しながら、ディスカッションに準備してほしい。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
東 洋 近 世 史 特 論 I Early Modern History in Orient (Advanced Lecture) I	2	非常勤 講師 平 田 茂 樹	集 中 (1 学期)		
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS644J				
◆ 授業題目	宋代社会の空間とネットワーク (The Networks and Spheres in Song Societies)				
◆ 目的・概要	前近代中国社会は、日本、西欧の中世、近世などに見られた村落共同体、ギルド、社団などの「法共同体」を基礎とする社会ではなく、血縁、地縁、学縁、業縁などの各種のネットワークを基礎に、それらを取捨選択して行く社会であったと考えられている。本講では、宋代社会の各種史料を読み解きながら、ネットワーク社会としての宋代の実態を論じていく。				
◆ 到達目標	①宋代社会の構造を「システム」、「空間」、「ネットワーク」の三つの要素から理解する。 ②宋代の各種史料の中からどのように社会の実態を読み取るのか、史料解析方法を修得する。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス：前近代中国社会は「共同体」あるいは「ネットワーク」社会か？ 2. 宋代の政治の仕組み：「御前会議」 3. 宋代の政治の仕組み：「言路」 4. 宋代の政治の仕組み：「対」と「議」 5. 宋代の朋党とは何か？ 6. 宋代の科挙社会：科挙をめぐる「システム」 7. 宋代の科挙社会：科挙をめぐる「空間」	8. 宋代の科挙社会：科挙をめぐる「ネットワーク」 9. 絵画史料 (『清明上河図』) の世界から見る宋代社会 10. 手紙史料から見る宋代社会のネットワーク 11. 手紙史料から見る宋代社会のコミュニケーション 12. 日記史料から見る宋代社会 13. 墓誌銘から見る宋代社会 14. 小説史料 (『夷堅志』) から見る宋代社会 15. まとめ：宋代史料の新たな可能性			
◇ 成績評価の方法	レポート80%、平常点 (小レポートやコメント・シートなど) 20%				
◇ 教科書・参考書	参考書：平田茂樹『科挙と官僚制』(山川出版社) 平田茂樹『宋代政治構造研究』(汲古書院) 伊原弘・小島毅編『知識人の諸相—中国宋代を基点として』(勉誠出版)				
◇ 授業時間外学習	配布資料や紹介した文献を読みこんで、授業内容の理解に努めること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
東 洋 近 世 史 特 論 II Early Modern History in Orient (Advanced Lecture) II	2	非常勤 講師 岩 井 茂 樹	集 中 (2学期)		
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS645J				
◆ 授業題目	近世東アジアの通商と外交 (Trade and International Relation of the Early Modern East Asia)				
◆ 目的・概要	東アジアには中国中心の外交―通商秩序が存在していた。それは朝貢体制とよばれることがある。天朝をもって自認する中国の王朝は国内の統一をはたすと、周辺には対等者の存在を認めず、諸外国の君主を臣従させる儀礼にもとづいて対外関係を構築しようとした。その一方で、近世になると国際貿易が拡大し、それがもたらす利益は国家経済にとって重要なものとなった。宋元時代における市舶司貿易は、君主間の関係と貿易を切り離すものであったが、明は朝貢と貿易を一元化する政策を採用した。これによって、中国の対外関係は通商をめぐる軋轢を抱えこむこととなった。清代1684年における海禁の解除と海関の設置はこうした軋轢の解決策として選択された。この講義ではこうした歴史的推移を、関係資料を解説しながら議論する。				
◆ 到達目標	近世の東アジアの国際関係について基本的な知識と問題分析の観点を習得する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宋、元時代の対外関係と市舶司貿易 2. 宋、元時代の対外関係と市舶司貿易 (続) 3. 明初の朝貢招致策と対外礼制 4. 明初の朝貢招致策と対外礼制 (続) 5. 日明関係の悪化と明の海禁と海防 6. 日本と朝鮮の冊封 7. 遣明船関係資料からみる貿易と外交 8. 16世紀前半、広州の朝貢と貿易の推移 9. 嘉靖大倭寇期における朝貢－互市論 10. 嘉靖大倭寇期における朝貢－互市論 (続) 11. 嘉靖大倭寇期における朝貢－互市論 (続々) 12. 北辺における朝貢の変質 13. 北辺における朝貢の変質 (続) 14. 辺境交易と明清交替 15. まとめと展望 				
◇ 成績評価の方法	講義の最後に筆記試験をおこない、平常点 (30%) とあわせて評価する。				
◇ 教科書・参考書	資料を配付する。				
◇ 授業時間外学習	配付資料に引用する史料の解釈ができるよう精読する。紹介した論文などに眼をとおす。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
東 洋 近 世 史 研 究 演 習 I Early Modern History in Orient (Advanced Seminar) I	2	准教授 大 野 晃 嗣	1 学期	水	5
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS648J				
◆ 授業題目	明清官僚制度研究 I (Studies of Bureaucracy in the Ming,Qing Dynasty)				
◆ 目的・概要	明清時代の史料を通して、政治制度、官僚制度などの課題探究のために必須となる文書読解の訓練を行い、その基礎知識を習得する。				
◆ 到達目標	中国明清時代の一次史料読解を通じて、政治制度、官僚制度研究に必須となる公文書の基本形式に慣れると同時に、当時の官僚制と社会について分析を加える。特に各回の担当者を決めず、全員が毎回発表する (日本語訳でも訓読でもかまわない)。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス－史料の背景と工具書－ 2. 明清官僚制度研究 I -(1) 3. 明清官僚制度研究 I -(2) 4. 明清官僚制度研究 I -(3) 5. 明清官僚制度研究 I -(4) 6. 明清官僚制度研究 I -(5) 7. 明清官僚制度研究 I -(6) 8. 明清官僚制度研究 I -(7) 9. 明清官僚制度研究 I -(8) 10. 明清官僚制度研究 I -(9) 11. 明清官僚制度研究 I -(10) 12. 明清官僚制度研究 I -(11) 13. 明清官僚制度研究 I -(12) 14. 明清官僚制度研究 I -(13) 15. 明清官僚制度研究 I -(14) 及びまとめ 				
◇ 成績評価の方法	発表内容 (平常点)。				
◇ 教科書・参考書	プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。				
◇ 授業時間外学習	毎回、テキストを日本語訳し、内容について調べて授業にのぞむ必要がある。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
東 洋 近 世 史 研 究 演 習 Ⅱ Early Modern History in Orient (Advanced Seminar) Ⅱ	2	准教授 大 野 晃 嗣	2 学期	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS649J																				
◆ 授業題目	明清官僚制度研究Ⅱ (Studies of Bureaucracy in the Ming,Qing Dynasty)																				
◆ 目的・概要	明清時代の史料を通して、政治制度、官僚制度などの課題探究のために必須となる文書読解の訓練を行い、その基礎知識を習得する。																				
◆ 到達目標	Ⅰに引き続き、中国明清時代の一次史料読解を通じて、政治制度、官僚制度研究に必須となる公文書の基本形式に慣れると同時に、当時の官僚制と社会について分析を加える。その上で、自分で問題を設定し論文執筆へと結びつける。なお、特に各回の担当を決めず、全員が毎回発表する（日本語訳でも訓読でもかまわない）。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス－史料の背景と工具書－</td> <td>9. 明清官僚制度研究Ⅱ－(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 明清官僚制度研究Ⅱ－(1)</td> <td>10. 明清官僚制度研究Ⅱ－(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 明清官僚制度研究Ⅱ－(2)</td> <td>11. 明清官僚制度研究Ⅱ－(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 明清官僚制度研究Ⅱ－(3)</td> <td>12. 明清官僚制度研究Ⅱ－(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 明清官僚制度研究Ⅱ－(4)</td> <td>13. 明清官僚制度研究Ⅱ－(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 明清官僚制度研究Ⅱ－(5)</td> <td>14. 明清官僚制度研究Ⅱ－(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 明清官僚制度研究Ⅱ－(6)</td> <td>15. 明清官僚制度研究Ⅱ－(14) 及びまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 明清官僚制度研究Ⅱ－(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス－史料の背景と工具書－	9. 明清官僚制度研究Ⅱ－(8)	2. 明清官僚制度研究Ⅱ－(1)	10. 明清官僚制度研究Ⅱ－(9)	3. 明清官僚制度研究Ⅱ－(2)	11. 明清官僚制度研究Ⅱ－(10)	4. 明清官僚制度研究Ⅱ－(3)	12. 明清官僚制度研究Ⅱ－(11)	5. 明清官僚制度研究Ⅱ－(4)	13. 明清官僚制度研究Ⅱ－(12)	6. 明清官僚制度研究Ⅱ－(5)	14. 明清官僚制度研究Ⅱ－(13)	7. 明清官僚制度研究Ⅱ－(6)	15. 明清官僚制度研究Ⅱ－(14) 及びまとめ	8. 明清官僚制度研究Ⅱ－(7)	
1. ガイダンス－史料の背景と工具書－	9. 明清官僚制度研究Ⅱ－(8)																				
2. 明清官僚制度研究Ⅱ－(1)	10. 明清官僚制度研究Ⅱ－(9)																				
3. 明清官僚制度研究Ⅱ－(2)	11. 明清官僚制度研究Ⅱ－(10)																				
4. 明清官僚制度研究Ⅱ－(3)	12. 明清官僚制度研究Ⅱ－(11)																				
5. 明清官僚制度研究Ⅱ－(4)	13. 明清官僚制度研究Ⅱ－(12)																				
6. 明清官僚制度研究Ⅱ－(5)	14. 明清官僚制度研究Ⅱ－(13)																				
7. 明清官僚制度研究Ⅱ－(6)	15. 明清官僚制度研究Ⅱ－(14) 及びまとめ																				
8. 明清官僚制度研究Ⅱ－(7)																					
◇ 成績評価の方法	発表内容（平常点）。																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、テキストを日本語訳し、内容について調べて授業にのぞむ必要がある。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
古 代 地 中 海 世 界 史 特 論 History of Ancient Mediterranean World (Advanced Lecture)	2	非常勤講師 後 藤 篤 子	集 中 (1 学期)		
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS650J				
◆ 授業題目	ローマ帝国とキリスト教 (The Roman Empire and Christianity)				
◆ 目的・概要	ローマ帝政前期の「異教」世界・初期キリスト教世界の多様性を明らかにし、コンスタンティヌス帝の「改宗」の性格と、皇帝の「改宗」が帝政後期の宗教世界に与えた影響について考察する。				
◆ 到達目標	(1)ローマ帝政前期の「異教」世界の多様性、キリスト教の成立と初期キリスト教世界の多様性に関する基本的知識を習得する。 (2)コンスタンティヌス帝の「改宗」に関する史料状況を知り、その「改宗」の性格について考察する力を身につける。 (3)帝政後期の宗教世界に関する基本的知識を習得し、皇帝の「改宗」の影響について考察する力を身につける。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> ローマの伝統的宗教観と多神教世界の多様性 古代ユダヤ略史とイエスの時代のユダヤ教 原始キリスト教の成立 初期キリスト教世界の多様性 (1) —パウロをめぐる— 初期キリスト教世界の多様性 (2) —「異端」の出現と初期カトリシズムの形成 1～3世紀初頭のローマ帝国とキリスト教 3世紀の「危機」と宗教世界の変化 最後のキリスト教徒大迫害とガレリウス帝の寛容勅令 コンスタンティヌスの「改宗」(1) —「幻による改宗伝説」と学説史 コンスタンティヌスの「改宗」(2) —312年前後の史料状況と「ミラノ勅令」 コンスタンティヌスの「改宗」(3) —宗教立法からの考察と討議 皇帝の「改宗」の影響 (1) —「異教」の終焉? 皇帝の「改宗」の影響 (2) —「正統」と「異端」の対立の尖鋭化 皇帝の「改宗」の影響 (3) —古代キリスト教から中世キリスト教へ 講義のまとめと筆記試験 				
◇ 成績評価の方法	筆記試験 90%、平常点 (出席や質問、討議への参加等、授業への積極的参加度) 10%で評価する。				
◇ 教科書・参考書	参考書：弓削達『ローマ帝国とキリスト教』、河出文庫 (世界の歴史5)、1989年。 松本宣郎『ガリラヤからローマへ—地中海世界をかえたキリスト教徒』、山川出版社、1994年。 後藤篤子『ローマ帝国における「異教」とキリスト教』、歴史学研究会編『地中海世界史1・古代地中海世界の統一と変容』(青木書店、2000年)所収。 その他の参考文献は授業時に適宜紹介する。				
◇ 授業時間外学習	上記参考書の少なくとも1点は受講前に読んでおく。最初の授業時に配布するプリントを読んだの予習と、1日の講義内容の復習。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
西 洋 中 近 世 史 特 論 History of Medieval and Early Modern Europe (Advanced Lecture)	2	非常勤講師 大 月 康 弘	集 中 (1 学期)		
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS655J				
◆ 授業題目	ビザンツ帝国の国家と社会 (Constitutional and societal analysis of the Byzantine Empire)				
◆ 目的・概要	ビザンツ帝国は、キリスト教化したローマ帝国でした。理念的にも制度的にもローマ帝国の連続体ですが、キリスト教会が国家・社会制度に組み込まれたことで、一つの新しい社会に変貌します。 この「キリスト教ローマ帝国」は、その後の地中海＝ヨーロッパ世界を規定する大きな存在でした。講義ではまず、「中世ローマ帝国」とも称されるビザンツの国制および社会について考察します。また併せて、この帝国を文明の中心として国家形成を果たしたゲルマン人諸部族国家、特にフランク王国について論じます。				
◆ 到達目標	ビザンツ帝国は「ヨーロッパ」の母胎です。「後期ローマ」時代に形成された国家制度と社会機構、またキリスト教会と社会の関係性は、その後、キリスト教世界に規定的に作用しました。講義では、ビザンツ国家の特殊性と普遍性について論じながら、「ヨーロッパ世界」における国家と宗教、また社会と経済のあり方について見通すことを目標とします。 講義では、歴史学の成果にもとづき、ビザンツ帝国およびその影響下に国家形成を果たしたフランク王国について考察します。他方で、社会を類型化して理解する方法態度 (歴史社会学) についても講じます。「ビザンツ」を素材にしながら、「現代社会」をはじめとする各時代・地域の社会について洞察する目を涵養しましょう。各時代の社会を機動させた仕組み (メカニズム) は何か。講義を通じて、国家と社会、社会と経済について、類型論的、生成論的に考察する方法について考えます。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 授業内容の紹介 —「ビザンツ帝国」に関する基本事項 ローマ帝国とヘレニズム世界 後期ローマ帝国の国制改革 (1) 後期ローマ帝国の国制改革 (2) キリスト教の歴史 (1) —基本事項とヘレニズム都市 キリスト教の歴史 (2) —都市の変容とローマ帝国財政の変容 4～5世紀の地中海世界 (1) —ビザンツ帝国とゲルマン人諸部族国家 4～5世紀の地中海世界 (2) —東ゴート王国とコンスタンティノープル ユスティニアヌス帝の時代 フランク王国とビザンツ帝国 ビレンヌ・テーゼと中世地中海世界 アラブ・イスラム勢力とヨーロッパ世界 9～10世紀のビザンツ＝西欧関係 オットー大帝とビザンツ帝国 —終末論が与えた影響 まとめ 				
◇ 成績評価の方法	平常点とレポートによって評価します。レポートは、以下の二題について作成して下さい。 (1)ビザンツ帝国の経済社会構造の特質と、世界史上の役割について。 (2)各受講者の専攻する領域・テーマの世界史上での意義について。 講義の終了時に受け取ることで、質問等は講義中に受け付けます。				
◇ 教科書・参考書	ビザンツプロパの参考書として：大月康弘『ヨーロッパ 時空の交差点』創文社 大月康弘『帝国と慈善 ビザンツ』創文社 井上浩一・栗生沢猛夫『ビザンツとスラヴ』中央公論社 ゲオルグ・オストロコルスキー (和田廣訳)『ビザンツ帝国史』恒文社 授業各回に終了後に、その内容を十分に復習し、指定された図書を読読すること。 ピエール・マラヴァル (大月康弘訳)『皇帝ユスティニアヌス』白水社 ベルナルド・フリューザン (大月康弘訳)『ビザンツ文明』白水社				
◇ 授業時間外学習	授業各回に終了後に、その内容を十分に復習し、指定された図書を読読すること。				
その他：	史料用語としてギリシャ語、ラテン語が登場しますが、読解能力がなくても受講可能です。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
西 洋 中 近 世 史 特 論 History of Medieval and Early Modern Europe (Advanced Lecture)	2	教授 有 光 秀 行	2 学期	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS655J																				
◆ 授業題目	「ノルマン人の帝国」に生きる (Living in the Empire of the Normans)																				
◆ 目的・概要	11～13世紀にノルマン人が進出した地域・社会を、近年 D・ベイツは「ノルマン人の帝国」として理解することを提案している。ベイツの議論のポイントをおさえるとともに、彼が提唱するように、当時の人々の具体的な足跡をたどる中で「帝国」のあり方を考察する。特に、大陸・ブリテン島・アイルランドと各地に所領を持った大貴顕、ウィリアム・マーシャルに焦点をあて、当時の史料にも論究しながら論じる予定である。																				
◆ 到達目標	中世西北ヨーロッパ社会について、また「帝国」について、具体的な人物また史料を通して理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 講義の背景について</td> <td>9. ウィリアム・マーシャル論 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. D・ベイツの「帝国」論 (1)</td> <td>10. ウィリアム・マーシャル論 (3)</td> </tr> <tr> <td>3. D・ベイツの「帝国」論 (2)</td> <td>11. ウィリアム・マーシャル論 (4)</td> </tr> <tr> <td>4. D・ベイツの「帝国」論 (3)</td> <td>12. ウィリアム・マーシャル論 (5)</td> </tr> <tr> <td>5. D・ベイツの「帝国」論 (4)</td> <td>13. ウィリアム・マーシャル論 (6)</td> </tr> <tr> <td>6. D・ベイツの「帝国」論 (5)</td> <td>14. ウィリアム・マーシャル論 (7)</td> </tr> <tr> <td>7. D・ベイツの「帝国」論 (6)</td> <td>15. 講義のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. ウィリアム・マーシャル論 (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 講義の背景について	9. ウィリアム・マーシャル論 (2)	2. D・ベイツの「帝国」論 (1)	10. ウィリアム・マーシャル論 (3)	3. D・ベイツの「帝国」論 (2)	11. ウィリアム・マーシャル論 (4)	4. D・ベイツの「帝国」論 (3)	12. ウィリアム・マーシャル論 (5)	5. D・ベイツの「帝国」論 (4)	13. ウィリアム・マーシャル論 (6)	6. D・ベイツの「帝国」論 (5)	14. ウィリアム・マーシャル論 (7)	7. D・ベイツの「帝国」論 (6)	15. 講義のまとめ	8. ウィリアム・マーシャル論 (1)	
1. 講義の背景について	9. ウィリアム・マーシャル論 (2)																				
2. D・ベイツの「帝国」論 (1)	10. ウィリアム・マーシャル論 (3)																				
3. D・ベイツの「帝国」論 (2)	11. ウィリアム・マーシャル論 (4)																				
4. D・ベイツの「帝国」論 (3)	12. ウィリアム・マーシャル論 (5)																				
5. D・ベイツの「帝国」論 (4)	13. ウィリアム・マーシャル論 (6)																				
6. D・ベイツの「帝国」論 (5)	14. ウィリアム・マーシャル論 (7)																				
7. D・ベイツの「帝国」論 (6)	15. 講義のまとめ																				
8. ウィリアム・マーシャル論 (1)																					
◇ 成績評価の方法	授業参加状況 (50パーセント) とレポート (50パーセント)																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する																				
◇ 授業時間外学習	教室で指示する参考文献を読みながら、予習・復習をかならずおこなうこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
西 洋 中 近 世 史 特 論 History of Medieval and Early Modern Europe (Advanced Lecture)	2	教授 小 野 善 彦	1 学期	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS655J																				
◆ 授業題目	ドイツ中世の国家と社会 (State and Society in medieval Germany)																				
◆ 目的・概要	11・12世紀にドイツ (ヨーロッパ) の国家と社会は、「古相のヨーロッパ」とは性格を著しく異にする旧ヨーロッパ的な構造へと大きく転換した。この講義においては、中世中期におけるこの国家・社会の構造転換の過程をたどり、ドイツ・西欧に固有の身分制的社会構造の形成と展開、その構造的特質を考察する。																				
◆ 到達目標	11・12世紀に形成される特殊ヨーロッパ的な身分制社会の特質についての理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業内容の紹介：問題の背景</td> <td>8. 10・11世紀のドイツ〈2〉帝国教会制</td> </tr> <tr> <td>2. カロリング帝国：経済と社会</td> <td>9. グレゴリウス改革の展開：教会と国家</td> </tr> <tr> <td>3. カロリング帝国：国制構造</td> <td>10. 改革の帰結〈1〉王権・国家、帝国諸侯</td> </tr> <tr> <td>4. カロリング体制の解体と再編〈1〉 クリュニー修道院改革運動</td> <td>11. 改革の帰結〈2〉ローマ教会組織の確立</td> </tr> <tr> <td>5. カロリング体制の解体と再編〈2〉 領域的諸権力の台頭</td> <td>12. 身分制社会の形成</td> </tr> <tr> <td>6. カロリング体制の解体と再編〈3〉社会構造の再編成</td> <td>13. 身分制社会の構造〈1〉</td> </tr> <tr> <td>7. 10・11世紀のドイツ〈1〉部族連合国家と王権</td> <td>14. 身分制社会の構造〈2〉</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> </table>					1. 授業内容の紹介：問題の背景	8. 10・11世紀のドイツ〈2〉帝国教会制	2. カロリング帝国：経済と社会	9. グレゴリウス改革の展開：教会と国家	3. カロリング帝国：国制構造	10. 改革の帰結〈1〉王権・国家、帝国諸侯	4. カロリング体制の解体と再編〈1〉 クリュニー修道院改革運動	11. 改革の帰結〈2〉ローマ教会組織の確立	5. カロリング体制の解体と再編〈2〉 領域的諸権力の台頭	12. 身分制社会の形成	6. カロリング体制の解体と再編〈3〉社会構造の再編成	13. 身分制社会の構造〈1〉	7. 10・11世紀のドイツ〈1〉部族連合国家と王権	14. 身分制社会の構造〈2〉		15. 授業のまとめ
1. 授業内容の紹介：問題の背景	8. 10・11世紀のドイツ〈2〉帝国教会制																				
2. カロリング帝国：経済と社会	9. グレゴリウス改革の展開：教会と国家																				
3. カロリング帝国：国制構造	10. 改革の帰結〈1〉王権・国家、帝国諸侯																				
4. カロリング体制の解体と再編〈1〉 クリュニー修道院改革運動	11. 改革の帰結〈2〉ローマ教会組織の確立																				
5. カロリング体制の解体と再編〈2〉 領域的諸権力の台頭	12. 身分制社会の形成																				
6. カロリング体制の解体と再編〈3〉社会構造の再編成	13. 身分制社会の構造〈1〉																				
7. 10・11世紀のドイツ〈1〉部族連合国家と王権	14. 身分制社会の構造〈2〉																				
	15. 授業のまとめ																				
◇ 成績評価の方法	出席・受講態度 40%、レポート 60%																				
◇ 教科書・参考書	O・ブルナー『ヨーロッパ―その歴史と精神』、岩波書店 山田欣吾『教会から国家へ』、創文社																				
◇ 授業時間外学習	あらかじめ配布する資料に目を通し、問題意識を持って講義に臨むこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
西 洋 中 近 世 史 研 究 演 習 I History of Medieval and Early Modern Europe (Advanced Seminar) I	2	教授 有 光 秀 行	1 学期	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS656J																				
◆ 授業題目	中世ヨーロッパ史研究 (Study in the Medieval European History)																				
◆ 目的・概要	通常の授業時間は、フランス語のテキスト（中世におけるイングランドとノルマンディの関係をあつかった論文集の予定）を読みます。事前に担当者が作成した訳文に目を通した上で授業に臨み、コメントしてもらいます。外国語の専門的文献の読解力を養うとともに、中世ヨーロッパ研究の最前線に関する知見を深めたいと思います。第一回目は打ち合わせ。以後は訳読（基本的に一人一段落）と質疑応答。また学期末には、中世ヨーロッパに関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する外国語論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。																				
◆ 到達目標	さまざまな史料の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、論文作成にそなえる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業・テキスト・レポート作成についての説明</td> <td>9. フランス語論文読解 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. フランス語論文読解 (1)</td> <td>10. フランス語論文読解 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. フランス語論文読解 (2)</td> <td>11. フランス語論文読解 (10)、レポート作成進行状況確認</td> </tr> <tr> <td>4. フランス語論文読解 (3)</td> <td>12. フランス語論文読解 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. フランス語論文読解 (4)</td> <td>13. フランス語論文読解 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. フランス語論文読解 (5)</td> <td>14. フランス語論文読解 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. フランス語論文読解 (6)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. フランス語論文読解 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業・テキスト・レポート作成についての説明	9. フランス語論文読解 (8)	2. フランス語論文読解 (1)	10. フランス語論文読解 (9)	3. フランス語論文読解 (2)	11. フランス語論文読解 (10)、レポート作成進行状況確認	4. フランス語論文読解 (3)	12. フランス語論文読解 (11)	5. フランス語論文読解 (4)	13. フランス語論文読解 (12)	6. フランス語論文読解 (5)	14. フランス語論文読解 (13)	7. フランス語論文読解 (6)	15. 授業のまとめ	8. フランス語論文読解 (7)	
1. 授業・テキスト・レポート作成についての説明	9. フランス語論文読解 (8)																				
2. フランス語論文読解 (1)	10. フランス語論文読解 (9)																				
3. フランス語論文読解 (2)	11. フランス語論文読解 (10)、レポート作成進行状況確認																				
4. フランス語論文読解 (3)	12. フランス語論文読解 (11)																				
5. フランス語論文読解 (4)	13. フランス語論文読解 (12)																				
6. フランス語論文読解 (5)	14. フランス語論文読解 (13)																				
7. フランス語論文読解 (6)	15. 授業のまとめ																				
8. フランス語論文読解 (7)																					
◇ 成績評価の方法	授業参加状況 (50%) とレポート (50%)。																				
◇ 教科書・参考書	授業開始時に指示します。																				
◇ 授業時間外学習	毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
西 洋 中 近 世 史 研 究 演 習 II History of Medieval and Early Modern Europe (Advanced Seminar) II	2	教授 有 光 秀 行	2 学期	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS657J																				
◆ 授業題目	中世ヨーロッパ史研究 (Study in the Medieval European History)																				
◆ 目的・概要	通常の授業時間は、前学期につづいて、フランス語のテキスト（中世におけるイングランドとノルマンディの関係をあつかった論文集の予定）を読みます。事前に担当者が作成した訳文に目を通した上で、授業に臨み、コメントしてもらいます。外国語の専門的文献の読解力を養うとともに、中世ヨーロッパ研究の最前線に関する知見を深めたいと思います。第一回目は打ち合わせ。つづいて、前期に作成されたレポートの内容を要約・発表する機会を設けます。以後は訳読（基本的に一人一段落）と質疑応答。また学期末には、中世ヨーロッパに関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する外国語論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。																				
◆ 到達目標	さまざまな史料の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、卒業論文・卒業研究作成にそなえる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業・テキスト・レポート作成についての説明</td> <td>9. フランス語論文読解 (7)</td> </tr> <tr> <td>2. レポート内容発表会</td> <td>10. フランス語論文読解 (8)</td> </tr> <tr> <td>3. フランス語論文読解 (1)</td> <td>11. フランス語論文読解 (9)、レポート作成進行状況確認</td> </tr> <tr> <td>4. フランス語論文読解 (2)</td> <td>12. フランス語論文読解 (10)</td> </tr> <tr> <td>5. フランス語論文読解 (3)</td> <td>13. フランス語論文読解 (11)</td> </tr> <tr> <td>6. フランス語論文読解 (4)</td> <td>14. フランス語論文読解 (12)</td> </tr> <tr> <td>7. フランス語論文読解 (5)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. フランス語論文読解 (6)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業・テキスト・レポート作成についての説明	9. フランス語論文読解 (7)	2. レポート内容発表会	10. フランス語論文読解 (8)	3. フランス語論文読解 (1)	11. フランス語論文読解 (9)、レポート作成進行状況確認	4. フランス語論文読解 (2)	12. フランス語論文読解 (10)	5. フランス語論文読解 (3)	13. フランス語論文読解 (11)	6. フランス語論文読解 (4)	14. フランス語論文読解 (12)	7. フランス語論文読解 (5)	15. 授業のまとめ	8. フランス語論文読解 (6)	
1. 授業・テキスト・レポート作成についての説明	9. フランス語論文読解 (7)																				
2. レポート内容発表会	10. フランス語論文読解 (8)																				
3. フランス語論文読解 (1)	11. フランス語論文読解 (9)、レポート作成進行状況確認																				
4. フランス語論文読解 (2)	12. フランス語論文読解 (10)																				
5. フランス語論文読解 (3)	13. フランス語論文読解 (11)																				
6. フランス語論文読解 (4)	14. フランス語論文読解 (12)																				
7. フランス語論文読解 (5)	15. 授業のまとめ																				
8. フランス語論文読解 (6)																					
◇ 成績評価の方法	授業参加状況 (50%) とレポート (50%)。																				
◇ 教科書・参考書	授業開始時に指示します。																				
◇ 授業時間外学習	毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
西 洋 中 近 世 史 研 究 演 習 Ⅲ History of Medieval and Early Modern Europe (Advanced Seminar) Ⅲ	2	教授 有 光 秀 行	1 学期	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS658J																				
◆ 授業題目	ヨーロッパ中世史料研究 (Study in the Sources of Medieval European History)																				
◆ 目的・概要	セビリアのイシドルスによる Etymologiae の第6巻 (聖書と聖職について) をラテン語で読みます。ラテン語の高度な読解力を身につけると同時に、初期中世人の知的世界を学びます。																				
◆ 到達目標	ラテン語史料の高度な読解力を涵養する。また、初期中世の知的世界を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. 授業の内容・テキストについての説明</td> <td style="width:50%;">9. ラテン語文献読解 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. ラテン語文献読解 (1)</td> <td>10. ラテン語文献読解 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. ラテン語文献読解 (2)</td> <td>11. ラテン語文献読解 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. ラテン語文献読解 (3)</td> <td>12. ラテン語文献読解 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. ラテン語文献読解 (4)</td> <td>13. ラテン語文献読解 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. ラテン語文献読解 (5)</td> <td>14. ラテン語文献読解 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. ラテン語文献読解 (6)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. ラテン語文献読解 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業の内容・テキストについての説明	9. ラテン語文献読解 (8)	2. ラテン語文献読解 (1)	10. ラテン語文献読解 (9)	3. ラテン語文献読解 (2)	11. ラテン語文献読解 (10)	4. ラテン語文献読解 (3)	12. ラテン語文献読解 (11)	5. ラテン語文献読解 (4)	13. ラテン語文献読解 (12)	6. ラテン語文献読解 (5)	14. ラテン語文献読解 (13)	7. ラテン語文献読解 (6)	15. 授業のまとめ	8. ラテン語文献読解 (7)	
1. 授業の内容・テキストについての説明	9. ラテン語文献読解 (8)																				
2. ラテン語文献読解 (1)	10. ラテン語文献読解 (9)																				
3. ラテン語文献読解 (2)	11. ラテン語文献読解 (10)																				
4. ラテン語文献読解 (3)	12. ラテン語文献読解 (11)																				
5. ラテン語文献読解 (4)	13. ラテン語文献読解 (12)																				
6. ラテン語文献読解 (5)	14. ラテン語文献読解 (13)																				
7. ラテン語文献読解 (6)	15. 授業のまとめ																				
8. ラテン語文献読解 (7)																					
◇ 成績評価の方法	授業参加状況																				
◇ 教科書・参考書	教室で適宜指示します。																				
◇ 授業時間外学習	所定の箇所のラテン語原文を、教室で日本語に訳せるよう、必ず予習すること。読解上の疑問点などもまとめておくこと。特に予習で不明だった箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
西 洋 中 近 世 史 研 究 演 習 Ⅳ History of Medieval and Early Modern Europe (Advanced Seminar) Ⅳ	2	教授 有 光 秀 行	2 学期	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS659J																				
◆ 授業題目	ヨーロッパ中世史料研究 (Study in the Sources of Medieval European History)																				
◆ 目的・概要	前期に続いて、セビリアのイシドルスによる Etymologiae の第6巻 (聖書と聖職について) をラテン語で読みます。ラテン語の高度な読解力を身につけると同時に、初期中世人の知的世界を学びます。																				
◆ 到達目標	ラテン語史料の高度な読解力を涵養する。また、初期中世の知的世界を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. 授業の内容・テキストについての説明</td> <td style="width:50%;">9. ラテン語文献読解 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. ラテン語文献読解 (1)</td> <td>10. ラテン語文献読解 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. ラテン語文献読解 (2)</td> <td>11. ラテン語文献読解 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. ラテン語文献読解 (3)</td> <td>12. ラテン語文献読解 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. ラテン語文献読解 (4)</td> <td>13. ラテン語文献読解 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. ラテン語文献読解 (5)</td> <td>14. ラテン語文献読解 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. ラテン語文献読解 (6)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. ラテン語文献読解 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業の内容・テキストについての説明	9. ラテン語文献読解 (8)	2. ラテン語文献読解 (1)	10. ラテン語文献読解 (9)	3. ラテン語文献読解 (2)	11. ラテン語文献読解 (10)	4. ラテン語文献読解 (3)	12. ラテン語文献読解 (11)	5. ラテン語文献読解 (4)	13. ラテン語文献読解 (12)	6. ラテン語文献読解 (5)	14. ラテン語文献読解 (13)	7. ラテン語文献読解 (6)	15. 授業のまとめ	8. ラテン語文献読解 (7)	
1. 授業の内容・テキストについての説明	9. ラテン語文献読解 (8)																				
2. ラテン語文献読解 (1)	10. ラテン語文献読解 (9)																				
3. ラテン語文献読解 (2)	11. ラテン語文献読解 (10)																				
4. ラテン語文献読解 (3)	12. ラテン語文献読解 (11)																				
5. ラテン語文献読解 (4)	13. ラテン語文献読解 (12)																				
6. ラテン語文献読解 (5)	14. ラテン語文献読解 (13)																				
7. ラテン語文献読解 (6)	15. 授業のまとめ																				
8. ラテン語文献読解 (7)																					
◇ 成績評価の方法	授業参加状況																				
◇ 教科書・参考書	教室で適宜指示します。																				
◇ 授業時間外学習	所定の箇所のラテン語原文を、教室で日本語に訳せるよう、必ず予習すること。読解上の疑問点などもまとめておくこと。特に予習で不明だった箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																								
西 洋 中 近 世 史 研 究 演 習 V History of Medieval and Early Modern Europe (Advanced Seminar) V	2	教授 小 野 善 彦	1 学期	木	2																								
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS660J																												
◆ 授業題目	西洋近世史料研究 (Research of early modern European historical sources)																												
◆ 目的・概要	16世紀中葉のイエズス会士にして当時傑出したカトリック神学者であったペトルス・カニジウスの著名な著作『大カテキズム』(1555年)を精読し、近世ラテン語史料の読解力の涵養に努めるとともに、近世カトリシズム、宗教改革思想についての理解を深める。 テキスト：Petrus Canisius, Summa Doctrinae Christianae, 1555.																												
◆ 到達目標	近世ラテン語史料読解力の涵養																												
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業紹介</td> <td>9. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td>秘蹟について</td> </tr> <tr> <td>2. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td>10. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td>秘蹟について</td> </tr> <tr> <td>3. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td>11. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td>秘蹟について</td> </tr> <tr> <td>4. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td>12. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td>秘蹟について</td> </tr> <tr> <td>5. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td>13. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td>秘蹟について</td> </tr> <tr> <td>6. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td>14. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td>秘蹟について</td> </tr> <tr> <td>7. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td>15. 授業のまとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業紹介	9. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	秘蹟について	2. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	10. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	秘蹟について	3. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	11. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	秘蹟について	4. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	12. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	秘蹟について	5. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	13. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	秘蹟について	6. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	14. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	秘蹟について	7. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	15. 授業のまとめ		8. テキスト第一部「叡智論」、第IV章		
1. 授業紹介	9. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	秘蹟について																											
2. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	10. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	秘蹟について																											
3. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	11. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	秘蹟について																											
4. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	12. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	秘蹟について																											
5. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	13. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	秘蹟について																											
6. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	14. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	秘蹟について																											
7. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	15. 授業のまとめ																												
8. テキスト第一部「叡智論」、第IV章																													
◇ 成績評価の方法	出席・受講態度 100%																												
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。																												
◇ 授業時間外学習	事前に十分に予習して、テキストの深い理解に努めること。																												
その他：																													

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																								
西 洋 中 近 世 史 研 究 演 習 VI History of Medieval and Early Modern Europe (Advanced Seminar) VI	2	教授 小 野 善 彦	2 学期	月	2																								
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS661J																												
◆ 授業題目	西洋近世史料研究 (Research of early modern European historical sources)																												
◆ 目的・概要	16世紀中葉のイエズス会士にして当時傑出したカトリック神学者であったペトルス・カニジウスの著名な著作『大カテキズム』(1555年)を精読し、近世ラテン語史料の読解力の涵養に努めるとともに、近世カトリシズム、宗教改革思想についての理解を深める。 テキスト：Petrus Canisius, Summa Doctrinae Christianae, 1555.																												
◆ 到達目標	近世ラテン語史料読解力の涵養																												
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業紹介</td> <td>9. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td>秘蹟について</td> </tr> <tr> <td>2. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td>10. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td>秘蹟について</td> </tr> <tr> <td>3. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td>11. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td>秘蹟について</td> </tr> <tr> <td>4. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td>12. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td>秘蹟について</td> </tr> <tr> <td>5. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td>13. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td>秘蹟について</td> </tr> <tr> <td>6. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td>14. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td>秘蹟について</td> </tr> <tr> <td>7. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td>15. 授業のまとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. テキスト第一部「叡智論」、第IV章</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業紹介	9. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	秘蹟について	2. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	10. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	秘蹟について	3. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	11. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	秘蹟について	4. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	12. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	秘蹟について	5. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	13. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	秘蹟について	6. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	14. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	秘蹟について	7. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	15. 授業のまとめ		8. テキスト第一部「叡智論」、第IV章		
1. 授業紹介	9. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	秘蹟について																											
2. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	10. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	秘蹟について																											
3. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	11. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	秘蹟について																											
4. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	12. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	秘蹟について																											
5. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	13. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	秘蹟について																											
6. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	14. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	秘蹟について																											
7. テキスト第一部「叡智論」、第IV章	15. 授業のまとめ																												
8. テキスト第一部「叡智論」、第IV章																													
◇ 成績評価の方法	出席・受講態度 100%																												
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。																												
◇ 授業時間外学習	事前に十分に予習して、テキストの深い理解に努めること。																												
その他：																													

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
西 洋 中 近 世 史 研 究 演 習 Ⅶ History of Medieval and Early Modern Europe (Advanced Seminar) Ⅶ	2	教授 小 野 善 彦	1 学期	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS662J																				
◆ 授業題目	ドイツ中世史の諸問題 (The problems of the European medieval Historiography)																				
◆ 目的・概要	西洋中世都市の社会構造の特質を論じた、研究史上重要な論文 (ドイツ語) を精読し、中世都市の存在構造と中世後期におけるその変容の背景、性格、意義を考察する。テキストとして、中世後期の都市におけるツンフト体制による都市指導層の社会史的断絶を論証した次の論文を精読する。 テキスト：E. Maschke, Verfassung und soziale Kräfte in der deutschen Stadt des späten Mittelalters, vornehmlich in Oberdeutschland, in: Vierteljahrschrift für Sozial- und Wirtschaftsgeschichte Bd.49, 1959.																				
◆ 到達目標	ドイツ中世後期の都市におけるツンフト闘争の歴史的な性格を再検討する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業紹介</td> <td>9. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>2. 報告・討論</td> <td>10. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>3. 報告・討論</td> <td>11. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>4. 報告・討論</td> <td>12. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>5. 報告・討論</td> <td>13. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>6. 報告・討論</td> <td>14. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>7. 報告・討論</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 報告・討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業紹介	9. 報告・討論	2. 報告・討論	10. 報告・討論	3. 報告・討論	11. 報告・討論	4. 報告・討論	12. 報告・討論	5. 報告・討論	13. 報告・討論	6. 報告・討論	14. 報告・討論	7. 報告・討論	15. まとめ	8. 報告・討論	
1. 授業紹介	9. 報告・討論																				
2. 報告・討論	10. 報告・討論																				
3. 報告・討論	11. 報告・討論																				
4. 報告・討論	12. 報告・討論																				
5. 報告・討論	13. 報告・討論																				
6. 報告・討論	14. 報告・討論																				
7. 報告・討論	15. まとめ																				
8. 報告・討論																					
◇ 成績評価の方法	出席・受講態度 40%、レポート 60%																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	十分に予習した上で授業に臨むこと																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
西 洋 中 近 世 史 研 究 演 習 Ⅷ History of Medieval and Early Modern Europe (Advanced Seminar) Ⅷ	2	教授 小 野 善 彦	2 学期	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS663J																				
◆ 授業題目	ドイツ中世史の諸問題 (The problems of the European medieval Historiography)																				
◆ 目的・概要	西洋中世都市の社会構造の特質を論じた、研究史上重要な論文 (ドイツ語) を精読し、中世都市の存在構造と中世後期におけるその変容の背景、性格、意義を考察する。テキストとして、中世後期の都市におけるツンフト体制による都市指導層の社会史的断絶を論証した次の論文を精読する。 テキスト：E. Maschke, Verfassung und soziale Kräfte in der deutschen Stadt des späten Mittelalters, vornehmlich in Oberdeutschland, in: Vierteljahrschrift für Sozial- und Wirtschaftsgeschichte Bd.49, 1959.																				
◆ 到達目標	ドイツ中世後期の都市におけるツンフト闘争の歴史的な性格を再検討する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業紹介</td> <td>9. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>2. 報告・討論</td> <td>10. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>3. 報告・討論</td> <td>11. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>4. 報告・討論</td> <td>12. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>5. 報告・討論</td> <td>13. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>6. 報告・討論</td> <td>14. 報告・討論</td> </tr> <tr> <td>7. 報告・討論</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 報告・討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業紹介	9. 報告・討論	2. 報告・討論	10. 報告・討論	3. 報告・討論	11. 報告・討論	4. 報告・討論	12. 報告・討論	5. 報告・討論	13. 報告・討論	6. 報告・討論	14. 報告・討論	7. 報告・討論	15. まとめ	8. 報告・討論	
1. 授業紹介	9. 報告・討論																				
2. 報告・討論	10. 報告・討論																				
3. 報告・討論	11. 報告・討論																				
4. 報告・討論	12. 報告・討論																				
5. 報告・討論	13. 報告・討論																				
6. 報告・討論	14. 報告・討論																				
7. 報告・討論	15. まとめ																				
8. 報告・討論																					
◇ 成績評価の方法	出席・受講態度 40%、レポート 60%																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	十分に予習した上で授業に臨むこと																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
欧 米 近 現 代 史 研 究 演 習 I History of Modern Europe and America (Advanced Seminar) I	2	准教授 浅 岡 善 治	1 学期	金	2
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS668J				
◆ 授業題目	ロシア革命の歴史的再検討 (Advanced Seminar in English: The Reconsideration of the Russian Revolution)				
◆ 目的・概要	英語文献を用いたロシア革命の歴史的再検討を通じて、20世紀史および近現代史全体を再考する。				
◆ 到達目標	英語専門文献の正確な読解、および討論を通じての内容理解の深化。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について 2. 試訳の検討と討論 (1) a 3. 試訳の検討と討論 (1) b 4. 試訳の検討と討論 (1) c 5. 試訳の検討と討論 (1) d 6. 試訳の検討と討論 (1) e 7. 小括 (1) 8. 試訳の検討と討論 (2) a	9. 試訳の検討と討論 (2) b 10. 試訳の検討と討論 (2) c 11. 試訳の検討と討論 (2) d 12. 試訳の検討と討論 (2) e 13. 小括 (2) 14. 課題発表 (1) 15. 中間的総括 (1)			
◇ 成績評価の方法	出席 30% その他 (受講態度、課題の達成度など) 70%				
◇ 教科書・参考書	望田幸男・芝井敬司・末川清『新版 新しい史学概論』昭和堂、2004年； Sheila Fitzpatrick, The Russian Revolution. New Edition, Oxford University Press, 2008. その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。				
その他：面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。 研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
欧 米 近 現 代 史 研 究 演 習 II History of Modern Europe and America (Advanced Seminar) II	2	准教授 浅 岡 善 治	2 学期	金	2
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS669J				
◆ 授業題目	ロシア革命の歴史的再検討 (Advanced Seminar in English: The Reconsideration of the Russian Revolution)				
◆ 目的・概要	英語文献を用いたロシア革命の歴史的再検討を通じて、20世紀史および近現代史全体を再考する。				
◆ 到達目標	英語専門文献の正確な読解、および討論を通じての内容理解の深化。				
◆ 授業内容・方法	1. 課題発表 (2) 2. 試訳の検討と討論 (3) a 3. 試訳の検討と討論 (3) b 4. 試訳の検討と討論 (3) c 5. 試訳の検討と討論 (3) d 6. 試訳の検討と討論 (3) e 7. 小括 (3) 8. 試訳の検討と討論 (4) a	9. 試訳の検討と討論 (4) b 10. 試訳の検討と討論 (4) c 11. 試訳の検討と討論 (4) d 12. 試訳の検討と討論 (4) e 13. 小括 (4) 14. 中間的総括 (2) 15. 総括			
◇ 成績評価の方法	出席 30% その他 (受講態度、課題の達成度など) 70%				
◇ 教科書・参考書	浜林正夫・佐々木隆爾編『歴史学入門』有斐閣、1992年； Sheila Fitzpatrick, The Russian Revolution. New Edition, Oxford University Press, 2008. その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。				
その他：面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。 研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
欧 米 近 現 代 史 研 究 演 習 Ⅲ History of Modern Europe and America (Advanced Seminar) Ⅲ	2	准教授 浅 岡 善 治	1 学期	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS670J																				
◆ 授業題目	欧米近現代史研究方法論 (Research Methods of Modern European History)																				
◆ 目的・概要	欧米近現代史に関する古典的著作ないし同時代文献を精読し、その内容について討論を行い、理解を深める。																				
◆ 到達目標	(1)テキストの内在的な理解による論旨の厳密な把握、 (2)文献読解と討論を通じた研究能力・プレゼンテーション能力の向上。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. テキストの検討・討論 (2) b</td> </tr> <tr> <td>2. テキストの検討・討論 (1) a</td> <td>10. テキストの検討・討論 (2) c</td> </tr> <tr> <td>3. テキストの検討・討論 (1) b</td> <td>11. テキストの検討・討論 (2) d</td> </tr> <tr> <td>4. テキストの検討・討論 (1) c</td> <td>12. テキストの検討・討論 (2) e</td> </tr> <tr> <td>5. テキストの検討・討論 (1) d</td> <td>13. 小括 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. テキストの検討・討論 (1) e</td> <td>14. 中間的総括に向けての課題の整理</td> </tr> <tr> <td>7. 小括 (1)</td> <td>15. 中間的総括</td> </tr> <tr> <td>8. テキストの検討・討論 (2) a</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. テキストの検討・討論 (2) b	2. テキストの検討・討論 (1) a	10. テキストの検討・討論 (2) c	3. テキストの検討・討論 (1) b	11. テキストの検討・討論 (2) d	4. テキストの検討・討論 (1) c	12. テキストの検討・討論 (2) e	5. テキストの検討・討論 (1) d	13. 小括 (2)	6. テキストの検討・討論 (1) e	14. 中間的総括に向けての課題の整理	7. 小括 (1)	15. 中間的総括	8. テキストの検討・討論 (2) a	
1. ガイダンス	9. テキストの検討・討論 (2) b																				
2. テキストの検討・討論 (1) a	10. テキストの検討・討論 (2) c																				
3. テキストの検討・討論 (1) b	11. テキストの検討・討論 (2) d																				
4. テキストの検討・討論 (1) c	12. テキストの検討・討論 (2) e																				
5. テキストの検討・討論 (1) d	13. 小括 (2)																				
6. テキストの検討・討論 (1) e	14. 中間的総括に向けての課題の整理																				
7. 小括 (1)	15. 中間的総括																				
8. テキストの検討・討論 (2) a																					
◇ 成績評価の方法	出席 30% その他 (受講態度、課題の達成度など) 70%																				
◇ 教科書・参考書	テキストは開講後発表。その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。																				
◇ 授業時間外学習	ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。																				
その他：面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。 研究室：文学研究科 5 F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
欧 米 近 現 代 史 研 究 演 習 Ⅳ History of Modern Europe and America (Advanced Seminar) Ⅳ	2	准教授 浅 岡 善 治	2 学期	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS671J																				
◆ 授業題目	欧米近現代史研究方法論 (Research Methods of Modern European History)																				
◆ 目的・概要	欧米近現代史に関する古典的著作ないし同時代文献を精読し、その内容について討論を行い、理解を深める。																				
◆ 到達目標	(1)テキストの内在的な理解による論旨の厳密な把握、 (2)文献読解と討論を通じた研究能力・プレゼンテーション能力の向上。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. テキストの検討・討論 (4) b</td> </tr> <tr> <td>2. テキストの検討・討論 (3) a</td> <td>10. テキストの検討・討論 (4) c</td> </tr> <tr> <td>3. テキストの検討・討論 (3) b</td> <td>11. テキストの検討・討論 (4) d</td> </tr> <tr> <td>4. テキストの検討・討論 (3) c</td> <td>12. テキストの検討・討論 (4) e</td> </tr> <tr> <td>5. テキストの検討・討論 (3) d</td> <td>13. 小括 (4)</td> </tr> <tr> <td>6. テキストの検討・討論 (3) e</td> <td>14. 中間的総括 (2)</td> </tr> <tr> <td>7. 小括 (3)</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. テキストの検討・討論 (4) a</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. テキストの検討・討論 (4) b	2. テキストの検討・討論 (3) a	10. テキストの検討・討論 (4) c	3. テキストの検討・討論 (3) b	11. テキストの検討・討論 (4) d	4. テキストの検討・討論 (3) c	12. テキストの検討・討論 (4) e	5. テキストの検討・討論 (3) d	13. 小括 (4)	6. テキストの検討・討論 (3) e	14. 中間的総括 (2)	7. 小括 (3)	15. 総括	8. テキストの検討・討論 (4) a	
1. ガイダンス	9. テキストの検討・討論 (4) b																				
2. テキストの検討・討論 (3) a	10. テキストの検討・討論 (4) c																				
3. テキストの検討・討論 (3) b	11. テキストの検討・討論 (4) d																				
4. テキストの検討・討論 (3) c	12. テキストの検討・討論 (4) e																				
5. テキストの検討・討論 (3) d	13. 小括 (4)																				
6. テキストの検討・討論 (3) e	14. 中間的総括 (2)																				
7. 小括 (3)	15. 総括																				
8. テキストの検討・討論 (4) a																					
◇ 成績評価の方法	出席 30% その他 (受講態度、課題の達成度など) 70%																				
◇ 教科書・参考書	テキストは開講後発表。その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。																				
◇ 授業時間外学習	ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。																				
その他：面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。 研究室：文学研究科 5 F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 特 論 I History of Oriental and Japanese Fine Arts (Advanced Lecture) I	2	教 授 長 岡 龍 作	1 学 期	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHI-ART601J																				
◆ 授業題目	信仰と造形 (Brief and Criation of Image)																				
◆ 目的・概要	この講義では、古代日本の造形、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。前期は、「日本美術史」研究の成立史を概観した後、平安時代後期の造形及び各尊種（別尊）の造形を取り上げ、特に「祈願」との関わりからその意味と表現を探っていく。																				
◆ 到達目標	(1)宗教思想と造形の関係を理解する。 (2)造形に投影された世界観を理解する。 (3)造形表現を理解する方法を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション —「信仰と造形」をめぐる基礎的問題</td> <td>8. 平安時代後期の信仰と造形 4</td> </tr> <tr> <td>2. 「日本美術史」のはじまり 「日本美術史」前史</td> <td>9. 別尊信仰と造像 1</td> </tr> <tr> <td>3. 「日本美術史」のはじまり 「日本美術史」の成立</td> <td>10. 別尊信仰と造像 2</td> </tr> <tr> <td>4. 「日本美術史」のはじまり 「日本美術史」の展開と相対化</td> <td>11. 別尊信仰と造像 3</td> </tr> <tr> <td>5. 平安時代後期の信仰と造形 1</td> <td>12. 別尊信仰と造像 4</td> </tr> <tr> <td>6. 平安時代後期の信仰と造形 2</td> <td>13. 別尊信仰と造像 5</td> </tr> <tr> <td>7. 平安時代後期の信仰と造形 3</td> <td>14. 別尊信仰と造像 6</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ</td> </tr> </table>					1. イントロダクション —「信仰と造形」をめぐる基礎的問題	8. 平安時代後期の信仰と造形 4	2. 「日本美術史」のはじまり 「日本美術史」前史	9. 別尊信仰と造像 1	3. 「日本美術史」のはじまり 「日本美術史」の成立	10. 別尊信仰と造像 2	4. 「日本美術史」のはじまり 「日本美術史」の展開と相対化	11. 別尊信仰と造像 3	5. 平安時代後期の信仰と造形 1	12. 別尊信仰と造像 4	6. 平安時代後期の信仰と造形 2	13. 別尊信仰と造像 5	7. 平安時代後期の信仰と造形 3	14. 別尊信仰と造像 6		15. まとめ
1. イントロダクション —「信仰と造形」をめぐる基礎的問題	8. 平安時代後期の信仰と造形 4																				
2. 「日本美術史」のはじまり 「日本美術史」前史	9. 別尊信仰と造像 1																				
3. 「日本美術史」のはじまり 「日本美術史」の成立	10. 別尊信仰と造像 2																				
4. 「日本美術史」のはじまり 「日本美術史」の展開と相対化	11. 別尊信仰と造像 3																				
5. 平安時代後期の信仰と造形 1	12. 別尊信仰と造像 4																				
6. 平安時代後期の信仰と造形 2	13. 別尊信仰と造像 5																				
7. 平安時代後期の信仰と造形 3	14. 別尊信仰と造像 6																				
	15. まとめ																				
◇ 成績評価の方法	レポート [80%]、出席 [20%]																				
◇ 教科書・参考書	参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014年																				
◇ 授業時間外学習	授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる																				
その他：オフィスアワー：月・火・金の13：00～17：00（但し、授業時間外）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 特 論 II History of Oriental and Japanese Fine Arts (Advanced Lecture) II	2	教 授 長 岡 龍 作	2 学 期	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHI-ART602J																				
◆ 授業題目	信仰と造形 (Brief and Criation of Image)																				
◆ 目的・概要	この講義では、古代日本の造形、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。後期は、中国唐時代から北宋時代の造形、日本中世の造形を取り上げ、特に「祈願」との関わりからその意味と表現を探っていくとともに、空間と造形の関わりについても論じる。																				
◆ 到達目標	(1)宗教思想と造形の関係を理解する。 (2)造形に投影された世界観を理解する。 (3)造形表現を理解する方法を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション —「信仰と造形」をめぐる基礎的問題</td> <td>8. 日本中世の信仰と造形 3</td> </tr> <tr> <td>2. 中国唐時代の世界観と造形 1</td> <td>9. 日本中世の信仰と造形 4</td> </tr> <tr> <td>3. 中国唐時代の世界観と造形 2</td> <td>10. 空間と造形 1</td> </tr> <tr> <td>4. 中国五代北宋の世界観と造形 1</td> <td>11. 空間と造形 2</td> </tr> <tr> <td>5. 中国五代北宋の世界観と造形 2</td> <td>12. 空間と造形 3</td> </tr> <tr> <td>6. 日本中世の信仰と造形 1</td> <td>13. 空間と造形 4</td> </tr> <tr> <td>7. 日本中世の信仰と造形 2</td> <td>14. 空間と造形 5</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ</td> </tr> </table>					1. イントロダクション —「信仰と造形」をめぐる基礎的問題	8. 日本中世の信仰と造形 3	2. 中国唐時代の世界観と造形 1	9. 日本中世の信仰と造形 4	3. 中国唐時代の世界観と造形 2	10. 空間と造形 1	4. 中国五代北宋の世界観と造形 1	11. 空間と造形 2	5. 中国五代北宋の世界観と造形 2	12. 空間と造形 3	6. 日本中世の信仰と造形 1	13. 空間と造形 4	7. 日本中世の信仰と造形 2	14. 空間と造形 5		15. まとめ
1. イントロダクション —「信仰と造形」をめぐる基礎的問題	8. 日本中世の信仰と造形 3																				
2. 中国唐時代の世界観と造形 1	9. 日本中世の信仰と造形 4																				
3. 中国唐時代の世界観と造形 2	10. 空間と造形 1																				
4. 中国五代北宋の世界観と造形 1	11. 空間と造形 2																				
5. 中国五代北宋の世界観と造形 2	12. 空間と造形 3																				
6. 日本中世の信仰と造形 1	13. 空間と造形 4																				
7. 日本中世の信仰と造形 2	14. 空間と造形 5																				
	15. まとめ																				
◇ 成績評価の方法	レポート [80%]、出席 [20%]																				
◇ 教科書・参考書	参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014年																				
◇ 授業時間外学習	授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる																				
その他：オフィスアワー：月・火・金の13：00～17：00（但し、授業時間外）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 特 論 I History of Oriental and Japanese Fine Arts (Advanced Lecture) I	2	非常勤 講師 加須屋 誠	集 中 (1 学期)		
◆ 科目ナンバリング	LHI-ART601J				
◆ 授業題目	仏教説話画研究 (Study of Buddhist narrative paintings)				
◆ 目的・概要	たとえば地獄絵—かつて人々は何を想い、また何を恐れて、こうした絵画を制作したのか。それは一見すると残酷な描写で目を覆いたくなるが、しかしよく見ると、滑稽さやエロティックな要素さえ込められている。そこには人間心理の内的的な奥行きが暗示されているようだ。その深みを理解したいなら、地獄について語る経論の言説、その思想に依拠して創作された説話の流布、その内容を視覚的に提示した絵画の技法や伝統を知らねばならない。仏教史、文学史そして美術史、多岐にわたる考察が求められる。こうした知識を重ねることで、地獄絵の深層を見極めるまなざしが開かれる。本講義は地獄絵を含む種々の仏教説話画について考える。				
◆ 到達目標	(1)日本絵画史の基礎知識を得る。 (2)美術史研究の方法論(様式論・図像学・図像解釈学など)を身につける。 (3)視覚イメージの解釈を通じて、我が国古代中世の人々が思い描いた死生観や宇宙観など、目に見えない心の問題を探る。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス 二河白道図 - 仏教説話画とはなにか- 六道を絵解く(1) - 仏教説話画の歴史と機能- 六道を絵解く(2) - 仏教説話画の歴史と機能- 生老病死の図像学(1) - 仏教説話画を読む- 生老病死の図像学(2) - 仏教説話画を読む- 来迎図(1) - 死者との死につつある者のための美術- 来迎図(2) - 死者と死につつある者のための美術- 地獄草紙 - 平安時代の説話絵巻(1)- 餓鬼草紙 - 平安時代の説話絵巻(2)- 病草草紙 - 平安時代の説話絵巻(3)- 聖衆来迎寺本六道絵 - 鎌倉時代の掛幅説話画(1)総論- 聖衆来迎寺本六道絵 - 鎌倉時代の掛幅説話画(2)技法と表現- 聖衆来迎寺本六道絵 - 鎌倉時代の掛幅説話画(3)図像- まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート				
◇ 教科書・参考書	講義註に適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	積極的に展覧会等にてかけ、美術全般に関する知識を増やし、作品を観る眼を養って欲しいと思います。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 特 論 II History of Oriental and Japanese Fine Arts (Advanced Lecture) II	2	非常勤 講師 島尾 新	集 中 (2 学期)		
◆ 科目ナンバリング	LHI-ART602J				
◆ 授業題目	日本美術史の構図と水墨文化 (Structure of Japanese Art History and Culture of Suiboku (Shuimo))				
◆ 目的・概要	本講義では、1) 日本美術史の特質について、いくつかの切り口から分析した上で、2) 東アジアで共有された水墨の文化・詩書画の文化の特質を紹介して、日本美術史研究における多角的な視点と方法とを提示してみたい。				
◆ 到達目標	受講者が美術史研究を行ってゆく上で、新たな発想を得る一助になればと思う。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> イントロダクション 一日本美術の多様性/ジャンルの錯綜/分類の思想/作者の美術史と観者の美術史 美術史学の特質 一現代美術としての雪舟/歴史か今か?/美術史語りのパラドックス/美的システムと経済的システム/雑学としての美術史 日本美術史の構図 1 ・和漢の構図—オリジナルなき美術/変換装置としての日本美術/大和絵と唐絵/日本美術としての唐物/和漢から和洋へ 日本美術史の構図 2 ・総合の美学—金閣と碧雲荘/会所の飾と茶室の飾/「つつみこみ」と「そぎおとし」/世阿弥と心敬 日本美術史の構図 3 ・積層の美術史—写しの文化/引用の自由/古に倣いて新意を出す/「差異型」のオリジナリティと「積み重ね型」のオリジナリティ 日本美術史の構図 4 ・ジャパニーズデザイン—変り兜と印籠根付/自在置物と生人形/金の働き 書について 一水墨画研究の前提としての書/線の芸術/書と白描画/墨線の楽しみ 水墨画について 1 一水墨画とはなにか?/筆の発見・墨の発見/水墨の表現可能性 水墨画について 2 一水墨の材料学=墨・紙・筆・硯/水墨の基本技 余白のはなし 一絵画の存在様式/「油画」「日本画」「水墨画」/余白は存在しない/「関係」による表現詩書画三絶 2・テキストの構造—ドキュメントとしての詩書画/詩書画の贈与論/テキストの構造 詩書画三絶 一絵は詩のごとく/画賛の思考/ドキュメントとしての絵画/詩書画の贈与論/テキストの構造 雪舟のはなし—雪舟簡介/雪舟を通して見えてくるもの 東アジア絵画史の展望—「唐絵」によるケーススタディ 東アジア絵画史の展望—雪舟と夏珪によるケーススタディ まとめ 				
◇ 成績評価の方法	集中講義の後に課すレポートによって評価する。				
◇ 教科書・参考書	参考書は講義のなかで紹介する。				
◇ 授業時間外学習	特になし				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 研 究 演 習 I History of Oriental and Japanese Fine Arts (Advanced Seminar) I	2	教 授 長 岡 龍 作	1 学 期	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHI-ART605J																				
◆ 授業題目	美術史基礎資料読解 (Reading the historical documents of art history)																				
◆ 目的・概要	この演習では、美術と深く関わる基礎資料を深く読み込むとともに、その内容が残されている美術作品とどのように関わっているかについて探求し、資料の創造的な読みを実践しようとするものである。前期は、『日本彫刻史基礎資料集成平安時代造像銘記篇』及び『菅家文草』・『本朝文粹』から造像に関わる願文を選び、それを素材としていく。																				
◆ 到達目標	基礎資料の読解力を身につけるとともに、美術史研究における資料の創造的な活用法を探究する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション 一造像銘記ならびに納入文書について</td> <td>8. 像内文書・願文を読む</td> </tr> <tr> <td>2. 発表準備</td> <td>9. 像内文書・願文を読む</td> </tr> <tr> <td>3. 発表準備</td> <td>10. 像内文書・願文を読む</td> </tr> <tr> <td>4. 発表準備</td> <td>11. 像内文書・願文を読む</td> </tr> <tr> <td>5. 発表準備</td> <td>12. 像内文書・願文を読む</td> </tr> <tr> <td>6. 像内文書・願文を読む</td> <td>13. 像内文書・願文を読む</td> </tr> <tr> <td>7. 像内文書・願文を読む</td> <td>14. 像内文書・願文を読む</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 総括と評価</td> </tr> </table>					1. イントロダクション 一造像銘記ならびに納入文書について	8. 像内文書・願文を読む	2. 発表準備	9. 像内文書・願文を読む	3. 発表準備	10. 像内文書・願文を読む	4. 発表準備	11. 像内文書・願文を読む	5. 発表準備	12. 像内文書・願文を読む	6. 像内文書・願文を読む	13. 像内文書・願文を読む	7. 像内文書・願文を読む	14. 像内文書・願文を読む		15. 総括と評価
1. イントロダクション 一造像銘記ならびに納入文書について	8. 像内文書・願文を読む																				
2. 発表準備	9. 像内文書・願文を読む																				
3. 発表準備	10. 像内文書・願文を読む																				
4. 発表準備	11. 像内文書・願文を読む																				
5. 発表準備	12. 像内文書・願文を読む																				
6. 像内文書・願文を読む	13. 像内文書・願文を読む																				
7. 像内文書・願文を読む	14. 像内文書・願文を読む																				
	15. 総括と評価																				
◇ 成績評価の方法	出席 [50%]・発表内容 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	テキスト：『日本彫刻史基礎資料集成平安時代造像銘記篇』（中央公論美術出版）、『菅家文草 菅家後集』（日本古典文学大系 岩波書店）、『本朝文粹』（新日本古典文学大系 岩波書店）																				
◇ 授業時間外学習	参加者は各授業の該当の箇所を事前に読んで授業に臨むこと。																				
その他：オフィスアワー：月・火・金の13：00～17：00（但し、授業時間外）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 研 究 演 習 II History of Oriental and Japanese Fine Arts (Advanced Seminar) II	2	教 授 長 岡 龍 作	2 学 期	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHI-ART606J																				
◆ 授業題目	美術史基礎資料読解 (Reading the historical documents of art history)																				
◆ 目的・概要	この演習では、美術と深く関わる基礎資料を深く読み込むとともに、その内容が残されている美術作品とどのように関わっているかについて探求し、資料の創造的な読みを実践しようとするものである。前期は、『日本彫刻史基礎資料集成鎌倉時代造像銘記篇』及び『江都督納言願文集注解』から造像に関わる願文を選び、それを素材としていく。																				
◆ 到達目標	基礎資料の読解力を身につけるとともに、美術史研究における資料の創造的な活用法を探究する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション 一造像銘記ならびに納入文書について</td> <td>8. 像内文書・願文を読む</td> </tr> <tr> <td>2. 発表準備</td> <td>9. 像内文書・願文を読む</td> </tr> <tr> <td>3. 発表準備</td> <td>10. 像内文書・願文を読む</td> </tr> <tr> <td>4. 発表準備</td> <td>11. 像内文書・願文を読む</td> </tr> <tr> <td>5. 発表準備</td> <td>12. 像内文書・願文を読む</td> </tr> <tr> <td>6. 像内文書・願文を読む</td> <td>13. 像内文書・願文を読む</td> </tr> <tr> <td>7. 像内文書・願文を読む</td> <td>14. 像内文書・願文を読む</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 総括と評価</td> </tr> </table>					1. イントロダクション 一造像銘記ならびに納入文書について	8. 像内文書・願文を読む	2. 発表準備	9. 像内文書・願文を読む	3. 発表準備	10. 像内文書・願文を読む	4. 発表準備	11. 像内文書・願文を読む	5. 発表準備	12. 像内文書・願文を読む	6. 像内文書・願文を読む	13. 像内文書・願文を読む	7. 像内文書・願文を読む	14. 像内文書・願文を読む		15. 総括と評価
1. イントロダクション 一造像銘記ならびに納入文書について	8. 像内文書・願文を読む																				
2. 発表準備	9. 像内文書・願文を読む																				
3. 発表準備	10. 像内文書・願文を読む																				
4. 発表準備	11. 像内文書・願文を読む																				
5. 発表準備	12. 像内文書・願文を読む																				
6. 像内文書・願文を読む	13. 像内文書・願文を読む																				
7. 像内文書・願文を読む	14. 像内文書・願文を読む																				
	15. 総括と評価																				
◇ 成績評価の方法	出席 [50%]・発表内容 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	テキスト：『日本彫刻史基礎資料集成鎌倉時代造像銘記篇』（中央公論美術出版）、『江都督納言願文集注解』（塙書房）																				
◇ 授業時間外学習	参加者は各授業の該当の箇所を事前に読んで授業に臨むこと。																				
その他：オフィスアワー：月・火・金の13：00～17：00（但し、授業時間外）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 特 論 I Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Lecture) I	2	教授 尾 崎 彰 宏	1 学期	金	3
◆ 科目ナンバリング	LHI-ART607J				
◆ 授業題目	グローバル・アートヒストリーとネーデルラント絵画：共感表現、スペクタクル、美術市場 (Global Art History and Netherlandish paintings: Empathetic Representation, Spectacle, Art Market)				
◆ 目的・概要	現在、研究を進行させている「西洋近世・近代美術における市場・流通・画商の地政経済史的研究」の研究成果を盛りこみながら、ネーデルラント美術の創造性がどのように生まれたのかを探っていきたい。その問題と並行して、感性論としての美術史としてアルプス以北の美術作品に見られる「視覚」の新しい試み、つまりいかに触覚的な要素が美術作品に反映しているのかアルチンボルドやボッスなどさまざまなネーデルラントの画家を取りながら、アプローチしていきたい。こうした取り組みから、地域研究ではなく、地域を横断した新しい判断基準を求めたい。つまりそれは、グローバリゼーションを土台にして、異質な時間と空間を統合する試みである。				
◆ 到達目標	現在研究中の課題であり、1回目の授業において、特論のおおよその見取り図を示すようにしたい。美術作品の解説には、時代によってさまざまなアプローチがなされてきたが、鑑賞者の感性が作品解釈に大きなウェイトを占めること理解し、美術作品にアプローチする新たな方法論を学べる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 初期ネーデルラント絵画 I 3. 初期ネーデルラント絵画 II 4. 初期ネーデルラント絵画 III 5. 16世紀ネーデルラント絵画 I 6. 16世紀ネーデルラント絵画 II 7. 16世紀ネーデルラント絵画 III 8. 17世紀ネーデルラント絵画 I 9. 17世紀ネーデルラント絵画 II 10. 17世紀ネーデルラント絵画 III 11. レンブラント I 12. レンブラント II 13. レンブラント III 14. 18世紀ネーデルラント美術 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート／試験				
◇ 教科書・参考書	講義中に指示する。				
◇ 授業時間外学習	講義で取りあげた文献に自分で当たったり、紹介された作品を自分で見に行く努力が必要。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 特 論 I Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Lecture) I	2	教授 芳 賀 京 子	2 学期	月	2
◆ 科目ナンバリング	LHI-ART607J				
◆ 授業題目	古代ギリシア・ローマ美術における英雄表現 (Hero Representations in Greek and Roman Art)				
◆ 目的・概要	古代ギリシアには、神々と人間の間には英雄と呼ばれる者たちが存在していた。彼らは死すべき存在だが、死してもなおこの世に影響力を及ぼし続けるため、信仰対象となった。彼らは時に彫像として祀られたが、その造像形式や造像理由は時や場合によってさまざまに変化する。授業では英雄崇拝と彫像の関係を、多面的に考えることにしたい。				
◆ 到達目標	古代ギリシア・ローマにおいて、英雄という存在がどのように捉えられ、どのように表現されていたかを理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. ミュケナイ時代の先祖崇拝 3. ホメロスと神話のなかの英雄 4. アスリートという英雄 5. 民主政と英雄表現 6. 戦死者の英雄化 7. 女の英雄 8. 英雄廟 (ヘロオン) と君主の墓廟 9. アレクサンドロスの英雄化 10. ヘレニズム君主と英雄表現 11. ローマ共和政期の先祖の表現 12. ローマ皇帝アウグストゥスの肖像と皇帝崇拝 13. 皇帝一族の肖像 14. 古代末期 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポートによる				
◇ 教科書・参考書	参考書 芳賀京子・芳賀満『西洋美術の歴史1 古代』、中央公論新社、2017年 (ISBN 978-4-12-403591-9)				
◇ 授業時間外学習	各自、自分の興味に従って問題を掘り下げ、調査・考察すること				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 特 論 I Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Lecture) I	2	非常勤 講師	三 浦 篤	集 中 (1 学 期)	
◆ 科目ナンバリング	LHI-ART607J				
◆ 授業題目	西洋近現代絵画の見方 (Looking at Western Modern Painting)				
◆ 目的・概要	19世紀、20世紀の西洋絵画の見方、考え方を学ぶ。近代以前の西洋伝統絵画の表象体系が崩壊して、新しい近代絵画のパラダイムに移行する時代を対象とする。19世紀のロマン主義にはじまり、印象派、ポスト印象派、20世紀の抽象絵画、ポップ・アートなど、現在にまでいたる歴史をたどっていくが、単純に時代順に語るのではなく、主題や造形様式や受容に関わるいくつかの重要な問題を設定して論じる。広い意味における視覚芸術の機能、芸術と社会の関係、芸術家の在り方等々、価値観が揺らぐ時代の美術を考えるためのテーマは多い。講義はスライドを使って、作品を具体的に分析しつつ行う。				
◆ 到達目標	西洋の近現代絵画を美術館や展覧会で見たときに、作家の意図、作品の特質、社会や文化との関わりなど、多様な視点で読み解けるようにする。さらに進んで、自分の問題意識を持って作品を分析し、解釈できるようにする。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 主題、テーマの視点から <ol style="list-style-type: none"> 1) 物語表現の変容 3. 主題、テーマの視点から <ol style="list-style-type: none"> 2) 物語表現の変容 (続き) 4. 主題、テーマの視点から <ol style="list-style-type: none"> 3) 現実の表象Ⅰ - 近代都市の諸相 5. 主題、テーマの視点から <ol style="list-style-type: none"> 4) 現実の表象Ⅱ - 人間と自然の新たな表現 6. 主題、テーマの視点から <ol style="list-style-type: none"> 5) 幻視の世界 7. 造形と技法の視点から <ol style="list-style-type: none"> 1) 空間と平面 8. 造形と技法の視点から <ol style="list-style-type: none"> 2) 色彩と筆触 9. 造形と技法の視点から <ol style="list-style-type: none"> 3) 抽象と超越性 10. 造形と技法の視点から <ol style="list-style-type: none"> 4) 引用と遊戯性 11. 受容と枠組みの視点から <ol style="list-style-type: none"> 1) 制度と運動 12. 受容と枠組みの視点から <ol style="list-style-type: none"> 2) 異文化の受容、逸脱の系譜 13. 受容と枠組みの視点から <ol style="list-style-type: none"> 3) 絵画という枠組み 14. 印象派の絵画とは何か 15. 日本における印象派の受容 				
◇ 成績評価の方法	レポート				
◇ 教科書・参考書	三浦篤「まなざしのレッスン ②西洋近現代絵画」東京大学出版会、2015年				
◇ 授業時間外学習	美術館、展覧会に行くこと、画集を見ること				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 研 究 演 習 I Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Seminar) I	2	教授	尾 崎 彰 宏	1 学 期	金 5
◆ 科目ナンバリング	LHI-ART609J				
◆ 授業題目	西洋美術史に関する方法論の諸問題 (Multifaceted problems of methodology on Western art history)				
◆ 目的・概要	西洋美術史の雑誌論文や話題になった研究書を取りあげ、それを熟読し、その問題点や研究上活用できる研究方法について学び、議論を重ねていく。The Art Bulletin, Simiolus, Netherlands Kunsthistorisch Jaarboekに掲載された論文を中心に取りあげる。				
◆ 到達目標	西洋美術史の最新研究にふれながら、ルネサンス以降の美術作品の研究動向を熟知できる。批判力や作品を分析する能力が身につくと同時に、英文を精読するスキルが身につく。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. ルネサンス関連の論文読解 1 3. ルネサンス関連の論文読解 2 4. ルネサンス関連の論文読解 3 5. ネーデルラント美術の論文読解 1 6. ネーデルラント美術の論文読解 2 7. ネーデルラント美術の論文読解 3 8. バロック美術に関する論文読解 1 9. バロック美術に関する論文読解 2 10. バロック美術に関する論文読解 3 11. 近世・近代美術の論文読解 1 12. 近世・近代美術の論文読解 2 13. 近世・近代美術の論文読解 3 14. 美術史の方法論に関する論文読解 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	出席・平常点・レポート				
◇ 教科書・参考書	教室で指示。				
◇ 授業時間外学習	授業で指示する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
美学・西洋美術史研究演習Ⅱ Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教授 尾崎彰宏	2学期	金	5																
◆ 科目ナンバリング	LHI-ART610J																				
◆ 授業題目	西洋美術史に関する方法論の諸問題 (Multifaceted problems of methodology on Western art history)																				
◆ 目的・概要	西洋美術史の雑誌論文や話題になった研究書を取りあげ、それを熟読し、その問題点や研究上活用できる研究方法について学び、議論を重ねていく。The Art Bulletin, Simiolus, Netherlands Kunsthistorisch Jaarboekに掲載された論文を中心に取りあげる。																				
◆ 到達目標	西洋美術史の最新研究にふれながら、ルネサンス以降の美術作品の研究動向を熟知できる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション I</td> <td>9. ネーデルラント美術関係の文献 II</td> </tr> <tr> <td>2. ルネサンス期の美術文献 I</td> <td>10. ネーデルラント美術画家の文献 III</td> </tr> <tr> <td>3. ルネサンス期の美術文献 II</td> <td>11. 美術史の方法にかんする文献 I</td> </tr> <tr> <td>4. ルネサンス期の美術文献 III</td> <td>12. 美術史の方法にかんする文献 II</td> </tr> <tr> <td>5. 北方美術関係の文献 I</td> <td>13. 美術史の方法にかんする文献 III</td> </tr> <tr> <td>6. 北方美術関係の文献 II</td> <td>14. 美術史の方法にかんする文献 IV</td> </tr> <tr> <td>7. 北方美術関係の文献 III</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. ネーデルラント美術関係の文献 I</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション I	9. ネーデルラント美術関係の文献 II	2. ルネサンス期の美術文献 I	10. ネーデルラント美術画家の文献 III	3. ルネサンス期の美術文献 II	11. 美術史の方法にかんする文献 I	4. ルネサンス期の美術文献 III	12. 美術史の方法にかんする文献 II	5. 北方美術関係の文献 I	13. 美術史の方法にかんする文献 III	6. 北方美術関係の文献 II	14. 美術史の方法にかんする文献 IV	7. 北方美術関係の文献 III	15. まとめ	8. ネーデルラント美術関係の文献 I	
1. イントロダクション I	9. ネーデルラント美術関係の文献 II																				
2. ルネサンス期の美術文献 I	10. ネーデルラント美術画家の文献 III																				
3. ルネサンス期の美術文献 II	11. 美術史の方法にかんする文献 I																				
4. ルネサンス期の美術文献 III	12. 美術史の方法にかんする文献 II																				
5. 北方美術関係の文献 I	13. 美術史の方法にかんする文献 III																				
6. 北方美術関係の文献 II	14. 美術史の方法にかんする文献 IV																				
7. 北方美術関係の文献 III	15. まとめ																				
8. ネーデルラント美術関係の文献 I																					
◇ 成績評価の方法	出席／平常点／レポート																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	欧文の論文を前もって予習してくる必要がある。最新の論文であるから予習には相当の時間をかけて勉強することが求められる。また、そこで論じられていること、あるいは派生することを考えていくために、関連文献にあたることが求められる。 発表者は学期に一度、担当論文を全訳する必要がある、計画的に自主的な勉強を続ける必要がある。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
美学・西洋美術史研究演習Ⅰ Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Seminar) I	2	教授 芳賀京子	1学期	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHI-ART609J																				
◆ 授業題目	西洋古代・中世美術作品研究 (Research of Ancient and Medieval Art Works in the Western World)																				
◆ 目的・概要	美術作品について、欧文の先行研究をいくつか読み、それを簡潔にまとめた上で問題点を指摘し、自分なりの見解を提示する。																				
◆ 到達目標	美術作品について、自分なりの見解を提示することができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 発表 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 発表 (1)</td> <td>10. 発表 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 発表 (2)</td> <td>11. 発表 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 発表 (3)</td> <td>12. 発表 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 発表 (4)</td> <td>13. 発表 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 発表 (5)</td> <td>14. 発表 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 発表 (6)</td> <td>15. 発表 (14)</td> </tr> <tr> <td>8. 発表 (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 発表 (8)	2. 発表 (1)	10. 発表 (9)	3. 発表 (2)	11. 発表 (10)	4. 発表 (3)	12. 発表 (11)	5. 発表 (4)	13. 発表 (12)	6. 発表 (5)	14. 発表 (13)	7. 発表 (6)	15. 発表 (14)	8. 発表 (7)	
1. イントロダクション	9. 発表 (8)																				
2. 発表 (1)	10. 発表 (9)																				
3. 発表 (2)	11. 発表 (10)																				
4. 発表 (3)	12. 発表 (11)																				
5. 発表 (4)	13. 発表 (12)																				
6. 発表 (5)	14. 発表 (13)																				
7. 発表 (6)	15. 発表 (14)																				
8. 発表 (7)																					
◇ 成績評価の方法	授業での発表 40%、レポート 40%、議論への参加 20%																				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	各自、自分の発表およびレポートの準備を進めること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 研 究 演 習 Ⅱ Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教授	芳 賀 京 子	2 学 期	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHI-ART610J																					
◆ 授業題目	西洋古代・中世美術作品研究 (Research of Ancient and Medieval Art in the Western World)																					
◆ 目的・概要	美術作品について、欧文の先行研究をいくつか読み、それを簡潔にまとめた上で問題点を指摘し、自分なりの見解を提示する。																					
◆ 到達目標	美術作品について、自分なりの見解を提示することができる。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 発表 (8)</td> </tr> <tr> <td>2. 発表 (1)</td> <td>10. 発表 (9)</td> </tr> <tr> <td>3. 発表 (2)</td> <td>11. 発表 (10)</td> </tr> <tr> <td>4. 発表 (3)</td> <td>12. 発表 (11)</td> </tr> <tr> <td>5. 発表 (4)</td> <td>13. 発表 (12)</td> </tr> <tr> <td>6. 発表 (5)</td> <td>14. 発表 (13)</td> </tr> <tr> <td>7. 発表 (6)</td> <td>15. 発表 (14)</td> </tr> <tr> <td>8. 発表 (7)</td> <td></td> </tr> </table>						1. イントロダクション	9. 発表 (8)	2. 発表 (1)	10. 発表 (9)	3. 発表 (2)	11. 発表 (10)	4. 発表 (3)	12. 発表 (11)	5. 発表 (4)	13. 発表 (12)	6. 発表 (5)	14. 発表 (13)	7. 発表 (6)	15. 発表 (14)	8. 発表 (7)	
1. イントロダクション	9. 発表 (8)																					
2. 発表 (1)	10. 発表 (9)																					
3. 発表 (2)	11. 発表 (10)																					
4. 発表 (3)	12. 発表 (11)																					
5. 発表 (4)	13. 発表 (12)																					
6. 発表 (5)	14. 発表 (13)																					
7. 発表 (6)	15. 発表 (14)																					
8. 発表 (7)																						
◇ 成績評価の方法	授業での発表 40%、レポート 40%、議論への参加 20%																					
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する。																					
◇ 授業時間外学習	各自、自分の発表およびレポートの準備を進めること。																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 研 究 演 習 Ⅰ Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Seminar) Ⅰ	2	准教授	フ ォ ン ガ ロ エ ン リ コ	1 学 期	木	5																
◆ 科目ナンバリング	LHI-ART609J																					
◆ 授業題目	西洋美学演習 (前期) (Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Seminar))																					
◆ 目的・概要	西洋美学に関する文献を原文で、場合によっては日本語訳を参照しながら精読し、そこに書かれた概念について説明を行なっていく。また、取り上げられたトピックにもとづき、美学の諸問題に関して議論を行なう。参加者は、自分の興味分野と問題意識にもとづき、積極的に議論に参加することが求められる。																					
◆ 到達目標	西洋美学に関する文献を精読し、西洋美学における基礎的な概念について理解を深める。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業の紹介。</td> <td>9. 文献講読。</td> </tr> <tr> <td>2. 文献講読。</td> <td>10. 文献講読。</td> </tr> <tr> <td>3. 文献講読。</td> <td>11. 文献講読。</td> </tr> <tr> <td>4. 文献講読。</td> <td>12. 発表とディスカッション その一。</td> </tr> <tr> <td>5. 文献講読。</td> <td>13. 発表とディスカッション その二。</td> </tr> <tr> <td>6. 文献講読。</td> <td>14. 発表とディスカッション その三。</td> </tr> <tr> <td>7. 文献講読。</td> <td>15. 復習とまとめ。</td> </tr> <tr> <td>8. 文献講読。</td> <td></td> </tr> </table>						1. 授業の紹介。	9. 文献講読。	2. 文献講読。	10. 文献講読。	3. 文献講読。	11. 文献講読。	4. 文献講読。	12. 発表とディスカッション その一。	5. 文献講読。	13. 発表とディスカッション その二。	6. 文献講読。	14. 発表とディスカッション その三。	7. 文献講読。	15. 復習とまとめ。	8. 文献講読。	
1. 授業の紹介。	9. 文献講読。																					
2. 文献講読。	10. 文献講読。																					
3. 文献講読。	11. 文献講読。																					
4. 文献講読。	12. 発表とディスカッション その一。																					
5. 文献講読。	13. 発表とディスカッション その二。																					
6. 文献講読。	14. 発表とディスカッション その三。																					
7. 文献講読。	15. 復習とまとめ。																					
8. 文献講読。																						
◇ 成績評価の方法	発表、翻訳、授業における議論への参加などを総合して評価する。																					
◇ 教科書・参考書	講義中にプリントを配布する。																					
◇ 授業時間外学習	授業中に与えられた課題について自分の考えをまとめる。																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 研 究 演 習 Ⅱ Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Seminar) Ⅱ	2	准教授	フォンガロ エンリコ	2 学期	木	5																
◆ 科目ナンバリング	LHI-ART610J																					
◆ 授業題目	西洋美学演習（後期）（Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Seminar)）																					
◆ 目的・概要	西洋美学に関する文献を原文で、場合によっては日本語訳を参照しながら精読し、そこに書かれた概念について説明を行なっていく。また、取り上げられたトピックにもとづき、美学の諸問題に関して議論を行なう。参加者は、自分の興味分野と問題意識にもとづき、積極的に議論に参加することが求められる。																					
◆ 到達目標	西洋美学に関する文献を精読し、西洋美学における基礎的な概念について理解を深める。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業の紹介。</td> <td>9. 文献講読。</td> </tr> <tr> <td>2. 文献講読。</td> <td>10. 文献講読。</td> </tr> <tr> <td>3. 文献講読。</td> <td>11. 文献講読。</td> </tr> <tr> <td>4. 文献講読。</td> <td>12. 発表とディスカッション その一。</td> </tr> <tr> <td>5. 文献講読。</td> <td>13. 発表とディスカッション その二。</td> </tr> <tr> <td>6. 文献講読。</td> <td>14. 発表とディスカッション その三。</td> </tr> <tr> <td>7. 文献講読。</td> <td>15. 復習とまとめ。</td> </tr> <tr> <td>8. 文献講読。</td> <td></td> </tr> </table>						1. 授業の紹介。	9. 文献講読。	2. 文献講読。	10. 文献講読。	3. 文献講読。	11. 文献講読。	4. 文献講読。	12. 発表とディスカッション その一。	5. 文献講読。	13. 発表とディスカッション その二。	6. 文献講読。	14. 発表とディスカッション その三。	7. 文献講読。	15. 復習とまとめ。	8. 文献講読。	
1. 授業の紹介。	9. 文献講読。																					
2. 文献講読。	10. 文献講読。																					
3. 文献講読。	11. 文献講読。																					
4. 文献講読。	12. 発表とディスカッション その一。																					
5. 文献講読。	13. 発表とディスカッション その二。																					
6. 文献講読。	14. 発表とディスカッション その三。																					
7. 文献講読。	15. 復習とまとめ。																					
8. 文献講読。																						
◇ 成績評価の方法	発表、翻訳、授業における議論への参加などを総合して評価する。																					
◇ 教科書・参考書	講義中にプリントを配布する。																					
◇ 授業時間外学習	授業中に出された課題について自分の考えをまとめる。																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 研 究 実 習 Ⅰ Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Laboratory Work) Ⅰ	2	教授	尾崎彰宏 芳賀京子	1 学期	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHI-ART611J																					
◆ 授業題目	西洋美術の基礎知識と調査研究（Research Methodology of Western Art History）																					
◆ 目的・概要	西洋美術分野の基礎知識を身につけるとともに、美術作品の調査法を身につける。同時に博物館・美術館をいくつか見学し、展示法などについて考える。																					
◆ 到達目標	西洋美術史（古代～中世）について、最低限の知識を身につける。美術作品の作品記述、写真撮影、カタログ化などをひととおり自分で行えるようになる。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス、ディスクリプション説明</td> <td>8. 小テスト、西洋美術史発表 ④（ローマ美術）</td> </tr> <tr> <td>2. レポート（ディスクリプション）提出 宮城県美術館見学（ルノワール展）</td> <td>9. 小テスト、西洋美術史発表 ⑤ （古代末期／初期中世美術） カメラ説明</td> </tr> <tr> <td>3. 展覧会評の発表、レポート提出 パワーポイントの使い方</td> <td>10. 小テスト、西洋美術史発表 ⑥（ビザンチン美術） 撮影練習（石膏像、油彩画）</td> </tr> <tr> <td>4. パワーポイント発表、レポート提出 東北歴史博物館見学（ラスコー展）</td> <td>11. 小テスト、西洋美術史発表 ⑦（ロマネスク美術） 撮影練習（ブロンズ像）</td> </tr> <tr> <td>5. 展覧会評の発表、レポート提出 西洋美術史発表 ①（エーゲ文明）</td> <td>12. 小テスト、西洋美術史発表 ⑧（ロマネスク美術） 写真撮影講評</td> </tr> <tr> <td>6. *以下は、平成29年度の特展開催予定が公表されてから決めるため、未定。詳細は最初の授業で伝えます。 小テスト、西洋美術史発表 ②（ギリシア美術）</td> <td>13. 美術館見学（日程は未定）</td> </tr> <tr> <td>7. 小テスト、西洋美術史発表 ③（エトルリア美術）</td> <td>14. 美術館見学（日程は未定）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 美術館見学（日程は未定）</td> </tr> </table>						1. ガイダンス、ディスクリプション説明	8. 小テスト、西洋美術史発表 ④（ローマ美術）	2. レポート（ディスクリプション）提出 宮城県美術館見学（ルノワール展）	9. 小テスト、西洋美術史発表 ⑤ （古代末期／初期中世美術） カメラ説明	3. 展覧会評の発表、レポート提出 パワーポイントの使い方	10. 小テスト、西洋美術史発表 ⑥（ビザンチン美術） 撮影練習（石膏像、油彩画）	4. パワーポイント発表、レポート提出 東北歴史博物館見学（ラスコー展）	11. 小テスト、西洋美術史発表 ⑦（ロマネスク美術） 撮影練習（ブロンズ像）	5. 展覧会評の発表、レポート提出 西洋美術史発表 ①（エーゲ文明）	12. 小テスト、西洋美術史発表 ⑧（ロマネスク美術） 写真撮影講評	6. *以下は、平成29年度の特展開催予定が公表されてから決めるため、未定。詳細は最初の授業で伝えます。 小テスト、西洋美術史発表 ②（ギリシア美術）	13. 美術館見学（日程は未定）	7. 小テスト、西洋美術史発表 ③（エトルリア美術）	14. 美術館見学（日程は未定）		15. 美術館見学（日程は未定）
1. ガイダンス、ディスクリプション説明	8. 小テスト、西洋美術史発表 ④（ローマ美術）																					
2. レポート（ディスクリプション）提出 宮城県美術館見学（ルノワール展）	9. 小テスト、西洋美術史発表 ⑤ （古代末期／初期中世美術） カメラ説明																					
3. 展覧会評の発表、レポート提出 パワーポイントの使い方	10. 小テスト、西洋美術史発表 ⑥（ビザンチン美術） 撮影練習（石膏像、油彩画）																					
4. パワーポイント発表、レポート提出 東北歴史博物館見学（ラスコー展）	11. 小テスト、西洋美術史発表 ⑦（ロマネスク美術） 撮影練習（ブロンズ像）																					
5. 展覧会評の発表、レポート提出 西洋美術史発表 ①（エーゲ文明）	12. 小テスト、西洋美術史発表 ⑧（ロマネスク美術） 写真撮影講評																					
6. *以下は、平成29年度の特展開催予定が公表されてから決めるため、未定。詳細は最初の授業で伝えます。 小テスト、西洋美術史発表 ②（ギリシア美術）	13. 美術館見学（日程は未定）																					
7. 小テスト、西洋美術史発表 ③（エトルリア美術）	14. 美術館見学（日程は未定）																					
	15. 美術館見学（日程は未定）																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加・貢献（30%）、小テスト（20%）、小レポート（20%）、発表（30%）																					
◇ 教科書・参考書	授業中に指示します。																					
◇ 授業時間外学習	発表はしっかり準備すること。美術館・博物館見学の前に、あらかじめ自分で下調べしてください。見学の次の授業でレポートを提出してもらいます。西洋美術分野の基礎知識については、発表の次の授業で小テストを行います。																					
その他：美術館・博物館の特展入場料のほか、一度は他県美術館の見学もおこなう予定ですので、その旅費が必要となります。																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 研 究 実 習 Ⅱ Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Laboratory Work) Ⅱ	2	教授 尾崎彰宏 芳賀京子	2学期	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHI-ART612J																				
◆ 授業題目	美術作品の記述と西洋美術の見方 (How to describe art works and to look at them)																				
◆ 目的・概要	美術史は何よりも作品観察から出発する。この作品をどのように観察し、それを言葉で表現するか、そのためにはどのようなアプローチが必要かを学ぶ。空想の展覧会を企画し、実際にカタログの作成を行う。																				
◆ 到達目標	美術作品にかんするより高度な観察力と記述力を養うことができる																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. はじめに</td> <td>9. 美術館へ作品見学 Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>2. 空想の美術展の作成のための準備 I</td> <td>10. 空想の美術展の作品選定 Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>3. 空想の美術展の作成のための準備 Ⅱ</td> <td>11. 美術館へ作品見学 Ⅲ</td> </tr> <tr> <td>4. 空想の美術展のタイトルについて</td> <td>12. 空想の美術展の中間報告</td> </tr> <tr> <td>5. 空想の美術展のコンセプト I</td> <td>13. 空想の美術展の仕上げ</td> </tr> <tr> <td>6. 空想の美術展のコンセプト Ⅱ</td> <td>14. 美術館へ作品見学 Ⅳ</td> </tr> <tr> <td>7. 美術館へ作品見学 I</td> <td>15. 空想の美術展の合評会</td> </tr> <tr> <td>8. 空想の美術展の作品選定 I</td> <td></td> </tr> </table>					1. はじめに	9. 美術館へ作品見学 Ⅱ	2. 空想の美術展の作成のための準備 I	10. 空想の美術展の作品選定 Ⅱ	3. 空想の美術展の作成のための準備 Ⅱ	11. 美術館へ作品見学 Ⅲ	4. 空想の美術展のタイトルについて	12. 空想の美術展の中間報告	5. 空想の美術展のコンセプト I	13. 空想の美術展の仕上げ	6. 空想の美術展のコンセプト Ⅱ	14. 美術館へ作品見学 Ⅳ	7. 美術館へ作品見学 I	15. 空想の美術展の合評会	8. 空想の美術展の作品選定 I	
1. はじめに	9. 美術館へ作品見学 Ⅱ																				
2. 空想の美術展の作成のための準備 I	10. 空想の美術展の作品選定 Ⅱ																				
3. 空想の美術展の作成のための準備 Ⅱ	11. 美術館へ作品見学 Ⅲ																				
4. 空想の美術展のタイトルについて	12. 空想の美術展の中間報告																				
5. 空想の美術展のコンセプト I	13. 空想の美術展の仕上げ																				
6. 空想の美術展のコンセプト Ⅱ	14. 美術館へ作品見学 Ⅳ																				
7. 美術館へ作品見学 I	15. 空想の美術展の合評会																				
8. 空想の美術展の作品選定 I																					
◇ 成績評価の方法	出席／平常点／空想の美術展の評価																				
◇ 教科書・参考書	ジャンソン『美術の歴史』、その他は教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	可能な限り美術館をまわりじかに作品に接するように努力する。 機会を得てヨーロッパへ美術作品を実際に見に行けるようになれば望ましい。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																		
ユ ー ラ シ ア 文 化 史 特 論 I Eurasian Cultural History (Advanced Lecture) I	2	教授 寺 山 恭 輔	1 学期	金	2																		
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS672J																						
◆ 授業題目	スターリンとソ連極東 (Stalin and the Soviet Far East)																						
◆ 目的・概要	いわゆる北方領土問題が生じたのは1945年8月から9月にかけての時期で、それから約70年間経過した現在に至るまで日露間に平和条約は締結されていない。この問題が生じるまでの比較的長期間にわたる前史について、ソ連、とりわけスターリンの極東政策に焦点をあてて論じる。前期は、スターリンが権力を握る1920年代末までのロシア極東の状況についてロシア帝国時代の歴史をさかのぼって概観する。																						
◆ 到達目標	①ロシアの極東地域が形成されてきた歴史的な過程を理解する。 ②19世紀以降のロシアと日本、中国、朝鮮との国際関係を理解する。 ③ロシア革命以降の1920年代のソ連極東地域の状況を理解する。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ロシア極東地域形成の歴史 ①</td> <td>7. 日露戦争とロシア極東 ②</td> </tr> <tr> <td>2. ロシア極東地域形成の歴史 ②</td> <td>8. ロシア革命とロシア極東 ①</td> </tr> <tr> <td>3. プリアムール総督府とロシア帝国 ① グロデコフ</td> <td>9. ロシア革命とロシア極東 ②</td> </tr> <tr> <td>4. プリアムール総督府とロシア帝国 ② ウンテルベルゲル</td> <td>10. 極東共和国 ①</td> </tr> <tr> <td>5. プリアムール総督府とロシア帝国 ③ ゴンダッチ</td> <td>11. 極東共和国 ②</td> </tr> <tr> <td>6. 日露戦争とロシア極東 ①</td> <td>12. ネップ時代のロシア極東 ①</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13. ネップ時代のロシア極東 ②</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. ネップ時代のロシア極東 ③</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. ネップ時代のロシア極東 ④</td> </tr> </table>					1. ロシア極東地域形成の歴史 ①	7. 日露戦争とロシア極東 ②	2. ロシア極東地域形成の歴史 ②	8. ロシア革命とロシア極東 ①	3. プリアムール総督府とロシア帝国 ① グロデコフ	9. ロシア革命とロシア極東 ②	4. プリアムール総督府とロシア帝国 ② ウンテルベルゲル	10. 極東共和国 ①	5. プリアムール総督府とロシア帝国 ③ ゴンダッチ	11. 極東共和国 ②	6. 日露戦争とロシア極東 ①	12. ネップ時代のロシア極東 ①		13. ネップ時代のロシア極東 ②		14. ネップ時代のロシア極東 ③		15. ネップ時代のロシア極東 ④
1. ロシア極東地域形成の歴史 ①	7. 日露戦争とロシア極東 ②																						
2. ロシア極東地域形成の歴史 ②	8. ロシア革命とロシア極東 ①																						
3. プリアムール総督府とロシア帝国 ① グロデコフ	9. ロシア革命とロシア極東 ②																						
4. プリアムール総督府とロシア帝国 ② ウンテルベルゲル	10. 極東共和国 ①																						
5. プリアムール総督府とロシア帝国 ③ ゴンダッチ	11. 極東共和国 ②																						
6. 日露戦争とロシア極東 ①	12. ネップ時代のロシア極東 ①																						
	13. ネップ時代のロシア極東 ②																						
	14. ネップ時代のロシア極東 ③																						
	15. ネップ時代のロシア極東 ④																						
◇ 成績評価の方法	レポート 50% 出席 50%																						
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、授業の中で適宜参考文献を紹介する。																						
◇ 授業時間外学習	紹介された参考文献を読んでくること。																						
その他：オフィスアワー 金曜日 13:00-14:30																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
ユ ー ラ シ ア 文 化 史 特 論 II Eurasian Cultural History (Advanced Lecture) II	2	教授 寺 山 恭 輔	2 学期	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS673J																				
◆ 授業題目	スターリンとソ連極東 (Stalin and the Soviet Far East)																				
◆ 目的・概要	いわゆる北方領土問題が生じたのは1945年8月から9月にかけての時期で、それから約70年間経過した現在に至るまで日露間に平和条約は締結されていない。この問題が生じるまでの比較的長期間にわたる前史について、ソ連、とりわけスターリンの極東政策に焦点をあてて論じる。後期は、スターリンが権力を握る1920年代末以降、主に1930年代のソ連極東に対するスターリン指導部の政策を一次史料を参照しながら考察する。																				
◆ 到達目標	①スターリン指導部の政策立案、遂行の特殊性を理解する。 ②1930年代以降のソ連極東の特殊性を理解する。 ③北方領土問題発生までの過程を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ソ連共産党中央委員会政治局の政策決定過程 ①</td> <td>8. 極東地方党委員会の活動 ②</td> </tr> <tr> <td>2. ソ連共産党中央委員会政治局の政策決定過程 ①</td> <td>9. 極東の鉄道と動員政策 ①</td> </tr> <tr> <td>3. スターリンと側近 ① カガノーヴィチ、モロトフ、ヴォロシーロフ</td> <td>10. 極東の鉄道と動員政策 ②</td> </tr> <tr> <td>4. スターリンと側近 ② ガマルニク</td> <td>11. ソ連極東の収容所網の拡大 ①</td> </tr> <tr> <td>5. 満州事変とソ連極東 ①</td> <td>12. ソ連極東の収容所網の拡大 ②</td> </tr> <tr> <td>6. 満州事変とソ連極東 ②</td> <td>13. 独ソ戦争時のソ連極東 ①</td> </tr> <tr> <td>7. 極東地方党委員会の活動 ①</td> <td>14. 独ソ戦争時のソ連極東 ②</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 対日参戦と北方領土問題の発生</td> </tr> </table>					1. ソ連共産党中央委員会政治局の政策決定過程 ①	8. 極東地方党委員会の活動 ②	2. ソ連共産党中央委員会政治局の政策決定過程 ①	9. 極東の鉄道と動員政策 ①	3. スターリンと側近 ① カガノーヴィチ、モロトフ、ヴォロシーロフ	10. 極東の鉄道と動員政策 ②	4. スターリンと側近 ② ガマルニク	11. ソ連極東の収容所網の拡大 ①	5. 満州事変とソ連極東 ①	12. ソ連極東の収容所網の拡大 ②	6. 満州事変とソ連極東 ②	13. 独ソ戦争時のソ連極東 ①	7. 極東地方党委員会の活動 ①	14. 独ソ戦争時のソ連極東 ②		15. 対日参戦と北方領土問題の発生
1. ソ連共産党中央委員会政治局の政策決定過程 ①	8. 極東地方党委員会の活動 ②																				
2. ソ連共産党中央委員会政治局の政策決定過程 ①	9. 極東の鉄道と動員政策 ①																				
3. スターリンと側近 ① カガノーヴィチ、モロトフ、ヴォロシーロフ	10. 極東の鉄道と動員政策 ②																				
4. スターリンと側近 ② ガマルニク	11. ソ連極東の収容所網の拡大 ①																				
5. 満州事変とソ連極東 ①	12. ソ連極東の収容所網の拡大 ②																				
6. 満州事変とソ連極東 ②	13. 独ソ戦争時のソ連極東 ①																				
7. 極東地方党委員会の活動 ①	14. 独ソ戦争時のソ連極東 ②																				
	15. 対日参戦と北方領土問題の発生																				
◇ 成績評価の方法	レポート 50% 出席 50%																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、授業の中で適宜参考文献を紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	紹介された参考文献を読んでくること。																				
その他：オフィスアワー 金曜日 13:00-14:30																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
ユ ー ラ シ ア 文 化 史 研 究 演 習 I Eurasian Cultural History (Advanced Seminar) I	2	教授 寺 山 恭 輔	1 学期	金	4
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS676J				
◆ 授業題目	ソ連史文献研究(1) (Reading of Soviet Historiography in Russian)				
◆ 目的・概要	ロシア・ソ連史に関するロシア語文献を読むことでロシア語解読能力の向上をはかる。受講者が交代で、自分の研究分野に関する論文の要旨を発表し、それに関して出席者全員で議論する形で授業を進める。受講生のロシア語読解力のレベルに応じて、適宜テキストを選択する。				
◆ 到達目標	①研究論文を読むことにより、ロシア・ソ連史を研究するために必要なロシア語の読解力を高める。 ②参考文献の所在の探し方、引用の方法も同時に学ぶ。				
◆ 授業内容・方法	1. 受講生による論文の要旨の発表。それに関して全体で議論。以下毎回同じ。				
◇ 成績評価の方法	授業への出席 (50%) と報告の内容 (50%) によって判定する。				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。テキストはコピーして配布する。				
◇ 授業時間外学習	発表を担当していない受講生も、毎回テキストを読んでくること。				
その他：オフィスアワー 金曜日13：00-14：30					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
ユ ー ラ シ ア 文 化 史 研 究 演 習 II Eurasian Cultural History (Advanced Seminar) II	2	教授 寺 山 恭 輔	2 学期	金	4
◆ 科目ナンバリング	LHI-HIS677J				
◆ 授業題目	ソ連史文献研究(2) (Reading of Soviet Historiography in Russian)				
◆ 目的・概要	ロシア・ソ連史に関するロシア語文献を読むことでロシア語解読能力の向上をはかる。受講者が交代で、自分の研究分野に関する論文の要旨を発表し、それに関して出席者全員で議論する形で授業を進める。受講生のロシア語読解力のレベルに応じて、適宜テキストを選択する。				
◆ 到達目標	①研究論文を読むことにより、ロシア・ソ連史を研究するために必要なロシア語の読解力を高める。 ②参考文献の所在の探し方、引用の方法も同時に学ぶ。				
◆ 授業内容・方法	1. 受講生による論文の要旨の発表。それに関して全体で議論。以下毎回同じ。				
◇ 成績評価の方法	授業への出席 (50%) と報告の内容 (50%) によって判定する。				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。テキストはコピーして配布する。				
◇ 授業時間外学習	発表を担当していない受講生も、毎回テキストを読んでくること。				
その他：オフィスアワー 金曜日 13：00-14：30					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
理 論 社 会 学 研 究 演 習 I Theoretical Sociology (Advanced Seminar) I	2	教 授 永 井 彰	1 学 期	水	1
◆ 科目ナンバリング	LHU-SOC602J				
◆ 授業題目	ハーバーマスの現代福祉国家論(1) (Habermas's Theory of Modern Welfare State(1))				
◆ 目的・概要	Habermas の Faktizität und Geltung をドイツ語原文にもとづいて検討し、ハーバーマスの現代福祉国家論の論理構造を理解するとともに、その理論的射程を解明する。				
◆ 到達目標	ハーバーマスの現代福祉国家論の論理構造が理解できるようになる。 ハーバーマスの現代福祉国家論の理論的射程について、みずからの視点から論じることができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス 2. 事実性と妥当性の社会的媒介のカテゴリーとしての法 (1) 3. 事実性と妥当性の社会的媒介のカテゴリーとしての法 (2) 4. 事実性と妥当性の社会的媒介のカテゴリーとしての法 (3) 5. 社会学的法理論と哲学的正義論 (1) 6. 社会学的法理論と哲学的正義論 (2) 7. 社会学的法理論と哲学的正義論 (3) 8. 権利の体系 (1) 9. 権利の体系 (2) 10. 権利の体系 (3) 11. 法治国家の諸原理 (1) 12. 法治国家の諸原理 (2) 13. 法治国家の諸原理 (3) 14. ハーバーマスの「権利の体系」論の検討 15. ハーバーマスの法治国家論の検討				
◇ 成績評価の方法	授業への貢献度 (50%) とレポート (50%)				
◇ 教科書・参考書	Jürgen Habermas, Faktizität und Geltung. Beiträge zur Diskurstheorie des Rechts und des demokratischen Rechtsstaates, Suhrkamp, Frankfurt am Main 1992, ISBN 3-518-28961-6.				
◇ 授業時間外学習	予習：進む予定の箇所をドイツ語から日本語に訳出する。 復習：内容について解説メモを作成する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
理 論 社 会 学 研 究 演 習 II Theoretical Sociology (Advanced Seminar) II	2	教 授 永 井 彰	2 学 期	水	1
◆ 科目ナンバリング	LHU-SOC603J				
◆ 授業題目	ハーバーマスの現代福祉国家論(2) (Habermas's Theory of Modern Welfare State(2))				
◆ 目的・概要	Habermas の Faktizität und Geltung をドイツ語原文にもとづいて検討し、ハーバーマスの現代福祉国家論の論理構造を理解するとともに、その理論的射程を解明する。				
◆ 到達目標	ハーバーマスの現代福祉国家論の論理構造が理解できるようになる。 ハーバーマスの現代福祉国家論の理論的射程について、みずからの視点から論じることができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス 2. 熟議の政治 (1) 3. 熟議の政治 (2) 4. 熟議の政治 (3) 5. 市民社会および政治的公共圏の役割 (1) 6. 市民社会および政治的公共圏の役割 (2) 7. 市民社会および政治的公共圏の役割 (3) 8. 法のさまざまなパラダイム (1) 9. 法のさまざまなパラダイム (2) 10. 法のさまざまなパラダイム (3) 11. ハーバーマスの現代福祉国家論の形成過程 (1) 12. ハーバーマスの現代福祉国家論の形成過程 (2) 13. ハーバーマスの現代福祉国家論の形成過程 (3) 14. ハーバーマスの市民社会論および公共圏論の検討 15. ハーバーマスの現代福祉国家論の検討				
◇ 成績評価の方法	授業への貢献度 (50%) とレポート (50%)				
◇ 教科書・参考書	Jürgen Habermas, Faktizität und Geltung. Beiträge zur Diskurstheorie des Rechts und des demokratischen Rechtsstaates, Suhrkamp, Frankfurt am Main 1992, ISBN 3-518-28961-6.				
◇ 授業時間外学習	予習：進む予定の箇所をドイツ語から日本語に訳出する。 復習：内容について解説メモを作成する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
理 論 社 会 学 研 究 演 習 Ⅲ Theoretical Sociology (Advanced Seminar) Ⅲ	2	教 授 永 井 彰	1 学 期	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHU-SOC604J				
◆ 授業題目	社会科学のなかの社会学 (Sociology in Social Science)				
◆ 目的・概要	通常のばあい、社会学の歴史は、オーギュスト・コントから語られる。そして、他の社会科学から切り離された独自の専門科学として、取り扱われる。しかし、いうまでもなく、社会学は、社会科学が展開するなかで、その一領域として分化した。社会学にも、社会科学の発展史という共通の根がある。この授業では、内田義彦や大塚久雄の著作を手がかりにしながら、社会科学のなかで社会学はどのような位置を占めるのかを考えるとともに、社会科学的な思考法について考察を深めることにしたい。				
◆ 到達目標	社会科学の展開史のなかに社会学を位置づけることができるようになる。 社会科学に共通する思考法を理解できるとともに、社会学独自の発想法とは何かを理解できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のガイダンス 2. 『社会認識の歩み』 問題と方法／生活現実と社会科学 3. 『社会認識の歩み』 「方法論とメソドロジー」／社会科学の言葉 4. 『社会認識の歩み』 運命へのチャレンジ 5. 『社会認識の歩み』 国家の制作 (1) 6. 『社会認識の歩み』 国家の制作 (2) 7. 『社会認識の歩み』 歴史の発掘 (1) 8. 『社会認識の歩み』 歴史の発掘 (2) 9. 『社会科学の方法』 社会科学の方法 (1) 10. 『社会科学の方法』 社会科学の方法 (2) 11. 『社会科学の方法』 社会科学の方法 (3) 12. 『社会科学の方法』 社会科学の方法 (4) 13. 『社会科学の方法』 経済人口ビンソン・クルーソウ (1) 14. 『社会科学の方法』 経済人口ビンソン・クルーソウ (2) 15. 全体のまとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート (50%)、授業時の受講票の提出 (50%)				
◇ 教科書・参考書	内田義彦『社会認識の歩み』岩波書店、1971年。 大塚久雄『社会科学の方法——ヴェーバーとマルクス』岩波書店、1966年。				
◇ 授業時間外学習	授業時間前に、各自テキストを読む。 講義での討議や解説をふまえて、各自テキストを読み直す。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
社 会 変 動 学 特 論 Theory of Social Change (Advanced Lecture)	2	教 授 下 夷 美 幸	1 学 期	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHU-SOC606J				
◆ 授業題目	日本の家族政策 (Family Policy in Japan)				
◆ 目的・概要	家族社会学の応用力を養うことを目的とする。授業では、家族をめぐるケア (育児と介護) やひとり親家族の生活支援といった具体的な問題をとりあげ、主要先進諸国との比較も交えながら、日本の家族政策の現状および今後の課題について、講義する (受講者の意見も聴取しながらすすめていく)。				
◆ 到達目標	(1) 家族の変容や家族問題の実情について理解する。 (2) 家族政策の現状と日本の特質について考察する。 (3) 今後の家族政策の課題について探求する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族政策の概念整理 2. 福祉国家と家族 (1) 3. 福祉国家と家族 (2) 4. 育児支援政策 (1) 5. 育児支援政策 (2) 6. 育児支援政策 (3) 7. 育児支援政策 (4) 8. 高齢者介護政策 (1) 9. 高齢者介護政策 (2) 10. 高齢者介護政策 (3) 11. 高齢者介護政策 (4) 12. ひとり親家族支援政策 (1) 13. ひとり親家族支援政策 (2) 14. ひとり親家族政策 (3) 15. 授業のまとめ 				
◇ 成績評価の方法	コメントペーパー (復習) 50%、課題レポート 50%				
◇ 教科書・参考書	教科書・参考書は教室で指示する。				
◇ 授業時間外学習	(1) 毎回の授業後、取り上げたテーマについて、授業内容を復習し、コメントペーパーに自分の考察を記述する。その際、関連する文献や資料などにもあたり、学習を深める。なお、コメントペーパーは翌週の授業で提出する。 (2) 事前配布資料がある場合は、資料を読み込んで、自分の考えをまとめて授業にのぞむ。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
社 会 変 動 学 特 論 Theory of Social Change (Advanced Lecture)	2	教授 長谷川 公 一	2 学期	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHU-SOC606J																				
◆ 授業題目	気候変動政策の社会学 (Sociology of Climate Change Policy)																				
◆ 目的・概要	気候変動問題とはどのような問題なのか。気候変動対策はどのように進展してきたのか。アメリカはなぜ気候変動対策に消極的なのか。日本の気候変動対策の課題と特質は何か。何が気候変動対策を難しくしているのか。原子力発電と気候変動の問題をどう考えるべきか、これらを社会的に検討する。																				
◆ 到達目標	気候変動問題と政策の社会的特質、国際比較研究の意義などを理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 気候変動のしくみ。何が問題なのか</td> <td>9. 日本の気候変動対策・NGO</td> </tr> <tr> <td>2. 気候変動対策の歴史</td> <td>10. 環境税をめぐる言説ネットワーク</td> </tr> <tr> <td>3. 気候変動懐疑論の検討 I</td> <td>11. 気候変動問題とメディア</td> </tr> <tr> <td>4. 気候変動懐疑論の検討 II</td> <td>12. 気候変動対策と原子力発電</td> </tr> <tr> <td>5. パリ協定の意義</td> <td>13. 気候変動と石炭火力発電</td> </tr> <tr> <td>6. 日本の気候変動対策の特質</td> <td>14. 脱炭素社会は可能か</td> </tr> <tr> <td>7. 日本の気候変動対策・政府と地方</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 日本の気候変動対策・産業界</td> <td></td> </tr> </table>					1. 気候変動のしくみ。何が問題なのか	9. 日本の気候変動対策・NGO	2. 気候変動対策の歴史	10. 環境税をめぐる言説ネットワーク	3. 気候変動懐疑論の検討 I	11. 気候変動問題とメディア	4. 気候変動懐疑論の検討 II	12. 気候変動対策と原子力発電	5. パリ協定の意義	13. 気候変動と石炭火力発電	6. 日本の気候変動対策の特質	14. 脱炭素社会は可能か	7. 日本の気候変動対策・政府と地方	15. まとめ	8. 日本の気候変動対策・産業界	
1. 気候変動のしくみ。何が問題なのか	9. 日本の気候変動対策・NGO																				
2. 気候変動対策の歴史	10. 環境税をめぐる言説ネットワーク																				
3. 気候変動懐疑論の検討 I	11. 気候変動問題とメディア																				
4. 気候変動懐疑論の検討 II	12. 気候変動対策と原子力発電																				
5. パリ協定の意義	13. 気候変動と石炭火力発電																				
6. 日本の気候変動対策の特質	14. 脱炭素社会は可能か																				
7. 日本の気候変動対策・政府と地方	15. まとめ																				
8. 日本の気候変動対策・産業界																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) リポート [70%]・(○) 出席 [30%]																				
◇ 教科書・参考書	長谷川公一・品田知美編『気候変動政策の社会学』(昭和堂、2016年)																				
◇ 授業時間外学習	新聞と教科書をよく読む。																				
その他：オフィスアワー：月 5																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																		
社 会 変 動 学 研 究 演 習 I Theory of Social Change (Advanced Seminar) I	2	教授 下 夷 美 幸	1 学期	金	2																		
◆ 科目ナンバリング	LHU-SOC607J																						
◆ 授業題目	家族政策研究 (Theory of Family Policy)																						
◆ 目的・概要	日本の家族政策を研究するうえでの基礎力の涵養を目的とする。授業では、家族をめぐる法政策に関する文献の読解と討論を通して、日本の家族政策の基本問題について議論、考察する。本年度は「公私二元論」にかかわる論考を読みすすめていく。1 学期は、フランシス・オルセン (寺尾美子編訳)『法の性別——近代法公私二元論を超えて』(東京大学出版会、2009年) をとりあげる予定。																						
◆ 到達目標	(1)家族政策の基礎理論を習得する。 (2)家族政策の日本の特徴を探究する。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 演習の進め方について</td> <td>10. 家族と女性 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. 法の性別</td> <td>11. 国際人権法と女性 (1)</td> </tr> <tr> <td>3. 家族と市場</td> <td>12. 国際人権法と女性 (2)</td> </tr> <tr> <td>4. アメリカ法の変容とフェミニズム法学</td> <td>13. 性に関する権利、生殖に関する権利、性的暴力からの自由 (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 「公私」の区分 (1)</td> <td>14. 性に関する権利、生殖に関する権利、性的暴力からの自由 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 「公私」の区分 (2)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 市場と女性 (1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 市場と女性 (2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 家族と女性 (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 演習の進め方について	10. 家族と女性 (2)	2. 法の性別	11. 国際人権法と女性 (1)	3. 家族と市場	12. 国際人権法と女性 (2)	4. アメリカ法の変容とフェミニズム法学	13. 性に関する権利、生殖に関する権利、性的暴力からの自由 (1)	5. 「公私」の区分 (1)	14. 性に関する権利、生殖に関する権利、性的暴力からの自由 (2)	6. 「公私」の区分 (2)	15. 授業のまとめ	7. 市場と女性 (1)		8. 市場と女性 (2)		9. 家族と女性 (1)	
1. 演習の進め方について	10. 家族と女性 (2)																						
2. 法の性別	11. 国際人権法と女性 (1)																						
3. 家族と市場	12. 国際人権法と女性 (2)																						
4. アメリカ法の変容とフェミニズム法学	13. 性に関する権利、生殖に関する権利、性的暴力からの自由 (1)																						
5. 「公私」の区分 (1)	14. 性に関する権利、生殖に関する権利、性的暴力からの自由 (2)																						
6. 「公私」の区分 (2)	15. 授業のまとめ																						
7. 市場と女性 (1)																							
8. 市場と女性 (2)																							
9. 家族と女性 (1)																							
◇ 成績評価の方法	課題リポート 50%・授業内での報告・発言 50%																						
◇ 教科書・参考書	教科書・参考書は教室で指示する。																						
◇ 授業時間外学習	毎回、授業前に該当文献を読みこみ、自分の意見をまとめて授業にのぞむ。報告を担当する際は、関連する文献や資料にもあたり、十分に調査して、報告資料を作成する。																						
その他：授業初回到報告スケジュール (報告者と報告日) を決定するので、やむをえない事情で欠席する場合は、必ず事前にメールで連絡すること。																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
社 会 変 動 学 研 究 演 習 II Theory of Social Change (Advanced Seminar) II	2	教授 下 夷 美 幸	2 学期	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHU-SOC608J																				
◆ 授業題目	家族政策研究 (Theory of Family Policy)																				
◆ 目的・概要	※社会変動学研究演習 I の続講 日本の家族政策を研究するうえでの基礎力の涵養を目的とする。授業では、家族をめぐる法政策に関する文献の読解と討論を通して、日本の家族政策の基本問題について議論、考察する。本年度は「公私二元論」にかかわる論考を読みすすめていく。2 学期は、野崎綾子『正義・家族・法の構造転換——リベラル・フェミニズムの再定位』(勁草書房、2003年) をとりあげる予定。																				
◆ 到達目標	(1) 家族政策の基礎理論を習得する。 (2) 家族政策の日本の特徴を探究する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 演習の進め方について</td> <td>9. 親密圏と正義感覚</td> </tr> <tr> <td>2. リベラル・フェミニズムの再定位 (1)</td> <td>10. 関連論文：リベラリズムとフェミニズム (1)</td> </tr> <tr> <td>3. リベラル・フェミニズムの再定位 (2)</td> <td>11. 関連論文：リベラリズムとフェミニズム (2)</td> </tr> <tr> <td>4. リベラル・フェミニズムの再定位 (3)</td> <td>12. 関連論文：リベラリズムとフェミニズム (3)</td> </tr> <tr> <td>5. 正義論における家族の位置 (1)</td> <td>13. 関連論文：家族における公私の再編 (1)</td> </tr> <tr> <td>6. 正義論における家族の位置 (2)</td> <td>14. 関連論文：家族における公私の再編 (2)</td> </tr> <tr> <td>7. 正義論における家族の位置 (3)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 正義論における家族の位置 (4)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 演習の進め方について	9. 親密圏と正義感覚	2. リベラル・フェミニズムの再定位 (1)	10. 関連論文：リベラリズムとフェミニズム (1)	3. リベラル・フェミニズムの再定位 (2)	11. 関連論文：リベラリズムとフェミニズム (2)	4. リベラル・フェミニズムの再定位 (3)	12. 関連論文：リベラリズムとフェミニズム (3)	5. 正義論における家族の位置 (1)	13. 関連論文：家族における公私の再編 (1)	6. 正義論における家族の位置 (2)	14. 関連論文：家族における公私の再編 (2)	7. 正義論における家族の位置 (3)	15. 授業のまとめ	8. 正義論における家族の位置 (4)	
1. 演習の進め方について	9. 親密圏と正義感覚																				
2. リベラル・フェミニズムの再定位 (1)	10. 関連論文：リベラリズムとフェミニズム (1)																				
3. リベラル・フェミニズムの再定位 (2)	11. 関連論文：リベラリズムとフェミニズム (2)																				
4. リベラル・フェミニズムの再定位 (3)	12. 関連論文：リベラリズムとフェミニズム (3)																				
5. 正義論における家族の位置 (1)	13. 関連論文：家族における公私の再編 (1)																				
6. 正義論における家族の位置 (2)	14. 関連論文：家族における公私の再編 (2)																				
7. 正義論における家族の位置 (3)	15. 授業のまとめ																				
8. 正義論における家族の位置 (4)																					
◇ 成績評価の方法	課題レポート 50%・授業内での報告・発言 50%																				
◇ 教科書・参考書	教科書・参考書は教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、授業前に該当文献を読みこみ、自分の意見をまとめて授業にのぞむ。 報告を担当する際は、関連する文献や資料にもあたり、十分に調査して、報告資料を作成する。																				
社会変動学研究演習 I を履修済みであること。 その他：授業初めに報告スケジュール (報告者と報告日) を決定するので、やむをえない事情で欠席する場合は、必ず事前にメールで連絡すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
社 会 変 動 学 研 究 演 習 I Theory of Social Change (Advanced Seminar) I	2	教授 長 谷 川 公 一	2 学期	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHU-SOC607J																				
◆ 授業題目	公共政策と合意形成の社会学 (Sociology on Public Policy and Concensus Building)																				
◆ 目的・概要	公共政策と合意形成をめぐる社会的課題を検討する。																				
◆ 到達目標	公共政策と合意形成をめぐる社会的課題をどのように克服すべきか、理論的・実証的に考察する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 社会運動と異議申し立て II</td> </tr> <tr> <td>2. 社会学と公共政策論 I</td> <td>10. 社会運動と異議申し立て III</td> </tr> <tr> <td>3. 社会学と公共政策論 II</td> <td>11. 公共圏の課題 I</td> </tr> <tr> <td>4. 社会学と公共政策論 III</td> <td>12. 公共圏の課題 II</td> </tr> <tr> <td>5. 紛争と合意形成の社会学 I</td> <td>13. 公共圏の課題 III</td> </tr> <tr> <td>6. 紛争と合意形成の社会学 II</td> <td>14. 社会的価値と合意形成</td> </tr> <tr> <td>7. 紛争と合意形成の社会学 III</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 社会運動と異議申し立て I</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 社会運動と異議申し立て II	2. 社会学と公共政策論 I	10. 社会運動と異議申し立て III	3. 社会学と公共政策論 II	11. 公共圏の課題 I	4. 社会学と公共政策論 III	12. 公共圏の課題 II	5. 紛争と合意形成の社会学 I	13. 公共圏の課題 III	6. 紛争と合意形成の社会学 II	14. 社会的価値と合意形成	7. 紛争と合意形成の社会学 III	15. まとめ	8. 社会運動と異議申し立て I	
1. イントロダクション	9. 社会運動と異議申し立て II																				
2. 社会学と公共政策論 I	10. 社会運動と異議申し立て III																				
3. 社会学と公共政策論 II	11. 公共圏の課題 I																				
4. 社会学と公共政策論 III	12. 公共圏の課題 II																				
5. 紛争と合意形成の社会学 I	13. 公共圏の課題 III																				
6. 紛争と合意形成の社会学 II	14. 社会的価値と合意形成																				
7. 紛争と合意形成の社会学 III	15. まとめ																				
8. 社会運動と異議申し立て I																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) レポート [70%]・(○) 出席 [30%]																				
◇ 教科書・参考書	教室にて指示する。																				
◇ 授業時間外学習	演習参加者全員があらかじめ課題文献を十二分に読み込んだうえで、質問をもって授業にのぞむ。 前回の授業を咀嚼したうえで、前回分についても質問をもって授業にのぞむ。																				
その他：オフィスアワー：月 5																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
社 会 変 動 学 研 究 演 習 II Theory of Social Change (Advanced Seminar) II	2	教授 長谷川 公 一	2 学期	火	4
◆ 科目ナンバリング	LHU-SOC608J				
◆ 授業題目	作田啓一との対話 (Dialogue with Late Prof. Keiichi Sakuta)				
◆ 目的・概要	日本を代表する理論社会学者の1人作田啓一 (1922?2016年) の主要な著書・論文の読解をとおして、社会学を学ぶ(よるこび)を再発見したい。『恥の文化再考』『価値の社会学』『生成の社会学をめざして』などの著作を読解する。				
◆ 到達目標	作田啓一は、吉田民人・塩原勉・井上俊・上野千鶴子らによって敬愛された社会学者である。社会学の営みは、時代状況との相互作用の産物でもあることを理解し、価値・文学・自我などの問題への社会的アプローチの有効性と課題を検討する。価値や自我をめぐる、文学へのまなざしをめぐる、作田と見田宗介との論理的接点についても考えたい。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作田啓一・人と作品 2. 奥村隆編『作田啓一vs.見田宗介』(2016年、弘文堂)を読む I 3. 奥村隆編『作田啓一vs.見田宗介』(2016年、弘文堂)を読む II 4. ベネディクト『菊と刀』を読む 5. 『恥の文化再考』(1967年、筑摩書房)を読む I 6. 『恥の文化再考』(1967年、筑摩書房)を読む II 7. 『恥の文化再考』(1967年、筑摩書房)を読む III 8. 『価値の社会学』(1972年、岩波書店)を読む I 9. 『価値の社会学』(1972年、岩波書店)を読む II 10. 『価値の社会学』(1972年、岩波書店)を読む III 11. 作田啓一と見田宗介の<価値の社会学>を比較する 12. 『生成の社会学をめざして』(1993年、有斐閣)を読む I 13. 『生成の社会学をめざして』(1993年、有斐閣)を読む II 14. 作田啓一と見田宗介の<自我の社会学>を比較する 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) レポート [70%]・(○) 出席 [30%]				
◇ 教科書・参考書	教室にて指示する。				
◇ 授業時間外学習	演習参加者全員があらかじめ課題文献を十二分に読み込んだうえで、質問をもって授業にのぞむ。前回の授業を咀嚼したうえで、前回分についても質問をもって授業にのぞむ。				
その他：オフィスアワー：月 5					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
地 域 社 会 学 特 論 Regional Sociology (Advanced Lecture)	2	准教授 小 松 丈 晃	2 学期	火	1
◆ 科目ナンバリング	LHU-SOC611J				
◆ 授業題目	リスクと無知の社会学 (Sociology of Risk and Ignorance)				
◆ 目的・概要	自然災害のリスクなどへの対処には、自然科学のみならず人文・社会(科)学的な視点が必要である。学際的な広がりをもつリスク研究だが、この授業では、社会的なリスク研究を概観しながら、複雑化する現代社会におけるリスクとの「つきあい方」について考えていきたい。また、リスク論に対する社会学の貢献はどこにあるのか、逆にリスクについての考察は社会学に何をもたらすのか、そしてリスクについての社会学研究はなぜ必要か、等についても検討する。授業は全体として大きく三つのパートからなる。まず(1)社会学におけるリスク研究について概説し(第1回～第7回)、その後(2)科学社会学の展開状況をも踏まえつつ、科学に対する信頼や専門知の責任について考察する(第8回～第11回)。最後に(3)東日本大震災をはじめとした超広域複合災害を念頭におきながら、リスク・信頼・無知(「想定外」)の間の捻れた関係とそれがもたらす問題について、考察する。補論として監視社会論にも触れる。各アプローチの特徴と課題について理解できるようになる。				
◆ 到達目標	現代社会が直面するリスクとのつきあい方について自分なりの考察できる手がかりを得る。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. リスクの概念について 2. 人文社会科学における研究動向・概観 3. 「リスク社会」という社会記述 —U.ベックの問題提起(1) 4. 「リスク社会」という社会記述 —U.ベックの問題提起(2) 5. M.ダグラスの文化論とデュルケムの視点 6. 社会システム理論によるリスク研究(1) 7. 社会システム理論によるリスク研究(2) 8. リスク社会における信頼(1) —リスクコミュニケーション論とその課題 9. リスク社会における信頼(2) 10. 地域社会と科学 —サイエンスショップ/CBPRの動向と課題— 11. リスクの社会的増幅/減衰論(SARF)について 12. リスクと信頼の捻れた関係 —複合災害への一視点 13. 安全・安心をめぐる動向 —監視社会論について 14. 「想定外」の社会学のために —「無知の社会学」の可能性 15. まとめと総合討論 				
◇ 成績評価の方法	講義終了後のコミュニケーションペーパーへの記入内容と出席状況 30%+学期末のレポート 70%で評価				
◇ 教科書・参考書	教科書はありません。トピックに応じて参考文献を授業の中で提示します。				
◇ 授業時間外学習	適宜、授業において学習課題を出す予定です。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
地 域 社 会 学 研 究 演 習 I Regional Sociology (Advanced Seminar) I	2	准教授 小松丈晃	1 学期	火	3
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHU-SOC612J リスクガバナンス論 (risk governance) ドイツの科学社会学者/環境社会学者で「安全なエネルギー供給に関する倫理委員会」委員もつとめた Ortwin Renn の主著 Risk Governance: Coping with Uncertainty in a Complex World, 2008 をテキストにしなが、 「リスクガバナンス」の基本的な枠組みおよびその問題について検討・討論する。I では、主に、リスク認知、リスクコミュニケーションをテーマにして議論する。				
◆ 到達目標	・リスクガバナンスの枠組みを総合的に正確に理解できるようになること。 ・O. Renn および IRGC のリスクガバナンス論の批判的考察をもふまえつつ、東日本大震災前後の状況について自分なりの議論を行いうるようになること。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. Risk Governance の検討・討論 (リスク認知 (risk perception) について) (1) 2. Risk Governance の検討・討論 (リスク認知 (risk perception) について) (2) 3. Risk Governance の検討・討論 (リスク認知 (risk perception) について) (3) 4. Risk Governance の検討・討論 (リスク認知 (risk perception) について) (4) 5. Risk Governance の検討・討論 (リスク認知 (risk perception) について) (5) 6. Risk Governance の検討・討論 (リスク認知 (risk perception) について) (6) 7. Risk Governance の検討・討論 (リスク認知 (risk perception) について) (7) 8. Risk Governance の検討・討論 (リスクコミュニケーション (risk communication) について) (1) 9. Risk Governance の検討・討論 (リスクコミュニケーション (risk communication) について) (2) 10. Risk Governance の検討・討論 (リスクコミュニケーション (risk communication) について) (3) 11. Risk Governance の検討・討論 (リスクコミュニケーション (risk communication) について) (4) 12. Risk Governance の検討・討論 (リスクコミュニケーション (risk communication) について) (5) 13. Risk Governance の検討・討論 (リスクコミュニケーション (risk communication) について) (6) 14. Risk Governance の検討・討論 (リスクコミュニケーション (risk communication) について) (7) 15. 総括討論 				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書	出席 50% と毎回の報告内容 50% による。 Renn, O., 2008, Risk Governance: Coping with Uncertainty in a Complex World, Earthscan. 以下の文献も適宜参考する。 IRGC, 2005, Risk governance: towards an integrative approach, International Risk Governance Council. Renn, O., 2014, Das Risikoparadox: Warum wir uns vor dem Falschen fürchten, Fischer Taschenbuch Felgentreff, C. & T. Glade, hrsg., Naturrisiken und Sozialkatastrophen, Spektrum.				
◇ 授業時間外学習	毎回、扱う予定のテーマについて、事前に、入念に検討し報告レジュメを作成していただく必要があります。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
地 域 社 会 学 研 究 演 習 II Regional Sociology (Advanced Seminar) II	2	准教授 小松丈晃	2 学期	火	3
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHU-SOC613J リスクガバナンス論 (risk governance) 前期に引き続き、ドイツの科学社会学者/環境社会学者で「安全なエネルギー供給に関する倫理委員会」委員もつとめた Ortwin Renn の主著 Risk Governance: Coping with Uncertainty in a Complex World, 2008 をテキストにしなが、 「リスクガバナンス」の基本的な枠組みおよびその問題について検討・討論する。II では、主に、リスクガバナンス過程におけるステークホルダーおよび公衆参加に関するレンの議論を中心に検討する。				
◆ 到達目標	・リスクガバナンスの枠組みを総合的に正確に理解できるようになること。 ・O. Renn および IRGC のリスクガバナンス論の批判的考察をもふまえつつ、東日本大震災前後の状況について自分なりの議論を行いうるようになること。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. Risk Governance の検討・討論 (risk participation について) (1): リスクの諸類型 (1) 2. Risk Governance の検討・討論 (risk participation について) (2): リスクの諸類型 (1) 3. Risk Governance の検討・討論 (risk participation について) (3): 関与者の区別 4. Risk Governance の検討・討論 (risk participation について) (4): 参加型モデルの要素 (1) 5. Risk Governance の検討・討論 (risk participation について) (5): 参加型モデルの要素 (2) 6. Risk Governance の検討・討論 (risk participation について) (6): 熟議の功罪 7. Risk Governance の検討・討論 (risk participation について) (7): 分析的・熟議的過程 (1) 8. Risk Governance の検討・討論 (risk participation について) (8): 分析的・熟議的過程 (2) 9. Risk Governance の検討・討論 (risk participation について) (9): 分析的・熟議的過程 (3) 10. Risk Governance の検討・討論 (risk participation について) (10): リスク類型と参加手法の区別 (1) 11. Risk Governance の検討・討論 (risk participation について) (11): リスク類型と参加手法の区別 (2) 12. Risk Governance の検討・討論 (risk participation について) (12): リスク類型と参加手法の区別 (3) 13. Risk Governance の検討・討論 (risk participation について) (13): リスク類型と参加手法の区別 (4) 14. Risk Governance の検討・討論 (risk participation について) (14): 結論 15. 総括討論 				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書	出席50%と毎回の報告内容50%による。 Renn, O., 2008, Risk Governance: Coping with Uncertainty in a Complex World, Earthscan. 以下の文献も適宜参考する IRGC, 2005, Risk governance: towards an integrative approach, International Risk Governance Council. Renn, O., 2014, Das Risikoparadox: Warum wir uns vor dem Falschen fürchten, Fischer Taschenbuch Felgentreff, C. & T. Glade, hrsg., Naturrisiken und Sozialkatastrophen, Spektrum.				
◇ 授業時間外学習	毎回、扱う予定のテーマについて、事前に、入念に検討し報告レジュメを作成していただく必要があります。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
地 域 社 会 学 研 究 演 習 Ⅲ Regional Sociology (Advanced Seminar) Ⅲ	2	准教授 小 松 丈 晃	2 学期	火	5
◆ 科目ナンバリング	LHU-SOC614J				
◆ 授業題目	不確実性の社会学 (Sociology of uncertainty)				
◆ 目的・概要	不確実性やリスクは、災害・環境・健康・科学技術・犯罪等といった多様な問題領域と関わり合いながら、昨今の社会学でも重要な概念の一つと目されるようになってきているが、この授業ではこうした動向についての、目配りのきいた定評ある英語圏の入門書を読み解きながら（他のテキストも適宜参照する）、不確実やリスクに対してどのようにアプローチすればよいのか、またそのために援用できる枠組みとしてどのようなものがあるのか、について学ぶ。				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・不確実性に対するアプローチの、社会学固有の視角について習得する。 ・議論の拡がりを知るとともにこのテーマに対する領域ごとのアプローチの相違について理解できる。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新たなリスクに対する管理とその課題 (1) 2. 新たなリスクに対する管理とその課題 (2) 3. 新たなリスクに対する管理とその課題 (3) 4. 環境と科学技術 (1) 5. 環境と科学技術 (2) 6. 環境と科学技術 (3) 7. 日常生活と余暇の中のリスク (1) 8. 日常生活と余暇の中のリスク (2) 9. 日常生活と余暇の中のリスク (3) 10. リスク化するライフコース (1) 11. リスク化するライフコース (2) 12. リスク化するライフコース (3) 13. 地域における犯罪リスクへの対処と問題点 (1) 14. 地域における犯罪リスクへの対処と問題点 (2) 15. 総括討論 				
◇ 成績評価の方法	出席 50%と毎回の報告内容 50%による。				
◇ 教科書・参考書	Taylor-Gooby, P. & J. Zinn, 2006, Risk in Social Science, Oxford UP. [参考書] J. O. Zinn, 2008, Social Theories of Risk and Uncertainty, Blackwell. B. Hutter & M. Power, ed., 2005, Organizational Encounters with Risk, Cambridge UP.				
◇ 授業時間外学習	受講者は全員、授業時間外に、毎回対象となるテキスト（の一部、英語）を読み、授業時間までに、報告レジュメを作成し論点や疑問点を提示しなくてはなりません。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
社 会 学 特 論 Ⅰ Sociology (Advanced Lecture) Ⅰ	2	非常勤講師 徳 川 直 人	1 学期	水	3
◆ 科目ナンバリング	LHU-SOC621J				
◆ 授業題目	質的研究概論 (Introduction to Sociological Qualitative Inquiry)				
◆ 目的・概要	資料蒐集、日誌、ノートといった社会学的知の生産技術の基本を実践してもらいつつ、オリジナル教材を使った講義と演習を通じて種々の質的方法について理解を深める。				
◆ 到達目標	質的研究法の基礎的技法、考え方、意義と限界、調査倫理の基本について理解できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 質的分析法入門 2. 方法としてのフィールドノート 3. 感受概念 4. 非構造的・半構造的インタビューと調査票の設計 5. 聞き書き 6. インタビュー 7. 自然主義的観察 8. 参与観察 9. グラウンデッドな接近法 10. エスノメソドロジー 11. エスノグラフィー 12. 事例分析とモノグラフ 13. ヒューマン・ドキュメント 14. アクション・リサーチ 15. 調査倫理 				
◇ 成績評価の方法	平常点・提出物（宿題）、学期末レポート				
◇ 教科書・参考書	『方法としてのフィールドノート』『質的研究用語事典』など複数を教室にて指示する。また、教材的読み物としてオリジナル資料を作成する。				
◇ 授業時間外学習	毎回の読み物について目を通すこと。また授業内容についての復習（用語の意味確認）などを提出すること。 学期末レポートに向けて日常的にフィールドワーク実践に少しずつ取り組むこと。				
その他：公式サイト http://www.sp.is.tohoku.ac.jp/toku/ およびISTUにて資料等を閲覧する。 また、所載のメールを随時利用してよい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
社 会 学 特 論 II Sociology (Advanced Lecture) II	2	非常勤 講師 田代志門	集 中 (1学期)		
◆ 科目ナンバリング	LHU-SOC622J				
◆ 授業題目	死と死にゆくことの社会学 (Sociology of death and dying)				
◆ 目的・概要	終末期医療に関する具体的なトピックをとりあげながら、現代社会における「死と死にゆくこと」に関係する諸問題を「人と人との関係性」という視点から考察する。				
◆ 到達目標	終末期医療の現場で生じている倫理的・法的・社会的問題について基礎的な知識を得るとともに、それらの問題を文化や社会構造と関連づけて理解することができる。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション (1) 現代社会においてなぜ死が問題になるのか 2. イントロダクション (2) 「死の社会学」の系譜 3. 死の自己決定権の社会学 (1) 安楽死・尊厳死とは 4. 死の自己決定権の社会学 (2) 誰のための<尊厳死>? 5. 死の自己決定権の社会学 (3) 安楽死の実際 6. 終末期ケアの社会学 (1) ホスピス・緩和ケアの可能性と困難 7. 終末期ケアの社会学 (2) 未決の問いとしてのがん告知 8. 終末期ケアの社会学 (3) <共同行為>としてのインフォームド・コンセント 9. 死生観の社会学 (1) 治療を「あきらめる」経験の語り 10. 死生観の社会学 (2) 受け継がれていく生 11. 死生観の社会学 (3) 死者との邂逅 12. 看取りの現場との対話 (1) 13. 看取りの現場との対話 (2) 14. 看取りの現場との対話 (3) 15. まとめ 死にゆく過程をどう生きるか				
◇ 成績評価の方法	レポート 50%、授業時の平常点 50%				
◇ 教科書・参考書	田代志門『死にゆく過程を生きる：終末期がん患者の経験の社会学』(世界思想社、2016年) 清水哲郎監修 岡部健・竹之内裕文編『どう生き どう死ぬか：現場から考える死生学』(弓箭書院、2009年)				
◇ 授業時間外学習	上記の参考図書に目を通すこと				
その他：本授業では、講義内容の理解を深めるために、具体的な事例について議論する機会を設ける予定です。ぜひ積極的に授業に参加してください。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
社 会 学 特 論 III Sociology (Advanced Lecture) III	2	非常勤 講師 山尾貴則	集 中 (2学期)		
◆ 科目ナンバリング	LHU-SOC623J				
◆ 授業題目	「認められること」の社会学 (Sociology of Recognition)				
◆ 目的・概要	現代日本における自己形成に関する諸問題とその背景としての社会変化について学び、その上で自己形成や社会的自立に困難を抱えた若者たちの特質を「承認」というキーワードから考える。さらにそうした若者たちの社会的自立をいかに支援しうるのかについて、本講義の担当者が実践している活動を紹介しながら検討する。				
◆ 到達目標	まず、現代日本社会の特質を「排除型社会」というキーワードを通して理解できるようになる。ついで我々はどうのように自己を形成し、それを他者に承認されるようになるのかを理解する。さらに、若者の社会的自立を阻む要因を理解し、社会的自立を支援する実践活動のあり方を理解できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. はじめに 2. 包摂型社会から排除型社会へ 3. 自己形成と承認 (1) 一役割の遂行 4. 自己形成と承認 (2) 一役割遂行の困難 5. 自己形成と承認 (3) 一役割の遍在性 6. 自己形成と承認 (4) 一役割遂行の困難への対処 7. 役割遂行の妥当性を認めるのは誰か 8. 認められる自己とは 一再帰的自己 9. 「認められる」とはどのようなことか 一承認論 10. 承認の危機と承認をめぐる闘争 11. 闘争できない承認? 12. 社会的自立とはどのようなことか 13. 承認を回復するための支援とは 一検討と実践 14. 承認のゆくえ 15. まとめ				
◇ 成績評価の方法	講義内でのコメントシートの記入内容および出席状況 (40%)、講義終了後のレポート内容 (60%)				
◇ 教科書・参考書	教科書 村澤和多里・山尾貴則・村澤真保呂著 2012、『ポストモラトリアム時代の若者たち 社会的排除を超えて』, 世界思想社. 参考文献 ジョック・ヤング著 2007、『排除型社会—後期近代における犯罪・雇用・差異』, 洛北出版. アンソニー・ギデンズ著 2005、『モダニティと自己アイデンティティ—後期近代における自己と社会』, ハーベスト社. アクセル・ホネット著 2014、『承認をめぐる闘争：社会的コンフリクトの道徳的文法』, 法政大学出版局. 山竹伸二著 2011、『「認められたい」の正体—承認不安の時代』, 講談社. 斎藤環著 2013、『承認をめぐる病』, 日本評論社.				
◇ 授業時間外学習	教科書および参考書を読み、受講生各自が自分にとっての「自己の問題」や「承認をめぐる困難」について考えてみることをすすめます。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
社 会 学 調 査 実 習 I S o c i o l o g y (R e s e a r c h) I	2	教授 下 夷 美 幸	1 学 期	金	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHU-SOC625J																				
◆ 授業題目	社会調査実習 I (Social Research (Field Work) I)																				
◆ 目的・概要	社会調査の基礎力を養うことを目的とする。授業では、社会調査の概要(意義・種類・方法・歴史・課題・技法等)を学ぶとともに、後期の社会学実習で予定されている調査実施に向けた準備作業を行う。																				
◆ 到達目標	(1)社会調査の方法と論点を理解する。 (2)社会調査のための問題設定、仮説構築を行う。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 社会科学と社会調査</td> <td>9. 問題の設定(1)</td> </tr> <tr> <td>2. 社会理論と社会調査</td> <td>10. 問題の設定(2)</td> </tr> <tr> <td>3. 価値観・倫理と社会調査</td> <td>11. 既存の調査の検討(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 社会調査の方法(1)</td> <td>12. 既存の調査の検討(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 社会調査の方法(2)</td> <td>13. 仮説の構成(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 社会調査の方法(3)</td> <td>14. 仮説の構成(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 社会調査の方法(4)</td> <td>15. 調査対象の選定</td> </tr> <tr> <td>8. 社会調査の方法(5)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 社会科学と社会調査	9. 問題の設定(1)	2. 社会理論と社会調査	10. 問題の設定(2)	3. 価値観・倫理と社会調査	11. 既存の調査の検討(1)	4. 社会調査の方法(1)	12. 既存の調査の検討(2)	5. 社会調査の方法(2)	13. 仮説の構成(1)	6. 社会調査の方法(3)	14. 仮説の構成(2)	7. 社会調査の方法(4)	15. 調査対象の選定	8. 社会調査の方法(5)	
1. 社会科学と社会調査	9. 問題の設定(1)																				
2. 社会理論と社会調査	10. 問題の設定(2)																				
3. 価値観・倫理と社会調査	11. 既存の調査の検討(1)																				
4. 社会調査の方法(1)	12. 既存の調査の検討(2)																				
5. 社会調査の方法(2)	13. 仮説の構成(1)																				
6. 社会調査の方法(3)	14. 仮説の構成(2)																				
7. 社会調査の方法(4)	15. 調査対象の選定																				
8. 社会調査の方法(5)																					
◇ 成績評価の方法	課題レポート 50%、授業での報告・発言 50%																				
◇ 教科書・参考書	教科書・参考書は教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	グループ単位で調査の全過程の作業を行うことを踏まえ、グループ内で各段階での課題を検討し、必要な準備を行う。																				
その他：受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。 オフィスアワー：金曜 12時から13時 (メールにて要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
社 会 学 調 査 実 習 II S o c i o l o g y (R e s e a r c h) II	2	教授 下 夷 美 幸	2 学 期	金	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHU-SOC626J																				
◆ 授業題目	社会調査実習 II (Social Research (Field Work) II)																				
◆ 目的・概要	社会調査の実践力を養うことを目的とする。授業では、社会調査の技法について理解を深めるとともに、前期の社会学実習で行った準備作業を踏まえて調査を実施する。その過程をつうじて調査と分析の技法を習得する。																				
◆ 到達目標	(1)インタビューによる調査の技法を習得する。 (2)設定したテーマに関して社会調査を実施し、その分析を行う力を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 調査の企画</td> <td>9. 調査結果の処理(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 調査項目の設定(1)</td> <td>10. 調査結果の分析(1)</td> </tr> <tr> <td>3. 調査項目の設定(2)</td> <td>11. 調査結果の分析(2)</td> </tr> <tr> <td>4. インタビューの技法(1)</td> <td>12. 調査結果の分析(3)</td> </tr> <tr> <td>5. インタビューの技法(2)</td> <td>13. 調査報告書の企画</td> </tr> <tr> <td>6. インタビューの実施(1)</td> <td>14. 調査報告書の作成</td> </tr> <tr> <td>7. インタビューの実施(2)</td> <td>15. 調査報告<口頭発表></td> </tr> <tr> <td>8. 調査結果の処理(1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 調査の企画	9. 調査結果の処理(2)	2. 調査項目の設定(1)	10. 調査結果の分析(1)	3. 調査項目の設定(2)	11. 調査結果の分析(2)	4. インタビューの技法(1)	12. 調査結果の分析(3)	5. インタビューの技法(2)	13. 調査報告書の企画	6. インタビューの実施(1)	14. 調査報告書の作成	7. インタビューの実施(2)	15. 調査報告<口頭発表>	8. 調査結果の処理(1)	
1. 調査の企画	9. 調査結果の処理(2)																				
2. 調査項目の設定(1)	10. 調査結果の分析(1)																				
3. 調査項目の設定(2)	11. 調査結果の分析(2)																				
4. インタビューの技法(1)	12. 調査結果の分析(3)																				
5. インタビューの技法(2)	13. 調査報告書の企画																				
6. インタビューの実施(1)	14. 調査報告書の作成																				
7. インタビューの実施(2)	15. 調査報告<口頭発表>																				
8. 調査結果の処理(1)																					
◇ 成績評価の方法	課題レポート 50%、授業での報告・発言 50%																				
◇ 教科書・参考書	教科書・参考書は教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	グループ単位で調査の全過程の作業を行うことを踏まえ、グループ内で各段階での課題を検討し、必要な準備を行う。																				
その他：受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。 オフィスアワー：金曜 12時から13時 (メールにて要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																		
数 理 行 動 科 学 研 究 演 習 I Mathematical Behavioral Science (Advanced Seminar) I	2	教授 佐藤嘉倫	1 学期	水	3																		
◆ 科目ナンバリング	LHU-OSO603J																						
◆ 授業題目	社会秩序の自己組織化とエージェント・ベースト・モデル (Self-organization of Social Order and Agent-based Models)																						
◆ 目的・概要	人々が自発的に秩序（協力行動など）を生み出している社会現象がある。本演習では、教科書を輪読して、これらの現象を分析する方法を理解する。																						
◆ 到達目標	進化ゲーム理論やエージェント・ベースト・モデルが社会学にいかなる貢献をするのか理解する。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション (1)</td> <td>10. 進化ゲーム理論 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. イントロダクション (2)</td> <td>11. 計算社会学入門 (1)</td> </tr> <tr> <td>3. 社会秩序概念の検討 (1)</td> <td>12. 計算社会学入門 (2)</td> </tr> <tr> <td>4. 社会秩序概念の検討 (2)</td> <td>13. エージェント・ベースト・モデル (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 自己組織性の理論的検討 (1)</td> <td>14. エージェント・ベースト・モデル (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 自己組織性の理論的検討 (2)</td> <td>15. ここまで演習で取り上げたトピックを再検討し、エージェント・ベースト・モデルによる社会秩序の自己組織メカニズムの分析について探究する。</td> </tr> <tr> <td>7. 自己組織性の経験的分析 (1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 自己組織性の経験的分析 (2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 進化ゲーム理論 (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション (1)	10. 進化ゲーム理論 (2)	2. イントロダクション (2)	11. 計算社会学入門 (1)	3. 社会秩序概念の検討 (1)	12. 計算社会学入門 (2)	4. 社会秩序概念の検討 (2)	13. エージェント・ベースト・モデル (1)	5. 自己組織性の理論的検討 (1)	14. エージェント・ベースト・モデル (2)	6. 自己組織性の理論的検討 (2)	15. ここまで演習で取り上げたトピックを再検討し、エージェント・ベースト・モデルによる社会秩序の自己組織メカニズムの分析について探究する。	7. 自己組織性の経験的分析 (1)		8. 自己組織性の経験的分析 (2)		9. 進化ゲーム理論 (1)	
1. イントロダクション (1)	10. 進化ゲーム理論 (2)																						
2. イントロダクション (2)	11. 計算社会学入門 (1)																						
3. 社会秩序概念の検討 (1)	12. 計算社会学入門 (2)																						
4. 社会秩序概念の検討 (2)	13. エージェント・ベースト・モデル (1)																						
5. 自己組織性の理論的検討 (1)	14. エージェント・ベースト・モデル (2)																						
6. 自己組織性の理論的検討 (2)	15. ここまで演習で取り上げたトピックを再検討し、エージェント・ベースト・モデルによる社会秩序の自己組織メカニズムの分析について探究する。																						
7. 自己組織性の経験的分析 (1)																							
8. 自己組織性の経験的分析 (2)																							
9. 進化ゲーム理論 (1)																							
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [50%] ・ (○) 出席 [50%]																						
◇ 教科書・参考書	開講時に指示する。																						
◇ 授業時間外学習	演習中の議論に積極的に参加できるように、事前に関連文献に目を通すなど予習をしておくこと。																						
その他：	オフィスアワー：水曜日 第5講時（事前に予約すること） 第2学期の数理行動科学研究演習Ⅱと併せて参加すること																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
数 理 行 動 科 学 研 究 演 習 II Mathematical Behavioral Science (Advanced Seminar) II	2	教授 佐藤嘉倫	2 学期	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHU-OSO604J																				
◆ 授業題目	エージェント・ベースト・モデルによる自己組織性の解明 (Analysis of Self-organization by Agent-based Models)																				
◆ 目的・概要	エージェント・ベースト・モデルの手法を修得し、自分で自己組織性を解明する。																				
◆ 到達目標	前期の議論を踏まえて、プログラミング言語 Python を用いて実際にエージェント・ベースト・モデルを構築して、社会の自己組織性を自分で解明できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. グループ別の進行状況報告と検討 (4)</td> </tr> <tr> <td>2. プログラミング入門 (1)</td> <td>10. グループ別の進行状況報告と検討 (5)</td> </tr> <tr> <td>3. プログラミング入門 (2)</td> <td>11. グループ別の進行状況報告と検討 (6)</td> </tr> <tr> <td>4. プログラミング入門 (3)</td> <td>12. グループ別の進行状況報告と検討 (7)</td> </tr> <tr> <td>5. 研究テーマの決定とグループ分け</td> <td>13. グループ別の進行状況報告と検討 (8)</td> </tr> <tr> <td>6. グループ別の進行状況報告と検討 (1)</td> <td>14. グループ別の進行状況報告と検討 (9)</td> </tr> <tr> <td>7. グループ別の進行状況報告と検討 (2)</td> <td>15. 各グループによる最終的な研究報告</td> </tr> <tr> <td>8. グループ別の進行状況報告と検討 (3)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. グループ別の進行状況報告と検討 (4)	2. プログラミング入門 (1)	10. グループ別の進行状況報告と検討 (5)	3. プログラミング入門 (2)	11. グループ別の進行状況報告と検討 (6)	4. プログラミング入門 (3)	12. グループ別の進行状況報告と検討 (7)	5. 研究テーマの決定とグループ分け	13. グループ別の進行状況報告と検討 (8)	6. グループ別の進行状況報告と検討 (1)	14. グループ別の進行状況報告と検討 (9)	7. グループ別の進行状況報告と検討 (2)	15. 各グループによる最終的な研究報告	8. グループ別の進行状況報告と検討 (3)	
1. イントロダクション	9. グループ別の進行状況報告と検討 (4)																				
2. プログラミング入門 (1)	10. グループ別の進行状況報告と検討 (5)																				
3. プログラミング入門 (2)	11. グループ別の進行状況報告と検討 (6)																				
4. プログラミング入門 (3)	12. グループ別の進行状況報告と検討 (7)																				
5. 研究テーマの決定とグループ分け	13. グループ別の進行状況報告と検討 (8)																				
6. グループ別の進行状況報告と検討 (1)	14. グループ別の進行状況報告と検討 (9)																				
7. グループ別の進行状況報告と検討 (2)	15. 各グループによる最終的な研究報告																				
8. グループ別の進行状況報告と検討 (3)																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [50%] ・ (○) 出席 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	開講時に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	グループに分かれてプログラミングを行うので、積極的にグループワークに参加すること。																				
その他：	オフィスアワー：水曜日 第5限（事前に予約すること） 第1学期の数理行動科学研究演習Ⅰと併せて参加すること																				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
数 理 行 動 科 学 研 究 演 習 Ⅲ Mathematical Behavioral Science (Advanced Seminar) Ⅲ	2	教 授 浜 田 宏	1 学 期	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHU-OSO605J																				
◆ 授業題目	ベイズアプローチによる社会学の理論と実証 (Sociological Theory and Bayesian Statistics)																				
◆ 目的・概要	1) 社会現象を数理モデルとデータを使って説明する方法の基礎を学ぶ。 2) 興味深い問題をどうやって定式化するかを演習を通して学ぶ。見本となる研究を参考にして「問題を構成する力」の基礎を涵養する。																				
◆ 到達目標	Stanを使ったベイズ統計の分析手法を習得する 現象の数学的表現を習得する 日常生活の中に潜む数学的構造を見抜く観察力を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション 分布生成モデル</td> <td>9. Stanによる分析 3 階層モデル</td> </tr> <tr> <td>2. ベイズ統計モデルリング 1 ベイズ推定とMCMC</td> <td>10. Stanによる分析 4 階層モデル</td> </tr> <tr> <td>3. ベイズ統計モデルリング 2 確率統計のおさらい</td> <td>11. Stanによる分析 5 分布生成モデルとの接合</td> </tr> <tr> <td>4. ベイズ統計モデルリング 3 RとStanの導入</td> <td>12. Stanによる分析 6 分布生成モデルとの接合</td> </tr> <tr> <td>5. ベイズ統計モデルリング 4 RとStanの導入</td> <td>13. Stanによる分析 7</td> </tr> <tr> <td>6. ベイズ統計モデルリング 5</td> <td>14. Stanによる分析 8</td> </tr> <tr> <td>7. Stanによる分析 1 モデル式の書き方</td> <td>15. まとめと総括</td> </tr> <tr> <td>8. Stanによる分析 2 帰属</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション 分布生成モデル	9. Stanによる分析 3 階層モデル	2. ベイズ統計モデルリング 1 ベイズ推定とMCMC	10. Stanによる分析 4 階層モデル	3. ベイズ統計モデルリング 2 確率統計のおさらい	11. Stanによる分析 5 分布生成モデルとの接合	4. ベイズ統計モデルリング 3 RとStanの導入	12. Stanによる分析 6 分布生成モデルとの接合	5. ベイズ統計モデルリング 4 RとStanの導入	13. Stanによる分析 7	6. ベイズ統計モデルリング 5	14. Stanによる分析 8	7. Stanによる分析 1 モデル式の書き方	15. まとめと総括	8. Stanによる分析 2 帰属	
1. イントロダクション 分布生成モデル	9. Stanによる分析 3 階層モデル																				
2. ベイズ統計モデルリング 1 ベイズ推定とMCMC	10. Stanによる分析 4 階層モデル																				
3. ベイズ統計モデルリング 2 確率統計のおさらい	11. Stanによる分析 5 分布生成モデルとの接合																				
4. ベイズ統計モデルリング 3 RとStanの導入	12. Stanによる分析 6 分布生成モデルとの接合																				
5. ベイズ統計モデルリング 4 RとStanの導入	13. Stanによる分析 7																				
6. ベイズ統計モデルリング 5	14. Stanによる分析 8																				
7. Stanによる分析 1 モデル式の書き方	15. まとめと総括																				
8. Stanによる分析 2 帰属																					
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]、出席 [30%]、 その他 (授業時間内での報告や質問と、報告・レポートに至るまでの過程) [20%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書：松浦健太郎、2016、『StanとRで統計モデリング』共立出版 参考書：久保拓哉、2012、『データ解析のための統計モデルリング入門』岩波書店。 Gelman et al. 2013, Bayesian Data Analysis, Third Edition, CRC Press.																				
◇ 授業時間外学習	毎週、テキストの該当範囲を事前に読んでくること。																				
その他：本演習ではRとStanを使用するので、実行環境を整えたノートPCを毎回持参する事が推奨される。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
数 理 行 動 科 学 研 究 演 習 Ⅳ Mathematical Behavioral Science (Advanced Seminar) Ⅳ	2	教 授 浜 田 宏	2 学 期	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHU-OSO606J				
◆ 授業題目	計算・数理社会学 (Computational and Mathematical Sociology)				
◆ 目的・概要	コンピュータによる数値計算や数理モデルの解析をつうじて、人間行動や社会現象をモデル化する手法を習得する。				
◆ 到達目標	1. プログラムの基礎を修得する。 2. 行動科学理論をプログラム・コードで表現する能力を習得する。				
◆ 授業内容・方法	1. 下記の内容を15回に分けて学習する プログラムの基礎 パーセプトロン ニューラルネットワーク ニューラルネットワークの学習 誤差逆伝播法 学習 たたみ込みニューラルネットワーク ディープラーニング 時系列分析 因果分析				
◇ 成績評価の方法	授業内課題 [40%]、出席 [30%]、期末課題 [30%]				
◇ 教科書・参考書	教科書：斎藤康毅、2016、『ゼロから作るDeep Learning』オライリー・ジャパン。 参考文献：奥村晴彦、1991、『C言語による最新アルゴリズム事典』技術評論社。 星野・田中『Rによる実証分析』オーム社				
◇ 授業時間外学習	教科書記載のサンプルコードを使って、アルゴリズムが正しく表現されているかを確認する事				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
計 量 行 動 科 学 特 論 I Quantitative Behavioral Science (Advanced Lecture) I	2	非常勤 講師 筒 井 淳 也	集 中 (1 学 期)		
◆ 科目ナンバリング	LHU-OSO607J				
◆ 授業題目	計量家族社会学 (Quantitative Research on Family Sociology)				
◆ 目的・概要	資本主義経済先進国が経済成長を経験するなかで、かつての家父長制的家族は近代家族に変貌しました。しかし、経済成長の鈍化や脱工業化という社会変動の中で、家族のかたちは再び変化しつつあります。本講義では、社会変動の中の家族に対して主に計量的アプローチを通じて理解しようとする計量家族社会学の考え方を紹介し、現代家族の現状とこれからについて、より深く洞察を及ぼすことを目的としています。同時に、家族生活を取り巻く仕事や公的部門のあり方も視野に入れ、社会の姿をトータルに捉える視点についても掘り下げたいと思います。				
◆ 到達目標	家族について計量的に記述・分析しようとする際に知っておくべき理論や実証方法についての基本的知識が身につきます。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族の計量研究の特性と位置づけ 2. 計量研究とは何か：記述と分析の関係について 3. 人口問題 (1)：人口転換、出生・死亡統計 4. 人口問題 (2)：世帯と家族の関係 5. 家族の変化と社会構造 (1)：家父長制、性別分業、共働き 6. 家族の変化と社会構造 (2)：配偶者選択理論、同類婚研究 7. 家族の変化と社会構造 (3)：結婚タイミングの理論 8. 家族の変化と社会構造 (4)：家族規範 9. 家族とネットワーク (1)：ポット仮説とそのインプリケーション 10. 家族とネットワーク (2)：同棲、シェアなどの多様な絆。 11. 無償労働(1)：家事分担研究。 12. 無償労働(2)：家事労働者の研究。 13. ケア労働：ケアの倫理とジェンダー家族 14. 生活保障と家族：日本型福祉社会 15. 家族のこれから 				
◇ 成績評価の方法	期末レポートにて行います。課題は、授業で取り扱ったトピックのひとつを取り上げ、それについて計量研究上の課題を明らかにする、というものです。詳細は授業中にお知らせします。				
◇ 教科書・参考書	筒井淳也、2016、『家族と結婚のこれから』光文社新書				
◇ 授業時間外学習	授業で紹介した論文を実際に読んで、理解を深めることが重要です。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
計 量 行 動 科 学 特 論 II Quantitative Behavioral Science (Advanced Lecture) II	2	教授 佐 藤 嘉 倫	2 学 期	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHU-OSO608J				
◆ 授業題目	格差・不平等・リスクの社会学 (Sociology of Disparity, Inequality, and Risk)				
◆ 目的・概要	教科書に収録されている論文の中から講義テーマに合うものを取り上げて、参加者同士の議論によって理解を深めていく。				
◆ 到達目標	現代社会の格差と不平等の問題を社会階層論の視点から理解することを目指す。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. ひとり親家庭と教育達成 (教科書 16章) 3. 教育達成過程の階層差 (教科書 17章) 4. 学校から職業への移行 (1) (教科書 5章) 5. 学校から職業への移行 (2) (教科書 5章) 6. 若年労働市場 (1) (教科書 4章、6章) 7. 若年労働市場 (2) (教科書 4章、6章) 8. 転職 (1) (教科書 1章、2章、3章) 9. 転職 (2) (教科書 1章、2章、3章) 10. 女性の就労 (1) (教科書 8章、11章) 11. 女性の就労 (2) (教科書 8章、11章) 12. ライフイベント (教科書 9章、10章) 13. 高齢者の格差 (教科書 13章) 14. ライフスタイル (教科書 14章、15章) 15. 今までの講義で取り上げたテーマを振り返り、現代日本における格差、不平等、リスクの問題を総合的に検討する。 				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) リポート [60%]・(○) 出席 [40%]				
◇ 教科書・参考書	教科書：佐藤嘉倫・尾嶋史章 (編)『格差と多様性』(現代の階層社会 第1巻)、東京大学出版会。 参考書：石田浩・近藤博之・中尾啓子 (編)『趨勢と比較』(現代の階層社会 第2巻)、東京大学出版会。 斎藤友里子・三隅一人 (編)『流動化の中の社会意識』(現代の階層社会 第3巻)、東京大学出版会。				
◇ 授業時間外学習	教科書の該当箇所を講義の前に読んでおくこと。				
その他：オフィスアワー：水曜日 第5講時 (事前に予約すること)					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
計 量 行 動 科 学 研 究 演 習 I Quantitative Behavioral Science (Advanced Seminar) I	2	教授 木 村 邦 博	1 学 期	月	4
◆ 科目ナンバリング	LHU-OSO609J				
◆ 授業題目	階層帰属意識の計量分析 (Class Identification)				
◆ 目的・概要	階層帰属意識の計量分析は、社会階層研究とりわけ狭い意味での階層意識の研究において、中心的な位置を占めてきた。この分野の国際的動向を学ぶことを通して、今後の展開の可能性を考え、行動科学的思考力や計量分析の方法を習得する。				
◆ 到達目標	(1)階層帰属意識に関する行動科学的研究の動向を把握し、今後の展開を展望する。 (2)学術的な英語文献を読む力をつけるとともに、行動科学的な思考力を養う。 (3)多変量解析を用いた計量的研究を理解し、自分でも実施する力を身につける。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業計画の説明、研究動向の概観 2. Velsor and Beeghley (1979)：内容理解 3. Velsor and Beeghley (1979)：方法論的検討 (重回帰分析) 4. Felson and Knoke (1974)：内容理解 5. Felson and Knoke (1974)：方法論的検討 (重回帰分析とパス解析) 6. Erikson and Goldthorpe (1992)：内容理解 7. Erikson and Goldthorpe (1992)：方法論的検討 (ログリニアモデル) 8. Davis and Robinson (1998)：内容理解 9. Davis and Robinson (1998)：方法論的検討 (ロジスティック回帰分析) 10. Baxter (1994)：内容理解 11. Baxter (1994)：方法論的検討 (ロジスティック回帰分析におけるモデル比較) 12. Yamaguchi and Wang (2002)：内容理解 13. Yamaguchi and Wang (2002)：方法論的検討 (重みづけパラメータを導入したロジスティック回帰分析) 14. Lindemann and Saar (2014)：内容理解 15. Lindemann and Saar (2014)：方法論的検討 (マルチレベル分析) 				
◇ 成績評価の方法	期末レポート [50%]、平常点 (授業時間内での報告・質問の内容や報告・レポートに至るまでの過程) [50%]				
◇ 教科書・参考書	American Sociological Review, American Journal of Sociology, Journal of Marriage and Familyなどの学術誌に掲載された論文で指定されたものを、参加者各自が「電子ジャーナル」からダウンロードする。				
◇ 授業時間外学習	(1)演習の時間に取り上げる文献を事前に読んで検討しておく。 (2)担当の文献に関する報告の準備をする。 (3)関連文献を検索して読み、あわせて検討する。				
その他：専門社会調査士資格認定標準科目Iに対応。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
計 量 行 動 科 学 研 究 演 習 II Quantitative Behavioral Science (Advanced Seminar) II	2	教授 木 村 邦 博	2 学 期	月	4
◆ 科目ナンバリング	LHU-OSO610J				
◆ 授業題目	社会調査法への認知科学のアプローチ (Cognitive Approaches to Survey Methodology)				
◆ 目的・概要	1980年代頃から、認知科学・認知心理学の方法や成果をもとに社会調査法に反省・検討を加えようという試みが行われるようになってきた。そのひとつの流れが、CASM (Cognitive Aspects of Survey Methodology) と呼ばれる研究プロジェクトである。このプロジェクトの研究動向 (先駆的・古典的研究も含む) についてレビューするとともに、そこでの知見を社会調査の現場 (企画・準備・実査から分析や成果報告に至るまでのプロセス) に実践的に生かす道を探求する。あわせて、センシティブな質問などを用いる場合の倫理的問題とそれへの対処法などについても考える。				
◆ 到達目標	認知科学等の知見を社会調査の企画・準備・実査・分析・報告・倫理向上に活かす。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業計画の説明 2. 世帯調査におけるカバレッジ誤差 (Martin 1999) 3. コーディングのエラー (Collins and Courtenay 1985) 4. 事実質問における不明確な言葉 (Fowler 1992) 5. 出来事の想起 (Neter, et al. 1964) 6. 事実質問における回答選択肢 (Schwarz, et al. 1985) 7. センシティブな質問 (Tourangeau, et al. 1996) 8. 無回答・回答拒否 (Singer 1984) 9. 質問順序効果 (Schwarz, et al. 1991) 10. 評定尺度におけるラベルの影響 (O'Muircheartaigh, et al. 1995) 11. 評定尺度における方向性と強度 (Krosnick and Berent 1993) 12. プリテストの新手法 (Oksenberg, et al. 1991) 13. 調査員効果 (Schuman and Converse 1971) 14. 調査員変動 (Kish 1962) 15. インフォームドコンセントの方法 (Singer 1978) 				
◇ 成績評価の方法	期末レポート [50%]、平常点 (授業時間内での報告・質問の内容や報告・レポートに至るまでの過程) [50%]				
◇ 教科書・参考書	Public Opinion Quarterly, Journal of the American Statistical Association, Journal of Official Statistics, American Sociological Reviewなどの学術誌に掲載された論文で指定されたものを、参加者各自が「電子ジャーナル」からダウンロードする。				
◇ 授業時間外学習	(1)演習の時間に取り上げる文献を事前に読んで検討しておく。 (2)担当の文献に関する報告の準備をする。 (3)関連文献を検索して読み、あわせて検討する。				
その他：専門社会調査士資格認定科目IIに対応。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
計 量 行 動 科 学 研 究 演 習 Ⅲ Quantitative Behavioral Science (Advanced Seminar) Ⅲ	2	准教授 永吉希久子	1 学期	木	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHU-OSO611J 移動と階層 (International Mobility and Social Stratification) 国境を越えた移動は、人々の階層移動とどのように関連するのだろうか。欧米を中心に、移民の地位達成についての理論が発展している一方、日本ではまだ研究は途上にある。この授業では、日本から/日本への移動と社会階層の関連について理解を深めることを目的としている。 具体的には、移動と階層の関連についての国内外の文献講読を行う。授業の前半7回目までは、移動と階層の関連についての理論についての文献を読み、後半の8回で日本の事例についての文献を読む。 各授業では、授業の論文の内容について確認したのち、受講生同士でディスカッションを行い、理解を深める。				
◆ 到達目標	①国境を越えた人の移動と階層の関連についての主要な理論を理解し、説明できるようになる。 ②日本への/からの移民の階層的地位とそれが形成されるメカニズムについて、理論にもとづく自分なりの意見が持てるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 移民と階層についての理論 ① : Segmented Assimilation Theory 3. 移民と階層についての理論 ② : 移民の地位と社会制度 4. 移民と階層についての理論 ③ : 世界都市論 5. 移民と階層についての理論 ④ : エスニック・ニッチの機能 6. 移民と階層についての理論 ⑤ : 移民の女性化と階層 7. 移民と階層についての理論 ⑥ : トランスナショナルリズム 8. 日本への移民と階層 ① : 日系ブラジル人の地位達成 9. 日本への移民と階層 ② : 技能実習制度と階層 10. 日本への移民と階層 ③ : 高技能移民と階層 11. 日本への移民と階層 ④ : 在日コリアンの地位達成 12. 日本からの移民と階層 ① : 日本女性の移動 13. 日本からの移民と階層 ② : 日本の労働市場と若者の移動 14. 日本からの移民と階層 ③ : 文化移民 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	毎回のワークシート (40%)、最終レポート (60%)				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する				
◇ 授業時間外学習	テキストを事前に読み、自分なりの疑問点や批判点を考えてくることが求められる。				
その他 :					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
計 量 行 動 科 学 研 究 演 習 Ⅳ Quantitative Behavioral Science (Advanced Seminar) Ⅳ	2	准教授 永吉希久子	1 学期	金	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHU-OSO612J 政治意識論 (Political Psychology) 社会意識研究における一つの大きな研究分野として、政治に関する意識研究が挙げられる。民主主義にとって人々の世論は重要であるため、世論がどのように形成されるのかということについて長年研究が進められてきた。この授業では、政治参加や政治意識に関する諸理論を、文献講読を通じて学習する。 それにより、右派政党の躍進など、近年生じている政治的現象がどのように生じたのかを考えていくことを目的としている。 授業では前半でテキストの内容について確認したうえで、受講生同士のディスカッションを通じて理解を深める。				
◆ 到達目標	①政治心理学の分野の諸理論を理解し、説明できるようになる。 ②近年国内外で生じている政治的現象について、政治心理学の観点から説明できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 政治的社会化 3. 政治意識と価値 4. 政治意識と合理的選択 5. 政治意識と社会階層 6. 政治意識とメディア ① 7. 政治意識とメディア ② 8. 政治意識とインターネット 9. 政治意識と選挙制度 ① 10. 政治意識と選挙制度 ② 11. 政治的信頼と政治への無関心 ① 12. 政治的信頼と政治への無関心 ② 13. ポピュリズムと政治意識 ① 14. ポピュリズムと政治意識 ② 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	授業の課題 (40%)、最終レポート (60%)				
◇ 教科書・参考書	初回の授業で指示する。				
◇ 授業時間外学習	テキストを事前に読み、課題を行ってることが求められる。 国内外のニュースに触れ、政治的現象についての知識を身に付ける。				
その他 :					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
計 量 行 動 科 学 研 究 演 習 IV Quantitative Behavioral Science (Advanced Seminar) IV	2	准教授 永 吉 希久子	2学期	金	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHU-OSO612J 実践計量社会学 (Quantitative Sociology) 計量的な社会学研究を行うためには、理論についての理解に加え、理論を計量分析可能な形で検証するための操作化の手続きや分析方法についての理解が非常に重要になる。この授業では、計量的な手法で行われた研究論文を講読することにより、そこでどのような操作化が行われているのかを学ぶ。また、そこで行われている分析をレプリケートすることで、実際にデータを分析するためのデータのハンドリングや、分析手法の習得を行う。これによって、自分自身で計量的な手法を用いた論文を書くための実践的な知識を身に付けることが、この授業の目的である。 授業は分析方法の説明の回、文献内容の理解の回、レプリケートの回に分けられる。レプリケートは無料の統計ソフトRを用いて行う。Rの使い方については第二回の授業で説明するため、事前の知識は必要としない。				
◆ 到達目標	①社会学理論を計量的に分析する際の、適切な操作化ができるようになる。 ②計量社会学で用いられる基本的・発展的な分析手法を習得し、自分で分析ができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. Rの使い方の基礎 3. 家族と規範：岩井紀子・保田時男、2008. 「世代間援助における夫側と妻側のバランスについての分析」『家族社会学研究』20 (2): 34-47. 4. 重回帰分析を用いたレプリケート 5. 階層帰属意識：数土直紀、2012. 「未婚者の階層意識」『理論と方法』27 (2): 225-242. 6. 多項ロジスティック回帰分析を用いたレプリケート 7. マルチレベル分析【方法】 8. トラッキング：多喜弘文、2011. 「日本の高校トラックと社会階層の関連構造」『ソシオロジ』55 (3): 37-52. 9. マルチレベル分析を用いたレプリケート 10. 固定効果モデル【方法】 11. 市民活動参加：三谷はるよ、2014. 「『市民活動参加者の脱階層化』命題の検証」『社会学評論』65 (1): 32-46. 12. 固定効果モデルを用いたレプリケート 13. イベントヒストリー分析【方法】 14. 職業移動：石田賢示、2014. 「学校から職業への移行における『制度的連結』効果の再検討」『教育社会学研究』94: 325-44. 15. イベントヒストリー分析を用いたレプリケート 				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	授業での課題 (40%)、最終レポート (60%) 授業予定参照。参考文献は授業中に適宜指示する。 テキストを事前に読み、課題を行うことが求められる。 また、用いた分析方法についての復習を行うことが、最終レポート作成に必要なことになる。				
その他：重回帰分析や多項ロジスティック回帰の結果が読めることを前提としているので、これらの手法について未習の場合は自分で学ぶなどしてから参加してほしい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
計 量 行 動 科 学 研 究 演 習 V Quantitative Behavioral Science (Advanced Seminar) V	2	教授 助教 佐 藤 嘉 倫 松 崎 瑠 美	集 中 (1学期)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHU-OSO613E リスクと社会的不平等 (Risk and Social Inequality) 6月か7月に5日間続けてスタンフォード大学においてスタンフォード大学貧困と不平等研究センターの大学学生と共に研究報告をする。 4月11日 午前10時30分～午後12時に文学部棟 621演習室において説明会・選考会を行うので、参加希望者は必ず出席すること。				
◆ 到達目標	現代社会におけるリスク、安全、安心、不平等の問題を多面的に理解できる能力を身につけることを目的とする。 リスク、安全、安心、不平等に関する研究を英語で報告する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 参加学生による報告 (1) 3. 参加学生による報告 (2) 4. 参加学生による報告 (3) 5. 参加学生による報告 (4) 6. 参加学生による報告 (5) 7. 参加学生による報告 (6) 8. 参加学生による報告 (7) 9. 参加学生による報告 (8) 10. 参加学生による報告 (9) 11. 参加学生による報告 (10) 12. 参加学生による報告 (11) 13. 参加学生による報告 (12) 14. 参加学生による報告 (13) 15. これまでの報告を振り返り、総括的な議論をする。 				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	() 筆記試験 [%]・(○) リポート [30%]・(○) 出席 [70%] 特にない。 自分の報告の準備をしっかりとすること。 また他の人の報告に対しても積極的にコメントや質問ができるように準備しておくこと。				
その他：オフィスアワー：水曜日 第5講時 (事前に予約すること) グローバル安全学トップリーダー育成プログラムのCラボ研修 (人文社会科学基盤研修) を兼ねる。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
社 会 行 動 科 学 特 論 I Social Behavioral Science (Advanced Lecture) I	2	教 授 佐 藤 嘉 倫	1 学 期	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHU-OSO614J				
◆ 授業題目	リスクと防災の社会学 (Sociology of Risk and Disaster Prevention)				
◆ 目的・概要	教科書に取られている論文や関連論文を踏まえて次のようなテーマなどを扱う予定である。 ・社会関係資本と防災 ・消防団のあり方 ・防災とコミュニティ ・災害ボランティア				
◆ 到達目標	自然災害のリスクを低減するためには、自然科学や工学だけでなく人間社会を対象とした社会科学の視点も必要となる。本講義では、社会科学とりわけ社会学の理論や方法論を用いて自然災害のリスクを低減し防災を実現する方策を検討する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 本講義の概略を解説する。 2. 教科書 (1) 第2章を題材に防災をめぐるローカル・ノレッジのあり方を検討する。 3. 教科書 (1) 第3章を題材に防災コミュニティと町内会の検討をする。 4. 教科書 (1) 第4章を題材に都市部町内会における東日本大震災への対応に対する理解を深める。 5. 教科書 (1) 第5章を題材に災害ボランティアと支えあいのしくみづくりを分析する。 6. 教科書 (1) 第6章を題材に被災者の生活再建の社会過程に関する理解を深める。 7. 教科書 (1) 第7章を題材に災害弱者の支援と自立の問題を検討する。 8. 教科書 (1) 第9章を題材に防災ガバナンスの可能性と課題を議論する。 9. ここまで講義で取り上げてきたテーマを全体的に考察し、防災のための地域社会づくりについて議論する。 10. 教科書 (2) 第1章を題材に社会関係資本概念の初歩的な理解をする。 11. 教科書 (2) 第2章を題材に社会科学における社会関係資本概念の検討をする。 12. 前回到続いて、教科書 (2) 第2章を題材に社会科学における社会関係資本概念をさらに深く検討する。 13. 教科書 (2) 第3章を題材に関東大震災における社会関係資本と復興との関係を検討する。 14. 教科書 (2) 第4章を題材に阪神淡路大震災における社会関係資本と復興との関係を検討する。 15. 今まで講義で取り上げてきたテーマを振り返って、防災のための社会関係資本構築に向けた方策を検討する。 				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) レポート [60%] ・ (○) 出席 [40%]				
◇ 教科書・参考書	(1)吉原直樹 (編)、2012、『防災の社会学——防災コミュニティの社会設計に向けて』(第2版)、東信堂。 (2)ダニエル・アルドリッチ、2015、『災害復興におけるソーシャル・キャピタルの役割とは何か：地域再建とレジリエンスの構築』、ミネルヴァ書房。 その他の関連論文については適宜講義中に紹介する。				
◇ 授業時間外学習	教科書の該当箇所や関連文献を授業前に読んでおくこと。				
その他： オフィスアワー：水曜日 第5講時 (事前に予約すること) リーディング大学院「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」の授業科目を兼ねる。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
社 会 行 動 科 学 特 論 II Social Behavioral Science (Advanced Lecture) II	2	准 教 授 永 吉 希 久 子	2 学 期	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHU-OSO615J				
◆ 授業題目	多文化共生論 (Multicultural Society and Its Problems)				
◆ 目的・概要	国境を越えた人の移動は、そうした人々を受け入れた社会に影響を与える。その一方で、社会のあり方によって、国境を越えて移動してきた人の生活状況は異なる。この講義では、多文化社会における問題を把握し、解決策を考えるために、日本における移民の生活状況 (仕事や学校、地域生活、家庭生活など) と、それに対する社会制度の影響について理解することを目的としている。 授業は講義形式で行うが、映像資料の利用や、受講者間でのディスカッションを通して、授業内容を自分にひきつけつつ考える時間を設ける。各回の具体的な内容は、「授業予定」に記載の通り。				
◆ 到達目標	1) 日本における移民の生活状況について、データにもとづいて具体的に述べられるようになる。 2) 移民の生活状況に対する社会制度の影響について説明できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 人はなぜ移動するのか 3. 移民受け入れ制度の変遷 4. 労働者としての移民と労働市場 ① 5. 労働者としての移民と労働市場 ② 6. ライフスタイル移民 7. 移民の女性化 ① 8. 移民の女性化 ② 9. 移民の子どもの教育 ① 10. 移民の子どもの教育 ② 11. 移民にとっての医療／福祉問題 12. 移民の統合をめぐる理論と政策 13. 反移民感情の高まりと政策への影響 14. 移民と地域社会 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	毎回の授業でのコメントシート (30%)、最終レポート (70%)				
◇ 教科書・参考書	特に指定しない。参考書については授業内で適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	国内外における移民に関するニュースに触れ、知識を増やしておく。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
社 会 行 動 科 学 特 論 I Social Behavioral Science (Advanced Lecture) I	2	非常勤 講師 アンジー アレハンドロ	1 学期	木	3																
◆ 科目ナンバリング	LHU-OSO614E																				
◆ 授業題目	A Sociological Primer on the United States (A Sociological Primer on the United States)																				
◆ 目的・概要	This course offers an analysis of contemporary U.S. society and culture through a sociological lens. The course will use a variety of sociological theories as a way of understanding complex social, political, and economic phenomena. Throughout the semester, we will concentrate on topics such as culture, "race," gender, economic inequality, religion, social deviance, and political sociology within the context of U.S. society.																				
◆ 到達目標	Sociologist Peter L. Berger saw sociology as a debunking perspective—that is, looking at things differently from the ways in which people typically see the world. This is one of the major objectives for this class, where combining and developing critical thinking skills are applied to the understanding of major themes in American society. The class will also seek that students reflect upon their country's social issues, society and culture using a comparative approach. Student participation is an important component of the class, and students are expected to demonstrate mastery of the core issues through class discussions, essays and group presentations.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Introduction to the Class: Class expectations, syllabus discussion, and personal introductions</td> <td>8. Sex and Gender (Part II)</td> </tr> <tr> <td>2. Introduction : The US in Numbers</td> <td>9. The Changing Family</td> </tr> <tr> <td>3. Class Structure and Social Inequality in the US (part I)</td> <td>10. Religion in America (Part I)</td> </tr> <tr> <td>4. Class Structure and Social Inequality in the US (Part II)</td> <td>11. Religion in America (Part II)</td> </tr> <tr> <td>5. Race and Ethnicity in The US (Part I)</td> <td>12. The US Criminal System and Incarceration (Part I)</td> </tr> <tr> <td>6. Race and Ethnicity in The US (Part II)</td> <td>13. The US Criminal System and Incarceration (Part II)</td> </tr> <tr> <td>7. Sex and Gender as Social Constructions</td> <td>14. Class Presentations</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. Class Presentations</td> </tr> </table>					1. Introduction to the Class: Class expectations, syllabus discussion, and personal introductions	8. Sex and Gender (Part II)	2. Introduction : The US in Numbers	9. The Changing Family	3. Class Structure and Social Inequality in the US (part I)	10. Religion in America (Part I)	4. Class Structure and Social Inequality in the US (Part II)	11. Religion in America (Part II)	5. Race and Ethnicity in The US (Part I)	12. The US Criminal System and Incarceration (Part I)	6. Race and Ethnicity in The US (Part II)	13. The US Criminal System and Incarceration (Part II)	7. Sex and Gender as Social Constructions	14. Class Presentations		15. Class Presentations
1. Introduction to the Class: Class expectations, syllabus discussion, and personal introductions	8. Sex and Gender (Part II)																				
2. Introduction : The US in Numbers	9. The Changing Family																				
3. Class Structure and Social Inequality in the US (part I)	10. Religion in America (Part I)																				
4. Class Structure and Social Inequality in the US (Part II)	11. Religion in America (Part II)																				
5. Race and Ethnicity in The US (Part I)	12. The US Criminal System and Incarceration (Part I)																				
6. Race and Ethnicity in The US (Part II)	13. The US Criminal System and Incarceration (Part II)																				
7. Sex and Gender as Social Constructions	14. Class Presentations																				
	15. Class Presentations																				
◇ 成績評価の方法	Presentation (40%), Papers (50%), Attendance (10%)																				
◇ 教科書・参考書	Readings will be provided in PDF format by the professor																				
◇ 授業時間外学習	Weekly class readings must be completed before each class There will be five one-page essays due throughout the semester (due dates to be announced) A 10-minute group presentation should focus on a topic of choice related to the course material																				
その他 : All lectures, presentations, readings, discussions and essays are to be done in English																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
心 理 学 特 論 I Psychology (Advanced Lecture) I	2	非常勤講師 倉 元 直 樹	1 学期	月	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHU-PSY601J 心理調査概論 (Special Lecture on Psychological Research) 主として計量的な心理学の方法論として幅広く使われている質問紙法に基づく尺度を開発・自作する際に重要な理論を基礎から学ぶ。信頼性、妥当性といった概念の基礎となる古典的テスト理論と探索的因子分析を中心に測定法の基礎を学んだ後、尺度構成の具体的な方法について、一部、演習形式を交えて習得する。受講者が実際に取り組んでいるテーマを題材として用いる可能性もある。				
◆ 到達目標	テーマとした理論の習得、論文に用いられている指標の理解、および、学習した手法を使って実際に研究を行うためのデータ収集デザインを自力で構想することができるようになること。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション (テーマ、および、教科書の紹介) 2. はじめに (測定の定義、信頼性と妥当性、測定誤差、妥当性の諸概念 [補足資料: 参考書 (2)]) 3. 古典的テスト理論の基礎 (1) (妥当性と信頼性、信頼性のモデル、共分散、標準化、相関係数) 4. 古典的テスト理論の基礎 (2) (信頼性係数の定義、平行測定、信頼性係数の意味) 5. 古典的テスト理論の基礎 (3) (並行測定と信頼性係数の推定、妥当性係数、信頼性と妥当性の関係、スピアマン=ブラウンの公式) 6. 信頼性の評価 (1) (再テスト法、平行テスト法、折半法、評定法による信頼性向上の原理) 7. 信頼性の評価 (2) (スピアマン=ブラウンの公式の一般化、α 信頼性係数とその意味) 8. 信頼性の評価 (3) (内的整合性と測定誤差の仮定、KR20、内容的妥当性と測定モデル、信頼性と妥当性のジレンマ) 9. 尺度構成法 (1) (因子分析の基礎概念: 単純構造と尺度の分類、因子軸の回転) 10. 尺度構成法 (2) (因子分析モデルと古典的テスト理論、因子負荷量、因子得点、相関係数の構造) 11. 尺度構成法 (3) (共通性と信頼性係数、主成分分析と因子分析、固有値と因子、探索的因子分析の手順) 12. 心理尺度作成の実際 (1) (心理学的構成概念の構築、インタビュー調査の基礎、発話プロトコルの分析、自由記述の分類) 13. 心理尺度作成の実際 (2) (下位概念の整理、項目の作成、ワーディング、データ収集) 14. 心理尺度作成の実際 (3) (テスト法と調査法、項目分析の方法、通過率とIT相関、トレースライン) 15. 期末試験 				
◇ 成績評価の方法	出席 [40%程度]・討論参加 [20%程度]・期末試験 [40%程度]				
◇ 教科書・参考書	(1)E.G. カーマイン・R.A. ツェラー著 (1983) 『テストの信頼性と妥当性』、朝倉書店 (2)吉田寿夫編 (2006) 『心理学研究法の新しいかたち』、誠信書房 (3)松尾太加志・中村知靖著 (2002) 『誰も教えてくれなかった因子分析』、北大路書房 他				
◇ 授業時間外学習	授業時間外に予習、復習を奨励する。小テストを行う場合がある。受講者の理解度に応じて参考書を照会する場合がある。				
その他: 心理学各論が既習であることが望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
心 理 学 特 論 II Psychology (Advanced Lecture) II	2	非常勤講師 堀 毛 一 也	集 中 (2 学期)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHU-PSY602J ポジティブ心理学研究の発展 (Perspectives on the studies of positive psychology) ポジティブ心理学は、Seligman, M. E. P が、アメリカ心理学会の会長であった1998年に提唱した心理学研究の新たな方向性を意味しており、本邦でも関心をもつ研究者が増えてきています。この講義では、ポジティブ心理学の多様な研究領域をとりあげ、どのような研究が行われてきたか解説します。特に前半では、パーソナリティ心理学、社会心理学、感情心理学などとの関連に焦点をあて、後半では応用的な研究の方向性について説明したいと思います。				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) ポジティブ心理学研究とは何か、どう発展してきたかについて説明できる 2) ポジティブ心理学研究の多様な研究領域と特色について理解する 3) ポジティブ心理学と、パーソナリティ心理学、社会心理学、感情心理学との関連について説明できる 4) ポジティブ心理学の応用的側面について理解する 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ポジティブ心理学とは何か 2. ウェル・ビーイング研究の展開 3. ウェル・ビーイングの特性的基盤 (パーソナリティ心理学との関連 1) 4. ウェル・ビーイングの進化・生物学的基盤 (パーソナリティ心理学との関連 2) 5. ウェル・ビーイングへの認知的アプローチ (パーソナリティ心理学との関連 3) 6. ポジティブ感情の機能 (感情心理学との関連 1) 7. ポジティブな活動体験 (感情心理学との関連 2) 8. ポジティブな対人関係 (社会心理学との関連 1) 9. マインドニングの機能 (社会心理学との関連 2) 10. 社会的知性と知恵 (社会心理学との関連 3) 11. ポジティブ心理学と健康・リズイリエンス 12. ポジティブ心理学と教育 13. ポジティブな社会・組織・環境 14. ポジティブ心理学の介入 15. ポジティブ心理学と文化心理学 				
◇ 成績評価の方法	平常点30% (コメントカードによる)、筆記試験70%				
◇ 教科書・参考書	教科書 (堀毛一也「ポジティブな心の科学」サイエンス社 (2017冬出版予定) を利用する予定) 参考書: 講義内で紹介します				
◇ 授業時間外学習	予習よりも復習を重視します。毎回パワーポイントの資料を毎回配布しますので、それをもとに学習を進め、前回の講義の内容をよく理解したうえで出席してください。				
その他: 連絡先: kekehori@toyo.jp					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
心 理 学 研 究 演 習 I Psychology (Advanced Seminar) I	2	非常勤 講師 福 野 光 輝	1 学期	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHU-PSY603J																				
◆ 授業題目	社会心理学の重要研究 (Critical Issues in Social Psychology)																				
◆ 目的・概要	本演習の目的は、社会心理学の代表的な研究を多読し、社会行動を理解する視点を獲得することです。学術雑誌に掲載された研究にふれるなかで、社会心理学がどのような問題意識をもち、それにどう接近し、なにをあらかにしてきたのかを考えます。																				
◆ 到達目標	(1)社会心理学の代表的な研究を検討し、社会行動を理解する理論的枠組みを獲得する。 (2)研究内容を批判的に吟味し、評価する技能を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション： 授業の進め方の確認と担当章の決定</td> <td>8. 発表と議論 7</td> </tr> <tr> <td>2. 発表と議論 1</td> <td>9. 発表と議論 8</td> </tr> <tr> <td>3. 発表と議論 2</td> <td>10. 発表と議論 9</td> </tr> <tr> <td>4. 発表と議論 3</td> <td>11. 発表と議論 10</td> </tr> <tr> <td>5. 発表と議論 4</td> <td>12. 発表と議論 11</td> </tr> <tr> <td>6. 発表と議論 5</td> <td>13. 発表と議論 12</td> </tr> <tr> <td>7. 発表と議論 6</td> <td>14. 発表と議論 13</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 発表と議論 14</td> </tr> </table>					1. オリエンテーション： 授業の進め方の確認と担当章の決定	8. 発表と議論 7	2. 発表と議論 1	9. 発表と議論 8	3. 発表と議論 2	10. 発表と議論 9	4. 発表と議論 3	11. 発表と議論 10	5. 発表と議論 4	12. 発表と議論 11	6. 発表と議論 5	13. 発表と議論 12	7. 発表と議論 6	14. 発表と議論 13		15. 発表と議論 14
1. オリエンテーション： 授業の進め方の確認と担当章の決定	8. 発表と議論 7																				
2. 発表と議論 1	9. 発表と議論 8																				
3. 発表と議論 2	10. 発表と議論 9																				
4. 発表と議論 3	11. 発表と議論 10																				
5. 発表と議論 4	12. 発表と議論 11																				
6. 発表と議論 5	13. 発表と議論 12																				
7. 発表と議論 6	14. 発表と議論 13																				
	15. 発表と議論 14																				
◇ 成績評価の方法	予習課題の提出 (30%)、担当章の報告内容 (40%)、議論への参加 (30%) で評価します。																				
◇ 教科書・参考書	Frey, K. P., & Gregg, A. P. (in press). Experiments with people : Revelations from social psychology (2nd ed.). New York, NY : Psychology Press. 教科書の購入は必須ではありません。また第2版の内容が第1版とほぼ同じ場合には教科書を変更する可能性があります。																				
◇ 授業時間外学習	本演習では、予習に関する授業時間外学習が多くなります。各章の担当者は、内容を資料にまとめ報告します。その後、全員で質疑応答と議論を行います。またこの演習では、発表者以外の参加者にも、毎回、予習課題を行っていただきます。発表者以外の参加者はその回で取りあげる2本の論文の要約をそれぞれ全訳するとともに、要約を読んで疑問に思ったことを書いて提出します。1回の演習で2章ずつ検討していきます。																				
その他：履修状況によって運営形態や発表回数が変更になることがあります。 初回の授業で運営形態および担当章について検討しますので、履修を希望する人は必ず出席してください。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
心 理 学 研 究 演 習 II Psychology (Advanced Seminar) II	2	教授 行 場 次 朗	1 学期	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHU-PSY604E																				
◆ 授業題目	知覚・注意・動作・感性研究の最近の展開 (Trends in Perceptual, Attentional, Kinetic, and Affective Psychology)																				
◆ 目的・概要	知覚・注意・動作・感性に関する心理脳科学的研究の最先端に迫る。																				
◆ 到達目標	知覚・注意・動作・感性研究の諸分野にわたる最新の心理脳科学的研究例や、各自の研究を具体的にに取り上げ、基本的に英語でプレゼンテーションを行いながら、研究の目的、方法、結果、考察などの斬新な点と、研究展開の妥当性などについて演習を通じて議論しあう。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 英語でのプレゼンテーションの基本的な方法</td> <td>9. 認知研究についてのプレゼンテーション 2</td> </tr> <tr> <td>2. 知覚研究についてのプレゼンテーション 1</td> <td>10. 感性研究についてのプレゼンテーション 1</td> </tr> <tr> <td>3. 知覚研究についてのプレゼンテーション 2</td> <td>11. 感性研究についてのプレゼンテーション 2</td> </tr> <tr> <td>4. 注意研究についてのプレゼンテーション 1</td> <td>12. 応用研究についてのプレゼンテーション 1</td> </tr> <tr> <td>5. 注意研究についてのプレゼンテーション 2</td> <td>13. 応用研究についてのプレゼンテーション 2</td> </tr> <tr> <td>6. 動作研究についてのプレゼンテーション 1</td> <td>14. 応用研究についてのプレゼンテーション 3</td> </tr> <tr> <td>7. 動作研究についてのプレゼンテーション 2</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 認知研究についてのプレゼンテーション 1</td> <td></td> </tr> </table>					1. 英語でのプレゼンテーションの基本的な方法	9. 認知研究についてのプレゼンテーション 2	2. 知覚研究についてのプレゼンテーション 1	10. 感性研究についてのプレゼンテーション 1	3. 知覚研究についてのプレゼンテーション 2	11. 感性研究についてのプレゼンテーション 2	4. 注意研究についてのプレゼンテーション 1	12. 応用研究についてのプレゼンテーション 1	5. 注意研究についてのプレゼンテーション 2	13. 応用研究についてのプレゼンテーション 2	6. 動作研究についてのプレゼンテーション 1	14. 応用研究についてのプレゼンテーション 3	7. 動作研究についてのプレゼンテーション 2	15. 全体のまとめ	8. 認知研究についてのプレゼンテーション 1	
1. 英語でのプレゼンテーションの基本的な方法	9. 認知研究についてのプレゼンテーション 2																				
2. 知覚研究についてのプレゼンテーション 1	10. 感性研究についてのプレゼンテーション 1																				
3. 知覚研究についてのプレゼンテーション 2	11. 感性研究についてのプレゼンテーション 2																				
4. 注意研究についてのプレゼンテーション 1	12. 応用研究についてのプレゼンテーション 1																				
5. 注意研究についてのプレゼンテーション 2	13. 応用研究についてのプレゼンテーション 2																				
6. 動作研究についてのプレゼンテーション 1	14. 応用研究についてのプレゼンテーション 3																				
7. 動作研究についてのプレゼンテーション 2	15. 全体のまとめ																				
8. 認知研究についてのプレゼンテーション 1																					
◇ 成績評価の方法	出席、発表、討論への参加 (どれも同じ比重をもつ)																				
◇ 教科書・参考書	必読すべき研究論文を演習中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	演習中に関連する文献検討や実験・調査について指示を出すので、各自、参考にして理解を深めること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																											
心 理 学 研 究 演 習 Ⅲ Psychology (Advanced Seminar) Ⅲ	2	教授 阿 部 恒 之	2 学期	水	1																											
◆ 科目ナンバリング	LHU-PSY605J																															
◆ 授業題目	生理心理学の発展 (Advanced Seminar on Psychophysiology)																															
◆ 目的・概要	<p>脳のイメージング技術が発展したことで、心の機能は脳の部位別に特定されてしまうように思われる。しかしその一方で、身体のありようが心に影響するという知見が多く見出されている。心と身体の関係について、最新の研究を学ぶ。</p> <p>授業の初期段階では、指定された論文を読み、その内容を発表してもらう。次の段階では、受講生自らが関連する論文を検索し、読み、その内容を発表してもらう。</p> <p>グループで議論する機会をなるべく多く設けたい。</p>																															
◆ 到達目標	心と身体に関連性について、最新の研究を学び、その方法論を身に着ける。																															
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>8. 各自見つけた論文の講読</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>テキスト配布</td> <td>9. 各自見つけた論文の講読</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>2. 配布テキストの講読</td> <td>10. 各自見つけた論文の講読</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>3. 配布テキストの講読</td> <td>11. 各自見つけた論文の講読</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>4. 配布テキストの講読</td> <td>12. 各自見つけた論文の講読</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>5. 配布テキストの講読</td> <td>13. 各自見つけた論文の講読</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>6. 配布テキストの講読</td> <td>14. 各自見つけた論文の講読</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>各自見つけた論文の提出</td> <td>15. 全体の振り返りとまとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. 配布テキストの講読</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	8. 各自見つけた論文の講読	1	テキスト配布	9. 各自見つけた論文の講読	2	2. 配布テキストの講読	10. 各自見つけた論文の講読	3	3. 配布テキストの講読	11. 各自見つけた論文の講読	4	4. 配布テキストの講読	12. 各自見つけた論文の講読	5	5. 配布テキストの講読	13. 各自見つけた論文の講読	6	6. 配布テキストの講読	14. 各自見つけた論文の講読	7	各自見つけた論文の提出	15. 全体の振り返りとまとめ		7. 配布テキストの講読		
1. ガイダンス	8. 各自見つけた論文の講読	1																														
テキスト配布	9. 各自見つけた論文の講読	2																														
2. 配布テキストの講読	10. 各自見つけた論文の講読	3																														
3. 配布テキストの講読	11. 各自見つけた論文の講読	4																														
4. 配布テキストの講読	12. 各自見つけた論文の講読	5																														
5. 配布テキストの講読	13. 各自見つけた論文の講読	6																														
6. 配布テキストの講読	14. 各自見つけた論文の講読	7																														
各自見つけた論文の提出	15. 全体の振り返りとまとめ																															
7. 配布テキストの講読																																
◇ 成績評価の方法	配布テキストの和訳レポート [40%]・各自見つけた論文の発表と和訳レポート [40%]・授業中の討議への参加 [20%]																															
◇ 教科書・参考書	前半で用いるテキストは、初回授業で配布する。																															
◇ 授業時間外学習	用いるテキストは基本的に英語とする。十分に熟読し、理解を深めてから授業に臨んでほしい。																															
その他：各自見つけた論文の発表はパワーポイントを用いて行ってもらう。 但し、受講者数が多い場合は提出された論文から数本を選択し、それをテキストとして講読する。																																

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																								
心 理 学 研 究 演 習 Ⅳ Psychology (Advanced Seminar) Ⅳ	2	教授 坂 井 信 之	2 学期	水	3																								
◆ 科目ナンバリング	LHU-PSY606J																												
◆ 授業題目	食と健康の心理学 (Seminar on Applied Psychology (Eating and Health))																												
◆ 目的・概要	<p>最初に与えられた文献 (健康や食行動に関する心理学・神経科学領域の専門書) を講読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。</p>																												
◆ 到達目標	<p>①心理学の知識をどのように応用すれば、人間の日常行動を理解し、諸問題を解決できるかについて、自分で考えることができる能力を身につけることができるようになる。</p> <p>②自分でまとめたことや自分の考えを他人にわかりやすく伝えることができるようになる。</p>																												
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>8. 食行動への社会的影響</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2. 食べることの心理学：栄養-脳-行動</td> <td>9. 気分と食物、渴望、嗜癖</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 我々が食べる食物と三大栄養素</td> <td>10. 空腹感-満腹感と脳</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. 化学感覚</td> <td>11. 食障害とその治療</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. あなたはあなたが食べたものでできている： 進化-エネルギー-採餌行動</td> <td>12. 遺伝子、エピジェネティクス、肥満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. 食行動と学習プロセス</td> <td>13. 肥満の治療</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. 食行動の発達</td> <td>14. これからの食</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入	8. 食行動への社会的影響		2. 食べることの心理学：栄養-脳-行動	9. 気分と食物、渴望、嗜癖		3. 我々が食べる食物と三大栄養素	10. 空腹感-満腹感と脳		4. 化学感覚	11. 食障害とその治療		5. あなたはあなたが食べたものでできている： 進化-エネルギー-採餌行動	12. 遺伝子、エピジェネティクス、肥満		6. 食行動と学習プロセス	13. 肥満の治療		7. 食行動の発達	14. これからの食			15. まとめ	
1. 導入	8. 食行動への社会的影響																												
2. 食べることの心理学：栄養-脳-行動	9. 気分と食物、渴望、嗜癖																												
3. 我々が食べる食物と三大栄養素	10. 空腹感-満腹感と脳																												
4. 化学感覚	11. 食障害とその治療																												
5. あなたはあなたが食べたものでできている： 進化-エネルギー-採餌行動	12. 遺伝子、エピジェネティクス、肥満																												
6. 食行動と学習プロセス	13. 肥満の治療																												
7. 食行動の発達	14. これからの食																												
	15. まとめ																												
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験・(○) リポート [40%]・() 出席 (○) その他 (発表態度) [60%]																												
◇ 教科書・参考書	授業時に指示する。																												
◇ 授業時間外学習	<p>事前：指定された文献の担当部分をパワーポイントなどを使って他の履修者に説明できるように理解しておく。発表の担当者でない授業の前には予め指示された項目について簡単な予習をしておく。</p> <p>事後：発表中の質疑に応じて、パワーポイントなどの資料を改訂する。</p>																												
その他：何か質問があれば、電子メール (nob_sakai@m.tohoku.ac.jp) で問い合わせるか、電子メールで予約をした上で、研究室に質問にくること。																													

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
心 理 学 研 究 演 習 V Psychology (Advanced Seminar) V	2	准教授 辻 本 昌 弘	1 学期	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHU-PSY607J				
◆ 授業題目	現代文化心理学の視角 (Perspectives of Cultural Psychology)				
◆ 目的・概要	この授業では、文化心理学の英文文献を読解する。近年の文化心理学ではさまざまなテーマが研究されている。この授業の前半では、認知、自己、対人関係、集団過程などに関する文化心理学の近年の知見を学ぶ。後半では文化変容に関連する諸研究を詳しく検討する。受講生は、事前に英文文献を読み、関連図書調べて資料を準備し、授業では発表と討論を行う。				
◆ 到達目標	1. 文化心理学の代表的な理論や知見を理解する。 2. 心理学の英文文献を読解する力を涵養する。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス：授業の準備、発表、討論について 2. 文化心理学の概観 3. 文化と認知 4. 文化と自己 5. 文化と対人関係 6. 文化と集団過程 7. グローバル化の諸相 8. 文化変容の概観 9. 文化変容のプロセス 10. 文化変容の方略 11. 文化変容と集団間関係 12. 複数文化のアイデンティティ 13. 多文化状況の心理的影響 ① 14. 多文化状況の心理的影響 ② 15. まとめ				
◇ 成績評価の方法	出席 (50%)、発表と討論参加 (50%)				
◇ 教科書・参考書	とりあげる論文は授業中に指示する。				
◇ 授業時間外学習	とりあげる論文を授業までに読み、十分に予習しておくことが必要である。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
心 理 学 研 究 演 習 VI Psychology (Advanced Seminar) VI	2	非常勤講師 倉 元 直 樹	2 学期	月	2
◆ 科目ナンバリング	LHU-PSY608J				
◆ 授業題目	Fundamentals of Psychological Measurement (Fundamentals of Psychological Measurement)				
◆ 目的・概要	量的方法論による心理学研究の方法論的基礎となる測定法の理論について基礎から学ぶ。古典的テスト理論 (Classical Test Theory) と項目反応理論 (Item Response Theory) を対比しながら、理念的な理解を深める。オーソドックスな輪講形式の演習スタイルを基本とするが、受講者の人数や希望によっては発展的な内容を加えたり、受講者が現在取り組んでいる研究を題材として取り交ぜる可能性も考慮する。時折、教科書の例題を基にレポートを課すことがある。				
◆ 到達目標	英語論文の理解と執筆のために標準的な英語のテキストを選定しているが、受講者の希望によっては変更も可とする。心理学的測定論に基づく手法を使って実際に研究を行うためのデータ収集デザインを自力で構想することができるようになること。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション (テーマ、および、教科書の紹介) 2. Classical Test Theory (1) (Chapter 1-3: True Scores and Error Variances) 3. Classical Test Theory (2) (Chapter 4-5: Reliability Coefficient and Estimation) 4. Classical Test Theory (3) (Chapter 6: Formulas for Estimating a Reliability Coefficient) 5. Classical Test Theory (4) (Chapter 7: Factors Affecting the Reliability Coefficient) 6. Classical Test Theory (5) (Chapter 8: Estimating the Standard Error of Measurement) 7. Classical Test Theory (6) (Chapter 9: Reliability of Difference Scores) 8. Item Response Theory (1) (Chapter 1-2: Basic Concepts and Models) 9. Item Response Theory (2) (Chapter 3: Ability and Item Parameter Estimation) 10. Item Response Theory (3) (Chapter 4: Assessments of Model-Data Fit) 11. Item Response Theory (4) (Chapter 5-6: The Ability Scale and Information Functions) 12. Item Response Theory (5) (Chapter 7-8: Item Construction and Bias) 13. Item Response Theory (6) (Chapter 9: Equating) 14. Item Response Theory (7) (Chapter 10: CAT) 15. まとめ (心理学的測定論の展開)				
◇ 成績評価の方法	出席 [40%程度]・小テスト [20%程度]・発表及び討論参加 [60%程度]				
◇ 教科書・参考書	(1) Traub, R. E. (1994). Reliability for the Social Sciences: Theory and Applications, Sage, Thousand Oaks, CA. (2) Hambleton, R. K., Swaminathan, H. and Rogers, H. J. (1991). Fundamentals of Item Response Theory. Sage, Newbury Park, CA.				
◇ 授業時間外学習	担当者は教科書の該当部分を中心に発表準備を行い、レジュメとプレゼンテーションを作成する。担当者以外の参加者は事前に教科書の該当部分を予習することが求められる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
心 理 学 総 合 演 習 I Psychology (Integration Seminar) I	2	教授 阿部 恒之・行場 次朗・坂井 信之 准教授 辻本 昌弘	1 学期	金	5
◆ 科目ナンバリング	LHU-PSY609J				
◆ 授業題目	特選題目研究 I (Research on Special Topics I)				
◆ 目的・概要	<p>各自の研究テーマについて順次報告し、受講者全員で討論を行う。 基本的に、1回の演習で2名がそれぞれ30分程度のプレゼンテーションを行う。 発表レジメもあらかじめ作成し、出席者全員に配布する。 質疑討論はそれぞれの発表につき15分程度行う。 この演習の目的は、修士論文や博士論文につながる実験・調査の計画、遂行、結果のまとめや考察を進展させることにある。わかりやすく、説得力のある発表をするように努め、そのテーマを専門としない出席者の理解を促進するように工夫をすること。</p>				
◆ 到達目標	各自の研究活動に基づく発表を通じて、心理学の各領域の研究についての理解を深める。				
◆ 授業内容・方法	<p>1. ガイダンス：心理学研究のプレゼンテーションの基本 本プレゼンテーションと、それについての議論とコメント 7. 同上 8. 同上 9. 同上</p> <p>2. 各自のプレゼンテーションと、それについての議論 とコメント 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 同上</p> <p>3. 同上 12. 同上 4. 同上 13. 同上 5. 同上 14. 同上 6. 同上 15. 全体のまとめと総合討論、および総評</p>				
◇ 成績評価の方法	発表 [40%]・出席 [30%]・討論への参加 [30%]				
◇ 教科書・参考書	特に使用しない。				
◇ 授業時間外学習	各自、プレゼンテーションに備えて、実験・調査を計画・遂行し、その構想やデータなどを理解のしやすい内容にまとめ、レジメとパワーポイントを準備すること。				
その他：履修は原則として、心理学専攻分野の大学院生に限る。 心理学総合演習 I と II を連続履修し、当該年度に2回以上の発表を行うこと。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
心 理 学 総 合 演 習 II Psychology (Integration Seminar) II	2	教授 阿部 恒之・行場 次朗・坂井 信之 准教授 辻本 昌弘	2 学期	金	5
◆ 科目ナンバリング	LHU-PSY610J				
◆ 授業題目	特選題目研究 II (Research on Special Topics II)				
◆ 目的・概要	<p>各自の研究テーマについて順次報告し、受講者全員で討論を行う。 基本的に、1回の演習で2名がそれぞれ30分程度のプレゼンテーションを行う。 発表レジメもあらかじめ作成し、出席者全員に配布する。 質疑討論はそれぞれの発表につき15分程度行う。 この演習の目的は、修士論文や博士論文につながる実験・調査の計画、遂行、結果のまとめや考察を進展させることにある。わかりやすく、説得力のある発表をするように努め、そのテーマを専門としない出席者の理解を促進するように工夫をすること。</p>				
◆ 到達目標	各自の研究活動に基づく発表を通じて、心理学の各領域の研究についての理解を深める。				
◆ 授業内容・方法	<p>1. ガイダンス：心理学研究のプレゼンテーションの基本 本プレゼンテーションと、それについての議論とコメント 7. 同上 8. 同上 9. 同上</p> <p>2. 各自のプレゼンテーションと、それについての議論と コメント 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 同上</p> <p>3. 同上 12. 同上 4. 同上 13. 同上 5. 同上 14. 同上 6. 同上 15. 全体のまとめと総合討論、および総評</p>				
◇ 成績評価の方法	発表 [40%]・出席 [30%]・討論への参加 [30%]				
◇ 教科書・参考書	特に使用しない。				
◇ 授業時間外学習	各自、プレゼンテーションに備えて、実験・調査を計画・遂行し、その構想やデータなどを理解のしやすい内容にまとめ、レジメとパワーポイントを準備すること。				
その他：履修は原則として、心理学専攻分野の大学院生に限る。 心理学総合演習 I と II を連続履修し、当該年度に2回以上の発表を行うこと。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
心 理 学 研 究 実 習 I Psychological Methodology I	2	教授 阿部 恒之・行場 次朗・坂井 信之 准教授 辻本 昌弘	1 学期	火	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHU-PSY611J																				
◆ 授業題目	心理学実験技法実習 I (Practice of Psychological Methodology I)																				
◆ 目的・概要	心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、常に新たな技法が開発され、実用化されている。優れた研究を実施するためには、こういった技法の理解や習熟が必要である。大学院生を対象として、心理学実験技法を学ぶ目的で開講する。 個別に必要な技法を中心に学ぶとともに、毎時間異なる基本メニューを確認する。																				
◆ 到達目標	心理学実験技法を実践的に学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. ステレオタイプ</td> </tr> <tr> <td>2. 社会的態度の測定</td> <td>10. 感覚の尺度化</td> </tr> <tr> <td>3. 統計解析法</td> <td>11. 反応時間</td> </tr> <tr> <td>4. SPSS</td> <td>12. 幾何学的錯視</td> </tr> <tr> <td>5. 動物の行動観察</td> <td>13. カウンセリング</td> </tr> <tr> <td>6. 記憶検索</td> <td>14. 臨床心理学</td> </tr> <tr> <td>7. 鏡映描写</td> <td>15. 通期課題のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 囚人のジレンマ</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. ステレオタイプ	2. 社会的態度の測定	10. 感覚の尺度化	3. 統計解析法	11. 反応時間	4. SPSS	12. 幾何学的錯視	5. 動物の行動観察	13. カウンセリング	6. 記憶検索	14. 臨床心理学	7. 鏡映描写	15. 通期課題のまとめ	8. 囚人のジレンマ	
1. オリエンテーション	9. ステレオタイプ																				
2. 社会的態度の測定	10. 感覚の尺度化																				
3. 統計解析法	11. 反応時間																				
4. SPSS	12. 幾何学的錯視																				
5. 動物の行動観察	13. カウンセリング																				
6. 記憶検索	14. 臨床心理学																				
7. 鏡映描写	15. 通期課題のまとめ																				
8. 囚人のジレンマ																					
◇ 成績評価の方法	レポート60%、その他40% (平常点)																				
◇ 教科書・参考書	実習中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。																				
履修は原則として心理学専攻分野の大学院生に限る。心理学研究実習 I と II を連続履修すること。ペアを組んで毎回実験を行うため、その他：途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。 授業計画に記されたメニューは変更の可能性があるが、変更の場合は事前に通知する。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
心 理 学 研 究 実 習 II Psychological Methodology II	2	教授 阿部 恒之・行場 次朗・坂井 信之 准教授 辻本 昌弘	2 学期	火	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHU-PSY612J																				
◆ 授業題目	心理学実験技法実習 II (Practice of Psychological Methodology II)																				
◆ 目的・概要	心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得する。実習メニューは毎回異なる。心理学研究実習 I では主として実験的方法を用いたメニューを、心理学研究実習 II では、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。 以下の授業計画は担当者の都合などによる変更の可能性がある。																				
◆ 到達目標	心理学実験の基本を実習を通じて学び、基本的スキルを習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. ロールシャッハテスト II</td> </tr> <tr> <td>2. 情報検索実習 (図書館文献検索を含む)</td> <td>10. WAIS-III 知能検査</td> </tr> <tr> <td>3. 生理機能計測 (ポリグラフィ)</td> <td>11. 感情評価 (覚醒水準の測定)</td> </tr> <tr> <td>4. 脳機能計測 (光トポグラフィ)</td> <td>12. 信号検出理論 (注意の測定)</td> </tr> <tr> <td>5. フィールドワーク I</td> <td>13. 応用心理学分野実験 (心理学の産業応用)</td> </tr> <tr> <td>6. フィールドワーク II</td> <td>14. 心理専門職について</td> </tr> <tr> <td>7. 心理測定法</td> <td>15. 心理の資格</td> </tr> <tr> <td>8. ロールシャッハテスト I</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. ロールシャッハテスト II	2. 情報検索実習 (図書館文献検索を含む)	10. WAIS-III 知能検査	3. 生理機能計測 (ポリグラフィ)	11. 感情評価 (覚醒水準の測定)	4. 脳機能計測 (光トポグラフィ)	12. 信号検出理論 (注意の測定)	5. フィールドワーク I	13. 応用心理学分野実験 (心理学の産業応用)	6. フィールドワーク II	14. 心理専門職について	7. 心理測定法	15. 心理の資格	8. ロールシャッハテスト I	
1. オリエンテーション	9. ロールシャッハテスト II																				
2. 情報検索実習 (図書館文献検索を含む)	10. WAIS-III 知能検査																				
3. 生理機能計測 (ポリグラフィ)	11. 感情評価 (覚醒水準の測定)																				
4. 脳機能計測 (光トポグラフィ)	12. 信号検出理論 (注意の測定)																				
5. フィールドワーク I	13. 応用心理学分野実験 (心理学の産業応用)																				
6. フィールドワーク II	14. 心理専門職について																				
7. 心理測定法	15. 心理の資格																				
8. ロールシャッハテスト I																					
◇ 成績評価の方法	レポート [60%]、出席 [40%]																				
◇ 教科書・参考書	心理学実験室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。																				
心理学以外の学科、学部の卒業生はできるだけ履修すること。 その他：心理学研究実習 I と II を連続履修すること。 ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
実 験 心 理 学 特 論 Experimental Psychology (Advanced Lecture)	2	教授 阿 部 恒 之	1 学期	水	1																
◆ 科目ナンバリング	LHU-PSY613J																				
◆ 授業題目	ストレスの社会生理心理学 (The Social Psychophysiology on Stress)																				
◆ 目的・概要	人間の心は、脳のみで語りえるものではない。脳と身体は相互に作用しあいながら、「心」をなしている。またその相互作用は、社会的文脈の中で成り立っているものである。脳と身体、心と社会・文化・日常生活の関わりを、ストレスと化粧を対象とした研究事例を通じて講義する。																				
◆ 到達目標	社会生理心理学・生理心理学・感情心理学の研究成果を学ぶとともに、その研究手法を習得する。また、謎から課題を立て、それを解決する研究の流れをつかみ、自ら研究を実施する力をつける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス 謎と課題</td> <td>9. 課題立案に関する討議 1</td> </tr> <tr> <td>2. 課題の立案</td> <td>10. 課題立案に関する討議 2</td> </tr> <tr> <td>3. ストレス研究史</td> <td>11. ストレスホルモンの分泌を促進する要因 1</td> </tr> <tr> <td>4. ストレスの生理</td> <td>12. ストレスホルモンの分泌を促進する要因 2</td> </tr> <tr> <td>5. 感情研究史</td> <td>13. 化粧の心理的効果 1</td> </tr> <tr> <td>6. ストレッサー研究のパラダイムシフト</td> <td>14. 化粧の心理的効果 2</td> </tr> <tr> <td>7. 化粧の文化史 1 発表 2</td> <td>15. 総まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 化粧の文化史 2 発表 3</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス 謎と課題	9. 課題立案に関する討議 1	2. 課題の立案	10. 課題立案に関する討議 2	3. ストレス研究史	11. ストレスホルモンの分泌を促進する要因 1	4. ストレスの生理	12. ストレスホルモンの分泌を促進する要因 2	5. 感情研究史	13. 化粧の心理的効果 1	6. ストレッサー研究のパラダイムシフト	14. 化粧の心理的効果 2	7. 化粧の文化史 1 発表 2	15. 総まとめ	8. 化粧の文化史 2 発表 3	
1. ガイダンス 謎と課題	9. 課題立案に関する討議 1																				
2. 課題の立案	10. 課題立案に関する討議 2																				
3. ストレス研究史	11. ストレスホルモンの分泌を促進する要因 1																				
4. ストレスの生理	12. ストレスホルモンの分泌を促進する要因 2																				
5. 感情研究史	13. 化粧の心理的効果 1																				
6. ストレッサー研究のパラダイムシフト	14. 化粧の心理的効果 2																				
7. 化粧の文化史 1 発表 2	15. 総まとめ																				
8. 化粧の文化史 2 発表 3																					
◇ 成績評価の方法	期末レポート40%、その他60% (複数回の小レポート)																				
◇ 教科書・参考書	授業において、以下の教科書を用いる。 阿部恒之 『ストレスと化粧の社会生理心理学』 フレグランスジャーナル社 ISBN978-4-89479-058-2																				
◇ 授業時間外学習	授業内容に関連した論文を自ら見つけ、熟読することで、生理心理学・感情心理学領域の研究を、広範に・発展的に学んでほしい。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
社 会 心 理 学 特 論 Social Psychology (Advanced Lecture)	2	非常勤講師 福 野 光 輝	2 学期	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHU-PSY614J																				
◆ 授業題目	対人行動の社会心理学 (Social Psychology of Interpersonal Behavior)																				
◆ 目的・概要	本授業の目的は、対人場面における個人の心理と行動に関する諸問題を取りあげ、その代表的な理論と研究を批判的に検討することです。																				
◆ 到達目標	(1)対人行動を理解するための心理学的な知識と理論的枠組みを身につけること。 (2)既存の知見を批判的に検討できるようになること。 (3)現実社会の問題を、社会心理学的な観点から解釈できるようになること。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 意識と無意識</td> </tr> <tr> <td>2. 対人魅力</td> <td>10. 文化的自己観</td> </tr> <tr> <td>3. 援助と利他主義</td> <td>11. 主観的幸福観</td> </tr> <tr> <td>4. 攻撃と暴力</td> <td>12. 自己意識と自己概念</td> </tr> <tr> <td>5. 社会的交換 1</td> <td>13. 自己評価と自尊心</td> </tr> <tr> <td>6. 社会的交換 2</td> <td>14. 自己と動機づけ</td> </tr> <tr> <td>7. 公正</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. ステレオタイプ</td> <td>学期末試験</td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 意識と無意識	2. 対人魅力	10. 文化的自己観	3. 援助と利他主義	11. 主観的幸福観	4. 攻撃と暴力	12. 自己意識と自己概念	5. 社会的交換 1	13. 自己評価と自尊心	6. 社会的交換 2	14. 自己と動機づけ	7. 公正	15. 授業のまとめ	8. ステレオタイプ	学期末試験
1. オリエンテーション	9. 意識と無意識																				
2. 対人魅力	10. 文化的自己観																				
3. 援助と利他主義	11. 主観的幸福観																				
4. 攻撃と暴力	12. 自己意識と自己概念																				
5. 社会的交換 1	13. 自己評価と自尊心																				
6. 社会的交換 2	14. 自己と動機づけ																				
7. 公正	15. 授業のまとめ																				
8. ステレオタイプ	学期末試験																				
◇ 成績評価の方法	筆記試験 (90%) とミニットペーパー (10%) で評価します。 また、授業でお願いする実験や調査に参加いただいた場合、試験得点に加点します。																				
◇ 教科書・参考書	使用しません。参考書は初回の授業で紹介します。																				
◇ 授業時間外学習	授業内容の理解を定着させるために、初回の授業で紹介する参考書をいくつか読むことをおすすめします。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
応 用 心 理 学 特 論 Applied Psychology (Advanced Lecture)	2	教授 坂 井 信 之	1 学期	水	3
◆ 科目ナンバリング	LHU-PSY615J				
◆ 授業題目	健康と幸福の応用心理学 (Special Topics on Health Psychology and well-being)				
◆ 目的・概要	この授業では、人間の幸福について、心理学・生物学的な観点から理解することを目的とする。始めに、心理学的に幸福をどのように測定するかという方法論について述べ、その後幸福感を支える生物学的基盤（遺伝や脳機能）について紹介する。次に幸福に関連する心理学・社会心理学的理論をいくつか紹介し、最後に幸福とは何かについて総合的に議論する。				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幸福感は、感覚に基づくボトムアップ的な知覚ではなく、認知・感情であることが理解できる 2. 人の幸福感を正確に測定するためには様々な方法があり、それらは一長一短であることが理解できる 3. 人の幸福感は人生のイベントや富などのみに依存するのではなく、人と外部刺激との相互作用によって決定することが理解できる 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 人の幸福感の測定法 3. それぞれの測定法の抱える問題 4. 感情の生物学的基盤 1 5. 感情の生物学的基盤 2 6. 学習と動機づけの生物学的基盤 1 7. 学習と動機づけの生物学的基盤 2 8. 気分と感情 9. 感情と快楽 10. 人の性格と主観的幸福感の関係 11. 幸福感の個人差 12. 社会的絆と幸福感 13. 幸福感を引き起こすもの 14. 幸福感の文化比較 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	最終試験・レポート [60%]、毎回の小レポート [40%]				
◇ 教科書・参考書	授業中に指定する				
◇ 授業時間外学習	毎回授業の内容に基づき、事後あるいは事前の小レポートの作成が必要となる。また、授業で扱うような知見がどのような心理学的研究から解明されてきたかという方法論を実体験してもらう場面を設定するので、授業の空き時間等にそれらの実験・調査へ参加することを求められることがある。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 特 論 I Cultural Anthropology (Advanced Lecture) I	2	准教授 川 口 幸 大	1 学期	金	4																
<p>◆ 科目ナンバリング LHU-CUA601J</p> <p>◆ 授業題目 東アジアの文化人類学 (Cultural Anthropology of East Asia)</p> <p>◆ 目的・概要 東アジア諸地域の具体的な事例から文化人類学についての考え方を学ぶ。</p> <p>◆ 到達目標 文化人類学の相対的な視野と思考、および代表的な主題についての知識を身につける。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. エスニシティ</td> </tr> <tr> <td>2. 文化人類学とは</td> <td>10. 移民</td> </tr> <tr> <td>3. フィールドワーク</td> <td>11. トランスナショナリズム</td> </tr> <tr> <td>4. 家族と親族</td> <td>12. 多文化共生</td> </tr> <tr> <td>5. 宗教</td> <td>13. 観光</td> </tr> <tr> <td>6. ジェンダーとセクシュアリティ</td> <td>14. 経済</td> </tr> <tr> <td>7. 社会関係</td> <td>15. 人類学の応用</td> </tr> <tr> <td>8. 植民地主義</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 出席・授業参加 [30%]、発表 [20%]、レポート [50%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 『東アジアで学ぶ文化人類学』 上水流久彦・川口幸大・太田心平・尾崎孝宏 (編)、2017年、昭和堂</p> <p>◇ 授業時間外学習 テキストを読んでノートにまとめ、発表者への質問・コメントの準備をする。</p> <p>その他：</p>						1. イントロダクション	9. エスニシティ	2. 文化人類学とは	10. 移民	3. フィールドワーク	11. トランスナショナリズム	4. 家族と親族	12. 多文化共生	5. 宗教	13. 観光	6. ジェンダーとセクシュアリティ	14. 経済	7. 社会関係	15. 人類学の応用	8. 植民地主義	
1. イントロダクション	9. エスニシティ																				
2. 文化人類学とは	10. 移民																				
3. フィールドワーク	11. トランスナショナリズム																				
4. 家族と親族	12. 多文化共生																				
5. 宗教	13. 観光																				
6. ジェンダーとセクシュアリティ	14. 経済																				
7. 社会関係	15. 人類学の応用																				
8. 植民地主義																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 特 論 I Cultural Anthropology (Advanced Lecture) I	2	非常勤 講 師 宮 本 万 里	集 中 (1 学期)																		
<p>◆ 科目ナンバリング LHU-CUA601J</p> <p>◆ 授業題目 現代ブータン研究 (Contemporary Bhutan Studies)</p> <p>◆ 目的・概要 近代化政策導入以降のブータンの政治と社会、宗教文化の変容を、国民の境界、開発、環境主義、民主化等をキーワードにしながら描き出していく。講義では南アジア地域研究全体の動向に目を配るとともに、ネーションとナショナリズム論、開発人類学、環境人類学など関連諸学の学説史を踏まえつつ、従来しばしば「特殊解」として個別に捉えられてきたヒマラヤの仏教王国ブータンの事例をより広い文脈の中に位置づけなおしてみたい。</p> <p>◆ 到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 現代ブータンの政治と社会の変遷を理解し、より広い文脈から説明できる。 2) 国民国家における文化的境界とはどのようなものか、事例を挙げて説明できる。 3) 言説としての低開発や環境破壊とは何を指すのか、説明できる。 <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 南アジア地域研究におけるブータンの位置付け</td> <td>8. グローバルな環境言説と人々の生きる世界 (2): 焼畑耕作と酒作り</td> </tr> <tr> <td>2. 僧侶の統べる国から王の統べる国へ</td> <td>9. 南アジアのコミュナリズム (宗教対立)</td> </tr> <tr> <td>3. 国民の境界とその自画像: 市民権・婚姻法・五カ年開発計画</td> <td>10. 屠畜と肉食をめぐる文化政治 (1): ヒンドゥー教と牛</td> </tr> <tr> <td>4. 王制と労働徴発: 殺す権力から生かす権力へ?</td> <td>11. 屠畜と肉食をめぐる文化政治 (2): 仏教と放生実践</td> </tr> <tr> <td>5. 開発と国民形成</td> <td>12. ブータンの民主化プロジェクトと宗教の位置づけ</td> </tr> <tr> <td>6. 非開発と環境主義: ブータンの森林政策と国立公園</td> <td>13. 拡大する儀礼空間と一元化する宗教世界</td> </tr> <tr> <td>7. グローバルな環境言説と人々の生きる世界 (1): 牧畜と仏教</td> <td>14. 王権とデモクラシー</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 「幸福大国」はどこへ向かうのか</td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 レポート (80%) および議論への貢献度 (20%)</p> <p>◇ 教科書・参考書 参考書: Escobar, A. 1984. Discourse and Power in Development: Michel Foucault and the Relevance of His Work to the Third World, Alternatives 10 (3): 377-400. 宮本万里、2009年『自然保護をめぐる文化の政治—ブータン牧畜民の生活・信仰・環境政策』風響社。 レオ・E. ローズ (著)、山本真弓 (監訳)、2001年『ブータンの政治: 近代化のなかのチベット仏教王国』明石書店。 鈴木正崇 (編)、2011年『南アジアの文化と社会を読み解く』慶應義塾大学東アジア研究所。 田中雅一、田辺明生 (編)、2010年『南アジア社会を学ぶ人のために』世界思想社。</p> <p>◇ 授業時間外学習 集中講義形式で一日の分量が多いため、授業後の復習を推奨する。 参考書として挙げた書籍・論文は講義内容の理解の助けとなるので授業の前後を問わずできるだけ参照してほしい。</p> <p>その他：質問は授業中および授業後に随時受け付ける。1日の最終授業の際にコメント用紙を配布し、受講者の理解度を確認する。</p>						1. 南アジア地域研究におけるブータンの位置付け	8. グローバルな環境言説と人々の生きる世界 (2): 焼畑耕作と酒作り	2. 僧侶の統べる国から王の統べる国へ	9. 南アジアのコミュナリズム (宗教対立)	3. 国民の境界とその自画像: 市民権・婚姻法・五カ年開発計画	10. 屠畜と肉食をめぐる文化政治 (1): ヒンドゥー教と牛	4. 王制と労働徴発: 殺す権力から生かす権力へ?	11. 屠畜と肉食をめぐる文化政治 (2): 仏教と放生実践	5. 開発と国民形成	12. ブータンの民主化プロジェクトと宗教の位置づけ	6. 非開発と環境主義: ブータンの森林政策と国立公園	13. 拡大する儀礼空間と一元化する宗教世界	7. グローバルな環境言説と人々の生きる世界 (1): 牧畜と仏教	14. 王権とデモクラシー		15. 「幸福大国」はどこへ向かうのか
1. 南アジア地域研究におけるブータンの位置付け	8. グローバルな環境言説と人々の生きる世界 (2): 焼畑耕作と酒作り																				
2. 僧侶の統べる国から王の統べる国へ	9. 南アジアのコミュナリズム (宗教対立)																				
3. 国民の境界とその自画像: 市民権・婚姻法・五カ年開発計画	10. 屠畜と肉食をめぐる文化政治 (1): ヒンドゥー教と牛																				
4. 王制と労働徴発: 殺す権力から生かす権力へ?	11. 屠畜と肉食をめぐる文化政治 (2): 仏教と放生実践																				
5. 開発と国民形成	12. ブータンの民主化プロジェクトと宗教の位置づけ																				
6. 非開発と環境主義: ブータンの森林政策と国立公園	13. 拡大する儀礼空間と一元化する宗教世界																				
7. グローバルな環境言説と人々の生きる世界 (1): 牧畜と仏教	14. 王権とデモクラシー																				
	15. 「幸福大国」はどこへ向かうのか																				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
文 化 人 類 学 特 論 II Cultural Anthropology (Advanced Lecture) II	2	非常勤 講師 門 田 岳 久	集 中 (2学期)		
◆ 科目ナンバリング	LHU-CUA602J				
◆ 授業題目	宗教の人類学 (Anthropology of Religion)				
◆ 目的・概要	本科目は現代宗教を文化人類学の視点で捉えるための基礎的な枠組みを身につけることに目的がある。人類学に特有な宗教への視点をあげるとすれば、教義や教団といった構成要素から宗教をみるのではなく、日常性や社会とのつながりからみるという点にあるだろう。それを日本や西洋など、これまで宗教人類学ではあまり研究されてこなかった社会において考えるというのが本科目での大きな問いである。いわゆる後期近代社会の特性を踏まえて宗教を考えるために、宗教社会学や民俗学の理論も踏まえながら日頃私たちが「宗教」という言葉の響きで狭く捉えがちなイメージを相対化していきたい。具体的には、ポスト世俗化論と呼ばれる一群の考え方を学び、ツーリズム・医療・政治といった社会制度と絡み合う「宗教的なもの」の様相をつかむ。例えば宗教とツーリズムとの結びつきは近年注目されている現象であるが、単に宗教的な場所(聖地)やモノ(御朱印、護符など)が観光資源になっている、という表層的な状況を見るのではなく、そのような現象がどの程度の歴史的深度を持ち、いかなる社会相・時代相の変化とともに現象化しているのか理解する必要がある。				
◆ 到達目標	1. 人類学的宗教研究の基本を身につけ、文化人類学の全体的理解につなげていく。 2. 宗教を考えることを契機に、人類学と隣接諸分野への興味関心を高める。 3. 身の回りの日常生活を、宗教研究の枠組みへと接合する想像力を養う。				
◆ 授業内容・方法	1. ビリーフとプラクティス：宗教の人類学入門 2. 宗教と社会変動：世俗化論とポスト世俗化論 3. 高度消費社会化と拡散する宗教性 4. 場所の宗教性 ① 聖地の構築と文化遺産 5. 場所の宗教性 ② 心霊スポットからパワースポットへ 6. 巡礼 ① 移動する身体と巡礼 7. 巡礼 ② ツーリズム化する現代巡礼 8. セラピー文化 ① 代替医療における宗教性 9. セラピー文化 ② 片づけ術と人生の断捨離 10. 言葉と身体 ①：ナラティブとしての信心 11. 言葉と身体 ②：儀礼とパフォーマンス 12. 差異の政治：改宗、ケガレ、マイノリティー 13. 集合的熱狂：フェス、デモ、全体主義 14. Youtube時代の宗教情報 15. 他者に寛容なツーリズム：ハラール、礼拝堂、ベジタリアン				
◇ 成績評価の方法	レポート60%、参加状況40%。なお演習方式を部分的に取り入れて口頭報告を求めることがあり、これを「参加状況」の一部として成績評価の対象とする。				
◇ 教科書・参考書	教材は講義中に配布するが、参考書として以下のものを挙げる。 吉田匡興ほか編(2010)『宗教の人類学』、春風社 岡本亮輔(2015)『聖地巡礼』、中央公論新社 高橋典史ほか編(2012)『宗教と社会のフロンティア-宗教社会学からみる現代日本』、勁草書房				
◇ 授業時間外学習	これまでに履修した文化人類学等の概論における、宗教や信仰、儀礼等に関する解説を振り返りつつ、自分自身が日常において「宗教的なもの」とどのような関わりがあるのか(あるいはないのか)、参考書を適宜参照しながら考えてほしい。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
文 化 人 類 学 特 論 II Cultural Anthropology (Advanced Lecture) II	2	非常勤 講師 アンジー アレハンドロ	1 学期	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHU-CUA602E				
◆ 授業題目	Anthropology of Globalization (Anthropology of Globalization)				
◆ 目的・概要	This course offers a look at contemporary aspects of globalization through a multidisciplinary lens, focusing on the relationship between the flow of capital, commodities, people and changing cultural patterns throughout the globe. During the semester we will cover capital and commodity flows, transnational migration, economic and environmental trends and conflicts, production and consumption practices, gender dynamics, human rights, and the formation of new identities within the context of a globalizing world.				
◆ 到達目標	The class will ask students to reflect upon recent trends in processes of globalization as these relate to the disruption of traditional and the emergence of new social issues in society and culture using a comparative approach. Student participation is an essential component of the class, and students are expected to demonstrate mastery of the core issues through class discussions, essays and group presentations.				
◆ 授業内容・方法	1. Introduction to the Class: Class expectations, syllabus discussion, and personal introductions 2. Introduction: Thinking Global 3. The Economics of Globalization and the State 4. Global Institutions 5. Governance, Structural Adjustments and the Politics of Globalization 6. Transnational Migration: Flows of Capital and Mobile Subjects 7. Transnational Migration (part II): The Construction of Illegality 8. Foregrounding Gender and Location 9. Gendered Labor Flows 10. Commodities in the World Economy 11. Unlikely Commodities, Human Trafficking and Drugs 12. Environmental Politics 13. Class Presentations 14. Class Presentations 15. Class Presentations				
◇ 成績評価の方法	Presentation (40%), Papers (50%), Attendance (10%)				
◇ 教科書・参考書	Readings will be provided in PDF format by the professor				
◇ 授業時間外学習	・ Weekly class readings must be completed before each class ・ There will be five one-page essays due throughout the semester (due dates to be announced) ・ A 10-minute group presentation should focus on a topic of choice related to the course material				
その他： All lectures, presentations, readings, discussions and essays are to be done in English					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 特 論 III Cultural Anthropology (Advanced Lecture) III	2	非常勤 講師 ボレー・ベンメレン・セバスチャン	2 学期	金	2																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHU-CUA603J 災害人類学 (Anthropology of Disaster) 文化人類学における21世紀の幕開けは、ますます増え広がる「災害」と呼ばれる現象によって特徴付けられる。Disasterという言葉は、自然災害 (地震、ハリケーン、津波、洪水、火山噴火)、人為的事故 (戦争、テロ、飛行機の墜落、列車の脱線事故、原子力災害、自動車事故)、環境と健康危機 (飢饉、疾病、汚染、熱波) など様々な現象を含んでいる。災害という概念と発展とを踏まえ、本講義では、災害の類型、リスク、脆弱性、レジリエンス、連帯、トラウマ、メモリといった災害の人類学に関する共通の問題とテーマのいくつかを紹介する。これらの概念を用いて、本講義では災害を理解し対処する方法について災害人類学者が貢献する方法の一部を提示することを試みる。そうすることで、災害にかんする自分自身の理解を深めるとともに、人類学的知識を応用することに関心を持つことを、本講義を通じて提供することを願う。																				
◆ 到達目標	1. 災害問題について理解を深める。 2. 災害にかかわるさまざまな実践を知り、それを文化人類学の視点から批判的に捉える。 3. 受講生一人ひとりが災害問題に関してできることを具体的に考える。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 現代社会における災害</td> <td>9. レジリエンス、対策と減災の言説</td> </tr> <tr> <td>2. 人類学の視点から見た災害</td> <td>10. グロブラゼーションと災害コミュニティ</td> </tr> <tr> <td>3. 災害カテゴリーの問題</td> <td>11. 発展、経済と災害ツーリズム</td> </tr> <tr> <td>4. ケーススタディー A: スマトラ島沖地震</td> <td>12. 災害における損失、犠牲者と悲嘆</td> </tr> <tr> <td>5. ケーススタディー B: 東日本大地震</td> <td>13. 災害の記録、記憶と教育</td> </tr> <tr> <td>6. ケーススタディー C: パリ同時多発テロ</td> <td>14. ワークショップ 2: 災害科学・減災のために文化人類学できることは?</td> </tr> <tr> <td>7. ワークショップ 1: 自然災害とはなにか?</td> <td>15. 将来の災害文化人類学</td> </tr> <tr> <td>8. 災害の背景にあるリスクと脆弱性</td> <td></td> </tr> </table>					1. 現代社会における災害	9. レジリエンス、対策と減災の言説	2. 人類学の視点から見た災害	10. グロブラゼーションと災害コミュニティ	3. 災害カテゴリーの問題	11. 発展、経済と災害ツーリズム	4. ケーススタディー A: スマトラ島沖地震	12. 災害における損失、犠牲者と悲嘆	5. ケーススタディー B: 東日本大地震	13. 災害の記録、記憶と教育	6. ケーススタディー C: パリ同時多発テロ	14. ワークショップ 2: 災害科学・減災のために文化人類学できることは?	7. ワークショップ 1: 自然災害とはなにか?	15. 将来の災害文化人類学	8. 災害の背景にあるリスクと脆弱性	
1. 現代社会における災害	9. レジリエンス、対策と減災の言説																				
2. 人類学の視点から見た災害	10. グロブラゼーションと災害コミュニティ																				
3. 災害カテゴリーの問題	11. 発展、経済と災害ツーリズム																				
4. ケーススタディー A: スマトラ島沖地震	12. 災害における損失、犠牲者と悲嘆																				
5. ケーススタディー B: 東日本大地震	13. 災害の記録、記憶と教育																				
6. ケーススタディー C: パリ同時多発テロ	14. ワークショップ 2: 災害科学・減災のために文化人類学できることは?																				
7. ワークショップ 1: 自然災害とはなにか?	15. 将来の災害文化人類学																				
8. 災害の背景にあるリスクと脆弱性																					
◇ 成績評価の方法	出席、コメントとワークショップのレポートを総合して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	教科書は用いない。読書リストは、教室で適宜指示する。																				
◇ 授業時間外学習	読書 (論文とチャプター) を通読した上でメモを書き、講義ノートを作成する。次の講義に参加する前に、個人で、または他の学生と一緒に協力して復習する。																				
その他:																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 研 究 演 習 I Cultural Anthropology (Advanced Seminar) I	2	准教授 川 口 幸 大	1 学期	火	3																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要 ◆ 到達目標	LHU-CUA604J 文化人類学の視野と思考 (Cultural Anthropology (Advanced Seminar) I) 文化人類学についての理論および民族誌的研究を精査することで、主要な概念と関心の動向を検討する。 文化人類学の研究動向を体系的に理解し、自身の問題関心を展開させる。 最終的には、自分の研究主題についての文献リストと主要文献のレビューを作成する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 研究動向の整理と検討</td> </tr> <tr> <td>2. 研究動向の整理と検討</td> <td>10. 研究動向の整理と検討</td> </tr> <tr> <td>3. 研究動向の整理と検討</td> <td>11. 研究動向の整理と検討</td> </tr> <tr> <td>4. 文献講読</td> <td>12. 文献講読</td> </tr> <tr> <td>5. 研究動向の整理と検討</td> <td>13. 研究動向の整理と検討</td> </tr> <tr> <td>6. 研究動向の整理と検討</td> <td>14. 研究動向の整理と検討</td> </tr> <tr> <td>7. 研究動向の整理と検討</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 文献講読</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 研究動向の整理と検討	2. 研究動向の整理と検討	10. 研究動向の整理と検討	3. 研究動向の整理と検討	11. 研究動向の整理と検討	4. 文献講読	12. 文献講読	5. 研究動向の整理と検討	13. 研究動向の整理と検討	6. 研究動向の整理と検討	14. 研究動向の整理と検討	7. 研究動向の整理と検討	15. まとめ	8. 文献講読	
1. イントロダクション	9. 研究動向の整理と検討																				
2. 研究動向の整理と検討	10. 研究動向の整理と検討																				
3. 研究動向の整理と検討	11. 研究動向の整理と検討																				
4. 文献講読	12. 文献講読																				
5. 研究動向の整理と検討	13. 研究動向の整理と検討																				
6. 研究動向の整理と検討	14. 研究動向の整理と検討																				
7. 研究動向の整理と検討	15. まとめ																				
8. 文献講読																					
◇ 成績評価の方法	発表 [40%]、出席 [20%]、最終レポート [40%]																				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、課題に沿ったレジюмеを作成する。																				
その他:																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 研 究 演 習 Ⅱ Cultural Anthropology (Advanced Seminar) Ⅱ	2	准教授 川 口 幸 大	2 学期	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHU-CUA605J																				
◆ 授業題目	文化人類学の視野と思考 (Cultural Anthropology (Advanced Seminar) Ⅱ)																				
◆ 目的・概要	文化人類学についての理論および民族誌的研究を精査することで、主要な概念と関心の動向を検討する。																				
◆ 到達目標	文化人類学の研究動向を体系的に理解し、自身の問題関心を展開させる。 最終的には、自身の修論もしくは博論における先行研究のレビューを完成させる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 研究動向の整理と検討</td> </tr> <tr> <td>2. 研究動向の整理と検討</td> <td>10. 研究動向の整理と検討</td> </tr> <tr> <td>3. 研究動向の整理と検討</td> <td>11. 研究動向の整理と検討</td> </tr> <tr> <td>4. 文献講読</td> <td>12. 文献講読</td> </tr> <tr> <td>5. 研究動向の整理と検討</td> <td>13. 研究動向の整理と検討</td> </tr> <tr> <td>6. 研究動向の整理と検討</td> <td>14. 研究動向の整理と検討</td> </tr> <tr> <td>7. 研究動向の整理と検討</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 文献講読</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 研究動向の整理と検討	2. 研究動向の整理と検討	10. 研究動向の整理と検討	3. 研究動向の整理と検討	11. 研究動向の整理と検討	4. 文献講読	12. 文献講読	5. 研究動向の整理と検討	13. 研究動向の整理と検討	6. 研究動向の整理と検討	14. 研究動向の整理と検討	7. 研究動向の整理と検討	15. まとめ	8. 文献講読	
1. イントロダクション	9. 研究動向の整理と検討																				
2. 研究動向の整理と検討	10. 研究動向の整理と検討																				
3. 研究動向の整理と検討	11. 研究動向の整理と検討																				
4. 文献講読	12. 文献講読																				
5. 研究動向の整理と検討	13. 研究動向の整理と検討																				
6. 研究動向の整理と検討	14. 研究動向の整理と検討																				
7. 研究動向の整理と検討	15. まとめ																				
8. 文献講読																					
◇ 成績評価の方法	発表 [40%]、出席 [20%]、最終レポート [40%]																				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、課題に沿ったレジュメを作成する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 研 究 演 習 Ⅲ Cultural Anthropology (Advanced Seminar) Ⅲ	2	教授 沼 崎 一 郎	2 学期	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHU-CUA606J																				
◆ 授業題目	英語古典原書講読 (Classics in Cultural Anthropology)																				
◆ 目的・概要	文化人類学の古典であるフランツ・ボアズ『未開人の心性』改訂版 (1938) の原書を精読し、学術的に正確な訳文を作成するという作業を通して、文化人類学における英語古典の精密な訳読の技法を習得する。今 Semester は、序文から第 2 章まで訳出する。底本には、メルヴィル・ハースコヴィッツの序文のある Free Press 版 (1965) を用いる。																				
◆ 到達目標	(1)学術的な英文の正確な訳読力を身に付ける。 (2)文化人類学の古典の息吹に触れる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入 授業方法の説明</td> <td>9. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 47-48.</td> </tr> <tr> <td>2. Chapter 2 Historical Review p. 32-33.</td> <td>10. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 49-50.</td> </tr> <tr> <td>3. Chapter 2 Historical Review p. 34-35.</td> <td>11. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 51-52.</td> </tr> <tr> <td>4. Chapter 2 Historical Review p. 36-37.</td> <td>12. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 53-54.</td> </tr> <tr> <td>5. Chapter 2 Historical Review p. 38-39.</td> <td>13. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 55-56.</td> </tr> <tr> <td>6. Chapter 2 Historical Review p. 40-41.</td> <td>14. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 57-59.</td> </tr> <tr> <td>7. Chapter 2 Historical Review p. 42-44.</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 45-46.</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入 授業方法の説明	9. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 47-48.	2. Chapter 2 Historical Review p. 32-33.	10. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 49-50.	3. Chapter 2 Historical Review p. 34-35.	11. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 51-52.	4. Chapter 2 Historical Review p. 36-37.	12. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 53-54.	5. Chapter 2 Historical Review p. 38-39.	13. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 55-56.	6. Chapter 2 Historical Review p. 40-41.	14. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 57-59.	7. Chapter 2 Historical Review p. 42-44.	15. まとめ	8. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 45-46.	
1. 導入 授業方法の説明	9. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 47-48.																				
2. Chapter 2 Historical Review p. 32-33.	10. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 49-50.																				
3. Chapter 2 Historical Review p. 34-35.	11. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 51-52.																				
4. Chapter 2 Historical Review p. 36-37.	12. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 53-54.																				
5. Chapter 2 Historical Review p. 38-39.	13. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 55-56.																				
6. Chapter 2 Historical Review p. 40-41.	14. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 57-59.																				
7. Chapter 2 Historical Review p. 42-44.	15. まとめ																				
8. Chapter 3 The Composition of Human Races p. 45-46.																					
◇ 成績評価の方法	下訳の作成と授業時の訳文の修正作業への参加 (50%)、訳注の作成 (50%) による。																				
◇ 教科書・参考書	Franz Boas, The Mind of Primitive Man, Revised Edition, with a new foreword by Melville J. Herskovits. New York: Free Press, 1965.																				
◇ 授業時間外学習	毎週、2 頁ほどの英文の下訳を作成する。授業での議論に基づいて、下訳を修正する。 訳注作成のための資料収集と分析を行う。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 調 査 実 習 I Cultural Anthropology (Field Research) I	2	教 授 沼 崎 一 郎	1 学 期	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHU-CUA607J																				
◆ 授業題目	フィールドワークの理論と方法 (Theory and Method of Fieldwork)																				
◆ 目的・概要	文化人類学的調査に必要な基礎技術を、修士論文研究の企画・実施を通して習得する。研究計画書および修士論文草稿の執筆と添削を通して、論文執筆力の向上を図る。毎回、各自発表要旨を用意し、それに基づいて発表を行い、全員で討議するという方式を採る。																				
◆ 到達目標	(1)文化人類学的な調査技法の習得。 (2)論文執筆力の向上。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入 授業方法の説明</td> <td>9. 分析方法 2 量的データの記述と分析</td> </tr> <tr> <td>2. 研究倫理 1 特に人類学的フィールドワークの倫理</td> <td>10. 研究テーマの探索</td> </tr> <tr> <td>3. 研究倫理 2 特に論文執筆における倫理</td> <td>11. 研究テーマの決定</td> </tr> <tr> <td>4. 研究方法 1 参与観察</td> <td>12. 研究トピックの探索</td> </tr> <tr> <td>5. 研究方法 2 インタビュー</td> <td>13. 研究トピックの決定</td> </tr> <tr> <td>6. 研究方法 3 文献調査</td> <td>14. 研究計画の作成</td> </tr> <tr> <td>7. 研究方法 4 映像・音声データの収集</td> <td>15. 研究計画の発表</td> </tr> <tr> <td>8. 分析方法 1 質的データの記述と分析</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入 授業方法の説明	9. 分析方法 2 量的データの記述と分析	2. 研究倫理 1 特に人類学的フィールドワークの倫理	10. 研究テーマの探索	3. 研究倫理 2 特に論文執筆における倫理	11. 研究テーマの決定	4. 研究方法 1 参与観察	12. 研究トピックの探索	5. 研究方法 2 インタビュー	13. 研究トピックの決定	6. 研究方法 3 文献調査	14. 研究計画の作成	7. 研究方法 4 映像・音声データの収集	15. 研究計画の発表	8. 分析方法 1 質的データの記述と分析	
1. 導入 授業方法の説明	9. 分析方法 2 量的データの記述と分析																				
2. 研究倫理 1 特に人類学的フィールドワークの倫理	10. 研究テーマの探索																				
3. 研究倫理 2 特に論文執筆における倫理	11. 研究テーマの決定																				
4. 研究方法 1 参与観察	12. 研究トピックの探索																				
5. 研究方法 2 インタビュー	13. 研究トピックの決定																				
6. 研究方法 3 文献調査	14. 研究計画の作成																				
7. 研究方法 4 映像・音声データの収集	15. 研究計画の発表																				
8. 分析方法 1 質的データの記述と分析																					
◇ 成績評価の方法	平常点 (50%) と研究計画書 (50%) による。																				
◇ 教科書・参考書	適宜、教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	自身の研究に必要な文献収集と文献読解を行い、毎回授業前に進捗状況を報告するレジメを作成する。																				
その他：授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 調 査 実 習 II Cultural Anthropology (Field Research) II	2	教 授 沼 崎 一 郎	2 学 期	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHU-CUA608J																				
◆ 授業題目	フィールドワークの理論と方法 (Theory and Method of Fieldwork)																				
◆ 目的・概要	前期に引き続き、文化人類学的調査に必要な基礎技術を、修士論文研究の企画・実施を通して習得する。研究計画書および修士論文草稿の執筆と添削を通して、論文執筆力の向上を図る。毎回、各自発表要旨を用意し、それに基づいて発表を行い、全員で討議するという方式を採る。																				
◆ 到達目標	(1)文化人類学的な調査技法の習得。 (2)論文執筆力の向上。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入 授業方法の説明</td> <td>9. 民族誌的考察 3 先行研究との「解釈」の対比</td> </tr> <tr> <td>2. エミックとエティック 「事実」と「解釈」の多重性</td> <td>10. 民族誌的考察 4 「事実」と「解釈」の総合的考察</td> </tr> <tr> <td>3. 民族誌的記述 1 参与観察の記述</td> <td>11. 論文執筆法 1 「事実」と「解釈」の書き分け</td> </tr> <tr> <td>4. 民族誌的記述 2 インタビューの記述</td> <td>12. 論文執筆法 2 論文の文体</td> </tr> <tr> <td>5. 民族誌的記述 3 文献資料の利用</td> <td>13. 論文執筆法 3 論文の形式</td> </tr> <tr> <td>6. 民族誌的記述 4 映像・音声データの利用</td> <td>14. 論文執筆法 4 パラフレーズの活用法</td> </tr> <tr> <td>7. 民族誌的考察 1 「事実」と「解釈」</td> <td>15. 論文執筆法 5 直接引用の活用法</td> </tr> <tr> <td>8. 民族誌的考察 2 先行研究との「事実」の対比</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入 授業方法の説明	9. 民族誌的考察 3 先行研究との「解釈」の対比	2. エミックとエティック 「事実」と「解釈」の多重性	10. 民族誌的考察 4 「事実」と「解釈」の総合的考察	3. 民族誌的記述 1 参与観察の記述	11. 論文執筆法 1 「事実」と「解釈」の書き分け	4. 民族誌的記述 2 インタビューの記述	12. 論文執筆法 2 論文の文体	5. 民族誌的記述 3 文献資料の利用	13. 論文執筆法 3 論文の形式	6. 民族誌的記述 4 映像・音声データの利用	14. 論文執筆法 4 パラフレーズの活用法	7. 民族誌的考察 1 「事実」と「解釈」	15. 論文執筆法 5 直接引用の活用法	8. 民族誌的考察 2 先行研究との「事実」の対比	
1. 導入 授業方法の説明	9. 民族誌的考察 3 先行研究との「解釈」の対比																				
2. エミックとエティック 「事実」と「解釈」の多重性	10. 民族誌的考察 4 「事実」と「解釈」の総合的考察																				
3. 民族誌的記述 1 参与観察の記述	11. 論文執筆法 1 「事実」と「解釈」の書き分け																				
4. 民族誌的記述 2 インタビューの記述	12. 論文執筆法 2 論文の文体																				
5. 民族誌的記述 3 文献資料の利用	13. 論文執筆法 3 論文の形式																				
6. 民族誌的記述 4 映像・音声データの利用	14. 論文執筆法 4 パラフレーズの活用法																				
7. 民族誌的考察 1 「事実」と「解釈」	15. 論文執筆法 5 直接引用の活用法																				
8. 民族誌的考察 2 先行研究との「事実」の対比																					
◇ 成績評価の方法	平常点 (50%) と研究計画書 (50%) による。																				
◇ 教科書・参考書	適宜、教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	自身の研究に必要な文献収集と文献読解を行い、毎回授業前に進捗状況を報告するレジメを作成する。																				
その他：前期の文化人類学調査実習Ⅰを必ず履修していること。 授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
宗 教 人 類 学 特 論 Religious Anthropology (Advanced Lecture)	2	准教授 山 田 仁 史	2 学期	水	1
◆ 科目ナンバリング	LHU-RES601J				
◆ 授業題目	宗教学人類学者列伝：13人の生・愛・死 (13 anthropologists of religion : their life, love and death)				
◆ 目的・概要	人間の宗教はどのように始まったのか？ 世界にはどのような形態があるのか？ それらに見られる多様性と共通性の意味はなにか？ ヒトはなぜ信仰するのか？ こういった問題に答えようとしてきたのが、宗教学人類学の歴史です。この講義では、主要な研究者13人をとりあげ、彼らの生涯・思想・理論、そして特に彼らが用いた資料とその性質について、語っていきます。				
◆ 到達目標	宗教学人類学史の把握をとおして、現代におけるその意義と、われわれ自身にとって意味するところを考えてみましょう。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 宗教学人類学と宗教民族学 2. マックス・ミュラー (1823-1900) 3. エドワード・タイラー (1832-1917) 4. ウィリアム・ロバートソン・スミス (1846-1894) 5. ジェイムズ・フレイザー (1854-1941) 6. レオ・フロベニウス (1873-1938) 7. ヴィルヘルム・シュミット (1868-1954) 8. エミール・デュルケーム (1858-1917) 9. マルセル・モース (1872-1950) 10. アルノルト・ファン・ヘネップ (1873-1957) 11. ラッフアエーレ・ペッタツォーニ (1883-1959) 12. アードルフ・イェンゼン (1899-1965) 13. ミルチャ・エリアーデ (1907-1986) 14. クロード・レヴィ＝ストロース (1908-2009) 15. おわりに 宗教学人類学が教えてくれること 				
◇ 成績評価の方法	学期末レポート (講義内容に関連のあるテーマを自由に設定し論じる。80%) および毎回のフィードバック (出欠確認を兼ねる。20%) により評価する。				
◇ 教科書・参考書	Tworuschka, Udo, Religionswissenschaft, Wien: Böhlau, 2011; Michaels, Axel (Hrsg.), Klassiker der Religionswissenschaft, 3. Aufl., München: C. H. Beck, 2010; Auffarth, Christoph u.a. (Hrsg.), Wörterbuch der Religionen, Stuttgart: Kröner, 2006. 以上いずれも参考書です。				
◇ 授業時間外学習	学期末レポート作成に際し、文献調査ないしフィールドワークをしっかりと行ってください。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
宗 教 人 類 学 特 論 Religious Anthropology (Advanced Lecture)	2	准教授 谷 山 洋 三	2 学期	月	2
◆ 科目ナンバリング	LHU-RES601J				
◆ 授業題目	宗教と社会福祉 (Religion and Social Welfare)				
◆ 目的・概要	社会福祉活動の源泉には宗教の愛他の思想・実践を認めることができる。歴史的にも、宗教の慈善活動が発展して政府による社会福祉政策に繋がったこともあり、また、政府の肩代わりのように宗教的慈善活動が行われることもある。この授業では、そのような宗教と社会福祉の関係を概観するとともに、特に日本において仏教が果たしてきた役割について考察する。				
◆ 到達目標	宗教と社会との相互関係について理解を深める				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宗教的慈善と社会福祉 2. キリスト教と社会福祉思想 3. キリスト教と社会福祉実践 4. 儒教、神道と社会福祉思想 5. 仏教と社会福祉思想 6. 日本での仏教社会福祉の歴史 1 7. 日本での仏教社会福祉の歴史 2 8. 日本での仏教社会福祉の歴史 3 9. 長岡西病院ビハラー病棟の事例 1 10. 長岡西病院ビハラー病棟の事例 2 11. 東日本大震災後の宗教者の活動 1 12. 東日本大震災後の宗教者の活動 2 13. 超宗派超宗教の活動 14. 熊本地震後の宗教者の活動 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]、出席・討論への参加等 [50%]				
◇ 教科書・参考書	参考書：日本仏教社会福祉学会 (編)『仏教社会福祉入門』法蔵館、2014年。長谷川匡俊『宗教福祉論』医歯薬出版、2002年。				
◇ 授業時間外学習	宗教学、宗教史、社会福祉学など、授業を通じて関心をもった事柄について、学び深めることを期待します。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
宗 教 学 特 論 I Science of Religion (Advanced Lecture) I	2	非常勤 講師 川 島 秀 一	1 学期	水	1
◆ 科目ナンバリング	LHU-RES602J				
◆ 授業題目	宗教学特論 I (Advanced Science of Religions (Special Lecture))				
◆ 目的・概要	本講義では、海に生業をもとめ、海と向き合いながら生きてきた人たちの生活世界を「漁民世界」と捉え、海から繰り返しやってくる吉凶入り交じった多様なヨリモノ（寄り物）を、人びとがどのように受容してきたのか、ということについて注目する。漁民たちは、海の傍らで漁を営み、魚類や海草などの恩恵にあずかっている一方で、繰り返し、津波や高潮のような自然災害や、漂着ゴミや海洋汚染などの負の授かり物も引き受けてきた。しかし、吉凶入り交じった多様なものを受け入れながら、海際で暮らすことを放棄しない漁民たちが、どのように「負の経験」を引き受け、それらをヨリモノとして転換してきたのか。本講義では、とくに「海に備わる意のままにならないリスクといかに共存しうることか」と問いかけることで、太平洋沿岸の津波常習地に生きてきた漁民たちの、海との向き合い方を通して、現代の海との関わり方に活かしていく方法を追求することにある。そして、それらを後世の住民たちにどう伝承してきたのか、または、どう伝承していくべきなのかを明らかにする。なお、本期の講義においても、できるかぎり、受講者それぞれがテーマを選び、発表をするかたちを基本としたい。				
◆ 到達目標	寄り物のなかに、「津波」や「海洋汚染」といった海から湾岸にやってくる「負の経験」をも加えて、両義的に捉えることで、新しい視点を導き出すことが、一つのねらいである。漁民たちは、湾を訪れる吉とも凶とも判断のつかない多様な訪問者を受け入れざるをえない。それらは、ときには「招かれざるヨリモノ」である漂流遺体であったり、厄介な漂着物であったり、破壊的な威力をもった津波でもあった。日本列島における、ヨリモノという海に関わる信仰を、受講者が悪戦苦闘しながらも、自分なりに理解できることが、到達目標となる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論と、テーマ（ヨリモノ）の担当の振り分け 2. 寄り物の民俗 3. 寄りもの信仰とエビス石 4. エビスと呼ばれた海洋生物 5. エビスと龍神 6. 熊野信仰と漂着神 7. 海難事故と漂着遺体 8. 海難者の供養 9. 魚のとむらい 10. 海の災害と信仰 11. 海洋汚染—水俣病をめぐって 12. 「流しもの」の民俗 13. 海から来て、海に流す—疫病の捉えかた 14. シオに関わる民俗 15. まとめに 				
◇ 成績評価の方法	本期講義終了後のレポート提出				
◇ 教科書・参考書	参考書として、川島秀一『漁撈伝承』（法政大学出版局、2003）、川島秀一『津波のまちに生きて』（富山房インターナショナル、2012）など。				
◇ 授業時間外学習	次の授業のテーマが分かっている場合、各自、総体的に学習してくること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
宗 教 学 特 論 II Science of Religion (Advanced Lecture) II	2	教授 高 橋 原	1 学期	水	3
◆ 科目ナンバリング	LHU-RES603J				
◆ 授業題目	宗教と心理療法 (Religion and Psychotherapy)				
◆ 目的・概要	人間心理の健康と成長について宗教との関わりから理解する。				
◆ 到達目標	いくつかの基本概念を理解し、宗教とは何かという大きな問題を、人間の心に及ぼす影響という点から理解し、説明できるようにする。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 心理療法とは何か 2. 治療体系としての宗教 3. 原始的な心理療法 4. メスメリズムと催眠術 5. フロイトと精神分析 6. フロイトと精神分析 7. ユングの分析心理学 8. ユングの分析心理学 9. ユングの分析心理学 10. ユングの分析心理学 11. 宗教儀礼と心理療法 12. 幻覚と心理療法 13. 補論 (1) 14. 補論 (2) 15. 補論 (3) 				
◇ 成績評価の方法	期末レポートによる。授業内で小レポートを課す場合もある。				
◇ 教科書・参考書	適宜授業内で指示する。				
◇ 授業時間外学習	授業内で指示する参考文献により理解を深める。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
宗 教 学 特 論 III Science of Religion (Advanced Lecture) III	2	教授 木村敏明	1 学期	金	2
◆ 科目ナンバリング	LHU-RES604J				
◆ 授業題目	自然災害と宗教 (Natural Disaster and Religion)				
◆ 目的・概要	突然にやってきて人々の日常生活の基盤を突き崩してしまう自然災害。被災者たちや周囲の人々が災害を受け止め、生活を立て直す中で、宗教はいかなる役割を果たしてきたのか。英国の宗教学学術雑誌 Religion が2010年10月号で“Religions, Natural Hazards and Disasters”の特集を組んだことからわかる通り、宗教学における自然災害研究は急速に進められつつある。この授業では自然災害をめぐる宗教的観念、儀礼的实践を概観しつつ、現代社会における宗教の意義や課題について論じる。				
◆ 到達目標	宗教学的なものの見方をみにつけることができる。 現代社会における宗教の意義や課題について具体的な事例を通して理解できる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 自然災害をめぐる観念：神話における災害 3. 自然災害をめぐる観念：「怪物」の表象 4. 自然災害をめぐる観念：諸宗教伝統の災害観 5. 自然災害をめぐる観念：災因論 6. 自然災害をめぐる観念：神義論の諸相 7. 小括 8. 自然災害をめぐる儀礼：予防儀礼と減災儀礼 9. 自然災害をめぐる儀礼：災禍の儀礼 10. 自然災害をめぐる儀礼：慰霊・追悼・記念の儀礼 11. 自然災害をめぐる儀礼：儀礼の復活とその意義 12. 小括 13. 復興と宗教：ソーシャル・キャピタルとしての宗教 ① 14. 復興と宗教：ソーシャル・キャピタルとしての宗教 ② 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	毎回の授業後提出の小レポート [40%]、期末レポート [60%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は用いない。参考書は授業中に指示する。				
◇ 授業時間外学習	新聞や読書などで普段からトピックに関連した情報を収集するようにつとめ、授業後の小レポートに反映させる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
宗 教 学 特 論 IV Science of Religion (Advanced Lecture) IV	2	非常勤講師 深澤英隆	集 中 (2 学期)		
◆ 科目ナンバリング	LHU-RES605J				
◆ 授業題目	ドイツ民族主義宗教運動の諸相 (Problems of German "völkisch" Religious Movements)				
◆ 目的・概要	19世紀終盤のドイツおよびオーストリアで、ゲルマン主義宗教運動、民族的 (フェルキッシュ) 宗教運動などともよばれる一群の宗教運動が成立した。この宗教運動は、ドイツ国民主義・ドイツ民族主義に属する現象群においてもっとも特異な性格をもったものであった。ナチズムの源泉のひとつでもあったこの宗教系譜は、キリスト教を拒絶し、ドイツ固有の宗教を確立しようとのラディカルかつ奇想に満ちた思想運動群から成り立っており、その末裔は現代でも、ニューエイジや新興宗教主義運動などの結びつきのもとに存続している。本講義は、海外でも近年になってようやく研究が進みつつあるこのドイツ民族主義宗教運動の歴史と思想をあとづけるとともに、今日の宗教状況との関係においてその意味するところを探る。ドイツ民族主義宗教運動という具体的な事象の歴史と現在を伝えるとともに、宗教的運動や宗教的想像力がどのように政治や社会と結びつきをもつのかを考察する手がかりを与えることが、本講義の目的である。				
◆ 到達目標	本講義では、これまであまり知られてこなかったこのドイツ民族主義宗教運動・宗教思想に、宗教社会学や宗教思想史の諸方法で接近し、歴史 (宗教史) 的知識を獲得すると同時に、宗教と民族主義といった今日の問題に関わる知識を深めることを到達目標とする。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. I 宗教と宗教運動の基本的性格：本講義の主題との関連で 2. II ドイツ新興宗教主義宗教運動の背景 <ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツ近代史概観 - ドイツの近代化の特殊性 2. ナショナリズム・民族主義・フェルキッシュ的なもの - 概念の整理 3. ドイツ新興宗教主義 = 民族主義宗教運動の諸相 1 5. ドイツ新興宗教主義 = 民族主義宗教運動の諸相 2 6. 4. 民族主義宗教運動の背景 - 世紀末ドイツの宗教状況と「流浪する宗教性」 7. III ドイツ新興宗教主義 = 民族主義宗教運動の諸相 1 ドイツ新興宗教主義宗教運動の知的・実践的背景 8. 2. フィドゥスとその世界 9. 3. L・ファーレンクロークと「ゲルマン的信仰共同体」(GGG) 1 10. L・ファーレンクロークと「ゲルマン的信仰共同体」(GGG) 2 11. 4. ナチ政権成立と新興宗教主義宗教運動の命運 12. 5. 1945年以降のドイツ新興宗教主義宗教運動 13. 6. 現代の宗教状況における新興宗教主義宗教運動 1 14. 現代の宗教状況における新興宗教主義宗教運動 2 15. IV まとめ 				
◇ 成績評価の方法	期末レポートによる。人数によっては、出席を加味する。				
◇ 教科書・参考書	テキストは用いない。 参考文献としては、G・L・モッセ『フェルキッシュ革命』(柏書房 1998) S・V・シュヌーアバイン『現代社会のカルト運動——ネオゲルマン異教』(恒星社厚生閣 2001) 深澤英隆『啓蒙と霊性——近代宗教言説の生成と変容』(岩波書店 2006) その他は授業にて紹介する。				
◇ 授業時間外学習	授業で紹介される参考図書を参照するとともに、各自の関心に基づき、宗教と社会や政治との関係を学ぶことが必要とされる。				
その他：ドイツ民族主義宗教運動というある意味で特殊な事例を扱う講義ですが、それ自身多様な側面をもち (宗教的、政治的、思想的、美学的等々)、また歴史的影響力も決して小さくありません。想像力をはたらかせて聞いて頂ければと思います。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
宗 教 学 研 究 演 習 I Science of Religion (Advanced Seminar) I	2	准教授 谷 山 洋 三	1 学期	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHU-RES606J																				
◆ 授業題目	英国におけるチャプレン（臨床宗教師）研究（Chaplaincy Studies in UK）																				
◆ 目的・概要	伝統的な宗教団体は社会の変化、特に世俗化への対応に苦慮している。チャプレン（臨床宗教師）の存在もそのような対応の一つとしてみなすことができる。授業では、英国でのチャプレンの実態とその研究動向を概観した研究書を輪読し、そこから読み取ることが出来る宗教と社会との関係性、社会における宗教の意義、宗教団体におけるチャプレンの意義について討論する。																				
◆ 到達目標	(1)チャプレンのあり方を通して、宗教と社会との関係性について考察する力を養う (2)英文の読解と発表の技法を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. Chaplaincy and Ethics : What does it mean to be a good chaplain ?</td> </tr> <tr> <td>2. Introduction to Chaplaincy Studies</td> <td>10. Multifaith Working</td> </tr> <tr> <td>3. Situating Chaplaincy in UK: The Acceptable Face of 'Religion' ?</td> <td>11. Managing Multifaith Spaces</td> </tr> <tr> <td>4. The Place of Chaplaincy in Public Life</td> <td>12. The Interface of Psychology and Spirituality in Care</td> </tr> <tr> <td>5. The Study of Chaplaincy : Methods and Materials</td> <td>13. Supervision, Support and Safe Practice</td> </tr> <tr> <td>6. Developing Practice-Based Evidence</td> <td>14. セント・クリストファーズ・ホスピスのチャプレン</td> </tr> <tr> <td>7. まとめと討論「チャプレンとは何か？」</td> <td>15. まとめと討論「チャプレン研究の視点」</td> </tr> <tr> <td>8. Chaplaincy and the Law</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. Chaplaincy and Ethics : What does it mean to be a good chaplain ?	2. Introduction to Chaplaincy Studies	10. Multifaith Working	3. Situating Chaplaincy in UK: The Acceptable Face of 'Religion' ?	11. Managing Multifaith Spaces	4. The Place of Chaplaincy in Public Life	12. The Interface of Psychology and Spirituality in Care	5. The Study of Chaplaincy : Methods and Materials	13. Supervision, Support and Safe Practice	6. Developing Practice-Based Evidence	14. セント・クリストファーズ・ホスピスのチャプレン	7. まとめと討論「チャプレンとは何か？」	15. まとめと討論「チャプレン研究の視点」	8. Chaplaincy and the Law	
1. オリエンテーション	9. Chaplaincy and Ethics : What does it mean to be a good chaplain ?																				
2. Introduction to Chaplaincy Studies	10. Multifaith Working																				
3. Situating Chaplaincy in UK: The Acceptable Face of 'Religion' ?	11. Managing Multifaith Spaces																				
4. The Place of Chaplaincy in Public Life	12. The Interface of Psychology and Spirituality in Care																				
5. The Study of Chaplaincy : Methods and Materials	13. Supervision, Support and Safe Practice																				
6. Developing Practice-Based Evidence	14. セント・クリストファーズ・ホスピスのチャプレン																				
7. まとめと討論「チャプレンとは何か？」	15. まとめと討論「チャプレン研究の視点」																				
8. Chaplaincy and the Law																					
◇ 成績評価の方法	出席 [50%]、発表 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	Christopher Swift, Mark Cobb and Andrew Todd eds. (2015) A Handbook of Chaplaincy Studies: Understanding Spiritual Care in Public Places, Surrey: Ashgate.																				
◇ 授業時間外学習	担当する章の発表準備をする他、担当がない時も毎回予習として当該箇所を精読すること。																				
その他：資料の準備については最初の授業時に指示する。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
宗 教 学 研 究 演 習 II Science of Religion (Advanced Seminar) II	2	准教授 谷 山 洋 三	2 学期	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHU-RES607J																				
◆ 授業題目	英国におけるチャプレン（臨床宗教師）研究（Chaplaincy Studies in UK）																				
◆ 目的・概要	伝統的な宗教団体は社会の変化、特に世俗化への対応に苦慮している。チャプレン（臨床宗教師）の存在もそのような対応の一つとしてみなすことができる。授業では、英国でのチャプレンの実態とその研究動向を概観した研究書を輪読し、そこから読み取ることが出来る宗教と社会との関係性、社会における宗教の意義、宗教団体におけるチャプレンの意義について討論する。																				
◆ 到達目標	(1)チャプレンのあり方を通して、宗教と社会との関係性について考察する力を養う (2)英文の読解と発表の技法を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. Prison Chaplaincy</td> </tr> <tr> <td>2. Health Care Chaplaincy</td> <td>10. Contextual Issues: Justice and Redemption</td> </tr> <tr> <td>3. Contextual Issues: Health and Healing</td> <td>11. Case Study in Prison</td> </tr> <tr> <td>4. Case Study in Health Care Settings</td> <td>12. Education Chaplaincy</td> </tr> <tr> <td>5. まとめと討論「ヘルスケア分野におけるチャプレンの意義」</td> <td>13. Contextual Issues: Learning and Human Flourishing</td> </tr> <tr> <td>6. Military Chaplaincy</td> <td>14. Case Study at School</td> </tr> <tr> <td>7. Contextual Issues: War and Peace</td> <td>15. まとめと討論「チャプレンを通して見る宗教と社会との関係」</td> </tr> <tr> <td>8. Case Study in Military Settings</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. Prison Chaplaincy	2. Health Care Chaplaincy	10. Contextual Issues: Justice and Redemption	3. Contextual Issues: Health and Healing	11. Case Study in Prison	4. Case Study in Health Care Settings	12. Education Chaplaincy	5. まとめと討論「ヘルスケア分野におけるチャプレンの意義」	13. Contextual Issues: Learning and Human Flourishing	6. Military Chaplaincy	14. Case Study at School	7. Contextual Issues: War and Peace	15. まとめと討論「チャプレンを通して見る宗教と社会との関係」	8. Case Study in Military Settings	
1. オリエンテーション	9. Prison Chaplaincy																				
2. Health Care Chaplaincy	10. Contextual Issues: Justice and Redemption																				
3. Contextual Issues: Health and Healing	11. Case Study in Prison																				
4. Case Study in Health Care Settings	12. Education Chaplaincy																				
5. まとめと討論「ヘルスケア分野におけるチャプレンの意義」	13. Contextual Issues: Learning and Human Flourishing																				
6. Military Chaplaincy	14. Case Study at School																				
7. Contextual Issues: War and Peace	15. まとめと討論「チャプレンを通して見る宗教と社会との関係」																				
8. Case Study in Military Settings																					
◇ 成績評価の方法	出席 [50%]、発表 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	Christopher Swift, Mark Cobb and Andrew Todd eds. (2015) A Handbook of Chaplaincy Studies: Understanding Spiritual Care in Public Places, Surrey: Ashgate.																				
◇ 授業時間外学習	担当する章の発表準備をする他、担当がない時も毎回予習として当該箇所を精読すること。																				
その他：資料の準備については最初の授業時に指示する。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
宗 教 学 研 究 演 習 Ⅲ Science of Religion (Advanced Seminar) Ⅲ	2	非常勤 講師	アンドリュース デール	1 学期	火 4																
◆ 科目ナンバリング	LHU-RES608E																				
◆ 授業題目	A Study of Religion, Food, and Eating in North America (A Study of Religion, Food, and Eating in North America)																				
◆ 目的・概要	In this class we will examine various examples of foodways from North America in connection with religious beliefs. We will explore what people eat, how they prepare their food, how they consume it, as well as the context of where and when they do so, in order to more fully comprehend the role of food in religious practice and everyday life. Although we focus on one particular region, in this case North America, we will be introduced to a variety of religious perspectives. This class will be conducted primarily in English.																				
◆ 到達目標	After completing this course, students should have acquired the following skills: (1) Be able to summarize English text. (2) Be able to make basic translations of English text. (3) Be able to express an opinion in English. (4) Be able to explain the features of religious foodways in North American. (5) Be able to explain the difference and similarities between North American foodways and that of their own culture.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Class Introduction</td> <td>9. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>2. Reading/discussion</td> <td>10. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>3. Reading/discussion</td> <td>11. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>4. Reading/discussion</td> <td>12. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>5. Reading/discussion</td> <td>13. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>6. Reading/discussion</td> <td>14. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>7. Reading/discussion</td> <td>15. Review</td> </tr> <tr> <td>8. Reading/discussion</td> <td></td> </tr> </table>					1. Class Introduction	9. Reading/discussion	2. Reading/discussion	10. Reading/discussion	3. Reading/discussion	11. Reading/discussion	4. Reading/discussion	12. Reading/discussion	5. Reading/discussion	13. Reading/discussion	6. Reading/discussion	14. Reading/discussion	7. Reading/discussion	15. Review	8. Reading/discussion	
1. Class Introduction	9. Reading/discussion																				
2. Reading/discussion	10. Reading/discussion																				
3. Reading/discussion	11. Reading/discussion																				
4. Reading/discussion	12. Reading/discussion																				
5. Reading/discussion	13. Reading/discussion																				
6. Reading/discussion	14. Reading/discussion																				
7. Reading/discussion	15. Review																				
8. Reading/discussion																					
◇ 成績評価の方法	Class exercises: 80%, Notebooks: 20%																				
◇ 教科書・参考書	"Religion, Food, & Eating in North America" Benjamin E. Zeller, Marie W. Dallam, Reid L. Neilson, Nora L. Rubel Eds., Columbia University Press, 2014.																				
◇ 授業時間外学習	3 to 5 hours per week of out of class study is required.																				
その他：Office hours: The instructor will be available before and after the scheduled class.																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
宗 教 学 研 究 演 習 Ⅳ Science of Religion (Advanced Seminar) Ⅳ	2	非常勤 講師	アンドリュース デール	2 学期	火 4																
◆ 科目ナンバリング	LHU-RES609E																				
◆ 授業題目	A Study of Religion, Food, and Eating in North America (A Study of Religion, Food, and Eating in North America)																				
◆ 目的・概要	In this class we will examine various examples of foodways from North America in connection with religious beliefs. We will explore what people eat, how they prepare their food, how they consume it, as well as the context of where and when they do so, in order to more fully comprehend the role of food in religious practice and everyday life. Although we focus on one particular region, in this case North America, we will be introduced to a variety of religious perspectives. This class will be conducted primarily in English. (The readings are a continuation from the first semester)																				
◆ 到達目標	After completing this course, students should have acquired the following skills: (1) Be able to summarize English text. (2) Be able to make basic translations of English text. (3) Be able to express an opinion in English. (4) Be able to explain the features of religious foodways in North American. (5) Be able to explain the difference and similarities between North American foodways and that of their own culture.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Class Introduction</td> <td>9. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>2. Reading/discussion</td> <td>10. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>3. Reading/discussion</td> <td>11. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>4. Reading/discussion</td> <td>12. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>5. Reading/discussion</td> <td>13. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>6. Reading/discussion</td> <td>14. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>7. Reading/discussion</td> <td>15. Review</td> </tr> <tr> <td>8. Reading/discussion</td> <td></td> </tr> </table>					1. Class Introduction	9. Reading/discussion	2. Reading/discussion	10. Reading/discussion	3. Reading/discussion	11. Reading/discussion	4. Reading/discussion	12. Reading/discussion	5. Reading/discussion	13. Reading/discussion	6. Reading/discussion	14. Reading/discussion	7. Reading/discussion	15. Review	8. Reading/discussion	
1. Class Introduction	9. Reading/discussion																				
2. Reading/discussion	10. Reading/discussion																				
3. Reading/discussion	11. Reading/discussion																				
4. Reading/discussion	12. Reading/discussion																				
5. Reading/discussion	13. Reading/discussion																				
6. Reading/discussion	14. Reading/discussion																				
7. Reading/discussion	15. Review																				
8. Reading/discussion																					
◇ 成績評価の方法	Class exercises: 80%, Notebooks: 20%																				
◇ 教科書・参考書	"Religion, Food, & Eating in North America" Benjamin E. Zeller, Marie W. Dallam, Reid L. Neilson, Nora L. Rubel Eds., Columbia University Press, 2014.																				
◇ 授業時間外学習	3 to 5 hours per week of out of class study is required.																				
その他：Office hours: The instructor will be available before and after the scheduled class.																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
宗 教 学 実 習 I Science of Religion (Field Work) I	2	教授 准教授 非常勤講師 木 村 敏 明 山 田 仁 史 高 倉 浩 樹	1 学期	月	5																
◆ 科目ナンバリング	LHU-RES610J																				
◆ 授業題目	宗教学調査法 (How to research religions: from planning to fieldwork)																				
◆ 目的・概要	他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必須である。本授業では、宗教調査の方法とスキルについて講義を通して学習し、夏季におこなう共同調査に向けて調査計画の立案を行う。																				
◆ 到達目標	(1)宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。 (2)調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 第八回：映像記録法 ③ 写真撮影実習</td> </tr> <tr> <td>2. 第一回：宗教学におけるデータとは</td> <td>10. 第九回：調査と研究の倫理</td> </tr> <tr> <td>3. 第二回：参与観察法</td> <td>11. 第十回：現地調査計画の立案</td> </tr> <tr> <td>4. 第三回：インタビュー調査法</td> <td>12. 第十一回：現地調査準備 ① 地域について知る</td> </tr> <tr> <td>5. 第四回：質問紙調査法</td> <td>13. 第十二回：現地調査準備 ② 先行研究をまとめる</td> </tr> <tr> <td>6. 第五回：文献調査法・情報検索法</td> <td>14. 第十三回：現地調査準備 ③ 質問項目を考える</td> </tr> <tr> <td>7. 第六回：映像記録法 ① 写真撮影の基本</td> <td>15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック</td> </tr> <tr> <td>8. 第七回：映像記録法 ② ビデオ撮影の基本</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 第八回：映像記録法 ③ 写真撮影実習	2. 第一回：宗教学におけるデータとは	10. 第九回：調査と研究の倫理	3. 第二回：参与観察法	11. 第十回：現地調査計画の立案	4. 第三回：インタビュー調査法	12. 第十一回：現地調査準備 ① 地域について知る	5. 第四回：質問紙調査法	13. 第十二回：現地調査準備 ② 先行研究をまとめる	6. 第五回：文献調査法・情報検索法	14. 第十三回：現地調査準備 ③ 質問項目を考える	7. 第六回：映像記録法 ① 写真撮影の基本	15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック	8. 第七回：映像記録法 ② ビデオ撮影の基本	
1. イントロダクション	9. 第八回：映像記録法 ③ 写真撮影実習																				
2. 第一回：宗教学におけるデータとは	10. 第九回：調査と研究の倫理																				
3. 第二回：参与観察法	11. 第十回：現地調査計画の立案																				
4. 第三回：インタビュー調査法	12. 第十一回：現地調査準備 ① 地域について知る																				
5. 第四回：質問紙調査法	13. 第十二回：現地調査準備 ② 先行研究をまとめる																				
6. 第五回：文献調査法・情報検索法	14. 第十三回：現地調査準備 ③ 質問項目を考える																				
7. 第六回：映像記録法 ① 写真撮影の基本	15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック																				
8. 第七回：映像記録法 ② ビデオ撮影の基本																					
◇ 成績評価の方法	授業時・実習時の発表、発言、貢献																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	授業中に指示された課題、準備。夏季に実施される合宿調査への参加。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																		
宗 教 学 実 習 II Science of Religion (Field Work) II	2	教授 准教授 非常勤講師 木 村 敏 明 山 田 仁 史 高 倉 浩 樹	2 学期	月	5																		
◆ 科目ナンバリング	LHU-RES611J																						
◆ 授業題目	宗教学調査法 (How to research religions: from planning to fieldwork)																						
◆ 目的・概要	他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必要である。本授業では、夏季に行われた宗教調査をもとにしてそのまとめ作業をおこなうとともに、冬期に予定された共同調査に向けて調査計画の立案をおこなう。																						
◆ 到達目標	(1)宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。 (2)調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション 後期授業の概要</td> <td>7. 第六回、前期調査成果発表準備 ② データの集約</td> </tr> <tr> <td>2. 第一回、前期調査のまとめ ① フェイスシート整理作業</td> <td>8. 第七回、前期調査成果発表準備 ③ スライド作成</td> </tr> <tr> <td>3. 第二回、前期調査のまとめ ② 聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業</td> <td>9. 第八回、前期調査成果発表準備 ④ 発表予行演習</td> </tr> <tr> <td>4. 第三回、前期調査のまとめ ③ 聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設</td> <td>10. 第九回、前期調査成果発表</td> </tr> <tr> <td>5. 第四回、前期調査のまとめ ④ 聞き取りデータ整理作業 民間信仰</td> <td>11. 第十回、現地調査計画の立案</td> </tr> <tr> <td>6. 第五回、前期調査成果発表準備 ① アウトライン作成</td> <td>12. 第十一回、現地調査準備 ① 地域について知る</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13. 第十二回、現地調査準備 ② 先行研究をまとめる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. 第十三回、現地調査準備 ③ 質問項目を考える</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 第十四回、まとめ、現地調査の最終チェック</td> </tr> </table>					1. イントロダクション 後期授業の概要	7. 第六回、前期調査成果発表準備 ② データの集約	2. 第一回、前期調査のまとめ ① フェイスシート整理作業	8. 第七回、前期調査成果発表準備 ③ スライド作成	3. 第二回、前期調査のまとめ ② 聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業	9. 第八回、前期調査成果発表準備 ④ 発表予行演習	4. 第三回、前期調査のまとめ ③ 聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設	10. 第九回、前期調査成果発表	5. 第四回、前期調査のまとめ ④ 聞き取りデータ整理作業 民間信仰	11. 第十回、現地調査計画の立案	6. 第五回、前期調査成果発表準備 ① アウトライン作成	12. 第十一回、現地調査準備 ① 地域について知る		13. 第十二回、現地調査準備 ② 先行研究をまとめる		14. 第十三回、現地調査準備 ③ 質問項目を考える		15. 第十四回、まとめ、現地調査の最終チェック
1. イントロダクション 後期授業の概要	7. 第六回、前期調査成果発表準備 ② データの集約																						
2. 第一回、前期調査のまとめ ① フェイスシート整理作業	8. 第七回、前期調査成果発表準備 ③ スライド作成																						
3. 第二回、前期調査のまとめ ② 聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業	9. 第八回、前期調査成果発表準備 ④ 発表予行演習																						
4. 第三回、前期調査のまとめ ③ 聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設	10. 第九回、前期調査成果発表																						
5. 第四回、前期調査のまとめ ④ 聞き取りデータ整理作業 民間信仰	11. 第十回、現地調査計画の立案																						
6. 第五回、前期調査成果発表準備 ① アウトライン作成	12. 第十一回、現地調査準備 ① 地域について知る																						
	13. 第十二回、現地調査準備 ② 先行研究をまとめる																						
	14. 第十三回、現地調査準備 ③ 質問項目を考える																						
	15. 第十四回、まとめ、現地調査の最終チェック																						
◇ 成績評価の方法	授業時・実習時の発表、発言、貢献																						
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。																						
◇ 授業時間外学習	授業中に指示された課題、準備。冬季に実施される現地調査への参加。																						
その他：																							

大学院共通科目一覧

授業科目	講義題目	単位	担当教員名	開講期	曜日	講時	頁
			氏名				
人文社会科学 研究	よりよい研究のための倫理	2	原 塑	1 学期	月	4	507
人文社会科学 研究	研究と実践の倫理	2	行場次郎・戸島貴志・阿部恒之 木村邦博・坂井信之・辻本昌弘 小林隆・小泉政利	2 学期	水	5	507
人文社会科学 研究	グリーンケア	2	谷 山 洋 三	1 学期	月	2	508
人文社会科学 研究	臨床死生学	2	谷 山 洋 三	1 学期	月	3	508
人文社会科学 研究	スピリチュアルケア	2	谷 山 洋 三	2 学期	月	3	509
人文社会科学 研究	宗教とスピリチュアリティ	2	高 橋 原	2 学期	水	3	509
人文社会科学 研究	喪失体験とそのケア	2	高谷 橋山 洋 原三	1 学期	木	5	510
人文社会科学 研究	実践宗教学試論～宗教者によるケア実践	2	高木 橋村山 敏洋 原明三	2 学期	木	5	510
人文社会科学 研究	パズルで学ぶ論理学	2	村 上 祐 子	1 学期	水	3	511
人文社会科学 研究	囲碁を通して知る日本文化	2	村 上 祐 子	2 学期	水	3	511
人文社会科学 研究	日本社会の問題	2	村 上 祐 子	1 学期	水	4	512
人文社会科学 研究	日本の生活文化	2	村 上 祐 子	2 学期	水	4	512
人文社会科学 研究	前近代日本の歴史	2	クレイグ クリストファー	1 学期	火	2	513
人文社会科学 研究	日本史基礎文献講読	2	クレイグ クリストファー	1 学期	火	3	513
人文社会科学 研究	日本文化と社会	2	クレイグ クリストファー	2 学期	火	2	514
英語研究論文作成法	Advanced Academic Writing I	2	㊦ マックス フィリップス	1 学期	水	4	514
英語研究論文作成法	Advanced Academic Writing II	2	㊦ マックス フィリップス	集中 (1 学期)			515
日本語研究論文作成法	日本語表現論 I	2	高 橋 章 則	1 学期	木	2	515
日本語研究論文作成法	日本語表現論 II	2	高 橋 章 則	2 学期	木	2	516
日本文化研究演習	古典講読 I	2	高 橋 章 則	1 学期	月	2	516
日本文化研究演習	古典講読 II	2	高 橋 章 則	2 学期	月	2	517
日本文化研究演習	現代評論講読 I	2	高 橋 章 則	1 学期	水	2	517

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	准教授	原 壘	1 学期	月	4
◆ 科目ナンバリング	LAL-OHS501J					
◆ 授業題目	よりよい研究のための倫理 (Research Ethics and Research Integrity)					
◆ 目的・概要	人文社会科学・自然科学の研究成果は、人々の幸福や社会の発展に大きく貢献していますが、その一方で、研究やその成果が、人々を傷つけるものであったり、あるいは、人々を誤った仕方でもたらすこともあります。そのため、研究に従事する人々（大学生や大学院生を含みます）は、倫理的・手続き的に正しい仕方で行う責任を負っています。この授業では、大学生や大学院生が、よい研究者になるために、どのような仕方でもらうのが望ましいのか、また望ましくないのかを学ぶことを目的とします。					
◆ 到達目標	この授業は講義とワークショップという二つのパートからなります。講義では、まず研究倫理を概観した後で、その中の幾つかのトピック（査読、利益相反、軍事研究など）を深く議論します。ワークショップでは、受講者は「よい研究者」になるための方策や条件を、グループワークを行うことで考察していきます。 この授業は、総合研究大学院大学「科学と社会」教育プログラム、本学理学研究科本堂研究室、成城大学標葉研究室、サイエンスライター内田麻理香氏との共同で実施します。					
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. インタロダクション 2. 実験研究の倫理 3. フィールド研究の倫理 4. 文献研究の倫理 5. 科学者の責任 6. ビアレビュー 7. 研究の再現性 8. 利益相反 9. 軍事研究 10. 研究に関するワークショップ 1 11. 研究に関するワークショップ 2 12. 研究に関するワークショップ 3 13. 研究に関するワークショップ 4 14. 研究に関するワークショップ 5 15. 研究に関するワークショップ 6 					
◇ 成績評価の方法	授業中の討論やワークショップへの参加（60%）、レポートの提出（40%）					
◇ 教科書・参考書	日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会編『科学の健全な発展のために 誠実な科学者の心得』丸善出版、2015年					
◇ 授業時間外学習	CITI Japan や学術振興会などが提供する研究倫理 e-learning を受講することを強くお勧めします。					
ワークショップは学期中2日間を使って、集中して行います。ワークショップの開催日程を決めるため、初回の授業（4月10日に実施）その他：に必ず出席してください。初回の授業に出席することができない場合には、講義担当者の原壘（電子メール：plastikfeld@gmail.com）に電子メール等で連絡してください。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	教授 准教授	行場 次朗・戸島貴代志・阿部 恒之 木村 邦博・小林 隆・小泉 政利 坂井 信之 辻本 昌弘	2 学期	水	5
◆ 科目ナンバリング	LAL-OHS501J					
◆ 授業題目	研究と実践の倫理 (Ethical problems in research and practical activities)					
◆ 目的・概要	人文社会科学の分野で行われている複数の研究手法である調査、実験、フィールドワーク、聞き取り調査、歴史資料の収集や、研究不正などに関わる倫理的諸問題を複数教員が担当して解説する。					
◆ 到達目標	人文社会科学の諸分野における研究と、その知識に基づく社会的実践の場における倫理の基礎を理解する。					
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 人間と技術 3. 科学と倫理 4. 人を対象とした実験研究における倫理 5. 動物を対象とした実験研究における倫理 6. 社会心理学実験における倫理 7. 社会調査研究に必要な実践的問題と倫理 8. 調査研究における倫理問題の国内外の動向 9. 企業における研究・特許等の問題について 10. フィールドワークにおける倫理の問題 11. 海外でのフィールドワークの注意点 12. 聞き取り調査の実践と倫理の諸問題 13. 研究倫理の国内外の動向 14. 研究不正の防止と対応 15. 全体のまとめとレビュー 					
◇ 成績評価の方法	出席 40%、レポート 60%					
◇ 教科書・参考書	授業時に指示する。					
◇ 授業時間外学習	それぞれの担当教員の授業によっては、小レポート課題を出すことがある。成績評価の対象となる学期末のレポートについては、準備に時間がかかるので、ノートの整理や、指示された、あるいは関連する参考資料をあらかじめ収集しておくこと。					
その他：						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	准教授 谷 山 洋 三	1 学期	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LAL-OHS501J																				
◆ 授業題目	グリーフケア (Grief and Bereavement Care)																				
◆ 目的・概要	死別による悲嘆は誰もが経験することであり、特に東日本大震災など様々な災害を経験した私たちにとっては、避けられない重要なテーマである。悲嘆を抱えた人には多様な側面からの支援が必要であるが、その中で特にグリーフケアについて考察する。授業では、毎回終了前に小レポートを提出してもらい、次の授業で討論を行いたい。																				
◆ 到達目標	悲嘆とその対応の一つとしてのグリーフケアについて基礎知識を得る																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 「あの世」を身近なものにする？</td> </tr> <tr> <td>2. 死別は誰もが経験すること</td> <td>10. 悲しむためにも健やかに</td> </tr> <tr> <td>3. 死を受け止めることがむずかしい時代</td> <td>11. 一歩を踏み出すとき</td> </tr> <tr> <td>4. 悲嘆は病気なのか？</td> <td>12. 身近な人が苦しんでいたら</td> </tr> <tr> <td>5. 悲しみは身体をも損なう</td> <td>13. 悲しみと折り合いながら生きる</td> </tr> <tr> <td>6. 亡き人の死の意味を決めるのは？</td> <td>14. ワークショップ「あいまいな喪失」</td> </tr> <tr> <td>7. 死別に向き合うプロセス</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. それでも生活をしなくてはいけない</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 「あの世」を身近なものにする？	2. 死別は誰もが経験すること	10. 悲しむためにも健やかに	3. 死を受け止めることがむずかしい時代	11. 一歩を踏み出すとき	4. 悲嘆は病気なのか？	12. 身近な人が苦しんでいたら	5. 悲しみは身体をも損なう	13. 悲しみと折り合いながら生きる	6. 亡き人の死の意味を決めるのは？	14. ワークショップ「あいまいな喪失」	7. 死別に向き合うプロセス	15. まとめ	8. それでも生活をしなくてはいけない	
1. オリエンテーション	9. 「あの世」を身近なものにする？																				
2. 死別は誰もが経験すること	10. 悲しむためにも健やかに																				
3. 死を受け止めることがむずかしい時代	11. 一歩を踏み出すとき																				
4. 悲嘆は病気なのか？	12. 身近な人が苦しんでいたら																				
5. 悲しみは身体をも損なう	13. 悲しみと折り合いながら生きる																				
6. 亡き人の死の意味を決めるのは？	14. ワークショップ「あいまいな喪失」																				
7. 死別に向き合うプロセス	15. まとめ																				
8. それでも生活をしなくてはいけない																					
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]、出席・討論への参加等 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書 (必ず購入してください)：坂口幸弘『死別の悲しみに向き合う グリーフケアとは何か』講談社現代新書、2012年 (760円+税)。 参考書：坂口幸弘『悲嘆学入門 死別の悲しみを学ぶ』昭和堂、2010年。高木慶子・山本佳世子『悲嘆の中にある人に心を寄せて -人は悲しみとどう向かい合っていくのか-』上智大学出版、2014年。																				
◇ 授業時間外学習	予習：事前に指示した教科書の範囲を精読する 復習：身近な人のグリーフケアの場面を想定して授業で学んだことについて考察する																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	准教授 谷 山 洋 三	1 学期	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LAL-OHS501J																				
◆ 授業題目	臨床死生学 (Clinical Thanatology)																				
◆ 目的・概要	人生において死は避けられないものであり、私たちは他者 (二人称：身近な人、三人称：無関係な人) の死を経験しながら、自己 (一人称) の死の準備をしている。特に、医療・福祉の臨床においては倫理的課題を含む諸問題があり、哲学、倫理学、宗教学、そして宗教者の立場からも意見が求められている。授業では、代表的な宗教的死生観だけでなく、世俗的な現代人の死生観を参考にしつつ、ロールプレイで当事者や援助者の立場を疑似体験するなど、具体的な諸問題について考察したい。授業では、毎回終了前に小レポートを提出してもらい、次の授業で討論を行いたい。																				
◆ 到達目標	(1)医療・福祉の臨床における死に関する諸問題について学ぶ (2)様々な死生観を通して、自分自身の死生観を涵養する																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 生と死の医学</td> </tr> <tr> <td>2. 教理仏教と生活仏教の死生観</td> <td>10. 愛する人を見送るために</td> </tr> <tr> <td>3. 神道・儒教・キリスト教の死生観</td> <td>11. 地域包括ケアシステム</td> </tr> <tr> <td>4. ディスカッション ① 死生観</td> <td>12. DVD Living Will</td> </tr> <tr> <td>5. 死生学とホスピス運動</td> <td>13. ロールプレイ 平穏死</td> </tr> <tr> <td>6. 死を巡るわが国の現状</td> <td>14. ロールプレイ振り返り</td> </tr> <tr> <td>7. 尊厳死・安楽死</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 高齢社会における「平穏死」</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 生と死の医学	2. 教理仏教と生活仏教の死生観	10. 愛する人を見送るために	3. 神道・儒教・キリスト教の死生観	11. 地域包括ケアシステム	4. ディスカッション ① 死生観	12. DVD Living Will	5. 死生学とホスピス運動	13. ロールプレイ 平穏死	6. 死を巡るわが国の現状	14. ロールプレイ振り返り	7. 尊厳死・安楽死	15. まとめ	8. 高齢社会における「平穏死」	
1. オリエンテーション	9. 生と死の医学																				
2. 教理仏教と生活仏教の死生観	10. 愛する人を見送るために																				
3. 神道・儒教・キリスト教の死生観	11. 地域包括ケアシステム																				
4. ディスカッション ① 死生観	12. DVD Living Will																				
5. 死生学とホスピス運動	13. ロールプレイ 平穏死																				
6. 死を巡るわが国の現状	14. ロールプレイ振り返り																				
7. 尊厳死・安楽死	15. まとめ																				
8. 高齢社会における「平穏死」																					
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]、出席・討論への参加等 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	参考書：清水哲郎／島藺進 (編)『ケア従事者のための死生学』ヌーヴェルヒロカワ、2010年。清水哲郎 (監修)、岡部健／竹之内裕文 (編)『どう生き どう死ぬか 現場から考える死生学』弓箭書院、2009年																				
◇ 授業時間外学習	授業で学んだことを、自分自身が関係する課題として想定し、深く思索することが復習になる。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	准教授 谷 山 洋 三	2 学期	月	3
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LAL-OHS501J スピリチュアルケア (Spiritual Care) スピリチュアルケアは、ホスピス運動に伴って日本に紹介され、緩和ケアの領域においては一定の理解を得られているものの、定着しているとはいいがたい。宗教的ケアは、欧米では「パストラルケア」としてキリスト者によって提供されてきたが、視点を替えれば、日本でも仏教、神道などでも概念化されないまま伝統的に実践されて来たと言うこともできる。複数の代表的な専門家の見解を紹介しこの2つのケアの内容、相違点、共通点などについて考察する。また、体験的なワークを通して擬似的にスピリチュアルケア、宗教的ケアを体験することで、理解を深めたい。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	スピリチュアルケア、宗教的ケアについて基礎知識を得る 1. オリエンテーション 2. チャプレンとビハーラ僧 3. 「臨床宗教師」の誕生 4. 生活の中にある心のケア 5. スピリチュアルペイン 6. スピリチュアルな探求 7. 「支える」「気付いてもらう」スピリチュアルケア 8. 「新しい枠組みを作る」「無力による」スピリチュアルケア 9. 宗教的資源の活用 10. 宗教的ケア 11. 臨床宗教師の可能性 12. 臨床宗教師の資質 13. ワークショップ「死の体験」 14. ワークショップ振り返り 15. まとめ				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書	レポート [50%]、出席・討論への参加等 [50%] 教科書 (必ず購入してください)：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア：臨床宗教師の視点から』中外医学社、2016年 (2600円+税) 参考書：鎌田東二 (編)『講座スピリチュアル学第1巻 スピリチュアルケア』ビーイング・ネット・プレス、2014年				
◇ 授業時間外学習	予習：事前に指示した教科書の範囲を精読する 復習：授業で学んだことについて、実際の場面を想像しながら考察する				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	教授 高 橋 原	2 学期	水	3
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LAL-OHS501J 宗教とスピリチュアリティ (Religion and Spirituality) スピリチュアリティと宗教について対人的ケアとの関係から考察し、また、日本的スピリチュアリティの現れ方について考えを深める。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	スピリチュアリティとは何か、宗教やケアとの関係から自分なりに説明できるようにする。 1. イントロダクション スピリチュアリティとは何か 2. スピリチュアリティと宗教 3. William Jamesとスピリチュアリティ 4. James Hillmanの思想とスピリチュアリティ 5. 死を取り巻く諸現象とスピリチュアリティ 6. キューブラ=ロスと臨死体験 7. お迎え現象 8. 心霊現象 9. ケアにおけるスピリチュアリティ 10. 支援者としての宗教者とスピリチュアリティ 11. 日本的スピリチュアリティ (1) 嘲風・梁川 12. 日本的スピリチュアリティ (2) 煩悶青年の宗教体験 13. 日本的スピリチュアリティ (3) 遠藤周作の作品とスピリチュアリティ 14. 補論 (1) 15. 補論 (2)				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	期末レポートによる。授業内で小レポートを課す場合もある。 適宜、授業内で指示する。 授業内で指示する参考文献により理解を深める。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	教授 准教授 高 橋 原 谷 山 洋 三	1 学期	木	5
◆ 科目ナンバリング	LAL-OHS501J				
◆ 授業題目	喪失体験とそのケア (Experience of Loss and its care)				
◆ 目的・概要	文献講読により、さまざまな喪失体験とそのケアについて学び、宗教者による支援の可能性も合わせて検討する。				
◆ 到達目標	誰もが人生のいずれかの場面において遭遇する喪失体験、死と別れについて理解し、文化の中でどのような対処が可能なのかを理解する。				
◆ 授業内容・方法	1. 対話する死生学 喪失とともに生きるために 2. グリーフカウンセリングの現場から 3. 日本におけるグリーフケアカウンセラー 4. グリーフサポートと民俗 5. こどものいのちを看取ること 小児救急の現場から 6. 寄り添いの変容 一世紀を経た二つの手記より 7. こどもを看取る家族への看護 8. 生を享けること、失うこと 周産期医療の現場から 9. 死産を経験した家族に対するサポート	10. 幼い子を失った親の経験について 11. 老病死に向き合う人から学ぶ 終末期ケアの現場から 12. 「自分を失うこと」とどう向き合うか「ホスピタル」 はいかに「病院」となったか 13. ホームを失って生きる 路上生活者の語りから 14. がんが教えてくれたこと 患者・看護師としての体験から 15. 自他の喪失を支えるつながり グリーフから希望を			
◇ 成績評価の方法	出席回数と授業の発言などから総合的に評価する。				
◇ 教科書・参考書	『喪失とともに生きる—対話する死生学』 (竹之内裕文/浅原聡子編) ポラーノ出版 他、適宜授業内で指示する。				
◇ 授業時間外学習	授業内で指示する参考文献により理解を深める。				
その他：この授業は文献講読である。毎回担当者を決めて、テキストの要約とコメントをし、続いて全員で議論を行う。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	教授 教授 准教授 高 橋 原 木 村 敏 谷 山 洋 明 三	2 学期	木	5
◆ 科目ナンバリング	LAL-OHS501J				
◆ 授業題目	実践宗教学試論～宗教者によるケア実践 (Practice of care by religious specialists)				
◆ 目的・概要	宗教者が公共空間でケア従事者の役割を果たすために何が 필요한のか。生老病死をめぐる現代日本社会の諸状況を踏まえて課題と可能性を学ぶ。				
◆ 到達目標	さまざまな実践例から、ケアの諸相を理解し、現代日本社会が直面している問題について理解する。				
◆ 授業内容・方法	1. 【各回の内容、担当講師の詳細は未定です。決定し次第 第掲示等で告知します。】 臨床宗教師の理念 2. グリーフケアと宗教 3. カフェ・デ・モンク (宗教者による被災地支援の実情) 4. スピリチュアルケアと宗教的ケア 5. 終末期医療と宗教者 6. 原発事故被害と宗教者の役割 7. 民間信仰論	8. 宗教間対話 9. 臨床宗教師の実践報告 (1) 10. 臨床宗教師の実践報告 (2) 11. 臨床宗教師の実践報告 (3) 12. 臨床宗教師の実践報告 (4) 13. 臨床宗教師の実践報告 (5) 14. 臨床宗教師の実践報告 (6) 15. 臨床宗教師の実践報告 (7)			
◇ 成績評価の方法	出席回数、毎回提出のコメントによる。				
◇ 教科書・参考書	特に指定しないが授業内で適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	授業内で指示する参考文献等で学習を深める。				
その他：この講義はオムニバス形式である。 本学教員による講義のほか、ケア従事者として働く宗教者などをゲストに招いて、さまざまな実践報告をしていただく。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	准教授 村上 祐 子	1 学期	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LAL-OHS501E																				
◆ 授業題目	パズルで学ぶ論理学 (Logic via puzzle)																				
◆ 目的・概要	The course aims to provide introduction to mathematical logic: propositional logic and some first-order logic. The final goal is completeness theorem which will be taught in the winter semester. Successful students will understand logic in a unified way which the author gave brilliantly via logical puzzles. It is not an easy class, however. Students must give solutions by themselves with pier supports. The official language in this class is English.																				
◆ 到達目標	The course aims to introduce mathematical logic via puzzles up to understanding of tableaux method. No prerequisite knowledge is needed, but familiarity with critical thinking, college-level mathematics, or programming will help.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Introduction. Puzzles.</td> <td>9. Chapter 11-12</td> </tr> <tr> <td>2. Chapters 1-2 Puzzles</td> <td>10. Chapter 13</td> </tr> <tr> <td>3. Chapters 3-5 Puzzles</td> <td>11. Chapter 14</td> </tr> <tr> <td>4. Chapters 6. Review of chapters 1-5.</td> <td>12. Chapter 15</td> </tr> <tr> <td>5. Chapter 7</td> <td>13. Chapter 16</td> </tr> <tr> <td>6. Chapter 7</td> <td>14. Chapter 17</td> </tr> <tr> <td>7. Chapter 8-9</td> <td>15. Wrap-up</td> </tr> <tr> <td>8. Chapter 10</td> <td></td> </tr> </table>					1. Introduction. Puzzles.	9. Chapter 11-12	2. Chapters 1-2 Puzzles	10. Chapter 13	3. Chapters 3-5 Puzzles	11. Chapter 14	4. Chapters 6. Review of chapters 1-5.	12. Chapter 15	5. Chapter 7	13. Chapter 16	6. Chapter 7	14. Chapter 17	7. Chapter 8-9	15. Wrap-up	8. Chapter 10	
1. Introduction. Puzzles.	9. Chapter 11-12																				
2. Chapters 1-2 Puzzles	10. Chapter 13																				
3. Chapters 3-5 Puzzles	11. Chapter 14																				
4. Chapters 6. Review of chapters 1-5.	12. Chapter 15																				
5. Chapter 7	13. Chapter 16																				
6. Chapter 7	14. Chapter 17																				
7. Chapter 8-9	15. Wrap-up																				
8. Chapter 10																					
◇ 成績評価の方法	100% In-class discussion and problems. Every student is expected to work on exercises in the textbook.																				
◇ 教科書・参考書	Raymond Smullyan, Logical Labyrinth, Taylor and Francis. ISBN 97815688144 日本語訳：スマリヤン「記号論理学」「数理論理学」丸善出版																				
◇ 授業時間外学習	It is essential to read the textbook and solve exercises before attending classes. Students will need review of concepts and theoretical treatments.																				
その他：This course is also offered as an IPLA course.																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	准教授 村上 祐 子	2 学期	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LAL-OHS501J																				
◆ 授業題目	囲碁を通して知る日本文化 (Japanese culture through go)																				
◆ 目的・概要	There are three sorts of class activities. First of all, students are to learn to play Go. They need to know the rules. Quizzes will examine whether they can write down the rules in an everyday language (either in English or in Japanese). Second, they are to learn strategies and techniques to play Go. Due to class time restriction, the game board in class is limited to the smallest 4 by 4 board, although the strategies are different from those for the full 19 by 19 board. Moreover, there is an iPhone/iPad app, Cho U's 4 by 4 Go Puzzle to help students to practice out of the classroom. They are also expected to play the game in and out of the classroom. Finally, some lecture and discussion on cultural aspects of the game. Proverbs, myths, and historical episodes will be explained. Students are to offer a presentation about cultural influences of a game in their home country.																				
◆ 到達目標	To understand cultural influences of games especially in Japanese culture.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Introduction. Some game rules (territory, the winning condition, how to capture stones). Practice games.</td> <td>8. Student presentations (3)</td> </tr> <tr> <td>2. Practice games and Introduction to strategy. (1)</td> <td>9. Student presentations (4)</td> </tr> <tr> <td>3. Practice games and Introduction to strategy. (2)</td> <td>10. Games in Japanese society (1)</td> </tr> <tr> <td>4. Practice games and Introduction to strategy. (3)</td> <td>11. Games in Japanese society (2)</td> </tr> <tr> <td>5. Cultural influences of Go in Japan. Strategy (4)</td> <td>12. Games in Japanese society (3)</td> </tr> <tr> <td>6. Student presentations (1)</td> <td>13. Games in Japanese society (4)</td> </tr> <tr> <td>7. Student presentations (2)</td> <td>14. Study visit to Gokaisho.</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. Wrap-up.</td> </tr> </table>					1. Introduction. Some game rules (territory, the winning condition, how to capture stones). Practice games.	8. Student presentations (3)	2. Practice games and Introduction to strategy. (1)	9. Student presentations (4)	3. Practice games and Introduction to strategy. (2)	10. Games in Japanese society (1)	4. Practice games and Introduction to strategy. (3)	11. Games in Japanese society (2)	5. Cultural influences of Go in Japan. Strategy (4)	12. Games in Japanese society (3)	6. Student presentations (1)	13. Games in Japanese society (4)	7. Student presentations (2)	14. Study visit to Gokaisho.		15. Wrap-up.
1. Introduction. Some game rules (territory, the winning condition, how to capture stones). Practice games.	8. Student presentations (3)																				
2. Practice games and Introduction to strategy. (1)	9. Student presentations (4)																				
3. Practice games and Introduction to strategy. (2)	10. Games in Japanese society (1)																				
4. Practice games and Introduction to strategy. (3)	11. Games in Japanese society (2)																				
5. Cultural influences of Go in Japan. Strategy (4)	12. Games in Japanese society (3)																				
6. Student presentations (1)	13. Games in Japanese society (4)																				
7. Student presentations (2)	14. Study visit to Gokaisho.																				
	15. Wrap-up.																				
◇ 成績評価の方法	100% class participation (including student presentations and quizzes).																				
◇ 教科書・参考書	Cho U (Chang Hsu) (2011) Yonro no Go (in Japanese) Gento Sha Educational. ISBN: 978-4-344-97587-3 http://www.gentosha-edu.co.jp/products/post-95.html Optional app: Nihon Kiin. Cho U's 4 by 4 Go Puzzle. (iPhone/iPad app. Available in Japanese, English, Chinese, and Korean) https://itunes.apple.com/app/ri-ben-qi-yuan-zhang-xuno/id517153034?mt=8																				
◇ 授業時間外学習	To research cultural material about games according to instructions in class. The course is conducted in English as it is also offered as an IPLA course.																				
その他：The course is conducted in English as it is also offered as an IPLA course.																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	准教授 村上 祐子	1 学期	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LAL-OHS501B																				
◆ 授業題目	日本社会の問題 (Social issues of Japan)																				
◆ 目的・概要	The course will focus on social and cultural issues in Japan with comparative perspectives. Japanese students are expected to describe cultural characteristics of their home region in English, while international students are to share their own experiences in home country. Instructors will facilitate discussion which follows introductory explanations. The official language is English as Yuko Murakami and Alejandro Angee jointly teach the course.																				
◆ 到達目標	To grasp points of cultural comparison. To realize implicit assumptions in students' ideas of their own culture and society. To get prepared for intercultural communication.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Introduction</td> <td>9. Career-choices and mobility (2)</td> </tr> <tr> <td>2. Gender issues (1)</td> <td>10. Career-choices and mobility (3)</td> </tr> <tr> <td>3. Gender issues (2)</td> <td>11. Family (1)</td> </tr> <tr> <td>4. Gender issues (3)</td> <td>12. Family (2)</td> </tr> <tr> <td>5. Education and social backgrounds (1)</td> <td>13. Family (3)</td> </tr> <tr> <td>6. Education and social backgrounds (2)</td> <td>14. Wrap-up (1)</td> </tr> <tr> <td>7. Education and social backgrounds (3)</td> <td>15. Wrap-up (2)</td> </tr> <tr> <td>8. Career-choices and mobility (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. Introduction	9. Career-choices and mobility (2)	2. Gender issues (1)	10. Career-choices and mobility (3)	3. Gender issues (2)	11. Family (1)	4. Gender issues (3)	12. Family (2)	5. Education and social backgrounds (1)	13. Family (3)	6. Education and social backgrounds (2)	14. Wrap-up (1)	7. Education and social backgrounds (3)	15. Wrap-up (2)	8. Career-choices and mobility (1)	
1. Introduction	9. Career-choices and mobility (2)																				
2. Gender issues (1)	10. Career-choices and mobility (3)																				
3. Gender issues (2)	11. Family (1)																				
4. Gender issues (3)	12. Family (2)																				
5. Education and social backgrounds (1)	13. Family (3)																				
6. Education and social backgrounds (2)	14. Wrap-up (1)																				
7. Education and social backgrounds (3)	15. Wrap-up (2)																				
8. Career-choices and mobility (1)																					
◇ 成績評価の方法	In-class participation 50%, homework 50%																				
◇ 教科書・参考書	Instructed in class.																				
◇ 授業時間外学習	Students are expected to discuss the issues out of the classroom.																				
その他：The course is also offered as an IPLA course.																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	准教授 村上 祐子	2 学期	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LAL-OHS501J																				
◆ 授業題目	日本の生活文化 (Japanese everyday life)																				
◆ 目的・概要	日本人・留学生どちらも歓迎です。自分が海外に留学して生活するとしたら、事前に、また滞在中にどのような情報が欲しいでしょうか？いまそこにある情報で十分でしょうか？逆に海外の方に来てほしいとしたら、何をアピールしたいでしょうか？もう各種メディアで紹介されているいろいろな魅力のほかに、地元にいるからわかっていて教えてあげたい魅力はありませんか？この授業では日常的な情報を外国語で海外に発信するプロジェクトに取り組みます。学内外の魅力について、パンフレットを作成し、プレゼンテーションする演習を行います。留学生の方は日本について自分が欲しかった情報を教えてください。自分の後輩に日本や仙台を紹介するとしたら、どのポイントを選びますか？ また授業時間外に海外からのゲストと話す機会もお知らせしますので、ぜひ参加してください。 使用言語は参加者に応じて日本語と英語のどちらかまたは両方となります。前期との連続履修は可としますが、前期に取り組みなかったトピックを選んでください。 日本語・外国語でのコミュニケーションスキル・プレゼンテーションスキルを磨く。																				
◆ 到達目標																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション。 課題 1 説明。ディスカッション。</td> <td>8. 課題 2 (1)</td> </tr> <tr> <td>2. 課題 1 (1)</td> <td>9. 課題 2 (2)</td> </tr> <tr> <td>3. 課題 1 (2)</td> <td>10. 課題 2 (3)</td> </tr> <tr> <td>4. 課題 1 (3)</td> <td>11. 課題 2 発表 (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 課題 1 (4)</td> <td>12. 課題 2 発表 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 課題 1 発表 (1)</td> <td>13. 実習 1</td> </tr> <tr> <td>7. 課題 1 発表 (2)、課題 2 説明</td> <td>14. 実習 2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ</td> </tr> </table>					1. イントロダクション。 課題 1 説明。ディスカッション。	8. 課題 2 (1)	2. 課題 1 (1)	9. 課題 2 (2)	3. 課題 1 (2)	10. 課題 2 (3)	4. 課題 1 (3)	11. 課題 2 発表 (1)	5. 課題 1 (4)	12. 課題 2 発表 (2)	6. 課題 1 発表 (1)	13. 実習 1	7. 課題 1 発表 (2)、課題 2 説明	14. 実習 2		15. まとめ
1. イントロダクション。 課題 1 説明。ディスカッション。	8. 課題 2 (1)																				
2. 課題 1 (1)	9. 課題 2 (2)																				
3. 課題 1 (2)	10. 課題 2 (3)																				
4. 課題 1 (3)	11. 課題 2 発表 (1)																				
5. 課題 1 (4)	12. 課題 2 発表 (2)																				
6. 課題 1 発表 (1)	13. 実習 1																				
7. 課題 1 発表 (2)、課題 2 説明	14. 実習 2																				
	15. まとめ																				
◇ 成績評価の方法	100% class participation (including in-class quizzes) 100% 授業参加 (小テストあり)																				
◇ 教科書・参考書	授業内で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	Problems in the textbook will be assigned for homework to prepare for in-class discussion.																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	准教授 クレイグ クリストファー	1 学期	火	2
◆ 科目ナンバリング	LAL-OHS501E				
◆ 授業題目	前近代日本の歴史 (Premodern Japanese History)				
◆ 目的・概要	<p>授業は、古代から江戸時代までという期間を中心として、日本の前近代の歴史を紹介する。日本史に関する最近の英語で書かれた文献を紹介して、それを資料として質疑応答などし歴史学の考え方を学ぶ。</p> <p>日本史の英語文献を読み、英語で論文を作成することにより、英語圏のアカデミックな日本史を学ぶだけではなく、英論文作成を学ぶことができる。</p> <p>This course covers Japanese history from its earliest origins to the founding of the Edo bakufu, with a focus on the country's history as one aspect of world history. Students will read widely from recent English-language historical scholarship and develop their skills as historians and writers through written responses.</p>				
◆ 到達目標	<p>前近代日本史に関する歴史学的な問題や主要な文献を意識する。英語での歴史学のあり方を理解する。</p> <p>The primary goal of the class is for students to gain familiarity with the major historical issues connected to premodern Japan and the important works of English-language scholarship on these issues.</p>				
◆ 授業内容・方法	<p>1. (Note: Lecture topics may change over the course of the semester)</p> <p>Introduction: Imperial Origins and the Early State</p> <p>2. Continental Connections</p> <p>3. The Heian Court and the Fujiwara Regents</p> <p>4. Property, Peripheries, and Population</p> <p>5. Heian High Culture</p> <p>6. Teeth and Claws: The Birth of the Samurai</p> <p>7. Minamoto and Taira: War Stories</p> <p>8. The Kamakura Bakufu</p> <p>9. Medieval Culture</p> <p>10. Challenges and Decay</p> <p>11. Smashing the Order: The Muromachi Bakufu</p> <p>12. Warring States</p> <p>13. Foreign Encounters</p> <p>14. The Unifiers</p> <p>15. The Edo Order</p>				
◇ 成績評価の方法	2 回のリアクション・ペーパー [40%]・最終日のテスト [40%]・出席 [20%]				
◇ 教科書・参考書	2 reading response papers [40%], Final exam [40%], Attendance [20%]				
◇ 授業時間外学習	<p>各時間に適宜資料を配布する。</p> <p>Readings will be distributed for each class.</p> <p>各時間の前に適宜資料を読む。2回資料のリアクション・ペーパーを書く。</p> <p>Class readings are to be completed before class meetings.</p> <p>2 reading responses are to be submitted during the semester.</p>				
その他：This class is taught in English. All readings are in English and all assignments and tests are to be submitted in English.					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	准教授 クレイグ クリストファー	1 学期	火	3
◆ 科目ナンバリング	LAL-OHS501E				
◆ 授業題目	日本史基礎文献講読 (Reading and Translation Fundamentals for Japanese History)				
◆ 目的・概要	<p>Using student reading and translation presentations, this class aims at providing basic skills and practice in reading and translating Japanese academic history writing. Class will consist of reading/translation assignments and in-class presentations and discussion of issues concerning comprehension and translation.</p>				
◆ 到達目標	<p>The purpose of this class is to provide a basis in reading and translation for future work involving academic, particularly historical, works in Japanese.</p>				
◆ 授業内容・方法	<p>1. Class introduction</p> <p>Introduction to source material</p> <p>2. Reading and translation presentation</p> <p>3. Reading and translation presentation</p> <p>4. Reading and translation presentation</p> <p>5. Reading and translation presentation</p> <p>6. Reading and translation presentation</p> <p>7. Reading and translation presentation</p> <p>8. Reading and translation presentation</p> <p>9. Reading and translation presentation</p> <p>10. Reading and translation presentation</p> <p>11. Reading and translation presentation</p> <p>12. Reading and translation presentation</p> <p>13. Reading and translation presentation</p> <p>14. Reading and translation presentation</p> <p>15. Reading and translation presentation</p>				
◇ 成績評価の方法	<p>Translations and presentations (70%)</p> <p>Written translation assignment (30%)</p>				
◇ 教科書・参考書	安孫子 麟 『宮城県の百年』 山川出版社 1999年 ISBN 9784634270404				
◇ 授業時間外学習	<p>Students are expected to read and translate assigned sections for each class. All students will present their reading and translation in each class meeting. One polished translation is to be submitted for grading.</p>				
その他：Class instruction will be largely in English, but the source material will be in Japanese, making proficiency in both languages necessary.					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																		
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	准教授 クレイグ クリストファー	2 学期	火	2																		
◆ 科目ナンバリング	LAL-OHS501E																						
◆ 授業題目	日本文化と社会 (Japanese Culture and Society)																						
◆ 目的・概要	This course is an introduction to the culture and society of modern Japan and to the academic study of culture and society in Japan and elsewhere. By examining a number of topics related to contemporary culture and society, students will be introduced to recent English-language academic literature and the issues that concern social scientists and researchers. Student participation is an important element, and the class will be structured to incorporate the experiences of students in their daily lives in Japan, with student presentations designed to encourage students to apply an academic perspective to their current circumstances.																						
◆ 到達目標	A major goal of this course is to develop a rigorous framework of critical thinking regarding society and culture. We will attempt to demystify the idea of Japan and its culture and problematize many of the essentialist ideas that surround Japanese culture, both inside and outside Japan.																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. (Note: Lecture topics may change over the course of the semester)</td> <td>7. Youth, Crime, and Punishment</td> </tr> <tr> <td>Introduction: The Myth of National Culture</td> <td>8. Family Life: Women</td> </tr> <tr> <td>2. Background: Japan since World War 2</td> <td>9. Family Life: Men</td> </tr> <tr> <td>3. Middleness and Disparity: Class in Contemporary Japan</td> <td>10. Self and Other in Japan</td> </tr> <tr> <td>4. Gender and Work</td> <td>11. Invisibility and Minority</td> </tr> <tr> <td>5. The Changing Nature of Employment</td> <td>12. Presentations</td> </tr> <tr> <td>6. Education and Class</td> <td>13. Presentations</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. The Foreign in the Everyday</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 3</td> </tr> </table>					1. (Note: Lecture topics may change over the course of the semester)	7. Youth, Crime, and Punishment	Introduction: The Myth of National Culture	8. Family Life: Women	2. Background: Japan since World War 2	9. Family Life: Men	3. Middleness and Disparity: Class in Contemporary Japan	10. Self and Other in Japan	4. Gender and Work	11. Invisibility and Minority	5. The Changing Nature of Employment	12. Presentations	6. Education and Class	13. Presentations		14. The Foreign in the Everyday		15. 3
1. (Note: Lecture topics may change over the course of the semester)	7. Youth, Crime, and Punishment																						
Introduction: The Myth of National Culture	8. Family Life: Women																						
2. Background: Japan since World War 2	9. Family Life: Men																						
3. Middleness and Disparity: Class in Contemporary Japan	10. Self and Other in Japan																						
4. Gender and Work	11. Invisibility and Minority																						
5. The Changing Nature of Employment	12. Presentations																						
6. Education and Class	13. Presentations																						
	14. The Foreign in the Everyday																						
	15. 3																						
◇ 成績評価の方法	Presentation [40%], Reading Responses [40%], Attendance [20%]																						
◇ 教科書・参考書	Readings will be distributed for each class.																						
◇ 授業時間外学習	Class readings are to be completed before class meetings.																						
その他： This class is taught in English. All readings are in English and all assignments are to be submitted in English.																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
英 語 研 究 論 文 作 成 法 Advanced English for Academic writing	2	非常勤講師 マックス フィリップス	1 学期	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LAL-OHU501E																				
◆ 授業題目	Advanced Academic Writing I (Advanced Academic Writing I)																				
◆ 目的・概要	The course is designed as an introduction to academic writing at the graduate level. The students will learn how to logically arrange their thoughts and ideas into coherent essays. As part of the course, students will learn: a) how to write effective thesis statements, b) strategies for pre-writing, writing, organization, revising and proofreading, c) various word-, sentence-, and paragraph- level strategies for improving the quality of their writing, and d) how to focus and develop ideas, among other things.																				
◆ 到達目標	Students will learn how to organize their English writing to an appropriate level, through a systematic, step-by-step approach.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Course Introduction; Writing Format; Plagiarism; Capitalization Rules</td> <td>8. Introduction and Conclusion Writing; Essay 3 Assignment</td> </tr> <tr> <td>2. Essay 1 Assignment; Introduction to English Writing; Pre-writing Strategies</td> <td>9. Understanding Logic, Audience, Tone; Organization 1 - Compare/Contrast</td> </tr> <tr> <td>3. Basic Sentence Structure; Parallelism Rules</td> <td>10. Organization 2- Chronological Order</td> </tr> <tr> <td>4. Writing an Outline; Basic Paragraph Structure</td> <td>11. Organization 3- Cause/Effect</td> </tr> <tr> <td>5. Basic Essay Structure</td> <td>12. Workshop 2 (E2 one-on-one)</td> </tr> <tr> <td>6. Introduction to Peer Review, Revision, and Proofreading</td> <td>13. Effective Thesis Statement Writing; Gender Neutral Language</td> </tr> <tr> <td>7. Workshop 1 (Rough Draft of Essay 1); Essay 2 Assignment</td> <td>14. Workshop 3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. Semester Exam</td> </tr> </table>					1. Course Introduction; Writing Format; Plagiarism; Capitalization Rules	8. Introduction and Conclusion Writing; Essay 3 Assignment	2. Essay 1 Assignment; Introduction to English Writing; Pre-writing Strategies	9. Understanding Logic, Audience, Tone; Organization 1 - Compare/Contrast	3. Basic Sentence Structure; Parallelism Rules	10. Organization 2- Chronological Order	4. Writing an Outline; Basic Paragraph Structure	11. Organization 3- Cause/Effect	5. Basic Essay Structure	12. Workshop 2 (E2 one-on-one)	6. Introduction to Peer Review, Revision, and Proofreading	13. Effective Thesis Statement Writing; Gender Neutral Language	7. Workshop 1 (Rough Draft of Essay 1); Essay 2 Assignment	14. Workshop 3		15. Semester Exam
1. Course Introduction; Writing Format; Plagiarism; Capitalization Rules	8. Introduction and Conclusion Writing; Essay 3 Assignment																				
2. Essay 1 Assignment; Introduction to English Writing; Pre-writing Strategies	9. Understanding Logic, Audience, Tone; Organization 1 - Compare/Contrast																				
3. Basic Sentence Structure; Parallelism Rules	10. Organization 2- Chronological Order																				
4. Writing an Outline; Basic Paragraph Structure	11. Organization 3- Cause/Effect																				
5. Basic Essay Structure	12. Workshop 2 (E2 one-on-one)																				
6. Introduction to Peer Review, Revision, and Proofreading	13. Effective Thesis Statement Writing; Gender Neutral Language																				
7. Workshop 1 (Rough Draft of Essay 1); Essay 2 Assignment	14. Workshop 3																				
	15. Semester Exam																				
◇ 成績評価の方法	Final grade to be determined by submitted essays and workshop participation.																				
◇ 教科書・参考書	Course Syllabus based on "Discoveries in Academic Writing," by Barbara Harris Leonhard and "Teaching Academic Writing" by Eli Hinkel.																				
◇ 授業時間外学習	Attendance is mandatory. Students who accrue more than 2 unexcused absences will be expelled from the course. No auditors are permitted.																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																		
英 語 研 究 論 文 作 成 法 Advanced English for Academic writing	2	非常勤講師 マックス フィリップス	集 中 (1学期)																				
◆ 科目ナンバリング	LAL-OHU501E																						
◆ 授業題目	Advanced Academic Writing II (Advanced Academic Writing II)																						
◆ 目的・概要	Prerequisite: Successful completion of AAWI. In addition to research writing, AAWII seeks to develop students' ability to adapt to a broader range of writing situations, while writing at a deeper level. AAWII encourages the development of an individual 'voice'. For example, where in AAW1 a student might have developed the ability to write an essay clearly and persuasively for an educated general audience, AAW II seeks to move beyond that to developing a unique perspective and voice appropriate to higher level academic writing.																						
◆ 到達目標	Students will learn how to organize and write a multi-page research paper, which necessarily includes citations to others people's work.																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Course Introduction: The Research Process</td> <td>10. Understanding Citations: Documenting Sources In-text</td> </tr> <tr> <td>2. Choosing a Topic; Identifying Potential Resources</td> <td>11. Paper Format; Documenting Sources Post-text</td> </tr> <tr> <td>3. Gathering Source Material - Evaluating Sources</td> <td>12. Workshop 2 (rough draft of main body)</td> </tr> <tr> <td>4. Note-Taking</td> <td>13. Abstract Writing; Writing Introduction and Conclusion for Research Papers</td> </tr> <tr> <td>5. Using the Internet for Research</td> <td>14. Writing Workshop 3 (rough draft of paper)</td> </tr> <tr> <td>6. Considering Organization</td> <td>15. Oral Presentations of Research Paper</td> </tr> <tr> <td>7. How to Organize Notes/Write Outline</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. Workshop 1 (Outline - rough draft)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. Integrating Source Material: First Draft Writing</td> <td></td> </tr> </table>					1. Course Introduction: The Research Process	10. Understanding Citations: Documenting Sources In-text	2. Choosing a Topic; Identifying Potential Resources	11. Paper Format; Documenting Sources Post-text	3. Gathering Source Material - Evaluating Sources	12. Workshop 2 (rough draft of main body)	4. Note-Taking	13. Abstract Writing; Writing Introduction and Conclusion for Research Papers	5. Using the Internet for Research	14. Writing Workshop 3 (rough draft of paper)	6. Considering Organization	15. Oral Presentations of Research Paper	7. How to Organize Notes/Write Outline		8. Workshop 1 (Outline - rough draft)		9. Integrating Source Material: First Draft Writing	
1. Course Introduction: The Research Process	10. Understanding Citations: Documenting Sources In-text																						
2. Choosing a Topic; Identifying Potential Resources	11. Paper Format; Documenting Sources Post-text																						
3. Gathering Source Material - Evaluating Sources	12. Workshop 2 (rough draft of main body)																						
4. Note-Taking	13. Abstract Writing; Writing Introduction and Conclusion for Research Papers																						
5. Using the Internet for Research	14. Writing Workshop 3 (rough draft of paper)																						
6. Considering Organization	15. Oral Presentations of Research Paper																						
7. How to Organize Notes/Write Outline																							
8. Workshop 1 (Outline - rough draft)																							
9. Integrating Source Material: First Draft Writing																							
◇ 成績評価の方法	Final grade will be determined by research paper, and workshop participation.																						
◇ 教科書・参考書	Course Syllabus based in part on: MLA Style Manual and Guide to Scholarly Publishing, 3rd Ed.																						
◇ 授業時間外学習	Attendance is mandatory. Students who accrue more than 2 unexcused absences will be expelled from the course. Absolutely no auditors.																						
その他 :																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 語 研 究 論 文 作 成 法 Advanced Japanese for Academic writing	2	教授 高 橋 章 則	1 学期	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LAL-OHU502J																				
◆ 授業題目	日本語表現論 I (Japanese expression theory I)																				
◆ 目的・概要	<p>専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語についての知識と表現技術（作文・会話の両面）とを実践的・系統的に学ぶ。あわせて日本語理解に不可欠な歴史的・文化的背景についても学ぶ。</p> <p>日本語の能力は、「理解力」と「表現力」の両面から成り立ち、表裏一体をなすものである。この学期での学習の目的は、母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高めるための基礎を確立することにある。主に、文章の表記・表現の基礎的な理解と技術を学ぶ。レポートの提出とそれへの添削によって、能力に応じた文章指導が行われる。「日本語研究論文作成法」(2学期)の連続履修が望ましい。</p>																				
◆ 到達目標	日本語論文作成の基礎確立																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 入門 1 論文とは 日本における論文作成のルール</td> <td>9. 実践 1 論文題名の決定と先行研究</td> </tr> <tr> <td>2. 入門 2 論文作成の実際 先行研究の重要性</td> <td>10. 実践 2 序論の作成 ① 背景説明</td> </tr> <tr> <td>3. 入門 3 論文の構成 1 構成の作り方</td> <td>11. 実践 3 序論の作成 ② 問題点の明示</td> </tr> <tr> <td>4. 入門 4 論文の構成 2 序論の構成要素</td> <td>12. 実践 4 序論の作成 ③ 研究目的の明示</td> </tr> <tr> <td>5. 入門 5 論文の構成 3 研究の視点</td> <td>13. 実践 5 資料・データの利用</td> </tr> <tr> <td>6. 入門 6 論文の作成 1 先行論文の検索</td> <td>14. 実践 6 序論に対応した結論</td> </tr> <tr> <td>7. 入門 7 論文の作成 2 先行論文の引用作法</td> <td>15. まとめと評価 レポートの作成</td> </tr> <tr> <td>8. 入門 8 論文の作成 3 序論の意義</td> <td></td> </tr> </table>					1. 入門 1 論文とは 日本における論文作成のルール	9. 実践 1 論文題名の決定と先行研究	2. 入門 2 論文作成の実際 先行研究の重要性	10. 実践 2 序論の作成 ① 背景説明	3. 入門 3 論文の構成 1 構成の作り方	11. 実践 3 序論の作成 ② 問題点の明示	4. 入門 4 論文の構成 2 序論の構成要素	12. 実践 4 序論の作成 ③ 研究目的の明示	5. 入門 5 論文の構成 3 研究の視点	13. 実践 5 資料・データの利用	6. 入門 6 論文の作成 1 先行論文の検索	14. 実践 6 序論に対応した結論	7. 入門 7 論文の作成 2 先行論文の引用作法	15. まとめと評価 レポートの作成	8. 入門 8 論文の作成 3 序論の意義	
1. 入門 1 論文とは 日本における論文作成のルール	9. 実践 1 論文題名の決定と先行研究																				
2. 入門 2 論文作成の実際 先行研究の重要性	10. 実践 2 序論の作成 ① 背景説明																				
3. 入門 3 論文の構成 1 構成の作り方	11. 実践 3 序論の作成 ② 問題点の明示																				
4. 入門 4 論文の構成 2 序論の構成要素	12. 実践 4 序論の作成 ③ 研究目的の明示																				
5. 入門 5 論文の構成 3 研究の視点	13. 実践 5 資料・データの利用																				
6. 入門 6 論文の作成 1 先行論文の検索	14. 実践 6 序論に対応した結論																				
7. 入門 7 論文の作成 2 先行論文の引用作法	15. まとめと評価 レポートの作成																				
8. 入門 8 論文の作成 3 序論の意義																					
◇ 成績評価の方法	レポート提出																				
◇ 教科書・参考書	『論文ワークブック』（くろしお出版）																				
◇ 授業時間外学習	レポート作成																				
その他：外国人留学生を対象とする。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																																
日 本 語 研 究 論 文 作 成 法 Advanced Japanese for Academic writing	2	教授 高橋章則	2学期	木	2																																
◆ 科目ナンバリング	LAL-OHU502J																																				
◆ 授業題目	日本語表現論Ⅱ (Japanese expression theory Ⅱ)																																				
◆ 目的・概要	<p>専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語についての知識と表現技術（作文・会話の両面）とを実践的・系統的に学ぶ。あわせて日本語理解に不可欠な歴史的・文化的背景についても学ぶ。</p> <p>日本語の能力は、「理解力」と「表現力」の両面から成り立ち、表裏一体をなすものである。この学期での学習の目的は、母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高めるための基礎を確立することにある。主に、文章の表記・表現の基礎的な理解と技術を学ぶ。レポートの提出とそれへの添削によって、能力に応じた文章指導が行われる。「日本語研究論文作成法」(1学期)との連続履修が望ましい。</p>																																				
◆ 到達目標	日本語研究論文作成の基礎確立																																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 入門 1</td> <td>論文とは 日本における論文作成のルール</td> <td>9. 実践 1</td> <td>論文題名の決定と先行研究</td> </tr> <tr> <td>2. 入門 2</td> <td>論文作成の実際 先行研究の重要性</td> <td>10. 実践 2</td> <td>序論の作成 ① 背景説明</td> </tr> <tr> <td>3. 入門 3</td> <td>論文の構成 1 構成の作り方</td> <td>11. 実践 3</td> <td>序論の作成 ② 問題点の明示</td> </tr> <tr> <td>4. 入門 4</td> <td>論文の構成 2 序論の構成要素</td> <td>12. 実践 4</td> <td>序論の作成 ③ 研究目的の明示</td> </tr> <tr> <td>5. 入門 5</td> <td>論文の構成 3 研究の視点</td> <td>13. 実践 5</td> <td>資料・データの利用</td> </tr> <tr> <td>6. 入門 6</td> <td>論文の作成 1 先行論文の検索</td> <td>14. 実践 6</td> <td>序論に対応した結論</td> </tr> <tr> <td>7. 入門 7</td> <td>論文の作成 2 先行論文の引用作法</td> <td>15. まとめと評価</td> <td>レポートの作成</td> </tr> <tr> <td>8. 入門 8</td> <td>論文の作成 3 序論の意義</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 入門 1	論文とは 日本における論文作成のルール	9. 実践 1	論文題名の決定と先行研究	2. 入門 2	論文作成の実際 先行研究の重要性	10. 実践 2	序論の作成 ① 背景説明	3. 入門 3	論文の構成 1 構成の作り方	11. 実践 3	序論の作成 ② 問題点の明示	4. 入門 4	論文の構成 2 序論の構成要素	12. 実践 4	序論の作成 ③ 研究目的の明示	5. 入門 5	論文の構成 3 研究の視点	13. 実践 5	資料・データの利用	6. 入門 6	論文の作成 1 先行論文の検索	14. 実践 6	序論に対応した結論	7. 入門 7	論文の作成 2 先行論文の引用作法	15. まとめと評価	レポートの作成	8. 入門 8	論文の作成 3 序論の意義		
1. 入門 1	論文とは 日本における論文作成のルール	9. 実践 1	論文題名の決定と先行研究																																		
2. 入門 2	論文作成の実際 先行研究の重要性	10. 実践 2	序論の作成 ① 背景説明																																		
3. 入門 3	論文の構成 1 構成の作り方	11. 実践 3	序論の作成 ② 問題点の明示																																		
4. 入門 4	論文の構成 2 序論の構成要素	12. 実践 4	序論の作成 ③ 研究目的の明示																																		
5. 入門 5	論文の構成 3 研究の視点	13. 実践 5	資料・データの利用																																		
6. 入門 6	論文の作成 1 先行論文の検索	14. 実践 6	序論に対応した結論																																		
7. 入門 7	論文の作成 2 先行論文の引用作法	15. まとめと評価	レポートの作成																																		
8. 入門 8	論文の作成 3 序論の意義																																				
◇ 成績評価の方法	レポート提出																																				
◇ 教科書・参考書	『論文ワークブック』（くろしお出版）																																				
◇ 授業時間外学習	レポート作成																																				
その他：外国人留学生を対象とする。																																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																																
日 本 文 化 研 究 演 習 Japanese Culture (Advanced Seminar)	2	教授 高橋章則	1学期	月	2																																
◆ 科目ナンバリング	LAL-OHU503J																																				
◆ 授業題目	古典講読Ⅰ (Classic reading I)																																				
◆ 目的・概要	<p>専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読（意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること）。古典（漢文を含む）を対象とし、日本古典とその背景をなす日本文化・日本歴史の系統的な理解を目指す。</p> <p>古典を読み、漢文を訓読する際に必要な文法をはじめとした基礎知識と日本文化に関する調査技術とを身につけることを目的とする。毎時間の講読担当者の発表が前提となる。</p> <p>本年度は、日本文化の多面的な研究の一環として、文献資料（文学作品）と絵画資料（浮世絵）の融合した独自のジャンルである「狂歌摺物（すりもの）」を取り上げる。素材は歌川広重「狂歌入り東海道」である。</p>																																				
◆ 到達目標	日本研究の基礎確立																																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 入門 1</td> <td>日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か</td> <td>8. 研究演習 4</td> <td>土山・坂之下</td> </tr> <tr> <td>2. 入門 2</td> <td>「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌</td> <td>9. 研究演習 5</td> <td>関・亀山</td> </tr> <tr> <td>3. 入門 3</td> <td>広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版</td> <td>10. 実地演習</td> <td>浮世絵鑑賞、広重美術館（天童）での研修</td> </tr> <tr> <td>4. 入門 4</td> <td>「狂歌入り東海道」について、「演習」のルール</td> <td>11. 研究演習 6</td> <td>庄野・石薬師</td> </tr> <tr> <td>5. 研究演習 1</td> <td>内裏・京</td> <td>12. 研究演習 7</td> <td>四日市・桑名</td> </tr> <tr> <td>6. 研究演習 2</td> <td>大津・草津</td> <td>13. 研究演習 8</td> <td>宮・鳴海</td> </tr> <tr> <td>7. 研究演習 3</td> <td>石部・水口</td> <td>14. 研究演習 9</td> <td>藤川・赤坂</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>15. まとめと評価</td> <td>「狂歌」関連出版物の研究意義</td> </tr> </table>					1. 入門 1	日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か	8. 研究演習 4	土山・坂之下	2. 入門 2	「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌	9. 研究演習 5	関・亀山	3. 入門 3	広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版	10. 実地演習	浮世絵鑑賞、広重美術館（天童）での研修	4. 入門 4	「狂歌入り東海道」について、「演習」のルール	11. 研究演習 6	庄野・石薬師	5. 研究演習 1	内裏・京	12. 研究演習 7	四日市・桑名	6. 研究演習 2	大津・草津	13. 研究演習 8	宮・鳴海	7. 研究演習 3	石部・水口	14. 研究演習 9	藤川・赤坂			15. まとめと評価	「狂歌」関連出版物の研究意義
1. 入門 1	日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か	8. 研究演習 4	土山・坂之下																																		
2. 入門 2	「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌	9. 研究演習 5	関・亀山																																		
3. 入門 3	広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版	10. 実地演習	浮世絵鑑賞、広重美術館（天童）での研修																																		
4. 入門 4	「狂歌入り東海道」について、「演習」のルール	11. 研究演習 6	庄野・石薬師																																		
5. 研究演習 1	内裏・京	12. 研究演習 7	四日市・桑名																																		
6. 研究演習 2	大津・草津	13. 研究演習 8	宮・鳴海																																		
7. 研究演習 3	石部・水口	14. 研究演習 9	藤川・赤坂																																		
		15. まとめと評価	「狂歌」関連出版物の研究意義																																		
◇ 成績評価の方法	発表の成果と出席																																				
◇ 教科書・参考書	『慶應義塾大学 高橋誠一郎浮世絵コレクション 広重 東海道五十三次 八種四百十八景』（小学館）																																				
◇ 授業時間外学習	発表資料の作成																																				
その他：国際共修ゼミ（外国人留学生・日本人学生）																																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																																
日 本 文 化 研 究 演 習 Japanese Culture (Advanced Seminar)	2	教授 高橋章則	2 学期	月	2																																
◆ 科目ナンバリング	LAL-OHU503J																																				
◆ 授業題目	古典講読Ⅱ (Classic reading Ⅱ)																																				
◆ 目的・概要	<p>専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読（意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること）。古典（漢文を含む）を対象とし、日本古典とその背景をなす日本文化・日本歴史の系統的理解を目指す。</p> <p>古典を読み、漢文を訓読する際に必要な文法をはじめとした基礎知識と日本文化に関する調査技術とを身につけることを目的とする。毎時間の講読担当者の発表が前提となる。</p> <p>本年度は、日本文化の多面的な研究の一環として、文献資料（文学作品）と絵画資料（浮世絵）の融合した独自のジャンルである「狂歌摺物（すりもの）」を取り上げる。素材は歌川広重「狂歌入り東海道」である。</p>																																				
◆ 到達目標	日本研究の基礎確立																																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 入門 1</td> <td>日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か</td> <td>9. 演習 5</td> <td>大磯・小田原</td> </tr> <tr> <td>2. 入門 2</td> <td>「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌</td> <td>10. 実地演習 1</td> <td>浮世絵鑑賞、広重美術館（天童）での研修</td> </tr> <tr> <td>3. 入門 3</td> <td>広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版</td> <td>11. 演習 6</td> <td>箱根・三島</td> </tr> <tr> <td>4. 入門 4</td> <td>「狂歌入り東海道」について、「演習」のルール</td> <td>12. 演習 7</td> <td>沼津・原</td> </tr> <tr> <td>5. 演習 1</td> <td>日本橋・品川</td> <td>13. 演習 8</td> <td>吉原・蒲原</td> </tr> <tr> <td>6. 演習 2</td> <td>川崎・神奈川</td> <td>14. 演習 9</td> <td>由井・興津</td> </tr> <tr> <td>7. 演習 3</td> <td>保土ヶ谷・戸塚</td> <td>15. まとめと評価</td> <td>「狂歌摺物」調査から浮世絵研究へ</td> </tr> <tr> <td>8. 演習 4</td> <td>藤沢・平塚</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 入門 1	日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か	9. 演習 5	大磯・小田原	2. 入門 2	「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌	10. 実地演習 1	浮世絵鑑賞、広重美術館（天童）での研修	3. 入門 3	広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版	11. 演習 6	箱根・三島	4. 入門 4	「狂歌入り東海道」について、「演習」のルール	12. 演習 7	沼津・原	5. 演習 1	日本橋・品川	13. 演習 8	吉原・蒲原	6. 演習 2	川崎・神奈川	14. 演習 9	由井・興津	7. 演習 3	保土ヶ谷・戸塚	15. まとめと評価	「狂歌摺物」調査から浮世絵研究へ	8. 演習 4	藤沢・平塚		
1. 入門 1	日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か	9. 演習 5	大磯・小田原																																		
2. 入門 2	「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌	10. 実地演習 1	浮世絵鑑賞、広重美術館（天童）での研修																																		
3. 入門 3	広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版	11. 演習 6	箱根・三島																																		
4. 入門 4	「狂歌入り東海道」について、「演習」のルール	12. 演習 7	沼津・原																																		
5. 演習 1	日本橋・品川	13. 演習 8	吉原・蒲原																																		
6. 演習 2	川崎・神奈川	14. 演習 9	由井・興津																																		
7. 演習 3	保土ヶ谷・戸塚	15. まとめと評価	「狂歌摺物」調査から浮世絵研究へ																																		
8. 演習 4	藤沢・平塚																																				
◇ 成績評価の方法	発表の成果と出席																																				
◇ 教科書・参考書	『慶應義塾大学 高橋誠一郎浮世絵コレクション 広重 東海道五十三次 八種四百十八景』（小学館）																																				
◇ 授業時間外学習	発表資料の作成																																				
その他：国際共修ゼミ（外国人留学生・日本人学生）																																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																																
日 本 文 化 研 究 演 習 Japanese Culture (Advanced Seminar)	2	教授 高橋章則	1 学期	水	2																																
◆ 科目ナンバリング	LAL-OHU503J																																				
◆ 授業題目	現代評論講読Ⅰ (Modern sentence reading I)																																				
◆ 目的・概要	<p>専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読（意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること）。現代文を対象とする。</p> <p>日本語と日本文化を系統的に理解する際に不可欠な基礎知識と日本文化に関する調査技術とを講読を通じて身につけることを目的とする。毎時間の講読担当者の発表が前提となる。</p>																																				
◆ 到達目標	日本研究の基礎確立																																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 入門 1</td> <td>日本文化を考える (1)</td> <td>9. 演習 4</td> <td>『菊と刀』④</td> </tr> <tr> <td>2. 入門 2</td> <td>日本文化を考える (2)</td> <td>10. 演習 5</td> <td>『菊と刀』⑤</td> </tr> <tr> <td>3. 入門 3</td> <td>家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む (1)</td> <td>11. 演習 6</td> <td>『菊と刀』⑥</td> </tr> <tr> <td>4. 入門 4</td> <td>『日本文化史』「はじめに」を読む (2)</td> <td>12. 演習 7</td> <td>『菊と刀』⑦</td> </tr> <tr> <td>5. 入門 5</td> <td>「日本文化論」の変容をめぐって</td> <td>13. 演習 8</td> <td>『菊と刀』⑧</td> </tr> <tr> <td>6. 演習 1</td> <td>ベネディクト『菊と刀』① 演習のルール</td> <td>14. 演習 9</td> <td>『菊と刀』⑨</td> </tr> <tr> <td>7. 演習 2</td> <td>『菊と刀』②</td> <td>15. まとめと評価</td> <td>『菊と刀』から新たな日本文化論へ</td> </tr> <tr> <td>8. 演習 3</td> <td>『菊と刀』③</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 入門 1	日本文化を考える (1)	9. 演習 4	『菊と刀』④	2. 入門 2	日本文化を考える (2)	10. 演習 5	『菊と刀』⑤	3. 入門 3	家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む (1)	11. 演習 6	『菊と刀』⑥	4. 入門 4	『日本文化史』「はじめに」を読む (2)	12. 演習 7	『菊と刀』⑦	5. 入門 5	「日本文化論」の変容をめぐって	13. 演習 8	『菊と刀』⑧	6. 演習 1	ベネディクト『菊と刀』① 演習のルール	14. 演習 9	『菊と刀』⑨	7. 演習 2	『菊と刀』②	15. まとめと評価	『菊と刀』から新たな日本文化論へ	8. 演習 3	『菊と刀』③		
1. 入門 1	日本文化を考える (1)	9. 演習 4	『菊と刀』④																																		
2. 入門 2	日本文化を考える (2)	10. 演習 5	『菊と刀』⑤																																		
3. 入門 3	家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む (1)	11. 演習 6	『菊と刀』⑥																																		
4. 入門 4	『日本文化史』「はじめに」を読む (2)	12. 演習 7	『菊と刀』⑦																																		
5. 入門 5	「日本文化論」の変容をめぐって	13. 演習 8	『菊と刀』⑧																																		
6. 演習 1	ベネディクト『菊と刀』① 演習のルール	14. 演習 9	『菊と刀』⑨																																		
7. 演習 2	『菊と刀』②	15. まとめと評価	『菊と刀』から新たな日本文化論へ																																		
8. 演習 3	『菊と刀』③																																				
◇ 成績評価の方法	発表の成果と出席																																				
◇ 教科書・参考書	R. ベネディクト『菊と刀』（講談社学術文庫）																																				
◇ 授業時間外学習	発表資料の作成																																				
その他：国際共修ゼミ（外国人留学生・日本人学生）																																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																																	
日 本 文 化 研 究 演 習 Japanese Culture (Advanced Seminar)	2	教授 高橋章則	2学期	水	2																																	
◆ 科目ナンバリング	LAL-OHU503J																																					
◆ 授業題目	現代評論講読Ⅱ (Modern sentence reading Ⅱ)																																					
◆ 目的・概要	<p>専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読（意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること）。現代文を対象とする。</p> <p>日本語と日本文化を系統的に理解する際に不可欠な基礎知識と日本文化に関する調査技術とを講読を通じて身につけることを目的とする。毎時間の講読担当者の発表が前提となる。</p>																																					
◆ 到達目標	日本研究の基礎確立																																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 入門 1</td> <td>日本文化を考える (1)</td> <td>9. 演習 4</td> <td>『菊と刀』④</td> </tr> <tr> <td>2. 入門 2</td> <td>日本文化を考える (2)</td> <td>10. 演習 5</td> <td>『菊と刀』⑤</td> </tr> <tr> <td>3. 入門 3</td> <td>家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む (1)</td> <td>11. 演習 6</td> <td>『菊と刀』⑥</td> </tr> <tr> <td>4. 入門 4</td> <td>『日本文化史』「はじめに」を読む (2)</td> <td>12. 演習 7</td> <td>『菊と刀』⑦</td> </tr> <tr> <td>5. 入門 5</td> <td>「日本文化論」の変容をめぐって</td> <td>13. 演習 8</td> <td>『菊と刀』⑧</td> </tr> <tr> <td>6. 演習 1</td> <td>ベネディクト『菊と刀』① 演習のルール</td> <td>14. 演習 9</td> <td>『菊と刀』⑨</td> </tr> <tr> <td>7. 演習 2</td> <td>『菊と刀』②</td> <td colspan="2">15. まとめと評価 日本文化と「わたし」</td> </tr> <tr> <td>8. 演習 3</td> <td>『菊と刀』③</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>					1. 入門 1	日本文化を考える (1)	9. 演習 4	『菊と刀』④	2. 入門 2	日本文化を考える (2)	10. 演習 5	『菊と刀』⑤	3. 入門 3	家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む (1)	11. 演習 6	『菊と刀』⑥	4. 入門 4	『日本文化史』「はじめに」を読む (2)	12. 演習 7	『菊と刀』⑦	5. 入門 5	「日本文化論」の変容をめぐって	13. 演習 8	『菊と刀』⑧	6. 演習 1	ベネディクト『菊と刀』① 演習のルール	14. 演習 9	『菊と刀』⑨	7. 演習 2	『菊と刀』②	15. まとめと評価 日本文化と「わたし」		8. 演習 3	『菊と刀』③			
1. 入門 1	日本文化を考える (1)	9. 演習 4	『菊と刀』④																																			
2. 入門 2	日本文化を考える (2)	10. 演習 5	『菊と刀』⑤																																			
3. 入門 3	家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む (1)	11. 演習 6	『菊と刀』⑥																																			
4. 入門 4	『日本文化史』「はじめに」を読む (2)	12. 演習 7	『菊と刀』⑦																																			
5. 入門 5	「日本文化論」の変容をめぐって	13. 演習 8	『菊と刀』⑧																																			
6. 演習 1	ベネディクト『菊と刀』① 演習のルール	14. 演習 9	『菊と刀』⑨																																			
7. 演習 2	『菊と刀』②	15. まとめと評価 日本文化と「わたし」																																				
8. 演習 3	『菊と刀』③																																					
◇ 成績評価の方法	発表の成果と出席																																					
◇ 教科書・参考書	R. ベネディクト『菊と刀』（講談社学術文庫）																																					
◇ 授業時間外学習	発表資料の作成																																					
その他：国際共修ゼミ（外国人留学生・日本人学生）																																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 文 化 研 究 演 習 Japanese Culture (Advanced Seminar)	2	准教授 クレイグ クリストファー	2学期	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LAL-OHU503F																				
◆ 授業題目	日本史基礎文献講読 (Reading and Translation Fundamentals for Japanese History)																				
◆ 目的・概要	<p>Using student reading and translation presentations, this class aims at providing basic skills and practice in reading and translating Japanese academic history writing. Class will consist of reading/translation assignments and in-class presentations and discussion of issues concerning comprehension and translation.</p>																				
◆ 到達目標	<p>The purpose of this class is to provide a basis in reading and translation for future work involving academic, particularly historical, works in Japanese.</p>																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Class introduction</td> <td>8. Reading and translation presentation</td> </tr> <tr> <td>Introduction to source material</td> <td>9. Reading and translation presentation</td> </tr> <tr> <td>2. Reading and translation presentation</td> <td>10. Reading and translation presentation</td> </tr> <tr> <td>3. Reading and translation presentation</td> <td>11. Reading and translation presentation</td> </tr> <tr> <td>4. Reading and translation presentation</td> <td>12. Reading and translation presentation</td> </tr> <tr> <td>5. Reading and translation presentation</td> <td>13. Reading and translation presentation</td> </tr> <tr> <td>6. Reading and translation presentation</td> <td>14. Reading and translation presentation</td> </tr> <tr> <td>7. Reading and translation presentation</td> <td>15. Reading and translation presentation</td> </tr> </table>					1. Class introduction	8. Reading and translation presentation	Introduction to source material	9. Reading and translation presentation	2. Reading and translation presentation	10. Reading and translation presentation	3. Reading and translation presentation	11. Reading and translation presentation	4. Reading and translation presentation	12. Reading and translation presentation	5. Reading and translation presentation	13. Reading and translation presentation	6. Reading and translation presentation	14. Reading and translation presentation	7. Reading and translation presentation	15. Reading and translation presentation
1. Class introduction	8. Reading and translation presentation																				
Introduction to source material	9. Reading and translation presentation																				
2. Reading and translation presentation	10. Reading and translation presentation																				
3. Reading and translation presentation	11. Reading and translation presentation																				
4. Reading and translation presentation	12. Reading and translation presentation																				
5. Reading and translation presentation	13. Reading and translation presentation																				
6. Reading and translation presentation	14. Reading and translation presentation																				
7. Reading and translation presentation	15. Reading and translation presentation																				
◇ 成績評価の方法	<p>Translations and presentations (70%) Written translation assignment (30%)</p>																				
◇ 教科書・参考書	安孫子 麟 『宮城県の百年』 山川出版社 1999年 ISBN 9784634270404																				
◇ 授業時間外学習	Students are expected to read and translate assigned sections for each class. All students will present their reading and translation in each class meeting. One polished translation is to be submitted for grading.																				
その他：Class instruction will be largely in English, but the source material will be in Japanese, making proficiency in both languages necessary.																					

大学院 GP 科目履修について

キュレーター養成コース・アーキビスト養成コースへの登録

歴史科学専攻の大学院生で、キュレーター養成コース、アーキビスト養成コースに登録を希望する人は、所定の様式に、自分の専攻分野のコース担当教員（下記6名）から認印をもらって、教務係に提出します（期日は別途掲示します）。

コースの認定科目

各専攻分野の科目の中から、キュレーター養成コース、アーキビスト養成コースのそれぞれについて、Semesterごとに大学院 GP 認定科目が指定されています。各自の関心に従って、より幅広い授業科目を履修し、高度な学芸員としての資質を身につけます。

コースの修了

コース登録している院生は、次の要件を満たすことにより、いずれかのコースを修了し、修了証を受け取ることになります。

・博士課程前期2年の課程

各自が属する専攻分野の「コース認定科目」から、8単位以上履修する。

各自の専攻分野以外の、いずれかの「コース認定科目」から、4単位以上を履修する。

2年間で、計12単位以上を履修し、前期2年の課程を修了する。

・博士課程後期3年の課程

3年間の在学期間中にコース登録をして、各自が属する専攻分野以外のいずれかの「コース認定科目」から、4単位以上を履修する。

平成29年度 コース担当教員

・キュレーター養成コース

考古学専攻分野・文化財科学専攻分野 阿子島 香 教授

東洋・日本美術史専攻分野 長岡 龍作 教授

美学・西洋美術史専攻分野 芳賀 京子 教授

・アーキビスト養成コース

日本史専攻分野 柳原 敏昭 教授

東洋史専攻分野 川合 安 教授

ヨーロッパ史専攻分野 有光 秀行 教授

歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 開講科目一覧

キュレーター養成コース

授業科目	講義題目	単位	担当教員名		開講期	曜日	講時	頁
			氏	名				
考古学特論Ⅰ	日本考古学の諸問題	2	鹿	又喜隆	1学期	月	2	437
考古学特論Ⅲ	先史文化の考古学	2	菅	野智則	2学期	木	4	438
資料基礎論特論	先史考古学資料論	2	阿	子島香	2学期	月	3	438
博物館資料論特論	東北大学収蔵の考古学資料	2	藤	澤敦	1学期	火	3	439
東洋・日本美術史特論Ⅰ	信仰と造形	2	長	岡龍作	1学期	月	4	458
東洋・日本美術史特論Ⅱ	信仰と造形	2	長	岡龍作	2学期	月	4	458
美学・西洋美術史特論Ⅰ	グローバル・アートヒストリーと ネーデルラント絵画：共感表現、 スペクタクル、美術市場	2	尾	崎彰宏	1学期	金	3	461
美学・西洋美術史特論Ⅰ	古代ギリシア・ローマ美術に おける英雄表現	2	芳	賀京子	2学期	月	2	461
文化財科学特論	日本の埋蔵文化財保護行政と 考古学研究	2	藤	澤敦	2学期	火	3	442
考古学研究演習Ⅰ	考古学研究史	2	阿	子島又喜隆	1学期	金	4	439
考古学研究演習Ⅱ	考古学の方法と理論	2	鹿	又喜隆香	2学期	金	4	440
東洋・日本美術史研究演習Ⅰ	美術史基礎資料読解	2	長	岡龍作	1学期	水	4	460
東洋・日本美術史研究演習Ⅱ	美術史基礎資料読解	2	長	岡龍作	2学期	水	4	460
美学・西洋美術史研究演習Ⅰ	西洋美術史に関する方法論の 諸問題	2	尾	崎彰宏	1学期	金	5	462
美学・西洋美術史研究演習Ⅱ	西洋美術史に関する方法論の 諸問題	2	尾	崎彰宏	2学期	金	5	463
美学・西洋美術史研究演習Ⅰ	西洋古代・中世美術作品研究	2	芳	賀京子	1学期	月	4	463
美学・西洋美術史研究演習Ⅱ	西洋古代・中世美術作品研究	2	芳	賀京子	2学期	月	4	464
文化財科学研究演習Ⅰ	未定	2	須	古田良一平明	1学期			442
文化財科学研究演習Ⅱ	未定	2	古	須川一良明平	2学期			443
考古学研究実習Ⅰ	考古学の調査と資料分析(1)	2	阿	子島又喜隆	1学期	水	3・4	440
考古学研究実習Ⅱ	考古学の調査と資料分析(2)	2	鹿	又喜隆香	2学期	水	3・4	441
文化財科学研究実習Ⅰ	古代遺跡調査の方法と実践	2	須	古田良平武	集中 (1学期)			443

アーキビスト養成コース

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
史 料 学 I	中世古文書読解	2	柳 原 敏 昭	1 学期	火	3	434
史 料 学 II	近世古文書読解	2	籠 橋 俊 光	2 学期	水	4	435
史 料 管 理 学 I	史料整理・保存の理論と方法	2	籠 橋 俊 光	1 学期	金	4・5	435
史 料 管 理 学 II	史料整理実習	2	籠 橋 俊 光	2 学期	金	4・5	436
日本近世・近代史特論Ⅲ	歴史資料保全の実践(その1)	2	佐 藤 大 真 介志	集 中 (1 学期)			429
日本近世・近代史特論Ⅲ	歴史資料保全の実践(その2)	2	佐 藤 大 介	2 学期	水	2	429
東洋古代中世史特論 I	六朝時代の諸問題	2	川 合 安	1 学期	金	2	444
東洋古代中世史特論 II	隋唐時代の諸問題	2	川 合 安	2 学期	金	2	444
東洋近世史特論 I	中国近世の諸問題 I	2	大 野 晃 嗣	1 学期	火	5	446
東洋近世史特論 II	中国近世の諸問題 II	2	大 野 晃 嗣	2 学期	火	5	446
日本古代・中世史研究演習 I	古代史料の研究(1)	2	堀 裕	1 学期	火	2	423
日本古代・中世史研究演習 II	古代史料の研究(2)	2	堀 裕	2 学期	火	2	424
日本古代・中世史研究演習 III	古代史料研究(1)	2	堀 裕	1 学期	金	3	424
日本古代・中世史研究演習 IV	古代史料研究(2)	2	堀 裕	2 学期	金	3	425
日本古代・中世史研究演習 V	鎌倉時代の法と社会(1)	2	柳 原 敏 昭	1 学期	月	3	425
日本古代・中世史研究演習 VI	鎌倉時代の法と社会(2)	2	柳 原 敏 昭	2 学期	月	3	426
日本古代・中世史研究演習 VII	中世史料演習(1)	2	柳 原 敏 昭	1 学期	月	4	426
日本古代・中世史研究演習 VIII	中世史料演習(2)	2	柳 原 敏 昭	2 学期	月	4	427
日本近世・近代史研究演習 I	近世史料研究(1)	2	籠 橋 俊 光	1 学期	火	4	431
日本近世・近代史研究演習 II	近世史料研究(2)	2	籠 橋 俊 光	2 学期	火	4	431
日本近世・近代史研究演習 III	近世史研究法(1)	2	籠 橋 俊 光	1 学期	水	5	432
日本近世・近代史研究演習 IV	近世史研究法(2)	2	籠 橋 俊 光	2 学期	水	5	432
日本近世・近代史研究演習 V	近現代政治・社会史の研究	2	安 達 宏 昭	1 学期	水	3	433
日本近世・近代史研究演習 VII	近現代史研究法	2	安 達 宏 昭	1 学期	火	5	434

アーキビスト養成コース

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
東洋古代中世史研究演習Ⅰ	『宋書』礼志の研究Ⅰ	2	川 合	安	1 学期	金	5	445
東洋古代中世史研究演習Ⅱ	『宋書』礼志の研究Ⅱ	2	川 合	安	2 学期	金	5	445
東洋近世史研究演習Ⅰ	明清官僚制度研究Ⅰ	2	大 野	晃 嗣	1 学期	水	5	448
東洋近世史研究演習Ⅱ	明清官僚制度研究Ⅱ	2	大 野	晃 嗣	2 学期	水	5	449
西洋中近世史研究演習Ⅲ	ヨーロッパ中世史料研究	2	有 光	秀 行	1 学期	水	4	453
西洋中近世史研究演習Ⅳ	ヨーロッパ中世史料研究	2	有 光	秀 行	2 学期	水	4	453
西洋中近世史研究演習Ⅴ	西欧近世史料研究	2	小 野	善 彦	1 学期	木	2	454
西洋中近世史研究演習Ⅵ	西欧近世史料研究	2	小 野	善 彦	2 学期	月	2	454
欧米近現代史研究演習Ⅲ	欧米近現代史研究方法論	2	浅 岡	善 治	1 学期	金	4	457
欧米近現代史研究演習Ⅳ	欧米近現代史研究方法論	2	浅 岡	善 治	2 学期	金	4	457

※授業の詳細については、各専攻分野のページを参照してください。